

インターンシップA

GCP2650A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

30

集中

濱中 倫秀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

就業体験を通して、自己の職業適性や将来設計について考えるきっかけとする。

その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。

さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び意欲を喚起し、主体的な職業選択が出来るようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。

- ・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。

- ・就業体験を通して学び得た事と、今後の行動計画をまとめ、ポスターセッション形式で発表する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ていない。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加をしようとしている。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。	常識やマナーを守り、高いレベルで自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。
知識・理解力	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分な理解が出来ていない。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、理解しようとしている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分理解出来ている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、高いレベルで理解出来、応用も出来ている。

言語力	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化出来ていない。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化しようとしている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、十分言語化出来ている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、具体的に言語化出来ており、独自性も見られる。
思考・解決力	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動出来ない。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動しようとしている。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か主体的に考え・行動出来ている。	実習中に取り組む課題を能動的に見つけ、解決に何が必要か考え・行動出来ている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換が出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信出来ない。	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信しようとしている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを十分発信出来ている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを具体的に発信出来ている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前研修①
インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明
*日時・教室は4月のガイダンスにて説明する
- 第 2 回 事前研修②
実習先の研究成果についての発表・目標立案
*日時・教室は4月のガイダンスにて説明する
- 第 3 回 実習①
実習先での就業体験
- 第 4 回 実習②
実習先での就業体験
- 第 5 回 実習③
実習先での就業体験
- 第 6 回 実習④
実習先での就業体験
- 第 7 回 実習⑤
実習先での就業体験
- 第 8 回 実習⑥
実習先での就業体験
- 第 9 回 実習⑦
実習先での就業体験
- 第 10 回 実習⑧
実習先での就業体験

- 第 11 回 実習⑨
実習先での就業体験
- 第 12 回 実習⑩
実習先での就業体験
- 第 13 回 事後研修①
実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明
- 第 14 回 事後研修②
実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備
- 第 15 回 成果発表会
学び得たことと今後の行動計画の発表
*日時・発表場所は4月のガイダンスにて説明する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。

(事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は4月のガイダンスで説明する)

提出するレポートは下記の通り。

いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。

- 1.実習前/実習先についての事前レポート
- 2.実習中/毎日記入する実習日誌
- 3.実習後/事後レポート

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をしておくこと。

・実習先では指示を待つだけではなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。

・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。

・夏休みの暑い時期にあたるので、水分補給や十分な睡眠等、体調管理を万全にすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度 85% (実習先の評価60%、事前・事後研修および成果発表会の評価25%)

レポート15% (未提出者は評価対象外) で評価する。

※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。

・キャリアセンターからの連絡、指示は掲示によることが多いので、各自で掲示板を確認し、把握しておくこと。

・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセン

ターの規定を満たせば単位として認める。

・遅刻、欠席厳禁

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

中小企業での採用人事経験あり。

インターンシップB

GCP2650B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

30

集中

濱中 倫秀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム (コーオプ教育) は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムである。

本プログラムは、キャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

プロジェクトを通して、様々な角度から実社会を見つめ、現状を把握する力、課題を発見する力、その課題を解決する力を身につけることが目標である。受入先が提示したプロジェクトのテーマに沿って成果重視の活動を行うプログラムとなっており、受入先にとってもメリットとなっている。そのため専門性や独創性および協調性が求められている。講義では、具体的にプロジェクトを推進しながら目標を修正し、そのつど受入先とすりあわせながら検討を重ねていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

＜プロジェクトの導入＞

第1講、第2講 オリエンテーション、プロジェクトのテーマの共有とチーム形成

＜プロジェクトの形成＞

第3講、第4講 コミュニケーショントレーニング、プロジェクトの形成

(ワークシートの進め方、ワークシート①)

第5講、第6講 プレゼンテーショントレーニング

第7講、第8講 プロジェクトの形成 (ワークシート②③)

第9講、第10講 プロジェクト・マネジメント (今後の活動確認、意見交換など)

第11講～第13講 サマーセッション・プロジェクト・マネジメント (夏期活動中間報告)、サマーセッション

夏季休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行う。

＜プロジェクトの振り返り＞

第14講、第15講 プロジェクト・マネジメント (夏期活動最終報告)

第16講、第17講 プロジェクト・マネジメント (評価方法の概要、ワークシート④)

第18講、第19講 プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備)

＜プロジェクト報告・評価＞

第20講～第23講 プロジェクト・マネジメント (自己評価)、プレゼンテーション、修了式

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

6月～11月の約5ヵ月間、企業・行政機関・非営利組織 (NPO・NGO等) が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。

・授業予定については、「インターンシップ・プログラム2021年度募集ガイド」で確認すること。授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること

・実習に行く前に指示を待つだけではなく、自分から進ん

で何ができるのかを考えること。

- ・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。
- ・特に「プロジェクトの形成」時期は、夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を万全に整えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ① 講義の受講状況 20%
 - ② 学習レポートの内容 20%
 - ③ 実習の参加状況 (受入先実習状況報告書の評価を参考) 50%
 - ④ 全体を通じて成長が見られるか 10%
- 合計100%

〔留意事項 (Other Information)〕

大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、長期プロジェクトコースと受入先を選択し、事前にweb申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要がある。

なお、新型コロナウイルスの拡大状況によって、プログラムの中止・変更の可能性がある。

①説明・相談会：4月にプログラム事前説明会・長期プロジェクトコース説明会・相談会を予定しています。日時や参加方法など、詳細は別途連絡するので確認のこと。

②出願・面接日：①の中で説明する。

③Web申込期間：①の中で説明する。

不明点は、大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に早めに問い合わせること。

・インターンシップB (長期プロジェクトコース) は**3年次生推奨**である。

- ・別途、受講料が必要である。
- ・会場はすべて、キャンパスプラザ京都となる。
- ・学習レポートおよびプロジェクト報告書提出期間は：11月6日(土)～10日(木)16:00締切、提出先はキャンパスプラザ京都である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.consortium.or.jp/project/intern>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

中小企業での採用人事経験あり。

インターンシップC

GCP2650C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

30

集中

濱中 倫秀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム(コーオプ教育)は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムである。

本プログラムは、キャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

事前学習から実習、続いて事後学習という体系化された学習プログラムを通じて、実社会への理解を深め、社会性や職業観を身につけるとともに、実習後の学生生活における課題の整理と目標を明らかにすることを目指す。

事前学習・事後学習では、業界・業種別、或いは行政・非営利組織(NPO・NGO等)別にクラスを編成し、他大学の学生と共に業界研究やディスカッション等を行うことで、目標を達成させる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

<事前学習>

第1講～第5講 オリエンテーション①、リスクマネジメント講習①、クラスの相互理解、実習に向けた仮説と目標の設定、コミュニケーショントレーニング

原則、6月24日(木)～7月9日(金)の間に実習先を訪問(またはオンライン訪問)し、実習内容・期間の確認などの指導を受ける。

業界と社会に対する学習①

②、スキルアップトレーニング

実習に向けた仮説と目標の設定①②③、リスクマネジメント講習②、オリエンテーション②

第6講～第9講 業界と社会に対する学習①②

第10講～第13講 実習に向けた仮説と目標の設定

<実習>

原則、8月1日(日)～9月17日(金)の間に実習を実施する。期間中に担当コーディネーターによる中間指導がある。

<事後学習>

第14講～第18講

実習経験の共有①②③、実

習経験交流会、実習経験の振り返り/全体講評/修了式

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

8月上旬～9月中旬に、企業・行政機関・非営利組織(NPO・NGO等)において、2週間～1ヵ月程度の実習を行う。

・授業予定については、「インターンシップ・プログラム2021年度募集ガイド」で確認すること。

・授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること

・実習に行く前に指示を待つだけではなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。

・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。

・夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を万全に整えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

① 事前学習および事後学習の受講状況 40%

② 事前学習レポートおよび事後学習レポートの内容 20%

③ 実習の参加状況 (受入先実習状況報告書の評価を参考) 30%

④ 全体を通じて成長が見られるか 10%

合計100%

〔留意事項 (Other Information)〕

大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、ビジネス・パブリックコースと受入先を選択し、事前にweb申し込みを行

い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要がある。

なお、新型コロナウイルスの拡大状況によって、プログラムの中止・変更の可能性がある。

①説明・相談会：4月にプログラム事前説明会・相談会を対面又はオンラインにて実施する。日時や方法など、詳細は別途連絡するので確認のこと。

②出願・面接日：①の中で説明する。

③Web申込期間：①の中で説明する。

不明点は、大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に早めに問い合わせること。

・インターンシップC（ビジネス・パブリックコース）は2年次生推奨である。

・別途、受講料が必要である。

・事前学習、事後学習の方法は原則としてオンライン形式となる。

・事前学習レポートの提出期間は、7月10日(土)～24日(土)である（提出先はキャンパスプラザ京都）。

・事後学習レポートの提出期間は、9月18日(土)～10月2日(土)のそれぞれ16：00締切である（提出先はキャンパスプラザ京都）。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.consortium.or.jp/project/intern>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

中小企業での採用人事経験あり。

キャリア形成

GCP3600N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

3年次

2単位 前期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

定員60人

濱中 倫秀

〔科目の教育目標（Course Description）〕

間近に迫った就職活動・進路決定に向けて、キャリアを自ら切り拓くための実践的な知識を学ぶ。座学によるインプットだけではなく、グループ内での意見交換や発表の機会

を通してアウトプット能力も身につける。

さらにはロールモデルとして就職活動を終えた4年生の体験談も実施し、自身の未来について様々な選択肢と可能性を発見し、自己肯定感の向上に繋げる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・様々な業界や職種の基礎知識をゲストスピーカーの話を通して理解出来る。

・グループで共同して作業し、指示されたアウトプットをすることが出来る。

・先輩の就職活動体験談を聞き、自分に置き換えて行動目標を立てることが出来る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律・自立に向けたキャリアプランを全く描けていない。	自律・自立に向けたキャリアプランを描こうとしている。	自律・自立に向けたキャリアプランを十分描ける。	自律・自立に向けたキャリアプランを具体的に描ける。
知識・理解力	社会そして進路選択に必要な知識について十分な理解が出来ていない。	社会そして進路選択に必要な知識について理解しようとしている。	社会そして進路選択に必要な知識について十分理解できている。	社会そして進路選択に必要な知識について深く理解できている。
言語力	自らのキャリアプランや強み・課題を言語化出来ていない。	自らのキャリアプランや強み・課題を言語化しようとしている。	自らのキャリアプランや強み・課題を十分言語化出来ている。	自らのキャリアプランや強み・課題を具体的に言語化出来ている。
思考・解決力	進路選択・決定に向けてどのような準備が必要なのか考えられていない。	進路選択・決定に向けてどのような準備が必要なのか考えようとしている。	進路選択・決定に向けてどのような準備が必要なのかを考え、把握できている。	進路選択・決定に向けてどのような準備が必要なのか具体的に把握し、行動を起こしている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換が出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	進路選択・決定に対する自分の考えを発信出来ない。	進路選択・決定に対する自分の考えを発信しようとしている。	進路選択・決定に対する自分の考えを十分発信出来ている。	進路選択・決定に対する自分の考えを具体的に発信出来ている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義のオリエンテーション
この講義の目標や進め方について
- 第 2 回 自己分析①
自分に関する情報をシートを使って分類する／前半
- 第 3 回 自己分析②
自分に関する情報をシートを使って分類する／後半
- 第 4 回 自己分析③
グループワーク
- 第 5 回 ロールモデルの研究
学生時代の取り組みを活かして内定した先輩に学ぶ・グループワーク
- 第 6 回 ロールモデルの研究
インターンシップを活用して内定した先輩に学ぶ・グループワーク
- 第 7 回 キャリアセンターの活用事例
キャリアセンターで受けられるサポート内容の紹介
- 第 8 回 様々な業界と仕事
製造業界と具体的な仕事の特徴について紹介
- 第 9 回 様々な業界と仕事
流通業界と具体的な仕事の特徴について紹介
- 第 10 回 様々な業界と仕事
サービス業界と具体的な仕事の特徴について紹介
- 第 11 回 自分に合った働き方を考える
ワークライフバランスを中心とした企業研究とグループワーク
- 第 12 回 自分に合った働き方を考える
顧客へのサービス構造を中心とした企業研究とグループワーク
- 第 13 回 私の就職・進路決定戦略①
自らの目指す就職・進路の決定に向けての行動計画を考える
- 第 14 回 私の就職・進路決定戦略②
自らの目指す就職・進路の決定に向けての行動計画を発表
- 第 15 回 まとめ・講義内試験

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・グループワークを多く取り入れるので、積極的に発言・関与すること。
- ・グループで話し合った結果の発表の機会も講義内で設ける。
- ・ポストイットやA3の用紙は教室に準備するのでグループワークの際に活用すること。
- ・レポートや講義内試験、ノートに関しては評価終了後全て返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・次回の講義までの予習課題を、講義の終わりに毎回提示するので予習してくること。

・グループワークの妨げになるので、欠席・遅刻をしないこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 授業態度 30%
- 講義内試験 50%
- レポート 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

- 補助資料やプリントは適宜配布する。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 〔参考URL(URL for Reference) 〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- ≪実践的科目≫
- 中小企業での採用人事経験あり。

キャリア形成ゼミ

GCP2600N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

60

定員20人 集中

濱中 倫秀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会で必要とされる力を「社会人基礎力」*1 と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が実社会で活動するプロジェクトをゼミとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。このプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。

*1 「社会人基礎力」とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」の3つの能力と12の能力要素を2006年に経済産業省が定義づけしたものである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1)各ゼミに関連した業界分析、職業知識、また情報収集力、分析力をつけること。
- (2)課題や問題を解決する企画立案力をつけること。
- (3)グループ活動における協働力や、コミュニケーション力をつけること。

- (4)企画を実行し、検証する力を身につけること。
 (5)自らの企画内容や成果を伝えるプレゼンテーション力を身につけること。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
情報収集力	各ゼミの到達目標に対して、必要な情報を集められていない。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を、指示された通りに集めている。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を集め、時折共有している。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を能動的に集め、たびたび共有している。
企画力	目標達成に向けた策を自ら考えられてはいない。	目標達成に向けた提案を考えられている。指示した解決方法を選択できている。	目標達成に向けた策を提案している。新しい解決方法を時折考えられている。	目標達成に向けた複数の提案をし、最善の策を選択している。既存の発想にとらわれず、常に新しい解決方法を考えられている。
コミュニケーション力	意思疎通が困難。	意見を言い、他者の意見を聞き入れているときもある。教員が示すことで自分の役割を理解できている。	積極的に意見を言い、他者の意見を聞き入れている。時折チームで協力しようという意志が感じられる。	メンバーとしての役割を理解し、チームで協働しようという強い意志が感じられる。
実行力	指示されても課題に取り組まない。	指示があれば課題に取り組める。目標を明確にし、実行している。	自ら率先して課題に取り組んでいる。目標を明確にし、計画を立てて実行している。	自ら率先して課題に取り組む、他者を巻き込んで遂行できる。
プレゼンテーション力	伝えたい内容が相手に伝わらない。	伝えたい内容が伝わるよう工夫されている部分がある。	伝えたい内容が正しく伝わるよう効果的に工夫されている。	伝えたい内容が正しく伝わるよう論理的に構成され、効果的に工夫されている。

【授業計画】

第 1 回 【5月実施予定の全体会】

オリエンテーション・第1回講義（社会人の心構え、マナー研修、社会人としてのスキルの調査、各ゼミの個別相談会）

- 第 2 回 【各ゼミでの活動①】
各ゼミの目標などについて担当者と話し合う。各ゼミごとの「業界研究」などの活動を始める。
*活動スケジュールは各ゼミ担当者の指示に従うこと。
- 第 3 回 【各ゼミでの活動②】
各ゼミで現場見学等を行う
- 第 4 回 【各ゼミでの活動③】
現場実践等で情報収集を行う
- 第 5 回 【各ゼミでの活動④】
企画のテーマ設定から企画立案(1) お互いの興味を知る
- 第 6 回 【各ゼミでの活動⑤】
企画のテーマ設定から企画立案(2) テーマ設定から企画を考える
- 第 7 回 【各ゼミでの活動⑥】
グループワーク(1) 企画に沿って、各ゼミの実際の活動を進める
- 第 8 回 【各ゼミでの活動⑦】
グループワーク(2) 各ゼミで問題点をそれぞれ克服しながら、活動を進める
- 第 9 回 【10月に実施予定の全体会～情報交換会～】
情報交換会（ゼミの活動内容と展望を明らかにし、今後の課題を見つける。他のゼミの取組の報告から所属ゼミに活かせることを見つける。プレゼン形式にはせず、グループワークを行う）
- 第 10 回 【各ゼミでの活動⑧】
グループワーク(3) 企画の目的達成に向けて、各ゼミでの活動を進める
- 第 11 回 【各ゼミでの活動⑨】
企画の実施（各ゼミで春からプランしてきた企画の集大成）
- 第 12 回 【各ゼミでの活動⑩】
実施した企画に対する「振り返り（検証）」。さらに、その活動を「社会人基礎力・これからの就活」に結びつけるための議論
- 第 13 回 【各ゼミでの活動⑪】
グループワーク(4) 成果発表会に向けて、プレゼンテーションの準備
- 第 14 回 【各ゼミでの活動⑫】
グループワーク(5) 成果発表会に向けて、プレゼンテーションの準備
- 第 15 回 【1月に実施の全体会～成果発表会～】
成果発表会と総括（各ゼミの1年間の活動とその成果を発表する。各ゼミの取組の内容・成果を伝える）

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ゼミごとに取り組む課題や問題を十分に認識し、情報収集、分析を自ら主体的に取り組むこと。
- ・実践演習は学外での活動が中心となるため、マナー、社会人としての心構えなど事前の指導をしっかりと受け、本学学生として自覚をもって行動すること。
- ・グループワークや他者との協同作業が中心となるため、積極的なコミュニケーションを心がけること。
- ・具体的なスケジュールは各ゼミ担当教員、又はキャリアセンターの指示に従うこと。
- ・やむをえず欠席する場合は必ず担当教員に事前連絡を入れ、指示に従うこと。
- ・「キャリア形成ゼミ」の活動については、授業支援システム(manaba)などを利用して報告書を作成し、提出すること。
- ・授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・キャリア形成ゼミの特徴とねらい、及び各ゼミの目的などを理解する。
- ・自分が選んだゼミの活動内容を理解し、概要について下調べをしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

情報収集力(10%)、企画力(10%)、コミュニケーション力(10%)、実行力(10%)、プレゼンテーション力(10%)、各ゼミで設定した達成目標(40%)、最終回の全体会でのプレゼンテーションに対する評価(10%)を基本とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・2021年度実施のゼミの種類としては、以下のものが予定されている。
旅行プランナーゼミ、ブライダル業界ゼミ、福祉のまちづくりプランナーゼミ、NDタイムズ編集部、ワークショップデザインゼミ、小売店業績UPゼミなど
- ・それぞれのゼミの詳細については、新学期・(4月中旬)に実施される「キャリア形成ゼミの説明会」への出席、あるいはキャリアセンター窓口にて確認すること。
- ・一定の人数が集まらなければ実施しないゼミや定員が決まっているゼミもあるので、説明会時に確認すること。
- ・この科目はWeb登録の必要はなく、活動後に単位が認定される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

中小企業での採用人事経験あり。

コリア語ⅠA 2017年度以降入学者

GBF1303A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

月曜1限 水曜2限

DP3: 言語力

30

週2コマ

金 美仙 金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずしっかりと練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	ハングルの子音と母音の字母をまったく理解していない。	文字が読めるものの、簡単な表現を丸暗記して表す。最低限の語彙や文法事項を使った文が生成できない。	習った表現を正しく発信できる。応用表現があまりできない。	学んだ表現をほぼ自在に使うことができる。
思考・解決力	ハングルのつづりを覚えようとしていない。	字母を追って読む努力をするものの、既習の言語情報を与えても文を生成するために考えようとしていない。	現実の場面と言語表現をマッチさせる工夫をする。	学んだ知識を工夫して言いたいことが言える。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンスと文字の紹介

ガイダンス：授業の行い方及び評価について説明する。

	ハングルの成り立ちと歴史的背景を知る。 ハングル文字の仕組みを理解する。 挨拶のことばを覚える。		
第 2 回	文字と発音：母音字母（1） 母音字母の説明と練習 字母（1）で構成されている語彙の練習 発音のトレーニング 挨拶のことば		練習：名前を聞き合う 発音のトレーニング
第 3 回	文字と発音：母音字母（2）と子音字母（1） 母音字母（1）と語彙の復習 母音字母（2）の説明と練習 母音字母（2）によって構成される語彙の練習 子音字母（1）の説明 文化の紹介：韓国の大学について	第 13 回	第 1 課：自己紹介（文法と本文） 「～は」と「～です」の復習 文法：「～が」 練習：「～は/～が～です（?）」パターンの文を練習する 本文を読む
第 4 回	文字と発音：子音字母（1）と（2） 子音字母（1）によって構成される語彙の練習 子音字母（2）の説明 挨拶のことば及び決まり文句	第 14 回	第 1 課：自己紹介（本文とアクティビティ） 本文スキットの練習 発音のトレーニング アクティビティ：名前、学科、家などを自由に聞き合う
第 5 回	文字と発音：子音字母（2）と有声音化 子音字母（1）の復習 子音字母（2）によって構成される語彙の練習 発音の規則：有声音化	第 15 回	第 2 課：語彙と文法と発音の変化 語彙を覚える 発音の変化：激音化 文法：助詞「～と」の説明と練習
第 6 回	文字と発音：仮名のハングル表記（1） 総復習：語彙の練習と有声音化 日本の地名をハングルで表記する 文化の紹介：日本の「五月病」と韓国の「月曜病」	第 16 回	第 2 課：文法と応用練習 語彙と激音化の復習 文法：助詞「～に」の説明と練習 応用練習：これまで学んだ知識を活用して会話練習を行う 文化の紹介：「両親の日」と「師匠の日」
第 7 回	文字と発音：子音字母（3）と（4） 激音と濃音 激音と濃音によって構成される語彙の練習 挨拶のことば	第 17 回	第 2 課：発音の変化と文法 語彙と激音化と「～に」の復習 発音の変化：濃音化 文法：助詞「～も」の説明と練習
第 8 回	文字と発音：母音字母（2）と（3） 子音字母（3）と（4）の復習 複合母音の説明と練習 複合母音によって構成される語彙の練習 挨拶のことば及び決まり文句	第 18 回	第 2 課：本文と総復習 本文スキットを読む 発音のトレーニング これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる アクティビティの準備
第 9 回	文字と発音：パッチム（1）と（2） 複合母音の復習 パッチム（1）の説明と練習 パッチム（1）によって構成される語彙の練習 パッチム（2）の説明 文化の紹介：五月の記念日	第 19 回	第 2 課と第 3 課：アクティビティと第 3 課の語彙 本文の復習 アクティビティの準備：住まいと兄弟に関する会話表現を練習する 第 3 課：語彙の説明と発音
第 10 回	文字と発音：パッチム（2）と仮名のハングル表記（2） パッチム（1）の復習 パッチム（2）によって構成される語彙の練習 日本語の人名及び地名のハングル表記	第 20 回	第 3 課：語彙と文法 語彙と数字を覚える 文法：助詞「～を」と「～には」の説明と練習 文化紹介：韓国の食卓のマナー
第 11 回	文字と発音：連音化 総復習と発音のトレーニング 発音の規則：連音化の説明と練習	第 21 回	第 3 課：語彙の拡張と文法と本文 語彙を覚える：曜日名及び時間名詞 文法：「～します」（1） これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる 本文スキットの練習
第 12 回	第 1 課：自己紹介（語彙と文法） 語彙の練習 文法：助詞「～は」と「～です」の表現	第 22 回	第 3 課：アクティビティ 本文スキットの復習 アクティビティ：日常生活（授業の有り無しや朝食など）について自由に会話する
		第 23 回	第 4 課：語彙と文法 語彙の説明と練習 文法：助詞「～で」（手段）の説明と練習 移動方法に関する表現を練習する

- 第 24 回 第 4 課：文法と時間の表現
語彙と「～で」の復習
文法：「～でしょ?/ですよ?」
時間の表現：漢数詞と固有数詞による時間表現
- 第 25 回 第 4 課：文法と応用練習
時間の表現の復習
文法：「～します」(2)
応用練習：移動の時間に関する表現の練習
- 第 26 回 第 4 課：本文とアクティビティの準備
「～します」の復習
本文スキットの練習
発音のトレーニング
アクティビティの準備：通勤時間及び手段の表現を覚える
- 第 27 回 第 4 課と第 5 課：アクティビティと語彙
アクティビティ：通勤時間及び手段について自由に話し合う
第 5 課：語彙の説明と練習
文化の紹介：夏バテ防止の料理
- 第 28 回 第 5 課：文法と例文
語彙の復習
文法：「～する予定です」の表現
例文：週末の約束や夏休みの予定を表す表現を作文し練習する
- 第 29 回 第 5 課：文法と本文
「～する予定です」の復習
文法：「～したい」「～ので」
夏休みにやりたいことと人に勧める表現を練習する
- 第 30 回 第 5 課：アクティビティ
夏休みの計画について自由に話し合う
総復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。

持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もち

ろん単位を取ることもできません。

2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

動画ファイル及び添付ファイルで提供

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林(語学学校)の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験(韓国語)の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

コリア語 I B 2017年度以降入学者

GBF1303BOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目(実践的科目)

1年次

2単位 前期

月曜2限 水曜1限

DP3: 言語力

30

週2コマ

金 美仙 金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。

2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。

3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずにしっかり練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

言語力	ハングルの子音と母音の字母をまったく理解していない。	文字が読めるものの、簡単な表現を丸暗記して表す。最低限の語彙や文法事項を使った文が生成できない。	習った表現を正しく発信できる。応用表現ができない。	学んだ表現をほぼ自在に使うことができる。
思考・解決力	ハングルのつづりを覚えようとしていない。	字母を追って読む努力をするものの、既習の言語情報を与えても文を生成するために考えようとしていない	現実の場面と言語表現をマッチさせる工夫をする。	学んだ知識を工夫して言いたいことが言える。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと文字の紹介
ガイダンス：授業の行い方及び評価について説明する。
ハングルの成り立ちと歴史的背景を知る。
ハングル文字の仕組みを理解する。
挨拶のことは覚える。
- 第 2 回 文字と発音：母音字母（1）
母音字母の説明と練習
字母（1）で構成されている語彙の練習
発音のトレーニング
挨拶のことは覚える。
- 第 3 回 文字と発音：母音字母（2）と子音字母（1）
母音字母（1）と語彙の復習
母音字母（2）の説明と練習
母音字母（2）によって構成される語彙の練習
子音字母（1）の説明
文化の紹介：韓国の大学について
- 第 4 回 文字と発音：子音字母（1）と（2）
子音字母（1）によって構成される語彙の練習
子音字母（2）の説明
挨拶のことは覚える及び決まり文句
- 第 5 回 文字と発音：子音字母（2）と有声音化
子音字母（1）の復習
子音字母（2）によって構成される語彙の練習
発音の規則：有声音化
- 第 6 回 文字と発音：仮名のハングル表記（1）
総復習：語彙の練習と有声音化
日本の地名をハングルで表記する
文化の紹介：日本の「五月病」と韓国の「月曜病」
- 第 7 回 文字と発音：子音字母（3）と（4）

- 激音と濃音
激音と濃音によって構成される語彙の練習
挨拶のことは覚える
- 第 8 回 文字と発音：母音字母（2）と（3）
子音字母（3）と（4）の復習
複合母音の説明と練習
複合母音によって構成される語彙の練習
挨拶のことは覚える及び決まり文句
- 第 9 回 文字と発音：パッチム（1）と（2）
複合母音の復習
パッチム（1）の説明と練習
パッチム（1）によって構成される語彙の練習
パッチム（2）の説明
文化の紹介：五月の記念日
- 第 10 回 文字と発音：パッチム（2）と仮名のハングル表記（2）
パッチム（1）の復習
パッチム（2）によって構成される語彙の練習
日本語の人名及び地名のハングル表記
- 第 11 回 文字と発音：連音化
総復習と発音のトレーニング
発音の規則：連音化の説明と練習
- 第 12 回 第1課：自己紹介（語彙と文法）
語彙の練習
文法：助詞「～は」と「～です」の表現
練習：名前を聞き合う
発音のトレーニング
- 第 13 回 第1課：自己紹介（文法と本文）
「～は」と「～です」の復習
文法：「～が」
練習：「～は/～が～です（?）」パターンの文を練習する
本文を読む
- 第 14 回 第1課：自己紹介（本文とアクティビティ）
本文スキットの練習
発音のトレーニング
アクティビティ：名前、学科、家などを自由に聞き合う
- 第 15 回 第2課：語彙と文法と発音の変化
語彙を覚える
発音の変化：激音化
文法：助詞「～と」の説明と練習
- 第 16 回 第2課：文法と応用練習
語彙と激音化の復習
文法：助詞「～に」の説明と練習
応用練習：これまで学んだ知識を活用して会話練習を行う
文化の紹介：「両親の日」と「師匠の日」
- 第 17 回 第2課：発音の変化と文法
語彙と激音化と「～に」の復習
発音の変化：濃音化
文法：助詞「～も」の説明と練習
- 第 18 回 第2課：本文と総復習

本文スキットを読む
発音のトレーニング
これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる
アクティビティの準備

第 19 回 第 2 課と第 3 課：アクティビティと第 3 課の語彙
本文の復習
アクティビティの準備：住まいと兄弟に関する会話
表現を練習する
第 3 課：語彙の説明と発音

第 20 回 第 3 課：語彙と文法
語彙と数字を覚える
文法：助詞「～を」と「～には」の説明と練習
文化紹介：韓国の食卓のマナー

第 21 回 第 3 課：語彙の拡張と文法と本文
語彙を覚える：曜日名及び時間名詞
文法：「～します」(1)
これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる
本文スキットの練習

第 22 回 第 3 課：アクティビティ
本文スキットの復習
アクティビティ：日常生活（授業の有り無しや朝食
など）について自由に会話する

第 23 回 第 4 課：語彙と文法
語彙の説明と練習
文法：助詞「～で」（手段）の説明と練習
移動方法に関する表現を練習する

第 24 回 第 4 課：文法と時間の表現
語彙と「～で」の復習
文法：「～でしょ？/ですよね？」
時間の表現：漢数詞と固有数詞による時間表現

第 25 回 第 4 課：文法と応用練習
時間の表現の復習
文法：「～します」(2)
応用練習：移動の時間に関する表現の練習

第 26 回 第 4 課：本文とアクティビティの準備
「～します」の復習
本文スキットの練習
発音のトレーニング
アクティビティの準備：通勤時間及び手段の表現
を覚える

第 27 回 第 4 課と第 5 課：アクティビティと語彙
アクティビティ：通勤時間及び手段について自由に
話し合う
第 5 課：語彙の説明と練習
文化の紹介：夏バテ防止の料理

第 28 回 第 5 課：文法と例文
語彙の復習
文法：「～する予定です」の表現
例文：週末の約束や夏休みの予定を表す表現を作文し練習する

第 29 回 第 5 課：文法と本文
「～する予定です」の復習
文法：「～したい」「～ので」

夏休みにやりたいことと人に勧める表現を練習する

第 30 回 第 5 課：アクティビティ
夏休みの計画について自由に話し合う
総復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。
持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。
各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕
1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。
2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
動画ファイル及び添付ファイルで提供
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
大学書林（語学学校）の韓国語講師
東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。
ハングル能力検定試験の採点
埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価
企業での講演：韓国語と韓国文化
語学学校で使用される内部教材作成

コリア語ⅠC 2017年度以降入学者

GBF1303C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

月曜3限 水曜3限

DP3: 言語力

30

週2コマ

金 美仙 金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずにしっかり練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	ハングルの子音と母音の字母をまったく理解していない。	文字が読めるものの、簡単な表現を丸暗記して表す。最低限の語彙や文法事項を使った文が生成できない。	習った表現を正しく発信できる。応用表現ができない。	学んだ表現をほぼ自在に使うことができる。
思考・解決力	ハングルのつづりを覚えようとしていない。	字母を追って読む努力をするものの、既習の言語情報を与えても文を生成するために考えようとしていない。	現実の場面と言語表現をマッチさせる工夫をする。	学んだ知識を工夫して言いたいことが言える。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと文字の紹介
 ガイダンス：授業の行い方及び評価について説明する。

ハングルの成り立ちと歴史的背景を知る。

ハングル文字の仕組みを理解する。

挨拶のことばを覚える。

- 第 2 回 文字と発音：母音字母 (1)
 母音字母の説明と練習
 字母 (1) で構成されている語彙の練習
 発音のトレーニング
 挨拶のことば
- 第 3 回 文字と発音：母音字母 (2) と子音字母 (1)
 母音字母 (1) と語彙の復習
 母音字母 (2) の説明と練習
 母音字母 (2) によって構成される語彙の練習
 子音字母 (1) の説明
 文化の紹介：韓国の大学について
- 第 4 回 文字と発音：子音字母 (1) と (2)
 子音字母 (1) によって構成される語彙の練習
 子音字母 (2) の説明
 挨拶のことば及び決まり文句
- 第 5 回 文字と発音：子音字母 (2) と有声音化
 子音字母 (1) の復習
 子音字母 (2) によって構成される語彙の練習
 発音の規則：有声音化
- 第 6 回 文字と発音：仮名のハングル表記 (1)
 総復習：語彙の練習と有声音化
 日本の地名をハングルで表記する
 文化の紹介：日本の「五月病」と韓国の「月曜病」
- 第 7 回 文字と発音：子音字母 (3) と (4)
 激音と濃音
 激音と濃音によって構成される語彙の練習
 挨拶のことば
- 第 8 回 文字と発音：母音字母 (2) と (3)
 子音字母 (3) と (4) の復習
 複合母音の説明と練習
 複合母音によって構成される語彙の練習
 挨拶のことば及び決まり文句
- 第 9 回 文字と発音：パッチム (1) と (2)
 複合母音の復習
 パッチム (1) の説明と練習
 パッチム (1) によって構成される語彙の練習
 パッチム (2) の説明
 文化の紹介：五月の記念日
- 第 10 回 文字と発音：パッチム (2) と仮名のハングル表記 (2)
 パッチム (1) の復習
 パッチム (2) によって構成される語彙の練習
 日本語の人名及び地名のハングル表記
- 第 11 回 文字と発音：連音化
 総復習と発音のトレーニング
 発音の規則：連音化の説明と練習
- 第 12 回 第 1 課：自己紹介 (語彙と文法)
 語彙の練習
 文法：助詞「～は」と「～です」の表現

練習：名前を聞き合う
発音のトレーニング

第 13 回 第 1 課：自己紹介（文法と本文）
「～は」と「～です」の復習
文法：「～が」
練習：「～は/～が～です（?）」パターンの文を練習する
本文を読む

第 14 回 第 1 課：自己紹介（本文とアクティビティ）
本文スキットの練習
発音のトレーニング
アクティビティ：名前、学科、家などを自由に聞き合う

第 15 回 第 2 課：語彙と文法と発音の変化
語彙を覚える
発音の変化：激音化
文法：助詞「～と」の説明と練習

第 16 回 第 2 課：文法と応用練習
語彙と激音化の復習
文法：助詞「～に」の説明と練習
応用練習：これまで学んだ知識を活用して会話練習を行う
文化の紹介：「両親の日」と「師匠の日」

第 17 回 第 2 課：発音の変化と文法
語彙と激音化と「～に」の復習
発音の変化：濃音化
文法：助詞「～も」の説明と練習

第 18 回 第 2 課：本文と総復習
本文スキットを読む
発音のトレーニング
これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる
アクティビティの準備

第 19 回 第 2 課と第 3 課：アクティビティと第 3 課の語彙
本文の復習
アクティビティの準備：住まいと兄弟に関する会話表現を練習する
第 3 課：語彙の説明と発音

第 20 回 第 3 課：語彙と文法
語彙と数字を覚える
文法：助詞「～を」と「～には」の説明と練習
文化紹介：韓国の食卓のマナー

第 21 回 第 3 課：語彙の拡張と文法と本文
語彙を覚える：曜日名及び時間名詞
文法：「～します」（1）
これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる
本文スキットの練習

第 22 回 第 3 課：アクティビティ
本文スキットの復習
アクティビティ：日常生活（授業の有り無しや朝食など）について自由に会話する

第 23 回 第 4 課：語彙と文法
語彙の説明と練習
文法：助詞「～で」（手段）の説明と練習
移動方法に関する表現を練習する

第 24 回 第 4 課：文法と時間の表現
語彙と「～で」の復習
文法：「～でしょ？/ですよね？」
時間の表現：漢数詞と固有数詞による時間表現

第 25 回 第 4 課：文法と応用練習
時間の表現の復習
文法：「～します」（2）
応用練習：移動の時間に関する表現の練習

第 26 回 第 4 課：本文とアクティビティの準備
「～します」の復習
本文スキットの練習
発音のトレーニング
アクティビティの準備：通勤時間及び手段の表現を覚える

第 27 回 第 4 課と第 5 課：アクティビティと語彙
アクティビティ：通勤時間及び手段について自由に話し合う
第 5 課：語彙の説明と練習
文化の紹介：夏バテ防止の料理

第 28 回 第 5 課：文法と例文
語彙の復習
文法：「～する予定です」の表現
例文：週末の約束や夏休みの予定を表す表現を作成し練習する

第 29 回 第 5 課：文法と本文
「～する予定です」の復習
文法：「～したい」「～ので」
夏休みにやりたいことと人に勧める表現を練習する

第 30 回 第 5 課：アクティビティ
夏休みの計画について自由に話し合う
総復習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。
持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。
各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する
〔留意事項（Other Information）〕
1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得できません。もちろ

ん単位を取ることもできません。

2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

動画ファイル及び添付ファイルで提供

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》

大学書林（語学学校）の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

コリア語Ⅱ 2017年度以降入学者

GBF1353NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次

2単位 後期

月曜 4限 水曜 4限

DP3：言語力

30

週2コマ 「コリア語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙 金 美仙

[科目の教育目標 (Course Description)]

1. 交流会や旅行した時に簡単な意思疎通ができます。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

語彙やその関連表現を覚えることとなります。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
運用力及び生成能力	文を生成するための言語知識(語彙・文法)ほとんど理解していない。	教材を見ながら辛うじて言いたいことを表現できる。	間違いながらも習得した知識を使って言いたいことを表現できる。	習得した知識をフル活用して言いたいことを表現できる。

[授業計画]

第 1 回 復習及びガイダンス

復習：文法、語彙、作文、発音の変化などを復習しながら、次の学習に備える

第 2 回 第 6 課：語彙と文法

語彙を覚える

文法：過去形の練習

例文の練習：夏/春休みにやったこと

第 3 回 第 6 課：数字

数字を覚える：漢数詞と固有数詞

日にちの言い方

誕生日を聞き合う

第 4 回 第 6 課：本文とアクティビティの準備

本文スキットの練習

アクティビティの準備：夏休みにやったことと感想の表現を練習

発音のトレーニング：日にちの言い方

第 5 回 第 6 課と第 7 課：アクティビティと語彙

アクティビティ：休み中や先週末の出来事などについて自由に話し合う。誕生日と記念日について話し合う。

第 7 課の語彙を覚える

文化の紹介：秋夕

第 6 回 第 7 課：文法と例文の練習 (1)

語彙の復習

文法：動詞の現在連体形

体言止めの連語を用いて短い文を作る

第 7 回 第 7 課：文法と例文の練習 (2)

文法：形容詞の現在連体形

体言止めの連語を用いて物の性質を描写する短い文を作る

第 8 回 第 7 課：本文とアクティビティの準備

本文スキットの練習

夢、好きなことを表す表現を練習する

発音の変化：鼻音化

第 9 回 第 8 課：語彙と文法

語彙を覚える

文法：「～しましょうか・でしょうか」

例文の練習：誘う表現を作ってみる

第 10 回 第 8 課：文法とアクティビティの準備

文法：「～を好き」と「～することを好き」の表現

アクティビティの準備：やりたいこと、昔からやってきたことなどを表す表現を練習する

第 11 回 第 7 課と第 8 課のアクティビティ

アクティビティ：夢、好きなこと、やりたいこと、やってきたこと、やりたかったことなどについて自由に話し合う。

文化の紹介：キムジャン

第 12 回 第 9 課：語彙と発音の変化

語彙を覚える

発音の変化：流音化

料理名と好きな料理を言ってみる

第 13 回 第 9 課：文法と例文 (1)

文法：「～しに行く」

例文：「～しに行く」の応用表現

発音のトレーニング

第 14 回 第 9 課：文法と例文 (2)

語彙の復習

文法：「～しても・でも」と「～したことがある/ない」

	例文の練習：食べたことのある/ない料理と感想の表現を作ってみる	第 27 回	第 13 課：語彙と文法 語彙を覚える 文法：「～することができる」 例文の練習：あるお店でできることとできないことを言ってみる
第 15 回	第 9 課：本文とアクティビティの練習 本文スキットの練習 アクティビティの準備：好きな料理とその経験に関する表現を練習	第 28 回	第 13 課：本文 語彙の復習と発音 本文の音読練習
第 16 回	第 9 課：アクティビティ 韓国料理について話し合う：好きな料理を言ったり勧めたりする。食べたことのない料理について聞いてみる。お店の紹介し合う。 文化の紹介：産後調理院	第 29 回	第 13 課：行きつけのお店の紹介 作文の練習：行きつけのお店を紹介する 文化の紹介：韓国のお正月
第 17 回	第 10 課：語彙と文法 語彙を覚える（1） 文法：「～すれば・なら」 例文：目的地への道順の表現を練習	第 30 回	発表と総復習 前回作文した「行きつけのお店」を口頭発表する 総復習をする
第 18 回	第 10 課：文法と例文（1） 語彙を覚える（2） 文法：「～しなければならない」 例文：目的地行くためにやるべきことを言ってみる	〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕 実施しない	
第 19 回	第 10 課：文法と例文（2） 語彙の復習 文法：「～して」（前提動作の表現） 例文：移動の方法の表現	〔教育・学習の方法（Course Methods）〕 知識の定着をしっかりと確認したうえで、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。授業の形態は、動画配信のオンデマンド（6割程度）とライブまたは対面（4割程度）とのブレンド型である。知識の習得は動画配信、実践練習はライブまたは対面で行われる。	
第 20 回	第 10 課：本文とアクティビティの準備 語彙の復習と発音のトレーニング 本文スキットの練習 アクティビティの準備：地図を見ながら道順と行き方の表現を作ってみる	〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕 単語帳と文法(用言の活用形)のノートを用意し、繰り返し練習する。 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕	
第 21 回	第 10 課：アクティビティ アクティビティ：友達を自宅に招待し、道順を説明したり、説明の通りたどり着く 文化の紹介：韓国の季節	10	
第 22 回	総復習と音読の練習 用言の活用形の体系的にまとめてみる 発音のトレーニング 優しい文章の音読の練習	〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕 日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する	
第 23 回	第 11 課：語彙と文法 語彙を覚える 文法：尊敬形の原型づくり 尊敬形と非尊敬形の使い分け	〔留意事項（Other Information）〕 1. コリア語 I を受講していること、または同レベルの学習歴をもっていること。 2. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。 3. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体 1 か月前に周知します。	
第 24 回	第 11 課：尊敬形（1） 語彙の練習 尊敬形の活用（1）：尊敬形と非尊敬形の丁寧体 例文の練習：尊敬形と非尊敬形を用いて簡単な対話を行う	〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕 動画ファイル及び添付ファイルで提供	
第 25 回	第 12 課：尊敬形（2） 発音のトレーニング 尊敬形の活用（2）：尊敬形の様々な活用形 例文の練習：非尊敬形の文を目上の人への表現に変える	〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕 『できる韓国語 初級 単語集：新装版』/新大久保学院・李志暎・朴雪熙/DEKIRU出版/2016/978-4872179989 『韓国語用言 活用と用言』/金美仙/三修社/2016/978-4384054590 『読みたい韓国語』/金美仙/朝日出版社/978-4-255-55675-8	
第 26 回	第 12 課：本文 本文スキットの練習 文化の紹介：目上の人との食事及び飲酒のマナー	〔参考URL(URL for Reference)〕 〔実務経験のある教員による実践的科目〕	

コリア語Ⅲ 2017年度以降入学者

GBF2301NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜3限 木曜3限

DP3: 言語力

30

週2コマ 「コリア語Ⅱ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

総合的な能力において中級レベルに達する。旅行が可能な会話レベルを超えて、自分の嗜好、感情、事実の説明などができる実践力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

豊富な語彙力をつける。

TOPIK(韓国語能力試験)中級レベルの文法能力を備える。学習した言語知識をフルに活用したフリートーキングを行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと復習
授業の運営方法を説明する。
コリア語ⅠとⅡの内容を復習し、第1課の語彙を練習する。
- 第 2 回 第1課 料理の食べ方 (1)
語彙を覚える。
文法：現在連体形の復習、先行動作の「～して」短い例文の練習。
- 第 3 回 第1課 料理の食べ方 (2)
本文スキットの練習。
日韓の料理の食べ方について話し合う。
- 第 4 回 第2課 経験の表現 (1)

- 復習：第1課の内容を文章にまとめる。
第2課の語彙を覚える。
文法：過去連体形、「～したことがある/ない」
- 第 5 回 第2課 経験の表現 (2)
経験を言うための例文の練習。
本文スキットの練習。
実践練習：韓国旅行の体験を話し合う。
- 第 6 回 第1課と第2課のアクティビティ
旅行の体験、料理に関して自由に話し合う。
ある食べ物の自分固有の食べ方を紹介し勧める。
- 第 7 回 第3課 卒業後の予定 (1)
語彙を覚える。
文法：未来連体形、「～するつもりだ」の復習。
文法を習熟するための例文を練習する。
- 第 8 回 第3課 卒業後の予定 (2)
本文スキットの練習。
卒業後の予定や希望について話し合う。
- 第 9 回 第4課 人物の外見描写 (1)
語彙を覚える。
文法：形容詞連体形の復習、指定詞の連体形。
例文の練習。
- 第 10 回 第4課 人物の外見描写 (2)
本文スキットの練習。
人物の外見を描写し合い、説明通りに描いてみる。
作文の練習：第3課あるいは第4課の本文スキットの内容を文章にまとめる。
- 第 11 回 第3課と第4課のアクティビティ
将来の夢や目標とそのために行う計画について話し合う。
好みの人物のタイプについて話し合う。
- 第 12 回 第5課 自分の都合を説明する (1)
語彙を覚える。
文法：前置き及び前提などの表現「～だけど、～のに」
文法形式の形作りと例文の練習
- 第 13 回 第5課 自分の都合を説明する (2)
本文スキットの練習
会話の練習：予定や計画変更の事情を説明し助けを求める。
作文の練習：会話で説明した自分の事情を文章にまとめる。
- 第 14 回 第6課 食事しながら料理を説明する (1)
語彙を覚える。
文法：「～ので」の復習、不規則活用 (1)
理由と提案及び温度に関する例文の練習。
- 第 15 回 第6課 食事しながら料理を説明する (2)
本文スキットの練習。
料理の特徴を説明しながら助言や提案を話し合う。
- 第 16 回 第5課と第6課のアクティビティ
自分の予定や料理の性質などを説明し、それに対応する自分の計画及び助言などを自由に話し合う。
- 第 17 回 第7課 外国語の勉強方法 (1)

- 語彙を覚える。
文法：「～しなければならない」の復習、不規則活用（２）
例文の練習
- 第 18 回 第 7 課 外国語の勉強方法（２）
本文スキットの練習。
外国語の勉強方法について話し合う。
- 第 19 回 第 8 課 体調管理（１）
語彙を覚える。
文法：「～のせいで/ために」、不規則活用（３）
例文の練習
- 第 20 回 第 8 課 体調管理（２）
本文スキットの練習
風邪の引きやすいかどうかなどの体質及び体験について話し合う。
- 第 21 回 第 7 課と第 8 課のアクティビティ
外国語の勉強方法に関するノーハウなど情報交換を行う。
日頃の健康管理や風邪の対処法について話し合う。
- 第 22 回 第 9 課 血液型と性格（１）
語彙を覚える。
文法：「～するじゃないですか」、不規則活用（４）
例文の練習
- 第 23 回 第 9 課 血液型と性格（２）
本文スキットの練習
自分と身近な人の血液型と性格について話し合う。
- 第 24 回 第 10 課 色の表現（１）
語彙を覚える。
文法：「～してみる」、不規則活用（５）
例文の練習
- 第 25 回 第 10 課 色の表現（２）
本文スキットの練習。
洋服や物の色を説明する。
日韓で色の表現の違いを確認する。
- 第 26 回 第 9 課と第 10 課のアクティビティ
血液型と性格の関連性について日韓を比較しながら話し合う。
好きな色と理由を話し合う。
- 第 27 回 総復習と作文の練習
第 6 課～第 10 課の総復習
練習してきた会話のうち、テーマをひとつ選び文章にまとめる。
- 第 28 回 第 11 課 メールを書く（１）
語彙を覚える。
文法：約束及び決心を伝える「～します」、不規則用言のまとめ
例文の練習
- 第 29 回 第 11 課 メールを書く
本文スキットの練習。
韓国語知人にメールを書く。
- 第 30 回 動画を見て話し合う

- 短い動画を見て、内容について、自分の意見などを話し合う。
総復習をする。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
用言の活用の体系をマスターするために、形の作り方及び文における使い方を丁寧にサポートしていく。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
単語のみならず連語単位の語彙を幅広く習得するための課題が出される。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
課題、単語のテスト、アクティビティの参加度から総合的に評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
コリア語 I と II を受講しているか同レベルの学習歴をもつこと。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『できる韓国語初級Ⅱ』（新装版）/新大久保学院・李志暎・金鎮姫/DEKIRU出版/2016/978-4-87217-886-9/1
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『できる韓国語 初級 単語集：新装版』/新大久保学院・李志暎・朴雪熙/DEKIRU出版/2016/978-4872179989
『韓国語用言 活用と用言』/金美仙/三修社/2016/978-4384054590
『読みたい韓国語』/金美仙/朝日出版社/978-4-255-55675-8
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
「実践的科目」
大学書林（語学学校）の韓国語講師
東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。
ハングル能力検定試験の採点
埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価
企業での講演：韓国語と韓国文化
語学学校で使用される内部教材作成

ジェンダー論

GES1150NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DPI: 自分を育てる力

60

藤田 朋子

【科目の教育目標 (Course Description)】

- ・ジェンダー概念の理解。
- ・ジェンダー視点で社会を分析する力をつける。
- ・ジェンダー平等のための国際的、国内的施策の理解。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・国際社会におけるジェンダー問題 (途上国の開発・貧困など)
- ・国内におけるジェンダー問題 (教育、労働、女性に対する暴力、貧困など)

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ジェンダーを理解しようとししない	自分の経験とジェンダーを関連付けて考えることができる	自分を含め、社会をジェンダー視点で考えることができる	ジェンダーを理解したうえで、自分の人生を自分で選択できる
知識・理解力	ジェンダーの意味が理解できない	ジェンダーの意味と成り立ちが理解できる	ジェンダーをめぐる課題を見つけることができる	ジェンダーをめぐる課題を分析できる
思考・解決力	ジェンダー平等が果たす役割を考えようとししない	自分を取り巻く環境がジェンダー平等であるかどうかを考慮することができる	ジェンダー平等のために何が必要かを考えることができる	日本を含む地球規模におけるジェンダー平等のための解決策を考えることができる

【授業計画】

- 第 1 回 「序論」
授業の進め方、授業予定
- 第 2 回 「ジェンダーとは」
・ジェンダー概念
・ジェンダー概念の歴史的背景
・性的指向及び性自認の多様性
- 第 3 回 「国際社会とジェンダー」
・国際社会におけるジェンダーの歴史
・国際社会におけるジェンダーの現状
- 第 4 回 「家庭生活とジェンダー」

- ・ジェンダー視点からの家族制度の変遷
- ・現代社会における家庭生活の現状とジェンダー

- 第 5 回 「教育とジェンダー」
・ジェンダー視点でみる教育制度の歴史
・ジェンダー視点でみる教育制度の現状
- 第 6 回 「女性に対する暴力の根絶—ジェンダー視点—①」
・女性に対する暴力の変遷
・女性に対する暴力根絶の取り組み
- 第 7 回 「女性に対する暴力の根絶—ジェンダー視点—②」
・女性に対する暴力の現状
- 第 8 回 「労働とジェンダー①」
・労働に関する用語
・ジェンダー視点からの労働の変遷
- 第 9 回 「労働とジェンダー②」
・ジェンダー視点からの労働市場の現状
- 第 10 回 「労働とジェンダー③」
・ジェンダー視点からの労働市場の課題
- 第 11 回 「災害とジェンダー」
・自然災害におけるジェンダー
・ジェンダー視点からの防災
- 第 12 回 「貧困とジェンダー」
・国際社会における貧困
・日本における貧困の現状
- 第 13 回 「政治とジェンダー」
・政治分野におけるジェンダーの変遷と現状
- 第 14 回 「ジェンダー平等への取り組み」
・国際社会におけるジェンダー平等への取り組み
・日本におけるジェンダー平等への取り組み
- 第 15 回 授業全体の振り返り
・授業全体のまとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

レポート

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

- ① 授業時間終了後に小テスト (回数は未定) を manaba にて配信、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- ② 授業時間内に課題を記述、提出 (2回~3回)。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

- ・日常的に新聞やインターネットなどの情報 (政策や制度など) をジェンダー視点で考察する。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

25時間

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

- ・授業参加度、課題、小テスト: 90%
- ・レポート: 10%

上記に基づいて、総合的に評価する。

【留意事項 (Other Information)】

授業内容の順序の入れ替え、社会状況に合わせて内容変更等を行う場合がある。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》

・女性を対象とした相談員（DV、離婚、労働等の相談）として行政機関に勤務中。

ホスピタリティ入門A

GCP1500A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次

2単位 前期

水曜3限

DP5：共生・協働する力

60

英語英文学科はCクラスを履修すること

光末 香恵美

【科目の教育目標（Course Description）】

本科目では、現代社会の様々な場面において重要性が高まっている「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。主にホスピタリティを「受ける側の視点」について取り上げ、理解を深める。受講生が、言葉の理解だけでなく、日々の生活や授業の中でホスピタリティについて考え、実践していくことを目指す。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

・ホスピタリティの本質・概念を理解して自分の言葉で説明できるようになる

・ホスピタリティの発揮に必要な基本的な考え方、視点、基礎的な要素、スキルを身につける

・自らが「気づき、考え、ホスピタリティを発揮できる」人材となることを目指す

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーション

・講義計画、進め方、概要、試験、評価等について説明し、心構えを作る

・本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する

第 2 回 ホスピタリティとは

・「ホスピタリティ」の原義を知ることにより、「ホスピタリティ」が持つ意味を考察する
・「もてなし」や「サービス」と比較して学ぶ

第 3 回 ホスピタリティと人間

・ホスピタリティについて人間の感情面からアプローチし、人を思いやり、伝えることの大切さを理解する

第 4 回 ホスピタリティと文化Ⅰ（文化による違い）

・ホスピタリティの表出の仕方、感じ方などにおける文化や時代、地域による差異を考察する

第 5 回 ホスピタリティと文化Ⅱ（ホスピタリティに影響をあたえたもの）

・ホスピタリティを歴史の観点から考察する

第 6 回 ホスピタリティと産業Ⅰ（産業構造の変化とホスピタリティの重要性）

・現代産業の発展とホスピタリティの関連性を理解する

・産業の分類、産業の変化、ホスピタリティ産業などについて学ぶ

第 7 回 ホスピタリティと産業Ⅱ（社会の変化とホスピタリティ）

・社会の変化がホスピタリティ産業に及ぼす影響について理解する

・ホスピタリティ産業は、今後どのように変化するのかについて考察する

第 8 回 ホスピタリティと産業Ⅲ（エアラインにおけるホスピタリティ）

・エアライン（ANA）を例として、企業とホスピタリティの関係性を具体的に解説する

第 9 回 ホスピタリティとチームワーク

・企業や地域社会などでなぜチームワークが重要視されるのかについて考える

・チームとしてホスピタリティを相手に伝えるにはどのような連携が必要なのかを理解する

第 10 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ（コミュニケーションの要素）

・ホスピタリティを相手に伝えるためにはコミュニケーション能力が重要となることを理解する

・コミュニケーション能力を高める要素について理解する

第 11 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ（コミュニケーションの方法）

・ホスピタリティを相手に伝えるためのコミュニケーション方法について具体的に解説する

第 12 回 ホスピタリティと観光産業Ⅰ

・観光産業の中で発揮されるホスピタリティの重要性を考える

第 13 回 ホスピタリティと観光産業Ⅱ

・旅行者の満足とはどのようなものかを考える

第 14 回 ホスピタリティと観光産業Ⅲ

・観光および航空輸送に焦点をあて、演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える

第 15 回 確認テストとまとめ

これまでの内容を振り返り、確認テストとまとめを行う

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

・実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・パワーポイントの資料を使用し、主に講義主体で進める
 ・テーマに沿ったディスカッション、発表、映像視聴などを随時取り入れる

・適宜、レジユメを配布する
 ・講義内で課する小レポートを作成する
 ・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする
 ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・講義で配布される資料を良く理解し、次週のテーマに関連を持たせて考察してくる

・講義 (配布資料がある場合は資料) の内容を理解し、自分なりにまとめておく

・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする

・講義で学んだ内容を日常生活の中で実践、継続する習慣をつけるよう努める

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・確認テスト (50%)、小レポート (20%)、受講態度 (30%) に基づいて総合評価する

・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項 (Other Information)〕

・基本的に対面で実施する

・英語英文学科はCクラスを履修すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・テキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

・エアラインの客室乗務員としてフロントラインで顧客サービスを実践した経歴を持つ

・客室乗務員のインストラクターとして新入生やファーストクラスの訓練を担当した経歴をもとにホスピタリティについて分かり易く解説する

ホスピタリティ入門B

GCP1500B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

英語英文学科はCクラスを履修すること

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、現代社会の様々な場面において重要性が高まっている「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。主にホスピタリティを「受ける側の視点」について取り上げ、理解を深める。受講生が、言葉の理解だけではなく、日々の生活や授業の中でホスピタリティについて考え、実践していくことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・ホスピタリティの本質・概念を理解して自分の言葉で説明できるようになる

・ホスピタリティの発揮に必要な基本的な考え方、視点、基礎的な要素、スキルを身につける

・自らが「気づき、考え、ホスピタリティを発揮できる」人材となることを目指す

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

・講義計画、進め方、概要、試験、評価等について説明し、心構えを作る

・本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する

第 2 回 ホスピタリティとは

・「ホスピタリティ」の原義を知ることにより、「ホスピタリティ」が持つ意味を考察する

・「もてなし」や「サービス」と比較して学ぶ

第 3 回 ホスピタリティと人間

- ・ホスピタリティについて人間の感情面からアプローチし、人を思いやり、伝えることの大切さを理解する
- 第 4 回 ホスピタリティと文化Ⅰ（文化による違い）
 - ・ホスピタリティの表出の仕方、感じ方などにおける文化や時代、地域による差異を考察する
- 第 5 回 ホスピタリティと文化Ⅱ（ホスピタリティに影響をあたえたもの）
 - ・ホスピタリティを歴史の観点から考察する
- 第 6 回 ホスピタリティと産業Ⅰ（産業構造の変化とホスピタリティの重要性）
 - ・現代産業の発展とホスピタリティの関連性を理解する
 - ・産業の分類、産業の変化、ホスピタリティ産業などについて学ぶ
- 第 7 回 ホスピタリティと産業Ⅱ（社会の変化とホスピタリティ）
 - ・社会の変化がホスピタリティ産業に及ぼす影響について理解する
 - ・ホスピタリティ産業は、今後どのように変化するのかについて考察する
- 第 8 回 ホスピタリティと産業Ⅲ（エアラインにおけるホスピタリティ）
 - ・エアライン（ANA）を例として、企業とホスピタリティの関係性を具体的に解説する
- 第 9 回 ホスピタリティとチームワーク
 - ・企業や地域社会などでなぜチームワークが重要視されるのかについて考える
 - ・チームとしてホスピタリティを相手に伝えるにはどのような連携が必要なのかを理解する
- 第 10 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ（コミュニケーションの要素）
 - ・ホスピタリティを相手に伝えるためにはコミュニケーション能力が重要となることを理解する
 - ・コミュニケーション能力を高める要素について理解する
- 第 11 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ（コミュニケーションの方法）
 - ・ホスピタリティを相手に伝えるためのコミュニケーション方法について具体的に解説する
- 第 12 回 ホスピタリティと観光産業Ⅰ
 - ・観光産業の中で発揮されるホスピタリティの重要性を考える
- 第 13 回 ホスピタリティと観光産業Ⅱ
 - ・旅行者の満足とはどのようなものかを考える
- 第 14 回 ホスピタリティと観光産業Ⅲ
 - ・観光および航空輸送に焦点をあて、演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える
- 第 15 回 確認テストとまとめ
 - これまでの内容を振り返り、確認テストとまとめを行う

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

・実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・パワーポイントの資料を使用し、主に講義主体で進める
- ・テーマに沿ったディスカッション、発表、映像視聴などを随時取り入れる
- ・適宜、レジュメを配布する
- ・講義内で課する小レポートを作成する
- ・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする
- ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・講義で配布される資料を良く理解し、次週のテーマに関連を持たせて考察してくる
- ・講義（配布資料がある場合は資料）の内容を理解し、自分なりにまとめておく
- ・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする
- ・講義で学んだ内容を日常生活の中で実践、継続する習慣をつけるよう努める

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- ・確認テスト（50%）、小レポート（20%）、受講態度（30%）に基づいて総合評価する
- ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項（Other Information）〕

- ・基本的に対面で実施する
- ・英語英文学科はCクラスを履修すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・テキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

- ・エアラインの客室乗務員としてフロントラインで顧客サービスを実践した経歴を持つ
- ・客室乗務員のインストラクターとして新入生やファーストクラスの訓練を担当した経験をもとにホスピタリティについて分かり易く解説する

ホスピタリティ入門C

GCP1500C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

火曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

英語英文学科専用

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、現代社会の様々な場面において重要性が高まっている「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。主にホスピタリティを「受ける側の視点」について取り上げ、理解を深める。受講生が、言葉の理解だけではなく、日々の生活や授業の中でホスピタリティについて考え、実践していくことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ホスピタリティの本質・概念を理解して自分の言葉で説明できるようになる
- ・ホスピタリティの発揮に必要な基本的な考え方、視点、基礎的な要素、スキルを身につける
- ・自らが「気づき、考え、ホスピタリティを発揮できる」人材となることを目指す

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 ・講義計画、進め方、概要、試験、評価等について説明し、心構えを作る
 ・本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する
- 第 2 回 ホスピタリティとは
 ・「ホスピタリティ」の原義を知ることにより、「ホスピタリティ」が持つ意味を考察する
 ・「もてなし」や「サービス」と比較して学ぶ
- 第 3 回 ホスピタリティと人間

- ・ホスピタリティについて人間の感情面からアプローチし、人を思いやり、伝えることの大切さを理解する
- 第 4 回 ホスピタリティと文化 I (文化による違い)
 ・ホスピタリティの表出の仕方、感じ方などにおける文化や時代、地域による差異を考察する
- 第 5 回 ホスピタリティと文化 II (ホスピタリティに影響をあたえたもの)
 ・ホスピタリティを歴史の観点から考察する
- 第 6 回 ホスピタリティと産業 I (産業構造の変化とホスピタリティの重要性)
 ・現代産業の発展とホスピタリティの関連性を理解する
 ・産業の分類、産業の変化、ホスピタリティ産業などについて学ぶ
- 第 7 回 ホスピタリティと産業 II (社会の変化とホスピタリティ)
 ・社会の変化がホスピタリティ産業に及ぼす影響について理解する
 ・ホスピタリティ産業は、今後どのように変化するのかについて考察する
- 第 8 回 ホスピタリティと産業 III (エアラインにおけるホスピタリティ)
 ・エアライン (ANA) を例として、企業とホスピタリティの関係性を具体的に解説する
- 第 9 回 ホスピタリティとチームワーク
 ・企業や地域社会などでなぜチームワークが重要視されるのかについて考える
 ・チームとしてホスピタリティを相手に伝えるにはどのような連携が必要なのかを理解する
- 第 10 回 ホスピタリティとコミュニケーション I (コミュニケーションの要素)
 ・ホスピタリティを相手に伝えるためにはコミュニケーション能力が重要となることを理解する
 ・コミュニケーション能力を高める要素について理解する
- 第 11 回 ホスピタリティとコミュニケーション II (コミュニケーションの方法)
 ・ホスピタリティを相手に伝えるためのコミュニケーション方法について具体的に解説する
- 第 12 回 ホスピタリティと観光産業 I
 ・観光産業の中で発揮されるホスピタリティの重要性を考える
- 第 13 回 ホスピタリティと観光産業 II
 ・旅行者の満足とはどのようなものかを考える
- 第 14 回 ホスピタリティと観光産業 III
 ・観光および航空輸送に焦点をあて、演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える
- 第 15 回 確認テストとまとめ
 これまでの内容を振り返り、確認テストとまとめを行う

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

・実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・パワーポイントの資料を使用し、主に講義主体で進める
・テーマに沿ったディスカッション、発表、映像視聴などを随時取り入れる

・適宜、レジュメを配布する

・講義内で課する小レポートを作成する

・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする

・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・講義で配布される資料を良く理解し、次週のテーマに関連を持たせて考察してくる

・講義 (配布資料がある場合は資料) の内容を理解し、自分なりにまとめておく

・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする

・講義で学んだ内容を日常生活の中で実践、継続する習慣をつけるよう努める

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・確認テスト (50%)、小レポート (20%)、受講態度 (30%) に基づいて総合評価する

・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項 (Other Information)〕

・基本的に対面で実施する

・英語英文学科はCクラスを履修すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・テキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

・エアラインの客室乗務員としてフロントラインで顧客サービスを実践した経歴を持つ

・客室乗務員のインストラクターとして新入生やファーストクラスの訓練を担当した経験をもとにホスピタリティについて分かり易く解説する

ボランティア概論

GES1500N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP5: 共生・協働する力

60

芝原 浩美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ボランティア活動」は「阪神・淡路大震災 (1995年1月)」をきっかけに注目された。

その後も「東日本大震災 (2011年3月)」や日本各地での水害等で、よく知られた存在となりつつある。本科目では「ボランティアとは何か」について基本的な内容を、具体的な事例を通して総合的に学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1、ボランティア活動の基礎について理解する。

2、ボランティア活動の意義や社会での役割を論じることができる。

3、「社会問題を把握する力」「主体的に考え行動する力」の土台を経験する。

4、受講生自身の「ボランティア観」が説明できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

授業計画、受講上のルール、大学での学び方

第 2 回 ボランティアとコミュニケーション

コミュニケーションスキルの体験

第 3 回 ボランティアとは何か 1

8つのキー概念

第 4 回 ボランティアとは何か 2

ボランティア活動が生まれるとき

第 5 回 寄付とボランティア 1

寄付とは何か、寄付の歴史

第 6 回 寄付とボランティア 2

寄付の種類、海外との違い

第 7 回 災害とボランティア 1

災害ボランティアの歴史、種類

第 8 回 災害とボランティア 2

災害ボランティアの展望と課題

第 9 回 中間まとめとふりかえり 1

第1回から第8回のまとめ

第 10 回 中間まとめとふりかえり 2

中間テストの実施

第 11 回 中間まとめとふりかえり 3

- 中間テストの解説・フィードバック
- 第12回 ボランティア活動をめぐる議論1
ボランティアの動機（大学のレポート解説）
- 第13回 ボランティア活動をめぐる議論2
ボランティアの効果（最終レポート課題説明）
- 第14回 ボランティアマネジメント
ボランティア受け入れ側の視点
- 第15回 まとめとふりかえり
全15回のまとめとふりかえり

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポート試験を実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義を中心に、グループワークやディスカッション、ビデオ教材等も取り入れる。
- ・毎回のコミュニケーションカード（出席カード）にはコメントを返す。
- ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・配付する資料や指定するインターネットサイト等を事前に読み、理解しておくこと。
- ・日頃から社会の様々な出来事・ニュースに関心を持つこと。
- ・自分なりの考えや意見を持つとうと積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（40%）、中間テスト（30%）、最終レポート（30%）に基づいて総合的に行う。
欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。出席回数が3分の2以上でも、中間テストまたは最終レポートのどちらか一方が欠けた場合は原則として単位を与えない。

〔留意事項（Other Information）〕

社会状況ならびに授業の進捗状況によって、授業内容について若干の変更をすることがある。変更する場合は事前に周知する。

ボランティアの活動経験は問わない。ボランティア活動に参加したことがない学生の受講も十分可能。

進行に必要なない私語・携帯電話の使用、飲食等は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

講義中に資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義中に資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

若者のボランティア活動推進やボランティアコーディネーション、NPOのボランティアマネジメント支援等の実務経験あり。

やさしいビジネス英会話 A

GBE2302A0E

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

2年次

1単位 後期

木曜3限

DP3：言語力

15

Eric Hail

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
The power to nurture yourself				
Knowledge and understanding				
Language skills				
Thinking and resolution				
The power of symbiosis and collaboration				
Creativity / communication ability				

〔授業計画〕

第1回 Orientation

第2回 Unit 7

第3回 Unit 7

第4回 Unit 8

- 第 5 回 Unit 8
- 第 6 回 Unit 9
- 第 7 回 Unit 9
- 第 8 回 Unit 10
- 第 9 回 Unit 10
- 第 10 回 Unit 11
- 第 11 回 Unit 11
- 第 12 回 Unit 12
- 第 13 回 Unit 12
- 第 14 回 Unit 12
- 第 15 回 English Workshop

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class Participation and Behavior 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

American Headway 1 - Third Edition, Liz and John Soars, Oxford University Press, 9780194725651

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》trained and experienced EFL professional

やさしいビジネス英会話 B

GBE2302B0E

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

木曜 3限

DP3: 言語力

15

Eric Hail

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
The power to nurture yourself				
Knowledge and understanding				
Language skills				
Thinking and resolution				
The power of symbiosis and collaboration				
Creativity / communication ability				

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

第 2 回 Unit 1

第 3 回 Unit 1

第 4 回 Unit 2

- 第 5 回 Unit 2
- 第 6 回 Unit 3
- 第 7 回 Unit 3
- 第 8 回 Unit 4
- 第 9 回 Unit 4
- 第 10 回 Unit 5
- 第 11 回 Unit 5
- 第 12 回 Unit 6
- 第 13 回 Unit 6
- 第 14 回 Unit 6
- 第 15 回 English Workshop

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class Participation and Behavior 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

American Headway 1 - Third Edition, Liz and John Soars, Oxford University Press, 9780194725651

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫trained and experienced EFL professional

海外インターンシップA 2017年度以降入学者

GCP3650A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

30

集中

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

(1)海外の職場で実際に英語を使って仕事をすることを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、積極性や責任感、キャリア意識を身に付ける。

(2)ニュージーランドの生活、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。

(3)ニュージーランド人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。主な業務内容と必要とされる英語力 (TOEIC) の目安は以下のとおりである。

(1)一般企業 <TOEIC 470~730以上>

(一般事務の補助業務、大学や専門学校等での学校事務等)

(2)観光関連企業 <TOEIC 730以上>

(旅行会社の補助業務、ガイドアシスタント、空港アシスト、観光局での事務アシスタント等)

(3)幼児教育機関 <英語力問わず>

(保育園や幼稚園で先生の補助業務、子供の出席管理、遊び相手、食事補助等)

(4)福祉施設 <TOEIC 550以上>

(高齢者福祉施設での介護補助、食事手伝い、ベッドメイキング、話し相手等、介護のアシスタント業務)

(5)ボランティア団体 <TOEIC 550以上>

(各種ボランティア団体での活動や事務アシスタント等)

(6)学校 (中高) 日本語教育 <英語力問わず>

(中・高校等で日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、ゲーム、会話補助等)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

(1)海外研修日程（予定）

夏期または春期のいずれかを選択する。

①夏期開講

2021年8月21日（土）～9月12日（日）23日間

②春期開講

2022年2月12日（土）～3月6日（日）23日間

(2)研修（インターンシップ）先

オークランド市内の企業、団体等

(3)研修計画

1日平均7時間×約3週間

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションや現地でのインターンシップ事後指導に必ず出席すること。

② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。

③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

(1) ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。

(2) 旅行書やインターネットでニュージーランドの事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化など）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にOKCより授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項（Other Information）〕

(1)参加費用を含む研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 受講申込時にTOEIC成績通知書を提出すること。

(3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計2回に必ず出席すること。

夏期の場合 1回目 2021年6月22日（火）16:35～18:30（予定）

2回目 2021年7月20日（火）16:35～18:30（予定）

春期の場合 1回目 2021年12月7日（火）16:35～18:30（予定）

2回目 2022年1月14日（金）16:35～18:30（予定）

(5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、OKC オークランド事務所の日本人担当者が現地での対応にあたる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

海外インターンシップB 2017年度以降入学者

GCP3650B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

30

集中

吉田 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

(1)海外の職場で実際に英語を使って仕事をすることを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、積極性や責任感、キャリア意識を身に付ける。

(2)オーストラリアの生活、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。

(3)オーストラリア人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。主な業務内容と必要とされる英語力（TOEIC）の目安は以下のとおりである。

(1)一般企業 <TOEIC 470～730以上>

（一般事務の補助業務、大学や専門学校等での学校事務等）

(2)観光関連企業 <TOEIC 730以上>

（ホテルや旅行会社の補助業務、ガイドアシスタント、空港アシスト、観光局での事務アシスタント等）

(3)幼児教育機関 <英語力問わず>

（保育園や幼稚園で先生の補助業務、子供の出席管理、遊び相手、食事補助等）

(4)福祉施設 <TOEIC 550以上>

(高齢者福祉施設での介護補助、食事手伝い、ベッドメイキング、話し相手等、介護のアシスタント業務)

(5) ボランティア団体 <TOEIC 550以上>

(各種ボランティア団体での活動や事務アシスタント等)

(6) 学校 (小中高) 日本語教育 <英語力問わず>

(小・中・高校等で日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、ゲーム、会話補助等)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

(1) 海外研修日程 (予定)

夏期または春期のいずれかを選択する。

① 夏期開講

2021年8月21日 (土) ~ 9月12日 (日) 23日間

② 春期開講

2022年2月12日 (土) ~ 3月6日 (日) 23日間

(2) 研修 (インターンシップ) 先

ブリズベン市内の企業、団体等

(3) 研修計画

1日平均7時間×約3週間

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションや現地でのインターンシップ事後指導に必ず出席すること。

② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。

③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1) ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。

(2) 旅行書やインターネットでオーストラリアの事前知識を得ること (地理、大まかな歴史、文化など)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にOKCより授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 参加費用を含む研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 受講申込時にTOEIC成績通知書を提出すること。

(3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計2回に必ず出席すること。

夏期の場合 1回目 2021年6月22日 (火) 16:35~18:30 (予定)

2回目 2021年7月20日 (火) 16:35~18:30 (予定)

春期の場合 1回目 2021年12月7日 (火) 16:35~18:30 (予定)

2回目 2022年1月14日 (金) 16:35~18:30 (予定)

(5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、OKC オークランド事務所の日本人担当者が現地での対応にあたる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

海外インターンシップC 2017年度以降入学者

GCP3650C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

30

集中

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

(1) アメリカのシリコンバレーにある米国企業・団体、日系企業等で実践的な就業体験を行うことにより、グローバルな視点と国際性、コミュニケーション能力、積極性や責任

感、キャリア意識を身につける。

(2)アメリカの生活、経済、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して多様な価値観や考え方を学ぶ。

(3)アメリカ人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。英語の語学力が高い場合は、アメリカ人指導員のもとで英語による実務研修を行う。英語の語学力が低い場合は、日系企業で日本人指導員のもとで実務研修を行う。主な業務内容と必要とされる英語力の目安は以下のとおりである。

(1)米国企業・団体 <TOEIC 730以上が望ましい>

(マーケティングリサーチ、企画プランニング、在庫管理、営業補佐等の実務を体験する。米国企業・団体の種類とは、次の通り。ソフトウェア・WEB開発、機械開発、貿易商社、通販会社、流通、出版・メディア、食品開発・販売、デザイン会社、美容関連、会計事務所、幼児教育施設、福祉事務所等)

(2)日系企業 <日常会話程度>

(企画プランニング、リサーチ等のサポート業務を体験する)

(3)旅行会社 <日常会話程度>

(カスタマーサポート、企画、マーケティング、WEBサポート)

(4)食品製造 <英語力問わず>

(食品分析、マーケティング)

(5)アパレル貿易 <英語力問わず>

(営業管理、WEB制作、在庫管理)

(6)教育関係 <日常会話程度>

(日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、会話補助等)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

(1)海外研修日程 (予定)

夏期または春期のいずれかを選択する。

① 夏期開講

2021年8月22日(日)～9月12日(日) 22日間

② 春期開講

2022年2月13日(日)～3月6日(日) 22日間

(2)研修(インターンシップ) 先

アメリカ・カリフォルニア州シリコンバレーに所在する企業等

(3)研修計画

1日平均7時間×約3週間

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションに必ず出席すること。また、現地で行われるビジネス講座、実習課題のプレゼンテーションに参加すること。

② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。

③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1)ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。

(2)旅行書やインターネットで渡航先地域の事前知識を得ること(地理、歴史、文化など)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にOKCより授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

(1)研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2)申込時に、TOEIC成績通知書の提出を求められることがある。また、受け入れ企業・団体の担当者によるスカイプでの面接を行う。面接の結果、不採用となる場合もある。

(3)研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(4)研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計2回に必ず出席すること。

夏期の場合 1回目 2021年6月22日(火) 16:35～18:30(予定)

2回目 2021年7月20日(火) 16:35～18:30(予定)

春期の場合 1回目 2021年12月7日(火) 16:35～18:30(予定)

2回目 2022年1月14日(金) 16:35～18:30(予定)

(5)本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、OKCのカリフォルニア在住日本人アドバイザーが現地での対応にあたる。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]
 ≪実践的科目≫

海外研修（語学）Ⅰ 2017年度以降入学者

GBF1354N0J
 大学
 共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）
 1年次 2年次 3年次 4年次
 2単位 集中
 その他
 DP3：言語力
 30
 集中
 石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

- (1)韓国語（初級～中級）の会話を中心とした集中語学研修を通して、基本的な韓国語会話やコミュニケーションができる語学力を磨く。特に韓国語を聴く力、話す力を伸ばすことに重点をおく。
- (2)韓国の文化、韓国の生活様式、社会事情等への理解を深める。
- (3)海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野、自立した生活態度を身に付ける。
- (4)韓国の大学におけるキャンパスライフを通して、韓国人学生との交流を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)韓国語授業
 1日4時間の韓国語授業を受講し短期間で集中的に聴く、話す、読む、書く能力を総合的に磨き、日常生活に必要なとされる実用的な会話を習得する。
- (2)韓国文化研修
 韓国文化を学ぶための体験授業があり、韓国の工芸、料理、映画等をはじめ、韓国の伝統芸能に触れるフィールドワークが実施される。
- (3)韓国人学生との会話練習
 韓国カトリック大学の学生がチューターとなり韓国語の発音や会話訓練を行う。また、クラブ活動や文化活動を通して韓国語を実際に使う機会を設ける。
- (4)実地見学
 週1回はキャンパスを離れて実地見学を行う。朝鮮王朝の宮殿である景福宮やテレビ局等を訪ね、韓国の歴史や文化を実地に見学する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

基本的な韓国語会話やコミュニケーションができる語学力	基本的な韓国語会話やコミュニケーションができる語学力がない。	基本的な韓国語会話やコミュニケーションができる語学力がついている。	基本的な韓国語会話やコミュニケーションができる語学力があり、応用的な語学力もある程度ついている。	基本的な韓国語会話やコミュニケーションができる語学力があり、応用的な語学力もついている。
韓国の文化、韓国の生活様式、社会事情等への理解	韓国の文化、韓国の生活様式、社会事情等を理解できていない。	韓国の文化、韓国の生活様式、社会事情等を理解できている。	韓国の文化、韓国の生活様式、社会事情等をより深く理解できている。	韓国の文化、韓国の生活様式、社会事情等をより深く理解できおり、それを自らの姿勢や行動につなげることができる。
異文化を理解する積極性と国際的な視野、自立した生活態度	異文化を理解する積極性と国際的な視野、自立した生活態度が身に付いていない。	異文化を理解する積極性と国際的な視野、自立した生活態度が身に付いている。	異文化を理解する積極性と国際的な視野、自立した生活態度がしっかり身に付いている。	異文化を理解する積極性と国際的な視野、自立した生活態度が身に付いており、それを実際の行動につなげることができる。
韓国人学生との交流	韓国人学生との交流がまったく見られない。	韓国人学生との交流が見られる。	韓国人学生との活発な交流が見られる。	韓国人学生との活発な交流が見られ、それが韓国人や韓国の社会・文化に対する深い理解につながっている。

〔授業計画〕

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)海外研修日程
 未定（15日間の予定）
- (2)研修先大学 韓国カトリック大学（私立）
- (3)研修スケジュール（予定）下表のとおり。
- (4)授業計画

韓国カトリック大学にて2週間の研修を合計60時間受講する。

- ①韓国語：計32時間
- ②韓国文化見学・実習:計17時間
- ③文化交流：計11時間

(5)学習方法

①現地到着後にプレースメントテストを行い、各自の韓国語レベルに応じてクラス編成が行われる。

②毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、学習に対する努力度や韓国語による積極的な発言が重視される。

③韓国人学生や他大学からの学生との交流活動には積極的に参加し、韓国語で会話する。

④時間を厳守し、遅刻、欠席をしないようにする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1)韓国語に少しでも触れておくこと。

(2)旅行書やインターネット等で韓国について事前知識を得ること(地理、大まかな歴史、文化等)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、授業態度、課題、発表、テスト等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時に韓国カトリック大学より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

(1)研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに募集説明会(日時未定)において知らせる。

(2)韓国カトリック大学が実施するプログラムに参加するため、初級程度の韓国語の知識が必要となる。また、欠席や遅刻過多の場合は、プログラム修了が認められず、単位が認定されない場合がある。

(3)研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、参加者の前期定期試験の終了日程、現地受入機関や交通機関などの都合により変更になることがある。

(4)研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション(日時未定)に必ず出席すること。なお、オリエンテーションの日程は決定後も変更となる可能性があるので注意すること。

(5)本研修は、個別参加の形態をとるため、1名から参加可能であるが、引率者は同行しない。

(6)本研修は本学の定期試験と重なる可能性があるため、各自が定期試験を終えてから出発するものとする。本研修の日程が本学の定期試験(前期)と重なる場合は、所定の手続きにより教務課に申請すれば追試験が認められる。その場合は、定期試験日程がわかり次第、教務課にて追試験の手続きを行うこと。レポート提出については、提出期限が海外研修と重なる場合でも、海外研修出発以前に提出しなければならない。また、補講と重なる場合も教務課で手続きを行うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

海外研修(語学) II a 2017年度以降入学者

GBE1355A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目(実践的科目)

1年次 2年次 3年次

2単位 集中

その他

DP3: 言語力

30

集中

東郷 多津 York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

(1)スピーキングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得し、短期間で英会話能力を向上させる。

(2)オーストラリアの生活、文化、自然、歴史、社会事情等への理解を深め、オーストラリアの多文化社会を知る。

(3)海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。

(4)オーストラリア人との交流やホームステイを通して英語による日常生活の実際を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Communication Skills + α

シドニー大学のCentre for English Teachingが実施する一般英語コースで英語力向上のための授業を受講する。スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの4技能とともに、単語、文法等を含め総合的に英語を学ぶ。オーストラリアをはじめ英語圏での生活に必要な英語力だけでなく、仕事で必要となる英語でのコミュニケーション力を身に付ける。また、場面や状況に応じて必要とされる語彙や表現について学ぶ。

(2) Student Talks

オーストラリアの文化や歴史、自然など授業で学んだ範囲から、各個人にテーマが与えられる。そのテーマに沿って、研究し、まとめたものを英語で発表する。発表後、英語の発音の矯正、文法、慣用表現について先生よりフィードバックがあり、自身の英語を改善することにより、英語力をさらに高める。

(3) 選択授業

リスニングとスピーキングに特化したクラスでは、テレビ番組や映画を英語で理解し、英語でディスカッションを行う。また、授業で学んだ内容等をさらに発展させ、理解を深める。また、日本人にとって苦手な発音について訓練し、より自然な英語の発音を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

積極性・主体性	指示があっても、その通り行動しない、また、その理由も説明できない	指示があれば、それに従って行動できる	指示があれば、それに従って行動できる。指示が理解できない、または、納得できない場合は質問できる	特に指示がなくても、状況から判断し、自分から行動することができる
異文化理解	現地の生活、文化、自然、歴史、社会事情について関心を持たない	留学地の生活、文化、自然、歴史、社会事情に関心を持ち、話を聞いたり、資料を読んだりすることができる	留学地の生活、文化、自然、歴史、社会事情に関心を持ち、実際に調べたうえで、それをまとめることができる	留学地の生活、文化、自然、歴史、社会事情全般について、深く理解し、他に説明できる
言語力	リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、やりとりのどの領域においても向上が見られない	リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、やりとりのいずれかの領域に向上が見られる	リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、やりとりの3つ以上の領域に向上が見られる	リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、やりとりの全領域に向上が見られる

〔授業計画〕

(1) 海外研修日程（予定）

調整中：(2019年度日程例) 2020年2月15日（土）～3月8日（日）23日間

(2) シドニー大学（オーストラリア）

(3) 授業計画

シドニー大学にて3週間の授業を受講する。

英語研修：週平均20時間×3週間＝計60時間

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

① 研修初日にプレースメントテストがあり、参加者の英語のレベルに応じたクラスに配属される。

② 毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率のもとより、学習に対する努力度やグループディスカッション等に対する前向きな取り組み、英語による積極的な発言力を重視する。

③ 特に研修先大学での研修中は日本語を一切話さないようにする。

④ 研修中は全てのプログラムに出席する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

(1) 英語の語彙数を増やしておくこと。

(2) 旅行書やインターネット等でオーストラリア（シドニー）について事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化等）。

(3) 日本の文化を英語で伝えることができるように準備しておくこと。

(4) 研修に行く前に、イメージンスペースや会話の授業など学内で英語を話す機会を設けること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度、授業態度、課題、発表等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にシドニー大学より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項（Other Information）〕

(1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーションに必ず出席すること。

(3) 最少催行人員数に達した場合は、往路と帰路に本学教職員またはJTB京都支店から添乗員が同行する。現地滞在中は、シドニー大学の担当者が引率者に代わって緊急時の対応にあたる。

(4) 受講者が最少催行人数（10名）に達しない場合、1名からの個人参加も可能であるが、この場合は引率が同行しない。

(5) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

海外研修（語学）II b 2017年度以降入学者

GBE1356A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP3：言語力

30

集中

東郷 多津 York Weatherford

〔科目の教育目標（Course Description）〕

(1) 英会話を中心としたコミュニケーションスキルと総合的な英語運用能力を向上させる。特に英語を聴く力、話す力を伸ばすことに重点をおく。

(2) イギリスの生活、文化、歴史、社会事情等の理解を深める。

(3) 海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身につける。

(4) イギリスの大学におけるキャンパスライフを通して、英国人学生や他国からの留学生との交流を深める。

(5) イギリス人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Core Language Lessons

カンタベリークライストチャーチ大学が実施する一般英語コースで英語力向上のための授業を受講する。授業初日に行われる英語プレースメントテストによりレベル別クラスに分けられ、授業が行われる。

テキストを使用し、正しい英文法を身につける。またその英文法を日常英会話の中で運用できるようにスピーキングやリスニングの時間も組み込まれている。毎日の授業で宿題が出るので必ず提出することが求められる。

(2) Presentation

イギリスの文化、演説、ニュース等のトピックを通して、英語で自信を持って話すことを目指す。各自でテーマを設定して研究し、研修の最後に口頭発表を行う。

(3) Language Skills

各自の興味や関心に基づいて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの中から学びたいものを選んで学ぶことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
積極性・主体性	指示があっても、その通り行動しない、また、その理由も説明できない	指示があれば、それに従って行動できる	指示があれば、それに従って行動できる。指示が理解できない、または、納得できない場合は質問できる	特に指示がなくても、状況から判断し、自分から行動することができる
異文化理解	現地の生活、文化、自然、歴史、社会事情について関心を持たない	留学地の生活、文化、自然、歴史、社会事情に関心を持ち、話を聞いたり、資料を読んだりすることができる	留学地の生活、文化、自然、歴史、社会事情に関心を持ち、実際に調べたうえで、それをまとめることができる	留学地の生活、文化、自然、歴史、社会事情全般について、深く理解し、他に説明できる
言語力	リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、やりとりのどの領域においても向上が見られない	リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、やりとりのいずれかの領域に向上が見られる	リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、やりとりの3つ以上の領域に向上が見られる	リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、やりとりの全領域に向上が見られる

〔授業計画〕

(1) 海外研修日程 (予定)

調整中：(2019年度予定例) 2019年8月18日 (日)～9月8日 (日) 22日間

(2) 研修先大学 カンタベリークライストチャーチ大学 (イギリス)

(3) 授業計画

カンタベリークライストチャーチ大学にて3週間の授業を受講する。

英語研修：週平均約21時間×3週間＝計63時間

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

① 研修初日にプレースメントテストがあり、参加者の英語のレベルに応じたクラスに配属される。

② 毎日の授業への積極的な受講姿勢、出席率はもとより、学習に対する努力度やグループディスカッション等に対する前向きな取り組み、英語による積極的な発言力を重視する。

③ 特に研修先大学での研修中は日本語を一切話さないようにする。

④ 研修中は全てのプログラムに出席する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1) 英語の語彙数を増やしておくこと。

(2) 旅行書やインターネット等でイギリスについて事前知識を得ること (地理、大まかな歴史、文化等)。

(3) 日本の文化を英語で伝えることができるように準備しておくこと。

(4) 研修に行く前に、イマージョンスペースや会話の授業など学内で英語を話す機会を設けること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、授業態度、課題、発表等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時にカンタベリークライストチャーチ大学より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに4月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーションに必ず出席すること。

(3) 最少催行人員数に達した場合は、往路と帰路に本学教職員またはJTB京都支店から添乗員が同行する。現地滞在中は、カンタベリークライストチャーチ大学の担当者が引率者に代わって緊急時の対応にあたる。

(4) 受講者が最少催行人数 (10名) に達しない場合、1名からの個人参加も可能であるが、この場合は引率が同行しない。

(5) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、研修スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(6) 本研修は本学の定期試験と重なる可能性があるため、

各自が定期試験を終えてから出発するものとする。本研修の日程が本学の定期試験(前期)と重なる場合は、所定の手続きにより教務課に申請すれば追試験が認められる。その場合は、定期試験日程がわかり次第、教務課にて追試験の手続きを行うこと。レポート提出については、提出期限が海外研修と重なる場合でも、海外研修出発以前に提出しなければならない。また、補講と重なる場合も教務課で手続きを行うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

身近な医学

GEN1201N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次

2単位 前期集中

その他

DP2: 知識・理解力

60

萩原 暢子 安永 龍子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

健康に関する情報を理解する上で、あるいは、医療・保健分野で活動する上で基礎となる医療用語および代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解していく。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 医療における基礎的な用語を使うことができる
2. 代表的な疾患の概念を説明できる
3. 代表的な疾患の診断・検査法を説明できる
4. 代表的な疾患の治療方法を説明できる
5. 代表的な疾患の予防法について説明できる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生活習慣病の代表的な疾患(糖尿病、脳卒中、心臓病、高血圧など)について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
2. 代表的な悪性腫瘍(胃がん、大腸がん、肺がん、白血病)について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
3. 代表的な消化器系疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
4. 代表的な呼吸器疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
5. 代表的な内分泌疾患、腎臓病、膠原病、血液疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
6. 代表的な精神疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する
7. 代表的な婦人科疾患、小児疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する

8. その他日常の診療で遭遇することの多い疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を理解する

9. 各回の確認試験により、各自でフィードバックを行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	医学を学ぶという意識がない	医学的な知識を学ぶという自覚を持っている	医学的な知識を学んで自分の生活に活かすことができる	医学的な知識を学ぶことで、より高度な内容に興味を持って、知識を深めていく
知識・理解力	内容が全く理解できない	医学的な内容であることは理解できる	医学的な内容を理解できる	医学的により詳しい内容まで理解できる
言語力	医学用語が全く理解できない	医学用語であることは理解できる	医学用語の内容を理解することができる	医学用語の内容を理解して、適切に使うことができる
思考・解決力	医学的な問題点を全く理解できない	医学的に問題があるということは理解できる	医学的な問題について、原因を考えようとする力がある	医学的な問題について原因を考えて、対応策を提案することができる
共生・協働する力	先行研究や他人の意見を参考にしない	先行研究に基づいて医学的な理解を深めようとする	先行研究から深めた医学的知識を周囲の人たちと共有する	レベル3に加えて新しい知見を他者に発表できる
創造・発信力	自分勝手な医学的知識の発信を行う	自ら周囲の状況を踏まえて、医学的知識の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、医学的知識の扱い方を考える	レベル3に加えて情報モラルも加味しながら医学的知識の扱い方を考える

〔授業計画〕

第 1 回 糖尿病について

糖尿病について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する(萩原)

第 2 回 血液疾患について

血液疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する(萩原)

第 3 回 高血圧について

高血圧について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する(河瀬)

第 4 回 脳卒中について

- 脳卒中について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 5 回 呼吸器の炎症性疾患、喘息について
呼吸器の炎症性疾患、喘息について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 6 回 腎臓疾患、膠原病について
腎臓疾患、膠原病について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 7 回 心臓疾患について
心臓疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 8 回 消化器がん
消化器がん（胃がん、大腸がんなど）について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 9 回 甲状腺疾患、その他の主な内分泌疾患について
甲状腺疾患、その他の主な内分泌疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 10 回 婦人科疾患について
婦人科疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 11 回 肺がんについて
肺がんについて、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 12 回 肝臓・胆のう・膵臓の炎症性疾患について
肝臓・胆のう・膵臓の炎症性疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 13 回 小児疾患について
小児疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（萩原）
- 第 14 回 精神疾患について
精神疾患について、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）
- 第 15 回 頭痛、めまい、腰痛など
頭痛、めまい、腰痛など、概念、診断・検査、治療、予防法を解説する（河瀬）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で、プリント、配付資料およびパワーポイント・視聴覚教材を使用する。

各回小テストについて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。最終回については、テスト終了後に講評する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

該当箇所を参考図書で予習する。講義内容について、復習をしっかりと行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（20％）と毎回行う確認試験（80％）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、飲食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

・前期、月1～2回程度の土曜日集中講義とする。

・授業の内容は、担当者により多少前後することがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

人体のしくみと病気がわかる事典/奈良信雄（監修）/西東社/2013/978-4-7916-1948-1

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 医師として病院等での診療経験あり。

朝鮮語ⅠA 2016年度以前入学者

101244A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜1限 水曜2限

—

15

週2コマ

金 美仙

〔科目の教育目標（Course Description）〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけます。

2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。

3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずにしっかりと練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと文字の紹介
 ガイダンス：授業の行い方及び評価について説明する。
 ハングルの成り立ちと歴史的背景を知る。
 ハングル文字の仕組みを理解する。
 挨拶のことばを覚える。
- 第 2 回 文字と発音：母音字母（1）
 母音字母の説明と練習
 字母（1）で構成されている語彙の練習
 発音のトレーニング
 挨拶のことば
- 第 3 回 文字と発音：母音字母（2）と子音字母（1）
 母音字母（1）と語彙の復習
 母音字母（2）の説明と練習
 母音字母（2）によって構成される語彙の練習
 子音字母（1）の説明
 文化の紹介：韓国の大学について
- 第 4 回 文字と発音：子音字母（1）と（2）
 子音字母（1）によって構成される語彙の練習
 子音字母（2）の説明
 挨拶のことば及び決まり文句
- 第 5 回 文字と発音：子音字母（2）と有声音化
 子音字母（1）の復習
 子音字母（2）によって構成される語彙の練習
 発音の規則：有声音化
- 第 6 回 文字と発音：仮名のハングル表記（1）
 総復習：語彙の練習と有声音化
 日本の地名をハングルで表記する
 文化の紹介：日本の「五月病」と韓国の「月曜日」
- 第 7 回 文字と発音：子音字母（3）と（4）
 激音と濃音
 激音と濃音によって構成される語彙の練習
 挨拶のことば
- 第 8 回 文字と発音：母音字母（2）と（3）
 子音字母（3）と（4）の復習
 複合母音の説明と練習
 複合母音によって構成される語彙の練習
 挨拶のことば及び決まり文句
- 第 9 回 文字と発音：パッチム（1）と（2）
 複合母音の復習
 パッチム（1）の説明と練習

- パッチム（1）によって構成される語彙の練習
 パッチム（2）の説明
 文化の紹介：五月の記念日
- 第 10 回 文字と発音：パッチム（2）と仮名のハングル表記（2）
 パッチム（1）の復習
 パッチム（2）によって構成される語彙の練習
 日本語の人名及び地名のハングル表記
- 第 11 回 文字と発音：連音化
 総復習と発音のトレーニング
 発音の規則：連音化の説明と練習
- 第 12 回 第1課：自己紹介（語彙と文法）
 語彙の練習
 文法：助詞「～は」と「～です」の表現
 練習：名前を聞き合う
 発音のトレーニング
- 第 13 回 第1課：自己紹介（文法と本文）
 「～は」と「～です」の復習
 文法：「～が」
 練習：「～は/～が～です（？）」パターンの文を練習する
 本文を読む
- 第 14 回 第1課：自己紹介（本文とアクティビティ）
 本文スキットの練習
 発音のトレーニング
 アクティビティ：名前、学科、家などを自由に聞き合う
- 第 15 回 第2課：語彙と文法と発音の変化
 語彙を覚える
 発音の変化：激音化
 文法：助詞「～と」の説明と練習
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
 知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。
 持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
 第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
 10
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
 日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する
- 〔留意事項（Other Information）〕
 1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。

2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

動画ファイル及び添付ファイルで提供

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林（語学学校）の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で 사용되는 内部教材作成

朝鮮語 I B 2016年度以前入学者

101244B0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 2限 水曜 1限

15

週2コマ

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。

2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。

3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずしっかり練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと文字の紹介
 ガイダンス：授業の行い方及び評価について説明する。
 ハングルの成り立ちと歴史的背景を知る。
 ハングル文字の仕組みを理解する。
 挨拶のことばを覚える。
- 第 2 回 文字と発音：母音字母（1）
 母音字母の説明と練習
 字母（1）で構成されている語彙の練習
 発音のトレーニング
 挨拶のことば
- 第 3 回 文字と発音：母音字母（2）と子音字母（1）
 母音字母（1）と語彙の復習
 母音字母（2）の説明と練習
 母音字母（2）によって構成される語彙の練習
 子音字母（1）の説明
 文化の紹介：韓国の大学について
- 第 4 回 文字と発音：子音字母（1）と（2）
 子音字母（1）によって構成される語彙の練習
 子音字母（2）の説明
 挨拶のことば及び決まり文句
- 第 5 回 文字と発音：子音字母（2）と有声音化
 子音字母（1）の復習
 子音字母（2）によって構成される語彙の練習
 発音の規則：有声音化
- 第 6 回 文字と発音：仮名のハングル表記（1）
 総復習：語彙の練習と有声音化
 日本の地名をハングルで表記する
 文化の紹介：日本の「五月病」と韓国の「月曜日」
- 第 7 回 文字と発音：子音字母（3）と（4）
 激音と濃音
 激音と濃音によって構成される語彙の練習
 挨拶のことば
- 第 8 回 文字と発音：母音字母（2）と（3）
 子音字母（3）と（4）の復習
 複合母音の説明と練習
 複合母音によって構成される語彙の練習
 挨拶のことば及び決まり文句
- 第 9 回 文字と発音：パッチム（1）と（2）
 複合母音の復習
 パッチム（1）の説明と練習
 パッチム（1）によって構成される語彙の練習

パッチム（２）の説明
文化の紹介：五月の記念日

第 10 回 文字と発音：パッチム（２）と仮名のハングル表記（２）
パッチム（１）の復習
パッチム（２）によって構成される語彙の練習
日本語の人名及び地名のハングル表記

第 11 回 文字と発音：連音化
総復習と発音のトレーニング
発音の規則：連音化の説明と練習

第 12 回 第 1 課：自己紹介（語彙と文法）
語彙の練習
文法：助詞「～は」と「～です」の表現
練習：名前を聞き合う
発音のトレーニング

第 13 回 第 1 課：自己紹介（文法と本文）
「～は」と「～です」の復習
文法：「～が」
練習：「～は/～が～です（?）」パターンの文を練習する
本文を読む

第 14 回 第 1 課：自己紹介（本文とアクティビティ）
本文スキットの練習
発音のトレーニング
アクティビティ：名前、学科、家などを自由に聞き合う

第 15 回 第 2 課：語彙と文法と発音の変化
語彙を覚える
発音の変化：激音化
文法：助詞「～と」の説明と練習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。
持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する

〔留意事項（Other Information）〕
1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。

2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
動画ファイル及び添付ファイルで提供
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
大学書林（語学学校）の韓国語講師
東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。
ハングル能力検定試験の採点
埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価
企業での講演：韓国語と韓国文化
語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語 I C 2016年度以前入学者

101244C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

月曜 3限 水曜 3限

—

15

週2コマ

金 美仙

〔科目の教育目標（Course Description）〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずしっかり練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと文字の紹介
 ガイダンス：授業の行い方及び評価について説明する。
 ハングルの成り立ちと歴史的背景を知る。
 ハングル文字の仕組みを理解する。
 挨拶のことは覚える。
- 第 2 回 文字と発音：母音字母（1）
 母音字母の説明と練習
 字母（1）で構成されている語彙の練習
 発音のトレーニング
 挨拶のことは
- 第 3 回 文字と発音：母音字母（2）と子音字母（1）
 母音字母（1）と語彙の復習
 母音字母（2）の説明と練習
 母音字母（2）によって構成される語彙の練習
 子音字母（1）の説明
 文化の紹介：韓国の大学について
- 第 4 回 文字と発音：子音字母（1）と（2）
 子音字母（1）によって構成される語彙の練習
 子音字母（2）の説明
 挨拶のことは及び決まり文句
- 第 5 回 文字と発音：子音字母（2）と有声音化
 子音字母（1）の復習
 子音字母（2）によって構成される語彙の練習
 発音の規則：有声音化
- 第 6 回 文字と発音：仮名のハングル表記（1）
 総復習：語彙の練習と有声音化
 日本の地名をハングルで表記する
 文化の紹介：日本の「五月病」と韓国の「月曜日」
- 第 7 回 文字と発音：子音字母（3）と（4）
 激音と濃音
 激音と濃音によって構成される語彙の練習
 挨拶のことは
- 第 8 回 文字と発音：母音字母（2）と（3）
 子音字母（3）と（4）の復習
 複合母音の説明と練習
 複合母音によって構成される語彙の練習
 挨拶のことは及び決まり文句
- 第 9 回 文字と発音：パッチム（1）と（2）
 複合母音の復習
 パッチム（1）の説明と練習
 パッチム（1）によって構成される語彙の練習

- パッチム（2）の説明
 文化の紹介：五月の記念日
- 第 10 回 文字と発音：パッチム（2）と仮名のハングル表記（2）
 パッチム（1）の復習
 パッチム（2）によって構成される語彙の練習
 日本語の人名及び地名のハングル表記
- 第 11 回 文字と発音：連音化
 総復習と発音のトレーニング
 発音の規則：連音化の説明と練習
- 第 12 回 第 1 課：自己紹介（語彙と文法）
 語彙の練習
 文法：助詞「～は」と「～です」の表現
 練習：名前を聞き合う
 発音のトレーニング
- 第 13 回 第 1 課：自己紹介（文法と本文）
 「～は」と「～です」の復習
 文法：「～が」
 練習：「～は/～が～です（?）」パターンの文を練習する
 本文を読む
- 第 14 回 第 1 課：自己紹介（本文とアクティビティ）
 本文スキットの練習
 発音のトレーニング
 アクティビティ：名前、学科、家などを自由に聞き合う
- 第 15 回 第 2 課：語彙と文法と発音の変化
 語彙を覚える
 発音の変化：激音化
 文法：助詞「～と」の説明と練習
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
 知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。
 持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
 第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。
 各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
 10
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
 日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する
- 〔留意事項（Other Information）〕
 1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。

2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

動画ファイル及び添付ファイルで提供

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林（語学学校）の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語ⅡA 2016年度以前入学者

101245A0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜1限 水曜2限

—

15

週2コマ 「朝鮮語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標（Course Description）〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけます。

2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。

3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずにしっかり練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 第2課：文法と応用練習

語彙と激音化の復習 文法：助詞「～に」の説明と練習 応用練習：これまで学んだ知識を活用して会話練習を行う 文化の紹介：「両親の日」と「師匠の日」

第2回 第2課：発音の変化と文法

語彙と激音化と「～に」の復習 発音の変化：濃音化 文法：助詞「～も」の説明と練習

第3回 第2課：本文と総復習

本文スキットを読む 発音のトレーニング これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる アクテビティの準備

第4回 第2課と第3課：アクテビティと第3課の語彙

本文の復習 アクテビティの準備：住まいと兄弟に関する会話 表現を練習する 第3課：語彙の説明と発音

第5回 第3課：語彙と文法

語彙と数字を覚える 文法：助詞「～を」と「～には」の説明と練習 文化紹介：韓国の食卓のマナー

第6回 第3課：語彙の拡張と文法と本文

語彙を覚える：曜日名及び時間名詞 文法：「～します」（1） これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる 本文スキットの練習

第7回 第3課：アクテビティ

本文スキットの復習 アクテビティ：日常生活（授業の有り無しや朝食 など）について自由に会話する

第8回 第4課：語彙と文法

語彙の説明と練習 文法：助詞「～で」（手段）の説明と練習 移動方法に関する表現を練習する

第9回 第4課：文法と時間の表現

語彙と「～で」の復習 文法：「～でしょ？/ですよ？」

時間の表現：漢数詞と固有数詞による時間表現

第10回 第4課：文法と応用練習

時間の表現の復習

文法：「～します」（2）

応用練習：移動の時間に関する表現の練習

第11回 第4課：本文とアクテビティの準備

「～します」の復習 本文スキットの練習 発音のトレーニング アクテビティの準備：通勤時間及び手段の表現を覚える

第12回 第4課と第5課：アクテビティと語彙

アクティビティ：通勤時間及び手段について自由に話し合う 第5課：語彙の説明と練習 文化の紹介：夏バテ防止の料理

第13回 第5課：文法と例文
語彙の復習 文法：「～する予定です」の表現 例文：週末の約束や夏休みの予定を表す表現を作文し練習する

第14回 第5課：文法と本文
「～する予定です」の復習 文法：「～したい」「～ので」 夏休みにやりたいことと人に勧める表現を練習する

第15回 第5課：アクティビティ
夏休みの計画について自由に話し合う 総復習
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。
持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する
〔留意事項 (Other Information)〕
1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。
2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
動画ファイル及び添付ファイルで提供
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
大学書林（語学学校）の韓国語講師
東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。
ハングル能力検定試験の採点
埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価
企業での講演：韓国語と韓国文化
語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語 II B 2016年度以前入学者

101245BOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「朝鮮語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけます。
2. 知識だけが積みまれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずしっかりと練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 第2課：文法と応用練習

語彙と激音化の復習 文法：助詞「～に」の説明と練習 応用練習：これまで学んだ知識を活用して会話練習を行う 文化の紹介：「両親の日」と「師匠の日」

第2回 第2課：発音の変化と文法

語彙と激音化と「～に」の復習 発音の変化：濃音化 文法：助詞「～も」の説明と練習

- 第 3 回 第 2 課：本文と総復習
本文スキットを読む 発音のトレーニング これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる アクティビティの準備
- 第 4 回 第 2 課と第 3 課：アクティビティと第 3 課の語彙
本文の復習 アクティビティの準備：住まいと兄弟に関する会話 表現を練習する 第 3 課：語彙の説明と発音
- 第 5 回 第 3 課：語彙と文法
語彙と数字を覚える 文法：助詞「～を」と「～には」の説明と練習 文化紹介：韓国の食卓のマナー
- 第 6 回 第 3 課：語彙の拡張と文法と本文
語彙を覚える：曜日名及び時間名詞 文法：「～します」(1) これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる 本文スキットの練習
- 第 7 回 第 3 課：アクティビティ
本文スキットの復習 アクティビティ：日常生活(授業の有り無しや朝食 など)について自由に会話する
- 第 8 回 第 4 課：語彙と文法
語彙の説明と練習 文法：助詞「～で」(手段)の説明と練習 移動方法に関する表現を練習する
- 第 9 回 第 4 課：文法と時間の表現
語彙と「～で」の復習 文法：「～でしょ?/ですよね?」
時間の表現：漢数詞と固有数詞による時間表現
- 第 10 回 第 4 課：文法と応用練習
時間の表現の復習
文法：「～します」(2)
応用練習：移動の時間に関する表現の練習
- 第 11 回 第 4 課：本文とアクティビティの準備
「～します」の復習 本文スキットの練習 発音のトレーニング アクティビティの準備：通勤時間及び手段の表現を覚える
- 第 12 回 第 4 課と第 5 課：アクティビティと語彙
アクティビティ：通勤時間及び手段について自由に話し合う 第 5 課：語彙の説明と練習 文化の紹介：夏バテ防止の料理
- 第 13 回 第 5 課：文法と例文
語彙の復習 文法：「～する予定です」の表現 例文：週末の約束や夏休みの予定を表す表現を作文し練習する
- 第 14 回 第 5 課：文法と本文
「～する予定です」の復習 文法：「～したい」「～ので」 夏休みにやりたいことと人に勧める表現を練習する
- 第 15 回 第 5 課：アクティビティ
夏休みの計画について自由に話し合う 総復習
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。

持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。

2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

動画ファイル及び添付ファイルで提供

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

大学書林(語学学校)の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験(韓国語)の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演：韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語 II C 2016年度以前入学者

101245C0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜3限 水曜3限

ー

15

週2コマ 「朝鮮語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

【科目の教育目標 (Course Description)】

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけます。
2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。
3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずにしっかり練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

- 第 1 回 第 2 課：文法と応用練習
語彙と激音化の復習 文法：助詞「～に」の説明と練習 応用練習：これまで学んだ知識を活用して会話練習を行う 文化の紹介：「両親の日」と「師匠の日」
- 第 2 回 第 2 課：発音の変化と文法
語彙と激音化と「～に」の復習 発音の変化：濃音化 文法：助詞「～も」の説明と練習

- 第 3 回 第 2 課：本文と総復習
本文スキットを読む 発音のトレーニング これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる アクティビティの準備
- 第 4 回 第 2 課と第 3 課：アクティビティと第 3 課の語彙
本文の復習 アクティビティの準備：住まいと兄弟に関する会話 表現を練習する 第 3 課：語彙の説明と発音
- 第 5 回 第 3 課：語彙と文法
語彙と数字を覚える 文法：助詞「～を」と「～には」の説明と練習 文化紹介：韓国の食卓のマナー
- 第 6 回 第 3 課：語彙の拡張と文法と本文
語彙を覚える：曜日名及び時間名詞 文法：「～します」(1) これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる 本文スキットの練習
- 第 7 回 第 3 課：アクティビティ
本文スキットの復習 アクティビティ：日常生活 (授業の有り無しや朝食 など) について自由に会話する
- 第 8 回 第 4 課：語彙と文法
語彙の説明と練習 文法：助詞「～で」(手段) の説明と練習 移動方法に関する表現を練習する
- 第 9 回 第 4 課：文法と時間の表現
語彙と「～で」の復習 文法：「～でしょ? / ですよね?」
時間の表現：漢数詞と固有数詞による時間表現
- 第 10 回 第 4 課：文法と応用練習
時間の表現の復習
文法：「～します」(2)
応用練習：移動の時間に関する表現の練習
- 第 11 回 第 4 課：本文とアクティビティの準備
「～します」の復習 本文スキットの練習 発音のトレーニング アクティビティの準備：通勤時間及び手段の表現を覚える
- 第 12 回 第 4 課と第 5 課：アクティビティと語彙
アクティビティ：通勤時間及び手段について自由に話し合う 第 5 課：語彙の説明と練習 文化の紹介：夏バテ防止の料理
- 第 13 回 第 5 課：文法と例文
語彙の復習 文法：「～する予定です」の表現 例文：週末の約束や夏休みの予定を表す表現を作文し練習する
- 第 14 回 第 5 課：文法と本文
「～する予定です」の復習 文法：「～したい」「～ので」 夏休みにやりたいことと人に勧める表現を練習する
- 第 15 回 第 5 課：アクティビティ
夏休みの計画について自由に話し合う 総復習
- 【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポートします。

持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書いてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。
2. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体1か月前に周知します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

動画ファイル及び添付ファイルで提供

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

大学書林（語学学校）の韓国語講師
 東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
 大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。
 ハングル能力検定試験の採点
 埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価
 企業での講演：韓国語と韓国文化
 語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語Ⅲ 2016年度以前入学者

101246N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

月曜4限 水曜4限

—

15

週2コマ 「朝鮮語I・II」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 交流会や旅行した時に簡単な意思疎通ができます。
2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

語彙やその関連表現を覚えることになります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
運用力及び生成能力	文を生成するための言語知識を(語彙・文法)ほとんど理解していない。	教材を見ながら辛うじて言いたいことを表現できる。	間違いながらも習得した知識を使って言いたいことを表現できる。	習得した知識をフル活用して言いたいことを表現できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 復習及びガイダンス
 復習：文法、語彙、作文、発音の変化などを復習しながら、次の学習に備える
- 第 2 回 第6課：語彙と文法
 語彙を覚える
 文法：過去形の練習
 例文の練習：夏/春休みにやったこと
- 第 3 回 第6課：数字
 数字を覚える：漢数詞と固有数詞
 日にちの言い方
 誕生日を聞き合う
- 第 4 回 第6課：本文とアクティビティの準備
 本文スキットの練習
 アクティビティの準備：夏休みにやったことと感想の表現を練習
 発音のトレーニング：日にちの言い方
- 第 5 回 第6課と第7課：アクティビティと語彙
 アクティビティ：休み中や先週末の出来事などについて自由に話し合う。誕生日と記念日について話し合う。
 第7課の語彙を覚える
 文化の紹介：秋夕
- 第 6 回 第7課：文法と例文の練習 (1)

- 語彙の復習
文法：動詞の現在連体形
体言止めの連語を用いて短い文を作る
- 第 7 回 第 7 課：文法と例文の練習（2）
文法：形容詞の現在連体形
体言止めの連語を用いて物の性質を描写する短い文を作る
- 第 8 回 第 7 課：本文とアクティビティの準備
本文スキットの練習
夢、好きなことを表す表現を練習する
発音の変化：鼻音化
- 第 9 回 第 8 課：語彙と文法
語彙を覚える
文法：「～しましょうか・でしょうか」
例文の練習：誘う表現を作ってみる
- 第 10 回 第 8 課：文法とアクティビティの準備
文法：「～を好き」と「～することを好き」の表現
アクティビティの準備：やりたいこと、昔からやってきたことなどを表す表現を練習する
- 第 11 回 第 7 課と第 8 課のアクティビティ
アクティビティ：夢、好きなこと、やりたいこと、やってきたこと、やりたかったことなどについて自由に話し合う。
文化の紹介：キムジャン
- 第 12 回 第 9 課：語彙と発音の変化
語彙を覚える
発音の変化：流音化
料理名と好きな料理を言ってみる
- 第 13 回 第 9 課：文法と例文（1）
文法：「～しに行く」
例文：「～しに行く」の応用表現
発音のトレーニング
- 第 14 回 第 9 課：文法と例文（2）
語彙の復習
文法：「～しても・でも」と「～したことがある/ない」
例文の練習：食べたことのある/ない料理と感想の表現を作ってみる
- 第 15 回 第 9 課：本文とアクティビティの練習
本文スキットの練習
アクティビティの準備：好きな料理とその経験に関する表現を練習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

知識の定着をしっかりと確認したうえで、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。授業の形態は、動画配信のオンデマンド（6割程度）とライブまたは対面（4割程度）とのブレンド型である。知識の習得は動画配信、実践練習はライブまたは対面で行われる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

単語帳と文法(用言の活用形)のノートを用意し、繰り返し練習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する

〔留意事項（Other Information）〕

1. コリア語 I を受講していること、または同レベルの学習歴をもっていること。

2. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。

3. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体 1 か月前に周知します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

動画ファイル及び添付ファイルで提供

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『できる韓国語 初級 単語集：新装版』/新大久保学院・李志暎・朴雪熙/DEKIRU出版/2016/978-4872179989 『韓国語用言 活用と用言』/金美仙/三修社/2016/978-4384054590 『読みたい韓国語』/金美仙/朝日出版社/978-4-255-55675-8

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

朝鮮語Ⅳ 2016年度以前入学者

101247N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜 4限 水曜 4限

—

15

週2コマ 「朝鮮語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標（Course Description）〕

1. 交流会や旅行した時に簡単な意思疎通ができます。

2. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

語彙やその関連表現を覚えることとなります。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
運用力及び生成能力	文を生成するための言語知識を（語彙・文法）ほとんど	教材を見ながら辛うじて言いたいことを表現できる。	間違いながらも習得した知識を使って言いたいことを表現できる。	習得した知識をフル活用して言いたいことを表現できる。

	ど理解して いない。			
--	---------------	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 第 9 課：アクティビティ
韓国料理について話し合う：好きな料理を言ったり勧めたりする。食べたことのない料理について聞いてみる。お店の紹介し合う。
文化の紹介：産後調理院
- 第 2 回 第 10 課：語彙と文法
語彙を覚える（1）
文法：「～すれば・なら」
例文：目的地への道順の表現を練習
- 第 3 回 第 10 課：文法と例文（1）
語彙を覚える（2）
文法：「～しなければならない」
例文：目的地行くためにやるべきことを試みる
- 第 4 回 第 10 課：文法と例文（2）
語彙の復習
文法：「～して」（前提動作の表現）
例文：移動の方法の表現
- 第 5 回 第 10 課：本文とアクティビティの準備
語彙の復習と発音のトレーニング
本文スキットの練習
アクティビティの準備：地図を見ながら道順と行き方の表現を作ってみる
- 第 6 回 第 10 課：アクティビティ
アクティビティ：友達を自宅に招待し、道順を説明したり、説明の通りたどり着く
文化の紹介：韓国の季節
- 第 7 回 総復習と音読の練習
用言の活用形の体系的にまとめてみる
発音のトレーニング
優しい文章の音読の練習
- 第 8 回 第 11 課：語彙と文法
語彙を覚える
文法：尊敬形の原型づくり
尊敬形と非尊敬形の使い分け
- 第 9 回 第 11 課：尊敬形（1）
語彙の練習
尊敬形の活用（1）：尊敬形と非尊敬形の丁寧体
例文の練習：尊敬形と非尊敬形を用いて簡単な対話を行う
- 第 10 回 第 12 課：尊敬形（2）
発音のトレーニング
尊敬形の活用（2）：尊敬形の様々な活用形
例文の練習：非尊敬形の文を目上の人への表現に変える
- 第 11 回 第 12 課：本文
本文スキットの練習
文化の紹介：目上の人との食事及び飲酒のマナー
- 第 12 回 第 13 課：語彙と文法

語彙を覚える

文法：「～することができる」

例文の練習：あるお店でできることとできないことを試してみる

- 第 13 回 第 13 課：本文
語彙の復習と発音
本文の音読練習

- 第 14 回 第 13 課：行きつけのお店の紹介
作文の練習：行きつけのお店を紹介する
文化の紹介：韓国のお正月

- 第 15 回 発表と総復習
前回作文した「行きつけのお店」を口頭発表する
総復習をする

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

知識の定着をしっかりと確認したうえで、持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練習を行います。授業の形態は、動画配信のオンデマンド（6割程度）とライブまたは対面（4割程度）とのブレンド型である。知識の習得は動画配信、実践練習はライブまたは対面で行われる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

単語帳と文法(用言の活用形)のノートを用意し、繰り返し練習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テストを総合的に評価する

〔留意事項（Other Information）〕

1. コリア語 I を受講していること、または同レベルの学習歴をもっていること。

2. 動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。聞き流して理解しただけでは習得はできません。もちろん単位を取ることもできません。

3. 対面授業のスケジュールは、学習の進捗状況に応じて設定します。大体 1 か月前に周知します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

動画ファイル及び添付ファイルで提供

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『できる韓国語 初級 単語集：新装版』/新大久保学院・李志暎・朴雪熙/DEKIRU出版/2016/978-4872179989 『韓国語用言 活用と用言』/金美仙/三修社/2016/978-4384054590 『読みたい韓国語』/金美仙/朝日出版社/978-4-255-55675-8

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

朝鮮語Ⅴ 2016年度以前入学者

101248NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

火曜3限 木曜3限

ー

15

週2コマ 「朝鮮語Ⅳ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

総合的な能力において中級レベルに達する。旅行が可能な会話レベルを超えて、自分の嗜好、感情、事実の説明などができる実践力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

豊富な語彙力をつける。

TOPIK(韓国語能力試験)中級レベルの文法能力を備える。学習した言語知識をフルに活用したフリートーキングを行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと復習
授業の運営方法を説明する。
コリア語ⅠとⅡの内容を復習し、第1課の語彙を練習する。
- 第 2 回 第1課 料理の食べ方 (1)
語彙を覚える。
文法：現在連体形の復習、先行動作の「～して」短い例文の練習。
- 第 3 回 第1課 料理の食べ方 (2)
本文スキットの練習。
日韓の料理の食べ方について話し合う。
- 第 4 回 第2課 経験の表現 (1)

復習：第1課の内容を文章にまとめる。

第2課の語彙を覚える。

文法：過去連体形、「～したことがある/ない」

第 5 回 第2課 経験の表現 (2)

経験を言うための例文の練習。

本文スキットの練習。

実践練習：韓国旅行の体験を話し合う。

第 6 回 第1課と第2課のアクティビティ

旅行の体験、料理に関して自由に話し合う。

ある食べ物の自分固有の食べ方を紹介し勧める。

第 7 回 第3課 卒業後の予定 (1)

語彙を覚える。

文法：未来連体形、「～するつもりだ」の復習。

文法を習熟するための例文を練習する。

第 8 回 第3課 卒業後の予定 (2)

本文スキットの練習。

卒業後の予定や希望について話し合う。

第 9 回 第4課 人物の外見描写 (1)

語彙を覚える。

文法：形容詞連体形の復習、指定詞の連体形。

例文の練習。

第 10 回 第4課 人物の外見描写 (2)

本文スキットの練習。

人物の外見を描写し合い、説明通りに描いてみる。

作文の練習：第3課あるいは第4課の本文スキットの内容を文章にまとめる。

第 11 回 第3課と第4課のアクティビティ

将来の夢や目標とそのために行う計画について話し合う。

好みの人物のタイプについて話し合う。

第 12 回 第5課 自分の都合を説明する (1)

語彙を覚える。

文法：前置き及び前提などの表現「～だけど、～のに」

文法形式の形作りと例文の練習

第 13 回 第5課 自分の都合を説明する (2)

本文スキットの練習

会話の練習：予定や計画変更の事情を説明し助けを求める。

作文の練習：会話で説明した自分の事情を文章にまとめる。

第 14 回 第6課 食事しながら料理を説明する (1)

語彙を覚える。

文法：「～ので」の復習、不規則活用 (1)

理由と提案及び温度に関する例文の練習。

第 15 回 第6課 食事しながら料理を説明する (2)

本文スキットの練習。

料理の特徴を説明しながら助言や提案を話し合う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

用言の活用の体系をマスターするために、形の作り方及び文における使い方を丁寧にサポートしていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語のみならず連語単位の語彙を幅広く習得するための課題が出される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題、単語のテスト、アクティビティの参加度から総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

コリア語 I と II を受講しているか同レベルの学習歴をもつこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『できる韓国語初級Ⅱ』(新装版) / 新大久保学院・李志暎・金鎮姫/DEKIRU出版/2016/978-4-87217-886-9/1

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『できる韓国語 初級 単語集 : 新装版』 / 新大久保学院・李志暎・朴雪熙/DEKIRU出版/2016/978-4872179989

『韓国語用言 活用と用言』 / 金美仙 / 三修社 / 2016/978-4384054590

『読みたい韓国語』 / 金美仙/朝日出版社/978-4-255-55675-8

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

大学書林(語学学校)の韓国語講師

東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師

大学入試センター試験(韓国語)の解説書を書く。

ハングル能力検定試験の採点

埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価

企業での講演:韓国語と韓国文化

語学学校で使用される内部教材作成

朝鮮語Ⅵ 2016年度以前入学者

101249N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目(実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

火曜 3限 木曜 3限

—

15

週2コマ 「朝鮮語Ⅴ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 総合的な能力において中級レベルに達する。
2. やさしい日常会話が可能知識を学び、実践力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

豊富な語彙力をつける。

TOPIK(韓国語能力試験)中級レベルの文法能力を備える。学習した言語知識をフルに活用したフリートーカーキングを行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 第 5 課と第 6 課のアクティビティ
自分の予定や料理の性質などを説明し、それに対応する自分の計画及び助言などを自由に話し合う。
- 第 2 回 第 7 課 外国語の勉強方法 (1)
語彙を覚える。文法:「~しなければならない」の復習、不規則活用 (2) 例文の練習
- 第 3 回 第 7 課 外国語の勉強方法 (2)
本文スキットの練習。外国語の勉強方法について話し合う。
- 第 4 回 第 8 課 体調管理 (1)
語彙を覚える。文法:「~のせいで/ために」、不規則活用 (3) 例文の練習
- 第 5 回 第 8 課 体調管理 (2)

- 本文スキットの練習 風邪の引きやすいかどうかなどの体質及び体験について話し合う。
- 第 6 回 第 7 課と第 8 課のアクティビティ
外国語の勉強方法に関するノウハウなど情報交換を行う。日頃の健康管理や風邪の対処法について話し合う。
- 第 7 回 第 9 課 血液型と性格 (1)
語彙を覚える。文法:「～するじゃないですか」、不規則活用 (4) 例文の練習
- 第 8 回 第 9 課 血液型と性格 (2)
本文スキットの練習 自分と身近な人の血液型と性格について話し合う。
- 第 9 回 第 10 課 色の表現 (1)
語彙を覚える。文法:「～してみる」、不規則活用 (5) 例文の練習
- 第 10 回 第 10 課 色の表現 (2)
本文スキットの練習。洋服や物の色を説明する。日韓で色の表現の違いを確認する。
- 第 11 回 第 9 課と第 10 課のアクティビティ
血液型と性格の関連性について日韓を比較しながら話し合う。好きな色と理由を話し合う。
- 第 12 回 総復習と作文の練習
第 6 課～第 10 課の総復習 練習してきた会話のうち、テーマをひとつ選び文章にまとめる。
- 第 13 回 第 11 課 メールを書く (1)
語彙を覚える。文法:約束及び決心を伝える「～します」、不規則用言のまとめ 例文の練習
- 第 14 回 第 11 課 メールを書く
本文スキットの練習。韓国語知人にメールを書く。
- 第 15 回 動画を見て話し合う
短い動画を見て、内容について、自分の意見などを話し合う。総復習をする。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
用言の活用の体系をマスターするために、形の作り方及び文における使い方を丁寧にサポートしていく。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
単語のみならず連語単位の語彙を幅広く習得するための課題が出される。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
課題、単語のテスト、アクティビティの参加度から総合的に評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
コリア語 I と II を受講しているか同レベルの学習歴をもつこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『できる韓国語初級Ⅱ』(新装版) / 新大久保学院・李志暎・金鎮姫/DEKIRU出版/2016/978-4-87217-886-9/1
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『できる韓国語 初級 単語集:新装版』/新大久保学院・李志暎・朴雪熙/DEKIRU出版/2016/978-4872179989 『韓国語用言 活用と用言』/金美仙/三修社/2016/978-4384054590 『読みたい韓国語』/金美仙/朝日出版社/978-4-255-55675-8
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
大学書林(語学学校)の韓国語講師
東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
大学入試センター試験(韓国語)の解説書を書く。
ハングル能力検定試験の採点
埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価
企業での講演:韓国語と韓国文化
語学学校で使用される内部教材作成

日本近現代史

GEH1201N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

水曜 4限

DP2:知識・理解力

60

小林 健太

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は、日本史のなかでも特に近代史・現代史の分野を講義します。高校までの日本史のように、ただ暗記するだけではなく、「その出来事が歴史の流れのなかにどう位置づけられるか」ということに重点を置きたいと思います。歴史(学)では「なぜ、そうなったのか」と考えることがとても重要だからです。この講義を通して、皆さんが少しでも歴史の「なぜ」に興味を持っていただけたら幸いです。特に今年度は、経済・文化に注目して講義を進めます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1、歴史は過去のものではなく、現在にも影響を及ぼしていることを理解する。
- 2、中学校や高校の「教科書」に書かれていることだけではない、多彩な歴史の世界を認識する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス 歴史を学ぶこと—ミクロの視点とマクロの視点—
- 第 2 回 江戸時代—「海禁」の時代と天皇権威の浮上—
- 第 3 回 江戸時代の経済
- 第 4 回 幕末の政治状況と開国
- 第 5 回 明治維新の動向—民衆が見た「維新」—
- 第 6 回 近代という時代—西洋との出会い—
- 第 7 回 国会開設・帝国憲法—近代国家の建設—
- 第 8 回 日清・日露戦争
- 第 9 回 明治期の経済
- 第 10 回 大正デモクラシーとモダン文化
- 第 11 回 昭和初期の経済
- 第 12 回 十五年戦争と経済
- 第 13 回 占領下の日本
- 第 14 回 独立と高度経済成長
- 第 15 回 現代日本の経済

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業方法

- (イ) 配布プリントを使用し、基本的に講義形式で行う。
- (ロ) 講義は、毎回設定したテーマのなかで1つのトピックをとりあげて深く考察する。
- (ハ) 毎講義終了時に、出席確認を兼ねてrespon等に意見等を記述してもらう。
- (ニ) コメントカード等による質問に対して適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各テーマに関係した著書・論文・メディア情報などより、自分で問題点・疑問点を考えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、期末試験 (70%)、コメントカード (30%) によって行う。
2. 講義 3 分の 2 以上の出席を期末試験の受験 (提出) 資格とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

近年、学生の読書量減少が問題となっているので、講義時に論文などを読んでもらい、理解力や表現力も身につけてもらいたいと考えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

NHK文化センター梅田教室、朝日カルチャーセンター芦屋教室で、中世～近代の政治・宗教に関する古文書講座を担当している。

歴史の中の女性

GEH1150NOJ

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

木曜 2限

DP1: 自分を育てる力

60

寺西 みどり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

男性中心とされる歴史において、女性は社会とどのように関わり、いかなる変容をとげたのか。アメリカと日本を中心に、文化史・宗教史・社会史上重要な役割を果たした女性達の思想や活動を考察する。本学の母体であるノートルダム教育修道女会に触れ、修道女考察も行なう。映画鑑賞から、その時代の女性を反映している側面をみる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

女性学・女性史の始まり

女性と社会進出・女性解放運動

アメリカ史・日本史の概観、社会背景と女性の変容をみる
修道女の場合

映画鑑賞や読書により、個別の女性の生涯について考えたり、職業と家庭について考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	初講の「女性学」を欠いたままにする	j女性の生き方に興味を持つ	自分の身近な女性の生き方を考える	学んだ歴史上の女性と身近な女性の生き方を比較する
知識・理解力	時代の流れ(前後)を知らない。初講の「女性学」を欠	入門レベルの日本史、アメリカ史に馴染む	特定の時代の代表的な女性を挙げることが出来る	特定の女性の生き方と時代背景を説明できる

	いたままにする			
言語力	紹介された特定の用語を理解しない	紹介された特定の用語を概ね理解できる	紹介された特定の用語を簡単に説明できる	紹介された特定の用語を駆使できる
思考・解決力	問題点がわからない	質問を用意できる	自問自答ができる	解決しない問題を理由とともに説明できる
共生・協働する力	個人孤立の思考を固守する	ディスカッションに参加する	小グループで意見を述べる	対立する意見に共感することもできる
創造・発信力	ディスカッションに参加しない	ディスカッションに参加する	全体会で意見を述べる	質疑に対応できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
コース概説・女性学とは・女性学の歴史・女性の分類
- 第 2 回 アメリカの女性
エリザベス・ケイディ・スタントン
- 第 3 回 アメリカの女性
ジェーン・アダムス
- 第 4 回 アメリカの女性
ベティ・フリダン
- 第 5 回 アメリカの女性
映画鑑賞：20世紀中～後期の女性の心理
- 第 6 回 日本の女性
家父長制以前の女性
- 第 7 回 日本の女性
紫式部・清少納言
- 第 8 回 日本の女性
戦国時代～江戸時代
- 第 9 回 日本の女性
明治時代～現代
- 第 10 回 日本の女性
平塚らいてうと市川房江
- 第 11 回 日本の女性
現代日本女性の職業と子育てについての座談会視聴
- 第 12 回 アメリカの女性
映画鑑賞：人生の選択の自由と家庭生活について
現代アメリカの男女の意識
- 第 13 回 女性と宗教
修道女概論：女性の人生選択の自由宗教と宗教について
アメリカの修道女
ノートルダム教育修道女会について
- 第 14 回 女性と宗教
映画鑑賞：第二次世界大戦以前のヨーロッパの修道院生活

第 15 回 女性と宗教

映画鑑賞：前回に続く、修道女の社会的使命と個人的感情について

鑑賞後、質問の時間を設ける

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心とする

映画鑑賞と講義内容を関連づける

課題を考え、意見を述べる (小人数クラスの場合のみ実施)

学生の意見へのフィードバックを次の講義の中に盛り込む

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

アメリカ文化を自分なりにイメージしてみる

日本史の流れ (歴史教科書の目次程度でよい) を捉えておく

ノートの整理をする

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末試験の点数で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業であるが、manaba・responは頻回に利用する。

お知らせに注意してもらいたい。

授業内容と映画鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストはない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要時に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

必要時に指示する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

翻訳業務経験39年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。

通訳業務経験あり。海外女優インタビュー経験あり。

YBU英会話教室講師。

長唄協会関西支部女流三味線楽院兼演奏員。

英語圏外国人対象三味線講師。

子育てとワークライフバランス

GCP2101N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

2年次

1単位 前期後半

月曜4限

DPI：自分を育てる力

30

後半7.5コマ

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代日本の子育ておよび女性のライフキャリアの現状や課題について、基礎的な知識を得るとともに、企業や教育現場、地域社会など、さまざまな分野で活躍している「母」「父」の立場の方や関連する仕事をしている方にお話をうかがい、受講生自身の生き方について考えます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 現代女性を取り巻く現状について学びます。
2. さまざまな事例を知り、そこから生き方のヒントを得て、自分の生き方を考えます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	現代女性を取り巻く環境について具体的なことを知らない。	女性の労働や子育てに関係の深い法律や制度について知っている。	その法律や制度が必要となる社会の現状について理解している。	社会の現状の中で、自らの生き方を模索することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 子育てとライフキャリアを考える (入門)
授業の進め方・女性の子育て環境概論
※6月7日4講時後半(15:40~16:25)に実施:くどもと子育ての生活環境学
〉終了後
- 第 2 回 女性の子育て環境 法律と現状
基本となる法律を学び、現代の子育て環境における課題について考えます。
- 第 3 回 外部講師による講義1 ワークライフバランス
女性が子育て、仕事、地域社会における活動等を両立して行うための工夫や課題について学びます。
- 第 4 回 外部講師による講義2 父の視点から見た育児
父の立場からの育児における経験談やその課題についてお話いただき、男性の立場にも目を向けて考えてみます。
- 第 5 回 外部講師による講義3 雑誌に見る子育ての動向
子育て雑誌の編集者の立場から、子育てと仕事を両立するための時間管理などの実際についてお話しいただき、学生である現在との時間の使い方の違いについて考えます。

第 6 回 外部講師による講義4 仕事と子育ての両立
実際に、子育てと仕事を両立している講師の話聞き、働く親が直面する課題について学びます。

第 7 回 外部講師による講義5 働くということ
企業から見た女性の労働とワークライフバランスについて学び、経済的な自立について考察します。

第 8 回 子育てとライフキャリアを考える
理解度確認のための筆記試験と振り返りを行います。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義によって基本的な知識を得るとともに、外部講師のお話から、女性の生き方について深く考察します。
筆記試験については、終了後manabaで講評をします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日頃から新聞をよく読み、現代日本の子育てを取り巻く環境に関心を持つようになしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の課題50%、筆記試験50% (第8回に実施) の割合で評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 外部講師による授業の順番を変更する場合があります。
2. 外部講師には、子育てとキャリアの両立、女性にとってのキャリアパスなどの視点からお話いただきます。テーマの小さな変更がある場合もあります。予定の詳細は授業時に配布します。

3. <くどもと子育ての生活環境学>とは、同じ時間帯に開講しており、学期の前半が<くどもと子育ての生活環境学>、後半が本科目<子育てとワークライフバランス>です。同時履修が望ましいでしょう。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

GEN1202NOJ
 大学
 共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)
 1年次
 2単位 前期
 土曜2限
 DP2: 知識・理解力
 60
 メディア利用
 神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになってきている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなっている。

本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを知るとともに、扱われる情報の価値や、人権問題にも目を向け基礎的な情報倫理の知識も知ることが目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コンピュータの構造について学ぶ
2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ
3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない。	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し、人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの区別がつかない	情報のデジタル化についてその仕組みを理解し、内部構造を理解できる。	情報のデジタル化の仕組みが理解でき、PCの内部構造や、その他の機器の構造を理解できる	さまざまなアルゴリズムを理解し、デジタル化された機器の長所・短所がわかる。
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとしな	プログラムを動かすための言語があることを理解する。	簡単なプログラミングができる。	プログラミング言語を理解し、生活の中で役立てる。

思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	デジタル化の応用が生活の中にあることを考える	プログラミング的思考をする力がある	機器も含めて、人と人のコミュニケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに、情報技術について考えようとする	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする。	レベル4に加えて、情報ネットワークなども正しく用いて、考えを深める。
創造・発信力	自分勝手な、情報の発信を行う。	自ら、周囲の状況を踏まえて、情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、情報の扱い方を考える。	レベル4に加えて、情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の概要紹介
- 第 2 回 情報理論とデジタル・アナログ
- 第 3 回 ハードウェアとソフトウェア
- 第 4 回 コンピュータの仕組みとOS
- 第 5 回 コンピュータの誕生とその背景
- 第 6 回 コンピュータの発展 小テスト1回目と解説
- 第 7 回 情報のデジタル化 数・文字
- 第 8 回 情報のデジタル化 音声・画像
- 第 9 回 問題解決とアルゴリズム
- 第 10 回 プログラミング 小テスト2回目と解説
- 第 11 回 情報の信頼性と信憑性
- 第 12 回 知的財産権の保護
- 第 13 回 情報を守るセキュリティの仕組み
- 第 14 回 情報モラルの考え方 小テスト3回目と解説
- 第 15 回 全体のまとめ、自己評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

この講義は、全講義をオンライン学習によって行う。
 manabaコースを用いて講義前に授業資料・教材を配信する。

講義の流れ

- 1 manabaコースのコースニュースに予定を配信する
- 2 授業時間開始時に、manabaコースのコンテンツに教材を配信する。
- 3 コンテンツの指示に従って学習を進める
- 4 responで毎回のコメントを提出し、自分の理解度を把握しておく
- 5 1に戻る
- 6 月に1回のペースで小テストを行い、自分で学習の進捗

を確かめる

responを用いて講義ごとの振り返りを行い、授業への質問・感想などの記入を求め、授業内でフィードバックを行う。小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするとよい。

コンテンツの資料は全講義が終了するまで、復習や抜けた講義のために、いつでも閲覧できるようにしておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。なお、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架する予定である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30点満点の小テストを3回実施し、授業への参加度(コメントの入力態度を含む)・毎回のresponへの授業コメントおよび自己評価を加えた10点を加算し100点満点で評価を行う。3回の小テストで合計点が60点に満たない場合は、補講期間に追試を実施する。

〔留意事項 (Other Information)〕

オンラインによる学習のため、動画をみたり、responの提出ができるように、PCやスマホの準備をしておく。

質問はmanabaコースのスレッドで受け付ける。

初回に受講の仕方を説明する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

配布資料を中心に解説するので教科書は指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報とコンピューティング』/河村一樹/オーム社/2011/9.78427421086E12

『コンピュータを使わない情報教育アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進/イーテキスト研究所/2007/9.784904013007E12

『アルゴリズムの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2003/9.784798104522E12

『パソコンの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2010/9.784798122526E12

『OSの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2011/9.784798124629E12

上記の参考文献は配布プリントに引用する予定である。

また、これらの参考文献以外にも講義時に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学入門 2021年度以降入学者

GEN1401N0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

火曜3限

DP4: 思考・解決力

60

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学は人間の行動・心理を科学的な手法で理解しようとする学問であるが、心理学で取り扱う問題意識は、そのほとんどが日常生活で感じることや疑問に内在される。本授業では、初めて心理学を学ぶ学生を対象に、心理学について、日常生活での問題意識を例に挙げながら、基礎的な心理学理論および研究法について解説する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。

2 知覚・学習・記憶のメカニズムを理解する。

3 人の成長・発達と心理との関係について理解する。

4 他者との関わり方や他者に対する認知について理解する。

5 日常生活と心の健康との関係について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	心理学の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、心理学の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむね心理学の幅広い分野について知識を身につけている。	心理学の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語かしたり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語かしたり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語かしたり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語かしたり人に説明する力が十分身についている。

思考・解決力	日常生活の諸問題について、心理学の知識を利用して解決する力が身につかない。	ある程度、日常生活の諸問題について、心理学の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、心理学の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、心理学の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につかない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身につかない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 心理学とは（オンライン授業）
- 第 2 回 記憶の心理学（オンライン授業）
- 第 3 回 動機づけの心理学（オンライン授業）
- 第 4 回 ものの見え方、見方の心理学（オンライン授業）
- 第 5 回 発達の心理学 こどもの発達（オンライン授業）
- 第 6 回 発達の心理学 青年の発達（オンライン授業）
- 第 7 回 第1回～第6回のまとめ（オンライン授業）
- 第 8 回 ジェンダー・セクシュアリティの心理学（オンライン授業）
- 第 9 回 対人関係の心理学（オンライン授業）
- 第 10 回 態度変容と説得の心理学（オンライン授業）
- 第 11 回 集団の心理学（オンライン授業）
- 第 12 回 パーソナリティの心理学（オンライン授業）
- 第 13 回 感情の心理学（オンライン授業）
- 第 14 回 臨床心理学（オンライン授業）
- 第 15 回 第8回から第14回のまとめ（オンライン授業）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない（授業期間に小テストを行います）。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・本授業は受講生が多くなることが予想されるため、基本的にオンライン授業を進める。power pointを使用した教材を用い、教材の中にあるrespon課題や振り返り課題などに取り組む形式とする。

・オンライン授業であってもわかりやすい教材を心がけるとともに、一方向的にならないように、responを積極的に活用し、受講生同士の意見や考えを共有出来る機会を多く作

る。

・テキストは使用せず、毎回manabaのコンテンツにおいてレジュメを配布する。

・授業後にはクイズや振り返り課題への回答を求める。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・日常行動や社会生活と照らし合わせて、身近に心理学を理解するために、一般的読者を対象にした心理学の入門書を読んでみることを勧める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

2回の小テスト（70%）と日頃の授業の振り返りやクイズ（30%）に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

受講生が多くなることが予想されるため、「オンライン授業」を基本としますが、授業の内容によって一部授業のみ、グループを分けて対面授業を行う可能性もあります。

オンラインであっても、授業内容に関する疑問や不明な箇所があれば積極的に質問し、また、自分で心理学文献・辞典・事典を調べて理解するように努めて下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。配布資料を用いる。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

コリア語 I D

GBF1303D0J

大学

共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）

1年次

2単位 後期

火曜 3限 木曜 1限

DP3：言語力

30

週2コマ

金 美仙

〔科目の教育目標（Course Description）〕

1. 韓国語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりとつけます。

2. 知識だけが積まれていくのではなく、学んだことを使えるようにします。

3. 言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

語彙を正確なつづりと発音で覚えることがもっとも大事です。

オンラインと対面のブレンド型授業です。

オンライン授業では動画ファイル：理解に留まらないように練習ができるように構成されています。聞き流さずにしっかり練習して覚えます。

初回の授業で対面授業のスケジュールを提示します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと文字の紹介
ガイダンス：授業の行い方及び評価について説明する。
ハングルの成り立ちと歴史的背景を知る。
ハングル文字の仕組みを理解する。
挨拶のことは覚える。
- 第 2 回 文字と発音：母音字母（1）
母音字母の説明と練習
字母（1）で構成されている語彙の練習
発音のトレーニング
挨拶のことは覚える。
- 第 3 回 文字と発音：母音字母（2）と子音字母（1）
母音字母（1）と語彙の復習
母音字母（2）の説明と練習
母音字母（2）によって構成される語彙の練習
子音字母（1）の説明
文化の紹介：韓国の大学について
- 第 4 回 文字と発音：子音字母（1）と（2）
子音字母（1）によって構成される語彙の練習
子音字母（2）の説明
挨拶のことは覚える及び決まり文句
- 第 5 回 文字と発音：子音字母（2）と有声音化
子音字母（1）の復習
子音字母（2）によって構成される語彙の練習
発音の規則：有声音化
- 第 6 回 文字と発音：仮名のハングル表記（1）
総復習：語彙の練習と有声音化
日本の地名をハングルで表記する
文化の紹介：日本の「五月病」と韓国の「月曜病」
- 第 7 回 文字と発音：子音字母（3）と（4）

激音と濃音

激音と濃音によって構成される語彙の練習

挨拶のことは覚える

- 第 8 回 文字と発音：母音字母（2）と（3）
子音字母（3）と（4）の復習
複合母音の説明と練習
複合母音によって構成される語彙の練習
挨拶のことは覚える及び決まり文句
- 第 9 回 文字と発音：パッチム（1）と（2）
複合母音の復習
パッチム（1）の説明と練習
パッチム（1）によって構成される語彙の練習
パッチム（2）の説明
文化の紹介：五月の記念日
- 第 10 回 文字と発音：パッチム（2）と仮名のハングル表記（2）
パッチム（1）の復習
パッチム（2）によって構成される語彙の練習
日本語の人名及び地名のハングル表記
- 第 11 回 文字と発音：連音化
総復習と発音のトレーニング
発音の規則：連音化の説明と練習
- 第 12 回 第1課：自己紹介（語彙と文法）
語彙の練習
文法：助詞「～は」と「～です」の表現
練習：名前を聞き合う
発音のトレーニング
- 第 13 回 第1課：自己紹介（文法と本文）
「～は」と「～です」の復習
文法：「～が」
練習：「～は/～が～です（?）」パターンの文を練習する
本文を読む
- 第 14 回 第1課：自己紹介（本文とアクティビティ）
本文スキットの練習
発音のトレーニング
アクティビティ：名前、学科、家などを自由に聞き合う
- 第 15 回 第2課：語彙と文法と発音の変化
語彙を覚える
発音の変化：激音化
文法：助詞「～と」の説明と練習
- 第 16 回 第2課：文法と応用練習
語彙と激音化の復習
文法：助詞「～に」の説明と練習
応用練習：これまで学んだ知識を活用して会話練習を行う
文化の紹介：「両親の日」と「師匠の日」
- 第 17 回 第2課：発音の変化と文法
語彙と激音化と「～に」の復習
発音の変化：濃音化
文法：助詞「～も」の説明と練習
- 第 18 回 第2課：本文と総復習

本文スキットを読む
発音のトレーニング
これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる
アクティビティの準備

第 19 回 第 2 課と第 3 課：アクティビティと第 3 課の語彙
本文の復習
アクティビティの準備：住まいと兄弟に関する会話
表現を練習する
第 3 課：語彙の説明と発音

第 20 回 第 3 課：語彙と文法
語彙と数字を覚える
文法：助詞「～を」と「～には」の説明と練習
文化紹介：韓国の食卓のマナー

第 21 回 第 3 課：語彙の拡張と文法と本文
語彙を覚える：曜日名及び時間名詞
文法：「～します」(1)
これまで学んだ知識を活用して例文を作ってみる
本文スキットの練習

第 22 回 第 3 課：アクティビティ
本文スキットの復習
アクティビティ：日常生活（授業の有り無しや朝食
など）について自由に会話する

第 23 回 第 4 課：語彙と文法
語彙の説明と練習
文法：助詞「～で」（手段）の説明と練習
移動方法に関する表現を練習する

第 24 回 第 4 課：文法と時間の表現
語彙と「～で」の復習
文法：「～でしょ？/ですよね？」
時間の表現：漢数詞と固有数詞による時間表現

第 25 回 第 4 課：文法と応用練習
時間の表現の復習
文法：「～します」(2)
応用練習：移動の時間に関する表現の練習

第 26 回 第 4 課：本文とアクティビティの準備
「～します」の復習
本文スキットの練習
発音のトレーニング
アクティビティの準備：通勤時間及び手段の表現
を覚える

第 27 回 第 4 課と第 5 課：アクティビティと語彙
アクティビティ：通勤時間及び手段について自由に
話し合う
第 5 課：語彙の説明と練習
文化の紹介：夏バテ防止の料理

第 28 回 第 5 課：文法と例文
語彙の復習
文法：「～する予定です」の表現
例文：週末の約束や夏休みの予定を表す表現を作
文し練習する

第 29 回 第 5 課：文法と本文
「～する予定です」の復習
文法：「～したい」「～ので」

夏休みにやりたいことと人に勧める表現を練習す
る

第 30 回 第 5 課：アクティビティ
夏休みの計画について自由に話し合う
総復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
知識の説明にとどまらず、その知識が定着するようにサポ
ートします。
持ち合わせの知識のフル活用を目標にアクティビティの練
習を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
第2外国語の学習の場合は、とりわけ初級レベルでは語彙を
覚えることが最大の難題と言っても過言ではありません。
各課に入る前に「この課で使われる語彙」を10回ずつ書い
てください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕
10
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
日頃の課題、アクティビティへの参加及び出来具合、小テス
トを総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕
動画ファイルにしたがって練習を丁寧に行ってください。
聞き流して理解しただけでは習得できません。もちろん単
位を取ることもできません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕
動画ファイル及び添付ファイルで提供

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
《実践的科目》
大学書林（語学学校）の韓国語講師
東京外国語大学留学生日本語教育センターの韓国語講師
大学入試センター試験（韓国語）の解説書を書く。
ハングル能力検定試験の採点
埼玉県警及び茨城県警の採用試験問題作成及び評価
企業での講演：韓国語と韓国文化
語学学校で使用される内部教材作成

アラビア語 2017年度以降入学者

GBF1351N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 後期
 火曜3限 木曜1限
 DP3：言語力
 30
 週2コマ
 鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。基本フレーズとスキットに含まれる文法を理解し、文法に関連付けたコミュニケーション能力を高める。また、出身の表現、場所の尋ね方、家族の紹介、数詞（基数）、単数・双数・複数、動詞未完了形、動詞完了形、語根と語形パターン、等位文の否定、疑問詞などを学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 28文字から成るアラビア語のアルファベットの書き方・発音を学ぶ。
2. 教科書の基本文や会話を理解し、文法を学ぶ。
3. ドリルで応用力をつける。
4. アラビア語の背景にあるアラブ・イスラム文化を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えた上で、応用につなげる
言語力	アラビア語がすらすら読めない	アラビア語がすらすら読め、簡単な表現ができる	アラビア語の4技能の基本ができている	アラビア語の4技能の基本ができ、ある程度の意思疎通ができる

思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	取り組んでできなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決策を提示する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやろうとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 アラビア語とは
- 第2回 「こんにちは」 アラビア語のアルファベット
- 第3回 「おはよう」 アラビア語のアルファベット
- 第4回 「またお会いするまで」 アラビア語のアルファベット
- 第5回 「こんばんは」 アラビア語のアルファベット
- 第6回 「ありがとう」 アラビア語のアルファベット
- 第7回 「ようこそ」 アラビア語のアルファベット
- 第8回 「お元気ですか」 アラビア語のアルファベット以外の文字と記号
- 第9回 「アッサラーム・アライクム」 太陽文字と月文字
- 第10回 「あなたの名前は？」 ○○人という表現、数字1～10（オンライン）
- 第11回 「私の名前は…」 名前の書き方
- 第12回 「はい」「いいえ」 格について
- 第13回 「ごめんなさい」 名詞の性について（オンライン）
- 第14回 「あなたは学生ですか」 独立人称代名詞
- 第15回 14回までの復習
- 第16回 「モスクはどこですか」 定冠詞
- 第17回 「それはここから近いですか」 形容詞（オンライン）
- 第18回 「こちらはどなたですか」 接尾人称代名詞
- 第19回 「これは私の父です」「○○があります」 指示代名詞
- 第20回 「いつもみなさんがお元気でありますように」 イダーファ
- 第21回 「あなたたちは車を持っていますか」 前置詞を使った所有表現
- 第22回 「これらのお寺や神社は素晴らしいです」 双数・複数（オンライン）
- 第23回 「2つの有名な公園があります」 名詞と形容詞の一致
- 第24回 「アラビア語を勉強しています」 動詞未完了形
- 第25回 「この石けんはいくらですか」 動詞未完了形
- 第26回 「パレスチナ料理を食べましたか」 動詞完了形・語根（オンライン）
- 第27回 「私は彼がとても好きなの」 等位文の否定ライサ

第 28 回 「彼は日本では知られていないよ」 自己紹介

第 29 回 「私は〇〇が好きです」 の表現

第 30 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
2. 授業で十分に理解する。
3. 授業中のテストで理解の確認を行う。
4. 復習で学習したことを把握し、保持する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書の課された範囲を毎回予習する。
2. 小テストがある場合は、それに備える。
3. 課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加25%、小テスト・宿題25%、試験50%。

出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『初歩のアラビア語』/鷺見朗子/放送大学教育振興会/2011/978-4-595-31293-9/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『例文で学ぶアラビア語単語集』/鷺見朗子/大修館書店/2019/978-4-469-21378-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラビア語 I 2016年度以前入学者

101561N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

火曜 3限 木曜 1限

ー

15

定員40人 週2コマ

鷺見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 28文字から成るアラビア語のアルファベットの書き方・発音を学ぶ。
2. 教科書の基本文や会話を理解し、文法を学ぶ。
3. ドリルで応用力をつける。
4. アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し覚えた上で、応用につなげる
言語力	アラビア語がすらすら読めない	アラビア語がすらすら読め、簡単な表現ができる	アラビア語の4技能の基本ができている	アラビア語の4技能の基本ができ、ある程度の意思疎通ができる
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	取り組んでできなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決策を提示する

共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやるとうとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 アラビア語とは
- 第 2 回 「こんにちは」アラビア語のアルファベット
- 第 3 回 「おはよう」アラビア語のアルファベット
- 第 4 回 「またお会いするまで」アラビア語のアルファベット
- 第 5 回 「こんばんは」アラビア語のアルファベット
- 第 6 回 「ありがとう」アラビア語のアルファベット
- 第 7 回 「ようこそ」アラビア語のアルファベット
- 第 8 回 「お元気ですか」アラビア語のアルファベット以外の文字と記号
- 第 9 回 「アッサラーム・アライクム」太陽文字と月文字
- 第 10 回 「あなたの名前は？」○○人という表現、数字1～10 (オンライン)
- 第 11 回 「私の名前は…」名前の書き方
- 第 12 回 「はい」「いいえ」格について
- 第 13 回 「ごめんなさい」名詞の性について (オンライン)
- 第 14 回 「あなたは学生ですか」独立人称代名詞
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
2. 授業で十分に理解する。
3. 授業中のテストで理解の確認を行う。
4. 復習で学習したことを把握し、保持する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書の課された範囲を毎回予習する。
2. 小テストがある場合は、それに備える。
3. 課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加25%、小テスト・宿題25%、試験50%。
出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

回によっては、イマージョン・スペースや教室の外で、ネイティブ・スピーカーなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラーム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『初歩のアラビア語』/鷺見朗子/放送大学教育振興会/2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『例文で学ぶアラビア語単語集』/鷺見朗子/大修館書店/2019/978-4-469-21378-2

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラビア語Ⅱ 2016年度以前入学者

101562N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

火曜 3限 木曜 1限

ー

15

定員40人 週2コマ

鷺見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、「アラビア語Ⅰ」で培ったアラビア語の読み・書き・聞く・話す能力をさらに伸ばし、応用力をつけていくことである。基本フレーズとスキットに含まれる文法を理解し、文法に関連付けたコミュニケーション能力を高める。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、出身の表現、場所の尋ね方、家族の紹介、数詞(基数)、単数・双数・複数、動詞未完了形、動詞完了形、語根と語形パターン、等位文の否定、疑問詞などを学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 教科書の基本文や会話を理解しながら、文法を学ぶ。
2. ドリルで応用力をつける。
3. アラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えた上

				で、応用につなげる
言語力	アラビア語の挨拶ができる	アラビア語の簡単な表現が理解できる	アラビア語の簡単な表現が理解でき、意思疎通しようとする	アラビア語の4技能の基本ができ、ある程度の意思疎通ができる
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	取り組んでできなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決策を提示する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやる	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 「モスクはどこですか」 定冠詞
- 第 2 回 「それはここから近いですか」 形容詞 (オンライン)
- 第 3 回 「こちらはどなたですか」 接尾人称代名詞
- 第 4 回 「これは私の父です」「〇〇があります」 指示代名詞
- 第 5 回 「いつもみなさんがお元気でありますように」 イダーファ
- 第 6 回 「あなたたちは車を持っていますか」 前置詞を使った所有表現
- 第 7 回 「これらのお寺や神社は素晴らしいです」 双数・複数 (オンライン)
- 第 8 回 「2つの有名な公園があります」 名詞と形容詞の一致
- 第 9 回 「アラビア語を勉強しています」 動詞未完了形
- 第 10 回 「この石けんはいくらですか」 動詞未完了形
- 第 11 回 「パレスチナ料理を食べましたか」 動詞完了形・語根 (オンライン)
- 第 12 回 「私は彼がとても好きなの」 等位文の否定ライサ
- 第 13 回 「彼は日本では知られていないよ」 自己紹介
- 第 14 回 「私は〇〇が好きです」 の表現
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1. 予習で事前に課題を理解し、語彙など必要事項を記憶する。
- 2. 授業で充分に理解する。

- 3. 授業中のテストで理解の確認を行う。
- 4. 復習で学習したことを把握し、保持する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1. 教科書の課された範囲を毎回予習する。
- 2. 小テストがある場合は、それに備える。
- 3. 課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加25%、小テスト・宿題25%、試験50%。

出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

「アラビア語 I」の履修者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者を対象とする。回によっては、イマージョン・スペースや教室の内外で、ネイティブ・スピーカーなどのゲスト講師を招くなどにより、コミュニケーション力やアラブ・イスラム文化理解の向上をめざす授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『初歩のアラビア語』/鷺見朗子/放送大学教育振興会/2011/978-4-595-31293-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『例文で学ぶアラビア語単語集』/鷺見朗子/大修館書店/2019/978-4-469-21378-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

おもてなしの英会話 A

GBE2301A0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期

月曜4限

DP3 : 言語力

15

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will help prepare students to use English in TOURISM, HOSPITALITY and TRAVEL situations. Classes will cover a variety of situations that occur during travel, hotel stays and being in a foreign country. Students will learn tourism-related vocabulary and practice realistic communication tasks to build confidence and improve fluency.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be able to handle various travel situations with confidence and fluency.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Language ability	Level 1: Fully satisfies the requirements of the given task. Includes all relevant information needed to communicate in the target language. Eagerly initiates speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Easily asks questions and speaks spontaneously. The student is native or near native in all aspects of English language ability.	Level 2: Mostly covers the requirements of the given task. Includes most of the relevant information needed to communicate. Is willing to initiate speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Asks questions and speaks evenly.	Level 3: Addresses some of the requirements. Includes some relevant information but is not clearly focused. Sometimes initiates speech, using attention-getting devices. Sometimes asks questions and speaks hesitantly.	Level 4: Attempts to address the topic but few relevant information. Digresses often from the topic presented. Is reluctant to initiate speech and struggles to ask questions. Speech is halting. Does not attempt the task, and or the answer is completely irrelevant

	Level 1:	Level 2:	Level 3:	Level 4:
Creativity / transmission	Includes an inviting introduction and a satisfactory conclusion. Skillfully manages to paraphrase the ongoing situation. Logical arrangement of ideas. Manages all aspects of cohesion well. Makes few errors in the following areas: • verbs in utterances when necessary with appropriate subject-verb agreement • noun and adjective agreement • correct word order and article adjectives Errors do not hinder comprehension.	Includes an introduction, body and conclusion. Uses paragraphing successfully within the situation. Uses a range of cohesive devices but may look mechanical. Makes several errors in the structure that do not affect overall comprehensibility.	Attempts to include an introduction, body and conclusion. Main idea is not clearly supported with details. Less attention is given to the organization. Occasional use of transitions. Makes several errors that may interfere with comprehensibility.	Begins abruptly. No paragraphing or inappropriate paragraphing. No attempt to maintain the logical arrangement of ideas. Or no clear message is communicated. Makes utterances that are so brief that there is little evidence of structure and comprehensibility is impeded.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’ , Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce the textbook
- 第 2 回 Trip of a Lifetime: Making decisions and listening for advice
- 第 3 回 How Much Should I Bring? Changing money and packing advice
- 第 4 回 Meeting Other Travelers: Making a good impression
- 第 5 回 Checking In/Out: Checking in and checking out
- 第 6 回 Room Service: In-room services
- 第 7 回 Hotel Facilities: Business center and games room
- 第 8 回

All About Breakfast: Getting seated and ordering eggs

In-class Mid-term Exam

- 第 9 回 Making a Reservation: Restaurant types
- 第 10 回 Dinning Etiquette: How to use knives and forks
- 第 11 回 Getting on a Train: Buying a ticket and finding your platform
- 第 12 回 Car Rentals: Renting a car and returning a car
- 第 13 回 Taking a Cruise: Types of cruise and where to go
- 第 14 回 Illness and Injury: Going to a pharmacy and going to a hospital
- 第 15 回 Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない。No exam during exam week.

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!

ii) In class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

iii) Students are expected to complete their homework on time!

iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

-15-30 hours in total

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Students' grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

[留意事項 (Other Information)]

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

On the Road: Tourism English for Travlers/ Andrew Crosthwaite/ Cengage Learning/ 2014/ 978-986-5840-33-4

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

おもてなしの英会話B

GBE2301B0E
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 前期
 月曜 4限
 DP3：言語力
 15
 Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In おもてなしの英会話B, students will explore Japanese and Western ideas of hospitality. In addition, the instructor will use the students' own personal experiences with foreign tourists to shape a course that helps students tackle various issues that may arise when dealing with foreign people out and about town. Students will complete a final project in groups and present their ideas to the class in a formal oral presentation. In general, this course is extremely student-centered and driven by the needs of students. Every week, students can expect an upbeat, fun atmosphere in which to study useful English for real-life situations.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

At the end of this course, students will:

- 1) have gained confidence in their general speaking ability
- 2) have also learned some English to use in situations where tourists need help
- 3) have an increased awareness of Pragmatics and its role in customer care
- 4) be able to anticipate situations that may occur on the street, in a restaurant, in the train station etc. and deal with them successfully
- 5) Have learned how Japanese and Western hospitality differs
- 6) Be able to analyze a company's hospitality policy for its usefulness

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Content: Has an awareness of both Japanese and Western views of hospitality	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Content: Can analyze a company's policies regarding hospitality and customer care	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Language: Is familiar with basic phrases to use in real life customer care situations	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Language: Has an awareness of Pragmatics and its role in customer care	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Life skills: Can cooperate with classmates on a group project	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Life skills: Can effectively use a computer to make and present a group presentation	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome to Omotenashi English!
Course introduction
- 第 2 回 What is hospitality?
- 第 3 回 Hospitality in Japan and abroad
- 第 4 回 Problems tourists might have in Japan
- 第 5 回 In the station
Speaking test
- 第 6 回 At a restaurant

- Speaking test
- 第 7 回 In a shop
Speaking Test
- 第 8 回 Chatting with tourists
Speaking Test
- 第 9 回 Project introduction
Hospitality policies of Japanese and/or Western companies
- 第 10 回 Project planning
Deciding teams, preliminary planning
- 第 11 回 Project work: Outlining ideas
- 第 12 回 Project work: Developing ideas
- 第 13 回 Project work: Visual preparation/ practice
- 第 14 回 Presentations
- 第 15 回 Final reflection on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students can expect to work in pairs and groups with each other/the instructor in a lively classroom environment. Active participation is key: be bold and enthusiastic every class. Mistakes are welcome! Assignments will be submitted on paper in class/ on the school learning management system, Manaba. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to attend class each week and prepare any assignments before the class. Preparation is key to succeeding in this class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active Participation 30%

Speaking tests: 20%

Homework: 20%

Final Project Presentation: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

おもてなしの英会話C

GBE2301C0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期

木曜2限

DP3: 言語力

45

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will help prepare students to use English with interlocutors with limited understanding of Japanese language and customs, with a particular focus on the broader meaning of the Japanese term *omotenashi*. Students will engage in inquiry-based learning by investigating their local linguistic landscapes, and will learn how to share and explain culturally specific phenomena, and discuss aspects of Japanese culture and life. Students will discuss realistic communication as well as reflect on their own cultural and linguistic knowledge. Students will be required to conduct their own investigatory projects, and also engage in discussion activities and presentations during class.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will develop the skills necessary to engage with interlocutors of various linguistic and culture backgrounds. Through reflective and investigative tasks, students will work towards developing multiperspectivity in communication, as well as the ability to navigate communication in various with confidence and fluency. In addition, students will improve their understanding of Japanese and foreign culture, as well as intercultural communication through awareness-building, recognition, and production activities.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common questions and concerns will be discussed in the following class.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Does not meet course expectations	Is able to follow instructions and complete the minimum requirements for assignments	Is able to identify new areas for learning and begin self-directed investigation	Is able to identify new areas for learning, investigate, and convey discoveries to others

知識・理解力	Does not meet course expectations	Understands various aspects that can facilitate or hinder communication	Is able to consider strategies to overcome difficulties in communication	Is able to imagine different perspectives of interlocutors and mediate meaningful communication
思考・解決力	Does not meet course expectations	Shows a general understanding of the course content.	Shows an understanding of content and is able to request clarification for difficult topics	Understands the course content well and is able to identify and address new problems that arise through learning.
共生・協働する力	Does not meet course expectations	Is able to work collaboratively on assignments	Is able to understand one's role in collaboration, and work cohesively in a group	Is able to facilitate cohesive collaboration and mediate problems if they arise
創造・発信力	Does not meet course expectations	Produces assignments by following instructions	Goes beyond following instructions and includes creative/artistic elements in assignments	Assignments easy-to-understand, well designed, and demonstrate clearly conveyed unique viewpoints

[授業計画]

- 第 1 回 Orientation
Introduction and Explanation of the course with Requirements and Expectations
- 第 2 回 Linguistic Landscapes 1
Students will engage in an investigatory project of local linguistic landscapes with a focus on *what kinds of signage exist in foreign languages*.
- 第 3 回 Linguistic Landscapes 2
Students will engage in an investigatory project of local linguistic landscapes with a focus on what kinds of signage exist in *Japanese only*, and consider *why and who they are targeted at*.
- 第 4 回 Linguistic Landscapes 3

Students will engage in an investigatory project of local linguistic landscapes with a focus on *discrepancies between Japanese and foreign language signage*, and consider the impact of those differences.

- 第 5 回 Linguistic Landscapes 4
Students will give a presentation on their findings over the linguistic landscape project, including unique discoveries they have made and how linguistic landscapes can impact day-to-day life, or how they might be improved.
- 第 6 回 Explaining Culturally Significant Artifacts 1
Students will search for culturally significant artifacts (either personal items, such as *omamori*, or more public items, such as *jizo*), and begin work on explaining their significance, including reference to personal or cultural history.
- 第 7 回 Explaining Culturally Significant Artifacts 2
Students will continue their work on culturally significant artifacts, and present their findings in English in a manner that conveys the personal or cultural significance of the item, and is accessible to non-speakers of Japanese.
- 第 8 回 Explaining Culturally Significant Phenomena 1
Students will consider culturally specific phenomena (for instance greetings or other customs), and begin work on explaining their significance, including reference to cultural meaning.
- 第 9 回 Explaining Culturally Significant Phenomena 2
Students will continue their work on culturally significant phenomena, and present their findings in English in a manner that conveys the cultural meaning or personal understanding of the phenomena, and is accessible to non-speakers of Japanese.
- 第 10 回 Linguistic/Cultural Landscapes & Soundscapes 1
Students will engage in a renewed investigatory project of local landscapes. Specific targets of inquiry will be up to each individual student to decide, but may extend to cultural/historical artifacts, soundscapes (public announcements) etc., or other visual means of communication.
- 第 11 回 Linguistic/Cultural Landscapes & Soundscapes 2
Students will present preliminary findings and discuss their inquiry with other students in the class. They will begin to prepare for a presentation, and identify elements in their research that require more investigation.
- 第 12 回 Linguistic/Cultural Landscapes & Soundscapes 3
Students will present their findings in English before the class. Students will be required to ask questions and give feedback to other presenters.
- 第 13 回 Linguistic Biographies 1

Students will engage in a visual linguistic biography task. Employing art and text, students will reflect on their experiences with language (Japanese and foreign) as well as intercultural experiences throughout their lives.

第 14 回 Linguistic Biographies 2

Students will complete their visual biographies and present their finished work alongside an explanation in English. Students will be required to ask questions and give feedback to other presenters.

第 15 回 Final Presentation & Reflection Session

Reflection on the semester's work, including how thoughts and attitudes towards language, foreign language, and intercultural communication have changed over the semester. Further areas of inquiry for future learning will also be shared and discussed.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Classroom projects will be produced mostly in English, and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Preparatory work for assignments and discussion of complicated topics will be facilitated with Japanese use. Projects will be investigative and will involve reflection on Japanese cultures and customs in addition to foreign language learning, and the sharing of personal and cultural information from an *omotenashi* stance. Students will be required to complete reflection sheets after each class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly as well as facilitating classmates' English use.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 30%

Reflection: 30%

In-class Tasks: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教と日本文化

GCE2150N0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 後期

木曜 3限

DP1: 自分を育てる力

60

増田 齋 ジョン ブリーン

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本のすみずみまでに浸透しているキリスト教を歴史、社会、文学という側面から分析し、東西交流の実態を敏感に把握する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

歴史的には16世紀半ばから今日までのキリスト教の伝播史を、社会的には土着の神道、仏教との折り合いを、文学的にはキリシタン文学、日本人のキリスト教文学、宣教師の日本語著書を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本のキリスト教の歴史や文化について、学んだことがない	日本のキリスト教の歴史や文化について、おおまかに説明することができる	講義で紹介された日本のキリスト教の歴史や文化に関する問題点を理解し、批判的な視点から考察できる	日本のキリスト教の歴史や文化の問題について、現代の問題に関連させながら批判的な視点からも分析、考察することができる

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション (増田)

第 2 回 日本キリシタン史の転換期 (ブリーン)

第 3 回 ザビエルの来日と日本理解 (増田)

第 4 回 鎖国とキリシタン禁制 (ブリーン)

第 5 回 フィクションとしてのキリシタン (増田)

第 6 回 事件としての隠れキリシタン (ブリーン)

第 7 回 宣教師と日本語文学 (増田)

第 8 回 ネラン神父と遠藤周作 1 (増田)

第 9 回 St Agnes教会フィールド・ワーク (ブリーン)

※変更の可能性有

第 10 回 ネラン神父と遠藤周作 2 (増田)

第 11 回 遠藤周作と宣教師 1 (増田)

第 12 回 日本の近代化とキリスト教 (ブリーン)

- 第 13 回 遠藤周作と宣教師 2 (増田)
- 第 14 回 戦争とキリスト教 (グリーン)
- 第 15 回 総括 (グリーン)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講師は教科書を指定し、ハンドアウトを課題に合わせて用意し、毎回の授業の主旨を事前に知らせる。授業は、学生が指定された教材を閲読し、積極的に授業に参加することを重視する。研究レポートを書くための研究と作文の方法をも教える。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業前に定められた教科書、ハンドアウト、小説などを読了し、ノートを取り、感想と質問を準備し、授業で討論に参加する。また、指定されたテーマに関する短時間の発表を要求される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期間中課題 40%、期末レポート60%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

講師の用意したハンドアウトを中心に行う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本キリスト教史：年表で読む』/鈴木範久/教文館/2017/9784764274198

『キリシタン信仰史の研究』/五野井隆史/吉川弘文館/2017/9784642034791

『キリシタンが拓いた日本語文学』/郭南燕/明石書店/2017/9784750345574

『キリスト教の真実』/竹下節子/筑摩書房/2012/9784480066596

『ザビエルの夢を紡ぐ：近代宣教師たちの日本語文学』/郭南燕/平凡社/2018/9784582703580

『遠藤周作文学全集』/遠藤周作/新潮社/1999/9784106407215

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教思想

GCE2101N0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

金曜2限

DP1：自分を育てる力

60

山口 隆介

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

混迷を深める現代社会にあって、わたしたちは自分自身や他者をどのように理解すればよいのだろうか、また、どのように生きていけばよいのだろうか。このような問題を、キリスト教思想の学びを通して考える。授業では、トマス・アクィナス、渡辺和子、本田哲郎、チェスタトン、ハリール・ジブラーン、神谷美恵子らによるキリスト教思想の著作や教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』などを紹介しながら、人間と現代社会の問題についてキリスト教的に考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①「わたしはだれ？」で、キリスト教思想を通して自己のアイデンティティーを学ぶ。
- ②「あなたはだれ？」で、キリスト教思想を通して人間関係および人間と自然との関係を学ぶ。
- ③「神さまはだれ？」で、神が愛であることを学ぶ。
- ④「生きるってなに？」で、生きることの意味を学ぶ。
- ⑤「愛するってむずかしい？」で、キリスト教の愛の思想を学ぶ。

以上のキリスト教思想に触れることによって自分を見つめなおし、家族・友人・学校・地域社会などのコミュニティーの中で支え合うことの重要性を自覚し、自分と他者の独自性を尊重しつつ、お互いの存在を受容していけるような良識を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業を通して、人として成長しようとしている。	授業前と比べ、知識面で成長している。	授業前と比べ、知識面で十分に成長している。	授業内で提示されなかった内容を自己学習で活用できる域に達する。
知識・理解力	キリスト教的に考えるということを理解しようとしている。	知識・論理としてキリスト教的に考えるということを最低限理解している。	知識・論理としてキリスト教的に考えるということを十分に理解している。	レベル3の理解に加え、神秘を理解している。

言語力	授業内外の課題、テストあるいはレポートで自身の考えを表現しようとしている。	知識・論理としてのキリスト教思想理解を左記の機会に最低限明晰に表現できている。	知識・論理としてのキリスト教思想理解を左記の機会に十分に明晰な表現ができています。	レベル3の表現に加え、神秘について十分に明晰な表現がある。
思考・解決力	現実の問題についてキリスト教的にはどのように考えられるのか、想像しようとしている。	授業内で提示したキリスト教思想を現実の問題に当てはめるという仕方左記の想像ができています。	解決の方策の提示が、最低限度の仕方できている。	解決の方策の提示が、十分な程度できている。
共生・協働する力	キリスト教的な共生・協働について学ぼうとしている。	授業内で提示したキリスト教思想に見出される共生思想・協働の思想を最低限理解している。	授業内で提示したキリスト教思想に見出される共生思想・協働の思想を十分に理解している。	授業内で提示されなかったキリスト教的な共生思想・協働の思想を理解している。
創造・発信力	解決が与えられていない問題に他者と共に取り組めるとい目標を掲げている。	解決が与えられていない問題を正面から正確にとらえることが最低限でき、他者と共有できている。	解決が与えられていない問題を正面から正確にとらえることが十分にでき、他者と共有できている。	レベル3に加え、キリスト教的観点から有効でありうる解決案を他者と共有できている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
授業の進め方や講義全体の概要を指導する。
- 第 2 回 わたしはだれ？ (1)
キリスト教における人間観
- 第 3 回 わたしはだれ？ (2)
キリスト教における女性たち
- 第 4 回 わたしはだれ？ (3)
女性であることと人格性
- 第 5 回 あなたはだれ？ (1)
人間関係および人間と自然との関係
- 第 6 回 あなたはだれ？ (2)
分かち合いの喜び
- 第 7 回 あなたはだれ？ (3)
キリスト教の共生観：結婚・社会・環境
- 第 8 回 神さまはだれ？ (1)
愛なる神さま (父と子と聖霊)
- 第 9 回 神さまはだれ？ (2)
イエス・キリスト (神にして人間)
- 第 10 回 生きるってなに？ (1)

- 生活のリズムの重要性
- 第 11 回 生きるってなに？ (2)
怒りや悲しみの意味と傷の癒やし
- 第 12 回 生きるってなに？ (3)
自分をゆるすこと、他者を受容すること、弱者と共に立つこと
- 第 13 回 愛するってむずかしい？ (1)
四つの愛
- 第 14 回 愛するってむずかしい？ (2)
愛に関する誤解
- 第 15 回 愛するってむずかしい？ (3)
愛することとコミュニティー

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する予定です。定期試験かレポートかは未定です。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業方法：講義

学習方法：配付のテキストコピーあるいはテキスト原本、およびその他の配付物を授業に持参すること

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストコピーあるいはテキスト原本および配布物の指定された箇所を読んでくること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度：20%

読書課題：30%

定期試験：50%

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスでの授業スケジュールはあくまで予定ですので、変更が生じる可能性があります。変更が生じる場合はできる限り事前に変更を提示いたします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内でコピーを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『「ひと」として大切なこと』/渡辺和子/PHP研究所/2005/9784569664286/学内販売予定

聖書も用いる。

その他、授業内で資料を配付する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教美術

GCE2151N0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 2単位 前期
 水曜1限
 DPI：自分を育てる力
 60
 吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。さまざまな地域・時代に制作された作品を通して、未知の作品に出会ったときにも、ある程度主題を推測できる力を養うことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. キリスト教美術の主要な主題と表現上の約束の基本を知る。
2. キリスト教美術の歴史的な流れの基本を知る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	キリスト教美術の代表的な主題の内容について、学んだことがない	キリスト教美術の代表的な主題の内容について、おおまかに説明することができる	講義で紹介されたキリスト教美術の主題と絵画を記憶しており、見ると判別できる	初見のキリスト教絵画を見た時に、代表的なものであれば、主題が推測できる
言語力	キリスト教美術の代表的な主題を表す用語を知らない	キリスト教美術の代表的な主題を表す用語を知っており、適切に用いることができる	すでに見たことがある絵画作品に表現された内容を適切な言葉を用いながら、記述することができる	初めて見る絵画作品に表現された内容を、自分なりに推測しながら記述することができる
思考・解決力	キリスト教美術について考察する手がかりを持っていない	キリスト教美術を見て自分なりの感想を述べることができる	キリスト教絵画を見て主題や表現を他の作品と結びつけながら比較考察することができる	キリスト教絵画を見て主題や表現上の特質を多面的に分析することができる
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション・旧約聖書 (1)
 天地創造など
- 第 2 回 旧約聖書 (2)
 大洪水など
- 第 3 回 旧約聖書 (3)
 モーセなど
- 第 4 回 旧約聖書 (4)
 ユディトなど
- 第 5 回 旧約聖書 (5)
 トビアスなど
- 第 6 回 マリア伝など
 無原罪の御宿りなど
- 第 7 回 新約聖書 (1)
 受胎告知など
- 第 8 回 新約聖書 (2)
 キリストの洗礼など
- 第 9 回 新約聖書 (3)
 受難伝など
- 第 10 回 新約聖書 (4)
 復活など
- 第 11 回 新約聖書 (5) ヨハネ黙示録など
- 第 12 回 諸聖人 (1)
 マグダラのマリアなど
- 第 13 回 諸聖人 (2)
 聖ゲオルギウスなど
- 第 14 回 諸聖人 (3)
 聖ヒエロニムスなど
- 第 15 回 まとめ
 振り返りのテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない (最終回にまとめのテストとして実施する)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布資料の指示した箇所を読み、課題があればしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50%、学期末試験50%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教美術図典』/柳宗玄・中森義宗/吉川弘文館/1990/4642072276

『西洋美術解説事典』/ジェイムズ・ホール/河出書房新社/1988/4309260918

『一冊でわかる名画と聖書』/船本弘毅/成美堂出版/2011/9784415309873

このほか、適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

画像検索サイト(英語) Web Gallery of Art (https://www.wga.hu/)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもと子育ての生活環境学

GES2101NOJ

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期前半

月曜4限

DPI: 自分を育てる力

30

全7.5コマ

中村 久美 竹原 広実 牛田 好美 藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもの発達にとって、さらにその子どもを育てる親も含めた子育て世帯や親子の暮らしにとって重要な生活環境の問題を、「衣」「食」「住」「家族」の視点から考える。社会状況や政府の少子化対策、女性の生き方など、子どもと子育て世帯をめぐる諸情勢と関連付けて理解し、将来の自己の問題として主体的に考えていけるようにすることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・子どもと子育て世帯をめぐる社会問題を理解する
- ・子どもの発達、および子育てにとって必要な生活環境条件を理解する
- ・子どもが成長していくことや子どもを育てていくことの価値意識をもつ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	子どもの発達と子育て世帯の暮らしの現状や潜在する問題についてほとんど理解できていない	子どもの発達と子育て世帯の暮らしの現状については何となく認識できている。	現状の理解のうえに、潜在する衣食住に関わる諸問題について一定の認識がある。	子どもの発達と子育て世帯の暮らしの現状や潜在する問題を明確に理解している

思考・解決力	子どもの発達と子育て世帯の暮らしの現状を認識するものの主体的に考えることはできない	子どもの発達と子育て世帯の暮らしから潜在する問題にまでは思考は至らないが現状を評価することはできる	子どもの発達と子育て世帯の暮らしから潜在する問題について考えることができる	子どもの発達と子育て世帯の暮らしに潜在する問題を考え、自分でも解決策を思考することができる
自分を育てる力(主体的に学ぶこと)	提示された課題への取組は不十分である	レポートやテストなどの課題はまずまずこなす	授業中には積極的にノートを取り、授業後に質問したり、他の受講者の意見を熱心に聴く	受講や課題作成に際し、積極的に関連事項を文献やNetで調べる

〔授業計画〕

- 第1回 「子どもと子育てのための生活環境学」概説(中村)
子どもと子育てファッション1-子どもの成長と衣生活(牛田)
- 第2回 子どもと子育てファッション2—マタニティ時期とファッション(牛田)
- 第3回 子どもと母親の食生活(藤原)
- 第4回 子どもの成長と食生活(藤原)
- 第5回 子どもの遊びと住環境(竹原)
- 第6回 子どもと家族の住空間1-子ども室をめぐる問題(中村)
- 第7回 子どもと家族の住空間2-子育て世帯の新たな居住の形(中村)
- 第8回 子どもと子育て世帯の生活環境 総括 まとめの課題(中村)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・毎回の授業を振り返るとともに、7回にわたるオムニバス授業を自分で総合し、子どもと子育てのための望ましい「生活環境」像を構築する。最終回にまとめの課題に取り組むと同時に直後にその解説を行うので、それぞれの学びの振り返りを行うこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・シラバスによって授業展開を理解しておく
- ・新聞の家庭欄、生活欄を読む習慣をつける

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業参加度(前回の振り返り課題やディスカッションへの参加状況など 50%)と、まとめの課題(50%)で評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

8回目の授業は、前半45分で本授業のまとめを行い、後半は〈子育てとワークライフバランス〉の第1回目の授業になる。後半の〈子育てとワークライフバランス〉と併せて受講することが望ましい。なお、本科目は2021年度、2022年度に開講の後、閉講する予定である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎回の担当教員が資料を配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で、関連参考図書を紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語ⅠA 2016年度以前入学者

101240A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜1限 水曜2限

ー

15

週2コマ

平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法(直説法現在)を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	与えられたスペイン語を読むことができない。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を半分程度、理解できる。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を理解できる。	単語表やテキストがなくても与えられたスペイン語を理解できる。
言語力	動詞の活用(直説法現在)ができない。	テキストを見ながら動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)がすべてできる。

思考・解決力	ひとつでもわからない単語がある。与えられたスペイン語を読むことができない。	わからない単語があっても与えられたスペイン語をある程度読み進めることができる。	わからない単語をピックアップしながら可能な範囲で与えられたスペイン語を読むことができる。	わからない単語を調べ、理解しながら与えられたスペイン語を読むことができる。
--------	---------------------------------------	---	--	---------------------------------------

〔授業計画〕

- 第1回 第1課：スペイン語のあいさつ、アルファベット
- 第2回 第1課：発音、アクセント
- 第3回 第2課：名詞の性別
- 第4回 第2課：冠詞
- 第5回 第3課：形容詞
- 第6回 第3課：主格人称代名詞、ser動詞
- 第7回 第3課：否定文と疑問文
- 第8回 第4課：ar動詞
- 第9回 第4課：er動詞、ir動詞
- 第10回 第4課：規則動詞の用法、接続詞
- 第11回 第4課：疑問詞
- 第12回 第5課：指示詞
- 第13回 第5課：所有詞
- 第14回 第5課：曜日、日付、時間
- 第15回 前半のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとに行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『彩りスペイン語』/辻博子、野村明衣/朝日出版社/2021年/ISBN: 978-4-255-55119-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語ⅠB 2016年度以前入学者

101240BOJ
大学
共通教育科目
1年次 2年次 3年次 4年次
1単位 前期前半
月曜2限 水曜1限
15
週2コマ
平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。
初歩的な会話表現を習得する。
基礎文法(直説法現在)を習得する。
スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	与えられたスペイン語を読むことができない。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を半分程度、理解できる。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を理解できる。	単語表やテキストがなくても与えられたスペイン語を理解できる。
言語力	動詞の活用(直説法現在)ができない。	テキストを見ながら動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)がすべてできる。
思考・解決力	ひとつでもわからない単語があると与えられたスペイン語を読むことができない。	わからない単語があっても与えられたスペイン語をある程度読み進めることができる。	わからない単語をピックアップしながら可能な範囲で与えられたスペイン語を読むことができる。	わからない単語を調べ、理解しながら与えられたスペイン語を読むことができる。

〔授業計画〕

第1回 第1課: スペイン語のあいさつ、アルファベット
第2回 第1課: 発音、アクセント
第3回 第2課: 名詞の性別
第4回 第2課: 冠詞
第5回 第3課: 形容詞
第6回 第3課: 主格人称代名詞、ser動詞
第7回 第3課: 否定文と疑問文

第8回 第4課: ar動詞
第9回 第4課: er動詞、ir動詞
第10回 第4課: 規則動詞の用法、接続詞
第11回 第4課: 疑問詞
第12回 第5課: 指示詞
第13回 第5課: 所有詞
第14回 第5課: 曜日、日付、時間
第15回 前半のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。
前回の授業で学んだ内容を復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとに行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『彩りスペイン語』/辻博子、野村明衣/朝日出版社/2021年/ISBN: 978-4-255-55119-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語ⅡA 2016年度以前入学者

101241A0J
大学
共通教育科目
1年次 2年次 3年次 4年次
1単位 前期後半
月曜1限 水曜2限
15
週2コマ 「スペイン語I」履修済み又はそれと同程度のスペイン語学力を有すること。
平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。
初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法（直説法現在）を習得する。
 スペイン語圏の文化について学ぶ。
 [ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	与えられたスペイン語を読むことができない。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を半分程度、理解できる。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を理解できる。	単語表やテキストがなくても与えられたスペイン語を理解できる。
言語力	動詞の活用（直説法現在）ができない。	テキストを見ながら動詞の活用（直説法現在）が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用（直説法現在）が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用（直説法現在）がすべてできる。
思考・解決力	ひとつでもわからない単語があると与えられたスペイン語を読むことができない。	わからない単語があっても与えられたスペイン語をある程度読み進めることができる。	わからない単語をピックアップしながら可能な範囲で与えられたスペイン語を読むことができる。	わからない単語を調べ、理解しながら与えられたスペイン語を読むことができる。

[授業計画]

- 第 1 回 第 6 課：estar動詞
- 第 2 回 第 6 課：serとestarの違い
- 第 3 回 第 6 課：動詞hay
- 第 4 回 第 6 課：hayとestarの違い
- 第 5 回 第 7 課：動詞hacer、天候表現
- 第 6 回 第 7 課：動詞ver、動詞dar、動詞salir
- 第 7 回 第 7 課：動詞saber、動詞conocer
- 第 8 回 第 8 課：動詞querer
- 第 9 回 第 8 課：動詞poder
- 第 10 回 第 9 課：動詞tener
- 第 11 回 第 9 課：動詞ir、動詞venir
- 第 12 回 第 9 課：動詞gustar
- 第 13 回 まとめ
- 第 14 回 まとめ
- 第 15 回 フィードバック

[定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法（Course Methods）]

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

[準備学習の具体的な方法（Class Preparation）]

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。
 前回の授業で学んだ内容を復習する。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準（Evaluation）]

各課ごとに行う小テストで評価する。

[留意事項（Other Information）]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『彩りスペイン語』/ 辻博子、野村明衣/ 朝日出版社/ 2021/ 9784255551197/ 学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/ 2003/9784560000489

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

スペイン語 II B 2016年度以前入学者

101241B0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「スペイン語I」履修済み又はそれと同程度のスペイン語学力を有すること。

平山 幸乃

[科目の教育目標（Course Description）]

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

[教育・学習の個別課題（Course Objectives）]

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法（直説法現在）を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	与えられたスペイン語を読むことができない。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を半分程度、理解できる。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を理解できる。	単語表やテキストがなくても与えられたスペイン語を理解できる。

言語力	動詞の活用(直説法現在)ができない。	テキストを見ながら動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)がすべてできる。
思考・解決力	ひとつでもわからない単語があると与えられたスペイン語を読むことができない。	わからない単語があっても与えられたスペイン語のある程度読み進めることができる。	わからない単語をピックアップしながら可能な範囲で与えられたスペイン語を読むことができる。	わからない単語を調べ、理解しながら与えられたスペイン語を読むことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 第 6 課 : estar動詞
- 第 2 回 第 6 課 : ser と estarの違い
- 第 3 回 第 6 課 : 動詞hay
- 第 4 回 第 6 課 : hay と estarの違い
- 第 5 回 第 7 課 : 動詞hacer、天候表現
- 第 6 回 第 7 課 : 動詞ver、動詞dar、動詞salir
- 第 7 回 第 7 課 : 動詞saber、動詞conocer
- 第 8 回 第 8 課 : 動詞querer
- 第 9 回 第 8 課 : 動詞poder
- 第 10 回 第 9 課 : 動詞tener
- 第 11 回 第 9 課 : 動詞ir、動詞venir
- 第 12 回 第 9 課 : 動詞gustar
- 第 13 回 まとめ
- 第 14 回 まとめ
- 第 15 回 フィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとに行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『彩りスペイン語』/辻博子、野村明衣/朝日出版社/2021/9784255551197/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語 A 2017年度以降入学者

GBF1301A0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
月曜1限 水曜2限
DP3 : 言語力
30
週2コマ
平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法(直説法現在)を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	与えられたスペイン語を読むことができない。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を半分程度、理解できる。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を理解できる。	単語表やテキストがなくても与えられたスペイン語を理解できる。
言語力	動詞の活用(直説法現在)ができない。	テキストを見ながら動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)がすべてできる。
思考・解決力	ひとつでもわからない単語があると与えられたスペイン語を読むことができない。	わからない単語があっても与えられたスペイン語のある程度読み進めることができる。	わからない単語をピックアップしながら可能な範囲で与えられたスペイン語を読むことができる。	わからない単語を調べ、理解しながら与えられたスペイン語を読むことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 第 1 課 : スペイン語のあいさつ、アルファベット

- 第 2 回 第 1 課：発音、アクセント
- 第 3 回 第 2 課：名詞の性別
- 第 4 回 第 2 課：冠詞
- 第 5 回 第 3 課：形容詞
- 第 6 回 第 3 課：主格人称代名詞、ser動詞
- 第 7 回 第 3 課：否定文と疑問文
- 第 8 回 第 4 課：ar動詞
- 第 9 回 第 4 課：er動詞、ir動詞
- 第 10 回 第 4 課：規則動詞の用法、接続詞
- 第 11 回 第 4 課：疑問詞
- 第 12 回 第 5 課：指示詞
- 第 13 回 第 5 課：所有詞
- 第 14 回 第 5 課：曜日、日付、時間
- 第 15 回 前半のまとめ
- 第 16 回 第 6 課：estar動詞
- 第 17 回 第 6 課：serとestarの違い
- 第 18 回 第 6 課：動詞hay
- 第 19 回 第 6 課：hayとestarの違い
- 第 20 回 第 7 課：動詞hacer、天候表現
- 第 21 回 第 7 課：動詞ver、動詞dar、動詞salir
- 第 22 回 第 7 課：動詞saber、動詞conocer
- 第 23 回 第 8 課：動詞querer
- 第 24 回 第 8 課：動詞poder
- 第 25 回 第 9 課：動詞tener
- 第 26 回 第 9 課：動詞ir、動詞venir
- 第 27 回 第 9 課：動詞gustar
- 第 28 回 まとめ
- 第 29 回 まとめ
- 第 30 回 フィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとに行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『彩りスペイン語』/辻博子、野村明衣/朝日出版社/2021年/ISBN: 978-4-255-55119-7/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スペイン語 B 2017年度以降入学者

GBF1301B0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 前期
 月曜2限 水曜1限
 DP3：言語力
 30
 週2コマ
 平山 幸乃

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スペイン語の基礎文法を学び、スペイン語検定6級合格程度の力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

スペイン語の文章を音読する。

初歩的な会話表現を習得する。

基礎文法(直説法現在)を習得する。

スペイン語圏の文化について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	与えられたスペイン語を読むことができない。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を半分程度、理解できる。	単語表やテキストを見ながら与えられたスペイン語を理解できる。	単語表やテキストがなくても与えられたスペイン語を理解できる。
言語力	動詞の活用(直説法現在)ができない。	テキストを見ながら動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)が半分程度できる。	テキストがなくても動詞の活用(直説法現在)がすべてできる。
思考・解決力	ひとつでもわからない単語があると与えられたスペイン語を読むことができない。	わからない単語があっても与えられたスペイン語をある程度読み進めることができる。	わからない単語をピックアップしながら可能な範囲で与えられたスペイン語を読むことができる。	わからない単語を調べ、理解しながら与えられたスペイン語を読むことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 第 1 課：スペイン語のあいさつ、アルファベット
- 第 2 回 第 1 課：発音、アクセント
- 第 3 回 第 2 課：名詞の性別
- 第 4 回 第 2 課：冠詞
- 第 5 回 第 3 課：形容詞

- 第 6 回 第 3 課：主格人称代名詞、ser動詞
- 第 7 回 第 3 課：否定文と疑問文
- 第 8 回 第 4 課：ar動詞

- 第 9 回 第 4 課：er動詞、ir動詞
- 第 10 回 第 4 課：規則動詞の用法、接続詞
- 第 11 回 第 4 課：疑問詞
- 第 12 回 第 5 課：指示詞
- 第 13 回 第 5 課：所有詞
- 第 14 回 第 5 課：曜日、日付、時間

- 第 15 回 前半のまとめ
- 第 16 回 第 6 課：estar動詞
- 第 17 回 第 6 課：serとestarの違い
- 第 18 回 第 6 課：動詞hay
- 第 19 回 第 6 課：hayとestarの違い
- 第 20 回 第 7 課：動詞hacer、天候表現
- 第 21 回 第 7 課：動詞ver、動詞dar、動詞salir
- 第 22 回 第 7 課：動詞saber、動詞conocer
- 第 23 回 第 8 課：動詞querer
- 第 24 回 第 8 課：動詞poder
- 第 25 回 第 9 課：動詞tener
- 第 26 回 第 9 課：動詞ir、動詞venir
- 第 27 回 第 9 課：動詞gustar
- 第 28 回 まとめ
- 第 29 回 まとめ
- 第 30 回 フィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の各課ごとに会話文、文法解説、語彙、練習問題があるので担当教員による解説後、会話文の解釈及び音読、文法事項や語彙の習得、練習問題に取り組む。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各課の新出単語を事前に辞書で調べる。

前回の授業で学んだ内容を復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各課ごとに行う小テストで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『彩りスペイン語』/ 辻博子、野村明衣/ 朝日出版社/ 2021年/ ISBN: 978-4-255-55119-7/ 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『スペイン語ミニ辞典 西和+和西』/宮本 博司/白水社/ 2003/9784560000489

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ドイツ語 2017年度以降入学者

GBF1300NOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

火曜 2限 木曜 5限

DP3：言語力

30

週2コマ

青木 三陽

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

読み物・作文、やさしい会話、ビデオ教材の使用などを通じてドイツ語を話す人々の文化や思考法を学ぶ。

また、初級文法の知識を身につけつつ、ドイツ語の文章を正確に読めるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教科書の内容に沿った文法課題
- 2.教科書、配布物による文章読解、作文
- 3.視聴覚教材によるドイツ文化の学習
- 4.ペア・グループワークによるドイツ語会話やディスカッション、またその練習成果としての口頭発表

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	積極的に学習に取り組もうとする姿勢が見られない	消極的ながら学力を向上させようとする試みが見られる	積極的に学習に関心を持ち努力する	常に明確な目的と向上心をもって学習に関心を持ち、努力する
知識・理解力	知識を増やそうとする姿勢が見られない	消極的ながら知識を補おうとする努力が見られる	積極的に知識を吸収しようとする姿勢が見られる	常により深い知識を求める積極的な姿勢が見られる
言語力	基本的な語彙や文構造を使用することができない	基本的な語彙や文構造を理解することができ	既習項目の内容を基にある程度の会話や作文ができる	多様な語彙、文構造を使用することができ

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、アルファベット
- 第 2 回 ドイツ語の発音
- 第 3 回 動詞の現在人称変化
- 第 4 回 ドイツの都市事情
- 第 5 回 名詞の性
- 第 6 回 ドイツのパン
- 第 7 回 不規則動詞の人称変化
- 第 8 回 名詞の複数形
- 第 9 回 アウトバーン
- 第 10 回 不規則動詞の現在人称変化

- 第 11 回 名詞の複数形
- 第 12 回 名詞の3格
- 第 13 回 ドイツの自動車産業
- 第 14 回 前置詞と名詞の格
- 第 15 回 副文
- 第 16 回 ドイツの交通事情
- 第 17 回 人称代名詞の3・4格
- 第 18 回 再帰代名詞と再帰動詞
- 第 19 回 名詞の2格
- 第 20 回 ドイツの医療制度
- 第 21 回 定冠詞類
- 第 22 回 不定冠詞類
- 第 23 回 否定冠詞
- 第 24 回 書店と「マンガ」
- 第 25 回 zu不定詞句
- 第 26 回 分離動詞
- 第 27 回 話法の助動詞
- 第 28 回 未来形
- 第 29 回 ドイツの美容院
- 第 30 回 今期のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

使用教科書の本文は全て二人の人物の会話で成り立っているため、付属の視聴覚教材を利用しつつ、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な学習を目指す。これはペアワーク・グループワークが主な手段となる。同時に講師による文法項目の解説とそれに続く練習問題により、個別の読解力を養う。いずれにしても積極的な授業参加態度が必要不可欠である。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書付属の視聴覚教材を用いて毎回発音の確認をしておくこと。また、教科書中の練習問題に関しては授業中に予習範囲を具体的に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点50%、定期試験50%の総合評価とする。
なお、授業運営の都合上、毎回出欠の確認をとる。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数等の事情により授業予定は若干変更になる場合もある。その場合は授業中に指示する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ドイツ語の時間 恋するベルリン』/清野智昭/朝日出版社/20017/9784255253930C1084/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ドイツ語Ⅰ 2016年度以前入学者

101230N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

火曜 2限 木曜 5限

ー

15

週2コマ

青木 三陽

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

読み物・作文、やさしい会話、ビデオ教材の使用などを通じてドイツ語を話す人々の文化や思考法を学ぶ。

また、初級文法の知識を身につけつつ、ドイツ語の文章を正確に読めるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教科書の内容に沿った文法課題
- 2.教科書、配布物による文章読解、作文
- 3.視聴覚教材によるドイツ文化の学習
- 4.ペア・グループワークによるドイツ語会話やディスカッション、またその練習成果としての口頭発表

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	積極的に学習に取り組もうとする姿勢が見られない	消極的ながら学力を向上させようとする試みが見られる	積極的に学習に関心を持ち努力する	常に明確な目的と向上心をもって学習に関心を持ち、努力する
知識・理解力	知識を増やそうとする姿勢が見られない	消極的ながら知識を補おうとする努力が見られる	積極的に知識を吸収しようとする姿勢が見られる	常により深い知識を求める積極的な姿勢が見られる
言語力	基本的な語彙や文構造を使用することができない	基本的な語彙や文構造を理解することができ	既習項目の内容を基にある程度の会話や作文ができる	多様な語彙、文構造を使用することができ

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、アルファベット
- 第 2 回 ドイツ語の発音
- 第 3 回 動詞の現在人称変化
- 第 4 回 ドイツの都市事情
- 第 5 回 名詞の性
- 第 6 回 ドイツのパン
- 第 7 回 不規則動詞の人称変化
- 第 8 回 名詞の複数形
- 第 9 回 アウトバーン

第 10 回 不規則動詞の現在人称変化

第 11 回 名詞の複数形

第 12 回 名詞の3格

第 13 回 ドイツの自動車産業

第 14 回 前置詞と名詞の格

第 15 回 副文

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

使用教科書の本文は全て二人の人物の会話で成り立っているため、付属の視聴覚教材を利用しつつ、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な学習を目指す。これはペアワーク・グループワークが主な手段となる。同時に講師による文法項目の解説とそれに続く練習問題により、個別の読解力を養う。いずれにしても積極的な授業参加態度が必要不可欠である。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書付属の視聴覚教材を用いて毎回発音の確認をしておくこと。また、教科書中の練習問題に関しては授業中に予習範囲を具体的に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点50%、定期試験50%の総合評価とする。

なお、授業運営の都合上、毎回出欠の確認をとる。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数等の事情により授業予定は若干変更になる場合もある。その場合は授業中に指示する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ドイツ語の時間 恋するベルリン』/清野智昭/朝日出版社/20017/9784255253930C1084/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ドイツ語Ⅱ 2016年度以前入学者

101231N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

火曜 2限 木曜 5限

ー

15

週2コマ 「ドイツ語I」を履修済み又はそれと同程度のドイツ語学

力を有すること

青木 三陽

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

読み物・作文、やさしい会話、ビデオ教材の使用などを通じてドイツ語を話す人々の文化や思考法を学ぶ。

また、初級文法の知識を身につけつつ、ドイツ語の文章を正確に読めるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.教科書の内容に沿った文法課題

2.教科書、配布物による文章読解、作文

3.視聴覚教材によるドイツ文化の学習

4.ペア・グループワークによるドイツ語会話やディスカッション、またその練習成果としての口頭発表

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	積極的に学習に取り組もうとする姿勢が見られない	消極的ながら知識を補おうとする努力が見られる	積極的に学習に関心を持ち努力する	常に明確な目的と向上心をもって学習に関心を持ち、努力する
知識・理解力	知識を増やそうとする姿勢が見られない	消極的ながら知識を増やそうとする努力が見られる	積極的に知識を吸収しようとする姿勢が見られる	常により深い知識を求める積極的な姿勢が見られる
言語力	基本的な語彙や文構造を使用することができない	基本的な語彙や文構造を理解することができる	既習項目の内容を基にある程度の会話や作文ができる	多様な語彙、文構造を使用することができる

〔授業計画〕

第 1 回 ドイツの交通事情

第 2 回 人称代名詞の3・4格

第 3 回 再帰代名詞と再帰動詞

第 4 回 名詞の2格

第 5 回 ドイツの医療制度

第 6 回 定冠詞類

第 7 回 不定冠詞類

第 8 回 否定冠詞

第 9 回 書店と「マンガ」

- 第 10 回 zu不定詞句
- 第 11 回 分離動詞
- 第 12 回 話法の助動詞
- 第 13 回 未来形
- 第 14 回 ドイツの美容院
- 第 15 回 今期のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

使用教科書の本文は全て二人の人物の会話で成り立っているため、付属の視聴覚教材を利用しつつ、コミュニケーションの手段としてのドイツ語の有機的な学習を目指す。これはペアワーク・グループワークが主な手段となる。同時に講師による文法項目の解説とそれに続く練習問題により、個別の読解力を養う。いずれにしても積極的な授業参加態度が必要不可欠である。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書付属の視聴覚教材を用いて毎回発音の確認をしておくこと。また、教科書中の練習問題に関しては授業中に予習範囲を具体的に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点50%、定期試験50%の総合評価とする。

なお、授業運営の都合上、毎回出欠の確認をとる。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数等の事情により授業予定は若干変更になる場合もある。その場合は授業中に指示する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ドイツ語の時間 恋するベルリン』/清野智昭/朝日出版社/20017/9784255253930C1084/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学Ⅰ 2016年度以前入学者

101031N0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期集中

その他

ー

30

必修

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、永遠の世界を見据える自校教育(徳育)と、時間的世界を見据えるキャリア教育(知育)とを組み合わせたものである。受講者はこの科目での多面的な学びを通して、ノートルダムの徳と知の精神の基礎を学び、知性と品性を兼ね備えた人間になろうと常に自ら努力することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

カトリック精神・現実社会の諸相を学ぶことを通じて、ノートルダム精神の基礎を身につける。また、ノートルダムの「徳と知の精神」の体得を目指すことで、知性と品性の両方を持つ人間になる素養を身につける。

- ・ノートルダムのミッション・コミットメントの理解
- ・自校についてルーツを含めて知る
- ・自分のキャリアを意識する
- ・学歌を理解し覚え、正しい英語で歌う

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

「ノートルダム学Ⅰ」の導入教育、ノートルダムのミッション・コミットメント(私たちの決意)を学ぶ(吉田智子)

第 2 回 キャリア教育

ノートルダムでのコミュニケーション～学内でのマナーとエチケット～

第 3 回 自校教育(1)

学歌で学ぶノートルダム・スピリット～英語の歌詞を理解して歌うために～

第 4 回 日本文化

茶道に学ぶ～日本文化の入り口～

第 5 回 自校教育(2)

聖母マリアの生活と現代社会

第 6 回 自校教育(3)

自校を知り、自分の将来に役立てる

第 7 回 自校教育(4)

ノートルダムの世界ネットワーク

第 8 回 まとめ

受講した講義のレポートの提出と振り返り（提出されたレポートに対する講評をmanabaにて）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

集中授業として実施される特別プログラムであり、manabaコースの教材を用いたE-Learningを利用して学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

詳細は授業時に指示する。配付されたテキストやプリントを読む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

E-Learningへの授業参加度 30%、提出物 70%で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

2016年度以前入学者用に集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningを利用して学ぶ。

すべての授業を吉田智子（ND教育センター 教授）が統括する。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』京都ノートルダム女子大学、2018年発行

『レーゲンスブルクの船主の娘～カロリーナ・ゲルハルディングー、イエスのマザーテレジア、ノートルダム修道女会創立者～』/シスターマルグリート塩田、シスターマグダレン野元/ノートルダム教育修道女会/1992/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学Ⅱ 2016年度以前入学者

101032N0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期集中
その他
—
30
必修
吉田 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この授業は、永遠的世界を見据える自校教育（徳育）と、時間的世界を見据えるキャリア教育（知育）とを組み合わせたものである。受講者はこの科目での多面的な学びを通して、ノートルダムの徳と知の精神の基礎を学び、知性と

品性を兼ね備えた人間になろうと常に自ら努力することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

カトリック精神・現実社会の諸相を学ぶことを通じて、ノートルダム精神の基礎を身につける。また、ノートルダムの「徳と知の精神」の体得を目指すことで、知性と品性の両方を持つ人間になる素養を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

「ノートルダム学Ⅱ」の導入教育

第 2 回 自校教育(1)

「ノートルダム学Ⅰ」で学んだ自校教育の内容の確認（manabaにて確認）

第 3 回 大学教育(1)

インターネット時代の情報の扱い方(1)～学び方改革をしよう～（神月 紀輔）

第 4 回 大学教育(2)

ND6・ノートルダムで身につける6つの力～「書く力」の大切さ～（吉田 智子）

第 5 回 キャリア教育

女性の権利とライフデザイン

第 6 回 大学教育(3)

インターネット時代の情報の扱い方(2)～ネット社会を味方にするためには～（神月 紀輔）

第 7 回 自校教育(2)

本学の建学の精神とエンパワーメント

第 8 回 まとめ

受講した講義のレポートの提出と振り返り（提出されたレポートに対する講評をmanabaにて）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

集中授業として実施される特別プログラムであり、manabaコースの教材を用いたE-Learningを利用して学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

詳細は授業時に指示する。配付されたテキストやプリントを事前に読んでくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

E-Learningへの授業参加度 30%、提出物 70%で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

2016年度以前入学者用に集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningを利用して学ぶ。

すべての授業を吉田智子（ND教育センター 教授）が統括する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//

『レーゲンスブルクの船主の娘～カロリーナ・ゲルハルディングー、イエスのマザーテレジア、ノートルダム修道女会創立者～』/シスターマルグリート塩田、シスターマグダレン野元/ノートルダム教育修道女会/1992/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学III 2016年度以前入学者

101033U0J
大学
共通教育科目
4年次
1単位 前期集中
その他
ー
30
必修
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業して社会人となることを目前に控え、本学で学んだ大学生活を静かに振り返ることを通して自己の成長を自覚すると共に、社会に出る心構えとしてノートルダム精神(「永遠」を見据えつつ「此の世」でしっかり生きる精神)を再度自覚し直し志を固めることをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1、社会人になる自覚を持ち、ノートルダム精神を再認識して卒業に臨む。
- 2、本学での学生生活を振り返り積極的な自己評価を行う。
- 3、卒業後のキャリアデザインを描くことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
「ノートルダム学III」の導入
- 第 2 回 自校教育(1)
学歌で学ぶノートルダム・スピリット【E-Leraning教材】
- 第 3 回 自校教育(2)
聖母マリアの生活と現代社会【E-Leraning教材】
- 第 4 回 自校教育(3)
自校を知り、自分の将来に役立てる【E-Leraning教材】
- 第 5 回 キャリア教育

- 女性の権利とライフデザイン【E-Leraning教材】
- 第 6 回 自校教育(4)
ノートルダムの世界ネットワーク【E-Leraning教材】
- 第 7 回 自校教育(5)
黙想会(ノートルダム教育修道女会)【E-Leraning教材】
- 第 8 回 まとめ
レポートの提出と振り返り(提出されたレポートに対する講評をmanabaにて)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

この授業では社会人となる心構えとキャリアプランニングを明確にもつこと目指して、集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningを利用して学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は第一回目の授業で指示すると同時に、manabaに文書を掲載する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

E-Learningへの授業参加度 30%、提出物 70%で評価する。E-Learningの教材の学修成果は、manabaのレポート提出結果で確認するので、manabaへの参加は必須である。

〔留意事項 (Other Information)〕

2016年度以前入学者用に集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningも利用して学ぶ。

すべての授業を吉田智子 (ND教育センター 教授) が統括する。

単位習得に関する注意事項は、すべてmanabaに連絡文書として置くので内容を確認し、不明な点は、学事課に相談すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし (必要に応じて、manabaで配布)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学III 2016年度以前入学者

101033W0J
大学
共通教育科目
4年次
1単位 後期集中
その他
ー
30
必修
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業して社会人となることを目前に控え、本学で学んだ大学生活を静かに振り返ることを通して自己の成長を自覚すると共に、社会に出る心構えとしてノートルダム精神(「永遠」を見据えつつ「此の世」でしっかり生きる精神)を再度自覚し直し志を固めることをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1、社会人になる自覚を持ち、ノートルダム精神を再認識して卒業に臨む。
- 2、本学での学生生活を振り返り積極的な自己評価を行う。
- 3、卒業後のキャリアデザインを描くことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
「ノートルダム学III」の導入
- 第 2 回 自校教育(1)
学歌で学ぶノートルダム・スピリット【E-Leraning教材】
- 第 3 回 自校教育(2)
聖母マリアの生活と現代社会【E-Leraning教材】
- 第 4 回 自校教育(3)
自校を知り、自分の将来に役立てる【E-Leraning教材】
- 第 5 回 キャリア教育
女性の権利とライフデザイン【E-Leraning教材】
- 第 6 回 自校教育(4)
ノートルダムの世界ネットワーク【E-Leraning教材】
- 第 7 回 自校教育(5)
黙想会(ノートルダム教育修道女会)【E-Leraning教材】
- 第 8 回 まとめ
レポートの提出と振り返り(提出されたレポートに対する講評をmanabaにて)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

この授業では社会人となる心構えとキャリアプランニングを明確にもつこと目指して、集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningを利用して学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は第一回目の授業で指示すると同時に、manabaに文書を掲載する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

E-Learningへの授業参加度 30%、提出物 70%で評価する。E-Learningの教材の学修成果は、manabaのレポート提出結果で確認するので、manabaへの参加は必須である。

〔留意事項 (Other Information)〕

2016年度以前入学者用に集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningも利用して学ぶ。

すべての授業を吉田智子 (ND教育センター 教授) が統括する。

単位習得に関する注意事項は、すべて manabaに連絡文書として置くので内容を確認し、不明な点は、学事課に相談すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし (必要に応じて、配布)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 I A 2016年度以前入学者

101234A0J
大学
共通教育科目
1年次 2年次 3年次 4年次
1単位 後期前半
月曜 1限 水曜 2限
ー
15
週2コマ
田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうこと

を目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭にフランスの文化（歌や映画や文学）について紹介します。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞の活用などの文法的側面を、同じほど重視しながら学習します。皆さんが直面する最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識が不十分	フランス語文法の基本的知識の習得がでている	フランス語文法の冠詞や動詞を体系的に理解	フランス語文法の体系的理解を踏まえて読解・作文ができる
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が不十分	発音と綴り字の読み方の習得を踏まえて簡単な挨拶ができる	簡単な会話ができ、簡単な文章が読める	ある程度の会話ができ、ある程度の文章の読み書きができる

【授業計画】

- 第 1 回 発音Ⅰ 基本母音と子音・綴り字の読み方の規則①
フランス語綴り字は見たとおりには読まない！
- 第 2 回 発音Ⅱ 綴り字の読み方の規則②
フランス語特有の音楽とは（リズム・アクセント・イントネーション）？
- 第 3 回 第1課 名詞・形容詞・冠詞
- 第 4 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。原則として一つの課を2回で学習します。）
- 第 5 回 第2課 動詞の直説法現在 英語は動詞活用がきわめて簡略化された言語ですが、フランス語は古くからの活用を保存しているので、英語に比べるとかなり複雑です！
- 第 6 回 第3課 部分冠詞 フランス語には英語よりも多くの冠詞がある！
- 第 7 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）
- 第 8 回 第4課 比較構文 英語とフランス語はよく似ているので、英語からの類推はかなり有効です。比較構文は英語と基本的に同じ（しかもより簡単）！
- 第 9 回

同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

- 第 10 回 第5課 複合過去 英語の現在完了とは似て異なるもの！似ていてもかなり違うことがあるので要注意！
- 第 11 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）
- 第 12 回 第6課 命令法 英語からの類推が有効なケースです。命令法も英語とほぼ同じ。
- 第 13 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）
- 第 14 回 第7課 代名動詞 英語の再帰動詞がフランス語では大活躍しますが、それはなぜ？
- 第 15 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

簡単な「まとめテスト」を実施します。

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

定期試験は実施しません。第15回目に前期前半の「まとめテスト」を行います。

【教育・学習の方法（Course Methods）】

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切なのです。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の教科の勉強とは違います。理解するだけでは不十分で、体で覚えなければならないのです。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

授業への参加度（出席および練習問題）と「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

【留意事項（Other Information）】

コロナ禍の状況下でオンライン授業になるか対面授業になるか、あるいはブレンド授業になるかは、今のところ未定です。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/9784010753088

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

101234B0J
大学
共通教育科目
1年次 2年次 3年次 4年次
1単位 後期前半
月曜 2限 水曜 1限
15
週2コマ
田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭にフランスの文化(歌や映画や文学)について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞の活用などの文法的側面を、同じほど重視しながら学習します。皆さんが直面する最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識が不十分	フランス語文法の基礎的知識が習得できている	フランス語文法の体系的知識(冠詞のシステムや動詞のシステム)を理解している	フランス語文法の体系的知識を踏まえて読解や作文ができる程度できる
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できていない	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できている	フランス語の簡単な会話ができ、簡単な文章を読める	ある程度の会話ができて、ある程度の文章が書ける

〔授業計画〕

第 1 回 発音 I 基本母音と子音・綴り字の読み方の規則
①

フランス語綴り

字は見たとおりには読まない!

第 2 回 発音 II 綴り字の読み方の規則②

フランス語特有の音楽とは(リズム・アクセント・イントネーション)?

第 3 回 第 1 課 名詞・形容詞・冠詞
第 4 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。原則として一つの課を 2 回で学習します。)
第 5 回 第 2 課 動詞の直説法現在 英語は動詞活用がきわめて簡略化された言語ですが、フランス語は古くからの活用を保存しているため、英語に比べるとかなり複雑です!

第 6 回 第 3 課 部分冠詞 フランス語には英語よりも多くの冠詞がある!

第 7 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)

第 8 回 第 4 課 比較構文 英語とフランス語はよく似ているので、英語からの類推はかなり有効です。比較構文は英語と基本的に同じ(しかもより簡単)!

第 9 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)

第 10 回 第 5 課 複合過去 英語の現在完了とは似て異なるもの! 似ていてもかなり違うことがあるので要注意!

第 11 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)

第 12 回 第 6 課 命令法 英語からの類推が有効なケースです。命令法も英語とほぼ同じ。

第 13 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)

第 14 回 第 7 課 代名動詞 英語の再帰動詞がフランス語では大活躍しますが、それはなぜ?

第 15 回 同上 (練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。)

「まとめテスト」を実施します。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しません。第 15 回目に前期前半の「まとめテスト」を行います。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切なのです。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるということで、この点スポーツとよく似ています。他の教科の勉強とは違います。理解するだけでは不十分で、体で覚えなければならないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度（出席および練習問題）と「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

コロナ禍の状況下でオンライン授業になるか対面授業になるか、あるいはブレンド授業になるかは、今のところ未定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 I C 2016年度以前入学者

101234C0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 3限 金曜 3限

—

15

週2コマ

田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書（この教科書は一生使えます）を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭にフランスの文化（歌や映画や文学）について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞の活用などの文法的側面を、同じほど重視しながら学習します。皆さんが直面する最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識が不十分	フランス語の基礎的知識が習得できている	フランス語文法の定型的知識（冠詞のシステムや動詞のシステム）を理解している	フランス語文法の体系的知識を踏まえて読解や作文がある程度できる
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できていない	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得でき、簡単な挨拶ができる	フランス語の簡単な会話ができ、簡単な文章が読める	ある程度の会話ができて、ある程度の文章が読める

〔授業計画〕

- 第 1 回 発音 I 基本母音と子音・綴り字の読み方の規則
① フランス語綴り字は見たとおりに読まない！
- 第 2 回 発音 II 綴り字の読み方の規則②
フランス語特有の音楽とは（リズム・アクセント・イントネーション）？
- 第 3 回 第 1 課 名詞・形容詞・冠詞
- 第 4 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。原則として一つの課を 2 回で学習します。）
- 第 5 回 第 2 課 動詞の直説法現在 英語は動詞活用がきわめて簡略化された言語ですが、フランス語は古くからの活用を保存しているため、英語に比べるとかなり複雑です！
- 第 6 回 第 3 課 部分冠詞 フランス語には英語よりも多くの冠詞がある！
- 第 7 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）
- 第 8 回 第 4 課 比較構文 英語とフランス語はよく似ているので、英語からの類推はかなり有効です。比較構文は英語と基本的に同じ（しかもより簡単）！
- 第 9 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）
- 第 10 回 第 5 課 複合過去 英語の現在完了とは似て異なるもの！似ていてもかなり違うことがあるので要注意！
- 第 11 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）
- 第 12 回 第 6 課 命令法 英語からの類推が有効なケースです。命令法も英語とほぼ同じ。
- 第 13 回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）
- 第 14 回

第7課 代名動詞 英語の再帰動詞がフランス語では大活躍しますが、それはなぜ？

第15回 同上（練習問題と仏文和訳と和文仏訳を行います。）

簡単な「まとめテスト」を行います。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しません。第15回目に前期前半の「まとめテスト」を行います。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切なのです。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達は毎日すこしづつ身につけるということで、この点スポーツとよく似ています。他の教科の勉強とは違います。理解するだけでは不十分で、体で覚えなければならないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（出席および練習問題）と「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項（Other Information）〕

※ 第15回目に「まとめテスト」を実施します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語ⅡA 2016年度以前入学者

101235A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜1限 水曜2限

—

15

週2コマ「フランス語I」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。

田中 敏彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書（この教科書は一生使えます）を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても適宜お話しするつもりです。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同様に重視して学習します。開始後の最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識が不十分	フランス語文法の基礎的知識が習得できている	フランス語文法の体系的知識（冠詞のシステムや動詞のシステム）を理解している	フランス語文法の体系的知識を踏まえて読解や作文ができる程度である
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できていない	フランス語の発音と綴り字の読み方が取得でき、簡単な挨拶ができる	フランス語の簡単な会話ができて、簡単な文章が読める	フランス語のある程度のレベルの会話ができて、ある程度のレベルの文章が読める

〔授業計画〕

第1回

- 後半の第1回目にはフランス語の動詞システム(アスペクト・時制・叙法)について概観します。これを知っていればフランス語学習のある程度の見通しを持つことができるはずです。
- 第2回 第8課 直説法半過去・大過去 これ以後新しい動詞活用が次から次へと出てきます。活用には一定のルールがあるので、見かけほど覚えるのは難しくはありません!
- 第3回 同上
- 第4回 第9課 単純未来・前未来 英語は助動詞を使って未来を表現しますが、フランス語は独立した未来形の活用をもっています。
- 第5回 同上
- 第6回 第10課 疑問代名詞・関係代名詞 疑問代名詞は関係代名詞としても使います。これも英語と同じです。
- 第7回 同上
- 第8回 第11課 単純過去・前過去 単純過去は歴史上や物語上の出来事を示す活用形で、これを知らずに小説は読めません!
- 第9回 同上
- 第10回 第12課 条件法 条件法とは、直接法の過去未来が転じて、事実とは異なる動作・状態を表現するようになったものです。これで非現実の世界を表現します。
- 第11回 同上
- 第12回 第13課 接続法現在・過去 接続法は英語にもあります。仮定法現在と呼ばれているものです。しかし英語には本来の接続法の断片しか残っていません。
- 第13回 同上 フランス語には古くからの接続法の全体が残っています。
- 第14回 予備 余裕があればシャンソンの名曲を聴いていただこうと思っています。ここまでくれば「愛の賛歌」でも「枯葉」でも歌詞の意味がわかります!
- 第15回 「まとめテスト」を行います。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 定期試験はおこないません。30回目に後半の「まとめテスト」を行います。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- 授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要がありますので、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- 教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように単に知的に覚えるだけでは十分ではないのです。体で覚えるということが必要なのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度(出席および練習問題)と二回行う「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

コロナ禍の状況下でオンライン授業になるか対面授業になるか、あるいはブレンド授業になるかは、今のところ未定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/2010年第4版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 II B 2016年度以前入学者

101235BOJ

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜 2限 水曜 1限

ー

15

週2コマ 「フランス語I」履修済み又はそれと同程度のフランス語学力を有すること。

田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても適宜お話しするつもりです。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同様に重視して学習します。開始後の最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識が不十分	フランス語文法の基礎的知識が習得できている	フランス語文法の体系的知識(冠詞のシステムや動詞のシステム)を理解している	フランス語文法の体系的知識を踏まえて読解や作文ができる程度できる
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できていない	フランス語の発音と綴り字の読み方が取得でき、簡単な挨拶ができる	フランス語の簡単な会話ができ、簡単な文章が読める	フランス語のある程度のレベルの会話ができて、ある程度のレベルの文章が読める

〔授業計画〕

- 第 1 回 後半の第 1 回目にはフランス語の動詞システム(アスペクト・時制・叙法)について概観します。これを知っていればフランス語学習のある程度の見通しを持つことができるはずです。
- 第 2 回 第 8 課 直説法半過去・大過去 これ以後新しい動詞活用が次から次へと出てきます。活用には一定のルールがあるので、見かけほど覚えるのは難しくはありません!
- 第 3 回 同上
- 第 4 回 第 9 課 単純未来・前未来 英語は助動詞を使って未来を表現しますが、フランス語は独立した未来形の活用をもっています。
- 第 5 回 同上
- 第 6 回 第 10 課 疑問代名詞・関係代名詞 疑問代名詞は関係代名詞としても使います。これも英語と同じです。
- 第 7 回 同上
- 第 8 回 第 11 課 単純過去・前過去 単純過去は歴史上や物語上の出来事を示す活用形で、これを知らずに小説は読めません!
- 第 9 回 同上
- 第 10 回 第 12 課 条件法 条件法とは、直接法の過去未来が転じて、事実とは異なる動作・状態を表現するようになったものです。これで非現実の世界を表現します。
- 第 11 回 同上
- 第 12 回 第 13 課 接続法現在・過去 接続法は英語にもあります。仮定法現在と呼ばれているものです。しかし英語には本来の接続法の断片しか残っていません。
- 第 13 回 同上 フランス語には古くからの接続法の全体が残っています。
- 第 14 回 予備 余裕があればシャンソンの名曲を聴いていただこうと思っています。ここまでくれば「愛の

賛歌」でも「枯葉」でも歌詞の意味がわかります!

第 15 回 「まとめテスト」を行います。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験はおこないません。30 回目に後半の「まとめテスト」を行います。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように単に知的に覚えるだけでは十分ではないのです。体で覚えるということが必要なのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度(出席および練習問題)と二回行う「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

コロナ禍の状況下でオンライン授業になるか対面授業になるか、あるいはブレンド授業になるかは、今のところ未定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5 訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/2010年 第4版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

101235C0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 3限 金曜 3限

ー

15

週2コマ 「フランス語I」履修済み又はそれと同程度のフランス語
学力を有すること。

田中 敏彦

【科目の教育目標 (Course Description)】

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標とします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても適宜お話すつもりです。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同様に重視して学習します。開始後の最初の山は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識が不十分	フランス語文法の基礎的知識が習得できている	フランス語文法の体系的知識(冠詞のシステムや動詞のシステム)を理解している	フランス語文法の体系的知識を踏まえて読解や作文ができる程度できる
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できていない	フランス語の発音と綴り字の読み方が取得でき、簡単な挨拶ができる	フランス語の簡単な会話ができ、簡単な文章が読める	フランス語のある程度のレベルの会話ができて、ある程度のレベルの文章が読める

【授業計画】

第 1 回

後半の第 1 回目にはフランス語の動詞システム(アスペクト・時制・叙法)について概観します。これを知っていればフランス語学習のある程度の見通しを持つことができるはずですよ。

第 2 回 第 8 課 直説法半過去・大過去 これ以後新しい動詞活用が次から次へと出てきます。活用には一定のルールがあるので、見かけほど覚えるのは難しくはありません!

第 3 回 同上

第 4 回 第 9 課 単純未来・前未来 英語は助動詞を使って未来を表現しますが、フランス語は独立した未来形の活用をもっています。

第 5 回 同上

第 6 回 第 10 課 疑問代名詞・関係代名詞 疑問代名詞は関係代名詞としても使います。これも英語と同じです。

第 7 回 同上

第 8 回 第 11 課 単純過去・前過去 単純過去は歴史上や物語上の出来事を示す活用形で、これを知らずに小説は読めません!

第 9 回 同上

第 10 回 第 12 課 条件法 条件法とは、直接法の過去未来が転じて、事実とは異なる動作・状態を表現するようになったものです。これで非現実の世界を表現します。

第 11 回 同上

第 12 回 第 13 課 接続法現在・過去 接続法は英語にもあります。仮定法現在と呼ばれているものです。しかし英語には本来の接続法の断片しか残っていません。

第 13 回 同上 フランス語には古くからの接続法の全体が残っています。

第 14 回 予備 余裕があればシャンソンの名曲を聴いていただこうと思っています。ここまでくれば「愛の賛歌」でも「枯葉」でも歌詞の意味がわかります!

第 15 回 「まとめテスト」を行います。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

定期試験はおこないません。30 回目に後半の「まとめテスト」を行います。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといって、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように単に知的に覚えるだけでは十分ではないのです。体で覚えるということが必要なのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (出席および練習問題) と二回行う「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

コロナ禍の状況下でオンライン授業になるか対面授業になるか、あるいはブレンド授業になるかは、今のところ未定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/5訂版/9784560060919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/2010年第4版/9784010753088

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 A 2017年度以降入学者

GBF1350AJ
大学
共通教育科目
1年次
2単位 後期
月曜1限 水曜2限
DP3: 言語力
30
週2コマ
田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭でフランスの文化(シャンソン・映画・文学・絵画など)について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同時に学習します。皆さんが直面する最初の課題は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必

要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識と理解が不十分	フランス語文法の基礎的知識を習得している	フランス語文法の体系的知識(冠詞のシステムや動詞のシステム)を習得している	フランス語文法の体系的知識を踏まえて読解や作文がある程度できる
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できていない	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得でき、簡単な挨拶ができる	フランス語の簡単な会話ができ、簡単な文章が読める	フランス語のある程度のレベルの会話ができて、ある程度のレベルの文章が読める

〔授業計画〕

- 第1回 (対面) 発音1 基本母音と子音
- 第2回 (対面) 発音2 綴り字の読み方①「フランス語の綴り字は見たまま読まない」
- 第3回 (対面) 綴り字の読み方②
- 第4回 (対面) リエゾン・アンシェンヌマン・エリジョン「リエゾンの多さは仏語の特徴」
- 第5回 (対面) フランス語特有の音楽とは(リズム・アクセント・イントネーション)
- 第6回 第1課 名詞・形容詞・冠詞および第一群規則動詞
- 第7回 第2課 第二群規則動詞 否定文・疑問文
- 第8回 第3課 冠詞のシステム(不定冠詞・定冠詞・部分冠詞) 仏語特有の冠詞・部分冠詞
- 第9回 第4課 形容詞と副詞の比較級最上級
- 第10回 (対面) 練習問題
- 第11回 第5課 複合過去「仏語の複合過去は英語の現在完了と過去形を合わせたもの」
- 第12回 練習問題
- 第13回 第6課 命令法
- 第14回 練習問題
- 第15回 (対面)
- 第16回 フランス語動詞システムの概観
- 第17回 第7課 代名動詞「代名動詞の活躍はフランス語の特徴」
- 第18回 練習問題
- 第19回 第8課 直説法の半過去・大過去
- 第20回 (対面) 練習問題
- 第21回 第9課 単純未来・前未来
- 第22回 練習問題
- 第23回 第10課 疑問代名詞・関係代名詞
- 第24回 練習問題
- 第25回 (対面) 第11課 単純過去「物語上の、ならびに歴

史上の出来事を示す」単純過去

第26回 第12課 条件法 「直説法は現実を、条件法は非現実を表現する」

第27回 第13課 接続法 「直説法は現実を、接続法は現実以前の可能性を表現する」

第28回 練習問題

第29回 第14課 接続法・半過去・大過去

第30回 (対面) 最終試験

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

第15回目と第30回目 (最終回) に「まとめテスト」を実施します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように知識を得るだけでなく、「体で覚え」なければ、実際の役にはたたないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (課題や練習問題) と、二回の「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

コロナ禍の状況下でオンライン授業になるか対面授業になるか、あるいはブレンド授業になるかは、今のところ未定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/最新版/ISBN: 9784560060919/1

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/ISBN:4010750510

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語 B 2017年度以降入学者

GBF1350BOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

月曜 2限 水曜 1限

DP3: 言語力

30

週2コマ

田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書(この教科書は一生使えます)を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭でフランスの文化(シャンソン・映画・文学・絵画など)について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同時に学習します。皆さんが直面する最初の課題は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識と理解が不十分	フランス語文法の基礎的知識を習得している	フランス語文法の体系的知識(冠詞のシステムや動詞のシステム)を習得している	フランス語文法の体系的知識を踏まえて読解や作文ができる程度できる
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できていない	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得でき、簡単な挨拶ができる	フランス語の簡単な会話ができ、簡単な文章が読める	フランス語のある程度のレベルの会話ができて、ある程度のレベルの文章が読める

〔授業計画〕

- 第1回 (対面) 発音1 基本母音と子音
 - 第2回 (対面) 発音2 綴り字の読み方①「フランス語の綴り字は見たまま読まない」
 - 第3回 (対面) 綴り字の読み方②
 - 第4回 (対面) リエゾン・アンシェンヌマン・エリジョン
「リエゾンの多さは仏語の特徴」
 - 第5回 (対面) フランス語特有の音楽とは (リズム・アクセント・イントネーション)
 - 第6回 第1課 名詞・形容詞・冠詞および第一群規則動詞
 - 第7回 第2課 第二群規則動詞 否定文・疑問文
 - 第8回 第3課 冠詞のシステム (不定冠詞・定冠詞・部分冠詞) 仏語特有の冠詞・部分冠詞
 - 第9回 第4課 形容詞と副詞の比較級最上級
 - 第10回 (対面) 練習問題
 - 第11回 第5課 複合過去「仏語の複合過去は英語の現在完了と過去形を合わせたもの」
 - 第12回 練習問題
 - 第13回 第6課 命令法
 - 第14回 練習問題
 - 第15回 (対面)
 - 第16回 フランス語動詞システムの概観
 - 第17回 第7課 代名動詞 「代名動詞の活躍はフランス語の特徴」
 - 第18回 練習問題
 - 第19回 第8課 直説法の半過去・大過去
 - 第20回 (対面) 練習問題
 - 第21回 第9課 単純未来・前未来
 - 第22回 練習問題
 - 第23回 第10課 疑問代名詞・関係代名詞
 - 第24回 練習問題
 - 第25回 (対面) 第11課 単純過去 「物語上の、ならびに歴史上の出来事を示す」単純過去
 - 第26回 第12課 条件法 「直説法は現実を、条件法は非現実を表現する」
 - 第27回 第13課 接続法 「直説法は現実を、接続法は現実以前の可能性を表現する」
 - 第28回 練習問題
 - 第29回 第14課 接続法・半過去・大過去
 - 第30回 (対面) 最終試験
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

第15回目と第30回目 (最終回) に「まとめテスト」を実施します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目の

ように知識を得るだけでなく、「体で覚え」なければ、実際の役にはたたないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (課題や練習問題) と、二回の「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

コロナ禍の状況下でオンライン授業になるか対面授業になるか、あるいはブレンド授業になるかは、今のところ未定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/最新版/ISBN : 9784560060919/1

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/ISBN:4010750510

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フランス語C 2017年度以降入学者

GBF1350C0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 前期
 月曜 3限 金曜 3限
 DP3 : 言語力
 30
 週2コマ
 田中 敏彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新しい外国語を学ぶことは、多大な努力と時間が必要ですが、英語以外の視野と情報源を新しく獲得することになり、大げさに言うと、これからの人生を左右する程の意味をもつこととなります。必要十分な文法事項を詰め込んだ教科書 (この教科書は一生使えます) を使用して、半年間で「知的道具としてのフランス語」の基礎を習得してもらうことを目標にします。同時に、「言語としてのフランス語」の観点から、日本語や英語と比較しながら、フランス語文法のしくみを解説します。会話・コミュニケーションでつかう「意思疎通の道具としてのフランス語」についても少し練習する予定です。毎回冒頭でフランスの文化 (シャンソン・映画・文学・絵画など) について紹介します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フランス語の基礎である、発音・綴り字の読み方など音声的側面と、冠詞の用法や動詞活用変化などの文法的側面を、同時に学習します。皆さんが直面する最初の課題は綴りの読み方です。ローマ字式の読み方や英語風の読み方とは異

なった、フランス語の綴り字の読み方のルールを覚える必要があります。後半の山場は、英語に比べると複雑な動詞の活用です。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	フランス語文法の知識と理解が不十分	フランス語文法の基礎的知識を習得している	フランス語文法の体系的知識(冠詞のシステムや動詞のシステム)を習得している	フランス語文法の体系的知識を踏まえて読解や作文ができる程度である
言語力	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得できていない	フランス語の発音と綴り字の読み方が習得でき、簡単な挨拶ができる	フランス語の簡単な会話ができ、簡単な文章が読める	フランス語のある程度のレベルの会話ができ、ある程度のレベルの文章が読める

〔授業計画〕

- 第1回 (対面) 発音1 基本母音と子音
- 第2回 (対面) 発音2 綴り字の読み方①「フランス語の綴り字は見たまま読まない」
- 第3回 (対面) 綴り字の読み方②
- 第4回 (対面) リエゾン・アンシェンヌマン・エリジョン「リエゾンの多さは仏語の特徴」
- 第5回 (対面) フランス語特有の音楽とは(リズム・アクセント・イントネーション)
- 第6回 第1課 名詞・形容詞・冠詞および第一群規則動詞
- 第7回 第2課 第二群規則動詞 否定文・疑問文
- 第8回 第3課 冠詞のシステム(不定冠詞・定冠詞・部分冠詞) 仏語特有の冠詞・部分冠詞
- 第9回 第4課 形容詞と副詞の比較級最上級
- 第10回 (対面) 練習問題
- 第11回 第5課 複合過去「仏語の複合過去は英語の現在完了と過去形を合わせたもの」
- 第12回 練習問題
- 第13回 第6課 命令法
- 第14回 練習問題
- 第15回 (対面)
- 第16回 フランス語動詞システムの概観
- 第17回 第7課 代名動詞「代名動詞の活躍はフランス語の特徴」
- 第18回 練習問題
- 第19回 第8課 直説法の半過去・大過去
- 第20回 (対面) 練習問題
- 第21回 第9課 単純未来・前未来
- 第22回 練習問題
- 第23回 第10課 疑問代名詞・関係代名詞
- 第24回 練習問題
- 第25回 (対面) 第11課 単純過去「物語上の、ならびに歴

史上の出来事を示す」単純過去

第26回 第12課 条件法「直説法は現実を、条件法は非現実を表現する」

第27回 第13課 接続法「直説法は現実を、接続法は現実以前の可能性を表現する」

第28回 練習問題

第29回 第14課 接続法・半過去・大過去

第30回 (対面) 最終試験

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

第15回目と第30回目(最終回)に「まとめテスト」を実施します。

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

授業以外にラジオ講座・テレビ講座の視聴することを強くすすめておきます。言語は頭で理解すると同時に体で覚える必要があるため、できるだけフランス語に接する機会をふやすことが大切です。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

教科書に載っている練習問題の予習・復習にまずは努力しましょう。語学の上達法は毎日すこしづつ身につけるといふことで、この点スポーツとよく似ています。他の科目のように知識を得るだけでなく、「体で覚え」なければ、実際の役にはたさないのです。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

30

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

授業への参加度(課題や練習問題)と、二回の「まとめテスト」の成績をもとに総合的に評価します。

〔留意事項(Other Information)〕

コロナ禍の状況下でオンライン授業になるか対面授業になるか、あるいはブレンド授業になるかは、今のところ未定です。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新初等フランス語教本《文法編》』/京都大学フランス語教室編/白水社/最新版/ISBN:9784560060919/1

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』/倉方秀憲ほか/旺文社/最新版/ISBN:4010750510

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ヨーロッパ近現代史

GEH1252NOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 後期
 月曜3限
 DP2：知識・理解力
 60
 上山 益己

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

受講生はこの授業を通じて、

1. ヨーロッパ近現代史の基本的な知識を身につけることができる。
2. ヨーロッパ世界の拡大が世界に与えた影響を理解できる。
3. 近年のヨーロッパ情勢について、歴史的に説明することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ヨーロッパ近現代史の基本的知識を得る。
2. グローバルな視点を重視し、ヨーロッパとアジアやアフリカとの関係にもふれる。
3. 現代の国際社会の諸問題について、その背景を歴史的に理解できるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入：ヨーロッパの歴史を学ぶ意味
- 第 2 回 ヨーロッパによる海外進出の開始
- 第 3 回 世界交易における英仏の覇権争い
- 第 4 回 「啓蒙の光」と近代思想の誕生
- 第 5 回 二つの革命～アメリカとフランス～
- 第 6 回 ナポレオンの帝国
- 第 7 回 近代化の伝播
- 第 8 回 ウィーン体制の崩壊とドイツ・イタリアの統一
- 第 9 回 植民地帝国という野望の衝突
- 第 10 回 抗うアジア・アフリカの人びと
- 第 11 回 第一次世界大戦の激震
- 第 12 回 ドイツの荒廃とナチスの台頭

第 13 回 第二次世界大戦の悪夢

第 14 回 冷戦、そして現代へ

第 15 回 まとめ：近代ヨーロッパの光と影

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業の実施方法

- (1) 授業は講義形式で行う。
- (2) プリントを配布し、それをもとに授業を進める。
- (3) 理解を深めるため、視覚資料 (画像・写真・映像など) を積極的に利用する。

2. 学習の方法

- (1) 授業中は口頭で話す内容も含め、積極的にノートをとること。
- (2) 授業後にはテキストやノートに基づいて復習すること。
- (3) 不明な点は、各回の授業終了後に質問すること。

3. 試験に対するフィードバックの方法

試験では、単なる国名や人物名ではなく、西欧近現代史の全体的な流れを把握しているかどうか問われる。このため、授業の内容をしっかりとノートなどに取り、これをよく理解する必要がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 事前に前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。
2. 授業で紹介する文献・映像作品を鑑賞すると理解が深まる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (90%) に受講態度 (10%) を加味して総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- (1) 授業の進度や受講生の状況に応じて、予定を変更する場合があります。
- (2) 講義中の私語や携帯電話の使用など、他の受講生に迷惑を及ぼすと考えられる行為には、退室を命じるなど厳格に対処する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『アニメで読む世界史』/藤川隆男 (編) /山川出版社/2011/9784634640740

『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』/小山哲ほか (編) /ミネルヴァ書房/2011/9784623059386

『興亡の世界史 近代ヨーロッパの覇権』/福井憲彦/講談社/2017/9784062924672

〔参考URL(URL for Reference)〕

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語リスニング初級

GBE2303NOJ
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 前期
 火曜 2限
 DP3：言語力
 15
 集中

Jacques Wilburn Hardy Jr.

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course focuses on improving student's listening comprehension. Students will become more comfortable with listening to a variety of short listening texts such as conversations, YouTube clips, interviews, songs, and short talks.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students will...

? be able to identify main ideas and some details of spoken conversations and short talks

? increase their vocabulary of common words through study of vocabulary from audio texts

? be able to say or write their opinions on audio texts

? be able to listen to English more comfortably and confidently

? develop a habit of listening to English at home for enjoyment and learning

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can understand main ideas of short conversations and talks	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can understand important details in short conversations and talks	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Knows the meaning of selected words from the NGSL	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can maintain a weekly home listening regimen	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

- 第 1 回 course introduction
- 第 2 回 Family life
- 第 3 回 daily routines
- 第 4 回 Kyoto cafes
- 第 5 回 Journeys
- 第 6 回 Hopes and dreams
- 第 7 回 health and longevity
- 第 8 回 midterm review
- 第 9 回 Planes, trains, and automobiles
- 第 10 回 Shopping
- 第 11 回 In the news
- 第 12 回 A special occasion
- 第 13 回 festivals around the world
- 第 14 回 Listening journal presentations
- 第 15 回 Course review

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

I will conduct this course in English. Activities include focused listening, vocabulary study (text-specific and NGSL), independent listening for enjoyment, summarizing, discussion, practicing dialogs, and collaborative creative work. Students will engage in class individually, in pairs, and in small groups. Students will receive ongoing oral and written feedback.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students will often work together, so it is important that you prepare for class by bringing your course materials and doing any assigned homework.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

10

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Participation and preparation 20%

Homework assignments 20%

quizzes 20%

Listening journal 40%

[留意事項 (Other Information)]

The course schedule may change to suit the needs of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

There is no textbook. I will provide printouts every class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語リスニング中級

GBE2353A0J

大学
共通教育科目

2年次

1単位 後期

火曜2限

DP3 : 言語力

15

集中

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course focuses on improving student's listening comprehension. Students will become more comfortable with listening to a variety of short listening texts such as conversations, YouTube clips, interviews, songs, and short talks.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will...

? be able to identify main ideas and details in longer and faster conversations and talks

? increase their vocabulary of common words through study of vocabulary from audio texts

? be able to say or write their opinions on audio texts

? be able to listen to English more comfortably and confidently

? develop a habit of listening to English at home for enjoyment and learning

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
can understand main ideas of conversations and talks	Does not meet course expectations yet	meets some course expectations	meets most course expectations and excels in some criteria	exceeds most course criteria
can understand important details in conversations and talks	Does not meet course expectations yet	meets some course expectations	meets most course expectations and excels in some criteria	exceeds most course criteria

knows the meaning of selected words from the NGSL	Does not meet course expectations yet	meets some course expectations	meets most course expectations and excels in some criteria	exceeds most course criteria
can maintain a weekly home listening regimen	Does not meet course expectations yet	meets some course expectations	meets most course expectations and excels in some criteria	exceeds most course criteria

〔授業計画〕

第 1 回 Class introduction

第 2 回 Study and motivation

第 3 回 the environment

第 4 回 Ideal careers

第 5 回 a character I admire

第 6 回 Express yourself!

第 7 回 family roles

第 8 回 midterm review

第 9 回 journal presentations

第 10 回 house hunting

第 11 回 Family roles

第 12 回 growing up

第 13 回 In the news

第 14 回 Happy holidays

第 15 回 Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

I will conduct this course in English.

Activities include focused listening, vocabulary study (text-specific and NGSL), independent listening for enjoyment, summarizing, discussion, practicing dialogs, and collaborative creative work. Students will engage in class individually, in pairs, and in small groups. Students will receive ongoing oral and written feedback

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will often work together, so it is important that you prepare for class by bringing your course materials and doing any assigned homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation and preparation 20%

Homework assignments 20%

quizzes 20%

Listening journal 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語実践 (4 技能) I

GBE2306N0E

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期集中

その他

DP3: 言語力

15

集中

Daniel Pearce Jacques Wilburn Hardy Jr.
Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to promote and practice further usage of the four skills in English communication. Students are encouraged to find a balance between input and output while striving to improve their practical English skills over time.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will have shown improvement in: 1) Their attitude towards English, realizing that English is a tool for communication purposes and that regular and ongoing efforts at using English will result in measurable gains as well as a positive attitude to further language studies, and 2) Any of the four skills practiced, as well as the increased vocabulary used and a better understanding that using correct grammar is necessary, simply to express meaning effectively.

Students will have been exposed to a wide variety of input and output opportunities including conversations, interviews, short videos, games, activities and live spoken English by the teacher and fellow classmates.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to interact	Develops a proactive stance to interaction	Is proactive in interaction even for difficult topics
知識・理解力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to learn about the topics	Demonstrates learning from each session	Shows a deepening understanding of the topics covered

言語力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to improve linguistic ability	Demonstrates concrete strategies to improving linguistic ability	Demonstrates advancement in linguistic ability
思考・解決力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to understand others opinions	Demonstrates an ability to mediate different opinions	Shows reasoned opinions based on new information
共生・協働する力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to contribute to group discussion	Contributes new information to group discussion	Shows contribution to and learning from group discussion

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

Introduction to the course: Writing, Speaking & Fluency components. Ice-breaking activities and discussion of individual goals for the course

第 2 回 The Four Seasons

Activities will involve discussing/writing about the four seasons: Likes and dislikes, seasonal change, seasonal activities and customs, etc.

第 3 回 School Life

Activities will involve discussing/writing about school life: Study habits, friendships and relationships, goals, struggles, etc.

第 4 回 Sports Activities

Activities will involve discussing/writing about sports: Club activities, sports interests, sports viewing etc.

第 5 回 Domestic Travel

Activities will involve discussing/writing about domestic travel: Personal experiences, interesting places, tourism, inbound tourists etc.

第 6 回 Friends

Activities will involve discussing/writing about friends: Making, building, and maintaining relationships, friend circles, activities and interests, etc.

第 7 回 Hobbies

Activities will involve discussing/writing about hobbies and pastimes: The importance of hobbies, sharing stories of hobbies, how time is spent on hobbies, productive hobbies, etc.

第 8 回 Part-time Jobs

Activities will involve discussing/writing about part-time jobs: Wages, working, experiences, and how part-time jobs interact with university life.

第 9 回 Food

- Activities will involve discussing/writing about food: Eating habits, favorite foods, food culture, cooking, etc.
- 第 10 回 TV & Movies
Activities will involve discussing/writing about television and movies: Watching habits, streaming services, influential media, cultural differences in storytelling, etc.
- 第 11 回 Health
Activities will involve discussing/writing about health: Physical and mental, the importance of exercise and diet, good and bad stress, individual differences, etc.
- 第 12 回 The Future
Activities will involve discussing/writing about the future: Personal future goals, societal trends, generational differences and hopes for/concerns about the future.
- 第 13 回 Music
Activities will involve discussing/writing about music: Listening habits, song meanings, as well as individual musical pursuits etc.
- 第 14 回 Social Media
Activities will involve discussing/writing about social media: Usage habits
- 第 15 回 Reflection and Final task
Reflection over the course: What has been achieved, what skills need more work. Preparation for and presentation of the final assessment.

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

Students will receive extensive and ongoing formative feedback during four skills activities in class. They will also receive feedback on the content and delivery of activities done for homework.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive reading, listening, and preparation for in-class activities.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Students will be evaluated based on efforts at improving their English in and out of class.

Participation 50%

Writing Assignment 25%

Speaking Interview 25%

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

なし

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

なし

[参考URL(URL for Reference)]

Reading practice- <https://www.newslevels.com/>

Reading practice - <http://www.cdiponline.org/>

Listening practice - [ELLLO ? http://elllo.org/](http://elllo.org/)

Listening practice - Lyrics Training - <https://lyricstraining.com/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語実践 (4 技能) II

GBE2356N0E

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期集中

その他

DP3 : 言語力

15

集中

Daniel Pearce Jacques Wilburn Hardy Jr.
Gretchen Clark

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is to promote and practice further usage of the four skills in English communication. Students are encouraged to find a balance between input and output while striving to improve their practical English skills over time.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

By the end of the course, students will have shown improvement in: 1) Their attitude towards English, realizing that English is a tool for communication purposes and that regular and ongoing efforts at using English will result in measurable gains as well as a positive attitude to further language studies, and 2) Any of the four skills practiced, as well as the increased vocabulary used and a better understanding that using correct grammar is necessary, simply to express meaning effectively.

Students will have been exposed to a wide variety of input and output opportunities including conversations, interviews, short videos, games, activities and live spoken English by the teacher and fellow classmates.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to interact	Develops a proactive stance to interaction	Is proactive in interaction even for difficult topics
知識・理解力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to learn about the topics	Demonstrates learning from each session	Shows a deepening understanding of the topics covered
言語力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to improve linguistic ability	Demonstrates concrete strategies to improving linguistic ability	Demonstrates advancement in linguistic ability
思考・解決力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to understand others opinions	Demonstrates an ability to mediate different opinions	Shows reasoned opinions based on new information
共生・協働する力	Does not meet course expectations yet	Shows a desire to contribute to group discussion	Contributes new information to group discussion	Shows contribution to and learning from group discussion

[授業計画]

- 第 1 回 Orientation
Introduction to the course: Writing, Speaking & Fluency components. Ice-breaking activities and discussion of individual goals for the course
- 第 2 回 Summer
Activities will center on discussions/writing about the summer: Summer vacation, ideal summer activities etc.
- 第 3 回 Tourism
Activities will center on discussions/writing about tourism: Personal experiences of tourism as well as benefits and issues with inbound tourists.
- 第 4 回 Motivation
Activities will center on discussions/writing about motivation: What is motivation, how is it maintained, etc.
- 第 5 回 Climate change
Activities will center on discussions/writing about climate change: Causes, politics, individual and societal responsibilities etc.
- 第 6 回 Study
Activities will center on discussions/writing about study: Primarily why we study, but also study

- 第 7 回 Computers
Activities will center on discussions/writing about computers: Usage, skills, habits. Evolving technology and AI.
- 第 8 回 Politics
Activities will center on discussions/writing about political participation: What is the democratic process, why is engagement important etc.
- 第 9 回 YouTube Channels
Activities will center on discussions/writing about Youtube and similar services: What do you watch? What does youtube recommend to you?
- 第 10 回 Shopping
Activities will center on discussions/writing about shopping: Shopping habits, shopping venues, online versus brick-and-mortar, etc.
- 第 11 回 Dreams
Activities will center on discussions/writing about dreams: The discussion will focus on dreams when sleeping, not dreams for the future. What are some interesting, memorable, or frightening dreams that you have had?
- 第 12 回 Planning My Future
Activities will center on discussions/writing about personal futures: Aspirations and goals both personal and career-wise. Where do you see yourself in 5 years? 10 years?
- 第 13 回 Current events (Japan)
Activities will center on discussions/writing about current events: Things that are happening now, as well as news reading habits and news media. The focus will be on domestic (Japanese) current events.
- 第 14 回 Current events (Global)
Activities will center on discussions/writing about current events: Things that are happening now, as well as news reading habits and news media. The focus will be on global current events.
- 第 15 回 Reflection and Final task
Reflection over the course: What has been achieved, what skills need more work. Preparation for and presentation of the final assessment.
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
実施しない
[教育・学習の方法 (Course Methods)]
Students will receive extensive and ongoing formative feedback during four skills activities in class. They will also receive feedback on the content and delivery of activities done for homework.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive reading, listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts at improving their English in and out of class.

Participation 50%

Writing Assignment 25%

Speaking Interview 25%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

なし

〔参考URL(URL for Reference)〕

Reading practice- <https://www.newslevels.com/>

Reading practice - <http://www.cdlponline.org/>

Listening practice - ELLLO ? <http://ello.org/>

Listening practice - Lyrics Training - <https://lyricstraining.com/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

歌って覚える英語表現

GBE2352N0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

木曜 2限

DP3 : 言語力

15

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course focuses on American and British Music from primarily the Cold War period. Through a selection of songs, students will improve their listening skills while also developing their expressive abilities and knowledge of the social impact/background of the music.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be able to develop their expressive ability by learning about collocations and improve their vocabulary by listening to a selection of songs. Students will be required to listen to and understand songs, create their own translations, and share their opinions on the music and related societal phenomena with their classmates.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation & A Day in the Life 1 / The Beatles
Explanation of aims of the course and what is expected of students. Introduction to *The Beatles* and the first song, *A Day in the Life*.
- 第 2 回 A Day in the Life 2 / The Beatles
Students will share translations of *A Day in the Life*. Through investigation of the actual events that influenced the lyrics, students will begin to develop understandings of the relationship between the arts and larger society.
- 第 3 回 With a Little Help From My Friends 1 / The Beatles
Students will begin translations of *A With a Little Help From my Friends*. Through investigation and discussion of the lyrics meanings, students will begin to develop a critical ear to the use of metaphor and nuance in song.
- 第 4 回 With a Little Help From My Friends 2 / The Beatles
Students will share translations of *A With a Little Help From my Friends*, and give feedback/criticism to others translations. Through discussion over individual translations, students will begin to examine different interpretations of artistic meaning.
- 第 5 回 Two Suns in the Sunset / Pink Floyd
Students will begin translations of *Two Suns in the Sunset*. Through consideration of the Cold War setting of the song, students will be required to identify the meaning of the song's primary metaphor.

- 第 6 回 Two Suns in the Sunset / Pink Floyd
Students will share translations of *Two Suns in the Sunset*, and give feedback/criticism to others translations. Through discussion over individual translations, students will begin to tie metaphoric expression to real-life events.
- 第 7 回 Revolution / The Beatles
Students will begin translations of *Revolution*. Through consideration of apparently contradictory lyrics, students will begin to consider the nature of artistic expression in dealing with complex personal or societal issues.
- 第 8 回 Revolution / The Beatles
Students will share translations of *Revolution*, and give feedback/criticism to others translations. Through discussion over individual translations, as well as connections to real-life individuals, students will consider the social and political impact of art.
- 第 9 回 Fortunate Son / Creedence Clearwater Revival
Students will begin translations of *Fortunate Son*. Through consideration the artists' intended meaning, students will begin to consider the role of the protest song.
- 第 10 回 Fortunate Son / Creedence Clearwater Revival
Students will share translations of *Fortunate Son*, and based upon what they have learned in previous lessons, identify the time period of the song and the societal mood in the United States that led to a boom in protest songs.
- 第 11 回 Film: Across the Universe Part 1
Students will view the film *Across the Universe*. Having developed knowledge on The Beatles, and societal issues of the time period, students will be required to hypothesize about the film's content before viewing, and also make in-depth comments about the content.
- 第 12 回 Film: Across the Universe Part 2
Students will finishing viewing the film *Across the Universe*, and will be required to make in-depth comments about the content. A discussion will be held about musicals as a medium, and how music and film art represent history.
- 第 13 回 Free Song 1
Students will be required to choose from a selection of songs, and prepare an analysis and explanation of the content which they will present to classmates in the following lesson.
- 第 14 回 Free Song 2
Students will form pairs or small groups, and based on their work from the previous lesson, become 'teachers' of their song's content to their classmates. Students are expected to consider aspects such as

metaphor or connections to the real world which have been discussed over the semester.

- 第 15 回 Final Reflection & Assignment
Reflection on the semester's work, including how thoughts and attitudes towards song as a medium have changed, learned expressions and content.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will be expected to speak with other students on a regular basis in class discussing the text songs as well as personal song choices. Students may be asked to give translations or interpretations of song lyrics in either Japanese or English.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 50%

In-class Assignments: 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook is required. Students will be provided with materials by the teacher.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

外国文学

GEH1200NOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP2: 知識・理解力

60

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

アラブ文学とはアラビア語で表現された文学をさす。その起源はイスラームが興る以前の西暦6世紀に遡る。それ以来、アラブ文学は現代に至るまで豊かで固有の文学伝統を築いてきた。本科目では代表的ジャンル(聖典、詩、物語

など)の各作品(和訳)を注意深く読むことによって、その文学伝統を理解し、内容の考察及び解釈の仕方を学ぶ。具体的には、アラブ文学に大きな影響を与えてきたイスラームの聖典「コーラン」、もっとも長い歴史をもつアラブ古典詩、そして今や世界文学となった「アラビアンナイト」を扱う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 古典アラブ文学 (コーラン・詩など)
- 2 アラブ物語文学 (アラビアンナイト)
- 3 簡単なアラビア語挨拶

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えた上で、応用につなげる
言語力	アラビア語の挨拶を聞くことができる	アラビア語の挨拶を言うことができる	アラビア語の挨拶を書いてみる	アラビア語の挨拶をかわし、書けるようになる
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	取り組んでできなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決策を提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 イスラーム、コーラン (オンライン)
- 第 3 回 アラビアン・ナイトの背景 (オンライン)

- 第 4 回 アラビアン・ナイト序話
- 第 5 回 ロバと牡牛の話 (オンライン)
- 第 6 回 アラジンと魔法のランプ パート 1 (オンライン)
- 第 7 回 アラジンと魔法のランプ パート 2 (オンライン)
- 第 8 回 アラジンと魔法のランプ パート 3 (オンライン)
- 第 9 回 ディズニー映画「アラジン」
- 第 10 回 物語と映画との比較 (オンライン)

- 第 11 回 アラジンと魔法のランプ 全体の理解
- 第 12 回 ドラマまたは実写版「アラジン」
- 第 13 回 アラビアン・ナイト終話 短い版 (オンライン)
- 第 14 回 アラビアン・ナイト終話 長い版
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 文学テキストの時代背景の理解
- 2 文学テキストの読解
- 3 文学テキストと映画の比較

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

文学テキストを事前に読み、課題プリントの設問に答える。課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加・課題プリント40%、試験60%

出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うことがある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。オンラインによる授業回は変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

健康スポーツ演習 A

GBL1150A0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜3限

DP1: 自分を育てる力

60

野村 照夫 野村 晴美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。

2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。

3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。

4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。

5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	健康やスポーツに無関心である	健康やスポーツに関し理解しようとする	健康やスポーツに関し理解し、自己の日常に活かそうとする	健康やスポーツに関し理解し、自己の日常に活かすことを継続できる
知識・理解力	健康やスポーツに関し、新しい知識を理解しようとしていない	健康やスポーツに関し、新しい知識を理解しようとする	健康やスポーツに関し、新しい知識を理解し、自己に必要な情報を収集できる	健康やスポーツに関し、新しい知識を理解し、自己に必要な情報を収集し、分析できる
言語力	健康やスポーツに関し、身体知を言語化しようとしていない	健康やスポーツに関し、身体知を言語化しようとする	健康やスポーツに関し、身体知を言語化し、身体知を説明できる	健康やスポーツに関し、身体知を言語化し、身体知を説明し、発展させることができる
思考・解決力	健康やスポーツに関し、思考・解決しようとしていない	健康やスポーツに関し、思考しようとする	健康やスポーツに関し、思考し、解決しようとする	健康やスポーツに関し、思考・解決し、新たな課題を設定できる
共生・協働する力	健康やスポーツに関し、共生・協働しようとしていない	健康やスポーツに関し、共生しようとする	健康やスポーツに関し、共生し、協働しようとする	健康やスポーツに関し、共生・協働し、運動実践を工夫できる
創造・発信力	健康やスポーツに関し、創造・発信しようとしていない	健康やスポーツに関し、自己に適切な実践方法を創造しようとする	健康やスポーツに関し、自己に適切な実践方法を創造し、発信しようとする	健康やスポーツに関し、自己に適切な実践方法を創造・発信し、他者と比較できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。
- 第 2 回 スポーツテスト
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。
- 第 3 回 テニス：ストローク
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 4 回 テニス：サーブ
テニスのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 5 回 テニス：ゲーム
テニスのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。
- 第 6 回 ウォーキング
ウォーキングの方法を理解し、実践する。それを健康づくりに役立てられるようにする。
- 第 7 回 バドミントン：ストローク
バドミンントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 8 回 バドミントン：サーブ
バドミンントンのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 9 回 バドミントン：ゲーム
バドミンントンのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。
- 第 10 回 卓球：ストローク
卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 11 回 卓球：サーブ
卓球のストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 12 回 卓球：ゲーム、レポート課題
卓球のゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。
- 第 13 回 トレーニング方法
トレーニング機器の使い方を理解し、目的に応じたトレーニング方法を実践する。
- 第 14 回 コンディショニング：ストレッチとからだほぐし
トレーニングの後のストレッチや体ほぐしの方法を理解し、ボディメンテナンスの重要性を知る。
- 第 15 回 スポーツと健康

演習内容の振り返りとレポート課題のフィードバックを行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1)スポーツの実技は屋外・屋内の施設を利用する。

屋外はテニスコート・グラウンド等、屋内はアリーナ・トレーニングルーム等を使用するスポーツ種目を行う。

(2)簡単なスポーツテストを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度・技能水準 (60点)、小レポート・レポート・課題 (40点) として総合的に評価する。全体に対して15回目にフィードバックする

〔留意事項 (Other Information)〕

オリエンテーション以外は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて授業に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大学における健康・スポーツに関する科目担当実績あり

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

健康スポーツ演習 B

GBL1150B0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

月曜 3限

DPI: 自分を育てる力

60

野村 照夫 野村 晴美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。

2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。

3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。

4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。

5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	健康やスポーツに無関心である	健康やスポーツに関し理解しようとする	健康やスポーツに関し理解し、自己の日常に活かそうとする	健康やスポーツに関し理解し、自己の日常に活かすことを継続できる
知識・理解力	健康やスポーツに関し、新しい知識を理解しようとしていない	健康やスポーツに関し、新しい知識を理解しようとする	健康やスポーツに関し、新しい知識を理解し、自己に必要な情報を収集できる	健康やスポーツに関し、新しい知識を理解し、自己に必要な情報を収集し、分析できる
言語力	健康やスポーツに関し、身体知を言語化しようとしていない	健康やスポーツに関し、身体知を言語化しようとする	健康やスポーツに関し、身体知を言語化し、身体知を説明できる	健康やスポーツに関し、身体知を言語化し、身体知を説明し、発展させることができる
思考・解決力	健康やスポーツに関し、思考・解決しようとしていない	健康やスポーツに関し、思考しようとする	健康やスポーツに関し、思考し、解決しようとする	健康やスポーツに関し、思考・解決し、新たな課題を設定できる
共生・協働する力	健康やスポーツに関し、共生・協働しようとしていない	健康やスポーツに関し、共生しようとする	健康やスポーツに関し、共生し、協働しようとする	健康やスポーツに関し、共生・協働し、運動実践を工夫できる
創造・発信力	健康やスポーツに関し、創造・発信しようとしていない	健康やスポーツに関し、自己に適切な実践方法を創造	健康やスポーツに関し、自己に適切な実践方法を創造	健康やスポーツに関し、自己に適切な実践方法を創

		しようとする	し、発信しようとする	造・発信し、他者と比較できる
--	--	--------	------------	----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。
- 第 2 回 スポーツテスト
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。
- 第 3 回 テニス：ストローク
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 4 回 テニス：サーブ
テニスのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 5 回 テニス：ゲーム
テニスのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。
- 第 6 回 ウォーキング
ウォーキングの方法を理解し、実践する。それを健康づくりに役立てられるようにする。
- 第 7 回 バドミントン：ストローク
バドミンントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 8 回 バドミントン：サーブ
バドミンントンのストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 9 回 バドミントン：ゲーム
バドミンントンのゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。
- 第 10 回 卓球：ストローク
卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを理解し、練習する。
- 第 11 回 卓球：サーブ
卓球のストロークの復習し、サーブを理解し、練習する。ミニゲームの進め方やルールを理解し、実施できるようにする。
- 第 12 回 卓球：ゲーム、レポート課題
卓球のゲームを数多く協働して実践し、戦術を工夫して相手に応じたゲームができるようにする。自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。
- 第 13 回 トレーニング方法
トレーニング機器の使い方を理解し、目的に応じたトレーニング方法を実践する。
- 第 14 回 コンディショニング：ストレッチとからだほぐし

トレーニングの後のストレッチや体ほぐしの方法を理解し、ボディメンテナンスの重要性を知る。

第 15 回 スポーツと健康
演習内容の振り返りとレポート課題のフィードバックを行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
定期試験に替わるレポート
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
(1)スポーツの実技は屋外・屋内の施設を利用する。屋外はテニスコート・グラウンド等、屋内はアリーナ・トレーニングルーム等を使用するスポーツ種目を行う。
(2)簡単なスポーツテストを行う。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にする。こと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
受講態度・技能水準 (60点)、小レポート・レポート・課題 (40点) として総合的に評価する。全体に対して15回目にフィードバックする
〔留意事項 (Other Information)〕
オリエンテーション以外は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて授業に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
大学における健康・スポーツに関する科目担当実績あり
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

健康スポーツ演習C

GBL1150C0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 後期
金曜1限
DP1：自分を育てる力
60
高田 佳孝

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

スポーツの講義および実践を通して、運動することの楽しさを知り、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成すること及び、自分自身の健康や体力についても理解を深め、

普段の生活に役立てることが出来る能力を身に付けることを目的とする。また、他者との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上も目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. スポーツテストにより基礎体力の測定を行い、自己の体力や健康について理解する。
2. スポーツ種目の実践により、「わかる」と「できる」の融合を目指して、各人の身体知を獲得し、運動の楽しさを味わう。
3. グループ活動を通して、他者との関わり方を学ぶ。
4. スポーツの講義を通して、「する」「みる」「支える」といった、スポーツへの様々な関わり方について理解する。
5. スポーツの講義を通して、自分自身の生活を振り返り、健康増進の意識を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
健康やスポーツに関する知識・理解	健康やスポーツに関して知らない	健康やスポーツの各分野について理解している	健康やスポーツの各分野について理解し、その特徴を捉えている	
積極性：主体性	消極的態度であり、実技に参加しない	積極的態度で授業に臨むことができる	他の学生に配慮しながら、相互作用行動がとることができる	
思考・判断力	与えられたテーマについて思考しない	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考することができる	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考し、他者の意見を取り入れることができる	

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 スポーツテスト (握力、反復横とび、上体起こしなどを測定)
- 第 3 回 バドミントン：基礎
- 第 4 回 バドミントン：ゲーム (シングルス)
- 第 5 回 バドミントン：ゲーム (ダブルス)
- 第 6 回 フットサル：基礎
- 第 7 回 フットサル：シュート
- 第 8 回 フットサル：ゲーム (ミニゲーム含)
- 第 9 回 フットサル：ゲーム
- 第 10 回 卓球：基礎
- 第 11 回 卓球：ゲーム (シングルス)
- 第 12 回 卓球：ゲーム (ダブルス)
- 第 13 回

フィットネス：Gボールや小さいボールを使った運動

第 14 回 これからの健康づくりに関する講義

第 15 回 スポーツと健康：まとめとレポート課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1)スポーツの実技は屋外・屋内の施設を利用する。屋外はグラウンド等、屋内はアリーナ・トレーニングルーム等を使用するスポーツ種目を行う。
- (2)簡単なスポーツテストを行う。
- (3)レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- (4)最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
- (5)1回～15回のすべての授業を通して、固定したグループ (学科混合) で行う可能性がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

スポーツテストの結果を踏まえ、自らのスポーツライフを計画し、日常生活において意識的に運動やスポーツを実践すること。また、スポーツや健康に関する情報や文献等を収集し、レポート課題の参考にすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度・積極性などの運動に取り組む姿勢 (70点)、小レポート・レポート (30点) として総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実技の回は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて活動に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

憲法と人権

GES1250NOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

水曜 4限

DP2：知識・理解力

60

原島 啓之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本国憲法はわが国の最高法規であり、国家の基本的な仕組みを法的に規律しています。小学校・中学校・高校にお

いては、いわゆる「日本国憲法の三大原理」（国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）が学ばれているものの、日本国憲法が何をどのように定めているかが深く検討されることはまれです。本講義の目的は、学生が、日本国憲法を支える基本的な考え方や人権（憲法上の権利）に関わる基本的概念を理解し、社会に存在する具体的問題を憲法と関連付けて把握・分析・説明できるようになることです。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

①日本国憲法はどのような基本的な考え方（原理・原則）に基づいているか。

②憲法上の権利とは何であり、日本国憲法はいかなる憲法上の権利を保障しているか。

③憲法上の権利を巡って、具体的事例（判例）のなかで何がどうして問題となっているか。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	憲法の基本概念を理解していない。	憲法の基本概念の意義を正しく説明できる。	憲法の基本概念について、その内容のみならず、それがなぜ重要なのかという根拠や背景まで説明できる。	憲法の基本概念の内容および根拠を説明したうえで、憲法の原理・原則や具体的判例と関連付けながら批判的に検討できる。
思考・解決力	社会の具体的事例から憲法問題を発見することができない。	社会の具体的事例のなかに存在する憲法問題を指摘できる。	社会の具体的事例のなかに存在する憲法問題を指摘したうえで、それがなぜ問題となるのかを憲法の基本概念を用いて説明できる。	社会の具体的事例の中に存在する憲法問題とその理由を指摘したうえで、憲法の原理・原則や具体的判例と関連付けながら批判的に検討できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・憲法学への招待
講義の進め方、学習の仕方、試験・単位。憲法学の全体像（Unit 0）
- 第 2 回 憲法総論(1)
憲法とは何か・立憲主義の考え方（Unit 1）
- 第 3 回 憲法総論(2)
権力分立原理（Unit 2）
- 第 4 回 統治機構論(1)
裁判所による権利保障①——司法権・違憲審査権の観念（Unit 9）
- 第 5 回 統治機構論(2)

裁判所による権利保障②——司法権の限界（Unit 10）

- 第 6 回 憲法上の権利論(1)
憲法上の権利の基本的な考え方（Unit 13）
- 第 7 回 憲法上の権利論(2)
思想・良心の自由（Unit 14）
- 第 8 回 憲法上の権利論(3)
信教の自由（Unit 15）
- 第 9 回 憲法上の権利論(4)
表現の自由①——表現の自由の基本的な考え方（Unit 17, 18, 19）
- 第 10 回 憲法上の権利論(5)
表現の自由②——表現の自由を巡る現代的論点（Unit 17, 18, 19）
- 第 11 回 憲法上の権利論(6)
生存権（Unit 24）
- 第 12 回 憲法上の権利論(7)
選挙制度・選挙権（Unit 5）
- 第 13 回 憲法上の権利論(8)
平等原則①：平等原則の基本的な考え方（Unit 27）
- 第 14 回 憲法上の権利論(9)
平等原則②：平等原則と家族法（Unit 27）
- 第 15 回 まとめ
講義の総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施します。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・授業は教員が配布するレジюмеに沿って講義形式で行います。講義では、レジюмеに付された復習問題に対する回答を受講生に求めることがあります。そのため受講生は、回答を予め準備して授業に臨んでください。
- ・テキストはとりわけ予習・復習において用いられることを想定しています（テキストの位置づけは初回講義で詳しく説明します）。学習方法として、テキストの該当箇所を各自で読んで検討し、自分なりに考察を深めることが何よりも大切です。
- ・予習の段階では、不明点や疑問点を明確にすること、復習の段階では、講義で扱われた憲法の基本概念や基本的な考え方についての理解を確実にしたうえで、テキストや教員の説明を鵜呑みにするのではなく、自分の頭で批判的に考えることを心掛けてください。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 【予習】テキストの該当箇所を読み、次の講義でいかなるテーマが取り上げられるのかを把握し、不明点・疑問点を明確にしておく。
- 【復習】講義で取り扱ったテキストの該当箇所およびレジюмеに示された判例を再度読み込み、その内容・関連論点についての理解を深めたうえで、憲法の基本的な考え方（原理・原則）や具体的理論について批判的に検討する。各回のレジюмеに示された復習課題に回答する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績評価は、定期試験 (100%) に基づいて行います。

評価基準：模範解答を別途提示します。

〔留意事項 (Other Information)〕

・講義は、対面授業で実施します (ただし、新型コロナウイルスの状況によっては変更となる可能性があります)。

・講義の進捗によっては、授業計画の内容や順序を変更することがあります。

・講義の妨げとなるため、遅刻しないように注意してください。また、講義中の私語は禁止します。

※留学生・帰国子女の学生へ：この授業の単位をとるためには、標準的な日本語の読解力・記述力が必要です。

Attention: In order to take credit in this class, standard Japanese ability (reading & writing) is required.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『一歩先への憲法入門』 / 片桐直人=井上武史=大林啓吾 / 有斐閣 / 2016年 / 9784641131965 / 学内販売：有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『憲法判例50！ [第2版]』 / 上田健介=尾形健=片桐直人 / 有斐閣 / 2020年 / 9784641227866 / 学内販売：無

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国際関係論入門

GES1201NOJ
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
月曜 3限
DP2：知識・理解力
60
北澤 義之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

国際関係論では、学際的な手法を用いることにより、1 国家の安全と発展に関する役割、2 国際社会における協力の模索、3 新しい国際的課題の確認を行うことです。その学習を通して、自分の経験を国際関係論の知識と結びつけて説明できるようになることです。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

国際関係論入門では、国際社会を理解するために1 戦争と平和の問題の理解、2 貧困・環境問題に対する理解、3 国際社会における日本の位置づけに関する理解、4 国際協力におけるNGOや女性の役割の理解を深めていきます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	国際関係について知ろうとする。	国際関係の理論を理解しようとする。	国際関係の理論をもとに考えを深めようとする。	グローバル化の進展とその影響を理解する。
知識・理解力	国際社会の現状について知ろうとする。	国際社会の現状の背景を理解しようとする。	国際社会の問題を論理的に理解しようとする。	国際関係の理論と国際社会の現実を比較して議論できるようにする。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする。	友人たちとも一緒に学ぼうとする。	課題を一緒に解決しようとする。	友人とともに国際社会へのかかわり方を考える。

〔授業計画〕

第 1 回 世界の今

授業の進め方についてのガイダンス。世界の直面している諸問題について概説します。推奨するインターネットサイトの紹介。

第 2 回 国際社会とは？

「国際社会」の成立について学びます。とくに国際関係の発展と国際社会の関係について解説します。

第 3 回 国際社会における日本

近代の日本がどのように国際社会との関係を構築していったかを学びます。

第 4 回 日本の中の国際社会

グローバル化による日本社会の変化について学習します。日本人とは何かを改めて考えます。

第 5 回 国際関係とジェンダー

国際関係の変化と女性の地位の問題を考えます。

第 6 回 安全保障について

国家の安全と対立の問題を考えます。

第 7 回 戦争と平和

第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の経験を通して、戦争と平和の問題を考えます。

第 8 回 日本と戦争

日本の戦争経験をもとに、市民や女性と戦争について考察します。

第 9 回 日本の対外政策について

第二次大戦後の日本の外交と平和主義について考えます。

第 10 回 冷戦後の世界

冷戦後の対立、テロなどの実態やそれへの対応の問題点について考えます。

第 11 回 SDGsをめぐる 1

民主主義や人権と国際関係について考察します。

- 第 12 回 SDGsをめぐる2
貧困とは何か、貧困の背景や対応について考察します。
- 第 13 回 SDGsをめぐる3
難民問題と移民問題についてその背景と対応について考察します。
- 第 14 回 SDGsをめぐる4
環境問題の概容について理解を図ります。
- 第 15 回 21世紀の国際関係
人類の直面する今後の課題を整理し、日本の役割などについて考えます。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しません。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義形式で行われますが、アクティブラーニングの要素も取り入れます。レポートや課題については教室で授業時にコメントします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

manabaを用いて、事前に目を通すべき資料や情報を発信します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (20%)、小テスト・質問票へのコメントなど (30%)、レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

欠席、遅刻についてのルールは、最初の授業の時に伝えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

全体を通じてのテキストはありません。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

教室で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

国連広報センター <http://www.unic.or.jp/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実用英語基礎

GBE2354B0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

月曜3限

DP3: 言語力

15

伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英検(実用英語技能検定試験)2級レベルの資格試験を受けるのに必要な知識と技能を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英検の特徴を知り、2級レベルでできるだけ高い得点を取るのに必要な聴き取り・英文法・語法の能力、読解力等を獲得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction 授業の進め方と基本的英文法

第 2 回 Lesson 1

文法演習

読解 The History of Confectionery

第 3 回 Lesson 2

文法演習

読解 Alex the Parrot and Animal Intelligence

第 4 回 Lesson 3

文法演習

読解 Trees from the Sky

第 5 回 Lesson 4

文法演習

読解 Whale and Dolphin Strandings

第 6 回 Lesson 5

文法演習

読解 Quake Computing

第 7 回

Lesson 6
 文法演習
 読解 Roman Architectural Wonders

第 8 回 中間試験と解説

第 9 回 Lesson 7
 文法演習
 読解 E-Book Readers Are Everywhere!

第 10 回 Lesson 8
 文法演習
 読解 The Noisy Oceans

第 11 回 Lesson 9
 文法演習
 読解 Earthships

第 12 回 Lesson 10
 文法演習
 読解 The Mystery of Kaspar Hauser

第 13 回 Lesson 11
 文法演習
 読解 Strange Rain

第 14 回 Lesson 12
 文法演習
 読解 Back to the Past

第 15 回 期末試験と解説
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 授業では、毎回1章ずつテキストを進める。TOEICテストの実戦形式の問題にたくさん触れながら、必要な知識を学んでいきます。
 授業内で行う中間・期末テストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 第2回目以降の授業には、毎回必ず教科書の問題を (リスニングを含めて) 全部解答しておいてから臨むこと。辞書や参考書等を使用して、できる限り全問正解を目指してください。授業では答え合わせと解説が中心になります。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 15
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 授業参加点(小テストを含む) 40%
 まとめのテスト (中間・期末) 60%
 ※上記の割合は目安であり、授業の進行状態や学生の意見等も参考に調整します。
 [留意事項 (Other Information)]
 資格試験に真剣に取り組むことを希望しない学生には受講を勧めません。
 授業には必ず辞書を持参すること。電子辞書・冊子辞書のどちらでも構いません。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 『Eiken 2: Sure to Succeed 英検2級 合格への道』/坂部俊行 岡島徳昭 ウィリアム・ノエル/National Geographic Learning南雲堂/2011/978-4-523-17675-6/学内販売予定
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

社会学概論

GES1202N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 後期
 月曜2限
 DP2: 知識・理解力
 60
 翁 和美

[科目の教育目標 (Course Description)]

「社会とはなにか」と問われれば、多くの人は、答えに窮するだろう。それは、自らが生まれ育ち所属する社会が私たちにとって自明であり、その自明性を問いかけることがないほど私たちが社会化されているからである。程度の差はあれ、私たちは誰しもが社会的存在である。この講義では、社会的存在である人間を理解することを第一の目的にする。先人がいかに社会を明らかにし、それと向き合ってきたのかをたどるとともに、私たちが生きている現代社会の具体的な状況や文脈を取り上げて「社会とはなにか」を考えていく。とにかく受講生は深く思考することが求められる。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

社会的存在である人間を理解するための補助線となる社会的用語や概念をあつかうことができるようになる。同時に、積極的なstudy (=語源はラテン語で「熱意を持って追求する」が原義) の意識を身につけるようになる。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会と社会学
社会学の講義全体の目的と目標を知る。
- 第 2 回 産業社会とその組織
近代化の経緯とともに、産業社会の特徴について考える。
- 第 3 回 ジェンダー
社会行為の根拠に潜む社会的・文化的性差について見出す。
- 第 4 回 教育と学校制度
教育と学校の社会的機能の違いをとらえる。
- 第 5 回 近代国民国家と民族
近代国民国家の特徴から民族紛争の根本原因を探る。
- 第 6 回 家族
都市化に着目しながら、核家族化と少子化現象について検討する。
- 第 7 回 大衆社会論
ナチスドイツの台頭を事例に大衆の特徴について学ぶ。
- 第 8 回 逸脱一選別と排除のメカニズム
逸脱が生じるメカニズムから社会学的発想を身に付ける。
- 第 9 回 文化と貧困
植林を事例に環境保全ボランティアの落とし穴について発見する。
- 第 10 回 応用1：自己決定・自己責任論
現代社会の強力なイデオロギーを脱構築する。
- 第 11 回 応用2：介入と他者関係性
安楽死・尊厳死を事例に公的領域と私的領域の関係性における課題を追究する。
- 第 12 回 応用3：私的領域の社会化
私的領域の課題解決の糸口を見出す。
- 第 13 回 実践1：精神医学と精神医療（1）
教材を視聴し病院や施設の雰囲気を感じるとともに人間関係について観察する。
- 第 14 回 実践2：精神医学と精神医療（2）
教材の読解を行ないながら、医療社会学の知見を習得する。
- 第 15 回 実践3：認知症患者と福祉の場
参与観察のデータを元に、社会学的視座の魅力と構想力を確認する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。ただし、何を実施するのかについては、授業における学生の発言内容とリアクション・ペーパーの内容に応じて決める。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

基本的に対話形式で行なう。また、授業中に学生が意見を提示し合う機会やディスカッションをする機会を設ける。したがって、受講生は積極的に発言する必要がある。講義後、受講生は、リアクション・ペーパーの作成を求められることがあるが、そこに他受講生の意見やディスカッションを通じて深めた自身の考えを表明するとともに、授業に

ついて不明な点について質問をするようにする。コメントを入れたリアクション・ペーパーについては、適宜、氏名を公表せずに授業で共有する。定期試験に替わるレポートを実施する場合は合評会を行なう。それを受講生は次のstudyに結び付ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

準備学習は特に必要ない代わりに、しっかり復習をするようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

復習には約30分が必要である。

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

リアクション・ペーパー（配分:30%）と最終課題（配分:70%）で総合的に評価する。リアクション・ペーパーに関しては、回を重ねるにしたがって配点を高くする。最終課題は、授業内での受講生の発言内容とリアクション・ペーパーの内容に応じて決定する。なお、欠席回数による失格条件は設定しないが、リアクション・ペーパーの提出が評価に反映する一方、講義内容を反映していない最終課題は無効となるので、欠席は失格につながる。

〔留意事項（Other Information）〕

講義内容は受講生のカラーやニーズに応じて変更する。とりわけ、応用編と実践編は、受講生の授業内での発言内容とリアクション・ペーパーの内容に対応して決定する。実習や就職活動などで長期に欠席する場合は単位修得に影響するので事前に相談するようにする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

なし

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽ⅠA 2016年度以前入学者

101029A0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 後期前半

木曜 4限

—

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時

代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。

創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。
--------	--	--	---	---

【授業計画】

第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット

第 2 回 キリスト教音楽とは

第 3 回 教会暦と音楽

第 4 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)

第 5 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)

第 6 回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成

第 7 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～

第 8 回 聖母マリアと音楽

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施する

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通しておく。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

評価は、授業参加度 (30点)、試験 (50点)、レポート (20点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

【留意事項 (Other Information)】

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ (改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽ⅠB 2016年度以前入学者

101029B0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 前期前半

木曜4限

ー

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。

知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身につけていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身につけていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身につけている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身につけている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身につけている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第1回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第2回 キリスト教音楽とは
- 第3回 教会暦と音楽
- 第4回 ミサと聖歌について①(開祭・ことばの典礼)
- 第5回 ミサと聖歌について②(感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
- 第6回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成
- 第7回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第8回 聖母マリアと音楽

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通してお

く。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、試験 (50点)、レポート (20点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ(改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽 I C 2016年度以前入学者

101029C0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 後期前半

金曜 4限

ー

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身につけていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身につけている。

思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第 2 回 キリスト教音楽とは
- 第 3 回 教会暦と音楽
- 第 4 回 ミサと聖歌について①（開祭・ことばの典礼）
- 第 5 回 ミサと聖歌について②（感謝の典礼・交わりの儀・閉祭）
- 第 6 回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成
- 第 7 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第 8 回 聖母マリアと音楽

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。（6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。）

〔留意事項（Other Information）〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ(改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽ⅠD 2016年度以前入学者

101029D0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 前期前半

金曜 4限

—

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。
 (2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。

創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。
--------	--	--	---	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
 第 2 回 キリスト教音楽とは
 第 3 回 教会暦と音楽
 第 4 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)
 第 5 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
 第 6 回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成
 第 7 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
 第 8 回 聖母マリアと音楽

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、試験 (50点)、レポート (20点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ (改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽Ⅱ A 2016年度以前入学者

101030A0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 後期後半

木曜 4限

ー

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。

知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身につけていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身につけていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身につけている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身につけている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身につけている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第 2 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
- 第 3 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌とモーツァルトの宗教音楽を聴き学ぶ～
- 第 4 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
- 第 5 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVD視聴とレポート作成～

第 6 回 オルガンのしくみ、イタリアのオルガンオルガンとその音楽

第 7 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽

第 8 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、試験 (50点)、レポート (20点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ (改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽 II B 2016年度以前入学者

101030B0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 前期後半

木曜4限

ー

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。

思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第 2 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
- 第 3 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌とモーツァルトの宗教音楽を聴き学ぶ～
- 第 4 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
- 第 5 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVD視聴とレポート作成～
- 第 6 回 オルガンのしくみ、イタリアのオルガンオルガンとその音楽
- 第 7 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
- 第 8 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目

を 通 し て おく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

7.5

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。（6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。）

〔留意事項（Other Information）〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ（改訂版）』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽ⅡC 2016年度以前入学者

101030C0J

大学

共通教育科目

1年次

0.5単位 後期後半

金曜4限

ー

7.5

必修

久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介してい

きたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。

創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。
--------	--	--	---	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第 2 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
- 第 3 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌とモーツァルトの宗教音楽を聴き学ぶ～
- 第 4 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
- 第 5 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVD視聴とレポート作成～
- 第 6 回 オルガンのしくみ、イタリアのオルガンオルガンとその音楽
- 第 7 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
- 第 8 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法
基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法
音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、試験 (50点)、レポート (20点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ(改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

宗教音楽ⅡD 2016年度以前入学者

101030D0J
大学
共通教育科目
1年次
0.5単位 前期後半
金曜4限
ー
7.5
必修
久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 キリスト教音楽とは

第2回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌を聴く～

第3回 モーツァルトの宗教音楽～レクイエムを聴く～

第4回 アドヴェント(待降節)の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト

第5回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVDより～

第6回 オルガンのしくみ、イタリアのオルガンオルガンとその音楽

第7回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽

第8回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。テキストの次回の範囲に目を通しておく。

提出物に対する講評を授業中に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7.5

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(30点)、DVDレポート(20点)、授業レポート(50点)に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(3回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

・読替科目「キリスト教音楽入門」の第1回目には必ず出席のこと。

・授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習Ⅱ A

GBL2400AOJ
大学
共通教育科目
2年次
1単位 前期
月曜 3限
DP4: 思考・解決力

15
定員35人 「情報演習I」を履修していることが望ましい
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得し、社会で必要とされるIT応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト(Microsoft Office2019製品)の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力も養い、資格取得のための一助とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下の操作の応用スキル(研究活動、社会人として活用できるレベル)を習得する。

- ・日本語文書ソフト
- ・表計算ソフト(表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析)
- ・プレゼンテーションソフト
- ・ソフトとソフト間の相互利用

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、レポートや論文を作成することができる	MOS Word 2019で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシート、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	MOS Excel 2019で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	オブジェクトの活用を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPointで実現可能な文書が自由自在に作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、日本語文書作成ソフトの基本操作
「情報演習I」の内容確認、レポート作成機能など
- 第 2 回 日本語文書作成ソフトの応用操作
レポートや論文作成に役立つ機能など
- 第 3 回 日本語文書作成ソフト総復習
日本語文書作成ソフトの持つ機能の確認など
- 第 4 回 プレゼンテーションソフトの基本操作
スライドの基本的な作成方法など
- 第 5 回 プレゼンテーションソフトの応用操作
役立つ機能などの応用的な使い方

- 第 6 回 プレゼンテーションソフト総復習
プレゼンテーションソフトの持つ機能の確認など、【課題 1 : PowerPoint文書】
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作
データの入力、表の作成など
- 第 8 回 表計算ソフトの応用操作(1)
表の印刷、グラフ作成など
- 第 9 回 表計算ソフトの応用操作(2)
表の編集、複数シート操作など、【課題 2 : Excel文書】
- 第 10 回 表計算ソフトの応用操作(3)
データベースの操作、関数など
- 第 11 回 表計算ソフトの応用操作(4)
ユーザー定義の表示形式、データベースの活用など
- 第 12 回 表計算ソフトの応用操作(5)
条件付き書式など、【課題 3 : Excel文書】
- 第 13 回 表計算ソフトを利用したデータ分析
データサイエンスの活用（統計の基礎、分析など）
- 第 14 回 表計算ソフトの総復習とMOSの紹介
総復習とMicrosoft Office Specialist【MOS】Excel 2019の概要と模擬試験の紹介など
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テスト【最終課題】の実施、終了後に講評（講評には、manabaを利用する場合もある）

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

実習を行いながら操作と概念を習得する。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや資料を通じて理解する。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

準備学習の具体的な方法として、復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、「実技確認テスト」を必ず受けること。

なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

授業参加度・授業態度（実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、3種類の通常課題（30%）、実技確認テスト（40%）の総合点で評価する。

【留意事項（Other Information）】

MOS（Microsoft Office Specialist）の3科目以上（Word/Excel/PowerPoint/Accessのうちの3科目以上）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格

などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

【テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）】

「情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10/Office 2019対応) /FOM出版/2020/978-4-86510-418-9/学内販売
【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

情報演習 II B

GBL2400BOJ

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

月曜3限

DP4 : 思考・解決力

15

定員35人 「情報演習I」を履修していることが望ましい

吉田 智子

【科目の教育目標（Course Description）】

大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得し、社会で必要とされるIT応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト（Microsoft Office2019製品）の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力も養い、資格取得のための一助とする。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

以下の操作の応用スキル（研究活動、社会人として活用できるレベル）を習得する。

- ・日本語文書ソフト
- ・表計算ソフト（表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析）
- ・プレゼンテーションソフト
- ・ソフトとソフト間の相互利用

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成す	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、	MOS Word 2019で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる

		ることができる	レポートや論文を作成することができる	
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシートの操作、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	MOS Excel 2019で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	オブジェクトの活用を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPointで実現可能な文書が自由自在に作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、日本語文書作成ソフトの基本操作「情報演習I」の内容確認、レポート作成機能など
- 第 2 回 日本語文書作成ソフトの応用操作
レポートや論文作成に役立つ機能など
- 第 3 回 日本語文書作成ソフト総復習
日本語文書作成ソフトの持つ機能の確認など
- 第 4 回 プレゼンテーションソフトの基本操作
スライドの基本的な作成方法など
- 第 5 回 プレゼンテーションソフトの応用操作
役立つ機能などの応用的な使い方
- 第 6 回 プレゼンテーションソフト総復習
プレゼンテーションソフトの持つ機能の確認など、【課題1：PowerPoint文書】
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作
データの入力、表の作成など
- 第 8 回 表計算ソフトの応用操作(1)
表の印刷、グラフ作成など

- 第 9 回 表計算ソフトの応用操作(2)
表の編集、複数シート操作など、【課題2：Excel文書】
 - 第 10 回 表計算ソフトの応用操作(3)
データベースの操作、関数など
 - 第 11 回 表計算ソフトの応用操作(4)
ユーザー定義の表示形式、データベースの活用など
 - 第 12 回 表計算ソフトの応用操作(5)
条件付き書式など、【課題3：Excel文書】
 - 第 13 回 表計算ソフトを利用したデータ分析
データサイエンスの活用（統計の基礎、分析など）
 - 第 14 回 表計算ソフトの総復習とMOSの紹介
総復習とMicrosoft Office Specialist【MOS】Excel 2019の概要と模擬試験の紹介など
 - 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テスト【最終課題】の実施、終了後に講評（講評には、manabaを利用する場合もある）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
実習を行いながら操作と概念を習得する。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや資料を通じて理解する。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
準備学習の具体的な方法として、復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、「実技確認テスト」を必ず受けること。
なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度・授業態度（実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）(30%)、3種類の通常課題（30%）、実技確認テスト（40%）の総合点で評価する。
- 〔留意事項（Other Information）〕
MOS（Microsoft Office Specialist）の3科目以上（Word/Excel/PowerPoint/Accessのうちの3科目以上）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
 「情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10/Office 2019対応)」/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9/学内販売
 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
 〔参考URL(URL for Reference)〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 II C

GBL2400CJ
 大学
 共通教育科目
 2年次
 1単位 後期
 火曜3限
 DP4：思考・解決力
 15
 定員35人 「情報演習I」を履修していることが望ましい
 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得し、社会で必要とされるIT応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト(Microsoft Office2019製品)の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力も養い、資格取得のための一助とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下の操作の応用スキル(研究活動、社会人として活用できるレベル)を習得する。

- ・日本語文書ソフト
- ・表計算ソフト(表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析)
- ・プレゼンテーションソフト
- ・ソフトとソフト間の相互利用

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、レポートや論文を作成することができる	MOS Word 2019で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる

表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシートの操作、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	MOS Excel 2019で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	オブジェクトの活用を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPointで実現可能な文書が自由自在に作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、日本語文書作成ソフトの基本操作「情報演習I」の内容確認、レポート作成機能など
- 第 2 回 日本語文書作成ソフトの応用操作
レポートや論文作成に役立つ機能など
- 第 3 回 日本語文書作成ソフト総復習
日本語文書作成ソフトの持つ機能の確認など
- 第 4 回 プレゼンテーションソフトの基本操作
スライドの基本的な作成方法など
- 第 5 回 プレゼンテーションソフトの応用操作
役立つ機能などの応用的な使い方
- 第 6 回 プレゼンテーションソフト総復習
プレゼンテーションソフトの持つ機能の確認など、【課題1：PowerPoint文書】
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作
データの入力、表の作成など
- 第 8 回 表計算ソフトの応用操作(1)
表の印刷、グラフ作成など
- 第 9 回 表計算ソフトの応用操作(2)
表の編集、複数シート操作など、【課題2：Excel文書】
- 第 10 回 表計算ソフトの応用操作(3)

- データベースの操作、関数など
- 第 11 回 表計算ソフトの応用操作(4)
ユーザー定義の表示形式、データベースの活用など
- 第 12 回 表計算ソフトの応用操作(5)
条件付き書式など、【課題 3 : Excel文書】
- 第 13 回 表計算ソフトを利用したデータ分析
データサイエンスの活用（統計の基礎、分析など）
- 第 14 回 表計算ソフトの総復習とMOSの紹介
総復習とMicrosoft Office Specialist【MOS】Excel 2019の概要と模擬試験の紹介など
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テスト【最終課題】の実施、終了後に講評（講評には、manabaを利用する場合もある）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

実習を行いながら操作と概念を習得する。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

準備学習の具体的な方法として、復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、「実技確認テスト」を必ず受けること。

なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）(30%)、3種類の通常課題（30%）、実技確認テスト（40%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

MOS（Microsoft Office Specialist）の3科目以上（Word/Excel/PowerPoint/Accessのうちの3科目以上）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

「情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10/Office 2019対応) /FOM出版/2020/978-4-86510-418-9/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報処理 A

GBL2450A0J
大学
共通教育科目
2年次
2単位 前期
水曜 3限
DP4 : 思考・解決力
60
定員26人
伊藤 泰子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・ 大学で利用するパソコンのOS
- ・ インターネットの機能としくみ
- ・ 電子メールのコミュニケーション特性
- ・ Webページを利用した情報検索
- ・ 情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・ プログラミング入門
- ・ 画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・ HTMLとCSSによるWebページ制作実習

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムのOSの名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ネットワークリテラシーの習得	ネットワークリテラシー	ネットワークリテラシーの力として、電子メ	ネットワークリテラシーの力として、電子メ	ネットワークリテラシー関連の専門知識が豊

	一に興味がない	ールや情報検索のしくみの理解が必要なことを知っている	ールや情報検索のしくみを理解しようとし、専門知識を学んでいる	富で、他人にも説明できる
Webページによる情報発信の方法と可能性の理解	Webページによる情報発信に興味がない	授業で扱う例題どおりのWebページであればHTMLを記述して、公開できる	自分が情報発信したい内容のWebページを制作して、公開できる	著作権や、画像のファイルサイズも考慮し、適切なタイトルや項目名のWebページを制作して、公開できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 コンピュータの基礎知識
- 第 3 回 インターネット上の機能（電子メール、Webページなど）の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第 4 回 ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
コマンドを利用したコンピュータ操作
- 第 5 回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第 6 回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第 7 回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- 第 8 回 Webページ制作実習(1) HTML基本
- 第 9 回 Webページ制作実習(2) HTML応用
- 第 10 回 Webページ制作実習(3) CSS基本
- 第 11 回 Webページ制作実習(4) CSS応用
- 第 12 回 プログラミング実習
- 第 13 回 Webページ課題作成(1) サイト企画
- 第 14 回 Webページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成
- 第 15 回 ファイル転送によるWebページの学内公開、まとめテスト、解答・解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。

フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、レポート・課題（20%）、テスト（50%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

情報処理 B

GBL2450B0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

水曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

定員26人

伊藤 泰子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につ

けるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・ 大学で利用するパソコンのOS
- ・ インターネットの機能としくみ
- ・ 電子メールのコミュニケーション特性
- ・ Webページを利用した情報検索
- ・ 情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・ プログラミング入門
- ・ 画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・ HTMLとCSSによるWebページ制作実習

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムのOSの名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ネットワークリテラシーの習得	ネットワークリテラシーに興味がない	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみの理解が必要なことを知っている	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみを理解しようとし、専門知識を学んでいる	ネットワークリテラシー関連の専門知識が豊富で、他人にも説明できる
Webページによる情報発信の方法と可能性の理解	Webページによる情報発信に興味がない	授業で扱う例題どおりのWebページであればHTMLを記述して、公開できる	自分が情報発信したい内容のWebページを制作して、公開できる	著作権や、画像のファイルサイズも考慮し、適切なタイトルや項目名のWebページを制作して、公開できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 コンピュータの基礎知識
- 第 3 回 インターネット上の機能（電子メール、Webページなど）の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第 4 回 ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
コマンドを利用したコンピュータ操作
- 第 5 回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第 6 回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第 7 回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- 第 8 回 Webページ制作実習(1) HTML基本
- 第 9 回 Webページ制作実習(2) HTML応用
- 第 10 回 Webページ制作実習(3) CSS基本
- 第 11 回 Webページ制作実習(4) CSS応用
- 第 12 回 プログラミング実習
- 第 13 回 Webページ課題作成(1) サイト企画
- 第 14 回 Webページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成
- 第 15 回 ファイル転送によるWebページの学内公開、まとめテスト、解答・解説

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。

フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業参加度 (30%)、レポート・課題 (20%)、テスト (50%) の総合点で評価する。

【留意事項 (Other Information)】

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

情報処理C

GBL2450C0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 前期

金曜3限

DP4: 思考・解決力

60

定員26人

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとwebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義・演習に加えて実習も行い、webページ制作などを通じて情報発信力を習得する。

さらに、コンピュータの本質を理解するためにプログラミング実習を行い、プログラミングが可能とする具体的な技術についても学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 大学で利用するパソコンのOSの理解
- ・ インターネットの機能としくみ
- ・ 電子メールのコミュニケーション特性
- ・ webページを利用した情報検索
- ・ 情報発信の役割を持つwebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・ プログラミング入門
- ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムのOSの名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ネットワークリテラシーの習得	ネットワークリテラシーに興味がない	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみの理解が必要なことを知っている	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみを理解しようとし、専門知識を学んでいる	ネットワークリテラシー関連の専門知識が豊富で、他人にも説明できる
Webページによる情報発信の方法と可能性の理解	Webページによる情報発信に興味がない	授業で扱う例題どおりのWebページであればHTMLを記述して、公開できる	自分が情報発信したい内容のWebページを制作して、公開できる	著作権や、画像のファイルサイズも考慮し、適切なタイトルや項目名のWebページを制作して、公開できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも可能性にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

〔授業計画〕

第 1 回

ガイダンス、コンピュータの基礎知識、コンピュータの五大要素（入力、制御、演算、記憶、出力）とOSについて

第 2 回

インターネット上の機能（電子メール、webページなど）の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解

第 3 回

webページを利用した情報検索、批判的閲覧、インターネットのしくみの理解(1)

第 4 回

webページを利用した情報検索、批判的閲覧、インターネットのしくみの理解(2)

第 5 回

OSの理解（WindowsおよびLinux）、ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解、webサーバーを使ったwebページの学内公開に関する知識

第 6 回

- プログラミング言語とは～Wolfram Programming Labでプログラミング入門～
- 第7回 プログラミングの活用～Wolfram Programming Labでプログラミング実習～
- 第8回 プログラミングとAIの関係～Wolfram Alpha（計算知識エンジン）の利用～
- 第9回 AIの一つとしての自然言語処理とは～Wolfram Alphaを支える自然言語処理の技術～
- 第10回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性（HTML文書とタグについて）
- 第11回 webページ制作実習(1)～HTMLで文書構造を指定～
- 第12回 webページ制作実習(2)～HTMLで画像を表現～
- 第13回 webページ制作実習(3)～CSSでデザインと色を指定～
- 第14回 ファイル転送によるwebページの学内公開
- 第15回 筆記によるまとめテストの実施と総括（解答例や講評はmanabaにて公開）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義・演習と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加（30%）、レポート・課題（20%）、まとめテスト（50%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

外部講師を招いて特別授業を実施することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子、他著/北大路書房/2014/978476282830/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報処理 D

GBL2450D0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 後期

水曜4限

DP4：思考・解決力

60

定員26人

伊藤 泰子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・大学で利用するパソコンのOS
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・Webページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解

- ・プログラミング入門

- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・HTMLとCSSによるWebページ制作実習

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムのOSの名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ネットワークリテラシーの習得	ネットワークリテラシーに興味がない	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしく	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしく	ネットワークリテラシー関連の専門知識が豊富で、他人

		みの理解が必要なことを知っている	みを理解しようとし、専門知識を学んでいる	にも説明できる
Webページによる情報発信の方法と可能性の理解	Webページによる情報発信に興味がない	授業で扱う例題どおりのWebページであればHTMLを記述して、公開できる	自分が情報発信したい内容のWebページを制作して、公開できる	著作権や、画像のファイルサイズも考慮し、適切なタイトルや項目名のWebページを制作して、公開できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 コンピュータの基礎知識
- 第 3 回 インターネット上の機能（電子メール、Webページなど）の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第 4 回 ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
コマンドを利用したコンピュータ操作
- 第 5 回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第 6 回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第 7 回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- 第 8 回 Webページ制作実習(1) HTML基本
- 第 9 回 Webページ制作実習(2) HTML応用
- 第 10 回 Webページ制作実習(3) CSS基本
- 第 11 回 Webページ制作実習(4) CSS応用
- 第 12 回 プログラミング実習
- 第 13 回 Webページ課題作成(1) サイト企画
- 第 14 回 Webページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成
- 第 15 回 ファイル転送によるWebページの学内公開、まとめテスト、解答・解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。

フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、レポート・課題（20%）、テスト（50%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

情報処理 E

GBL2450E0J

大学

共通教育科目

2年次

2単位 後期

火曜1限

DP4：思考・解決力

60

定員26人

伊藤 泰子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。

この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解す

るために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 大学で利用するパソコンのOS
- ・ インターネットの機能としくみ
- ・ 電子メールのコミュニケーション特性
- ・ Webページを利用した情報検索
- ・ 情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・ プログラミング入門
- ・ 画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・ HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- ・ HTMLとCSSによるWebページ制作実習

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムのOSの名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ネットワーククリテラシーの習得	ネットワーククリテラシーに興味がない	ネットワーククリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみの理解が必要なことを知っている	ネットワーククリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみを理解しようとし、専門知識を学んでいる	ネットワーククリテラシー関連の専門知識が豊富で、他人にも説明できる
Webページによる情報発信の方法と可能性の理解	Webページによる情報発信に興味がない	授業で扱う例題どおりのWebページであればHTMLを記述して、公開できる	自分が情報発信したい内容のWebページを制作して、公開できる	著作権や、画像のファイルサイズも考慮し、適切なタイトルや項目名のWebページを制作して、公開できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも可能性にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

- 第 2 回 コンピュータの基礎知識
- 第 3 回 インターネット上の機能（電子メール、Webページなど）の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
- 第 4 回 ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解
コマンドを利用したコンピュータ操作
- 第 5 回 画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割
- 第 6 回 Webページを利用した情報検索、批判的閲覧
- 第 7 回 HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
- 第 8 回 Webページ制作実習(1) HTML基本
- 第 9 回 Webページ制作実習(2) HTML応用
- 第 10 回 Webページ制作実習(3) CSS基本
- 第 11 回 Webページ制作実習(4) CSS応用
- 第 12 回 プログラミング実習
- 第 13 回 Webページ課題作成(1) サイト企画
- 第 14 回 Webページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成
- 第 15 回 ファイル転送によるWebページの学内公開、まとめテスト、解答・解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。

フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート・課題 (20%)、テスト (50%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

[参考URL(URL for Reference)]

http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

身近な英文法

GBE2305BOJ
大学
共通教育科目
2年次
1単位 前期
月曜 3限
DP3: 言語力
15
伊村 大樹

[科目の教育目標 (Course Description)]

外国語としての英語の理解に必要な英文法を基礎から学びなおし、習得する。

また、学んだ英文法・語法の知識を生かした表現とスムーズな読解の能力、具体的には英検2級に合格する程度の語学力を身に着ける。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 基礎的な英文法を習得する
2. 文法構造を理解した上で英語で文が書けるようになる
3. 素早く正確な読解ができるようになる

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 イントロダクション 英文法概観
- 第 2 回 第1講 第1文型
第2講 第2文型
第3講 第3文型

- 第 3 回 第4講 第4文型
第5講 第5文型
第6講 SVO to (V)
 - 第 4 回 第7講 SVO (V)ing / Vp.p.
第8講 SVO (V)
第9講 熟語
 - 第 5 回 第10講 受動態
第11講 前置詞句
第12講 不定詞 (名詞的用法)
 - 第 6 回 第13講 不定詞 (形容詞的用法)
第14講 不定詞 (副詞的用法)
第15講 不定詞 (意味上の主語等)
 - 第 7 回 第16講 動名詞
第17講 分詞の形容詞的用法
第18講 分詞構文 1
 - 第 8 回 前期中間の小テスト
 - 第 9 回 第19講 分詞構文 2
第20講 名詞節 1
第21講 名詞節 2
 - 第 10 回 第22講 名詞節 3
第23講 関係詞節 1
第24講 関係詞節 2
 - 第 11 回 第25講 関係詞節 3
第26講 関係詞節 4
第27講 関係詞節 5
 - 第 12 回 第28講 副詞節
第29講 比較 1
第30講 比較 2
 - 第 13 回 第31講 比較 3
第32講 時制
第33講 完了形
 - 第 14 回 第34講 助動詞
第35講 仮定法
第36講 強調・倒置
 - 第 15 回 前期末の小テスト
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
実施しない
- [教育・学習の方法 (Course Methods)]
テキストは英検2級程度合格の語学力獲得を見据えて、英文法を一から学びたい人にも対応した比較的易しめのものです。基本的な理解ができている人の学びなおしにも対応しています。
授業では1回で3講ずつ進みます。次の授業で扱う部分の問題は事前にすべて解答しておいてください。
授業では毎回答え合わせと解説の後に確認の小テストを行う予定です。
授業には、必ず英和辞書を持ってくること。携帯・スマートフォンの辞書ではなく、電子辞書・冊子辞書のどちらかに限ります。
- [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
授業の前に、次の授業で扱う範囲の問題にすべて解答しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は小テスト(10%) 授業参加度(30%)とまとめのテスト(60%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『英文法基礎10題ドリル』/田中健一/駿台文庫/2018/978-4-7961-1130-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献に関しては授業時に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

身近な自然科学

GEN1400NOJ
大学
共通教育科目
1年次
2単位 前期
火曜2限
DP4: 思考・解決力
60
定員32人
小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象の理解を深めることを目的とする。本講義を通して、日常世界を科学の目でも見ることができるようになることを目指したい。このような姿は、現在重視されている「科学的リテラシー」へとつながるものである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・身近に見られる科学的現象に関心をもつことができる。
・身近な科学的現象から基礎的な科学的知識の理解を深めることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	講義で扱った科学現象や事例について、説明することができない。	講義で扱った科学現象や事例について、おおまかに説明することができる。	講義で扱った科学現象や事例について、適切に説明することができる。	レベル3に加え、身近な科学現象や事例に関心をもち、進んで調べ、そのことについて説明することができる。

思考・解決力	身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象を適用して考え、表現することができない。	教員の助言に基づき、身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象を適用して考え、表現することができる。	身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象を適用して考え、表現することができる。	レベル3に加え、これから遭遇する問題や意思決定のために、科学的知識を適用して考えることができる。
--------	---	--	--	--

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション<対面>
- 第2回 日本付近の気象<対面>
- 第3回 気象情報とその利用<対面>
- 第4回 人体①: 消化器系(口~胃)<対面>
- 第5回 人体②: 消化器系(十二指腸~肛門)<対面>
- 第6回 人体③: 呼吸器系<対面>
- 第7回 遺伝<対面>
- 第8回 音<対面>
- 第9回 光<対面>
- 第10回 とける<対面>
- 第11回 植物の多様性(学外活動)<対面>
- 第12回 調べ学習①(テーマ決定、資料収集)<個別学習>
- 第13回 調べ学習②(まとめ・発表資料の作成)<個別学習>
- 第14回 発表<オンライン>
- 第15回 総括<対面>

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義に加え、観察・実験、クラフト活動を行う予定である。
- ・一部、オンライン授業や個別学習を行う予定なので、シラバスや授業時のアナウンスに留意すること。
- ・課題レポートについては、教員によるコメントや受講者同士の相互評価によりフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・授業資料に基づいて、内容の復習をすること。
- ・授業時に、トピックと関連したテーマを複数提示するので、各自で選択して調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題レポート70%, 授業参加度(responにより振り返りコメント)30%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・受講者の関心や人数、教材の準備状況によって学習内容を変更することがあります。

・クラフト活動等を行うため、のり、はさみ、カッターを持参すること。

・学外活動を行う予定である。それに伴う交通費、入場料等は受講生負担なので留意すること（参考：一昨年度は府立植物園で実施し、入場料200円を自己負担）

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし

授業の資料は、適宜提示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

その都度、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生命倫理

GEN1150N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 後期
 月曜3限
 DPI：自分を育てる力
 60
 松井 吉康

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「薬害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、「私の生命」へのまなざし

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 倫理学とは
- 第 3 回 現代社会の善悪の基準
- 第 4 回 薬害
- 第 5 回 差別を知る
- 第 6 回 卵子老化
- 第 7 回 出生前診断
- 第 8 回 様々な障がい
- 第 9 回 ダウン症
- 第 10 回 中絶、減胎手術
- 第 11 回 性と生
- 第 12 回 戦争（1）沖縄戦
- 第 13 回 戦争（2）沖縄の戦後
- 第 14 回 過労死
- 第 15 回 「私」と「私の生命」

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

倫理学についての基本的知識を習得した後、様々な問題についてドキュメンタリーを見せ、それらについて考えてもらう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

普段から自分の身の回りで起こっている出来事やニュースなどで報じられる医療問題、社会問題について関心を持つようにしておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

100パーセント、最終レポートで評価する。レポートを執筆する際には、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

出来るだけ質疑応答の多い授業にしたいと思っています。教師が毎回、様々な問いを投げ掛けますが、学生の側からも色々な質問や発言が出てくる事を期待しています。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

体育講義

GBL1151N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期集中
 その他
 DP1：自分を育てる力
 30
 全7.5コマ
 高田 佳孝

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」の要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・現代の健康に関する問題について理解する。
- ・スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。
- ・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。
- ・発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
健康やスポーツに関する知識・理解	健康やスポーツに関して知らない	健康やスポーツの各分野について理解している	健康やスポーツの各分野について理解し、その特徴を捉えている	
思考・判断力	与えられたテーマについて思考しない	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考することができる	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考し、他者の意見を取り入れることができる	
積極性・主体性	消極的態度であり、授業に参加しない	積極的態度で授業に臨むことができる	他の学生に配慮しながら、相互作用行動がとることができる	

〔授業計画〕

第 1 回 現代生活における健康、スポーツ、学校体育の諸問題

- 第 2 回 運動と健康
- 第 3 回 健康と栄養 (ウエイトコントロール)
- 第 4 回 スポーツ、運動と心理 (ストレス等)
- 第 5 回 子どもの発育・発達と健康
- 第 6 回 体育と指導者 (コーチングとティーチング)
- 第 7 回 スポーツとジェンダー、女性の健康
- 第 8 回 (45分)：スポーツとビジネス、メディア
- 第 9 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションを中心に展開する。
- ・資料については、授業中に適宜配布する。
- ・manabaやresponを使用し、授業を進行する。
- ・テスト後にテストに関するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・日常生活における、自己の健康に目を向けておく。
- ・初回の授業で、すべての講義資料を配布するので、次時の講義資料の事前問題を解いてくる。事前問題を解くにあたり、インターネットやTV、新聞等のメディアを利用する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

8

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、受講態度 (20点) テスト (60点)、小レポート (20点) として総合評価を行う。原則、すべての講義に出席することを求める。合計得点が60点に満たない場合、単位認定には至らない。

〔留意事項 (Other Information)〕

積極的にディスカッションやその他の作業に取り組むこと。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教養としての体育原理』/友添秀則・岡出美則編著/大修館書店//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

体育実技 A

GBL1100A0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜 4限
 DPI：自分を育てる力
 15
 野村 照夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。
- ②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。
- ③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、中間と強力切磋琢磨し合う能力、コミュニケーション能力の向上を図る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	体育に無関心である	体育に関し理解しようとする	体育に関し理解し、自己の日常に活かそうとする	体育に関し理解し、自己の日常に活かすことを継続できる
知識・理解力	体育に関し、新しい知識を理解しようとしていない	体育に関し、新しい知識を理解しようとする	体育に関し、新しい知識を理解し、自己に必要な情報を収集できる	体育に関し、新しい知識を理解し、自己に必要な情報を収集し、分析できる
言語力	体育に関し、身体知を言語化しようとしていない	体育に関し、身体知を言語化しようとする	体育に関し、身体知を言語化し、身体知を説明できる	体育に関し、身体知を言語化し、身体知を説明し、発展させることができる
思考・解決力	体育に関し、思考・解決しようとしていない	体育に関し、思考しようとする	体育に関し、思考し、解決しようとする	体育に関し、思考・解決し、新たな課題を設定できる

共生・協働する力	体育に関し、共生・協働しようとしていない	体育に関し、共生しようとする	体育に関し、共生し、協働しようとする	体育に関し、共生・協働し、運動実践を工夫できる
創造・発信力	体育に関し、創造・発信しようとしていない	体育に関し、自己に適切な実践方法を創造しようとする	体育に関し、自己に適切な実践方法を創造し、発信しようとする	体育に関し、自己に適切な実践方法を創造・発信し、他者と比較できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。
- 第 2 回 体力テスト
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。
- 第 3 回 テニス：ストローク
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 4 回 テニス：サーブ
テニスのストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 5 回 テニス：ゲーム
テニスのゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
- 第 6 回 ウォーキング
ウォーキングの方法を実習し、健康づくりに役立てられるようにする。
- 第 7 回 バドミントン：ストローク
バドミンントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 8 回 バドミントン：サーブ
バドミンントンのストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 9 回 バドミントン：ゲーム
バドミンントンのゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
- 第 10 回 卓球：ストローク
卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 11 回 卓球：サーブ
卓球のストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 12 回 卓球：ゲーム、レポート課題
卓球のゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。

- 第 13 回 トレーニング方法
トレーニング機器の使い方を理解し、実践する。
- 第 14 回 ストレッチと体ほぐし
トレーニングの後のストレッチと体ほぐしによって、ボディメンテナンスを行う。
- 第 15 回 まとめ、フィードバック
レポートの講評を行い、健康スポーツに関する総合的な議論を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①授業方法＝トレーニング・ストレッチ・各種スポーツの実践を中心に行う。特にトレーニングやストレッチに関しては、身体のだの部位に効果があるのかを理解した上で、普段の生活の中でも実践可能なスキルを養成する。 ②資料＝必要に応じ、随時プリントを配布する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

総合的に日常生活における運動・栄養・休養に関わる健康維持活動を実践する。スポーツ種目のルールを理解する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度・取り組み(60%)、体力・技能水準(20%)、小レポート・レポート・課題(20%)として総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ガイダンス以外は、必ず運動できる服装 (トレーニングウェア、ジャージ等) に着替えて授業に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大学における健康・スポーツに関する科目担当実績あり
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

体育実技 B

GBL1100B0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜 4限

DPI : 自分を育てる力

15

野村 晴美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修

者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。

②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。

③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、中間と強力し切磋琢磨し合う能力、コミュニケーション能力の向上を図る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	体育に無関心である	体育に関し理解しようとする	体育に関し理解し、自己の日常に活かそうとする	体育に関し理解し、自己の日常に活かすことを継続できる
知識・理解力	体育に関し、新しい知識を理解しようとしていない	体育に関し、新しい知識を理解しようとする	体育に関し、新しい知識を理解し、自己に必要な情報を収集できる	体育に関し、新しい知識を理解し、自己に必要な情報を収集し、分析できる
言語力	体育に関し、身体知を言語化しようとしていない	体育に関し、身体知を言語化しようとする	体育に関し、身体知を言語化し、身体知を説明できる	体育に関し、身体知を言語化し、身体知を説明し、発展させることができる
思考・解決力	体育に関し、思考・解決しようとしていない	体育に関し、思考しようとする	体育に関し、思考し、解決しようとする	体育に関し、思考・解決し、新たな課題を設定できる
共生・協働する力	体育に関し、共生・協働しようとしていない	体育に関し、共生しようとする	体育に関し、共生し、協働しようとする	体育に関し、共生・協働し、運動実践を工夫できる
創造・発信力	体育に関し、創造・発信しようとしていない	体育に関し、自己に適切な実践方法を創造しようとする	体育に関し、自己に適切な実践方法を創造し、発信しようとする	体育に関し、自己に適切な実践方法を創造・発信し、他者と比較できる

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

履修上の注意事項の確認。授業の進め方についての説明。

- 第 2 回 体力テスト
文科省新体力テストから握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、上体起こし、シャトルランを実施し、自己の体力を把握する。
- 第 3 回 テニス：ストローク
テニスの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 4 回 テニス：サーブ
テニスのストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 5 回 テニス：ゲーム
テニスのゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
- 第 6 回 ウォーキング
ウォーキングの方法を実習し、健康づくりに役立てられるようにする。
- 第 7 回 バドミントン：ストローク
バドミンントンの基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 8 回 バドミントン：サーブ
バドミンントンのストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 9 回 バドミントン：ゲーム
バドミンントンのゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
- 第 10 回 卓球：ストローク
卓球の基礎としての主にフォアストローク、バックストロークを練習する。
- 第 11 回 卓球：サーブ
卓球のストロークの復習とサーブの練習を行い、ミニゲームを実施できるようにする。
- 第 12 回 卓球：ゲーム、レポート課題
卓球のゲームを数多く協働して実践し、自己の課題発見や楽しみ方の工夫をする。
自己の体力についてデータに基づく特性を考察し、健康維持増進のための方法をレポート課題により提案する。
- 第 13 回 トレーニング機器の使い方と実践
トレーニング機器の使い方を理解し、実践する。
- 第 14 回 ストレッチと体ほぐし
トレーニングの後のストレッチと体ほぐしによって、ボディメンテナンスを行う。
- 第 15 回 まとめ、フィードバック
レポートの講評を行い、健康スポーツに関する総合的な議論を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①授業方法＝トレーニング・ストレッチ・各種スポーツの実践を中心に行う。特にトレーニングやストレッチに関しては、身体の中のどの部位に効果があるのかを理解した上で、普段の生活の中でも実践可能なスキルを養成する。②資料＝必要に応じ、随時プリントを配布する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

総合的に日常生活における運動・栄養・休養に関わる健康維持活動を実践する。スポーツ種目のルールを理解する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度・取り組み(60%)、体力・技能水準(20%)、小レポート・レポート・課題(20%)として総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ガイダンス以外は、必ず運動できる服装(トレーニングウェア、ジャージ等)に着替えて授業に参加すること。初回に欠席した場合は、教員の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大学における健康・スポーツに関する科目担当実績あり

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

中国語 I A 2017年度以降入学者

GBF1302A0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜 3限 水曜 3限

DP3: 言語力

30

週2コマ

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 中国語で自己紹介できることを目指す。
3. 簡単な日常会話といくつかおもてなしの中国語を覚える。
4. できれば、中国語検定試験準4級に挑戦する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	テキストの内容を全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容を理解出来るのみならず、その応用も積極的に行う。
言語力	基本的な中国語の発音が出来ず、文法も全く理解できない。	ある程度基本的な中国語の発音が出来、文法もある程度理解できている。	基本的な中国語の発音がほぼ出来、文法もほぼ理解できている。	基本的な中国語の発音が完璧に出来、文法を完璧に理解出来る。
創造・発信力	中国語で簡単な会話をしようという気持ちがない。	中国語で簡単な会話しようという気持ちを持っているが、あまり出来ない。	中国語で簡単な会話しようという気持ちと努力が見え、ほぼできる。	中国語で簡単な会話が出来のみならず、中国語検定試験準4級にも積極的に挑戦する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
中国語とは何か
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中の立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説

- 第 16 回 後半の学ぶについて
前半の復習と後半の内容説明
- 第 17 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 18 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文?連動文について
- 第 19 回 願望表現について
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 20 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 21 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 22 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 23 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 24 回 いくつかの副詞について
“才”、“就”、“太・・・了”の使い方
- 第 25 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 26 回 “在”+場所の構文
前置詞“在”の使い方
- 第 27 回 いくつかの前置詞について
“?”、“?”、“从”、“跟”の使い方
- 第 28 回 趣味、嗜好の言い方
“喜?”、“?”、“?・・・感?趣”の使い方
- 第 29 回 時間の幅 (量) について
時間の幅 (量) の表現、中国語文の中の立ち位置
- 第 30 回 総合復習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015 年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I A (16以前) 2016年度以前入学者

101250A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 3限 水曜 3限

一

15

週2コマ

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 中国語で自己紹介できることを目指す。
3. 簡単な日常会話といくつかおもてなしの中国語を覚える。
4. できれば、中国語検定試験準4級に挑戦する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テキストの内容を全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容を理解出来るのみならず、その応用も積極的に行う。

言語力	基本的な中国語の発音が出来ず、文法も全く理解できない。	ある程度基本的な中国語の発音が出来、文法もある程度理解できている。	基本的な中国語の発音がほぼ出来、文法もほぼ理解できている。	基本的な中国語の発音が完璧に出来、文法を完璧に理解出来る。
創造・発信力	中国語で簡単な会話をしようという気持ちが全くない。	中国語で簡単な会話しようという気持ちを持っているが、あまり出来ない。	中国語で簡単な会話しようという気持ちと努力が見え、ほぼできる。	中国語で簡単な会話が出来のみならず、中国語検定試験準4級にも積極的に挑戦する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
中国語とは何か
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返して練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組ん

で会話する。

3.ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015 年// 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声をダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I B 2017年度以降入学者

GBF1302B0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜2限 水曜1限

DP3: 言語力

30

週2コマ

陳 捷

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 中国語で自己紹介できることを目指す。
3. 簡単な日常会話といくつかおもてなしの中国語を覚える。
4. できれば、中国語検定試験準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | イントロダクション
中国語とは何か |
| 第 2 回 | 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール |
| 第 3 回 | 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール |
| 第 4 回 | 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール |
| 第 5 回 | 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方 |
| 第 6 回 | 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文 |
| 第 7 回 | 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文 |
| 第 8 回 | 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 9 回 | 数詞について
数字を覚える |
| 第 10 回 | 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 11 回 | 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置 |
| 第 12 回 | 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置 |
| 第 13 回 | 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 14 回 | 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置 |
| 第 15 回 | 前半のまとめ
中間テストとテスト解説 |
| 第 16 回 | 後半の学ぶについて
前半の復習と後半の内容説明 |
| 第 17 回 | 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方 |
| 第 18 回 | 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文?連動文について |
| 第 19 回 | 願望表現について
“会”、“能”、“可以”の使い方 |
| 第 20 回 | もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方 |
| 第 21 回 | 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 22 回 | 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 23 回 | 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文 |

第 24 回	いくつかの副詞について ”才”、”就”、”太・・・了”の使い方
第 25 回	補語について (1) 程度補語の使い方
第 26 回	”在”+場所の構文 前置詞”在”の使い方
第 27 回	いくつかの前置詞について ”?”、”?”、”从”、”跟”の使い方
第 28 回	趣味、嗜好の言い方 ”喜?”、”?”、”?・・・感?趣”の使い方
第 29 回	時間の幅 (量) について 時間の幅 (量) の表現、中国語文の中の立ち位置
第 30 回	総合復習 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015 年// 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I B (16以前) 2016年度以前入学者

101250BOJ

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ

陳 捷

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 中国語で自己紹介できることを目指す。
3. 簡単な日常会話といくつかおもてなしの中国語を覚える。
4. できれば、中国語検定試験準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | イントロダクション
中国語とは何か |
| 第 2 回 | 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール |
| 第 3 回 | 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール |
| 第 4 回 | 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール |
| 第 5 回 | 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方 |
| 第 6 回 | 動詞”是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文 |
| 第 7 回 | 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文 |
| 第 8 回 | 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 9 回 | 数詞について
数字を覚える |
| 第 10 回 | 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文 |
| 第 11 回 | 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置 |
| 第 12 回 | 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置 |
| 第 13 回 | 比較の構文 |

比較の肯定文、否定文、疑問文

第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置

第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕
留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合もあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015 年// 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference) 〕
<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>
教科書の音声ダウンロードできます。
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I C 2017年度以降入学者

GBF1302C0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 後期
月曜 2限 水曜 1限
DP3 : 言語力
30
週2コマ
陶 盈

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 中国語で自己紹介できることを目指す。
3. 簡単な日常会話といくつかおもてなしの中国語を覚える。
4. できれば、中国語検定試験準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
中国語とは何か
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文

- 比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説
- 第 16 回 後半の学ぶについて
前半の復習と後半の内容説明
- 第 17 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 18 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文?連動文について
- 第 19 回 願望表現について
”会”、”能”、”可以”の使い方
- 第 20 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 21 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 22 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 23 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 24 回 いくつかの副詞について
”才”、”就”、”太・・・了”の使い方
- 第 25 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 26 回 ”在”+場所の構文
前置詞”在”の使い方
- 第 27 回 いくつかの前置詞について
”?”、”?”、”从”、”跟”の使い方
- 第 28 回 趣味、嗜好の言い方
”喜?”、”?”、”?”・・・感?趣”の使い方
- 第 29 回 時間の幅 (量) について
時間の幅 (量) の表現、中国語文の中での立ち位置
- 第 30 回 総合復習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I C (16以前) 2016年度以前入学者

101250C0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ

陶 盈

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 中国語で自己紹介できることを目指す。
3. 簡単な日常会話といくつかおもてなしの中国語を覚える。
4. できれば、中国語検定試験準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

中国語とは何か

第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について

声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール

第 3 回 中国語の母音

単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール

- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I D 2017年度以降入学者

GBF1302DOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

月曜1限 水曜2限

DP3 : 言語力

30

週2コマ

陳捷

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 中国語で自己紹介できることを目指す。
3. 簡単な日常会話といくつかおもてなしの中国語を覚える。
4. できれば、中国語検定試験準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
中国語とは何か
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について

- 数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説
- 第 16 回 後半の学ぶについて
前半の復習と後半の内容説明
- 第 17 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 18 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文?連動文について
- 第 19 回 願望表現について
”会”、”能”、”可以”の使い方
- 第 20 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 21 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 22 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 23 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 24 回 いくつかの副詞について
”才”、”就”、”太・・・了”の使い方
- 第 25 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 26 回 ”在”+場所の構文
前置詞”在”の使い方
- 第 27 回 いくつかの前置詞について
”?”、”?”、”从”、”跟”の使い方
- 第 28 回 趣味、嗜好の言い方
”喜?”、”?”、”?・・・感?趣”の使い方
- 第 29 回 時間の幅 (量) について
時間の幅 (量) の表現、中国語文の中の立ち位置
- 第 30 回 総合復習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 I D (16以前) 2016年度以前入学者

101250D0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜1限 水曜2限

—

15

週2コマ

陳 捷

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語の入門授業である。中国語を学習する前にまず中国語に関する次の基本知識を確認する。1) 標準語としての中国語とはなにか。2) 中国語の漢字と日本語の漢字の異同について。3) 中国語の漢字語彙と日本語の漢字語彙の異同について。これらの基本知識を把握した上で、本格的な中国語学習を始める。簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。受講生に正確な発音、簡単な会話を習得してもらうことは本授業の目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な発音と声調をマスターする。
2. 中国語で自己紹介できることを目指す。

3. 簡単な日常会話といくつかおもてなしの中国語を覚える。
4. できれば、中国語検定試験準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
中国語とは何か
- 第 2 回 中国語の特徴の一つ声調について
声調の特徴、発音、表音記号と表音ルール
- 第 3 回 中国語の母音
単母音と複合母音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 4 回 中国語の子音
子音の発音、表音記号と表音ルール
- 第 5 回 中国語で名前を言う
名前の言い方、聞き方
- 第 6 回 動詞“是”の使い方
判断文“是”の肯定文、否定文
- 第 7 回 3つの基本の疑問文
諾否疑問詞、疑問詞疑問文、反復疑問文
- 第 8 回 基本的な構文 (1)
動詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 数詞について
数字を覚える
- 第 10 回 基本的な構文 (2)
形容詞述語文の肯定文、否定文、疑問文
- 第 11 回 時の言い方 (1)
日にち、曜日に関連する言葉、中国語文の中の立ち位置
- 第 12 回 時の言い方 (2)
時刻の言い方、中国語文の中の立ち位置
- 第 13 回 比較の構文
比較の肯定文、否定文、疑問文
- 第 14 回 量詞について
ものの数え方、中国語文の中での立ち位置
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストとテスト解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書では、課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/2015 年// 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社// 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 II 2017年度以降入学者

GBF1352N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

月曜 2限 水曜 1限

DP3: 言語力

30

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業はすでに中国語Iを学習した学生を対象とするものである。中国語Iで学習した日常会話や基本的な文法を確認しながら、より高度な中国語を身につけることを目標とする。中国語と中国文化に興味を持たせることが肝心である。教科書にある文法と単語学習をしっかりと消化した上、授業ごとに、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う。中国語検定試験準4級に合格することを念頭において、中国語Iで学習した会話、単語、文法を復習しながら、準4級の過去問題も練習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 発音と文法の復習。
2. 日常会話をさらにグレードアップする。
3. 中国語検定試験準4級合格を目指す。
4. 中国語でキャンパス紹介するパワーポイント或いはビデオを作成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テキストの内容を全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容を理解出来るのみならず、その応用も積

				極的に行う。
言語力	日常会話の中国語は理解全くできない。	日常会話の中国語は少し理解できている。	日常会話の中国語はある程度理解できている。	日常会話の中国語はほぼ理解出来る。
創造・発信力	中国語で簡単な会話をしようという気持ちは全くない。	中国語で簡単な会話しようという気持が持っている。	中国語で簡単な会話しようという気持ちと努力が見える。	中国語で簡単な会話が出来るのみならず、積極的に中国語検定試験準4級に挑戦し、合格を目指す。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
中国語Iの復習
- 第 2 回 方向補語(1)
方向補語“来”と“去”
- 第 3 回 いくつかの前置詞
“到”、“?”、“除了”の使い方
- 第 4 回 理由と原因を言う
“因?・・・所以”の使い方
- 第 5 回 結果補語について
“動詞+完”、“動詞+到”、“動詞+好”などの使い方
- 第 6 回 副詞と数量詞の違い
副詞「有点儿」と数量詞「一点儿」の使い分け
- 第 7 回 使役文について
使役文の構文と作り方
- 第 8 回 方向補語(2)
複合方向補語の使い方
- 第 9 回 存現文について
存現文の特徴と構文
- 第 10 回 受け身について
受け身の構文と言い方
- 第 11 回 間接目的語について
間接目的語の特徴と構文
- 第 12 回 処置文について
処置文「把」の使い方
- 第 13 回 語気助詞について
変化を表す“了”の使い方
- 第 14 回 推量の表現について
推量の“会・・・了”について
- 第 15 回 前半のまとめ
中間テストと解説
- 第 16 回 後半の授業について
前半の説明と後半の内容紹介
- 第 17 回 動詞の持続と状態について
“動詞+着”の構文と使い方
- 第 18 回 主述述語文について
主述述語文の特徴と構文
- 第 19 回 目的を表現する

- “了”の使い方
 - 第 20 回 強調の表現
「一点儿也/都」+否定の言い方
 - 第 21 回 可能補語について
可能補語の構文と使い方
 - 第 22 回 許可、可能の表現
“可以”、“能”の使い方
 - 第 23 回 仮定文について
“如果・・・的?”の構文と使い方
 - 第 24 回 方向補語の派生的な表現
“動詞+起来”、“動詞+下去”の使い方
 - 第 25 回 変化を表現する
“已?・・・了”の構文と使い方
 - 第 26 回 兼語文について
兼語式連動文
 - 第 27 回 可能補語の派生的な表現
“動詞+得起”、“動詞+得下”の使い方
 - 第 28 回 補語について
中国語における補語発達の理由
 - 第 29 回 提案や誘いの言い方
“怎?了”の使い方
 - 第 30 回 総合練習
テストと解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. 音声資料教材を使い、聞き取り練習をする。
 2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
 3. ビデオによる映像資料を多用する。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- 授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- 留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 『語順から学ぶ中国語2改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//1/学内販売予定
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//
- 『一步進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.hakuteisha.co.jp/audio/gojun.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語ⅡA（16以前） 2016年度以前入学者

101251A0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 3限 水曜 3限

ー

15

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本授業は中国語Iの前半に引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせることを目標とします。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 中国語で自己紹介する。
3. 簡単な日常会話といくつかのおもてなしの中国語を学習する。
4. できれば、中国語検定準4級に挑戦する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テキストの内容を全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容を理解出来るのみならず、宿題も積極的に行う。
言語力	基本的な中国語の発音が出来ず、文法も全く理解できない。	ある程度基本的な中国語の発音が出来、文法もある程度理解できている。	基本的な中国語の発音がほぼ出来、文法もほぼ理解できている。	基本的な中国語の発音が完璧に出来、文法を完璧に理解出来る。

創造・発信力	中国語で簡単な会話をしようという気持ちが全くない。	中国語で簡単な会話をしようという気持ちを持っているが、あまり出来ない。	中国語で簡単な会話をしようという気持ちと努力が見え、ほぼできる。	中国語で簡単な会話が出来上、中国語検定試験準4級にも挑戦する。
--------	---------------------------	-------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 復習
使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。
前半に学んだ中国語の復習
- 第 2 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 3 回 基本的な構文（3）
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文一連動文について
- 第 4 回 願望表現の言い方
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 5 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 6 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 7 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 8 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 いくつかの副詞について
“才”、“就”、“太…了”の使い方
- 第 10 回 補語について（1）
程度補語の使い方
- 第 11 回 “在”+場所の構文
前置詞“在”の使い方
- 第 12 回 いくつかの前置詞について
“?”、“?”、“从”、“跟”の使い方
- 第 13 回 趣味、嗜好の言い方
“喜?”、“?”、“? · · · 感?趣”の使い方
- 第 14 回 時間の量について
時間の量の表現と中国語文の中の立ち位置
- 第 15 回 総合復習
テストと解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

本教科書には課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習

の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語 I 改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/ 2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 II B (16以前) 2016年度以前入学者

101251B0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 2限 水曜 1限

ー

15

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

陳 捷

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語Iの前半に引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせることを目標とします。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 中国語で自己紹介する。
3. 簡単な日常会話といくつかのおもてなしの中国語を学習する。
4. できれば、中国語検定準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

第 1 回 復習

使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。

前半に学んだ中国語の復習

- 第 2 回 指示詞について
もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方
- 第 3 回 基本的な構文 (3)
二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文一連動文について
- 第 4 回 願望表現の言い方
“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第 5 回 もう一つの疑問文
選択疑問文の言い方
- 第 6 回 完了形について
完了形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 7 回 進行形について
進行形の肯定文、否定文、疑問文
- 第 8 回 経験相について
経験相の肯定文、否定文、疑問文
- 第 9 回 いくつかの副詞について
“才”、“就”、“太…了”の使い方
- 第 10 回 補語について (1)
程度補語の使い方
- 第 11 回 “在”+場所の構文
前置詞“在”の使い方
- 第 12 回 いくつかの前置詞について
“?”、“?”、“从”、“跟”の使い方
- 第 13 回 趣味、嗜好の言い方
“喜?”、“?”、“?…感?趣”の使い方
- 第 14 回 時間の量について
時間の量の表現と中国語文の中の立ち位置
- 第 15 回 総合復習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書には課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/ 2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 II C (16以前) 2016年度以前入学者

101251C0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜2限 水曜1限

—

15

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

陶 盈

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語Iの前半に引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせることを目標とします。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 中国語で自己紹介する。
3. 簡単な日常会話といくつかのおもてなしの中国語を学習する。
4. できれば、中国語検定準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

第 1 回 復習

使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。
前半に学んだ中国語の復習

第 2 回 指示詞について

もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方

第 3 回 基本的な構文 (3)

二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文—連動文について

第 4 回 願望表現の言い方

“会”、“能”、“可以”の使い方

第 5 回 もう一つの疑問文

選択疑問文の言い方

第 6 回 完了形について

完了形の肯定文、否定文、疑問文

第 7 回 進行形について

進行形の肯定文、否定文、疑問文

第 8 回 経験相について

経験相の肯定文、否定文、疑問文

第 9 回 いくつかの副詞について

“才”、“就”、“太…了”の使い方

第 10 回 補語について (1)

程度補語の使い方

第 11 回 “在”+場所の構文

前置詞“在”の使い方

第 12 回 いくつかの前置詞について

“?”、“?”、“从”、“跟”の使い方

第 13 回 趣味、嗜好の言い方

“喜?”、“?”、“?…感?趣”の使い方

第 14 回 時間の量について

時間の量の表現と中国語文の中の立ち位置

第 15 回 総合復習

テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書には課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/ 2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 II D (16以前) 2016年度以前入学者

101251D0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜1限 水曜2限

ー

15

週2コマ 「中国語I」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

陳捷

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語Iの前半に引き続き、基礎的な中国語文法と会話を中心に授業を進める。授業中の個人またはグループ学習による発音練習、会話練習、中国語朗読の繰り返しを通して、学生の会話力をアップさせることを目標とします。またゲストとして中国人留学生を授業に招き、学生同士の中国語会話を通じて、会話練習と文化交流も行う予定。その他、言語学習を通して、学生の異文化への興味を起こさせるために、時には中国に関する最新映像、特に中国の大学生、若者に関するニュースを上映し、学生と異文化コミュニケーションの話題もする予定。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本的な文法をマスターする。
2. 中国語で自己紹介する。
3. 簡単な日常会話といくつかのおもてなしの中国語を学習する。
4. できれば、中国語検定準4級に挑戦する。

〔授業計画〕

第 1 回 復習

使用する教科書の第6課から第10課を学習する予定。

前半に学んだ中国語の復習

第 2 回 指示詞について

もの、場所、程度を指す様々な指示詞の使い方

第 3 回 基本的な構文 (3)

二つ以上の動詞がある複雑な動詞述語文一連動文について

第 4 回 願望表現の言い方

“会”、“能”、“可以”の使い方

第 5 回 もう一つの疑問文

選択疑問文の言い方

第 6 回 完了形について

完了形の肯定文、否定文、疑問文

第 7 回 進行形について

進行形の肯定文、否定文、疑問文

第 8 回 経験相について

経験相の肯定文、否定文、疑問文

第 9 回 いくつかの副詞について

“才”、“就”、“太…了”の使い方

第 10 回 補語について (1)

程度補語の使い方

第 11 回 “在”+場所の構文

前置詞“在”の使い方

第 12 回 いくつかの前置詞について

“?”、“?”、“从”、“跟”の使い方

第 13 回 趣味、嗜好の言い方

“喜?”、“?”、“? · · · 感?趣”の使い方

第 14 回 時間の量について

時間の量の表現と中国語文の中の立ち位置

第 15 回 総合復習

テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声資料を聴きながら、発音と声調を繰り返し練習する。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本教科書には課ごとに宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語 1 改訂版』/朱捷 朱鳳/ 白帝社/ 2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語Ⅲ 2017年度以降入学者

GBF2300NOJ
 大学
 共通教育科目
 2年次
 2単位 前期
 月曜2限 水曜1限
 DP3：言語力
 30
 週2コマ 「中国語Ⅱ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。
 朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語上級レベルの授業である。初級と中級を学習した教科書を利用して、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指して、必要な文法と単語を中心に学習することも本授業の目標の一つである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。
2. 中国語検定試験準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。
3. 中国語検定試験準4級、4級過去問を熟知する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テキストの内容が全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容が理解出来るのみならず、その応用も積極的に行う。
言語力	「聞く、話す、書く」能力は全くない。	「聞く、話す、書く」能力は少しある。	「聞く、話す、書く」能力はある程度ある。	「聞く、話す、書く」能力はほぼ持っている。
創造・発信力	中国語で会話をしようという気持ちは全くない。	中国語で会話しようという気持ちは持っている。	中国語で会話しようという気持ちと努力が見える。	中国語検定試験準4級 或いは4級に合格する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 中国語検定試験準4級の単語－単語の範囲
- 第 2 回 中国語検定試験準4級の文法－肯定文、否定文
- 第 3 回 中国語検定試験準4級のリスニング－ピンインのリスニング
- 第 4 回 中国語検定試験準4級の漢字－中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第 5 回 中国語検定試験準4級の記事－読解
- 第 6 回

中国語検定試験準4級の翻訳－日本語から中国語へ

- 第 7 回 模擬テスト－2018年の過去問を中心に
- 第 8 回 中国語検定試験準4級の単語－単語の理解と覚え方
- 第 9 回 中国語検定試験準4級の文法－疑問文、仮定文
- 第 10 回 中国語検定試験準4級のリスニング－短文のリスニング
- 第 11 回 中国語検定試験準4級の漢字－書き方
- 第 12 回 中国語検定試験準4級の記事－作文
- 第 13 回 中国語検定試験準4級の翻訳－中国語から日本語へ
- 第 14 回 模擬テスト－2019年の過去問を中心に
- 第 15 回 中間テストと解説
- 第 16 回 中国語検定試験4級の単語－単語の範囲
- 第 17 回 中国語検定試験4級の文法－肯定文、否定文
- 第 18 回 中国語検定試験4級のリスニング－ピンインのリスニング
- 第 19 回 中国語検定試験4級の漢字－中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第 20 回 中国語検定試験4級の記事－読解
- 第 21 回 中国語検定試験4級の翻訳－日本語から中国語へ
- 第 22 回 模擬テスト－2018年の過去問を中心に
- 第 23 回 中国語検定試験4級の単語－単語の理解と覚え方
- 第 24 回 中国語検定試験4級の文法－疑問文、仮定文
- 第 25 回 中国語検定試験4級のリスニング－短文のリスニング
- 第 26 回 中国語検定試験4級の漢字－書き方
- 第 27 回 中国語検定試験4級の記事－作文
- 第 28 回 中国語検定試験4級の翻訳－中国語から日本語へ
- 第 29 回 模擬テスト－2019年の過去問を中心に
- 第 30 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

中国語検定試験準4級、4級レベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また小テストも実施する予定。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順で学ぶ中国語I改訂版』/朱捷、朱鳳/白帝社/2015/1/学内販売予定

『語順で学ぶ中国語II改訂版』/朱捷、朱鳳/白帝社/2015/1/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語Ⅲ (16以前) 2016年度以前入学者

101252N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期前半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「中国語II」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業はすでに一年間中国語を学習した学生を対象とするものである。中国語Iと中国語IIで学習した日常会話や基本的な文法を確認しながら、より高度な中国語を身につけることを目標とする。中国語と中国文化に興味を持たせることが肝心である。教科書にある文法と単語学習をしっかりと消化した上、授業ごとに、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う。中国語検定試験準4級に合格することを念頭において、中国語Iと中国語IIで学習したの会話、単語、文法を復習しながら、準4級の過去問題も練習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.発音と文法の復習。
- 2.日常会話をさらにグレードアップする。
- 3.中国語検定試験準4級合格を目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テキストの内容を全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容を理解出来るのみならず、その応用も積極的に行う。
言語力	日常会話の中国語は理解全くできない。	日常会話の中国語は少し理解できている。	日常会話の中国語はある程度理解できている。	日常会話の中国語はほぼ理解出来る。

創造・発信力	中国語で簡単な会話をしようという気持ちは全くない。	中国語で簡単な会話をしようという気持が持っている。	中国語で簡単な会話をしようという気持ちと努力が見える。	中国語で簡単な会話が出来のみならず、中国語検定試験準4級に挑戦する。
--------	---------------------------	---------------------------	-----------------------------	------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
使用する教科書の第1課から第5課まで授業する予定。
中国語Iと中国語IIの復習
- 第 2 回 方向補語(1)
方向補語“来”と“去”
- 第 3 回 いくつかの前置詞
”到”、”?”、“除了”の使い方
- 第 4 回 理由と原因を言う
“因?・・・所以”の使い方
- 第 5 回 結果補語について
“動詞+完”, “動詞+到”, “動詞+好”などの使い方
- 第 6 回 副詞と数量詞の違い
副詞「有点儿」と数量詞「一点儿」の使い分け
- 第 7 回 使役文について
使役文の構文と作り方
- 第 8 回 方向補語 (2)
複合方向補語の使い方
- 第 9 回 存現文について
存現文の特徴と構文
- 第 10 回 受け身について
受け身の構文と言い方
- 第 11 回 間接目的語について
間接目的語の特徴と構文
- 第 12 回 処置文について
処置文“把”の使い方
- 第 13 回 語気助詞について
変化を表す“了”の使い方
- 第 14 回 推量の表現について
推量の“会・・・了”について
- 第 15 回 総合練習
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1.音声教材を使い、聞き取り練習をする。
- 2.日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
- 3.ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語2改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

白帝社ホームページ

<http://www.kakuteisha.co.jp/audio/gojun-2.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語Ⅳ (16以前) 2016年度以前入学者

101253N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 後期後半

月曜 2限 水曜 1限

—

15

週2コマ 「中国語Ⅲ」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること。

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語Ⅲを終了した学生、あるいは同等程度のレベルのある学生を対象とするものである。中国人と簡単なコミュニケーションができる程度の中国語を身につけることを目標とする。中国語と中国文化に興味を持たせることが肝心である。教科書にある文法と単語学習をしっかりと消化した上、授業ごとに、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う。中国語検定試験準4級に合格することを念頭において、中国語Ⅲの会話、単語、文法を復習しながら、準4級の過去問題も繰り返し練習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.発音と文法の復習。
- 2.日常会話をさらにグレードアップする。
- 3.中国語検定試験準4級合格を目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テキストの内容を全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容を理解出来るのみならず、その応用も積極的に行う。
言語力	日常会話の中国語は理解全くできない。	日常会話の中国語は少し理解できている。	日常会話の中国語はある程度理解できている。	日常会話の中国語はほぼ理解出来る。
創造・発信力	中国語で簡単な会話をしようという気持ちは全くない。	中国語で簡単な会話しようという気持が持っている。	中国語で簡単な会話しようという気持ちと努力が見える。	中国語で簡単な会話が出来のみならず、中国語検定試験準4級にも挑戦する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 前半のまとめ
使用する教科書の第6課から第10課まで授業する予定。
前半の復習
- 第 2 回 動詞の持続と状態について
“動詞+着”の構文と使い方
- 第 3 回 主述述語文について
主述述語文の特徴と構文
- 第 4 回 目的を表現する
“?”の使い方
- 第 5 回 強調の表現
「一点儿也/都」+否定の言い方
- 第 6 回 可能補語について
可能補語の構文と使い方
- 第 7 回 許可、可能の表現
“可以”、“能”の使い方
- 第 8 回 仮定文
“如果···的?”の構文と使い方
- 第 9 回 方向補語の派生的な表現
“動詞+起来”、“動詞+下去”の使い方
- 第 10 回 変化を表現する
“已?···了”の構文と使い方
- 第 11 回 兼語文について
兼語式連動文
- 第 12 回 可能補語の派生的な表現
“動詞+得起”、“動詞+得下”の使い方

第 13 回 補語について

中国語における補語発達の理由

第 14 回 提案と誘いの言い方

“怎?了”の言い方

第 15 回 総合練習

テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 音声教材を使い、聞き取り練習をする。
2. 日常生活の場面を設定し、学生ひとり一人ペアーを組んで会話する。
3. ビデオによる映像資料を多用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語 2 改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015年//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢語学習詞典』/相原 茂/朝日出版社//

『一歩進んだ中国語文法』/荒川清秀/大修館//

〔参考URL(URL for Reference)〕

白帝社ホームページ

<http://www.kakuteisha.co.jp/audio/gojun-2.html>

教科書の音声ダウンロードできます。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語 V 2016年度以前入学者

101260NOJ

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期前半

月曜 2限 水曜 1限

ー

15

週2コマ 「中国語IV」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること ※平成22年度以後入学者に適用

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は中国語上級レベルの授業である。初級と中級を学習した教科書を利用して、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指して、必要な文法と単語を中心に学習することも本授業の目標の一つである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。
2. 中国語検定試験準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。
3. 中国語検定試験準4級、4級の過去問に熟知する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テキストの内容が全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容が理解出来るのみならず、その応用も積極的に行う。
言語力	「聞く、話す、書く」能力は全くない。	「聞く、話す、書く」能力は少しある。	「聞く、話す、書く」能力はある程度ある。	「聞く、話す、書く」能力はほぼ持っている。
創造・発信力	中国語で会話をしようという気持ちは全くない。	中国語で会話をしようという気持ちは持っている。	中国語で会話をしようという気持ちと努力が見える。	中国語で会話が出来るのみならず、中国語検定試験準4級或いは4級に挑戦する。

〔授業計画〕

第 1 回 中国語検定試験準4級の単語－単語の範囲

第 2 回 中国語検定試験準4級の文法－肯定文、否定文

第 3 回 中国語検定試験準4級のリスニング－ピンインのリスニング

第 4 回

中国語検定試験準4級の漢字－中国語漢字と日本語漢字の違い

- 第 5 回 中国語検定試験準4級の記事－読解
- 第 6 回 中国語検定試験準4級の翻訳－日本語から中国語へ
- 第 7 回 模擬テスト－2018年の過去問を中心に
- 第 8 回 中国語検定試験準4級の単語－単語の理解と覚え方
- 第 9 回 中国語検定試験準4級の文法－疑問文、仮定文
- 第 10 回 中国語検定試験準4級のリスニング－短文のリスニング
- 第 11 回 中国語検定試験準4級の漢字－書き方
- 第 12 回 中国語検定試験準4級の記事－作文
- 第 13 回 中国語検定試験準4級の翻訳－中国語から日本語へ翻訳
- 第 14 回 模擬テスト－2019年の過去問を中心に
- 第 15 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

中国語検定試験準4級、4級レベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また小テストも実施する予定。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015//学内販売予定

『語順から学ぶ中国語2改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

中国語検定試験 過去問WEB https://chukenweb.jp/list_tests.php

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中国語VI 2016年度以前入学者

101261N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 前期後半

月曜 2限 水曜 1限

ー

15

週2コマ 「中国語V」履修済み又はそれと同程度の学力を有すること ※平成22年度以後入学者に適用

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は中国語Vを受けた学生、あるいは同レベルに達した学生を対象にし、中国語検定試験準4級、4級を受けることを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中国語Vに引き続き、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。
2. 中国語検定試験準4級と4級に必要な単語を覚え、文章の読解力をヒアリング能力を向上させる。
3. 中国語検定試験準4級と4級の過去問に熟知する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テキストの内容が全く理解できない。	ある程度テキストの内容が理解できる。	ほぼテキストの内容が理解できる。	テキストの内容が理解出来るのみならず、その応用も積極的に行う。
言語力	「聞く、話す、書く」能力は全くない。	「聞く、話す、書く」能力は少しある。	「聞く、話す、書く」能力はある程度ある。	「聞く、話す、書く」能力はほぼ持っている。
創造・発信力	中国語で会話をしようという気持ちは全くない。	中国語で会話しようという気持ちを持っている。	中国語で会話しようという気持ちと努力が見える。	中国語で会話が出来るのみならず、中国語検定試験準4級或いは4級に挑戦する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 中国語検定試験4級の単語－単語の範囲
- 第 2 回 中国語検定試験4級の文法－肯定文、否定文
- 第 3 回 中国語検定試験4級のリスニング－ピンインのリスニング
- 第 4 回 中国語検定試験4級の漢字－中国語漢字と日本語漢字の違い
- 第 5 回 中国語検定試験4級の記事－読解
- 第 6 回 中国語検定試験4級の翻訳－日本語から中国語へ

- 第 7 回 模擬テストー2018年の過去問を中心に
 第 8 回 中国語検定試験4級の単語ー単語の理解と覚え方
 第 9 回 中国語検定試験4級の文法ー疑問文、仮定文
 第 10 回 中国語検定試験4級のリスニングー短文のリスニング
 第 11 回 中国語検定試験4級の漢字ー書き方
 第 12 回 中国語検定試験4級の記事ー作文
 第 13 回 中国語検定試験4級の翻訳ー中国語から日本語へ
 第 14 回 模擬テストー2019年の過去問を中心に
 第 15 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

中国語検定試験準4級、4級レベルを目指して、過去の問題集や受験用の問題集を繰り返す練習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業ごとに学生に宿題を用意している。宿題することによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。また課ごとに小テストも実施する予定。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (宿題提出を含む、15%)、テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

留学生やゲストなどを招くスペシャル授業を実施する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『語順から学ぶ中国語1改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015//学内販売予定

『語順から学ぶ中国語2改訂版』/朱捷 朱鳳/白帝社/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

中国語検定試験 過去問WEB https://chukenweb.jp/list_tests.php

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

東アジア近現代史

GEH1202N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

水曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

根岸 智代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

中国をはじめとするアジア諸国の現状を文化や歴史的視点などから考察する。アジア諸国の歴史や現在抱えている問題点、日本との関係などについて提示する。そこから、今後アジア諸国と日本との関係をどのように築くべきかという問題について理解を深めることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代東アジア地域の実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
考えをまとめる力	授業内容を整理するのみ	授業内容を整理し、あらたな知見を得る	授業内容を整理し、自分の考えを思いつける	授業内容を整理し、自分の考えを提言できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 中国 中国概観
 広大な中国全土、そこに住む民族を紹介する。
- 第 2 回 台湾の風土、歴史
 台湾の風土、文化、歴史を紹介する。
- 第 3 回 戦後台湾と日台関係
 1945年以降の台湾の歴史、現在の台湾を紹介し、これからの日台関係を考察する。
- 第 4 回 香港の歴史・日本との関わり
 香港の歴史、日本と香港の関わりを紹介し、今の香港が置かれている立場を考察する。
- 第 5 回 香港・マカオの歴史
 第4回で考察した現在の香港の状況を考察し、またマカオの歴史も紹介する。中国に返還されたマカオと香港の問題にも焦点をあてて考察する
- 第 6 回 シンガポール
 東南アジアに位置するシンガポールの風土、歴史を紹介する。観光地として有名なシンガポールだが、さまざまな民族がまじりあう土地でもある。民族が共存するポイントは何かを考察してもらいたい。
- 第 7 回 韓国
 戦後韓国の発展と日韓関係
 1930年代からの日本と韓国の歴史について考察する。
- 第 8 回 韓国の歴史と文化

引き続き、韓国の歴史について紹介し、将来の日韓関係はどうあるべきかを考察してもらいたい。また韓国の文化事情にも触れたい。

第9回 ベトナム（1）
ベトナムの歴史について紹介する。またベトナムの文化事情にも触れ、日本とベトナムとの関係についても考察してもらいたい。

第10回 中国近現代史（1）
清朝末期、アヘン戦争から中華民国までの歴史を概括する。

第11回 中国 近現代史
中華民国から中華人民共和国へ：中華民国成立後、日中戦争を経て、共産党による中華人民共和国が1949年に成立するまでの概括する。

第12回 現代中国（1）
1950年代～1970年代の中国
建国後から文化大革命の混乱期までを紹介する。

第13回 現代中国（2）
改革開放初期の中国 1980年～2000年の目覚ましい発展をとげていった中国について紹介する。

第14回 現代中国（3）
現代の中国を紹介し、これからの日中関係についてどうあるべきかを考察してもらいたい。

第15回 今までのまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・授業方法
①授業はパワーポイントを利用した講義形式で実施する。
②随時、関連する映像資料を見る。
③プリントを配布する。

・学習方法
①講義を通して、東アジアに関する理解を深める。
②授業で取り上げられた個別の内容を学習し、定期試験を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
毎回、授業後に配布した資料等で復習し、不定期の課題および定期試験に備えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績は、定期試験（70%）、授業時の課題（数回実施、30%）の総合評価とする。また欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として成績評価の対象としない。

〔留意事項（Other Information）〕
授業予定は授業の進行状況に応じて多少前後する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『概説近現代中国政治史』/浅野亮 川井悟/ミネルヴァ書房/2012年/978-4623061006

『シリーズ中国近現代史1～6』/吉澤誠一郎、川島真、石川禎浩、久保亨、高原明夫、西村成雄/岩波文庫/2010年/別途指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日常の英会話 A

GBE2300A0E
大学
共通教育科目
2年次
1単位 後期
金曜 3限
DP3：言語力
15

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. in order to improve their speaking ability and succeed in the course, students must participate actively in class activities and complete homework on time.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can demonstrate an improvement in speaking fluency	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can demonstrate the ability to speak in longer utterances	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can support	Does not meet course	Meets some course	Meets most course	Exceeds most course

ideas with details and examples	expectations yet	expectations	expectations and excels on some criteria	expectations
Can ask questions to elicit or clarify information	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can understand short conversations and talks on familiar topics	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can make organized short presentations or responses to prompts	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Class introduction
- 第 2 回 A day in the life
- 第 3 回 Travel
- 第 4 回 Staying Healthy
- 第 5 回 Describing personality
- 第 6 回 The town where I live
- 第 7 回 Giving Advice
- 第 8 回 Culture
- 第 9 回 Environment
- 第 10 回 Work and job hunting
- 第 11 回 Giving and receiving gifts
- 第 12 回 The future
- 第 13 回 Coffeetalk
- 第 14 回 minipresentations
- 第 15 回 class review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. Students will receive written feedback on each draft of their written work and on live/recorded spoken responses. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation and preparation 25%

Homework 20%

Speaking assignments 40%

Quizzes 15%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

There is no textbook for this class. We will use handouts, video, and online materials.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日常の英会話 B

GBE2300B0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

金曜 3限

DP3 : 言語力

15

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will practice talking about various everyday topics important to them. On the first day, the students and teacher will decide on course content, such as: what topics to study, what kinds of activities to do, what skills to focus on, preferred style of feedback and assessment. The course is entirely shaped by the needs and interests of the students with guidance from the instructor.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The main objective of this course is to practice speaking English and build confidence for future encounters with English-speaking people. We will target specific communication skills such as: expressing ideas with support, using follow-up questions to ask for clarification or more information, and dealing with communication problems.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Interaction: Can navigate a conversation with a partner with success	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome to Everyday English!
Introduction to the course, negotiation of course content; Self introductions.
- 第 2 回 Memory from summer vacation
- 第 3 回 Hometown
- 第 4 回 Movies, TV, Music
- 第 5 回 Hobbies
- 第 6 回 Social media
- 第 7 回 Midterm interviews
- 第 8 回 Fashion
- 第 9 回 Talents
- 第 10 回 Shopping
- 第 11 回 Sightseeing/Travel
- 第 12 回 Food
- 第 13 回 Reflection on 2021
- 第 14 回 Final interviews
- 第 15 回 Reflection on learning

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students can expect to work in pairs and groups with each other/the instructor in a lively classroom environment. Active participation is key: be bold and enthusiastic every class. Mistakes are welcome! Assignments will be submitted on paper in class/ on the school learning management system, Manaba. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to improve your speaking skill, it is necessary to attend class and complete the homework assignments each week.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%

Quizzes: 20%

Homework: 20%

Midterm and final interviews: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日常の英会話 C

GBE2300C0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 前期

木曜 4限

DP3 : 言語力

15

Eric Hail

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is the improvement of the oral communicational abilities of the students. However, the development of the students' listening, writing and reading skills will also be addressed. Special emphasis will be placed on the vocabulary and structures required for everyday living situations.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
The power to nurture yourself				
Knowledge and understanding				
Language skills				
Thinking and resolution				
The power of symbiosis and collaboration				
Creativity / communication ability				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 English Firsthand Unit 1- Introducing yourself
- 第 3 回 English Firsthand Unit 1- Greeting people
- 第 4 回 English Firsthand Unit 1- Exchanging information
- 第 5 回 English Firsthand Unit 2- Describing clothing
- 第 6 回 English Firsthand Unit 2- Talking about fashion
- 第 7 回 English Firsthand Unit 2 - Talking about unusual fashion
- 第 8 回 English Firsthand Unit 3- How do you stay healthy?
- 第 9 回 English Firsthand Unit 3 - What makes you happy?
- 第 10 回 English Firsthand Unit 3 - Giving advice
- 第 11 回 English Firsthand Unit 4 - Giving directions
- 第 12 回 English Firsthand Unit 4 - Asking for directions
- 第 13 回 English Firsthand Unit 4 - Following directions
- 第 14 回 English Firsthand Unit 4 - Understanding map directions
- 第 15 回 English Workshop

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class Participation, Behavior 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

Schedule subject to change.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Firsthand Success (5th Edition)』/Michael Rost/Pearson Longman/2017/ 9789813130210/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫trained and experienced EFL professional

日本語講読 I

GBJ1300N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 火曜 3限
 DP3 : 言語力
 15
 外国人留学生は履修すること (留学生以外は履修できない)
 稲垣 顕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心

に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 多様な文章を読み解く読解力の強化 2. 現代日本と世界を取り巻く社会事情を理解するための語彙および表現の習得 3. 日本語の自然な発話の習得 4. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自らの日本語能力を向上する努力をしない	自らの日本語能力の向上が必要だと認識している	自らの日本語能力を向上させるために積極的に学ぶ	獲得した日本語能力を活かすための努力を欠かさずさらに成長しようとする
知識・理解力	日本語及び日本についての基礎的な知識が身についていない	大学での学びに必要な日本語の知識が最低限身についている	大学での学びに必要な専門分野の日本語の知識も有している	日本語及び日本についての広範な知識を有し、さらに理解できる
言語力	日本語の基礎が身についていない	日本語能力試験N2レベルの日本語能力を有する	日本語能力試験N1レベルの日本語能力を有する	レベル3に加えて、自らの専門分野だけでなく広範囲な日本語能力を有する
思考・解決力	教えられたこと以上を考えようとしない	日本語や日本についての諸問題に関心を持ち考えようとする	日本語や日本についての諸問題について考え、ある程度解決できる	日本語や日本についての諸問題を積極的に見出し解決できる
共生・協働する力	授業で得た知識や他者の意見を参考にしない	授業で得た知識や他者の意見を参考にしようとする	自らの考えを他者と共有し、さらに深めようとする	様々な情報を他者と共有し、自らの考えを適切に発信できる
創造・発信力	自分勝手な情報の発信をする	周囲の状況を考慮し、適切な日本語で発信できる	自らの考えと他者の意見を踏まえて、適切な日本語で発信できる	レベル3に加えて、多様性を尊重し、建設的な発信ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、自己紹介
- 第 2 回 シャドーイング練習①『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』 p.24、聴解
- 第 3 回

シャドーイング練習②同p.26、文章読解①〈遺伝子組み換え〉

- 第 4 回 シャドーイング練習③同p.28、文章読解②〈生命倫理〉
- 第 5 回 キーワードネット検索・発表
- 第 6 回 シャドーイング練習④同p.30、文章読解③〈出生前診断〉
- 第 7 回 シャドーイング練習⑤同p.32、文章読解④〈遺伝子診断〉
- 第 8 回 シャドーイング練習⑥同p.46、ディスカッション〈生命倫理〉
- 第 9 回 シャドーイング練習⑦同p.48、文章読解⑤〈ジェンダーとは?〉
- 第 10 回 シャドーイング練習⑧同p.50、文章読解⑥〈ことばに焼きつけられているもの〉
- 第 11 回 シャドーイング練習⑨同p.52、文章読解⑦〈夫婦別姓〉
- 第 12 回 シャドーイング練習⑩同p.66、文章読解⑧〈草食系男子〉
- 第 13 回 シャドーイング練習⑪同p.68、ディスカッション〈ジェンダー〉
- 第 14 回 前期学習のまとめと到達度確認テスト
- 第 15 回 到達度確認テスト解答とフィードバック、後期の日本語講読Ⅱについて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 多様な新聞・雑誌・専門書・グラフ等を教材として読んでいきます。学生にはその都度資料(教材)を配布します。また、学生各自が情報収集し、それについて発表・意見交換します。テーマは主に生命倫理・「ことば」に見るジェンダーなど。2. ほぼ毎回シャドーイング練習を行います。3. 授業進度に合わせて適宜小テストを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学生は毎回配付資料の事前予習および授業への積極的参加が求められます。また、適宜各自の興味に沿っての情報収集(新聞・インターネットなど)を課します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、提出課題(15%)、小テスト(25%)、到達度確認テスト(30%)に基づいて総合的に行います。遅刻・早退3回で欠席1回とします。出席が授業回数の3分の2に満たない者には単位を認定しません。

〔留意事項 (Other Information)〕

履修生の日本語能力、ニーズ、希望などに応じて、授業内容、順序等の変更を行うことがあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第4版』『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

該当なし

日本語講読Ⅱ

GBJ1350N0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

火曜3限

DP3：言語力

15

外国人留学生は履修すること（留学生以外は履修できない）

稲垣 顕子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び、卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 多様な文章を読み解く読解力の強化 2. 現代日本と世界を取り巻く社会事情を理解するための語彙および表現の習得 3. 日本語の自然な発話の習得 4. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自らの日本語能力を向上させる努力をしない	自らの日本語能力を向上させる必要性を認識している	自らの日本語能力を向上させるために積極的に学ぶ	獲得した日本語能力を活かすための努力を欠かさずさらに成長しようとする
知識・理解力	日本語及び日本についての基礎的な知識が身につけていない	大学での学びに必要な日本語の知識が最低限身につけている	大学での学びに必要な専門分野の日本語の知識も有し、理解しようとする	日本語及び日本についての広範な知識を有し、さらに理解できる

言語力	日本語の基礎が身につけていない	日本語能力試験N2レベルの日本語能力を有する	日本語能力試験N1レベルの日本語能力を有する	レベル3に加えて、自らの専門分野だけでなく広範囲な日本語能力を有する
思考・解決力	教えられたこと以上を考えようとしない	日本語や日本についての諸問題について関心を持ち、考えようとする	日本語や日本についての諸問題について考え、解決しようとする	日本語や日本についての諸問題を積極的に見出し意欲的に解決しようとする
共生・協働する力	授業で得た知識や他者の意見を参考にしない	授業で得た知識や他者の意見を参考にしようとする	自らの考えを他者と共有し、さらに深めようとする	様々な情報を他者と肯定的に共有し、自らの考えを適切に発信できる
創造・発信力	自分勝手な情報の発信をする	周囲の状況を考慮し、適切な日本語で発信できる	自らの考えと他者の意見を踏まえ、適切な日本語で発信できる	レベル3に加えて、多様性を尊重し、建設的な発信ができる

〔授業計画〕

- 第1回 シャドーイング練習①『シャドーイング 日本語で話そう・中～上級編』p.70、文章読解①〈地球温暖化〉
- 第2回 シャドーイング練習②同p.72、文章読解②〈大気汚染〉
- 第3回 シャドーイング練習③同p.74、発表・意見交換①〈オゾン層の破壊〉
- 第4回 シャドーイング練習④同p.76、文章読解③〈廃棄物の増加〉
- 第5回 シャドーイング練習⑤同p.84、文章読解④〈環境破壊〉
- 第6回 シャドーイング練習⑥同p.86、発表・意見交換②〈SDGsの取り組み〉
- 第7回 シャドーイング練習⑦同p.88、文章読解⑤〈環境商品の選択〉
- 第8回 シャドーイング練習⑧同p.90、文章読解⑥〈脱プラスチック社会〉
- 第9回 シャドーイング練習⑨同p.102、発表・意見交換③〈食品ロス〉
- 第10回 シャドーイング練習⑩同p.104 発表・意見交換④〈リサイクル〉
- 第11回 シャドーイング練習⑪同p.106 文章読解⑦〈イヤと言う勇気〉
- 第12回 シャドーイング練習⑫同p.108 文章読解⑧〈いじめを防ぐ 加害者と向き合おう〉
- 第13回

シャドーイング練習⑩同p.110 発表・意見交換
⑤〈豊かな生活とは?〉

第 14 回 後期学習のまとめと到達度確認テスト

第 15 回 到達度確認テスト解答とフィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 多様な新聞・雑誌・専門書・グラフ等を教材として読んでいきます。学生にはその都度資料 (教材) を配布します。また、学生各自が興味のあるものを情報収集し、それについて発表・意見交換します。テーマは主に環境問題、他 2. 毎回シャドーイング練習を行います。3. 授業進度に合わせて適宜小テストを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学生は毎回配付資料の事前予習および授業への積極的参加が求められます。また、適宜各自の興味に沿っての情報収集 (新聞・インターネットなど) を課します。

〔準備学習に必要な標準時間数 (合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

出席・授業参加度 (30%)、課題発表・ (20%)、小テスト (20%)、到達度確認テスト (30%) に基づいて総合的にを行います。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回とします。出席が授業回数の 3 分の 2 に満たない者には単位を認定しません。

〔留意事項 (Other Information)〕

履修生の日本語能力、ニーズ、希望などに応じて、授業順序、内容、テーマなどの変更を行うことがあります。

〔テキスト (Textbook) (書籍名 (Title) / 著者 (Author) / 出版社 (Publisher) / 出版年 (Year Published) / ISBN / 学内販売の有無)〕

〔参考文献 (References) (書籍名 (Title) / 著者 (Author) / 出版社 (Publisher) / 出版年 (Year Published) / ISBN)〕

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』『改訂版留学生のための論理的な文章の書き方』『シャドーイング日本語で話そう・中～上級編』『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集 第 4 版』

〔参考 URL (URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

該当なし

日本語特講 I

GBJ2300N0J

大学

共通教育科目

2 年次

1 単位 前期

火曜 4 限

DP3 : 言語力

15

外国人留学生は履修すること (留学生以外は履修できない)

田中 貴子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本における新聞、小説、論説など幅広い分野の文章を読んだり、テレビ、ビデオなどの教材を視聴したりして日本の文化や思想への認識を深める。発表、ディスカッションなどの学習活動を通して、日本語運用能力を自主的に身につける。同時に現代日本社会の諸問題を考察して自分の考えをまとめ、わかりやすく論理的に文章化することで書く力も養う。また、毎回、文法・語彙・漢字などの言語知識の宿題を課し、次回クイズを行う。これらを通して、日本語表現力をさらに豊かにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 講義だけでなく自主的に学習する方法を学ぶ。2. 各テーマに沿った文献、資料、グラフなどを読んだり聞いたりする力をつける。3. ディスカッションや発表を通じて、適切な話し方や自分の考えをまとめて書く力を身につける。4. 日本の文化を知り、異文化に関する認識を深める。5. 宿題およびクイズにより、さらに高度な日本語の表現を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語能力を向上する努力をしない	日本語能力の向上を大切に考える	日本語能力を向上するために、自ら積極的に学ぶ	日本語能力をどのように活用できるか考え、自ら成長できる
知識・理解力	基礎的な日本語や日本に関する知識がない	大学で行う授業に最低限ついていける日本語や日本に関する知識を有する	専門的な日本語や日本に関する知識を有する	広範囲の分野における日本語や日本に関する知識を有し、深めることができる
言語力	基礎的な日本語が理解できていない	JLPT N1 レベルの日本語能力を有する	ネイティブと同等程度の自然な日本語能力を有する	広範囲の日本語能力を使って発信できる

思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	日本語や日本に関する問題を考えようとする	日本語や日本に関する問題を解決できる	日本語や日本に関する問題点を自ら見つけ出し解決できる
共生・協働する力	授業で学んだ知識や他者の意見を参考にしない	授業で学んだ知識や他者の意見を参考にしようとする	考えた結果を他者と共有し、自分の考えを深めようとする	他の多くの情報や考えを共有し、自らの考えを発信できる
創造・発信力	自分勝手な情報発信を行う	自ら、周囲の状況を踏まえて、日本語で発信できる	自らの考えや、他者の考えを総合的に判断して日本語で発信できる	レベル3に加えて、モラルも考慮に入れ、日本語で多様な発信ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 日本語の世界
- 第 3 回 日本の文化
- 第 4 回 日本人の行動様式
- 第 5 回 言語とコミュニケーション
- 第 6 回 食生活
- 第 7 回 異文化理解
- 第 8 回 環境と人間
- 第 9 回 民話・昔話
- 第 10 回 少子高齢化社会
- 第 11 回 季節感
- 第 12 回 教育と学び
- 第 13 回 科学と技術
- 第 14 回 現代の社会
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各テーマに沿って様々な資料を読んだり、聞いたりする。
各テーマに関する考えをまとめディスカッションを行う。
内容についてのタスクや作文を行う。
言語知識 (文法・語彙・漢字など) に関するタスクおよびクイズを行う。
各回のタスクおよびクイズについて、次回に全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学生は各テーマに沿った資料を読んでくること。
言語知識の宿題を自主学習。次週の小クイズに準備することが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、出席率、授業参加度 (30%)、提出課題 (40%)、試験 (30%) により総合的に行う。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎回、プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『留学生のためのここが大切文章表現のルール』////

『中上級学習者のための日本語読解ワークブック』//アルク// 9.784757416222E12

『上級学習者のための日本語読解ワークブック』//アルク// 9.784757419292E12

『新完全マスター日本語能力試験N1』//スリーエーネットワーク//

『インタビュープロジェクト日本人の価値観発見』//くろしお出版//

超級表現+使える名句

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

日本語学校、インターナショナルスクールにおいて留学生に、また豊中市国際交流協会、神戸市国際交流協会において在留外国人に日本語教育を担当

日本語特講 II

GBJ2350N0J

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

火曜 4限

DP3 : 言語力

15

外国人留学生は履修すること (留学生以外は履修できない)

稲垣 顕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学での学習環境において必要な日本語の語彙力および理解力をさらに向上させる。

自らの意見を口頭および筆記で論理的に発信できる能力をさらに向上させる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・様々な情報(書籍、雑誌、新聞、インターネットなど)を読み込むことで必要な語彙を増やし、その内容を正しく理解、運用できるようになる。

・自分の興味あるテーマの情報を見つけ、その内容をまとめた的確に発信できるようになる。

・現代社会の状況について他の人の意見を理解し議論できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自らの日本語能力を向上する努力をしない	自らの日本語能力の向上が必要だと認識している	自らの日本語能力を向上させるために積極的に学ぶ	獲得した日本語能力を活かすための努力を欠かさずさらに成長しようとする
知識・理解力	日本語及び日本についての基礎的な知識が身についていない	大学での学びに必要な日本語の知識が最低限身についている	大学での学びに必要な専門分野の日本語の知識についても有している	日本語及び日本についての広範な知識を有しさらに理解できる
言語力	日本語の基礎が身についていない	日本語能力試験N2レベルの日本語能力が身についている	日本語能力試験N1レベルの日本語能力を持つ	レベル3に加えて、自らの専門分野だけによらない広範な日本語能力を持つ
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	日本語や日本についての諸問題に関心を持ち考えようとする	日本語や日本についての諸問題について考え解決しようとする	日本語や日本についての諸問題を積極的に見出し解決できる
共生・協働する力	授業で得た知識や他者の意見を参考にしない	授業で得た知識や他者の意見を参考にしようとする	自らの考えを他者と共有し、自分の考えを深めようとする	様々な情報を他者と肯定的に共有し、自らの考えを適切に発信できる
創造・発信力	自分勝手な情報の発信を行う	周囲の状況を考慮し、適切な日本語で発信できる	自らの考えと他者の意見を踏まえて、適切な日本語で発信できる	レベル3に加えて、多様性を尊重し、建設的な発信ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 文章読解①
食品ロス
- 第 3 回 文章読解②
女子力とは？
- 第 4 回 ディスカッション①
環境問題と我々の問題意識
- 第 5 回 口頭発表①
日本社会の諸問題
- 第 6 回 口頭発表②

- ネット社会
 - 第 7 回 文章読解③
人優先の社会
 - 第 8 回 文章読解④
人類にワンオペは不自然
 - 第 9 回 ディスカッション②
増え続けるモノ
 - 第 10 回 ディスカッション③
コンビニの24時間営業は必要か？
 - 第 11 回 ディスカッション④
複数の言葉話すおもしろさ
 - 第 12 回 口頭発表③
働き方改革に向けて「迷惑」分かち合う職場に
 - 第 13 回 口頭発表④
不便の効用 マイナス面 手間加え解消
 - 第 14 回 まとめと到達度確認テスト
 - 第 15 回 到達度確認テストの解答とフィードバック
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- ・新出語彙の理解とその語彙の使用環境を考え、適切に運用する
 - ・興味あるテーマを見つけ、それをいかに論理的に分かりやすく伝えるかを考えて発表する
 - ・他の人の意見や考えを批判的にとらえ、自らの意見を適切に述べる
 - ・ほぼ毎回、前回資料についての語彙クイズを行う
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- ・配布資料の事前学習をし、疑問点を明確にする
 - ・分かりやすい口頭発表の準備
 - ・社会の現況、諸問題について関心を持ち情報を収集する
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- ・出席・授業参加度：30%、口頭発表：20%、クイズ：20%、到達度確認テスト：30%
 - ・遅刻・早退(授業開始後/終了前20分)3回で欠席1回とみなす。出席回数(授業回数)の3分の2に満たない場合は単位認定しない
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- 履修生の人数、日本語能力、ニーズ、希望などによって授業内容、順序などが変わる場合がある
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- ハンドアウトを配布する
- 〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 授業中適宜指示する
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- 大学、日本語学校などでの日本語教育経験がある

日本語表現 I

GBJ1301N0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 水曜1限
 DP3：言語力
 15
 外国人留学生は履修すること（留学生以外は履修できない）
 高岸 雅子

【科目の教育目標（Course Description）】

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現文型の習得
2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
3. 提示用資料を使用した効果的な口頭発表の方法の習得

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語を使って自分の伝えたいことを伝えようとしな。日本語能力を向上する努力をしない。	自分の知っている日本語を使って伝えようとする。日本語能力の向上のために努力している。	日本語で伝える際、できるだけ適切な表現を探りそれ自身につけようとするなど自ら積極的に学ぼうとする。	自らの日本語能力をどのように活用できるか考え、さらに深く学ぼうとする。
知識・理解力	日本について、また基礎的な日本語文法、日本語表現に関する知識が少ない。	大学で受ける授業が最低限理解できる日本や日本語に関する知識を有する。	自分の専門分野に関する日本や日本語に関する知識を有する。	自分の専門だけでなく専門外の分野に関する日本や日本語に関する知識を有し、深める努力をする。

言語力	日本語の基礎的な文法や表現が身につけていないため、発話や作文に誤りが多い。	自分の関心のあることについて適切な表現を用いて発信する能力がある。発話や作文にやや誤りが見られる。	自らの専門に関することを、自らの日本語能力で発信できる。発話や作文に誤りが少ない。	広い範囲の分野に関することを、自らの日本語能力でほぼ正確に発信できる。
思考・解決力	教えられたこと以外は考えようとしない。	自分の関心のあることについて問題点を見つけ出し、その解決方法について発信する能力がある。	自らの専門に関して問題提起をし解決方法を見出し、その結果を自らの日本語能力で発信できる。	自らの専門だけでなく専門外に関する様々な分野について問題提起をし解決方法を見出し、その結果を自らの日本語能力で発信できる。
共生・協働する力	授業で学んだ知識、先行研究、他者の意見などを参考にしない。	授業で学んだ知識、先行研究、他者の意見などを参考にしようとする。	自らの考えを、先行研究を参考にしたり、他者と共有し意見交換したりすることによって、さらに深めようとする。	自らの考えを、先行研究、新聞記事、論説文など多くの情報を参考にしたり、他者の考えと共有し他者と意見交換したりすることによって、さらに深めようとする。
創造・発信力	自分勝手な情報発信を行う。	自らの考えを、他者の考えや周囲の状況を踏まえて日本語で発信できる。	自らの考えや他者の考えや周囲の状況を総合的に判断して、適切な日本語で発信できる。	自らの考えや他者の考えや周囲の状況を総合的に判断して発信できる。その際、聞き手の反応を見ながらわかりやすく伝える方法も会得している。

【授業計画】

第 1 回 口頭発表の方法（対面授業）

口頭発表の仕方を学ぶ。過去に書かれた先輩留学生の調査報告書を読み、第一回口頭発表のテーマを決める。

- 第 2 回 論文の構成 (対面授業)
論文の「序論・本論・結論」という構成を学ぶ。
- 第 3 回 第一回口頭発表会 (対面授業)
第一回口頭発表で全員が発表する。そこで、各自が選んだ「先輩留學生が書いた調査報告書」を紹介する。
- 第 4 回 第二回口頭発表のための資料収集 (対面授業)
日本や他の国々の社会問題について書かれた論説文や新聞記事を読み、第二回口頭発表のテーマを決める。
- 第 5 回 第二回口頭発表のための構想 (対面授業)
選んだテーマに関連した先行研究や調査報告書をさらに収集し、それらの資料に基づき「報告書」の構想を練る。
- 第 6 回 序論の書き方 (対面授業)
報告書を作成する (1) (「序論」を書く)。
- 第 7 回 本論・結論の書き方 (対面授業)
報告書を作成する (2) (「本論」「結論」を書く)。
- 第 8 回 引用の仕方、発表資料の作成方法 (対面授業)
報告書を作成する (3) (「引用の仕方」を学び、報告書の最後に「参考・引用文献」を書く。発表用資料 (おもにパワーポイント) を作成する)。
- 第 9 回 第二回口頭発表会 (第一回) (対面授業)
第二回口頭発表で「関心のあるテーマについての報告」を行う (1)。クラスメートの発表を批評する。
- 第 10 回 第二回口頭発表会 (第二回) (対面授業)
第二回口頭発表で「関心のあるテーマについての報告」を行う (2)。クラスメートの発表を批評する。口頭発表のフィードバックをする。
- 第 11 回 質問紙調査票の計画、作成方法 (対面授業)
「質問紙調査票」の作り方を学ぶ。質問紙調査の調査目的、実施方法、対象者を考えて「質問紙調査計画書」を書く。
- 第 12 回 質問紙調査票の作成 (対面授業)
質問紙調査計画書をもとに、質問紙調査票を作成する。
- 第 13 回 ピアラーニングで質問紙調査票を検討 (対面授業)
ピア・ラーニングを行う (1) (ペアで、お互いの質問紙調査票に回答し合い、不備な点を指摘し合い、質問紙調査票を訂正する)。
- 第 14 回 ピアラーニングで質問紙調査票を検討、完成 (対面授業) (対面授業)
ピア・ラーニングを行う (2) (ペアで、訂正した調査票を再び検討し合い、質問紙調査票を完成させる)。
- 第 15 回 質問紙調査票の最終チェック、反省とまとめ (対面授業) (対面授業)
質問紙調査票の最終チェックを行う。質問紙調査実施時に注意する点を確認する。反省とまとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

まず、小論文やレポートを作成するための知識や方法などを学びます。そして日本の社会問題などを扱った読み物を教材に速読を行なうことによって、高いレベルでの長文読解力を身につけます。その中から自分の関心のあるテーマを選び、選んだテーマについて書かれた資料や先行研究から必要な情報を収集しレポートを作成し、口頭発表を行ないます。さらに、そのテーマでもっと知りたい点を探し出し、それをもとに質問紙調査票を作成し、実際に質問紙調査を行ないます。こうした授業活動を進めていく中で、学生たちは、発表用レポート、発表のための提示用資料、質問紙調査計画書、質問紙調査票などを、その都度設定された提出期限までに仕上げていくことが求められます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業では、自分の感じたことや思いを述べる「感想文」ではなく、客観的な根拠を提示しながら読み手を論理的に説得する「論述文」を書くことが求められます。そのため『小論文への12のステップ』『留學生のためのここが大切 文章表現のルール』などのテキストの問題に取り組みながら論文の書き方の基礎から学習し、『大学生と留學生のための論文ワークブック』の「序論、本論、結びの役割と書き方」の章を参考にしながら論文形式のレポートを書きます。また効果的な口頭発表を行なうために、『アカデミック・プレゼンテーション入門』の「スライドの作り方」の章、『アカデミック・スキル入門 [新版]』の「プレゼンテーションの構成を理解し、適切な資料をつくる」の章などを参考に提示用資料を作成し、さらに発表内容の構成や順序を工夫する、口頭発表の練習をする、などの準備をします。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度30%、1回目の口頭発表10%、2回目の口頭発表20%、論文形式のレポート作成20%、プロジェクトワーク (質問紙調査計画書、調査票作成) 20%に基づいて総合的にを行います。遅刻は3回で欠席1回とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は、履修生の人数などにより変更することもあります。

授業内でテキストを配布します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途記載

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学生と留學生のための論文ワークブック』/浜田麻里他著/くろしお出版/1998/9784874241271

『アカデミック・プレゼンテーション入門』/三浦香苗他著/ひつじ書房/2006/4894763370

『日本語口頭発表と討論の技術 ~コミュニケーション・スピーチ・ディバートのために~』/東海大学留學生センター口頭発表教材研究会/東海大学出版会/1995/4486013549

『小論文への12のステップ』/友松悦子著/スリーエーネット

ワーク/2008/9784883194889

『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』/石黒圭・筒井千絵著/スリーエーネットワーク/2009/4883195023

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』/大島弥生他著/ひつじ書房/2005/4894762293

『アカデミックスキルズ プレゼンテーション入門 学生のためのプレゼン上達術』大出敦編著、直江健介著/慶應義塾大学出版会株式会社/2020/9784766425734

『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』佐渡島紗織他編著/大修館書店/2015/9784469222449

『アカデミック・スキル入門 [新版]』伊藤奈賀子・中島祥子他編/株式会社有斐閣/2019/9784641184459

『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著/東京大学出版会/2020/9784130820165

『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著/株式会社講談社/2018/9784065135020

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語表現 II

GBJ1351N0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3：言語力

15

外国人留学生は履修すること（留学生以外は履修できない）

高岸 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語を母語としない留学生が、日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語の能力が求められます。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからです。上記の目的を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現で発表し、文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 現代の日本を取り巻く様々な社会事情を理解するための時事用語および表現文型の習得
2. 口頭および文章での論理的発信力の習得と強化
3. 提示用資料を使用した効果的な口頭発表の方法の習得
4. 論理的で説得力のある主張の仕方、相手の話を理解し分析する聞き方、相手の意見の矛盾を発見しそれを的確に指摘する方法などの習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	日本語を使って自分の伝えたいことを伝えようとしない。日本語能力を向上する努力をしない。	自分の知っている日本語を使って伝えようとする。日本語能力の向上のために努力している。	日本語で伝える際、できるだけ適切な表現を探りそれ自身につけようとするなど自ら積極的に学ぼうとする。	自らの日本語能力をどのように活用できるか考え、さらに深く学ぼうとする。
知識・理解力	日本について、また基礎的な日本語文法、日本語表現に関する知識が少ない。	大学で受ける授業が最低限理解できる日本や日本語に関する知識を有する。	自分の専門分野に関する日本や日本語に関する知識を有する。	自分の専門だけでなく専門外の分野に関する日本や日本語に関する知識を有し、深める努力をする。
言語力	日本語の基礎的な文法や表現が身につけていないため、発話や作文に誤りが多い。	自分の関心のあることについて適切な表現を用いて発信する能力がある。発話や作文にやや誤りが見られる。	自らの専門に関することを、自らの日本語能力で発信できる。発話や作文に誤りが少ない。	広い範囲の分野に関することを、自らの日本語能力でほぼ正確に発信できる。
思考・解決力	教えられたこと以外は考えようとしない。	自分の関心のあることについて問題点を見つけ出し、その解決方法について発信する能力がある。	自らの専門に関して問題提起をし解決方法を見出し、その結果を自らの日本語能力で発信できる。	自らの専門だけでなく専門外に関する様々な分野について問題提起をし解決方法を見出し、その結果を自らの日本語能力で発信できる。

共生・協働する力	授業で学んだ知識、先行研究、他者の意見などを参考にしない。	授業で学んだ知識、先行研究、他者の意見などを参考にしようとする。	自らの考えを、先行研究を参考にしたり、他者と共有し意見交換したりすることによって、さらに深めようとする。	自らの考えを、先行研究、新聞記事、論説文など多くの情報を参考にしたり、他者の考えと共有し他者と意見交換したりすることによって、さらに深めようとする。
創造・発信力	自分勝手な情報発信を行う。	自らの考えや他者の考えや周囲の状況を踏まえて日本語で発信できる。	自らの考えや他者の考えや周囲の状況を総合的に判断して、適切な日本語で発信できる。	自らの考えや他者の考えや周囲の状況を総合的に判断して発信できる。その際、聞き手の反応を見ながらわかりやすく伝える方法も会得している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 「質問紙調査報告書の構成表」の作成方法（対面授業）
「質問紙調査報告書の構成表」を作成する練習をする。図表の読み方の表現を学ぶ。
- 第 2 回 「質問紙調査の進捗状況」の中間報告（対面授業）
「質問紙調査の進捗状況」の中間報告をする。質問紙調査によって得られたデータをもとに「質問紙調査報告書」の全体の流れを考え、実際の「質問紙調査報告書の構成表」を作成する。
- 第 3 回 ピア・ラーニング第1回目（「質問紙調査報告書」の構成表の検討）（対面授業）
ピア・ラーニングを行う（1）（ペアで、お互いが作った「質問紙調査報告書の構成表」を検討し合い、「構成表」を訂正する）。
- 第 4 回 ピア・ラーニング第2回目（「質問紙調査報告書」の構成表訂正版の検討）（対面授業）
ピア・ラーニングを行う（2）（「質問紙調査報告書の構成表」の訂正版を再度ペアで検討し合い、全体の流れを決める）。
- 第 5 回 日本語のアクセント、イントネーション（対面授業）
日本語のアクセント、イントネーションを学ぶ。OJAD（オンライン日本語アクセント辞書）の使い方を学ぶ。
- 第 6 回 序論の書き方（対面授業）

- 質問紙調査報告書を作成する（1）（「序論」を書く）。
- 第 7 回 本論・結論の書き方（対面授業）
質問紙調査報告書を作成する（2）（「本論、結論」を書く）。
- 第 8 回 配布資料（レジュメ）の作成、質疑応答の表現（対面授業）
質問紙調査報告書を作成する（3）（配布用資料（レジュメ）を作成する）。質疑応答の表現を学ぶ。
- 第 9 回 発表用資料の作成、発表原稿の作成（対面授業）
質問紙調査報告書を作成する（4）（発表用資料（おもにパワーポイント）を作成する）。発表原稿の作成方法を学ぶ。
- 第 10 回 第三回口頭発表の練習（1）（対面授業）
第三回口頭発表の練習を行う（1）、クラスメートの発表を批評する。
- 第 11 回 第三回口頭発表の練習（2）（対面授業）
第三回口頭発表の練習を行う（2）、クラスメートの発表を批評する。
- 第 12 回 学内で「外国人留学生研究発表会」開催（対面授業）
学内で開催予定の『外国人留学生研究発表会』において第三回口頭発表を行う。
- 第 13 回 ディベート形式の討論の方法（対面授業）
『外国人留学生研究発表会』における第三回口頭発表のフィードバックをする。
ディベート形式の討論について学ぶ。14回目授業のディベートのテーマを「価値論題（ある考えが良いか悪いかなど価値に関する論題を議論する）から選び、役割を決める。
- 第 14 回 ディベート形式の討論（1）（対面授業）
ディベート形式の討論を行う（1）。15回目授業のディベートのテーマを「政策論題（政府が打ち出したある政策に賛成か反対かを議論する）」から選び、役割を決める。
- 第 15 回 ディベート形式の討論（2）（対面授業）
ディベート形式の討論を行う（2）。反省とまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

収集した質問紙調査票の結果をもとに、質問紙調査の途中経過報告書、質問紙調査報告書の構成表、質問紙調査報告書を作成し、その都度設定された期限までに提出することが求められます。また作成した調査報告書をもとに発表原稿、発表資料、提示用資料を準備し、『外国人留学生研究発表会』において口頭発表を行います。

ディベート形式の討論の場においては、決められたルールに従って積極的に討論に参加することが求められます。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

「口頭発表」に向けて、まず『大学生と留学生のための論文ワークブック』の『序論、本論、結びの役割と書き方』の

章を参考にしながら「質問紙調査報告書」を書きます。また効果的な口頭発表を行なうために、『アカデミック・プレゼンテーション入門』の「スライドの作り方」の章や『アカデミック・スキル入門 [新版]』の「プレゼンテーションの構成を理解し、適切な資料をつくる」の章などを参考に提示用資料を作成し、さらに発表内容の構成や順序を工夫する、アクセントやイントネーションにも気をつけて口頭発表の練習をする、などの準備をします。

そして「ディベート形式の討論」に向けて、『日本語口頭発表と討論の技術～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』の「討論」の章を読んで討論の方法とルールを学びます。そしてテーマに関連した資料を探しそれをもとに自己の主張をまとめ基調演説を考え、さらに相手の基調演説や反論を予測し、その解答を考えるなどの準備をします。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度30%、調査報告書作成30%、口頭発表25%、ディベート形式の討論15%に基づいて総合的に行います。遅刻は3回で欠席1回とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

「日本語表現Ⅱ」を履修登録する場合、前期共通教育科目である「日本語表現Ⅰ」(担当：高岸雅子)の単位を取得していることが望ましい。

授業内でテキストや資料を配布する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途指示

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学生と留学生のための論文ワークブック』/浜田麻里他著/くろしお出版/1998/9784874241271

『アカデミック・プレゼンテーション入門』/三浦香苗他著/ひつじ書房/2006/4894763370

『日本語口頭発表と討論の技術～コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために～』/東海大学留学生センター口頭発表教材研究会/東海大学出版会/1995/4486013549

『小論文への12のステップ』/友松悦子著/スリーエーネットワーク/2008/9784883194889

『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』/石黒圭・筒井千絵著/スリーエーネットワーク/2009/4883195023

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』/大島弥生他著/ひつじ書房/2005/4894762293

『アカデミックスキルズ プレゼンテーション入門 学生のためのプレゼン上達術』大出敦編著、直江健介著/慶應義塾大学出版会株式会社/2020/9784766425734

『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』佐渡島紗織他編著/大修館書店/2015/9784469222449

『アカデミック・スキル入門 [新版]』伊藤奈賀子・中島祥子他編/株式会社有斐閣/2019/9784641184459

『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブ

ック』二通信子他著/東京大学出版会/2020/9784130820165
『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康著/株式会社講談社/2018/9784065135020

〔参考URL(URL for Reference)〕

OJAD (オンライン日本語アクセント辞書) <http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本文学

GEH1250NOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

武田 悠希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本文学の表現と、文化背景について理解する。第一に、言語で表現された文学の特徴について考える。講義予定の後半では、アニメ・ドラマ・映画など、物語を表す他ジャンルの表現と比較して、言語表現の独自性や可能性を理解する。第二に、国際交流の中で形づくられてきた、日本文学の特徴について考える。古代から近現代まで、日本は当時交流のあった国の文化の影響を受けながら、独自の表現を生み出してきた。その歴史と、具体的な表現の特徴を理解する。これら二つの視点をふまえ、日本文学に対する概説的知識を身につけ、言語表現としての文学を分析し読解できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・文学表現の鑑賞方法を学び、表現の豊かさを理解する。
- ・具体的な文学表現を読解し、日本文学の特徴を理解する。
- ・文学表現の背景にある、日本文化の特徴を理解する。
- ・近年の批評・研究を参照し、日本文学の今日的意義を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 表現という視点、授業の進め方と評価方法
第 2 回 明治20年代の日本語表現—句読法—
第 3 回 子どものための読物と表現 1
第 4 回 子どものための読物と表現 2
第 5 回 近代出版産業の黎明期—読者の拡大・雑誌・視覚効果の変遷—
第 6 回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の概要と工夫
第 7 回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の言語表現・読書体験
第 8 回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」の特徴（原典、映像表現との比較）
第 9 回 ファンタジーの表現 1（上橋菜穂子「精霊の守り人」を手がかりに）
第 10 回 ファンタジーの表現 2（芥川龍之介の童話）
第 11 回 ファンタジーの機能
上橋菜穂子「精霊の守り人」を読む—複数の文化・ものの見方を描く—
第 12 回 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」と映像表現の相関関係（1）—アニメ版『銀河鉄道の夜』の特徴—
第 13 回 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」と映像表現の相関関係（2）—映画表現からの影響—
第 14 回 現代作品における小説表現の試み
第 15 回 近代小説の表現の特徴

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・配布したプリントにより、様々な文学表現に実際に触れ、講義をとおして、文学表現に対する理解を深める。
- ・毎時間、クイズやミニレポートなど何らかの形で授業内課題を課す。manabaで締切までに提出すること。授業中に指示します。

〔課題に対するフィードバックの方法〕

- ・次回以降の授業冒頭で適宜口頭によりフィードバックする。なお、授業の内容によっては、提出された課題をプリントに記載して配布する回もある。
- ・期末レポートのテーマについては、授業前後の時間に随時質問や相談を受け付ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・授業で紹介した文学作品や参考文献を読解する。
- ・紹介した作品以外にも読書体験を広げること。
- ・授業で紹介する視点を、自分の親しんできた文学作品やさまざまな物語作品、あるいはメディアに引きつけて考えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業内課題（45%）、学期末レポート（40%）、積極的参加度（15%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・試験に代わり、レポートを提出する。
- ・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペース

トしたものは認めない。

- ・課題の遅延提出は大幅に減点する。

※授業の進捗状況や参加者の様子などを判断した上で、授業内容を一部変更する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配付

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜参考文献を紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

精霊の守り人・「守り人」シリーズ 公式サイト 上橋菜穂子 偕成社

<https://www.kaiseisha.co.jp/special/moribito/>

上橋菜穂子 公式サイト

<http://uehashi.com/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化人類学

GEH1253N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

水曜 3限

DP2：知識・理解力

60

橋 健一

〔科目の教育目標（Course Description）〕

文化人類学は、自分たちにとって一見わけのわからない「異文化」つまり「他者」の理解を目指し、展開してきた学問です。その文化人類学を学ぶということは、自己と他者のつながりを考えることであり、それは自己を開いていくことにもつながります。

この授業では、文化人類学の議論や調査手法を紹介し、さらに「自己たちを見つめ直すフィールドワーク」を実際におこなうことで、既存のものごとの意味や自己の枠を解体して、新たな世界を創り出す力を涵養することを目指します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・文化とは何か、文化にはどのような問題が関わるのかを理解する。
- ・文化人類学にとってのフィールドワークの意義を理解する。
- ・フィールドワークの歴史的な展開と具体的な手法を理解し、それを身につける。
- ・現代文化の問題点を理解し、将来に向けた新たな道筋を構想できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己の思考や行為を見つめ直すことができない。	自己の思考や行為を分析できる。	自己の思考や行為を分析した上で、その限界を知ることができる。	自己の思考や行為を見つめ直し、新たな世界を創造的に構築できる。
知識・理解力	議論の断片しか把握していない。	議論の大筋を把握している。	議論の歴史的展開を理解している。	論の歴史的展開を理解したうえで、現状を反省的に捉えることができる。
言語力	外延の存在に気がつかない。	外延と内包の関わりを理解し、外延を拡張できる。	拡張した外延から、新たな内包原理を見出せる。	既存の概念を批判的に捉え直し、新たな概念を創造できる。
思考・解決力	事例を蒐集することができない。	事例を並べて、纏めることができる。	事例を抽象化し、不変的な枠組みを見いだすことができる。	事例から見いだした不変的な枠組みをさらに展開することができる。
共生・協働する力	意見交換することができない。	意見交換して、記録することができる。	意見交換して、全体を俯瞰し、纏めることができる。	意見交換して、相互の議論の可能性を上げることができる。
創造・発信力	上記すべてに関わる。	上記すべてに関わる。	上記すべてに関わる。	上記すべてに関わる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション：他者との出会い
「文化人類学」と授業の紹介、挨拶について学ぶ
- 第 2 回 異人論と文化の蒐集：他者を探す
テーマの探し方を学ぶ
- 第 3 回 探検と文化の一覧表：他者の情報を整理する
問いや質問の作り方を学ぶ
- 第 4 回 博物学と文化の観察：身近な他者を探す
新しい発見の方法を学ぶ
- 第 5 回 分類学と文化圏：他者の広がりをつめる
文化の分類と分布の観察法を学ぶ
- 第 6 回 文化の歴史と民俗：他者の背景にある歴史を探る
文化の歴史の調査法を学ぶ
- 第 7 回 機能主義と社会構造の分析：他者の人間関係を探る
文化の機能主義的分析法を学ぶ

- 第 8 回 構造主義と意味の仕組み：他者の言葉の分からなさを理解する
文化と意味の構造との関わりを学ぶ
- 第 9 回 神話と象徴：他者が語る昔話や神話を捉える
昔話や神話の構造分析を学ぶ
- 第 10 回 儀礼と身体加工：他者の儀礼と装いを考える
儀礼や身体加工からの自己分析を学ぶ
- 第 11 回 贈与と交換：他者のやり取りをつめる
交換論的な分析法を学ぶ
- 第 12 回 貨幣と資本主義：他者の使うお金を考える
貨幣の象徴性と自己増殖について学ぶ
- 第 13 回 国民国家と民族：他者としての民族を考える
国民が民族として想像される仕組みを学ぶ
- 第 14 回 産業化とファッション：他者の個性を考える
商品の選択という儀礼について学ぶ
- 第 15 回 世界をどう開くのか：他者との交流と自己を考える
世界の中の自己のあり方について学ぶ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業はオンライン形式で実施し、①毎回 (15回分) manaba上に教材、課題提出用ファイルを掲示する。②manaba上で作成した課題をアップロードするかたちでの提出を求める。③15回の課題に収まらない部分は、別途課題を出し (manaba) 提出を求める。④提出に問題が生じた際には、manabaの掲示板やメールなどを利用し対応する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

manabaで教材の掲示、課題の提出を求めるので、予め操作に慣れておいて欲しい (できればWordなどのワープロソフトも)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題の提出を確認し、授業への参加点をつける (最低でも2/3以上提出すること)。15回の教材内の課題、15回の教材内以外の課題の内容が、求めに十分応えられているか確認し、それを合わせて評価をおこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

この講義では、単なる異文化の紹介ではなく、文化について考え、身の回りの文化を調べる方法を身につけることを求める。文化に関する質問力、文章力、観察力、分析力、創造力が身につくよう支援する。manaba上での課題は、締切後も受け付けるので、最後まで諦めずに頑張ってください。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは用いない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『発想法 改版』/川喜田二郎/中公新書/2017/4121801369
『フィールドワーク入門—地域調査のすすめ』/市川健夫/古

今書院/1985/4772213651

『神話と意味』/レヴィ・ストロース/みすず書房

『言葉と物—人文科学の考古学』/M. フーコー/新潮社/
1974/410506701X

〔参考URL(URL for Reference)〕

特になし

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

1997年国際交流基金、アジア理解講座「ネパールを知ろう」
講師

1995年日本ネパール協会、ネパール語講座講師

文章表現法 A

GBL1450A0J
大学
共通教育科目
1年次 後期
2単位 水曜3限
DP4：思考・解決力
60
定員50人
田丸 歩実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学の授業で課されるレポート・論文とは何かを知り、よりよいレポートが書けるようになることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、文章を書く自信をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) レポートを書く上で必要な言語能力（語彙力、文章構成力など）を養う
 - 2) 他者の文章の論点を理解し、自分の言葉で要約できるようになる
 - 3) 無断引用をしてはいけないことを理解し、文献を適切な形で参照・引用できるようになる
 - 4) 自分の考えを発展させ、適切に表現する力を身につける
- 〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
理解する力	著者の主張を見抜けない。	著者の主張を見抜くことができるが、要約は内容の羅列にとどまる。	著者の主張とそれを支える根拠を見抜いた上で、論旨が明確になるように要約している。	著者の論旨をひとことで述べたのち、その具体的内容を整理し直し、自分の言葉で語り直している。

批判的に考察する力	内容に対する考察が感想の域を出ない。著者の意見をそのまま受け入れてしまう。	自分なりの考えを述べているが、それに対する根拠が述べられていない、または著者の主張とずれる。	著者の意見に対して疑問を持ち、内容に対する批判的考察が行われる。自分の意見とそれに対する根拠が述べられる。	社会的な背景や関連する問題に照らし合わせて批判を行っており、説得的な議論を展開している。
表現する力	常体と敬体の混在、文法的なエラーなどが見られ、思いついたままに書いている。	一見しておかしな表現はないが、話し言葉的な表現や同じ言葉の繰り返しが見られる。	パラグラフライティングの形をとり、読者への配慮が見られる。	導入、本文、結論のそれぞれで求められる内容を書いている。適切な接続表現の使用、語彙の豊かさが見られる。
知識	剽窃を行ってしまう。			出典を示す意義を理解し、適切な方法で引用できるようになる。レポートの構造を知り、それにそって自らの考えを表現できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業の目的について説明。簡単なゲームを通して他人にわかりやすく伝えることを考える。
- 第 2 回 読み手のことを考える
読み手を意識するとはどういうことかを考え、相手が知らないことを前提に文章を書いてみる。
- 第 3 回 言いたいことを整理する
レポートと作文の違いを解説。どうしたらすっきりとした構造になるかを考える。
- 第 4 回 事実と考えの違い
事実と考えはどのように違うのかを解説する。客観的記述はありえるのかを考える。
- 第 5 回 きちんとつなげる
話し言葉と書き言葉の違いを検討する。文と文の関係を見抜き、適切な接続表現を入れる練習をする。
- 第 6 回 要約する
文章の構成要素を解説する。要約するときどれを切り落とし、どれを残すかを判断する練習をする。
- 第 7 回 主張と根拠

中心的主張と根拠とは何かを示す。より実践的な要約課題に取り組む。

第 8 回 批判的に読む

文献の読み方、メモの取り方を解説する。

第 9 回 引用する

剽窃とは何か、文献を適切に引用する方法を示す。様々な方法で実際に引用してみる。

第 10 回 メタ的な視点を取る

文献の中で著者が何をしているかを分析し、適切に表現してみる。

第 11 回 疑問を持つ

文献に対して、疑問をもつ練習をする。

第 12 回 反論する

文献に対して、反論してみる。

第 13 回 考えをまとめる

マインドマップの作り方、アウトラインの書き方を解説する。最終レポートに向けて、実際に自分の考えをまとめてみる。

第 14 回 資料を探す

図書館や文献検索エンジンの使い方を示す。

第 15 回 推敲と体裁の確認

ピアレビューを通し最終レポートの推敲をする。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

【今年はオンラインで開講し、Zoomを用いたりリアルタイムでの講義を行う。】本科目では、レポートを書く上で知っておくべきことを解説するとともに、実際に「読む」「書く」トレーニングを行う。授業内ではグループワークを通して課題に取り組み、自分の文章を相対化する機会を多く設ける。実践を通して技術を身につけてもらいたいので、授業時間外にも課題に取り組んでもらうことになる。課題に関しては必ずフィードバックをする。最終試験として予定しているブックレポートでは、講義内容を活用して論理的文章が書けているかをみる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回配布プリントを用いて授業を進めるため、基本的に予習は必要ないが、配布プリントと板書内容の復習を必ずした上で翌回の授業に参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

積極性 (30%)、課題などの提出物 (40%)、期末レポート (30%) から評価を算出する。全授業回数数の2/3以上の出席と、最終課題である期末レポートの提出が単位取得の条件となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 1) ガイダンスをおこなうため、初回の授業から参加すること
- 2) manabaのコースコンテンツ内に授業資料をアップロードするので、授業が始まるまでにプリントアウトしておくこと
- 3) 授業計画は、実際の授業の状況に応じて順序を変えることがある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ21のワーク』 / 桑田てるみ (編) / 実教出版 / 2015 / 9784407336146

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大人のための国語ゼミ』 / 野矢茂樹 / 山川出版社 / 2017 / 978-4634151215

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章表現法B

GBL1450B0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

水曜 3限

DP4：思考・解決力

60

定員50人

田丸 歩実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学の授業で課されるレポート・論文とは何かを知り、よりよいレポートが書けるようになることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、文章を書く自信をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) レポートを書く上で必要な言語能力 (語彙力、文章構成力など) を養う
 - 2) 他者の文章の論点を理解し、自分の言葉で要約できるようになる
 - 3) 無断引用をしてはいけないことを理解し、文献を適切な形で参照・引用できるようになる
 - 4) 問いを立て、自分の考えを発展させる力を身につける
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
理解する力	著者の主張を見抜けない。	著者の主張を見抜くことができるが、要約は内容の羅列にとどまる。	著者の主張とそれを支える根拠を見抜いた上で、論旨が明確になるように要約している。	著者の論旨をひとことで述べたのち、その具体的内容を整理し直し、自分の言葉で語り直している。

批判的に考察する力	内容に対する考察が感想の域を出ない。著者の意見をそのまま受け入れてしまう。	自分なりの考えを述べているが、それに対する根拠が述べられていない、または著者の主張とずれる。	著者の意見に対して疑問を持ち、内容に対する批判的考察が行われる。自分の意見とそれに対する根拠が述べられる。	社会的な背景や関連する問題に照らし合わせて批判を行っている、説得的な議論を展開している。
表現する力	常体と敬体の混在、文法的なエラーなどが見られ、思いついたままに書いている。	一見しておかしな表現はないが、話し言葉的な表現や同じ言葉の繰り返しが見られる。	パラグラフライティングの形ととり、読者への配慮が見られる。	導入、本文、結論のそれぞれで求められる内容を書いている。適切な接続表現の使用、語彙の豊かさが見られる。
知識	剽窃を行ってしまう。			出典を示す意義を理解し、適切な方法で引用できるようになる。レポートの構造を知り、それにそって自らの考えを表現できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業の目的について説明。簡単なゲームを通して他人にわかりやすく伝えることを考える。
- 第 2 回 読み手のことを考える
読み手を意識するとはどういうことかを考え、相手が知らないことを前提に文章を書いてみる。
- 第 3 回 言いたいことを整理する
レポートと作文の違いを解説。どうしたらすっきりとした構造になるかを考える。
- 第 4 回 事実と考えの違い
事実と考えはどのように違うのかを解説する。客観的記述はありえるのかを考える。
- 第 5 回 きちんとつなげる
話し言葉と書き言葉の違いを検討する。文と文の関係を見抜き、適切な接続表現を入れる練習をする。
- 第 6 回 要約する
文章の構成要素を解説する。要約するときどれを切り落とし、どれを残すかを判断する練習をする。
- 第 7 回 主張と根拠

- 中心的主張と根拠とは何かを示す。より実践的な要約課題に取り組む。
- 第 8 回 批判的に読む
文献の読み方、メモの取り方を解説する。
- 第 9 回 引用する
剽窃とは何か、文献を適切に引用する方法を示す。様々な方法で実際に引用してみる。
- 第 10 回 メタ的な視点を取る
文献の中で著者が何をしているかを分析し、適切に表現してみる。
- 第 11 回 疑問を持つ
文献に対して、疑問をもつ練習をする。
- 第 12 回 反論する
文献に対して、反論してみる。
- 第 13 回 考えをまとめる
マインドマップの作り方、アウトラインの書き方を解説する。最終レポートに向けて、実際に自分の考えをまとめてみる。
- 第 14 回 資料を探す
図書館や文献検索エンジンの使い方を示す。
- 第 15 回 推敲と体裁の確認
ピアレビューを通し最終レポートの推敲をする

- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施する
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
本科目では、レポートを書く上で知っておくべきことを解説するとともに、実際に「読む」「書く」トレーニングを行う。授業内ではグループワークを通して課題に取り組み、自分の文章を相対化する機会を多く設ける。実践を通して技術を身につけてもらいたいため、授業時間外にも課題に取り組んでもらうことになる。課題に関しては必ずフィードバックをする。最終試験として予定しているブックレポートでは、講義内容を活用して論理的文章が書けているかをみる。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
毎回配布プリントを用いて授業を進めるため、基本的に予習は必要ないが、配布プリントと板書内容の復習を必ずした上で翌回の授業に参加すること。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
積極性 (30%)、課題などの提出物 (40%)、期末レポート (30%) から評価を算出する。全授業回数数の2/3以上の出席と、最終課題である期末レポートの提出が単位取得の条件となる。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
1) ガイダンスをおこなうため、初回の授業から参加すること
2) 授業内で資料を配付する
3) 授業計画は、実際の授業の状況に応じて順序を変えることがある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

基本的に、授業中に配るプリントやスライドなどを使って授業を進める

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ21のワーク』/ 桑田てるみ (編) / 実教出版 / 2015 / 9784407336146

『大人のための国語セ?ミ』/ 野矢茂樹 / 山川出版社 / 2017 / 978-4634151215

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

暮らしの経済学

GES1251N0J
大学
共通教育科目
1年次
2単位 後期
木曜3限
DP2：知識・理解力
60
秋田 朝美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日々生活していくなかで私たちは様々な経済活動を営んでいる。本講義では、歴史的な視点を通じて経済と社会、そして私たちの身近な暮らしを考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・経済史を通じて私たちの暮らしを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
経済に対する関心	普段から全く関心がない。	日常生活レベルでの経済活動に関心がある。	日々の経済ニュースに触れ、自分達の生活への影響を考えることができる。	経済の時事的なニュースとを関連させて考え、自分達の経済活動へとフィードバックをできる。
知識・理解力	経済について理解しようとしな	経済とはどのようなものがあるか理解している。	経済史の基本概念を簡潔に説明できる。	経済学の基本となる諸概念を相互に結び付けて、体系的に理解できている。

分析力	経済の枠組みを使わず、感覚のみで判断している。	経済と社会のつながりを考えることができる。	統計数字について、意味を理解できる。	歴史的な事柄と現在の因果関係を考察してみることができる。
-----	-------------------------	-----------------------	--------------------	------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
SDGsを通して現代の経済を考える。
- 第 2 回 モノから見た経済①
原料としての綿花
- 第 3 回 モノから見た経済②
生産 (モノづくり) としての綿業
- 第 4 回 モノから見た経済③
販売と消費—綿製品
- 第 5 回 モノから見た経済④
染色とデザイン—インテリア製品
- 第 6 回 モノから見た経済⑤
商品企画—アパレル
- 第 7 回 ヒトから見た経済①
横浜正金銀行頭取・児玉謙次
- 第 8 回 ヒトから見た経済②
国民政府財政部長・宋子文
- 第 9 回 ヒトから見た経済③
アメリカ財務長官・H. モーゲンソー
- 第 10 回 ヒトから見た経済④
J. モネ、L. ライヒマンと国際連盟
- 第 11 回 ネットワークから見た経済①
情報とネットワーク
- 第 12 回 ネットワークから見た経済②
多国籍企業や中間団体の役割 (NGO・NPO・経済団体)
- 第 13 回 災害・環境から見た経済①
自然災害と経済
- 第 14 回 災害・環境から見た経済②
救済・援助と経済発展
- 第 15 回 まとめ
総括と討論

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートの提出を求める。(レポート：2,000字程度)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書は特に指定せず、各回の授業でプリントを配布する。身近な経済活動について普段から気に留めるように努めてほしい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日頃から新聞の経済記事に目を通し、経済活動に関心を持っておく。

各回の授業は関連しているなので、講義プリントを定期的に見返すこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

出席アンケート (平常点: 40%)

レポートの提出 (平常点: 60%)

〔留意事項 (Other Information)〕

・受講生の理解度を見ながら柔軟に進めたいと思います。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

南博・稲場雅紀『SDGs - 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年、ISBN 978-4-00-431854-5

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

暮らしの統計学

GEN1450N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

火曜3限

DP4: 思考・解決力

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても、数学の中で学んでもらいたい分野の上位にあげられることが多い。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計データの種類や集計法の理解
2. グラフの種類と特徴の理解
3. 統計データの代表的な指標の理解
4. 平均値の比較と連続変数の関連性の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				学んだ統計の手法をもとにより高度なレベルの統計手法を学べる

知識・理解力				統計の手法ごとに何を分析できるかを理解している
言語力				統計の手法を自らの言葉で説明できる
思考・解決力				データに対して適切な分析手法を選び、実施することができる
共生・協働する力				分析によって得られた結果を文章にまとめて、統計を知らない人に伝えることができる
創造・発信力				問題解決のために、今あるデータに加えて足りないデータを集め、分析できる

〔授業計画〕

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 二項検定_母比率同等
- 第3回 二項検定_母比率不等
- 第4回 データの集計_二項検定まとめ
- 第5回 カイ二乗検定
- 第6回 対応のないt検定
- 第7回 対応のあるt検定
- 第8回 標準偏差とt値
- 第9回 1要因参加者間分散分析
- 第10回 1要因参加者内分散分析
- 第11回 1要因分散分析まとめ
- 第12回 2要因参加者間分散分析
- 第13回 相関分析
- 第14回 回帰分析
- 第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

PowerPoint、Excelなどを使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。また、授業時に簡単な演習を行ってもらおう。次回の授業の最初に、演習の内容について、復習、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業終わりに次回の予告をするので、インターネット検索などにより、次回のトピックのあらましをつかんでおく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題レポートをほぼ毎授業提出してもらう。テストは行わず、提出物(100%)に基づき評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『統計数字を読み解くセンス』/青木繁伸/化学同人/2009/4759813272

『悩めるみんなの統計学入門』/中西達夫/技術評論社/2010/4774144702

『マンガでわかる統計学』/高橋信著/トレンド・プロマンガ制作/オーム社/2004

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

統計を使った量的研究に関する論文を国際学術誌に複数掲載している。

暮らしの法律学

GES1200NOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 2単位 前期
 木曜 3限
 DP2：知識・理解力
 60
 草鹿 晋一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

法とは何か、なぜ社会には法が必要なのか、生活の中でどのように機能しているのか、といったことを、身近な出来事と関連づけながら学んでいく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 法のイメージを習得する
- 2 法の種類とその特徴を知る
- 3 法の機能を知る
- 4 身近な問題から法の役割を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識の定着	法と他の規範(ルール)との違いが理解できていない。	法と他の規範との違いが一応説明できる。	法と他の規範との違いを理解できており、適切に説明できる。	授業で扱われた法律用語や法律上の制度を、自身自身の言葉で説明することができる。
論理的思考力	授業で扱われた法律上の制度の意味を理解できていない。	授業で扱われた事案について、法律の観点から結論を示す姿勢がみられる。	授業で扱われた事案について、法的に正しい説明ができる。	授業で扱われた事案について、法的に正確な結論を示すことができる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業の目的や内容を説明する。受講者の希望を確認し、授業の進め方を決定する。

第 2 回 法のイメージ

法となにかということについて、他の社会規範(ルール)と比較しながら考える。
 関連する用語：道徳、宗教上の教義、戒律、家庭のしつけ、習慣、習俗、慣習

第 3 回 法の種類 1 (法の形式)

法の種類についてその形式の違いから考える
 関連する用語：法令、法律、規則、政令、条例、条約

第 4 回 法の種類 2 (法律と憲法)

法の種類のうち、特に憲法と法律の違いについて考える
 関連する用語：硬性憲法、軟性憲法、最高規範、根本規範、人権、国会

第 5 回 法の種類 3 いろいろな法的責任

交通事故を例に、法的責任という言葉の意味と違いについて考える
 関連する用語：民事責任、刑事責任、行政責任

第 6 回 法って難しい？

日本法の特徴について歴史的経緯から考える
 関連する用語：黒船来航、不平等条約、明治維新、富国強兵、文明開花、治外法権、領事裁判権、関税自主権

第 7 回 罪と罰 (刑法入門)

刑法の基本的な考え方を学ぶ
 関連する用語：罪と罰、罪刑法定主義、厳格解釈

第 8 回 権利と義務 (民法入門)

民法の基本的な考え方を学ぶ
 関連する用語：法の主体、法の客体、権利と義務、一般法と特別法

第 9 回 人

人(ひと)とは何か、ということについて法的に考えてみる
 関連する用語：人の始まり、人の終わり、禰??豆

- 子、エヴァンゲリオン、iPS細胞
権利能力、当事者能力、刑法の客体、主体
- 第10回 物(もの)
物(もの)とは何か、ということについて法的に
考えてみる
関連する用語：動産、不動産、無体財産、知的財
産、電気
- 第11回 18歳
18歳という年齢が持つ法的意味について考えて
みる
関連する用語：成人、選挙権、結婚、行為能力、
少年法
- 第12回 契約
契約(売買契約、賃貸借契約、雇用契約など)と
その効果について考える
関連する用語：意思表示、契約の種類、契約の効
果、債務の履行
- 第13回 結婚(婚姻)と家族
結婚の持つ意味、家族の持つ意味について考える
関連する用語：婚姻、離婚、親族、姻族
- 第14回 人の死と法
人の死が法的にどのように扱われているのか考え
てみる
関連する用語：相続、刑法の客体
- 第15回 まとめ
これまでの授業を振り返り、法とはなにか再確認
する。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕
定期試験を実施する(受講者の状況等によって定期試験に
替わるレポートまたは授業期間内課題レポート提出に替え
る可能性がある)。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
レジュメや配布資料をもとに、半アクティブな講義形式で
行う。半アクティブとは、授業中にペーパーを配布するな
どしてコメントを求め、それをもとに授業を進める事を指
す。この場合コメントの内容は(直接的な)評価対象では
なく、授業を進めるための素材となる。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
〔予習〕前の週に示す予定の設例に目を通してくること。
新聞やネットニュースに目を通し、社会でどのような事
件が起きているか把握してくること。
〔復習〕講義内容を記したレジュメおよび自身のノートを確認
すること。
新聞やネットニュースを確認し、授業で取り扱った問題が
どのように取り上げられているか確認すること。
参考文献等を用いて理解を深めること。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕
60時間(予習1時間?1時間半、復習1時間半?2時間)
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
期末試験60%
授業参加度40%
(授業開始時または終了時にコメントペーパーへの記入を求

めることがあります。)
授業開始時のコメントは素材提供のためのものですので、
内容の正誤は問題にならず、どれだけ積極的にコメントし
たか(良いネタを提供したか)が評価対象になります。
授業終了時コメントのうち、その日の授業の理解度を把握
するためのものは、その限度で内容も評価対象とすること
があります。次回授業の素材提供を求める場合は授業開始
時と同じです。

〔留意事項 (Other Information)〕

法とは決して訳のわからないものではありません。少しの
約束事が理解できれば使いこなすことも可能になります。
法が難しいという意識を少しでも変えられたら嬉しく思い
ます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

法学入門/森長秀 編著/草鹿晋一・衣笠葉子・森田隆夫・
平野美紀・瀧川修吾・川村岳人・松村歌子/光生館/2015
年/ISBN 978-4-332-61003-8

臨床に必要な法学(福祉臨床シリーズ15)/福祉臨床シリ
ーズ編集委員会 編・森 長秀 責任編集/弘文堂/2007年/
ISBN 978-4-335-61045-5

はじめての法律学 -- HとJの物語 第6版(有斐閣アルマ)/
松井茂記、松宮孝明、曾野裕夫 著/有斐閣/2020年03月/
ISBN 978-4-641-22160-4

法の世界へ 第8版(有斐閣アルマ)/池田真朗、犬伏由子、
野川忍、大塚英明、長谷部由起子 著/有斐閣/2020年03月
/ISBN 978-4-641-22163-5

法を学ぼう/三上 威彦編著、横大道 聡、金尾 悠香、荒木
泰貴、金安?/信山社/2020年10月/ISBN 978-4797286229

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

留学の英会話

GBE2351N0E
大学
共通教育科目
2年次
1単位 後期
月曜4限
DP3: 言語力
15
集中

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will focus on preparing students for studying
abroad. Students will be given various tasks to complete
throughout the course. These tasks will help students develop
their self-reliance. In addition, students will improve their
overall English skills, especially those skills needed to be a
successful student studying abroad.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will improve their overall English skills. They will also develop greater fluency and the ability to express their ideas and opinions effectively using English. Students will become more comfortable and confident using English. They will become more autonomous and self-reliant in their approach to learning. They will become more prepared for study abroad.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Language ability	Level 1: Fully satisfies the requirements of the given task. Includes all relevant information needed to communicate in the target language. Eagerly initiates speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Easily asks questions and speaks spontaneously. The student is native or near-native in all aspects of English language ability.	Level 2: Mostly covers the requirements of the given task. Includes most of the relevant information needed to communicate. Is willing to initiate speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Asks questions and speaks evenly.	Level 3: Addresses some of the requirements. Includes some relevant information but is not clearly focused. Sometimes initiates speech, using attention-getting devices. Sometimes asks questions and speaks hesitantly.	Level 4: Attempts to address the topic but few relevant information. Digresses often from the topic presented. Is reluctant to initiate speech and struggles to ask questions. Speech is halting. Does not attempt the task, and or the answer is completely irrelevant.

	Level 1:	Level 2:	Level 3:	Level 4:
Creativity / transmission	Includes an inviting introduction and a satisfactory conclusion. Skillfully manages to paraphrase the ongoing situation. Logical arrangement of ideas. Manages all aspects of cohesion well. Makes few errors in the following areas: • verbs in utterances when necessary with appropriate subject-verb agreement • noun and adjective agreement • correct word order and article adjectives Errors do not hinder comprehension.	Includes an introduction, body and conclusion. Uses paragraphing successfully within the situation. Uses a range of cohesive devices but may look mechanical. Makes several errors in the structure that do not affect overall comprehensibility.	Attempts to include an introduction, body and conclusion. Main idea is not clearly supported with details. Less attention is given to the organization. Occasional use of transitions. Makes several errors that may interfere with comprehension.	Begins abruptly. No paragraphing or inappropriate paragraphing. No attempt to maintain the logical arrangement of ideas. Or no clear message is communicated. Makes utterances that are so brief that there is little evidence of structure and comprehension is impeded.

〔授業計画〕

第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’, Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce the textbook

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

第 2 回 Unit 1: My Suitcase Is Overweight
Airport check-in / Airline baggage rules

第 3 回 Unit 2: I’m Suffering from Jet Lag
Jet lag / Time zones

第 4 回

- Unit 3: Each Host Family Is Different
Homestays / Host family rules
- 第 5 回 Unit 4: I'm Experiencing Culture Shock
Cultural differences / Stages of culture shock
- 第 6 回 Unit 5: My Dormitory Is too Noisy
Dormitory life / Suggestions and requests
- 第 7 回 Unit 6: How Can I Make Friends?
Making friends / Activities overseas
- 第 8 回 Unit 7: What Should I Talk About?
Talking with people / Conversation topics
in-class mid-term exam
- 第 9 回 Unit 8: I Feel Homesick
Missing Japan / Dealing with homesickness
- 第 10 回 Unit 9: How Do I Order Food?
Ordering and paying in a restaurant
- 第 11 回 Unit 10: I Lost My Passport
Losing something / Valuable possessions
- 第 12 回 Text Unit 11: I Need to Go to Hospital
Going to a clinic or hospital / Health advice
- 第 13 回 Unit 12: I Don't Want to Leave
Preparing to return to Japan / Benefits of going
abroad
- 第 14 回 Review
- 第 15 回 Course Questionnaire, Feedback, Final in-class
exam

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。No exam during exam week.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught)
ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!

ii) In class activities will be completed individually, in pairs,
and in small groups.

iii) Students are expected to complete their homework on
time!

iv) Homework and assignments will be given on a weekly
basis. Students are expected to have completed
any written homework and assignments and read the
necessary chapters in the textbook BEFORE and
AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class
discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE
FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class
according to the unique characteristics of the class and the
level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hours of homework
per week, which (in combination with homework for other
courses) adds up to a significant amount of homework.
Students are advised to plan for this and not to forgo
homework because it will be important. If students are absent
for social or sporting reasons, they are not excused from doing

the homework, and each student will be responsible for
ensuring that his or her written work reaches the teacher on
time.

Active attendance (meaning participation) will also be
important for students to benefit from this course.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

-15 minutes per day listen to native English, for example,
CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English
language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

-15-30 hours in total

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students' grade in this class will be based on class
participation (including homework, their attitude, and being
on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in
pre-study and review of each lesson. Furthermore, students
are expected to be on time for each class, prepared to learn,
study, and use the English language to communicate at all
times. Students must come to class with the assigned
Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English
dictionary or English to Japanese dictionary is highly
recommended.

**University policy stipulates that students must attend at
least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train
delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted
as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup"
work might be set for students who have to miss classes,
provided that they submit "request for special consideration
for students participating in extracurricular activities" issued
by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will
be English, and students must make an effort to use English to
communicate both with the instructor and other students.
Class attendance and active participation in in-class pair
work/group work are paramount towards students' success
and final grade in this course.

***The course may be flexible, and the syllabus is subject to

change. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics and level of the students.

*****This course will be a blended course in the FALL of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Communicate Abroad』/Simon Cookson and Chihiro Tajima/Cengage/National Geographic Learning//978-4-86312-277-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

旅行の英会話 A

GBE2350A0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

木曜 4限

DP3 : 言語力

15

集中

Eric Hail

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is designed to help to prepare students for a study abroad trip. Students will engage in a variety of activities using role-plays, activities, pair work, and group work to learn about various aspects of English speaking countries. The goal in this course is for students to be able to understand and use "survival Travel English" when they travel abroad (e.g., how to pass through immigration, how to exchange money, how to order a meal, how to check in/out of a hotel, etc...) In addition, students will improve their overall English skills and knowledge of countries and places around the world.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to participate in a variety of activities in pairs and groups interacting in English. In-class tasks will include speaking, listening reading and writing tasks. Students must participate actively in class activities and fulfill homework requirements. THIS COURSE WILL BE

CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH! Every student is expected to actively participate!

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
The power to nurture yourself				
Knowledge and understanding				
Language skills				
Thinking and resolution				
The power of symbiosis and collaboration				
Creativity / communication ability				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 English Firsthand Unit 5
- 第 3 回 English Firsthand Unit 5/ Choosing a Study Abroad Country
- 第 4 回 English Firsthand Unit 6
- 第 5 回 English Firsthand Unit 6/ Getting and Using a Phone Abroad
- 第 6 回 English Firsthand Unit 7
- 第 7 回 English Firsthand Unit 7/ Homestays
- 第 8 回 English Firsthand Unit 8
- 第 9 回 English Firsthand Unit 8/ Cultureshock
- 第 10 回 English Firsthand Unit 9
- 第 11 回 English Firsthand Unit 9/ Money, Credit Cards, Travelers Checks
- 第 12 回 English Firsthand Unit 10
- 第 13 回 English Firsthand Unit 10/ Safety and Being Street Smart
- 第 14 回 English Firsthand Unit 10/ Getting Around Town - Transportation
- 第 15 回 English Workshop

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn how to use simple sentence structures through listening activities and pair work conversational practice for traveling abroad. Students will be encouraged to provide their own ideas to extend conversation beyond given topics.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as reading and watching movies in English.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation, and Behavior 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

All students must buy a NEW textbook.

All students must bring an English dictionary to every class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Firsthand Success (5th Edition)』/Michael Rost/Pearson Longman// 9789813130210/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫extensive international travel experience, lived in 4 different countries, taught in 3 different countries

旅行の英会話B

GBE2350B0E

大学

共通教育科目

2年次

1単位 後期

火曜 4限

DP3 : 言語力

15

集中

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is designed to help to prepare students for travel abroad. Students will engage in a variety of online activities dealing with language related to four themes: preparing to travel abroad, visiting restaurants, going shopping, and sightseeing. Manaba and a mobile/PC application called Flipgrid will be used for assignment submission if it is not safe to hold class on campus due to the effects of Coronavirus. If it is safe to study in the classroom, we will hold class weekly on campus.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The specific goals of this course are 1) to learn English vocabulary and phrases needed to communicate in various travel-related situations 2) to practice using English to express your own preferences and ideas about these themes.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Interaction: Can navigate a conversation with a partner with success	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

第 1 回 Welcome to English for Travel!

Introduction to the course; Set up Flipgrid on your mobile phone; Instruction about how to use the application.

第 2 回 Topic 1: Making travel plans
General vocabulary and phrases

第 3 回 Topic 1: Making travel plans
Speech/role play planning

第 4 回 Topic 1: Making travel plans
Presentation Day

第 5 回 Topic 1: Making travel plans
Giving feedback as a listener

第 6 回 Topic 2: At a restaurant
General vocabulary and phrases

第 7 回 Topic 2: At a restaurant
Speech/role play planning

第 8 回 Topic 2: At a restaurant
Presentation Day/ Giving Feedback

第 9 回 Topic 3: Sightseeing
General vocabulary and phrases

第 10 回 Topic 3: Sightseeing
Speech/role play planning

第 11 回 Topic 3: Sightseeing
Presentation Day/ Giving Feedback

第 12 回 Topic 4: Shopping
General vocabulary and phrases

第 13 回 Topic 4: Shopping
Speech/ role play planning

第 14 回 Topic 4: Shopping
Presentation Day/ Giving Feedback

第 15 回 Reflections on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The course will be conducted entirely in English. Students can expect to work in pairs and groups with each other/the instructor in a lively classroom environment. Active participation is key: be bold and enthusiastic every class. Mistakes are welcome! Assignments will be submitted on paper in class/ on the school learning management system, Manaba. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
In order to make class time productive, it is imperative for students to complete any homework assignments in advance. Preparation is key to success in this class.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
Active participation: 30%
Role-plays: 20%
Presentations: 20%

Homework: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I A 2021年度以降入学者

GBE1302A0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜 1限
DP3 : 言語力
15

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The class is an intermediate English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students shall learn about discourse structure, and general day-to-day and academic writing design. While this course emphasizes speaking and writing skills, students shall continue to develop all four skills. Including, understand key ideas and principles of good English conversation competencies along with daily writing skills such as e-mails.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Language skills	Level 1: Fully satisfies the requirements of the given task.	Level 2: Mostly covers the requirements of the given task.	Level 3: Addresses some of the requirements. Includes some	Level 4: Attempts to address the topic but few relevant

Includes all relevant information needed to communicate in the target language. Eagerly initiates speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Easily asks questions and speaks spontaneously. The student is native or near-native in all aspects of English language ability.	Includes most of the relevant information needed to communicate. Is willing to initiate speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Asks questions and speaks evenly.	relevant information but is not clearly focused. Sometimes initiates speech, using attention-getting devices. Sometimes asks questions and speaks hesitantly.	information . Digresses often from the topic presented. Is reluctant to initiate speech and struggles to ask questions. Speech is halting. Does not attempt the task, and or the answer is completely irrelevant.
---	--	---	---

Creativity / communication ability	Level 1: Includes an inviting introduction and a satisfactory conclusion. Skillfully manages to paraphrase the ongoing situation. Logical arrangement of ideas. Manages all aspects of cohesion well. Makes few errors in the following areas: • verbs in utterances when necessary with appropriate subject-verb agreement • noun and adjective agreement • correct word order and article adjectives Errors do not hinder comprehension.	Level 2: Includes an introduction, body and conclusion. Uses paragraphing successfully within the situation. Uses a range of cohesive devices but may look mechanical. Makes several errors in the structure that do not affect overall comprehension.	Level 3: Attempts to include an introduction, body and conclusion. Main idea is not clearly supported with details. Less attention is given to the organization. Occasional use of transitions. Makes several errors that may interfere with comprehension.	Level 4: Begins abruptly. No paragraphing or inappropriate paragraphing. No attempt to maintain the logical arrangement of ideas. Or no clear message is communicated. Makes utterances that are so brief that there is little evidence of structure and comprehension is impeded.
---	---	---	--	---

[授業計画]

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ' Small Talk ', Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Food for Life; Contrast general and current actions
- 第 3 回 Week 3: Describe favourite dishes and food
- 第 4 回 Week 4: Express Yourself ? Talk about personal experiences
- 第 5 回 Week 5: Using small talk to break the ice
- 第 6 回 Week 6: Cities; Describe your city or town
- 第 7 回 Week 7: Make predictions about the future
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: The Body; Discuss ways to stay healthy

- 第 10 回 Week 10: Suggest helpful natural remedies
- 第 11 回 Week 11: Challenges; Talk about facing challenges
- 第 12 回 Week 12: Describe a personal challenge
- 第 13 回 Week 13: Transitions; Talk about milestones in your life
- 第 14 回 Week 14: Describe an important transition in your life
- 第 15 回 Week 15: Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない. No exam during exam week.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY (100%) IN ENGLISH!

ii) In class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

iii) Students are expected to complete their homework on time!

iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

-15-30 hours in total

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students' grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class).....30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit (pass the course).

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

World English2 Third Editon; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2020; 978-0-357-13031-5 (Combo Split A)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I B 2021年度以降入学者

GBE1302B0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜 2限
 DP3 : 言語力
 15
 Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The class is an intermediate English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students shall learn about discourse structure, and general day-to-day and academic writing design. While this course emphasizes speaking and writing skills, students shall continue to develop all four skills. Including, understand key ideas and principles of good English conversation competencies along with daily writing skills such as e-mails.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Language skills	Level 1: Fully satisfies the requirements of the given task. Includes all relevant information needed to communicate in the target language. Eagerly initiates speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Easily asks questions and speaks spontaneously. The student is native or near-native in all aspects of English language ability.	Level 2: Mostly covers the requirements of the given task. Includes most of the relevant information needed to communicate. Is willing to initiate speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Asks questions and speaks evenly.	Level 3: Addresses some of the requirements. Includes some relevant information but is not clearly focused. Sometimes initiates speech, using attention-getting devices. Sometimes asks questions and speaks hesitantly.	Level 4: Attempts to address the topic but few relevant information. Digresses often from the topic presented. Is reluctant to initiate speech and struggles to ask questions. Speech is halting. Does not attempt the task, and or the answer is completely irrelevant.
-----------------	---	--	---	---

Creativity / communication ability	Level 1: Includes an inviting introduction and a satisfactory conclusion. Skillfully manages to paraphrase the ongoing situation. Logical arrangement of ideas. Manages all aspects of cohesion well. Makes few errors in the following areas: • verbs in utterances when necessary with appropriate subject-verb agreement • noun and adjective agreement • correct word order and article adjectives Errors do not hinder comprehensibility.	Level 2: Includes an introduction, body and conclusion. Uses paragraphing successfully within the situation. Uses a range of cohesive devices but may look mechanical. Makes several errors in the structure that do not affect overall comprehensibility.	Level 3: Attempts to include an introduction, body and conclusion. Main idea is not clearly supported with details. Less attention is given to the organization. Occasional use of transitions. Makes several errors that may interfere with comprehensibility.	Level 4: Begins abruptly. No paragraphing or inappropriate paragraphing. No attempt to maintain the logical arrangement of ideas. Or no clear message is communicated. Makes utterances that are so brief that there is little evidence of structure and comprehensibility is impeded.
---	---	---	--	---

[授業計画]

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’, Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Food for Life: Contrast general and current actions
- 第 3 回 Week 3: Describe favourite dishes and food
- 第 4 回 Week 4: Express Yourself: Talk about personal experiences
- 第 5 回 Week 5: Using small talk to break the ice
- 第 6 回 Week 6: Cities: Describe your city or town
- 第 7 回 Week 7: Make predictions about the future
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: The Body: Discuss ways to stay healthy

- 第 10 回 Week 10: Suggest helpful natural remedies
- 第 11 回 Week 11: Challenges: Talk about facing challenges
- 第 12 回 Week 12: Describe a personal challenge
- 第 13 回 Week 13: Transitions: Talk about milestones in your life
- 第 14 回 Week 14: Describe an important transition in your life
- 第 15 回 Week 15: Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない. No exam during exam week.

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!
- ii) In-class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!
- v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

-15-30 hours in total

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Students’ grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being

on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or “makeup” work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit “request for special consideration for students participating in extracurricular activities” issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students’ success and final grade in this course.

****This course will be a blended course in the FALL of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

World English2 Third Edition; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2015; 978-0-357-13031-5 (Combo Split A)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I E 2021年度以降入学者

GBE1302E0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜1限
DP3: 言語力
15
櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちは母語を習得する時には、最初は音声を通じて獲得します。小学校での国語の授業では、何度も声に出して本を読まされます。英語のリーディング力の向上の為に、音声とともに学ぶのが効果的です。授業では、リスニングを絡めながら、また必要な文法も学びながらリーディングをします。英語の音声の特徴を意識して声に出して音読します。慣れてくれば、シャドウイングもします。そして読んだ内容の要点を、簡単にわかりやすい英語で口頭で述べます(Retelling)。素材となっている英文のパッセージは私たちの社会で起こっていることを扱っており、それらを時間をかけて英語で読み、話すことで、自らの考え方を再認識し、発展させます。自分の意見を簡単な英語で述べます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 読解に必要な文法知識,または発信に必要な文法をを基礎から学ぶ。
2. 理解できる語彙、使える語彙を増やす。
3. 英語の音声の特徴を学び、その特徴を意識しての発話を目指す。
4. 英文の正確に読解し、その内容を簡単にわかりやすい英語で発話する。
5. パッセージで扱われている事柄を社会の一員として捉え、批判的思考で読み、自らの意見を述べる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
4 技能の英語文法力	英語の基本構文が理解できない。簡単な英文が読めない。	英語の基本構文が理解できる。その知識をリーディング、リスニングに使える。	英語の複雑な構文が理解できる。その知識をリーディング、リスニングに使える。英語の基本構文をスピーキング、ライテ	英語の複雑な構文がスピーキング、ライティングに使える。

			イングに使える。	
英語音声力	英語の基本的音則が理解出来ず、リスニングの時無意味な音の塊にしか聞こえない。英文を読み上げても、外国の人には英語と認識してもらえず、通じない。	英語の基本的音則が理解できる。音則を意識して聞いたりを発話しようとする。	英語の基本的音則に加え、イントネーション、抑揚を意識して聞いたりを発話しようとする。	基本的音則に加え、イントネーション、抑揚を意識して聞いたりを発話できる。外国の人にも、スムーズに理解してもらえらる。
思考力	与えられた社会性のあるトピックに無関心。	与えられた社会性のあるトピックの英文をとりあえず読解し、意味を確認する。	与えられた社会性のあるトピックを自分に関係のあることとして捉え、関連情報を集めたり、批判的思考で考えようとする。	どのようなトピックでも批判的思考で捉えた上で、自分の意見を述べられる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション) 基本的文型と修飾語そして読解
Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader.
基本文型と修飾語を学び、読解をする
- 第 2 回 意味のまとまりで理解する
Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader.
フレーズの切れ目を意識した音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる
- 第 3 回 まとめ
Unit 1 で学んだことの復習をします
- 第 4 回 複文の読解
Unit 2 A Cool Responses to Food Waste
複文の意味の取り方を学ぶ
- 第 5 回 機能語と内容語を理解する
Unit 2 A Cool Responses to Food Waste
センテンスの強勢とホーズと意識した音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる

- 第 6 回 まとめ
Unit 2 で学んだことの復習をします
- 第 7 回 時制の意味
Unit 3 Haiku—Having Fun with Words and Ideas
時制を正しく理解する
- 第 8 回 弱い子音の読み方
Unit 3 Haiku—Having Fun with Words and Ideas
変化しやすい子音の音に注意をした音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる
- 第 9 回 まとめと小テスト
Unit 1~3 で学んだことの復習と小テストをします
- 第 10 回 様々な受動態
Unit 4 Could Your Face Cost You Your Privacy?
動詞の態に注意をして読解をする
- 第 11 回 繋がる音の読み方
Unit 4 Could Your Face Cost You Your Privacy?
リンキングに注意をした音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる
- 第 12 回 まとめ
Unit 4 で学んだことの復習をします
- 第 13 回 比較級と最上級
Unit 5 Russia's City of East
比較級と最上級に注意して、読解をする
- 第 14 回 補足情報と強調する情報
Unit 5 Russia's City of East
補足情報と強調する情報の読み方に注意して音読とシャドウイング
- 第 15 回 まとめと小テスト
Unit 4~5 で学んだことの復習と小テストをします
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
各Unit の最初のクラスで語彙の小テストを行います。読解はグループで行い、グループ内で解決できない箇所はクラス全体、あるいは教員に質問します。音読、Retelling、感想はグループ内で評価、講評し、それは授業中課題としてグレードに反映されます。小テストでは読解、Retelling、が評価され、グレードに反映されます。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各Unit の最初に行われる単語テストは必ず準備してください。しなければ後の課題に取り組みなくなるかもしれません。予習としてパッセージを読み、意味の取れない箇所をマークしておいてください。スムーズに音読、シャドウイ

ングができるようになるために、あらかじめパッセージの音声を何度も聞いておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20~30時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は単語テスト20%, 小テスト30%, 授業中課題30%、授業への参加度20%で行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

上記シラバスの内容と進度は、授業の進み具合で変わる可能性もあります。また、コロナにより一部、または全面的に遠隔授業を余儀なくされた場合にも、変更の可能性があり

ます。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Pleasure in Reading Aloud and Retelling』/Anthony P. Newell/金星堂/2019/978-4-7647-4083-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

英語理解 I F 2021年度以降入学者

GBE1302F0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜2限
DP3: 言語力
15
櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちは母語を習得する時には、最初は音声を通じて獲得します。小学校での国語の授業では、何度も声に出して本を読まされます。英語のリーディング力の向上の為に、音声とともに学ぶのが効果的です。授業では、リスニングを絡めながら、また必要な文法も学びながらリーディングをします。英語の音声の特徴を意識して声に出して音読します。慣れてくれば、シャドウイングもします。そして読んだ内容の要点を、簡単にわかりやすい英語で口頭で述べます(Retelling)。素材となっている英文のパッセージは私たちの社会で起こっていることを扱っており、それらを時間をかけて英語で読み、話すことで、自らの考え方を再認識し、発展させます。自分の意見を簡単な英語で述べます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 読解に必要な文法知識、または発信に必要な文法をを基礎から学ぶ。

2. 理解できる語彙、使える語彙を増やす。
3. 英語の音声の特徴を学び、その特徴を意識しての発話を目指す。
4. 英文の正確に読解し、その内容を簡単にわかりやすい英語で発話する。
5. パッセージで扱われている事柄を社会の一員として捉え、批判的思考で読み、自らの意見を述べる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
4 技能の英語文法力	英語の基本構文が理解できない。簡単な英文が読めない。	英語の基本構文が理解できる。その知識をリーディング、リスニングに使える。	英語の複雑な構文が理解できる。その知識をリーディング、リスニングに使える。英語の基本構文をスピーキング、ライティングに使える。	英語の複雑な構文がスピーキング、ライティングに使える。
英語音声力	英語の基本的音則が理解出来ず、リスニングの時無意味な音の塊にしか聞こえない。英文を読み上げても、外国の人には英語と認識してもらえず、通じない。	英語の基本的音則が理解できる。音則を意識して聞いたり発話しようとする。	英語の基本的音則に加え、イントネーション、抑揚を意識して聞いたり発話しようとする。	基本的音則に加え、イントネーション、抑揚を意識して聞いたり発話できる。外国の人にも、スムーズに理解してもらえる。
思考力	与えられた社会性のあるトピックに無関心。	与えられた社会性のあるトピックの英文をとりあえず読解し、意味を確認する。	与えられた社会性のあるトピックを自分に関係のあることとして捉え、関連情報を集めたり、批判的思考で考えようとする。	どのようなトピックでも批判的思考で捉えた上で、自分の意見を述べられる。

〔授業計画〕

第 1 回 (オリエンテーション) 基本的文型と修飾語そして読解

Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader.

基本文型と修飾語を学び、読解をする

第 2 回	意味のまとめりで理解する Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader. フレーズの切れ目を意識した音読とシャドウイング Retelling 感想を述べる
第 3 回	まとめ Unit 1 で学んだことの復習をします
第 4 回	複文の読解 Unit 2 A Cool Responses to Food Waste 複文の意味の取り方を学ぶ
第 5 回	機能語と内容語を理解する Unit 2 A Cool Responses to Food Waste センテンスの強勢とホーズと意識した音読とシャドウイング Retelling 感想を述べる
第 6 回	まとめ Unit 2 で学んだことの復習をします
第 7 回	時制の意味 Unit 3 Haiku—Having Fun with Words and Ideas 時制を正しく理解する
第 8 回	弱い子音の読み方 Unit 3 Haiku—Having Fun with Words and Ideas 変化しやすい子音の音に注意をした音読とシャドウイング Retelling 感想を述べる
第 9 回	まとめと小テスト Unit 1~3 で学んだことの復習と小テストをします
第 10 回	様々な受動態 Unit 4 Could Your Face Cost You Your Privacy? 動詞の態に注意をして読解をする
第 11 回	繋がる音の読み方 Unit 4 Could Your Face Cost You Your Privacy? リンキングに注意をした音読とシャドウイング Retelling 感想を述べる
第 12 回	まとめ Unit 4 で学んだことの復習をします
第 13 回	比較級と最上級 Unit 5 Russia's City of East 比較級と最上級に注意して、読解をする
第 14 回	補足情報と強調する情報

Unit 5 Russia's City of East

補足情報と強調する情報の読み方に注意して音読とシャドウイング

第 15 回 まとめと小テスト

Unit 4~5 で学んだことの復習と小テストをします
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各Unit の最初のクラスで語彙の小テストを行います。読解はグループで行い、グループ内で解決できない箇所はクラス全体、あるいは教員に質問します。音読、Retelling、感想はグループ内で評価、講評し、それは授業中課題としてグレードに反映されます。小テストでは読解、Retelling が評価され、グレードに反映されます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各Unit の最初に行われる単語テストは必ず準備してください。しなければ後の課題に取り組みなくなるかもしれません。予習としてパッセージを読み、意味の取れない箇所をマークしておいてください。スムーズに音読、シャドウイングができるようになるために、あらかじめパッセージの音声を何度も聞いておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20~30時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は単語テスト20%, 小テスト30%, 授業中課題30%、授業への参加度20%で行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

上記シラバスの内容と進度は、授業の進み具合で変わる可能性もあります。また、コロナにより一部、または全面的に遠隔授業を余儀なくされた場合にも、変更の可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Pleasure in Reading Aloud and Retelling』/Anthony P. Newell/金星堂/2019/978-4-7647-4083-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

GBE1302G0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜1限
 DP3：言語力
 15
 黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、英文を効率よく読むことができるようになることです。やや難し目の音声付きの英文テキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり（書きとり）を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキスト本文の内容に関する質問を行い、理解度を確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
語彙力	中学レベルの単語やイディオムすら身につけていない	中学・高校レベルの単語やイディオムが部分的に身につけている	中学・高校レベルの単語やイディオムが十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な語彙やイディオムについても身につけている
文法力	中学レベルの文法や構文すら身につけていない	中学・高校レベルの文法や構文が部分的に身につけている	中学・高校レベルの文法や構文が十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な文法や構文についても身につけている
Reading の力(読解力)	基本的な英文を読むことができない	基本的な英文を読むことができる	基本的な英文を速く正確に読むことができる	レベル3に加えて、より高度な英文も速く正確に読むことができる

Listening の力	基本的な英文を聞き取ることができない	基本的な英文を聞き取ることができる	英語の発音の特徴を理解し、基本的な英文を正確に聞き取ることができる	レベル3に加えて、より高度な英文でも正確に聞き取ることができる
共生・協働する力	英語の多様性や異文化について理解することができない	英語の多様性や異文化について理解している	英語の多様性や異文化について理解し、他人に説明することができる	レベル3に加えて、自ら積極的に英語の多様性や異文化について調べることができる
自分を育てる力	自学・自習に取り組むことができない	授業で提示された課題に取り組むことができる	授業で提示された課題の意図を理解し、積極的に自学・自習に取り組むことができる	レベル3に加えて、自ら目標を設定し、授業で提示されていない課題に対しても積極的に取り組むことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Chapter1 01 忘れ物をしちゃったみたい p.013
 02 天気予報をチェック p.017
- 第 3 回 Chapter1 03 ノー制服デー、何を着ていく？ p.021
 04 ブロッコリーも食べなくちゃだめ！ p.025
- 第 4 回 Chapter1 05 楽しいショッピング p.029
 06 ここでニュースです p.033
- 第 5 回 Chapter1 07 赤ちゃんの落とし物 p.037
 08 昨日の夜、あなたの家に... p.041
- 第 6 回 Chapter1 09 郵便局にて p.045
 10 何時に、どこに集合？ p.049
- 第 7 回 Chapter1 11 メラニーはいますか？ p.053
 Chapter2 12 すいません、渋滞していて p.059
- 第 8 回 アメリカ英語とイギリス英語聞き比べ
- 第 9 回 Chapter2 13 ウォーカー・ホテルズのご案内 p.063
 14 シムズ部長のご予定は p.067
- 第 10 回 Chapter2 15 彼女のプレゼン、光ってたね p.073
 16 新しい機器を導入したいんです p.077
- 第 11 回 Chapter2 17 注文と違うものが届きました p.081
 18 ファクス機の使い方 p.087
- 第 12 回 Chapter2 19 1週間の支店研修 p.091
 20 書類の山に埋もれていたもの p.097
- 第 13 回 Chapter2 21 会議を終えるにあたって p.101
 Chapter3 22 運転手さん、景気はどう？ p.107
- 第 14 回 Chapter3 23 彼氏と彼女とストーンヘンジ p.111
 24 イギリスの名物が食べたい！ p.117
- 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、やや難し目のイギリス英語の音声付きテキストを用いて、英文の書き取りと読解を中心とするトレーニングを行い、基礎的な英語能力の向上を目指します。また、語彙力向上のために、毎回テキスト内の重要な単語・表現についての小テストを実施します。授業中にテキスト内の表現や文法項目について解説し、必要に応じて関連する動画などを提示し理解を深めます。授業後は、復習で理解度を確認し、次回の授業で適宜フィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、指定された範囲の予習をしておくこと。

(単語テストは成績評価の30%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。) 次回分の音声最低でも一回は聞き、テキストのクイズに挑戦してみる。

各回で扱った範囲の英文について、復習として書き取りと読解をしておくこと。

復習の際、聞き取れなかった箇所、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(30%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(40%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

やや難し目のテキストを用いますので、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力があり、英語の力を伸ばしたい、上のレベルを目指したいという意欲のある人の受講を勧めます。

音声付きのテキストを用いますので、読解だけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。

イギリス英語のテキストを用いますので、イギリスの言葉や文化に興味がある人や、中学・高校で習うアメリカ英語以外に触れてみたい人、国ごとに特徴が異なる英語の多様性に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『究極のイギリス英語リスニング Standard』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757416208/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ダボス会議で聞く 世界の英語』/鶴田知佳子・柴田真一/コスモピア株式会社/2008/9784902091540

『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757418059

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I H 2021年度以降入学者

GBE1302H0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜 2限

DP3: 言語力

15

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、英文を効率よく読むことができるようになることです。音声付きの英文のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり(書きとり)を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキスト本文の内容に関する質問を行い、理解度を確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
語彙力	中学レベルの単語やイディオムすら身につけていない	中学・高校レベルの単語やイディオムが部分的に身につけている	中学・高校レベルの単語やイディオムが十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な語彙やイディオムについても身につけている
文法力	中学レベルの文法や構文すら身につけていない	中学・高校レベルの文法や構文が部分的に身につけている	中学・高校レベルの文法や構文が十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な文法や構文についても身につけている

Reading の力 (読解力)	基本的な英文を読むことができない	基本的な英文を読むことができる	基本的な英文を速く正確に読むことができる	レベル3に加えて、より高度な英文も速く正確に読むことができる
Listening の力	基本的な英文を聞き取ることができない	基本的な英文を聞き取ることができる	英語の発音の特徴を理解し、基本的な英文を正確に聞き取ることができる	レベル3に加えて、より高度な英文でも正確に聞き取ることができる
共生・協働する力	英語の多様性や異文化について理解することができない	英語の多様性や異文化について理解している	英語の多様性や異文化について理解し、他人に説明することができる	レベル3に加えて、自ら積極的に英語の多様性や異文化について調べることができる
自分を育てる力	自学・自習に取り組むことができない	授業で提示された課題に取り組むことができる	授業で提示された課題の意図を理解し、積極的に自学・自習に取り組むことができる	レベル3に加えて、自ら目標を設定し、授業で提示されていない課題に対しても積極的に取り組むことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Chapter1 01 忘れ物をしちゃったみたい p.013
02 天気予報をチェック p.017
- 第 3 回 Chapter1 03 ノー制服デー、何を着ていく? p.021
04 ブロッコリーも食べなくちゃだめ! p.025
- 第 4 回 Chapter1 05 楽しいショッピング p.029
06 ここでニュースです p.033
- 第 5 回 Chapter1 07 赤ちゃんの落とし物 p.037
08 昨日の夜、あなたの家に... p.041
- 第 6 回 Chapter1 09 郵便局にて p.045
10 何時に、どこに集合? p.049
- 第 7 回 Chapter1 11 メラニーはいますか? p.053
Chapter2 12 すいません、渋滞していて p.059
- 第 8 回 アメリカ英語とイギリス英語聞き比べ
- 第 9 回 Chapter2 13 ウォーカー・ホテルズのご案内 p.063
14 シムズ部長のご予定は p.067
- 第 10 回 Chapter2 15 彼女のプレゼン、光ってたね p.073
16 新しい機器を導入したいんです p.077
- 第 11 回 Chapter2 17 注文と違うものが届きました p.081
18 ファクス機の使い方 p.087
- 第 12 回 Chapter2 19 1週間の支店研修 p.091
20 書類の山に埋もれていたもの p.097

- 第 13 回 Chapter2 21 会議を終えるにあたって p.101
Chapter3 22 運転手さん、景気はどう? p.107
- 第 14 回 Chapter3 23 彼氏と彼女とストーンヘンジ p.111
24 イギリスの名物が食べたい! p.117

第 15 回 まとめテストと解説
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、やや難し目のイギリス英語の音声付きテキストを用いて、英文の書き取りと読解を中心とするトレーニングを行い、基礎的な英語能力の向上を目指します。また、語彙力向上のために、毎回テキスト内の重要な単語・表現についての小テストを実施します。授業中にテキスト内の表現や文法項目について解説し、必要に応じて関連する動画などを提示し理解を深めます。授業後は、復習で理解度を確認し、次回の授業で適宜フィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
毎回行う単語テストに備え、指定された範囲の予習をして

くること。
(単語テストは成績評価の30%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)
次回分の音声を最低でも一回は聞き、テキストのクイズに挑戦してみる。

各回で扱った範囲の英文について、復習として書き取りと読解をして

くること。
復習の際、聞き取れなかった箇所、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(30%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(40%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕
初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。
出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。
やや難し目のテキストを用いますので、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力があり、英語の力を伸ばしたい、

上のレベルを目指したいという意欲のある人の受講を勧めます。
音声付きのテキストを用いますので、読解だけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。

イギリス英語のテキストを用いますので、イギリスの言葉や文化に興味がある人や、中学・高校で習うアメリカ英語以外に触れてみたい人、国ごとに特徴が異なる英語の多様性に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『究極のイギリス英語リスニング Standard』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757446208/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ダボス会議で聞く 世界の英語』/鶴田知佳子・柴田真一/コスモピア株式会社/2008/9784902091540

『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757418059

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I J 2021年度以降入学者

GBE1302J0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜 1限
DP3: 言語力
15
伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語の仕組みを理解し、ある程度のレベルの英文を自分で読みこなせるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 文型の基礎を理解する
- ・ 読解に集中して整理した文法を身につける
- ・ 流れに乗った読解ができるようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODakション 読解のための文型・文法 1
- 第 2 回 読解のための文型・文法 2
- 第 3 回 英語のことわざ—班での協力によるプリント作成
- 第 4 回 英語のことわざ前半の解釈検討
- 第 5 回 英語のことわざ後半の解釈検討

第 6 回 受動態—動詞句の種類

第 7 回 読解「ヨーロッパの十字軍」

第 8 回 分詞の働き

第 9 回 読解「黒死病」

第 10 回 不定詞の働き

第 11 回 読解「ペートーベンの矜持」

第 12 回 読解「血液型性格診断と心理スキーマ」

第 13 回 ウェルズ『世界史概観』の描く歴史—ブツダの出家

第 14 回 まとめの試験と解説

第 15 回 総括と追加課題の指示等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。プリントの和訳を中心に読解のトレーニングを行います。できるだけ日本語ではなく英語の語順に沿った解釈を試みます。授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし(プリントを使用)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I K 2021年度以降入学者

GBE1302K0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜 2限
 DP3 : 言語力
 15
 伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語の仕組みを理解し、ある程度のレベルの英文を自分で読みこなせるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 文型の基礎を理解する
- ・ 読解に集中して整理した文法を身につける
- ・ 流れに乗った読解ができるようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション 読解のための文型・文法 1
- 第 2 回 読解のための文型・文法 2
- 第 3 回 英語のことわざ—班での協力によるプリント作成
- 第 4 回 英語のことわざ前半の解釈検討
- 第 5 回 英語のことわざ後半の解釈検討
- 第 6 回 受動態—動詞句の種類
- 第 7 回 読解「ヨーロッパの十字軍」
- 第 8 回 分詞の働き
- 第 9 回 読解「黒死病」
- 第 10 回 不定詞の働き
- 第 11 回 読解「ベートーベンの矜持」
- 第 12 回 読解「血液型性格診断と心理スキーマ」
- 第 13 回 ウェルズ『世界史概観』の描く歴史—ブッダの出家
- 第 14 回 まとめの試験と解説
- 第 15 回 総括と追加課題の指示等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書はありません。まず高校までの文法を簡単におさらいし、その後はプリントを配布して教材とします。プリントの和訳を中心に読解のトレーニングを行います。できるだけ日本語ではなく英語の語順に沿った解釈を試みます。授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし(プリントを使用)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I L 2021年度以降入学者

GBE1302L0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 月曜 1限
 DP3 : 言語力
 15
 田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

短めの文章を読み、その中で過去に学習した単語や文法事項を確認しながら、読む楽しみを実感する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 単語の復習と語彙力の向上
- 基本的な文法事項の確認
- 和訳に頼らない読解
- 映画内の重要な台詞の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	主体的に取り組む姿勢がない	主体的に取り組む姿勢がみられる	主体的に取り組む行動力がある	主体的に取り組む実行力がある
知識・理解力	知識を取得する意思が希薄	知識を習得する意思がある	知識を習得し、理解しようとする積極性がある	知識を習得し、理解を深めようとする積極性がある
言語力	1分間で60語読める	1分間で90語読める	1分間で120語読める	1分間で150語読める
思考・解決力	課題を解決するための努力を怠る	課題を解決する意思がある	課題を解決する実行力がある	自ら気づき、課題を解決する実行力がある

〔授業計画〕

第 1 回	Unit 1 Marathon Men and Women
第 2 回	Unit 2 Healthy Choices
第 3 回	Unit 3 Laughing Matters
第 4 回	Unit 4 Animation the Japanese Way
第 5 回	Unit 5 Dreams Come True?
第 6 回	Unit 6 The Statue of Liberty
第 7 回	Unit 7 The Taj Mahal and Shah Jahan
第 8 回	Unit 8 Universal Design
第 9 回	映画鑑賞 語彙や表現の確認
第 10 回	映画鑑賞 重要な台詞の理解
第 11 回	Unit 9 Mars One
第 12 回	Unit 10 Getting Around
第 13 回	Unit 11 The "Meat" of Tomorrow
第 14 回	Unit 12 Art Crime
第 15 回	Final Review 前期授業のまとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕 実施しない	

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。各章の読み物は、段階的に2つあり、可能な限り難解な方へ進む。

映画の大まかな内容と時代背景を確認した上で、字幕を英語にして鑑賞し、使用されている語彙や表現を学ぶ。授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

英文の下読みをしてくる。単語を事前に調べておく。

指示された単語を覚える (小テストあり)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト (50%)、提出課題 (20%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・対面授業で実施。

・DVD鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading Steps』/Robert Hickling 他/金星堂/2015年/978-4-7647-3992-5/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I M 2021年度以降入学者

GBE1302MOJ
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜 2限
DP3: 言語力
15
田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

短めの文章を読み、その中で過去に学習した単語や文法事項を確認しながら、読む楽しみを実感する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

単語の復習と語彙力の向上

基本的な文法事項の確認

和訳に頼らない読解

映画内の重要な台詞の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	主体的に取り組む姿勢がない	主体的に取り組む姿勢がみられる	主体的に取り組む行動力がある	主体的に取り組む実行力がある
知識・理解力	知識を取得する意思が希薄	知識を習得する意思がある	知識を習得し、理解しようとする積極性がある	知識を習得し、理解を深めようとする積極性がある
言語力	1分間で60語読める	1分間で90語読める	1分間で120語読める	1分間で150語読める
思考・解決力	課題を解決するための努力を怠る	課題を解決する意思がある	課題を解決する実行力がある	自ら気づき、課題を解決する実行力がある

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 1
Marathon Men and Women
- 第 2 回 Unit 2
Healthy Choices
- 第 3 回 Unit 3
Laughing Matters
- 第 4 回 Unit 4
Animation the Japanese Way
- 第 5 回 Unit 5
Dreams Come True?
- 第 6 回 Unit 6
The Statue of Liberty
- 第 7 回 Unit 7
The Taj Mahal and Shah Jahan
- 第 8 回 Unit 8
Universal Design
- 第 9 回 映画鑑賞
語彙や表現の確認
- 第 10 回 映画鑑賞
重要な台詞の理解
- 第 11 回 Unit 9
Mars One
- 第 12 回 Unit 10
Getting Around
- 第 13 回 Unit 11
The "Meat" of Tomorrow
- 第 14 回 Unit 12
Art Crime
- 第 15 回 Final Review
前期授業のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。各章の読み物は、段階的に2つあり、可能な限り難解な方へ進む。

映画の大まかな内容と時代背景を確認した上で、字幕を英

語にして鑑賞し、使用されている語彙や表現を学ぶ。授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

英文の下読みをしてくる。単語を事前に調べておく。

指示された単語を覚える (小テストあり)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト (50%)、提出課題 (20%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ 対面授業で実施。
- ・ DVD鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading Steps』/Robert Hickling 他/金星堂/2015年/978-4-7647-3992-5/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I N 2021年度以降入学者

GBE1302N0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜1限
DP3 : 言語力
15
寺西 みどり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語学習の基盤を構築し直す。

英文の基本的な仕組みを理解する。

簡単なReadingに取り組む。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 単語の復習
2. 基礎文法の確認
3. 筆記体に取り組む
4. 映画鑑賞(英語字幕・英語音声)の体験

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出席なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない	誤りあるも、簡単な英作文ができる	簡単な英作文がほとんど誤りなくできる

知識・理解力	アルファベットの読み書きができない	アルファベットの読み書きができる	中学レベルの英文法を理解する	中学レベルの文章(長文)を理解する
言語力	中学1年レベルの英単語を理解できない	中学1～2年レベルの英単語を理解する	動詞の活用ができる	語彙の増加が認められる
思考・解決力	問題に取り組まない	誤答であっても質問に答える	教科書の問題が解ける	理解していない点を自ら把握する
共生・協働する力	出席なし問いかけに返答なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない。	パートナーを探せる	クラスメートを共同作業をする
創造・発信力	出席なし問いかけに返答なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない。	質問に回答できる	指導者に質問できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、UNIT 1
コース説明
現在形の復習
- 第 2 回 UNIT 1
Reading: Who is Pepper
- 第 3 回 Unit 2
代名詞の復習
- 第 4 回 Unit 2
Reading: What's It Like to be a Self-Sufficient Family?
映画鑑賞準備
- 第 5 回 映画鑑賞
Disney作品を予定
- 第 6 回 Unit 5
前置詞の復習
- 第 7 回 Unit 5
Reading: Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae?
- 第 8 回 Unit 3
過去形の復習
- 第 9 回 Unit 3
Reading: Why Did Starbucks become a Hit in Japan?
映画鑑賞準備
- 第 10 回 映画鑑賞
Disney作品を予定
- 第 11 回 Unit 4
可算名詞・不可算名詞の復習
- 第 12 回 Unit 4
Reading: How Do Americans Celebrate Halloween?
- 第 13 回 Unit 7
疑問文の復習

第 14 回 Unit 7

Reading: Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long?

第 15 回 まとめ

まとめテスト(時間内レポート方式)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行わない。

頻回に小テストをする。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

発表には口頭で、提出物には朱入力で評価を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語を調べ、下読みをする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト60%

まとめテスト30%

提出課題10%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業のUnitと映画鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Reading Link

Robert Hickling

金星堂 2021年

ISBN 978-4-7647-4100-3

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要時に指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

必要時に指示する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

翻訳業務経験39年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。

通訳業務経験あり。例) リンゴ・スター、オリビア・ハッセイ、シルビア・クリステルなど

YBU英会話教室講師

予備校英語講読講師

英語圏外国人対象三味線講師

英語理解 I P 2021年度以降入学者

GBE1302POJ
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜2限
DP3: 言語力
15
寺西 みどり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語学習の基盤を構築し直す。
英文の基本的な仕組みを理解する。
簡単なReadingに取り組む。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 単語の復習
2. 基礎文法の確認
3. 筆記体に取り組む
4. 映画鑑賞(英語字幕・英語音声)の体験

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出席なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない	誤りあるも、簡単な英作文ができる	簡単な英作文がほとんど誤りなくできる
知識・理解力	アルファベットの読み書きができない	アルファベットの読み書きができる	中学レベルの英文法を理解する	中学レベルの文章(長文)を理解する
言語力	中学1年レベルの英単語を理解できない	中学1~2年レベルの英単語を理解する	動詞の活用ができる	語彙の増加が認められる
思考・解決力	問題に取り組まない	誤答であっても質問に答える	教科書の問題が解ける	理解していない点を自ら把握する
共生・協働する力	出席なし問いかけに返答なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない。	パートナーを探せる	クラスメートを共同作業をする
創造・発信力	出席なし問いかけに返答なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない。	質問に回答できる	指導者に質問できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、UNIT 1
コース説明
現在形の復習
- 第 2 回 UNIT 1
Reading: Silicon Valley

- 第 3 回 Unit 2
代名詞の復習
- 第 4 回 Unit 2
Reading: Internships and Homestays
映画鑑賞準備
- 第 5 回 映画鑑賞
Disney作品を予定
- 第 6 回 Unit 3
前置詞の復習
- 第 7 回 Unit 3
Reading: Googleplex
- 第 8 回 Unit 4
過去形の復習
- 第 9 回 Unit 4
Reading: The San Francisco Cable Cars
映画鑑賞準備
- 第 10 回 映画鑑賞
Disney作品を予定
- 第 11 回 Unit 5
可算名詞・不可算名詞の復習
- 第 12 回 Unit 5
Reading: Blue Jeans
- 第 13 回 Unit 6
疑問文の復習
- 第 14 回 Unit 6
Reading: App Basics
- 第 15 回 まとめ
まとめテスト(時間内レポート方式)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行わない。
頻回に小テストをする。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

発表には口頭で、提出物には朱入れで評価を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語を調べ、下読みをする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト60%
まとめテスト30%
提出課題10%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業のUnitと映画鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

English Booster
Robert Hickling
金星堂 2021年
ISBN 978-4-7647-4113-3

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

必要時に指示する

[参考URL(URL for Reference)]

必要時に指示する

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》

翻訳業務経験39年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。

通訳業務経験あり。例) リンゴ・スター、オリビア・ハッセイ、シルビア・クリステルなど

YBU英会話教室講師

予備校英語講読講師

英語圏外国人対象三味線講師

英語理解 I Q 2021年度以降入学者

GBE1302Q0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜1限
DP3: 言語力
15
中西 悠子

[科目の教育目標 (Course Description)]

本科目の目的は簡単な文章を読み内容の概要を理解し、読む楽しさを実感することです。「楽しく読む」ためにはまず基本的な語彙や文法を理解することが必要ですので、過去に学んだ文法事項を復習します。また、この授業では英語を声に出して読めるようになること、英語の順序で前から理解していくことを大切にしています。更に、読んだことを簡単にまとめたり、学んだ文法事項を実際にその場で使って使い方を確認します。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 単語の復習と語彙力の向上を目指す。(毎回単語テストを行います。)
2. 読解や発信に必要な基本的な文法事項を確認する
3. 学んだ文法を用いて簡単に自分や周りのことについて発信する。
4. 英文を音読できるようになる。
5. 和訳に頼らず前から後ろへ英語とできるだけ同じ順序で理解する。
6. 英文を正確に読解し、その内容を簡単でわかりやすい英語で発話する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性・学習意欲	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する

言語力① (文章を読み、理解する力)	基本的な英文を理解することができない	基本的な英文を理解することができる	標準的な英文をある程度理解することができる	標準的な英文を十分理解することができる
言語力② (語彙を理解し、運用する力)	基本的な語彙を理解・運用することができない	基本的な語彙を理解し、運用することができる	ある程度幅広い語彙を理解し、運用することができる	多様な語彙を理解し、運用することができる
言語力③ (文法を理解し、運用する力)	基本的な文法を理解・運用することができない	基本的な文法を理解・運用することができる	基本的な文法・及び複雑な文法もある程度理解・運用することができる	基本的な文法・及び複雑な文法も適切に理解・運用することができる
思考力・発信力	論拠や例を用いて意見を発信することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて意見を発信することができる	概ね適切な論拠や例を用いて意見を展開することができる	適切な論拠や例を用いて論理的に意見を展開することができる
共生・協働する力	他と協働することができない	消極的ながら他と協働しようとする姿勢がみられる	ある程度他と協働しようとする姿勢がみられる	積極的に他と協働しようとする姿勢がみられる

[授業計画]

- 第 1 回 オリエンテーション
本科目に関する説明をした後、簡単なアンケートと英語に関するクイズを予定しています。
- 第 2 回 Unit 1
Who Is Pepper? 現在形
- 第 3 回 Unit 2
What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? 代名詞
- 第 4 回 Unit 3
Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? 過去形
- 第 5 回 Unit 4
How Do Americans Celebrate Halloween? 可算名詞・不可算名詞
- 第 6 回 Unit 5
Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? 時と場所を表す前置詞
- 第 7 回 Unit 6
Are You Going Cashless? 進行形
- 第 8 回 まとめのテスト I
- 第 9 回 Unit 7
Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long? 疑問詞
- 第 10 回 Unit 8

Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel?
動名詞・不定詞

第 11 回 Unit 9
What Will Space Travel Be Like in the Future? 未
来形

第 12 回 Unit 10
What Makes the Amazon One of the Most
Amazing Places? 比較級・最上級

第 13 回 Unit 11
Who Can Be a YouTuber? 助動詞

第 14 回 Unit 12
How Was Conveyor Belt Sushi Born? 受動態

第 15 回 まとめのテスト II
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
定期試験期間中には行いません。
毎回の授業で単語テストをします。
中間と最終回にまとめのテストをします。
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
指名して問に答えるだけでなく、ペアやグループで読解を行ったり、
英単語や英文の音読練習や簡単な会話 (Q&A) などのアクティビティを予定していますので
積極的な授業参加を求めます。
補助プリントやオンライン教材を用いた課題の提出もあります。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
その日の箇所に事前に目を通し、単語の意味を調べ、簡単な予習を行う。(適宜補助プリントを用意します。)
毎回の単語テストの準備をする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
1時間? 2時間/週
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
小テスト 40%
まとめテスト 40%
提出課題 10%
授業参加 10%
〔留意事項 (Other Information)〕
学習するUnitや内容は変更されることもあります。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Reading Link』/Robert Hickiling 他/金星堂/2020年/978-4-7647-4100-3/学内販売予定
担当者が作成した資料
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
必要時に指示します。
〔参考URL(URL for Reference)〕
必要時に指示します。
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 I R 2021年度以降入学者

GBE1302R1J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
月曜2限
DP3: 言語力
15
中西 悠子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は簡単な文章を読み内容の概要を理解し、読む楽しさを実感することです。「楽しく読む」ためにはまず基本的な語彙や文法を理解することが必要ですので、過去に学んだ文法事項を復習します。また、この授業では英語を声に出して読めるようになること、英語の順序で前から理解していくことを大切にしています。更に、読んだことを簡単にまとめたり、学んだ文法事項を実際にその場で使って使い方を確認します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 単語の復習と語彙力の向上を目指す。(毎回単語テストを行います。)
2. 読解や発信に必要な基本的な文法事項を確認する
3. 学んだ文法を用いて簡単に自分や周りのことについて発信する。
4. 英文を音読できるようになる。
5. 和訳に頼らず前から後ろへ英語とできるだけ同じ順序で理解する。
6. 英文を正確に読解し、その内容を簡単でわかりやすい英語で発話する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性・学習意欲	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する
言語力①(文章を読み、理解する力)	基本的な英文を理解することができない	基本的な英文を理解することができる	標準的な英文をある程度理解することができる	標準的な英文を十分理解することができる
言語力②(語彙を理解し、運用する力)	基本的な語彙を理解・運用することができない	基本的な語彙を理解し、運用することができる	ある程度幅広い語彙を理解し、運用することができる	多様な語彙を理解し、運用することができる
言語力③(文法を理解し、運用する力)	基本的な文法を理解・運用することができない	基本的な文法を理解・運用することができる	基本的な文法・及び複雑な文法もある程度理解・運用する	基本的な文法・及び複雑な文法も適切に理解・運用する

	とができない		ることができる	ることができる
思考力・発信力	論拠や例を用いて意見を発信することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて意見を発信することができる	概ね適切な論拠や例を用いて意見を展開することができる	適切な論拠や例を用いて論理的に意見を展開することができる
共生・協働する力	他と協働することができない	消極的ながら他と協働しようとする姿勢がみられる	ある程度他と協働しようとする姿勢がみられる	積極的に他と協働しようとする姿勢がみられる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
本科目に関する説明をした後、簡単なアンケートと英語に関するクイズを予定しています。
- 第 2 回 Unit 1
Who Is Pepper? 現在形
- 第 3 回 Unit 2
What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? 代名詞
- 第 4 回 Unit 3
Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? 過去形
- 第 5 回 Unit 4
How Do Americans Celebrate Halloween? 可算名詞・不可算名詞
- 第 6 回 Unit 5
Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? 時と場所を表す前置詞
- 第 7 回 Unit 6
Are You Going Cashless? 進行形
- 第 8 回 まとめのテスト I
- 第 9 回 Unit 7
Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long? 疑問詞
- 第 10 回 Unit 8
Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel? 動名詞・不定詞
- 第 11 回 Unit 9
What Will Space Travel Be Like in the Future? 未来形
- 第 12 回 Unit 10
What Makes the Amazon One of the Most Amazing Places? 比較級・最上級
- 第 13 回 Unit 11
Who Can Be a YouTuber? 助動詞
- 第 14 回 Unit 12
How Was Conveyor Belt Sushi Born? 受動態
- 第 15 回 まとめのテスト II

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行いません。
毎回の授業で単語テストをします。
中間と最終回にまとめのテストをします。
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
指名して間に答えるだけでなく、ペアやグループで読解を行ったり、
英単語や英文の音読練習や簡単な会話 (Q&A) などのアクティビティを予定していますので
積極的な授業参加を求めます。
補助プリントやオンライン教材を用いた課題の提出もあります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
その日の箇所に事前に目を通し、単語の意味を調べ、簡単な予習を行う。(適宜補助プリントを用意します。)
毎回の単語テストの準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

1時間? 2時間/週

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト 40%

まとめテスト 40%

提出課題 10%

授業参加 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

学習するUnitや内容は変更されることもあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading Link』/Robert Hickling 他 / 金星堂 / 2020年 / 978-4-7647-4100-3 / 学内販売予定

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要時に指示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

必要時に指示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I A 2021年度以降入学者

GBE1303A0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜2限

DP3: 言語力

15

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will teach modern English used by young people around the world with focus on speaking. Using the internet,

videos and authentic written materials we will learn useful expressions to then practise during class in pairs and/or groups.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn authentic English expressions and get accustomed to English used in real settings. Students will also learn how to build their confidence with speaking.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Vocabulary and expressions	I find it difficult to use vocabulary adequately and appropriately	I only use the vocabulary I know. If I don't know it I will use Japanese.	I try to use new vocabulary taught in class or vocabulary I've searched in a dictionary	I try to use at least one new vocabulary item or phrase taught in class or from my dictionary every lesson
Content	I usually only give one word answers without any elaboration.	I speak simply and give typical answers with very little elaboration.	I try to add interesting content to my sentences but only if the instructor asks.	I am able to produce longer and more complex sentences. The content of my sentences is interesting and thought provoking.
Grammatical accuracy	My sentences are often difficult to understand as if I'm translating directly from Japanese.	The instructor and my peers can understand my sentences but with some difficulty.	The instructor and my peers can understand what I want to say regardless of any grammatical errors.	When I speak my sentence structure is clear and appropriate. There is little ambiguity in what I want to say.

Listening comprehension	I cannot understand most things said in English.	I can understand English only if it's spoken very slowly and very clearly using simple vocabulary.	I can understand the general meaning of spoken English if it's spoken slowly and clearly. Some words I don't understand.	I can understand spoken English at a reasonable speed even if I don't understand every word.
Participation	I attend the classes but I do not actively answer questions or participate proactively in group activities.	I attend classes and respond to the teacher when asked.	I attend the classes and spontaneously respond to the teacher during small group activities and sometimes in whole class activities.	In every class I play an active role by answering the teacher's questions and/or by engaging with and sometimes helping in group activities.
Logical flow	I respond with either yes or no most of the time.	I respond in one sentence. It is clear what I want to say but I don't give reasons or examples.	I present my main idea clearly and I also provide at least one reason for my opinion or idea.	When I speak or write in English I clearly state my idea, the reasons for why I think so and provide examples to back up or clarify my thoughts.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Self introductions
- 第 2 回 Hobbies
- 第 3 回 Food
- 第 4 回 Travel
- 第 5 回 Goals and aspirations
- 第 6 回 English in media
- 第 7 回 Social media
- 第 8 回 Lyrics and popular music
- 第 9 回 Crazy sports around the world
- 第 10 回 Popular topics in psychology
- 第 11 回 Holiday experiences
- 第 12 回 Physical health
- 第 13 回 Presentation preparation 1
- 第 14 回 Presentation preparation 2
- 第 15 回 Final presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

On the final week of term students will give a group presentation that will be graded by the instructor. Feedback will be immediately provided after the presentation.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will use a range of methods such as quizzes, individual writing, multimedia, group and pair work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to engage with English throughout the week such as with music and movies and will be asked to prepare for lessons when necessary. The instructor will notify students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

40% participation

40% assignments

20% final presentation

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I B 2021年度以降入学者

GBE1303B0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜 1限

DP3 : 言語力

15

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will teach modern English used by young people around the world with focus on speaking. Using the internet, videos and authentic written materials we will learn useful expressions to then practise during class in pairs and/or groups.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn authentic English expressions and get accustomed to English used in real settings. Students will also learn how to build their confidence with speaking.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Vocabulary and expressions	I find it difficult to use vocabulary adequately and appropriately	I only use the vocabulary I know. If I don't know it I will use Japanese.	I try to use new vocabulary taught in class or vocabulary I've searched in a dictionary	I try to use at least one new vocabulary item or phrase taught in class or from my dictionary every lesson
Content	I usually only give one word answers without any elaboration.	I speak simply and give typical answers with very little elaboration.	I try to add interesting content to my sentences but only if the instructor asks.	I am able to produce longer and more complex sentences. The content of my sentences is interesting and thought provoking.
Grammatical accuracy	My sentences are often difficult to understand as if I'm translating directly from Japanese.	The instructor and my peers can understand my sentences but with some difficulty.	The instructor and my peers can understand what I want to say regardless of any grammatical errors.	When I speak my sentence structure is clear and appropriate. There is little ambiguity in what I want to say.
Listening comprehension	I cannot understand most things said in English.	I can understand English only if it's spoken very slowly and very clearly using simple vocabulary.	I can understand the general meaning of spoken English if it's spoken slowly and clearly. Some words I don't understand.	I can understand spoken English at a reasonable speed even if I don't understand every word.
Participation	I attend the classes but I do not actively answer questions or participate proactively	I attend classes and respond to the teacher when asked.	I attend the classes and spontaneously respond to the teacher during small group activities and	In every class I play an active role by answering the teacher's questions and/or by engaging with and

	in group activities.		sometimes in whole class activities.	sometimes helping in group activities.
Logical flow	I respond with either yes or no most of the time.	I respond in one sentence. It is clear what I want to say but I don't give reasons or examples.	I present my main idea clearly and I also provide at least one reason for my opinion or idea.	When I speak or write in English I clearly state my idea, the reasons for why I think so and provide examples to back up or clarify my thoughts.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Self introductions
- 第 2 回 Hobbies
- 第 3 回 Food
- 第 4 回 Travel
- 第 5 回 Goals and aspirations
- 第 6 回 English in media
- 第 7 回 Social media
- 第 8 回 Lyrics and popular music
- 第 9 回 Crazy sports around the world
- 第 10 回 Popular topics in psychology
- 第 11 回 Holiday experiences
- 第 12 回 Physical health
- 第 13 回 Presentation preparation 1
- 第 14 回 Presentation preparation 2
- 第 15 回 Final presentation

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

On the final week of term students will give a group presentation that will be graded by the instructor. Feedback will be immediately provided after the presentation.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will use a range of methods such as quizzes, individual writing, multimedia, group and pair work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to engage with English throughout the week such as with music and movies and will be asked to prepare for lessons when necessary. The instructor will notify students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 40% participation
- 40% assignments
- 20% final presentation

Feedback will be provided in class or through manaba for online assignments.

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I C 2021年度以降入学者

GBE1303C0J
 大学
 共通教育科目
 1年次 前期
 1単位 前期
 水曜2限
 DP3：言語力
 15
 藤本 幸治

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに初級レベル(TOEIC400-500)の英語を完全に習得し、最終的にアカデミックな英語を読み、書けるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに初級レベル(TOEIC400-500)、および学術的な英語を理解し、また、書けるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語の基本構造が理解できない。	日本語と英語の基本構造が理解出来、基本的な表現を行うことができる。	十分な語彙力を有し、十分に意思疎通できる英語を書くことができる。	限られた知識を臨機応変に利用し、活用できる。
自分を育てる力	英語の基本構造が理解できない。	日本語と英語の基本構造が理解出来、基本的な表現を行うことができる。	十分な語彙力を有し、十分に意思疎通できる英語を書くことができる。	限られた知識を臨機応変に利用し、活用できる。
知識・理解力	基本語彙が500語を下回る。	基本語彙が1500程度である。	学習語彙が3000語に達している。	学習語彙が5000語以上ある。

言語力	基本5文型が理解できない	基本5文型を理解できる。	基本5文型を利用して、基本的な英語表現ができる。	基本5文型を応用し、臨機応変に展開できる。
思考・解決力	論理的な文章が理解できない。	基本的な論理的文章が書くことができる。	主張に関して十分な根拠を示しながら英文を書くことができる。	3段論法を基準とした合理的な文章を書くことができる。
共生・協働する力	グループワークができない。	グループワークに参加して活動できる。	グループ内で円滑に作業し、グループを取りまとめることができる。	グループの意見をまとめ、リーダーとして指示することができる。
創造・発信力	基本和文英訳ができない。	初歩的な英文を書くことができる。	論理的な英文を書くことができる。	自らの主張を英文で論理的にサポートしながら、示すことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業目標の理解
導入：コミュニケーション能力を高める英語学習法
- 第 2 回 基本5文型再考（1）
第1&3文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 3 回 基本5文型再考（2）
第4文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 4 回 基本5文型再考（3）
第2文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 5 回 英語の時制を理解する。
現在時制と過去時制を正しく理解し、使う演習
- 第 6 回 基本文型のまとめ
第1～5回 復習演習とまとめ
- 第 7 回 未来を示す現在時制
未来を表す表現を理解し、使う演習
- 第 8 回 進行動詞の理解と活用
現在進行形と過去進行形を理解し、使う演習
- 第 9 回 完了形の多義の理解と応用
現在完了形を理解し、使う練習
- 第 10 回 法助動詞の意味
相手の気持ちを表す表現練習（1）：法助動詞 1
- 第 11 回 法助動詞の理解と応用
相手の気持ちを表す表現練習（2）：法助動詞 2
- 第 12 回 英語時制のまとめ
第6～11回 復習演習とまとめ
- 第 13 回 不定詞型の理解（1）
to不定詞と動名詞を理解し、使う演習
- 第 14 回 不定詞型の理解（2）

未来を表すto不定詞と現在と過去を表す動名詞
第 15 回 学期内学習項目の総まとめ

Review of the Semester

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。第15回週目のReview of the Semesterで課題、レポートに対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

指定された予習範囲の単語の意味調べ
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、小テスト・レポート（30%）、まとめのテスト（40%）

〔留意事項（Other Information）〕

予習と復習は必須です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『A Primer of Communication in English』/M. Koyama et al/Syohakusha/2017//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I D 2021年度以降入学者

GBE1303D0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
水曜1限
DP3：言語力
15
藤本 幸治

〔科目の教育目標（Course Description）〕

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までには初級レベル(TOEIC400-500)の英語を完全に習得し、最終的にアカデミックな英語を読み、書けるようにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

初級レベル(TOEIC400-500)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までには初級レベル(TOEIC400-500)、および学術的な英語を理解し、また、書けるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語の基本構造が理解できない。	日本語と英語の基本構造が理解出来、基本的な表現を行うことができる。	十分な語彙力を有し、十分に意思疎通できる英語を書くことができる。	限られた知識を臨機応変に利用し、活用できる。
自分を育てる力	英語の基本構造が理解できない。	日本語と英語の基本構造が理解出来、基本的な表現を行うことができる。	十分な語彙力を有し、十分に意思疎通できる英語を書くことができる。	限られた知識を臨機応変に利用し、活用できる。
知識・理解力	基本語彙が500語を下回る。	基本語彙が1500程度である。	学習語彙が3000語に達している。	学習語彙が5000語以上ある。
言語力	基本5文型が理解できない	基本5文型を理解できる。	基本5文型を利用して、基本的な英語表現ができる。	基本5文型を応用し、臨機応変に展開できる。
思考・解決力	論理的な文章が理解できない。	基本的な論理的文章が書くことができる。	主張に関して十分な根拠を示しながら英文を書くことができる。	3段論法を基準とした合理的な文章を書くことができる。
共生・協働する力	グループワークができない。	グループワークに参加して活動できる。	グループ内で円滑に作業し、グループを取りまとめることができる。	グループの意見をまとめ、リーダーとして指示することができる。
創造・発信力	基本和文英訳ができない。	初歩的な英文を書くことができる。	論理的な英文を書くことができる。	自らの主張を英文で論理的にサポートしながら、示すことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業目標の理解
導入：コミュニケーション能力を高める英語学習法
- 第 2 回 基本5文型再考（1）
第1&3文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 3 回 基本5文型再考（2）
第4文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 4 回 基本5文型再考（3）

- 第2文型を取る動詞を用いた表現練習
- 第 5 回 英語の時制を理解する。
現在時制と過去時制を正しく理解し、使う演習
- 第 6 回 基本文型のまとめ
第1～5回 復習演習とまとめ
- 第 7 回 未来を示す現在時制
未来を表す表現を理解し、使う演習
- 第 8 回 進行動詞の理解と活用
現在進行形と過去進行形を理解し、使う演習
- 第 9 回 完了形の多義の理解と応用
現在完了形を理解し、使う練習
- 第 10 回 法助動詞の意味
相手の気持ちを表す表現練習（1）：法助動詞1
- 第 11 回 法助動詞の理解と応用
相手の気持ちを表す表現練習（2）：法助動詞2
- 第 12 回 英語時制のまとめ
第6～11回 復習演習とまとめ
- 第 13 回 不定詞型の理解（1）
to不定詞と動名詞を理解し、使う演習
- 第 14 回 不定詞型の理解（2）
未来を表すto不定詞と現在と過去を表す動名詞
- 第 15 回 学期内学習項目の総まとめ
Review of the Semester

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。第15回週目のReview of the Semesterで課題、レポートに対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

指定された予習範囲の単語の意味調べ

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、小テスト・レポート（30%）、まとめのテスト（40%）

〔留意事項（Other Information）〕

予習と復習は必須です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『A Primer of Communication in English』/M. Koyama et al/Syohakusha/2017//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

GBE1303E0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 水曜 2限
 DP3：言語力
 15
 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的はアウトプットの力、特に、基本的な英語ライティングの技術を習得することです。基礎的な文法、スペリング、句読法、などを復習しながら、パラグラフの規則を覚えることにより、自信をもって英語で「書く」ことが出来るようになることを目指します。最終的に、クラスでの練習を積み重ね、うまく「パラグラフ」を組み立て、伝えたいと思う内容を伝えることが出来る能力を身に付けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 文を正しく組み立てるために必要な英文法を復習すること
3. よいパラグラフとは何かを理解すること
4. 1つの話題について意味理解が進むよう、よいパラグラフ構成にしたがって、読み手を意識した英文を書くこと
5. 多種多様なプロジェクトに取り組む姿勢を持つこと
6. 自分でまたはクラスメートと相談しながら取り組む方法を学ぶこと

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
英語作文能力	ごく基本的な日常表現や個人的情報であつても、英語でまとまった文を書くことができない。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、よく使われる表現を使って英語で文を書くことができる。	仕事、学校、娯楽など身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を組み合わせたパラグラフを英語で作ることができる。	具体的な話題だけではなく、抽象的な話題を含めた幅広い話題について、明確で詳細な文章を英語で作成し、それらを組み合わせ、複数のパラグラフにまとめることができる。

言語力	基本的な英文の構造がわからない。必要な単語を調べることができない。	教えられたら、基本的な英文の構造を思いだせる。また、単語を調べることができる。	基本的な英文の構造を理解できている。または、必要な単語を調べて選ぶことができる。	基本的な英文の構造を使っただけではなく、いろいろな文法事項を用いて文を書くことができる。辞書を使いながら、いろいろな語彙を調べて、正しく使用することができる。
思考・解決力	教員に言われたことを書くまたは、作業することができない。	教員やクラスメートに説明されたら作業を進めることができる。	わからないことがある場合、教員やクラスメートに質問や相談をするが、基本的にはテキストを読んで、作業を進めることができる。	適宜、必要に応じてクラスメートと相談したり、辞書や必要な文献を利用しながら、テキストを読んで作業を進めることができる。
共生・協働する力	振り返りシートに署名を頼むことができない。	振り返りシートに署名を頼むことができたと同時に、誰かのシートに署名することができる。	振り返りシートやクラスメートの作品にコメントをすることができた。または、協同作業で自分の分担をこなすことができる。	自分の分担をこなすだけでなく、クラスメートやチームメートと、積極的に協力しながら、課題をこなすことができる。
創造・発信力	教えられた内容しか書くことができない。	教えられた内容やモデルを見て、その一部を変えて書くことができる。	教えられた内容やモデルを見て、自分で考えた文や内容を追加できる。	教えられた内容やモデルを見て、自分オリジナルの文や内容を考えて書くことができる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

授業の目標、進め方、評価、全体の授業内容など授業全般の注意事項に関する説明を聞く。自分の英語力を知る

第 2 回 PBL1：心の地図を使って自分を表現する①
心の地図を作成する

第 3 回 PBL1：心の地図を使って自分を表現する②

- 心の地図を使って英文ライティングを完成させる
- 第 4 回 PBL2: 4コマストーリーを書こう①
短い物語を完成させる
- 第 5 回 PBL2: 4コマストーリーを書こう②
短い物語を発表し、修正してから提出する
- 第 6 回 PBL3: 絵本翻訳①
絵本（英語→日本語）を選んで翻訳する
- 第 7 回 PBL3: 絵本翻訳②
絵本（日本語→英語）を選んで翻訳する
- 第 8 回 PBL3: 絵本翻訳③
絵本と翻訳絵本と自分の翻訳を比較したうえで、違いを考察する
- 第 9 回 PBL4: ポスター発表①
ポスター発表について理解したうえで、チームごとに構想を考え、原稿を作成する
- 第 10 回 PBL4: ポスター発表②
原稿を確認し、ポスターを完成させる
- 第 11 回 PBL4: ポスター発表③
ポスター発表を行う/発表を聞く
- 第 12 回 PBL4: ポスター発表のまとめと英作文
ポスター発表についてチームごとに省察した後、各自で発表した内容を英作文にまとめる
- 第 13 回 PBL5: まとめ英作文①
まとめとなる英作文を書く: 英作文の下書き完成
- 第 14 回 まとめ英作文②
英作文を発表した後、修正して提出: 英作文の発表、修正、提出する
- 第 15 回 前期の振り返りと自己評価
前期の学習を振り返り、これまでの学習を自己評価する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業はプロジェクト形式で行われます。授業では、学習するみなさんが主体となって、クラスメートと協同しながら、さまざまなライティングに関わる活動に参加していただきます。そのため、授業中はペアやグループによる学生同士の話し合いの場が設けられます。3~4名のグループでの発表も課されます。このように、教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図るなど、主体的かつ能動的な英語の作文練習を行います。

課題に関するフィードバックは、必要と要望に応じて、授業内またはweb上で、教師あるいは他の学生から、個人または全体に対して行います。

基礎的な英語能力の定着を図るため、授業外の多読を推奨します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・オリエンテーションに出席し、授業の進め方について理解してから授業に臨むこと。

・事前にテキストを読んで、プロジェクトと次回の内容を把握すること。

・課題は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるように、必要な準備をして次の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行います。

・授業参加点 (予習、発表及び課題提出点を含む) (60%)、
・英作文・課題点 (まとめの英作文を含む) (40%)

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

〔留意事項 (Other Information)〕

・この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れます。

・上述に関連し、状況に応じて、事前連絡のうえ、授業予定を変更する場合があります。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

・この授業では、1) 授業内では学習するみなさんが主体となって、クラスメートと協同してさまざまなライティングに関わる活動に参加する、2) 辞書を持って授業に出席する、これら2つが強く求められます。さらに、授業ごとに細かく点数配分が決まっているので、出席を自己管理する必要があります。

・英作文は必ず自分のオリジナルなものを提出してください。提出作品に剽窃・盗用が認められた場合、それ以前に提出した課題点もなくなります。

・授業の成果を上げるため、授業外での英語力向上に関する活動を推奨します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『伝えるためのライティング』(東郷多津・田中美和子) 2018年 kindle版<電子テキスト>

(テキストの購入方法がわからない場合は、第1回目の授業の中で説明します。)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Evergreen / いいずな書店 / 2017年

英語意味順学習法/ 田地野彰/ ディスカヴァー・トゥエンティワン / 2011

Oxford Junior Illustrated Thesaurus

Graded Readers

〔参考URL(URL for Reference)〕

「意味順学習法」とは/ https://www.youtube.com/watch?v=YjBC4zn_Z3s

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

GBE1303G0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 前期
 水曜2限
 DP3：言語力
 15
 今村 梨沙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、日常で使用できる英語表現を習得し、それらを用いて自分の考えを表現することです。リスニングと音読を通して会話で使用されている英語表現を学習し、個々の単語の発音も確認し、適切に発音、音読できることを目指します。また、会話を通して得た英語表現を用いたライティングおよびスピーキング活動を通して、他者に自分の意見や考えを伝える力を養います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに習得している基礎的な英文法を再確認すること
2. 英語を使用する場面で使える様々な表現を習得すること
3. 英会話から必要な情報を読み取り、理解すること
4. 自分が伝えたいことを英語で表現できるようになること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Writing	テキストで扱われているようなごく基本的な日常表現や個人的情報であっても、英語でまとまった文を書くことができない。	テキストで扱われているようなごく基本的な個人情報や家族情報、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	テキストで扱われているような特定の話題について、複数の英文を組み合わせることでパラグラフにまとめることができる。	テキストで扱われている特定の話題はもちろん、さらに複雑な話題について、複数の英文を組み合わせることでパラグラフにまとめることができる。

共生・協働する力	ペア・グループ活動に参加できない。	ペア・グループ活動に教員に促されて参加できる。	ペア・グループ活動に主体的に参加できる。	ペア・グループ活動に主体的に参加し、積極的にクラスメイトと協力して課題をこなすことができる。
創造・発信力	授業で教えられたことしか書いて話すことができない。	授業で教えられたことをモデルとしてその一部を変えて書いて話すことができる。	授業で教えられたことをモデルとして、自分で考えた文章や内容を書いて話すことができる。	授業で教えられたことを参考にして、独自の文章や内容を書いて話すことができる。
言語力	基礎的な英文法や英単語および英語表現がわからず、調べることもできない。	基礎的な英文法や英単語および英語表現を思い出して使用することができる。	基礎的な英文法や英単語および英語表現を理解できていて、発展的な語彙を調べて使用することができる。	基礎的な英文法や英単語および英語表現だけでなく、発展的な語彙を用いて正しく使用することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 Unit 2 英語で自己紹介をしよう
 スピーキング・ライティング・リスニング活動
- 第 2 回 Unit 2 自己紹介で使える英語表現を学ぼう
 リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 3 回 Unit 1 道案内で使える英語表現を学ぼう
 リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
- 第 4 回 Unit 1 英語で道案内をしよう
 ライティング・スピーキング・リスニング活動
- 第 5 回 Unit 3 海外旅行や留学で使える英語表現を学ぼう
 リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
 ※第1回小テストあり
- 第 6 回 Unit 3 訪問客を迎える時に使える英語表現を学ぼう
 ライティング・スピーキング・リスニング活動
- 第 7 回 Unit 4 待ち合わせで使える英語表現を学ぼう
 リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
- 第 8 回 Unit 4 英語で電車の乗り換えの説明をしよう
 ライティング・スピーキング・リスニング活動
- 第 9 回 Unit 5 物事を描写する時に使える英語表現を学ぼう

リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動

※第2回小テストあり

第10回 Unit 5 英語で物事を描写してみよう
ライティング・スピーキング・リスニング活動

第11回 Unit 6 褒める時に使える英語表現を学ぼう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動

第12回 Unit 6 英語で褒め上手になろう
ライティング・スピーキング・リスニング活動

第13回 Unit 7 英語で学校生活について話そう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動

※第3回小テストあり

第14回 Unit 7 英語で自分の趣味について語ろう
ライティング・スピーキング・リスニング活動

※Presentationあり

第15回 Unit 8 英語で料理について話そう
まとめ
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読・ライティング活動

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各Unitを2回に分けて学習します。1回目は、教科書の”Dialogue”の部分の会話の映像を対象にリスニングや音読活動をして、ターゲットとなる文法や語彙を学習します。2回目は、会話で出てきた語彙や英語表現を使って、会話や発表の原稿を作成して、完成したものをグループやペアで発表を行います。

小テストでは、学習した英語表現や語彙の確認を筆記にて行います。採点は担当教員が行い、実施した翌週に返却します。

ライティング活動で書いたものをクラスメイト同士で発表し、相互評価します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で使用するテキストの動画と音声は、全てPCやスマートフォン、携帯端末などから視聴することができます。事前に予習をし、授業後は復習をすることを勧めます。

授業中のライティング活動に備えて、予め指定されたトピックについて書く内容を決めた状態で授業へ参加することを勧めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト (30%)

授業内で作成するライティング課題 (25%)

発表 (20%)

Presentation (15%)

授業参加度 (10%)

※授業参加度とは、ペアまたはグループ活動への参加度、宿題、スピーキング活動、発言などを指します。

〔留意事項 (Other Information)〕

・初回の授業から教科書を使用するので、可能な限りそれまでに購入して持参するようにしてください。

・辞書は紙媒体、電子辞書など形態は問わないので、毎回持参することを勧めます。

・この授業では、毎回ペアおよびグループワークを行いますので、クラスメイトと協同して主体的に参加することが求められます。

・アルバイト先や訪日外国人観光客への対応、自分が海外旅行へ行った時に役に立つような英語を学びたい方には受講を勧めます。

・言語を学ぶことはその国の文化を学ぶことでもあるので、英語圏の文化や情勢についても授業で紹介するので、それらに興味のある方にも受講を勧めます。

・各unitで英語の発音の仕組みや英語独特の音の現象などに触れるので、英語の発音を理解してリスニング力を高めたい、今よりさらに適切な発音で英語を話したい方にも受講を勧めます。

・参考文献は授業内でお伝えします。各学科に合ったものも紹介します。

・TOEIC受験対策の情報提供もします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ようこそ！ニッポンへ-映像で学ぶ大学基礎英語 留学生の日本文化体験-』/石井洋佑、加藤由崇、中川浩/朝日出版社/2018/978-4-255-15613-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語表現 I H 2021年度以降入学者

GBE1303H0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜 1限

DP3 : 言語力

15

今村 梨沙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、日常で使用できる英語表現を習得し、それらを用いて自分の考えを表現することです。リスニングと音読を通して会話で使用されている英語表現を学習し、個々の単語の発音も確認し、適切に発音、音読できることを目指します。また、会話を通して得た英語表現を用いた

ライティングおよびスピーキング活動を通して、他者に自分の意見や考えを伝える力を養います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに習得している基礎的な英文法を再確認すること
2. 英語を使用する場面で使える様々な表現を習得すること
3. 英会話から必要な情報を読み取り、理解すること
4. 自分が伝えたいことを英語で表現できるようになること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Writing	テキストで扱われているようなごく基本的な日常表現や個人的情報であっても、英語でまとまった文を書くことができない。	テキストで扱われているようなごく基本的な個人情報や家族情報、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	テキストで扱われているような特定の話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。	テキストで扱われている特定の話題はもちろん、さらに複雑な話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。
共生・協働する力	ペア・グループ活動に参加できない。	ペア・グループ活動に教員に促されて参加できる。	ペア・グループ活動に主体的に参加できる。	ペア・グループ活動に主体的に参加し、積極的にクラスメイトと協力して課題をこなすことができる。
創造・発信力	授業で教えられたことしか書いて話すことができない。	授業で教えられたことをモデルとしてその一部を変えて書いて話すことができる。	授業で教えられたことをモデルとして、自分で考えた文章や内容を書いて話すことができる。	授業で教えられたことを参考にし、独自の文章や内容を書いて話すことができる。

言語力	基礎的な英文法や英単語および英語表現がわからず、調べることもできない。	基礎的な英文法や英単語および英語表現を思い出して使用することができる。	基礎的な英文法や英単語および英語表現を理解できていて、発展的な語彙を調べて使用することができる。	基礎的な英文法や英単語および英語表現だけでなく、発展的な語彙を用いて正しく使用することができる。
-----	-------------------------------------	-------------------------------------	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
Unit 2 英語で自己紹介をしよう
スピーキング・ライティング・リスニング活動
- 第 2 回 Unit 2 自己紹介で使える英語表現を学ぼう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 3 回 Unit 1 道案内で使える英語表現を学ぼう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
- 第 4 回 Unit 1 英語で道案内をしよう
ライティング・スピーキング・リスニング活動
- 第 5 回 Unit 3 海外旅行や留学で使える英語表現を学ぼう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
※第1回小テストあり
- 第 6 回 Unit 3 訪問客を迎える時に使える英語表現を学ぼう
ライティング・スピーキング・リスニング活動
- 第 7 回 Unit 4 待ち合わせで使える英語表現を学ぼう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
- 第 8 回 Unit 4 英語で電車の乗り換えの説明をしよう
ライティング・スピーキング・リスニング活動
- 第 9 回 Unit 5 物事を描写する時に使える英語表現を学ぼう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
※第2回小テストあり
- 第 10 回 Unit 5 英語で物事を描写しよう
ライティング・スピーキング・リスニング活動
- 第 11 回 Unit 6 褒める時に使える英語表現を学ぼう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
- 第 12 回 Unit 6 英語で褒め上手になろう
ライティング・スピーキング・リスニング活動
- 第 13 回 Unit 7 英語で学校生活について話そう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読活動
※第3回小テストあり
- 第 14 回 Unit 7 英語で自分の趣味について語ろう
リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読
※Presentationあり
- 第 15 回

Unit 8 英語で料理について話そう

まとめ

リスニング・スピーキング・ディクテーション・音読・ライティング活動

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各Unit を2回に分けて学習します。1回目は、教科書の”Dialogue”の部分の会話の映像を対象にリスニングや音読活動をして、ターゲットとなる文法や語彙を学習します。2回目は、会話で出てきた語彙や英語表現を使って、会話や発表の原稿を作成して、完成したものをグループやペアで発表を行います。

小テストでは、学習した英語表現や語彙の確認を行います。採点は担当教員が行い、実施した翌週に返却します。

ライティング活動で書いたものをクラスメイト同士で発表し、相互評価します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で使用するテキストの動画と音声は、全てPCやスマートフォン、携帯端末などから視聴することができます。事前に予習をし、授業後は復習をすることを勧めます。

授業中のライティング活動に備えて、予め指定されたトピックについて書く内容を決めた状態で授業へ参加することを勧めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト (30%)

授業内で作成するライティング課題 (25%)

発表 (20%)

Presentation (15%)

授業参加度 (10%)

※授業参加度とは、ペアまたはグループ活動への参加度、宿題、スピーキング活動、発言などを指します。

〔留意事項 (Other Information)〕

・初回の授業から教科書を使用するので、可能な限りそれまでに購入して持参するようにしてください。

・辞書は紙媒体、電子辞書など形態は問わないので、毎回持参することを勧めます。

・この授業では、毎回ペアおよびグループワークを行いますので、クラスメイトと協同して主体的に参加することが求められます。

・アルバイト先や訪日外国人観光客への対応、自分が海外旅行へ行った時に役に立つような英語を学びたい方には受講を勧めます。

・言語を学ぶことはその国の文化を学ぶことでもあるので、英語圏の文化や情勢についても授業で紹介するので、それらに興味のある方にも受講を勧めます。

・各unitで英語の発音の仕組みや英語独特の音の現象などに触れるので、英語の発音を理解してリスニング力を高めたい、今よりさらに適切な発音で英語を話したい方にも受講

を勧めます。

・参考文献は授業内でお伝えします。各学科に合ったものも紹介します。

・TOEIC受験対策の情報提供もします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ようこそ！ニッポンへ-映像で学ぶ大学基礎英語 留学生の日本文化体験-』/石井洋佑、加藤由崇、中川浩/朝日出版社/2018/978-4-255-15613-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語表現 I J 2021年度以降入学者

GBE1303J0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜2限

DP3：言語力

15

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、ごく基本的な日常表現や、家庭や学校での表現、自分自身や家族の情報を伝える表現などを身につけます。それらの表現を用いて英文を書き、話すことで、英語を自分の言葉として「使う」ことに慣れ、英語で伝えたい内容を伝えることができるようになることを目指します。また、基礎となる知識や能力を身につけ、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり（書きとり）を行い、読解力やリスニングの力を養う。

2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。

3. テキストの英文や表現を用いて会話を作り（ペアワーク）、それらの表現を使えるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

語彙力	中学レベルの単語やイディオムすら身につけていない	中学・高校レベルの単語やイディオムが部分的に身につけている	中学・高校レベルの単語やイディオムが十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な単語やイディオムについても身につけている
文法力	中学レベルの文法や構文すら身につけていない	中学・高校レベルの文法や構文が部分的に身につけている	中学・高校レベルの文法や構文が十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な文法や構文についても身につけている
Writing の力 (作文力)	基本的な英文を書くことができない	基本的な英文を正確に書くことができる	基本的な英文を組み合わせ、より長い英文を書くことができる	レベル3に加えて、より高度な英文も正確に書くことができる
Speaking の力	基本的な英会話をすることができない	基本的な英会話をするができる	基本的な英会話を流暢にすることができる	レベル3に加えて、より高度な英会話を流暢にすることができる
共生・協働する力	英語を使用する際の場面や状況の重要性について理解することができない	英語を使用する際の場面や状況の重要性について理解している	特定の場面や状況における表現を適切に使用することができる	レベル3に加えて、自ら積極的に特定の場面や状況における表現について調べることができる
自分を育てる力	自学・自習に取り組むことができない	授業で提示された課題に取り組むことができる	授業で提示された課題の意図を理解し、積極的に自学・自習に取り組むことができる	レベル3に加えて、自ら目標を設定し、授業で提示されていない課題に対しても積極的に取り組むことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Part1 01 空港での入国審査 p.010
02 税関での手続き p.014
- 第 3 回 Part1 03 空港に迎えに来てもらう p.018
04 家族を紹介される p.022
- 第 4 回 Part1 05 自己紹介をする p.026
06 日本からのおみやげを渡す p.030
- 第 5 回 Part1 07 家の中を案内してもらう p.034
08 ホストファミリーの家のルール p.038

- 第 6 回 Part1 09 ホストファミリーとはじめての食事 p.042
10 食事の後片付けを手伝う p.046
- 第 7 回 Part1 11 洗濯機や食器の使い方を教わる p.050
12 浴室の使い方 p.054
- 第 8 回 Part1 13 ホストファミリーとテレビを見る p.058
14 電話をかける p.062
- 第 9 回 Part1 15 寝る前のあいさつ p.066
16 朝のあいさつ p.070
- 第 10 回 Part1 17 学校への行き方を教える p.074
18 昼食について p.078
- 第 11 回 Part2 19 教室の場所をたずねる p.086
20 近くの席の生徒にあいさつする p.090
- 第 12 回 Part2 21 授業が始まる時 p.094
22 授業中に使われる表現 p.098
- 第 13 回 Part2 23 先生に質問したいとき p.102
24 グループディスカッションをする p.106
- 第 14 回 Part2 25 学校でランチタイム p.110
26 グループで宿題をする p.114
- 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、テキストの音声の書き取りと、テキスト内の表現を用いた英作文を中心とする授業中のトレーニングによって、英語能力の向上を目指します。また、単語や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。小テストは次の回で返却し、結果をフィードバックします。授業中は、留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、様々な場面における英語表現に触れることで、場面ごとに適切な自己表現ができるようになることを目標として、各場面ごとにペアワークを取り入れた英作文と会話練習を行います。各ペアは、その場面において自分たちならどんな会話をするかを考え、その会話を英作文します。授業ごとに、数組のペアに出来上がった会話を発表してもらいます。授業後は、復習 (宿題) で理解度を確認し、次回の授業で適宜コメントするなどのフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、予習をしてくること。範囲は授業中に連絡します。

(テキスト自体は比較的平易ですが、単語は割と難しいものもあります。)

(また、テスト範囲内の単語や表現の数は、割と多めです。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)

(単語テストは成績評価の30%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

また、予習として、次回分の範囲の音声最低でも一回は聞き、声に出して読んで来てくること。

復習として、各回で扱った範囲のテキストの会話について、毎回書き取りと読解をしてくること。

基礎的な英語力を養うために、毎回manabaの小テスト機能を用いて基本的な文法事項や語句、英作文などについての問題を出すので、指定された期日までに提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(30%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(40%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

比較的平易なテキストを用いますので、基本的な単語や文法項目、英作文に不安がある人の受講を勧めます。逆に、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力がある人にとっては簡単すぎるかもしれません。

音声付きのテキストを用いますので、ライティングだけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。留学・ホームステイにおける会話のテキストを用いますので、留学やホームステイに行ってみたい人や、留学やホームステイにおける英語の日常会話に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ホームステイの英会話リアル表現BOOK』/イムラン・スィディキ/ナツメ社/2016/9784816360121/学内販売予定
 進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現ⅠK 2021年度以降入学者

GBE1303K0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、ごく基本的な日常表現や、家庭や学校での表現、自分自身や家族の情報を伝える表現などを身につけます。それらの表現を用いて英文を書き、話すことで、英語を自分の言葉として「使う」ことに慣れ、英語で伝えたい内容を伝えることができるようになること

を目指します。また、基礎となる知識や能力を身につけ、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり(書きとり)を行い、読解力やリスニングの力を養う。

2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。

3. テキストの英文や表現を用いて会話を作り(ペアワーク)、それらの表現を使えるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
語彙力	中学レベルの単語やイディオムすら身につけていない	中学・高校レベルの単語やイディオムが部分的に身につけている	中学・高校レベルの単語やイディオムが十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な単語やイディオムについても身につけている
文法力	中学レベルの文法や構文すら身につけていない	中学・高校レベルの文法や構文が部分的に身につけている	中学・高校レベルの文法や構文が十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な文法や構文についても身につけている
Writingの力(作文力)	基本的な英文を書くことができない	基本的な英文を正確に書くことができる	基本的な英文を組み合わせて、より長い英文を書くことができる	レベル3に加えて、より高度な英文も正確に書くことができる
Speakingの力	基本的な英会話をすることができない	基本的な英会話をするができる	基本的な英会話を流暢にすることができる	レベル3に加えて、より高度な英会話を流暢にすることができる
共生・協働する力	英語を使用する際の場面や状況の重要性について理解することができない	英語を使用する際の場面や状況の重要性について理解している	特定の場面や状況における表現を適切に使用することができる	レベル3に加えて、自ら積極的に特定の場面や状況における表現について調べることができる
自分を育てる力	自学・自習に取り組むことができない	授業で提示された課題に取り組むことができる	授業で提示された課題の意図を理解し、積極的に自学・自習に取り	レベル3に加えて、自ら目標を設定し、授業で提示されていない課題に対して

			組むことができる	も積極的に取り組むことができる
--	--	--	----------	-----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Part1 01 空港での入国審査 p.010
02 税関での手続き p.014
- 第 3 回 Part1 03 空港に迎えに来てもらう p.018
04 家族を紹介される p.022
- 第 4 回 Part1 05 自己紹介をする p.026
06 日本からのおみやげを渡す p.030
- 第 5 回 Part1 07 家の中を案内してもらう p.034
08 ホストファミリーの家のルール p.038
- 第 6 回 Part1 09 ホストファミリーとはじめての食事 p.042
10 食事の後片付けを手伝う p.046
- 第 7 回 Part1 11 洗濯機や食器の使い方を教わる p.050
12 浴室の使い方 p.054
- 第 8 回 Part1 13 ホストファミリーとテレビを見る p.058
14 電話をかける p.062
- 第 9 回 Part1 15 寝る前のあいさつ p.066
16 朝のあいさつ p.070
- 第 10 回 Part1 17 学校への行き方を教える p.074
18 昼食について p.078
- 第 11 回 Part2 19 教室の場所をたずねる p.086
20 近くの席の生徒にあいさつする p.090
- 第 12 回 Part2 21 授業が始まる時 p.094
22 授業中に使われる表現 p.098
- 第 13 回 Part2 23 先生に質問したいとき p.102
24 グループディスカッションをする p.106
- 第 14 回 Part2 25 学校でランチタイム p.110
26 グループで宿題をする p.114
- 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、テキストの音声の書き取りと、テキスト内の表現を用いた英作文を中心とする授業中のトレーニングによって、英語能力の向上を目指します。また、単語や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。小テストは次の回で返却し、結果をフィードバックします。授業中は、留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、様々な場面における英語表現に触れることで、場面ごとに適切な自己表現ができるようになることを目標として、各場面ごとにペアワークを取り入れた英作文と会話練習を行います。各ペアは、その場面において自分たちならどんな会話をするかを考え、その会話を英作文します。授業ごとに、数組のペアに出来上がった会話を発表してもらいます。授業後は、復習 (宿題) で理解度を確認し、次回の授業で適宜コメントするなどのフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、予習をしていただくこと。範囲は授業中に連絡します。

(テキスト自体は比較的平易ですが、単語は割と難しいものもあります。)

(また、テスト範囲内の単語や表現の数は、割と多めです。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)

(単語テストは成績評価の30%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

また、予習として、次回分の範囲の音声最低でも一回は聞き、声に出して読んで来ていただくこと。

復習として、各回で扱った範囲のテキストの会話について、毎回書き取りと読解をしていただくこと。

基礎的な英語力を養うために、毎回manabaの小テスト機能を用いて基本的な文法事項や語句、英作文などについての問題を出すので、指定された期日までに提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(30%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(40%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

比較的平易なテキストを用いますので、基本的な単語や文法項目、英作文に不安がある人の受講を勧めます。逆に、

すでにある程度基礎的な英語の知識や能力がある人にとっては簡単すぎるかもしれません。

音声付きのテキストを用いますので、ライティングだけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。

留学・ホームステイにおける会話のテキストを用いますので、留学やホームステイに行ってみたい人や、留学やホームステイにおける英語の日常会話に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ホームステイの英会話リアル表現BOOK』/イムラン・スィディキ/ナツメ社/2016/9784816360121/学内販売予定

進捗や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I L 2021年度以降入学者

GBE1303LOJ
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
水曜2限
DP3: 言語力
15
田中 美和子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、英文法の知識と英単語の習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、訳せるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	英語の基礎的な文法・語彙に関する知識が不十分である。	英語の基礎的な文法・語彙に関する知識が習得できている。	英語の体系的な文法・語法に関する知識を基に、短い文の読解や作文ができる。	英語の体系的な文法・語法に関する深い知識を基に、長文の読解や作文ができる。
言語力	英語発音記号、英文のイントネーションに関する知識の習得が不十分である。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、簡単な会話ができる。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、ある程度の会話ができる。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、英語で自分の意見を述べることができる。
創造・発信力	興味を持っていること、表現したいことが見つからない。	興味を持っていること、表現したいことを、見つけることができる。	興味を持っていること、表現したいことを、事前に準備すれば発信することができる。	興味を持っていること、表現したいことを、その場で発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 U1 Friends and Family: 語彙と文法

- U1-A: Meet and Introduce People : 挨拶の仕方、語彙学習 Be動詞、所有格
オリエンテーション
- 第 2 回 U1 発音と表現
Unit1-B, C Describe People: 発音記号の導入、形容詞を学ぶ、文型SVC, 小テスト
- 第 3 回 U1 リーディング
Unit1-D Present Your Family 英文読解、英語の文構造
- 第 4 回 U1 ライティングとリスニング
Unit1-E Give Personal Information ライティング、ビデオを用いたリスニング、ライティング課題
- 第 5 回 U2 Jobs around the World: 語彙と文法
Unit2-A Identify Jobs: 語彙学習、縮約、不定冠詞の使い方
- 第 6 回 U2 発音と表現
Unit2-B,C Talk about Cities and Countries: 発音記号、数の表現、気候の表現
小テスト
- 第 7 回 U2 リーディング
Unit2-D Compare Jobs: 英文読解、英語の文構造
- 第 8 回 U2 ライティングとリスニング
Unit2-E Interview People: ライティング、ビデオを用いたリスニング、ライティング課題
- 第 9 回 U3 Houses and Apartments: 語彙と文法
Unit3-A Talk about Rooms:
語彙学習, there構文、数えられる名詞
- 第 10 回 U3 発音と表現
Unit3-B,C Say Where Objects Are: 発音記号、音節という概念、前置詞の用法
小テスト
- 第 11 回 U3 リーディング
Unit3-D Home Sweet Home?: 英文読解、英語の文構造
- 第 12 回 U3 ライティングとリスニング
Unit3-E Describe Your Home: ライティング、ビデオを用いたリスニング、ライティング課題
- 第 13 回 英語を日本語にしてみよう①
ライティング
- 第 14 回 英語を日本語にしてみよう②
プレゼンテーション
- 第 15 回 前期まとめ
前期まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを4回に分けて学習します。1回目は、そのユニットの語彙学習に始まり、主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、単語テストから始めて、発音記号の学習、そして文法事項を

含む日常会話を聞き、対話文を実際に話す練習も行います。3回目はユニットで焦点をあてた文法項目を含む英文を、文構造に基づいて分析してリーディングします。さらに4回目で、学習した文法事項を復習してライティング、またビデオを見ながら、リスニングを行います。必ず辞書（電子辞書、紙の辞書）を持参してください。

課題（小テストなど）は、実施した後、基本的に、すぐ答え合わせをします。みんながわからない点があれば、次の授業でまとめて説明をして、返却します。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業には積極的に参加しましょう。なお、小テスト、およびライティング課題に関して予告をします。十分準備をして臨みましょう。そして、テキストのトピックに関して自由に調べてみましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度及び授業態度（予習・発表）(30%)、ライティング課題(20%)、発表課題（10%）、小テストおよび諸課題(40%)の総合評価を行います。

〔留意事項（Other Information）〕

遅刻2回で欠席1回に換算します。なお、授業には英和辞書・和英辞書を持参すること。持ってきていない場合は減点になります。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『World English Intro (third edition), Combo Split A』/John Hughes, Martin Milner /Cengage Learning/2019//学内販売予定

ISBN: 978-0-357-13027-8

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I M 2021年度以降入学者

GBE1303MOJ
大学
共通教育科目
1年次 前期
1単位 水曜1限
DP3：言語力
15
田中 美和子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

このクラスでは、英文法の知識と英単語の習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、訳せるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	英語の基礎的な文法・語彙に関する知識が不十分である。	英語の基礎的な文法・語彙に関する知識が習得できている。	英語の体系的な文法・語法に関する知識を基に、短い文の読解や作文ができる。	英語の体系的な文法・語法に関する深い知識を基に、長文の読解や作文ができる。
言語力	英語発音記号、英文のイントネーションに関する知識の習得が不十分である。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、簡単な会話ができる。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、ある程度の会話ができる。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、英語で自分の意見を述べるができる。
創造・発信力	興味を持っていること、表現したいことが見つからない。	興味を持っていること、表現したいことを、見つけることができる。	興味を持っていること、表現したいことを、事前に準備すれば発信することができる。	興味を持っていること、表現したいことを、その場で発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 U1 Friends and Family: 語彙と文法
U1-A: Meet and Introduce People : 挨拶の仕方、語彙学習 Be動詞、所有格
オリエンテーション
- 第 2 回 U1 発音と表現
Unit1-B, C Describe People: 発音記号の導入、形容詞を学ぶ、文型SVC, 小テスト
- 第 3 回 U1 リーディング
Unit1-D Present Your Family 英文読解、英語の文構造
- 第 4 回 U1 ライティングとリスニング
Unit1-E Give Personal Information ライティング、ビデオを用いたリスニング、ライティング課題
- 第 5 回 U2 Jobs around the World: 語彙と文法
Unit2-A Identify Jobs: 語彙学習、縮約、不定冠詞の使い方
- 第 6 回 U2 発音と表現

- Unit2-B,C Talk about Cities and Countries: 発音記号、数の表現、気候の表現
小テスト
- 第 7 回 U2 リーディング
- 第 8 回 Unit2-D Compare Jobs: 英文読解、英語の文構造
U2 ライティングとリスニング
- Unit2-E Interview People: ライティング、ビデオを用いたリスニング、
ライティング課題
- 第 9 回 U3 Houses and Apartments: 語彙と文法
Unit3-A Talk about Rooms:
語彙学習, there構文、数えられる名詞
- 第 10 回 U3 発音と表現
Unit3-B,C Say Where Objects Are: 発音記号、音節
という概念、前置詞の用法
小テスト
- 第 11 回 U3 リーディング
Unit3-D Home Sweet Home?: 英文読解、英語の
文構造
- 第 12 回 U3 ライティングとリスニング
Unit3-E Describe Your Home: ライティング、
ビデオを用いたリスニング、
ライティング課題
- 第 13 回 英語を日本語にしてみよう①
ライティング
- 第 14 回 英語を日本語にしてみよう②
プレゼンテーション
- 第 15 回 前期まとめ
前期まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを4回に分けて学習します。1回目は、そのユニットの語彙学習に始まり、主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、単語テストから始めて、発音記号の学習、そして文法事項を含む日常会話を聞き、対話文を実際に話す練習も行います。3回目はユニットで焦点をあてた文法項目を含む英文を、文構造に基づいて分析してリーディングします。さらに4回目で、学習した文法事項を復習してライティング、またビデオを見ながら、リスニングを行います。必ず辞書(電子辞書、紙の辞書)を持参してください。

課題(小テストなど)は、実施した後、基本的に、すぐ答え合わせをします。みんながわからない点があれば、次の授業でまとめて説明をして、返却します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業には積極的に参加しましょう。なお、小テスト、およびライティング課題に関して予告をします。十分準備をして臨みましょう。そして、テキストのトピックに関して自由に調べてみましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度及び授業態度(予習・発表)(30%)、ライティング課題(20%)、発表課題(10%)、小テストおよび諸課題(40%)の総合評価を行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

遅刻2回で欠席1回に換算します。なお、授業には英和辞書・和英辞書を持参すること。持ってきていない場合は減点になります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『World English Intro (third edition), Combo Split A』/John Hughes, Martin Milner /Cengage Learning/2019//学内販売予定

ISBN: 978-0-357-13027-8

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I N 2021年度以降入学者

GBE1303N0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
水曜2限
DP3: 言語力
15
岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、ロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて、英文法の知識と語彙やフレーズの習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけること、英語で自分のことを表現できるようになることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、文章を書けるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること
5. 自分の日課としてのEnglish Activityを設定し、それを継続して行うこと(個人プロジェクト)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語で簡単な自己紹介	英語で簡単な自己紹介ができる。	英語で「事実」や「出来事」を表	英語で自分の意見を表

	ができない。		現することができる。	現することができる。
知識・理解力	テキストに出てくる単語が理解できない。調べることもできない。	テキストに出てくる単語が理解できる。わからない単語の意味を調べることができる。	テキストに出てくる単語や熟語が理解でき、テキストの内容にあった日本語の意味がとれる。	学習した英単語や熟語を使って、さらには自ら辞書を引いて新しい語彙を使用し英文を作ることができる。
言語力	基本的な英単語や英文法がわからない。	基本的な英単語や英文法が理解できており、英語で文を書くことができる。	自分のことや、身近な話題について、英語で文章を書くことができる。	様々な話題について英語で文章を書くことができ、さらに自分の意見を英語で述べるができる。
思考・解決力	テキストや教員の指示に従って、英語で文を書くことができない。	テキストや教員の指示に従って、英語で文を書くことができる。	英語で文を書く際に、順序だてて文章を書くことができる。	英語で文を書く際に、論理的に文章を書くことができる。
共生・協働する力	ペア・グループワークができない。	ペア・グループワークに参加することができる。	ペア・グループワークに積極的に参加することができる。	ペア・グループワークに主体的に参加し、仲間と意見を交換しあい、それを取りまとめることができる。
創造・発信力	テキストで学習した内容と同じ表現しかできない。	テキストで学習したことを参考に、その一部を変えて表現することができる。	テキストで学習したことを参考に、自分の意見を表現することができる。	具体的な情報などを用いて、自らの意見を表現することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit1 Welcome to L.A.
オリエンテーション、Unit1リスニング、スピーキング、文法学習 (be動詞)
- 第 2 回 Unit1 Welcome to L.A.
Pre-test、英文読解、英作文
- 第 3 回 Unit 2 I Love Fruits!
文法学習 (可算名詞／不可算名詞)、リスニング、スピーキング
- 第 4 回 Unit 2 I Love Fruits!

- 英文読解、英作文
- 第 5 回 Unit 3 Campus Life
文法学習 (一般動詞)、リスニング、スピーキング
- 第 6 回 Unit 3 Campus Life
英文読解、英作文
- 第 7 回 Unit 4 Lunchtime
文法学習 (代名詞)、リスニング、スピーキング
- 第 8 回 Unit 4 Lunchtime
英文読解、英作文
- 第 9 回 Unit 5 First Date
文法学習 (一般動詞過去時制)、リスニング、スピーキング
- 第 10 回 Unit 5 First Date
英文読解、英作文
- 第 11 回 Unit 6 Where's Linda?
文法学習 (進行形)、リスニング、スピーキング
- 第 12 回 Unit 6 Where's Linda?
英文読解、英作文
- 第 13 回 Unit 7 Andy's News
文法学習 (未来形will / be going to)、リスニング、スピーキング
- 第 14 回 Unit 7 Andy's News
英文読解、英作文
- 第 15 回 まとめ - Presentation
個人スピーチ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ビデオシーンを見ながら、リスニングを行います。次に、その対話文を使って、語彙やフレーズも学びながら、グループで会話練習 (スピーキング学習) を行います。主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。辞書 (紙の辞書、電子辞書など) を持参してください。

各ユニットごとに、学習した文法に関する小テストを行います。

テストや英作文といった課題に対しては、毎回実施後にクラス全体への解説、又は個別にコメントを記載し返却します。又、授業の最終回では英語によるスピーチ発表を行います。(TOPICは前期中頃の授業内で提示)

さらに、このクラスでは、個人プロジェクトとして、授業以外での一人ひとりの英語活動を推奨しています。詳細は初回授業で説明します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの単語、熟語は各自事前に調べておくこと。

授業内でできなかった課題については必ず次回までに完成させ、提出すること。

テキストの動画、音声はすべてPCやスマホ、携帯端末から

ダウンロードできます。事前に予習し、授業後は復習することを薦めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度及び、授業態度 (予習・発表・ペアワーク含む) (10%)、小テスト (20%)、英作課題 (30%)、プレゼンテーション (20%)、個人プロジェクト (10%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』/Robert Hickling, 白倉美里/金星堂/2018年/ISBN978-4-7647-4049-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I P 2021年度以降入学者

GBE1303POJ

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、ロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて、英文法の知識と語彙やフレーズの習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけること、英語で自分のことを表現できるようになることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、文章を書けるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること
5. 自分の日課としてのEnglish Activityを設定し、それを継続して行うこと (個人プロジェクト)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語で簡単な自己紹介ができない。	英語で簡単な自己紹介ができる。	英語で「事実」や「出来事」を表現することができる。	英語で自分の意見を表現することができる。

知識・理解力	テキストに出てくる単語が理解できない。調べることもできない。	テキストに出てくる単語が理解できる。わからない単語の意味を調べることができる。	テキストに出てくる単語や熟語が理解でき、テキストの内容にあった日本語の意味がとれる。	学習した英単語や熟語を使って、さらには自ら辞書を引いて新しい語彙を使用し英文を作ることができる。
言語力	基本的な英単語や英文法がわからない。	基本的な英単語や英文法が理解できており、英語で文を書くことができる。	自分のことや、身近な話題について、英語で文章を書くことができる。	様々な話題について英語で文章を書くことができ、さらに自分の意見を英語で述べることができる。
思考・解決力	テキストや教員の指示に従って、英語で文を書くことができない。	テキストや教員の指示に従って、英語で文を書くことができる。	英語で文を書く際に、順序だてて文章を書くことができる。	英語で文を書く際に、論理的に文章を書くことができる。
共生・協働する力	ペア・グループワークができない。	ペア・グループワークに参加することができる。	ペア・グループワークに積極的に参加することができる。	ペア・グループワークに主体的に参加し、仲間と意見を交換しあい、それを取りまとめることができる。
創造・発信力	テキストで学習した内容と同じ表現しかできない。	テキストで学習したことを参考に、その一部を変えて表現することができる。	テキストで学習したことを参考に、自分の意見を表現することができる。	具体的な情報などを用いて、自らの意見を表現することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit1 Welcome to L.A.
オリエンテーション、Unit1リスニング、スピーキング、文法学習 (be動詞)
- 第 2 回 Unit1 Welcome to L.A.
Pre-test、英文読解、英作文
- 第 3 回 Unit 2 I Love Fruits!
文法学習 (可算名詞/不可算名詞)、リスニング、スピーキング
- 第 4 回 Unit 2 I Love Fruits!
英文読解、英作文
- 第 5 回 Unit 3 Campus Life

- 文法学習（一般動詞）、リスニング、スピーキング
- 第 6 回 Unit 3 Campus Life
英文読解、英作文
- 第 7 回 Unit 4 Lunchtime
文法学習（代名詞）、リスニング、スピーキング
- 第 8 回 Unit 4 Lunchtime
英文読解、英作文
- 第 9 回 Unit 5 First Date
文法学習（一般動詞過去時制）、リスニング、スピーキング
- 第 10 回 Unit 5 First Date
英文読解、英作文
- 第 11 回 Unit 6 Where's Linda?
文法学習（進行形）、リスニング、スピーキング
- 第 12 回 Unit 6 Where's Linda?
英文読解、英作文
- 第 13 回 Unit 7 Andy's News
文法学習（未来形will / be going to）、リスニング、スピーキング
- 第 14 回 Unit 7 Andy's News
英文読解、英作文
- 第 15 回 まとめ - Presentation
個人スピーチ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業では、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ビデオシーンを見ながら、リスニングを行います。次に、その対話文を使って、語彙やフレーズも学びながら、グループで会話練習（スピーキング学習）を行います。主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。辞書（紙の辞書、電子辞書など）を持参してください。

各ユニットごとに、学習した文法に関する小テストを行います。

テストや英作文といった課題に対しては、毎回実施後にクラス全体への解説、又は個別にコメントを記載し返却します。又、授業の最終回では英語によるスピーチ発表を行います。（TOPICは前期中頃の授業内で提示）

さらに、このクラスでは、個人プロジェクトとして、授業以外での一人ひとりの英語活動を推奨しています。詳細は初回授業で説明します。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストの単語、熟語は各自事前に調べておくこと。

授業内でできなかった課題については必ず次回までに完成させ、提出すること。

テキストの動画、音声はすべてPCやスマホ、携帯端末からダウンロードできます。事前に予習し、授業後は復習することを薦めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度及び、授業態度（予習・発表・ペアワーク含む）（10%）、小テスト（20%）、英作課題（30%）、プレゼンテーション（20%）、個人プロジェクト（10%）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』／Robert Hickling, 白倉美里／金星堂／2018年／ISBN978-4-7647-4049-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 I Q 2021年度以降入学者

GBE1303Q0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜2限

DP3：言語力

15

平野 あかり

〔科目の教育目標（Course Description）〕

多文化共生や多様性をテーマとする映画についての英文を読み、映画の一部や関連動画を視聴し、多様性に対する理解を深めると同時に、トピックに関する意見を表現できるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

英語の既習の知識を活用し、英文を読み、書く力を養います。また、英文から得た知識や表現を活用し、英文で表現ができることを目指します。

クラスメイトの意見を読み、多様な視点を認め、語彙・表現を学び合う機会とします。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心をもち努力する
知識・理解力	知識の不足を補う努力がみられない	消極的ながら知識を補う姿勢がみられる	学習に必要な知識を積極的に補う姿勢がみられる	常に積極的に知識を深める姿勢がみられる

言語力①	基本的な語彙運用ができない	基本的な語彙運用ができる	ある程度多様な語彙運用ができる	多様な語彙を適切に使用することができる
言語力②	基本的な文構造を使用することができない	基本的な文構造を使用することができる	いくつかの文構造を使用することができる	多様な文構造を使用することができる
批判的思考力	論拠や例を用いて議論することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて議論することができる	概ね適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる	適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義の目的と目標
オリエンテーションを行ないます。
- 第 2 回 故郷：アイデンティティと帰属意識
Choosing a Home
Immigrants
『ブルックリン』
- 第 3 回 外国語と自信
Foreign Language and Self-Confidence
『マダム・イン・ニューヨーク』
- 第 4 回 異文化コミュニケーション・通訳
Frame of Mind
Cross-Cultural Communication
『ロスト・イン・トランスレーション』
- 第 5 回 ジェンダー
Assigning a Label
LGBT
『ムーンライト』
- 第 6 回 性差別と人種差別
Prejudice and Egocentrism
Gender and Racial Segregation
『ドリーム』
- 第 7 回 奴隷制度
Human vs. Property
Slavery Systems
『それでも夜は明ける』
- 第 8 回 まとめ 1
中間エッセイを作成、提出します。
- 第 9 回 社会福祉
An Individual or A Number
State Welfare
『わたしは、ダニエル・ブレイク』
- 第 10 回 身体障害
Pushing Past Boundaries
Physical Disability
『博士と彼女のセオリー』
- 第 11 回 感染症

Does It Divide or Unite?

Disease

『ダラス・バイヤーズクラブ』

第 12 回 精神疾患

Finding a Cure

PTSD

『アメリカン・スナイパー』

第 13 回 紛争・民族対立

Is Your World Peaceful?

Refugees

『ホテル・ルワンダ』

第 14 回 まとめ 2

後半のまとめを行ないます。

第 15 回 総括

期末エッセイを作成します。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施しません。レポート課題 (エッセイ) により採点します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業では、様々な観点から多様性についてのトピックを取り上げ、テキストと補助教材 (映像・音声などを使用予定) を使用して学習します。また、各テーマに関する考察を記述し、得た知識を表現につなげる機会とします。本授業は、オンデマンド型のオンライン授業です。音声付きの授業スライドや動画を視聴し、manaba上で課題提出をします。原則、指定日時までに各自授業を視聴することとします。授業内で紹介する自動英文添削 (文法・スペルチェック) アプリやオンライン辞書等の使用を推奨します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

トピックに関連する議題や質問について、適宜記事等を参照して知識を深め、意見を記述することができるようにしましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題 (中間エッセイ・期末エッセイ) 60%

各回のミニタスク 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

ご質問やサポートが必要な場合は担当者に気軽にご相談ください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Our Society, Our Diversity, Our Movies 映画に観る多文化社会のかたち/Joseph Tabolt・森永弘司 著/金星堂/2020年

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

アルク英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イディオム検索に便利なオンライン辞書（無料）

Grammarly

<https://www.grammarly.com/>

自動英文添削（スペリング、文法ミスの校正）

DeepL

<https://www.deepl.com/ja/translator>

翻訳ツール（訳は必ず自分で確認・修正しましょう）

Thesaurus

<https://www.thesaurus.com/>

類語辞典（多様な表現を検索）

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書（無料）

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現ⅠR 2021年度以降入学者

GBE1303R0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3：言語力

15

平野 あかり

〔科目の教育目標（Course Description）〕

多文化共生や多様性をテーマとする映画についての英文を読み、映画の一部や関連動画を視聴し、多様性に対する理解を深めると同時に、トピックに関する意見を表現できるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

英語の既習の知識を活用し、英文を読み、書く力を養います。また、英文から得た知識や表現を活用し、英文で表現ができることを目指します。

クラスメイトの意見を読み、多様な視点を認め、語彙・表現を学び合う機会とします。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとす姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する
知識・理解力	知識の不足を補う努力がみられない	消極的ながら知識を補う姿勢がみられる	学習に必要な知識を積極的に補う姿勢がみられる	常に積極的に知識を深める姿勢がみられる

言語力①	基本的な語彙運用ができない	基本的な語彙運用ができる	ある程度多様な語彙運用ができる	多様な語彙を適切に使用することができる
言語力②	基本的な文構造を使用することができない	基本的な文構造を使用することができる	いくつかの文構造を使用することができる	多様な文構造を使用することができる
批判的思考力	論拠や例を用いて議論することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて議論することができる	概ね適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる	適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義の目的と目標
オリエンテーションを行いません。
- 第 2 回 故郷：アイデンティティと帰属意識
Choosing a Home
Immigrants
『ブルックリン』
- 第 3 回 外国語と自信
Foreign Language and Self-Confidence
『マダム・イン・ニューヨーク』
- 第 4 回 異文化コミュニケーション・通訳
Frame of Mind
Cross-Cultural Communication
『ロスト・イン・トランスレーション』
- 第 5 回 ジェンダー
Assigning a Label
LGBT
『ムーンライト』
- 第 6 回 性差別と人種差別
Prejudice and Egocentrism
Gender and Racial Segregation
『ドリーム』
- 第 7 回 奴隷制度
Human vs. Property
Slavery Systems
『それでも夜は明ける』
- 第 8 回 まとめⅠ
中間エッセイを作成、提出します。
- 第 9 回 社会福祉
An Individual or A Number
State Welfare
『わたしは、ダニエル・ブレイク』
- 第 10 回 身体障害
Pushing Past Boundaries
Physical Disability
『博士と彼女のセオリー』
- 第 11 回 感染症

Does It Divide or Unite?
Disease
『ダラス・バイヤーズクラブ』

第12回 精神疾患
Finding a Cure
PTSD
『アメリカン・スナイパー』

第13回 紛争・民族対立
Is Your World Peaceful?
Refugees
『ホテル・ルワンダ』

第14回 まとめ2
後半のまとめを行いません。

第15回 総括
期末エッセイを作成します。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
定期試験を実施しません。レポート課題 (エッセイ) により採点します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
毎回の授業では、様々な観点から多様性についてのトピックを取り上げ、テキストと補助教材 (映像・音声などを使用予定) を使用して学習します。また、各テーマに関する考察を記述し、得た知識を表現につなげる機会とします。本授業は、オンデマンド型のオンライン授業です。音声付きの授業スライドや動画を視聴し、manaba上で課題提出をします。原則、指定日時までに各自授業を視聴することとします。授業内で紹介する自動英文添削 (文法・スペルチェック) アプリやオンライン辞書等の使用を推奨します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
トピックに関連する議題や質問について、適宜記事等を参照して知識を深め、意見を記述することができるようになります。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
レポート課題 (中間エッセイ・期末エッセイ) 60%
各回のミニタスク 40%

〔留意事項 (Other Information)〕
ご質問やサポートが必要な場合は担当者に気軽にご相談ください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
Our Society, Our Diversity, Our Movies 映画に観る多文化社会のかたち/Joseph Tabolt・森永弘司 著/金星堂/2020年

担当者が作成した資料
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
アルク英辞郎
<http://www.alc.co.jp/>

イディオム検索に便利なオンライン辞書 (無料)

Grammarly
<https://www.grammarly.com/>
自動英文添削 (スペリング、文法ミスの校正)

DeepL
<https://www.deepl.com/ja/translator>
翻訳ツール (訳は必ず自分で確認・修正しましょう)

Thesaurus
<https://www.thesaurus.com/>
類語辞典 (多様な表現を検索)

英文法大全
<http://www.eibunpou.net/>
オンライン文法書 (無料)
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 II A 2021年度以降入学者

GBE1352A0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜1限
DP3: 言語力
15

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The class is an intermediate English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students shall learn about discourse structure, and general day-to-day and academic writing design. While this course emphasizes speaking and writing skills, students shall continue to develop all four skills. Including, understand key ideas and principles of good English conversation competencies along with daily writing skills such as e-mails.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

Language skills	Level 1: Fully satisfies the requirements of the given task. Includes all relevant information needed to communicate in the target language. Eagerly initiates speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Easily asks questions and speaks spontaneously. The student is native or near-native in all aspects of English language ability.	Level 2: Mostly covers the requirements of the given task. Includes most of the relevant information needed to communicate. Is willing to initiate speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Asks questions and speaks evenly.	Level 3: Addresses some of the requirements. Includes some relevant information but is not clearly focused. Sometimes initiates speech, using attention-getting devices. Sometimes asks questions and speaks hesitantly.	Level 4: Attempts to address the topic but few relevant information. Digresses often from the topic presented. Is reluctant to initiate speech and struggles to ask questions. Speech is halting. Does not attempt the task, and or the answer is completely irrelevant.
------------------------	--	---	--	--

Creativity / communication ability	Level 1: Includes an inviting introduction and a satisfactory conclusion. Skillfully manages to paraphrase the ongoing situation. Logical arrangement of ideas. Manages all aspects of cohesion well. Makes few errors in the following areas: • verbs in utterances when necessary with appropriate subject-verb agreement • noun and adjective agreement • correct word order and article adjectives Errors do not hinder comprehension.	Level 2: Includes an introduction, body and conclusion. Uses paragraphing successfully within the situation. Uses a range of cohesive devices but may look mechanical. Makes several errors in the structure that do not affect overall comprehensibility.	Level 3: Attempts to include an introduction, body and conclusion. Main idea is not clearly supported with details. Less attention is given to the organization. Occasional use of transitions. Makes several errors that may interfere with comprehension.	Level 4: Begins abruptly. No paragraphing or inappropriate paragraphing. No attempt to maintain the logical arrangement of ideas. Or no clear message is communicated. Makes utterances that are so brief that there is little evidence of structure and comprehension is impeded.
---	--	--	---	--

[授業計画]

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’ , Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Things that Matter: Talk about Needs and Wants
- 第 3 回 Week 3: Discuss what makes people’s lives better
- 第 4 回 Week4: Conservation: Talk about Consequences
- 第 5 回 Week 5: Discuss a problem in nature
- 第 6 回 Week 6: Life Now and in the Past: Contrast different ways of life
- 第 7 回 Week 7: Compare today with the past
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: Travel: Talk about preparations for a trip

- 第 10 回 Week 10: Discuss Travel; English at the Airport
- 第 11 回 Week 11: Careers: Ask and answer job-related questions
- 第 12 回 Week 12: Talk about career planning
- 第 13 回 Week 13: Celebrations: Describe a festival
- 第 14 回 Week 14: Share opinions about holidays
- 第 15 回 Week 15: Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない. No exam during exam week.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!

ii) In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

iii) Students are expected to complete their homework on time!

iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

-15-30 hours in total

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students' grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being

on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

*****This course will be a blended course in the FALL of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

World English2 Third Edition; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2020; 978-0-357-13032-2 (Combo Split B)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>
 For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語理解 II B 2021年度以降入学者

GBE1352B0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 月曜 2限
 DP3 : 言語力
 15
 Thomas T. Nishikawa

[科目の教育目標 (Course Description)]

The class is an intermediate English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students shall learn about discourse structure, and general day-to-day and academic writing design. While this course emphasizes speaking and writing skills, students shall continue to develop all four skills. Including, understand key ideas and principles of good English conversation competencies along with daily writing skills such as e-mails.

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

	Level 1:	Level 2:	Level 3:	Level 4:
Language skills	Fully satisfies the requirements of the given task. Includes all relevant information needed to communicate in the target language. Eagerly initiates speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Easily asks questions and speaks spontaneously. The student is native or near-native in all aspects of English language ability.	Mostly covers the requirements of the given task. Includes most of the relevant information needed to communicate. Is willing to initiate speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Asks questions and speaks evenly.	Addresses some of the requirements. Includes some relevant information but is not clearly focused. Sometimes initiates speech, using attention-getting devices. Sometimes asks questions and speaks hesitantly.	Attempts to address the topic but few relevant information. Digresses often from the topic presented. Is reluctant to initiate speech and struggles to ask questions. Speech is halting. Does not attempt the task, and or the answer is completely irrelevant.
Creativity / communication ability	Level 1: Includes an inviting introduction and a satisfactory conclusion. Skillfully manages to paraphrase the ongoing situation. Logical arrangement of ideas. Manages all aspects of cohesion well. Makes few errors in the following areas: • verbs in	Level 2: Includes an introduction, body and conclusion. Uses paragraphing successfully within the situation. Uses a range of cohesive devices but may look mechanical. Makes several errors in the structure that do not affect	Level 3: Attempts to include an introduction, body and conclusion. Main idea is not clearly supported with details. Less attention is given to the organization. Occasional use of transitions. Makes several errors that may interfere	Level 4: Begins abruptly. No paragraphing or inappropriate paragraphing. No attempt to maintain the logical arrangement of ideas. Or no clear message is communicated. Makes utterances that are so brief that there is little

	utterances when necessary with appropriate subject-verb agreement • noun and adjective agreement • correct word order and article adjectives Errors do not hinder comprehension.	overall comprehension.	with comprehension.	evidence of structure and comprehension is impeded.
--	---	------------------------	---------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’, Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Things that Matter: Talk about Needs and Wants
- 第 3 回 Week 3: Discuss what makes people’s lives better
- 第 4 回 Week4: Conservation: Talk about Consequences
- 第 5 回 Week 5: Discuss a problem in nature
- 第 6 回 Week 6: Life Now and in the Past: Contrast different ways of life
- 第 7 回 Week 7: Compare today with the past
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: Travel: Talk about preparations for a trip
- 第 10 回 Week 10: Discuss the pros and cons of tourism
- 第 11 回 Week 11: Careers: Ask and answer job-related questions
- 第 12 回 Week 12: Talk about career planning
- 第 13 回 Week 13: Celebrations: Describe a festival
- 第 14 回 Week 14: Share opinions about holidays
- 第 15 回 Week 15: Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。No exam during exam week.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY 100%) IN ENGLISH!
- ii) In class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and

AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hours of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that his or her written work reaches the teacher on time.

Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

-15 minutes per day listen to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

-15-30 hours in total

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students’ grade in this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class)30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in pre-study and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit.

Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or “makeup” work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit “request for special consideration for students participating in extracurricular activities” issued by the University beforehand.

***The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students’ success and final grade in this course.

*****This course will be a blended course in the FALL of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 World English2 Third Edition; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2020; 978-0-357-13032-2 (Combo Split B)
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>
 Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>
 For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語理解Ⅱ E 2021年度以降入学者

GBE1352E0J
 大学
 共通教育科目
 1年次 後期
 1単位 月曜1限
 DP3: 言語力
 15
 櫃本 一美

[科目の教育目標 (Course Description)]

私たちは母語を習得する時には、最初は音声を通じて獲得します。小学校での国語の授業では、何度も声に出して本を読まされます。英語のリーディング力の向上の為に、音声とともに学ぶのが効果的です。授業では、リスニング

を絡めながら、また必要な文法も学びながらリーディングをします。英語の音声の特徴を意識して声に出して音読します。慣れてくれば、シャドウイングもします。そして読んだ内容の要点を、簡単にわかりやすい英語で口頭で述べます(Retelling)。素材となっている英文のパッセージは私たちの社会で起こっていることを扱っており、それらを時間をかけて英語で読み、話すことで、自らの考え方を再認識し、発展させます。自分の意見を簡単な英語で述べます。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 読解に必要な文法知識,または発信に必要な文法をを基礎から学ぶ。
2. 理解できる語彙、使える語彙を増やす。
3. 英語の音声の特徴を学び、その特徴を意識しての発話を目指す。
4. 英文の正確に読解し、その内容を簡単にわかりやすい英語で発話する。
5. パッセージで扱われている事柄を社会の一員として捉え、批判的思考で読み自らの意見を述べる。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
4 技能の英語文法力	英語の基本構文が理解できない。簡単な英文が読めない。	英語の基本構文が理解できる。その知識をリーディング、リスニングに使える。	英語の複雑な構文が理解できる。その知識をリーディング、リスニングに使える。英語の基本構文をスピーキング、ライティングに使える。	英語の複雑な構文がスピーキング、ライティングに使える。
英語音声力	英語の基本的音則が理解出来ず、リスニングの時無意味な音の塊にしか聞こえない。英文を読み上げても、外国の人には英語と認識してもらえず、通じない。	英語の基本的音則が理解できる。音則を意識して聞いたり発話しようとする。	英語の基本的音則に加え、イントネーション、抑揚を意識して聞いたり発話しようとする。	基本的音則に加え、イントネーション、抑揚を意識して聞いたり発話できる。外国の人にも、スムーズに理解してもらえらる。

思考力	与えられた社会性のあるトピックに無関心。	与えられた社会性のあるトピックの英文をとりあえず読解し、意味を確認する。	与えられた社会性のあるトピックを自分に関係のあることとして捉え、関連情報を集めたり、批判的思考で考えようとする。	どのようなトピックでも批判的思考で捉えた上で、自分の意見を述べられる。
------------	----------------------	--------------------------------------	--	-------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション) 基本的文型と修飾語そして読解
Unit 6 The Healing Power of Music
- 基本文型と修飾語を学び、読解をする
- 第 2 回 逆説から主張を導く
Unit 6 The Healing Power of Music
- ポーズを意識し、主張したいことを効果的に使える音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる
- 第 3 回 まとめ
Unit 6 で学んだことの復習をします
- 第 4 回 準動詞の意味の取り方
Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat
- 準動詞の意味の取り方に注意して読解をします
- 第 5 回 対比情報
Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat
- 対比情報を効果的に伝える音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる
- 第 6 回 まとめ
Unit 7 で学んだことの復習をします
- 第 7 回 複文の意味の取り方
Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems
- 複文の意味の取り方を学ぶ
- 第 8 回 疑問文のイントネーション
Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems
- 疑問文のイントネーションに気をつけて音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる
- 第 9 回 まとめと小テスト
Unit 6~8の復習と小テスト
- 第 10 回 並列関係を見極め意味を取る

Unit 9 Curring Favor in Britain and Japan

- 並列関係を見極め意味を取る
- 第 11 回 並列関係のイントネーション
Unit 9 Curring Favor in Britain and Japan
- 並列関係のイントネーションに気をつけて音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる
- 第 12 回 まとめ
Unit 9 で学んだことの復習をします。
- 第 13 回 句読点
Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World
- 句読点と文法の間を認識して意味を取る
- 第 14 回 数字の読み方
Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World
- 数字の読み方に気をつけて音読とシャドウイング
Retelling
感想を述べる
- 第 15 回 まとめと小テスト
Unit 9~10の復習と小テスト
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
各Unitの最初のクラスで語彙の小テストを行います。読解はグループで行い、グループ内で解決できない箇所はクラス全体、あるいは教員に質問します。音読、Retelling、感想はグループ内で評価、講評し、それは授業中課題としてグレードに反映されます。小テストでは読解、Retelling、が評価され、グレードに反映されます。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各Unitの最初に行われる単語テストは必ず準備してください。しなければ後の課題に取り組みなくなるかもしれません。予習としてパッセージを読み、意味の取れない箇所をマークしておいてください。スムーズに音読、シャドウイングができるようになるために、あらかじめパッセージの音声を何度も聞いておいてください。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20~30時間
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業評価は単語テスト20%、小テスト30%、授業中課題30%、授業への参加度20%で行います。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
上記シラバスの内容と進度は、授業の進み具合で変わる可能性もあります。また、コロナにより一部、または全面的に遠隔授業を余儀なくされた場合にも、変更の可能性もあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Pleasure in Reading Aloud and Retelling』/Anthony P. Newell/金星堂/2019/978-4-7647-4083-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

英語理解ⅡF 2021年度以降入学者

GBE1352F0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜2限
DP3: 言語力
15
櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちは母語を習得する時には、最初は音声を通じて獲得します。小学校での国語の授業では、何度も声に出して本を読まされます。英語のリーディング力の向上の為に、音声とともに学ぶのが効果的です。授業では、リスニングを絡めながら、また必要な文法も学びながらリーディングをします。英語の音声の特徴を意識して声に出して音読します。慣れてくれば、シャドウイングもします。そして読んだ内容の要点を、簡単にわかりやすい英語で口頭で述べます(Retelling)。素材となっている英文のパッセージは私たちの社会で起こっていることを扱っており、それらを時間をかけて英語で読み、話すことで、自らの考え方を再認識し、発展させます。自分の意見を簡単な英語で述べます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 読解に必要な文法知識,または発信に必要な文法をを基礎から学ぶ。
2. 理解できる語彙、使える語彙を増やす。
3. 英語の音声の特徴を学び、その特徴を意識しての発話を目指す。
4. 英文の正確に読解し、その内容を簡単にわかりやすい英語で発話する。
5. パッセージで扱われている事柄を社会の一員として捉え、批判的思考で読み自らの意見を述べる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

4 技能の英語文法力	英語の基本構文が理解できない。簡単な英文が読めない。	英語の基本構文が理解できる。その知識をリーディング、リスニングに使える。	英語の複雑な構文が理解できる。その知識をリーディング、リスニングに使える。英語の基本構文をスピーキング、ライティングに使える。	英語の複雑な構文がスピーキング、ライティングに使える。
英語音声力	英語の基本的音則が理解出来ず、リスニングの時無意味な音の塊にしか聞こえない。英文を読み上げても、外国の人には英語と認識してもらえず、通じない。	英語の基本的音則が理解できる。音則を意識して聞いたり発話しようとする。	英語の基本的音則に加え、イントネーション、抑揚を意識して聞いたり発話しようとする。	基本的音則に加え、イントネーション、抑揚を意識して聞いたり発話できる。外国の人にも、スムーズに理解してもらえらる。
思考力	与えられた社会性のあるトピックに無関心。	与えられた社会性のあるトピックの英文をとりあえず読解し、意味を確認する。	与えられた社会性のあるトピックを自分に関係のあることとして捉え、関連情報を集めたり、批判的思考で考えようとする。	どのようなトピックでも批判的思考で捉えた上で、自分の意見を述べられる。

〔授業計画〕

第 1 回 (オリエンテーション) 基本的文型と修飾語そして読解

Unit 6 The Healing Power of Music

基本文型と修飾語を学び、読解をする

第 2 回 逆説から主張を導く

Unit 6 The Healing Power of Music

ポーズを意識し、主張したいことを効果的に使える音読とシャドウイング

Retelling

感想を述べる

第 3 回 まとめ

Unit 6 で学んだことの復習をします

第 4 回 準動詞の意味の取り方

	Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat
第 5 回	準動詞の意味の取り方に注意して読解をします 対比情報 Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat
第 6 回	対比情報を効果的に伝える音読とシャドウイング Retelling 感想を述べる まとめ Unit 7 で学んだことの復習をします
第 7 回	複文の意味の取り方 Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems
第 8 回	複文の意味の取り方を学ぶ 疑問文のイントネーション Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems
第 9 回	疑問文のイントネーションに気をつけて音読とシャドウイング Retelling 感想を述べる まとめと小テスト Unit 6-8の復習と小テスト
第 10 回	並列関係を見極め意味を取る Unit 9 Curring Favor in Britain and Japan
第 11 回	並列関係を見極め意味を取る 並列関係のイントネーション Unit 9 Curring Favor in Britain and Japan
第 12 回	並列関係のイントネーションに気をつけて音読とシャドウイング Retelling 感想を述べる まとめ Unit 9 で学んだことの復習をします。
第 13 回	句読点 Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World
第 14 回	句読点と文法の関係を意識して意味を取る 数字の読み方 Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World
第 15 回	数字の読み方に気をつけて音読とシャドウイング Retelling 感想を述べる まとめと小テスト Unit 9-10の復習と小テスト
	〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕 実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
各Unitの最初のクラスで語彙の小テストを行います。読解はグループで行い、グループ内で解決できない箇所はクラス全体、あるいは教員に質問します。音読、Retelling、感想はグループ内で評価、講評し、それは授業中課題としてグレードに反映されます。小テストでは読解、Retellingが評価され、グレードに反映されます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各Unitの最初に行われる単語テストは必ず準備してください。しなければ後の課題に取り組みなくなるかもしれません。予習としてパッセージを読み、意味の取れない箇所をマークしておいてください。スムーズに音読、シャドウイングができるようになるために、あらかじめパッセージの音声を何度も聞いておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20~30時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業評価は単語テスト20%、小テスト30%、授業中課題30%、授業への参加度20%で行います。

〔留意事項 (Other Information)〕
上記シラバスの内容と進度は、授業の進み具合で変わる可能性もあります。また、コロナにより一部、または全面的に遠隔授業を余儀なくされた場合にも、変更の可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Pleasure in Reading Aloud and Retelling』/Anthony P. Newell/金星堂/2019/978-4-7647-4083-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
0

〔参考URL(URL for Reference)〕
0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

英語理解 II G 2021年度以降入学者

GBE1352G0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜1限
DP3: 言語力
15
黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
本科目の目的は、英文を効率よく読むことができるようになることです。音声付きの英文のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに

に、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり（書きとり）を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキスト本文の内容に関する質問を行い、理解度を確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
語彙力	中学レベルの単語やイディオムすら身につけていない	中学・高校レベルの単語やイディオムが部分的に身につけている	中学・高校レベルの単語やイディオムが十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な語彙やイディオムについても身につけている
文法力	中学レベルの文法や構文すら身につけていない	中学・高校レベルの文法や構文が部分的に身につけている	中学・高校レベルの文法や構文が十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な文法や構文についても身につけている
Reading の力 (読解力)	基本的な英文を読むことができない	基本的な英文を読むことができる	基本的な英文を速く正確に読むことができる	レベル3に加えて、より高度な英文も速く正確に読むことができる
Listening の力	基本的な英文を聞き取ることができない	基本的な英文を聞き取ることができる	英語の発音の特徴を理解し、基本的な英文を正確に聞き取ることができる	レベル3に加えて、より高度な英文でも正確に聞き取ることができる
共生・協働する力	英語の多様性や異文化について理解することができない	英語の多様性や異文化について理解している	英語の多様性や異文化について理解し、他人に説明することができる	レベル3に加えて、自ら積極的に英語の多様性や異文化について調べることができる

自分を育てる力	自学・自習に取り組むことができない	授業で提示された課題に取り組むことができる	授業で提示された課題の意図を理解し、積極的に自学・自習に取り組むことができる	レベル3に加えて、自ら目標を設定し、授業で提示されていない課題に対しても積極的に取り組むことができる
---------	-------------------	-----------------------	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Chapter3 25 ロンドン塔へようこそ p.121
26 こんなすてきなお天気の日 p.125
- 第 3 回 Chapter3 27 ビールの本場で何を飲む? p.129
28 フィッシュ・アンド・チップス p.133
- 第 4 回 Chapter3 29 ワーズワースのふるさとへ p.137
30 ハワース・ブロンテ博物館 p.141
- 第 5 回 Chapter3 31 演劇、それともミュージカル? p.145
Chapter4 32 ビッグベンの鐘の音 p.151
- 第 6 回 Chapter4 33 イギリス人と友達になる方法 p.155
34 ロンドン内 p.161
- 第 7 回 Chapter4 35 スヌーカーのルール p.165
36 ポール・ポッツの半生 p.169
- 第 8 回 世界の英語聞き比べ
- 第 9 回 Chapter4 37 ティーは紅茶にあらず?! p.173
38 違う言葉、同じ意味 p.177
- 第 10 回 Chapter4 39 サッカーの楽しみ p.181
40 ブリティッシュ・インバージョン p.187
- 第 11 回 Chapter5 41 女王と首相 p.193
42 到着が遅れております電車は... p.197
- 第 12 回 Chapter5 43 スランプに落ちたシェークスピア p.201
44 サンドイッチの誕生 p.205
- 第 13 回 Chapter5 45 招かれざる客 p.209
世界の英語聞き比べ
- 第 14 回 世界の英語聞き比べ
- 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、やや難し目のイギリス英語の音声付きテキストを用いて、英文の書き取りと読解を中心とするトレーニングを行い、基礎的な英語能力の向上を目指します。また、語彙力向上のために、毎回テキスト内の重要な単語・表現についての小テストを実施します。授業中にテキスト内の表現や文法項目について解説し、必要に応じて関連する動画などを提示し理解を深めます。授業後は、復習で理解度を確認し、次回の授業で適宜フィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、各回で指定された範囲の予習をしておくこと。

各回で扱った範囲の英文について、復習として書き取りと

読解をしていくこと。

復習の際、聞き取れなかった箇所、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(30%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(40%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

やや難し目のテキストを用いますので、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力があり、英語の力を伸ばしたい、上のレベルを目指したいという意欲のある人の受講を勧めます。

音声付きのテキストを用いますので、読解だけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。

イギリス英語のテキストを用いますので、イギリスの言葉や文化に興味がある人や、中学・高校で習うアメリカ英語以外に触れてみたい人、国ごとに特徴が異なる英語の多様性に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『究極のイギリス英語リスニング Standard』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757446208/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ダボス会議で聞く 世界の英語』/鶴田知佳子・柴田真一/コスモピア株式会社/2008/9784902091540

『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757418059

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 II H 2021年度以降入学者

GBE1352H0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3: 言語力

15

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、英文を効率よく読むことができるようになることです。音声付きの英文のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、英語の音声についていけるよう、速く正確な読解ができるようにします。また、イギリス英語の発音に触れ英語の多様性を理解するとともに、市販の教材を用いた自学自習の方法と習慣を身につけ、基本的な英語の知識と能力を習得することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり（書きとり）を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキスト本文の内容に関する質問を行い、理解度を確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
語彙力	中学レベルの単語やイディオムすら身につけていない	中学・高校レベルの単語やイディオムが部分的に身につけている	中学・高校レベルの単語やイディオムが十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な語やイディオムについても身につけている
文法力	中学レベルの文法や構文すら身につけていない	中学・高校レベルの文法や構文が部分的に身につけている	中学・高校レベルの文法や構文が十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な文法や構文についても身につけている
Reading の力(読解力)	基本的な英文を読むことができない	基本的な英文を読むことができる	基本的な英文を速く正確に読むことができる	レベル3に加えて、より高度な英文も速く正確に読むことができる

Listening の力	基本的な英文を聞き取ることができない	基本的な英文を聞き取ることができる	英語の発音の特徴を理解し、基本的な英文を正確に聞き取ることができる	レベル3に加えて、より高度な英文でも正確に聞き取ることができる
共生・協働 する力	英語の多様性や異文化について理解することができない	英語の多様性や異文化について理解している	英語の多様性や異文化について理解し、他人に説明することができる	レベル3に加えて、自ら積極的に英語の多様性や異文化について調べることができる
自分を育て る力	自学・自習に取り組むことができない	授業で提示された課題に取り組むことができる	授業で提示された課題の意図を理解し、積極的に自学・自習に取り組むことができる	レベル3に加えて、自ら目標を設定し、授業で提示されていない課題に対しても積極的に取り組むことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Chapter3 25 ロンドン塔へようこそ p.121
26 こんなすてきなお天気の日 p.125
- 第 3 回 Chapter3 27 ビールの本場で何を飲む? p.129
28 フィッシュ・アンド・チップス p.133
- 第 4 回 Chapter3 29 ワーズワースのふるさとへ p.137
30 ハワース・ブロンテ博物館 p.141
- 第 5 回 Chapter3 31 演劇、それともミュージカル? p.145
Chapter4 32 ビッグベンの鐘の音 p.151
- 第 6 回 Chapter4 33 イギリス人と友達になる方法 p.155
34 ロンドン内 p.161
- 第 7 回 Chapter4 35 スヌーカーのルール p.165
36 ポール・ポッツの半生 p.169
- 第 8 回 世界の英語聞き比べ
- 第 9 回 Chapter4 37 ティーは紅茶にあらず?! p.173
38 違う言葉、同じ意味 p.177
- 第 10 回 Chapter4 39 サッカーの楽しみ p.181
40 ブリティッシュ・インベーション p.187
- 第 11 回 Chapter5 41 女王と首相 p.193
42 到着が遅れております電車は... p.197
- 第 12 回 Chapter5 43 スランプに落ちたシェークスピア p.201
44 サンドイッチの誕生 p.205
- 第 13 回 Chapter5 45 招かれざる客 p.209
世界の英語聞き比べ
- 第 14 回 世界の英語聞き比べ
- 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、やや難し目のイギリス英語の音声付きテキストを用いて、英文の書き取りと読解を中心とするトレーニングを行い、基礎的な英語能力の向上を目指します。また、語彙力向上のために、毎回テキスト内の重要な単語・表現についての小テストを実施します。授業中にテキスト内の表現や文法項目について解説し、必要に応じて関連する動画などを提示し理解を深めます。授業後は、復習で理解度を確認し、次回の授業で適宜フィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、指定された範囲の予習をしていくこと。

(単語テストは成績評価の30%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)

次回分の音声最低でも一回は聞き、テキストのクイズに挑戦してみる。

各回で扱った範囲の英文について、復習として書き取りと読解をしていくこと。

復習の際、聞き取れなかった箇所、理解できなかった箇所を明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(30%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(40%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

やや難し目のテキストを用いますので、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力があり、英語の力を伸ばしたい、上のレベルを目指したいという意欲のある人の受講を勧めます。

音声付きのテキストを用いますので、読解だけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。

イギリス英語のテキストを用いますので、イギリスの言葉や文化に興味がある人や、中学・高校で習うアメリカ英語以外に触れてみたい人、国ごとに特徴が異なる英語の多様性に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『究極のイギリス英語リスニング Standard』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757446208/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ダボス会議で聞く 世界の英語』/鶴田知佳子・柴田真一/コスモピア株式会社/2008/9784902091540

『究極のイギリス英語リスニング Deluxe』/英語出版編集部/株式会社アルク/2009/9784757418059

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解Ⅱ J 2021年度以降入学者

GBE1352JOJ
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜1限
DP3: 言語力
15
伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語基礎Ⅰまでで学んだことに基づき、英文読解の力を養う。読解の教材として心理学の入門書やH. G. ウェルズ『世界史概観』といった一般書を用い、より高度な英文に触れる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 文型の基礎を理解する
- ・ 読解に集中した文法をみにつける
- ・ 流れに乗った読解ができるようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 読解のための英文法再論
- 第 2 回 英語で読む心理学的事例報告1 知覚の仕組み
- 第 3 回 英語で読む心理学的事例報告2 環境の学習効果
- 第 4 回 英語で読む心理学的事例報告3 記憶術とその弊害
- 第 5 回 英語で読む心理学的事例報告4 論理思考と言語
- 第 6 回 英語で読む心理学的事例報告5 モチベーションとパフォーマンス
- 第 7 回 英語で読む心理学的事例報告6 生得的抽象概念

第 8 回 英語で読む心理学的事例報告7 早期教育の効果—ヘッドスタート事業

第 9 回 英語で読む心理学的事例報告8 権威と従順—ミルグラム実験

第 10 回 英語で読む心理学的事例報告9 差別・分断と協調のメカニズム

第 11 回 英語で読む世界宗教の誕生1 ユダヤ教とその予言者たち

第 12 回 英語で読む世界宗教の誕生2 イエスの教え

第 13 回 英語で読む世界宗教の誕生3 ムハンマドとイスラム

第 14 回 まとめのテストと解説

第 15 回 総括と追加課題の指示等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書はありません。英語基礎Ⅰに引き続き、プリントを配布して教材とします。英語圏の一般読者向けの文章を教材としますので、解説は詳しく行います。授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし(プリントを使用)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Psychology: A Very Short Introduction (Gillian Butler and Freda McManus, Oxford University Press)

A Short History of the World (H. G. Wells)

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 II K 2021年度以降入学者

GBE1352K0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜2限
DP3: 言語力
15
伊村 大樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語基礎 I までで学んだことに基づき、英文読解の力を養う。読解の教材として心理学の入門書や H. G. ウェルズ『世界史概観』といった一般書を用い、より高度な英文に触れる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 文型の基礎を理解する
- ・ 読解に集中した文法をみにつける
- ・ 流れに乗った読解ができるようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 読解のための英文法再論
第 2 回 英語で読む心理学的事例報告1 知覚の仕組み
第 3 回 英語で読む心理学的事例報告2 環境の学習効果
第 4 回 英語で読む心理学的事例報告3 記憶術とその弊害
第 5 回 英語で読む心理学的事例報告4 論理思考と言語
第 6 回 英語で読む心理学的事例報告5 モチベーションとパフォーマンス
第 7 回 英語で読む心理学的事例報告6 生得的抽象概念
第 8 回 英語で読む心理学的事例報告7 早期教育の効果—ヘッドスタート事業
第 9 回 英語で読む心理学的事例報告8 権威と従順—ミルグラム実験
第 10 回 英語で読む心理学的事例報告9 差別・分断と協調のメカニズム
第 11 回 英語で読む世界宗教の誕生1 ユダヤ教とその予言者たち

- 第 12 回 英語で読む世界宗教の誕生2 イエスの教え
第 13 回 英語で読む世界宗教の誕生3 ムハンマドとイスラム

第 14 回 まとめのテストと解説

第 15 回 総括と追加課題の指示等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書はありません。英語基礎 I に引き続き、プリントを配布して教材とします。英語圏の一般読者向けの文章を教材としますので、解説は詳しく行います。授業内で行うまとめのテストの後に、フィードバックとして正答の説明と解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

プリントの予習(単語を辞書で調べる・わからないところをチェックする)は欠かさず行うこと。また読み終わった教材に関しての小テストを行うことがあるので、そのための準備も怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(授業参加度と課題・小テスト)40%、まとめの試験60%の総合評価を基本とします。授業の3分の1以上を欠席した場合、あるいはまとめのテストに欠席した場合は単位が認められません。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし(プリントを使用)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Psychology: A Very Short Introduction (Gillian Butler and Freda McManus, Oxford University Press)

A Short History of the World (H. G. Wells)

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 II L 2021年度以降入学者

GBE1352L0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜1限
DP3: 言語力
15
田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

短めの文章を読み、その中で過去に学習した単語や文法事項を確認しながら、読む楽しみを実感する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

単語の復習と語彙力の向上
 基本的な文法事項の確認
 和訳に頼らない読解
 映画内の重要な台詞の理解
 〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	主体的に取り組む姿勢がない	主体的に取り組む姿勢がみられる	主体的に取り組む行動力がある	主体的に取り組む実行力がある
知識・理解力	知識を取得する意思が希薄	知識を習得する意思がある	知識を習得し、理解しようとする積極性がある	知識を習得し、理解を深めようとする積極性がある
言語力	1分間で60語読める	1分間で90語読める	1分間で120語読める	1分間で150語読める
思考・解決力	課題を解決するための努力を怠る	課題を解決する意思がある	課題を解決する実行力がある	自ら気づき、課題を解決する実行力がある

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 13
Do Animals Know Things We Don't Know?
- 第 2 回 Unit 14
Godiva? The Lady and the Chocolate
- 第 3 回 Unit 15
Aloha Hawaii
- 第 4 回 Unit 16
Everyone Loves a Circus
- 第 5 回 Unit 17
Text Messaging
- 第 6 回 Unit 18
What Type Are You?
- 第 7 回 Unit 19
Japanese Food Customs
- 第 8 回 Unit 20
Mascot Characters
- 第 9 回 映画鑑賞
語彙や表現の確認
- 第 10 回 映画鑑賞
重要な台詞の理解
- 第 11 回 Unit 21
Trees—One of Nature's Wonders
- 第 12 回 Unit 22
Koban at Your Service
- 第 13 回 Unit 23
3-D Printers
- 第 14 回 Unit 24
Fashion Trends Start Here
- 第 15 回 Final Review

後期授業のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。各章の読み物は、段階的に2つあり、可能な限り難解な方へ進む。

映画の大まかな内容と時代背景を確認した上で、字幕を英語にして鑑賞し、使用されている語彙や表現を学ぶ。授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

英文の下読みをしてくる。単語を事前に調べておく。

指示された単語を覚える (小テストあり)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト (50%)、提出課題 (20%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・対面授業で実施。

・DVD鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading Steps』/Robert Hickling 他/金星堂/2015年/978-4-7647-3992-5/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解ⅡM 2021年度以降入学者

GBE1352MOJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 月曜2限
 DP3: 言語力
 15
 田中 祐子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

短めの文章を読み、その中で過去に学習した単語や文法事項を確認しながら、読む楽しみを実感する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

単語の復習と語彙力の向上
 基本的な文法事項の確認
 和訳に頼らない読解
 映画内の重要な台詞の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	主体的に取り組む姿勢がない	主体的に取り組む姿勢がみられる	主体的に取り組む行動力がある	主体的に取り組む実行力がある
知識・理解力	知識を取得する意思が希薄	知識を習得する意思がある	知識を習得し、理解しようとする積極性がある	知識を習得し、理解を深めようとする積極性がある
言語力	1分間で60語読める	1分間で90語読める	1分間で120語読める	1分間で150語読める
思考・解決力	課題を解決するための努力を怠る	課題を解決する意思がある	課題を解決する実行力がある	自ら気づき、課題を解決する実行力がある

〔授業計画〕

第 1 回	Unit 13 Do Animals Know Things We Don't Know?
第 2 回	Unit 14 Godiva?The Lady and the Chocolate
第 3 回	Unit 15 Aloha Hawaii
第 4 回	Unit 16 Everyone Loves a Circus
第 5 回	Unit 17 Text Messaging
第 6 回	Unit 18 What Type Are You?
第 7 回	Unit 19 Japanese Food Customs
第 8 回	Unit 20 Mascot Characters
第 9 回	映画鑑賞 語彙や表現の確認
第 10 回	映画鑑賞 重要な台詞の理解
第 11 回	Unit 21 Trees—One of Nature's Wonders
第 12 回	Unit 22 Koban at Your Service
第 13 回	Unit 23 3-D Printers
第 14 回	Unit 24 Fashion Trends Start Here
第 15 回	Final Review 後期授業のまとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕 実施しない	

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心に進めるが、種々のタスクに関しては発表を求める。各章の読み物は、段階的に2つあり、可能な限り難解な方へ進む。

映画の大まかな内容と時代背景を確認した上で、字幕を英語にして鑑賞し、使用されている語彙や表現を学ぶ。授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

英文の下読みをしてくる。単語を事前に調べておく。

指示された単語を覚える (小テストあり)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト (50%)、提出課題 (20%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・対面授業で実施。
- ・DVD鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading Steps』/Robert Hickling 他/金星堂/2015年/978-4-7647-3992-5/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解Ⅱ N 2021年度以降入学者

GBE1352N0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜1限
DP3: 言語力
15
寺西 みどり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語学習の基盤を構築し直す。

英文の基本的な仕組みを理解する。

簡単なReadingに取り組む。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 単語の復習
2. 基礎文法の確認
3. 筆記体に取り組む
4. 映画鑑賞(英語字幕・英語音声)の体験

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	出席なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない	誤りあるも簡単な英作文ができる	簡単な英作文がほとんど誤りなくできる
知識・理解力	アルファベットの読み書きができない	アルファベットの読み書きができる	中学レベルの英文法を理解する	中学レベルの文章(長文)について理解する
言語力	中学1年レベルの英単語を理解しない	中学1~2年レベルの英単語を理解する	動詞の活用ができる	語彙の増加が認められる
思考・解決力	問題に取り組まない	誤答であっても質問に答える	教科書の問題が解ける	理解していない点を自ら把握する
共生・協働する力	出席なし問いかけに返答なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない	パートナーを見つけられる	クラスメートと共同作業をする
創造・発信力	出席なし問いかけに返答なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない	質問に回答できる	指導者に質問ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 UNIT 6
進行形の復習
- 第 2 回 UNIT 6
Reading: Are You Going To Cashless??
- 第 3 回 Unit 11
助動詞の復習
- 第 4 回 Unit 11
Reading: Who Can Be a YouTuber?
映画鑑賞準備
- 第 5 回 映画鑑賞
Disney作品を予定
- 第 6 回 Unit 9
未来形の復習
- 第 7 回 Unit 9
Reading: What Will Space Travel Be a Pioneer like in the Future?!
- 第 8 回 Unit 12
現在完了・過去完了形の復習
- 第 9 回 Unit 12
Reading: What Have Plastics Done to Our Oceans?
映画鑑賞準備
- 第 10 回 映画鑑賞
Disney作品を予定
- 第 11 回 Unit 8
動名詞・不定詞の復習
- 第 12 回 Unit 8
Reading: Would You Like to be a Pioneer Like Coco Chanel?
- 第 13 回 Unit 14

受動態の復習

- 第 14 回 Unit 14
Reading: How Was conveyor belt Sushi Born?
- 第 15 回 まとめ
まとめテスト(方式未定)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行わない。
頻回にテストをする。
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
発表には口頭で、提出物には朱入力で評価を行う。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
単語を調べ、下読みをする。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト60%
まとめテスト30%
提出課題10%

〔留意事項 (Other Information)〕
授業のUnitと映画鑑賞の回次は流動的です。
テキストのUnitの順には進みません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Reading Link
Robert Hickling
金星堂 2020年
ISBN 978-4-7647-4100-3

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
必要時に指示する

〔参考URL(URL for Reference) 〕
必要時に指示する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
《実践的科目》
翻訳業務経験39年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。
通訳業務経験あり。(例：リンゴ・スター、オリビア・ハッセイ、シルビア・クリステル等)
YBU英会話教室講師
予備校英講読講師
英語圏外国人対象三味線指導

英語理解Ⅱ P 2021年度以降入学者

GBE1352P0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜2限
DP3: 言語力
15
寺西 みどり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語学習の基盤を構築し直す。
英文の基本的な仕組みを理解する。
簡単なReadingに取り組む。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 単語の復習
2. 基礎文法の確認
3. 筆記体に取り組む
4. 映画鑑賞(英語字幕・英語音声)の体験

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出席なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない	誤りあるも、簡単な英作文ができる	簡単な英作文がほとんど誤りなくできる
知識・理解力	アルファベットの読み書きができない	アルファベットの読み書きができる	中学レベルの英文法を理解する	中学レベルの文章(長文)を理解する
言語力	中学1年レベルの英単語を理解できない	中学1~2年レベルの英単語を理解する	動詞の活用ができる	語彙の増加が認められる
思考・解決力	問題に取り組まない	誤答であっても質問に答える	教科書の問題が解ける	理解していない点を自ら把握する
共生・協働する力	出席なし問いかけに回答なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない	パートナーをも見つけられる	クラスメートと共同作業する
創造・発信力	出席なし問いかけに回答なし	必要な出席日数を満たす遅刻をしない	質問に回答できる	指導者に質問できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 UNIT 7
進行形の復習
- 第 2 回 UNIT 7
Reading: DIY
- 第 3 回 Unit 8

- 助動詞の復習
- 第 4 回 Unit 2
Reading: Before&After
映画鑑賞準備
- 第 5 回 映画鑑賞
Disney作品を予定
- 第 6 回 Unit 9
未来形の復習
- 第 7 回 Unit 9
Reading: The Future Teleworking
- 第 8 回 Unit 11
現在完了・過去完了形の復習
- 第 9 回 Unit 11
Reading: Getting Ready for an Important Job
Interview
映画鑑賞準備
- 第 10 回 映画鑑賞
Disney作品を予定
- 第 11 回 Unit 13
動名詞・不定詞の復習
- 第 12 回 Unit 13
Reading: Netiquette
- 第 13 回 Unit 14
受動態の復習
- 第 14 回 Unit 14
Reading: Share Houses
- 第 15 回 まとめ
まとめテスト(方式未定)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行わない。
頻回に小テストをする。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

発表には口頭で、提出物には朱入れで評価を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

単語を調べ、下読みをする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト60%
まとめテスト30%
提出課題10%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業のUnitと映画鑑賞の回次は流動的です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

English Booster
Robert Hickling
金星堂 2021年
ISBN 978-4-7647-4113-3

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

必要時に指示する

[参考URL(URL for Reference)]

必要時に指示する

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》

翻訳業務経験39年。現在ノートルダム教育修道女会事務室に翻訳担当として非常勤勤務中。

通訳業務経験あり。例) リンゴ・スター、オリビア・ハッセイ、シルビア・クリステルなど

YBU英会話教室講師。

予備校英語講読講師。

英語圏外国人対象三味線指導。

英語理解 II Q 2021年度以降入学者

GBE1352Q0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
月曜1限
DP3: 言語力
15
中西 悠子

【科目の教育目標 (Course Description)】

本科目の目的は簡単な文章を読み内容の概要を理解し、読む楽しさを実感することです。この授業では英語を声に出して読めるようになること、意味のまとまり毎に前から後ろへと英語の順序で理解していくことを大切にしています。更に、読んだことを簡単な英語でまとめたり、思ったことを共有したり発信する機会へと繋がります。適宜これまで過去に学んだ文法事項も確認します。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 単語の復習と語彙力の向上を目指す。(毎回単語テストを行います。)
2. 読解や発信に必要な基本的な文法事項を確認する。
3. 学んだ文法を用いて簡単に自分や周りのことについて発信する。
4. 英文を音読できるようになる。
5. 和訳に頼らず前から後ろへ英語とできるだけ同じ順序で理解する。
6. 英文を正確に読解し、その内容を簡単でわかりやすい英語で発話する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性・学習意欲	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する

言語力① (文章を読み、理解する力)	基本的な英文を理解することができない	基本的な英文を理解することができる	標準的な英文をある程度理解することができる	標準的な英文を十分理解することができる
言語力② (語彙を理解し、運用する力)	基本的な語彙を理解・運用することができない	基本的な語彙を理解し、運用することができる	ある程度幅広い語彙を理解し、運用することができる	多様な語彙を理解し、運用することができる
言語力③ (文法を理解し、運用する力)	基本的な文法を理解・運用することができない	基本的な文法を理解・運用することができる	基本的な文法・及び複雑な文法もある程度理解・運用することができる	基本的な文法・及び複雑な文法も適切に理解・運用することができる
思考力・発信力	論拠や例を用いて意見を発信することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて意見を発信することができる	概ね適切な論拠や例を用いて意見を展開することができる	適切な論拠や例を用いて論理的に意見を展開することができる
共生・協働する力	他と協働することができない	消極的ながら他と協働しようとする姿勢がみられる	ある程度他と協働しようとする姿勢がみられる	積極的に他と協働しようとする姿勢がみられる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
本科目に関する説明をした後、簡単なアンケートと英語に関するクイズを予定しています。
- 第 2 回 Unit 1
Uniquely Japanese Hospitality
- 第 3 回 Unit 2
“Time Machine” With a Flag on Top
- 第 4 回 Unit 3
Start and Finish Work Earlier
- 第 5 回 Unit 4
Humanoids in the Aging Society
- 第 6 回 Unit 5
No Longer a Man’s World
- 第 7 回 Unit 6
What Will the 2020 Games Give Us?
- 第 8 回 まとめテスト I
- 第 9 回 Unit 7
Your Name Is Not on the List
- 第 10 回 Unit 8
When Quakes Hit, Eruptions May Follow
- 第 11 回 Unit 9
As Young as 70 Years Old
- 第 12 回 Unit 10
The Music Industry Needs to Change

第 13 回 Unit 11

Don't Kill Lions to Prove Manhood

第 14 回 Unit 12

How About a Nose Job in Malaysia?

第 15 回 まとめのテスト II

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行いません。

毎回の授業で単語テストをします。

中間と最終回にまとめテストをします。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

指名して問に答えるだけでなく、ペアやグループで読解を行ったり、

英単語や英文の音読練習や簡単な会話 (Q&A) などのアクティビティを予定していますので

積極的な授業参加を求めます。

補助プリントやオンライン教材を用いた課題の提出もあります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

その日の箇所に事前に目を通し、単語の意味を調べ、簡単な予習を行う。

(適宜補助プリントを用意します。)

毎回の単語テストの準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

1時間? 2時間/週

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト 40%

まとめテスト 40%

提出課題 10%

授業参加 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

学習するUnitや内容は変更されることもあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading in Action Basic 始めよう! 学習者参加型の英語リーディング』/静哲人/金星堂/2015年/978-4-7647-4023-5/学内販売予定

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要時に指示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

必要時に指示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語理解 II R 2021年度以降入学者

GBE1352R1J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3: 言語力

15

中西 悠子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は簡単な文章を読み内容の概要を理解し、読む楽しさを実感することです。この授業では英語を声に出して読めるようになること、意味のまとめり毎に前から後ろへと英語の順序で理解していくことを大切にしています。更に、読んだことを簡単な英語でまとめたり、思ったことを共有したり発信する機会へと繋がります。適宜これまで過去に学んだ文法事項も確認します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 単語の復習と語彙力の向上を目指す。(毎回単語テストを行います。)
2. 読解や発信に必要な基本的な文法事項を確認する。
3. 学んだ文法を用いて簡単に自分や周りのことについて発信する。
4. 英文を音読できるようになる。
5. 和訳に頼らず前から後ろへ英語とできるだけ同じ順序で理解する。
6. 英文を正確に読解し、その内容を簡単でわかりやすい英語で発話する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性・学習意欲	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する
言語力① (文章を読み、理解する力)	基本的な英文を理解することができない	基本的な英文を理解することができる	標準的な英文をある程度理解することができる	標準的な英文を十分理解することができる
言語力② (語彙を理解し、運用する力)	基本的な語彙を理解・運用することができない	基本的な語彙を理解し、運用することができる	ある程度幅広い語彙を理解し、運用することができる	多様な語彙を理解し、運用することができる

言語力③ (文法を理解し、運用する力)	基本的な文法を理解・運用することができない	基本的な文法を理解・運用することができる	基本的な文法・及び複雑な文法もある程度理解・運用することができる	基本的な文法・及び複雑な文法も適切に理解・運用することができる
思考力・発信力	論拠や例を用いて意見を発信することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて意見を発信することができる	概ね適切な論拠や例を用いて意見を展開することができる	適切な論拠や例を用いて論理的に意見を展開することができる
共生・協働する力	他と協働することができない	消極的ながら他と協働しようとする姿勢がみられる	ある程度他と協働しようとする姿勢がみられる	積極的に他と協働しようとする姿勢がみられる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
本科目に関する説明をした後、簡単なアンケートと英語に関するクイズを予定しています。
- 第 2 回 Unit 1
Uniquely Japanese Hospitality
- 第 3 回 Unit 2
“Time Machine” With a Flag on Top
- 第 4 回 Unit 3
Start and Finish Work Earlier
- 第 5 回 Unit 4
Humanoids in the Aging Society
- 第 6 回 Unit 5
No Longer a Man’s World
- 第 7 回 Unit 6
What Will the 2020 Games Give Us?
- 第 8 回 まとめのテスト I
- 第 9 回 Unit 7
Your Name Is Not on the List
- 第 10 回 Unit 8
When Quakes Hit, Eruptions May Follow
- 第 11 回 Unit 9
As Young as 70 Years Old
- 第 12 回 Unit 10
The Music Industry Needs to Change
- 第 13 回 Unit 11
Don’t Kill Lions to Prove Manhood
- 第 14 回 Unit 12
How About a Nose Job in Malaysia?
- 第 15 回 まとめのテスト II

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験期間中には行いません。
毎回の授業で単語テストをします。
中間と最終回にまとめテストをします。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

指名して問に答えるだけでなく、ペアやグループで読解を行ったり、
英単語や英文の音読練習や簡単な会話 (Q&A) などのアクティビティを予定していますので
積極的な授業参加を求めます。
補助プリントやオンライン教材を用いた課題の提出もあります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

その日の箇所に事前に目を通し、単語の意味を調べ、簡単な予習を行う。
(適宜補助プリントを用意します。)
毎回の単語テストの準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

1時間?2時間/週

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト 40%
まとめテスト 40%
提出課題 10%
授業参加 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

学習するUnitや内容は変更されることもあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Reading in Action Basic 始めよう! 学習者参加型の英語リーディング』/静哲人/金星堂/2015年/978-4-7647-4023-5/学内販売予定

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要時に指示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

必要時に指示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 II A 2021年度以降入学者

GBE1353A0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜2限

DP3: 言語力

15

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will teach modern English used by young people around the world with focus on speaking. Using the internet, videos and authentic written materials we will learn useful expressions to then practise during class in pairs and/or groups.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn authentic English expressions and get accustomed to English used in real settings. Students will also learn how to build their confidence with speaking.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Vocabulary and expressions	I find it difficult to use vocabulary adequately and appropriately	I only use the vocabulary I know. If I don't know it I will use Japanese.	I try to use new vocabulary taught in class or vocabulary I've searched in a dictionary	I try to use at least one new vocabulary item or phrase taught in class or from my dictionary every lesson
Content	I usually only give one word answers without any elaboration.	I speak simply and give typical answers with very little elaboration.	I try to add interesting content to my sentences but only if the instructor asks.	I am able to produce longer and more complex sentences. The content of my sentences is interesting and thought provoking.
Grammatical accuracy	My sentences are often difficult to understand as if I'm translating directly from Japanese.	The instructor and my peers can understand my sentences but with some difficulty.	The instructor and my peers can understand what I want to say regardless of any grammatical errors.	When I speak my sentence structure is clear and appropriate. There is little ambiguity in what I want to say.
Listening comprehension	I cannot understand most things said in English.	I can understand English only if it's spoken very slowly and very clearly using simple vocabulary.	I can understand the general meaning of spoken English if it's spoken slowly and clearly. Some words I don't understand.	I can understand spoken English at a reasonable speed even if I don't understand every word.

Participation	I attend the classes but I do not actively answer questions or participate proactively in group activities.	I attend classes and respond to the teacher when asked.	I attend the classes and spontaneously respond to the teacher during small group activities and sometimes in whole class activities.	In every class I play an active role by answering the teacher's questions and/or by engaging with and sometimes helping in group activities.
Logical flow	I respond with either yes or no most of the time.	I respond in one sentence. It is clear what I want to say but I don't give reasons or examples.	I present my main idea clearly and I also provide at least one reason for my opinion or idea.	When I speak or write in English I clearly state my idea, the reasons for why I think so and provide examples to back up or clarify my thoughts.

〔授業計画〕

- 第 1 回 My summer holiday
- 第 2 回 Food is culture
- 第 3 回 Mental health
- 第 4 回 Superstitions
- 第 5 回 Halloween
- 第 6 回 Global warming
- 第 7 回 Everyday fashion
- 第 8 回 Fashion and ceremonies
- 第 9 回 Women's rights
- 第 10 回 Keeping cosy
- 第 11 回 Fake news!
- 第 12 回 Presentation preparation 1
- 第 13 回 Presentation preparation 2
- 第 14 回 Final presentation
- 第 15 回 Reflections

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

On the final week of term students will give a group presentation that will be graded by the instructor. Feedback will be immediately provided after the presentation.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will use a range of methods such as quizzes, individual writing, multimedia, group and pair work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to engage with English throughout the week such as with music and movies and will be asked to

prepare for lessons when necessary. The instructor will notify students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

40% participation

40% assignments

20% final presentation

Feedback will be provided in class or through manaba for online assignments.

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現ⅡB 2021年度以降入学者

GBE1353B0J
大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will teach modern English used by young people around the world with focus on speaking. Using the internet, videos and authentic written materials we will learn useful expressions to then practise during class in pairs and/or groups.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn authentic English expressions and get accustomed to English used in real settings. Students will also learn how to build their confidence with speaking.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Vocabulary and expressions	I find it difficult to use vocabulary adequately and appropriately	I only use the vocabulary I know. If I don't know it I will use Japanese.	I try to use new vocabulary taught in class or vocabulary I've searched in a dictionary	I try to use at least one new vocabulary item or phrase taught in class or from my dictionary every lesson
Content	I usually only give one word answers without any elaboration.	I speak simply and give typical answers with very little elaboration.	I try to add interesting content to my sentences but only if the instructor asks.	I am able to produce longer and more complex sentences. The content of my sentences is interesting and thought provoking.
Grammatical accuracy	My sentences are often difficult to understand as if I'm translating directly from Japanese.	The instructor and my peers can understand my sentences but with some difficulty.	The instructor and my peers can understand what I want to say regardless of any grammatical errors.	When I speak my sentence structure is clear and appropriate. There is little ambiguity in what I want to say.
Listening comprehension	I cannot understand most things said in English.	I can understand English only if it's spoken very slowly and very clearly using simple vocabulary.	I can understand the general meaning of spoken English if it's spoken slowly and clearly. Some words I don't understand.	I can understand spoken English at a reasonable speed even if I don't understand every word.

Participation	I attend the classes but I do not actively answer questions or participate proactively in group activities.	I attend classes and respond to the teacher when asked.	I attend the classes and spontaneously respond to the teacher during small group activities and sometimes in whole class activities.	In every class I play an active role by answering the teacher's questions and/or by engaging with and sometimes helping in group activities.
Logical flow	I respond with either yes or no most of the time.	I respond in one sentence. It is clear what I want to say but I don't give reasons or examples.	I present my main idea clearly and I also provide at least one reason for my opinion or idea.	When I speak or write in English I clearly state my idea, the reasons for why I think so and provide examples to back up or clarify my thoughts.

〔授業計画〕

- 第 1 回 My summer holiday
- 第 2 回 Food is culture
- 第 3 回 Mental health
- 第 4 回 Superstitions
- 第 5 回 Halloween
- 第 6 回 Global warming
- 第 7 回 Everyday fashion
- 第 8 回 Fashion and ceremonies
- 第 9 回 Women's rights
- 第 10 回 Keeping cosy
- 第 11 回 Fake news!
- 第 12 回 Presentation preparation 1
- 第 13 回 Presentation preparation 2
- 第 14 回 Final presentation
- 第 15 回 Reflections

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

On the final week of term students will give a group presentation that will be graded by the instructor. Feedback will be immediately provided after the presentation.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will use a range of methods such as quizzes, individual writing, multimedia, group and pair work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to engage with English throughout the week such as with music and movies and will be asked to

prepare for lessons when necessary. The instructor will notify students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

40% participation

40% assignments

20% final presentation

Feedback will be provided in class or through manaba for online assignments.

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 II C 2021年度以降入学者

GBE1353C0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜2限

DP3: 言語力

15

藤本 幸治

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

中級レベル(TOEIC500-600)の語彙、文法を活用して、簡単な文法、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了時までに中級レベル(TOEIC500-600)の英語を完全に読み、書けるようにする。また、パラグラフライティングを行うことで、アカデミックかつ論理的な英文を読み、書く力の基礎を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

TOEIC600点程度のレベルの単語、構文を十分に活用し、正しい英文を書いて、読めるようになるために大別して3つの課題を消化する。

- 1) 場所についての説明を読み、書く。
- 2) 作業工程についての英文を読み、書いてみる。
- 3) 自分の意見を相手に正確に伝える英文をパラグラフで構成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語の基本構造が理解できない。	日本語と英語の基本構造が理解出来、基本的な表	十分な語彙力を有し、十分に意思疎通できる英語を	限られた知識を臨機応変に利用し、活用できる。

		現を行うことができる。	書くことができる。	
知識・理解力	基本語彙が500語を下回る。	基本語彙が1500程度である。	学習語彙が3000語に達している。	学習語彙が5000語以上ある。
言語力	基本5文型が理解できない。	基本5文型を理解できる。	基本5文型を利用して、基本的な英語表現ができる。	基本5文型を応用し、臨機応変に展開できる。
思考・解決力	論理的な文章が理解できない。	基本的な論理的文章が書ける。	主張に関して十分な根拠を示しながら英文を書くことができる。	3段論法を基準とした合理的な文章を書くことができる。
共生・協働する力	グループワークができない。	グループワークに参加して活動できる。	グループ内で円滑に作業し、グループを取りまとめることができる。	グループの意見をまとめ、リーダーとして指示することができる。
創造・発信力	基本和文英訳ができない。	初歩的な英文を書くことができる。	論理的な英文を書くことができる。	自らの主張を英文で論理的にサポートしながら、示すことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業目標の理解
導入：さらにコミュニケーション能力を高める英語学習について
- 第 2 回 不定詞の理解と応用（1）
to不定詞の副詞的用法を理解し、使う。
- 第 3 回 不定詞の理解と応用（2）
to不定詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 4 回 受動態再考
受動態を理解し、使う
- 第 5 回 現在分詞再考
現在分詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 6 回 動詞の時制と相のまとめ
第1～5回 復習演習とまとめ
- 第 7 回 過去分詞の理解と応用
過去分詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 8 回 関係代名詞再考（1）
関係代名詞の主格と目的格を理解し、使う。
- 第 9 回 関係代名詞再考（2）
関係代名詞の所有格と関係代名詞Whatを理解し、使う。
- 第 10 回 接続詞の理解と応用

- 英語の接続詞を理解し、使う。
- 第 11 回 疑問文再考
疑問詞疑問文と間接疑問文を理解し、使う。
- 第 12 回 英語の非基本形まとめ
第7～11回 復習演習とまとめ
- 第 13 回 仮定法の理解と応用
仮定法を理解し、使う。
- 第 14 回 比較構文の理解と応用
比較級と最上級を理解し、使う
- 第 15 回 学期内学習項の復習
学期総まとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。第15回週目のReview of the Semesterで課題、レポートに対するフィードバックを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
分からない単語の意味を辞書で調べる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度（30%）、小テスト・レポート（30%）、授業最終回まとめのテスト（40%）
- 〔留意事項（Other Information）〕
指定された予習、復習は必須事項です。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『A Primer of Communication in English』/M. Koyama et al/ Shohakusya /2017//学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 II D 2021年度以降入学者

GBE1353D0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
水曜1限
DP3：言語力
15
藤本 幸治

〔科目の教育目標（Course Description）〕
中級レベル(TOEIC500-600)の語彙、文法を活用して、簡単かつ、文法的に正しい英文を構成する知識を学ぶ。前期終了

時までには中級レベル(TOEIC500-600)の英語を完全に読み、書けるようにする。また、パラグラフライティングを行うことで、アカデミックかつ論理的な英文を読み、書く力の基礎を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

TOEIC600点程度のレベルの単語、構文を十分に活用し、正しい英文を書いて、読めるようになるために大別して3つの課題を消化する。

- 1) 場所についての説明を読み、書く。
- 2) 作業工程についての英文を読み、書いてみる。
- 3) 自分の意見を相手に正確に伝える英文をパラグラフで構成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語の基本構造が理解できない。	日本語と英語の基本構造が理解出来、基本的な表現を行うことができる。。	十分な語彙力を有し、十分に意思疎通できる英語を書くことができる。	限られた知識を臨機応変に利用し、活用できる。
知識・理解力	基本語彙が500語を下回る。	基本語彙が1500程度である。	学習語彙が3000語に達している。	学習語彙が5000語以上ある。
言語力	基本5文型が理解できない。	基本5文型を理解できる。	基本5文型を利用して、基本的な英語表現ができる。	基本5文型を応用し、臨機応変に展開できる。
思考・解決力	論理的な文章が理解できない。	基本的な論理的文章が書ける。	主張に関して十分な根拠を示しながら英文を書くことができる。	3段論法を基準とした合理的な文章を書くことができる。
共生・協働する力	グループワークができない。	グループワークに参加して活動できる。	グループ内で円滑に作業し、グループを取りまとめることができる。	グループの意見をまとめ、リーダーとして指示することができる。
創造・発信力	基本和文英訳ができない。	初歩的な英文を書くことができる。	論理的な英文を書くことができる。	自らの主張を英文で論理的にサポートしながら、示すことができる。

〔授業計画〕

第 1 回 授業目標の理解

導入：さらにコミュニケーション能力を高める英語学習について

- 第 2 回 不定詞の理解と応用 (1)
to不定詞の副詞的用法を理解し、使う。
- 第 3 回 不定詞の理解と応用 (2)
to不定詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 4 回 受動態再考
受動態を理解し、使う
- 第 5 回 現在分詞再考
現在分詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 6 回 動詞の時制と相のまとめ
第1~5回 復習演習とまとめ
- 第 7 回 過去分詞の理解と応用
過去分詞の形容詞的用法を理解し、使う。
- 第 8 回 関係代名詞再考 (1)
関係代名詞の主格と目的格を理解し、使う。
- 第 9 回 関係代名詞再考 (2)
関係代名詞の所有格と関係代名詞Whatを理解し、使う。
- 第 10 回 接続詞の理解と応用
英語の接続詞を理解し、使う。
- 第 11 回 疑問文再考
疑問詞疑問文と間接疑問文を理解し、使う。
- 第 12 回 英語の非基本形まとめ
第7~11回 復習演習とまとめ
- 第 13 回 仮定法の理解と応用
仮定法を理解し、使う。
- 第 14 回 比較構文の理解と応用
比較級と最上級を理解し、使う
- 第 15 回 学期内学習項の復習
学期総まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストに従って、各課の練習問題を解き、考えていく。また、折に触れて、テキスト内で学んだ新出および復習単語テストを5回ほど行う。また、個別課題ごとのレポート提出も実施する。第15回週目のReview of the Semesterで課題、レポートに対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

分からない単語の意味を辞書で調べる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (30%)、授業最終回まとめのテスト (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

指定された予習、復習は必須事項です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『A Primer of Communication in English』/M. Koyama et al/Shohakusya /2017//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 II E 2021年度以降入学者

GBE1353E0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
水曜2限
DP3: 言語力
15
東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は前期に引き続き、アウトプットの力、特に、基本的な英語ライティングの技術を習得することです。基礎的な文法、スペリング、句読法、などを復習し、パラグラフの規則を覚えることにより、さらに自信をもって英語で「書く」ことが出来るようになることを目指します。そして、クラスでの練習を積み重ね、うまく「パラグラフ」を組み立て、より多くの伝えたいと思う内容を伝えることが出来る能力を身に付けてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに身につけている基礎的な英語力を実際に使うこと
2. 文を正しく組み立てるために必要な英文法を復習すること
3. よいパラグラフとは何かを理解すること
4. 1つの話題について意味理解が進むよう、よいパラグラフ構成にしたがって、読み手を意識した英文を書くこと
5. 多種多様なプロジェクトに取り組む姿勢を持つこと
6. 自分でまたはクラスメートと相談しながら取り組む方法を学ぶこと

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

英語作文能力	ごく基本的な日常表現や個人的情報であっても、英語でまとめることができない。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、よく使われる表現を使って英語で文を書くことができる。	仕事、学校、娯楽など身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を組み合わせたパラグラフを英語で作ることができる。	具体的な話題だけではなく、抽象的な話題を含めた幅広い話題について、明確で詳細な文章を英語で作成し、それらを組み合わせ、複数のパラグラフにまとめることができる。
言語力	基本的な英文の構造がわからない。必要な単語を調べることができない。	教えられたら、基本的な英文の構造を思いだせる。また、単語を調べることができる。	基本的な英文の構造を理解できている。または、必要な単語を調べて選ぶことができる。	基本的な英文の構造をただ使っただけではなく、いろいろな文法事項を用いて文を書くことができる。辞書を使いながら、いろいろな語彙を調べて、正しく使用することができる。
思考・解決力	教員に言われたことを書くまたは、作業することができない。	教員やクラスメートに説明されたら作業を進めることができる。	わからないことがある場合、教員やクラスメートに質問や相談をするが、基本的にはテキストを読んで、作業を進めることができる。	適宜、必要に応じてクラスメートと相談したり、辞書や必要な文献を利用しながら、テキストを読んで作業を進めることができる。
共生・協働する力	振り返りシートに署名を頼むことができない。	振り返りシートに署名を頼むことができたと同時に、誰かのシートに署名することができる。	振り返りシートやクラスメートの作品にコメントをすることができた。または、協同作業で自分の分担をこなすことができる。	自分の分担をこなすだけでなく、クラスメートやチームメートと、積極的に協力しながら、課題をこなすことができる。

創造・発信力	教えられた内容しか書くことができない。	教えられた内容やモデルを見て、その一部を変えて書くことができる。	教えられた内容やモデルを見て、自分で考えた文や内容を追加できる。	教えられた内容やモデルを見て、自分オリジナルの文や内容を考えることができる。
--------	---------------------	----------------------------------	----------------------------------	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
自分の英語力を知ったうえで、授業の目標、進め方、評価、全体の授業内容など授業全般の注意事項に関する説明を聞き、最後に自分の目標を設定する。
- 第 2 回 PBL1：ショートストーリーを書く①：
ショートストーリー 1（テーマ：Autumn）を完成させる
- 第 3 回 PBL1：ショートストーリーを書く②：
ショートストーリー 2（自由テーマ）を完成させる
- 第 4 回 PBL1：ショートストーリーの品評会
チームメートの作品を読んで批評する、また自分の作品についてチームメートから批評を受ける
- 第 5 回 PBL2：多読①
多読の必要性について理解し、わかりやすい英語で書かれた本を読む
- 第 6 回 PBL2：多読②
目標を修正し、英語の本を選んで読む
- 第 7 回 PBL2：多読③：発表
スライドを使って、お気に入りの1冊について発表する
- 第 8 回 PBL2：多読④：英作文
発表を英作文にまとめる
- 第 9 回 PBL3：絵本づくり①：
物語の構成、完成
- 第 10 回 PBL3：絵本づくり②：
絵本の完成
- 第 11 回 PBL3：絵本づくり③：
絵本の品評会
- 第 12 回 PBL4：まとめの英作文①：
英作文の下書き完成
- 第 13 回 PBL4：まとめの英作文②：
ピア・レビューと英作文の修正
- 第 14 回 PBL4：まとめの英作文③：
英作文の清書と自己評価
- 第 15 回 後期の振り返りと自己評価
自分の学習を提出課題をもとに学習した内容を振り返り、自己評価する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本授業はプロジェクト形式で行われます。授業では、学習するみなさんが主体となって、クラスメートと協働しながら、

さまざまなライティングに関わる活動に参加していただきます。そのため、授業中はペアやグループによる学生同士の話し合いの場が設けられます。3~4名のグループでの発表も課されます。このように、教室では、できるだけ英語を使ってコミュニケーションを図るなど、主体的かつ能動的な英語の作文練習を行います。

課題に関するフィードバックは、必要と要望に応じて、授業内またはweb上で、教師あるいは他の学生から、個人または全体に対して行います。

基礎的な英語能力の定着を図るため、授業外の多読を推奨します。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

英作文は基本的に授業中に完成させます。その授業時間内に完成できるよう、必要なことがあれば次の授業までにその準備をして臨みましょう。授業中に課題が完成しない場合、次回授業までに必ず授業外に完成させましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、自己管理できるよう、予め示した判定方法にしたがって、算定可能な形で示します。まとめの英作文は、教員の示す判定基準に基づいて自己採点をします。同時に、教員も同じ判定基準で採点をします。最終評価は、以下に示した割合を基本とし、教員が総合的に判断し、行います。

- ・授業参加点（予習、発表及び課題提出点を含む）（40%）、
- ・英作文・課題点（まとめの英作文を含む）（60%）

皆さんは、第一回目の授業で、評価方法を知り、自分で目標とする評価を決め、各プロジェクトを通して、自分の目標点を達成するために努力することが求められます。

〔留意事項（Other Information）〕

・この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れます。

・上述に関連し、状況に応じて、事前連絡のうえ、授業予定を変更する場合があります。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

・この授業では、1) 授業内では学習するみなさんが主体となって、クラスメートと協働してさまざまなライティングに関わる活動に参加する、2) 辞書を持って授業に出席する、これら2つが強く求められます。さらに、授業ごとに細かく点数配分が決まっているので、出席を自己管理する必要があります。

・英作文は必ず自分のオリジナルなものを提出してください。提出作品に剽窃・盗用が認められた場合、それ以前に提出した課題点もなくなります。

・授業の成果を上げるため、授業外での英語力向上に関する活動を推奨します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『もっと伝えるためのライティング』(東郷多津・田中美和子) 2017年(2nd edition)
プロジェクトごとに印刷資料として配布します。
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
Evergreen / いいずな書店/ 2017年
英語意味順学習法/ 田地野彰/ ディスカヴァー・トゥエンティワン/ 2011
Oxford Junior Illustrated Thesaurus
Graded Readers
〔参考URL(URL for Reference) 〕
「意味順学習法」とは/ https://www.youtube.com/watch?v=YjBC4zn_Z3s
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
0

英語表現 II G 2021年度以降入学者

GBE1353G0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
水曜2限
DP3: 言語力
15
今村 梨沙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、日常で使用できる英語表現を習得し、それらを用いて自分の考えを表現することです。リスニングと音読を通して会話で使用されている英語表現を学習し、個々の単語の発音も確認し、適切に発音、音読できることを目指します。また、会話を通して得た英語表現を用いたライティングおよびスピーキング活動を通して、他者に自分の意見や考えを伝える力を養います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに習得している基礎的な英文法を再確認すること
2. 英語を使用する場面で使える様々な表現を習得すること
3. 英会話から必要な情報を読み取り、理解すること
4. 自分が伝えたいことを英語で表現できるようになること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

Writing	テキストで扱われているようなごく基本的な日常表現や個人的情報であっても、英語でまとめた文を書くことができない。	テキストで扱われているようなごく基本的な個人情報や家族情報、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	テキストで扱われているような特定の話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。	テキストで扱われている特定の話題はもちろん、さらに複雑な話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。
共生・協働する力	ペア・グループ活動に参加できない。	ペア・グループ活動に教員に促されて参加できる。	ペア・グループ活動に主体的に参加できる。	ペア・グループ活動に主体的に参加し、積極的にクラスメイトと協力して課題をこなすことができる。
創造・発信力	授業で教えられたことしか書いて話すことができない。	授業で教えられたことをモデルとしてその一部を変えて書いて話すことができる。	授業で教えられたことをモデルとして、自分で考えた文章や内容を書いて話すことができる。	授業で教えられたことを参考にし、独自の文章や内容を書いて話すことができる。
言語力	基礎的な英文法や英単語および英語表現がわからず、調べることもできない。	基礎的な英文法や英単語および英語表現を思い出して使用することができる。	基礎的な英文法や英単語および英語表現を理解できていて、発展的な語彙を調べて使用することができる。	基礎的な英文法や英単語および英語表現だけでなく、発展的な語彙を用いて正しく使用することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 第1回目授業
オリエンテーション
Unit 8 potluck partyについて学ぼう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 2 回 第2回目授業
Unit 8 & Unit 9 物事を描写する英語表現の復習をしよう
リスニング・スピーキング・ライティング活動

- 第 3 回 第3回目授業
Unit 9 & Unit 10 日本の四季について英語で説明しよう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 4 回 第4回目授業
Unit 10 好きな季節について英語で話そう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 5 回 第5回目授業
Unit 11 日本のお茶の文化について英語で話そう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
※第1回小テストあり
- 第 6 回 第6回目授業
Unit11 英語で間違い探し
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 7 回 第7回目授業
Unit 12 日本料理について英語で話そう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 8 回 第8回目授業
Unit 12 好きな日本料理を英語で説明しよう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 9 回 第9回目授業
Unit 13 アルバイト先で使える英語表現を学ぼう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
※第2回小テストあり
- 第 10 回 第10回目授業
Unit 13 アルバイト先で英語で対応する練習をしよう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 11 回 第11回目授業
Unit 14 買い物で使える英語表現を学ぼう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 12 回 第12回目授業
Unit 14 買い物で使える英語表現を使おう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 13 回 第13回目授業
Unit 15 日本の観光名所について英語で学ぼう—浅草を舞台に
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
※第3回小テストあり
- 第 14 回 第14回目授業
Unit 15 オススメの観光スポットを英語で紹介しよう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
※Presentationあり
- 第 15 回 第15回目授業
まとめ
リスニング・スピーキング・ライティング活動

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各Unit を 2 回に分けて学習します。1 回目は、教科書の”Dialogue”の部分の会話の映像を対象にリスニングや音読活動をして、ターゲットとなる文法や語彙を学習します。2 回目は、会話で出てきた語彙や英語表現を使って、会話や発表の原稿を作成して、完成したものをグループやペアで発表を行います。

小テストでは、学習した英語表現や語彙の確認を行います。採点は担当教員が行い、実施した翌週に返却します。

ライティング活動で書いたものをクラスメイト同士で発表し、相互評価します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

クラスで使用するテキストの動画と音声は、全てPCやスマートフォン、携帯端末などから視聴することができます。事前に予習をし、授業後は復習をするようにしてください。授業中のライティング活動に備えて、予め指定されたトピックについて書く内容を決めた状態で授業へ参加することを勧めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト (30%)

授業内で作成するライティング課題 (25%)

発表 (20%)

Presentation (15%)

授業参加度 (10%)

※授業参加度とは、提出物の提出状況や対面授業時のペアまたはグループ活動への参加度、スピーキング活動、発言などを指します。

〔留意事項 (Other Information)〕

・初回の授業から教科書を使用するので、可能な限りそれまでに購入して持参するようにしてください。

・毎回ペアおよびグループワークを行いますので、クラスメイトと協同して主体的に参加することが求められます。

・アルバイト先や訪日外国人観光客への対応、自分が海外旅行へ行った時に役に立つような英語を学びたい方には受講を勧めます。特に教科書Unit 14、Unit 15ではお店での英語のやりとりがターゲットになっています。

・言語を学ぶことはその国の文化を学ぶことでもあるので、英語圏の文化や情勢についても授業で紹介するので、それらに興味のある方にも受講を勧めます。

・各unitで英語の発音の仕組みや英語独特の音の現象などに触れるので、英語の発音を理解してリスニング力を高めたい、今よりさらに適切な発音で英語を話したい方にも受講を勧めます。

・参考文献は授業内でお伝えします。各学科に合ったものも紹介します。

・TOEIC受験対策の情報提供もします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ようこそ！ニッポンへ-映像で学ぶ大学基礎英語 留学生の日本文化体験-』/石井洋佑、加藤由崇、中川浩/朝日出版社/2018/978-4-255-15613-2/学内販売予定 (前期「英語表現 I G」と同じ)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語表現 II H 2021年度以降入学者

GBE1353H0J
大学
共通教育科目
1年次 後期
1単位 水曜1限
DP3：言語力
15
今村 梨沙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は、日常で使用できる英語表現を習得し、それらを用いて自分の考えを表現することです。リスニングと音読を通して会話で使用されている英語表現を学習し、個々の単語の発音も確認し、適切に発音、音読できることを目指します。また、会話を通して得た英語表現を用いたライティングおよびスピーキング活動を通して、他者に自分の意見や考えを伝える力を養います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. すでに習得している基礎的な英文法を再確認すること
2. 英語を使用する場面で使える様々な表現を習得すること
3. 英会話から必要な情報を読み取り、理解すること
4. 自分が伝えたいことを英語で表現できるようになること
5. ペアやグループワークを通じて、自分の英語学習を深める方法を知り、実践すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

Writing	テキストで扱われているようなごく基本的な日常表現や個人的情報であっても、英語でまとめた文を書くことができない。	テキストで扱われているようなごく基本的な個人情報や家族情報、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現を使って書くことができる。	テキストで扱われているような特定の話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。	テキストで扱われている特定の話題はもちろん、さらに複雑な話題について、複数の英文を組み合わせてパラグラフにまとめることができる。
共生・協働する力	ペア・グループ活動に参加できない。	ペア・グループ活動に教員に促されて参加できる。	ペア・グループ活動に主体的に参加できる。	ペア・グループ活動に主体的に参加し、積極的にクラスメイトと協力して課題をこなすことができる。
創造・発信力	授業で教えられたことしか書いて話すことができない。	授業で教えられたことをモデルとしてその一部を変えて書いて話すことができる。	授業で教えられたことをモデルとして、自分で考えた文章や内容を書いて話すことができる。	授業で教えられたを参考にして、独自の文章や内容を書いて話すことができる。
言語力	基礎的な英文法や英単語および英語表現がわからず、調べることもできない。	基礎的な英文法や英単語および英語表現を思い出して使用することができる。	基礎的な英文法や英単語および英語表現を理解できていて、発展的な語彙を調べて使用することができる。	基礎的な英文法や英単語および英語表現だけでなく、発展的な語彙を用いて正しく使用することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 第1回目授業

オリエンテーション

Unit 8 potluck partyについて学ぼう

リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動

第 2 回 第2回目授業

Unit 8 & Unit 9物事を描写する英語表現の復習をしよう

リスニング・スピーキング・ライティング活動

- 第 3 回 第3回目授業
Unit 10 日本の四季について英語で説明しよう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 4 回 第4回目授業
Unit 10 好きな季節について英語で話そう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 5 回 第5回目授業
Unit 11 日本のお茶の文化について英語で話そう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
※第1回小テストあり
- 第 6 回 第6回目授業
Unit11 英語で間違い探し
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 7 回 第7回目授業
Unit 12 日本料理について英語で話そう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 8 回 第8回目授業
Unit 12 好きな日本料理を英語で説明しよう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 9 回 第9回目授業
Unit 13 アルバイト先で使える英語表現を学ぼう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
※第2回小テストあり
- 第 10 回 第10回目授業
Unit 13 アルバイト先で英語で対応する練習をしよう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 11 回 第11回目授業
Unit 14 買い物で使える英語表現を学ぼう
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
- 第 12 回 第12回目授業
Unit 14 買い物で使える英語表現を使おう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
- 第 13 回 第13回目授業
Unit 15 日本の観光名所について英語で学ぼう—
浅草を舞台に
リスニング・ディクテーション・スピーキング・音読活動
※第3回小テストあり
- 第 14 回 第14回目授業
Unit 15 オススメの観光スポットを英語で紹介しよう
リスニング・スピーキング・ライティング活動
※Presentationあり
- 第 15 回 第15回目授業
まとめ
リスニング・スピーキング・ライティング活動

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各Unit を 2 回に分けて学習します。1 回目は、教科書の” Dialogue”の部分の会話の映像を対象にリスニングや音読活動をして、ターゲットとなる文法や語彙を学習します。2 回目は、会話で出てきた語彙や英語表現を使って、会話や発表の原稿を作成して、完成したものをグループやペアで発表を行います。

小テストでは、学習した英語表現や語彙の確認を筆記にて行います。採点は担当教員が行い、実施した翌週に返却します。

ライティング活動で書いたものをクラスメイト同士で発表し、相互評価します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

クラスで使用するテキストの動画と音声は、全てPCやスマートフォン、携帯端末などから視聴することができます。事前に予習をし、授業後は復習をすること勧めます。

授業中のライティング活動に備えて、予め指定されたトピックについて書く内容を決めた状態で授業へ参加することを勧めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト (30%)

授業内で作成するライティング課題 (25%)

発表 (20%)

Presentation (15%)

授業参加度 (10%)

※授業参加度とは、提出物の提出状況や対面授業時のペアまたはグループ活動への参加度、スピーキング活動、発言などを指します。

〔留意事項 (Other Information)〕

・初回の授業から教科書を使用するので、可能な限りそれまでに購入して持参するようにしてください。

・毎回ペアおよびグループワークを行いますので、クラスメイトと協同して主体的に参加することが求められます。

・アルバイト先や訪日外国人観光客への対応、自分が海外旅行へ行った時に役に立つような英語を学びたい方には受講を勧めます。特に教科書Unit 14、Unit 15ではお店でのやりとりがターゲットになっています。

・言語を学ぶことはその国の文化を学ぶことでもあるので、英語圏の文化や情勢についても授業で紹介するので、それらに興味のある方にも受講を勧めます。

・各unitで英語の発音の仕組みや英語独特の音の現象などに触れるので、英語の発音を理解してリスニング力を高めたい、今よりさらに適切な発音で英語を話したい方にも受講を勧めます。

・参考文献は授業内でお伝えします。各学科に合ったものも紹介します。

・TOEIC受験対策の情報提供もします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ようこそ！ニッポンへ-映像で学ぶ大学基礎英語 留学生の日本文化体験-』/石井洋佑、加藤由崇、中川浩/朝日出版社/2018/978-4-255-15613-2/学内販売予定 (前期「英語表現ⅠH」と同じ)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

0

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英語表現Ⅱ J 2021年度以降入学者

GBE1353J0J
大学
共通教育科目
1年次 後期
1単位 水曜2限
DP3: 言語力 15
黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、ごく基本的な日常表現や、家庭や学校での表現、自分自身や家族の情報を伝える表現などを身につけます。それらの表現を用いて英文を書き、話すことで、英語を自分の言葉として「使う」ことに慣れ、英語で伝えたい内容を伝えることができるようになることを目指します。また、基礎となる知識や能力を身につけ、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり（書きとり）を行い、読解力やリスニングの力を養う。
2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。
3. テキストの英文や表現を用いて会話を作り（ペアワーク）、それらの表現を使えるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
語彙力	中学レベルの単語やイディオムすら身につけていない	中学・高校レベルの単語やイディオムが部分的に身につけている	中学・高校レベルの単語やイディオムが十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な単語やイディオムについても身につけている

文法力	中学レベルの文法や構文すら身につけていない	中学・高校レベルの文法や構文が部分的に身につけている	中学・高校レベルの文法や構文が十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な文法や構文についても身につけている
Writingの力(作文力)	Writingの力(作文力)基本的な英文を書くことができない	基本的な英文を正確に書くことができる	基本的な英文を組み合わせて、より長い英文を書くことができる	レベル3に加えて、より高度な英文も正確に書くことができる
Speakingの力	基本的な英会話をすることができない	基本的な英会話をするができる	基本的な英会話を流暢にすることができる	レベル3に加えて、より高度な英会話を流暢にすることができる
共生・協働する力	英語を使用する際の場面や状況の重要性について理解することができない	英語を使用する際の場面や状況の重要性について理解している	特定の場面や状況における表現を適切に使用することができる	レベル3に加えて、自ら積極的に特定の場面や状況における表現について調べることができる
自分を育てる力	自学・自習に取り組むことができない	授業で提示された課題に取り組むことができる	授業で提示された課題の意図を理解し、積極的に自学・自習に取り組むことができる	レベル3に加えて、自ら目標を設定し、授業で提示されていない課題に対しても積極的に取り組むことができる

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Part2 27 図書室で p.118
28 放課後の過ごし方 p.122
- 第3回 Part3 29 自分の家族について話す p.134
30 日本での生活について話す p.138
- 第4回 Part3 31 趣味の映画の話をする p.142
32 自分の将来の夢について話す p.146
- 第5回 Part3 33 和食について話す p.150
34 日本の文化について話す p.154
- 第6回 Part3 35 日本の歴史について話す p.158
Part4 36 食事のマナー p.166
- 第7回 Part4 37 食前・食後のあいさつ p.170
38 食べられないものがあるとき p.174
- 第8回 Part4 39 和食を作ってあげる p.178
40 スーパーマーケットで p.182
- 第9回

- Part4 41 デパートで p.186
 42 ショッピングモールで p.190
- 第 10 回 Part4 43 支払いのとき p.194
 44 スポーツを楽しむ p.198
- 第 11 回 Part4 45 美術館に行く p.202
 46 パーティで p.206
- 第 12 回 Part4 47 バスに乗る p.210
 48 電車・地下鉄に乗る p.214
- 第 13 回 Part4 49 タクシーに乗る p.218
 50 道に迷う p.222
- 第 14 回 Part4 51 体調不良のとき p.226
 52 病院で p.230
- 第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、テキストの音声の書き取りと、テキスト内の表現を用いた英作文を中心とする授業中のトレーニングによって、英語能力の向上を目指します。また、単語や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。小テストは次の回で返却し、結果をフィードバックします。授業中は、留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、様々な場面における英語表現に触れることで、場面ごとに適切な自己表現ができるようになることを目標として、各場面ごとにペアワークを取り入れた英作文と会話練習を行います。各ペアは、その場面において自分たちならどんな会話をするかを考え、その会話を英作文します。授業ごとに、数組のペアに出来上がった会話を発表してもらいます。授業後は、復習(宿題)で理解度を確認し、次の授業で適宜コメントするなどのフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、予習をしてくること。範囲は授業中に連絡します。

(テキスト自体は比較的平易ですが、単語は割と難しいものもあります。)

(また、テスト範囲内の単語や表現の数は、割と多めです。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)

(単語テストは成績評価の30%を占めるため、時間をかけて取り組むこと。)

また、予習として、次回分の範囲の音声を最低でも一回は聞き、声に出して読んで来てくること。

復習として、各回で扱った範囲のテキストの会話について、毎回書き取りと読解をしてくること。

基礎的な英語力を養うために、毎回manabaの小テスト機能を用いて基本的な文法事項や語句、英作文などについての問題を出すので、指定された期日までに提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(30%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど

(40%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

比較的平易なテキストを用いますので、基本的な単語や文法項目、英作文に不安がある人の受講を勧めます。逆に、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力がある人にとっては簡単すぎるかもしれません。

音声付きのテキストを用いますので、ライティングだけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。留学・ホームステイにおける会話のテキストを用いますので、留学やホームステイに行ってみたい人や、留学やホームステイにおける英語の日常会話に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ホームステイの英会話リアル表現BOOK』/イムラン・スィディキ/ナツメ社/2016/9784816360121/学内販売予定

進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 II K 2021年度以降入学者

GBE1353K0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

黒田 一平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目的は基本的な英語ライティングの技術を習得することです。留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、ごく基本的な日常表現や、家庭や学校での表現、自分自身や家族の情報を伝える表現などを身につけます。それらの表現を用いて英文を書き、話すことで、英語を自分の言葉として「使う」ことに慣れ、英語で伝えたい内容を伝えることができるようになることを目指します。また、基礎となる知識や能力を身につけ、各自の必要に応じて独力で英語の学習ができるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの音声の聞きとり(書きとり)を行い、読解力やリスニングの力を養う。

2. テキスト内の単語・表現についての小テストを行い、語彙力を向上させる。

3. テキストの英文や表現を用いて会話を作り（ペアワーク）、それらの表現を使えるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
語彙力	中学レベルの単語やイディオムすら身につけていない	中学・高校レベルの単語やイディオムが部分的に身につけている	中学・高校レベルの単語やイディオムが十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な単語やイディオムについても身につけている
文法力	中学レベルの文法や構文すら身につけていない	中学・高校レベルの文法や構文が部分的に身につけている	中学・高校レベルの文法や構文が十分に身につけている	レベル3に加えて、より高度な文法や構文についても身につけている
Writing の力(作文力)	基本的な英文を書くことができない	基本的な英文を正確に書くことができる	基本的な英文を組み合わせ、より長い英文を書くことができる	レベル3に加えて、より高度な英文も正確に書くことができる
Speaking の力	基本的な英会話をすることができない	基本的な英会話をするができる	基本的な英会話を流暢にすることができる	レベル3に加えて、より高度な英会話を流暢にすることができる
共生・協働する力	英語を使用する際の場面や状況の重要性について理解することができない	英語を使用する際の場面や状況の重要性について理解している	特定の場面や状況における表現を適切に使用することができる	レベル3に加えて、自ら積極的に特定の場面や状況における表現について調べることができる
自分を育てる力	自学・自習に取り組むことができない	授業で提示された課題に取り組むことができる	授業で提示された課題の意図を理解し、積極的に自学・自習に取り組むことができる	レベル3に加えて、自ら目標を設定し、授業で提示されていない課題に対しても積極的に取り組むことができる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回

Part2 27 図書室で p.118

28 放課後の過ごし方 p.122

第 3 回 Part3 29 自分の家族について話す p.134

30 日本での生活について話す p.138

第 4 回 Part3 31 趣味の映画の話を p.142

32 自分の将来の夢について話す p.146

第 5 回 Part3 33 和食について話す p.150

34 日本の文化について話す p.154

第 6 回 Part3 35 日本の歴史について話す p.158

Part4 36 食事のマナー p.166

第 7 回 Part4 37 食前・食後のあいさつ p.170

38 食べられないものがあるとき p.174

第 8 回 Part4 39 和食を作ってあげる p.178

40 スーパーマーケットで p.182

第 9 回 Part4 41 デパートで p.186

42 ショッピングモールで p.190

第 10 回 Part4 43 支払いのとき p.194

44 スポーツを楽しむ p.198

第 11 回 Part4 45 美術館に行く p.202

46 パーティで p.206

第 12 回 Part4 47 バスに乗る p.210

48 電車・地下鉄に乗る p.214

第 13 回 Part4 49 タクシーに乗る p.218

50 道に迷う p.222

第 14 回 Part4 51 体調不良のとき p.226

52 病院で p.230

第 15 回 まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では、テキストの音声の書き取りと、テキスト内の表現を用いた英作文を中心とする授業中のトレーニングによって、英語能力の向上を目指します。また、単語や表現の定着を行うために、授業ごとに小テストを実施します。小テストは次の回で返却し、結果をフィードバックします。授業中は、留学とホームステイに関する比較的平易な音声付き英文テキストを用いて、様々な場面における英語表現に触れることで、場面ごとに適切な自己表現ができるようになることを目標として、各場面ごとにペアワークを取り入れた英作文と会話練習を行います。各ペアは、その場面において自分たちならどんな会話をするかを考え、その会話を英作文します。授業ごとに、数組のペアに出来上がった会話を発表してもらいます。授業後は、復習(宿題)で理解度を確認し、次回の授業で適宜コメントするなどのフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回行う単語テストに備え、予習をしてくること。範囲は授業中に連絡します。

(テキスト自体は比較的平易ですが、単語は割と難しいものもあります。)

(また、テスト範囲内の単語や表現の数は、割と多めです。)

(覚えられない単語や表現は、何度も書いて覚えましょう。)

(単語テストは成績評価の30%を占めるため、時間をかけて

取り組むこと。)

また、予習として、次回分の範囲の音声をも最低でも一回は聞き、声に出して読んで来てもらうこと。

復習として、各回で扱った範囲のテキストの会話について、毎回書き取りと読解をしてもらうこと。

基礎的な英語力を養うために、毎回manabaの小テスト機能を用いて基本的な文法事項や語句、英作文などについての問題を出すので、指定された期日までに提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回行う単語テスト(30%)、15回目の授業で行うまとめテスト(30%)、授業中の参加態度・宿題や課題への取り組みなど(40%)の総合評価とします。授業に欠席すると単語テストが受けられなくなるため注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回の授業までに教科書を購入しておくこと。

授業には必ず辞書を持参すること。

出席確認等でmanabaおよびresponを利用するので、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を持参すること。

・本クラスは、以下のような人にオススメです。

比較的平易なテキストを用いますので、基本的な単語や文法項目、英作文に不安がある人の受講を勧めます。逆に、すでにある程度基礎的な英語の知識や能力がある人にとっては簡単すぎるかもしれません。

音声付きのテキストを用いますので、ライティングだけでなくリスニングの力も身につけたい人にも受講を勧めます。留学・ホームステイにおける会話のテキストを用いますので、留学やホームステイに行ってみたい人や、留学やホームステイにおける英語の日常会話に興味がある人にも受講を勧めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ホームステイの英会話リアル表現BOOK』/イムラン・スィディキ/ナツメ社/2016/9784816360121/学内販売予定
進度や必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現ⅡL 2021年度以降入学者

GBE1353LOJ

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜2限

DP3: 言語力

15

田中 美和子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、英文法の知識と英単語の習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、訳せるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	英語の基礎的な文法・語彙に関する知識が不十分である。	英語の基礎的な文法・語彙に関する知識が習得できている。	英語の体系的な文法・語法に関する知識を基に、短い文の読解や作文ができる。	英語の体系的な文法・語法に関する不快知識を基に、長文の読解や作文ができる。
言語力	英語発音記号、英文のイントネーションに関する知識の習得が不十分である。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、簡単な会話ができる。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、ある程度の会話ができる。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、英語で自分の意見を述べることができる。
創造・発信力	興味を持っていること、表現したいことが見つからない。	興味を持っていること、表現したいことを、見つけることができる。	興味を持っていること、表現したいことを、事前に準備すれば発信することができる。	興味を持っている事、表現したいことを、その場で発信することができる。

〔授業計画〕

第1回 U4 Possessions: 語彙と文法

オリエンテーション

U4-A Identify Personal Possessions: 語彙学習 指示代名詞、所有表現

第 2 回 U4 発音と表現

U4-B, C Talk about People's Possessions: 発音記号、所有を表す動詞、文型SVO
発音記号を学ぼう① 小テスト?

第 3 回 U4 リーディング

D Jewelry 英文読解、英語の文構造

第 4 回 U4 ライティングとリスニング

E Uncovering the Past: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習

リスニングのコツ①

ライティング課題?

第 5 回 U5 Daily Activities: 語彙と文法

U5-Tell Time: 語彙学習, 時間に関するさまざまな表現

第 6 回 U5 発音と表現

B,C Talk about People's Daily Activities: 発音記号、頻度を表す副詞
発音記号を学ぼう? 小テスト?

第 7 回 U5 リーディング

Unit5-D Describing a Dream Job: 英文読解、英語の文構造

第 8 回 U5 ライティングとリスニング

E Zoo Dentists: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
リスニングのコツ?

ライティング課題?

第 9 回 U6 Getting There: 語彙と文法

U6 Getting There: そこへ行くには

A Ask for and Give Directions: 語彙学習, 場所を表す前置詞句、命令文

第 10 回 U6 発音と表現

B,C Create and Use a Tour Route: 場所の尋ね方、have to

発音記号を学ぼう③ 小テスト③

第 11 回 U6 リーディング

Unit6-D Record a Journey: 英文読解、英語の文構造

第 12 回 U6 ライティングとリスニング

E Volcano Trek: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
リスニングのコツ③

ライティング課題③

第 13 回 日本語を英語にしてみよう①

ライティング

第 14 回 日本語を英語にしてみよう?

プレゼンテーション

第 15 回 まとめのテストと振り返り

総復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを4回に分けて学習します。1 回目は、そのユニットの語彙学習に始まり、主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2 回目に単語テスト。そして、発音記号の学習、そして文法事項を含む日常会話を聞き、対話文を実際に話す練習も行います。3 回目はユニットで焦点をあてたリーディングから始め、それに関連した構文を学びます。さらに4 回目は、ビデオを見ながらリスニング力を養い、その後、英作文をします。必ず英和・和英辞書を用意して、授業中に使ってください。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業には積極的に参加しましょう。小テストには準備をして臨みましょう。英文読解は、最後のテストにも出ますので、前もってノートに英文を書いて、わからない英単語を調べておきましょう。わかる範囲で予習として日本語訳をしておく、なお良いでしょう。ライティング課題に関しては、自由に調べて書いてみましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 1.小テストおよび諸課題 (40%)
- 2.ライティング課題 (20%)
- 3.発表課題 (10%): スピーチなど
- 4.授業参加度 (30%): 出席点と授業態度 (遅刻3回で欠席1回に換算する)

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書は『英語総合 I (前期)』と同じです。持っていない人のみ購入してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『World English Intro (third edition) Combo Split A』/John Hughes, Martin Milner /Cengage Learning/2019//学内販売予定

ISBN: 978-0-357-13027-8

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

英和・和英辞書を用意して下さい。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

GBE1353M0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 水曜1限
 DP3: 言語力
 15
 田中 美和子

【科目の教育目標 (Course Description)】

このクラスでは、英文法の知識と英単語の習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけることを目標としています。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、訳せるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	英語の基礎的な文法・語彙に関する知識が不十分である。	英語の基礎的な文法・語彙に関する知識が習得できている。	英語の体系的な文法・語法に関する知識を基に、短い文の読解や作文ができる。	英語の体系的な文法・語法に関する不快知識を基に、長文の読解や作文ができる。
言語力	英語発音記号、英文のイントネーションに関する知識の習得が不十分である。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、簡単な会話ができる。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、ある程度の会話ができる。	英語発音記号、イントネーションに関する知識を習得し、英語で自分の意見を述べることができる。
創造・発信力	興味を持っていること、表現したいことが見つからない。	興味を持っていること、表現したいことを、見つけることができる。	興味を持っていること、表現したいことを、事前に準備すれば発信することができる。	興味を持っている事、表現したいことを、その場で発信することができる。

【授業計画】

第 1 回 U4 Possessions: 語彙と文法

オリエンテーション

U4-A Identify Personal Possessions: 語彙学習 指示代名詞、所有表現

第 2 回 U4 発音と表現
 U4-B, C Talk about People's Possessions: 発音記号、所有を表す動詞、句型SVO
 発音記号を学ぼう① 小テスト①

第 3 回 U4 リーディング
 D Jewelry 英文読解、英語の文構造

第 4 回 U4 ライティングとリスニング
 E Uncovering the Past: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
 リスニングのコツ①
 ライティング課題①

第 5 回 U5 Daily Activities: 語彙と文法
 U5-Tell Time: 語彙学習、時間に関するさまざまな表現

第 6 回 U5 発音と表現
 B,C Talk about People's Daily Activities: 発音記号、頻度を表す副詞
 発音記号を学ぼう? 小テスト?

第 7 回 U5 リーディング
 Unit5-D Describing a Dream Job: 英文読解、英語の文構造

第 8 回 U5 ライティングとリスニング
 E Zoo Dentists: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
 リスニングのコツ?
 ライティング課題?

第 9 回 U6 Getting There: 語彙と文法
 U6 Getting There: そこへ行くには
 A Ask for and Give Directions: 語彙学習、場所を表す前置詞句、命令文

第 10 回 U6 発音と表現
 B,C Create and Use a Tour Route: 場所の尋ね方、have to
 発音記号を学ぼう③ 小テスト③

第 11 回 U6 リーディング
 Unit6-D Record a Journey: 英文読解、英語の文構造

第 12 回 U6 ライティングとリスニング
 E Volcano Trek: ビデオを用いたリスニング、ライティング学習
 リスニングのコツ③
 ライティング課題③

第 13 回 日本語を英語にしてみよう①
 ライティング

第 14 回 日本語を英語にしてみよう?
 プレゼンテーション

第 15 回 まとめのテストと振り返り
 総復習

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、各ユニットを4回に分けて学習します。1回目は、そのユニットの語彙学習に始まり、主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目に単語テスト。そして、発音記号の学習、そして文法事項を含む日常会話を聞き、対話文を実際に話す練習も行います。3回目はユニットで焦点をあてたリーディングから始め、それに関連した構文を学びます。さらに4回目は、ビデオを見ながらリスニング力を養い、その後、英作文をします。必ず英和・和英辞書を用意して、授業中に使ってください。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業には積極的に参加しましょう。小テストには準備をして臨みましょう。英文読解は、最後のテストにも出ますので、前もってノートに英文を書いて、わからない英単語を調べておきましょう。わかる範囲で予習として日本語訳をしておくと、なお良いでしょう。ライティング課題に関しては、自由に調べて書いてみましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 1.小テストおよび諸課題 (40%)
- 2.ライティング課題 (20%)
- 3.発表課題 (10%) : スピーチなど
- 4.授業参加度 (30%) : 出席点と授業態度 (遅刻3回で欠席1回に換算する)

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書は『英語総合 I (前期)』と同じです。持っていない人のみ購入してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『World English Intro (third edition) Combo Split A』/John Hughes, Martin Milner /Cengage Learning/2019//学内販売予定

ISBN: 978-0-357-13027-8

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

英和・和英辞書を用意して下さい。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現 II N 2021年度以降入学者

GBE1353N0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
水曜2限
DP3 : 言語力
15
岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、ロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて、英文法の知識と語彙やフレーズの習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけること、英語で自分のことを表現できるようになることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、文章を書けるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること
5. 自分の日課としてのEnglish Activityを設定し、それを継続して行うこと (個人プロジェクト)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語で簡単な自己紹介ができない。	英語で簡単な自己紹介ができる。	英語で「事実」や「出来事」を表現することができる。	英語で自分の意見を表現することができる。
知識・理解力	テキストに出てくる単語が理解できない。調べることもできない。	テキストに出てくる単語が理解できる。わからない単語の意味を調べることができる。	テキストに出てくる単語や熟語が理解でき、テキストの内容にあった日本語の意味がとれる。	学習した英単語や熟語を使って、さらには自ら辞書を引いて新しい語彙を使用し英文を作ることができる。
言語力	基本的な英単語や英文法がわからない。	基本的な英単語や英文法が理解できており、英語で文を書くことができる。	自分のことや、身近な話題について、英語で文章を書くことができる。	様々な話題について英語で文章を書くことができ、さらに自分の意見を英語で述べることができる。

思考・解決力	テキストや教員の指示に従って、英語で文を書くことができない。	テキストや教員の指示に従って、英語で文を書くことができる。	英語で文を書く際に、順序だてて文章を書くことができる。	英語で文を書く際に、論理的に文章を書くことができる。
共生・協働する力	ペア・グループワークができない。	ペア・グループワークに参加することができる。	ペア・グループワークに積極的に参加することができる。	ペア・グループワークに主体的に参加し、仲間と意見を交換しあい、それを取りまとめることができる。
創造・発信力	テキストで学習した内容と同じ表現しかできない。	テキストで学習したことを参考に、その一部を変えて表現することができる。	テキストで学習したことを参考に、自分の意見を表現することができる。	具体的な情報などを用いて、自らの意見を表現することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 8 Shopping in Santa Monica
オリエンテーション、文法学習（助動詞）、リスニング、スピーキング
- 第 2 回 Unit 8 Shopping in Santa Monica
英文読解、英作文
- 第 3 回 Unit 9 Moving Day
文法学習（前置詞）、リスニング、スピーキング
- 第 4 回 Unit 9 Moving Day
英文読解、英作文
- 第 5 回 Unit 10 A Beautiful View
文法学習（現在完了）、リスニング、スピーキング
- 第 6 回 Unit 10 A Beautiful View
英文読解、英作文
- 第 7 回 Unit 11 Sunday Fun
文法学習（比較）、リスニング、スピーキング
- 第 8 回 Unit 11 Sunday Fun
英文読解、英作文
- 第 9 回 Unit 12 Seeing Stars
文法学習（WH疑問文）、リスニング、スピーキング
- 第 10 回 Unit 12 Seeing Stars
英文読解、英作文
- 第 11 回 Unit 13 Buying Food for a BBQ
文法学習（動名詞／不定詞）、リスニング、スピーキング
- 第 12 回 Unit 13 Buying Food for a BBQ
英文読解、英作文
- 第 13 回 Unit 14 Putting on a New Face

文法学習（接続詞）、リスニング、スピーキング
第 14 回 Unit 14 Putting on a New Face
英文読解、英作文

第 15 回 まとめ - Test & Presentation
Final Test、グループ発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業では、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ビデオシーンを見ながら、リスニングを行います。次に、その対話文を使って、語彙やフレーズも学びながら、グループで会話練習（スピーキング学習）を行います。主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書（紙の辞書、電子辞書など）を持参してください。

ユニットごとに、小テストを行います。

テストや英作文といった課題に対しては、毎回実施後にクラス全体への解説、又は個別にコメントを記載し返却します。又、授業の最終回ではグループでの英語によるスピーチ発表を行います。（TOPICは後期中頃の授業内で提示）

さらに、このクラスでは、前期に引き続き、個人プロジェクトとして、授業以外での一人ひとりの英語活動を推奨しています。詳細は初回授業で説明します。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

単語、熟語は各自事前に調べておくこと。

授業内でできなかった課題については必ず提出期限までに完成させ、提出すること。

テキストの動画、音声はすべては出版社の指定ウェブサイトから閲覧、またはPCやスマホに音声をダウンロードできます。事前に予習し、授業後は復習することを薦めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度及び、授業態度（予習・発表・ペアワーク）（10%）、小テスト（20%）、英作課題（30%）、プレゼンテーション（20%）、Final Test（10%）、個人プロジェクト（10%）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』／Robert Hickling, 白倉美里／金星堂／2018年／ISBN978-4-7647-4049-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現Ⅱ P 2021年度以降入学者

GBE1353POJ
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期
 水曜1限
 DP3：言語力
 15
 岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

このクラスでは、ロサンゼルスでの留学・ホームステイの場面を用いて、英文法の知識と語彙やフレーズの習得に力点を置きながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を使って、「使える」英語を身につけること、英語で自分のことを表現できるようになることを目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学習してきた語彙や文法の復習
2. 新しい語彙や表現の学習
3. 自分の力で英語を聞き、英語を読み、文章を書けるようになること
4. 自分の言いたいことが表現できるようになること
5. 自分の日課としてのEnglish Activityを設定し、それを継続して行うこと (個人プロジェクト)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	英語で簡単な自己紹介ができない。	英語で簡単な自己紹介ができる。	英語で「事実」や「出来事」を表現することができる。	英語で自分の意見を表現することができる。
知識・理解力	テキストに出てくる単語が理解できない。調べることもできない。	テキストに出てくる単語が理解できる。わからない単語の意味を調べることができる。	テキストに出てくる単語や熟語が理解でき、テキストの内容にあった日本語の意味がとれる。	学習した英単語や熟語を使用し、英語の文章を書くことができる。
言語力	基本的な英単語や英文法がわからない。	基本的な英単語や英文法が理解できており、英語で文を書くことができる。	自分のことや、身近な話題について、英語で文章を書くことができる。	学習した英単語や熟語を使って、さらには自ら辞書を引いて新しい語彙を使用し英文を作ることができる。

思考・解決力	テキストや教員の指示に従って、英語で文を書くことができない。	テキストや教員の指示に従って、英語で文を書くことができる。	英語で文を書く際に、順序だてて文章を書くことができる。	英語で文を書く際に、論理的に文章を書くことができる。
共生・協働する力	ペア・グループワークができない。	ペア・グループワークに参加することができる。	ペア・グループワークに積極的に参加することができる。	ペア・グループワークに主体的に参加し、仲間と意見を交換しあい、それを取りまとめることができる。
創造・発信力	テキストで学習した内容と同じ表現しかできない。	テキストで学習したことを参考に、その一部を変えて表現することができる。	テキストで学習したことを参考に、自分の意見を表現することができる。	具体的な情報などを用いて、自らの意見を表現することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 8 Shopping in Santa Monica
 オリエンテーション、文法学習 (助動詞)、リスニング、スピーキング
- 第 2 回 Unit 8 Shopping in Santa Monica
 英文読解、英作文
- 第 3 回 Unit 9 Moving Day
 文法学習 (前置詞)、リスニング、スピーキング
- 第 4 回 Unit 9 Moving Day
 英文読解、英作文
- 第 5 回 Unit 10 A Beautiful View
 文法学習 (現在完了)、リスニング、スピーキング
- 第 6 回 Unit 10 A Beautiful View
 英文読解、英作文
- 第 7 回 Unit 11 Sunday Fun
 文法学習 (比較)、リスニング、スピーキング
- 第 8 回 Unit 11 Sunday Fun
 英文読解、英作文
- 第 9 回 Unit 12 Seeing Stars
 文法学習 (WH疑問文)、リスニング、スピーキング
- 第 10 回 Unit 12 Seeing Stars
 英文読解、英作文
- 第 11 回 Unit 13 Buying Food for a BBQ
 文法学習 (動名詞/不定詞)、リスニング、スピーキング
- 第 12 回 Unit 13 Buying Food for a BBQ
 英文読解、英作文
- 第 13 回 Unit 14 Putting on a New Face

文法学習（接続詞）、リスニング、スピーキング
 第14回 Unit 14 Putting on a New Face
 英文読解、英作文
 第15回 まとめ - Test & Presentation
 Final Test、グループ発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業では、各ユニットを2回に分けて学習します。1回目は、ビデオシーンを見ながら、リスニングを行います。次に、その対話文を使って、語彙やフレーズも学びながら、グループで会話練習（スピーキング学習）を行います。主要な文法事項を解説後、それに関する問題に取り組みます。2回目は、学習した文法事項を含む英文を読み、英作文の練習を行います。必ず辞書（紙の辞書、電子辞書など）を持参してください。

ユニットごとに、小テストを行います。

テストや英作文といった課題に対しては、毎回実施後にクラス全体への解説、又は個別にコメントを記載し返却します。又、授業の最終回ではグループでの英語によるスピーチ発表を行います。（TOPICは後期中頃の授業内で提示）さらに、このクラスでは、前期に引き続き、個人プロジェクトとして、授業以外での一人ひとりの英語活動を推奨しています。詳細は初回授業で説明します。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

単語、熟語は各自事前に調べておくこと。

授業内でできなかった課題については必ず提出期限までに完成させ、提出すること。

テキストの動画、音声はすべては出版社の指定ウェブサイトから閲覧、またはPCやスマホに音声をダウンロードできます。事前に予習し、授業後は復習することを薦めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度及び、授業態度（予習・発表・ペアワーク）（10%）、小テスト（20%）、英作課題（30%）、プレゼンテーション（20%）、Final Test（10%）、個人プロジェクト（10%）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『We Love L.A.! L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』／Robert Hickling, 白倉美里／金星堂／2018年／ISBN978-4-7647-4049-5

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語表現Ⅱ Q 2021年度以降入学者

GBE1353Q0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

水曜2限

DP3：言語力

15

平野 あかり

〔科目の教育目標（Course Description）〕

異文化コミュニケーションをテーマとする英文を読み、トピックに関する理解を深め、意見を書いて表現（ライティング）できることを目指します。

また、異文化コミュニケーションの基本的な理論や概念を学び、知識を深めながら多様な言語や文化間の問題について考えます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

英語の既習の知識を活用し、英文を理解するために必要な語彙・表現を習得しながら、文章から要点を読み取る力を養います。また、英文から得た知識や表現を活用し、英文で表現・産出ができることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する
知識・理解力	知識の不足を補う努力がみられない	消極的ながら知識を補う姿勢がみられる	学習に必要な知識を積極的に補う姿勢がみられる	常に積極的に知識を深める姿勢がみられる
言語力①	基本的な語彙運用ができない	基本的な語彙運用ができる	ある程度多様な語彙運用ができる	多様な語彙を適切に使用することができる
言語力②	基本的な文構造を使用することができない	基本的な文構造を使用することができる	いくつかの文構造を使用することができる	多様な文構造を使用することができる
批判的思考力	論拠や例を用いて議論することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて議論することができる	概ね適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる	適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

オリエンテーションを行いません。

- 第 2 回 Essentialism
本質主義について学びます。
- 第 3 回 Non-essentialism
非本質主義について学びます。
- 第 4 回 Socialization
社会化について学びます。
- 第 5 回 Cultural Identity
文化的アイデンティティについて学びます。
- 第 6 回 Cultural Hybridity
文化のハイブリッド化について学びます。
- 第 7 回 Stereotypes
ステレオタイプ（固定概念）について学びます。
- 第 8 回 まとめ 1（中間エッセイ）
これまでのトピックの中から、中間エッセイを作成します。
- 第 9 回 Representation
芸術やメディアにおける文化的表出について学びます。
- 第 10 回 Time and Culture
それぞれの文化における時間に対する考え方の違いについて考えます。
- 第 11 回 Discourse
談話について学びます。
- 第 12 回 Collectivism and Individualism
集団主義と個人主義について学びます。
- 第 13 回 High-context and Low-context Culture
高・低文脈文化について学びます。
- 第 14 回 まとめ 2（期末の下書き）
第9回～13回のまとめと期末エッセイの下書きを作成します。
- 第 15 回 総括
第9回以降のトピックの中から、期末エッセイを作成します。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施しません。レポート課題（エッセイ）により採点します。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

毎回の授業では、様々な観点から異文化コミュニケーションについてのトピックを取り上げ、テキストと補助教材（映像・音声などを使用予定）を使用して学習します。

また、各テーマに関する考察を英文で作成し、得た知識や表現を産出につなげる機会とします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業で扱うトピックについて内容を読み、要点を把握します。トピックに関連する議題や質問について、適宜オンラインの文献等を使用して知識を深め、意見を述べるができるようにしましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間(各回1時間)

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

レポート課題（中間・期末エッセイ） 60%

毎回のオンライン課題提出またはワークシート 40%

〔留意事項（Other Information）〕

エッセイは原則、パソコンを用いてMicrosoft Office Wordで作成していただきます（自身のノートパソコンを持参するのが望ましい）。課題の多くはオンライン提出になる予定です。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

Exploring Landscapes of Culture & Communication 英語で学ぶはじめての異文化コミュニケーション論/Michael Ruddick, Simon Pryor, JA Kusaka 著/松柏社/2018年

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

ALC 英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イデオム検索に便利なオンライン辞書

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書

Grammarly

<https://www.grammarly.com/>

英文添削（スペリング、文法ミスの校正）

DeepL

<https://www.deepl.com/ja/translator>

翻訳ツール（訳は必ず自分で確認・修正しましょう）

Thesaurus

<https://www.thesaurus.com/>

類語辞典（多様な表現を検索）

Academic Phrasebank

<http://www.phrasebank.manchester.ac.uk/>

アカデミック英語の表現集（応用）

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

GBE1353R1J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 後期
水曜1限
DP3：言語力
15
平野 あかり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

異文化コミュニケーションをテーマとする英文を読み、トピックに関する理解を深め、意見を書いて表現 (ライティング) できることを目指します。

また、異文化コミュニケーションの基本的な理論や概念を学び、知識を深めながら多様な言語や文化間の問題について考えます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語の既習の知識を活用し、英文を理解するために必要な語彙・表現を習得しながら、文章から要点を読み取る力を養います。また、英文から得た知識や表現を活用し、英文で表現・産出ができることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する
知識・理解力	知識の不足を補う努力がみられない	消極的ながら知識を補う姿勢がみられる	学習に必要な知識を積極的に補う姿勢がみられる	常に積極的に知識を深める姿勢がみられる
言語力①	基本的な語彙運用ができない	基本的な語彙運用ができる	ある程度多様な語彙運用ができる	多様な語彙を適切に使用することができる
言語力②	基本的な文構造を使用することができない	基本的な文構造を使用することができる	いくつかの文構造を使用することができる	多様な文構造を使用することができる
批判的思考力	論拠や例を用いて議論することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて議論することができる	概ね適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる	適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーションを行いません。

- 第 2 回 Essentialism
本質主義について学びます。
- 第 3 回 Non-essentialism
非本質主義について学びます。
- 第 4 回 Socialization
社会化について学びます。
- 第 5 回 Cultural Identity
文化的アイデンティティについて学びます。
- 第 6 回 Cultural Hybridity
文化のハイブリッド化について学びます。
- 第 7 回 Stereotypes
ステレオタイプ (固定概念) について学びます。
- 第 8 回 まとめ 1 (中間エッセイ)
これまでのトピックの中から、中間エッセイを作成します。
- 第 9 回 Representation
芸術やメディアにおける文化的表出について学びます。
- 第 10 回 Time and Culture
それぞれの文化における時間に対する考え方の違いについて考えます。
- 第 11 回 Discourse
談話について学びます。
- 第 12 回 Collectivism and Individualism
集団主義と個人主義について学びます。
- 第 13 回 High-context and Low-context Culture
高・低文脈文化について学びます。
- 第 14 回 まとめ 2 (期末の下書き)
第9回～13回のまとめと期末エッセイの下書きを作成します。
- 第 15 回 総括
第9回以降のトピックの中から、期末エッセイを作成します。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施しません。レポート課題 (エッセイ) により採点します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業では、様々な観点から異文化コミュニケーションについてのトピックを取り上げ、テキストと補助教材 (映像・音声などを使用予定) を使用して学習します。また、各テーマに関する考察を英文で作成し、得た知識や表現を産出につなげる機会とします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で扱うトピックについて内容を読み、要点を把握します。トピックに関連する議題や質問について、適宜オンラインの文献等を使用して知識を深め、意見を述べるができるようにしましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間 (各回1時間)

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題 (中間・期末エッセイ) 60%

毎回のオンライン課題提出またはワークシート 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

エッセイは原則、パソコンを用いてMicrosoft Office Wordで作成していただきます（自身のノートパソコンを持参するのが望ましい）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Exploring Landscapes of Culture & Communication 英語で学ぶはじめての異文化コミュニケーション論/Michael Ruddick, Simon Pryor, JA Kusaka 著/松柏社/2018年

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

ALC 英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イデオム検索に便利なオンライン辞書

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書

Grammarly

<https://www.grammarly.com/>

英文添削 (スペリング、文法ミスの校正)

DeepL

<https://www.deepl.com/ja/translator>

翻訳ツール (訳は必ず自分で確認・修正しましょう)

Thesaurus

<https://www.thesaurus.com/>

類語辞典 (多様な表現を検索)

Academic Phrasebank

<http://www.phrasebank.manchester.ac.uk/>

アカデミック英語の表現集 (応用)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章作成法 I A 2021年度以降入学者

GBL1200A0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期前半

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

30

前半7.5コマ

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学術的な文章作成の基礎を身につけることが最終的な目標である。まずは学術的な文章と近いジャンルの文章を読み込むことによって、文章の特徴を理解する。読み込んだ文章をモデルにし類似した文章が書けるようになる。模範となる多くの文章のインプットによって、自ら書く能力及び指摘された修正理由が理解できる能力を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 音読トレーニングの方法を用いて、模範となる文章を読み込む。

(2) 相手に良く意味が伝わる読み方を工夫しながら繰り返し読み込む。

(3) 読み込んだ文章の書き取りを行い、文体及び全体の構造など文章の特徴を理解する。

(4) 読み込んだ模範の文章に倣って、文章を書き点検する。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の意味が一切読み取れない。	読み込んだ文章の意味が理解でき、書き言葉を認識できる。	読み込んだ文章に対して、段落ごとの主題を理解できる。	読み込んだ文章に倣って、言いたいことを書き言葉で書くことができる。
創造・発信力	読み込んだ文章の内容と関連する言葉をみつけることができない。	読み込んだ文章の内容を自分のことばで表すことができ、書き言葉と話し言葉との変換ができる。	読み込んだ文章に対して、各段落の内容を自分のことばで説明できる。	読み込んだ文章と自分が書いた文章とを比較して、文体及び文章の構造の違いを説明できる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス及びグループ作りと課題を決定
なぜ音読トレーニングが必要なのかを理解する。
グループごとに読む箇所と音読のルールを決めて、シミュレーションをする。

第 2 回 「文章1」を読み込み、意見交換
グループ内で数回輪読を行う。
聞き手の立場となって他のグループの音読を聞

- く。
伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を
交わす。
反省点を生かして交代で読んでいく。
- 第 3 回 「文章1」の書き取りと文章全体の構造の分析
「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己
評価する。
他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけ
てみる。
書き取った文章の段落構成を行う。
- 第 4 回 「文章2」を読み込み、意見交換
後輩または地域社会のコミュニティの各種年齢層
などを想定して読む。
聞き手に合った読み方についてグループ内で意見
交換を行う。
反省点を生かしてさらに音読する。
他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイ
トル及びサブタイトルをつけてみる。
- 第 5 回 「文章2」の書き取りと文章全体の構成の分析
「文章2」の書き取りを行い、原文と比較して自
己評価する。
他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけ
てみる。
書き取った文章の段落構成を行う。
宿題：自ら模範となる文章をみつけてくる。
- 第 6 回 持ち寄った模範となる文章の検証及び音読
持ち寄った文章(「文章3」と呼ぶ)を数回音読する。
選定理由をグループ内で話し合う。
選んだ文章と選定理由を書いてみる。
- 第 7 回 前回書いた文章のフィードバック
レポートと学術レポートの違いを理解する。
前回書いた文章を学術レポートの基準に照らし点
検する。
点検の結果を踏まえて書きなおす。
- 第 8 回 書いたレポートの発表会
完成したレポートをグループ内で音読し合う。
読み方、文章の構成、タイトルなどについて意見
交換を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポ
ート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母
語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込
んだ文章または構造と類似した文章を書く。
毎回の授業でグループワークを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな
場面を考えてみる。

グループ内での協働を心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題 (50%)、授業参加度 (50%) から評価を算出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

音読は外国語の習得にも役立つので、各自自分の学習中の
外国語でも実践することをお勧めする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

高校の「情報」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島
紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章作成法 I B 2021年度以降入学者

GBL1200BOJ

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期後半

月曜 4限

DP2 : 知識・理解力

30

前半7.5コマ

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学術的な文章作成の基礎を身につけることが最終的な目標
である。まずは学術的な文章と近いジャンルの文章を読み
込むことによって、文章の特徴を理解する。読み込んだ文
章をモデルにし類似した文章が書けるようになる。模範と
なる多くの文章のインプットによって、自ら書く能力及び
指摘された修正理由が理解できる能力を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 音読トレーニングの方法を用いて、模範となる文章を読
み込む。

(2) 相手に良く意味が伝わる読み方を工夫しながら繰り返し
読み込む。

(3) 読み込んだ文章の書き取りを行い、文体及び全体の構造
など文章の特徴を理解する。

(4) 読み込んだ模範の文章に倣って、文章を書き点検する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考 力	読み込んだ 文章の意味 が一切読み 取れない。	読み込んだ 文章の意味 が理解で き、書き言 葉を認識で きる。	読み込んだ 文章に対 して、段落 ごとの主題 を理解でき る。	読み込んだ 文章に倣 って、言 いたいこと を書き言葉 で書くこと ができる。

創造・発信力	読み込んだ文章の内容と関連する言葉を見つけられない。	読み込んだ文章の内容を自分のことばで表すことができ、書き言葉と話し言葉との変換ができる。	読み込んだ文章に対して、各段落の内容を自分のことばで説明できる。	読み込んだ文章と自分が書いた文章とを比較して、文体及び文章の構造の違いを説明できる。
--------	----------------------------	--	----------------------------------	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス及びグループ作りと課題を決定
なぜ音読トレーニングが必要なのかを理解する。
グループごとに読む箇所と音読のルールを決めて、シミュレーションをする。
- 第 2 回 「文章1」を読み込み、意見交換
グループ内で数回輪読を行う。
聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。
伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。
反省点を生かして交代で読んでいく。
- 第 3 回 「文章1」の書き取りと文章全体の構造の分析
「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。
他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。
書き取った文章の段落構成を行う。
- 第 4 回 「文章2」を読み込み、意見交換
後輩または地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。
聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。
反省点を生かしてさらに音読する。
他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。
- 第 5 回 「文章2」の書き取りと文章全体の構成の分析
「文章2」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。
他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。
書き取った文章の段落構成を行う。
宿題：自ら模範となる文章をみつけてくる。
- 第 6 回 持ち寄った模範となる文章の検証及び音読
持ち寄った文章(「文章3」と呼ぶ)を数回音読する。
選定理由をグループ内で話し合う。
選んだ文章と選定理由を書いてみる。
- 第 7 回 前回書いた文章のフィードバック
レポートと学術レポートの違いを理解する。
前回書いた文章を学術レポートの基準に照らし点検する。
点検の結果を踏まえて書きなおす。
- 第 8 回 書いたレポートの発表会

完成したレポートをグループ内で音読し合う。
読み方、文章の構成、タイトルなどについて意見交換を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。

毎回の授業でグループワークを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。

グループ内での協働を心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題 (50%)、授業参加度 (50%) から評価を算出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

音読は外国語の習得にも役立つので、各自自分の学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

高校の「情報」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島 紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章作成法 I C 2021年度以降入学者

GBL1200C0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期後半

月曜 4限

DP2：知識・理解力

30

前半7.5コマ

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、学術的な文章作成の基礎を身につけることを最終的な目標とする。まず学術的な文章に近いジャンルの文章を読み込むことによって、文章の特徴を体で理解する。次に読み込んだ文章をモデルにすることで、類似した文章を書く力を身につける。模範となる多くの文章のイ

ンブットにより、自ら書く能力及び指摘された修正理由を理解する能力を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 音読トレーニングの手法を用いて、模範となる文章を読み込む。
- (2) 相手に意味が伝わる読み方を工夫しながら、覚えるぐらい繰り返し読む。
- (3) 読み込んだ文章の書き取りを行い、文体及び全体の構造など文章の流れを理解する。
- (4) 読み込んだ模範の文章を模倣しながら文章を書き、複数の目で確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の意味が一切読み取れない。	読み込んだ文章の意味が理解でき、書き言葉が認識できる。	読み込んだ文章に対して、段落ごとの主題が理解できる。	読み込んだ文章を補法して、言いたいことを書き言葉で書くことができる。
創造・発信力	読み込んだ文章の内容と関連する言葉を見つけることができない。	読み込んだ文章の内容を自分の言葉で表すことができ、書き言葉と話し言葉との変換ができる。	読み込んだ文章に対して、各段落の内容を自分の言葉で説明できる。	読み込んだ文章と自分が書いた文章とを比較して、文体及び文章の構造の違いを説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス及びグループ作りと課題の決定
文章作成力を養うために、なぜ音読トレーニングが必要なのかを理解する。グループごとに読む箇所と音読のルールを決めて、シミュレーションをする。
- 第 2 回 「文章1」の読み込みと意見交換
グループ内で数回輪読を行う。聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。
伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。反省点を生かして交代で読んでいく。
- 第 3 回 「文章1」の書き取りと文章全体の構造の分析
「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。書き取った文章の段落構成を行う。
- 第 4 回 「文章2」の読み込みと意見交換
聞き手として、地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。反省点を生かしてさらに音読する。他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。

- 第 5 回 「文章2」の書き取りと文章全体の構成の分析
「文章2」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。書き取った文章の段落構成を行う。

【宿題：自ら模範となる文章をみつけてくる。】

- 第 6 回 持ち寄った模範となる文章の検証及び音読
各自が持ち寄った模範となる文章（「文章3」と呼ぶ）を数回音読する。選定理由をグループ内で話し合う。選んだ文章と選定理由を書いてみる。
- 第 7 回 前回書いた文章のフィードバック
レポートと学術レポートの違いを理解する。前回書いた選定理由の文章を学術レポートの基準に照らし点検する。点検の結果を踏まえて書きなおす。
- 第 8 回 書いたレポートの発表会
完成したレポートをグループ内で音読し合う。読み方、文章の構成、タイトルなどについて意見交換を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。

毎回の授業でグループワークを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。

グループ内での協働を心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題 (50%)、授業参加度 (50%) から評価を算出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

前期の後半7.5回の授業なので、前期の8回目の後半から開始する。そのため「ノートルダム学」など、同じ時間帯の前期前半7.5回に実施される科目との同時履修が可能である。

外部講師 (朗読家) を招いて実施する授業も予定されている。

なお、この授業で実施される音読トレーニングの手法は外国語の習得にも役立つので、各自の学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

高校の「情報」や「家庭科」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島

紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685
『音読で外国語が話せるようになる科学』 門田修平 / サイエンス・アイ新書 / 2020 / 9784815600747
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章作成法 I E 2021年度以降入学者

GBL1200E0J
大学
共通教育科目
1年次
後期前半
火曜 4限
30
前半7.5コマ
金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学術的な文章作成の基礎を身につけることが最終的な目標である。まずは学術的な文章と近いジャンルの文章を読み込むことによって、文章の特徴を理解する。読み込んだ文章をモデルにし類似した文章が書けるようになる。模範となる多くの文章のインプットによって、自ら書く能力及び指摘された修正理由が理解できる能力を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 音読トレーニングの方法を用いて、模範となる文章を読み込む。
- (2) 相手に良く意味が伝わる読み方を工夫しながら繰り返し読み込む。
- (3) 読み込んだ文章の書き取りを行い、文体及び全体の構造など文章の特徴を理解する。
- (4) 読み込んだ模範の文章に倣って、文章を書き点検する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の意味が一切読み取れない。	読み込んだ文章の意味が理解でき、書き言葉を認識できる。	読み込んだ文章に対して、段落ごとの主題を理解できる。	読み込んだ文章に倣って、言いたいことを書き言葉で書くことができる。
創造・発信力	読み込んだ文章の内容と関連する言葉をみつけることができない。	読み込んだ文章の内容を自分のことばで表すことができ、書き言葉と話し言葉との変換ができる。	読み込んだ文章に対して、各段落の内容を自分のことばで説明できる。	読み込んだ文章と自分が書いた文章とを比較して、文体及び文章の構造の違いを説明できる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス及びグループ作りと課題を決定

なぜ音読トレーニングが必要なのかを理解する。グループごとに読む箇所と音読のルールを決めて、シミュレーションをする。

第 2 回 「文章1」を読み込み、意見交換
グループ内で数回輪読を行う。
聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。

伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。

反省点を生かして交代で読んでいく。

第 3 回 「文章1」の書き取りと文章全体の構造の分析
「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。

他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。

書き取った文章の段落構成を行う。

第 4 回 「文章2」を読み込み、意見交換
後輩または地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。

聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。

反省点を生かしてさらに音読する。

他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。

第 5 回 「文章2」の書き取りと文章全体の構造の分析
「文章2」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。

他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。

書き取った文章の段落構成を行う。

宿題：自ら模範となる文章をみつけてくる。

第 6 回 持ち寄った模範となる文章の検証及び音読
持ち寄った文章(「文章3」と呼ぶ)を数回音読する。
選定理由をグループ内で話し合う。
選んだ文章と選定理由を書いてみる。

第 7 回 前回書いた文章のフィードバック
レポートと学術レポートの違いを理解する。
前回書いた文章を学術レポートの基準に照らし点検する。

点検の結果を踏まえて書きなおす。

第 8 回 書いたレポートの発表会
完成したレポートをグループ内で音読し合う。
読み方、文章の構成、タイトルなどについて意見交換を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。
毎回の授業でグループワークを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。

グループ内での協働を心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題 (50%)、授業参加度 (50%) から評価を算出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

音読は外国語の習得にも役立つので、各自自分の学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

高校の「情報」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島 紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章作成法 I D 2021年度以降入学者

GBL1200D0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期前半
 月曜4限
 DP2 : 知識・理解力
 30
 前半7.5コマ
 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、学術的な文章作成の基礎を身につけることを最終的な目標とする。まず学術的な文章に近いジャンルの文章を読み込むことによって、文章の特徴を体で理解する。次に読み込んだ文章をモデルにすることで、類似した文章を書く力を身につける。模範となる多くの文章のインプットにより、自ら書く能力及び指摘された修正理由を理解する能力を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 音読トレーニングの手法を用いて、模範となる文章を読み込む。
- (2) 相手に意味が伝わる読み方を工夫しながら、覚えるぐらい繰り返し読む。
- (3) 読み込んだ文章の書き取りを行い、文体及び全体の構造など文章の流れを理解する。
- (4) 読み込んだ模範の文章を模倣しながら文章を書き、複数の目で確認する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の意味が一切読み取れない。	読み込んだ文章の意味が理解でき、書き言葉を認識できる。	読み込んだ文章に対して、段落ごとの主題が理解できる。	読み込んだ文章を補法して、言いたいことを書き言葉で書くことができる。
創造・発信力	読み込んだ文章の内容と関連する言葉を見つけることができない。	読み込んだ文章の内容を自分の言葉で表すことができ、書き言葉と話し言葉との変換ができる。	読み込んだ文章に対して、各段落の内容を自分の言葉で説明できる。	読み込んだ文章と自分が書いた文章とを比較して、文体及び文章の構造の違いを説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス及びグループ作りと課題の決定
 文章作成力を養うために、なぜ音読トレーニングが必要なのかを理解する。グループごとに読む箇所と音読のルールを決めて、シミュレーションをする。
- 第 2 回 「文章1」の読み込みと意見交換
 グループ内で数回輪読を行う。聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。
 伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。反省点を生かして交代で読んでいく。
- 第 3 回 「文章1」の書き取りと文章全体の構造の分析
 「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。書き取った文章の段落構成を行う。
- 第 4 回 「文章2」の読み込みと意見交換
 聞き手として、地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。反省点を生かしてさらに音読する。他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。
- 第 5 回 「文章2」の書き取りと文章全体の構成の分析
 「文章2」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。書き取った文章の段落構成を行う。
 【宿題：自ら模範となる文章をみつめてくる。】
- 第 6 回 持ち寄った模範となる文章の検証及び音読
 各自が持ち寄った模範となる文章(「文章3」と呼ぶ)を数回音読する。選定理由をグループ内で話し合う。選んだ文章と選定理由を書いてみる。
- 第 7 回 前回書いた文章のフィードバック

レポートと学術レポートの違いを理解する。前回書いた選定理由の文章を学術レポートの基準に照らし点検する。点検の結果を踏まえて書きなおす。

第 8 回 書いたレポートの発表会

完成したレポートをグループ内で音読し合う。読み方、文章の構成、タイトルなどについて意見交換を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。

毎回の授業でグループワークを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。

グループ内での協働を心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題 (50%)、授業参加度 (50%) から評価を算出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

後期の前半7.5回の授業なので、8回目の後半からは「文章表現法II」など、同じ時間帯の後半7.5回に実施される科目との同時履修が可能である。

外部講師 (朗読家) を招いて実施する授業も予定されている。

なお、この授業で実施される音読トレーニングの手法は外国語の習得にも役立つので、各自の学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

高校の「情報」や「家庭科」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島 紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

『音読で外国語が話せるようになる科学』 門田修平 / サイエンス・アイ新書 / 2020 / 9784815600747

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章作成法 II A 2021年度以降入学者

GBL1201A0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期前半

木曜 3限

DP2: 知識・理解力

30

後半7.5コマ

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学術的な文章作成の基礎を身につけて、自分の考えを書き言葉で論理的に表現できるようになる。模範的な学術文章の読み込みと書きとりを行いながら、学術的な文章の特徴を分析する。その後、学術的な文章の特徴を理解したうえで学術レポートを書く。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 音読トレーニングの手法を用いて、模範となる文章を読み込み、内容の伝わりやすい「音声教材」を作成する。

(2) 読み込んだ文章の全体の構造及び文体、段落間の論理関係、引用のし方などを分析する。

(3) 読み込んだ文章を模倣しながら学術レポートを書く。

(4) 自分が書いた学術レポートを学術的な文章の基準に照らしながら検討し書き直す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の文体(書き言葉と話し言葉の違い)が理解できない。	読み込んだ文章の全体の構造、文体が理解できる。	一文一義の文が理解できる。	段落間の論理関係が成立するレポートが書ける。
創造・発信力	話し言葉を書き言葉に変えることができない。	読み込んだ文章の文体を変えたり説明することができる。	一文一義の文を理解し、書くことができる。	表現したい内容を構造のある文章に書くためにアウトラインを構成することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス及び「音声トレーニング」の実施
グループごとに読む箇所と音読のルールを決める。「文章1」をグループ内で数回輪読を行う。聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。反省点を生かして交代で読んでいく。

第 2 回 音声教材作成プロジェクト (1)

「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。書き取った文章の段落構成を行う。

第3回 音声教材作成プロジェクト(2)
「文章2」を地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。反省点を生かしてさらに音読する。他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。

第4回 音声教材作成プロジェクト(3)
「文章1」と「文章2」の構造についてグループ内で話し合う。各自聞き手を想定して、音声教材として仕上げる。メンバーの意見も取り入れながら、注釈などもつけてみる。作成した音声教材を聞いて意見交換する。

第5回 学術レポート作成プロジェクト(1)
「文章3」として学術レポートを1本読む。グループ内で段落構成及びタイトルなどについて話し合う。

第6回 学術レポート作成プロジェクト(2)
学術レポートを書く準備をする:グループで話し合いながらテーマを決める。「文章3」の構造に沿ってアイデアを整理する。段落ごとのテーマを考えてみる。

第7回 学術レポートを書く
各段落のメインセンテンスを意識しながら書いていく。段落間の論理関係を検討する。グループ内で音読し合い意見交換を行う。学術レポートを完成する。

第8回 書いたレポートの発表会とフィードバック
前回書いた学術レポートを発表し、聞き手の意見を聞く。発表した学術レポートの構造をモデルに、さらに書きたいテーマについてグループ内で話し合う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。

毎回の授業でグループワークを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。

グループ内での協働を心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題 (50%)、授業参加度 (50%) から評価を算出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

「文章作成法I」の内容を習熟していることが前提である。後期の前半7.5回の授業なので、後期の8回目の前半(45分間)で終了する。

なお、この授業で実施される音読トレーニングの手法は外国語の習得にも役立つので、学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

高校の「情報」や「家庭科」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』/佐渡島 紗織・吉野亜矢子/ひつじ書房/2010/9784894763685

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文章作成法II C 2021年度以降入学者

GBL1201C0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期後半

火曜4限

DP2:知識・理解力

30

後半7.5コマ

金 美仙

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学術的な文章作成の基礎を身につけて、自分の考えを書き言葉で論理的に表現できるようになる。模範の文章を読み込みと書きとりを行いながら、学術的な文章の特徴を分析する。学術的な文章の特徴を理解したうえで学術レポートを書く。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 音読トレーニングによって模範の文章を読み込み、内容の伝わりやすい「音声教材」を作成してみる。

(2) 読み込んだ文章の全体の構造及び文体、段落間の論理関係、引用のし方などを分析する。

(3) 読み込んだ文章に倣って学術レポートを書いてみる。

(4) 自分が書いたレポートを学術的な文章の基準に照らしながら検討し書き直す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の文体(書き言葉と話し言葉の違い)が	読み込んだ文章の全体の構造、文体が理解できる。	一文一義の文が理解できる。	段落間の論理関係が成立するレポートが書ける。

	理解できない。			
創造・発信力	話し言葉を書き言葉に変えることができない。	読み込んだ文章の文体を変えたり説明することができる。	一文一義の文を理解し、書くことができる。	表現したい内容を構造のある文章に書くためにアウトラインを構成することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス及び「音声トレーニング」の実施
グループごとに読む箇所と音読のルールを決める。
「文章1」をグループ内で数回輪読を行う。
聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。
伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。
反省点を生かして交代で読んでいく。
- 第 2 回 音声教材作成プロジェクト (1)
「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。
他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。
書き取った文章の段落構成を行う。
- 第 3 回 音声教材作成プロジェクト (2)
「文章2」を先輩または地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。
聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。
反省点を生かしてさらに音読する。
他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。
- 第 4 回 音声教材作成プロジェクト (3)
「文章1」と「文章2」の構造についてグループ内で話し合う。
各自聞き手を想定して、音声教材として仕上げる。
メンバーの意見も取り入れながら、注釈などもつけてみる。
作成した音声教材を聞いて意見交換する。
- 第 5 回 学術レポート作成プロジェクト (1)
「文章3」として学術レポートを1本読む。
グループ内で段落構成及びタイトルなどについて話し合う。
- 第 6 回 学術レポート作成プロジェクト (2)
学術レポートを書く準備をする：グループで話し合いながらテーマを決める。
「文章3」の構造に沿ってアイデアを整理する。
段落ごとのテーマを考えてみる。
- 第 7 回 学術レポートを書く
各段落のメインセンテンスを意識しながら書いていく。
段落間の論理関係を検討する。

グループ内で音読し合い意見交換を行う。
学術レポートを完成する。

- 第 8 回 書いたレポートの発表会とフィードバック
前回書いた学術レポートを発表し、聞き手の意見を聞く。
発表した学術レポートの構造をモデルに、さらに書きたいテーマについてグループ内で話し合う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。
毎回の授業でグループワークを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。

グループ内での協働を心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題 (50%)、授業参加度 (50%) から評価を算出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

「文章作成法 I」の内容を習熟していることが前提である。
音読は外国語の習得にも役立つので、各自自分の学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

高校の「情報」や「家庭科」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島 紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

GBL1201D0J
 大学
 共通教育科目
 1年次
 1単位 後期後半
 月曜4限
 DP2：知識・理解力
 30
 後半7.5コマ
 吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学術的な文章作成の基礎を身につけて、自分の考えを書き言葉で論理的に表現できるようになる。模範的な学術文章の読み込みと書きとりを行いながら、学術的な文章の特徴を分析する。その後、学術的な文章の特徴を理解したうえで学術レポートを書く。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 音読トレーニングの手法を用いて、模範となる文章を読み込み、内容の伝わりやすい「音声教材」を作成する。
- (2) 読み込んだ文章の全体の構造及び文体、段落間の論理関係、引用のし方などを分析する。
- (3) 読み込んだ文章を模倣しながら学術レポートを書く。
- (4) 自分が書いた学術レポートを学術的な文章の基準に照らしながら検討し書き直す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の文体(書き言葉と話し言葉の違い)が理解できない。	読み込んだ文章の全体の構造、文体が理解できる。	一文一義の文が理解できる。	段落間の論理関係が成立するレポートが書ける。
創造・発信力	話し言葉を書き言葉に変えることができない。	読み込んだ文章の文体を変えたり説明することができる。	一文一義の文を理解し、書くことができる。	表現したい内容を構造のある文章に書くためにアウトラインを構成することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス及び「音声トレーニング」の実施
 グループごとに読む箇所と音読のルールを決める。「文章1」をグループ内で数回輪読を行う。聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。反省点を生かして交代で読んでいく。
- 第 2 回 音声教材作成プロジェクト (1)

「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。書き取った文章の段落構成を行う。

- 第 3 回 音声教材作成プロジェクト (2)
 「文章2」を地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。反省点を生かしてさらに音読する。他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。
- 第 4 回 音声教材作成プロジェクト (3)
 「文章1」と「文章2」の構造についてグループ内で話し合う。各自聞き手を想定して、音声教材として仕上げる。メンバーの意見も取り入れながら、注釈などもつけてみる。作成した音声教材を聞いて意見交換する。
- 第 5 回 学術レポート作成プロジェクト (1)
 「文章3」として学術レポートを1本読む。グループ内で段落構成及びタイトルなどについて話し合う。
- 第 6 回 学術レポート作成プロジェクト (2)
 学術レポートを書く準備をする：グループで話し合いながらテーマを決める。「文章3」の構造に沿ってアイデアを整理する。段落ごとのテーマを考えてみる。
- 第 7 回 学術レポートを書く
 各段落のメインセンテンスを意識しながら書いていく。段落間の論理関係を検討する。グループ内で音読し合い意見交換を行う。学術レポートを完成する。
- 第 8 回 書いたレポートの発表会とフィードバック
 前回書いた学術レポートを発表し、聞き手の意見を聞く。発表した学術レポートの構造をモデルに、さらに書きたいテーマについてグループ内で話し合う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。毎回の授業でグループワークを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。

グループ内での協働を心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題 (50%)、授業参加度 (50%) から評価を算出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

「文章作成法Ⅰ」の内容を習熟していることが前提である。
後期の後半7.5回の授業なので、後期の8回目の後半から開始する。そのため「文章作成法ⅠD」など、同じ時間帯の後期前半7.5回に実施される科目との同時履修が可能である。

なお、この授業で実施される音読トレーニングの手法は外国語の習得にも役立つので、学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

高校の「情報」や「家庭科」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島 紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習Ⅰa A 2021年度以降入学者

GBL1401A0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜 5限

DP4 : 思考・解決力

15

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成 (データの分析と考察、含) や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用

- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成 (特に、データの分析と考察) のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書 (基本的な関数、グラフの利用も含) を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書 (アニメーションの設定も含) を作成	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作

		に、作成することができ	することができる	することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含み、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用
入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用法など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題 1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)

- レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
課題説明と情報収集など【課題 2：PowerPoint文書】
- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作
日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施、終了後に講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、2つの通常課題（40%）、実技確認テストとしての最終課題（30%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

第3回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくはMOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordともう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の

点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで授業内で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること（印刷方法は授業の中で指示します）。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I a B 2021年度以降入学者

GBL1401B0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

月曜 5限

DP4：思考・解決力

15

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）

- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用

・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用

・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる

Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用
入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用法など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題 1 : Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)

課題説明と情報収集など【課題 2 : PowerPoint文書】

- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作
日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施、終了後に講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、2つの通常課題（40%）、実技確認テストとしての最終課題（30%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

第3回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordと もう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで授業内で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること（印刷方法は授業の中で指示します）。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I a C 2021年度以降入学者

GBL1401C0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

火曜 5限

DP4 : 思考・解決力

15

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）

- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索シ	Webによる情報収集や蔵書検索シ	例題どおりの操作であれば、操作	例題で紹介された操作を応用させ	自分の書きたいレポートや論文に

システムの利用	システムの利用ができない	マニュアルの指示を参考に、利用することができる	て、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用
入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題 1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
課題説明と情報収集など【課題 2：PowerPoint文書】
- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作

- 日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施、終了後に講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、2つの通常課題（40%）、実技確認テストとしての最終課題（30%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

第3回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordと もう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで授業内で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること（印刷方法は授業の中で指示します）。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I a D 2021年度以降入学者

GBL1401D0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

火曜 5限

DP4 : 思考・解決力

15

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）

・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
 ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
 ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解

・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
 ・タッチタイピングの習得
 ・論文作成のための日本語文書作成
 ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用

・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用

・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索シ	Webによる情報収集や蔵書検索シ	例題どおりの操作であれば、操作	例題で紹介された操作を応用させ	自分の書きたいレポートや論文に

システムの利用	システムの利用ができない	マニュアルの指示を参考に、利用することができる	て、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用
入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題 1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
課題説明と情報収集など【課題 2：PowerPoint文書】
- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作

- 日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施、終了後に講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）(30%)、2つの通常課題（40%）、実技確認テストとしての最終課題（30%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

第3回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordと もう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで授業内で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること（印刷方法は授業の中で指示します）。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I a E 2021年度以降入学者

GBL1401E0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

金曜 5限

DP4 : 思考・解決力

15

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）

・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
 ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
 ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解

・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
 ・タッチタイピングの習得
 ・論文作成のための日本語文書作成
 ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用

・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用

・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索シ	Webによる情報収集や蔵書検索シ	例題どおりの操作であれば、操作	例題で紹介された操作を応用させ	自分の書きたいレポートや論文に

システムの利用	システムの利用ができない	マニュアルの指示を参考に、利用することができる	て、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用
入力的基础、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題 1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
課題説明と情報収集など【課題 2：PowerPoint文書】
- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作

- 日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施、終了後に講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、2つの通常課題（40%）、実技確認テストとしての最終課題（30%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

第3回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordと もう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで授業内で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること（印刷方法は授業の中で指示します）。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I a F 2021年度以降入学者

GBL1401F0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期

金曜 5限

DP4 : 思考・解決力

15

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）

・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
 ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
 ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解

・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
 ・タッチタイピングの習得
 ・論文作成のための日本語文書作成
 ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用

・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用

・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索シ	Webによる情報収集や蔵書検索シ	例題どおりの操作であれば、操作	例題で紹介された操作を応用させ	自分の書きたいレポートや論文に

システムの利用	システムの利用ができない	マニュアルの指示を参考に、利用することができる	て、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用
入力の基本、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題 1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
課題説明と情報収集など【課題 2：PowerPoint文書】
- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作

- 日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施、終了後に講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、2つの通常課題（40%）、実技確認テストとしての最終課題（30%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

第3回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordともう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで授業内で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること（印刷方法は授業の中で指示します）。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I a G 2021年度以降入学者

GBL1401G0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 後期

火曜 5限

DP4 : 思考・解決力

15

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）

・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
 ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
 ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解

・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
 ・タッチタイピングの習得
 ・論文作成のための日本語文書作成
 ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用

・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用

・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索シ	Webによる情報収集や蔵書検索シ	例題どおりの操作であれば、操作	例題で紹介された操作を応用させ	自分の書きたいレポートや論文に

システムの利用	システムの利用ができない	マニュアルの指示を参考に、利用することができる	て、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用
入力的基础、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題 1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
課題説明と情報収集など【課題 2：PowerPoint文書】
- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作

- 日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施、終了後に講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）(30%)、2つの通常課題（40%）、実技確認テストとしての最終課題（30%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

第3回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordともう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで授業内で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること（印刷方法は授業の中で指示します）。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I b P 2021年度以降入学者

GBL1402POJ
大学
共通教育科目
1年次 前期
1単位 土曜3限
DP4: 思考・解決力
15
メディア利用
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

なお、このクラスは第1回目のみ対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン授業（オンデマンド方式）での授業実施を予定している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算

ソフトの活用

- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる

Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス【対面授業】
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用【第2回目以降、オンライン授業】
入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用法など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)

課題説明と情報収集など【課題2：PowerPoint文書】

- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作
日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
 - 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
 - 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
 - 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タッチタイピングの確認と総復習
 - 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施とmanabaでの提出。終了後にmanabaなどで講評
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。テキストでは、Windows10/Office2019をベースに解説しているため、macOSの利用者の場合、テキスト内容が実際の操作と異なる場合がある。

このクラスは第1回目は対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン（manabaなどを利用したオンデマンド方式）での授業実施を予定している。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに必ず提出すること。さらに、最終日に実施される「実技確認テスト」は必ず受け、直ちにmanabaで提出する必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（manabaでの提出物）や授業への態度を「30%」、2つの通常課題の提出を「40%」、実技確認テストとしての最終課題の提出を「30%」とした総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

入学時などの情報スキルチェックテストの結果などに基づいて、この科目の履修者が指定される「選抜者クラス」である。manabaを利用したオンライン（オンデマンド方式）で授業が実施されるため、授業概要、特にどのような提出物をいつ提出する必要があるかを授業開講時に把握しておく必要がある。

オンデマンド方式で実施するため、質問のある学生は「情報アドバイジング」の時間など、対面指導の機会を積極的に利用すること。複数の通常課題（2つの予定）に関しては、提出後に各自に講評を戻すので確認し、疑問があれば「情報アドバイジング」の時間を利用するなどして、主体的に学びを進めること。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくは

は MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordと
もう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定
を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位
認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添え
て (こちらでコピーを取って原本は返却します)、期日 (認
定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出
ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を
経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に
合格している学生が、普通にこの授業を受けることも可能
であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単
位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPA
に算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

なし。テキストや資料はPDFで提供されるので、各自で印刷
するなどして利用すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office
2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I b Q 2021年度以降入学者

GBL1402Q0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
土曜3限
DP4: 思考・解決力
15
メディア利用
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作 (パスワード変更、
電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など) や、レ
ポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作 (文書
作成、ファイル管理、印刷方法など) を習得する。これら
は、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、
文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要
不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不
可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッ
チタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・
プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業
までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成 (デ
ータの分析と考察、含) や論文発表に使えるレベルを、実
習を通して実践的に身につける。

なお、このクラスは第1回目のみ対面授業を予定してい
るが、それ以降は、オンライン授業 (オンデマンド方式)
での授業実施を予定している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解 (情報の信憑性と知的財産権の
保護)
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウ
トの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成 (特に、データの分析と考察) のための表計算
ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステム の利用に関する操作 と知識	ログインと ログアウト の必要性、 ファイルと フォルダの 利用などを 意識したこ とがない	ログインと ログアウト、 ファイルとフォル ダの操作など はできるが、必要 性は理解でき ていない	ログインと ログアウト、 ファイルとフォル ダの操作など が、概念を理 解して実施でき ている	コンピ ュー タシ ステ ムの 利用 に関 する 知識 が豊 富で、 人 に概 念と 操 作の 両方 が説 明で きる
タッチタイ ピングの習 得	キーボード を見て、キ ーを探しな がら入力し ている	タッチタイ ピングの重 要性はわか っている が、練習不 足でタッチ タイピング はできてい ない	タッチタイ ピングの重 要性をわか り練習中 で、キーを 見ないでほ ぼ入力でき る	タッチタイ ピングを完 全に修得済 みである
日本語文書 作成ソフト の操作	日本語文書 作成ソフト を使った文 書は作成で きない	授業で扱う 例題どお りの文書で あれば、操 作マニユ アルの指 示を参考 に、日本 語文書 を作成す ることが できる	例題で紹 介された 操作を 応用させ て、基本 的な日本 語文書 を自分で 作成す ることが できる	表や画像 などの 表現力 をアップ させる 機能を 自由に 使って、 レポー トや論 文を作成 するこ とが できる
表計算ソフト の操作	表計算ソフト を使った 文書を作成 できない	授業で扱う 例題どお りの表で あれば、操 作マニユ アルの指 示を参考 に、作成 すること ができる	例題で紹 介された 操作を 応用させ て、基本 的な文書 (基本 的な関 数、グラ フの利 用も 含) を 作成	データの 分析と 考察の ために 必要と なる機 能も含 めて、 表計算 ソフト を自由 自在に 活用す ることが できる

			することが できる	
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス【対面授業】
ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用【第2回目以降、オンライン授業】
入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索
- 第 3 回 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用法など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法

- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
課題説明と情報収集など【課題2：PowerPoint文書】
- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作
日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タッチタイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施とmanabaでの提出。終了後にmanabaなどで講評
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。テキストでは、Windows10/Office2019をベースに解説しているため、macOSの利用者の場合、テキスト内容が実際の操作と異なる場合がある。
このクラスは第1回目は対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン（manabaなどを利用したオンデマンド方式）での授業実施を予定している。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに必ず提出すること。さらに、最終日に実施される「実技確認テスト」は必ず受け、直ちにmanabaで提出する必要がある。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度（manabaでの提出物）や授業への態度を「30%」、2つの通常課題の提出を「40%」、実技確認テストとしての最終課題の提出を「30%」とした総合点で評価する。
〔留意事項（Other Information）〕
入学時などの情報スキルチェックテストの結果などに基づいて、この科目の履修者が指定される「選抜者クラス」である。manabaを利用したオンライン（オンデマンド方式）

で授業が実施されるため、授業概要、特にどのような提出物をいつ提出する必要があるかを授業開講時に把握しておく必要がある。

オンデマンド方式で実施するため、質問のある学生は「情報アドバイジング」の時間など、対面指導の機会を積極的に利用すること。複数の通常課題（2つの予定）に関しては、提出後に各自に講評を戻すので確認し、疑問があれば「情報アドバイジング」の時間を利用するなどして、主体的に学びを進めること。

P検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくはMOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordともう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて（こちらでコピーを取って原本は返却します）、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出る。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報演習 I b R 2021年度以降入学者

GBL1402R0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
土曜3限
DP4: 思考・解決力
15
メディア利用
吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、

文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。

学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

なお、このクラスは第1回目のみ対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン授業（オンデマンド方式）での授業実施を予定している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成す

		成することができる		ることができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

- ガイダンス、E-mailの利用、manabaについて、印刷の管理、タッチタイピング練習
- 第 2 回 コンピュータ環境の利用【第2回目以降、オンライン授業】
- 第 3 回 大学の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索
大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用
本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用など）
- 第 4 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(1)
基本的な文書を作成する方法
- 第 5 回 日本語文書作成ソフトの基本操作(2)
効果的に表を作成する方法
- 第 6 回 表計算ソフトの基本操作(1)
基本操作、数式の入力、表の作成方法
- 第 7 回 表計算ソフトの基本操作(2)
基本的な関数、グラフ作成
- 第 8 回 表計算ソフトの基本操作(3)
データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題 1：Excel文書】
- 第 9 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(1)
レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など
- 第 10 回 プレゼンテーションソフトの基本操作(2)
課題説明と情報収集など【課題 2：PowerPoint文書】
- 第 11 回 日本語文書作成ソフトの基本操作
日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認
- 第 12 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(1)
画像や図形などを使った表現力をアップする機能
- 第 13 回 日本語文書作成ソフトの応用操作(2)
レポートや論文の作成に役立つ機能など
- 第 14 回 日本語文書作成ソフトの総復習
タッチタイピングの確認と総復習
- 第 15 回 実技確認テストとまとめ
実技確認テストとしての【最終課題】の実施とmanabaでの提出。終了後にmanabaなどで講評
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。テキストでは、Windows10/Office2019をベースに解説しているため、macOSの利用者の場合、テキスト内容が実際の操作と異なる場合がある。
このクラスは第1回目は対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン（manabaなどを利用したオンデマンド方式）での授業実施を予定している。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに必ず提出すること。さらに、最終日に実施される「実技確認テスト」は必ず受け、直ちにmanabaで提出する必要がある。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス【対面授業】

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (manabaでの提出物) や授業への態度を「30%」、2つの通常課題の提出を「40%」、実技確認テストとしての最終課題の提出を「30%」とした総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

入学時などの情報スキルチェックテストの結果などに基づいて、この科目の履修者が指定される「選抜者クラス」である。manabaを利用したオンライン (オンデマンド方式) で授業が実施されるため、授業概要、特にどのような提出物をいつ提出する必要があるかを授業開講時に把握しておく必要がある。

オンデマンド方式で実施するため、質問のある学生は「情報アドバイジング」の時間など、対面指導の機会を積極的に利用すること。複数の通常課題 (2つの予定) に関しては、提出後に各自に講評を戻すので確認し、疑問があれば「情報アドバイジング」の時間を利用するなどして、主体的に学びを進めること。

P検 (ICTプロフィシエンシー検定) の3級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の2科目以上 (Wordともう1科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて (こちらでコピーを取って原本は返却します)、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない)。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。テキストや資料はPDFで提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報リテラシー アプリ編<改訂版>(Windows 10/Office 2019対応)』/FOM出版/2020/978-4-86510-418-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

SNSコミュニケーションスキル 2021年度以降入学者

GBL1452N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

月曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネットやSNS(Social Network Service) の仕組みや内容を概観し、特性を理解しながら望ましいネットコミュニケーションのあり方を考え実践する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・SNSの特性を知ること
- ・ネット上でのコミュニケーションの方法を考えることができる
- ・ネット上のトラブル回避や、相談期間の使い方を知る
- ・どのような機器になっても、コミュニケーションに必要な事柄を考えることができる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ネットの特性を理解しようとしな	人の話を聞こうとする	自分以外の人の考えに耳を傾ける	広い視野で物事を判断しようとする
知識・理解力	デジタルの知識を得ようとしな	デジタル技術の仕組みを知ろうとする	デジタル技術の仕組みを理解している	仕組みを理解したうえで、SNSのコミュニケーションの特性を理解している
言語力	わかりにくい言葉で話す	わかりやすい言葉を選ぶことができる	専門的な英語の略語などの意味を理解できている	英語でのメッセージのやり取りの方法を知っている
思考・解決力	トラブルがあっても放置する	コミュニケーションのトラブルについて考える	得られた知識を使いコミュニケーションについて問題を解決しようとする	動画や静止画・スタンプ・絵文字などの特性を理解し、ネットへの投稿ができる。

共生・協働する力	人と一緒に問題解決に当たらない	問題解決を周囲の人と当たろうとする	人の助けになろうとする。	関係機関やネット上の検索なども用いて、周囲の人と一緒に問題解決に当たる
創造・発信力	SNSなどを使ってのネットコミュニケーションに興味がない	自分で考えて発信することができる	周囲の人や通信の相手のことを考えた発信ができる	相手にわかりやすい手段を創造し、よりよいコミュニケーションをすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション この授業の進め方 (対面)
- 第 2 回 現在の青少年のネット利用 (オンライン)
- 第 3 回 機器の発達とSNS (オンライン)
- 第 4 回 パソコン通信からインターネットへ (オンライン)
- 第 5 回 SNSの黎明期 電子掲示板 (BBS) (オンライン)
- 第 6 回 電子メールとSNS, i-mode (オンライン)
- 第 7 回 SNSの躍進 Mixi (オンライン)
- 第 8 回 SNSの発展 Facebook Twitter (オンライン)
- 第 9 回 LINE Instagram TicTokなど (オンライン)
- 第 10 回 SNSコミュニケーションの特性 (対面)
- 第 11 回 LINEマスターになろう (対面)
- 第 12 回 子供たちに指導するには (オンライン)
- 第 13 回 トラブルに巻き込まれたら (オンライン)
- 第 14 回 未来型SNS これからのSNS (オンライン)
- 第 15 回 まとめと自己評価 (対面)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

身の回りにあるネットコミュニケーションの特性などに興味を持ちながら授業を受け、その内容を基に新たに自分としてどのようにSNSやネット上のコミュニケーションを進めればいいのか考える。

基本的には復習中心でよいが、既習の内容をどのように生かしていくかの思考力は自分で伸ばす必要がある。

授業後は毎回responを使って理解度をはかり、コメントを収集する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日々の情報関係の事柄に興味を持ち、ニュースなどをよく見ておくこと。

前時の内容の復習をしっかりとしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業を受ける態度 (40%) : コメントなどの提出 (内容も含む) 以前の自分と変わったかの自己評価 (40%) : 1回目と15回目

にアンケートをとり、それを基に自己評価する
コミュニケーションを取ろうとする態度 (20%) : この授業におけるオンラインでのコミュニケーションに参加しようとする姿勢を評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

トピックは新しいSNSができた場合などで変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽入門 2021年度以降入学者

GCE1101N0J
大学
共通教育科目
1年次
1単位 前期
木曜4限
DP1: 自分を育てる力
15
久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。
- (2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。

知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第 2 回 キリスト教音楽とは
- 第 3 回 教会暦と音楽
- 第 4 回 ミサと聖歌について①（開祭・ことばの典礼）
- 第 5 回 ミサと聖歌について②（感謝の典礼・交わりの儀・閉祭）
- 第 6 回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成
- 第 7 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第 8 回 聖母マリアと音楽
- 第 9 回

ミサと祈り

※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。

- 第 10 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌とモーツァルトの宗教音楽を聴き学ぶ～
- 第 11 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
- 第 12 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVD視聴とレポート作成～
- 第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽
- 第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
- 第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。（6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。）

〔留意事項（Other Information）〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ(改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/

9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教学A 2021年度以降入学者

GCE1102A0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

木曜 4限

DPI：自分を育てる力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学の教育理念にとって、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 聖書の成立と構成 2 救いの歴史と契約 3 イエス・キリストの新しい契約 4 神の国のメッセージ 5 イエス・キリストの教えとわざ 6 現代における福音の意義

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	本学の教育理念であるキリスト教について知ろうとする	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、理解している	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、キリスト教の思想を理解している	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、福音の様々なメッセージを解釈し、キリスト教の思想を詳細に理解することができる

創造学びと発信力の涵養	キリスト教の思想と現代社会の関係を知ろうとする	キリスト教の思想と現代社会の関係を学び、理解している	キリスト教の思想と現代社会の諸問題との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、クラスでのディスカッションや発表を行うことができる	キリスト教の思想と現代社会の諸問題との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、クラスでのディスカッションで積極的に発言し、高いレベルでの発表やレポートの作成を行うことができる
-------------	-------------------------	----------------------------	---	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 人間と宗教
- 第 2 回 キリスト教と聖書
- 第 3 回 福音と現代社会
- 第 4 回 教会の秘跡
- 第 5 回 創造物語
- 第 6 回 出エジプトとシナイ契約
- 第 7 回 放蕩息子
- 第 8 回 ミサと祈り
- 第 9 回 神の国
- 第 10 回 愛とゆるし
- 第 11 回 善きサマリア人
- 第 12 回 まことのぶどうの木
- 第 13 回 受難物語
- 第 14 回 復活
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを提出すること。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、その意味を考えて考察を深めるよう、受講者の授業への積極的参加することが望まれる。
- 2 随時マナバを通して配布される資料も参考にして聖書の解釈を行い、キリスト教の思想を理解する。
- 3 授業の理解内容をマナバを通して課題を書いて提出し、次回の授業で講評する。
- 4 授業内容に関する文献を調べ、レポートにまとめる。
- 5 授業でレポートに関する講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

示された聖書の箇所や配布される資料を読んで聖書の内容を把握した上で授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み、参加度、リアクションペーパー（30パーセント）、レポート（70パーセント）に基づいて総合的に評価する。リアクションペーパー、レポートについては授業中に解説・講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業毎のリアクションペーパー・課題の3分の2以上の提出が単位取得のために必要です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教学B 2021年度以降入学者

GCE1102B0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

木曜4限

DPI：自分を育てる力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学の教育理念にとって、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 聖書の成立と構成 2 救いの歴史と契約 3 イエス・キリストの新しい契約 4 神の国のメッセージ 5 イエス・キリストの教えとわざ 6 現代における福音の意義

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	本学の教育理念であるキリスト教について知ろうとする	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、理解している	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、キリスト教の思想を理解している	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、福音の様々なメッセージを解釈し、キリスト教の思想を詳細に理解することができる
創造学びと発信力の涵養	キリスト教の思想と現代社会の関係を知ろうとする	キリスト教の思想と現代社会の関係を学び、理解し、ディスカッションすることができる	諸問題との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、クラスでのディスカッションで意見を述べ、発表し、文章にすることができる	キリスト教の思想と現代社会の諸問題との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、クラスでのディスカッションで積極的に発言し、高いレベルでの発表やレポートの作成を行うことができる

〔授業計画〕

- 第1回 人間と宗教
- 第2回 キリスト教と聖書
- 第3回 福音と現代社会
- 第4回 教会の秘跡
- 第5回 創造物語
- 第6回 出エジプトとシナイ契約
- 第7回 放蕩息子
- 第8回 ミサと祈り
- 第9回 神の国
- 第10回 愛とゆるし
- 第11回 善きサマリア人
- 第12回 まことのぶどうの木
- 第13回 受難物語
- 第14回 復活
- 第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出すること

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、その意味を考えて考察を深めるよう、受講者の授業への積極的参加することが望まれる。
- 2 随時マナバを通して配布される資料も参考にして聖書

の解釈を行い、キリスト教の思想を理解する。

3 授業の理解内容をマナバを通して課題を書いて提出し、次回の授業で講評する。

4 授業内容に関する文献を調べ、レポートにまとめる。

5 授業でレポートに関する講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

示された聖書の箇所や配布される資料を読んで聖書の内容を把握した上で課題に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み、参加度、平常のマナバの課題 (30パーセント)、定期試験に替わるレポート (70パーセント)に基づいて総合的に評価する。マナバ課題、レポートについてはマナバを通して解説・講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業毎のリアクションペーパー・課題の3分の2以上の提出が単位取得のために必要です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教学C 2021年度以降入学者

GCE1102C0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

金曜4限

DPI: 自分を育てる力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学の教育理念にとって、カトリック(キリスト教)の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 聖書の成立と構成
- 2 救いの歴史と契約
- 3 イエス・キリストの新しい契約
- 4 神の国のメッセージ
- 5 イエス・キリストの教えとわざ
- 6 現代における福音の意義

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	本学の教育理念であるキリスト教について知ろうとする	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、理解している	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、キリスト教の思想を理解している	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、福音の様々なメッセージを解釈し、キリスト教の思想を詳細に理解することができる
創造学びと発信力の涵養	キリスト教の思想と現代社会の関係を知ろうとする	キリスト教の思想と現代社会の関係を学び、理解し、ディスカッションすることができる	キリスト教の思想と現代社会の諸問題との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、クラスでのディスカッションや発表を行うことができる	キリスト教の思想と現代社会の諸問題との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、クラスでのディスカッションで積極的に発言し、高いレベルでの発表やレポートの作成を行うことができる

〔授業計画〕

- 第1回 人間と宗教
- 第2回 キリスト教と聖書
- 第3回 福音と現代社会
- 第4回 教会の秘跡
- 第5回 創造物語
- 第6回 出エジプトとシナイ契約
- 第7回 放蕩息子
- 第8回 ミサと祈り
- 第9回 神の国
- 第10回 愛とゆるし
- 第11回 善きサマリア人
- 第12回 まことのぶどうの木
- 第13回 受難物語
- 第14回 復活
- 第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを提出すること

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、その意味を考えて考察を深めるよう、受講者の授業への積極的参加することが望まれる。

2 随時マナバを通して配布される資料も参考にして聖書の解釈を行い、キリスト教の思想を理解する。

3 授業の理解内容をマナバを通して課題を書いて提出し、次回の授業で講評する。

4 授業内容に関する文献を調べ、レポートにまとめる。

5 授業でレポートに関する講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

示された聖書の箇所や配布される資料を読んで聖書の内容を把握した上で授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み、参加度、リアクションペーパー (30パーセント)、レポート (70パーセント) に基づいて総合的に評価する。リアクションペーパー、レポートについては授業中に解説・講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業毎のリアクションペーパー・課題の3分の2以上の提出が単位取得のために必要です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教学D 2021年度以降入学者

GCE1102DOJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

金曜 4限

DPI: 自分を育てる力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本学の教育理念にとって、カトリック (キリスト教) の精神は大切な柱の一つである。入門コースとしてのこの科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるように

する。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 聖書の成立と構成 2 救いの歴史と契約 3 イエス・キリストの新しい契約 4 神の国のメッセージ 5 イエス・キリストの教えとわざ 6 現代における福音の意義

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	本学の教育理念であるキリスト教について知ろうとする	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、理解している	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、キリスト教の思想を理解している	本学の教育理念であるキリスト教の精神を聖書を通して学び、福音の様々なメッセージを解釈し、キリスト教の思想を詳細に理解することができる
創造学びと発信力の涵養	キリスト教の思想と現代社会の関係を知ろうとする	キリスト教の思想と現代社会の関係を学び、理解し、ディスカッションすることができる	キリスト教の思想と現代社会の諸問題との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、クラスでのディスカッションや発表をし、文章にすることができる	キリスト教の思想と現代社会の諸問題との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、クラスでのディスカッションで積極的に発言し、高いレベルでの発表やレポートの作成を行うことができる

〔授業計画〕

第1回 人間と宗教

第2回 キリスト教と聖書

第3回 福音と現代社会

第4回 教会の秘跡

第5回 創造物語

第6回 出エジプトとシナイ契約

第7回 放蕩息子

第8回 ミサと祈り

- 第 9 回 神の国
- 第 10 回 愛とゆるし
- 第 11 回 善きサマリア人
- 第 12 回 まことのぶどうの木
- 第 13 回 受難物語
- 第 14 回 復活
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出すること

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、その意味を考えて考察を深めるよう、受講者の授業への積極的参加することが望まれる。
- 2 随時マナバを通して配布される資料も参考にして聖書の解釈を行い、キリスト教の思想を理解する。
- 3 授業の理解内容をマナバを通して課題を書いて提出し、次回の授業で講評する。
- 4 授業内容に関する文献を調べて考察を深めて、レポートにまとめる。
- 5 授業でレポートに関する講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

示された聖書の箇所や配布される資料を読んで聖書の内容を把握した上で課題に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み、参加度、平常のマナバの課題 (30 パーセント)、レポート (70 パーセント) に基づいて総合的に評価する。マナバ課題、レポートについてはマナバを通して講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業毎のリアクションペーパー・課題の3分の2以上の提出が単位取得のために必要です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽概論 A 2021年度以降入学者

GCE1103A0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

木曜4限

DP1: 自分を育てる力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかにか神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身に付いていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身に付いていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身に付いていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	日常生活の諸問題につ	ある程度、日常生活の	おおむね日	日常生活の諸問題につ

	いて、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	いて、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についている。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第 2 回 キリスト教音楽とは
- 第 3 回 教会暦と音楽
- 第 4 回 ミサと聖歌について①（開祭・ことばの典礼）
- 第 5 回 ミサと聖歌について②（感謝の典礼・交わりの儀・閉祭）
- 第 6 回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成
- 第 7 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第 8 回 聖母マリアと音楽
- 第 9 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
- 第 10 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌とモーツァルトの宗教音楽を聴き学ぶ～
- 第 11 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
- 第 12 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVD視聴とレポート作成～
- 第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽
- 第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
- 第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深

めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通してお

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。（6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。）

〔留意事項（Other Information）〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ（改訂版）』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽概論 B 2021年度以降入学者

GCE1103B0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

木曜 4限

DP1：自分を育てる力

60

久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることに

なる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。

共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
 - 第 2 回 キリスト教音楽とは
 - 第 3 回 教会暦と音楽
 - 第 4 回 ミサと聖歌について① (開祭・ことばの典礼)
 - 第 5 回 ミサと聖歌について② (感謝の典礼・交わりの儀・閉祭)
 - 第 6 回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成
 - 第 7 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
 - 第 8 回 聖母マリアと音楽
 - 第 9 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
 - 第 10 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌とモーツァルトの宗教音楽を聴き学ぶ～
 - 第 11 回 アドヴェント (待降節) の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
 - 第 12 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVD視聴とレポート作成～
 - 第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽
 - 第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
 - 第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、試験 (50点)、レポート (20点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。(6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ (改訂版)』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽概論C 2021年度以降入学者

GCE1103CJ

大学

共通教育科目

1年次

2単位 後期

金曜 4限

DPI: 自分を育てる力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考え

る。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活	学習したことを他者に説明したり、実生活

	に應用したりする力が身につかない。	り、実生活に應用したりする力が身についている。	実生活に應用したりする力が身についている。	に應用したりする力が十分身についている。
--	-------------------	-------------------------	-----------------------	----------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第 2 回 キリスト教音楽とは
- 第 3 回 教会暦と音楽
- 第 4 回 ミサと聖歌について①（開祭・ことばの典礼）
- 第 5 回 ミサと聖歌について②（感謝の典礼・交わりの儀・閉祭）
- 第 6 回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成
- 第 7 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～
- 第 8 回 聖母マリアと音楽
- 第 9 回 ミサと祈り
※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。
- 第 10 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌とモーツァルトの宗教音楽を聴き学ぶ～
- 第 11 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト
- 第 12 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVD視聴とレポート作成～
- 第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽
- 第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽
- 第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通しておく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。（6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。）

〔留意事項（Other Information）〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ（改訂版）』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽概論D 2021年度以降入学者

GCE1103D0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

金曜4限

DPI：自分を育てる力

60

久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われる。この授業では音楽を通してキリスト教精神を理解することを第一目標とする。授業において時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介していきたい。さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じてほしい。また聖歌を歌う練習も授業内で行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解するように努める。

(2) さまざまな聖歌を歌うことにより、キリスト教文化に親しむ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の導入 及び「学歌」で学ぶノートルダムスピリット
- 第 2 回 キリスト教音楽とは
- 第 3 回 教会暦と音楽
- 第 4 回 ミサと聖歌について①（開祭・ことばの典礼）

第 5 回 ミサと聖歌について②（感謝の典礼・交わりの儀・閉祭）

第 6 回 キリスト教に関するDVD視聴とレポート作成

第 7 回 J.S.バッハの宗教音楽～教会カンタータを学ぶ～

第 8 回 聖母マリアと音楽

第 9 回 ミサと祈り

※後期クラスでは「物故者追悼ミサ」と「ノートルダムクリスマス」への出席を求める。

第 10 回 レクイエムについて～グレゴリオ聖歌とモーツァルトの宗教音楽を聴き学ぶ～

第 11 回 アドヴェント（待降節）の音楽とイタリアのクリスマスコンチェルト

第 12 回 クリスマスの音楽～ライブチヒ・聖トーマス教会聖歌隊コンサートDVD視聴とレポート作成～

第 13 回 オルガンのしくみ及びイタリアのオルガンオルガンとその音楽

第 14 回 オランダ・ドイツのオルガンとその音楽

第 15 回 フランスのオルガン音楽オルガンとその音楽

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 教育の方法

基本的にテキストに沿って講義をすすめる。内容理解を深めるためCD,DVD等の視聴覚教材を用いることもある。

2. 学習の方法

音楽を聴く際には静かにする。次回のテキストの範囲に目を通ししておく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回の範囲を指定するので予習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、試験（50点）、レポート（20点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合は、原則として単位を与えない。（6回欠席すると単位認定が困難になるので注意のこと。）

〔留意事項（Other Information）〕

授業外の積極的学習として月例ミサへ参加を奨励し、授業参加度に加える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『キリスト教と音楽』/金澤正剛/音楽之友社/2007年/9784276110588C1073/学内販売予定

『キリストと我等のミサ（改訂版）』サンパウロ/1981年/学内販売予定

そのほか授業で使用する資料・楽譜についてはプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『キリスト教音楽と歴史』/川端純四郎/日本基督教団出版局/1999年/4818403423 C0073

『キリスト教音楽と歴史』/金澤正剛/日本基督教団出版局/2005年/4818405507 C1073

『宗教音楽対訳集成』/吉村恒編/国書刊行会/2007年/9784336049827C0073

そのほか、適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書と文化

GCE2100N0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 2単位 前期
 木曜1限
 DP1：自分を育てる力
 60
 中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新約聖書の福音書に描かれるイエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的背景を考慮しつつ、キリスト教成立以前のありのままの人間としてのイエスを探究し、当時の人々にとってイエスが信仰の対象となるに至る過程をイエス時代の文化との関係において理解し論じることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 福音書に描かれるイエスの言葉と行為 2 イエス時代のユダヤ人の文化 3 イエス時代の人々の生活 4 イエスの裁判とユダヤ人の伝統 5 イエスへの信仰

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	福音書を読解することができる	福音書を読解し、さらにイエス時代の社会背景や思想を概ね理解できる	福音書を読解し、さらにイエス時代の社会背景や思想を高度に理解し、その関係性について理解することができる	福音書を理解し、さらにイエス時代の社会背景や思想に関する深い知識があり、イエスのメッセージと当時の文化社的社会的背景との関係性について理解し、当時の人々のイエスへの信仰を理解し、レポートにまとめることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 イエスの時代の文化的背景
- 第 3 回 イエスと当時の人々
- 第 4 回 イエスによる赦し
- 第 5 回 イエスによる癒し
- 第 6 回 ユダヤ社会における連帯とイエス
- 第 7 回 イエスと政治
- 第 8 回 古代ユダヤ人の時の観念と歴史感覚
- 第 9 回 神殿の清め
- 第 10 回 初代教会の共同体
- 第 11 回 神の国の到来
- 第 12 回 ユダヤ人のメシア待望
- 第 13 回 ユダヤ人の殉教の伝統とイエスの裁判
- 第 14 回 イエスへの信仰
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、参考文献を調べて積極的に授業に参加する。2 随時参考資料を配布する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関連する聖書の箇所をあらかじめ読んで授業に臨む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への取り組み・リアクションペーパー (30%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。リアクションペーパーとレポートについて、授業中に解説と講評を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業毎の課題またはアクションペーパーは15回中の3分の2以上の提出が単位取得には必要である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新共同訳『聖書』(旧約聖書統編つき)』//日本聖書協会//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教音楽

GCE2152N0J
 大学
 共通教育科目
 2年次
 2単位 後期
 火曜4限
 DPI：自分を育てる力
 60
 久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ヘンデル (1685-1759) 作曲のオラトリオ《メサイアHWV.56》を学ぶ。テキストの日本語訳を読みときながら、ヘンデルの音楽を味わい、その音楽の意味と宗派を超えたキリスト教音楽の普遍性について考えたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) オラトリオのテキストと音楽との関連性を理解するように努める。
- (2) ヘンデルの音楽の特徴や他の作曲家 (特にJ.S.バッハ) の音楽との比較をする。
- (3) オラトリオ《メサイアHWV.56》を味わうことにより自己の音楽的視野を広げる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識が身についていない。	ある程度、キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。	おおむねキリスト教音楽の幅広い分野について知識を身につけている。	キリスト教音楽の幅広い分野について十分な知識を身につけている。

言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についていない。	ある程度、日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	おおむね日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が身についている。	日常生活の諸問題について、キリスト教音楽の知識を利用して解決する力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に応用したりする力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第1回 ヘンデルの生涯 (前半)
- 第2回 ヘンデルの生涯 (後半)
- 第3回 《メサイア》第1部
第1-5曲
- 第4回 第6-10曲
- 第5回 第11-15曲
- 第6回 第16-21曲
- 第7回 《メサイア》第2部
第22-26曲
- 第8回 第27-30曲
- 第9回 FEBC 今道友信「あこがれと涙とほほえみと」を聞き、感想レポート提出
- 第10回 第31-35曲
- 第11回 第36-39曲
- 第12回 第40-44曲
- 第13回 《メサイア》第3部
第45-47曲
- 第14回 第48-50曲
- 第15回 第51-53曲

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業実施方法 講義。レポートを課すことがある。
2. 学習の方法 音楽を聴く際には静かにする。次回の範囲に目を通しておく。
3. 使用教材 プリント、CD,DVD等。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業以外にも月例の学内ミサに積極的に参加するなどキリスト教に親しんでほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、感想レポート (20点)、期末レポート (50点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回欠席) は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『「メサイア」ハンドブック』/三ヶ尻正/シヨパン/1998年/978-4-88364-091-1/有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学 (20以前)

GCP1100N0J

大学

共通教育科目

1年次

1単位 前期集中

その他

DPI: 自分を育てる力

15

吉田 智子 神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、永遠的世界を見据える自校教育 (徳育) と、時間的世界を見据えるキャリア教育 (知育) とを組み合わせたものである。受講者はこの科目での多面的な学びを通して、ノートルダムの徳と知の精神の基礎を学び、知性と品性を兼ね備えた人間になろうと常に自ら努力することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

カトリック精神・日本伝統文化・現実社会の諸相を学ぶことを通じて、ノートルダム精神の基礎を身につける。ま

た、ノートルダムの「徳と知の精神」の体得を目指すことで、知性と品性の両方を持つ人間になる素養を身につける。

- ・ノートルダムのミッション・コミットメントを理解する
- ・自校についてルーツを含めて知り、自分のキャリアに役立てる

・学歌を理解し覚え、正しい英語で歌う

・日本伝統文化に親しむ

・ネット時代の情報の扱い方を知る

・社会人基礎力として本学が定めた ND6の概要を知る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ノートルダムのミッション・コミットメントの理解	ミッション・コミットメントが何かを知らない	ミッション・コミットメントの存在と四つの動詞を知っている	ミッション・コミットメントの内容、特に四つの動詞の意味を深く理解している	ミッション・コミットメントの四つの動詞を、日々の生活で実践している
自校のルーツおよび学歌の理解	自校のルーツおよび学歌を知らない	自校のルーツおよび学歌の内容を知っている	自校のルーツおよび学歌の意味を深く理解し、日々の生活に関連づけて考えることができる	自校のルーツおよび学歌に含まれたノートルダム・スピリットを、自分の将来に活かす決意を持っている
自分のキャリアを意識する	ライフキャリアについて考えていない	大学時代が自分のライフキャリアの準備期間であることを知っている	単なる職業キャリアのみならず、人生や生活を包括的にとらえるライフキャリアを理解し、大学生生活はそのため貴重な準備期間であると実感している	精神的にも経済的にも自立した人間となるためのライフキャリアを意識して、有意義な大学生活を送っている
日本伝統文化に親しむ	日本伝統文化に興味を持たない	日本伝統文化としての茶道、あるいは華道の基本を知っている	海外から見た日本伝統文化にも興味を持ち、たとえば、日本の茶道が海外のティータイムとどう違うかが説明できる	数々の日本文化を総合的に扱うことのできる茶道、生命を文化として扱う華道を含む日本伝統文化をたしなむことで、知性と品性を兼

				ね備えた人間をめざしている
本学が定めたND6の概要を知る	ND6が何かを知らない	ND6の項目(6つの力)を知っている	ND6の6つの力を理解し、大学で提供される各授業で主にどの力を高められるかを把握して授業を受けている	卒業までに「自分を育てる力、知識・理解力、言語力、思考・解決力、共生・協働する力、創造・発信力」という、ND6の6つの力を高めるために日々、努力している

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
「ノートルダム学」の導入、ノートルダムのミッション・コミットメントを学ぶ
- 第 2 回 キャリア教育(1)
ノートルダムでのコミュニケーション ～学内でのマナーとエチケット～
- 第 3 回 自校教育(1)
学歌で学ぶノートルダム・スピリット ～英語の歌詞を理解して歌うために～
- 第 4 回 日本文化
茶道に学ぶ～日本文化の入り口～
- 第 5 回 大学教育(1)
インターネット時代の情報の扱い方(1) ～「学び方改革」をしよう～
- 第 6 回 大学教育(2)
カトリック系女子大学で学ぶ意義
- 第 7 回 自校教育(2)
聖母マリアの生活と現代社会
- 第 8 回 自校教育(3)
自校を知り、自分の将来に役立てる
- 第 9 回 自校教育(4)
ノートルダムの世界ネットワーク
- 第 10 回 自校教育(5)
本学の建学の精神とエンパワーメント
- 第 11 回 キャリア教育(2)
女性の権利とライフデザイン
- 第 12 回 大学教育(3)
ND6・ノートルダムで身につける6つの力～書く力の大切さ～
- 第 13 回 大学教育(4)
インターネット時代の情報の扱い方(2) ～情報の扱い方～
- 第 14 回 「ノートルダム学」まとめ
- 第 15 回 レポート課題の提出
講評はmanabaにて公開

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

集中授業として実施される特別プログラムであり、manabaコースの教材を用いたE-Learningを利用して学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は別途指示をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

E-Learningへの授業参加度30%、提出物70%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

2000年度以前入学者用に集中授業として実施される特別プログラムである。manabaコースの教材を用いたE-Learningを利用して学ぶ。すべての授業を吉田智子 (ND教育センター教授) が統括する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』/徳と知教育センター/京都ノートルダム女子大学/2018/

『レーゲンスブルクの船主の娘～カロリーナ・ゲルハルディングー、イエスのマザーテレジア、ノートルダム修道女会創立者～』/シスターマルグリート塩田、シスターマグダレン野元/ノートルダム教育修道女会/1992/

『女性リーダー4.0 新時代のキャリア術』/坂東真理子/朝日新聞出版/2016/

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

女性とライフキャリア

GCP1101N0J

大学

共通教育科目

1年次

2単位 前期

木曜3限

DP1：自分を育てる力

60

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学生生活を終えた後の長い人生を「いかに生きるか」を考えるために必要な知識を得るとともに、女性の特性を認識しながら自己のキャリアデザインを考えることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

自分の人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身に付け、考える力を養成する。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出席はしているが、寝ていたり授業と関係ないことをしている。	女性のライフキャリアの特性を理解しようとする。	今後の人生で想定されるまさかの事態を、生き方別に想定することができる。	レベル3に加えて、「まさかの事態」が生じたときの対処と、リスクが生じないような予防を想定し、行動することができる。
主体的に行動する力	教員の指示通りに行く。あるいは常に指示待ちである。	教員の指示を聞きながら、自分でもやってみる。	教員の指示以外にも、関連情報を自主的に文献やインターネットから集めて、学習できる。	学修目標を理解した上で、文献やインターネットから情報を集めるだけでなく、関連する人に話を聞き、学びを深める。
コミュニケーションする力	問われたことに対する回答がなされていない。提出物に、誤字や脱字が多かったり、漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所が5ヶ所以上ある。	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、問われたことに対して適切に回答している。	適切な表現を用いながら、簡潔に回答している。	レベル3に加えて、批判的・論理的な回答ができる。
思考・解決力	考えることをしない。考えることを途中で止める。	女性のライフキャリアで生じるさまざまな課題を考えてみる。解決に向けて取り組もうとする。	女性のライフキャリアで生じる困難を、社会の動きとの関わりの中から理解し、対処法を考えることができる。	性別を超えて、人々のライフキャリアを論じることができる。

共生・協働する力	グループワークのときに、作業をせず人任せにする。または人の意見を受け入れない。	グループワークのときに、メンバーと役割を決めて、課題に取り組む。	グループワークで、各自が作った成果物を持ち寄り、より良いものになるように全員で協力して課題を完成させる。	グループワークで自身の役割を全うするだけでなく、メンバーの成果物を評価し、より良いものをつくり上げることができる。
創造・発信力	指名されても発言しない。課題を提出しない。	指名されたら、自分の意見を言える。課題を提出する。	自発的に発言する。あるいは「見られる」「評価される」ことを意識した提出物を作成している。	レベル3に加えて、発言も提出物も、主観だけでなく資料からの裏づけをもとに行っている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション：「ライフキャリア」とはなにか？
- 第 2 回 ライフキャリアに「主体性」が求められる背景（わけ）
- 第 3 回 日本女性の生き方の変化
- 第 4 回 女性の「労働」を考える
- 第 5 回 グループワークへ向けての問題提起
- 第 6 回 グループワーク①：グループ作業
- 第 7 回 グループワーク②：グループ発表
- 第 8 回 グループワーク③：グループワーク総括・女性が参加するさまざまな社会活動
- 第 9 回 マネープランニングと女性のライフキャリア（ゲストスピーカーの予定）
- 第 10 回 ケアと女性のライフキャリア
- 第 11 回 父子世帯の父の視点から考える女性のライフキャリア（ゲストスピーカーの予定）
- 第 12 回 女性の貧困問題
- 第 13 回 暴力と女性のライフキャリア
- 第 14 回 デンマーク女性のライフキャリア戦略
- 第 15 回 グローバル化と女性のライフキャリア
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- 実施する（期末レポート）
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- ＜教育・学習の方法＞
- ・ライフキャリアの多様性を理解する（講義）。
 - ・それぞれのライフキャリアの利点や課題を考え発表する（個人またはグループワーク）。
 - ・人生の局面で遭遇する課題を理解したうえで、自己のライフキャリアについて考える（講義または個人ワーク）。
- ＜課題（レポート）のフィードバック方法＞
- 課題（レポート）は授業中に受講生自ら発言する機会を

設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する（場合によっては、manabaで公開する）。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

<復習>

・授業で投影したスライドは、授業終了後の一両日中にmanabaへアップする。授業中に聞き逃したことや分からなかった所は復習をして、必要に応じて担当教員に尋ねること。

<予習>

・授業中に次回までの課題を指示する。必ず準備して授業に臨むこと。

・次回の受講生用レジュメは、授業の3日前までにmanabaへアップする。内容を確認し、分からないところは事前に調べたり、関連しそうな新聞記事やインターネットの情報に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

期末レポート 40%、授業中の課題 40%、受講態度 20%

〔留意事項（Other Information）〕

・10回以上の出席がないと、最終評価の対象から外す。欠席回数には各自で注意すること。

・受講生の人数やゲストスピーカーの都合により、授業予定が変更になる場合がある（特に第5回以降）。事前に授業内で連絡するので、しっかり聞いておくこと。また、時事問題を多く扱うため、学期開始後に授業内容を一部変更することもある（事前告知はする）。

・レジュメは授業の3日前までに「manaba」に公開する。必要であれば、プリントするなど各自で準備をすること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『女性とライフキャリア』/矢澤澄子・岡村清子（編）/勁草書房/2009/9784326653515

『大学生のためのキャリアデザイン入門』/岩上真珠・大槻奈巳（編）/有斐閣/2014/9784641174009

『国際比較 若者のキャリア』/岩上真珠（編）/新曜社/2015/9784788513464

『キャリア開発論』/武石恵美子/中央経済社/2016/9784502198410

『女性のためのライフプランニング[第2版]』/田和真希/大学教育出版/2016/9784864293921

そのほか、講義内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ノートルダム学

GCP1102N0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次

1単位 前期前半

月曜 4限

DP1：自分を育てる力

30

前半7.5コマ

吉田 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この授業は、永遠の世界を見据える自校教育（徳育）と、時間的世界を見据えるキャリア教育（知育）とを組み合わせたものである。ノートルダム教育は、200年以上も前に知識教育に偏ることなく感性・徳性などを育てるために音楽、家庭科の教育を取り入れるなど、時代を先取りした斬新的な教育で注目を集め続けてきた。そして現在、ノートルダム修道女会は、正義と平和、そして自然界の統合のためのNGOとして、国連にも参加している。我々がノートルダム教育の伝統を受け継いでいくためには、まずノートルダムの建学の精神を知り、自分にできることから実行すべきである。この科目はその一助になるであろう。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

カトリック精神・現実社会の諸相を学ぶことを通じて、ノートルダム精神の基礎を身につける。具体的には、以下の個別課題を中心に取り組み、ノートルダムの「徳と知の精神」の体得を目指す。

- ・ノートルダムのミッション・コミットメントを理解する
- ・学歌を通してノートルダム・スピリットを体得する
- ・自校についてルーツを含めて知り、自分のキャリアに役立てる
- ・ノートルダム教育の世界ネットワークとSDGsの関わりを考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ノートルダムのミッション・コミットメントの理解	ミッション・コミットメントが何かを知らない	ミッション・コミットメントの存在と四つの動詞を知っている	ミッション・コミットメントの内容、特に四つの動詞の意味を深く理解している	ミッション・コミットメントの四つの動詞を、日々の生活で実践している

自校のルーツおよび学歌の理解	自校のルーツおよび学歌を知らない	自校のルーツおよび学歌の内容を知っている	自校のルーツおよび学歌の意味を深く理解し、日々の生活に関連づけて考えることができる	自校のルーツおよび学歌に含まれたノートルダム・スピリットを、自分の将来に活かす決意を持っている
自分のキャリアを意識する	ライフキャリアについて考えていない	大学時代が自分のライフキャリアの準備期間であることを知っている	単なる職業キャリアのみならず、人生や生活を包括的にとらえるライフキャリアを理解し、大学生活はそのための貴重な準備期間であると実感している	精神的にも経済的にも自立した人間となるためのライフキャリアを意識して、有意義な大学生活を送っている

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

「ノートルダム学」の導入、ノートルダムのミッション・コミットメントを学ぶ。

第 2 回 カトリック系女子大学で学ぶ意義を学歌から
1961年に創立され、2021年に創立60周年を迎えた本学の学歌 (College Song) の歌詞を理解することで、ノートルダム・スピリットを体得する。

第 3 回 聖母マリアの一生とノートルダム
新約聖書の記述から、キリストの母である聖母マリアの一生を学ぶことで、永遠の視点を持って現代社会を考察する。

第 4 回 女性の権利とライフデザイン
社会保険労務士の卒業生を講師に招き、人生や生活を包括的にとらえたライフデザインの考え方や、そのために必要な法律・制度に関する知識を学ぶ。

第 5 回 自校を知り、自分の将来に役立てる
本学は、ノートルダム教育修道女会の創立者マザーテレジア・ゲルハルディングー(1797-1879)から始まり、世界に広がったノートルダムの学校の一つである。世界に広がるノートルダムの一連の歴史を学び、私たちの生き方とどう関わりを持つかを考える。

第 6 回 ノートルダム教育の世界ネットワーク
世界中のノートルダム教育をつないでいるシャロームネットワークは、正義と平和、そして自然界の統合のためのNGOとして、国連にも参加している。SDGsの実践も含めて、ノートルダムの一員として自分が社会のために何ができるかを考える。

第 7 回 本学の建学の精神とエンパワーメント
ノートルダム教育の目的は、一人一人が神からいただ力を十分に開花させて、幸せになる手助けすることと、正義にかなった平和なグローバルコミュニティを作っていくことである。このノートルダムの建学の精神を身につけることは、自分のエンパワーメントにもつながるであろう。

第 8 回 まとめ
前半の45分間を使って、授業のまとめを実施する。(後半からは、前期後半から開始される授業に参加することが可能)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義・体験学習などを併用し、毎回の授業には授業支援システム (manabaとrespon) を使う。詳細は授業時に指示するが、学習としてテキストやプリントを読んだり、課題に取り組んだりする学習を要する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示する。配付されたテキストを事前に読んでくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 35%、提出物 65%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

前期の前半7.5回で終了するので、8回目の後半からは「文章作成法I」など、同じ時間帯の前期後半7.5回に実施される科目との同時履修が可能である。

各回の講義の順序は予定であり、お招きするゲスト講師の都合で前後する可能性があるため、授業中の指示に従うこと。ゲスト講師を招いての授業も含めて、すべての授業を吉田智子 (ND教育センター教授) が統括する。

『徳と知を学ぶ「ノートルダム学」テキスト』京都ノートルダム女子大学(2018年発行)を授業中に配布予定である。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『レーゲンスブルクの船主の娘～カロリーナ・ゲルハルディングー、イエスのマザーテレジア、ノートルダム修道女会創立者～』/シスターマルグリート塩田、シスターマグダレン野元/ノートルダム教育修道女会/1992/

『女性リーダー4.0 新時代のキャリア術』/坂東真理子/朝日新聞出版/2016/

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://ssnd.jp/70th/> ノートルダム教育修道女会発行『招かれて70年～SSND日本ミッションの歩み～』

<https://ssnd.org/> School Sisters of Notre Dame (ノートルダム教育修道女会の本部)

<http://www.notredame.ac.jp/vscenter/nd/2018/>

短期インターンシップA 2021年度以降入学者

GCP1550A0J
 大学
 共通教育科目
 1年次 2年次
 1単位 集中
 その他
 DP5：共生・協働する力
 15
 集中
 濱中 倫秀

[科目の教育目標 (Course Description)]

就業体験を通して、早期に自己の職業適性や将来設計について考えるきっかけとする。

その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。

さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ学生生活が出来るようになる。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。

・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。

・就業体験を通して学び得た事と、今後の行動計画をまとめて発表する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	常識やマナーを守り、自律した事前・事後学習参加が出来ていない。	常識やマナーを守り、自律した事前・事後学習参加をしようとしている。	常識やマナーを守り、自律した事前・事後学習参加が出来ている。	常識やマナーを守り、高いレベルで自律した事前・事後学習参加が出来ている。
知識・理解力	実習・事前事後学習で身につけるべき知識について、十分な理解が出来ていない。	実習・事前事後学習で身につけるべき知識について、理解しようとしている。	実習・事前事後学習で身につけるべき知識について、十分理解出来ている。	実習・事前事後学習で身につけるべき知識について、高いレベルで理解出来、応用も出来ている。

言語力	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化できていない。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化しようとしている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、十分言語化出来ている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、具体的に言語化出来ており、独自性も見られる。
思考・解決力	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動出来ない。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動しようとしている。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か主体的に考え・行動出来ていない。	実習中に取り組む課題を能動的に見つけ、解決に何が必要か考え・行動出来ている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換が出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信出来ない。	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信しようとしている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを十分発信出来ている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを具体的に発信出来ている。

[授業計画]

- 第 1 回 事前研修①
 インターシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明
 ＊日時・教室は4月のガイダンスにて説明する
- 第 2 回 事前研修②
 実習先の研究成果についての発表・目標立案
 ＊日時・教室は4月のガイダンスにて説明する
- 第 3 回 実習①
 実習先での就業体験
- 第 4 回 実習②
 実習先での就業体験
- 第 5 回 実習③
 実習先での就業体験
- 第 6 回 実習④
 実習先での就業体験
- 第 7 回 実習⑤
 実習先での就業体験
- 第 8 回 実習⑥
 実習先での就業体験
- 第 9 回 実習⑦
 実習先での就業体験
- 第 10 回 実習⑧
 実習先での就業体験

- 第 11 回 実習⑨
実習先での就業体験
- 第 12 回 実習⑩
実習先での就業体験
- 第 13 回 事後研修①
実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明
- 第 14 回 事後研修②
実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備
- 第 15 回 成果発表会
学び得たことと今後の行動計画の発表
*日時・発表場所は4月のガイダンスにて説明する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。

(事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は4月のガイダンスで説明する)

提出するレポートは下記の通り。いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までに

それぞれ確実に提出すること。

- 1.実習前／実習先についての事前レポート
- 2.実習中／毎日記入する実習日誌
- 3.実習後／事後レポート

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究しておくこと。

・実習先では指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。

・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。

・実習中は水分補給や十分な睡眠、加えて新型コロナウイルス感染防止を万全にすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度 85% (実習先の評価60%、事前・事後研修および成果発表会の評価25%)

レポート15% (未提出者は評価対象外) で評価する。

※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔留意事項 (Other Information)〕

・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。

・キャリアセンターからの連絡、指示はmanaba経由が多いので、定期的に確認し、見落としがないよう注意しておくこと。

・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中小企業での採用人事経験あり。

短期インターンシップB 2021年度以降入学者

GCP1550B0J

大学

共通教育科目

1年次 2年次

1単位 集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

15

集中

濱中 倫秀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「滋京奈地域人材育成協議会」に加盟する大学の1・2年次生が、大学の枠を超えて“地元の企業等で就業体験”を行い、企業観や職業観を学ぶとともに、地元で働く魅力を実感することを目的とした春期インターンシップです。一般的なインターンシップとは異なり、“地元の中小企業での就業体験”を基軸に、地元への人材還流、地元定着を目指しています。特徴としては、「低年次」を対象としたアクティブ・ラーニング型の短期インターンシップという点です。

低年次から企業間や就業観を学ぶことで、学生自身のキャリアの幅を広げることができ、また将来や学びへの気付きを得ることによって、就職活動時の主体的な行動に結びつけることを狙いとしています。

注) 春期 (12月～3月) の期間中に実施される実習のため、単位認定は翌年度前期となります。ご注意ください。

注) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に状況に伴い、一部またはすべてのプログラムがオンライン方式へと変更する可能性があります。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究やインタビュー、訪問等を行う。

・就業体験実習では、社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する実践的な学びを行う。

・事後学習では就業体験を通して学び得た「社風」や「学生から見た企業の魅力」等をまとめて発表する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前研修①
 全体説明、アイスブレイク・企業研究講座・マナー講座・会社説明会シミュレーション
 ＊会場や日時は10月のガイダンスにて説明します。
- 第 2 回 事前研修②
 【経営者講演】企業理念からみた社風創造
 【社員講演】会社の業務と働きがい・事前訪問と実習に向けたグループワーク（事前発表準備）・事前発表会
 ＊会場や日時は10月のガイダンスにて説明します。
- 第 3 回 企業訪問実習
 実習先への挨拶・幹部社員インタビュー
- 第 4 回 実習①
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 5 回 実習②
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 6 回 実習③
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 7 回 実習④
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 8 回 実習⑤
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 9 回 実習⑥
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 10 回 実習⑦
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 11 回 実習⑧
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 12 回 実習⑨
 社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。
- 第 13 回 実習⑩

社員・社長インタビューや業務体験を通じ、社風を発見する、といった実践形式で学びます。

- 第 14 回 事後研修①
 オリエンテーション・発表準備・クラス発表会・全体講評①
 ＊会場や日時は10月のガイダンスにて説明します。
- 第 15 回 事後研修②
 オリエンテーション・発表準備・クラス発表会・全体講評②
 ＊会場や日時は10月のガイダンスにて説明します。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施します。

（事前・事後学習及び成果発表会の会場と日時は10月のガイダンスで説明します）

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をしておいてください。

・実習先では指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動してください。

・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておいてください。

・慣れない環境で実習にあたるので、水分補給や十分な睡眠等、体調管理を万全にしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業態度 80%（実習先の評価60%、事前・事後研修および成果発表会の評価20%）

提出課題 20%（未提出者は評価対象外）で評価します。

＊事前・事後研修はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁です。

＊春期（12月～3月）の期間中に実施される実習のため、単位認定は翌年度前期となります。ご注意ください。

〔留意事項（Other Information）〕

・申請方法等詳細については10月に行うインターンシップ説明会で確認すること。

・キャリアセンターからの連絡、指示はmanaba経由が多いので、定期的の確認し、見落としが無いよう把握しておいてください。

・遅刻、欠席厳禁

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

「滋京奈人材育成協議会」で検索→社風発見インターンシップのページを参照

<https://jikeina.jimdofree.com/home/>

%E7%A4%BE%E9%A2%A8%E7%99%BA%E8%A6%8B%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%B7%E3%83%83%

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

中小企業での採用人事経験あり。

TOEIC III

EGB2305N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜 4限

DP3：言語力

60

定員40人

櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されています。

文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
4. 400点～500点にスコアをのぼす

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示された課題に取り組めない。	指示された課題に取り組む。	指示された課題の意味を考え、積極的に取り組む。	指示された課題の意味を汲み取り、自分でさらに学習の幅を広げられる。
知識・理解力	TOEICの問題の仕組みを理解できない。	TOEICの問題の仕組みを理解できる。	TOEICの問題の仕組みを理解し、説明できる。	TOEICの問題の仕組みを理解し、説明でき、勉強方法を考えられる。

言語力	問題を解けず、英語も理解できない。	問題をいくつか正解し、英語もある程度は理解できる。	問題をいくつか正解し、英語を理解し、使うための英語として学ぼうとする。	問題の正解のみならず、英語を理解し、使うための英語として習得する。
思考・解決力	与えられた課題に自分で考えて取り組めない。	与えられた課題に自分で考えて取り組めるが、解決出来ない問題に出会った時に諦める。	解決出来ない問題に出会った時に、解決策を探そうとする。	解決出来ない問題に出会った時に、解決策を探すため、様々な方向から検討できる。
共生・協働する力	クラスメートとのペアワーク、グループワークに取り組めない。	クラスメートとのペアワーク、グループワークに取り組める。	ペアワーク、グループワークに積極的に取り組める。	ペアワーク、グループワークに積極的に取り組めるのみならず、全員が楽しく参加できるよう工夫する。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

TOEICとは? Orientation

Part 1 現在進行、現在完了、受動態

第 2 回 Part 5、Part 2

Part 5 品詞問題、語彙問題

Part 2 基本的な疑問文と応答

第 3 回 Part 5、Part 2

Part 5 動詞の問題、語彙問題

Part 2 ひっかけを避ける方法と、難易度の高い問題への取り組み方

第 4 回 Part 1、Part 2、Part 5

Part 1, Part 2, Part 5 の実践問題

Part 1, Part 2, Part 5 小テスト

第 5 回 Part 3、Part 5

Part 5 接続詞

Part 3 問題文の種類と、意味の取りにくい問題文

第 6 回 Part 3、Part 5

Part 5 分詞

Part 3 問題文から聞き取りのポイントをおさえる、選択肢の語法に慣れる

第 7 回 Part 6、Part 3

Part 6 実用性のある文書の特徴をおさえる

Part 3 会話の状況を把握する

第 8 回 Part 6、Part 3

- Part 6 パラグラフ、文脈でパッセージを読む
 Part 3 会話の詳細な情報を聞き取る
 第 9 回 Part 6、Part 3 の実践問題と小テスト
 Part 3, Part 6 実践問題
 Part 6, Part 3 小テスト
 第 10 回 Part 7
 Part 7 実用性のある文書の特徴をおさえる
 第 11 回 Part 7、Part 4
 Part 7 意味の取りにくい問題文、選択肢に慣れる
 Part 4 トークの状況を把握する
 第 12 回 Part 7、Part 4
 Part 7、Part 4 実践問題
 第 13 回 Part 7、Part 4 小テスト
 Part 7、Part 4 実践問題
 Part 7、Part 4 小テスト
 第 14 回 Listening 模擬試験
 Listening 模擬試験 と解説
 第 15 回 Reading 模擬試験
 Reading 模擬試験 と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. TOEICの出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (= 解法) のポイントをおさえ、使えるようにする。
3. 本番と同じ問題を使ってTOEICの英語を段階的に習得する。
4. TOEICに取り組むための基本的英語力をおさえる。
5. TOEIC試験対策という目的を超えコミュニケーションのために使える英語の習得も目指す。
6. 授業ではペアワーク、グループワーク、発表などを通じて発話しながら学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習よりも、指示された自宅での課題中心に学習してください。授業で学んだ箇所は、何度も音声で聞いて発音してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト 30%、
 プリント課題 50%
 授業中の模擬試験 20%、

〔留意事項 (Other Information)〕

初めてTOEICを受験する学生から400~500点をを目指す学生に適当なレベルのクラスです。

授業で使う課題用プリントは忘れず持参できるようファイルなどにまとめて管理してください。

授業の内容を理解するだけでなく、英語、または日本語での発話が必要になります

シラバスの内容、進度、小テストの回数などは進み具合で変わる可能性があります。また、コロナにより一部、また

は全面的に遠隔授業を余儀なくされた場合にも、変更の可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 5 / TOEIC ETS / 国際ビジネスコミュニケーション協会 / 2019 / 978-4-906033-57-7/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

TOEIC IV

EGB2355N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3 : 言語力

60

定員40人

櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEICの問題の特徴をさらに詳しく追求し、正解を得るためには何が必要かを考え、実行します。高得点を得るためには、問題に慣れると同時に、正確に速読、速聴する力が必要です。リスニングとリーディング力を確実に向上させるためには、スピーキング、ライティングをも絡めながら学習することが効果的です。TOEIC高得点だけでなく、社会で必要とされる英語力を養成します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

TOEICの英語を素材にして、速読、速聴、リピーティング、シャドウイング、リテリング、サマライジングなどの方法で英語力を鍛え、問題分析を通して論理的な思考力を養います。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示された課題に取り組めない。	指示された課題に取り組む。	指示された課題の意味を考え、積極的に取り組む。	指示された課題の意味を汲み取り、自分でさらに学習の幅を広げられる。
知識・理解力	TOEICの問題の仕組み	問題をいくつか正解し、英語も	問題をいくつか正解し、英語を	問題の正解のみならず、英語を

	を理解できない。	ある程度は理解できる。	理解し、使うための英語として学ぼうとする。	理解し、使うための英語として習得する。
言語力	問題を解けず、英語も理解できない。	問題をいくつか正解し、英語もある程度は理解できる。	問題をいくつか正解し、英語を理解し、使うための英語として学ぼうとする。	問題の正解のみならず、英語を理解し、使うための英語として習得する。
思考・解決力	与えられた課題に自分で考えて取り組めない。	与えられた課題に自分で考えて取り組めるが、解決出来ない問題に出会った時に諦める。	解決出来ない問題に出会った時に、解決策を探そうとする。	解決出来ない問題に出会った時に、解決策を探すため、様々な方向から検討できる。
共生・協働する力	クラスメートとのペアワーク、グループワークに取り組めない。	クラスメートとのペアワーク、グループワークに取り組める。	ペアワーク、グループワークに積極的に取り組める。	ペアワーク、グループワークに積極的に取り組めるのみならず、全員が楽しく参加できるよう工夫する。

〔授業計画〕

第 1 回	オリエンテーション	Listening	模擬試験
	オリエンテーション	Listening	模擬試験
第 2 回	Reading	模擬試験	
	Reading	模擬試験	
第 3 回	Part 1, Part 5		
	Part 1, Part 5		
第 4 回	Part 5	Part 2	
	Part 5	Part 2	
第 5 回	Part 1	Part 2	Part 5 小テスト
	Part 1	Part 2	Part 5 小テスト
第 6 回	Part 3	Part 6	
	Part 3	Part 6	
第 7 回	Part 3	Part 6	
	Part 3	Part 6	
第 8 回	Part 3	Part 6	小テスト
	Part 3	Part 6	小テスト
第 9 回	Part 4	Part 7	
	Part 4	Part 7	
第 10 回	Part 4	Part 7	
	Part 4	Part 7	
第 11 回	Part 4	Part 7	

Part 4 Part 7
 第 12 回 Part 4 Part 7 小テスト
 Part 4 Part 7 小テスト
 第 13 回 Listening 模擬試験
 Listening 模擬試験
 第 14 回 Reading 模擬試験
 Reading 模擬試験
 第 15 回 Listening & Reading 模擬試験解説
 Listening & Reading 模擬試験解説
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 1. 本番と同じ問題を使って TOEIC の出題形式や意図を理解する。
 2. 解答ストラテジー (= 解法) のポイントをおさえ、使えるようにする。
 3. TOEIC に取り組むための英語力を 4 技能を駆使して養う。
 4. TOEIC を通じて、社会人として必要な英語力を養う。
 5. TOEIC 試験対策という目的を超えコミュニケーションのために使える英語の習得も目指す。
 6. 授業ではペアワーク、グループワーク、発表なども通じて発話しながら学ぶ。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 予習よりも、指示された課題を家庭学習してください。授業で学んだ箇所は、何度も音声で聞いてください。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 60
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 小テスト 30%、
 プリント課題 50%
 授業中の模擬試験 20%、
 [留意事項 (Other Information)]
 授業で使う課題用プリントは忘れず持参できるようファイルなどにまとめて管理してください。
 授業の内容を理解するだけでなく、英語、または日本語での発話が必要になります。
 シラバスの内容、進度、小テストの回数などは進み具合で変わる可能性があります。また、コロナにより一部、または全面的に遠隔授業を余儀なくされた場合にも、変更の可能性があります。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6/ 国際ビジネスコミュニケーション協会/2020 /ISBN-10: 490603358X , ISBN-13: 978-4906033584/学内販売有り
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 授業の中で、役に立つ書籍、サイト、アプリ、番組などを紹介していきます。
 [参考URL(URL for Reference)]

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

エアライン・サービス論

EGR1500N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

木曜1限

DP5：共生・協働する力

60

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

・本科目では、航空会社のサービスの基本である航空機の運航（オペレーション）に関わる業務構成や必要な要素を「顧客へのサービス」に焦点を当てて解説する。また、エアライン業界を通じ、会社組織は共通の目標を達成するため、多くの職種の人々が専門性を磨きながら共生し、成り立っていることを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・エアライン及びエアラインサービスの様々業務の基礎知識を学ぶことによりその特徴について理解し、論理的に説明できるようになる

・最新トピックスに広く関心を持ち、主体的に情報収集する習慣を身につけることで時代や社会の変化及び価値観の多様化と航空輸送産業とのかかわりについて認識できるようになる

・授業で課する小レポートやリアクションペーパーを通じて講義を注意深く聴き理解力、思考力をつけると共に自分の考えを一定の時間内にまとめて言語化したり文章を作成する力を身につける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

・講義計画、授業の進め方、評価、試験、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る

第 2 回 航空運送事業の特性

・航空業界に関わる基本的な知識と現在の業界の状況、事業特性を学び、航空業界全体を理解する

第 3 回 エアラインの提供するサービスⅠ（安全・保安）

・エアラインの基本品質である「安全」について学ぶ

・公共交通機関として安全運航の為にどのような取り組みをしているのかについて学ぶ

・保安と安全の違いと重要性を認識する

第 4 回 エアラインの提供するサービスⅡ（定時・快適・利便の追求）

・エアラインの基本品質である「定時・快適・利便」について学ぶ

・顧客に選ばれるための品質向上への取り組みについて理解する

第 5 回 エアラインの業務Ⅰ（予約・販売部門）

・エアラインと顧客を結び部門が提供しているサービスについて理解する

第 6 回 エアラインの業務Ⅱ（空港サービスⅠ）

・空港の様々な場面において、お客様の旅のサポートをするグランドスタッフの業務を理解する

第 7 回 エアラインの業務Ⅲ（空港サービスⅡ）

・空港のお客様と直接の接点のない場面においてオペレーションを支えているグランドハンドリングの業務を理解する

第 8 回 エアラインの業務Ⅳ（貨物部門）

・航空貨物輸送について学ぶ

第 9 回 エアラインの業務Ⅴ（機内サービス）

・客室乗務員の仕事を理解する
・サービス面だけではなく安全やマーケティング要員として求められる役割を学ぶ

第 10 回 エアラインの業務Ⅵ（機内サービスをサポートする部門）

・機内サービスを支える重要な業務であるケータリング・機内販売などの業務について学ぶ

第 11 回 エアラインの業務Ⅶ（運航乗務員・整備の業務）

・エアラインの運航乗務員と整備士の業務について学ぶ

第 12 回 エアラインの業務Ⅷ（運航管理部門）

・エアラインの運航支援業務について学ぶ

第 13 回 エアラインの人材（職掌制度と求められる人材）

・エアラインにおける様々な職掌と訓練体系、および求められる人材について解説する

第 14 回 エアラインサービスの多様化（LCCとFSCの比較、今後の課題）

・LCC（ローコストキャリア）とFSC（フルサービスキャリア）の比較

・多様な顧客ニーズへの対応、今後の課題などについて学ぶ

第 15 回 確認テストとまとめ

・これまでの内容を振り返り、確認テストとまとめを行う

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

- ・実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・テキストの該当のシーン (章) に目を通して、前提にパワーポイントの資料を使用し、主に講義主体で進める

- ・テーマによって関連映像などを視聴する
- ・適宜、レジュメを配布する
- ・講義で課する小レポートを作成する
- ・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする
- ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・日常的に航空関係のニュースや記事に目を配り、情報を収集しておく

・テキストの指定のシーン (章) にあらかじめ目を通してから講義に臨む

・講義 (配布資料がある場合は資料) の内容を理解し、自分なりにまとめておく

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・確認テスト (50%)、小レポート (20%)、受講態度 (30%) に基づいて総合的に評価する

- ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・基本的に対面で実施する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

エアラインオペレーション入門 改訂版 -航空を支えるプロの仕事-/ (株) ANA総合研究所 (編集) / (株) ぎょうせい/平成27年/9784324099698/学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

・航空会社の客室乗務員としてフロントラインでの顧客サービス、さらにはスタッフや管理職として機内品質評価、人材育成システムの構築、新規サービス企画等にも携わってきた経験を持つ

・豊富な実体験をもとにした具体例をおりまぜて分かり易く解説する

エアライン・ビジネス論

EGR2550N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜1限

DP5 : 共生・協働する力

60

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

・本科目では、航空会社を一企業として取り上げ、受講生が現代の企業の仕組みや取り組みを理解することを目指す。グローバル化が進む現代の社会において必要不可欠な交通機関である航空輸送産業の歴史、航空政策、経営特性、経営動向、取り巻く社会環境や課題などについてANAグループの具体的な事例を取り上げてできるだけ幅広くわかりやすく解説していく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・航空輸送産業の概要を様々な角度から多面的に学習して理解し、論理的に説明できるようになる

・最新トピックスに広く関心を持ち、主体的に収集する習慣を身につけることで時代や社会の変化及び価値観の多様化と航空輸送産業とのかかわりについて認識できるようになる

・授業で課する小レポートやリアクションペーパーを通じて講義を注意深く聴き、理解力・思考力をつけると共に自分の考えを一定の時間内にまとめて言語化したり文章を作成する力を身につける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

・講義計画、進め方、各回の概要、試験、評価等について説明・理解し、心構えを作る

第 2 回 航空産業の歴史と事業特性

・世界および日本の航空の歴史、民間航空の発展、航空機の発達などについて解説するとともに

- 航空産業に特有な商品特性/事業特性について学ぶ
- 第 3 回 航空の自由化と規制緩和の流れ
・航空産業が保護政策から始まり、世界的な規模での規制緩和、自由化が進んだ経緯と概要を学ぶ
- 第 4 回 航空産業の事業特性Ⅰ（空港政策と空港の役割）
・空港の存在意義の変遷と日本の空港の現状、民営化の流れ、世界の空港の動向等について学ぶ
- 第 5 回 航空産業の事業特性Ⅱ（特徴的な費用構造）
・航空運送業について様々な角度からその特性について学ぶ
- 第 6 回 企業戦略Ⅰ（ネットワーク／アライアンス）
・航空路線のネットワークの考え方や効果、アライアンスの歴史と概要について学ぶ
- 第 7 回 企業戦略Ⅱ（レベニューマネジメント／FFP）
・運賃の制度、仕組みと収入の最大化を目指すレベニューマネジメント、旅客囲い込みのための FFP（フリークエントフライヤープログラム）の概要について学ぶ
- 第 8 回 企業戦略Ⅲ（顧客満足）
・CS（顧客満足）の意味、また従業員満足との関係、必要性を学ぶ。CSに対する航空会社の具体的な取組みを紹介する
- 第 9 回 企業戦略Ⅳ（ブランド／商品開発）
・重要な経営資源の一つであるブランド、プロダクト（商品）の重要性、開発のポイントについて学ぶ
- 第 10 回 企業戦略Ⅴ（貨物事業）
・航空旅客ビジネスとの違い、航空貨物輸送の概要について学ぶ
- 第 11 回 企業戦略Ⅵ（LCC事業）
・LCC（ローコストキャリア）の歴史と経営面での特徴を学ぶ
- 第 12 回 企業の社会的責任Ⅰ（CSR）
・グローバルな企業として求められるCSR(企業の社会的責任)についてSDG's、騒音、環境対応等、多角的な事例から学ぶ
- 第 13 回 企業の社会的責任Ⅱ（安全への取り組み）
・社会への責務としての「安全」に対してエアラインがどのように取り組んでいるのか、具体的事例で学ぶ
- 第 14 回 企業の社会的責任Ⅲ（航空業界の最近の動向）
・航空業界の最近の動向、未来の航空について考える
- 第 15 回 確認テストとまとめ
・これまでの内容を振り返り、確認テストとまとめを行う
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
・実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・テキストの該当の章に目を通して、前提にパワーポイントの資料を使用し、主に講義主体で進める

- ・テーマによって関連映像などを視聴する
 - ・適宜、レジュメを配布する
 - ・講義で課する小レポートを作成する
 - ・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする
 - ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
- ・日常的に航空関係のニュースや記事に目を配り、情報を収集しておく
 - ・テキストの指定の章にあらかじめ目を通してから講義に臨む
 - ・講義（配布資料がある場合は資料）の内容を理解し、自分なりにまとめておく
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 30
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
- ・確認テスト（50%）、小レポート（20%）、受講態度（30%）にて総合評価する
 - ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する
- 〔留意事項（Other Information）〕
- ・基本的に対面で実施する
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
- ・「航空産業入門【第2版】」/（株）ANA総合研究所/東洋経済新報社/2017/BBBN4492762353/学内販売あり
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- ・航空会社で客室乗務員やスタッフ、管理職としてのキャリアを持ち、エアラインビジネスの様々な戦略の企画・推進にかかわった経験を持つ
 - ・豊富な実体験をもとにした具体例をおりまぜて分かりやすく解説する

エアライン研修

EGR3502N0J
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科（実践的科目）
2年次 3年次
2単位 集中
その他
DP5：共生・協働する力
60
定員20人 集中
須川 いずみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

エアラインプログラムを履修した者を対象として、ANAグループおよびホテルの主な職場を実際に訪れ、様々な文化的背景のお客様に対してどのように接しているのか、ホ

テルや航空業界で働くということを内側から体験し、高い職業意識の育成、自主性・創造性・協調性のある人材育成を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. これまでに学んできたことの集大成として、ホテルや航空業界の現場を訪問し、実践してみる。何より、実際のお客様がいらっしゃる現場であることをしっかりと認識し、挨拶はもとより、良識ある行動を期待する。2. 実際の現場を体験することにより、自身の適正との確認、ならびに業界の様々な職種を自分の目で確認し、将来への足がかりとする。3. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	毎講義や実習の内容を理解できない。	講義や実習の内容は理解できるが、まとめることができない。	ホテルや空港業務の流れを理解し、疑問点を明らかにすることができる。	研修で学習したことを踏まえ、将来の課題やあり方を論じることができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前授業①
身だしなみとビジネスマナー
- 第 2 回 事前授業②
ホテル業務・グランドスタッフ業務・貨物業務、
- 第 3 回 ホテル業界①
スターゲートタワーホテル大阪 「ホテルの
接遇とは」
- 第 4 回 ホテル業界②
「ホテルの仕事を学ぶ」
- 第 5 回 ホテル業界③
「ベッドメイキング練習」
- 第 6 回 ホテル業界④
「テーブルマナー研修」 ～宿泊～
- 第 7 回 空港見学①
第二ターミナル見学
- 第 8 回 空港見学②
第三ターミナル見学
- 第 9 回 空港見学③
関西空港 (KIX) 国内線地上業務
- 第 10 回 空港見学④

関西空港 (KIX) 国際地上業務

- 第 11 回 空港見学⑤
グランドスタッフの業務を学ぶ
- 第 12 回 空港見学⑥
ANAコントロールルーム見学
- 第 13 回 空港見学⑦
客室乗務員プリーフィング見学
- 第 14 回 空港見学⑧
学びの分かち合い
- 第 15 回 事後研修
反省会とレポート作成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

一般の人がなかなか目にすることが少ないコールセンター業務やグランドスタッフの業務の裏側などエアラインプログラムならではの業務体験を行う。また、全日空ゲートタワーホテル大阪では、ホテル業務全般に加えて、テーブルマナー講習会も開催し、サービスする側と受ける側のマナーやホスピタリティをベテランのホテルマンから学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本研修を希望する方は、日常的にマナーや言葉遣いに関心をもち、自己を高める努力を期待する。事前研修にて実施する内容を、現場訪問までの間、繰り返し復習し身につけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研修中の受講態度 (40%)、事前課題シート (20%)、事後レポート (40%) を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

エントリーシートによる応募制とする。人数枠を超えた場合は原則として上級生を優先とする。実習費用は本人負担となる (宿泊費用、テーブルマナー実習、交通費)。状況によって訪問先企業の都合で年度によって研修内容が調整により変更の可能性もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

キャリアデベロップメントA

EGR3551A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次 4年次

1単位 後期

月曜3限

DP5: 共生・協働する力

15

定員16人

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、様々な生き方が選択できる現代においてキャリアの意味、自分との関連性を理解し、働く意義や社会で働く上で必要になる「社会人基礎力」について学ぶ。また講義や受講生とのワーク、ディスカッション等を通じて自己理解を深め、自分の考えを確実に表現し、行動できるようになることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・キャリアとは何か、キャリアの意味、自分との関連性を理解する

- ・講義や受講生とのワーク、ディスカッション等を通じて自分の内的変化を体感するとともに自らも他者の変化に貢献できるようになる

- ・自身の志望や将来のイメージについての考えを自分の言葉で論じることが出来るようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 ・講義計画、進め方、評価、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る
- 第 2 回 キャリア理解 (人生100年時代のライフデザイン)
 ・色々な生き方が選択できる現代において人生をデザインして計画的に積極的に生きる意義、働く意義を学ぶ
- 第 3 回 働き方のデザイン (働き方をデザインする)

- ・「働く」ということについて様々な角度から学ぶ
 - ・雇用され得る能力と仕事を取り巻く環境から分析して働き方をデザインする方法を学ぶ
- 第 4 回 キャリア理解Ⅰ (働くということ)
 ・観光産業を例として取り上げ就職について考える
- 第 5 回 キャリア理解Ⅱ (社会人基礎力)
 ・社会で働くに際して社会人基礎力とは何か、どのような作用を持つのか、なぜ必要かを学ぶ
- 第 6 回 キャリア理解Ⅲ (職業の選択と直面する課題)
 ・仕事、業界、ライフキャリアの関連性をもとに職業選択において直面する課題を全体で考える
- 第 7 回 キャリア理解Ⅳ (業界研究)
 ・グループプレゼンテーションを実施する
- 第 8 回 自己理解Ⅰ (自分に興味をもつ)
 ・自分自身に関心と興味を持ち、内在する力を整理し、自分自身の目指す方向性を理解する
- 第 9 回 自己理解Ⅱ (ストレスと自分)
 ・ストレスと自分に与える影響、対処方法について学ぶ
- 第 10 回 自己表現Ⅰ (自分を表現する)
 ・言語、非言語の表現方法の基礎を学ぶ
 ・実習を通じて自己の課題を発見する
- 第 11 回 自己表現Ⅱ (アサーティブなコミュニケーション)
 ・アサーティブなコミュニケーションについて学ぶ
 ・実習を通じて自己の課題を発見する
- 第 12 回 自己表現Ⅲ (面接実習)
 ・面接の模擬練習を通して、気付き・観察力を養う
- 第 13 回 自己表現Ⅳ (グループディスカッション)
 ・グループディスカッションを体験して、気づき・観察力を養う
- 第 14 回 自己表現Ⅴ (個別相談)
 ・自己の課題やその克服方法などについて個別相談アドバイスを実施する
- 第 15 回 まとめ
 ・これまでの内容を振り返り、まとめを行う
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
 ・実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
 ・パワーポイントの資料を使用し、講義と演習をおりまぜながら進めていく
 ・適宜、レジュメを配布する
 ・テーマに沿ったワークや演習、ディスカッションなどを随時取り入れる
 ・課題について研究を行う
 ・講義中の発問と学生の解答、行動に対して適宜、口頭でフィードバックする
 ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・日頃より、自らの興味のある業種や企業に関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする
 - ・講義 (配布資料がある場合は資料) 内容を理解し、自分の考えをまとめる習慣をつける
 - ・事例研究でとりあげる業種 (企業) について研究する
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・課題達成度 (30%)、理解度確認 (30%)、受講態度 (40%) を総合的に基づいて評価する
- ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・定員16名
- ・基本的に対面で実施する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

- ・テキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

- ・エアラインの客室乗務員としてフロントラインでの顧客サービスの経験をもつ
- ・エアラインの人事部講師として新入社員からシニア社員までの研修の実施、キャリアコンサルタント (国家資格) としての企業内キャリア支援の経験を踏まえ、社会人生活を具体的にイメージできるよう実践的な内容で進めていく

キャリアデベロップメントB

EGR3551B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次 4年次

1単位 後期

木曜 3限

DP5: 共生・協働する力

15

定員16人

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、様々な生き方が選択できる現代においてキャリアの意味、自分との関連性を理解し、働く意義や社会で働く上で必要になる「社会人基礎力」について学ぶ。また講義や受講生とのワーク、ディスカッション等を通じて自己理解を深め、自分の考えを確実に表現し、行動できるようになることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・キャリアとは何か、キャリアの意味、自分との関連性を理解する
- ・講義や受講生とのワーク、ディスカッション等を通じて自分の内的変化を体感するとともに自らも他者の変化に貢献できるようになる
- ・自身の志望や将来のイメージについての考えを自分の言葉で論じることが出来るようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - ・講義計画、進め方、評価、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る
- 第 2 回 キャリア理解 (人生100年時代のライフデザイン)
 - ・色々な生き方が選択できる現代において人生をデザインして計画的に積極的に生きる意義、働く意義を学ぶ
- 第 3 回 働き方のデザイン (働き方をデザインする)
 - ・「働く」ということについて様々な角度から学ぶ
 - ・雇用され得る能力と仕事を取り巻く環境から分析して働き方をデザインする方法を学ぶ
- 第 4 回 キャリア理解Ⅰ (働くということ)
 - ・観光産業を例として取り上げ就職について考える
- 第 5 回 キャリア理解Ⅱ (社会人基礎力)
 - ・社会で働くに際して社会人基礎力とは何か、どのような作用を持つのか、なぜ必要かを学ぶ
- 第 6 回 キャリア理解Ⅲ (職業の選択と直面する課題)
 - ・仕事、業界、ライフキャリアの関連性をもとに職業選択において直面する課題を全体で考える
- 第 7 回 キャリア理解Ⅳ (業界研究)
 - ・グループプレゼンテーションを実施する
- 第 8 回 自己理解Ⅰ (自分に関心をもつ)
 - ・自分自身に関心と興味を持ち、内在する力を整理し、自分自身の目指す方向性を理解する
- 第 9 回 自己理解Ⅱ (ストレスと自分)
 - ・ストレスと自分に与える影響、対処方法について学ぶ

- 第10回 自己表現Ⅰ（自分を表現する）
- ・言語、非言語の表現方法の基礎を学ぶ
 - ・実習を通じて自己の課題を発見する
- 第11回 自己表現Ⅱ（アサーティブなコミュニケーション）
- ・アサーティブなコミュニケーションについて学ぶ
 - ・実習を通じて自己の課題を発見する
- 第12回 自己表現Ⅲ（面接実習）
- ・面接の模擬練習を通して、気付き・観察力を養う
- 第13回 自己表現Ⅳ（グループディスカッション）
- ・グループディスカッションを体験して、気付き・観察力を養う
- 第14回 自己表現Ⅴ（個別相談）
- ・自己の課題やその克服方法などについて個別相談アドバイスを実施する
- 第15回 まとめ
- ・これまでの内容を振り返り、まとめを行う
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- ・実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- ・パワーポイントの資料を使用し、講義と演習をおりまぜながら進めていく
 - ・適宜、レジュメを配布する
 - ・テーマに沿ったワークや演習、ディスカッションなどを随時取り入れる
 - ・課題について研究を行う
 - ・講義中の発問と学生の解答、行動に対して適宜、口頭でフィードバックする
 - ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
- ・日頃より、自らの興味のある業種や企業に関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする
 - ・講義（配布資料がある場合は資料）内容を理解し、自分の考えをまとめる習慣をつける
 - ・事例研究でとりあげる業種（企業）について研究する
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
- 15
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
- ・課題達成度（30%）、理解度確認（30%）、受講態度（40%）を総合的に基づいて評価する
 - ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する
- 〔留意事項（Other Information）〕
- ・定員16名
 - ・基本的に対面で実施する
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
- ・テキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

- ・エアラインの客室乗務員としてフロントラインでの顧客サービスの経験をもつ

- ・エアラインの人事部講師として新入社員からシニア社員までの研修の実施、キャリアコンサルタント（国家資格）としての企業内キャリア支援の経験を踏まえ、社会人生活を具体的にイメージできるよう実践的な内容で進めていく

ビジネスマナー演習A

EGR3550A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科（実践的科目）

3年次 4年次

1単位 後期

月曜 4限

DP5：共生・協働する力

15

定員16人

光末 香恵美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目では、ホスピタリティを学んだ学生に対し、卒業後、社会に出る前に一程度のビジネスマナーを体得することを目指す。学生生活の中で実践できるような具体的事例をおりまぜ、ホスピタリティを土台とした品位のある言動をとることが出来るように実践を重ねる。（基礎的な表現方法を習得していることを前提とし、8名～10名程度の少人数で実施する）

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・一般的なビジネスマナーについて理解し、実践し、体得する
- ・なぜビジネスマナーが必要かを考えて行動が出来るようになる

- ・ビジネスマナーの中にあるホスピタリティの精神を考えて行動できる

- ・自分だけではなく仲間の成長にも貢献できる人間になる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
・講義計画、進め方、各回の概要、試験、評価等について説明・理解し、心構えを作る
- 第 2 回 社会人の身だしなみと基本的心構え
・社会人の身だしなみと基本的心構えを学ぶ
- 第 3 回 社会人としての立ち居振舞い
・社会人として品位・印象度を高める動作、身振り、表現力を学ぶ
- 第 4 回 職場でのコミュニケーションとビジネス会話
・人間関係を円滑にするコミュニケーションや言葉遣い、敬語の基本を学ぶ
- 第 5 回 日常業務と社内連絡
・円滑に仕事を進めるための一般的なルールについて学ぶ
- 第 6 回 電話対応 I
・声だけのコミュニケーションである電話対応の基本を学び、体得する
- 第 7 回 電話対応 II
・電話応対における様々な事例について学ぶ
- 第 8 回 来客への応対／会議でのマナー
・来客時の一般的な手順を学ぶ
・会議の手順について学ぶ
- 第 9 回 訪問／接待 I (一般的な手順)
・訪問時の一般的な手順を学ぶ (名刺交換を含む)
- 第 10 回 訪問／接待 II (様々な事例)
・訪問における様々な事例について学ぶ (クレーム対応、テーブルマナー等)
- 第 11 回 訪問／接待 III (テーブルマナー実習)
・レストランで食事をとる際のマナーを体得する
※可能な限りレストラン利用により実習を行う (有料)
- 第 12 回 ビジネス文書
・社内文書・社外文書など一般的な文書の作成方法を理解する
- 第 13 回 冠婚葬祭のマナー
・結婚式に招かれた場合、訃報を受けた場合の一般的なマナーについて学ぶ
- 第 14 回 ソーシャルマナー総合
・総合的な表現力を体得、強化する
・社会人としてホスピタリティを土台とした品位のある言動がとれるように個別指導を行う
- 第 15 回 確認テストとまとめ
・これまでの内容を振り返り、確認テストとまとめを行う

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

- ・実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・テキストの該当の章を予習していることを前提とし、実習を主体として進めていく
- ・必要に応じてパワーポイントの資料で内容の補足をする
- ・適宜、レジュメを配布する
- ・テーマに沿ったワークやディスカッションを積極的に取り入れる
- ・講義中の発問と学生の解答、行動に対して適宜、口頭でフィードバックする
- ・必要に応じて個別のアドバイスを実施する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストの指定の章をあらかじめ予習して講義に臨む
- ・習得した内容は、日常生活の中で速やかに実践し、習慣化していくこと
- ・講義 (配布資料がある場合は資料)の内容を理解し、自分なりにまとめておく
- ・日頃より、ホスピタリティやマナーに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・確認テスト (40%)、受講態度 (60%) に基づいて総合的に評価する
- ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・基本的に対面で実施する
- ・原則として、二回目からスーツの着用を求める
- ・「訪問・接待 III」でレストラン利用による実習をする予定あり (費用は、各自実費負担)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔図解〕これで仕事がうまくいく! ビジネスマナーの基本ルール/ANAビジネスソリューション (株) /成美堂出版/9784415310152/学内販売あり

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

- ・エアラインの客室乗務員としてフロントラインでの顧客サービス、さらには他大学や企業における新入社員教育、ビジネスマナー講師としての経験をもつ
- ・豊富な実体験をもとに具体的な事例もおりまぜて分かり易く解説する

ビジネスマナー演習B

EGR3550B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次 4年次

1単位 後期

木曜 4限

DP5: 共生・協働する力

15

定員16人

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、ホスピタリティを学んだ学生に対し、卒業後、社会に出る前に一程度のビジネスマナーを体得することを旨とする。学生生活の中で実践できるような具体的事例をおりませ、ホスピタリティを土台とした品位のある言動をとることが出来るように実践を重ねる。(基礎的な表現方法を習得していることを前提とし、8名～10名程度の少人数で実施する)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・一般的なビジネスマナーについて理解し、実践し、体得する
- ・なぜビジネスマナーが必要かを考えて行動が出来るようになる

- ・ビジネスマナーの中にあるホスピタリティの精神を考えて行動できる

- ・自分だけではなく仲間の成長にも貢献できる人間になる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
・講義計画、進め方、各回の概要、試験、評価等について説明・理解し、心構えを作る
- 第 2 回 社会人の身だしなみと基本的な心構え
・社会人の身だしなみと基本的な心構えを学ぶ
- 第 3 回 社会人としての立ち居振舞い
・社会人として品位・印象度を高める動作、身振り、表現力を学ぶ
- 第 4 回 職場でのコミュニケーションとビジネス会話

- ・人間関係を円滑にするコミュニケーションや言葉遣い、敬語の基本を学ぶ

- 第 5 回 日常業務と社内連絡
・円滑に仕事を進めるための一般的なルールについて学ぶ
- 第 6 回 電話応対 I
・声だけのコミュニケーションである電話応対の基本を学び、体得する
- 第 7 回 電話応対 II
・電話応対における様々な事例について学ぶ
- 第 8 回 来客への応対/会議でのマナー
・来客時の一般的な手順を学ぶ
・会議の手順について学ぶ
- 第 9 回 訪問/接待 I (一般的な手順)
・訪問時の一般的な手順を学ぶ (名刺交換を含む)
- 第 10 回 訪問/接待 II (様々な事例)
・訪問における様々な事例について学ぶ (クレーム対応、テーブルマナー等)
- 第 11 回 訪問/接待 III (テーブルマナー実習)
・レストランで食事をする際のマナーを体得する
※可能な限りレストラン利用により実習を行う (有料)
- 第 12 回 ビジネス文書
・社内文書・社外文書など一般的な文書の作成方法を理解する
- 第 13 回 冠婚葬祭のマナー
・結婚式に招かれた場合、訃報を受けた場合の一般的なマナーについて学ぶ
- 第 14 回 ソーシャルマナー総合
・総合的な表現力を体得、強化する
・社会人としてホスピタリティを土台とした品位のある言動がとれるように個別指導を行う
- 第 15 回 確認テストとまとめ
・これまでの内容を振り返り、確認テストとまとめを行う

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

- ・実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・テキストの該当の章を予習していることを前提とし、実習を主体として進めていく
- ・必要に応じてパワーポイントの資料で内容の補足をする
- ・適宜、レジュメを配布する
- ・テーマに沿ったワークやディスカッションを積極的に取り入れる
- ・講義中の発問と学生の解答、行動に対して適宜、口頭でフィードバックする
- ・必要に応じて個別のアドバイスを実施する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストの指定の章をあらかじめ予習して講義に臨む
- ・習得した内容は、日常生活の中で速やかに実践し、習慣化していくこと
- ・講義 (配布資料がある場合は資料)の内容を理解し、自分

なりにまとめておく

・日頃より、ホスピタリティやマナーに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・確認テスト (40%)、受講態度 (60%) に基づいて総合的に評価する

・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項 (Other Information)〕

・基本的に対面で実施する

・原則として、二回目からスーツの着用を求める

・「訪問・接待Ⅲ」でレストラン利用による実習をする予定あり (費用は、各自実費負担)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔図解〕 これで仕事がうまくいく！ ビジネスマナーの基本ルール／ANAビジネスソリューション (株)／成美堂出版／9784415310152／学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

・エアラインの客室乗務員としてフロントラインでの顧客サービス、さらには他大学や企業における新入社員教育、ビジネスマナー講師としての経験をもつ

・豊富な実体験をもとに具体的な事例もおりまぜて分かり易く解説する

フィールド研究

EGR3501NOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 前期

月曜 3限

DP5: 共生・協働する力

60

定員16人

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

様々な業種や企業の中からホスピタリティの要素を探求することでホスピタリティ産業についての理解を深める。さらに顧客満足や従業員満足、社会や顧客の課題解決等、企業が時代に応じた付加価値の追求に向けてどのような戦略を講じているのか調査・研究をする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・企業の中にあるホスピタリティについて研究し、理解を深める

・ホスピタリティについて自らの見解を形成し、まとめ、プレゼンテーションする

・グループディスカッションや発表を通じて教員や他学生との意見交換をし、学びを深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

・講義計画、進め方、評価、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る

第 2 回 ホスピタリティの再考

・ホスピタリティとは何か、各自の学んできたことについて意見交換をする

第 3 回 ホスピタリティ産業とは

・ホスピタリティ産業の概要を確認する
・事例検討の進め方について確認する

第 4 回 事例検討Ⅰ (テーマパーク)

・ホスピタリティの高さで定評のあるテーマパークについて検討する

第 5 回 事例検討Ⅱ (医療施設)

・ホスピタリティの高さで定評のある医療施設について検討する

第 6 回 事例検討Ⅲ (交通関連企業)

・ホスピタリティの高さで定評のある交通関連企業について検討する

第 7 回 事例検討Ⅳ (宿泊関連企業)

・ホスピタリティの高さで定評のある宿泊関連企業について検討する

第 8 回 課題検討Ⅰ (課題決定)

・研究する業種 (企業) の決定を行う
・意見交換を行いながら個人課題を決定する

第 9 回 課題検討Ⅱ (課題検討)

・研究する業種 (企業) の評価尺度の検討を行う
・意見交換を行いながら個人評価の方法を検討する

第 10 回 フィールドワークⅠ (計画)

・個人計画をたてる

第 11 回 フィールドワークⅡ (研究)

・個人計画に基づき、研究を進める

- 第 12 回 フィールドワークⅢ（考察）
 - ・研究の進捗を振り返りながら考察をまとめる
- 第 13 回 フィールドワークⅣ（プレゼンテーション準備）
 - ・研究内容をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションの準備を進める
- 第 14 回 プレゼンテーションⅠ（個人発表①）
 - ・個人発表と全体討論
 - ・全体を半数に分けて受講者前半グループの個人発表及び、他者の発表を受けての質疑応答への参加
- 第 15 回 プレゼンテーションⅡ（個人発表②）
 - ・個人発表と全体討論
 - ・全体を半数に分けて受講者後半グループの個人発表及び、他者の発表を受けての質疑応答への参加

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

- ・実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義と資料に基づき身近な企業についての事例検討を行った後、各自が研究したい業種（企業）を選び個人研究を進める
- ・研究結果をプレゼンテーションし、意見交換を実施する
- ・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする
- ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする
- ・日常生活の中でホスピタリティを発揮している業種や企業に着目し、その背景を探る習慣をつけておく
- ・講義（配布資料がある場合は資料）内容を理解し、自分の考えをまとめる習慣をつける
- ・事例研究でとりあげる業種（企業）について研究する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- ・受講態度（50％）プレゼンテーション（50％）に基づいて総合的に評価する
- ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項（Other Information）〕

- ・基本的に対面で実施する
- ・定員16名

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

- ・テキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

- ・エアラインの客室乗務員としてフロントラインでの顧客サービスを実践した経歴を持つ
- ・客室乗務員の専門訓練、空港ラウンジスタッフへの教育、ANAの新入社員教育、他企業での研修等、豊富な経験をともに実践的なホスピタリティについて分かり易く解説する

プレゼンテーション演習

CSA2457N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP4：思考・解決力

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕

効果的なプレゼンテーション技法を習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・数多く実践練習をすることを通して、望ましいプレゼンテーション技法を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーション技能	テーマに適したプレゼンテーションになっていない。自己課題を認識してない。	各テーマに適したプレゼンテーションをする。自己課題を認識し、改善するよう取り組む。	聴衆にとって効果的なプレゼンテーションをすることができる。自己課題を認識し改善している。	工夫を凝らして、聴衆にとって効果的なプレゼンテーションにすることができる。自己課題を認識し、高度な技能を身に付けている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション（対面受業）
- 第 2 回 プレゼンテーションの基礎の確認（対面受業）
プレゼンテーション技法に関するプレゼンテーション
- 第 3 回 身体表現（対面受業）
プレゼンテーション（1）
- 第 4 回 効果的なプレゼンテーションの技法（対面受業）
- 第 5 回 プレゼンテーション（2）（オンライン）
準備、練習（イベント紹介）
- 第 6 回 プレゼンテーション（2）（対面受業）
発表と振り返り（イベント紹介）
- 第 7 回 プレゼンテーション（3）－①（オンライン）
準備、練習（会社の説明）

- 第 8 回 プレゼンテーション (3) -① (対面受業)
プレゼンテーション (会社の説明)
- 第 9 回 プレゼンテーション (3) -② (オンライン)
準備、練習 (商品の説明)
- 第 10 回 プレゼンテーション (3) -② (対面受業)
社内検討会と聴衆分析
- 第 11 回 プレゼンテーション (3) -③ (オンライン)
社外プレゼンテーションの準備
- 第 12 回 プレゼンテーション (3) -③ (対面受業)
社外プレゼンテーションリハーサル
- 第 13 回 最終のプレゼンテーション (対面受業)
本番 A (実技テスト)
- 第 14 回 最終のプレゼンテーション (対面受業)
本番 B (実技テスト)
- 第 15 回 最終のプレゼンテーション (対面受業)
本番 C (実技テスト)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 口頭表現 (論理表現、音声表現) や身体表現についての基礎を学習し、数多く練習する。
- ・ 事前調査、聴衆分析、ストーリー作り、適切な用語の選択について実践的に行う。
- ・ 他者にコメントをすることを通して、自己のプレゼンテーションを振り返る。
- ・ プレゼンテーションの本番の際にフィードバックがある。
- ・ 最終のプレゼンテーションについて報告書 (レポート) を提出する。

・ 一部、オンライン (オンデマンド) で実施することで、充実した準備・練習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 各課題の準備・練習をする。
- ・ 自己課題について、普段から改善するよう努める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、最終のプレゼンテーション (30%)、授業参加度 (40%)、レポート (30%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ ブレンド型で実施をする。
- ・ 実践的な授業のため、進行状況等により、随時、内容・方法、スケジュールを調整していく。
- ・ 人前で話すことに自信がない場合やプレゼンテーションの基礎的な方法論から学習したい場合は、「プレゼンテーション概論」を履修してから本授業を履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ビジネスプレゼンテーション改訂版』/武田秀子編/実教出版/2011/4407322616

『パブリックスピーキング人を動かすコミュニケーション術』/蔭山洋介/NTT出版/2011/4757122837

『シンプルプレゼン』/ガー・レイノルズ/日経ビジネスアソシエ/2011/4822230546

『スティープ・ジョブズ驚異のプレゼン』/カマイン・ガロ/日経BP社/2010/482224816X

『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』/ジェレミー・ドノバン/新潮社/2013/4105064916

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 社会人に対するセミナー (プレゼンテーション) 講師経験あり。

ホスピタリティ・スキルA

EGR2100A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜4限

DP1: 自分を育てる力

60

定員20人

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、ホスピタリティを他者に伝える言語・非言語コミュニケーションスタイルや一般的なビジネスマナーを学ぶとともにグループ討議や演習を繰り返すことによりホスピタリティに基づいた行動を実践出来るようになることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ ホスピタリティを発揮するためには、どのような要素や考え方が必要なのかを理解する
- ・ 実生活の中でホスピタリティの必要性に気づき、意識することが出来る
- ・ 実生活の中でホスピタリティに基づいた行動ができるようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
・講義計画、進め方、評価、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る
- 第 2 回 ホスピタリティを伝える
・コミュニケーションの考え方、高いコミュニケーションスキルを身に付けることの重要性を理解する
・挨拶、姿勢、立居振舞、身だしなみの基本を習得する
- 第 3 回 ビジネスマナーⅠ
・言葉で表すホスピタリティについて学ぶ
・敬語の基本を習得する
- 第 4 回 ビジネスマナーⅡ
・言葉に加えて文字で表現するホスピタリティについて学ぶ
・電話の受け答え、メールの送受信などの基本を理解する
- 第 5 回 ビジネスマナーⅢ
・行動で表すホスピタリティについて学ぶ
・食事、その他のルールについての基本を理解する
- 第 6 回 ホスピタリティと企業
・社会で求められる力と目指すレベルについてホスピタリティを基点に考える
- 第 7 回 国際理解
・自分と相手の考え方に違いがあることを理解して行動することを学ぶ
- 第 8 回 自己分析
・自分史やSWOT分析を使って自分の強みと弱みを理解する
- 第 9 回 自己表現Ⅰ（傾聴と主張）
・相手の意見を聞くことができ、自分の考えを相手に伝えることができる
・人前で話すことに慣れる
- 第 10 回 自己表現Ⅱ（プレゼンテーション）
・自分の意見を効果的に伝える方法を学び、実践してみる
- 第 11 回 自己表現Ⅲ（グループディスカッション）
・グループディスカッションの方法を理解し、実践してみる
- 第 12 回 自己表現Ⅳ（ディベート）
・ディベートの方法を理解し、実践してみる
- 第 13 回 総合演習Ⅰ（ロールプレイング）
・学内における場面設定を行い発表する
- 第 14 回 総合演習Ⅱ（ロールプレイング）
・学内における場面設定を行い発表する
- 第 15 回 まとめ
・これまでの内容を振り返り、定着度を確認する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

・実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・パワーポイントの資料を使用し、講義と実習を中心に進める

・適宜、レジュメを配布する

・テーマに沿ったワーク、ディスカッション、発表などを随時取り入れる

・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする

・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする

・講義で学んだ内容を日常生活の中で実践、継続する習慣をつけるよう努める

・講義（配布資料がある場合は資料）の内容を理解し、自分なりにまとめておく

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

・受講態度（50％）実技習得度（50％）に基づいて総合的に評価する

・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項（Other Information）〕

・定員20名

・基本的に対面で実施する

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

・テキストは使用しない

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

・エアラインの客室乗務員としてフロントラインで顧客サービスを実践した経歴を持つ

・客室乗務員のインストラクターとして新入生やファーストクラスの訓練を担当した経歴をもとにホスピタリティについて分かり易く解説する

ホスピタリティ・スキルB

EGR2100B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜3限

DPI：自分を育てる力

60

定員20人

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、ホスピタリティを他者に伝える言語・非言語コミュニケーションスタイルや一般的なビジネスマナーを学ぶとともにグループ討議や演習を繰り返すことによりホスピタリティに基づいた行動を実践出来るようになることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ホスピタリティを発揮するためには、どのような要素や考え方が必要なかを理解する
- ・実生活の中でホスピタリティの必要性に気づき、意識することが出来る
- ・実生活の中でホスピタリティに基づいた行動ができるようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 ・講義計画、進め方、評価、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る
- 第 2 回 ホスピタリティを伝える
 ・コミュニケーションの考え方、高いコミュニケーションスキルを身に付けることの重要性を理解する
 ・挨拶、姿勢、立居振舞、身だしなみの基本を習得する
- 第 3 回 ビジネスマナー I

- ・言葉で表すホスピタリティについて学ぶ
 - ・敬語の基本を習得する
- 第 4 回 ビジネスマナー II
 ・言葉に加えて文字で表現するホスピタリティについて学ぶ
 ・電話の受け答え、メールの送受信などの基本を理解する
- 第 5 回 ビジネスマナー III
 ・行動で表すホスピタリティについて学ぶ
 ・食事、その他のルールについての基本を理解する
- 第 6 回 ホスピタリティと企業
 ・社会で求められる力と目指すレベルについてホスピタリティを基点に考える
- 第 7 回 国際理解
 ・自分と相手の考え方に違いがあることを理解して行動することを学ぶ
- 第 8 回 自己分析
 ・自分史やSWOT分析を使って自分の強みと弱みを理解する
- 第 9 回 自己表現 I (傾聴と主張)
 ・相手の意見を聞くことができ、自分の考えを相手に伝えることができる
 ・人前で話すことに慣れる
- 第 10 回 自己表現 II (プレゼンテーション)
 ・自分の意見を効果的に伝える方法を学び、実践してみる
- 第 11 回 自己表現 III (グループディスカッション)
 ・グループディスカッションの方法を理解し、実践してみる
- 第 12 回 自己表現 IV (ディベート)
 ・ディベートの方法を理解し、実践してみる
- 第 13 回 総合演習 I (ロールプレイング)
 ・学内における場面設定を行い発表する
- 第 14 回 総合演習 II (ロールプレイング)
 ・学内における場面設定を行い発表する
- 第 15 回 まとめ
 ・これまでの内容を振り返り、定着度を確認する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

- ・実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・パワーポイントの資料を使用し、講義と実習を中心に進める
- ・適宜、レジュメを配布する
- ・テーマに沿ったワーク、ディスカッション、発表などを随時取り入れる
- ・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする
- ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする

・講義で学んだ内容を日常生活の中で実践、継続する習慣をつけるよう努める

・講義（配布資料がある場合は資料）の内容を理解し、自分なりにまとめておく

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・受講態度（50%）実技習得度（50%）に基づいて総合的に評価する

・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項 (Other Information)〕

・定員20名

・基本的に対面で実施する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・テキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

・エアラインの客室乗務員としてフロントラインで顧客サービスを実践した経歴を持つ

・客室乗務員のインストラクターとして新入生やファーストクラスの訓練を担当した経歴をもとにホスピタリティについて分かり易く解説する

ホスピタリティ論

EGR1151N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科（実践的科目）

1年次

2単位 後期

火曜4限

DPI：自分を育てる力

60

ホスピタリティ入門

光末 香恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、「ホスピタリティ入門」で学んだ内容について更に踏み込んで学習し行動化することを目指す。ホスピタリティ産業の中で「ホスピタリティ」が生み出す価値を理解し、発揮していくための組織や個人のあり方について解説する。また、ホスピタリティを重要視している企業を事例研究として取り上げホスピタリティが生み出す価値、ホスピタリティ・マネジメントや人材管理の手法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・ホスピタリティについての理解を深め、自らの考えを述べるができるようになる

・変革する時代の中で、異文化や多様な価値観を受入れ、

様々な場面でホスピタリティを発揮できるようになる

・ディスカッションやグループワーク、授業で課する小レポートを通じて、思考・解決力、共生・協働する力を身につけ外部に発信できるようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

・講義計画、進め方、評価、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る

・ホスピタリティ入門の復習を行う

第 2 回 ホスピタリティの発揮Ⅰ（ホスピタリティとは）

・ホスピタリティを学ぶ意味と意義や、テーマであるホスピタリティ産業のとらえ方について解説する

第 3 回 ホスピタリティの発揮Ⅱ（ホスピタリティと企業）

・企業におけるホスピタリティの重要性を確認する

第 4 回 ホスピタリティの発揮Ⅲ（ホスピタリティの醸成）

・ホスピタリティを発揮するために求められる要素とそれを高める方法について考える

第 5 回 ホスピタリティと評価Ⅰ（評価方法の検討）

・企業が提供する商品価値の分析と評価について解説する

第 6 回 ホスピタリティと評価Ⅱ（評価とフィードバック）

・評価結果を品質改善につなげることの重要性について解説する

第 7 回 ホスピタリティとマニュアル（伝える/伝わるホスピタリティ）

・顧客へ伝えるための留意点を考える

・マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する

第 8 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ（場の重要性）

・顧客にホスピタリティを届けるためにどのような場面を重要にするべきか検証する

- 第 9 回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ（働く個人と集団の連携）
・ホスピタリティが生み出され、それが顧客に伝わり、そこに顧客が価値を認めるために、集団・個人で実施しなければならないことは何かについて解説する
- 第 10 回 ホスピタリティマネジメントⅠ（ホスピタリティマインドを生み出す背景）
・ホスピタリティ発揮のためのマネジメントとはどのようなものかを解説する
- 第 11 回 ホスピタリティマネジメントⅡ（ストレスマネジメント）
・ホスピタリティ産業では、人と関わりが多くなり、ストレスマネジメントが必要であること理解する
- 第 12 回 事例検討Ⅰ
・航空会社以外のエピソードをもとにホスピタリティを考える
- 第 13 回 事例検討Ⅱ
・航空会社のエピソードをもとにホスピタリティを考える
- 第 14 回 事例検討Ⅲ
・航空会社以外のホスピタリティを考える
- 第 15 回 確認テストとまとめ
・これまでの内容を振り返り、確認テストとまとめを行う

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

- ・実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・パワーポイントの資料を使用し、講義と実習を中心に進める
- ・テーマに沿ったディスカッション、発表、映像視聴などを随時取り入れる
- ・適宜、レジュメを配布する
- ・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする
- ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・ホスピタリティ入門で学んだことがベースとなるため、以前の資料を振り返りながら、考察を深める
- ・講義（配布資料がある場合は資料）の内容を理解し、自分なりにまとめておく
- ・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする
- ・講義で学んだ内容を日常生活の中で実践、継続する習慣をつけるよう努める

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- ・確認テスト（50%）、小レポート（20%）、受講態度（30%）に基づいて総合的に評価する
- ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項（Other Information）〕

- ・基本的に対面で実施する
- ・「ホスピタリティ入門」を受講していることを前提とする

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

- ・テキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

- ・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

- ・エアラインの客室乗務員としてフロントラインで顧客サービスを実践した経歴を持つ
- ・客室乗務員のインストラクターとして新入生やファーストクラスの訓練を担当した経歴をもとにホスピタリティについて分かり易く解説する

医療サポート英語Ⅱ

EGR2351N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3：言語力

60

医療サポート英語Ⅰ

Margarite Westra

〔科目の教育目標（Course Description）〕

This one semester course is the continuation of Medical English I, and aims to further build medical knowledge and the understanding that is needed to be able to use the vocabulary for medical situations.

Creating vocabulary lists will be assigned for each chapter. There will also be some assigned reading to increase medical knowledge.

A sho-test and final test will take place during classes in week 7 and 15.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

The course aims to increase medical knowledge of bodily systems and its related medical English vocabulary, useful phrases, and to provide familiarity in using English in situations specific to medical services.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 L1
Introduction to Medical English:
Filling out the application form at a hospital visit and which department to go to for what illness.
- 第 2 回 L2
The digestive system: anatomy, disorders and symptoms (chapter 5)
assignment: vocabulary list
- 第 3 回 L3
The digestive system, case studies and practice conversations (chapter 5)
assignment: expand vocabulary list
- 第 4 回 L4
spill over, show videos of diverticulosis, GERD
practice answering open questions and match medical term with content.
- 第 5 回 L5
Neurology: anatomy, disorders and symptoms (chapter 6)
assignment: vocabulary list
- 第 6 回 L6
Neurology, case studies and practice conversations (chapter 6)
assignment: expand vocabulary list
- 第 7 回 L7
wrap up and sho-test chapter 5 and 6
- 第 8 回 L8
Urology: anatomy, disorders and symptoms (chapter 7)
assignment: vocabulary list
- 第 9 回 L9
Urology: case studies and practice conversations (chapter 7)
assignment: expand vocabulary list
- 第 10 回 L10
video/charts of hemo-dialysis, peritoneal dialysis
practice answering open questions and match medical term with content.
- 第 11 回 L11

- Endocrine system: anatomy, disorders and symptoms (chapter 9)
assignment: vocabulary list
- 第 12 回 L12
Endocrine system: case studies and practice conversations (chapter 9)
assignment: expand vocabulary list
- 第 13 回 L13
Diabetes, obesity, diabetes, nutrition and stress (Chapter 9 and 12)
assignment: vocabulary list
practice answering open questions and match medical term with content.
- 第 14 回 L14
The female reproductive system: anatomy, disorders and symptoms (chapter 8)
assignment: vocabulary list
- 第 15 回 L15
course review
Final test chapters 5-9, 12
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
The final exam will be taken in the last lesson
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
Students will study anatomy, medical disorders and related vocabulary and try out various English-language medical situations by engaging in conversation practice with other class members.
For a broader understanding articles related to the textbook and video material may be introduced.
Feedback will be given during class, or for assignments within the following 2 weeks.
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Reading assigned chapters and making vocabulary lists and reviewing vocabulary. Listen to the CD.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
Sho-test 30%, practice tests, vocabulary lists and class participation 30%, final test 40%
- 〔留意事項 (Other Information)〕
The Lesson Plan above is a guideline, and the teacher may find reason to pursue an alternative schedule.
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Because We Care』/Maki Inoue & Tadashi Ihara/CENGAGE/2010/9.784863121294E12/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『医療通訳』/多文化共生センターきょうと/日本医療教育財団/2014/

厚生労働省のホームページよりダウンロードできます
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000057158.pdf>

[参考URL(URL for Reference)]

Wikipedia! Wikipedia allows you to switch language for similar content and therefore it is a great source for learning medical vocabulary. You find the topic you need and then look in the languages for Japanese or English to see similar content in the other language.

[実務経験のある教員による実践的科目]

《実践的科目》 オランダで看護婦として病院での勤務経験あり。

英語科教育法ⅢA

EGR3200A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜4限

DP2: 知識・理解力

60

集中

東郷 多津

[科目の教育目標 (Course Description)]

英語科教育法Ⅰ及びⅡで扱った内容を復習することから始め、それらの学習事項を応用する形で、実践活動を行います。そして、それらの活動を通じて実際に教壇に立つ際に必要とされる種々の知識・技能に習熟していくことが目標となります。具体的には、英語教育の意義・目的、教授法・教材論・学習者論・教師論・4技能の具体的な指導法・発音指導の留意点・評価法・教室英語の効果的な使い方などについて確認した上で、それらの技能、とりわけ実際の授業で必要となる4技能の指導に関する実践力を身につけることが求められます。また、教材の準備、教具の使用法、情報機器の使用法などについても、実際に模擬授業を行う中で習熟していくことが目標となります。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

英語教員に求められる知識・技能に関して、以下の諸点に習熟することが求められます

1. 日本の英語教育政策と目的
2. 教師に求められる資質と学習者要因
3. 言語習得と教授法
4. 学習指導要領
5. 4技能の具体的な指導法(発音・語彙指導などを含む)
6. 指導案(教材・副教材を含む)の作成
7. 評価に関すること
8. クラスルーム・イングリッシュの習熟
9. 英語教員に求められる十分な英語力

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

学習指導要領の理解と教科の指導に関する知識のバランス	学習指導要領の内容を網羅できていない、または、教科の指導に関する知識が足りない	学習指導要領の内容理解、または、教科の指導に関する知識が少しある	学習指導要領の内容理解、または、教科の指導に関する知識がある	学習指導要領の内容を網羅し、さらに、教科の指導に関する知識がある
英語による授業力	英語で指導できない	一部英語で指導できる	ほぼ英語で指導できる	授業全体を英語で指導できる
英語の4技能に関する指導力	英語の4技能に関する指導ができない	英語の4技能に関して、一部自信を持って指導できる	英語の4技能をほぼ自信を持って指導できるが、一部苦手がある	英語の4技能を自信を持って指導できる
授業設計力	一時間の指導案を作成することができない	一時間の指導案を大まかに作成することができる	おおまかにユニット全体の構成とその中の一時間の指導案を作成することができる	ユニット全体の構成とその中の一時間の詳細な指導案を作成することができる
授業実践力	作成した指導案に基づいた授業を実践できない	作成した指導案に基づいた授業の一部実践することができる	作成した指導案に基づいた授業を実践することができる	作成した指導案に基づいた授業を実践ことができ、修正箇所を説明できる

[授業計画]

- 第1回 本授業の意義と目的についてー英語教師になるということの意味について考えるー
- 第2回 学習指導要領とは何か
- 第3回 学習指導要領が示す英語力
- 第4回 学習指導要領・小中高の英語指導の一貫性
- 第5回 小学校の授業づくり
- 第6回 中学校の授業づくり
- 第7回 高等学校の授業づくり
- 第8回 学習指導案の書き方
- 第9回 授業の工夫ークラスルーム・イングリッシュー
- 第10回 授業の工夫ー導入(warm-up)の指導ー
- 第11回 授業の工夫ー文法・句型・ターゲットセンテンスの指導ー
- 第12回 授業の工夫ー語彙導入・本文学習後の発展活動ー
- 第13回 模擬授業ー導入・ターゲットセンテンス・語彙・発展活動を中心にー
- 第14回 授業の工夫ー本文学習ー
- 第15回 模擬授業ー本文学習を中心にー

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート] 実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実際の授業においての、4技能「5つの領域」の指導力向上に重点を置きます。それら高度な指導力に裏打ちされる授業実現に向けて、指導案の精緻な検証と作成、英語授業の実際の組み立て、教材・教具の使用法などの英語教育実践力を、模擬授業を通して養ってもらいます。本講座は、指導案の作成とそれに基づいての模擬授業、授業に対するディスカッションとフィードバックが軸となって進められます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの精読、発表の準備、英語運用能力の向上のための自己学習、英語教育雑誌等に普段から目を通すなどを実践したうえで授業に臨むこと
2. 指導案の作成、模擬授業の準備、ディスカッション及びフィードバックに対する振り返りシートの作成は特に入念に行うこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加 20%、指導案・模擬授業 60%、期末レポート 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・課題や状況に応じて、オンライン授業を取り入れることがあります。
- ・受講生のニーズや弱点に応じて、事前連絡のうえ、授業予定を変更することがあります。
- ・実際の現場に出向くことがあります。その場合の交通費は実費負担となります。
- ・教職科目なので、遅刻や欠席には留意してください。
- ・教師になる自覚を持ち、積極的な参加姿勢を望みます。
- ・各自、英語力の向上に努めてください。前期末(英語科教育法Ⅲ修了時点)でTOEIC 600点を目指すこと。(※文部科学省は2013年の「第2期教育振興基本計画」では「英語教員に求められる英語力の目標」として「英検準1級・TOEFL iBT80点・TOEIC730点」を掲げている)
- ・指定の使用キスト3冊(『改訂版 新しい英語科授業の実践』・『英語科教育実習ハンドブック第4版』教科書)を毎時授業に持参してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂版 新しい英語科授業の実践』/石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄・齋藤嘉則/金星堂/2020/9784764741119/学内販売有り

『英語科教育実習ハンドブック第4版』/加藤茂夫・杉山敏・荒木恵美子/大修館書店/2020/978-4469246445/学内販売有り
検定教科書(別途指定します)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語教育用語辞典 第3版』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2019/9784469246285

『小学校学習指導要領(平成29年告示)』/文部科学省/東洋館出版社/2018/9784491034607

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外

国語編』/文部科学省/開隆館出版/2018/9784304051685

『中学校学習指導要領(平成29年告示)』/文部科学省/東山書房/2018/9784827815580

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』/文部科学省/開隆堂/2018/9784304051692

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編』文部科学省

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語科教育法Ⅲ B

EGR3200BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科(実践的科目)

3年次

2単位 後期

金曜2限

DP2: 知識・理解力

60

集中

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語科教育法Ⅰ及びⅡで扱った内容を復習することから始め、それらの学習事項を応用する形で、実践活動を行います。そして、それらの活動を通じて実際に教壇に立つ際に必要とされる種々の知識・技能に習熟していくことが目標となります。具体的には、英語教育の意義・目的、教授法・教材論・学習者論・教師論・4技能の具体的な指導法・発音指導の留意点・評価法・教室英語の効果的な使い方などについて確認した上で、それらの技能、とりわけ実際の授業で必要となる4技能の指導に関する実践力を身につけることが求められます。また、教材の準備、教具の使用法、情報機器の使用法などについても、実際に模擬授業を行う中で習熟していくことが目標となります。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語教員に求められる知識・技能に関して、以下の諸点に習熟することが求められます

1. 日本の英語教育政策と目的
2. 教師に求められる資質と学習者要因
3. 言語習得と教授法
4. 学習指導要領
5. 4技能の具体的指導法(発音・語彙指導などを含む)
6. 指導案(教材・副教材を含む)の作成
7. 評価に関すること
8. クラスルーム・イングリッシュの習熟
9. 英語教員に求められる十分な英語力

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
英語科教育に関する知識	テキストや学習指導要領	英語教育学が扱うテキストの内容	学習指導要領の内容及びテキスト	学習指導要領の内容及びテキスト

	領を読んでいない。	や学習指導要領の内容を理解していない。	で扱う英語教員に必要な内容を理解している	で扱う英語教員に必要な内容を理解しており、これを他者に説明できる
英語科指導に関する言語力	外国語科を指導するにあたり求められた英語力を、身につけていない。	外国語科を指導するにあたり求められた基準英語力を身につけている。	外国語科を指導するにあたり求められた基準以上の英語力を身につけている。	求められた基準以上の英語力に加え、さまざまな状況に応じて反応できる英語力を備えている。
教材研究・授業構想力	学習指導要領の把握、または、教材に適した指導法が選択されないまま、学習指導案が作成されている。	学習指導要領に基づいた単元や本時の目標及び評価と活動を設定することができる。	学習指導要領を活かし、学習者が共感できる目標及び評価を設定することができる。または、学習者が興味・関心を持てる活動を設定することができる。	学習指導要領を活かし、学習者が共感できる目標及び評価を設定ことができ、かつ、それらに沿って、学習者を「主体的・対話的で深い学び」に導く活動を盛り込んだ学習指導案を作成できる。
授業実践力	学習指導案に沿った授業が展開できない。	学習指導案に沿った授業展開ができる。	学習指導案にもとづきながら、学習者の反応や理解度に意識を向けることができる。	学習者の反応や理解度に応じて、臨機応変に学習指導案を修正しながら、授業が展開できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
本授業の意義と目的について－英語教師になるということの意味について考える－
- 第 2 回 学習指導要領とは何か
- 第 3 回 学習指導要領が示す英語力
- 第 4 回 学習指導要領・小中高の英語指導の一貫性
- 第 5 回 小学校の授業づくり
- 第 6 回 中学校の授業づくり
- 第 7 回 高等学校の授業づくり
- 第 8 回 学習指導案の書き方
- 第 9 回 授業の工夫－クラスルーム・イングリッシュ－
- 第 10 回 授業の工夫－導入(warm-up)の指導－

- 第 11 回 授業の工夫－文法・句型・ターゲットセンテンスの指導－
 - 第 12 回 授業の工夫－語彙導入・本文学習後の発展活動－
 - 第 13 回 模擬授業－導入・ターゲットセンテンス・語彙・発展活動を中心に－
 - 第 14 回 授業の工夫－本文学習－
 - 第 15 回 模擬授業－本文学習を中心に－
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
実際の授業においての、4 技能「5 つの領域」の指導力向上に重点を置きます。それら高度な指導力に裏打ちされる授業実現に向けて、指導案の精緻な検証と作成、英語授業の実際の組み立て、教材・教具の使用法などの英語教育実践力を、模擬授業を通して養ってもらいます。本講座は、指導案の作成とそれに基づいての模擬授業、授業に対するディスカッションとフィードバックが軸となって進められます。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
1. テキストの精読、発表の準備、英語運用能力の向上のための自己学習、英語教育雑誌等に普段から目を通すなどを実践したうえで授業に臨むこと
 2. 指導案の作成、模擬授業の準備、ディスカッション及びフィードバックに対する振り返りシートの作成は特に入念に行うこと
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加 20%、指導案・模擬授業 60%、期末レポート 20%
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- ・この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。
 - ・教職科目なので、遅刻や欠席には留意すること。
 - ・教師になる自覚を持ち、積極的な参加姿勢を望む。
 - ・各自、英語力の向上に努めること。前期末(英語科教育法Ⅲ修了時点)でTOEIC 600点を目指すこと。(※文部科学省は2013年の「第2期教育振興基本計画」では「英語教員に求められる英語力の目標」として「英検準1級・TOEFL iBT80点・TOEIC730点」を掲げている)
 - ・指定の使用キスト3冊(『改訂版 新しい英語科授業の実践』・『英語科教育実習ハンドブック』『NEW HORIZON 3』)を毎時授業に持参すること。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『改訂版 新しい英語科授業の実践』/石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄・齋藤嘉則/金星堂/2020/9784764741119/学内販売有り
『英語科教育実習ハンドブック』/米山朝二・杉山敏・多田茂/大修館書店/2013/9784469245752/学内販売有り

『NEW HORIZON 3』/文部科学省検定教科書/東京書籍/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語教育用語辞典 第3版』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2019/9784469246285

『小学校学習指導要領(平成29年告示)』/文部科学省/東洋館出版社/2018/9784491034607

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』/文部科学省/開隆館出版/2018/9784304051685

『中学校学習指導要領(平成29年告示)』/文部科学省/東山書房/2018/9784827815580

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』/文部科学省/開隆堂/2018/9784304051692

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』文部科学省

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編・英語編』文部科学省

〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公立小・中学校における英語教員, 小中外国語コーディネーター教員の経験あり

英語科教育法Ⅳ

EGR3250N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科(実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜4限

DP2: 知識・理解力

60

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講座では、英語教員として教壇に立つにあたって必要な知識と技能を身につけ、教育実習において最大限の効果を生むための準備を行うことを目標とします。具体的には、英語指導のための教材を作成し、模擬授業を通して英語授業の計画・実施・評価を行い、実践的な英語指導力を養います。特に、実際の授業で必要となる4技能5つの領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」)の指導に関する発展的実践力を身につけることが求められます。また、教材の準備、教具の使用法、情報機器の使用法などについても、実際に模擬授業を行う中で習熟していくことが目標となります。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英語教員に求められる技能に関して、以下の諸点に習熟することが求められます

1. 日本の英語教育政策と目的
2. 教師に求められる資質と学習者要因
3. 言語習得と教授法
4. 学習指導要領
5. 4技能の具体的な指導法(発音・語彙指導などを含む)

6. 指導案(教材・副教材を含む)の作成
7. 教材・教具の使用法
8. 評価に関すること
9. クラスルーム・イングリッシュの習熟
10. 英語教員に求められる十分な英語力

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習指導要領の理解と教科の指導に関する知識のバランス	学習指導要領の内容理解が足りない、または、教科の指導に関する知識が少ししかない	学習指導要領の内容理解、または、教科の指導に関する知識がある	学習指導要領の内容を網羅し、さらに、教科の指導に関する知識がある	学習指導要領の内容を網羅し、さらに、教科の指導に関する知識があり、さらなる提案ができる
英語による授業力	一部しか英語で指導できない	ほぼ英語で指導できる	授業全体を英語で指導できる	授業全体を英語で指導できるうえ、あらゆる質問に臨機応変に英語で応答できる
英語の4技能に関する指導力	英語の4技能に関して、一部しか自信ない	英語の4技能をほぼ自信を持って指導できるが、一部苦手がある	英語の4技能を自信を持って指導できる	英語の4技能を自信を持って指導できるうえ、他に助言できる
授業設計力	一時間の指導案をおおまかに作成することしかできない	おおまかにユニット全体の構成とその中の一時間の指導案を作成することができる	ユニット全体の構成とその中の一時間の詳細な指導案を作成することができる	ユニット全体の構成とその中の一時間の詳細な指導案を作成することができるうえ、他に助言できる
授業実践力	作成した指導案に基づいた授業を一部しか実践することができない	作成した指導案に基づいた授業を実践することができる	作成した指導案に基づいた授業を実践ことができ、修正箇所を説明できる	作成した指導案に基づいた授業を実践し、修正箇所を説明できる。そのうえで、他に助言できる

〔授業計画〕

- 第1回 教材の活用—AV機器及びビデオ・インターネット教材について—
- 第2回 教材の作成・指導の具体例—発音・文字—
- 第3回 模擬授業と振り返り—発音・文字—
- 第4回 教材の作成・指導の具体例—語彙・文法—

- 第 5 回 模擬授業と振り返りー語彙・文法ー
- 第 6 回 教材の作成・指導の具体例ーリスニングー
- 第 7 回 模擬授業と振り返りーリスニングー
- 第 8 回 教材の作成・指導の具体例ーリーディングー
- 第 9 回 模擬授業と振り返りーリーディングー
- 第 10 回 教材の作成・指導の具体例ースピーキング (やり取り・発表) ー
- 第 11 回 模擬授業と振り返りースピーキング (やり取り・発表) ー
- 第 12 回 教材の作成・指導の具体例ーライティングー
- 第 13 回 模擬授業と振り返りーライティングー
- 第 14 回 評価について
- 第 15 回 ALTとのティーム・ティーチングについて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

具体的な指導場面を想定して指導案を作成し、教育実習において求められる、ひいては英語教員になるにあたって必要な、指導技術を身につけるための演習を行います。中学・高校の教科書を利用して、指導事項の精選、指導案の作成、模擬授業の準備、模擬授業、評価・授業の振り返り等の実践を、時間が許す限り行います。また、英語科教育法Ⅲに引き続き、4技能「5つの領域」の指導力向上には特に重点を置きます。それら高度な指導力に裏打ちされる授業実現に向けて、指導案の精緻な検証と作成、英語授業の実際の組み立て、教材・教具の使用法などの英語教育実践力を、模擬授業を通してさらに強化していきます。本講座は、指導案の作成とそれに基づいての模擬授業、授業に対するディスカッションとフィードバックが軸となって進められます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの精読、発表の準備、英語運用能力の向上のための自己学習、英語教育雑誌等に普段から目を通すなどを実践したうえで授業に臨むこと
2. 指導案の作成、模擬授業の準備、ディスカッション及びフィードバックに対する振り返りシートの作成は特に入念に行うこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加 20%、指導案・模擬授業 60%、期末レポート 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・課題や状況に応じて、オンライン授業を取り入れることがあります。
- ・受講生のニーズや弱点に応じて、事前連絡のうえ、授業予定を変更することがあります。
- ・実際の現場に出向くことがあります。その場合の交通費は実費負担となります。
- ・教職科目なので、遅刻や欠席には留意すること。
- ・教師になる自覚を持ち、積極的な参加姿勢を望む。
- ・各自、英語力の向上に努めること。学期末 (英語科教育法Ⅳ修了時点) にTOEIC 600点を獲得していること。(※文部

科学省は2013年の「第2期教育振興基本計画」では「英語教員に求められる英語力の目標」として「英検準1級・TOEFL iBT80点・TOEIC730点」を掲げている)

・指定の使用キスト3冊 (『改訂版 新しい英語科授業の実践』・『英語科教育実習ハンドブック第4版』教科書) を毎時授業に持参すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂版 新しい英語科授業の実践』/石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄・齋藤嘉則/金星堂/2020/9784764741119/学内販売有り

『英語科教育実習ハンドブック第4版』/加藤茂夫・杉山敏・荒木恵美子/大修館書店/2020/978-4469246445/学内販売有り
検定教科書 (別途指定します)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語教育用語辞典 第3版』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2019/9784469246285

『小学校学習指導要領 (平成29年告示)』/文部科学省/東洋館出版社/2018/9784491034607

『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語活動・外国語編』/文部科学省/開隆館出版/2018/9784304051685

『中学校学習指導要領 (平成29年告示)』/文部科学省/東山書房/2018/9784827815580

『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語編』/文部科学省/開隆堂/2018/9784304051692

『高等学校学習指導要領 (平成30年告示)』文部科学省

『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 外国語編・英語編』文部科学省

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

応用プレゼンテーション演習

CSA3900N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜 3限

ー

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

視覚資料の特性や作成上の留意点などを理解した上で資料作成を行い、プレゼンテーションに関する統合的な学習経験によって総合的思考力を高め、臨機応変の対応と効果的なプレゼンテーションができるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・プレゼンテーションの基礎知識をもとに、視覚資料に関する意義、種類、特徴などを理解し、聴者に効果的な視覚資料を作成できる。

・事前準備、プレゼンテーション、報告など、プレゼンテーション実務を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーション実務	プレゼンテーションをする。報告書を提出する。	各テーマに適した資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に答えることができる。ルールを守って、誤字脱字のない報告書が書ける。	聴衆にとって効果的な資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に対して、聴衆にわかりやすく説明することができる。読み手にわかりやすい報告書が書ける。	各テーマに工夫を凝らして、聴衆にとって効果的な資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に対して、聴衆に効果的な説明等ができる。読み手に効果的な報告書を書くことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (対面受業)
- 第 2 回 ビジュアル化の意義 (対面受業)
視覚資料のポイントと図解、プレゼンテーション (準備)
- 第 3 回 ビジュアル化の意義 (オンライン)
図解を使ったプレゼンテーション準備、練習
- 第 4 回 ビジュアル化の意義 (対面受業)
図解を使ったプレゼンテーション A
- 第 5 回 ビジュアル化の意義 (対面受業)
図解を使ったプレゼンテーション B
- 第 6 回 ビジュアル化の意義 (対面受業)
図解を使ったプレゼンテーション C
- 第 7 回 視覚資料の種類と特徴 (対面受業)
視覚資料の理解、準備
- 第 8 回 視覚資料の種類と特徴 (オンライン)
視覚資料を使ったプレゼンテーション 準備、練習
- 第 9 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
視覚資料を使ったプレゼンテーション A
- 第 10 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
視覚資料を使ったプレゼンテーション B
- 第 11 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
視覚資料を使ったプレゼンテーション C
- 第 12 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点の理解、準備

第 13 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (オンライン)

準備、練習

第 14 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)

準備 (リハーサル、相互評価)

第 15 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)

プレゼンテーション (実技テスト)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・各課題について、学習、準備、練習、発表を行う。
- ・実施するプレゼンテーションへの質問に対応する。
- ・相互評価をする。
- ・プレゼンテーションごとに、内容、工夫点、他者の発表から得たこと、今後の課題、感想等についての報告書を提出する (3回)。
- ・プレゼンテーションおよび報告書に対して、随時フィードバックがある。
- ・一部、オンライン (オンデマンド) で実施することで、充実した準備・練習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各テーマについて、準備・練習を行う。
- ・授業内でできなかったことは、次週までに仕上げておく。
- ・プレゼンテーション後に「報告書」を作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、最終プレゼンテーション (30%)、授業参加度 (40%)、報告書 (30%) に基づき、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ブレンド型で実施をする。
- ・ゲスト講師による授業を行うこともある。
- ・進行状況等によって、随時、内容・方法、スケジュールを調整していく。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション』/武田秀子編/実教出版/2011/978-4407322613/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『シンプル・プレゼン』/ガー・レイノルズ/日経ビジネスアソシエ/2011/4822230546

『プレゼンテーションZEN 第2版』/ガー・レイノルズ/ピアソン桐原/2012/462106603X

『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』/ジェレミー・ドノバン/新潮社/2013/4105064916

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 社会人に対するセミナー（プレゼンテーション） 講師経験あり。

接遇のための日本語

EGR2350N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科 > 英語英文学科（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

1単位 後期

火曜2限

DP3：言語力

15

橘高 邦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

人間のコミュニケーション手段の起源は指さしと物まねといわれている。そこには「協力」と「共有」という社会的動機が強くある。社会の中での「接遇」が人間関係にどのような影響を及ぼすのか。接遇における「話しことば」と「心あるもてなし」を理解し、実践的なコミュニケーションワークでことばの力を磨く

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1 自分が発する「ことば」はどこへ向けられているのか。他者への意識を持ちながら適切な「ことば」の選択ができるようにすること
- 2 自分らしい声をみつけ、誰にでもわかりやすく、心に届く表現を身につけること
- 3 様々な場面で敬語を自然に使いこなせるようにすること
- 4 「あがり」や「緊張」を克服してパブリックスピーキングを上達させること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	誠実に課題の取り組みができない	課題に取り組んではいるものの、主体性がない	課題に対して、強く興味を持ち、対処できる	課題に対して、いつも知識の準備があり、多面的に自分を評価できる
知識・理解力	接遇に関する用語や意義について理解していない	接遇に対する理解と社会常識を持っている	接遇に対する一般的なマナーが理解できている	接遇やサービスの機能を理解し、時代の変化と共に対応できる
言語力	敬語や言葉による対人心理を理解していない	敬語や言葉による対人心理を理解し、正確な表現をしようとしている	マニュアルに頼っているものの、どんな状況でも正確な表現ができる	どんな状況でもマニュアルに頼らず、正確で豊かな表現ができる

思考・解決力	言葉や状況の形だけにとらわれ、本質をとらえることができない	言葉や状況の本質をとらえようとしているものの、一部を曲解している	与えられた問題や課題についての要点を説明できる	与えられた問題や課題を的確に処理できる
共生・協働する力	グループワークにおいて、積極的な発言がない	グループワークにおいて、自分を中心とした発言に偏ってしまう	グループワークにおいて、他者への意識を持ってはいるが、具体的な行動に移せていない	グループワークにおいて、他者への意識を強く持ち、リーダーやフォロワーとしての役割を担うことができる
創造・発信力	自らの言葉で表現し、伝えることができない	一般的な言葉で表現し、伝えることができる	自らの言葉で表現し、伝えることができているものの、言語に対する問題意識を持っていない	学びを社会で生かすことができ、また言語に対する問題意識を持ち続けている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
講義のねらい、目標の確認、グループワークのすすめ方
- 第 2 回 自分の声をみつける
相手にキチンと伝わる発声法を実践する
- 第 3 回 「敬語」を考える
社会における人間関係と「敬語」についての考察
- 第 4 回 「敬語」を使ってプレゼンをする
ビジネスシーンでの立場を考え、「敬語」を意識してプレゼンテーションをする
- 第 5 回 間違いやすい「敬語」
「させていただきます」症候群についての考察
- 第 6 回 接遇に関する問題解決に取り組んでみる
社会での立場と状況を理解し、的確な「ことば」を使って問題解決のトレーニングをする
- 第 7 回 接遇に関する対応力を考える
敬語を使って様々なシチュエーションによる対応力を磨くトレーニング
- 第 8 回 「きく」こと、とは
ことばのコミュニケーション「きく」ことの社会での重要性を考える
- 第 9 回 「聴く」ことについて
「訊く」ことで得た情報を「聴いて」まとめるトレーニング
- 第 10 回 実践・グループディスカッション
様々な世代、立場の人と議論するためのことばの技術を知る

- 第 11 回 電話の受け方とかけ方
ビジネスにおいて、相手に誠実さが伝わる電話の受け方とかけ方のトレーニング
- 第 12 回 実践・接遇における所作とことば
相手にモノを渡す、お茶を勧める、名刺を交換するなどの身のこなしと共にことば遣いを考える
- 第 13 回 今のことばを考える（文化庁 国語に関する世論調査より）
若者ことばやSNSで使用される「ことば」についての考察
- 第 14 回 接遇における「きき方」と「話し方」
相手の心に届く「きき方」と「話し方」を考え実践する
- 第 15 回 接遇とは（まとめ）
相手の心に響く接遇とはどういうものか、各自の実習実践について振り返ってみる

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 ロールプレイングにより社会の様々な立場や場面で洗練された接遇のことばを自然に使えるようにする
- 2 テーマ指定のパブリックスピーキングにより 聞き手の心に響く会話術を養う
- 3 ワークショップ形式の中で、他の学生の意見も受け入れ自分のことばと思考の引き出しを増やす
- 4 各講義での課題における実習実践はその都度各自にフィードバックし、学生同士で相互評価も行う

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1 日常の読書習慣にコミュニケーション関連の書籍を取り入れ、ことばの感性を磨く
 - 2 自分自身の日常会話を振り返って何が足りないかに気づく
 - 3 社会の動きの中から生れた新しいことば、時事用語、トレンドワードに興味を持ち、ことばへの意識を高める
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

積極的な授業参加、意欲 40%。課題への取組 30%。レポートと習熟度テスト 30%

〔留意事項（Other Information）〕

欠席が続くと課題達成が困難になるので気をつけること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。毎回レジュメ、教材配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特になし。必要に応じて指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

特になし

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

実務経験等：NHK報道番組部キャスター、リポーター・民放ラジオ情報番組ナビゲーターの経験あり

Academic Writing I A

EGB3301A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The aim of this course is to improve students' writing skills in order to be ready for writing their senior thesis and other academic work in English.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Produce quality academic prose by editing and revising successive drafts of each essay.

Formulate and develop drafts based on controversial topics with an awareness of how it will be read by a general audience, and well supported by evidence. Self-evaluate writing, and give critical feedback to peers. Properly acknowledge sources and know how to avoid plagiarism. Develop a personalised learning strategy for improving writing and general academic skills.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Introduction	Does not meet course expectations yet	Can formulate a basic introduction	Shows awareness of introduction structure	Can formulate an effective introduction which primes the reader for essay content
Body Paragraphs	Does not meet course expectations yet	Can formulate basic body paragraphs	Shows awareness of elements of body paragraphs	Can construct well argued body paragraphs that flow coherently
Argumentation	Does not meet course	Can state opinions clearly	Begins to include evidence	Can provide evidence

	expectations yet		for arguments	for arguments made succinctly
Using sources	Does not meet course expectations yet	Can include outside sources	Understands in-text referencing systems	Can appropriately reference outside sources in arguments
Conclusions	Does not meet course expectations yet	Can formulate a basic conclusion	Shows awareness of elements of a conclusion	Can construct a conclusion that effectively summarizes the argument and displays an essay's contribution
Feedback	Does not meet course expectations yet	Can give and receive basic feedback	Begins to give critical feedback	Can give and receive critical feedback and apply this learning in their own writing

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
Introduction to the aims of the course and explanation of writing types/genres.
- 第 2 回 Essay Topic 1A
Formulating a first essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion
- 第 3 回 Essay Topic 1B
Refining a first essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses
- 第 4 回 Essay Topic 1C
Completion and self-review of first essay: Learning how to proofread prior to feedback and developing a self-critical lens
- 第 5 回 Peer Review 1
Peer Review on Essay Topic 1
- 第 6 回 Essay Topic 2A
Formulating a second essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion with sufficient background information and concluding arguments

- 第 7 回 Essay Topic 2B
Refining a second essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses, including honest and rigorous evaluations of opposing arguments in the body paragraphs
- 第 8 回 Essay Topic 2C
Refining a first essay: Elaborating on arguments, critically analyzing outside sources
- 第 9 回 Peer Review 2
Peer Review on Essay Topic 2
- 第 10 回 Essay Topic 3A
Formulating a third essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion with sufficient background information and concluding arguments *on a topic not well known*
- 第 11 回 Essay Topic 3B
Refining a third essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses, including honest and rigorous evaluations of opposing arguments in the body paragraphs, *on a topic not well known*
- 第 12 回 Essay Topic 3C
Refining a first essay: Elaborating on arguments, critically analyzing outside sources and filling in knowledge gaps *on a topic not well known*
- 第 13 回 Peer Review 3
Peer Review on Essay Topic 3
- 第 14 回 Preparing for Final Writing Assignment
Students will engage in practice for timed writing assessments
- 第 15 回 Final Writing Assignment
Students will begin writing their final essay and will be given ongoing feedback. The final essay will be submitted
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The course will be conducted primarily in English. It is imperative that students complete assigned homework to prepare for classroom activities. Writing assignments are to be submitted via manaba, and feedback/peer review of assignments will be conducted in class.
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Students must prepare thoroughly for class by doing all writing and homework assignments. Students who do not complete homework will have a difficult time participating during class time so it is essential that effort is made to keep up with the assignments.
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Essays: 40%

Final assignment: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule is flexible. The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided by the teacher in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing I B

EGB3301B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course focuses on developing skills needed for conducting research and writing research papers. Students will learn to choose topics for research, find and evaluate sources of information, take organized notes, document sources appropriately, and write a well-supported research paper.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Upon completion of this course, students will be able to:

- (1) Write effective thesis statements and topic sentences
- (2) Support ideas effectively in writing
- (3) Take organized notes on source material and use them effectively
- (4) Paraphrase and summarize source material appropriately
- (5) Clearly distinguish between source material and one's own voice
- (6) Write papers according to style guidelines

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	正しい英文が書けない	正しい英文で段落が作れる	正しい英文で文章が書ける	正しい英文で説得力のある文章が書ける

思考・解決力	トピックを自分で考えない	トピックを自分で考えられる	興味深いトピックを自分で考えられる	興味深いトピックを基に説得力のある文章が書ける
共生・協働する力	授業進行を妨げる、グループワークに参加しない	グループワークに参加する	グループワークで積極的に意見を述べられる	グループワークでリーダーの役目を務められる

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction: What is research?
- 第 2 回 Topics, research questions, and thesis statements
- 第 3 回 Finding and Evaluating sources
- 第 4 回 Understanding article organization
- 第 5 回 Avoiding plagiarism
- 第 6 回 Note taking
- 第 7 回 Citation
- 第 8 回 Effective Support
- 第 9 回 Paraphrasing
- 第 10 回 Introductions and conclusions
- 第 11 回 Peer review and feedback
- 第 12 回 Revising
- 第 13 回 Formatting a research paper
- 第 14 回 Mini presentations of research
- 第 15 回 Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

We will use both online and face to face instructions. Most materials, activities, and assignments will be conducted through manaba. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive written feedback on each draft of their written work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

All homework and assignments must be completed on time. Late assignments will receive a significant reduction in score. In case of absence, students must still submit assignments electronically before the deadline.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Research papers 50%

Class participation and preparation 10%

Homework (at least 5 reports) 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some or all classes will be face to face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you

must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions. It is extremely important to note that you are required to submit all reports in order to pass the course.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Basic Steps to Writing Research Papers』 /David E. Kluge & Matthew A. Taylor/Cengage/2007/9784902902891/学内販売予定

An additional textbook may be announced later.

3/12追記 テキストを使用しなくなりましたので、購入の必要はありません。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

TBA

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing I C

EGB3301C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、基礎的な英語のライティングを学び、また英語で文章を「書く」経験を通じ、論理的思考を修得することを目的とする。文法を正しく用い、また類義語辞典や、活用辞典を活用して、アカデミックな英文作成を行う。授業ではライティングスキルを一つ一つ習得し、効果的な「書き方」の理解を深めるとともに、エッセイを書くことによって、思考を紙面に迅速に刻み込む練習を反復する。日本語を英語に和訳するという作業にならないよう注意し、アイデアをそのまま英語で書くということを心がけてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 英訳の作業をするのではなく、アイデアをそのまま英語で表現する。
- 2 パラグラフの構造を理解し、論理的にアイデアを組み立てていく。
- 3 推敲を重ね、よりアカデミックな表現法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction

第 2 回 The topic Sentence of the Paragraph

第 3 回 The Topic Sentence of the Paragraph 英作

第 4 回 The Specific Details of the Paragraph

第 5 回 The Specific Details of the Paragraph 英作

第 6 回 Time Order

第 7 回 Time Order 英作

第 8 回 Review

第 9 回 Space Order

第 10 回 Space Order 英作

第 11 回 Process and Direction

第 12 回 Process and Direction 英作

第 13 回 Cause and Effect

第 14 回 Cause and Effect 英作

第 15 回 Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

エッセイ・トピックの選定においても、エッセイの内容充実においても、授業外での情報検索が必要不可欠となります。トピックに関連する事柄を事前に図書館で調査することが肝要です。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 25%

エッセイ 25%

テスト 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進度、学生の理解度に応じて予定を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs』/Hisatake Jimbo, Richard B. Murto/Macmillan/2012/9.784777360093E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing I D

EGB3301D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、身近なトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を書き、かつ、効果的にパラグラフ構成されたアカデミック・ペーパーを書くことを目標とします。テキストを使用しながら、ペーパーを書く前段階（トピックの選び方、アウトラインの組み立て、リサーチの方法など）と、ペーパーの構造を学びます。つぎに、ペーパーを実際に執筆しながら、書き方、引用の仕方、書き直しの方法を学びます。最終的に、4~5パラグラフから成るエッセイ（400 words程度）に取り組み、卒業論文執筆の準備とします。毎授業、英文を書くことになるので、電子辞書等を必ず持参のこと。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 伝えたいことを正確かつ効果的に英語で表現できる。

2 ペーパーの基本構造をよく理解し、論理的な文章を書くことができる。

3 簡単なリサーチに基づき、4~5パラグラフから成るペーパーを書くことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can type more than 30 WPM				

Can write clear 5-paragraph essays				
Can use a range of compound and complex sentences				
Can use appropriate academic vocabulary				
Can write persuasively and in various genres				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
シラバスの説明、Unit 1 What is Research Paper?
- 第 2 回 Prewriting: Preparation and Research (1)
Unit 2 Topics
Unit 3 Sources
- 第 3 回 Prewriting: Preparation and Research (2)
Unit 3 Sources
Unit 4 Taking Notes
- 第 4 回 Organizing Your Paper (1)
Unit 5 The Beginning Thesis Statement
- 第 5 回 Organizing Your Paper (2)
Unit 6 The Working Outline
- 第 6 回 Organizing Your Paper (3)
Unit 7 Revising the Thesis Statement and Working Outline
- 第 7 回 Writing the First Draft (1)
Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing
- 第 8 回 Writing the First Draft (2)
Unit 9 Writing the First Draft
- 第 9 回 Writing the First Draft (3)
Unit 10 Writing the Title
- 第 10 回 Writing the First Draft (4)
Unit 12 Writing the Introduction
- 第 11 回 Writing the First Draft (5)
Unit 14 Writing the Body
- 第 12 回 Writing the First Draft (6)
Unit 16 Writing the Conclusion
- 第 13 回 Writing the First Draft (7)
Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources
- 第 14 回 Writing the First Draft (8)
Unit 18 Writing the Bibliography
- 第 15 回 Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) テキストの各ユニットの内容を学習する。
- (2) テキスト内のPracticeをおこなう。
- (3) 指示されたライティング課題やリサーチ課題をおこなう。
- (4) 提出されたライティング課題は添削のうえ返却するので、書き直して再度提出する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- (1) 授業で扱うテキストの学習ユニットを予習する。
- (2) 課題 (ライティング課題や、図書館などでのリサーチ課題) をおこなう。
- (3) 添削されて返却されたライティング課題を見直し、書き直す。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Attendance and class performance 25 %

Assignments 45%

Final essay 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、対面授業とManabaを使用したオンライン授業のブレンド型授業です。COVID-19の感染拡大状況の悪化による対面授業の中止を含め、授業計画は、受講生の課題への取り組みの進捗などに応じて変更することがあります。変更点は原則として1週間前までにManabaのコースニュースで掲示しますので、毎週必ずManabaをチェックしてください。対面授業には必ず辞書を持参してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Basic Steps to Writing Research Papers / David E. Kluge and Matthew A. Taylor / Cengage Learning / 2007 / 9784902902891 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing II A

EGB3351A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is a continuation of the spring semester. The general aim of this course is to improve students' writing skills in order to be ready for writing their senior thesis and other academic work in English. Students learn what is required for each of the various elements of a good thesis: Introduction, Literature Review, Research Method, Results, Discussion, Conclusion, References, Appendices, Abstract.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Produce quality academic prose by editing and revising successive drafts of the 'Introduction' and 'Literature Review'.

Formulate and develop drafts based on topics of each student's own interests with an awareness of how it will be read by a professor.

Evaluate student's own drafts (and the work of other writers) and give critical feedback.

Properly acknowledge sources and know how to avoid plagiarism.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Introduction	Does not meet course expectations yet	Can formulate a basic introduction	Shows awareness of introduction structure	Can formulate an effective introduction which primes the reader for essay content
Body Paragraphs	Does not meet course expectations yet	Can formulate basic body paragraphs	Shows awareness of elements of body paragraphs	Can construct well argued body paragraphs that flow coherently

Argumentation	Does not meet course expectations yet	Can state opinions clearly	Begins to include evidence for arguments	Can provide evidence for arguments made succinctly
Using sources	Does not meet course expectations yet	Can include outside sources	Understands in-text referencing systems	Can appropriately reference outside sources in arguments
Conclusions	Does not meet course expectations yet	Can formulate a basic conclusion	Shows awareness of elements of a conclusion	Can construct a conclusion that effectively summarizes the argument and displays an essay's contribution
Feedback	Does not meet course expectations yet	Can give and basic feedback	Begins to give critical feedback	Can give and receive critical feedback and apply this learning in their own writing

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
Introduction to the aims of the course and explanation of aspects of writing including: Introductions, Literature Reviews, Research Methods, Results, Discussions, Conclusions, References, Appendices, Abstracts.
- 第 2 回 Essay Topic 1A
Formulating a first essay: Working on constructing a solid, coherent introduction that primes the reader and a conclusion which conveys the essay's impact
- 第 3 回 Essay Topic 1B
Refining a first essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses on opposing viewpoints with solid rebuttals
- 第 4 回 Essay Topic 1C
Completion and self-review of first essay
- 第 5 回 Abstract writing

- Formulating a concise abstract for a completed essay
- 第 6 回 Extended Peer Review 1
Critical analysis of peer's essays
- 第 7 回 Extended Peer Review 2
Critical analysis of peer's abstracts
- 第 8 回 Essay Topic 2A
Formulating a second essay: Working on constructing a solid, coherent introduction that primes the reader and a conclusion which conveys the essay's impact
- 第 9 回 Essay Topic 2B
Refining a second essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses on opposing viewpoints with solid rebuttals, experimenting with different citation styles
- 第 10 回 Essay Topic 2C
Completion and self-review of second essay
- 第 11 回 Abstract Writing 2
Formulating a concise abstract for a completed essay
- 第 12 回 Extended Peer Review 3
Critical analysis of peer's essays
- 第 13 回 Extended Peer Review 3
Critical analysis of peer's abstracts
- 第 14 回 Preparing for Final Writing Assignment
Returning to a prior topic and preparing to refine the essay for academic assessment
- 第 15 回 Final Writing Assignment
Students will begin writing their final essay and will be given ongoing feedback. The final essay will be submitted via manaba

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted primarily in English. It is imperative that students complete assigned homework to prepare for classroom activities. Writing assignments are to be submitted

via manaba, and feedback/peer review of assignments will be conducted in class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for class by doing all writing and homework assignments. Students who do not complete homework will have a difficult time participating during class

time so it is essential that effort is made to keep up with the assignments.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Essays: 40%

Final assignment: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule is flexible. The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided by the teacher in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing II B

EGB3351B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will introduce students to the concepts and skills needed to conduct basic field research. They will conduct a semester-long guided-research project on a topic of their choice, write a paper detailing their findings, and present their work orally in class.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

At the end of the course, students will be able to:

- (1) Understand the basic differences between qualitative and quantitative research and types of data
- (2) Apply bibliographic research to their research questions
- (3) Understand and follow important considerations in research ethics
- (4) Construct and use surveys or interview protocols to gather data
- (5) Securely store and organize data and notes for research
- (6) Practice basic techniques for data analysis (finding patterns, descriptive statistics) and display
- (7) Write a clear, organized research paper with proper citations and format

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

言語力	正しい英文が書けない	正しい英文で段落が作れる	正しい英文で文章が書ける	正しい英文で説得力のある文章が書ける
思考・解決力	トピックを自分で考えない	トピックを自分で考えられる	興味深いトピックを自分で考えられる	興味深いトピックを基に説得力のある文章が書ける
共生・協働する力	授業進行を妨げる、グループワークに参加しない	グループワークに参加する	グループワークで積極的に意見を述べられる	グループワークでリーダーの役目を務められる

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course intro: what is field work?
- 第 2 回 Types of Research and data
- 第 3 回 Forming your research question
- 第 4 回 Basic research paper structure
- 第 5 回 Conducting surveys and interviews
- 第 6 回 Writing workshop
- 第 7 回 Writing an annotated bibliography
- 第 8 回 Writing the introduction
- 第 9 回 Organizing your research paper
- 第 10 回 Peer review and feedback
- 第 11 回 Writing your discussion & conclusion
- 第 12 回 Writing an abstract
- 第 13 回 Formatting; Presentations of projects, Q&A Day 1
- 第 14 回 Presentations of projects, Q&A Day 2; audience responses
- 第 15 回 course review and reflections

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through manaba. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive written feedback on each draft of their written work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

All assignments must be submitted on time. Late work will receive a substantial reduction in score. In case of absence, written work should be submitted electronically before the deadline. Peer review and writing conferences will be employed to help students manage their projects. Active participation and thorough preparation is crucial. Students need to work independently and continuously throughout the semester to make steady progress.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Annotated Bibliography 15%

Quizzes 15%

Homework and preparation 20%

Final paper 40%

Final presentation 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some or all classes may be face to face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions. It is extremely important to note that you are required to submit all reports in order to pass the course.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

TBA

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing II C

EGB3351COJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、基礎的な英語のライティングを学び、また英語で文章を「書く」経験を通じ、英語論文執筆に接続するアカデミックな英語表現を習得することを目的とする。授業ではライティングスキルを一つ一つ習得し、効果的な「書き方」の理解を深めるとともに、英語論文で頻出する英語表現を反復して使用することにより、アカデミックな表現や語彙の知識の向上を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 卒業論文に活かすことができるアカデミックな英語表現を習得する。
- 2 パラグラフの書き方のスキルを学び、論理的にアイデアを組み立てていく。
- 3 推敲を重ね、より正確な英語表現法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction

第 2 回 Examples (Introduction)

第 3 回 Examples (Reading paragraphs)

第 4 回 Writing an Essay and Peer Review (オンライン授業)

第 5 回 Definition (Introduction)

第 6 回 Definition (Reading paragraphs)

第 7 回 Writing an Essay and Peer Review (オンライン授業)

第 8 回 Comparison and Contrast (Introduction)

第 9 回 Comparison and Contrast (Reading paragraphs)

第 10 回 Writing an Essay and Peer Review (オンライン授業)

第 11 回 Counterargument (Introduction)

第 12 回 Counterargument (Reading paragraphs)

第 13 回 Writing an Essay (オンライン授業)

第 14 回 Exam

第 15 回 Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業時間中に、テキスト・補助プリント・辞書を使用して出来るだけ多くの英文を作成します。提出されたエッセイは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出すること。また、授業で学ぶ英語表現については、卒業論文執筆時に活かせるように必ずノートにまとめておくこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業で指定された範囲を熟読しておくこと。

また、エッセイを執筆する際、個々の研究テーマにつながる論文を授業で使用することがありますので、先行研究リサーチを行うことが求められます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 25%
エッセイ 25%
テスト 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進捗、学生の理解度に応じて予定を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs』/Hisatake Jimbo, Richard B. Murto/Macmillan/2012/9.784777360093E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing II D

EGB3351D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、卒業論文を見据え、自分が選んだトピックに関して、文法的に正しい英語の文章を書き、かつ、効果的に構成されたアカデミック・ペーパーを書くことを目標とします。ペーパーを実際に執筆しながら、適宜テキストの内容を復習します。特に引用、参考文献リストの作成、推敲の仕方を実践的に学びます。さらに、補助プリント使ってアカデミックな語彙力、表現力の向上を目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 卒業論文に活かすことができるアカデミックな英語表現を習得する。
- ペーパーの書き方に関するスキルを実践的に学び、論理的にアイデアを組み立てる方法を身につける。
- 推敲を重ね、より正確な英語表現法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Can type more than 30 WPM				
Can write clear 5-paragraph essays				
Can use a range of compound and complex sentences				
Can use appropriate academic vocabulary				
Can write persuasively and in various genres				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
-授業形態の説明、シラバスの内容の確認など
- Review: Preparation and Research
- 第 2 回 Writing the First Draft (1)
-Unit 11 Style
-アカデミックな表現や語彙の習得(プリント配布)
- Final Essay のトピック選定
- 第 3 回 Writing the First Draft (2)
-Unit 13 Support, Accuracy, and Logic
-アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
- Final Essay のトピック選定 (2)
- 第 4 回 Writing the First Draft (3)
-Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences
-アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
-Final Essayのアウトラインの作成
- 第 5 回 Writing the First Draft (4)
- Review of Unit 12 Writing the Introduction
-アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
-Final EssayのIntroduction 執筆
- 第 6 回 Writing the First Draft (5)
- Review of Unit 14 Writing the Body
-アカデミックな表現や語彙の習得 (プリント配布)、小テストでの確認
-Final Essayの Body Paragraphs執筆
- 第 7 回 Writing the First Draft (6)

- Review of Unit 16 Writing the Conclusion
 - アカデミックな表現や語彙の習得（プリント配布）、小テストでの確認
 - Final Essayの Conclusion執筆
- 第 8 回 Writing the First Draft (7)
- Review of Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources
 - アカデミックな表現や語彙の習得（プリント配布）、小テストでの確認
- 第 9 回 Writing the First Draft (8)
- Review of Unit 18 Writing the Bibliography
 - アカデミックな表現や語彙の習得（プリント配布）、小テストでの確認
- 第 10 回 Evaluating and Rewriting Your Paper (1)
- Unit 16 Evaluating and Rewriting Your Paper
 - アカデミックな表現や語彙の習得（プリント配布）、小テストでの確認
- 第 11 回 Peer Review
- Peer Review
 - アカデミックな表現や語彙の習得（プリント配布）、小テストでの確認
- 第 12 回 Evaluating and Rewriting Your Paper (2)
- Unit 17 Common Problems with Punctuation, Grammar, and Vocabulary
 - アカデミックな表現や語彙の習得（プリント配布）、小テストでの確認。
 - Final Essay (First Draft) の提出
- 第 13 回 Final Words
- Unit 21 An End and a Beginning
 - アカデミックな表現や語彙の習得（プリント配布）、小テストでの確認。
- 第 14 回 Formal Outlines
- Appendix D Formal Outlines
 - アカデミックな表現や語彙の習得（プリント配布）、小テストでの確認。
- 第 15 回 Review
- Review
 - Final Essayの提出

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1) テキストの各ユニットの内容を学習・復習する。
- (2) テキスト内のPracticeをおこなう。
- (3) スケジュールに沿って、Final Essay を執筆する。
- (4) 提出されたFinal Essay のFirst Draftは添削のうえ返却するので、書き直して再度提出する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- (1) 授業で扱うテキストの学習ユニットを予習・復習する。
- (2) Final Essayの執筆をおこなう。
- (3) 添削されて返却されたFinal Essay のFirst Draftを見直し、書き直す。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

Assignments 70 %

Vocabulary Quiz 10%

Final essay 20%

〔留意事項（Other Information）〕

本科目は、対面授業とManabaを使用したオンライン授業のブレンド型授業です。COVID-19の感染拡大状況の悪化による対面授業の中止を含め、授業計画は、受講生の課題への取り組みの進捗などに応じて変更することがあります。変更点は原則として1週間前までにManabaのコースニュースで掲示しますので、毎週必ずManabaをチェックしてください。対面授業には必ず辞書を持参してください。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

Basic Steps to Writing Research Papers / David E. Kluge and Matthew A. Taylor / Cengage Learning / 2007 / 9784902902891 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

プリントをPDFの形でManabaのコースコンテンツにおきます。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening I A

EGB2302A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜2限

DP3：言語力

15

必修 クラス指定

Steven Herder

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The aim of this course is to improve both academic and general English listening skills in order to prepare students for a successful study abroad experience.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) Improvements in Academic English Listening by understanding metacognitive listening strategies (methods used to help students understand the way they learn), listening for elements of discourse (main ideas, reasons, details, etc.), note taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

(2) Improvements in General English Listening by understanding the challenging realities of spoken English

(linking, blends, weak vowels, dropped sounds, syllable stress, etc.), identifying main ideas, compensation strategies, personalized strategies for continued listening improvements.
 [ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

<p>言語力: 1) Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section; 2) Interaction /Pragmatic awareness: Is able to use back-channeling and questioning for information/clarification. Understands nuance and intent behind speech; 3) Fluency: Is able to understand enough information to summarize a short passage after listening once; 4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation; 5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress have an impact on meaning. Understands how elision works in natural English; 6) Understanding complex</p>	<p>Does not meet course expectations yet</p>	<p>Meets some course expectations</p>	<p>Meets most course expectations and excels on some criteria</p>	<p>Exceeds most course expectations</p>
--	--	---------------------------------------	---	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introducing a Listening Course
 - 第 2 回 Determining your Listening Level
 - 第 3 回 Identifying Listening Strategies
 - 第 4 回 Listening for the Main Idea
 - 第 5 回 Listening for Reasons and Explanations
 - 第 6 回 Listening for English Rhetorical Structure
 - 第 7 回 Listening for Specific Functions
 - 第 8 回 Listening Test and Feedback (Midterm)
 - 第 9 回 Recognizing a Speaker's Tone
 - 第 10 回 Recognizing Signposts and Transition Words
 - 第 11 回 Recognizing Facts & Opinions
 - 第 12 回 Recognizing Cause & Effect Relationships
 - 第 13 回 Inferring Meaning
 - 第 14 回 Making Predictions
 - 第 15 回 Individual Oral Reports and Feedback (Final)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(Students will be exposed to and receive ongoing formative feedback on a wide variety of listening opportunities: conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher and classmates. Students will complete a midterm listening test and a final oral report.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to prepare for class as much as necessary to keep up with their classmates. Homework assignments include vocabulary study, a personalized listening program, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) Class Participation 50%
- (2) Midterm Listening Test 25%
- (3) Final Oral Report 25%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<https://www.newsinlevels.com/>

<http://elllo.org>

<https://lyricstraining.com/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening I B

EGB2302B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜2限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will develop their oral communication skills. Listening and understanding the naturally spoken English of the teacher and peers is the main goal. We will practice listening for gist and details. We will study characteristics of spoken English such as 'linking sounds', 'weak vowels', 'sentence stress' and 'blended sounds'. An awareness of these features of spoken English will help students tackle authentic listening tasks outside of the classroom. The students will continue keeping a listening journal, documenting their progress, weaknesses and strengths of their listening skill.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of this course, students will:

- 1) more successfully communicate meaning to their peers
- 2) have practiced and improved their understanding of naturally spoken English
- 3) have an understanding of the features of naturally spoken English
- 4) be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can achieve a score of 250 in the TOEIC Listening Section.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Interaction /Pragmatic awareness/ Critical listening: Is able to employ backchalle	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

ning, questioning for information/ clarification to an interlocutor. Is able to ask questions for clarification in complicated texts. Understands rhetoric and is able to explain how specific speech/ texts are conveying certain stances on issues.				
Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize longer passages after listening once.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/conclusions/hypothesis about meaning not explicitly stated.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
Community building activities
- 第 2 回 Community building activities
Listening Journal explanation
- 第 3 回 Unit 1: I like action movies
Listening activities/ sentence stress
- 第 4 回 Unit 1: I like action movies
Speaking activities/personalization
- 第 5 回 Unit 2: How much is that?
Listening activities/ weak vowels
- 第 6 回 Unit 2: How much is that?
Speaking activities/personalization
- 第 7 回 Unit 3: Is this your cousin?
Listening activities/ sentence stress
- 第 8 回 Unit 3: Is that your cousin?
Speaking activities/personalization
- 第 9 回 Unit 4: How was your weekend?
Listening activities/ disappearing sounds
- 第 10 回 Unit 4: How was your weekend?
Speaking activities/personalization
- 第 11 回 Unit 5: What do you do?
Listening activities/ sentence stress
- 第 12 回 Unit 5: What do you do?
Speaking activities/personalization
- 第 13 回 Unit 6: I get to work at eight.
Listening activities/ weak vowels
- 第 14 回 Unit 6: I get to work at eight.
Speaking activities/personalization
- 第 15 回 Final reflection on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to actively participate both in the classroom and online AND diligently practice and reflect on their listening experiences outside of class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%

Listening Journal: 30%

Quizzes: 10%

Speaking and writing tasks: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

Important: If you are also taking Advanced Speaking B I/II, we will also be using this textbook so there is no need to buy a second copy.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Communication Spotlight (High Beginner) / Graham-Marr, A. / Abax ELT Publishers / ISBN 978-1-78547-029-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening I D

EGB2302D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to listen and understand a variety of topics in English with confidence.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives. Students will be expected to listening to and express their thoughts and opinions about content in English.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section.	<150	150~200	200~250	250+
Interaction /Pragmatic awareness	Does not meet course expectations yet	Can employ back-channeling, questioning for clarification to an interlocutor	Understands nuance and intent behind speech	Can explain nuance behind specific pragmatic utterances
Fluency	Does not meet course expectations yet	Can sufficiently summarize a short passage after listening several times	Can sufficiently summarize a short passage after listening twice	Can sufficiently summarize a short passage after listening once
Pronunciation	Does not meet course expectations yet	Can understand a variety of English pronunciation	Begins to develop the skills to understand unknown pronunciation through context	Has developed clear strategies to deal with difficult pronunciation
Prosody	Does not meet course expectations yet	Understands how intonation, tone and word stress correlate with meaning	Understands how elision works and is able to discern individual words in a stream of speech	Understands and can explain the functions of prosody, elision etc.

Understanding complex texts	Does not meet course expectations yet	Is able to draw information from various parts of a text	Is able to make hypothesis about meaning not explicitly stated	Is able to provide reasoned understanding of implicit meaning
-----------------------------	---------------------------------------	--	--	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
Introduction and Explanation of the Advanced Listening II D Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Interruptions
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to *interruptions*.
- 第 3 回 Topic Area 2: Rules
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the explanation of *rules*.
- 第 4 回 Topic Area 3: Experiences
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the relating and sharing of *experiences*.
- 第 5 回 Topic Area 4: Opinions
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the sharing and understanding of *opinions*.
- 第 6 回 Topic Area 5: Recommendations
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the asking and giving of *recommendations*.
- 第 7 回 Topic Area 6: Reported Speech
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and the identifying of *reported speech*.
- 第 8 回 Topic Area 7: Questions
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to *questioning*.
- 第 9 回 Topic Area 8: Dates & Times
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and the identification through context of specific *dates and times*.
- 第 10 回 Topic Area 9: Solutions to Problems
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and

pragmatic elements related to suggesting *solutions to problems*.

第 11 回 Topic Area 10: Complaints
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to *complaints*.

第 12 回 Topic Area 11: Recent Events
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and the understanding of multiple perspectives on *recent domestic events*.

第 13 回 Topic Area 12: Global Events
Amongst other tasks, students will engage in long-listening activities with a focus on content and the understanding of multiple perspectives on *recent international/global events*.

第 14 回 Topic Area 13: Preparing for Final Listening Quiz
Based upon prior listening tasks, students will be required to prepare their own listening activity to present to classmates as a final project.

第 15 回 Final Listening Quiz, Reflection on Course and Feedback
Students will share their self-prepared listening activities, and engage in their classmates'. Reflection for the semester will also be conducted.

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This course will be conducted mostly in English. Each class will include at least one long-listening activity related to the topic, as well as related short-listening or speaking activities. Activities will be done individually, in pairs or in small groups.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to come to class with any homework completed, note-taking materials, and any other material that the teacher may have given to the students.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Participation: 40%

Listening Comprehension Tasks: 40%

Final Listening Task: 20%

[留意事項 (Other Information)]

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No text required. Students will be provided with materials in class.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Listening II B

EGB2352B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course is a continuation of Advanced Listening I. This term, students will continue developing their oral communication skills. Listening and understanding the naturally spoken English of the teacher and peers is the main goal. We will practice listening for gist and details. We will study characteristics of spoken English such as 'linking sounds', 'weak vowels', 'sentence stress' and 'blended sounds'. An awareness of these features of spoken English will help students tackle authentic listening tasks outside of the classroom. The students will continue keeping a listening journal, documenting their progress, weaknesses and strengths of their listening skill.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

By the end of this course, students will:

- 1) more successfully communicate meaning to their peers
- 2) have practiced and improved their understanding of naturally spoken English
- 3) have an understanding of the features of naturally spoken English
- 4) be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Can achieve a score of 250 in the TOEIC Listening Section.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Interaction / Pragmatic awareness: Is able to employ back-channeling, questioning for information/clarification to an interlocutor. Understands nuance and intent behind speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/ conclusions/ hypothesis about meaning not explicitly stated.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome back from summer vacation!
 - 第 2 回 Unit 8: I liked science in school
Listening activities/ blended sounds
 - 第 3 回 Unit 8: I liked science in school
Speaking activities/ personalization
 - 第 4 回 Unit 9: It's easy to make!
Listening activities/ weak vowels
 - 第 5 回 Unit 9: It's easy to make!
Speaking activities/ personalization
 - 第 6 回 Unit 10: What are you doing?
Listening activities/ sentence stress
 - 第 7 回 Unit 10: What are you doing?
Speaking activities/ personalization
 - 第 8 回 Unit 11: What are you going to do?
Listening activities/ casual English: gonna
 - 第 9 回 Unit 11: What are you going to do?
Speaking activities/ personalization
 - 第 10 回 Unit 12: It's red in the middle
Listening activities/ sentence stress
 - 第 11 回 Unit 12: It's red in the middle
Speaking activities/ personalization
 - 第 12 回 Unit 13: How long is it?
Listening activities/ understanding tone groups
 - 第 13 回 Unit 13: How long is it?
Speaking activities/ personalization
 - 第 14 回 Supplementary activities
 - 第 15 回 Final reflections on learning
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and

show effort, and complete the assigned homework. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to actively participate every class period AND diligently practice and reflect on their listening experiences outside of class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%

Listening Journal: 30%

Quizzes: 10%

Speaking and writing tasks: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

Important: If you are also taking Advanced Speaking B I/II, we will also be using this textbook so there is no need to buy a second copy.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Communication Spotlight (High Beginner) / Graham-Marr, A. / Abax ELT Publishers / ISBN 978-1-78547-029-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening II A・E

EGB2352A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

水曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course develops listening skills building on the foundations of Listening I/II. The goal is for students to develop the skills needed to comprehend spoken English. The course uses natural-sounding recordings that reflect everyday situations that students may encounter both in Japan and abroad.

The course provides good preparation for future TOEIC tests and for students who will study abroad using English.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Develop the skills needed to comprehend a variety of spoken English of different styles.

Improve the recognition and understanding of spoken words and phrases (including vocabulary already known from previous study).

Listen to English with increasingly difficult speeds, pronunciations, and vocabulary.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
<p>言語力:1) Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section; 2) Interaction / Pragmatic awareness: Is able to use back-channeling and questioning for information/ clarification. Understands nuance and intent behind speech; 3) Fluency: Is able to understand enough information to summarize a short passage after listening once; 4) Pronunciation:</p>	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

<p>ion: Is able to understand a variety of English pronunciation; 5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress have an impact on meaning. Understands how elision works in natural English; 6) Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/ conclusions/ hypothesis about meaning not explicitly stated.</p>				
--	--	--	--	--

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction: Advanced Listening in English
- 第 2 回 Determining your Listening Level
TOPIC Women as Leaders: Antifragility - An Introduction
- 第 3 回 Identifying Listening Strategies
TOPIC Beauty: Fashion, Ageing
- 第 4 回 Listening for the main idea
Students listen to identify the overall ideas expressed in the whole recording.

TOPIC Food: Dieting, Fasting, Medicine
- 第 5 回 Listening for details

Students listen for groups of words and phrases at sentence level.

TOPIC Exercise: Weights, Running

第 6 回 Presentations, Discussion

第 7 回 Listening for specific information

Students listen for particular information at word level.

TOPIC Relaxation: Sleep, Mindset

第 8 回 Predicting

Students try to guess key information contained in the recording before they listen.

TOPICS Security, Resources: Minimalism +, Stocks vs Bonds/Cash

第 9 回 Recognising a Speaker's Tone or Accent

TOPIC Entertainment: Information Diet

第 10 回 Recognizing Signposts and Transition Words

TOPIC Education: Lifelong learning, Intelligence, Language

第 11 回 Presentations, Discussion

第 12 回 Inferring meaning

Students listen to identify the difference between what the speaker says and what they actually mean.

TOPIC Relationships: Honesty, Criticism, Partners

第 13 回 Identifying emotion

Students listen to identify the mood of certain speakers.

TOPIC Work: Lifetime employment, Streisand Effect, doctor vs taxi driver

第 14 回 Presentations, Discussion

第 15 回 Feedback, Course Review

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of group discussions, assignments, tests, and other work both in-class and as homework.

Students actively listen to English using a variety of activities.

Students listen to conversations, interviews, songs, video clips, and other authentic audio. Students listen to English from native English-speaking countries particularly the UK and the US, as well as from non-native countries including those near Japan.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in

small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, quizzes, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments 50%

Tests 50%

[留意事項 (Other Information)]

Students must wear a mask in class and follow the coronavirus guidelines recommended by the university.

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

There is no textbook required for this course.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

www.lyledesouza.com/teaching

http://elllo.org

https://lyricstraining.com/

https://www.newsinlevels.com/

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Listening II D

EGB2352D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

[科目の教育目標 (Course Description)]

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to listen and understand a variety of topics in English with confidence.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives. Students will be expected to listening to and express their thoughts and opinions about content in English.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can achieve a score of 250 in the TOEIC Listening Section.	>200	200~250	250~300	300+
Interaction /Pragmatic awareness/Critical listening	Does not meet course expectations yet	Is able to employ backchanneling, questioning for clarification	Is able to ask questions for clarification in complicated texts	Understands rhetoricCan explain how specific texts convey certain stances on issues

Fluency	Does not meet course expectations yet	Can summarize longer passages after listening several times	Can summarize longer passages after listening twice	Can summarize longer passages after listening once
Pronunciation	Does not meet course expectations yet	Is able to understand a variety of English pronunciation	Beginning to develop skills to understand unknown pronunciation through context	Demonstrates clear strategies for engaging with difficult speech
Prosody	Does not meet course expectations yet	Understands how intonation, tone and word stress correlate with different meaning	Understands how elision works in English and is able to discern individual words in natural speech	Is able to elaborate on how prosody changes meaning in specific texts
Understanding complex texts	Does not meet course expectations yet	Is able form hypotheses about meaning not explicitly state	Is able to provide reasons for hypotheses	Can identify evidence to support hypotheses

[授業計画]

第 1 回 Orientation

Introduction and Explanation of the Advanced Listening II D Course with Requirements and Expectations.

第 2 回 Topic Area 1: Pet Peeves

Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the expression of *pet peeves*.

第 3 回 Topic Area 2: Invitations

Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to *invitations*.

第 4 回 Topic Area 3: Conflicting Opinions

Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the expression of *conflicting opinions*.

第 5 回 Topic Area 4: Reasons

- Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the giving of *reasons* and the construction of verbal arguments.
- 第 6 回 Topic Area 5: Strengths and Weaknesses
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the expression of and reflection on *strengths and weaknesses*.
- 第 7 回 Topic Area 6: Regrets
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the sharing of *regrets*.
- 第 8 回 Topic Area 7: Questions
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the effective use of *questions*.
- 第 9 回 Topic Area 8: Advice
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the effective giving of *advice*.
- 第 10 回 Topic Area 9: Plans
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the formulation and sharing of *plans*.
- 第 11 回 Topic Area 10: Bad News
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements related to the breaking of *bad news*.
- 第 12 回 Topic Area 11: Recent Events (News)
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and context surrounding *recent news events*.
- 第 13 回 Topic Area 12: Short Lecture
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on critically listening to the content of a *short lecture*.
- 第 14 回 Topic Area 13: Preparing for Final Listening Quiz
Based upon prior listening tasks, students will be required to prepare their own listening activity to present to classmates as a final project.
- 第 15 回 Final Listening Quiz, Reflection on Course and Feedback
Students will share their self-prepared listening activities, and engage in their classmates'. Reflection for the semester will also be conducted.
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Each class will include at least one long-listening activity related to the topic, as well as related short-listening or speaking activities. Activities will be done individually, in pairs or in small groups.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with any homework completed, note-taking materials, and any other material that the teacher may have given to the students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 40%

Listening Comprehension Tasks: 40%

Final Listening Task: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading I A

EGB2300A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is on the development of English reading skills. The main goal is for students to improve their reading comprehension and vocabulary skills through intensive and extensive reading activities. Students will also

acquire critical reading skills and the ability to express their views on various topics through discussion, presentation, and writing tasks.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

授業の概要

The course begins with an overview of reading skills and the differences between intensive and extensive reading. Students will have the opportunity to reflect on their own reading habits in relation to the goals of the course and consider their individual strengths and weaknesses.

Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy.

Activities will include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and exercises in identifying main ideas and their supporting details.

Students will also discuss and present their own ideas in order to explore a critical analysis of the readings.

In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary through a variety of lexical analysis activities.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力: See multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 CLASSROOM
Intensive Reading vs Extensive Reading; Self-Reflection on Reading Habits
- 第 2 回 CLASSROOM
Identifying Main Ideas and Supporting Points
- 第 3 回 CLASSROOM

- Scanning for Details
- 第 4 回 CLASSROOM
Summarizing and Paraphrasing
- 第 5 回 CLASSROOM
Using Background Knowledge to Make Predictions
- 第 6 回 CLASSROOM
Previewing by Skimming and Scanning
- 第 7 回 CLASSROOM
Using Headings to Understand Main Ideas
- 第 8 回 CLASSROOM
Distinguishing Facts and Opinions
- 第 9 回 CLASSROOM
Scanning for Patterns of Organization
- 第 10 回 CLASSROOM
Making Inferences
- 第 11 回 CLASSROOM
Interpreting Graphs, Tables, and Charts
- 第 12 回 CLASSROOM
Recognizing a Sequence of Events
- 第 13 回 CLASSROOM
Identifying Comparison-Contrast Organization
- 第 14 回 CLASSROOM
Distinguishing Problem-Solution from Comparison-Contrast
- 第 15 回 CLASSROOM
Understanding Cause and Effect

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

Students will also do extensive reading outside of class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website and/or submitting book reports.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide answers to all reading comprehension questions so that students may check their own work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Reading Activities 40%

Written Work 20%

Vocabulary Quizzes 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes) 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading I B

EGB2300B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course builds on the foundations provided by Reading I/II to develop English reading skills.

The course is good preparation for the junior class 'Academic Reading', future TOEIC tests, and for students who want to study abroad.

Students learn to read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Students learn high frequency vocabulary and improve their reading fluency using extensive reading. Students should aim to read quickly but thoroughly.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Acquire mastery of high frequency vocabulary.

Improve reading fluency and comprehension using online extensive reading software. Students read a variety of reading materials, often the student's own choice. Students are encouraged to push themselves slightly further each week with the length and difficulty of these reading materials.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 (1) Can read over 150 WPM	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 (2) Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 (3) Can score TOEIC 250 in Reading	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 (4) Can begin to notice rhetorical devices	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 (5) Can distinguish elements of various genres	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 (6) Can process and understand some academic discourse	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Course
Student self-introductions
Course Introduction
- 第 2 回 Unit 1: Symbols
Reading 1: Color Me Pink
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 3 回 Unit 1: Symbols
Reading 1: Color Me Pink
Discussion, critical thinking
- 第 4 回 Unit 1: Symbols
Reading 2: And the Lucky Number Is...
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 5 回 Unit 1: Symbols
Reading 2: And the Lucky Number Is...
Discussion, critical thinking

- 第 6 回 Unit 2: Customs
Reading 1: Thanksgiving Hawaiian Style
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 7 回 Unit 2: Customs
Reading 1: Thanksgiving Hawaiian Style
Discussion, critical thinking
- 第 8 回 Unit 3: Mind and Body
Reading 1: Personality Revealed
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 9 回 Unit 3: Mind and Body
Reading 1: Personality Revealed
Discussion, critical thinking
- 第 10 回 Unit 3: Mind and Body
Reading 2: Pets to the Rescue
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 11 回 Unit 3: Mind and Body
Reading 2: Pets to the Rescue
Discussion, critical thinking
- 第 12 回 Unit 4: People Making a Difference
Reading 1: Saving Africa's Largest Animals
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 13 回 Unit 4: People Making a Difference
Reading 1: Saving Africa's Largest Animals
Discussion, critical thinking
- 第 14 回 Unit 4: People Making a Difference
Reading 2: Educating Kenya's Girls
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 15 回 Unit 4: People Making a Difference
Reading 2: Educating Kenya's Girls
Discussion, critical thinking
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The course is conducted entirely in English.

Students actively read English using a variety of exercises, assignments, quizzes, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, quizzes, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and tests 80%

Extensive reading quizzes 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Weaving it Together 3, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 9.781305251663E12

This textbook is also used in Advanced Writing I/II.

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

www.lyledesouza.com/teaching

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading I C

EGB2300C0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 2単位 前期
 火曜2限
 DP3：言語力
 60
 必修 クラス指定
 Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is on the development of general English reading and critical thinking skills. With a textbook, through study of various themes related to East Asia, students will learn more about their region of the world and explore the uniqueness of its countries. Students will also improve their reading comprehension through a variety of intensive textbook activities. Furthermore, students will also begin developing a daily/weekly reading habit through extensive reading. Students will read books they choose themselves that coincide with their reading level. This type of book, called a 'graded reader' is made for English language learners and can be found in the university library. After reading, students will take comprehension quizzes using the web application, M-Reader. Finally, students will also develop and hone their ability to express their views on various topics found in the text/ graded readers while conversing with classmates in small group discussions.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will:

- 1) Be able to identify the main idea of a passage
- 2) Be able to identify support for the main idea
- 3) Be able to distinguish between fact and opinion
- 4) Understand the difference between informing and persuading
- 5) Have begun to develop a reading habit through extensive reading
- 6) Be able to reflect on learning, identify successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can read over 150 WPM	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

2) Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can score TOEIC 250 in Reading	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can begin to notice rhetorical devices	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can distinguish elements of various genres	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can process and understand some academic discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
- 第 2 回 Unit 1: Travel (Sri Lanka)
 Critical reading: Identifying support
 Critical thinking: Fact vs opinion
- 第 3 回 Unit 1: Travel (Cebu, Philippines)
 Critical reading: Finding the main idea
 Critical thinking: Writer purpose
- 第 4 回 Unit 1: Personalization
- 第 5 回 Unit 2: Values (Family values)
 Critical reading: Identifying support
 Critical thinking: Evidence
- 第 6 回 Unit 2: Values (Universal values)
 Critical reading: Identifying support
 Critical thinking: Writer purpose
- 第 7 回 Unit 2: Personalization
- 第 8 回 Unit 3: Environment (Fish farming)
 Critical reading: Supporting evidence
 Critical thinking: Explanations
- 第 9 回 Unit 3: Environment (Bluefin tuna)
 Critical reading: Cause and effect
 Critical thinking: Inform vs persuade
- 第 10 回 Unit 3: Personalization

- 第 11 回 Unit 4: Urban life (Young generation in Asia)
Critical reading: Examples and illustrations
Critical thinking: Fact vs opinion
- 第 12 回 Unit 4: Urban life (The global generation)
Critical reading: Finding the main idea
Critical thinking: Writer purpose
- 第 13 回 Unit 4: Personalization
- 第 14 回 Reading circles
- 第 15 回 Reading Circles/ Reflection on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted in English. Most assignments will be posted and collected from students using the university learning management system, Manaba. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for every class by reading and doing homework assignments.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active Participation: 30%

Homework: 20%

M-Reader: 20%

Speaking tasks (Informal presentations, Reading Circles etc.): 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Asian Issues 2/ Graham-Marr, A./ ABAX ELT Publishing/ 2018/ 978-1-78547-017-2

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading I D

EGB2300D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

火曜2限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

尾崎 裕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

『十二夜』や『黒馬物語』など、有名な文学作品を易しい英語で書き直したストーリーを読みながら、英文を正確かつスムーズに読む力を習得することを目指す。また、1年次に引き続き語彙力の強化も目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①英語の基本的な語彙や、文法・語法に関する知識を身につける。

②文の構造を理解し、早く正確に英文を読むことができる。

③登場人物の気持ちを英文から正確に読み取り、自分のことばで説明することができる。

④日頃から英書を読む習慣を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業の準備をしない	指示された範囲のみ準備をする	指定された範囲外であっても下調べをする	調べた中でわからなかったことを積極的に質問する
知識・理解力	何事にも興味を持たない	関心のあるトピックなら聞く耳をもつ	関心の薄いトピックでも聞く耳をもつ	自ら調べる
言語力	初級レベルの単語・文法が理解できない	初級レベルの単語・文法なら理解できる	準中級レベルの単語・文法を理解できる	中級以上の単語・文法を習得しようとする意欲がある
思考・解決力	まったくの受け身である	促されれば、問いを解決しようと努める	興味のあることを手がかりにして、自ら模索する	興味を広げて学ぶ
共生・協働する力	消極的である	活動の輪に加わりとう何らかの努力をする	協力して結果を出す喜びを知る	さらに飛躍する努力を惜しまない

創造・発信力	消極的である	嫌々でも伝えようと努力をする	自分の考えを他人に伝える喜びを知る	能動的かつ効果的に発信できる
--------	--------	----------------	-------------------	----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
 - ・授業の概要、評価方法、予習・復習の仕方などの説明
 - ・ Extensive Reading課題に関する説明
 - ・辞書の引き方について
- 第 2 回 Unit 3: Black Beauty
親友ジンジャーとの出会い、ビューティーの活躍
- 第 3 回 Unit 4: Black Beauty
ジンジャーとの別れ、ビューティーの受難
- 第 4 回 Unit 5: Twelfth Night
三角関係のはじまり
- 第 5 回 Unit 6: Twelfth Night
こじれる恋模様とアンドリュー卿との決闘
- 第 6 回 Unit 7: Twelfth Night
双子の再会とそれぞれの恋の結実
- 第 7 回 まとめテスト&解説
Unit 3 からUnit 7 のおさらい
- 第 8 回 Unit 8: The Three Musketeers
パリのダルタニアン、三銃士との出会い
- 第 9 回 Unit 9: The Three Musketeers
リシュリユ枢機卿のたくらみ
- 第 10 回 Unit 10: The Three Musketeers
王妃を救うダルタニアン、四銃士の誕生
- 第 11 回 Unit 11: A Connecticut Yankee in King Arthur's Court
アーサー王宮廷へのタイムスリップ
- 第 12 回 Unit 12: A Connecticut Yankee in King Arthur's Court
大魔術師への出世、サンディとの冒険
- 第 13 回 Unit 13: A Connecticut Yankee in King Arthur's Court
奴隷になったアーサー王と「私」
- 第 14 回 Unit 14: A Connecticut Yankee in King Arthur's Court
アーサー王の救出、キャメロットの滅亡
- 第 15 回 まとめテスト&解説
Unit 8 からUnit 14 のおさらい

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書の物語内で用いられている重要な英語表現を確認し、本文に関する様々なタスクをこなすことで内容の理解を深める。また、ペアやグループで疑問点を話し合う機会を適宜設ける。

なお、受講生は授業時間外において継続的に英書を読むことが求められる。一冊読み終えるごとにM-Readerのサイト

(下記の参考URL) にアクセスして、本の内容に関するクイズを受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書の指定の範囲の予習をしてきてください。また、ほぼ毎週、各Unitの単語クイズと復習課題をmanabaで出す予定なので、必ず期限内に提出してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内での取り組みの積極性、予習・復習の度合い: 20%

まとめテスト (2回) : 30%

単語クイズ : 30%

Extensive Readingの達成度 : 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進度や扱うUnitはクラスの状態に応じて変更になる可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Story Box: Gifts from Great Tellers』 / Atsuko Uemura / Cengage Learning / 2013 / ISBN: 978-1-2851-9748-7/ 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

M-Reader website

<https://mreader.org/index.php>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading II B

EGB2350B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course builds on the foundations provided by Reading I/II to develop English reading skills.

The course is good preparation for the junior class 'Academic Reading', future TOEIC tests, and for students who want to study abroad.

Students learn to read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Students learn high frequency vocabulary and improve their

reading fluency using extensive reading. Students should aim to read quickly but thoroughly.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Acquire mastery of high frequency vocabulary.

Improve reading fluency and comprehension using online extensive reading software. Students read a variety of reading materials, often the student's own choice. Students are encouraged to push themselves slightly further each week with the length and difficulty of these reading materials.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 1) Can read over 150 WPM	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 2) Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 3) Can score TOEIC 250 in Reading	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 4) Can begin to notice rhetorical devices	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 5) Can distinguish elements of various genres	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 6) Can process and understand some academic discourse	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

第 1 回 Unit 5: Food

Reading 1: Sushi Crosses the Pacific
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 2 回 Unit 5: Food

Reading 1: Sushi Crosses the Pacific
Discussion, critical thinking

第 3 回 Unit 5: Food

Reading 2: What's for Breakfast?
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 4 回 Unit 5: Food

Reading 2: What's for Breakfast?
Discussion, critical thinking

第 5 回 Unit 6: Language

Reading 1: Keeping It Secret
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 6 回 Unit 6: Language

Reading 1: Keeping It Secret
Discussion, critical thinking

第 7 回 Unit 6: Language

Reading 2: English Around the World
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 8 回 Unit 6: Language

Reading 2: English Around the World
Discussion, critical thinking

第 9 回 Unit 7: Environment

Reading 1: Behind Bars at the Zoo
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 10 回 Unit 7: Environment

Reading 1: Behind Bars at the Zoo
Discussion, critical thinking

第 11 回 Unit 7: Environment

Reading 2: Crops, Codes, and Controversy
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 12 回 Unit 7: Environment

Reading 2: Crops, Codes, and Controversy
Discussion, critical thinking

第 13 回 Unit 8: Readings from Literature

Reading 1: The Road Not Taken
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 14 回 Unit 8: Readings from Literature

Reading 1: The Road Not Taken
Discussion, critical thinking

第 15 回 Unit 8: Readings from Literature

Reading 2: The Story of the Mouse Merchant
Pre-reading, vocabulary, comprehension
Discussion, critical thinking

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students actively read English using a variety of exercises, assignments, quizzes, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, quizzes, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments and quizzes 80%

Extensive reading quizzes 20%

[留意事項 (Other Information)]

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Weaving it Together 3, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 9.781305251663E12

This textbook is also used in Advanced Writing I/II.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

www.lyledesouza.com/teaching

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Reading II C

EGB2350C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Gretchen Clark

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course is a continuation of Advanced Reading I. The aim of this course is for students to continue developing the skills and strategies that are involved in the reading process through engagement with several types of text.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

By the end of the course, students will:

- 1) Be able to identify the main idea of a passage
- 2) Be able to identify support for the main idea
- 3) Be able to distinguish between fact and opinion
- 4) Understand the difference between informing and persuading
- 5) Have begun to develop a reading habit through extensive reading
- 6) Be able to reflect on learning, identify successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can read over 150 WPM	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can score TOEIC 250 in Reading	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can begin to notice rhetorical devices	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can distinguish elements of various genres	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can process and understand some academic discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
- 第 2 回 Unit 5: Business (Sporting events 1)
Critical reading: Guessing meaning
Critical thinking: Reasons and results
- 第 3 回 Unit 5: Business (Sporting events 2)
Critical reading: Finding the main idea
Critical thinking: Writer purpose
- 第 4 回 Unit 5: Personalization
- 第 5 回 Reading circles
- 第 6 回 Unit 6: Food (Globalization in food)
Critical reading: Identifying support
Critical thinking: Emotive words
- 第 7 回 Unit 5: Food (Americanization of food)
Critical reading: Supporting evidence
Critical thinking: Generalizing
- 第 8 回 Unit 6: Personalization
- 第 9 回 Reading Circles
- 第 10 回 Unit 7: Entertainment (Internet piracy)
Critical reading: Building and argument
Critical thinking: Correlation
- 第 11 回 Unit 7: Entertainment (Internet sharing)

Critical reading: Building an argument

Critical thinking: Fact vs opinion

第 12 回 Unit 7: Personalization

第 13 回 Reading Circles

第 14 回 Oral Book report

第 15 回 Reflection on learning

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted in English. Most assignments will be posted and collected from students using the university learning management system, Manaba. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for every class by reading and doing homework assignments.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%

Homework: 20%

M-Reader: 20%

Speaking tasks (Informal presentations, Reading Circles etc.): 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Asian Issues 2/ Graham-Marr, A./ ABAX ELT Publishing/ 2018/ 978-1-78547-017-2

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading II A・E

EGB2350A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The focus of this course is on the continued development of English reading skills. The main goal is for students to

improve their reading comprehension and vocabulary skills through intensive and extensive reading activities. Students will also acquire critical reading skills and the ability to express their views on various topics through discussion, presentation, and writing tasks. This course will also help students prepare for study abroad through immersion in the cultures and current events of their chosen destination countries.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

授業の概要

The course begins with a review of reading skills and the differences between intensive and extensive reading. Students will have the opportunity to reflect on their own reading habits in relation to the goals of the course and consider their individual strengths and weaknesses.

Activities will include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and exercises in identifying main ideas and their supporting details.

Students will also discuss and present their own ideas in order to explore a critical analysis of the readings.

In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary through a variety of lexical analysis activities.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

言語力 Advanced Reading Expectations: 1) Can read over 150 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 250 in Reading; 4) Can begin to notice rhetorical devices; 5) Can distinguish elements of various genres; 6) Can process and understand some academic discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
---	---------------------------------------	--------------------------------	---	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Review of Basic Reading Skills; Self-Reflection on Reading Habits
- 第 2 回 Topic Sentences and Main Ideas
- 第 3 回 Identifying Arguments and Opinions
- 第 4 回 Finding Synonyms to Identify Repeated Ideas
- 第 5 回 Identifying Examples, Reasons, and Explanations
- 第 6 回 Recognizing Signposting to Understand Text Organization
- 第 7 回 Identifying Primary and Secondary Research
- 第 8 回 Using Pronoun Reference to Understand Text Organization
- 第 9 回 Identifying Tone to Understand an Author's Opinion
- 第 10 回 Deducing the Meaning of New Words from Context
- 第 11 回 Identifying Definitions in Texts
- 第 12 回 Distinguishing Facts from Assumptions
- 第 13 回 Scanning Texts for Specific Examples
- 第 14 回 Note Taking in Your Own Words
- 第 15 回 Forming Research Questions

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

Students will also do extensive reading outside of class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes and/or submitting book reports.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide answers to all reading comprehension questions so that students may check their own work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Reading Activities 40%

Written Work 20%

Vocabulary Quizzes 20%

Extensive Reading 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Reading II D

EGB2350D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

尾崎 裕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

イギリスの生活や文化に関する短い英文エッセイを読みながら、正確かつスムーズに内容を把握する力を習得することを目指す。また、1年次に引き続き語彙力の強化も目標とする。

とを目指す。また、1年次に引き続き語彙力の強化も目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①英語の基本的な語彙や、文法・語法に関する知識を身につける。

②文の構造を理解し、早く正確に英文を読むことができる。

③日本語訳に頼ることなく英文を読み通し、その大意を把握することができる。

④日頃から英書を読む習慣を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業の準備をしない	指示された範囲のみ準備をする	指定された範囲外であっても下調べをする	調べた中でわからなかったことを積極的に質問する
知識・理解力	何事にも興味を持たない	関心のあるトピックなら聞く耳をもつ	関心の薄いトピックでも聞く耳をもつ	自ら調べる
言語力	初級レベルの単語・文法が理解できない	初級レベルの単語・文法なら理解できる	準中級レベルの単語・文法を理解できる	中級以上の単語・文法を習得しようとする意欲がある
思考・解決力	まったくの受け身である	促されれば、問いを解決しようと努める	興味のあることを手がかりにして、自ら模索する	興味を広げて学ぶ
共生・協働する力	消極的である	活動の輪に加わろうと何らかの努力をする	協力して結果を出す喜びを知る	さらに飛躍する努力を惜しまない
創造・発信力	消極的である	嫌々でも伝えようと努力をする	自分の考えを他人に伝える喜びを知る	能動的かつ効果的に発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
授業の概要や進め方、評価方法などの説明
- 第 2 回 Day 1
I Can't Wait to Explore Britain
- 第 3 回 Day 2
How about Going to a Pub?
- 第 4 回 Day 3
The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?
- 第 5 回 Day 4
What Do You Suggest We Do Today?
- 第 6 回 Day 5
This is a Multi-Ethnic Country
- 第 7 回 Day 6

- What's It Like Being a Student in the UK?
- 第 8 回 復習テスト&解説
- 第 9 回 Day 7
Mmm... It Sounds Too Risky
- 第 10 回 Day 8
You Should Try Fish and Chips
- 第 11 回 Day 9
It's Fun Listening to Different Accents
- 第 12 回 Day 10
Do You Fancy Something Sweet?
- 第 13 回 Day 11
I Guess I Should Have a Black-Cab Experience
- 第 14 回 Day 12
I'm Looking Forward to Seeing Wales
- 第 15 回 復習テスト&解説
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書のエッセイ内で用いられている重要な英語表現を確認し、本文に関する様々なタスクをこなすことで内容の理解を深める。

なお、受講生は授業時間外において継続的に英書を読むことが求められる。一冊読み終えるごとにM-Readerのサイト(下記の参考URL)にアクセスして、本の内容に関するクイズを受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ほぼ毎回の授業で単語クイズをおこなう予定ですので、テキストの Useful Vocabulary に出てくる語を学習してきてください。

指定された範囲の予習をしてきてください。詳しくは開講時にお知らせします。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内での取り組みの積極性: 10%

復習テスト (2回) : 40%

単語クイズ : 30%

Extensive Readingの達成度 : 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

必ず辞書を持参してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Let's Check Out the UK!』 Paul Chris McVay 他、金星堂、2015年 (ISBN:978-4-7647-4000-6) 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

M-Reader website

<https://mreader.org/index.php>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking I A

EGB2303A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve both academic and general English speaking skills in order to prepare students for a successful study abroad experience.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Improvements in Academic English Speaking by increasing productive vocabulary, understanding the difference between passive and active vocabulary, making academic presentations, speaking logically, asking better questions, using set academic phrases.

(2) Improvements in General English Speaking by gaining some confidence from practicing a wide range of functions: giving & asking for an opinion, agreeing & disagreeing, explaining, interrupting, complaining, describing, giving & asking for advice, etc.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Prosody: Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.; 2) Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (90 wpm+); 3) Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

s + goals; 4) Pragmatics : Has an awareness of appropriate language to use in a specific context.; 5) Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/Quizlet Set 43); 6) Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)					
---	--	--	--	--	--

第 11 回 **CLASSROOM**
 Interviewing Others for Preferences

第 12 回 **CLASSROOM**
 Describing Personality Types

第 13 回 **CLASSROOM**
 Interviewing for a Job

第 14 回 **CLASSROOM**
 Discussing the Future

第 15 回 **CLASSROOM**
 Individual Presentations and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない
 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
 Students will be given a great number of speaking opportunities with the aim of these experiences leading to increased speaking confidence: pair work, small group work, speech test (Midterm), asking questions, asking follow-up questions, sharing opinions in class presentation (Final), etc.
 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 Students are expected to participate actively in class. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
 15
 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
 Class participation and Homework 40%
 In class Tests 30%
 Final Presentation 30%
 〔留意事項 (Other Information)〕
 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
 Google Search, Improving English Language Speaking
 For example,
<https://www.fluentu.com/blog/english/how-to-improve-spoken-english/>
 〔参考URL(URL for Reference) 〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 **CLASSROOM**
 Introducing a Speaking Course
- 第 2 回 **CLASSROOM**
 Determining your Speaking Level
- 第 3 回 **CLASSROOM**
 Identifying Speaking Strategies
- 第 4 回 **CLASSROOM**
 Describing Experiences in the Past
- 第 5 回 **CLASSROOM**
 Agreeing & Disagreeing
- 第 6 回 **CLASSROOM**
 Making Suggestions
- 第 7 回 **CLASSROOM**
 Asking for Recommendations
- 第 8 回 **CLASSROOM**
 Speech Test and Feedback (Midterm)
- 第 9 回 **CLASSROOM**
 Interrupting & Asking for Clarity
- 第 10 回 **CLASSROOM**
 Giving & Asking for Opinions

Advanced Speaking I B

EGB2303B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will continue to develop their oral English communication skills. Students will have lots of opportunities to speak both with each other and also with the teacher. The course will focus mainly on fluency, but students will also practice pronunciation, intonation and rhythm through conversations and discussions about not only everyday topics but also current social issues introduced in the text. Main assessed speaking tasks include role plays, in-class recordings, and a final interview. Students will practice communicating in English in a fun and lively classroom environment where making an effort is important. Enthusiasm in the classroom helps build confidence which is the foundation of successful communication. Let's do our best and have a great term!

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) Feel comfortable discussing both everyday topics AND current social issues in the textbook
- 2) Have an awareness of conversational and discussion strategies and useful phrases
- 3) Be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 4) Be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Prosody: Produces utterances that reflect knowledge of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (100 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pragmatics: Has an awareness of appropriate language to use in a specific context.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/ Quizlet Set 96)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome to Advanced English II!
Course introduction (Community building activities)
- 第 2 回 Community building activities
- 第 3 回 Unit 1: I like action movies
Listening activities/ sentence stress
- 第 4 回 Unit 1: I like action movies

Speaking activities/ personalization
 第 5 回 Unit 2: How much is that?
 Listening activities/ weak vowels
 第 6 回 Unit 2: How much is that?
 Speaking activities/ personalization
 第 7 回 Unit 3: Is that your cousin?
 Listening activities/ sentence stress
 第 8 回 Unit 3: Is that your cousin?
 Speaking activities/ personalization
 第 9 回 Unit 4: How was your weekend?
 Listening activities/ disappearing sounds
 第 10 回 Unit 4: How was your weekend?
 Speaking activities/ personalization
 第 11 回 Unit 5: What do you do?
 Listening activities/ sentence stress
 第 12 回 Unit 5: What do you do?
 Speaking activities/ personalization
 第 13 回 Supplementary activities
 Pragmatics 1: contextual issues
 第 14 回 Supplementary activities
 Pragmatics 2: speaker-speaker social distance
 第 15 回 Final reflection on learning
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to prepare for their in-class speaking experiences by completing any homework.
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 15
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 Active Participation: 30%
 Recordings: 20%
 Role plays: 20%
 Interview test: 15%
 Other speaking and writing activities: 15%
 [留意事項 (Other Information)]
 The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.
 Important: If you are also taking Advanced Listening B I/II, we will also be using this textbook so there is no need to buy a second copy.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 Communication Spotlight (High Beginner) / Graham-Marr, A. / Abax ELT Publishers / ISBN 978-1-78547-029-5
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Speaking I C

EGB2303C0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 1単位 前期
 月曜1限
 DP3 : 言語力
 15
 必修 クラス指定
 Rebecca Paterson

[科目の教育目標 (Course Description)]

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation, and topics will be relevant to university students in the global era.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use both in their daily lives and in discussing slightly more complex issues. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Clarity of voice	When I am speaking my voice is very quiet and it is difficult for others to hear and understand me.	Sometimes my voice and pronunciation are clear but sometimes I begin to speak quietly and rely on Japanese-	The teacher and my peers have no problem hearing my voice but sometimes they cannot understand some words.	I can speak in a clear voice with excellent rhythm and articulation so that my peers and instructor have no problem with

		style pronunciation.		understanding me.
Content	I usually only give one word answers without any elaboration.	I speak simply and give typical answers with very little elaboration.	I try to add interesting content to my sentences but only if the instructor asks.	I am able to produce longer and more complex sentences. The content of my sentences is interesting and thought provoking.
Grammatical accuracy	My sentences are often difficult to understand as if I'm translating directly from Japanese.	The instructor and my peers can understand my sentences but with some difficulty.	The instructor and my peers can understand what I want to say regardless of any grammatical errors.	When I speak my sentence structure is clear and appropriate. There is little ambiguity in what I want to say.
Fluency	I speak in English but I have to pause between nearly every word so that I can think of the next one.	I can speak fluidly in phrases but between each phrase I have to stop to think. I require notes	I can speak in sentences but I require notes or pre-written sentences to help me.	I speak at a natural pace and only pause when it is appropriate to do so. I can do this without relying too much on notes
Participation	I attend the classes but I do not actively answer questions or participate proactively in group activities.	I attend classes and respond to the teacher when asked.	I attend the classes and spontaneously respond to the teacher during small group activities and sometimes in whole class activities.	In every class I play an active role by answering the teacher's questions and/or by engaging with and sometimes helping in group activities.

Logical flow	I respond with either yes or no most of the time.	I respond in one sentence. It is clear what I want to say but I don't give reasons or examples.	I present my main idea clearly and I also provide at least one reason for my opinion or idea.	When I speak in English I clearly state my idea, the reasons for why I think so and provide examples to back up or clarify my thoughts.
---------------------	---	---	---	---

【授業計画】

第 1 回 Introduction and Explanation of the Advanced Speaking I Course with Requirements and Expectations.

第 2 回 Talking about myself: Lifestyle and hobbies

第 3 回 Talking about my recent experiences: spring vacation

第 4 回 Talking about my past experiences: last year and beyond

第 5 回 Conversation skills: Strategies for good communication

第 6 回 Food culture in Japan and abroad

第 7 回 Fashion around the world

第 8 回 Thinking about health

第 9 回 Revising good questions

第 10 回 Making longer sentences when speaking

第 11 回 How to make a good impression

第 12 回 Organising my presentation ideas

第 13 回 Creating my presentation

第 14 回 Revising and reviewing my presentation

第 15 回 Final Oral Exam

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will spend most of the class time talking in English about given topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Homework & In-class Presentations: 60%

Oral Exam: 20%

Feedback will be provided in class during activities and through individual commentary on manaba when assignments are set.

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking I D

EGB2303D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation, and topics will be relevant to university students in the global era.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use both in their daily lives and in discussing slightly more complex issues. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Prosody	Does not meet course expectations yet	Understands prosody and begins to incorporate into speech	Incorporates several aspects of prosody into speech	Utterances reflect knowledge of intonation, tone, word stress, and rhythm
Fluency	Does not meet course expectations yet	Is approaching a natural speed	Understands different rates of speech and begins to develop ones own	Begins to speak fluently and is able to adjust speech rate when suitable
Pronunciation	Does not meet course expectations yet	Begins developing awareness of weaknesses in pronunciation	Develops strategies to improve pronunciation	Can make oneself understood by working around lapses in pronunciation
Pragmatics	Does not meet course expectations yet	Begins developing awareness of pragmatic elements	Can identify pragmatic function in speech	Demonstrates awareness of appropriate language to use in a specific context
Complexity	Does not meet course expectations yet	Begins to show mastery of simpler grammatical structures	Developing ability to use more complex grammar and vocabulary	Demonstrates a solid awareness of grammar and strategies to improve complexity and acquire vocabulary
Non-verbal communication	Does not meet course expectations yet	Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Begins developing mastery of various forms of non-verbal communication	Demonstrates an ability to convey nuance through non-verbal communication

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

- Introduction and Explanation of the Advanced Speaking I Course with Requirements and Expectations
- 第 2 回 Topic Area 1: University, Study & Life 1
Brainstorming & Drafting
- 第 3 回 Topic Area 1: University, Study & Life 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 4 回 Topic Area 1: University, Study & Life 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 5 回 Topic Area 2: Issues in Modern Japanese Society 1
Brainstorming & Drafting
- 第 6 回 Topic Area 2: Issues in Modern Japanese Society 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 7 回 Topic Area 2: Issues in Modern Japanese Society 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 8 回 Poster Presentation 1
Drafting
- 第 9 回 Poster Presentation 2
Preparing
- 第 10 回 Poster Presentation 3
Practicing
- 第 11 回 Poster Presentation 4
Presenting
- 第 12 回 Topic Area 3: Future Plans 1
Brainstorming & Drafting
- 第 13 回 Topic Area 3: Future Plans 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 14 回 Topic Area 3: Future Plans 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 15 回 Feedback & Reflection
Final Oral Task, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will spend most of the class time talking in English about given

topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments

completed before the start of the lesson. This is a student-centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Homework & In-class Tasks: 60%

Oral Exam: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking II B

EGB2353B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is a continuation of Advanced Speaking I. This term, students will continue to develop their oral English communication skills. Students will have lots of opportunities to speak both with each other and also with the teacher. The course will focus mainly on fluency, but students will also practice pronunciation, intonation and rhythm through conversations and discussions about not only everyday topics but also current social issues introduced in the text. Main assessed speaking tasks include in-class recordings, a short 3 minute presentation and a final interview. Students will practice communicating in English in a fun and lively classroom environment where making an effort is important. Enthusiasm in the classroom helps build confidence which is the foundation of successful communication. Let's do our best and have a great term!

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1) Feel comfortable discussing both everyday topics AND current social issues in the textbook

2) Have an awareness of conversational and discussion strategies and useful phrases

3) Deliver a 3 minute presentation in front of peers

4) Be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks

5) Be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Prosody: Produces utterances that reflect knowledge of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (100 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pragmatics: Has an awareness of appropriate language to use in a specific context.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/ Quizlet Set 96)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

【授業計画】

第 1 回 Welcome back from summer vacation!

第 2 回 Unit 8: I liked science in school
Listening activities/ blended sounds

第 3 回 Unit 8: I liked science in school
Speaking activities/ personalization

第 4 回 Unit 9: It's easy to make!
Listening activities/ weak vowels

第 5 回 Unit 9: It's easy to make!
Speaking activities/ personalization

第 6 回 Unit 10: What are you doing?
Listening activities/ sentence stress

第 7 回 Unit 10: What are you doing?
Speaking activities/ personalization

第 8 回 Unit 11: What are you going to do?
Listening activities/ casual English: gonna

第 9 回 Unit 11: What are you going to do?
Speaking activities/ personalization

第 10 回 Unit 12: It's red in the middle
Listening activities/ sentence stress

第 11 回 Unit 12: It's red in the middle
Speaking activities/ personalization

第 12 回 Unit 13: How long is it?
Listening activities/ understanding tone groups

第 13 回 Unit 13: How long is it?
Speaking activities/ personalization

第 14 回 Supplementary activities

第 15 回 Final reflection on learning

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to prepare for their in-class speaking experiences by completing any homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active Participation: 30%

Recordings: 20%

Presentation: 20%

Interview test: 15%

Other speaking and writing activities: 15%

〔留意事項 (Other Information)〕

Important: If you are also taking Advanced Listening B I/II, we will also be using this textbook so there is no need to buy a second copy.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Communication Spotlight (High Beginner) / Graham-Marr, A. / Abax ELT Publishers / ISBN 978-1-78547-029-5

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking II C

EGB2353C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation, and topics will be relevant to university students in the global era.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use both in their daily lives and in discussing slightly more complex issues. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Clarity of voice	When I am speaking my voice is very quiet and it is difficult for others to hear and understand me.	Sometimes my voice and pronunciation are clear but sometimes I begin to speak quietly and rely on Japanese-style pronunciation.	The teacher and my peers have no problem hearing my voice but sometimes they cannot understand some words.	I can speak in a clear voice with excellent rhythm and articulation so that my peers and instructor have no problem with understanding me.
Content	I usually only give one word answers without any elaboration.	I speak simply and give typical answers with very little elaboration.	I try to add interesting content to my sentences but only if the instructor asks.	I am able to produce longer and more complex sentences. The content of my sentences is interesting and thought provoking.
Grammatical accuracy	My sentences are often difficult to understand as if I'm translating directly from Japanese.	The instructor and my peers can understand my sentences but with some difficulty.	The instructor and my peers can understand what I want to say regardless of any grammatical errors.	When I speak my sentence structure is clear and appropriate. There is little ambiguity in what I want to say.
Fluency	I speak in English but I have to pause between nearly every word so that I can think of the next one.	I can speak fluidly in phrases but between each phrase I have to stop to think. I require notes	I can speak in sentences but I require notes or pre-written sentences to help me.	I speak at a natural pace and only pause when it is appropriate to do so. I can do this without relying too much on notes
Participation	I attend the classes but I do not	I attend classes and respond to	I attend the classes and spontaneous	In every class I play an active

	actively answer questions or participate proactively in group activities.	the teacher when asked.	sly respond to the teacher during small group activities and sometimes in whole class activities.	role by answering the teacher's questions and/or by engaging with and sometimes helping in group activities.
創造・発信力	I respond with either yes or no most of the time.	I respond in one sentence. It is clear what I want to say but I don't give reasons or examples.	I present my main idea clearly and I also provide at least one reason for my opinion or idea.	When I speak in English I clearly state my idea, the reasons for why I think so and provide examples to back up or clarify my thoughts.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction and Explanation of the Advanced Speaking II Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Describing different genres of music
- 第 3 回 Superstitions in Japan and abroad
- 第 4 回 Halloween traditions
- 第 5 回 Food controversies
- 第 6 回 Internet culture
- 第 7 回 Young people and politics
- 第 8 回 Routines and habits for mental health
- 第 9 回 Talking about fashion
- 第 10 回 The Hygge lifestyle
- 第 11 回 Christmas and New Year traditions
- 第 12 回 How to have a debate
- 第 13 回 Debating simple and difficult topics
- 第 14 回 Class debate assessment
- 第 15 回 Reflection

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will spend most of the class time talking in English about given topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-

centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly. [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 40%

Homework & Presentations: 60%

Feedback will be provided in class during activities and through individual commentary on manaba when assignments are set.

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Speaking II A ・ E

EGB2353A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

月曜 1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve both academic and general English speaking skills in order to prepare students for a successful study abroad experience.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Improvements in Academic English Speaking by increasing productive vocabulary, understanding the difference between passive and active vocabulary, making academic presentations, speaking logically, asking better questions, using set academic phrases.

(2) Improvements in General English Speaking by gaining some confidence from practicing a wide range of functions: giving & asking for an opinion, agreeing & disagreeing, explaining, interrupting, complaining, describing, giving & asking for advice, etc.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

<p>1) Prosody: Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.; 2) Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (90 wpm+); 3) Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals; 4) Pragmatics : Has an awareness of appropriate language to use in a specific context.; 5) Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/ Quizlet Set 43); 6) Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)</p>	<p>Does not meet course expectations yet</p>	<p>Meets some course expectations</p>	<p>Meets most course expectations and excels on some criteria</p>	<p>Exceeds most course expectations</p>
--	--	---------------------------------------	---	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 **CLASSROOM**
Introducing Speaking Course Goals and Direction
- 第 2 回 **CLASSROOM**
Setting Up Your Speaking Portfolio
- 第 3 回 **CLASSROOM**
Developing Personal Speaking Strategies
- 第 4 回 **CLASSROOM**
Describing Experiences in the Future
- 第 5 回 **CLASSROOM**
Identifying Pros and Cons
- 第 6 回 **CLASSROOM**
Making Suggestions
- 第 7 回 **CLASSROOM**
Asking for Recommendations
- 第 8 回 **CLASSROOM**
Speech Test and Feedback (Midterm)
- 第 9 回 **CLASSROOM**
Defining Issues
- 第 10 回 **CLASSROOM**
Giving & Asking for Opinions
- 第 11 回 **CLASSROOM**
Peer Presenting Practice
- 第 12 回 **CLASSROOM**
Describing Highlights and Attractions
- 第 13 回 **CLASSROOM**
Describing Approaches, Successes & Failures
- 第 14 回 **CLASSROOM**
Discussing the Future
- 第 15 回 **CLASSROOM**
Individual Presentations and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will be given a great number of speaking opportunities with the aim of these experiences leading to increased speaking confidence: pair work, small group work, speech test (Midterm), asking questions, asking follow-up questions, sharing opinions in class presentation (Final), etc.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to participate actively in class. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation and Homework 40%

In class Tests 30%

Final Presentation 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will

be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

Google Search, Improving English Language Speaking
For example,

<https://www.fluentu.com/blog/english/how-to-improve-spoken-english/>

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Speaking II D

EGB2353D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

月曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

[科目の教育目標 (Course Description)]

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation, and topics will be relevant to university students in the global era.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use both in their daily lives and in discussing slightly more complex issues. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Prosody	Does not meet course expectations yet	Understands prosody and begins to incorporate into speech	Incorporates several aspects of prosody into speech	Utterances reflect knowledge of intonation, tone, word stress, and rhythm

Fluency	Does not meet course expectations yet	Is approaching a natural speed	Can understand different rates of speech and begins to develop one's own	Begins to speak fluently and is able to adjust speech rate when suitable
Pronunciation	Does not meet course expectations yet	Begins developing awareness of weaknesses in pronunciation	Develops strategies to improve pronunciation	Can make oneself understood by working around lapses in pronunciation
Pragmatics	Does not meet course expectations yet	Begins developing awareness of pragmatic elements	Can identify pragmatic function in speech	Demonstrates awareness of appropriate language to use in a specific context
Complexity	Does not meet course expectations yet	Begins to show mastery of simpler grammatical structures	Developing ability to use more complex grammar and vocabulary	Demonstrates a solid awareness of grammar and strategies to improve complexity and acquire vocabulary
Non-verbal communication	Does not meet course expectations yet	Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Begins developing mastery of various forms of non-verbal communication	Demonstrates an ability to convey nuance through non-verbal communication

[授業計画]

- 第 1 回 Orientation
Introduction and Explanation of the Advanced Speaking II Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 1
Brainstorming & Drafting
- 第 3 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 4 回 Topic Area 1: Interacting with Visitors to Japan 3
Presentations & Giving Feedback

- 第 5 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 1
Brainstorming & Drafting
- 第 6 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 7 回 Topic Area 2: Helping Out & Giving Directions 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 8 回 Poster Presentation 1
Drafting
- 第 9 回 Poster Presentation 2
Preparing
- 第 10 回 Poster Presentation 3
Practicing
- 第 11 回 Poster Presentation 4
Presenting
- 第 12 回 Topic Area 3: Future Plans 1
Brainstorming & Drafting
- 第 13 回 Topic Area 3: Future Plans 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 14 回 Topic Area 3: Future Plans 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 15 回 Feedback & Reflection
Final Oral Task, Reflection on Course and
Feedback

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will spend most of the class time talking in English about given

topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Participation: 20%

Homework & Presentations: 60%

Oral Tasks: 20%

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Writing I A

EGB2301A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

York Weatherford

[科目の教育目標 (Course Description)]

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, building on the foundations provided by Reading I/II and Writing I/II.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

The development of paragraphs and the composition of essays will be stressed. Students will review the topic sentence and learn how to use a thesis statement to help them organize their essays coherently. Students will also learn the basics of source-based writing in order to develop a short research essay.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Understands and can execute basic PC functions/formatting	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Can use a variety of ways to organize ideas for writing: mind maps, outlines	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Is familiar with terminology used to	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels	Exceeds most course expectations

describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)			on some criteria	
4) Understands the function and purpose of transitions	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Can produce writing within many writing genres: narrative, persuasive, emails	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Understands tactics for making writing interesting: thesaurus use, sentence types	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
7) Has developed a writing habit possibly through a journal or timed writing exercises in class	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

8) Can look at one's own/ a classmates' writing sample and make suggestions for improvement.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
--	---------------------------------------	--------------------------------	--	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 The Writing Process
- 第 2 回 Pre-Writing
- 第 3 回 Paragraph Structure
- 第 4 回 Paragraph Support and Development
- 第 5 回 From Paragraph to Essay
- 第 6 回 Thesis Statements
- 第 7 回 Essay Outlining
- 第 8 回 Introductions and Conclusions
- 第 9 回 Paraphrasing and Summarizing
- 第 10 回 Citing Sources
- 第 11 回 Developing a Research Essay
- 第 12 回 Organizing a Research Essay
- 第 13 回 Finding Appropriate Sources
- 第 14 回 Using Sources for Supporting Arguments
- 第 15 回 Final Paper and Presentation

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Classes will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

Feedback methods:

Students will receive written feedback from the instructor on all writing assignments within one week of submission.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom performance 30%

Written work 70%

〔留意事項 (Other Information)〕

The syllabus is subject to change depending on the abilities of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Writing I B

EGB2301B0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 2単位 前期
 金曜2限
 DP3 : 言語力
 60
 必修 クラス指定
 Isobel Hook

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course builds on the foundations provided by Writing I/II to develop English writing skills.

The course is good preparation for the junior class 'Academic Writing', future TOEIC and IELTS tests, and for students who wish to study abroad.

During the semester students learn how to write paragraphs, thesis statements, introductions, conclusions, as well as different texts types. Students should be able to write various types of essays by the end of the academic year.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students will learn how to write a variety of well-organized texts.

They will use planning and outlines to organise a text, topic-associated language, and respond to feedback.

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

<p>言語力1) Understands and can execute basic PC functions/formatting 2) Can use a variety of ways to organize ideas for writing: mind maps, outlines3) Is familiar with terminology used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)4) Understands the function and purpose of transitions 5) Can produce writing within many writing genres: narrative, persuasive, emails6) Understands tactics for making writing interesting : thesaurus use, sentence types7) Has developed a writing habit possibly through a journal or timed writing</p>	<p>Does not meet expectations for the course yet</p>	<p>Meets expectations set out for the course</p>	<p>Exceeds expectations in some areas of the course</p>	<p>Exceeds expectations in most areas of the course</p>
---	--	--	---	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction and Self-Introductions
Introduce myself and discuss the course
Task 1.1: Write a self-introduction
- 第 2 回 Organising ideas
Practice mind-maps and writing outlines
Task 1.2: Write an "About Me" essay
- 第 3 回 Online interactions
Discuss people's hobbies and ask them questions
Task 1.3: Write follow-up questions and comments to other students
- 第 4 回 Organising Data
Recognise trends in data
Task 2.1: Find the main data points and notable features from graphs, charts and tables
- 第 5 回 Describing data
Describe figures in data
Task 2.2: Use English to describe the trends seen in graphs, charts and tables.
- 第 6 回 Summarising data
Report on data
Task 2.3: Write a report describing the most notable features and changes within a graph, chart or table.
- 第 7 回 Classifying changes
Identify the most notable features from images and maps
Task 3.1: Find the main data points and notable features from graphs, charts and tables
- 第 8 回 Describing changes
Describing changes from images and maps
Task 3.2: Use English to describe the changes seen in images and maps
- 第 9 回 Summarising changes
Report on changes
Task 3.3: Write a report describing the most notable changes and differences between two images or maps.
- 第 10 回 Organising stages in a process
Recognise the main stages of a process
Task 4.1: Find the main stages in a process
- 第 11 回 Describing a process
Describe figures in a process
Task 4.2: Use English to describe the main stages of a process
- 第 12 回 Summarising a process
Report on the main stages of a process
Task 4.3: Write a report describing the main stages of a process
- 第 13 回 Student-selected writing task
Decide what type of writing you would like to do
Task 5.1: Write an outline or plan
- 第 14 回 Feedback

Discuss your writing with Isobel
1:1 time with Isobel can be scheduled
Task 5.2: Write a draft text

- 第 15 回 Feedback and corrections
Discuss your writing with Isobel
1:1 time with Isobel can be scheduled
Task 5.3: Write your final text

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of written exercises, assignments, quizzes, essays, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Writing tasks are submitted and graded online using Manaba.

Students will receive ongoing formative feedback in grammar, vocabulary, style, and writing conventions, both in drafting and revising stages. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned writing. Failure to complete tasks on time will result in penalties.

Please bring paper, a folder, and pens to class.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- Task 1.1: 5%
Task 1.2: 5%
Task 1.3: 10%
Task 2.2: 5%
Task 2.3: 10%
Task 3.2: 5%
Task 3.3: 10%
Task 4.2: 10%
Task 4.3: 10%
Task 5.2: 10%
Task 5.3: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing I C

EGB2301C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

平野 あかり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業では、英語での情報発信、特にライティングにおいて広く用いられている表現・構成を身に着けることで、多様な読者を想定し、読者に配慮した表現・構成で意見を論じることを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

読者に配慮したパラグラフ（複数の文で一つの考えを表すまとまり）の構成を学ぶ

読者に配慮したパラグラフを書くことができるようになる
ライティングに取り組む過程において、各段階で学習管理ができるようになる

クラスメイトのライティングやその過程を見て学ぶことができる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する
知識・理解力	知識の不足を補う努力がみられない	消極的ながら知識を補う姿勢がみられる	学習に必要な知識を積極的に補う姿勢がみられる	常に積極的に知識を深める姿勢がみられる
言語力①	基本的な語彙運用ができない	基本的な語彙運用ができる	ある程度多様な語彙運用ができる	多様な語彙を適切に使用することができる
言語力②	基本的な文構造を使用することができない	基本的な文構造を使用することができる	いくつかの文構造を使用することができる	多様な文構造を使用することができる

批判的思考力	論拠や例を用いて議論することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて議論することができる	概ね適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる	適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる
--------	---------------------	-------------------------------	----------------------------	--------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 パラグラフは「段落」じゃない
- 第 3 回 主題文で要点を宣言
- 第 4 回 支持文で強力にサポート
- 第 5 回 結論文で念押し
- 第 6 回 過程重視のライティング
- 第 7 回 まとめ 1
- 第 8 回 大学生活は大変?それとも楽チン?
- 第 9 回 歩きスマホやめてくれない?
- 第 10 回 ネットショッピング詐欺に引っかからないために
- 第 11 回 似て非なるもの:パブと居酒屋
- 第 12 回 説明しよう、日本の文化
- 第 13 回 データにみる世界の現状
- 第 14 回 AIによって職が奪われるのか
- 第 15 回 まとめ 2

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施しません。レポート課題 (エッセイ) により採点します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業では、主にテキストとスライド等の補助教材を使用して学習します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業を復習し、課題に取り組み、次回に活かしましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題 (中間・期末エッセイ) 60%

毎回のオンライン課題 (またはワークシート) 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

課題は原則、パソコンを用いてMicrosoft Office Wordで作成していただきます (自身のノートパソコンを持参するのが望ましい)。課題の多くはオンライン提出になる予定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Writing Facilitator <Revised Edition>/構造から学べるパラグラフ・ライティング入門【改訂版】/静 哲人 著/松柏社/2019年

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

アルク英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イデオム検索に便利なオンライン辞書（無料）

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書（無料）

Grammarly

<https://www.grammarly.com/>

自動英文添削（スペリング、文法ミスの校正）

DeepL

<https://www.deepl.com/ja/translator>

翻訳ツール（訳は必ず自分で確認・修正しましょう）

Thesaurus

<https://www.thesaurus.com/>

類語辞典（多様な表現を検索）

Academic Phrasebank

<http://www.phrasebank.manchester.ac.uk/>

アカデミック英語の表現集（応用）

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing I D

EGB2301D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

金曜2限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

孫工 季也

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この授業では文章を推敲する力を養うことを主眼とする。学生はこれまでに身につけてきたパラグラフ・ライティングの力を生かしつつ文章を作成し、互いにフィードバックを行うことで新たな視点を獲得する。その上でさらに修正を加え、より良いライティングを行っていく。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. パラグラフ・ライティングの構造を理解し様々な文章を書く
2. 互いの文章に批判を入れ合う
3. 受けた批判を基に文章を推敲していく

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 ライティングの基本（Basic Writing）

第 3 回 英文の作り方（Writing a Draft）

第 4 回 修正・訂正の基本（Revising & Editing）

第 5 回 パラグラフ・ライティング（記述）

第 6 回 パラグラフ・ライティング（記述）

第 7 回 パラグラフ・ライティング（記述）

第 8 回 パラグラフ・ライティング（例示）

第 9 回 パラグラフ・ライティング（例示）

第 10 回 パラグラフ・ライティング（例示）

第 11 回 パラグラフ・ライティング（時間的順序）

第 12 回 パラグラフ・ライティング（時間的順序）

第 13 回 パラグラフ・ライティング（時間的順序）

第 14 回 パラグラフ・ライティング

第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

パラグラフ・ライティングの構造の確認 → 英作 → 推敲 → 修正版の作成、を授業展開の基本とします。学生の質問や回答に対し、教師は適宜口頭でフィードバックを行います。本授業ではペアワークやグループワークを中心とし、生徒同士の主体的な学び合いを求めます。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・身の回りの様々な文章の書かれ方に注目する
- ・自分の文章の書き方に注目する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への積極的な参加と貢献 30%

課題提出 70%

〔留意事項（Other Information）〕

進度や生徒の反応によりシラバスの変更あり

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Primary Course on Paragraph Writing』 / 杉田由仁 and Caraker R. Richard / 成美堂 / 2008 / 9784791946297 / 学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業中に紹介する

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Writing II B

EGB2351B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Isobel Hook

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course builds on the foundations provided by Writing I/II to develop English writing skills.

The course is good preparation for the junior class ‘Academic Writing’, future TOEIC tests, and for students who wish to study abroad.

Students learn how to write different genres of essay including comparison and contrast essays, cause-and-effect essays, argument essays, and analysis essays. Students should be able to write various types of essays by the end of the academic year.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Use a variety of writing activities to build towards more elaborate prose.

Write English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力1) Understands and can execute basic PC functions/formatting 2) Can use a variety of ways to organize ideas for writing: mind maps, outlines3)	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

Is familiar with terminology used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)4) Understands the function and purpose of transitions
5) Can produce writing within many writing genres: narrative, persuasive, emails6) Understands tactics for making writing interesting : thesaurus use, sentence types7) Has developed a writing habit possibly through a journal or timed writing exercises in class8) Can look at one's own/ a classmates' writing sample and make suggestions for

improvement.				
--------------	--	--	--	--

〔授業計画〕

第 1 回	Unit 5: Food Writing 1: The Comparison-and-Contrast Essay Part 1 Explanation and exercises
第 2 回	Unit 5: Food Writing 1: The Comparison-and-Contrast Essay Part 1 Practice
第 3 回	Unit 5: Food Writing 2: The Comparison-and-Contrast Essay Part 2 Explanation and exercises
第 4 回	Unit 5: Food Writing 2: The Comparison-and-Contrast Essay Part 2 Practice
第 5 回	Unit 6: Language Writing 1: Writing about Reasons Explanation and exercises
第 6 回	Unit 6: Language Writing 1: Writing about Reasons Practice
第 7 回	Unit 6: Language Writing 2: The Cause-and-Effect Essay Explanation and exercises
第 8 回	Unit 6: Language Writing 2: The Cause-and-Effect Essay Practice
第 9 回	Unit 7: Environment Writing 1: The Argument Essay Explanation and exercises
第 10 回	Unit 7: Environment Writing 1: The Argument Essay Practice
第 11 回	Unit 7: Environment Writing 2: Using Factual Details to Support Your Opinion Explanation and exercises
第 12 回	Unit 7: Environment Writing 2: Using Factual Details to Support Your Opinion Practice
第 13 回	Unit 8: Reading for Literature Writing 1: Writing an Analysis of a Poem Explanation and exercises
第 14 回	Unit 8: Reading for Literature Writing 1: Writing an Analysis of a Poem Practice
第 15 回	Unit 8: Reading for Literature

Writing 2: Personal narrative

Explanation, exercises, practice

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of written exercises, assignments, quizzes, essays, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, quizzes, essays, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and quizzes 60%

Essay 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90?100%

優 Very good (A) 80?89%

良 Good (B) 70?79%

可 Pass (C) 60?69%

不合格 Fail (D) 0?59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:
lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:
Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Weaving it Together 3, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 9.781305251663E12

This textbook is also used in Advanced Reading I/II.
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
www.lyledesouza.com/teaching
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing II C

EGB2351C0E
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
2年次
2単位 後期
金曜 2限
DP3 : 言語力
60
必修 クラス指定
平野 あかり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業では、学術英語での情報発信、特にライティングにおいて広く用いられている表現・構成を身に着けることで、学術的な表現・構成で意見を論じることを目標とします。前期の内容を踏まえ、より発展的な内容と学術的な英語表現の習得を目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標 : SDGs) をはじめとする社会問題のトピックについて、パラグラフを書くことができるようになる

学術的な英語表現を習得する

クラスメイトのライティングやその過程を見て学ぶことができる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心をもち努力する	常に学習に関心をもち努力する

知識・理解力	知識の不足を補う努力がみられない	消極的ながら知識を補う姿勢がみられる	学習に必要な知識を積極的に補う姿勢がみられる	常に積極的に知識を深める姿勢がみられる
言語力①	基本的な語彙運用ができない	基本的な語彙運用ができる	ある程度多様な語彙運用ができる	多様な語彙を適切に使用することができる
言語力②	基本的な文構造を使用することができない	基本的な文構造を使用することができる	いくつかの文構造を使用することができる	多様な文構造を使用することができる
批判的思考力	論拠や例を用いて議論することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて議論することができる	概ね適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる	適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Flow of Sentences
- 第 3 回 Basic Paragraph
- 第 4 回 Developing Coherence
- 第 5 回 Hedges and Boosters
- 第 6 回 Generating Ideas
- 第 7 回 まとめ 1
- 第 8 回 How to attract your readers
- 第 9 回 Supporting Your Ideas
- 第 10 回 Concluding Paragraphs
- 第 11 回 Comparison and Contrast Paragraphs
- 第 12 回 Essay Structure
- 第 13 回 Problem Solving Essay
- 第 14 回 The First Step for Academic Papers
- 第 15 回 まとめ 2

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施しません。レポート課題 (エッセイ) により採点します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業では、主にテキストとスライド等の補助教材を使用して学習します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業を復習し、課題に取り組み、次回に活かしましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題 (中間・期末エッセイ) 60%

毎回のオンライン課題 (またはワークシート) 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

課題は原則、パソコンを用いてMicrosoft Office Wordで作成していただきます（自身のノートパソコンを持参するのが望ましい）。課題の多くはオンライン提出になる予定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals 大学生のためのアカデミックライティング・ストラテジー/中谷安男 著/2020年

テキストURL

<https://www.kinsei-do.co.jp/books/4109/>

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

アルク英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イデオム検索に便利なオンライン辞書（無料）

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書（無料）

Grammarly

<https://www.grammarly.com/>

自動英文添削（スペリング、文法ミスの校正）

DeepL

<https://www.deepl.com/ja/translator>

翻訳ツール（訳は必ず自分で確認・修正しましょう）

Thesaurus

<https://www.thesaurus.com/>

類語辞典（多様な表現を検索）

Academic Phrasebank

<http://www.phrasebank.manchester.ac.uk/>

アカデミック英語の表現集（応用）

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing II A

EGB2351A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜2限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to continue to help students improve their ability to express themselves in writing, with a focus on source-based writing.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The development of source-based research essays will be stressed. Students will review basic essay structure and move on to the process of writing research papers.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Understands and can execute basic PC functions/formatting;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
2) Can use a variety of ways to organize ideas for writing: mind maps, outlines	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
3) Is familiar with terminology used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

4) Understands the function and purpose of transitions	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
5) Can produce writing within many writing genres: narrative, persuasive, emails	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
6) Understands tactics for making writing interesting: thesaurus use, sentence types	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
7) Has developed a writing habit possibly through a journal or timed writing exercises in class	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
8) Can look at one's own/ a classmates' writing sample and make suggestions for improvement	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations

第 7 回 Writing the Introduction
 第 8 回 Presenting Results
 第 9 回 Analyzing Results
 第 10 回 Discussing Results
 第 11 回 Writing the Conclusion
 第 12 回 Citing and Quoting Sources
 第 13 回 Writing the Reference List
 第 14 回 Revising the Paper
 第 15 回 Final Paper and Presentation
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 Classes will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 Students should do all homework assigned by the teacher, including completion of all drafts of essays.

Feedback methods:
 Students will receive written feedback from the instructor on all writing assignments within one week of submission.
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 60
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 Classroom performance 30%
 Written work 70%
 [留意事項 (Other Information)]
 The syllabus is subject to change depending on the abilities of the students.
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

[授業計画]

- 第 1 回 Review Essay Writing
- 第 2 回 Review Source-Based Writing
- 第 3 回 Finding a Topic
- 第 4 回 The Literature Review
- 第 5 回 Developing Research Questions
- 第 6 回 Research Methods

Advanced Writing II D

EGB2351D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

孫工 季也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では前期に引き続き文章を推敲する力を養う。学生はこれまでに身につけてきたパラグラフ・ライティングの力を生かし文章を作成し、互いにフィードバックを行うことで新たな視点を獲得する。その上でさらに修正を加え、より良いライティングを行っていく。また、その過程で「よりライティングとは何か」も考えていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. パラグラフ・ライティングの構造を理解し様々な文章を書く
2. 互いの文章に批判を入れ合う
3. 受けた批判を基に、文章を推敲していく
4. 文章の書き手・読み手に対する認識を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 ライティングの推敲
- 第 3 回 パラグラフ・ライティング (比較)
- 第 4 回 パラグラフ・ライティング (比較)
- 第 5 回 パラグラフ・ライティング (定義)
- 第 6 回 パラグラフ・ライティング (定義)
- 第 7 回 パラグラフ・ライティング (原因・結果)
- 第 8 回 パラグラフ・ライティング (原因・結果)
- 第 9 回 パラグラフ・ライティング (意見)
- 第 10 回 パラグラフ・ライティング (意見)
- 第 11 回 パラグラフ・ライティング (問題解決)

第 12 回 パラグラフ・ライティング (問題解決)

第 13 回 エッセイ・ライティング

第 14 回 エッセイ・ライティング2

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パラグラフ・ライティングの構造の確認 → 英作 → 推敲 → 修正版の作成、を授業展開の基本とします。学生の質問や回答に対し、教師は適宜口頭でフィードバックを行います。本授業ではペアワークやグループワークを中心に、生徒同士の主体的な学び合いを求めます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・身の回りの書きものの書かれ方に注目する
- ・読み手を意識する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への積極的な参加と貢献 30%

課題提出 70%

〔留意事項 (Other Information)〕

進度や生徒の反応によりシラバスの変更あり。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Primary Course on Paragraph Writing』 / 杉田由仁 and Caraker R. Richard / 成美堂 / 2008 / 9784791946297 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Communication Skills I

EGB3302N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

1単位 前期

月曜 3限

DP3: 言語力

15

定員20人 「SpeakingI・II」、「ListeningI・II」、「Advanced SpeakingI・II」、「Advanced ListeningI・II」履修者であること

Thomas T. Nishikawa

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This class is a discussion-based English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word

choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework. This course will be conducted exclusively in English and students should be prepared to actively participate and share their ideas and opinions.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The interactive activities in this class involve learning and practicing oral communication skills that can be applied to academic situations. We will work on aspects of accuracy and organization of ideas as well as strategies for glean meaning from content.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Language ability	Level 1: Fully satisfies the requirements of the given task. Includes all relevant information needed to communicate in the target language. Eagerly initiates speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Easily asks questions and speaks spontaneously. The student is native or near-native in all aspects of English language ability.	Level 2: Mostly covers the requirements of the given task. Includes most of the relevant information needed to communicate. Is willing to initiate speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Asks questions and speaks evenly.	Level 3: Addresses some of the requirements. Includes some relevant information but is not clearly focused. Sometimes initiates speech, using attention-getting devices. Sometimes asks questions and speaks hesitantly.	Level 4: Attempts to address the topic but few relevant information. Digresses often from the topic presented. Is reluctant to initiate speech and struggles to ask questions. Speech is halting. Does not attempt the task, and or the answer is completely irrelevant.

	Level 1:	Level 2:	Level 3:	Level 4:
Creativity / transmission	Includes an inviting introduction and a satisfactory conclusion. Skillfully manages to paraphrase the ongoing situation. Logical arrangement of ideas. Manages all aspects of cohesion well. Makes few errors in the following areas: • verbs in utterances when necessary with appropriate subject-verb agreement • noun and adjective agreement • correct word order and article adjectives Errors do not hinder comprehensibility.	Includes an introduction, body and conclusion. Uses paragraphing successfully within the situation. Uses a range of cohesive devices but may look mechanical. Makes several errors in the structure that do not affect overall comprehensibility.	Attempts to include an introduction, body and conclusion. Main idea is not clearly supported with details. Less attention is given to the organization. Occasional use of transitions. Makes several errors that may interfere with comprehensibility.	Begins abruptly. No paragraphing or inappropriate paragraphing. No attempt to maintain the logical arrangement of ideas. Or no clear message is communicated. Makes utterances that are so brief that there is little evidence of structure and comprehensibility is impeded.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, introduce ‘ Small Talk ’ , Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Food for Life; Contrast general and current actions
- 第 3 回 Week 3: Describe favourite dishes and food
- 第 4 回 Week 4: Express Yourself; Talk about personal experiences
- 第 5 回 Week 5: Using small talk to break the ice
- 第 6 回 Week 6: Cities; Describe your city or town
- 第 7 回 Week 7: Make predictions about the future
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: The Body; Discuss ways to stay healthy

- 第 10 回 Week 10: Suggest helpful natural remedies
- 第 11 回 Week 11: Challenges; Talk about facing challenges
- 第 12 回 Week 12: Describe a personal challenge
- 第 13 回 Week 13: Transitions; Talk about milestones in your life
- 第 14 回 Week 14: Describe an important transition in your life
- 第 15 回 Week 15: Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート] 実施しない. No exam during exam week

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY (100%) IN ENGLISH!

ii) In class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

iii) Students are expected to complete their homework on time!

iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students shall be required to do at least 1 hour of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that her written work reaches the teacher on time. Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

Standard Prep Study 15 (fifteen) hours approximately in addition to assignments and homework

-15 minutes per day listening to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

-15-30 hours in total

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Students' grade for this class will be based on class participation

(including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class).....30%

[留意事項 (Other Information)]

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in prestudy and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit (pass the course).

***Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

****Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or "makeup" work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit "request for special consideration for students participating in extracurricular activities" issued by the University beforehand.

*****The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students. Class attendance and active participation in in-class pair work/group work are paramount towards students' success and final grade in this course.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

World English2 Third Editon; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2020; 978-0-357-13031-5 (Combo Split A)

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

Communication Skills II

EGB3352N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

1単位 後期

月曜3限

DP3 : 言語力

15

定員20人 「Communication SkillsI」履修者であること

Thomas T. Nishikawa

[科目の教育目標 (Course Description)]

This class is a discussion-based English communications course for non-native English speakers with the primary theme to develop the student's ability in day-to-day and academic English to communicate domestically and internationally. Emphasis will be given to appropriate word choices, varied sentence patterns, clear organizational patterns, and English as a lingua franca. Although all four skills-speaking, reading, listening, and writing will duly incorporate in discussions on topics of international and local relevance. The course is structured around the course textbook, but the instructor will also create additional materials, and activities for students to do both in the classroom, and for homework. This course will be conducted exclusively in English and students should be prepared to actively participate and share their ideas and opinions.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

The interactive activities in this class involve learning and practicing oral communication skills that can be applied to academic situations. We will work on aspects of accuracy and organization of ideas as well as strategies for gleaning meaning from content.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

	Level 1: Fully satisfies the requirements of the given task. Includes all relevant information needed to communicate in the target language. Eagerly initiates speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Easily asks questions and speaks spontaneously. The student is native or near-native in all aspects of English language ability.	Level 2: Mostly covers the requirements of the given task. Includes most of the relevant information needed to communicate. Is willing to initiate speech, utilizing appropriate attention-getting devices. Asks questions and speaks evenly.	Level 3: Addresses some of the requirements. Includes some relevant information but is not clearly focused. Sometimes initiates speech, using attention-getting devices. Sometimes asks questions and speaks hesitantly.	Level 4: Attempts to address the topic but few relevant information. Digresses often from the topic presented. Is reluctant to initiate speech and struggles to ask questions. Speech is halting. Does not attempt the task, and or the answer is completely irrelevant.
Language ability	Level 1: Includes an inviting introduction and a satisfactory conclusion. Skillfully manages to paraphrase the ongoing situation. Logical arrangement of ideas. Manages all aspects of cohesion well. Makes few errors in the following areas: • verbs in	Level 2: Includes an introduction, body and conclusion. Uses paragraphing successfully within the situation. Uses a range of cohesive devices but may look mechanical. Makes several errors in the structure that do not affect	Level 3: Attempts to include an introduction, body and conclusion. Main idea is not clearly supported with details. Less attention is given to the organization. Occasional use of transitions. Makes several errors that may interfere	Level 4: Begins abruptly. No paragraphing or inappropriate paragraphing. No attempt to maintain the logical arrangement of ideas. Or no clear message is communicated. Makes utterances that are so brief that there is little
Creativity / transmission				

utterances when necessary with appropriate subject-verb agreement • noun and adjective agreement • correct word order and article adjectives Errors do not hinder comprehension.	overall comprehension.	with comprehension.	evidence of structure and comprehension is impeded.
---	------------------------	---------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 Week 1: Introduction: class routine, reintroduce ‘ Small Talk ’, Discuss weekly schedule, assignments, class policies, evaluation method, and introduce textbook
- 第 2 回 Week 2: Things that Matter: Talk about Needs and Wants
- 第 3 回 Week 3: Discuss what makes people’s lives better
- 第 4 回 Week4: Conservation: Talk about Consequences
- 第 5 回 Week 5: Discuss a problem in nature
- 第 6 回 Week 6: Life Now and in the Past: Contrast different ways of life
- 第 7 回 Week 7: Compare today with the past
- 第 8 回 Week 8: Review/In-class Mid-term exam
- 第 9 回 Week 9: Travel: Talk about preparations for a trip
- 第 10 回 Week 10: Discuss Travel; English at the Airport
- 第 11 回 Week 11: Careers: Ask and answer job-related questions
- 第 12 回 Week 12: Talk about career planning
- 第 13 回 Week 13: Celebrations: Describe a festival
- 第 14 回 Week 14: Share opinions about holidays
- 第 15 回 Week 15: Course Questionnaire, Feedback, Final in-class exam.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- i) THIS COURSE WILL BE CONDUCTED (taught) ENTIRELY (100%) IN ENGLISH!
- ii) In class, activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.
- iii) Students are expected to complete their homework on time!
- iv) Homework and assignments will be given on a weekly basis. Students are expected to have completed any written homework and assignments and read the necessary chapters in the textbook BEFORE and AFTER class!

v) Students will need to be prepared to participate in class discussions and activities.

NOTE: THE SCHEDULE FOR INSTRUCTION WILL BE FLEXIBLE. The instructor will set the pace of the class according to the unique characteristics of the class and the level of the students.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students shall be required to do at least 1 hour of homework per week, which (in combination with homework for other courses) adds up to a significant amount of homework. Students are advised to plan for this and not to forgo homework because it will be important. If students are absent for social or sporting reasons, they are not excused from doing the homework, and each student will be responsible for ensuring that her written work reaches the teacher on time. Active attendance (meaning participation) will also be important for students to benefit from this course

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

Standard Prep Study 15 (fifteen) hours approximately in addition to regular assignments and homework

-15 minutes per day listening to native English, for example, CNN, BBC, www.TED.com

-15 minutes per day read some English, for example, English language newspapers, magazines

-Write a personal daily diary entry in English every day

-15-30 hours in total

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students’ grade for this class will be based on class participation (including homework, their attitude, and being on task)

Active Class Participation.....20%

Small Talk10%

Assignments20%

Mid-term Exam.....20%

Final Exam (in-class).....30%

〔留意事項 (Other Information)〕

*Students are expected to spend approximately 60 minutes in prestudy and review of each lesson. Furthermore, students are expected to be on time for each class, prepared to learn, study, and use the English language to communicate at all times. Students must come to class with the assigned Textbook, paper, pencil, pen, and eraser, English to English dictionary or English to Japanese dictionary is highly recommended.

**University policy stipulates that students must attend at least two-thirds of the classes in order to get credit (pass the course).

***Lateness without justification (for example proof of train delay) will be penalized; twice late equals one time absent.

****Club activities or other school activities are not to be accepted as valid reasons for additional absence. Extra or “makeup” work might be set for students who have to miss classes, provided that they submit “ request for special consideration for students participating in extracurricular activities ” issued by the University beforehand.

*****The language of teaching, and learning in this course will be English, and students must make an effort to use English to communicate both with the instructor and other students.
Class attendance and active participation in in-class pair work/ group work are paramount towards students’ success and final grade in this course.

*****This course will be a blended course in the FALL of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

World English2 Third Edition; Kristin L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase; National Geographic Learning and Cengage Learning; 2020; 978-0-357-13032-2 (Combo Split B)

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

English dictionary: <http://www.merriam-webster.com/> or <http://dictionary.cambridge.org/>

Thesaurus (for synonyms): <http://thesaurus.reference.com/>

For writing resources: <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/678/01/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

Comparative Culture

EGE3553N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

60

York Weatherford

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is for students to gain a deeper understanding of both American and Japanese culture through cross-cultural comparison. The course will begin with

an introduction to culture and its various dimensions. Students will then be introduced to a different aspect of culture each week and explore the differences between the two countries. Students will be able to discuss the complexities of cultural differences as a result of the knowledge gained through this course.

As for DP 共生・協働する力, students will gain the ability to work together and help others, in particular as it related to working with people from different cultural backgrounds.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students are expected to be attentive to all lectures and take careful notes on their contents. Students will also be encouraged to ask questions and offer their own opinions when appropriate.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力: Links course concepts to personal views and experiences	Does not apply course concepts to personal views and experiences	Adequately applies course concepts to personal views and experiences	Good application of course concepts to personal views and experiences	Effectively applies course concepts to personal views and experiences
共生・協働する力: Works cooperatively with others on course projects	Did not do any work—does not contribute. Does not work well with others.	Could have done more of the work—has difficulty. Requires structure, directions, and leadership.	Did their part of the work—cooperative. Works well with others.	Did more than others—highly productive. Works extremely well with others.

[授業計画]

第 1 回 Introduction to Cross-Cultural Studies

第 2 回 Traditional Values and Beliefs

第 3 回 Religion

第 4 回 Business and the Economy

第 5 回 Politics and the Electoral Process

第 6 回 Status of Minorities

第 7 回 Education

第 8 回 Sports and Leisure

第 9 回 Family Structure and Child Raising/Gender Roles

第 10 回 Health and Welfare

第 11 回 Law and Order

第 12 回 Food and Diet

第 13 回 Popular Music

第 14 回 Movies and Television

第 15 回 Final Group Presentations and Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This lecture course will be conducted entirely in English. Handouts and slideshow presentations will be provided.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communication activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete reading assignments before each session. Students may also be asked to research the topics beforehand.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communication activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Quizzes 40%

Class Preparation 20%

Class Participation 20%

Final Presentations/Discussion 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Keywords for American Cultural Studies, Third Edition, Edited by Bruce Burgett and Glenn Hendler

〔参考URL(URL for Reference)〕

<https://keywords.nyupress.org/american-cultural-studies/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Comparative Culture Workshop

EGE3250N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

定員30人

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英国を中心に英語圏文化を実践的に学ぶ。The purpose of this course is to familiarize students with the culture of English speaking countries especially the U.K., by actual practices such as making English tea, so that they will gain a deeper understanding of the nation and its culture.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

映画や文献を使って英国史を学ぶ。The course will provide an overview and in-depth introduction to British history through films and reading materials in English. Students will also have chances to practice English culture.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業内容をしっかり理解できない。	多少理解していても漠然としている。	しっかり把握し、自分でまとめることができる。	理解したことを自ら発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation オリエンテーション

第 2 回 How do you say 「英国」 in English? 英国を英語で言うとは?

第 3 回 U.K. as a Nation 英国という国

第 4 回 Pre-history イギリスの歴史 (先史時代から)

第 5 回 Anglo-Saxon Invasion アングロサクソン侵略

第 6 回 Medieval Period and the Reign of the Tudors 中世とチューダー朝

第 7 回 Anne of the Thousand Days 『1000日のアン』

第 8 回 England and Religious Reformation イギリスと宗教改革

第 9 回 A Book Jacket or a Box ブックカバーもしくはカルトナージュ実習

第 10 回 Stained Glass ステンドグラス実習

第 11 回 A Christmas Wreath クリスマスリース実習

第 12 回 Learning English Tea イギリスのお茶を学ぶ

第 13 回 English Tea and Recipe イギリスのお茶とレシピ

第 14 回 Tea Party ティーパーティ実習

第 15 回 Feedback and Exam etc. フィードバックと試験その他

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループディスカッションとプレゼンテーションの機会がある。Students will study the history of Britain. Students will often work and discuss in groups. In this way, they can gain a greater understanding of the British culture and language. They are also expected to do a presentation.

授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。Students will receive feedback in the form of my in-class responses to their questions

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

出席と宿題の義務。Students are expected to complete all assignments.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class Participation (30%)

Quizzes (20%)

Exam (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

The language of the course is mainly English but students not in Global course are welcome. Students will have to pay about 5,000 yen for materials. この授業は基本的には英語で行うがグローバル以外の学生も歓迎である。但し、実習材料費5,000円必要である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Print プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Britain』/James O'Driscoll/Oxford/1995/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Creative Writing

EGE3354N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 3限

DP3 : 言語力

60

Karin L. Swanson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is an English language Creative Writing course. Students will learn and practice different modes and genres of writing.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

To develop skills and confidence in creative writing of types such as short stories, descriptive prose, opinion essays and poetry. Also, to learn both self- and peer-editing. At the completion of the course, students will be able to originate a plan, including an outline, for a creative writing project, to write consecutive drafts, follow through with editing the drafts, and re-writing.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Is unable to generate new ideas or to experiment in writing	Is able, at a minimal level, to generate new ideas and experiment to some extent in writing	Is somewhat able to generate new ideas for writing, be willing to improvise and go beyond stereotypical and conventional tropes.	Is able to generate new ideas freely for writing, be willing to improvise and go beyond stereotypical and conventional tropes
知識・理解力	Is unable to communicate creative ideas in writing	Is able, at a minimal level, to communicate creative ideas in writing	Is somewhat able to communicate creative ideas in writing	Is effectively able to communicate creative ideas in writing
言語力	Is unable to use any forms of sophisticated or nuanced vocabulary in creative writing	Is able, at a minimal level, to use sophisticated and nuanced vocabulary in creative writing	Displays to some extent an ability to use sophisticated and nuanced vocabulary in creative writing	Displays capability in using sophisticated language and nuanced vocabulary in creative writing
思考・解決力	Is unable to understand course content or to ask for help with difficult topics	Is able, at a minimal level, to understand course content and ask for help with difficult topics	Is able to understand course content and is able to request solutions for difficult topics	Understands the course content well and is able to identify and address new problems that arise through learning

共生・協働する力	Is unable to participate in collaboration or group work	Is able, at a minimal level, to participate in collaboration and group work	Is somewhat able to participate in collaboration and group work	Is effectively able to participate in collaboration and group work
創造・発信力	Is unable to produce assignments which are well-structured, communicative, creative or to show any original ideas	At a minimal level, assignments are well-structured, communicative, creative and show some original ideas	Assignments are somewhat well-structured, communicative, creative and clearly show original ideas	Assignments are well-structured, communicative, creative and clearly show original ideas

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to the class; writing mechanics
 - 第 2 回 Structural techniques of writing; story-telling/creation
 - 第 3 回 Short stories; writing summaries
 - 第 4 回 Short stories; creating a narrative and development
 - 第 5 回 Short stories; editing/peer review
 - 第 6 回 Descriptive prose; outlining, organization
 - 第 7 回 Descriptive prose; developing ideas
 - 第 8 回 Descriptive prose; editing, peer review
 - 第 9 回 Descriptive prose; re-writing
 - 第 10 回 Non-fiction opinion essays; outlining, organization
 - 第 11 回 Non-fiction opinion essays; developing ideas
 - 第 12 回 Non-fiction opinion essays; editing, peer review
 - 第 13 回 Non-fiction opinion essays; re-writing
 - 第 14 回 Poetry - Western models
 - 第 15 回 Poetry - Japanese to English haiku
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Techniques and methods include precis writing, free-writing, content and technical editing, and development of narrative and descriptive writing from pictures.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

There will often be opportunities to write during the class, but there will also be weekly homework, which will be checked for completion the following week. Further, as the writing projects build upon previous steps, it is important to stay current with finished homework. Not doing so will result in a difficulty to keep up with the class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation and finished writing homework are the two most important components of the final grade, and both will be evaluated every week. A more detailed explanation of the grading system will be distributed and explained on the first class meeting day of the semester, so students are especially encouraged to be present on that day.

A brief breakdown follows:

Class Participation - 28%

Class Preparation/Homework - 42%

Submitted written assignments - 30%

Grades given by the instructor on written papers (such as A, B, C, etc.), will be decided by considering the following points:

- as the class is `Creative Writing; does the paper show creativity and imagination?
- whether or not the paper is the length assigned by the teacher
- if the paper is turned in on time, or late
- if the paper contains numerous mistakes; for example, grammar, spelling, or poor use of

paragraphs to divide sections of the writing

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

All learning materials will be provided by the teacher.

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

n/a

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Debate

EGE3403N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course aims to improve students' ability to evaluate arguments, express and defend opinions, and engage in civil public discourse through the development of strategies for debate.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

At the end of this course, students will be able to:

- (1) Form and express well-supported arguments on debatable topics
- (2) Evaluate the logic and support of claims and arguments
- (3) Respond to opposing opinions clearly, confidently, and

respectfully

(4) Use relevant and properly attributed evidence to support opinions

(5) Recognize and avoid logical fallacies, bias, and disingenuous argumentation

(6) Research, prepare for, and conduct a formal debate

(7) Appreciate the role of reasoned debate in public life

Students will learn and use strategies and lexis for engaging in discussion and debate. They will analyze written and spoken arguments and respond to them in both writing and speech. Speaking in a variety of situations (public speaking, Q&A, discussion, and informal group work) will help students develop their proficiency and confidence. Throughout the term, students will research and prepare for a final debate, working as members of a team and documenting their progress.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can evaluate claims and evidence in an argument	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can recognize selected logical fallacies in arguments	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can perform the various roles in a formal debate	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can make and support claims in speaking and writing, including from opposite perspectives	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Can rebut arguments effectively and anticipate rebuttals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Can ask pertinent questions for clarifying others' positions	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

第 1 回 Course introduction: Why debate?

第 2 回 Styles of debate introduction

第 3 回 Types of evidence

第 4 回 Using logos, pathos, and ethos

第 5 回 Making an opening statement

第 6 回 Logical fallacies: faulty reasoning

第 7 回 Logical fallacies: types of red herring and ad-hominem

第 8 回 Rebuttals

第 9 回 A closer look at debate roles: speakers and judges

第 10 回 Making a closing argument

第 11 回 debate prep and research

第 12 回 Practice debate

第 13 回 Class debates

第 14 回 Debate discussion and feedback

第 15 回 Reflection and course review

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

Students will read, write, and interact in English for each meeting. Active participation is crucial for success. Students will receive oral and written feedback on their assignments.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

This course will involve individual, pair, and group work, so it is important to prepare thoroughly for every class.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Class preparation and participation 15%

Spoken assignments 20%

Quizzes 15%

Written homework 15%

Final Debate and accompanying documents 35%

[留意事項 (Other Information)]

The syllabus and schedule may change to suit the needs of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

This course will not use a textbook. Students will be provided with a course packet of handouts to use throughout the semester.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Global English Seminar

EGE4651N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

2単位 前期

火曜3限

DP6: 創造・発信力

60

グローバル英語コース必修

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will explore the long-term impact of the Global English Course as it relates to employment and personal lifestyle. The main goal of the course is for students to initially reflect on how they changed as a result of learning in an all-English environment, including their study abroad experience. Then, students will be expected to express changes in personal attitudes and beliefs, improvements in their abilities, and their own degree of globalization.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will demonstrate their ability to:

(1) Understand, interpret, and synthesize concepts of personal growth and development (Reading and Listening Skills)

(2) Plan, develop, revise and present their own personal growth and development in English (Speaking/Presentation and Writing Skills)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力: Works cooperatively with others on course projects	Did not do any work—does not contribute. Does not work well with others.	Could have done more of the work—has difficulty. Requires structure, directions, and leadership.	Did their part of the work—cooperative. Works well with others.	Did more than others—highly productive. Works extremely well with others.

創造・発信力: Demonstrates effort and openness to creating new ideas and applies them to new situations	Does not demonstrate effort and openness to creating new ideas	Adequately demonstrates effort and openness to creating new ideas	More than adequately demonstrates effort and openness to creating new ideas	Thoroughly demonstrates effort and openness to creating new ideas
--	--	---	---	---

〔授業計画〕

第 1 回 Introducing Concepts of Change from Studying in English and Studying Abroad

第 2 回 Reflecting on Personal Growth & Development

第 3 回 Understanding Job Hunting Interviews

第 4 回 Exploring Resilience

第 5 回 Taking Initiative

第 6 回 Recognizing Improvements in Abilities

第 7 回 Defining Real Communication Skills

第 8 回 Group Project Presentations

第 9 回 Showing Flexibility

第 10 回 Having Positive Attitudes

第 11 回 Leveraging Perseverance

第 12 回 Determining Individual Globalization

第 13 回 Explaining Intercultural Skills Acquired from SA

第 14 回 Being a Leader & a Follower

第 15 回 Individual Presentations and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Homework Assignments & Participation:

There will be ongoing homework assignments. English will be the working language for the class. There will be regular written commentaries submitted online according to the homework schedule. Homework will be shared in discussion groups in class.

Final Presentation:

Using video editing software, students will make a final video presentation demonstrating the long-term impact of their study abroad experience. Further details of the presentation will be provided in class.

Group Project:

Students will take on various roles to help prepare for a student conference called Leadership for Change, which will take place in the fall semester.

Feedback: Students will receive regular feedback from the teacher and their peers on all written and oral assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected complete the assigned readings and prepare for group discussions and individual presentations.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Written Commentaries: 40% (Reflections on Personal Change)

(2) Final Presentation: 40% (Individual Videos)

(3) Group Project 20% (Conference Preparation)

〔留意事項 (Other Information)〕

This course is designed for the Global English Course students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Survey of Global Personnel Development and Long-term Impact of Study Abroad (Yokota, 2016)

グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する調査 (Yokota, 2016)

Retrieved from: <http://recsie.or.jp/project/gj5000/>

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Global Human Resource Development

EGE3651N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course focuses on Global Jinzai Skills development. The first stage is to identify these so-called soft skills, then the real challenge is to leverage them when making plans for your future.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will:

1. Understand the difference between hard and soft skills, and especially their importance.

2. Identify a wide range of soft skills related to Emotional Intelligence and Personality type.

3. Know themselves better and be able to talk positively about their strengths.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力: Build a study system; Be on time; Do assignments; Make enough efforts to succeed	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
知識・理解力: Understand lesson contents; Know personal weak points; Choose areas to improve;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
思考・解決力: See multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

共生・協働する力: Ability to work together; Give opinions; Able to help others; Able to ask for help; Ability to find your role in a group; Ability to take action	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to think outside the box	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Hard vs. Soft Skills
 - 第 2 回 Intercultural Awareness
 - 第 3 回 Diversity in the Global Workplace
 - 第 4 回 Emotional Intelligence (EQ)
 - 第 5 回 EQ Self-awareness
 - 第 6 回 EQ Self-control
 - 第 7 回 EQ Social Awareness
 - 第 8 回 EQ Relationship Management
 - 第 9 回 The Elevator Pitch Test
 - 第 10 回 Confidence, Self-worth, and Self-esteem
 - 第 11 回 The Confidence Gap
 - 第 12 回 Personality Types
 - 第 13 回 Leveraging Personality Strengths
 - 第 14 回 Zest, Grit, and Mindsets
 - 第 15 回 Final Oral Report and Feedback
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will read, reflect on, and discuss the literature on soft skills. They will also do pair work, small group work, and present for one another about the literature and about

themselves. They will do an Elevator Pitch Test and a Final Oral Report.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must read before class, reflect on their own strengths and weaknesses and be prepared to ask questions and discuss ideas in class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts both in and out of class.

Class participation & Homework 40%

Elevator Pitch Test 30%

Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Emotional Intelligence, Goleman (1995)

<http://amzn.to/2AlidJI>

Emotional Intelligence 2.0, Bradberry & Greaves (2010)

<http://amzn.to/2k5Wp4t>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Global Issues

EGE2250N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP2 : 知識・理解力

90

拝田 清

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to increase knowledge of current global issues, and to develop the basic skills needed for discussions in academic settings.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be expected to proactively participate in all classroom-based activities in pairs and groups. Students are

required to make presentations in groups or in pairs during the final day.

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
グローバル社会についての知識・理解	グローバル社会の現状や課題をまったく知らない	グローバル社会の現状や課題について1つなら例を挙げることができる	グローバル社会の現状や課題について2つの例を挙げることができる	グローバル社会の現状や課題について3つ以上の例を挙げることができる
英語の能力	質問に対してYes./No.で答えることしかできない	質問に対して英語を使って1文で答えることができる	質問に対して自分の答えとその理由を2文の英語で答えることができる	質問に対する答えだけでなく、自分の意見を3文以上の英語で展開できる
思考・解決能力	課題解決に向けて考えようとする意欲が乏しい	課題解決に向けて考えようとする意欲がある	課題解決に向けて考えをまとめ、自分なりの解答を提示できる	課題解決に向けて複数の視点・観点から検討し、複数の解答を提示できる
協働する意欲・能力	他人と協働することに積極的でない	仲のいい相手とのペアワークには意欲的に取り組む	ペアワークもグループワークも意欲的に取り組む	他人との協働に積極的に、時には自らがリーダーとなることもできる
プレゼンテーション能力	PPT(プレゼンテーションソフト)などは使用せず、発表言語もほぼ日本語である	発表にはPPTなども利用し、理解可能な英語で情報提供ができている	映像や音声をPPTなどでうまく使いこなし、正確な英語で情報提供や意見提示ができる	映像や音声をPPTなどを的確に使い、文字情報も論理的であり、使用する英語は流暢かつ正確で、説得力あるプレゼンテーションができる

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction
Overview of the planned sessions
- 第 2 回 Education and Gender
Unit 1: Creating Opportunities for Learning in Afghanistan and India
- 第 3 回 Global Warming
Unit 2: Environmental Threats to Our Planet
- 第 4 回 Drinking Water

- Unit 3: Getting Safe Water in the Gaza Strip
- 第 5 回 Poverty and Hunger
Unit 4: Child Malnutrition in Niger
- 第 6 回 Terrorism
Unit 5: 9/11 Attacks and Counter Terrorism Strategy
- 第 7 回 Movie-viewing
Watching a movie dealing with environmental issues.
- 第 8 回 Landmines
Unit 10: Demining in Afghanistan and Cambodia
- 第 9 回 Refugees
Unit 11: Life in a Refugee Camp and International Refugee Law
- 第 10 回 Aung San Suu Kyi
Unit 13: Peace Activist for Democracy and Human Rights
- 第 11 回 Preparation for the Final Presentation (1)
Students prepare for the final presentation
- 第 12 回 Preparation for the Final Presentation (2)
Students prepare and rehearse for the final presentation
- 第 13 回 Presentations (1)
Feedback and discussion
- 第 14 回 Presentations (2)
Feedback and discussion
- 第 15 回 Review
Reviewing the past lectures and giving feedback

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

None / 実施しない。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This course will be conducted entirely in English, and students will achieve in-class tasks in pairs and in groups. In addition, students will prepare for their final presentation in groups.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students will be required to completing the assigned readings before class.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Classroom Participation: 30%

In-class Assignments: 20%

Group Presentation: 50%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule above will be flexible, and the instructor will adjust some aspects of the course to benefit the students. Even the style of this class may be changed into remote teaching due to the coronavirus(COVID-19) prevention. For the latest information, please check the 'manaba course.'

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Global Issues Towards Peace DVDで学ぶ共存社会—グローバル時代を考える』, 達川奎三他, 南雲堂, 2014年, ISBN 978-4-523-17741-8

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Handouts are distributed in class.

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Intercultural Communication and Adjustment

EGE2501N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜2限

DP5 : 共生・協働する力

60

「異文化間コミュニケーション」「Intercultural Communication and Adjustment」のうち、いずれか一方の単位を修得すると、他方を履修することはできない

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course teaches students how to communicate with people of different cultures and how to adapt when placed in unfamiliar cultures. As well as understanding these from a practical viewpoint we also try to understand them from an intellectual theoretical perspective. The course will help students understand intercultural contact, appreciate cultural and individual differences, adapt to unfamiliar situations, and communicate with confidence, empathy, and integrity.

We explore Japan and other cultures using research from a wide range of countries both inside and outside of Japan.

The course emphasises 'global citizenship'; how we are shaped not just from within Japan but also through our interactions with the rest of the world. Whether we choose to leave Japan to study abroad or not, we will have more and more interactions in the future with non-Japanese so we need to know how to be effective in these.

By using relevant theories and methods we are able to explain intercultural communication and adjustment in a number of common scenarios experienced by Japanese people.

The course uses a wide range of primary source materials in English.

The course is good preparation for students wishing to improve their overall English skills especially in reading and

writing, for students who wish to study abroad or interact with non-Japanese, and for students who wish to work as teachers of English or Japanese, or in the hospitality industry.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students will have a good understanding of how to thrive when interacting with non-Japanese. Students will be able to:

Understand identity and affiliation.

Understand how global interactions shape the world.

Recognize stereotypes and prejudices.

Appreciate differences between people.

Understand differences when studying and working abroad.

Manage intercultural anxiety and conflict.

Learn how to maintain physical and mental health whilst abroad.

Articulate important personal values in English.

Learn how to use English to cultivate deep relationships with foreign friends and colleagues.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力 Students know how to communicate effectively with non-Japanese and possess cultural understanding to adjust to different situations	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

第1回 Intercultural Communication & Adjustment: Introduction, Methods, Theories
What is intercultural communication?
Which methods and theories help us to study

- intercultural communication and adjustment?
How can having a 'global' perspective help us?
- 第 2 回 Nation and Culture
How does nationalism affect intercultural communication?
How do nihonjinron and banal nationalism get in the way of intercultural communication?
What stereotypes do non-Japanese have of Japanese people and how can we overcome them?
- 第 3 回 Communication in a Transnational World
How does mobility affect identity and belonging?
What does it mean to be Japanese outside of Japan?
What are the linguistic and cultural barriers Japanese abroad face and how can they overcome them?
- 第 4 回 Intercultural Communication and the Japanese education system
Does a typical Japanese education disadvantage students from becoming global citizens?
Why is the English language ability of Japanese on average so low compared with the rest of the world?
Should Japan support cultural and linguistic diversity?
What challenges do Japanese university students face when studying in a university abroad?
- 第 5 回 Working Abroad
How does globalisation affect intercultural business communication?
How are national cultural values different in English-speaking countries to Japan? What is it like working for a multinational company or a Japanese company abroad?
- 第 6 回 Friendships and Intergroup Tension
How can Japanese become friends with non-Japanese?
What strategies can Japanese use to deal with intergroup tensions due to cultural differences?
How does the character and personality of people who have lived in another country change?
- 第 7 回 Intercultural Romance
Is it possible for a Japanese person to have a successful long-term relationship with a non-Japanese?
What advantages and disadvantages do interracial couples have?
What are the implications for the children of these couples?
Would racism disappear if the world only had interracial couples?
- 第 8 回 Physical Health When Abroad
Why do people often become sick when they travel abroad?
- How can we eat, exercise, and rest effectively when in unfamiliar environments?
- 第 9 回 Mental Health When Abroad
What are the stages of cultural adjustment and how can they help us mentally adapt when abroad?
How can we overcome our fears when abroad?
What is reverse culture shock?
- 第 10 回 Adapting to University Life Abroad
What are the major differences between Japanese universities and universities in English-speaking countries?
What are common problems Japanese students face in universities during their study abroad experience?
Is it better to avoid making Japanese friends when you study abroad?
- 第 11 回 Language and Culture
What is linguistic relativity?
What is communicative relativity?
Is English a more important language than Japanese?
- 第 12 回 Sociolinguistic Approaches to Intercultural Communication
Does intercultural communication depend on language proficiency and language choice?
What is multilingualism and how does it help our understanding of other cultures? Are misunderstandings between different people due to language or cultural problems?
- 第 13 回 Language and Stereotyping
How has English been commercialised and globalised?
Why are cultures stereotyped in international advertising?
- 第 14 回 Intercultural Communication on the Internet
In what ways do people living in different countries and cultures connect over the Internet?
What are some examples of differences in how people from different parts of the world use the Internet?
Is it better to use or avoid machine-generated translation software when communicating with people over the Internet?
- 第 15 回 Non-verbal Intercultural Communication
Are gestures internationally understood?
How does voice pattern and tone affect communication with English-speaking people?
How close should people stand together when speaking?
Does body language vary by culture?
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of group discussions, assignments, tests, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, quizzes, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students should also review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments 50%

Quizzes 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using

the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

There is no textbook required for this course.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

www.lyledesouza.com/teaching

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Japan Studies

EGE2200N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 4限

DP2 : 知識・理解力

90

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course provides a comprehensive survey of the history, philosophy, politics, economics, society, and culture of Japan.

The course emphasises 'Global Japan'; how Japan is shaped from within and through interactions with the rest of the world.

We explore Japan using a wide range of research including primary source materials in English. By using relevant methods, theories, and case-studies we are able to explain contemporary Japan.

The course is good preparation for students wishing to improve their overall English skills in reading and writing, for students who wish to study abroad or communicate with non-Japanese, for students who wish to work as teachers of English or Japanese, and for students who wish to work in the hospitality industry.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This course aims to build knowledge of the history, philosophy, politics, economics, society, and culture of Japan. By the end of the course, students will have a good understanding of Japan and its place in the modern world. Students will be able to use appropriate vocabulary for applying what they have learned to describe Japan. Students will be able to evaluate and draw connections between ideas about Japan, as well as develop their own research and opinions related to Japan Studies.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Students possess knowledge of the history, philosophy, politics, economics, society, and culture of Japan.	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
Students will be able to use appropriate vocabulary for applying what they have learned to describe Japan.	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
Students will be able to evaluate and draw connections between ideas about Japan	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
Students will be able to develop their own research and opinions related to Japan Studies.	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

[授業計画]

- 第 1 回 Japan Studies: Introduction, Methods, Theories
 What is Japan Studies?
 What approaches help us to study Japan?
 What is a 'global' perspective on Japan Studies?
- 第 2 回 History: Prehistoric, Ancient, Classical, Feudal
 What are the major changes emanating from Japan's prehistoric, ancient, classical, and feudal eras?

- 第 3 回 History: Early Modern and Modern
 What are the major changes emanating from Japan's cultural flourishing during the Edo period, its defeat in the Second World War, and its 'economic miracle' during the postwar period?
- 第 4 回 Philosophy: The Japanese Mind
 What makes a person 'Japanese'?
 What are some differences in moral philosophy and elementary logic between Japanese and people in other countries?
 What does it mean to be Japanese outside of Japan?
- 第 5 回 Politics: Government, Political Participation, Women Leaders
 What is the Japanese political system?
 Why does politics matter?
 How can women be great leaders?
- 第 6 回 Economics: The Economic Miracle
 How did Japan achieve its economic miracle?
 Why was Japan's economic miracle admired around the world?
- 第 7 回 Economics: The Future for Young People in Japan
 What happened after the economic miracle?
 Why is there no longer a lifetime employment system in Japan?
 What is the future for the careers of young people in Japan?
- 第 8 回 Society: Rich Japan, Poor Japan
 What happened to Japan's 95% middle class?
 Who are Japan's rich?
 Why are there so many poor children in Japan?
- 第 9 回 Society: Diversity in Japan
 Who are the main minority communities in Japan?
 What sorts of lives do minority communities in Japan have?
 What is intercultural communication like between Japanese and minorities in Japan?
- 第 10 回 Society: Women in Japan
 What does it mean to be a Japanese woman today?
 How can literature help us understand Japanese women?
 How might having a 'global mindset' help the lives of Japanese women?
- 第 11 回 Society: Aging Japan
 Why are there so many old people in Japan?
 What problems does the elderly population have?
 What challenges does the government and society have in dealing with these problems?
 How can we design better lives for Japan's elderly both now and in the future?
- 第 12 回 Society: Social Problems
 Why are elderly citizens increasingly involved in crime?
 Why are single mothers treated poorly in Japan?

What is hikikomori?
What can be done to stop the increase of hikikomori?

Can hikikomori reintegrate into society?

第 13 回 Culture: Japanese Popular Culture

What is 'Cool Japan'?

How does Cool Japan benefit Japan?

What are the most influential works of recent Japanese popular culture around the world?

第 14 回 Culture: Traditional Japanese Culture

What is traditional Japanese culture?

Does it matter if young Japanese people do not want to keep alive traditional Japanese culture?

What are the most influential works of recent traditional Japanese culture around the world?

第 15 回 Culture: Selling Japan to the World

How does Japan advertise itself to foreign tourists?

How will the increase in tourism affect Japan in the future?

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of group discussions, assignments, quizzes, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, quizzes, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments 50%

Quizzes 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change

according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

There is no textbook required for this course.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

www.lyledesouza.com/teaching

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Japan Studies Workshop

EGE3251N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

定員30人

嶋本 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目の目的は、私たちの祖国である日本の伝統や文化を正しく理解し、実際に訪れ、外国語である英語でどのように伝えるのかを学ぶことです。講師は、長らく国土交通省公認通訳案内士として、英語で海外の人々に日本文化を紹介してきました。2020年はコロナ禍で日本を訪れる外国人観光客は皆無になりました。観光業は平和でなければ成り立たない脆弱さを改めて実感しました。しかし、観光業に特化しなくても、異文化や外国語に興味のある者には、日本の歴史や文化を英語で学ぶことは極めて大切なことです。担当講師は長年の通訳案内士の経験から、日本文化へ

の理解とその伝え方をお伝えます。なかでも、京都は日本文化の中心ですので、寺社を含む日本の歴史と文化に焦点をあてます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

本授業では、

1. 日本の伝統的事象を英語説明できることを目的とします。
2. 日本文化の基本構造を解説します。
3. 期間中に、課外実習として現役の通訳案内士である担当講師とともに、京都市内の寺社を訪れ、体験します。ただし、コロナ禍による自粛規制の状況があれば、課外実習は行いません。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Japan Studiesについて知ろうとする。	Japan Studiesを理解しようとする。	Japan Studiesについて、考えを深めようとする。	Japan Studiesを自らの言葉で語れるようになる。
知識・理解力	テキストの英語の単語を知る。	テキストの内容を20ワードで英作文ができる。	テキストの内容を50ワード以内で英作文ができる。	テキストの内容を50ワード以上の英作文ができる。
言語力	テキストの英単語を覚える。	テキストの内容を英語20ワードで話せるようになる。	テキストの内容を50ワード以内で話せるようになる。	テキストの内容を50ワード以上の言葉で話せるようになる。
思考・解決力	テストに解答する。	毎回のテストに高得点をとる。	レポートの内容を考えて、作成できる。	レポートの内容に自身の視点を踏まえることができる。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする。	友人たちと一緒に学ぼうとする。	友人とともにJapan Studiesの課題を学ぼうとする。	友人とともにJapan Studiesの勉強会をする。
創造・発信力	毎回のテストを受ける。	毎回のテストに高得点を取れるように自宅学習をする。	レポートを作成できる。	レポートの内容に自身の視点が反映されている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 日本の文化 娯楽
オリエンテーション。アニメ、カラオケなどの日本の娯楽を英語で話せるようにします。
- 第 2 回 日本の観光名所
日本の庭園の紹介と西洋の庭園との違いを英語で話せるようにします。
- 第 3 回 日本の宗教と精神

京都には多くの神社と寺院があります。それらの特徴を英語で話せるようにします。

- 第 4 回 日本の宗教と精神
日本神話と天皇を英語で話せるようにします。
- 第 5 回 日本の年中行事
七五三と子供の日のような日本の年中行事を話せるようにします。
- 第 6 回 日本の装い
日本の装いである着物を英語で話せるようにします。
- 第 7 回 日本のスポーツ
主に、相撲を英語で話せるようにします。
- 第 8 回 フィールドワーク
京都の寺院で、通訳案内の実践を行います。
- 第 9 回 日本の芸能
顔見世の季節ですので、歌舞伎を英語で話せるようにします。
- 第 10 回 日本の料理について
お正月が近づいてきますので、おせち料理を英語で話せるようにします。
- 第 11 回 日本の酒について
日本の酒について英語で説明できるようにします。日本酒の起源は神道とのつながりが深いですから、歴史的背景に英語で話せるようにします。
- 第 12 回 フィールドワーク
京都の神社で、通訳案内の実践を行います。
- 第 13 回 日本の文化
茶道を英語で話せるようにします。
- 第 14 回 日本語について
日本語の特徴を英語で話せるようにします。
- 第 15 回 日本に観光名所
温泉の特徴を英語で話せるようにします。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

1. 定期試験は実施しません。
2. 毎週その回で学んだ内容を、次回にリスニングテストをします。
3. 時に応じて英作文の宿題を出します。2と3が日常点となります。
4. 期末にはレポートを提出していただきます。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキスト『英語で説明する日本の文化』の音声教材を使います。
2. 翌週には復習としてのリスニングテストをし、採点をして返却します。
3. 通訳技法であるシャドーイングや、英語の速度を調整するリスニングのトレーニングを導入します。
4. 英語を発語することを重視します。ペアで練習します。積極的に英語を使ってください。
5. 発音することに恥ずかしがらないで下さい。
6. 講義の解説には、DVDを含む映像やパワーポイントを使います。
7. 期間中に課外実習として現役の通訳案内士である担当

講師とともに、京都市半日観光ツアー（講義2回分）への参加を求めます。2019年度では、伏見稲荷大社、東福寺、三十三間堂に行きました。

8. 授業中の質問には、その都度授業の中で口頭でフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 毎回のクラスでは、前回のクラスで学んだ内容についてのリスニング試験を行います。

2. その準備には、テキストのCDを最低30回は聞いていただきます。

3. 単語テストもありますので、次回までには2時間は復習してください。

4. テキストの内容に興味があれば、自主的に読み進めてください。

5. 学んでいる内容についてわからないことがあれば、事前に調べて、質問をしてください。

6. できるだけ講師から具体的な解説をしたいと思えます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加態度 / Class participation (30%)

授業でおこなう毎回の試験 / (40%)

最終回のレポート提出 (30%)

〔留意事項（Other Information）〕

1. 授業の一環である実地研修は、日時と見学場所を受講学生と調整します。

2. 実地研修の曜日は土曜日になります。

3. 参加費用として、拝観料は1500円程度の実費です。

4. 交通費は実費です。交通手段と訪問地、実地研修当日の天候により、費用は異なります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『英語で説明する日本の文化』 / 植田一三・上田敏子 / 語研 / ISBN 978-4-87615-189-9 / 学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『あなたも通訳ガイドです 英語で案内する京都』 / 柴山かつの / Japan Times / 2015年 / 9784789013680

『心にひびく日本のしきたり TIES WITH The PAST Japanese Customs, Traditions and Manners』 / 酒井信彦 / 講談社バイリンガル・ブックス / 2011年 / 978062500500

『英語で紹介するハンドブック』 / 松本美江 / アルク / 2014年 / 978475724395

『プロが教える現場の英語通訳ガイドスキル』 / クリス・ローソン 伊集院幸子 / 三修社 / 2010年 / 9784384055795

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

講師は現役の通訳案内士ですので、15回の講義のうち2回分は京都市内の寺社に行き、ガイドの実践を行います。ただし、コロナ禍による自粛規制がかかる状況であれば、課外実習は行いません。

Listening I A

EGB1302A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Philip Gurney

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The aim of this course is to improve students' academic and general English listening skills for the purposes of communication and study.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) Improvement in academic English Listening through understanding and application of listening strategies, identifying elements of discourse, note taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

(2) Improvements in General English Listening by understanding and engaging with authentic examples of spoken English, and development and application of personalized listening and learning strategies

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Pragmatic awareness: Understands nuance and intent behind speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Interaction: Is able to employ back-channeling, questioning for information/clarification to an interlocutor.				
3) Fluency: Is able to glean				

sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once.					創造 6) Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/ conclusions/ hypothesis about meaning not explicitly stated. ・発信力
4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information. 思考・解決力					[授業計画] 第 1 回 Course Introduction 第 2 回 Introduction to topics 第 3 回 Note-taking & Self-Study Strategies 第 4 回 Prediction & Pre-listening Strategies 第 5 回 Weak forms & Listening Strategies 第 6 回 Paraphrasing & Post Listening 第 7 回 Facts vs Opinion 第 8 回 Clarifying & Summarizing 第 9 回 Stress & Intonation 第 10 回 Asking for Information 第 11 回 Linking Sounds 第 12 回 Explaining with Evidence 第 13 回 Summarizing: Listen to Write 第 14 回 Summarizing: Listen to Speak 第 15 回 Review & Reflection [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート] 実施しない [教育・学習の方法 (Course Methods)] This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will be exposed to a wide variety of listening opportunities through the following: 1) discussion and presentation of topics with other students; 2) textbook exercises; 3) authentic English in the form of conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher and classmates.
5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.					

Students will demonstrate their skill and effort by completing weekly tasks, projects, and quizzes

Learning will supported through individual reflection, and feedback from the instructor and peers.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

- (1) Projects 45%
- (2) Weekly tasks 30%
- (3) Quizzes & Surveys 15%
- (4) Participation 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Academic Listening & Speaking 1』/Alastair Graham-Mar, Ben Tutchter/Abax/ ISBN : 978-1-78547-074-5/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening I B

EGB1302B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to comprehend spoken English for academic and communicative purposes.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Interaction /Pragmatic awareness: Is able to employ back-channeling, questioning for information/ clarification to an interlocutor; Understands nuance and intent behind speech	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information				
5) Prosody: Understands how intonation, tone and word stress correlate with meaning; Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Self-Introductions
 - 第 2 回 Meeting and Greeting People
 - 第 3 回 Sentence Stress
 - 第 4 回 Making Travel Arrangements
 - 第 5 回 Weak Forms
 - 第 6 回 Buying Things in a Shop
 - 第 7 回 Linking Sounds
 - 第 8 回 Ordering Food and Drink
 - 第 9 回 Mixed Sounds
 - 第 10 回 Making and Understanding Phone Calls
 - 第 11 回 Dropped Sounds
 - 第 12 回 Following Directions
 - 第 13 回 Sentence Stress
 - 第 14 回 Buying Tickets Over the Phone
 - 第 15 回 Weak Forms
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

Feedback methods:
Students will receive feedback on all in-class listening activities during each class. The instructor will provide the correct answers so that students may check their own work.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Top-Up Listening 2 Second Edition』/Bill Holden, Chris Cleary, and Terry Cooney/Abax/2015/978-1-896942-76-6/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening I C

EGB1302C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course focuses mainly on improving student's listening ability. It will give students a variety of listening opportunities including conversations, songs, radio shows, movies, YouTube clips, interviews, talks, and discussions. In addition to

American English, students will be exposed to accents from other English speaking countries as well as non-native speaker accents.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students will be able to identify main ideas and some details of spoken conversations and short talks on familiar topics. Students will begin to be able to take simple notes on short talks. Students will increase their vocabulary through study of vocabulary from audio texts. Students will be able to offer opinions on audio texts and begin to produce short summaries. Students will begin to make listening to English a daily habit and learn to listen for different purposes.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section.	<150	150~200	200~250	250+
2) Interaction /Pragmatic awareness: Is able to employ back-channeling , questioning for information/ clarification to an interlocutor. Understands nuance and intent behind speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

3) Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/conclusions/hypothesis about meaning not explicitly stated.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
- 第 2 回 Unit 1 Food: Listening 1 (page 12)
- 第 3 回 Unit 1 Food: Video
- 第 4 回 Unit 1 Food: expansion
- 第 5 回 Unit 2 Festivals: Listening 1 (page 20)
- 第 6 回 Unit 2 Festivals: Video
- 第 7 回 Unit 2 Festivals: expansion
- 第 8 回 Unit 3 Jobs: Listening (pg 32)
- 第 9 回 Unit 3 Jobs: video
- 第 10 回 Unit 3 Jobs: expansion
- 第 11 回 Unit 4 Journeys: Listening 1 (pg 40)
- 第 12 回 Unit 4 Journeys: video
- 第 13 回 Unit 4 Journeys: expansion

第 14 回 Unit 5 Music: Listening 1 (pg 52)

第 15 回 Unit 5 Music: video

Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will receive ongoing oral and written feedback on their assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as listening to songs and watching movies in English. Because students will engage in pair and group work in every class, they are expected to prepare for each class by doing any homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 20%

Homework 50%

In class Tests 10%

Final Presentation 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Inspire 2/Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon/Cengage/2014

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

News in Levels

<https://www.newsinlevels.com/>

Academic English

ELLLO

<http://elllo.org>

General English

Lyrics Training

<https://lyricstraining.com/>

General English

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening I D

EGB1302D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3：言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through various activities, the students will develop their ability to listen to and understand English conversations that not only could occur in the events and activities of daily life but that deal with current events in order to prepare students to participate as knowledgeable participants in English discourse.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives and help them understand the concept of becoming global citizens. Students will develop the skills to understand the gist and details of spoken information, as well as the critical thinking skills necessary to understand it.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section.	<150	150~200	200~250	250+
Pragmatic awareness	Does not meet course expectations yet	Is able to employ questioning for clarification to an interlocutor	Understands nuance and intent behind speech	Can explain pragmatic intent
Fluency	Does not meet course expectations yet	Can sufficiently summarize a short passage after listening several times	Can sufficiently summarize a short passage after listening twice	Can sufficiently summarize a short passage after listening once

Pronunciation	Does not meet course expectations yet	Is able to understand a variety of English pronunciation	Begins to develop the skills to understand unknown pronunciation	Has developed clear strategies to deal with difficult pronunciation
Prosody	Does not meet course expectations yet	Understands how intonation, tone and word stress correlate with meaning	Understands how elision works and is able to discern individual words in a stream of speech	Understands and can explain the functions of prosody, elision etc.
Understanding complex texts	Does not meet course expectations yet	Is able to draw information from various parts of a text	Is able to make hypotheses about implicit meaning	Is able to provide reasoned understanding of implicit meaning

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

Introduction and Explanation of the Listening I Course with Requirements and Expectations.

第 2 回 Topic Area 1: Food

Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and cultural elements related to *food*.

第 3 回 Topic Area 2: Family

Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and cultural elements related to *families*.

第 4 回 Topic Area 3: Songs

Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content, context and cultural elements related to *songs and artistic expression*.

第 5 回 Topic Area 4: Cities

Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *cities and city life*.

第 6 回 Topic Area 5: Jobs

Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and cultural/professional elements related to *jobs and employment*.

第 7 回 Topic Area 6: Hobbies

- Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and cultural elements related to discussions of *hobbies*.
- 第 8 回 Topic Area 7: Nature
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and related to *the natural world*.
- 第 9 回 Topic Area 8: Questions
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic aspects related to *questioning*.
- 第 10 回 Topic Area 9: Study
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *study*.
- 第 11 回 Topic Area 10: Career
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and related to *careers*.
- 第 12 回 Topic Area 11: Travel
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and descriptive aspects related to *travel*.
- 第 13 回 Topic Area 12: Recent Events
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and the understanding of multiple perspectives on recent domestic events.
- 第 14 回 Topic Area 13: Preparing for Final Listening Quiz
Based upon prior listening tasks, students will be required to prepare their own listening activity to present to classmates as a final project.
- 第 15 回 Final Listening Quiz, Reflection on Course and Feedback
Students will share their self-prepared listening activities, and engage in their classmates'. Reflection for the semester will also be conducted.

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The class will be conducted mostly in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about the given listening topics in pairs and small groups with attention being given to understanding how to be active listeners and better develop communicative competence. Every class will include a listening comprehension component that will count to the final grade.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be

discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student-centered listening course so students will be expected to put a lot of effort into both listening and speaking in English with classmates regularly.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Participation: 40%

Listening Comprehension Tasks: 40%

Final Listening Quiz: 20%

[留意事項 (Other Information)]

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No text required. Students will be provided with materials in class.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Listening I E

EGB1302E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

水曜1限

DP3 : 言語力

45

Gretchen Clark

[科目の教育目標 (Course Description)]

In this course, students will develop their oral communication skills. Listening and understanding the naturally spoken English of the teacher and peers is a main goal. We will practice listening for gist and details. We will study characteristics of spoken English such as 'linking sounds', 'weak vowels', 'sentence stress' and 'blended sounds'. An awareness of these features of spoken English will help students tackle authentic listening tasks outside of the classroom. The students will keep a listening journal/portfolio, document their progress, and weaknesses and strengths of their listening skill.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

By the end of this course, students will:

- 1) more successfully communicate meaning to their peers

- 2) have practiced and improved their understanding of naturally spoken English
- 3) have an awareness of the features of naturally spoken English
- 4) be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Interaction /Pragmatic awareness: Is able to employ back-channeling , questioning for information/ clarification to an interlocutor. Understands nuance and intent behind speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

conclusion s/ hypothesis about meaning not explicitly stated.				
--	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome to Listening I
Introduction to the course, community building activities
- 第 2 回 Community building activities
Goal setting, Listening Journal explanation
- 第 3 回 Unit 1: The guy with green hair
All classes will follow this loose format-->
1) Listening journal (in-class activity)
2) Speaking and listening activities
3) HW: online listening activity + reflection in the Listening Journal
- 第 4 回 Unit 2: The shoplifter
Expressing doubt; disagreement
- 第 5 回 Unit 3: I'm not addicted!
Firmly stating your views; Asking for input
- 第 6 回 Unit 4: Social media star
Expressing reasons and personal feelings; Asking for input.
- 第 7 回 Unit 5: Who pays?
Looking at at issue deeply; Expressing slight agreement
- 第 8 回 Unit 6: Saying 'I love you'
Expressing opinions strongly with reasons; agreement
- 第 9 回 Unit 7: Family values
Expressing opinions strongly with reasons; agreement
- 第 10 回 Unit 8: Cyber Love
Expressing opinions strongly; agreement
- 第 11 回 Unit 9: A visit to grandma
Expressing skepticism
- 第 12 回 Unit 10: Fan worship
Agreeing in a casual way
- 第 13 回 Supplementary activities
Pragmatics 1: contextual issues
- 第 14 回 Supplementary activities
Pragmatics 2: speaker-speaker social distance
- 第 15 回 Final reflections on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

There is no final exam.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework. General

class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to actively participate every class period AND diligently practice and reflect on their listening experiences outside of class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%

Listening Journal: 30%

Quizzes 10%

Speaking and writing tasks: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

Important: If you are also taking Speaking I/II E, we will also be using this textbook so there is no need to buy a second copy.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Impact Issues 1 (3rd edition) / Day, R., Shaules, J., Yamanaka, J. / Pearson Education South Asia Pterosaur's Ltd. / 2019 / ISBN 9789813134379

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening II A

EGB1352A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜 1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Philip Gurney

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to continue to improve students' academic and general English listening skills for the purposes of communication and study.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Further improvement in academic English Listening through understanding and application of listening strategies, identifying elements of discourse, note taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

(2) Further improvements in General English Listening by understanding and engaging with authentic examples of

spoken English, and development and application of personalized listening and learning strategies.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Pragmatic awareness: Understands nuance and intent behind speech.				
2) Interaction: Is able to employ back-channeling, questioning for information/clarification to an interlocutor.				
3) Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once.				

4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.				
5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.				

6) Understand ing complex texts: Is able to draw informatio n from various parts of a text to form ideas/ conclusion s/ hypothesis about meaning not explicitly stated.				
--	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Introduction to topics
- 第 3 回 Note-taking & Self-Study Strategies
- 第 4 回 Review Strategies
- 第 5 回 Disappearing Sounds & Listening Strategies
- 第 6 回 Paraphrasing & Focus on Meaning
- 第 7 回 Purpose of Writer/Speaker (Facts vs Opinion)
- 第 8 回 Paraphrasing
- 第 9 回 Intonation for Meaning
- 第 10 回 Asking for Further Information
- 第 11 回 Shared Sounds
- 第 12 回 Describing and Explaining
- 第 13 回 Summarizing: Listen to Write
- 第 14 回 Summarizing: Listen to Speak
- 第 15 回 Review & Reflection

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

Students will be exposed to a wide variety of listening opportunities through the following:

- 1) discussion and presentation of topics with other students;
- 2) textbook exercises;
- 3) authentic English in the form of conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher and

classmates.

Students will demonstrate their skill and effort by completing weekly tasks, projects, and quizzes

Learning will supported through individual reflection, and feedback from the instructor and peers.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time.

Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

- (1) Projects 45%
- (2) Weekly tasks 30%
- (3) Quizzes & Surveys 15%
- (4) Participation 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Academic Listening & Speaking 1』 /Alastair Graham-Mar, Ben

Tutcher/Abax/ ISBN : 978-1-78547-074-5/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening II B

EGB1352B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to comprehend spoken English for academic and communicative purposes.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required. These activities include pre-listening, listening, and post-listening tasks.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Interaction /Pragmatic awareness: Is able to employ back-channeling, questioning for information/ clarification to an interlocutor; Understands nuance and intent behind speech	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation; Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Prosody: Understands how intonation, tone and word stress correlate with meaning; Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction and Review
- 第 2 回 Following the Sports News
- 第 3 回 Linking Sounds
- 第 4 回 Understanding Airport Announcements
- 第 5 回 Dropped Sounds
- 第 6 回 Meeting People in Formal Situations
- 第 7 回 Mixed Sounds
- 第 8 回 Greeting Friends and Making Small Talk
- 第 9 回 Helping Sounds
- 第 10 回 Asking for Information

第 11 回 Intonation
 第 12 回 Describing Different Places
 第 13 回 Shared Sounds
 第 14 回 Holiday Plans
 第 15 回 Casual English and Weak Forms
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class listening activities during each class. The instructor will provide the correct answers so that students may check their own work.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『Top-Up Listening 2 Second Edition』/Bill Holden, Chris Cleary, and Terry Cooney/Abax/2015/978-1-896942-76-6/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Listening II C

EGB1352C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course focuses mainly on improving student's listening ability. It will give the students a variety of listening opportunities including conversations, songs, radio shows, movies, YouTube clips, interviews, and discussions. In addition to American English, students will be exposed to accents from other English speaking countries as well as non-native speaker accents.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Students will be able to identify main ideas and some details of spoken conversations and short talks on familiar topics. Students will advance their ability to take notes. Students will be able to offer their opinions on more complex audio texts and produce short summaries. Students will make listening a daily habit and listen to English for different purposes.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section.	<150	150~200	200~250	250+

<p>2) Interaction /Pragmatic awareness: Is able to employ back-channeling , questioning for information/ clarification to an interlocutor. Understands nuance and intent behind speech.</p>	<p>Does not meet course expectations yet</p>	<p>Meets some course expectations</p>	<p>Meets most course expectations and excels on some criteria</p>	<p>Exceeds most course expectations</p>
<p>3) Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once.</p>	<p>Does not meet course expectations yet</p>	<p>Meets some course expectations</p>	<p>Meets most course expectations and excels on some criteria</p>	<p>Exceeds most course expectations</p>

<p>4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.</p>	<p>Does not meet course expectations yet</p>	<p>Meets some course expectations</p>	<p>Meets most course expectations and excels on some criteria</p>	<p>Exceeds most course expectations</p>
<p>5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.</p>	<p>Does not meet course expectations yet</p>	<p>Meets some course expectations</p>	<p>Meets most course expectations and excels on some criteria</p>	<p>Exceeds most course expectations</p>

6) Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/conclusions/hypothesis about meaning not explicitly stated.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
--	---------------------------------------	--------------------------------	--	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 6 Journeys Listening 2 (pg 62)
- 第 2 回 Unit 6 Journeys video
- 第 3 回 Unit 6 Journeys expansion
- 第 4 回 Unit 7 Family Listening 1 (p 73)
- 第 5 回 Unit 7 Family video
- 第 6 回 Unit 7 Family expansion
- 第 7 回 Unit 8 Nature: Listening 1 (pg 80)
- 第 8 回 Unit 8 Nature: video
- 第 9 回 Unit 8 Nature: expansion
- 第 10 回 Unit 9 Happiness: Listening 1 (p. 92)
- 第 11 回 Unit 9 Happiness: video
- 第 12 回 Unit 9 Happiness: expansion
- 第 13 回 Unit 10: Conservation Listening 1 (p 100)
- 第 14 回 Unit 10: Conservation video
- 第 15 回 Unit 10: Conservation expansion

Course Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive oral and written feedback on their work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should maximize their exposure to English outside of class as much as possible. Because students will engage in pair

and group work in every class, they are expected to prepare for each class by doing any homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 20%

Homework 50%

Quizzes 10%

Final Project 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Inspire 2/Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon/Cengage/2014/978-1-133-96368-4

This is the same book used in Listening 1.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

News in Levels

<https://www.newsinlevels.com/>

Academic English

ELLLO

<http://elllo.org>

General English

Lyrics Training

<https://lyricstraining.com/>

General English

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening II D

EGB1352D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to listen and understand English confidently.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English listening skills that they will be able to use in their daily lives.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section.	>150	150~200	200~250	250+
Interaction & Pragmatic awareness	Does not meet course expectations yet	Is able to employ questioning for clarification to an interlocutor	Understands nuance and intent behind speech	Can explain pragmatic intent
Fluency	"Does not meet course expectations yet	Can sufficiently summarize a short passage after listening several times	Can sufficiently summarize a short passage after listening twice	Can sufficiently summarize a short passage after listening once
Pronunciation	"Does not meet course expectations yet	Is able to understand a variety of English pronunciation	Begins to develop the skills to understand unknown pronunciation	Has developed clear strategies to deal with difficult pronunciation
Prosody	"Does not meet course expectations yet	Understands how intonation, tone and word stress correlate with meaning	Understands how elision works and is able to discern individual words in a stream of speech	Understands and can explain the functions of prosody, elision etc.
Understanding complex texts	"Does not meet course expectations yet	Can draw information from various parts of a text	Can make hypotheses about implicit meaning	Can provide reasoned understanding of implicit meaning

[授業計画]

- 第 1 回 Orientation
Introduction and Explanation of the Listening II D Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Friendship

- Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *friendship*.
- 第 3 回 Topic Area 2: Fears and Phobias
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *fears and phobias*.
- 第 4 回 Topic Area 3: Health
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *physical and mental health*.
- 第 5 回 Topic Area 4: Disappearing Cultures
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *endangered or minority cultures*.
- 第 6 回 Topic Area 5: Youth
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *young people*.
- 第 7 回 Topic Area 6: Study
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *university study*.
- 第 8 回 Topic Area 7: Questions
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content and pragmatic elements of effective *questioning*.
- 第 9 回 Topic Area 8: Responsibilities
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *responsibilities*.
- 第 10 回 Topic Area 9: Trends
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *trends* within specific contexts.
- 第 11 回 Topic Area 10: Consumerism
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *consumerism*.
- 第 12 回 Topic Area 11: Recent Events
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *recent domestic events* and their implications.
- 第 13 回 Topic Area 12: Global Events
Amongst other tasks, students will engage in long listening activities with a focus on content related to *recent international/global events* and their implications.
- 第 14 回 Topic Area 13: Preparing for Final Listening Quiz
Based upon prior listening tasks, students will be required to prepare their own listening activity to present to classmates as a final project.
- 第 15 回 Final Listening Task, Reflection on Course and Feedback

Students will share their self-prepared listening activities, and engage in their classmates'.

Reflection for the semester will also be conducted.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. All assignments will re-enforce the points covered in class. Students will receive ongoing formative feedback during in-class listening activities. Students will also be encouraged to record personal weaknesses in homework listening, then address those issues in class.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with homework completed, textbook, loose leaf paper, pencil, eraser, pen and any material that the teacher may have given to the students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 40%

Listening Comprehension Tasks 40%

Final Listening Task 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Listening II E

EGB1352E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP3: 言語力

45

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is a continuation of Listening I. This term, students will continue developing their oral communication skills. Listening and understanding the naturally spoken English of the teacher and peers is the main goal. We will practice listening for gist and details. We will study characteristics of spoken English such as 'linking sounds', 'weak vowels', 'sentence stress' and 'blended sounds'. An awareness of these features of spoken English will help students tackle authentic listening tasks outside of the classroom. The students will continue keeping a listening journal, documenting their progress, weaknesses and strengths of their listening skill.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of this course, students will:

- 1) more successfully communicate meaning to their peers
- 2) have practiced and improved their understanding of naturally spoken English
- 3) have an understanding of the features of naturally spoken English
- 4) be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Can achieve a score of 200 in the TOEIC Listening Section.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Interaction / Pragmatic awareness: Is able to employ back-channeling	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

questioning for information/ clarification to an interlocutor. Understands nuance and intent behind speech.				
Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize short passage after listening once.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/ conclusion s/ hypothesis about meaning not explicitly stated.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

- 第 1 回 Welcome back from summer vacation!
Community building activities.
- 第 2 回 Unit 11: Pet peeve
All classes will follow this loose format-->
1) Listening journal (in-class activity)
2) Speaking and listening activities
3) HW: online listening activity + reflection in the Listening Journal
- 第 3 回 Unit 12: Close your eyes and see
Expressing and explaining opinions; Asking others for input
- 第 4 回 Unit 13: Protecting our environment
Expressing your opinion strongly; Encouraging others

第 5 回 Unit 14: Get a job!
Expressing opinions; Expressing complete agreement

第 6 回 Unit 15: To tell or not to tell
Expressing skepticism and showing willingness to entertain different views

第 7 回 Unit 16: Flight 77
Expressing slight disagreement

第 8 回 Unit 17: To have or not to have
Expressing disagreement strongly

第 9 回 Unit 18: Are humans smart?
Agreeing politely

第 10 回 Unit 19: Cloning Cyndi
Saying opinion with support

第 11 回 Unit 20: Why learn English?
Exploring an issue

第 12 回 Supplementary activities
Pragmatics 3: Asking follow-up questions

第 13 回 Supplementary activities
Pragmatics 4: Beginning and ending a conversation naturally

第 14 回 Supplementary activities
Pragmatics 5: Responding verbally/ non-verbal communication

第 15 回 Final reflections on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

There is no final exam.
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to actively participate in the classroom/ online, show effort, and complete the assigned homework. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to actively participate both in the classroom and online AND diligently practice and reflect on their listening experiences outside of class.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%
Listening Journal: 30%
Quizzes: 10%
Speaking and writing tasks: 30%
〔留意事項 (Other Information)〕

Important: If you are also taking Speaking I/II E, we will also be using this textbook so there is no need to buy a second copy.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Impact Issues 1 (3rd edition) / Day, R., Shaules, J., Yamanaka, J. / Pearson Education South Asia Pterosaur's Ltd. / 2019 / ISBN 9789813134379

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Persuasive Communication

EGE3402N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次 4年次

2単位 前期

月曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will mainly survey different theories in the field of persuasion/social influence. The main goal of the course is to facilitate students' understanding of and ability to evaluate persuasive communication (social campaign, media advertisement, interpersonal compliance gaining, etc.).

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

By the end of the course, students should know:

(1) How to interpret, understand, and evaluate persuasive messages

(2) How to plan and develop their own persuasive communication

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation / Introduction to Persuasion

第 2 回 On Comm Skill / Persuasion & Attitude

- 第 3 回 Persuasion and Attitude
- 第 4 回 Theory of Reasoned Action
- 第 5 回 Cognitive Dissonance Theory
- 第 6 回 Elaboration Likelihood Model
- 第 7 回 Review & Midterm Exam
- 第 8 回 Group Project Orientation / Research Methods (1): Survey Research
- 第 9 回 Research Methods (2): Scale Development
- 第 10 回 Message Factor (1): Compliance Gaining Strategies
- 第 11 回 Message Factor (2): Fear Appeal
- 第 12 回 Covert Communication (1): Deception in Advertisement
- 第 13 回 Covert Communication (2): Pragmatics Theory of Deception
- 第 14 回 Group Project Presentation Day 1: Groups 1, 2, & 3
- 第 15 回 Group Project Presentation Day 2: Groups 4 & 5

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

Homework Assignments & Participation: There will be several homework assignments during the term. Each assignment will be worth 20~25pts and will be due at the beginning of the next class period. You must TYPE your answers (unless told otherwise) and submit them in class. You also need to contribute to class discussion.

Group Project: As a group, you will develop a persuasive message (or campaign) which attempts to persuade a real target (e.g., students at KNDU, college students in general, etc.). In this assignment, you will (a) observe your targets' attitude before you develop a message, (b) develop a persuasive message, and (c) measure your targets' attitude change. As always, your persuasive message should reflect your knowledge of "effective" persuasion. Further instructions will be given in class as the semester goes on.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

The students are expected to read the assigned reading materials and be fully ready for discussions in class.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

45

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

(1) Quizzes: 40% (including the Midterm Exam)

(2) Group Project 30%

(3) Final Paper: 30%

[留意事項 (Other Information)]

This course will be a "blended" course in the Fall of 2020. We will be meeting in class for some weeks, but some classes will be asynchronous (manaba assignments etc.). Carefully follow the instructor's instruction at Manaba, and make sure to check the the Course News every week.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『Persuasive Communication, 3rd ed』 /Stiff., J. B., & Mongeau, P. A./Guilford Publication/2016/1462526845

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Popular Culture

EGE2201N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

Gretchen Clark

[科目の教育目標 (Course Description)]

In this course, students will learn about various current and past popular culture trends in television, cinema, music, fashion, sports, social media and more. Classroom activities will include short-mini lectures about international trends and opportunities for students to introduce and talk about their own interests. We will also discuss how societal values might shape popular culture. The course will conclude with a final project in which students will research and present on a past or current trend in another country.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

By the end of the course, students will:

- 1) be familiar with various aspects of popular culture from around the world
- 2) be able to speak about various popular trends with their classmates
- 3) developed some skill in critically analyzing how a particular trend reflects values of current society

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

weaknesses + goals				
Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Interaction: Can navigate a conversation with a partner with success	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to the Course
- 第 2 回 Theme 1: Social Media
The history of Facebook
- 第 3 回 Theme 1: Social media
Instagram, Twitter, SnapChat etc.
- 第 4 回 Theme 2: Entertainment
Music (Beyonc?, Taylor Swift, Ani DiFranco etc.)
- 第 5 回 Theme 2: Entertainment
'Reality' TV/Movies (Survivor, The Amazing Race, Project Runway, The Blair Witch Project etc.)
- 第 6 回 Theme 2: Entertainment
Animation (Kiki's Delivery Service, Frozen etc.)
- 第 7 回 Theme 2: Entertainment
Celebrity change makers (Lady Gaga, Emma Watson, Awkwafina etc.)
- 第 8 回 Theme 3: Lifestyle
Wellness (Oprah Winfrey, Rupy Ajula, Kayla Itsines etc.)
- 第 9 回 Theme 3: Lifestyle
Minimalism (Muji, Marie Kondo, Joshua Becker etc.)
- 第 10 回 Theme 4: Fashion
Fast fashion (Uniqlo, Zara etc.) + Sustainability
- 第 11 回 Theme 4: Fashion

Magazines and advertising (Seventeen, Sassy and Riot Grrls etc)

- 第 12 回 Project work: Planning
- 第 13 回 Project work: Visual preparation
- 第 14 回 Project work: Practice
- 第 15 回 Final Presentations + reflection on learning
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students can expect to work in pairs and groups with each other/the instructor in a lively classroom environment. Active participation is key: be bold and enthusiastic every class. Mistakes are welcome! Assignments will be submitted on paper in class/ on the school learning management system, Manaba. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. Students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Weekly topic assignments: 70%

Final Project: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook required. The instructor will provide course materials.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Public Speaking

EGE2302N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3 : 言語力

60

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course develops public speaking skills in English. The goal is for students to be able to speak in public in a variety of situations.

Students participate in topical and issue-based speaking, as well as personal stories and first-person narratives.

The course includes learning how to use academic presentation software to describe pictures, data, statistics, and charts.

The course provides good preparation and confidence for customer-facing careers, as well as providing confidence to students who will study abroad using English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Master a variety of short speech styles such as describing a place or area, teaching about a festival or event, or introducing a visiting guest to our university.

Develop and practice academic presentations based on topics discussed in class.

Carry out focused research in English using the Internet to collect statistics, charts, and other information necessary to make a presentation.

Learn computer skills related to creating visual aids for presentations.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Students can make an effective short public speech of up to five minutes	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

Students can research in English using the Internet to collect statistics, charts, and other information necessary to make a presentation.	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
Students possess the computer skills needed to create visual aids for presentations.	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to 'Public Speaking'
- 第 2 回 Memorising
- 第 3 回 Body: posture, hand position
- 第 4 回 Body: gestures, pauses
- 第 5 回 Body: voice projection, eye contact
- 第 6 回 **PRESENTATION 1**
- 第 7 回 Content: make the audience care, use speaking words
- 第 8 回 Content: using stories, phrasing
- 第 9 回 Content: volume, dialogue voice
- 第 10 回 Content: voice variation, pauses for effect
- 第 11 回 **PRESENTATION 2**
- 第 12 回 Presentation software: design principles
- 第 13 回 Presentation software: adding content
- 第 14 回 Presentation software: delivery
- 第 15 回 **PRESENTATION 3**

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students choose and develop their own topics for their presentations.

Students do a variety of group discussions, assignments, quizzes, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, quizzes, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

Students will need preparation and practice for their three assessed short speaking presentations. The presentations we do in class will be less than 3 minutes per student. Although this is relatively short, **students must practice sufficiently by themselves until they are good at delivering their presentation.**

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

30% Presentation 1

30% Presentation 2

40% Presentation 3

[留意事項 (Other Information)]

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using

the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

There is no textbook required for this course.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

www.lyledesouza.com/teaching

[実務経験のある教員による実践的科目]

Reading I A 2013年度以降入学者

EGB1300A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

York Weatherford

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the readings regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can read at 120 WPM	Does not meet course	Meets some course	Meets most course expectation	Exceeds most course

	expectations yet	expectations	s and excels on some criteria	expectations
2) Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Can score TOEIC 200 in Reading	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Can understand the main ideas	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Can find reasons and examples	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Can express the meaning of written discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
 - 第 2 回 Predicting
 - 第 3 回 Scanning
 - 第 4 回 Reading for Details
 - 第 5 回 Identifying Parts of Speech
 - 第 6 回 Using Subheadings to Predict Content
 - 第 7 回 Fluency Practice
 - 第 8 回 Establishing Context
 - 第 9 回 Finding Supporting Ideas
 - 第 10 回 Interpreting Tables and Graphs
 - 第 11 回 Identifying Steps in a Sequence
 - 第 12 回 Understanding a Chronology
 - 第 13 回 Identifying Events in a Narrative
 - 第 14 回 Recognizing Synonyms
 - 第 15 回 Fluency Practice; Final Reports
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively. Preparation includes reading assignments, written work, and other tasks.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide answers to all reading comprehension questions so that students may check their own work.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom Participation: 30%

Homework Assignments: 30%

Quizzes: 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes): 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading I C 2013年度以降入学者

EGB1300C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course develops English reading skills.

The course is good preparation for the sophomore class 'Advanced Reading I/II', future TOEIC tests, and for students who wish to study abroad.

Students learn to read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Students learn high frequency vocabulary and improve their reading fluency using extensive reading. Students should aim to read quickly but thoroughly.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Acquire mastery of high frequency vocabulary.

Improve reading fluency and comprehension using online extensive reading software. Students read a variety of reading materials, often the student's own choice. Students are encouraged to push themselves slightly further each week with the length and difficulty of these reading materials.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 1) Can read at 120 WPM	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 2) Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 3) Can score TOEIC 200 in Reading	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 4) Can understand the main ideas	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 5) Can find reasons and examples	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
言語力 6) Can express the meaning of written discourse	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 1: Your Personality
Reading 1: Right Brain, Left Brain
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 2 回 Unit 1: Your Personality
Reading 1: Right Brain, Left Brain
Discussion, critical thinking
- 第 3 回 Unit 1: Your Personality
Reading 2: Let's Face It
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 4 回 Unit 1: Your Personality
Reading 2: Let's Face It
Discussion, critical thinking
- 第 5 回 Unit 2: Food
Reading 1: Live a Little Eat Potatoes!
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 6 回 Unit 2: Food
Reading 1: Live a Little Eat Potatoes!
Discussion, critical thinking
- 第 7 回 Unit 2: Food
Reading 2: Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 8 回 Unit 2: Food
Reading 2: Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes
Discussion, critical thinking
- 第 9 回 Unit 3: Celebrations and Special Days
Reading 1: Tihar: Festival of Lights
Pre-reading, vocabulary, comprehension, discussion, critical thinking
- 第 10 回 Unit 3: Celebrations and Special Days
Reading 2: Celebrating a Fifteenth Birthday
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 11 回 Unit 3: Celebrations and Special Days
Reading 2: Celebrating a Fifteenth Birthday
Discussion, critical thinking
- 第 12 回 Unit 4: Amazing People
Reading 1: Barrington Irving's Dream to Fly
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 13 回 Unit 4: Amazing People
Reading 1: Barrington Irving's Dream to Fly
Discussion, critical thinking
- 第 14 回 Unit 4: Amazing People
Reading 2: The Amazing Fiennes
Pre-reading, vocabulary, comprehension
- 第 15 回 Unit 4: Amazing People
Reading 2: The Amazing Fiennes
Discussion, critical thinking

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students actively read English using a variety of exercises,

assignments, tests, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, quizzes, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should prepare for each class as directed by the professor.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

45

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments and quizzes 80%

Extensive reading quizzes 20%

[留意事項 (Other Information)]

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Weaving it Together 2, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 978-1305251656

This textbook is also used in Writing I.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

www.lyledesouza.com/teaching

[実務経験のある教員による実践的科目]

Reading I D 2013年度以降入学者

EGB1300DJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜 1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

木島 菜菜子

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the readings regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
1) Can read at 120 WPM				
2) Has reached Extensive Reading Goal				
3) Can score TOEIC 200 in Reading				
4) Can understand the main ideas				
5) Can find reasons and examples				
6) Can express the meaning of written discourse				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Predicting
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 3 回 Scanning
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 4 回 Reading for Details
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 5 回 Identifying Parts of Speech
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 6 回 Using Subheadings to Predict Content
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 7 回 Fluency Practice
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 8 回 Establishing Context

- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 9 回 Finding Supporting Ideas
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 10 回 Interpreting Tables and Graphs
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 11 回 Identifying Steps in a Sequence
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 12 回 Understanding a Chronology
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 13 回 Identifying Events in a Narrative
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 14 回 Recognizing Synonyms
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 15 回 Fluency Practice & Review
- Breaking News English, Quiz
- Final Reports
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively. Preparation includes reading assignments, written work, and other tasks.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
Classroom Participation: 30%
Homework Assignments: 30%
Quizzes: 20%
Extensive Reading (M-Reader Quizzes): 20%
The feedback for all assignments will be given individually to the students.
〔留意事項 (Other Information)〕
The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
Reading materials are provided by the instructor.
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

[参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

Reading II A 2013年度以降入学者

EGB1350A0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 1年次
 2単位 後期
 火曜1限
 DP3: 言語力
 60
 必修 クラス指定
 York Weatherford

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the readings regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can read at 120 WPM	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

3) Can score TOEIC 200 in Reading	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Can understand the main ideas	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Can find reasons and examples	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Can express the meaning of written discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

第 1 回 Course Introduction

第 2 回 Skimming for Main Ideas

第 3 回 Identifying Supporting Details

第 4 回 Identifying Transition Words

第 5 回 Making Inferences

第 6 回 Scanning for Details

第 7 回 Fluency Practice

第 8 回 Making Predictions

第 9 回 Recognizing Connections

第 10 回 Guessing Meaning from Context

第 11 回 Identifying the Target Audience

第 12 回 Understanding Pronoun Reference

第 13 回 Taking Notes

第 14 回 Evaluating Source Reliability

第 15 回 Fluency Practice; Final Reports

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively. Preparation includes reading assignments, written work, and other tasks.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide answers to all reading comprehension questions so that students may check their own work.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Classroom Participation: 30%

Homework Assignments: 30%

Quizzes: 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes): 20%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Reading II C 2013年度以降入学者

EGB1350C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course develops English reading skills.

The course is good preparation for the sophomore class 'Advanced Reading I/II', future TOEIC tests, and for students who wish to study abroad.

Students learn to read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Students learn high frequency vocabulary and improve their reading fluency using extensive reading. Students should aim to read quickly but thoroughly.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Read English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

Acquire mastery of high frequency vocabulary.

Improve reading fluency and comprehension using online extensive reading software. Students read a variety of reading materials, often the student's own choice. Students are encouraged to push themselves slightly further each week with the length and difficulty of these reading materials.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力1) Can read at 120 WPM2) Has reached Extensive Reading Goal3) Can score TOEIC 200 in Reading4) Can understand the main ideas5) Can find reasons and examples6) Can express the meaning of written discourse	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

第 1 回 Unit 5: Nature Attacks!

Reading 1: Lightning

Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 2 回 Unit 5: Nature Attacks!

Reading 1: Lightning

Discussion, critical thinking

第 3 回 Unit 5: Nature Attacks!

Reading 2: Chasing Storms
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 4 回 Unit 5: Nature Attacks!
Reading 2: Chasing Storms
Discussion, critical thinking

第 5 回 Unit 6: Inventions
Reading 1: The GoPro Camera
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 6 回 Unit 6: Inventions
Reading 1: The GoPro Camera
Discussion, critical thinking

第 7 回 Unit 6: Inventions
Reading 2: Changing Living Things?
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 8 回 Unit 6: Inventions
Reading 2: Changing Living Things?
Discussion, critical thinking

第 9 回 Unit 7: Customs and Traditions
Reading 1: Flowers, Dishes, and Dresses
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 10 回 Unit 7: Customs and Traditions
Reading 1: Flowers, Dishes, and Dresses
Discussion, critical thinking

第 11 回 Unit 7: Customs and Traditions
Reading 2: What's in a Name?
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 12 回 Unit 7: Customs and Traditions
Reading 2: What's in a Name?
Discussion, critical thinking

第 13 回 Unit 8: Readings from Literature
Reading 1: Months
Pre-reading, vocabulary, comprehension

第 14 回 Unit 8: Readings from Literature
Reading 1: Months
Discussion, critical thinking

第 15 回 Unit 8: Readings from Literature
Reading 2: Fate
Pre-reading, vocabulary, comprehension,
discussion, critical thinking

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The course is conducted entirely in English.

Students actively read English using a variety of exercises, assignments, tests, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, tests, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and tests 80%

Extensive reading quizzes 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Weaving it Together 2, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 978-1305251656

This textbook is also used in Writing I.

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

[参考URL(URL for Reference)]

www.lyledesouza.com/teaching

[実務経験のある教員による実践的科目]

Reading II D 2013年度以降入学者

EGB1350D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

木島 菜菜子

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details, as well as pair and group discussions on reading content. Other activities will include scanning and skimming activities and comprehension tasks to identify main ideas and supporting details. In addition, students will develop their receptive and productive vocabulary through lexical analysis activities. Students will also discuss and present their own ideas on the readings regularly throughout the course.

Students will also be expected to do extensive reading outside of the class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes on the M-Reader website.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 Reading Expectations	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
1) Can read at 120 WPM				
2) Has reached				

Extensive Reading Goal				
3) Can score TOEIC 200 in Reading				
4) Can understand the main ideas				
5) Can find reasons and examples				
6) Can express the meaning of written discourse				

[授業計画]

- 第 1 回 Course Introduction
- 第 2 回 Skimming for Main Ideas
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 3 回 Identifying Supporting Details
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 4 回 Identifying Transition Words
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 5 回 Making Inferences
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 6 回 Scanning for Details
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 7 回 Fluency Practice
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 8 回 Making Predictions
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 9 回 Recognizing Connections
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 10 回 Guessing Meaning from Context
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 11 回 Identifying the Target Audience
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 12 回 Understanding Pronoun Reference

- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 13 回 Taking Notes
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 14 回 Evaluating Source Reliability
- Breaking News English, Quiz
- Reading log
- 第 15 回 Fluency Practice & Review
- Final Reports
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively. Preparation includes reading assignments, written work, and other tasks.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Classroom Participation: 30%

Homework Assignments: 30%

Quizzes: 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes): 20%

The feedback for all assignments will be given individually to the students.

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Reading materials are provided by the instructor.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Speaking I A

EGB1303A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

York Weatherford

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English in academic and everyday situations. Students will also practice pronunciation and presentation skills.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Prosody: Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm of English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (90 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

4) Pragmatics : Has an awareness of appropriate language to use in a specific context	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/ Quizlet Set 43)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to the course; Speaking Skill: Giving tips or suggestions
- 第 2 回 Pronunciation: Syllable stress
- 第 3 回 Presentation Skill: Focussing your topic
- 第 4 回 Group Presentation
- 第 5 回 Speaking Skill: Using descriptive language
- 第 6 回 Pronunciation: Thought groups and pauses
- 第 7 回 Presentation skill: Using visual aids
- 第 8 回 Individual presentation
- 第 9 回 Speaking Skill: Using listing signals
- 第 10 回 Pronunciation skill: Statement intonation
- 第 11 回 Presentation Skill: Rehearsing
- 第 12 回 Panel Discussion
- 第 13 回 Speaking Skill: Giving reasons
- 第 14 回 Presentation skill: Using an effective hook
- 第 15 回 Individual Presentation

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communications activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking I B

EGB1303B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain confidence in speaking as they produce volumes of spoken output and receive ongoing formative feedback.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Clarity of voice	When I am speaking my voice is very quiet and it is difficult for others to hear and understand me.	Sometimes my voice and pronunciation are clear but sometimes I begin to speak quietly and rely on Japanese-style pronunciation.	The teacher and my peers have no problem hearing my voice but sometimes they cannot understand some words.	I can speak in a clear voice with excellent rhythm and articulation so that my peers and instructor have no problem with understanding me.
Content	I usually only give one word answers without any elaboration.	I speak simply and give typical answers with very little elaboration.	I try to add interesting content to my sentences but only if the instructor asks.	I am able to produce longer and more complex sentences. The content of my sentences is interesting and thought provoking.
Grammatical accuracy	My sentences are often difficult to understand as if I'm translating directly from Japanese.	The instructor and my peers can understand my sentences but with some difficulty.	The instructor and my peers can understand what I want to say regardless of any grammatical errors.	When I speak my sentence structure is clear and appropriate. There is little ambiguity in what I want to say.

Fluency	I speak in English but I have to pause between nearly every word so that I can think of the next one.	I can speak fluidly in phrases but between each phrase I have to stop to think. I require notes	I can speak in sentences but I require notes or pre-written sentences to help me.	I speak at a natural pace and only pause when it is appropriate to do so. I can do this without relying too much on notes
Participation	I attend the classes but I do not actively answer questions or participate proactively in group activities.	I attend classes and respond to the teacher when asked.	I attend the classes and spontaneously respond to the teacher during small group activities and sometimes in whole class activities.	In every class I play an active role by answering the teacher's questions and/or by engaging with and sometimes helping in group activities.
Logical flow	I respond with either yes or no most of the time.	I respond in one sentence. It is clear what I want to say but I don't give reasons or examples.	I present my main idea clearly and I also provide at least one reason for my opinion or idea.	When I speak in English I clearly state my idea, the reasons for why I think so and provide examples to back up or clarify my thoughts.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Fluency, Accuracy, and Complexity in Speaking
- 第 2 回 Output, Output, and More Output, Fluency Activities
- 第 3 回 Classmate Interviews - Your English History, Fluency Activities
- 第 4 回 Classmate Interviews - Your Study System, Fluency Activities
- 第 5 回 The Hot Seat - Fluency & Speed
- 第 6 回 Narratives - Childhood Stories
- 第 7 回 Narratives - Favorites, Dreams, & Goals
- 第 8 回 Review Exercises of TTT
- 第 9 回 My Personality - Personality Surveys, Dictogloss
- 第 10 回 Describing - Japanese Culture
- 第 11 回 Describing - Japanese Pop Culture
- 第 12 回 Explaining - Best Things about Japan
- 第 13 回 Explaining - Worst Things about Japan

第 14 回 Final Presentations and Feedback (First half of class)

第 15 回 Final Presentations and Feedback (Second half of class)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will receive extensive and ongoing formative feedback during speaking activities in class. They will also receive feedback on the content and delivery of recorded speaking activities done for homework.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts at improving their English in and out of class.

Class participation & Homework 40%

In class Tests 30%

Final Presentation 30%

Feedback will be provided in class during activities and through individual commentary on manaba when assignments are set.

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search, "How to Improve my Speaking"

For example,

<https://www.fluentu.com/blog/english/how-to-improve-spoken-english/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking I C

EGB1303C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities, students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives. Students will also learn the relevance of discourse markers for oral fluency enhancement.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Prosody: Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (90 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Pragmatics: Has an	Does not meet course	Meets some course	Meets most course expectation	Exceeds most course

awareness of appropriate language to use in a specific context.	expectations yet	expectations	s and excels on some criteria	expectations
5) Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/Quizlet Set 43)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
Course introduction
- 第 2 回 Unit 1: food: expressing and discussing preferences
Unit 1: food: expressing and discussing preferences
- 第 3 回 Unit 1: food: discussing habits
Unit 1: food: discussing habits
- 第 4 回 Unit 1: food: giving advice
Unit 1: food: giving advice
- 第 5 回 Unit 2: Festivals: describing local festivals
Unit 2: Festivals: describing local festivals
- 第 6 回 Unit 2: Festivals: making recommendations
Unit 2: Festivals: making recommendations
- 第 7 回 Unit 2: Festivals: mini presentation
Unit 2: Festivals: mini presentation
- 第 8 回 Unit 3: Jobs: talking about personal traits
Unit 3: Jobs: talking about personal traits
- 第 9 回 Unit 3: Jobs: describing values
Unit 3: Jobs: describing values
- 第 10 回 Unit 3: Jobs: discussing future plans
Unit 3: Jobs: discussing future plans
- 第 11 回 Unit 4: Journeys: narrating a story
Unit 4: Journeys: narrating a story

- 第 12 回 Unit 4: Journeys: On the Road
Unit 4: Journeys: On the Road
 - 第 13 回 Unit 4: Journeys: presenting a travel plan
Unit 4: Journeys: presenting a travel plan
 - 第 14 回 Final Presentations
Final Presentations
 - 第 15 回 Final Presentations 2
Final Presentations 2
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The class will be conducted entirely in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about text book topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups. Additionally, students will give oral presentations after each unit.
- Feedback methods:
Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communications activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
Participation & class attitude 30%, homework assignments 40%, Final Project 30%
〔留意事項 (Other Information)〕
This course schedule will be flexible based on the needs of the students.
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
This course will use the same textbook as Listening 1C:
Inspire 2/Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon/Cengage 2014
(Students do not need to buy two copies)
〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking I D

EGB1303D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3：言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives, as well as to discuss issues that are relevant to their lives as university students.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Prosody	Does not meet course expectations yet	Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm	Begins incorporating elements of prosody in speech	Demonstrates a developing mastery of prosody
Fluency	Does not meet course expectations yet	Is approaching a natural speed	Developing ability to adjust speed rate	Understands fluency is not just speed and adjusts accordingly
Pronunciation	Does not meet course expectations yet	Develops awareness of pronunciation weaknesses	Develops strategies to improve pronunciation	Develops communication strategies to overcome difficult pronunciation
Pragmatics	Does not meet course expectations yet	Has an awareness of appropriate language to use in a specific context	Pragmatic awareness developing in speech	Developing mastery of pragmatic awareness and implicit meaning

Complexity	Does not meet course expectations yet	Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary	Developing ability to use more complex grammar and vocabulary	Shows situational awareness of grammar and vocabulary use
Non-verbal communication	Does not meet course expectations yet	Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Demonstrates awareness of intent in non-verbal communication	Can employ non-verbal strategies to overcome communication difficulties

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
Introduction and Explanation of the Speaking I Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Speaking about Yourself 1
Brainstorming & Drafting
- 第 3 回 Topic Area 1: Speaking about Yourself 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 4 回 Topic Area 1: Speaking about Yourself 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 5 回 Topic Area 2: Speaking about Your Hobbies 1
Brainstorming & Drafting
- 第 6 回 Topic Area 2: Speaking about Your Hobbies 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 7 回 Topic Area 2: Speaking about Your Hobbies 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 8 回 Poster Presentation 1
Drafting
- 第 9 回 Poster Presentation 2
Preparing
- 第 10 回 Poster Presentation 3
Practicing
- 第 11 回 Poster Presentation 4
Presenting
- 第 12 回 Topic Area 3: Speaking about Japan 1
Brainstorming & Drafting
- 第 13 回 Topic Area 3: Speaking about Japan 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 14 回 Topic Area 3: Speaking about Japan
Presentations & Giving Feedback
- 第 15 回 Reflection
Final Oral Activity, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will be expected to participate in conversations and presentations.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with homework completed, writing and note-taking materials, and any other material that the teacher may have given to the students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Homework and In-class Tasks: 30%

In-class Presentations: 30%

Oral Exams: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking I E

EGB1303E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 前期

月曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, students will develop their oral English communication skills. Students will have lots of opportunities to speak both with each other and also with the teacher. The course will focus mainly on fluency, but students will also practice pronunciation, intonation and rhythm through

conversations and discussions about not only everyday topics but also current social issues introduced in the text. Main assessed speaking tasks include role plays, in-class recordings, and a final interview. Students will practice communicating in English in a fun and lively classroom environment where making an effort is important. Enthusiasm in the classroom helps build confidence which is the foundation of successful communication. Let's do our best and have a great term!

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1) Feel comfortable discussing both everyday topics AND current social issues in the textbook

2) Have an awareness of conversational and discussion strategies and useful phrases

3) Be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks

4) Be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Prosody: Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (90 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pragmatics: Has an awareness of appropriate language to use in a specific context.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/Quizlet Set 43)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Welcome to Speaking II
Course introduction
- 第 2 回 Community building activities
- 第 3 回 Unit 1: The guy with green hair
Expressing opinions; agreement
- 第 4 回 Unit 2: The shoplifter
Expressing doubt; disagreement
- 第 5 回 Unit 3: I'm not addicted!
Firmly stating your views; Asking for input
- 第 6 回 Unit 4: Social media star
Expressing reasons and personal feelings; Asking for input
- 第 7 回 Unit 5: Who pays?
Looking at an issue deeply; Expressing slight agreement
- 第 8 回 Unit 6: Saying 'I love you'
Expressing opinions strongly with reasons; agreement
- 第 9 回 Unit 7: Family values
Expressing opinions strongly with reasons; agreement
- 第 10 回 Unit 8: Cyber Love
Expressing opinions strongly; agreement
- 第 11 回 Unit 9: A visit to grandma
Expressing skepticism
- 第 12 回 Unit 10: Fan worship
Agreeing in a casual way
- 第 13 回 Interview test preparation
- 第 14 回 Interview Test
- 第 15 回 Final reflections on learning

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to prepare for their in-class speaking experiences by completing any homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Active participation: 30%

Recordings: 20%

Role plays: 20%

Interview test: 15%

Other speaking and writing activities: 15%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

Important: If you are also taking Listening I/II E, we will also be using this textbook so there is no need to buy a second copy.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Impact Issues 1 (3rd edition) / Day, R., Shaules, J., Yamanaka, J. / Pearson Education South Asia Pterosaur's Ltd. / 2019 / ISBN 9789813134379

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking II A

EGB1353A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed to communicate effectively in English in academic and everyday situations. Students will also practice pronunciation and presentation skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Prosody: Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm of English	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (90 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

4) Pragmatics : Has an awareness of appropriate language to use in a specific context	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/ Quizlet Set 43)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Speaking Skill: Supporting ideas with examples
- 第 2 回 Pronunciation Skill: Sentence stress
- 第 3 回 Presentation skill: Telling a personal story
- 第 4 回 Individual Presentation
- 第 5 回 Speaking Skill: Showing interest
- 第 6 回 Pronunciation Skill: Intonation in questions
- 第 7 回 Presentation Skill: Considering your audience
- 第 8 回 Individual Presentation
- 第 9 回 Speaking Skill: Talking about solutions
- 第 10 回 Pronunciation Skill: Linking
- 第 11 回 Presentation Skill: Organizing a problem-solution presentation
- 第 12 回 Individual Presentation: Problem-Solution
- 第 13 回 Speaking Skill: Rephrasing key ideas
- 第 14 回 Presentation Skill: Conclusions
- 第 15 回 Individual Presentation

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study and preparation for in-class activities.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communications activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

Class Participation: 40%

Assignments: 30%

Quizzes and Tests: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking II B

EGB1353B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Rebecca Paterson

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed to communicate effectively in English. Students will also gain confidence in speaking as they produce volumes of spoken output and receive ongoing formative feedback.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom activities is required. These activities include conversations, discussions, presentations, debates, and communication games.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Clarity of voice	When I am speaking my voice is very quiet and it is difficult for others to hear and understand me.	Sometimes my voice and pronunciation are clear but sometimes I begin to speak quietly and rely on Japanese-style pronunciation.	The teacher and my peers have no problem hearing my voice but sometimes they cannot understand some words.	I can speak in a clear voice with excellent rhythm and articulation so that my peers and instructor have no problem with understanding me.
Content	I usually only give one word answers without any elaboration.	I speak simply and give typical answers with very little elaboration.	I try to add interesting content to my sentences but only if the instructor asks.	I am able to produce longer and more complex sentences. The content of my sentences is interesting and thought provoking.
Grammatical accuracy	My sentences are often difficult to understand as if I'm translating directly from Japanese.	The instructor and my peers can understand my sentences but with some difficulty.	The instructor and my peers can understand what I want to say regardless of any grammatical errors.	When I speak my sentence structure is clear and appropriate. There is little ambiguity in what I want to say.

Fluency	I speak in English but I have to pause between nearly every word so that I can think of the next one.	I can speak fluidly in phrases but between each phrase I have to stop to think. I require notes	I can speak in sentences but I require notes or pre-written sentences to help me.	I speak at a natural pace and only pause when it is appropriate to do so. I can do this without relying too much on notes
Participation	I attend the classes but I do not actively answer questions or participate proactively in group activities.	I attend classes and respond to the teacher when asked.	I attend the classes and spontaneously respond to the teacher during small group activities and sometimes in whole class activities.	In every class I play an active role by answering the teacher's questions and/or by engaging with and sometimes helping in group activities.
Logical flow	I respond with either yes or no most of the time.	I respond in one sentence. It is clear what I want to say but I don't give reasons or examples.	I present my main idea clearly and I also provide at least one reason for my opinion or idea.	When I speak in English I clearly state my idea, the reasons for why I think so and provide examples to back up or clarify my thoughts.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Focusing on Better Accuracy or More Complexity
- 第 2 回 Harvard Study - Happiness
- 第 3 回 Stanford Study - Mindsets
- 第 4 回 Research Studies - Sleep
- 第 5 回 Personality - Blood types
- 第 6 回 Online Trust Businesses - Kickstarter & Indiegogo
- 第 7 回 Online Trust Businesses - Tripadvisor, Airbnb
- 第 8 回 Individual Interviews and Goal Setting
- 第 9 回 Extended Discourse - Famous Women
- 第 10 回 Extended Discourse - Famous Men
- 第 11 回 Extended Discourse - Famous Things
- 第 12 回 Extended Discourse - Famous Places
- 第 13 回 Speaking Fluency Posttest WPM
- 第 14 回 Final Presentations
- 第 15 回 Evaluation, Feedback, and Goal Setting

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

On the last week of term students will present on a chosen topic and will receive feedback from the instructor. This will be included as part of their overall grade.

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will receive extensive and ongoing formative feedback during speaking activities in class. They will also receive feedback on the content and delivery of recorded speaking activities done for homework.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts at improving English in and out of class.

Class participation & Homework 40%

In class Tests 30%

Final Presentation 30%

Feedback will be provided in class during activities and through individual commentary on manaba when assignments are set.

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search, "How to Improve my Speaking"

For example,

<https://www.fluentu.com/blog/english/how-to-improve-spoken-english/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking II C

EGB1353C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course builds on the skills learned in Listening 1. Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently. Additional focus will be on oral fluency skills for natural conversation.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills for both daily life and academic contexts.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Prosody: Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (90 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

4) Pragmatics : Has an awareness of appropriate language to use in a specific context.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/ Quizlet Set 43)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
Course introduction
- 第 2 回 Unit 7: family: describing personal traits
Unit 7: family: describing personal traits
- 第 3 回 Unit 7: family: discussing family roles
Unit 7: family: discussing family roles
- 第 4 回 Unit 7: family: talking about change
Unit 7: family: talking about change
- 第 5 回 Unit 8 nature: describing outdoor activities
Unit 8 nature: describing outdoor activities
- 第 6 回 Unit 8: nature: discussing benefits of nature
Unit 8: nature: discussing benefits of nature
- 第 7 回 Unity 8: nature: describing photos
Unity 8: nature: describing photos
- 第 8 回 Unit 9: happiness: definitions
Unit 9: happiness: definitions
- 第 9 回 Unit 9: happiness: discussing display rules
Unit 9: happiness: discussing display rules
- 第 10 回 Unit 9: happiness: presenting a case study

- Unit 9: happiness: presenting a case study
 第 11 回 Unit 10: conservation: presenting evidence
 Unit 10: conservation: presenting evidence
 第 12 回 Unit 10: conservation: discussion
 Unit 10: conservation: discussion
 第 13 回 Unit 10: conservation: talking about solutions
 Unit 10: conservation: talking about solutions
 第 14 回 final presentations 1
 final presentations 1
 第 15 回 final presentations 2
 final presentations 2
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The class will be conducted entirely in English and students will be expected to speak with other students on a regular basis in class. Students will spend most of the class time talking in English about text book topics and self-generated daily conversation topics in pairs and small groups. Additionally, students will give oral presentations after each unit.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide oral commentary and corrections during communications activities. In addition, students will receive written evaluations after each presentation.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to be punctual and come to class with any preparation assignments completed before the start of the lesson. This is a student centered speaking course so students will be expected to put a lot of effort into speaking in English with classmates regularly.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Participation & class attitude 30%, homework assignments 40%, Final Project 30%

[留意事項 (Other Information)]

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

This course uses the same textbook as Speaking 1C:
 Inspire 2/Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon/Cengage/2014

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Speaking II D

EGB1353D0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Daniel Pearce

[科目の教育目標 (Course Description)]

Through conversations, presentations and various activities students will develop their ability to speak English confidently.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

The aim of this course is to help the students develop English speaking skills that they will be able to use in their daily lives, as well as to discuss issues that are relevant to their lives as university students.

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Prosody	Does not meet course expectations yet	Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm	Begins incorporating elements of prosody in speech	Demonstrates a developing mastery of prosody
Fluency	Does not meet course expectations yet	Is approaching a natural speed	Developing ability to adjust speed rate	Understands fluency is not just speed and adjusts accordingly
Pronunciation	Does not meet course expectations yet	Develops awareness of pronunciation weaknesses	Develops strategies to improve pronunciation	Develops communication strategies to overcome difficult pronunciation
Pragmatics	Does not meet course expectations yet	Has an awareness of appropriate language to use in a specific context	Pragmatic awareness developing in speech	Developing mastery of pragmatic awareness and implicit meaning

Complexity	Does not meet course expectations yet	Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary	Developing ability to use more complex grammar and vocabulary	Shows situational awareness of grammar and vocabulary use
Non-verbal communication	Does not meet course expectations yet	Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Demonstrates awareness of intent in non-verbal communication	Can employ non-verbal strategies to overcome communication difficulties

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
Introduction and Explanation of the Speaking I Course with Requirements and Expectations.
- 第 2 回 Topic Area 1: Young People Today 1
Brainstorming & Drafting
- 第 3 回 Topic Area 1: Young People Today 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 4 回 Topic Area 1: Young People Today 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 5 回 Topic Area 2: Someone You Admire 1
Brainstorming & Drafting
- 第 6 回 Topic Area 2: Someone You Admire 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 7 回 Topic Area 2: Someone You Admire 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 8 回 Poster Presentation 1
Drafting
- 第 9 回 Poster Presentation 2
Preparing
- 第 10 回 Poster Presentation 3
Practicing
- 第 11 回 Poster Presentation 4
Presentation
- 第 12 回 Topic Area 3: Future Plans 1
Brainstorming & Drafting
- 第 13 回 Topic Area 3: Future Plans 2
Finalizing Drafts & Practicing
- 第 14 回 Topic Area 3: Future Plans 3
Presentations & Giving Feedback
- 第 15 回 Feedback & Reflection
Final Oral Task, Reflection on Course and Feedback

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted mostly in English. Class activities will be done individually, in pairs or in small groups. Students will be expected to participate in conversations and presentations.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to come to class with homework completed, writing and note-taking materials, and any other material that the teacher may have given to the students.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Homework and In-class Tasks: 30%

In-class Presentations: 30%

Oral Exams: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Speaking II E

EGB1353E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

1単位 後期

月曜2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Gretchen Clark

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is a continuation of Speaking I. This term, students will continue developing their oral English communication skills. Students will have lots of opportunities to speak both with each other and also with the teacher. The

course will focus mainly on fluency, but students will also practice pronunciation, intonation and rhythm through conversations and discussions about not only everyday topics but also current social issues introduced in the text. Main assessed speaking tasks include in-class recordings, a short presentation and a final interview. Students will practice communicating in English in a fun and lively classroom environment where making an effort is important. Enthusiasm in the classroom helps build confidence which is the foundation of successful communication. Let's do our best and have a great term!

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- 1) Feel comfortable discussing both everyday topics AND current social issues in the textbook
- 2) Have an awareness of conversational and discussion strategies and useful phrases
- 3) Deliver a 3 minute speech in English
- 4) Be able to reflect on learning, identifying successful areas and points for improvement AND also be able to set specific goals for future learning tasks
- 5) Be proud of the work and effort you have given every class (and have had a lot of fun!)

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Prosody: Has an awareness of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (90 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

Pragmatics : Has an awareness of appropriate language to use in a specific context.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/ Quizlet Set 43)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

- 第 1 回 Welcome back from summer vacation!
- 第 2 回 Unit 11: Pet peeve
Giving feedback
- 第 3 回 Unit 12: Close your eyes and see
Expressing and explaining opinions; Asking others for input
- 第 4 回 Unit 13: Protecting our environment
Expressing your opinion strongly; Encouraging others
- 第 5 回 Unit 14: Get a job!
Expressing opinions; Expressing complete agreement
- 第 6 回 Unit 15: To tell or not to tell
Expressing skepticism and showing willingness to entertain different views.
- 第 7 回 Unit 16: Flight 77
Expressing slight disagreement
- 第 8 回 Unit 17: To have or not to have
Expressing disagreement strongly
- 第 9 回 Unit 18: Are humans smart?
Agreeing politely
- 第 10 回 Unit 19: Cloning Cyndi

Saying opinions with support
 第 11 回 Unit 20: Why learn English?
 Exploring an issue
 第 12 回 Presentation preparation: visuals
 第 13 回 Presentation preparation: practice
 第 14 回 Presentations
 第 15 回 Presentations/ Final reflection on learning
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The course will be conducted entirely in English. Students are expected to attend class every week, actively participate and show effort, and complete the assigned homework. General class feedback will be posted on Manaba in the Course News. Individual feedback will be posted in 'Grades' and 'Tutoring Collections'.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

In order to gain the most benefit from the course, it is important for students to prepare for their in-class speaking experiences by completing any homework.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Active participation: 30%

Recordings: 20%

Presentation: 20%

Interview test: 15%

Other speaking and writing activities: 15%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

Important: If you are also taking Listening I/II E, we will also be using this textbook so there is no need to buy a second copy.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Impact Issues 1 (3rd edition) / Day, R., Shaules, J., Yamanaka, J. / Pearson Education South Asia Pterosaur's Ltd. / 2019 / ISBN 9789813134379

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

TOEFL I

EGB1306N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

木曜 4限

DP3 : 言語力

60

Daniel Pearce

[科目の教育目標 (Course Description)]

The TOEFL is one of the two most widely used English exams around the world. This is the primary tool used by US universities and other academic institutions when assessing students English ability prior to acceptance. This course will not only cover strategies for TOEFL test-taking but will also aim to develop the linguistic skills (including, but not limited to, academic writing) that are necessary for study overseas.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

This course will familiarize students with the format of the TOEFL test. Students will learn strategies for categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Does not meet course expectations yet	Is proactive in completing tasks	Develops strategies to overcome weaknesses	Shows consistent implementation of strategies and learning
知識・理解力	Does not meet course expectations yet	Can glean information from TOEFL tasks	Can contrast TOEFL content to pre-existing knowledge	Shows a critical analysis of content inclusive of learning outside of TOEFL
言語力	Does not meet course expectations yet	Can attempt difficult tasks	Shows consistency in engagement with difficult content	Demonstrates developing linguistic ability and strategy formulation

思考・解決力	Does not meet course expectations yet	Attempts to understand the content beyond the task level	Begins to critically engage with content	Shows a critical stance towards TOEFL content and sufficiently explain stance
共生・協働する力	Does not meet course expectations yet	Is proactive in providing feedback	Can implement feedback strategies to gain more information	Is able to contribute to and learn from group work

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
TOEFL Introduction & Diagnostic Test
- 第 2 回 Independent Speaking Part 1
TOEFL speaking and Basic Speaking Skills
- 第 3 回 Independent Speaking Part 2
TOEFL free-choice speaking
- 第 4 回 Independent Speaking Part 3
TOEFL paired-choice speaking
- 第 5 回 Independent Speaking Part 4
Speaking Assessment
- 第 6 回 Independent Writing Part 1
Understanding Essay Prompts/Making Plans
- 第 7 回 Independent Writing Part 2
Basic Essay Structure/Creating a Thesis Statement
- 第 8 回 Independent Writing Part 3
Developing Supporting Paragraphs
- 第 9 回 Independent Writing Part 4
Creating a Unified, Coherent Essay
- 第 10 回 Listening Part 1
Understanding the Gist
- 第 11 回 Listening Part 2
Understanding the Details
- 第 12 回 Listening Part 3
Understanding the Function
- 第 13 回 Listening Part 4
Understanding the Whole Text
- 第 14 回 Strategies
Writing/Speaking Test and Strategies Instruction
- 第 15 回 Feedback & Reflection
Reflection period including discussion of strategies for future study

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn grammar points and vocabulary, craft essays and practice listening tasks as well as speaking exercises in pairs and as a group. Students will also learn how to study

at home for this test.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will take TOEFL practice tests as well as autonomous learning exercises in order to familiarize themselves with the test.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 30%

Homework: 30%

Tests and Quizzes: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEFL II

EGB1356N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

木曜 4限

DP3 : 言語力

60

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The TOEFL is one of the two most widely used English exams around the world. This is the primary tool used by US universities and other academic institutions when assessing students

English ability prior to acceptance. This course will not only cover strategies for TOEFL test-taking but will also aim to develop the linguistic skills (including, but not limited to, academic

writing) that are necessary for study overseas.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This course will familiarize students the format of the TOEFL test. Students will learn strategies or categorizing and answering questions, effective time management, and knowledge of common vocabulary used in the TOEFL test.

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Does not meet course expectations yet	Is proactive in completing tasks	Develops strategies to overcome weaknesses	Shows consistent implementation of strategies and learning
知識・理解力	Does not meet course expectations yet	Can glean information from TOEFL tasks	Can contrast TOEFL content to pre-existing knowledge	Shows a critical analysis of content inclusive of learning outside of TOEFL
言語力	Does not meet course expectations yet	Can attempt difficult tasks	Shows consistency in engagement with difficult content	Demonstrates developing linguistic ability and strategy formulation
思考・解決力	Does not meet course expectations yet	Attempts to understand the content beyond the task level	Begins to critically engage with content	Shows a critical stance towards TOEFL content and sufficiently explain stance
共生・協働する力	Does not meet course expectations yet	Is proactive in providing feedback	Can implement feedback strategies to gain more information	Is able to contribute to and learn from group work

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
TOEFL Introduction & Diagnostic Test
- 第 2 回 Integrated Speaking Part 1
TOEFL Integrated Speaking, Speaking based on Given Information
- 第 3 回 Integrated Speaking Part 2
Reading, Listening, and Speaking (Campus Life)
- 第 4 回 Integrated Speaking Part 3

- Reading, Listening, and Speaking (Academic Settings)
- 第 5 回 Integrated Speaking Part 4
Speaking Assessment
- 第 6 回 Integrated Writing Part 1
Understanding the reading/listening content
- 第 7 回 Integrated Writing Part 2
Developing the main points, Comparing and Contrasting
- 第 8 回 Integrated Writing Part 3
Planning a Response, Unifying the Main Points
- 第 9 回 Integrated Writing Part 4
Developing Thesis Statements and Conclusions from Source Material
- 第 10 回 Integrated Speaking Part 5
Writing Assessment
- 第 11 回 Integrated Speaking Part 5
Comparing and Contrasting
- 第 12 回 Integrated Speaking Part 6
Selecting Appropriate Information from Source Material
- 第 13 回 Integrated Speaking Part 7
Developing Concise Summaries
- 第 14 回 Integrated Speaking Part 8
Writing Assessment 2
- 第 15 回 Feedback & Reflection
Reflection for the semester including discussion of strategies for future study

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will learn grammar points and vocabulary, craft essays and practice listening tasks as well as speaking exercises in pairs and as a group. Students will also learn how to study at home for this test.

Feedback will be given on assignments and reflection sheets to be submitted in each class. Individual feedback on tasks (including the final assessment) will be provided where possible in class or via manaba, and common errors will be discussed in the following class. Students may feel free to contact the teacher via email for extra support or feedback.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will take TOEFL practice tests as well as autonomous learning exercises in order to familiarize themselves with the test.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 30%

Homework: 30%

Tests and Quizzes: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course schedule will be flexible based on the needs of the students.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No text required. Students will be provided with materials in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC I A

EGB1305A1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

定員40人

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC is an international test evaluating practical English proficiency, and has been adopted in Japan to evaluate English-language communication abilities at many companies, government agencies, universities, etc. The goal of this course is to acquire strategies to improve grammar knowledge, vocabulary, listening and reading skills, and to achieve a high score in the TOEIC test.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

There are a number of objectives in this course:

1. Become familiar with the format, instructions and questions of the TOEIC test, and develop appropriate time management and efficient information processing ability when taking the test.
2. Acquire the vocabulary frequently used in the TOEIC test and significantly increase Receptive Vocabulary
3. Review the grammar that should be completed by the high school stage and strengthen the grammar and grammar as explicit knowledge
4. Learn basic English communication skills, not just English for the TOEIC test
5. Improve reading speed by acquiring skills that enable students to understand meanings in English word order instead of Japanese word order during reading
6. Effectively combine and use two processes for listening and

speech word recognition (Bottom-up & Top-down Strategies)

so that you can listen while predicting answers

7. Be able to score 600 points in the TOEIC test

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力: Listening section: Can get at least 275 points. Reading section: Can get at least 225 points.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
Introduction - TOEIC test, learning methods and class goals
Quizlet 1-40
- 第 2 回 Vocabulary
Vocabulary studies - Quizlet (Active vs Passive Vocabulary)
Quizlet 41-80
- 第 3 回 Test 1.1
Reading Test 1 - In-class Workshop Part 1
Quizlet 81-120
- 第 4 回 Test 1.2
Reading Test 1 - In-class Workshop Part 2
Quizlet 121-160
- 第 5 回 Test 2.1
Reading Test 2 - In-class Workshop Part 1
Quizlet 161-200
- 第 6 回 Test 2.2
Reading Test 2 - In-class Workshop Part 2
Quizlet 201-240
- 第 7 回 Midterm Test
Midterm Test
Reading & Vocabulary
Quizlet 241-280

- 第 8 回 Test 3
Reading Test 3 - In-class Workshop
Quizlet 281-320
- 第 9 回 Test 4
Reading Test 4 - In-class Workshop
Quizlet 321-360
- 第 10 回 Test 5
Reading Test 5 - In-class Workshop
Quizlet 361-400
- 第 11 回 Test 6
Reading Test 6 - In-class Workshop
Quizlet 401-440
- 第 12 回 Test 7
Reading Test 7 - In-class Workshop
Quizlet 441-480
- 第 13 回 Test 8
Reading Test 8 - In-class Workshop
Quizlet 481-520
- 第 14 回 Test 9
Reading Test 9 - In-class Workshop
Quizlet 521-560
- 第 15 回 Final Test
Final Test
Reading & Vocabulary
Quizlet 561-600

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

No

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. Understand the test and question types
2. Develop time management skills
3. Develop test-taking strategies
4. See every test mistake as an opportunity to learn something useful

Students will have a TOEIC midterm test and a TOEIC final test.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Pre-study vocabulary, do vocabulary writing, do post-study from previous lessons. Ongoing formative feedback will be provided in class, both individually and to the whole class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Midterm 25%, Final 25%, Class efforts 25%, Vocabulary quizzes 25%

〔留意事項 (Other Information)〕

The TOEIC test is an excellent opportunity to see the relationship between EFFORTS and RESULTS. The more time you invest in good studying methods, the higher your points will be. There is NO LIMIT to how many points you can get in your first year. It all depends on your efforts and proper study methods.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

TOEIC(R) L&Rテスト YBM超実戦模試リーディング1000問 (Japanese) 単行本 (ソフトカバー) ? 2018/6/13

Publisher: 朝日出版社 (June 13, 2018)

Language: 日本語

ISBN-10: 4255010641

ISBN-13: 978-4255010649

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

TOEICテスト公式サイト : <http://www.toEIC.or.jp/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC I B

EGB1305B1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

木曜 3限

DP3 : 言語力

60

定員40人

櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されています。

文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC (R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
4. 400点~500点にスコアをのぼす

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示された課題に取り組めない。	指示された課題に取り組む。	指示された課題の意味を考え、積極的に取り組む。	指示された課題の意味を汲み取り、自分でさらに学習

				の幅を広げられる。
知識・理解力	TOEICの問題の仕組みを理解できない。	TOEICの問題の仕組みを理解できる。	TOEICの問題の仕組みを理解し、説明できる。	TOEICの問題の仕組みを理解し、説明でき、勉強方法を考えられる。
言語力	問題を解けず、英語も理解できない。	問題をいくつか正解し、英語もある程度は理解できる。	問題をいくつか正解し、英語を理解し、使うための英語として学ぼうとする。	問題の正解のみならず、英語を理解し、使うための英語として習得する。
思考・解決力	与えられた課題に自分で考えて取り組めない。	与えられた課題に自分で考えて取り組めるが、解決出来ない問題に出会った時に諦める。	解決出来ない問題に出会った時に、解決策を探そうとする。	解決出来ない問題に出会った時に、解決策を探すため、様々な方向から検討できる。
共生・協働する力	クラスメートとのペアワーク、グループワークに取り組めない。	クラスメートとのペアワーク、グループワークに取り組める。	ペアワーク、グループワークに積極的に取り組める。	ペアワーク、グループワークに積極的に取り組めるのみならず、全員が楽しく参加できるよう工夫する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
TOEICとは? Orientation
Part 1 現在進行、現在完了、受動態
- 第 2 回 Part 5、Part 2
Part 5 品詞問題、語彙問題
Part 2 基本的な疑問文と応答
- 第 3 回 Part 5、Part 2
Part 5 動詞の問題、語彙問題
Part 2 ひっかけを避ける方法と、難易度の高い問題への取り組み方
- 第 4 回 Part 1、Part 2、Part 5
Part 1, Part 2, Part 5 の実践問題
Part 1, Part 2, Part 5 小テスト
- 第 5 回 Part 3、Part 5
Part 5 接続詞
Part 3 問題文の種類と、意味の取りにくい問題文
- 第 6 回 Part 3、Part 5

- Part 5 分詞
Part 3 問題文から聞き取りのポイントをおさえる、選択肢の語法に慣れる
- 第 7 回 Part 6、Part 3
Part 6 実用性のある文書の特徴をおさえる
Part 3 会話の状況を把握する
- 第 8 回 Part 6、Part 3
Part 6 パラグラフ、文脈でパッセージを読む
Part 3 会話の詳細な情報を聞き取る
- 第 9 回 Part 6、Part 3 の実践問題と小テスト
Part 3, Part 6 実践問題
Part 6, Part 3 小テスト
- 第 10 回 Part 7
Part 7 実用性のある文書の特徴をおさえる
- 第 11 回 Part 7、Part 4
Part 7 意味の取りにくい問題文、選択肢に慣れる
Part 4 トークの状況を把握する
- 第 12 回 Part 7、Part 4
Part 7、Part 4 実践問題
- 第 13 回 Part 7、Part 4 小テスト
Part 7、Part 4 実践問題
Part 7、Part 4 小テスト
- 第 14 回 Listening 模擬試験
Listening 模擬試験 と解説
- 第 15 回 Reading 模擬試験
Reading 模擬試験 と解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. TOEICの出題形式や意図を理解する。
2. 解答ストラテジー (=解法) のポイントをおさえ、使えるようにする。
3. 本番と同じ問題を使ってTOEICの英語を段階的に習得する。
4. TOEICに取り組むための基本的英語力をおさえる。
5. TOEIC試験対策という目的を超えコミュニケーションのために使える英語の習得も目指す。
6. 授業ではペアワーク、グループワーク、発表などを通じて発話しながら学ぶ。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
予習よりも、指示された自宅での課題中心に学習してください。授業で学んだ箇所は、何度も音声で聞いて発音してください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
小テスト 30%、
プリント課題 50%
授業中の模擬試験 20%、
〔留意事項 (Other Information)〕
初めてTOEICを受験する学生から400~500点をを目指す学生に適当なレベルのクラスです。

授業で使う課題用プリントは忘れず持参できるようファイルなどにまとめて管理してください。

授業の内容を理解するだけではなく、英語、または日本語での発話が必要になります

シラバスの内容、進度、小テストの回数などは進み具合で変わる可能性があります。また、コロナにより一部、または全面的に遠隔授業を余儀なくされた場合にも、変更の可能性があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 5 / TOEIC ETS / 国際ビジネスコミュニケーション協会 / 2019 / 978-4-906033-57-7/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

TOEIC I C

EGB1305C1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

水曜4限

DP3 : 言語力

60

定員40人

岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEICとは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界150か国で実施されており、各国の様々な企業、学校、団体において、いろいろな用途・目的で幅広く採用されています。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、海外出張・昇進・昇格の要件として利用されています。本科目では、TOEICに必要な基礎的な英語力の習得・強化を目指し、スコアアップを目標とします。(目標スコアは400～500点)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEICの形式・指示・問題の傾向に慣れ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEICでよく使用される語彙や表現を身につける
3. 基礎的な文法を復習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・理解力	TOEICの問題形式が理解できていない。	TOEICの問題形式を理解できていない。	各パートの問題形式を理解し、時間配分を考えて問題に取り組むことができる。Part3,4,7においては、設問パターンに慣れる。	各パートの問題形式を理解し、時間配分を考え、問題を解くことができる。Part3,4,7においては、設問を先読みして、問題に取り組むことができる。
言語力	TOEIC頻出語彙がまったくわからない、又は覚えられない。	TOEIC頻出語彙がわかる。テキストで新しく学習した語彙を覚えることができる。	Listening-学習した語彙を聞き取ることができる。単語を正しく発音することができる。Reading-基本的な英文法の知識を持っている。	Listening-音声を聞いて、意味が理解できる。Reading-英文を読む際に、文章の前から文の意味をとることができる。設問に対して必要な情報だけを聞きとる、読みとることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション「TOEICとは」、Unit1 人物の動作と状態 (Part1)、表・用紙(Part7)
- 第 2 回 TOEICハーフテスト
- 第 3 回 Unit2 疑問詞を使った疑問文(Part2)、手紙・Eメール(Part7)
- 第 4 回 Unit3 日常場面での会話(Part3)、品詞(Part5)
- 第 5 回 Unit4 アナウンス・ツアー(Part4)、動詞(Part5)
- 第 6 回 Unit5 物の状態と位置(Part1)、チャット(Part7)
- 第 7 回 Unit6 基本構文 (依頼/提案/申し出) と応答の決まり文句(Part2)、手紙・Eメール(Part7)
- 第 8 回 Unit7 電話での会話(Part3)、代名詞・関係代名詞(Part5)
- 第 9 回 Unit8 ラジオ放送・宣伝(Part4)、接続詞・前置詞(Part5)
- 第 10 回 Unit9 Yes/No疑問文(Part2)、ダブルパッセージ (2つの文書) (Part7)
- 第 11 回 Unit10 オフィスでの会話①(Part4)、Part5の復習(Part5)
- 第 12 回 Unit11 留守番電話(Part4)、トリプルパッセージ (3つの文書) (Part7)
- 第 13 回 Unit12 オフィスでの会話②(Part3)、Unit13 時制・代名詞・語彙問題

第 14 回 Unit14 トーク・スピーチ・会議の一部(Part4)、つ
なぎ言葉・文の挿入(Part6)

第 15 回 TOEICハーフテスト、解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストにそって、各パートごとの学習を行い、それぞれの出題形式を理解し、解答時のポイントをおさえます。毎回、リスニングとリーディングの両方の学習を実施、テキストでは頻出語句が取り上げられているので、聞き取り、書き取りはもちろん、音声を使ってリピーティングやシャドーウィングの学習を取り込みながら、TOEICの基本的な語彙や表現を身につけていきます。

授業での課題 (テキスト問題、プリント学習、テスト) においては、実施後解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの予習 (授業毎に指示します)
2. 語彙テストの勉強 (毎回授業初めに単語テストを行います)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度及び授業態度 (予習・発表・発声) 20%、小テスト60% (語彙テスト40%・暗記テスト20%)、TOEICハーフテスト20%で評価を行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業には必ず辞書を持参すること。携帯電話を利用した辞書は認めません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] Target 500』/早川 幸治/桐原書店/2018年/978-4-342-55015-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜指示する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC II A

EGB1355A1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

定員40人

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC is an international test evaluating practical English proficiency, and has been adopted in Japan to evaluate English-language communication abilities at many companies, government agencies, universities, etc. The goal of this course is to acquire strategies to improve grammar knowledge, vocabulary, listening and reading skills, and to achieve a high score in the TOEIC test.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

There are a number of objectives in this course:

1. Become familiar with the format, instructions and questions of the TOEIC test, and develop appropriate time management and efficient information processing ability when taking the test.
2. Acquire the vocabulary frequently used in the TOEIC test and significantly increase Receptive Vocabulary
3. Review the grammar that should be completed by the high school stage and strengthen the grammar and grammar as explicit knowledge
4. Learn basic English communication skills, not just English for the TOEIC test
5. Improve reading speed by acquiring skills that enable students to understand meanings in English word order instead of Japanese word order during reading
6. Effectively combine and use two processes for listening and speech word recognition (Bottom-up & Top-down Strategies) so that you can listen while predicting answers
7. Be able to score 600 points in the TOEIC test

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力: Listening section: Can get at least 275 points. Reading section: Can get at least 225 points.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
Introduction - TOEIC test LISTENING, learning methods and class goals
Quizlet 601-640
- 第 2 回 Vocabulary
Listening Vocabulary studies - Written word vs Spoken word (weakening, elision, etc)
Quizlet 641-680
- 第 3 回 Test 1.1
Listening Test 1 - In-class Workshop Part 1
Quizlet 681-720
- 第 4 回 Test 1.2
Listening Test 1 - In-class Workshop Part 2
Quizlet 721-760
- 第 5 回 Test 2.1
Listening Test 2 - In-class Workshop Part 1
Quizlet 761-800
- 第 6 回 Test 2.2
Listening Test 2 - In-class Workshop Part 2
Quizlet 801-840
- 第 7 回 Midterm Test
Midterm Test
Listening & Vocabulary
Quizlet 841-880
- 第 8 回 Test 3
Listening Test 3 - In-class Workshop
Quizlet 881-920
- 第 9 回 Test 4
Listening Test 4 - In-class Workshop
Quizlet 921-960
- 第 10 回 Test 5
Listening Test 5 - In-class Workshop
Quizlet 961-1000
- 第 11 回 Test 6

- Listening Test 6 - In-class Workshop
Quizlet 1001-1040
- 第 12 回 Test 7
Listening Test 7 - In-class Workshop
Quizlet 1041-1080
- 第 13 回 Test 8
Listening Test 8 - In-class Workshop
Quizlet 1081-1120
- 第 14 回 Test 9
Listening Test 9 - In-class Workshop
Quizlet 1121-1160
- 第 15 回 Final Test
Final Test
Listening & Vocabulary
Quizlet 1161-1200

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

No

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. Understand the test and question types
2. Develop time management skills
3. Develop test-taking strategies
4. See every test mistake as an opportunity to learn something useful

Students will have a TOEIC midterm test and a TOEIC final test.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Pre-study vocabulary, do vocabulary writing, do post-study from previous lessons. Ongoing formative feedback will be provided in class, both individually and to the whole class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Midterm 25%, Final 25%, Class efforts 25%, Vocabulary quizzes 25%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

The TOEIC test is an excellent opportunity to see the relationship between EFFORTS and RESULTS. The more time you invest in good studying methods, the higher your points will be. There is NO LIMIT to how many points you can get in your first year. It all depends on your efforts and proper study methods.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

TOEIC(R) L&Rテスト YBM超実戦模試リスニング1000問 [MP3音声付き] (Japanese) Paperback 2018/3/10

Publisher: 朝日出版社 (March 10, 2018)

Language: 日本語

ISBN-10: 4255010455

ISBN-13: 978-4255010458

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

TOEICテスト公式サイト : <http://www.toeic.or.jp/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

Women in Leadership

EGE3550N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜2限

DP5 : 共生・協働する力

60

Steven Herder

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course explores leadership theory and practice. It focuses heavily on how current trends and concepts relate to women in Japan.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- 1) Students will become aware of leadership issues
- 2) Students will learn to discuss leadership issues related to themselves
- 3) Students will incorporate some leadership issues into their future plans

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力: Build a study system; Be on time; Do assignments; Make enough efforts to succeed	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

知識・理解力: Understand lesson contents; Know personal weak points; Choose areas to improve;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力: Ability to work together; Give opinions; Able to help others; Able to ask for help; Ability to find your role in a group; Ability to take action	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Popular Leadership Theories
- 第 2 回 Women leaders in Japan and Abroad
- 第 3 回 Global Companies Excelling at Leadership
- 第 4 回 Nadeshiko Brand Companies in Japan
- 第 5 回 Leadership Styles
- 第 6 回 Managers vs. Leaders
- 第 7 回 In-Class Test
- 第 8 回 3 Factors in Executive Presence
- 第 9 回 The Gender Gap World Report
- 第 10 回 50 Quotes about Leadership
- 第 11 回 Japanese Innovators in Leadership
- 第 12 回 Role Models, Mentors, and Sempai
- 第 13 回 Secrets of the World's Most Successful Women
- 第 14 回 Harvard Longitudinal Study on Happiness
- 第 15 回 Final Oral Report and Feedback

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

There will be a number of readings for pre-study, short lectures in class, workshop activities, and ongoing small group discussions. There will be an in-class test and a final oral report.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Pre-reading before class will make the class much easier for you and much more meaningful. Writing notes on the readings, including questions and your opinions will be very useful for you. Asking questions in class will be highly rewarded and appreciated. Ongoing formative feedback will be provided in class, both individually and to the whole class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Students will be evaluated based on efforts in and out of class.

Class participation & Homework 40%

In-class Test 30%

Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search any weekly topics for a wide range of background reading.

For example, Nadeshiko Brand

http://www.meti.go.jp/english/press/2017/0911_001.html

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing I A 2013年度以降入学者

EGB1301A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Isobel Hook

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in writing designed to introduce the conventions of English-style prose within a variety of genres necessary for the development of overall writing skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to write a variety of well-organized texts. They will be introduced to the concepts of planning and

organising a text, topic-associated language, and responding to feedback.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力 1) Is familiar with basic PC functions/formatting	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力 2) Has an awareness of ways to organize ideas for writing: mind-maps, outlines	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力 3) Has an awareness of terminology used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力 4) Has an awareness of the function and purpose of transitions	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力 5) Is familiar with many writing genres: narrative, persuasive, emails	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力 6) Has an awareness	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations	Exceeds most course expectations

of how to make writing interesting : thesaurus use, sentence types	expectations yet	expectations	s and excels on some criteria	expectations
言語力 7) Has developed a writing habit possibly through a journal or timed writing exercises in class	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

- 第 1 回 Course Introduction and Self-Introductions
Introduce myself and discuss the course
Task 1.1: Write a self-introduction
- 第 2 回 Organising ideas
Practice mind-maps and writing outlines
Task 1.2: Write an "About Me" essay
- 第 3 回 Online interactions
Discuss people's hobbies and ask them questions
Task 1.3: Write follow-up questions and comments to other students
- 第 4 回 Journaling
Begin writing a diary.
Task 2.1: Write a diary entry 3 days this week.
- 第 5 回 Linking language
Learn about linking language and use it in your diary entries
Task 2.2: Write a diary entry 4 days this week.
- 第 6 回 Descriptive language
Learn about descriptive language and use it in your diary entries
Task 2.3: Write a diary entry 4 days this week.
- 第 7 回 Narratives
Learn about sequencing language
Task 3.1: Organise a story into the correct order and link the sentences.
- 第 8 回 Re-telling a Story
Recognise the parts of a story
Task 3.2: Watch a short animation and retell the story.
- 第 9 回 Writing a Story
Use previous skills to write a story
Task 3.3: Write a short story using sequencing and descriptive language.
- 第 10 回 Informative Report

- Inform the reader about a topic
Task 4.1: Write about a hobby or something that interests you.
 - 第 11 回 Research and Outline
Ask other people about their topics
Read people's questions on your topic, and think about what they need to know
Task 4.2: Read about other people's topics and ask them questions.
 - 第 12 回 Writing and Support
Ask Isobel for any help you need, or to read your draft
Task 4.3: Write about a topic you are interested in.
 - 第 13 回 Student-selected writing task
Decide what type of writing you would like to do
Task 5.1: Write an outline or plan
 - 第 14 回 Feedback
Discuss your writing with Isobel
1:1 time with Isobel can be scheduled
Task 5.2: Write a draft text
 - 第 15 回 Feedback and corrections
Discuss your writing with Isobel
1:1 time with Isobel can be scheduled
Task 5.3: Write your final text
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
実施しない
[教育・学習の方法 (Course Methods)]
This class will be conducted entirely in English. Students will work in pairs, small groups and individually. Students will receive ongoing formative feedback in grammar, vocabulary, style, and basic writing conventions, both in drafting and revising stages.
[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
Because students will engage in writing tasks every week, they are expected to complete these tasks on time. Failure to complete tasks on time will result in penalties.
[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
60
[評価方法・評価基準 (Evaluation)]
Task 1.1: 5%
Task 1.2: 5%
Task 1.3: 5%
Task 2.1: 5%
Task 2.2: 5%
Task 2.3: 10%
Task 3.2: 5%
Task 3.3: 10%
Task 4.1: 5%
Task 4.2: 10%
Task 4.3: 10%
Task 5.2: 5%
Task 5.3: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing I B 2013年度以降入学者

EGB1301B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

平野 あかり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業では、英語での情報発信、特にライティングにおいて広く用いられている表現・構成を身に着けることで、多様な読者を想定し、読者に配慮した表現・構成で意見を論じることを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

読者に配慮したパラグラフ(複数の文で一つの考えを表すまとまり)の構成を学ぶ

読者に配慮したパラグラフを書くことができるようになるライティングに取り組む過程において、各段階で学習管理ができるようになる

クラスメイトのライティングやその過程を見て学ぶことができる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心を持ち努力する
知識・理解力	知識の不足を補う努力がみられない	消極的ながら知識を補う姿勢がみられる	学習に必要な知識を積極的に補う姿勢がみられる	常に積極的に知識を深める姿勢がみられる
言語力①	基本的な語彙運用ができない	基本的な語彙運用ができる	ある程度多様な語彙運用ができる	多様な語彙を適切に使用することができる

言語力②	基本的な文構造を使用することができない	基本的な文構造を使用することができる	いくつかの文構造を使用することができる	多様な文構造を使用することができる
批判的思考力	論拠や例を用いて議論することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて議論することができる	概ね適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる	適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 パラグラフは「段落」じゃない
- 第 3 回 主題文で要点を宣言
- 第 4 回 支持文で強力にサポート
- 第 5 回 結論文で念押し
- 第 6 回 過程重視のライティング
- 第 7 回 まとめ 1
- 第 8 回 大学生活は大変?それとも楽チン?
- 第 9 回 歩きスマホやめてくれない?
- 第 10 回 ネットショッピング詐欺に引っかからないために
- 第 11 回 似て非なるもの:パブと居酒屋
- 第 12 回 説明しよう、日本の文化
- 第 13 回 データにみる世界の現状
- 第 14 回 AIによって職が奪われるのか
- 第 15 回 まとめ 2

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施しません。レポート課題(エッセイ)により採点します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業では、主にテキストとスライド等の補助教材を使用して学習します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業を復習し、課題に取り組み、次回に活かしましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題(中間・期末エッセイ) 60%

毎回のオンライン課題(またはワークシート) 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

課題は原則、パソコンを用いてMicrosoft Office Wordで作成していただきます(自身のノートパソコンを持参するのが望ましい)。課題の多くはオンライン提出になる予定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Writing Facilitator <Revised Edition>/構造から学べるパラグラフ・ライティング入門【改訂版】/静 哲人 著/松柏社/2019年

担当者が作成した資料
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 アルク英辞郎
<http://www.alc.co.jp/>
 イデオム検索に便利なオンライン辞書(無料)

英文法大全
<http://www.eibunpou.net/>
 オンライン文法書(無料)

Grammarly
<https://www.grammarly.com/>
 自動英文添削(スペリング、文法ミスの校正)

DeepL
<https://www.deepl.com/ja/translator>
 翻訳ツール(訳は必ず自分で確認・修正しましょう)

Thesaurus
<https://www.thesaurus.com/>
 類語辞典(多様な表現を検索)

Academic Phrasebank
<http://www.phrasebank.manchester.ac.uk/>
 アカデミック英語の表現集(応用)
 [実務経験のある教員による実践的科目]

Writing I D 2013年度以降入学者

EGB1301D0J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 1年次
 2単位 前期
 金曜1限
 DP3: 言語力
 60
 必修 クラス指定
 孫工 季也

[科目の教育目標 (Course Description)]

この授業では自分の主張を効果的に表現する方法を身につけることを目標とします。そのため、パラグラフ・ライティングの構造を学びつつ、様々なタイプの文章の書かれ方に注目していきます。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. パラグラフ・ライティングの構造の理解
2. 様々なテーマへの応用
3. 語彙力や表現力の向上
4. 自己の書き方への気づきとその拡張

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 インTRODクシヨN
- 第 2 回 パラグラフの構造
- 第 3 回 パラグラフの構造
- 第 4 回 主題文 (Topic Sentence)
- 第 5 回 主題文 (Topic Sentence)
- 第 6 回 支持文 (Supporting Sentence)
- 第 7 回 支持文 (Supporting Sentence)
- 第 8 回 まとめ文 (Concluding Sentence)
- 第 9 回 まとめ文 (Concluding Sentence)
- 第 10 回 パラグラフ・ライティング (Listing)
- 第 11 回 パラグラフ・ライティング (Listing)
- 第 12 回 パラグラフ・ライティング (Time Order)
- 第 13 回 パラグラフ・ライティング (Time Order)
- 第 14 回 パラグラフライティング
- 第 15 回 まとめ

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

モデル文の構造や語彙・表現法を確認をしつつ文章の書かれ方に注目していきます。学生の質問や回答に対しは適宜口頭でフィードバックを行います。また、本授業ではペアワークやグループワークを取り入れることもあります。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

- ・相手に伝わりやすい書き方とは何かを考える
- ・身の回りにある書きものの書かれ方に目を向ける
- ・何かを書くときの自分の書き方に目を向ける

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

- 30% 授業への積極的な参加
- 70% 課題提出

[留意事項 (Other Information)]

授業の進度や学生の反応によりシラバスを変更することがあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Message Delivered <Lower Intermediate>』 / Leonid Yoffe, Atsushi Chiba, Shoma Aota and Akira Morita / 南雲堂 / 2020 / 9784523179016 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介します

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing I E 2013年度以降入学者

EGB1301E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in paragraph-writing designed to introduce the conventions of English prose within a variety of genres necessary for the development of overall writing skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will be able to write well-organized, cohesive, grammatically correct paragraphs. They will be able to write topic sentences and supporting sentences. Students will also begin to be able to write short, multi-paragraph texts on one theme. They will be able to use word processing software for writing papers with suitable format.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Is familiar with basic PC functions/formatting	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Has an awareness of ways to organize ideas for writing: mindmaps, outlines	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

3) Has an awareness of terminology used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Has an awareness of the function and purpose of transitions	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Is familiar with many writing genres: narrative, persuasive, emails	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Has an awareness of how to make writing interesting: thesaurus use, sentence types	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction: writing process
- 第 2 回 Paragraphs: studying example paragraphs
- 第 3 回 Writing topic sentences
- 第 4 回 Developing ideas: studying example paragraphs
- 第 5 回 Writing supporting sentences
- 第 6 回 Mechanics of coordination
- 第 7 回 Cohesion and unity in paragraphs
- 第 8 回 Writing concluding sentences
- 第 9 回 Midterm review
- 第 10 回 General essay organization
- 第 11 回 Writing an introduction and thesis statement
- 第 12 回 Body paragraphs
- 第 13 回 writing body paragraphs

第 14 回 writing body paragraphs 2: transitions and cohesion

第 15 回 second half review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will work in pairs and individually. Students will receive ongoing formative feedback in grammar, style, and basic writing conventions, both in drafting and revising stages.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will do the assigned homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30% participation

70% written work

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II A 2013年度以降入学者

EGB1351A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Isobel Hook

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in paragraph-writing designed to introduce the conventions of English-style prose within a variety of genres necessary for the development of academic writing skills.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct paragraphs. They will be introduced to the concepts of topic sentences and supporting sentences.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力: 1) Is familiar with basic	Does not meet course	Meets some course	Meets most course expectation	Exceeds most course

PC functions/formatting; 2) Has an awareness of ways to organize ideas for writing: mind maps, outlines; 3) Has an awareness of terminology used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.); 4) Has an awareness of the function and purpose of transitions ; 5) Is familiar with many writing genres: narrative, persuasive, emails; 6) Has an awareness of how to make writing interesting : thesaurus use, sentence types; 7) Has developed a writing habit possibly through a journal or timed	expectation s yet	expectation s	s and excels on some criteria	expectation s

writing exercises in class; 8) Has experience with reviewing classmates' writing samples.				
---	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Definition paragraphs: studying paragraphs
- 第 2 回 Definition paragraphs: studying grammar
- 第 3 回 Original writing (Personal history style)
- 第 4 回 Process paragraphs: studying paragraphs
- 第 5 回 Process paragraphs: studying grammar
- 第 6 回 Original writing (Expository style)
- 第 7 回 Descriptive paragraphs: studying paragraphs
- 第 8 回 Descriptive paragraphs: studying grammar
- 第 9 回 Original writing (Descriptive style)
- 第 10 回 Opinion Paragraphs: studying paragraphs
- 第 11 回 Opinion Paragraphs: studying grammar
- 第 12 回 Original writing (Persuasive style)
- 第 13 回 Narrative paragraphs: studying paragraphs
- 第 14 回 Narrative paragraphs: studying grammar
- 第 15 回 Original writing (Narrative style)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This class will be conducted entirely in English. We will use both online and face to face instruction. Most materials, activities, and assignments will be conducted through MANABA. This class will not meet face to face every week, but will meet periodically for feedback and focused writing help. Students will receive written feedback on each draft of their written work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will do the assigned homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30% Participation and preparation

70% Written work

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II B 2013年度以降入学者

EGB1351BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

平野 あかり

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業では、学術英語での情報発信、特にライティングにおいて広く用いられている表現・構成を身に着けることで、学術的な表現・構成で意見を論じることを目標とします。前期の内容を踏まえ、より発展的な内容と学術的な英語表現の習得を目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標: SDGs)をはじめとする社会問題のトピックについて、パラグラフを書くことができるようになる

学術的な英語表現を習得する

クラスメイトのライティングやその過程を見て学ぶことができる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自律性	積極的に学習する意欲がみられない	消極的ながら学習を試みようとする姿勢がみられる	学習に関心を持ち努力する	常に学習に関心をもち努力する
知識・理解力	知識の不足を補う努力がみられない	消極的ながら知識を補う姿勢がみられる	学習に必要な知識を積極的に補う姿勢がみられる	常に積極的に知識を深める姿勢がみられる
言語力①	基本的な語彙運用ができない	基本的な語彙運用ができる	ある程度多様な語彙運用ができる	多様な語彙を適切に使用することができる
言語力②	基本的な文構造を使用することができない	基本的な文構造を使用することができる	いくつかの文構造を使用することができる	多様な文構造を使用することができる

批判的思考力	論拠や例を用いて議論することができない	やや主観的ではあるが、論拠や例を用いて議論することができる	概ね適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる	適切な論拠や例を用いて議論を展開することができる
--------	---------------------	-------------------------------	----------------------------	--------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 Flow of Sentences
- 第 3 回 Basic Paragraph
- 第 4 回 Developing Coherence
- 第 5 回 Hedges and Boosters
- 第 6 回 Generating Ideas
- 第 7 回 まとめ 1
- 第 8 回 How to attract your readers
- 第 9 回 Supporting Your Ideas
- 第 10 回 Concluding Paragraphs
- 第 11 回 Comparison and Contrast Paragraphs
- 第 12 回 Essay Structure
- 第 13 回 Problem Solving Essay
- 第 14 回 The First Step for Academic Papers
- 第 15 回 まとめ 2

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施しません。レポート課題 (エッセイ) により採点します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業では、主にテキストとスライド等の補助教材を使用して学習します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業を復習し、課題に取り組み、次回に活かしましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題 (中間・期末エッセイ) 60%

毎回のオンライン課題 (またはワークシート) 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

課題は原則、パソコンを用いてMicrosoft Office Wordで作成していただきます (自身のノートパソコンを持参するのが望ましい)。課題の多くはオンライン提出になる予定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals 大学生のためのアカデミックライティング・ストラテジー/中谷安男 著/2020年

テキストURL

<https://www.kinsei-do.co.jp/books/4109/>

担当者が作成した資料

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

アルク英辞郎

<http://www.alc.co.jp/>

イディオム検索に便利なオンライン辞書 (無料)

英文法大全

<http://www.eibunpou.net/>

オンライン文法書 (無料)

Grammarly

<https://www.grammarly.com/>

自動英文添削 (スペリング、文法ミスの校正)

DeepL

<https://www.deepl.com/ja/translator>

翻訳ツール (訳は必ず自分で確認・修正しましょう)

Thesaurus

<https://www.thesaurus.com/>

類語辞典 (多様な表現を検索)

Academic Phrasebank

<http://www.phrasebank.manchester.ac.uk/>

アカデミック英語の表現集 (応用)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II D 2013年度以降入学者

EGB1351D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

孫工 季也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では前期に引き続き、自分の主張を効果的に表現する方法を身につけることを目標とします。そのため、パラグラフ・ライティングの構造を学びつつ、様々なタイプの文章の書かれ方に注目していきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. パラグラフ・ライティングの構造の理解
2. 様々なテーマへの応用
3. 語彙力や表現力の向上
4. 自己の書き方への気づきとその拡張

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 パラグラフ・ライティング (Classification)
- 第 3 回 パラグラフ・ライティング (Classification)
- 第 4 回 パラグラフ・ライティング (Comparison and Contrast)
- 第 5 回 パラグラフ・ライティング (Comparison and Contrast)
- 第 6 回 パラグラフ・ライティング (Cause and Effect)
- 第 7 回 パラグラフ・ライティング (Cause and Effect)
- 第 8 回 パラグラフ・ライティング (Problem-Solution)
- 第 9 回 パラグラフ・ライティング (Problem-Solution)
- 第 10 回 プレゼンテーションの構造 (Introduction)
- 第 11 回 プレゼンテーションの構造 (Body)
- 第 12 回 プレゼンテーションの構造 (Conclusion)
- 第 13 回 プレゼンテーション資料の作成 1
- 第 14 回 プレゼンテーション資料の作成 2
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

モデル文の構造や語彙・表現法を確認をし、書きものの書かれ方に注目していきます。学生の質問や回答に対しては適宜口頭でフィードバックを行います。また、本授業ではペアワークやグループワークを取り入れることもあります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・身の回りにある書きものの書かれ方に目を向ける
- ・何かを書くときの自分の書き方に目を向ける

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30% 授業への積極的な参加

70% 課題提出

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進度や学生の反応によりシラバス内容を変更することがあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Message Delivered <Lower Intermediate>』 / Leonid Yoffe, Atsushi Chiba, Shoma Aota and Akira Morita / 南雲堂 / 2020 / 9784523179016 / 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介します

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II E 2013年度以降入学者

EGB1351E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This is a course in essay writing designed to help students write short essays and begin to use sources for support.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Students will learn how to write well-organized, grammatically correct 5-paragraph essays. Students will develop their skills of revision and peer review. Students will understand what plagiarism is and how to avoid it. Students will be able to use basic skills for incorporating small amounts of source material as support in essays.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Is familiar with basic PC functions/formatting	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Has an awareness of ways to organize ideas for writing: mindmaps, outlines	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Has an awareness of terminolog	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels	Exceeds most course expectations

y used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)			on some criteria	
4) Has an awareness of the function and purpose of transitions	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Is familiar with many writing genres: narrative, persuasive, emails	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Has an awareness of how to make writing interesting: thesaurus use, sentence types	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 course introduction and basic essay structure review
- 第 2 回 Essay 1: persuasive: planning
- 第 3 回 Essay 1: persuasive: grammar (parallelism)
- 第 4 回 Essay 1: persuasive: revising
- 第 5 回 Essay 2: Cause effect: planning
- 第 6 回 Essay 2: Cause/effect: transitions and vocabulary
- 第 7 回 Essay 2: Cause/effect: basics of using sources & plagiarism
- 第 8 回 Essay 2: Cause/effect: revising
- 第 9 回 Essay 3: Problem-solution: planning
- 第 10 回 Essay 3: Problem-solution: paraphrasing
- 第 11 回 Essay 3: problem-solution: revision
- 第 12 回 Essay 4: extended summary-response: planning
- 第 13 回 Essay 4: summary-response: revision
- 第 14 回 writing a bibliographic reference
- 第 15 回 course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will work in pairs and individually. Students will receive ongoing formative feedback in grammar, style, and basic writing conventions, both in drafting and revising stages.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will do the assigned homework.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

20% Participation

80% writing assignments

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook is required for this course. Students will be provided with materials by the instructor.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アメリカの社会と文化

EGL3453N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、多民族国家アメリカの国家や国民性を理解し、複眼的な視点からアメリカの文化を学び、多角的な思考力を涵養することを目的とする。昨今の不安定な国際情勢の中、アメリカは依然として世界の覇権を担い、良くも悪くも我々の生活にも多大な影響力を保持している。国際的な視野を習得するためには、アメリカ文化の源泉を理解することが必要である。そこで本講義では、Michael Denningらが追求した「アメリカンとはなにか」という問いにアプローチし、アメリカの国家性や国民性の根底にある「なにか」を理解することを本講義の目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. アメリカの社会と文化を考察することによって、多角的な思考力を涵養する。
2. アメリカの歴史について幅広い知識を習得する。
3. アメリカの社会と文化の仕組みを、様々な視点から理解する。

4. アメリカの歴史を「国家ナラティブ」としてみなし、「アメリカンとはなにか」という問いにアプローチする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション：カルチュラル・スタディーズについて
- 第 2 回 建国神話、アメリカ例外主義
- 第 3 回 アメリカとエスニシティ：原住民文化
- 第 4 回 アメリカとエスニシティ：移民文化
- 第 5 回 アメリカとエスニシティ：黒人の歴史と文化 17~18世紀
- 第 6 回 アメリカとエスニシティ：黒人の歴史と文化 19~20世紀
- 第 7 回 アメリカとエスニシティ：黒人の歴史と文化 20世紀~現代
- 第 8 回 アメリカとジェンダー：フェミニズム 1 17~18世紀
- 第 9 回 アメリカとジェンダー：フェミニズム 2 19~20世紀
- 第 10 回 アメリカとジェンダー：フェミニズム 3 20世紀~現代
- 第 11 回 ジェンダーマイノリティ：LGBT運動の萌芽と現在
- 第 12 回 アメリカと音楽
- 第 13 回 アメリカと帝国主義、捕鯨文化を交えて
- 第 14 回 アメリカと銃社会
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は基本的には講義形式で、配布プリントを使い進めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回の授業で指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (20%)

期末試験 (80%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ [第二版] ポスト 9・11 からみるアメリカ文化』/ニール・キャンベル/アラスティア・キーン/萌書房/2012/9.784860650698E12/学内販売予定

配布プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブデザイン I

CSA2414N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

定員24人

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット技術の総括的な理解から、ウェブサイトの規格や使用する言語、文字・画像などの情報の関連付けと視覚化と各種形式、さらにサイト運営における著作権問題などを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

毎回の授業は演習室で行うが、実習は概要を理解するための実験と位置付けているため、基本は講義となる。教科書として「改訂新版 インターネット講座」(北大路書房)を利用し、インターネットのしくみ、World Wide Webのしくみ、HTMLとCSSを利用したWebページの記述、JavaScriptを利用したWebページについてを、操作実習も交えて学ぶ。加えて、各種のファイル形式の知識を整理し、Web制作者として必要な著作権問題についても学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回	ガイダンス（この授業と「ウェブデザイン実務士」資格について、大学内の各演習室で使えるアプリケーションについてなど）
第 2 回	Webデザインの仕事とは？、本学のWebサーバー環境、Web制作のための法的知識（著作権、意匠権、商標権、肖像権）
第 3 回	Webサイトの批判的閲覧とHTMLを使ったWebページの制作の基本
第 4 回	HTMLを使ったWebページの作成(画像表示・階層構造の理解)
第 5 回	HTMLとCSSを利用したWebページの制作実習(1) 導入
第 6 回	HTMLとCSSを利用したWebページの制作実習(2) 活用
第 7 回	JavaScriptを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(1) 教科書11章前半
第 8 回	JavaScriptを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(2) 教科書11章後半
第 9 回	CGIを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(1) 教科書12章前半
第 10 回	CGIを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(2) 教科書12章後半
第 11 回	HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(1) 企画
第 12 回	HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(2) サイト設計・ページデザイン
第 13 回	HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(3) ページ制作
第 14 回	HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(4) 各種ブラウザで表示確認、最終レポート提出
第 15 回	

まとめ（確認テストの実施とその解説。manabaに解答例を公開）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を基本とするが、実習を伴った方が理解が促進される内容については、パソコンを利用した操作実習をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・毎回の授業に関して教科書の該当ページを示すので、事前に読んで参加すること。

・「Webページの批判的閲覧」に関して、一度ずつ発表する必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、最終レポートを含む提出物（30%）、確認テスト（40%）の総合点で評価。なお、授業での発表点は、授業参加度（30%）の中に含む。

〔留意事項（Other Information）〕

ウェブデザイン実務士科目群の基本となるため、他のウェブデザイン実務士科目科目よりも先に（特に「ウェブデザイン演習」よりも先に）に履修することが望ましい。

2019年度入学者が最終学年となる科目なので、2022年度までの開講となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014/978-4-7628-2830-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブデザイン II

CSA2462N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

DP4 : 思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

様々な技術やメディア、コンテンツから成り立つウェブサイトの特徴を理解し、サイト制作に用いられるソフトウェアの実習を通してウェブサイトの構築方法の基礎を学び、適切なファイル（形式、データサイズ、著作権など）の取

り扱い方法や、コンテンツの企画、編集などの『ウェブデザイン』の知識と技術を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Adobe Bracketsほか、制作ソフトウェア・ウェブサービスを活用し、演習と課題制作を行いウェブサイトの制作能力を身につける。

ウェブの特性、技術を理解し、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

- 1) HTML/CSSコーディングの基礎技術の習得
 - ・制作ツールの活用、操作方法の習得
 - ・文章構造を理解したコンテンツの制作と編集
- 2) ウェブサイトのデザイン、編集の知識・技術の習得
 - ・レイアウト技術の習得
 - ・サイト構造の設計、編集知識の習得
- 3) ウェブサイト制作に関わる、応用技術の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (PC、OSの操作)	PCの起動、終了など、OSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用、環境設定の変更、周辺機器 (プリンタ、スキャナなど) も適切に利用できる	OS、ソフトウェアのバージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトウェアの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成、編集することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、ユーザーにとっても有益なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (必要な情報の検索・収集・編集)	必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、使用ツールの解説、ソフトウェア基礎・環境設定
- 第 2 回 HTML基礎1 (ファイル作成、文章構造にそったコーディング、素材の管理と編集)
- 第 3 回

HTML基礎2 (画像、リンク、汎用要素ほか、関連要素の学習)

- 第 4 回 CSS基礎1 (記述方法、文字装飾、カラー、単位、画像素材等の編集などの学習)
- 第 5 回 CSS基礎2 (セレクトを活用した要素の装飾・レイアウト方法の学習)
- 第 6 回 CSSレイアウト1 (汎用要素、セクション要素の活用したレイアウト方法の学習)
- 第 7 回 CSSレイアウト2 (ナビゲーション、リスト、Flexレイアウトなどの学習)
- 第 8 回 ウェブデザイン応用技術1 (JavaScriptの活用)
- 第 9 回 ウェブデザイン応用技術2 (ウェブフォント他、ウェブサービスの活用)
- 第 10 回 最終課題出題、企画書作成 (コンテンツ企画、サイト設計)
- 第 11 回 最終課題制作 (コンテンツ収集、編集、加工作业)
- 第 12 回 最終課題制作 (サイトの制作・編集作業、個別サポート)
- 第 13 回 最終課題制作 (中間発表、サイトの制作・編集作業、個別サポート)
- 第 14 回 最終課題制作 (動作検証、調整、編集箇所の確認、ブラッシュアップ作業)
- 第 15 回 最終課題の提出、合評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各回解説資料・素材データを配布し、リサーチ、演習などの課題制作を行う。

最終課題では、演習で学んだ技術を活用して、各自が課題テーマに沿ったコンテンツを企画・編集し、ウェブサイトを制作する。

最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

〔予習・復習〕

授業内で配布する資料、素材データを元に復習をしておくこと。またデザインや構造など参考になるウェブサイトを各自で調査・研究しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加・理解度 (30%)、授業毎の演習課題提出、技術習得 (35%)、最終課題の完成度 (35%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

人数制限：18名

「マルチメディア演習」を履修済み、もしくは「Adobe Photoshop」が扱える事が望ましい。

「グラフィックデザインと冊子制作」の受講も推奨する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HTML5+CSS3の新しい教科書 改訂新版 基礎から覚える、深く理解できる。〈レスポンシブWebデザイン対応〉』/こもりまさあき・原一宣・赤間公太郎/エムディエヌコーポレーション/2018/8/27/4844367838

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

ウェブデザイン演習

CSA3451N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次 4年次

2単位 後期

木曜2限

DP4: 思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ウェブデザイン関連科目で学んだ内容の集大成として、オリジナル企画のウェブサイトの制作に取り組む。企画、情報収集、編集、デザイン、加工、コーディング、公開までサイト制作に関わるワークフローを体験・理解し、ウェブデザイン実務士の資格に値するサイト制作の知識と技術、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) オリジナルウェブサイトの企画・編集
 - ・ウェブサイト、コンテンツの企画
 - ・企画書作成 (ラフスケッチ、ワイヤーフレーム、サイトマップ)
- 2) ウェブサイトのデザイン
 - ・画像編集ツール等を活用したウェブページのデザイン
 - ・素材 (画像、テキスト) の制作、収集、加工、編集
- 3) ウェブサイトの構築
 - ・Adobe Bracketsほか、制作ツールを活用したHTML/CSSコーディング、サーバ利用
- 4) 公開、プレゼンテーション

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力 (PC、OSの操作)	PCの起動、終了など、OSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器 (プリンタ、スキャナなど) を適切に利用することができる	OS、ソフトウェアのバージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成、編集することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、ユーザーにとっても有益なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (必要な情報の検索・収集・編集)	必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、環境設定セットアップ、ウェブサイトの制作方法の復習
- 第 2 回 ウェブサイトリサーチ1 (アイデアリサーチなど制作準備、サイトマップ作成)
- 第 3 回 ウェブサイトリサーチ2 (サイト設計、ワイヤーフレーム作成)
- 第 4 回 ウェブサイトリサーチ3 (サーバ、ドメインに関する学習)
- 第 5 回 ウェブサイトリサーチ4 (ウェブサービス、CMSに関する学習)
- 第 6 回 課題サイトの公開準備 (公開サーバとFTPソフトウェアに関する学習)
- 第 7 回 ウェブサイト作成1 (企画書作成、関連情報・技術のリサーチ)
- 第 8 回 ウェブサイト作成2 (企画内容の講評・調整、素材制作、収集、編集)
- 第 9 回 ウェブサイト制作3 (サイト制作・編集作業、個別サポート)
- 第 10 回 ウェブサイト制作4 (ウェブサービス活用・検証・実装、個別サポート)
- 第 11 回 中間チェック (進行状況をプレゼンテーション、修正点の確認、個別サポート)
- 第 12 回 ウェブサイト制作 (中間チェックで指摘を受けた箇所の修正、コンテンツの追加・編集)

第 13 回 ウェブサイト制作（修正箇所の再チェック、ブラッシュアップ、個別サポート）

第 14 回 ウェブサイト制作（最終調整、公開準備作業）

第 15 回 完成データ提出、合評（プレゼンテーション）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

ウェブサイトリサーチの演習でサイト制作、運用の関連技術の学習を行い、本科目及び関連授業で習得した知識、技術を活用してオリジナルのウェブサイト、ウェブコンテンツを企画、制作する。完成後は学内ネットワーク、または外部サーバを利用して公開する。

中間チェック、最終課題は完成作品のプレゼンテーション・合評を行い、ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

〔復習〕

「マルチメディア演習」「グラフィックデザインと冊子制作」「ウェブデザインII」の履修者は、各授業で配布したレジュメ、配布データを元に復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

ウェブサイトの公開を単位取得の条件とする。

授業参加・理解度（30%）、技術習得度（30%）、課題サイトの完成度（40%）の総合点で評価する。

なお、「ウェブデザイン実務士」の資格認定を希望するものは、70点以上の評価を受ける必要がある。

〔留意事項（Other Information）〕

人数制限：18名

本授業を受講するにあたり、「マルチメディア演習」を履修済み（もしくはIllustratorまたはPhotoshopが扱える）、および「ウェブデザインI」「ウェブデザインII」を履修済み（もしくはまたはHTMLとCSSのコーディング経験、基礎知識を有している）ことを必須条件とする。

また「グラフィックデザインと冊子制作」の履修も推奨する。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HTML5+CSS3の新しい教科書 改訂新版 基礎から覚える、深く理解できる。〈レスポンシブWebデザイン対応〉』/こもりまさあき・原一宣・赤間公太郎/エムディエヌコーポレーション/2018/8/27/4844367838

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

ウェブプログラミング演習

CSA2463N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜 3限

DP4：思考・解決力

60

定員24人

伊藤 泰子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

プログラム言語JavaScriptを利用して、プログラミングやアルゴリズムを学ぶ。

プログラミングを通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考やプログラム作成の技術を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・基本制御構造
- ・オブジェクト指向プログラミング
- ・フォーム部品との連携
- ・アルゴリズム
- ・動的なWebコンテンツの作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
制御構造の理解	制御構造がわからない	個々の制御構造が理解できる	制御構造を組み合わせてコーディングできる	逐次・選択・反復を適切な順序で組み合わせ、要求に応じたプログラムを完成できる
インタラクティブなページを作成できる	フォーム部品を知らない	fフォーム部品を使ったWebページを記述できる	的確なフォーム部品の選択し、Webページを作成することができる	ユーザが入力・選択した値に応じたプログラムを作成できる
アルゴリズムの理解	アルゴリズムを知らない	代表的なアルゴリズムを知っている	代表的なアルゴリズムが理解できる	代表的なアルゴリズムをプログラムで表現できる
動的なコンテンツの作成	動的なコンテンツに興味がない	動的なコンテンツがどのようなものか理解できる	動的なコンテンツを作成できる	ユーザーインターフェイスを考慮した使いやすい動的なコ

				コンテンツを 作成できる
--	--	--	--	-----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 JavaScriptとは
 - 第 2 回 基本制御構造 1 (順次、反復)
 - 第 3 回 基本制御構造 2 (選択)
 - 第 4 回 オブジェクト指向 1 (オブジェクトとは、オブジェクトの種類)
 - 第 5 回 オブジェクト指向 2 (フィールド、メソッドの利用)
 - 第 6 回 オブジェクト指向 3 (メソッドの活用)
 - 第 7 回 フォームタグとの連携 1 (文字列操作、デザイン変更)
 - 第 8 回 フォームタグとの連携 2 (演算処理)
 - 第 9 回 関数の定義とイベント処理
 - 第 10 回 DOM CSSの操作 1 (JSを利用して動的にデザインを変更する)
 - 第 11 回 DOM CSSの操作 2 (JSを利用して動的にHTMLコンテンツを変更する)
 - 第 12 回 検索・ソートなどの代表的なアルゴリズム
 - 第 13 回 CANVASを使って図形を描画する
 - 第 14 回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ設計)
 - 第 15 回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ作成)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習形式で行う。適宜、演習課題や小テストも課す。フィードバックとして、課題・テスト提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

積み上げ式の授業なので、特に予習をする必要はないが、復習は必ず行う。毎回宿題を出すので、自分のペースでじっくり復習しながら問題を解いていく。わからない部分は必ず質問すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、課題 (30%)、テスト (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。

適宜、必要資料を配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

ウェブプログラミング演習

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/js/index.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

ことばとコミュニケーション

EGL2400N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜1限

DP4: 思考・解決力

60

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、コミュニケーションの中心となる『ことば(象徴記号)』の側面からコミュニケーションにアプローチし、そのメカニズムと現象の多様性を考察していく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 言語コミュニケーションの基本的メカニズムを考察し、様々な形態のコミュニケーションの成り立ちとダイナミズムを理解する。

2. 言語コミュニケーション成立における「ことば」の果たす役割を考察し、人が言語メッセージを理解し解釈するプロセスを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 コミュニケーションの定義
- 第 2 回 コミュニケーションの起源
- 第 3 回 コミュニケーションと記号 (1): 言語記号の性質と役割
- 第 4 回 コミュニケーションと記号 (2): 動物のコミュニケーション (比較文化論)
- 第 5 回

- 社会におけることばの意味の生成 (1): 象徴的相互作用論 前編
- 第 6 回 社会におけることばの意味の生成 (2): 象徴的相互作用論 後編
- 第 7 回 ことばの意味の伝達 (1): 発話行為論
- 第 8 回 ことばの意味の伝達 (2): 協調の原則と会話の含意
- 第 9 回 ことばの意味の伝達 (2): 関連性理論
- 第 10 回 ことばの意味の伝達 (4): 社会的認知 (「心の理論」と発話理解)
- 第 11 回 メッセージの効果 (1): 構築主義コミュニケーション論と他者視点取得
- 第 12 回 言語メッセージの効果 (2): Message Design Logic
- 第 13 回 言語コミュニケーション現象 (1): ポライトネス
- 第 14 回 言語コミュニケーション現象 (2): 嘘と欺瞞
- 第 15 回 言語コミュニケーション能力について (総括)
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

テキスト、参考文献に基づいた講義を行い、質疑応答、指定課題の理解を前提としたディスカッション等を行っていく。その他、授業内容の理解に関する試験、およびレポートの提出。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Web上に掲載する講義ノート (PowerPointスライド) をダウンロードして予習を行う。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業参加度 (20%)、個別課題 (20%)、試験 (40%)、論文 (20%) に基づいて総合的に行う。

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト (Textbook) (書籍名 (Title)/著者 (Author)/出版社 (Publisher)/出版年 (Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献 (References) (書籍名 (Title)/著者 (Author)/出版社 (Publisher)/出版年 (Year Published)/ISBN)]

『A first look at communication』/Griffin, E./McGraw Hill/2006/

[参考URL (URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

ことばと意味

EGL3458N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

DP4: 思考・解決力

60

児玉 一宏

[科目の教育目標 (Course Description)]

- ・認知言語学の基本的な考え方を理解できるようになる。
- ・中等英語科教育で学んだ「構文の書き換え」を取り上げ、構文の意味の違いについて理解できるようになる。
- ・構文文法の考え方を理解し、「構文の意味」について理解できるようになる。
- ・認知意味論の基本的な概念を理解し、語彙の意味や比喻について考察できるようになる。
- ・言語習得論、コミュニケーション論の視点から、文脈の中で問われる意味について理解できるようになる。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

認知言語学の言語観に基づいて、ことばの意味、特に「構文の意味」に焦点を当て、ことばと意味の問題を考察する。テキストの中から、本授業の目標と関わり深い章 (テーマ) を選んで、その内容を丁寧に読み進め、内容理解に努める。「構文の意味」については、構文文法の理解を視野に入れた学習に重点を置き、認知言語学が提唱する「構文」の意味とは何かという問題を探求していく。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	認知言語学の基本的な考え方について全く理解できていない。	構文文法の基本的な考え方を理解している。	英語の構文交替現象である与格交替について、認知言語学的な観点から分析することができる。	認知言語学の意味論の観点から、ことばの意味、構文の意味について考察することができる。

[授業計画]

- 第 1 回 序:
オリエンテーション [本授業の目標・授業運営・授業への導入]
- 第 2 回 認知言語学への招待
- 第 3 回 認知言語学における「ことばと意味」
- 第 4 回 「構文の書き換え」再考
- 第 5 回 英語の与格交替現象と構文の意味
- 第 6 回 構文文法の基礎
- 第 7 回 英語の二重目的語構文

- 第 8 回 中間振り返り
- 第 9 回 「語彙の世界」
- 第 10 回 「言語習得の世界」—構文の習得を中心に
- 第 11 回 「コミュニケーションの世界」—語用論的意味
- 第 12 回 「認知文法の世界」
- 第 13 回 認知言語学と英語教育の接点
- 第 14 回 認知言語学の可能性
- 第 15 回 授業の総括（形成テスト・フィードバック・まとめ）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業では、テキストを使用した講義を中心とする。授業内容の定着のために、必要に応じて講義資料（補助教材）を作成し配布する。適宜、課題提出を求める。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

対面授業の準備では、授業内容の定着を図るため、テキストの中でどの項目について学習しておいてもらうかを事前に連絡する。講義ノートを作成するなどして準備を行ってほしい。各回の予習の仕方の詳細については授業またはmanabaで指示する。フィードバックの方法は、第15回の形成テスト後に、解説・講評と授業のまとめを行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績評価については、形成テストの成績（50%）、課題提出（20%）、授業への積極的な参加態度（30%）に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

対面授業を原則とします。授業の進め方など詳細については、初回の対面授業で説明しますので、必ず出席してください。ただし、コロナ事情により、授業運営に変更等が生じることも考えられます（対面授業をオンライン授業に変更する可能性もあります）ので、manabaを通しての授業連絡には十分注意してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキスト:

『はじめて学ぶ認知言語学』/ 児玉一宏・谷口一美・深田智(編) / ミネルヴァ書房 / 2020

ISBN: 978-4-623-08870-6 / 学内販売・有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『構文文法論—英語構文への認知的アプローチ』/A. ゴールドバーグ (河上誓作 (監訳) /

研究社 / 2001 / 4327401242

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ことばと社会

EGL3455N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

「言語学概論」又は「英語の歴史」の履修者であること

川上 伊都子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

言語は、コミュニケーションの道具としてのみ使われている訳ではありません。言語は、それぞれの社会や文化と密接な関係があり、切り離して考える事はできないのです。では、言語は社会／文化の中でどのような役割や機能をはたし、また、社会／文化からどのような影響や拘束を受けているのでしょうか。人間と言語とはどのように関係しているのでしょうか。これらの問いに答えるため、このコースでは、社会言語学の基礎を学びます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

現実社会での言語使用の分析研究を通して、いかに社会／文化と言語との相互作用があるかを、検証していく。例えば、ことばのコミュニケーション以外の役割についてや、言語習得とは何を意味するのかや、標準語は何のためにあるのか、等普段の生活では考えたことが無い様なことばの奥深い「はたらき」について現実社会の例を沢山使って、考えていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力	自分の考えをアウトプットできない。	自分の考えをアウトプットできる。	理解した理論などをうまくアウトプットできる。	他者の意見、理論などを正しく適切にアウトプットできる。
思考・解決力	問題を解決するための思考が足りない。	問題を解決するための思考はできる。	問題を解決するための知識・情報などを収集することができる。	問題を解決するための重要な知識・情報などを収集し、適切に調整することができる。

共生・協働する力	周りと協調することができない。	周りと協調することができる。	周りとうまく協調し合い、よりよい結果を生み出せる。	周りと協調し合うだけでなく、周りの良さを自分と同じく引き出すことができる。
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 What is Sociolinguistics?ーOrientation
What is Sociolinguistics?ーOrientation
- 第 2 回 ことばの機能とは何かー実例を分析しながら
ことばの機能とは何かー実例を分析しながら考える
- 第 3 回 Communication 以外のことばの機能について
Communication 以外のことばの機能について:京都花街の言葉を観察する
Group Discussionとレポート提出
- 第 4 回 京都花街ことば、裁判官のことばの考察
前週のレポートを返して解説
裁判官のことばの考察:その特徴と機能について
- 第 5 回 言語の”symbol”としての機能について
スカンジナビア3カ国、セルビア・クロアチア、中国の例を使って考察する
- 第 6 回 言語 VS 方言
言語 VS 方言:これらの違いは何か:スカンジナビア3カ国、セルビア・クロアチア、中国の例を使って Group Discussion とレポート提出
- 第 7 回 国家・民族の独立・自治、又は統一のsymbol としての言語
前週のレポートを返して解説
「言語」又は、「方言」という使い分けの目的とその成立過程について考える
- 第 8 回 標準語とは何か
西ゲルマン語方言連続体を例にして、標準語とは何かを解説 (主にヨーロッパの例を使って)
- 第 9 回 琉球王国の歴史と標準語
琉球王国の歴史を例にして、日本における標準語化政策を解説
標準語化政策の目的と過程、言語変種間の格差出現など
- 第 10 回 言語の機能について:まとめ
今まで見て来た言語の機能について、復習とまとめ
- 第 11 回 Sociolinguistics を研究する意味
実例を使って、Sociolinguistics を研究する意味を考察、Sociolinguistics の定義3つの解説
- 第 12 回 Chomsky の理論
Universal Grammar と言語習得
Competence VS Performance とは何か:実例を使ってChomsky の理論の解説

- 第 13 回 Hymes の理論
Communicative competence とは何か: 実例を使ってHymes の理論の解説
社会言語学における言語習得理論を解説
 - 第 14 回 Speech Community とは何か
Speech Community とは何か :Communicative competence とその境界を決めるもの
実例を使って解説
 - 第 15 回 Chomsky VS Hymes のまとめ
それぞれの理論のまとめと復習、Group Activity を通してそれぞれの理論の理解を深める
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない,ただし授業最終日にまとめの筆記テストは行う予定。それ以外に、コロナ感染状況により不測の事態が起こることも想定し、各トピックごとに小テストを行う予定。小テストを数回実施した場合は、最終日の総まとめテストは実施しない。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- 参考文献、重要論文などにそっての講義、質疑応答。さらに現実社会における諸問題に関してグループディスカッション、その結果をレポートにして提出。提出されたレポートは次週返却する際に、必ず詳しい解説を行い、模範例などを示すと共に、評価・採点についても説明する。
1. 参考文献:スザーン ロメイン「社会のなかの言語」
 2. 重要論文 (適宜配布)
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- 主にグループディスカッションの前の週に課題が出される。その様な時には、しっかり準備すること。具体的には、あたえられたテーマに関して、調べたり、指定されたものをしっかり読んでくる事等である。例えば、「北欧3カ国の歴史と言語について調べてくること」という課題が出た時には、図書館やインターネットで調べた後、講義内容を踏まえて、なにが重要な情報であるか取捨選択し、口頭で要点を発表できるようにしておくことが求められる。「グループディスカッションを、円滑に又、奥深いものにするための準備」と捉えているので、提出することは必要なく、要点を押さえておくことと口頭で発表出来る様にしておくことが、何より大事である。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 15時間 (毎週、各1時間ぐらいは予習・復習に当てることが望ましい)
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 評価は、まとめテスト又は小テストの平均点 (60%)、グループレポート (提出物) の平均点 (30%)、授業への積極的取り組み度 (10%) に基づいて、総合的に行う。常に授業への積極的参加を期待する。又、グループディスカッションでは、最後にグループ内での結論などを一枚のレポートにして提出する。評価はこのレポートに対して出され、グループ内の参加者全員にこの評価が同様に与えられる。

〔留意事項 (Other Information)〕

宿題が出たときは、必ずしてくること。授業には積極的に参加すること。予習が出来てない場合、又、居眠り、私語、スマホ等、授業への積極的参加が認められない場合は、減点の対象となる。

コロナ感染状況によっては、登校することが難しくなる場合も考えられるが、出席できないときは、manabaなどで自宅での予習・復習をしっかりとすることが望ましい。長期に出席できない時は、特に担当教師と連絡をしっかりと取り合うことが期待される。

又、感染状況が悪化し、対面授業が困難であると判断した場合には、オンデマンド授業になることもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『『社会のなかの言語』/スザン ロメイン/三省堂/1997/別途指示。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ことばのしくみ

EGL2453N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

言語を形成する規則体系について深く考察し、人間という種に固有の「言語能力」の本質に迫ることを教育目標とする。対象言語は主に英語と日本語の二言語とし、様々な言語現象を扱いながら両言語における文構築についての仕組みを明らかにする。理論的枠組みは生成文法理論を前提とし、特に統語論に焦点を当てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 言語事実(統語現象)を観察し、一般化を導く。
2. 導いた一般化から仮説を立てる。
3. 先行研究によって提示されている理論を基に更なるデータを分析し、仮説の検証、修正をする。
4. 1-3のステップを繰り返すことにより、言語理論を学ぶと同時に議論の立て方についても学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・理解力	教材を通して積極的に内容を理解しようとする	教材を通して積極的に内容を理解しようとする	教材を通してある程度内容が理解できる	教材の内容をほぼ理解できる
言語力	データを正しく理解することができない	データを正しく理解することができる	データを的確に分析できる	データを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	テーマについて考えようとする	テーマについて考えようとする	興味深いテーマを考えられる	興味深いテーマを考え、それを分析できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 The Goal of Theoretical Linguistics
Architectre of Grammar: Lexicon, Syntax, Phonological Form (PF) & Logical Form (LF)
- 第 2 回 Basic Tools in Syntax #1
Phrase Structure & Movement
(Chapter 2, Section 2.1-2.2)
- 第 3 回 Basic Tools in Syntax #2
Head Movement, Verb Phrase
(Chapter 2, Section 2.3-2.4)
- 第 4 回 Constituency
Verb Phrases & Noun Phrases
- 第 5 回 Phrase Structure
X'-Theory
(Chapter 3, Section 3.3-3.4)
- 第 6 回 Sentence Structure
Negative Polarity Items (NPI)
(Chapter 3, Section 3 Section 3.5)
- 第 7 回 Structure & Meaning #1
Binding Theory
(Chapter 4, Section 4.1)
- 第 8 回 Midterm Exam, Structure & Meaning #2
Midterm Exam, Binding Theory (cont.), Thematic Roles
(Chapter 4, Section 4.2)
- 第 9 回 Types of Structure
Infinitives
(Chapter 4, Section 4.3)
- 第 10 回 Syntactic Operation (Movement) #1
NP-Movement
(Chapter 4, Section 4.4)
- 第 11 回 Syntactic Operation (Movement) #2
Wh-Movement
(Chapter 5, Section 5.1-5.2)
- 第 12 回 Movement Rules & Restrictions #1
Island Constraints & Subjacency
(Chapter 5, Section 5.3-5.4)
- 第 13 回 Movement Rules & Restrictions #2

Movement Rules & Restrictions: Strict Cyclicity & Wh-movement in Japanese
(Chapter 5, Section 5.5-5.6)

第 14 回 Interface Studies

Syntax-Morphology, Syntax-Semantics

第 15 回 Review

Review: Goals of Syntax

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施する

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

教科書に基づいて、授業の各回で扱う言語事実の整理、観察をまず行い、一般化を導く。

次に、先行研究で提示されてきた諸規則、理論について学んだ上で、仮設の立て方、及び、検証の仕方、言語学における議論の立て方を身につける。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

各回の授業テーマに関連する教科書の各章を必ず読み、内容を理解した上で授業に臨むこと。同時に、教科書を読んで分からなかった箇所を明らかにしてくること。

与えられた練習問題は、必ず行い復習すること。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Quizzes 20 %

Midterm Exam 40 %

Final Exam 40 %

[留意事項 (Other Information)]

言語学概論等の授業において習得した程度の理論言語学全般の知識を前提とする。特に、統語論の基礎的な知識については必須とする。なお、オンライン授業となる場合がある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『生成文法』 / 渡辺 明 / 東京大学出版会 / 2009/978-4-13-082015-8/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

ことばの音と形態

EGL3406N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

上野 舞斗

[科目の教育目標 (Course Description)]

(1) 日英語の比較を通じて、英語音声学・音韻論を中心に適宜、形態論の基礎知識を学びつつ、(2) 発音・聴解の演習を通して、実際の運用能力も高めることが本科目の目標です。教師を目指す学生が英語教育への実践的応用を行えるよう配慮も行います。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 音声学の基礎知識 (音声と音素, 調音器官, 音韻体系) を理解すること
2. 英語の分節素 (子音・母音) の調音方法を理解し、これを発音・聞き取りに活かせること
3. 英語の音変化 (連結・同化・脱落) の仕組みを理解し、これを発音・聞き取りに活かせること
4. 英語の超分節素 (アクセント, リズム, イントネーション) の相互関係について理解し、これを発音・聞き取りに活かせること

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
音声学の基礎知識	音声と音素, 調音器官, 音韻体系について全く理解できていない。	音声と音素, 調音器官, 音韻体系について部分的に理解している。	音声と音素, 調音器官, 音韻体系について理解している。	音声と音素, 調音器官, 音韻体系について理解しており, 運用等の実践的応用に活かしている。
英語の分節素	調音の方法を理解できず、明瞭に発音できない。	調音の方法を理解しており、意識しているが、明瞭に発音できない。	調音の方法を理解しており、意識しながらであれば、子音・母音を明瞭に発音できる。	調音の方法を意識せずとも、子音、母音を明瞭に発音できる。

英語の音変化	音変化の仕組みを理解できておらず、連続音声の発音・聞き取りに利用できていない。	音変化の仕組みを理解しており、意識しているが、連続音声の発音・聞き取りに利用できていない。	音変化の仕組みを理解しており、意識しながらであれば、連続音声の発音・聞き取りができる。	音変化の仕組みを意識せずとも、連続音声の発音・聞き取りができる。
英語の超分節素	アクセント、リズム、イントネーションについて全く理解できていない。	アクセント、リズム、イントネーションについて部分的に理解している。	アクセント、リズム、イントネーションをすべて理解し、ゆっくりと考えながらであれば運用等の実践的応用に活かせる。	アクセント、リズム、イントネーションをすべて理解し、運用等の実践的応用に活かせる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：音声学，音韻論と形態論とは
- 第 2 回 日英語の音声的差異
- 第 3 回 閉鎖音
- 第 4 回 鼻音，摩擦音
- 第 5 回 破擦音，側音，半母音
- 第 6 回 母音(1) (単母音)
- 第 7 回 母音(2) (二重母音，r色の母音)
- 第 8 回 音声変化 (連結，同化)
- 第 9 回 音声変化 (脱落とまとめ)
- 第 10 回 語アクセント
- 第 11 回 内容語・機能語とリズム
- 第 12 回 イントネーション (文末焦点)
- 第 13 回 イントネーション (音調)
- 第 14 回 英語音声学習・指導法
- 第 15 回 授業のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実技試験

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・日英語の比較を通じて，英語音声学・音韻論を中心に適宜，形態論の基礎知識を学びます。
- ・各自のスマートフォンやタブレット端末を用いて，発音練習を行います。
- ・英語の聞き取り教材などを通して，聴解能力を鍛えます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・必ず授業時間外に発音の自主訓練 (毎日20分) を行うこと
- ・前回までの復習をしておくこと (毎週復習のための課題 [授業外提出物] があります)
- ・次回の予習をしておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内提出物 (30%)，授業外提出物 (30%)，実技試験 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。

遅刻3回で欠席1回分とし，欠席が5回になった時点で単位取得を認めません。

やむを得ず欠席・遅刻する場合は，必ず担当教員に事前にメール等で知らせてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イギリス英語音声学』/ポール・カーリー(著),インガ・M・メイス(著), ビバリー・コリンズ(著), 三浦弘(翻訳)/大修館書店/2021/978-4469246452

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本語で覚えるネイティブの英語発音』/島岡丘(監修)・島岡良衣/ダイヤモンド社/2013/9784478024287

『ルミナス英和辞典：つづり字と発音解説』/竹林滋・斎藤弘子/研究社/2005/9784767404127

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども英語指導法 (実践編)

EGR2252N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜2限

DP2：知識・理解力

60

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

児童に英語を教える際に，スピーキング・リスニングを中心とした指導から始まり，リーディング・ライティングへの親しみを取り入れた指導まで，実践を通して学ぶことを目標とします。教室英語も含め自身の英語力向上も図りながら，児童英語教育に関する基本的知識・技能習得することを目指します。さらに，ICTの効果的な活用方法についても考察します。具体的には，児童英語教授法をもとに，以下の項目を毎回スパイラルに取り上げて行きます。

- ・児童英語の4技能の指導法
- ・児童英語の専門知識とそれらを英語で理解する読解力
- ・クラスルームイングリッシュとスモールトークに必要な英語力
- ・児童英語におけるICTの活用法

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

児童英語で、主に取り扱う音声インプットの具体的な指導法を学ぶとともに、指導者に求められる英語力の向上を図ります。情報化社会に対応できるICT教材の効果的な活用法についても考察します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
児童英語に関する知識・理解力	児童英語指導方法について何も語れない。	児童英語を指導するために必要な基本的な知識がある。	児童英語を指導するために必要な知識があり、理解している。	児童英語を指導するために必要な知識があり、他者に説明できる。
児童英語指導に必要な言語力	児童英語を指導するために必要な英語力を身につけておらず、教室英語などが全く使えない。	児童英語を指導する基本的な英語力を身につけており、教室英語などが使える。	児童英語を指導する英語力を身につけており、教室英語などが自由に使える。	求められた基準以上の英語力に加え、状況に応じて反応できる英語力を備えている。
教材研究・授業構想力	指導案を作成し、授業を組み立てることができない。	指導案を作成し、授業を組み立てることができる。	指導案に基づく適切な教材を活用し、授業を組み立てることができる。	指導案に基づく適切な教材を活用し、学習者の興味・関心に留意して、授業を組み立てることができる。
授業実践力	指導案に基づき、授業ができない。	指導案に基づき、授業ができる。	指導案に基づき、学習者の反応を見ながら授業ができる。	指導案に基づき、自分の発話に注意し、学習者の反応を見ながら授業ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
理論編での学習を振り返り、実践課題を持つ
-Small TalkとClassroom English-
- 第 2 回 言語習得論を踏まえての指導
目的意識・相手意識 一児童を対象とした様々な活動例一
- 第 3 回 効果的なチームティーチング
教室英語とTTの役割 一チームティーチングとティーチャートーク一
- 第 4 回 リスニングの指導
リスニング指導の理論と指導法
ICTの効果的な活用方法 1

- 第 5 回 リスニングの指導 (演習)
前時の学びをもとに実習
 - 第 6 回 スピーキングの指導
スピーキング指導の理論と指導法
ICTの効果的な活用方法 2
 - 第 7 回 スピーキングの指導 (演習)
前時の学びをもとに実習
 - 第 8 回 リーディングの指導
リーディング指導の理論と指導法
ICTの効果的な活用方法 3
 - 第 9 回 リーディングの指導 (演習)
前時の学びをもとに実習
 - 第 10 回 ライティングの指導
ライティング指導の理論と指導法
ICTの効果的な活用方法 4
 - 第 11 回 ライティングの指導 (演習)
前時の学びをもとに実習
 - 第 12 回 思考判断表現力を高める英語指導
CLIL, Show & Tell
 - 第 13 回 指導案作成と模擬授業について
指導案作成と模擬授業の準備
 - 第 14 回 模擬授業 (1)
マイクロティーチング 1
 - 第 15 回 模擬授業 (2)
マイクロティーチング 2
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
オールイングリッシュでの指導を身に着けることを通して、児童英語指導者としての英語運用力を向上させます。児童英語の指導のための理論をもとに自らの英語学習の自己調整力を高め、目的に沿った指導案が作成できる力を身につけます。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
テキスト、授業時に配布するプリントの予習・復習を毎時行い授業に参加すること。
また、発表活動時においては十分な準備をして発表に臨むこと。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度 30%
マイクロティーチング (模擬授業) 30%
児童英語指導のための効果的な教材作成 20%
児童英語指導理論の基礎知識テスト 20%
- 〔留意事項 (Other Information)〕
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『Let's have fun teaching English』/小原弥生ほか/南雲堂/2019年/9784523178934/学内販売あり

Let's Try! 1 & 2 —新学習指導要領対応小学校外国語活動教材 /東京書籍/ 978-4487258703

/ 978-4487258710 / 学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小・中学校で英語を教えるための必携テキスト』中村典生監修/ 矢野淳/ 林裕子/ 鈴木渉/

巽撤 著/ 2019/ 東京書籍/ 978-4-487-81248-6

〔参考URL(URL for Reference)〕

・新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm

・3年生教材 Let's Try 1

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/

2017/12/12/1396780_06.pdf

・4年生教材 Let's Try 2 https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/

2017/12/12/1396780_09.pdf

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公立小学校・中学校英語教員，小・中外国語教育コーディネーターの経験あり

こども英語指導法（理論編）

EGR2202N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜2限

DP2：知識・理解力

60

喜多 容子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

2020年に小学校3・4年生で正式導入された外国語活動，さらに5・6年生で教科化となった初等英語を視野に，子どもに英語を指導する際の指導法について，その理論を中心に習得することを目標とします。小学校英語を取り巻く具体的な現状を把握するとともに，母語習得と第2言語習得理論を踏まえて，児童・幼児を対象とした効果的な英語指導法についても考察します。具体的には，以下の項目を取り上げます。

- ・小学校英語を取り巻く具体的な現状を把握
- ・指導者と指導内容の理解
- ・発達段階に応じた活動，教材・教具の扱い
- ・評価の在り方と模擬授業
- ・アルファベット・単語などの認識，フォニックス指導

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

児童英語を指導するために必要な知識・技能に関して，以下の諸点について習得することが求められます。

- ・児童英語に関する基礎的な知識を養う。
- ・クラスルームイングリッシュとティーチャートークにつ

いて理解する。

- ・音声指導法の基本ルールを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
児童英語に関する知識・理解力	テキストを読んでおらず，児童英語に関して何も語れない。	テキストを読み，児童英語に必要な理論を知っている。	テキストを読み，児童英語に必要な理論を理解している。	テキストを読み，児童英語に必要な理論を理解しており，これを他者に説明できる。
児童英語を指導するために必要な言語力	求められる英語力を身につけていない。	児童英語を指導する基本的な英語力を身につけている。	児童英語を指導する基準の英語力を身につけている。	求められた基準以上に英語力に加え，状況に応じて反応できる英語力を備えている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 児童英語の現状と課題
Lesson 1 学習指導要領を考える — 小中連携を視野に入れて —
Phonics 1 Alphabet
- 第 2 回 小学校英語を取り巻く状況 1
Lesson 2 英語教授法の変遷を概観 — 言語習得理論を踏まえて —
Phonics 2 What is Phonics?
- 第 3 回 小学校英語の指導法
Lesson 3 小学校英語の指導法 — 楽しく効果的に —
Phonics 3 Consonants
- 第 4 回 指導者と指導内容 1
Lesson 4 小学校英語の指導者 — 効果的なチーム・ティーチング —
Phonics 4 Short Vowels
- 第 5 回 指導者と指導内容 2
Lesson 5 リスニングの指導法 — 英語リズムの体得 —
Phonics 5 Voiced and Unvoiced
- 第 6 回 指導者と指導内容 3
Lesson 6 スピーキングの指導法 — 「やり取り」「発表」 —
Phonics 6 Voiced and Unvoiced
- 第 7 回 指導者と指導内容 4
Lesson 7 リーディングの指導法 — 文字への親しみ・文字の識別・絵本の指導 —
Phonics 7 Silent E
- 第 8 回 指導者と指導内容 5
Lesson 8 ライティングの指導法 — 大文字・小文字，語句や表現の取り扱い —
Phonics 8 Consonant Blends

- 第 9 回 活動・教材・教具 1
Lesson 9 リズム・メロディを通じた活動 — 歌・チャンツを用いて—
教材教具研究 1
- 第 10 回 活動・教材・教具 2
Lesson 10 知的好奇心を刺激する活動 — ゲーム・クイズを用いて—
教材教具研究 2
- 第 11 回 活動・教材・教具 3
Lesson 11 デジタル教材を活かした活動 — ICT・映像を用いて—
教材教具研究 3
- 第 12 回 評価と模擬授業
Lesson 12 評価を考える — CAN-DO リストの活用・カリキュラム—
指導案作成から授業実践へ
- 第 13 回 模擬授業 (1)
絵本の読み聞かせ 模擬授業
- 第 14 回 模擬授業 (2)
歌やチャンツを使った模擬授業
- 第 15 回 模擬授業 (3)
アクティビティ実習
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
定期テストに代えて授業内で模擬授業および教材提出などを求める。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
児童に英語を指導することを前提に、そこで必要とされる英語力をつける。
第2言語習得論と母語習得論を指導実習を通して実践的に学ぶ。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
テキスト、授業時に配布するプリントの予習、復習を毎時行い授業に参加すること。
模擬授業・発表活動時には、十分な準備をして臨むこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度 30%
発表・模擬授業 20%
中間 児童英語指導の基礎知識テスト 30%
期末 児童英語指導のための教材作成 20%
- 〔留意事項 (Other Information)〕
発表活動の日程、Review 1 の日程については授業の進行状況に併せて調整する。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
・『Let's have fun teaching English』/小原弥生ほか/南雲堂/2019年/784523178934/学内販売あり
・ Let's Try! 1&2 —新学習指導要領対応小学校外国語活動教材 /東京書籍/ 978-4487258703
/ 978-4487258710/ 学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
・『小・中学校で英語を教えるための必携テキスト』中村典生監修/ 矢野淳/ 林裕子/ 鈴木渉/
巽撤著/ 2019/ 東京書籍/ 978-4-487-81248-6
〔参考URL(URL for Reference) 〕
・新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm
・3年生教材 Let's Try 1https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2017/12/12/1396780_06.pdf
・4年生教材 Let's Try 2 https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2017/12/12/1396780_09.pdf
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
公立小学校・中学校における英語教員、小・中外国語教育コーディネーターの経験あり

コミュニケーション学概論 A

EGF2202A0E

大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
1年次
2単位 後期
金曜 3限
DP2 : 知識・理解力
60
必修
小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、社会行動科学の1分野としてのコミュニケーション学の基礎を理解し、人間のコミュニケーション活動の過程と影響について理解を深めることを目的に、コミュニケーション学の諸分野である記号論、コミュニケーション哲学、対人コミュニケーション、関係コミュニケーション、グループコミュニケーション、社会的影響、メディアコミュニケーション(ジャーナリズム)、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション等について、その基礎理論を概観する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会科学の一分野としてのコミュニケーション学の理論的基盤と諸理論を概観すること。
2. 人間のコミュニケーションの成り立ち、過程、影響について理解すること。
3. 自らのコミュニケーション行動および能力を客観的に観察する能力を身につけること。
4. コミュニケーションに関する知識と理論的な理解を自らのコミュニケーション能力向上へ結びつけられるスキルを身につけること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入： コミュニケーションとは？ / 社会科学としてのコミュニケーション学とは？
- 第 2 回 コミュニケーション・プロセスとコミュニケーション・モデル
- 第 3 回 コミュニケーションの起源 / 社会認知能力とコミュニケーション
- 第 4 回 言語とコミュニケーション (1): 言語記号の特質
- 第 5 回 言語とコミュニケーション (2): 意味の伝達
- 第 6 回 非言語コミュニケーション
- 第 7 回 認識とコミュニケーション
- 第 8 回 前半のReviewと中間試験
- 第 9 回 説得のコミュニケーション
- 第 10 回 対人コミュニケーション
- 第 11 回 小集団コミュニケーション
- 第 12 回 葛藤管理コミュニケーション
- 第 13 回 異文化コミュニケーション
- 第 14 回 メディアとコミュニケーション
- 第 15 回 コミュニケーション能力とは (総括)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義科目であり、指定されたトピックについて教科書を熟読し、講義を受講し、これらの活動を通して得た知識を授業内演習やディスカッションによって定着させていく方法をとる。また、講義全体を通して学習した理論的な理解を応用し、実際のコミュニケーション現象を分析することによってさらに理解を深めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書の熟読、および、自らの理論的枠組みの構築
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、演習課題 (25%)

試験 x 2 (50%)

論文 (25%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『入門コミュニケーション論』/宮原哲/松柏社/2006/9.784775401156E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学への招待』/橋本良明/大修館書店/1997/9.784469212143E12

『A First Look at Communication Theory』/Em Griffith/McGraw-Hill/2011/9.780073534305E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

コミュニケーション学概論B

EGF2202B0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2 : 知識・理解力

90

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、社会行動科学の1分野としてのコミュニケーション学の基礎を理解し、人間のコミュニケーション活動の過程と影響について理解を深めることを目的に、コミュニケーション学の諸分野である記号論、コミュニケーション哲学、対人コミュニケーション、関係コミュニケーション、グループコミュニケーション、社会的影響、メディアコミュニケーション(ジャーナリズム)、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション等について、その基礎理論を概観する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会科学の一分野としてのコミュニケーション学の理論的基盤と諸理論を概観すること。
2. 人間のコミュニケーションの成り立ち、過程、影響について理解すること。
3. 自らのコミュニケーション行動および能力を客観的に観察する能力を身につけること。
4. コミュニケーションに関する知識と理論的な理解を自らのコミュニケーション能力向上へ結びつけられるスキルを身につけること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入： コミュニケーションとは？ / 社会科学としてのコミュニケーション学とは？
- 第 2 回 コミュニケーション・プロセスとコミュニケーション・モデル
- 第 3 回 コミュニケーションの起源 / 社会認知能力とコミュニケーション
- 第 4 回 言語とコミュニケーション (1): 言語記号の特質
- 第 5 回 言語とコミュニケーション (2): 意味の伝達
- 第 6 回 非言語コミュニケーション
- 第 7 回 認識とコミュニケーション
- 第 8 回 前半のReviewと中間試験
- 第 9 回 説得のコミュニケーション
- 第 10 回 対人コミュニケーション
- 第 11 回 小集団コミュニケーション
- 第 12 回 葛藤管理コミュニケーション
- 第 13 回 異文化コミュニケーション
- 第 14 回 メディアとコミュニケーション
- 第 15 回 コミュニケーション能力とは (総括)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義科目であり、指定されたトピックについて教科書を熟読し、講義を受講し、これらの活動を通して得た知識を授業内演習やディスカッションによって定着させていく方法をとる。また、講義全体を通して学習した理論的な理解を応用し、実際のコミュニケーション現象を分析することによってさらに理解を深めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書の熟読、および、自らの理論的枠組みの構築

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、演習課題 (25%)

試験 x 2 (50%)

論文 (25%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『入門コミュニケーション論』/宮原哲/松柏社/2006/9.784775401156E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学への招待』/橋本良明/大修館書店/1997/9.784469212143E12

『A First Look at Communication Theory』/Em Griffith/McGraw-Hill/2011/9.780073534305E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

プレゼンテーション概論

CSA2305N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP3 : 言語力

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、実社会でのプレゼンテーションの方法論を把握し、現場で応用するための素地を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. プレゼンテーションの型に関する基礎の習得
2. プレゼンテーションの事前準備に関する基礎の習得
3. 視覚資料作成に関する基礎の習得
4. チームでするプレゼンテーションの基礎の習得
5. 話す基礎技能の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーションに実務に関する基礎力	プレゼンテーション実務の基礎を理解していない。	プレゼンテーション実務の基礎を理解している。	プレゼンテーション実務の基礎を理解し、おおかたできる。	プレゼンテーション実務全般を理解し、基礎的なことが十分にできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (対面授業)
プレゼンテーションとは
- 第 2 回 目的と聴衆分析 (対面授業)
身近な例での演習
- 第 3 回 企業と商品の研究 (オンライン)
プレゼンテーションをする商品等に関する調査
- 第 4 回 聴衆分析と型 (対面授業)
企業の商品の報告と聴衆分析
- 第 5 回 構成 (オンライン)
プレゼンテーションの準備
- 第 6 回 事前の準備 (対面授業)
報告と事前の準備の方法の把握
- 第 7 回 視覚物 (対面授業)
パワーポイント・配布資料と報告

- 第 8 回 視覚物の作成 (オンライン)
視覚物の作成
- 第 9 回 プレゼンテーションの準備 (オンライン)
準備
- 第 10 回 非言語 (対面授業)
望ましい方法の理解と実践練習
- 第 11 回 プレゼンテーションのリハーサル① (対面授業)
プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互
評価、本番に向けての準備
- 第 12 回 プレゼンテーションのリハーサル② (対面授業)
プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互
評価、最終調整
- 第 13 回 プレゼンテーション実践① (対面授業)
最終のプレゼンテーション
- 第 14 回 プレゼンテーション実践② (対面授業)
最終のプレゼンテーション
- 第 15 回 プレゼンテーション実践③ (対面授業)
最終のプレゼンテーション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実社会でのプレゼンテーションに関する準備、練習の方法を理解し、理解したことを直ちに実践することを通して、具体的な方法の把握とともにプレゼンテーション実務に関する基礎を習得する。具体的には、1つのプレゼンテーションを、順を追って実践しながら学習することを通して、実社会でのプレゼンテーションに関する知識と技能を向上させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の課題を次回までに準備しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ワークシート 30%

最終のプレゼンテーション30%

授業への参加/貢献 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ブレンド型で実施をする。
- ・進行状況等によって、随時、内容・方法を調整していく。
- ・授業全体でプレゼンテーションを作り上げていくため、参加が重要である。
- ・ゲスト講師による授業を行うこともある。
- ・フィールドワークに出る場合がある。その場合、交通費等が必要である。
- ・全体での報告、プレゼンテーションの際に、随時、フィードバックがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション改訂版』/武田秀子編/実教出版/2011/4407322616/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ビジネスプレゼンテーション 改訂版』/武田秀子/実教出版/2011/

『Power Point スライドデザイン』宮野公樹/化学同人/2009/
『プレゼンテーション zen デザイン』/レイノルズ, G/ピアソン桐原/2010/

『ビジネス・プレゼンテーション 101の鉄則』Tim Hindle/
ピアソン・エデュケーション/2002

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」 社会人に対するセミナー (プレゼンテーション) 講師経験あり。

マルチメディア演習

CSA2415N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ウェブサイトや印刷物など様々な媒体で発信される視覚情報を、自らも制作・表現できる為の技術と知識を習得する。また、制作した課題の合評を行うことにより、情報発信者としての在り方と論理的なデザインの構築能力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習、課題を通して画像編集ソフトAdobe Photoshopの知識と技術を習得し、ウェブデザインや印刷物など様々な媒体で活用できる、魅力的かつ効率的な視覚情報の編集、発信能力を身につける。

1) Adobe Photoshop基本操作

- ・画面構成
- ・レイヤーの概念

2) 画像編集

- ・保存形式
- ・色調補正、カラーモード
- ・切り抜き方法、マスク、合成

3) テキスト要素の編集

- ・文字ツール活用

4) デザイン補助機能活用

- ・ベジェ曲線

5) 中間課題: バナーデザイン

- ・画像解像度
- ・完成課題作品のプレゼンテーション

6) 最終課題: オリジナルウェブサイトの企画、編集、デザイン

- ・ウェブサイトのデザインカンパデータを作成
- ・完成課題作品のプレゼンテーション

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (PC、OSの操作)	PCの起動、終了など、OSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器 (プリンタ、スキャナなど) を適切に利用することができる	OS、ソフトウェアのバージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトウェアの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (情報の検索・収集・編集)	演習や課題に必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、Adobe Photoshop基本操作 (画面構成、各種設定)
- 第 2 回 画像編集1 (描画、画像補正、ファイル形式)
- 第 3 回 画像編集2 (色調補正、カラーモード)
- 第 4 回 画像編集3 (画像合成、加工、編集、画像解像度)
- 第 5 回 テキスト要素の編集 (文字ツール、文字パネル、文字編集)
- 第 6 回 その他機能の学習 (調整レイヤー、フィルター、マスク機能)
- 第 7 回 中間課題制作 : バナーデザイン (課題説明、制作)
- 第 8 回 中間課題制作 : バナーデザイン (編集・制作、個別サポート)
- 第 9 回 中間課題合評 (完成課題作品をプレゼンテーション)
- 第 10 回 最終課題制作 : オリジナルウェブサイトの企画・デザイン (リサーチ、企画書作成)
- 第 11 回 最終課題制作 : オリジナルウェブサイトの企画・デザイン (企画内容の個別指導、素材制作、編集作業)
- 第 12 回

- 最終課題制作 : オリジナルウェブサイトの企画・デザイン (制作、編集作業、個別サポート)
 - 第 13 回 最終課題制作 : オリジナルウェブサイトの企画・デザイン (中間発表、個別サポート)
 - 第 14 回 最終課題制作 : オリジナルウェブサイトの企画・デザイン (制作、個別サポート、合評準備)
 - 第 15 回 最終課題合評 (完成課題作品をプレゼンテーション、講評、個別サポート)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- 各回のAdobe Photoshopの機能と関連知識を解説し、配布ファイルを使用した演習の制作、提出を行う。
- また、中間課題ではバナーデザイン、最終課題ではウェブサイトのデザインカンプを制作し、印刷物を含むメディアの差異、特性を理解し、それぞれの媒体に対応できる知識と画像編集技術を身につける。
- 中間、最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、個別質疑・ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- 〔課題〕
- 授業毎の課題、中間課題、最終課題制作が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で配布資料を参考に取り組みこと。
- 〔その他〕
- 日常生活で目にするデザイン物 (チラシ、車内吊り広告、ウェブサイト等) を意識して見てどこが参考になるか、逆にどこを修正すべきか、などを考えておくこと
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 授業参加・理解度 (30%)、技術習得度 (30%)、課題の完成度 (40%) の総合点で評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- 人数制限 : 18名、Adobe Illustrator、InDesignを学習する「グラフィックデザインと冊子制作」科目も併せて履修する事を推奨する。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- ・Photoshop しっかり入門 増補改訂版【CC完全対応】 [Mac & Windows対応]/まきの ゆみ /SBクリエイティブ/2018/5/22/978-4797397246
 - ・なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本。〉 筒井 美希 / エムディエヌコーポレーション / 2015/7/31/978-4844365174
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- 複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企

業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

異文化間コミュニケーション

EGL3456N1E

大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
2年次 3年次 4年次
2単位 前期
木曜 4限
DP4: 思考・解決力

60

「異文化間コミュニケーション」「Intercultural Communication and Adjustment」のうち、いずれか一方の単位を修得すると、他方を履修することはできない
守崎 誠一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、文化背景の異なる人々間のコミュニケーションについて理解を深め、より効果的な異文化間コミュニケーションに必要なとされるものについて考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

異文化間コミュニケーション学は、欧米で創始・発展した学問であるため、それら欧米の文化・社会・歴史と日本のならびにアジア圏の文化・社会・歴史を比較・検討することで、文化・社会・歴史によって人々のコミュニケーション行動の「何が」「どのように」「どのくらい」異なっており、そのような違いが、文化・社会・歴史のどの側面によって引き起こされているのかについて学習する。また、そのような違いを克服するために、認知、情動、行動（スキル）の各側面で、何が必要とされるかについても学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	異文化に関心を持つ	異文化を理解しようとする	積極的に異文化に関わろうとする	異文化との関わり合いによって、自身をよりよく変えていく
知識・理解力	受動的に知識を獲得し、理解をおこなう	能動的に知識を獲得し、理解をおこなう	学んだ知識や理解を基にして、自主的に新たな学びや理解に挑戦する	獲得した知識・理解を応用できるようになる
言語力	もっぱら授業を聞いてるだけで発言をしない	質問されたことに対しては発言をする	自ら積極的に発言をする	自ら問題を見つけて、それについて考え、独自の意見・考えを発言する

思考・解決力	与えられた情報を受け取るだけで、主体的な思考をおこなわない	与えられた問題や課題に対しては思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考し、解決していく
共生・協働する力	教員と共に学ぼうとする	友人たちとも一緒に学ぼうとする	文化背景の異なる人とも積極的に関わろうとする	文化背景の異なる人と積極的に関わりあい、創造的な活動をおこなう
創造・発信力	テストを受ける	レポートを作成できる	レポートの内容に創造性を加える	文化の多様性を理解したうえで、独自性のある情報発信ができるようになる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
異文化間コミュニケーションとは？
異文化コミュニケーション研究の歴史
- 第 2 回 言語コミュニケーション
言語とは何か？
言語と文化の関係
コミュニケーションスタイル
- 第 3 回 非言語コミュニケーション (1)
非言語コミュニケーション研究の歴史
表情研究
- 第 4 回 非言語コミュニケーション (2)
ジェスチャーとエンブレム
接触、対人距離、対人空間
時間の概念
- 第 5 回 スキーマ、ステレオタイプ、偏見、差別
帰属とステレオタイプの関係
ステレオタイプ、偏見、差別の違い
IAT
- 第 6 回 カルチャーショックと適応
カルチャーショック研究の歴史
カルチャーショックのメカニズム
カルチャーショックのプロセス: Uカーブ仮説、Wカーブ仮説
異文化適応に影響を与える要素
- 第 7 回 認知科学から見た異文化間コミュニケーション
認知科学とは？
スキーマ理論とは？
スキーマ理論から見た異文化間コミュニケーション
- 第 8 回 価値観
価値観とは？
人は、どのように価値観を形成していくか
価値観と文化の関係

- 第 9 回 しつけや教育がコミュニケーション行動に与える影響
受容的勤勉性vs.自主的選好性
自己主張vs.がまん
自己主張vs.自尊心
- 第 10 回 異文化集団間におけるコミュニケーション理論
社会理論とは何か？
社会理論の役割
異文化間コミュニケーション理論
伝統的な異文化間コミュニケーション理論
グループ間コミュニケーションからの異文化間コミュニケーション理論
- 第 11 回 組織内異文化間コミュニケーション
組織とは何か？
組織に対する文化の影響
欧米の組織システムvs.日本の組織システム
リーダーシップ——関係指向型リーダーvs.職務・課題指向型リーダー
リーダーシップと動機づけ
仕事に対する文化の影響（日米比較）
企業の国際化と異文化間コミュニケーション問題
- 第 12 回 異文化間コミュニケーション学から見た下位文化間コミュニケーション（1）
異文化間コミュニケーションとしての健常者と障がい者のコミュニケーション
- 第 13 回 異文化間コミュニケーション学から見た下位文化間コミュニケーション（2）
コミュニケーションにおける性差
異文化間コミュニケーションとしての男女のコミュニケーション
- 第 14 回 異文化間コミュニケーション研修と教育（1）
異文化間コミュニケーション研修と教育の歴史の変遷
- 第 15 回 文化間コミュニケーション研修と教育（2）
ジェーン・エリオットの差別体験授業
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
定期試験を実施する
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
各回、授業に参加する前に教科書（一部については、事前配布のプリント）の必要部分を事前に読んでくること。
教科書に書かれていること以外についても授業では取り上げるので、それらを含めて適宜ノートを取ること。
定期試験では、問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えを論理的・説得的に論じることを求めるので、授業で学習したことを単に暗記するのではなく、自ら主体的に考える。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業初日に配布する詳細なシラバスによって、各回に教科書のどの部分を学ぶのかを事前に知らせるので、当該部分を必ず授業前に読んでくること。教科書を使用しない場合は、事前にプリント等を配布するので、それについても授業前に読んでくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60分

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

定期試験60%、宿題・授業中の課題40%

定期試験については、問われている質問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えが論理的・説得的に論じられているかを評価の対象とします。

宿題・授業中の課題については、授業内で学習した内容を基に適切な解答が行われているかどうかを評価の対象とします。

課題（宿題・授業中の課題・定期試験）に対するフィードバックは、個々の学生に対しておこなうのではなく、学生全体に対して次の授業の中でコメントをしたり、manabaのスレッドに書き込んだりしておこないます。

〔留意事項（Other Information）〕

授業内容の詳細および授業の進め方について、授業の初日に説明します。ですので、授業初日に必ず出席をしてください。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『異文化間コミュニケーション入門』西田ひろ子編 創元社 2000年 ISBN:4422310224 学内販売有

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

参考文献については、授業初日に配布するより詳細なシラバスの中で紹介するとともに、授業内でも適宜紹介をします。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

医療サポート英語 I

EGR2300N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

水曜2限

DP3：言語力

60

須川 いずみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本学が京都府立医科大学と提携した契機に、本学が今まで取り組んできたホスピタリティを基盤に語学力のある高度な医療サポートスタッフの養成を考えている。まずは、将来の医療現場で役立つような医学的英語の基礎力をこのクラスでは養成する。特に病院での受付を英語でできるように訓練する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 医療関係英語語彙の習得
2. 医療に使われる基本的英語フレーズの習得
3. 医療現場で役立つ実践的英語の基礎力養成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	医療英語を学べない。	医療英語を少し学べる。	簡単な医療英語を使える。	医療英語を様々な場で使える。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
このプログラムと意義についての説明
- 第 2 回 医療英語語彙学習 1
専門科と専門医の名称の英語
- 第 3 回 医療英語語彙学習 2
身体の部位名
- 第 4 回 医療英語 語彙学習 3
筋骨格系部位名
- 第 5 回 医療英語 語彙学習 4
筋肉と骨の症状、骨粗鬆症等
- 第 6 回 医療英語読解学習 1
循環器系
- 第 7 回 医療英語読解学習 2
呼吸器
- 第 8 回 医療英語読解学習 3
高山病等
- 第 9 回 医療英語読解学習 4
消化器系
- 第 10 回 医療英語読解学習 5
肝臓疾患を中心に
- 第 11 回 医療英語読解学習 6
症状の英語
- 第 12 回 医療英語実践学習 1
受付と診察の英語
- 第 13 回 医療英語実践学習 2
病状と治療の英語
- 第 14 回 医療英語実践学習 3
全体のまとめと総復習
- 第 15 回 医療英語実践学習 4
病院実習のための総復習とクイズ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 医療文献のリーディング
2. 語彙テスト
3. フレーズの練習
4. ロールプレイ
5. 医療英語演習
6. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 医療語彙学習
2. 予備的医療知識習得
3. CDでの練習
4. 課題準備

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度 30%、課題 30%、クイズ 10%、試験 30% で総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

学生のレベルによって中身が変わる可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Because We Care』/Inoue & Ihara/センゲージラーニング///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『講義録 医学英語 I』/清水雅子/メディカルビュー社/2011年/

『そのまま使える病院英語表現 5000』/仁木久恵等/医学書院/2009年/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

映画論

EGL3450N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

まだ誕生して100年そこそこのメディアである映画をフェミニズムの視点で読みこなしてみようと思う。もともと映画は男性の規範だけで書き込まれた言説の一つであったわけだが、第2次世界大戦のときに期待できる観客が女性しかいなくなってしまい、女性が主役である「女性映画」というものが誕生することになる。かくして『風と共に去りぬ』の誕生である。「女性映画」を中心に映画とはどういうメディアなのかをしっかりと学ぶコースである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 近代史と映画という文化の理解
2. 映画というメディアの把握
3. 女性映画誕生の背景の理解
4. フェミニズム批評研究

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	観た映画について全く考えること	観た映画について漠然としか考えない。	観た映画のテーマや意味を理解できる。	観た映画について自分の意見をまとめ発表す

	ができな い。		ることがで きる。
--	------------	--	--------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーション
- 第 2 回 映画の基礎知識
映画の歴史
- 第 3 回 女性映画というジャンル
映画の中の女性像と『ステラ・ダラス』
- 第 4 回 映画における母子の描写
女性映画の中の母子もの映画
- 第 5 回 暗黒社会の中の女性像
『ギルダ』とフィルム・ノワール
- 第 6 回 映画の中の男女関係
ファミフアタルと意外な三角関係
- 第 7 回 メロドラマというジャンル
究極のメロドラマ『忘れじの面影』
- 第 8 回 メロドラマ映画の表現
切り返しショットで回収されることのない男のま
なざし
- 第 9 回 映画におけるゴシックもの
『レベッカ』と悪夢のシンデレラ物語
- 第 10 回 ヒッチコックの実力
ヒッチコック作品における不可視な女
- 第 11 回 映画における時代性
『風と共に去りぬ』と南北戦争
- 第 12 回 原作との差異
『風と共に去りぬ』の仕掛け
- 第 13 回 映画における二種類の女
聖女とファミフアタル
- 第 14 回 小説と映画の比較論
フェミニズム批評と映画
- 第 15 回 女性映画を考える
まとめと復習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 映画観賞のあと講義形式をとる。 2. 積極的授業の参加を求める。 3. 観賞メモと、話し合いのレポート提出を求める。試験あり。4. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

観た映画の情報を整理することと、レポート提出のために準備が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、試験 (50%)、レポート (20%) である。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

The Desire to Desire/Mary Ann Doane/Indiana Univ.Press/1987年/

『フェミニスト映画/性幻想と映像表現』/E.アン・カプラン/田畑書店/1985年/

『フィルム・ノワールの光と影』/編集：遠山純生/エクスクアイア・マガジン/1999年/

A Feminist Reader in Early Cinema/Ed. J.Bean & D. Negra/Duke Univ. Press/2002年/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語キャリア戦略

EGB1100N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜4限

DP1：自分を育てる力

60

集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースは、英語英文学科に入学してきた学生が、卒業後の夢を描いて4年間をそれぞれ充実して過ごせるように自分の可能性について考える場を提供する。教員、秘書、航空関係、ホテル、マスコミ、金融、アパレルなど将来の自分の夢を探せるように、毎回オムニバス形式でそれぞれの業界のゲストを招いて職場の話だけでなく、どういう人材を希望しているのか、どんなことを準備してほしいのかを話してもらおう。就職のための戦略を一緒に考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 講演を聴いて内容を理解できる。 2. 講演の内容を整理できる。 3. 自分の将来構想を考える。 4. 努力目標をつくれる。 5. 英語で通信及び履歴書作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	講師のお話を聞けない。	講師のお話を十分に理解できない。	講師のお話をまとめる文章力がある。	講師のアドバイスを取り入れて行動できる。

〔授業計画〕

第 1 回

オリエンテーション

第 2 回

- 女の生き方と仕事
- 第 3 回 エアラインのフロントライン
- 第 4 回 テレビデータベース作成：就職カルテを仕上げ、提出する。
- 第 5 回 テレビ界とマスコミ
- 第 6 回 英語通訳及び観光ガイド
- 第 7 回 金融
- 第 8 回 観光
- 第 9 回 雑誌
- 第 10 回 新聞
- 第 11 回 通訳
- 第 12 回 エアラインセールス
- 第 13 回 ホテル
- 第 14 回 広告
- 第 15 回 総括とフィードバック

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 講演をしっかりと聴く。 2. 質問を考える。 3. テーマによってグループで話し合う。 4. 課題文を仕上げる。 5. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

毎回レポートの提出を課すので、意見をまとめる練習が要る。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業態度・参加度 (30%) レポート (40%) 試験 (30%) で総合的に評価する。

[留意事項 (Other Information)]

ゲスト講師の都合で順番が変わる可能性があります。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

プリント

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語の歴史

EGL2202N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

60

集中

児玉 一宏

[科目の教育目標 (Course Description)]

・英語史の基礎を学び、古英語から現代英語までの発達史についての概略を説明することができる。

・現代英語の諸相 (音韻・文法・構文等) を英語史の理解に基づいて分析することができる。

・英語の外面史にかかわる歴史上の出来事について基礎的事項を理解することができる。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

・英語の外面史 (歴史上の出来事) の基本事項

・英語の語彙 (「本来語」の語彙と「ラテン系」の語彙の諸特性)

・音韻・形態論と英語史

・米語のインパクト

・英文法と英語史

・英語構文と英語史

[ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	英語発達史の基本について理解できていない。	英語成立から中英語期までの外面史・内面史の基本事項を理解できている。	講義で扱う現代英語の文法と語彙について、英語史の知識を背景としながら説明することができる。	現代英語に見られる多様性 (英米語の差異など) について、英語史研究の知見を活用して説明できる。

[授業計画]

第 1 回 序 (英語史への招待)

第 2 回 英語の歴史 (英語の成立)

第 3 回 英語の歴史 (古英語)

第 4 回 英語の歴史 (ヴァイキング時代)

第 5 回 英語の歴史 (ノルマン人の征服と中英語)

第 6 回 英語本来語の語彙とラテン系の語彙の諸特性

第 7 回 英語の歴史 (中英語から近代英語へ)

第 8 回 英語の歴史 (近代英語から現代英語へ)

第 9 回 英語の音韻・形態論

第 10 回 英語の第1強勢と強勢配分規則

- 第 11 回 英語の多様性
- 第 12 回 米語のインパクト
- 第 13 回 英文法と英語史
- 第 14 回 英語構文と英語史
- 第 15 回 本講義の総括（形成テスト・フィードバック・まとめ）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業形式は講義と演習を中心とする。授業内容の定着を図るため、確認のための問題演習を適宜、行う。また、問題解決のためのディスカッション・グループワーク・ペアワークを実施する。授業で皆さんが意識すべきことは、何よりも授業に集中し、授業内容の理解に努めること。復習の際に役立つようなノートのとり方を工夫することも大切。授業では、講義資料をプリントにして配布する。授業に対する質問や学習支援一般などのフィードバックについては、授業中ないしは授業後に適宜行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回の講義の最後に次回の学習内容を予告するので、その都度、指示に従って予習を行ってほしい。講義ノートおよび講義資料を中心に、（一部参考文献も活用して）十分な復習を行い、講義内容の定着を図ることが大切。詳細については授業時またはmanabaで指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績評価は、形成テストの成績（50%）、レポート課題の成績（20%）、授業参加度（30%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

対面授業を原則とします。ただし、コロナ事情により、授業運営に変更等が生じることも考えられます（対面授業をオンライン授業に変更する可能性もあります）ので、manabaを通しての授業連絡には十分注意してください。授業の進め方など詳細については、初回の対面授業で説明しますので、必ず出席してください。授業を欠席した場合は、その日の授業内容・連絡事項を授業出席者に必ず確認し、次の授業に向けて支障がないように準備を行ってください。講義ノートを用意することを推奨します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業時またはmanabaを通して講義資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『物語 英語の歴史』/P.グッデン（田口孝夫監訳）/悠書館/2011/9784903487526

『図説 英語史入門』/中尾俊夫・寺島廸子/大修館書店/1988/4469241962

授業中に適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習Ⅰ

EGS3500BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜3限

DP5：共生・協働する力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目（ゼミ）は、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、客観的に説明できるようになることを目標とする。

上記の目標を達成するため、「コミュニケーション」を科学的、人類学的、あるいは哲学的に分析する様々な方法論の基盤を学び、自身が関心を持つコミュニケーション現象を実際に観察、分析する初歩的な技術を習得する。「研究方法論」で習得した方法論の基礎的知識をさらに深め、実践的な技術へと発展させることが最終目的となる。

また、演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

<1> 理論習得（コミュニケーション分析のための基礎理論を概観する。）

<2> 方法論習得（コミュニケーションを観察（データ収集）、分析するための具体的方法論を習得する）：

- 言語理論による分析（前期の主要課題となる）
- 質問紙調査（アンケート）法
- 実験デザイン
- フィールドワーク（参与者観察）法

<3> 分析演習（上記で学習した分析方法論を用いて実際にコミュニケーション現象を分析し、これを発表する。）

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Communication Studies (概論)
- 第 2 回 方法論 1 : コミュニケーション研究方法論 概説
- 第 3 回 方法論 2 : 構成概念計測法 Revisited
- 第 4 回 方法論 3 : 質問紙調査法 (On-line Surveyを含む) Revisited
- 第 5 回 方法論 4 : 実験法 Revisited
- 第 6 回 方法論 5 : フィールドワーク法 Revisited
- 第 7 回 方法論 6 : 会話分析法 Revisited
- 第 8 回 言語理論による分析演習 1 : 発話行為論 (Speech Acts)
- 第 9 回 言語理論による分析演習 2 : 会話の含意 (Conversational Implicature)
- 第 10 回 言語理論による分析演習 3 : 表意と推意 (Explicature & Implicature)
- 第 11 回 言語理論による分析演習 4 : 比喩 (Metaphor)
- 第 12 回 言語理論による分析演習 5 : 皮肉 (Irony)
- 第 13 回 言語理論による分析演習 6 : 欺瞞 (Deception)
- 第 14 回 卒業研究Proposal中間発表 Day 1 (学籍番号順前半)
- 第 15 回 卒業研究Proposal中間発表 Day 2 (学籍番号順後半)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業: 本ゼミは、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表: 研究方法論およびコミュニケーションに関する学術論文についての口頭発表を行う。

卒業研究Proposal作成: 前期の間に複数のトピックを選んで簡単な分析演習を行い、後期にかけてこれを絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- (1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む
- (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
- (3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」へ落とし込むため、適宜Proposalの執筆と相談を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表1 (方法論・理論のサマリー発表) 25%

発表2 (言語理論による分析演習) 25%

ディスカッションへの貢献度 20%

卒業研究 Proposal Draft 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版./2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学: その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/2011/

『ことばの社会心理学』/岡本真一郎/ナカニシヤ出版/2010/

『言語理論としての語用論』/今井邦彦/開拓社/2015

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 I

EGS3500C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースは、今まで見てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を文学の一つの解釈として扱うことから始める。まず、小説の読解をした上で映画鑑賞をし、作品分析方法をいくつか習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究手法の習得
5. 論文作成のための作品選択と資料収集

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	講義内容をしっかり理解できない。	多少理解していても漠然としている。	講義内容を把握し、自分でまとめ	理解したことを自ら発信することができる。

			ることがで きる。	
共生・協働 する力	ゼミのみんなの意見を聞くことができない。	ゼミのみんなの意見を理解できるがまとめることができない。	ゼミのみんなの意見を理解し、まとめることができる。	ゼミのみんなの意見を自ら発信して行動することができる。
創造・発信 力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 映画の構造
- 第 3 回 ジョイスの”The Dead”の前から 3 分の 1 を読む
- 第 4 回 ジョイスの”The Dead”の 3 分の 2 まで読む
- 第 5 回 ジョイスの”The Dead”の最後の 3 分の 1 を読む
- 第 6 回 ジョン・ヒューストンの『ザ・デッド』を考える
- 第 7 回 エピファニーを読む
- 第 8 回 原作と映画比較と作品分析
- 第 9 回 ヒューストン映画のアイランド的要素
- 第 10 回 ヒッチコックの『サイコ』を考える
- 第 11 回 『サイコ』の精神分析的読解
- 第 12 回 ヒッチコックの『めまい』を考える
- 第 13 回 『めまい』の深層構造
- 第 14 回 ハリウッド映画を考える
- 第 15 回 フィードバックと発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

- (1) 個々の作品及びスクリプトの精読
- (2) 映画観賞 (前もってクラスで観る場合と課題の場合がある。)
- (3) 個人発表
- (4) ディスカッション
- (5) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

2. 学習方法

- (1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。
質問に答えられるようにしておくこと。必ず作品について意見を求めるのでその準備が必要である。
- (2) 指定された映画は観なければならない。
- (3) 個々の作品についてレポートを提出する。
- (4) 発表の時間がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

観た映画に関して、しっかりと自分の意見が言えるように準備してこなければならない。レポートの提出を求める。グループディスカッションと発表の時間がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、提出レポート60%

クラス・レスポンス40%

〔留意事項 (Other Information)〕

チームワークを考えて行動できるように、課外活動も計画あり。

定期試験はしないので、積極的授業への取り組みが不可欠である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 I

EGS3500DOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

60

集中

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、生成文法理論から発展した「カートグラフィー理論」に基づき、日・英語の比較・対照分析を行います。前半は、「ことばのしくみ」で学ぶ、生成文法の基本的な仕組みの要点をまとめつつ、テキストを熟読していきます。後半はカートグラフィー理論に基づく最新の論文を読んでいきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1. 生成統語論・カートグラフィー理論の基本的な考え方や仕組みを理解する。
- 2. 生成統語論・カートグラフィー理論を応用して、英語がどのように分析されてきたかを理解する。
- 3. 生成統語論カートグラフィー理論を応用して、日本語がどのように分析されてきたかを理解する。
- 4. 上記を通して日・英語の共通点について考える。
- 5. 上記を通して日・英語の相違点について考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解 力	教材を通して積極的に内容を理解	教材を通して積極的に内容を理解	教材を通してある程度	教材の内容をほぼ理解できる

	しようとし ない	しようとし る	内容が理解 できる	
言語力	データを正しく理解することができない	データを正しく理解することができる	データを的確に分析できる	データを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	テーマについて考えようとしな	テーマについて考えようとする	興味深いテーマを考えられる	興味深いテーマを考え、それを分析できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
・授業について説明します。
・言語学のさまざまな分野、生成文法の歴史と考え方を学びます。
・テキストの第1章を読んでおくとよいでしょう。
- 第 2 回 基礎的背景：カートグラフィーと生成文法
・テキストの第1章の予習に基づき、内容の解説を行います。
- 第 3 回 カートグラフィーの基本的な考え方
・テキストの第2章の予習に基づき、内容の解説を行います。
- 第 4 回 日本語の単文構造
・テキストの第3章の予習に基づき、内容の解説を行います。
- 第 5 回 日本語の単文構造 談話・語用編
・テキストの第4章の予習に基づき、内容の解説を行います。
- 第 6 回 日本語の複文構造
・テキストの第5章の予習に基づき、内容の解説を行います。
- 第 7 回 テキストのまとめ
・テキストの全章を再度概観し、カートグラフィー理論の仕組みを定着させます。
- 第 8 回 カートグラフィー理論に基づく論文講読：批判的読み方
カートグラフィー理論に基づく最新の文献を講読します。
- 第 9 回 カートグラフィー理論に基づく論文講読：データの着眼点
カートグラフィー理論に基づく最新の文献を講読します。
- 第 10 回 カートグラフィー理論に基づく論文講読：データの扱い方
カートグラフィー理論に基づく最新の文献を講読します。
- 第 11 回 カートグラフィー理論に基づく論文講読：反例の収集
カートグラフィー理論に基づく最新の文献を講読します。

- 第 12 回 カートグラフィー理論に基づく論文講読：分析方法の習得
カートグラフィー理論に基づく最新の文献を講読します。
- 第 13 回 カートグラフィー理論に基づく論文講読：まとめと結論の提示方法の習得
カートグラフィー理論に基づく最新の文献を講読します。
- 第 14 回 まとめとディスカッション
・授業の内容をまとめ、質問やディスカッションを行います。
・第15回に行う発表の準備をします。
- 第 15 回 研究発表
・自分が興味を持った文法現象について分析を行い、発表してもらいます。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

・卒論を視野に入れたレポートを提出してもらいます。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・テキストをきちんと読んで、分かりにくいところはメール等で質問して下さい。

・一度欠席するとついて行けなくなるので、きちんと授業に参加して下さい。

・レポート・口頭発表の回数は未定ですが、文書あるいは口頭でフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・テキストや授業で紹介する教材をきちんと理解する必要があります。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

・60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・授業参加：20%

・課題：30%

・発表：20%

・レポート：30%

〔留意事項 (Other Information)〕

・e-learning (manaba) による授業となる場合があります。

・理解の進度により、講読する文献の数や授業の編成が変わる場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『日本語カートグラフィー序説』/遠藤喜雄じ/ひつじ書房/2014年

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・学生の進度をみて、必要に応じて指示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 I

EGS3500E0J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 3年次
 2単位 前期
 水曜 3限
 DP5 : 共生・協働する力
 60
 集中
 York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to introduce students to the major topics in sociolinguistics, the study of the relationship between language and society. Students will gain an understanding of the field of sociolinguistics and become familiar with sociolinguistic theory and methods. Students will also learn about field methods, data gathering, and analysis. In addition, students will learn how to apply sociolinguistic concepts to critical approaches to language teaching.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The course will cover a wide variety of topics in the field of sociolinguistics, which may include: regional and social language variation; language and identity, power, ethnicity, gender, sexuality, and social contexts; language attitudes, language contact, and multilingualism.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力: Links course concepts to personal views and experiences	Does not apply course concepts to personal views and experiences	Adequately applies course concepts to personal views and experiences	Good application of course concepts to personal views and experiences	Effectively applies course concepts to personal views and experiences
共生・協働する力: Works cooperatively with others on course projects	Did not do any work—does not contribute. Does not work well with others.	Could have done more of the work—has difficulty. Requires structure, directions, and leadership.	Did their part of the work—cooperative. Works well with others.	Did more than others—highly productive. Works extremely well with others.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to sociolinguistics
- 第 2 回 Sociolinguistic terminology
- 第 3 回 Historical changes
- 第 4 回 Modern studies and sociolinguistic fieldwork

- 第 5 回 Variation as a symbol of regional group identity
- 第 6 回 Variation as a symbol of social class
- 第 7 回 Borrowing and language change
- 第 8 回 Attitudes toward language varieties
- 第 9 回 Social prejudice and low-status varieties
- 第 10 回 Discourse analysis
- 第 11 回 Prescriptivism and descriptivism
- 第 12 回 Language planning
- 第 13 回 Language ecology
- 第 14 回 Review and discussion
- 第 15 回 Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

All assigned readings and classroom discussions will be in English. This is not a lecture course, and students are expected to play an active role in all classroom activities. Class activities will include discussions, presentations, and project work.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will also provide regular feedback on all written assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to do the assigned reading and prepare their answers to the discussion questions before each class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

In-class participation: 40%

Presentations: 20%

Project work: 10%

Final paper: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『An Introduction to Sociolinguistics, Seventh Edition』 / Ronald Wardhaugh and Janet M. Fuller/Wiley-Blackwell/2014/

『An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition』 /Janet Holmes/Routledge/2017/978-1138845015

『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 /John Edwards/Oxford University Press/2013/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習Ⅰ

EGS3500H0J
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
3年次
2単位 前期
水曜3限
DP5 : 共生・協働する力
60
集中
Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will explore the field of leadership studies with three clear outcomes in mind: 1) Students will be able to understand and explain both a general overview of leadership studies, and furthermore, discuss their own specialized area of this field; 2) Students will identify and nurture their own natural leadership abilities, while at the same time focus on and develop areas of leadership that they deem necessary for their own future; and finally, 3) Students will collaborate on developing their dissertation topic, narrow down a research question or thesis statement, propose a plan for primary research, and complete a detailed initial outline of their working plan.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This course aims to meet the following objectives: 1) Build a learning community, 2) Create a study system using online tools for research (Evernote, Google Drive, Google Scholar, etc), 3) Start building an online annotated bibliography, and 4) Complete a detailed outline for a successful dissertation

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力: Build a study system; Be on time; Do assignments; Make enough efforts to succeed	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

知識・理解力: Understand lesson contents; Know personal weak points; Choose areas to improve;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
思考・解決力: See multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
共生・協働する力: Ability to work together; Give opinions; Able to help others; Able to ask for help; Ability to find your role in a group; Ability to take action	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Leadership Studies
Building a learning community
Implementing communication networks
- 第 2 回 Definitions of leadership
Looking through the literature to see what we already know
Reading, summary, discussion preparation
- 第 3 回 The Changing Nature of Leadership
- 第 4 回 What I learned abroad

- Oral Presentations 1
How can I identify, nurture and improve my own leadership skills?
- 第 5 回 Research on Leadership
The Relational Leader Model
- 第 6 回 Leadership Styles for Men and Women
- 第 7 回 Understanding Soft Skills of Leadership
- 第 8 回 Annotated Bibliography Oral Report
- 第 9 回 Emotional Intelligence 1
Social and emotional learning (SEL)
- 第 10 回 Emotional Intelligence 2
Self-awareness
Self-control
- 第 11 回 Emotional Intelligence 3
Social Awareness
Relationship Management
- 第 12 回 Global Human Resources
(グローバル人材) and its relation to your future
- 第 13 回 Study Abroad Impact
Study Abroad Impact on Development of Skills and Changes in Beliefs
- 第 14 回 Understanding Change
Strategies for Change
- 第 15 回 My specialization: what, why, and how
Final Oral Report

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Seminar - Each class will be comprised of a short lecture and a discussion of the assigned readings. All members of the learning community will take turns leading discussions. Students will complete two Oral Reports.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to be prepared for discussions in two ways: 1) they must have read and understood the assigned readings, and 2) they must prepare questions and offer opinions in order to create lively and meaningful discussions. Ongoing formative feedback will be provided in class, both individually and to the whole class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 40%

Annotated Bibliography Oral Report 30%

Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 I

EGS3500J0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In the 3rd year, this seminar course explores literature written by Nikkei, people of Japanese descent living abroad. With nearly 3 million Nikkei (more than the population of Osaka!) living in various countries, there is a fascinating collection of literature to read. Each week we will present a literary text of their choice, choosing from writers including Nobel Prize winner Kazuo Ishiguro from the UK, as well as authors from the US, Australia, and other English-speaking countries. We explore this literature using various theories and concepts which help us to understand what it means to be of Japanese ancestry living outside of Japan. The seminar uses a wide range of primary source materials in English which we will analyse and discuss together in class.

In the 4th year, students select a literary work and write their graduation thesis based on this. During the weekly seminars advice will be given about the writing in general and there will be specific advice offered to each student (as well as peer-review exercises).

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This seminar introduces students to key issues relating to Japanese diaspora literature such as identity, stereotypes, race, ethnicity, the immigrant experience, and gender. By the end of the seminar, students will have (1) a much better understanding of Japanese identity outside of Japan; (2) will improve their English reading and writing skills; and (3) will develop an ability to analyse literature through close reading techniques.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Students have an	Does not meet	Meets expectation	Exceeds expectation	Exceeds expectation

understanding of Japanese identity and belonging outside of Japan in English-speaking countries.	expectations for the course yet	s set out for the course	s in some areas of the course	s in most areas of the course
Students are able to analyse literature using close reading techniques	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction: What is a (Japanese) diaspora?
Explanation and discussion of the terms diaspora and Nikkei.
- 第 2 回 History: Where are the Japanese diasporas?
General history of Nikkei migration.
- 第 3 回 Concepts: Race and ethnicity
We discuss how writers address racialisation of Japanese minorities by looking at the power relations and racial hierarchies often involved. We also discuss the agency of writers and minorities in regards to belonging and the associated identity politics.
- 第 4 回 Concepts: Identity & Belonging
We discuss a range of approaches to understanding Nikkei identity and belonging in the contemporary, global, and digital world.
- 第 5 回 Stereotypes, 'Other', discrimination, the immigrant experience
- 第 6 回 No-No Boy (1/2)
Written in 1957 and considered the first Japanese-American novel, John Okada's 'NoNo Boy' tells the story of a young Japanese-American man coming to terms with the aftermath of Japanese-American incarceration during the Second World War. We discuss key passages in the novel which illustrate important themes of cultural identity, cultural difference, family, depression, loyalty, and racism. We also consider the socio-political context Okada was writing in and why it took so long for the novel to gain traction.
- 第 7 回 No-No Boy (2/2)
- 第 8 回 My Year of Meats (1/2)
'My Year of Meats' by Ruth Ozeki was first published in 1988 and tells the story of

protagonist Jane Takagi-Little whose life is made difficult by her cultural struggles between Japan and the United States. The main theme of the book is the clash of civilisations between East versus West, more specifically, Japan versus the United States. We discuss how Ozeki sets up this clash and why she might wish to do so. We also deliberate the importance of gender in the novel and how this might also be important to a better understanding of the Japanese diaspora.

第 9 回 My Year of Meats (2/2)

第 10 回 Obasan (1/2)

According to Arnold Davidson, Joy Kogawa's critically acclaimed Obasan (1981) is an ethnic novel that offers the possibility of a resolution, 'by brilliantly conjoining both sides of Japanese-Canadian experience, Obasan demonstrates a way to escape...the bind of binarism (15-16). What is being resolved? What is the nature of resolution, that is, how and to what extent is this resolution achieved? Although the category of 'ethnic novel' appears to speak to Canadian multi-culturalism, does this resolution apply to Canadians of non-Japanese descent? Does Obasan, as an 'ethnic novel' not perpetuate a politics of race and culture that is necessary to multi-culturalism? Specifically, how can Naomi Nakane escape the burden of a history of trauma that is defined by 'Japanese-ness' when her identity embodies that very 'Japanese-ness'? Of course, she can try to emphasise her 'Canadian-ness' over her 'Japanese-ness', relegating her cultural identity to a collection of token ethnic signs. But, is this emphasis not an act of violence, a kind of racist erasure in order to achieve a form of whiteness (demographically and culturally, the majority is Anglo-European white) coded as 'token ethnicity but really non-ethnic middle-class'?

第 11 回 Obasan (2/2)

第 12 回 Nocturnes (1/4)

第 13 回 Nocturnes (2/4)

第 14 回 Nocturnes (3/4)

第 15 回 Nocturnes (4/4)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of group discussions, assignments, tests, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, tests, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should prepare for each class as directed by the professor. Usually this will be a close reading of the novel we are reading. A close reading requires taking notes and writing a summary of the assigned pages, plus writing at least 2-3 questions and points for discussion with other students and the professor.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments and tests 100%

[留意事項 (Other Information)]

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

There is no textbook required for this course.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

www.lyledesouza.com/teaching

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語英文学演習 I

EGS3500A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

大川 淳

[科目の教育目標 (Course Description)]

本講義では19世紀中期に活躍した作家Herman Melvilleの短編を精読する。また19世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。

前期は毎回の予習範囲を最小限にとどめ、小範囲のテキストを一語一句意味を味わいながら読むことを目指す。

これらの目標を超え、英語を正確に読む力を養い、また文学だけではなく、世界にあふれている物事について、多角的に考える力を修得してもらいたい。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. テキストを精読する。(Close Reading)
2. 批評的視点を習得する。
3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。
4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチ。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

第 1 回 Introduction

第 2 回 “The Piazza” Presentation 1 と Comments (p.1~p.2 2段落目)

第 3 回

- “The Piazza” Presentation 2 と Comments (~p.3 5段落目)
- 第 4 回 “The Piazza” Presentation 3 と Comments (~p.4 3段落目)
- 第 5 回 “The Piazza” Presentation 4 と Comments (~p.5 3段落目)
- 第 6 回 “The Piazza” Presentation 5 と Comments (~p.6 2段落目)
- 第 7 回 “The Piazza” Presentation 6 と Comments (~p.7 2段落目)
- 第 8 回 “The Piazza” Presentation 7 と Comments (~p.8 3段落目)
- 第 9 回 “The Piazza” Presentation 8 と Comments (~p.9 6段落目)
- 第 10 回 “The Piazza” Presentation 9 と Comments (~p.10 2段落目)
- 第 11 回 “The Piazza” Presentation 10 と Comments (~p.11 3段落目)
- 第 12 回 “The Piazza” Presentation 11 と Comments (~p.12 1段落目)
- 第 13 回 “The Piazza” Presentation 12 と Comments (p.12 最後まで)
- 第 14 回 “The Piazza” と個々の分析の Presentation
- 第 15 回 “The Piazza” と先行研究分析
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

本講義で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。

したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。

授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語 (文法) レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。

プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。

プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

平常点 30% 授業態度、ゼミへの貢献度。

課題 30% Presentation、予習

Final paper 40%

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『The Piazza Tales』/Herman Melville/Northwestern University Press/1987/810114674/学内販売予定

[参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語英文学演習 I

EGS3500F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

東郷 多津

[科目の教育目標 (Course Description)]

グローバル人材育成が求められる中、学校現場においても、「自律・協同・創造」の理念のもと、生涯学び続けられる学習者を育成できるよう、教師主導型から学習者主体への転換が強く求められています。その理念のもと、主体的・対話的な深い学びを伴う学習方法が試行錯誤されています。本科目では、社会で求められている能力とその学習方法について知識・理解を深めたいと、学習者の状況や能力に応じた英語カリキュラムを提案できるようになることを目指します。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

上記目標のために以下の達成を目指します。

1. アクティブ・ラーニングの理論について基本的な知識を得る
2. 社会で求められる能力 (英語力を含む) に関する情報を収集する
3. 学びに役立つ学習方法について実践検証する
4. 発表した内容をレポートとしてまとめる方法を学ぶ
5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示があっても動かない	指示された内容は実行できる	指示された内容を少し広げて実行できる	指示された内容から、自身の興味関心に結び

				付けて行動 することが できる
知識・理解 力	英語教育学 の分野に関 する課題に ついて何も 語れない	英語教育学 の分野に関 する課題に ついて読ん だことがあ る	英語教育学 の分野に関 する課題に ついていく つか内容を 知っている	幅広く、英 語教育学分 野の課題に ついて知っ ており、そ れを第三者 にわかりや すく説明で きる
創造・発信 力	英語教育学 の分野につ いて関心が ない	英語教育学 の分野につ いて、第三 者の助言を 受けて、課 題をみつ け、それに ついて調べ ることがで きる	英語教育学 の分野につ いて、自分 で課題をみ つけ、それ について調 べることが できる	英語教育学 の分野につ いて、自分 で課題をみ つけ、それ について調 べたこと を、論理的 に説明する ことができ る

〔授業計画〕

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	第 1 章 アクティブラーニングとは ① 第 1 節 アクティブラーニング研究・実践の隆盛
第 3 回	第 1 章 アクティブラーニングとは ② 第 2 節 アクティブラーニングの定義
第 4 回	第 2 章 なぜアクティブラーニングか ① 第 1 節 教授学習パラダイムの転換
第 5 回	第 2 章 なぜアクティブラーニングか ② 第 2 節 社会の変化に対応して
第 6 回	第 3 章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ① 第 1 節 アクティブラーニング型授業の技法と戦 略
第 7 回	第 3 章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ② 第 2 節 アクティブラーニング型授業の実際
第 8 回	第 3 章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ③ 第 3 節 近接概念の相違
第 9 回	卒業研究のための発表 ① 関連論文の発表
第 10 回	第 4 章 アクティブラーニング型授業の質を高め るための工夫 ① 第 1 節 学習内容の深い理解を目指す
第 11 回	第 4 章 アクティブラーニング型授業の質を高め るための工夫 ② 第 3 節 逆向き設計とアセスメント
第 12 回	第 4 章 アクティブラーニング型授業の質を高め るための工夫 ③ 第 5 節 反転授業をおこなう

- 第 13 回 第 5 章 揺れる教授学習観 ①
知識の定着とラーニングピラミッド
- 第 14 回 第 5 章 揺れる教授学習観 ②
プロジェクト学習
- 第 15 回 卒業研究のための中間発表とまとめ
学生によるプレゼンテーション
学習課題の組み立て方

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学びの質を転換するために、理論部分は反転授業形式で行
い、授業では主に理論部分に関するディスカッションを行
う。また、具体的な技法については、実践演習を多く取り
入れる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業に臨む際には以下が求められます。

- ・授業中のディスカッションに参加できるよう、必ずテキ
ストを精読し、不明な用語は参考文献や辞書等で調べてお
くこと。
- ・自分の担当箇所についてはA4-2枚以上の文書にまとめる
こと。
- ・自分の担当箇所以外については、翌週までにA4-1枚程度
に、理解できなかった箇所や自分の意見を含めてまとめて
くること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は以下を参考に総合的に評価します。

発表とそのまとめのレポート 40%

授業参加度 20%

レポート 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラ
インを取り入れます。
- ・上述に関連し、状況に応じて、事前連絡のうえ、授業予
定を変更する場合があります。
- ・発表担当者の無断欠席は授業の進行の妨げとなるため、
大きく減点されます。
- ・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求
めますので、発表担当者だけではなく、全員必ず指定され
た箇所の予習を行って、授業に臨んでください。
- ・実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇
所のテキストや提出されたクラスメートのレポートを参考
に、出席時と同様にレポートを提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』/ 溝
上慎一/ 東信堂/ 2014/ 9784798912462 / 学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

人間科学研究法ハンドブック / 高橋 順一 (著), 大淵 憲一 (著), 渡辺 文夫 (著) / ナカニシヤ出版 第2版 / 2011 / 978-4779504198

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本ゼミは、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、客観的に説明できるようになることを目標とする。

「研究方法論」「英語英文学演習I」で習得したコミュニケーション研究方法論に基づき、自身が関心を持つコミュニケーション現象を実際に研究し、これを論文として執筆するための研究技術を習得する。

また、演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

<1> 方法論のさらなる理解 (コミュニケーションを観察(データ収集)、分析するための具体的方法論をさらに向上させる) :

- 理論的分析 (言語理論による分析)
- 質問紙調査 (アンケート) 法
- 実験デザイン
- フィールドワーク (参与者観察) 法

<2> 論文作成法習得 (演習を通じて卒業研究のテーマを模索し、これを研究論文へと発展させる方法 (文献研究、データ収集、分析、説明) について学習する。「コミュニケーション概論」「対人コミュニケーション」「異文化間コミュニケーション/Global English Lecture IC」「ことばとコミュニケーション」といった関連科目で扱われたトピックの中から、自分の関心に従って具体的なコミュニケーション現象を卒業研究のテーマとして選定し、明確な研究課題を設定して研究を開始する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画と論文執筆概説
- 第 2 回 学術論文講読演習1：発話行為論
- 第 3 回 学術論文講読演習 2：語用論 (会話の含意)
- 第 4 回 学術論文講読演習 3：語用論 (一般的含意)
- 第 5 回 学術論文講読演習 4：語用論 (関連性理論)
- 第 6 回 学術論文講読演習 5：Message Effect (擬似実験デザイン)
- 第 7 回 学術論文講読演習 6：Message Effect (相互作用分析)
- 第 8 回 研究方法論1：Proposal作成の基礎
- 第 9 回 研究方法論2：記述統計学
- 第 10 回 研究方法論3：推論統計学
- 第 11 回 研究プロジェクト演習1：グループ発表とディスカッション (第1日：研究グループ1、2)
- 第 12 回 研究プロジェクト演習2：グループ発表とディスカッション (第2日：研究グループ3、4)
- 第 13 回 卒業研究 Proposal 発表 Day 1 (学籍番号順 前半)
- 第 14 回 卒業研究 Proposal 発表 Day 2 (学籍番号順 後半)
- 第 15 回 Course Reviewと卒業論文執筆要領

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業： 本ゼミは、担当教員の講義、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表： 学術論文 (後期) についての発表、および、自らが選んだトピック (コミュニケーション現象) を実際に分析した結果を口頭発表する。

卒業研究Proposal作成： 前期の間に選択した複数のトピックから絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- (1) 指定されたテキスト (reading assignment) を事前に読む
- (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。

(3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」に反映させるため、適宜Proposalの執筆と相談を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表1 (講読演習) 25%

発表2 (グループ研究発表) 25%

ディスカッションへの貢献度 20%

Final Paper (卒業研究 Proposal) 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版./2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学：その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/2011/

『ことばの社会心理学』/岡本真一郎/ナカニシヤ出版/2010/

『言語理論としての語用論』/今井邦彦/開拓社/2015

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5：共生・協働する力

60

集中

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースは、今まで見てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を文学の一つの解釈として扱うことから始める。まず、小説の読解をした上で映画観賞をし、映像芸術の読み方を学び、やがて作品分析方法をいくつか習得する。次にそこに描かれている人間、文化、世界観について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究方法の習得
5. 論文作成のための作品選択と資料収集

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	講義内容をしっかり理解できない。	多少理解していても漠然としていて分からない点を質問できない。	講義をしっかり理解し、自分でまとめることができる。	理解したことを自ら発信することができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力	ゼミのみんなの意見を聞くことできない。	ゼミのみんなの意見を理解できるがまとめることができない。	ゼミのみんなの意見を理解し、まとめることができる。	ゼミのみんなの意見を自ら発信して行動することができる。
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 卒業論文を考える
各自の卒業論文テーマの発表
- 第 2 回 ヴィスコンティを学ぶ①
ヴィスコンティの『ベニスに死す』と原作トーマス・マンとの比較を試みる。
また、ターナーの絵画の海等ヴィスコンティの映像美について考察する。
- 第 3 回 ヴィスコンティを学ぶ②
ヴィスコンティの『家族の肖像』を読む。
- 第 4 回 ヴィスコンティを学ぶ③
ヴィスコンティの作品と死のイメージ
- 第 5 回 日本映画を学ぶ①
小津安二郎の『東京物語』
- 第 6 回 日本映画を学ぶ②
『東京物語』と家族のかたち
- 第 7 回 日本映画を学ぶ③
小津安二郎のヨーロッパ映画への影響力
- 第 8 回 日本映画を学ぶ④
黒澤明の『乱』を考える
- 第 9 回 日本映画を学ぶ⑤
『乱』の映像メッセージ
- 第 10 回 日本映画を学ぶ⑥
黒澤明『蜘蛛の巣城』を考える
- 第 11 回 比較論
クロサワとシェイクスピア
- 第 12 回 映画で論文を書く①
論文書き方指導
- 第 13 回 映画で論文を書く②
卒業論文テーマの個人発表

第 14 回 映画で論文を書く③

アウトライン作成

第 15 回 映画で論文を書く④

総括とその他

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

(1) 個々の作品及びスクリプトの精読

(2) 映画観賞 (前もってクラスで観る場合と課題の場合がある。)

(3) 個人発表

(4) ディスカッション

(5) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

2. 学習方法

(1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。

質問に答えられるようにしておくこと。必ず作品について意見を求めるので

その準備が必要である。

(2) 指定された映画は観なければならない。

(3) 個々の作品についてレポートを提出する。

(4) 発表の時間がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

観た映画に関して、しっかりと自分の意見が言えるように準備してこなければならない。レポートの提出を求める。グループディスカッションと発表の時間がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、クラス・レスポンス 40%

Final Paper 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文を成功させるには、いち早く自分に合ったテーマを決めることなので、多くの映画作品を提供するつもりである。また、課外活動も活発に参加してもらいたい。尚、Final Paper の提出は 4 年次「卒業研究」の履修条件になる。〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550DJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語英文学演習Iで学んだ内容を、より深く掘り下げて、日・英語の構文研究を行います。学生はテキストからそれぞれトピックを選び、授業で発表します。卒業論文のアウトライン及び計画書を提出することが目標であるため、後半は自分が選んだトピックに関する発表をしてもらいます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの中から興味を持ったトピックを選び、口頭発表する。

2. データの収集と一般化を行う。

3. 一般化から、帰結を導き出す。

4. 口頭発表・論文作成についての方法論について学ぶ。

5. 卒業論文の提案書を作成・提出する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教材を通して積極的に内容を理解しようとしていない	教材を通して積極的に内容を理解しようとする	教材を通してある程度内容が理解できる	教材の内容をほぼ理解できる
言語力	データを正しく理解することができない	データを正しく理解することができる	データを的確に分析できる	データを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	テーマについて考えようとしない	テーマについて考えようと努める	興味深いテーマを考えられる	興味深いテーマを考え、それを分析できる

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

・授業についての説明を行います。

第 2 回 カートグラフィーの理念

・テキスト第1章

・学生1名が発表します。

第 3 回 英語のCPのカートグラフィー

・テキスト第2章

・学生1名が発表します。

第 4 回 日本語のCPのカートグラフィー

- ・テキスト第3章
- ・学生1名が発表します。
- 第 5 回 IPと副詞のカードグラフィー
 - ・テキスト第4章
 - ・学生1名が発表します。
- 第 6 回 主語のカードグラフィー
 - ・テキスト第5章
 - ・学生1名が発表します。
- 第 7 回 動詞句のカードグラフィー
 - ・テキスト第6章
 - ・学生1名が発表します。
- 第 8 回 形容詞のカードグラフィー
 - ・テキスト第7章
 - ・学生1名が発表します。
- 第 9 回 空間表現のカードグラフィー
 - ・テキスト第8章
 - ・学生1名が発表します。
- 第 10 回 カードグラフィーと極小主義プログラム
 - ・テキスト第9章
 - ・学生1名が発表します。
- 第 11 回 まとめ
 - ・テキスト第10章
 - ・テキストを再度概観し、卒論に向けて興味のある言語現象について話し合います。
- 第 12 回 研究発表：第1章?第3章の応用
 - ・卒論を視野に入れたテーマで、学生1?2名が発表します。
- 第 13 回 研究発表：第4章?第5章の応用
 - ・卒論を視野に入れたテーマで、学生1?2名が発表します。
- 第 14 回 研究発表：第6章?第8章の応用
 - ・卒論を視野に入れたテーマで、学生1?2名が発表します。
- 第 15 回 研究発表：第9章・第10章の応用
 - ・卒論を視野に入れたテーマで、学生1?2名が発表します。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

・卒業論文の提案書

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・口頭発表とディスカッションを中心とした演習形式とします。

・レポートの回数は未定ですが、文書あるいは口頭でフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・並行して「ことばのしくみ」、「研究方法論」、「英語英文学演習I」の復習をしましょう。

・自分の担当箇所に限らず、全ての章をきちんと読んで、質疑応答できるようにしておきましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・口頭発表：40%
- ・卒業論文の提案書：60%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・卒業論文の提案書は4年次の授業の履修条件となります。
- ・研究発表、卒論のテーマなどは、積極的に相談してください。アポは基本的にメールでお願いします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『カードグラフィー』/加賀信広・西岡宣明・野村益寛・岡崎正男・岡田禎之・田中智之(監修)遠藤喜雄・前田雅子(著)/開拓社/2020年

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・それぞれのトピックに関する文献を授業で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5：共生・協働する力

60

集中

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The purpose of this course is to further students' understanding of the major topics in sociolinguistics. Students will gain an understanding of the field of sociolinguistics and become familiar with sociolinguistic theory and methods. Students will also learn about field methods, data gathering, and analysis. In addition, students will learn how to apply sociolinguistic concepts to critical approaches to language teaching.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

The course will cover a wide variety of topics in the field of sociolinguistics, which may include: regional and social language variation; language and identity, power, ethnicity, gender, sexuality, and social contexts; language attitudes, language contact, and multilingualism.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力: Links course concepts to personal views and	Does not apply course concepts to personal views and	Adequately applies course concepts to personal views and	Good application of course concepts to personal views and	Effectively applies course concepts to personal views and

experience s	experiences	experiences	experiences	experiences
共生・協働する力: Works cooperatively with others on course projects	Did not do any work—does not contribute. Does not work well with others.	Could have done more of the work—has difficulty. Requires structure, directions, and leadership.	Did their part of the work—cooperative. Works well with others.	Did more than others—highly productive. Works extremely well with others.

〔授業計画〕

- 第 1 回 Review of sociolinguistics
 - 第 2 回 Dominant and minority languages
 - 第 3 回 Linguistic imperialism
 - 第 4 回 English as an international language
 - 第 5 回 Language loyalty
 - 第 6 回 Language decline
 - 第 7 回 Language maintenance and revival
 - 第 8 回 Bilingualism and multilingualism
 - 第 9 回 Cognitive effects of bilingualism
 - 第 10 回 Pidgins and creoles
 - 第 11 回 Invented languages
 - 第 12 回 Language and religion
 - 第 13 回 Language and gender
 - 第 14 回 Presentations
 - 第 15 回 Presentations; Final Paper Due
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

All assigned readings and classroom discussions will be in English. This is not a lecture course, and students are expected to play an active role in all classroom activities. Class activities will include discussions, presentations, and project work.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will also provide regular feedback on all written assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to do the assigned reading and prepare their answers to the discussion questions before each class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

In-class participation: 40%

Presentations: 20%

Project work: 10%

Final paper: 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示はmanabaのコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

This course will be a blended course in the fall of 2020. This means some classes will be face-to-face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『An Introduction to Sociolinguistics, Seventh Edition』 / Ronald Wardhaugh and Janet M. Fuller/Wiley-Blackwell/2014/

『An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition』 /Janet Holmes/Routledge/20173/978-1138845015

『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』 /John Edwards/Oxford University Press/2013/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550J0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In the 3rd year, this seminar course explores literature written by Nikkei, people of Japanese descent living abroad. With nearly 3 million Nikkei (more than the population of Osaka!) living in various countries, there is a fascinating collection of literature to read. Each week we will present a literary text of their choice, choosing from writers including Nobel Prize winner Kazuo Ishiguro from the UK, as well as authors from the US, Australia, and other English-speaking countries. We explore this literature using various theories and concepts which help us to understand what it means to be of Japanese ancestry living outside of Japan. The seminar uses a wide range of primary source materials in English which we will

analyse and discuss together in class.

In the 4th year, students select a literary work and write their graduation thesis based on this. During the weekly seminars advice will be given about the writing in general and there will be specific advice offered to each student (as well as peer-review exercises).

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This seminar introduces students to key issues relating to Japanese diaspora literature such as identity, stereotypes, race, ethnicity, the immigrant experience, and gender. By the end of the seminar, students will have (1) a much better understanding of Japanese identity outside of Japan; (2) will improve their English reading and writing skills; and (3) will develop an ability to analyse literature through close reading techniques.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力 Student s have an understanding of Japanese identity and belonging outside of Japan in English-speaking countries.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
知識・理解力 Student s have an understanding of Japanese identity and belonging outside of Japan in English-speaking countries.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Diaspora revisited
- 第 2 回 Literary theory revisited
- 第 3 回 Race and ethnicity revisited
- 第 4 回 Identity revisited
- 第 5 回 Stereotypes, 'Other', discrimination, the immigrant experience revisited

- 第 6 回 Chorus of Mushrooms by Hiromi Goto - Introduction, Summary & History
- 第 7 回 Chorus of Mushrooms by Hiromi Goto - Characters
- 第 8 回 Chorus of Mushrooms by Hiromi Goto - Themes
- 第 9 回 Chorus of Mushrooms by Hiromi Goto - Analysis
- 第 10 回 Writing workshop 1/6 ? Choosing a primary text and topic for your graduation thesis
- 第 11 回 Writing workshop 2/6 ? Finding sources and researching, part 1
- 第 12 回 Writing workshop 3/6 - Finding sources and researching, part 2
- 第 13 回 Writing workshop 4/6 ? Constructing an annotated bibliography, part 1
- 第 14 回 Writing workshop 4/6 ? Constructing an annotated bibliography, part 2
- 第 15 回 Writing workshop 4/6 ? Constructing an annotated bibliography, part 3

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of group discussions, assignments, tests, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, tests, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor. Usually this will be a close reading of the novel we are reading. A close reading requires taking notes and writing a summary of the assigned pages, plus writing at least 2-3 questions and points for discussion with other students and the professor.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and tests 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

- 秀 Excellent (S) 90 to 100%
- 優 Very good (A) 80 to 89%
- 良 Good (B) 70 to 79%
- 可 Pass (C) 60 to 69%
- 不合格 Fail (D) 0 to 59%
- 提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:
lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:
Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

There is no textbook required for this course.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

www.lyledesouza.com/teaching

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では19世紀中期に活躍した作家Herman Melvilleの短編を精読する。また19世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。

また、文学批評に関する知識を深め、独創的な観点から批評する力を養成することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストを精読する。(Close Reading)
2. 批評的視点を習得する。
3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。
4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチをおこなう。
5. 独創的な観点から文学作品を分析する力を養成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation1 と Comments (p.13~P.16 5段落目)
- 第 3 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation2 と Comments (~p. 19 2段落目)
- 第 4 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation3 と Comments (~p.22 4段落目)
- 第 5 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation4 と Comments (~p.25 下から3段落目)
- 第 6 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation5 と Comments (~p.28 1段落目)
- 第 7 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation6 と Comments (~p. 30 下から4段落目)
- 第 8 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation7 と Comments (~p.33 1段落目)
- 第 9 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation8 と Comments (~p.35 2段落目)
- 第 10 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation9 と Comments (~p.37 3段落目)
- 第 11 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation10 と Comments (~p.40 7段落目)
- 第 12 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation11 と Comments (~p.43 6段落目)
- 第 13 回 “Bartleby, the Scrivener” Presentation12 と Comments (~p.45 最後まで)
- 第 14 回 “Bartleby” Presentation (個々の分析)
- 第 15 回 “Bartleby” 先行研究分析

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。

したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。

授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語 (文法) レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。

プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。

授業の進め方と学習の方法としては前期と同様であるが、より精緻な分析と考察を求めることになるので、事前学習では十分にテキストを分析しておくこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。

プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 30% 授業態度、ゼミへの貢献度。

課題 30% Presentation、予習

レポート 30% Critical Paper about "Bartleby"

Final Paper 10% 卒業論文のProposal

〔留意事項 (Other Information)〕

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『The Piazza Tales』/Herman Melville/Northwestern University Press/1987/810114674/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜3限

DP5: 共生・協働する力

90

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

前期に引き続き、生涯学習社会を見据えて、自分に合った英語の学びを選択できるよう、人間が学ぶこと、また学び方など、学びのしくみについて考えていくこととします。後期は、より幅広い意味での学習に着目し、自ら英語を勉強するために提供されている様々なプログラムおよび、オンラインサイトやスマホなどで提供されているソフトやアプリを、実践的に検証します。また、演習を通じて、学びのしくみについて理解し、説明できるようになること、その結果として、目的に合った英語カリキュラムを提案できるようになることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

上記目標のために以下の達成を目指します。

1. 国内外の学びについて幅広い知識を身につける
2. キャリアに求められる英語力に関する情報を収集する。
3. 学びに役立つ検定とその向上プログラムを実践検証する。
4. 発表した内容をレポートとしてまとめる方法を学ぶ
5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示があっても動かない	指示された内容は実行できる	指示された内容を少し広げて実行できる	指示された内容から、自身の興味関心に結び付けて行動することができる
知識・理解力	英語教育学の分野に関する課題について何も語れない	英語教育学の分野に関する課題について読んだことがある	英語教育学の分野に関する課題についていくつか内容を知っている	幅広く、英語教育学分野の課題について知っており、それを第三者にわかりやすく説明できる
創造・発信力	英語教育学の分野について第三者の助言を受	英語教育学の分野について、第三者の助言を受	英語教育学の分野について、自分で課題みつ	英語教育学の分野について、自分で課題みつ

	けても、課題をみつけれられない、または調べ方がわからない	受けて、課題をみつければ、それについて調べることができる	け、それについて調べることができる	け、それについて調べたことを、論理的に伝えることができる
--	------------------------------	------------------------------	-------------------	------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 01 The relevance of global skills
- 第 3 回 02-1 Global skills and English language teaching (ppp.10-12)
- 第 4 回 02-2 Global skills and English language teaching (pp.13-17)
- 第 5 回 03 Assessing global skills in the ELT classroom (pp.18-21)
- 第 6 回 卒業研究のための発表 ①
Group Aの学生によるプレゼンテーション
- 第 7 回 卒業研究のための発表 ②
Group Bの学生によるプレゼンテーション
- 第 8 回 04 Creating a global skills learning environment
- 第 9 回 Conclusion
- 第 10 回 Teaching activities for global skills 1
Shorter learning activities の紹介
- 第 11 回 Teaching activities for global skills 2
Longer learning activities or project work の紹介
- 第 12 回 Examples of classroom assessment
- 第 13 回 Glossary
- 第 14 回 卒業研究概要に関する発表とディスカッション (2)
Group Aによるプレゼンテーションとディスカッション
- 第 15 回 卒業研究概要に関する発表とディスカッション (2)
Group Bによるプレゼンテーションとディスカッション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

生涯教育の観点から、様々な学びに関する知識を習得するとともに、発表と英語検定、および、その向上プログラムやソフトを、お互いに紹介しながら、自分の目的に合う英語学習プログラムを構築する。同時に、社会で求められる英語力と紹介した検定、およびその向上プログラムやソフトを関連づけた目的別英語カリキュラムを提案する。授業終了時に振り返りシートを記入するとともに、発表時には、各自コメントシートを記入し、発表者へフィードバックする。

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業に臨む際には以下が求められます。

・授業中のディスカッションに参加できるよう、必ずテキストを精読し、不明な用語は参考文献や辞書等で調べてお

くこと。

- ・自分の担当箇所についてはA4-2枚以上の文書にまとめること。
- ・自分の担当箇所以外については、翌週までにA4-1枚程度に、理解できなかつた箇所や自分の意見を含めてまとめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は以下を参考に総合的に評価します。

発表とそのまとめのレポート 40%

授業参加度 20%

レポート 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

・この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れます。

・上述に関連し、状況に応じて、事前連絡のうえ、授業予定を変更する場合があります。

・発表担当者の無断欠席は授業の進行の妨げとなるため、大きく減点されます。

・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、発表担当者だけではなく、全員必ず指定された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。

・実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストや提出されたクラスメートのレポートを参考に、出席時と同様にレポートを提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Our experts advise on Global Skills: Creating Empowered 21st Century Citizens/ Oxford University Press/ 2019/

各自以下のURLからダウンロードして持参すること

file:///C:/Users/kndutg/Downloads/oup-expert-global-skills.pdf

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

大学英語教育学-その方向性と諸分野 (英語教育学体系 第1巻) / 森住衛他編/ 大修館書店/ 2010

ビジネスミーティング英語力/ 大学英語教育学会EBP調査研究特別委員会・国際ビジネスコミュニケーション協会/ 朝日出版社/ 2015

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習Ⅱ

EGS3550H0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course aims to continue exploring leadership in a systematic and thought-provoking way. Using an experiential approach, known in the literature as a cycle of experience, reflection, generalization, and application. Our learning community will pursue a deeper understanding of leadership, specifically within the construct of application. Students will be expected to narrow down this vast field into one specific and pertinent area that can form the basis of an original piece of either quantitative or qualitative research by the end of the course.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. We will continue to explore current issues and concepts in the field of leadership through readings, discussions and student presentations.
2. We will also focus on how to research and write a graduation thesis.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力: Build a study system; Be on time; Do assignments; Make enough efforts to succeed	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
知識・理解力: Understand lesson contents; Know personal weak points; Choose areas to improve;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

思考・解決力: See multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
共生・協働する力: Ability to work together; Give opinions; Able to help others; Able to ask for help; Ability to find your role in a group; Ability to take action	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Leadership skills assessment
Academic Research and Writing Workshop
- 第 2 回 Seeing others perspectives
Academic Research and Writing Workshop
- 第 3 回 Gender & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 4 回 Culture & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 5 回 Communication & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 6 回 Ethics & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 7 回 Assumptions & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 8 回 Personal Research Topic
Oral Report on Personal Research Topic
- 第 9 回 Decision making & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 10 回 Community & Leadership
Academic Research and Writing Workshop

- 第 11 回 Community building & Leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 12 回 Group dynamics & leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 13 回 Conflict & Leadership
Academic Research and Writing Workshop
- 第 14 回 Final Oral Report I
- 第 15 回 Final Oral Report II
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will need to come to class prepared to be active learners. This means not only reading and understanding a text, but also preparing questions and opinions about the text. Students will be assigned leadership roles as facilitators, active listeners, and group reporters. Students will do two Oral Reports on their intended graduation thesis research.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will be led through the essentials of researching and writing an academic graduation thesis. Students will need to demonstrate their understanding of concepts through peer teaching and oral presentations. Ongoing formative feedback will be provided in class, both individually and to the whole class.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation 40%

Oral Report on Personal Research Topic 30%

Final Oral Report 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Handouts

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

To be announced in class

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学演習 II

EGS3550I0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

水曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習では、19世紀イギリスを代表する作家Charles Dickensの作品の一部を精読する。また、作品の背景や文学史上の位置づけについて、先行研究をもとに調査・考察することによって、知識を広げ、より高度な作品分析をする力を身につけることを目標とする。

また、文学批評に関する知識を深め、文学作品を論じる力を養成することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テキストの精読。
2. 作家の伝記的背景、時代背景およびテキスト成立の背景に関する調査。
3. 英文学史におけるテキストの位置づけについての調査。
4. 先行研究を踏まえた作品分析。
5. 作品分析の論述。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
	できない	できる	よくできる	非常によくできる
自分を育てる力：辞書を丁寧にひきながら予習をして授業に参加し、授業中の訳読や議論に積極的に参加できる				
知識・理解力：作者や作品の背景について基礎的な知識を持ち、作品に関する様々な論点を理解できる。				

言語力：文学作品を原書で読むための英語読解能力を持っている。				
思考・解決力：想像力をつかって作品を理解できる。				
共生・協働する力：意見交換やディスカッションを通じて、作品についてのお互いの理解を高めあえる。				
創造・発信力：作品の主題や読みどころについて自分の言葉で表現できる。				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
第 2 回 *Great Expectations*: group presentation (1) and comments
Chapter 12
第 3 回 *Great Expectations*: group presentation (2) and comments
Chapter 13
第 4 回 *Great Expectations*: group presentation (3) and comments
Chapter 14
第 5 回 *Great Expectations*: group presentation (4) and comments
Chapter 15
第 6 回 *Great Expectations*: group presentation (5) and comments
Chapter 16
第 7 回 *Great Expectations*: group presentation (6) and comments
Chapter 17
第 8 回 *Great Expectations*: group presentation (7) and comments
Chapter 18
第 9 回 *Great Expectations*: group presentation (8) and comments
Chapter 19

第 10 回 *Great Expectations*: group presentation (9) and comments
Chapter 20

第 11 回 The biographical background and historical context of the work

第 12 回 Textual analysis (1): brainstorming and discussion

第 13 回 Textual analysis (2): presentation

第 14 回 Discussion and Final Paper directions

第 15 回 Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業は、各受講生のテキストの精読をもとにした輪読形式で進められる。

受講生は、毎週指定されるテキストの該当箇所を読んだ上で授業に出席する。

グループ・プレゼンテーションの担当者は、物語展開の要旨やテキスト精読上のポイント、注釈などをまとめて発表する。

受講生全員で、プレゼンテーションやテキストの内容について質疑応答やコメントを行う。また、内容に関する分析を論述する。

最後に、各受講生によるテキストの内容に関するプレゼンテーションを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週指定されるテキストの該当箇所を辞書や参考文献を参照しながら精読する。

プレゼンテーションを担当する際には、人数分のハンドアウトを用意する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 30% : 輪読、質疑応答、コメント、Discussion への参加。

課題 30% : group presentations, Final Presentation, writing assignments

レポート 30%

Final Paper 10% : 卒業論文のProposal

課題へのフィードバックは、個別に内容を添削し、コメントをつけて返却することでおこないます。

〔留意事項 (Other Information)〕

Final Paperの提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Great Expectations / Charles Dickens / Penguin / 2003 / 学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習ⅠA

EGF1100A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜4限

DPI：自分を育てる力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み（単位の取得やカリキュラム）を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法（授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術）を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション

- 第 2 回 ノートの取り方
 第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション
 第 4 回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)
 第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃
 第 6 回 個別セッション (Report 1のPeer Review)
 第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方
 第 8 回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)
 第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials
 第 10 回 CA Final 返却 + コメント / 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited
 第 11 回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)
 第 12 回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)
 第 13 回 Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)
 第 14 回 Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)
 第 15 回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版社/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 I B

EGF1100BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DPI: 自分を育てる力

60

集中

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み（単位の取得やカリキュラム）を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法（授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術）を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション
- 第 2 回 ノートの取り方
- 第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション
- 第 4 回 個別セッション（情報収集に基づいたディスカッション）
- 第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃
- 第 6 回 個別セッション（Report 1のPeer Review）
- 第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方
- 第 8 回 個別セッション（Report 2のPeer Reviewと演習）
- 第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials
- 第 10 回 CA Final 返却+コメント / 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited
- 第 11 回 個別セッション（Final Paper DraftのPeer Reviewと演習）
- 第 12 回 個別セッション（Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習）
- 第 13 回

Oral Presentation 1（第1日：学籍番号順 前半グループ）

第 14 回 Oral Presentation 2（第2日：学籍番号順 中盤グループ）

第 15 回 Oral Presentation 3（第3日：学籍番号順 後半グループ）

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 I C

EGF1100COJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DPI: 自分を育てる力

60

集中

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション |
| 第 2 回 | ノートの取り方 |
| 第 3 回 | 情報の調べ方/図書館オリエンテーション |
| 第 4 回 | 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション) |
| 第 5 回 | 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 |
| 第 6 回 | 個別セッション (Report 1のPeer Review) |
| 第 7 回 | クリティカルシンキング/議論の立て方 |
| 第 8 回 | 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習) |
| 第 9 回 | 議論の立て方 revisited / Supporting Materials |
| 第 10 回 | CA Final 返却+コメント /
書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited |
| 第 11 回 | 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習) |
| 第 12 回 | 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習) |
| 第 13 回 | Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ) |
| 第 14 回 | Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ) |
| 第 15 回 | Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ) |

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) Short Paper x 5: 50%
- (2) Report x 2: 30%
- (3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 I D

EGF1100DOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DP1: 自分を育てる力

60

集中

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形

成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション
- 第 2 回 ノートの取り方
- 第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション
- 第 4 回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)
- 第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃
- 第 6 回 個別セッション (Report 1のPeer Review)
- 第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方
- 第 8 回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)
- 第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials
- 第 10 回 CA Final 返却 + コメント /
書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited
- 第 11 回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Reviewと演習)
- 第 12 回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer Reviewと演習)
- 第 13 回 Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)
- 第 14 回 Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)
- 第 15 回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) Short Paper x 5: 50%
- (2) Report x 2: 30%
- (3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 I E

EGF1100E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DP1: 自分を育てる力

90

集中

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み(単位の取得やカリキュラム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法(授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術)を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション
- 第 2 回 ノートの取り方
- 第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション
- 第 4 回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカッション)
- 第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃
- 第 6 回 個別セッション (Report 1のPeer Review)
- 第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方
- 第 8 回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)
- 第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials
- 第 10 回 CA Final 返却 + コメント /
書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃 revisited

- 第 11 回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Review
と演習)
- 第 12 回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer
Reviewと演習)
- 第 13 回 Oral Presentation 1 (第 1 日: 学籍番号順 前半
グループ)
- 第 14 回 Oral Presentation 2 (第 2 日: 学籍番号順 中盤
グループ)
- 第 15 回 Oral Presentation 3 (第 3 日: 学籍番号順 後半
グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習を
セットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成
を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取
り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的
に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用
する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示
される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大
学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 I F

EGF1100F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DP1: 自分を育てる力

90

集中

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学
び」について理解し、基本的な「学び方」を習得すること
を目的とします。

これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律
的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知
識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための
科目です。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 大学における学びの仕組み (単位の取得やカリキュラ
ム)を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための
知識と技能を身につけること。

2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な
方法 (授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポート
や論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッショ
ンの技術)を習得する。

3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その
中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知
識と態度を構築する。

4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形
成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える
学びの環境を構築する。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有
意義な大学生活と環境 / 個別セッション

第 2 回 ノートの取り方

第 3 回 情報の調べ方/図書館オリエンテーション

第 4 回 個別セッション (情報収集に基づいたディスカ
ッション)

第 5 回 書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃

第 6 回 個別セッション (Report 1のPeer Review)

第 7 回 クリティカルシンキング/議論の立て方

第 8 回 個別セッション (Report 2のPeer Reviewと演習)

第 9 回 議論の立て方 revisited / Supporting Materials

第 10 回 CA Final 返却 + コメント /

書くことの重要性/レポートや論文を書く/剽窃
revisited

第 11 回 個別セッション (Final Paper DraftのPeer Review
と演習)

第 12 回 個別セッション (Final Paper RevisionのPeer
Reviewと演習)

第 13 回

- Oral Presentation 1 (第1日: 学籍番号順 前半グループ)
- 第14回 Oral Presentation 2 (第2日: 学籍番号順 中盤グループ)
- 第15回 Oral Presentation 3 (第3日: 学籍番号順 後半グループ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

クラス指定

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 II A

EGF1150AJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DPI: 自分を育てる力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック (英語圏文学文化、コミュニケーション、言

語学・英語学、外国語習得・教授法、等) に関して具体的な学びに触れながら、二年度以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文 (レポートおよびAcademic Paper) の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文 (レポート・Academic Paper) の書き方を習得し、二年度以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 Orientations / Critical Thinking Revisited
- 第2回 Argumentation & Debate
- 第3回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第4回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第5回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第6回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision
- 第7回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第8回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)
- 第9回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)
- 第10回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision
- 第11回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)
- 第12回

領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review &
Revision

第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関
して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行
う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した 1 領域 (あるいは複合
領域) における研究論文を完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域 (文学、言語学、コミュニケーション
学) で研究論文を 1 本づつ完成させる。各領域の研究論文
執筆にそれぞれ 4 週間を費やし、4 週間の中でCritical
Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加 (出席、講義へのリアクション、作業、WSの提
出等) 25 %

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 =
15 %

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相
当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60 %

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、4名の教員による共同開講形式で展開され、合同
演習と個別演習によって構成される。個別演習期間は受講
生はグループに分割され、それぞれのグループが個別演習
(文学、言語学、コミュニケーション学領域) をそれぞれ順
に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては
授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 II B

EGF1150BOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DP1 : 自分を育てる力

60

集中

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関
する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の
主要トピック (英語圏文学文化、コミュニケーション、言
語学・英語学、外国語習得・教授法、等) に関して具体的
な学びに触れながら、二年次以降の専門教育の履修が円滑
に進むよう準備を行う。特に論文 (レポートおよびAcademic
Paper) の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆
する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コ
ミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の
基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文 (レポー
ト・Academic Paper) の書き方を習得し、二年次以降の本格
的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成
し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学
びの環境を構築する。

〔授業計画〕

第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited

第 2 回 Argumentation & Debate

第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review &
Revision

第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review &
Revision

第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review &
Revision

第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関
して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行
う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した 1 領域 (あるいは複合
領域) における研究論文を完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域 (文学、言語学、コミュニケーション
学) で研究論文を 1 本ずつ完成させる。各領域の研究論文
執筆にそれぞれ 4 週間を費やし、4 週間の中でCritical
Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加 (出席、講義へのリアクション、作業、WSの提
出等) 25 %

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 =
15 %

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相
当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60 %

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、4名の教員による共同開講形式で展開され、合同
演習と個別演習によって構成される。個別演習期間は受講
生はグループに分割され、それぞれのグループが個別演習
(文学、言語学、コミュニケーション学領域) をそれぞれ順
に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては
授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 II C

EGF1150C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DP1 : 自分を育てる力

60

集中

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関
する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の
主要トピック (英語圏文学文化、コミュニケーション、言
語学・英語学、外国語習得・教授法、等) に関して具体的
な学びに触れながら、二年次以降の専門教育の履修が円滑
に進むよう準備を行う。特に論文 (レポートおよびAcademic
Paper) の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆
する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コ
ミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の
基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文 (レポー
ト・Academic Paper) の書き方を習得し、二年次以降の本格
的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成
し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学
びの環境を構築する。

〔授業計画〕

第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited

第 2 回 Argumentation & Debate

第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review &
Revision

第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review &
Revision

第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review &
Revision

第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関
して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行
う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した 1 領域 (あるいは複合
領域) における研究論文を完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域 (文学、言語学、コミュニケーション
学) で研究論文を 1 本ずつ完成させる。各領域の研究論文
執筆にそれぞれ 4 週間を費やし、4 週間の中でCritical
Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加 (出席、講義へのリアクション、作業、WSの提
出等) 25 %

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 =
15 %

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相
当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60 %

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、4名の教員による共同開講形式で展開され、合同
演習と個別演習によって構成される。個別演習期間は受講
生はグループに分割され、それぞれのグループが個別演習
(文学、言語学、コミュニケーション学領域) をそれぞれ順
に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては
授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語英文学基礎演習 II D

EGF1150D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DP1 : 自分を育てる力

60

集中

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関
する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の
主要トピック (英語圏文学文化、コミュニケーション、言
語学・英語学、外国語習得・教授法、等) に関して具体的
な学びに触れながら、二年次以降の専門教育の履修が円滑
に進むよう準備を行う。特に論文 (レポートおよびAcademic
Paper) の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆
する方法を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コ
ミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の
基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文 (レポー
ト・Academic Paper) の書き方を習得し、二年次以降の本格
的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成
し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学
びの環境を構築する。

〔授業計画〕

第 1 回 Orientations / Critical Thinking Revisited

第 2 回 Argumentation & Debate

第 3 回 領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 4 回 領域別演習 Session 1 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 5 回 領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 6 回 領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review &
Revision

第 7 回 領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 8 回 領域別演習 Session 2 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 9 回 領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 10 回 領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review &
Revision

第 11 回 領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review
(文献の批判的レビュー)

第 12 回 領域別演習 Session 3 Week 2: on Research
Questions (問題・課題の設定)

第 13 回 領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の
行い方)

第 14 回 領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review &
Revision

第 15 回 Review & Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関
して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行
う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した 1 領域 (あるいは複合
領域) における研究論文を完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学期を通じ、各領域 (文学、言語学、コミュニケーション
学) で研究論文を 1 本ずつ完成させる。各領域の研究論文
執筆にそれぞれ 4 週間を費やし、4 週間の中でCritical
Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加 (出席、講義へのリアクション、作業、WSの提
出等) 25 %

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 =
15 %

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相
当 : 各領域で解説) 20 x 3 = 60 %

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、4名の教員による共同開講形式で展開され、合同
演習と個別演習によって構成される。個別演習期間は受講
生はグループに分割され、それぞれのグループが個別演習
(文学、言語学、コミュニケーション学領域) をそれぞれ順
に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについて
は授業中の指示に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語科教育法 I A

EGR2200A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

火曜 1限

DP2 : 知識・理解力

60

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語教員に必要な英語教育の基本理論の習得と授業実践力
を身につけることを目標とします。具体的には、(1) 英語教
育学の諸領域、および、学習指導要領の内容を理解し、(2)
これに基づいた教材研究を行うための基礎的な知識・技能
を身につけることを目指します。また、(3) 教材研究の成果
を学習指導要領と関連させて、学習指導案を作成し、(4) 「主
体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業を実施
するための基礎力を形成することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解
すること
2. 適切な教材研究を行うための基礎的な知識・技能を習
得すること
3. 授業を実施するための学習指導案の書き方について基
礎的な知識・技能を習得すること
4. 授業実施における基礎的な知識・技能を習得すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
英語科教育 に関する知 識	テキストや 学習指導要 領を読んで いない。	英語教育学 が扱う内容 や、学習指 導要領の内 容を理解し ていない。	英語教育学 が扱う内容 や、学習指 導要領の内 容を理解し ている。	英語教育学 が扱う内容 や、学習指 導要領の内 容を理解し ており、こ れを他者に 説明でき る。

教材研究・授業構想力	学習指導要領を把握できておらず、また教材に基づく学習指導案が作成できない。	学習指導要領を参考に、目標や評価規準を設定して、教材を基に学習指導案を作成できる。	学習指導要領を活かして、教材に基づき、目標や評価規準を設定するとともに、学習者の興味・関心に留意して学習指導案を作成できる。	学習指導要領を活かして、教材に基づき、目標や評価規準を設定するとともに、学習者の興味・関心に留意して、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる学習指導案を作成できる。
授業実践力	学習指導案に基づいて、50分のうち実施部分について授業が通してできない。教える内容に関して大きな問題がある。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、50分のうちの分担部分について授業ができる。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、学習者の反応を見ながら、50分のうちの分担部分について授業ができる。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、学習者の反応を見ながら、50分のうちの分担部分について「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - ・英語教育の目的と歴史
 - ・英語の国際化と日本の英語教育
 - ・CEFR
- 第 2 回 第二言語習得
 - ・LAD
 - ・生得説vs環境説
 - ・インプット仮説, アウトプット仮説
- 第 3 回 外国語教授法
 - ・コミュニカティブ・アプローチ
 - ・TBLT, CBI, CLIL, TPR
- 第 4 回 学習者
 - ・臨界期仮説
 - ・動機付け
 - ・学習ストラテジー
- 第 5 回 学習指導要領

- ・学習指導要領の変遷、小学校英語の導入（第12章）
- ・言語活動
- ・段階的到達目標
- 第 6 回 言語要素の指導
 - ・音声変化
 - ・受容語彙と発表語彙
 - ・機能語と内容語
 - ・PPP
- 第 7 回 4 技能の活動
 - ・4 技能 5 領域（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）
 - ・コミュニケーション活動
- 第 8 回 授業展開
 - ・到達目標とカリキュラム
 - ・学習指導案
 - ・言語材料と学習活動
 - ・Classroom English
- 第 9 回 教材・教具
 - ・検定教科書，デジタル教科書，
 - ・ティーチャートーク
 - ・コンピューター支援の言語学習
- 第 10 回 テストと評価
 - ・テストの目的と種類
 - ・絶対評価と相対評価
 - ・形成的評価と総括的評価
 - ・信頼性，妥当性，実用性
- 第 11 回 英語教育に求められる資質
英語教員としての英語力・授業力
- 第 12 回 学習指導案作成
学習指導案作成と授業準備
- 第 13 回 模擬授業(1)：受講者A群
マイクロティーチングと振り返り
- 第 14 回 模擬授業(2)：受講者B群
マイクロティーチングと振り返り
- 第 15 回 模擬授業(3)：受講者C群
マイクロティーチングと振り返り

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・授業実践力養成のため、講義形式の授業に加えて、個別（又はグループ）による模擬授業を実施します。毎時のコメントシートに対するフィードバックとして、授業内でこれを共有し、全体での学びとします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・テキストやハンドアウトを参照して学習内容の復習を行うこと
- ・次時に学習する範囲のテキストを精読して予習しておくこと
- ・新聞や英語教育雑誌等を通じて、英語教育に関わらず、教育全般に関する動向について、情報を入手するよう心掛けること

・前期末（英語科教育法Ⅰ修了時点）でTOEIC 500点を目標として、英語運用能力向上のための努力をすること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内提出物 (20%)、小テスト (20%)、模擬授業 (20%)、定期試験 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

30分以上の遅刻・早退は欠席となります。遅刻・早退3回で欠席1回分とし、欠席が3回になった時点で単位取得を認めません。なお、やむを得ず欠席・遅刻する場合は、担当教員に事前にメール等でお知らせ下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・『新・グローバル時代の英語教育—新学習指導要領に対応した英語科教育法』/

岡秀夫 編 飯野厚ら著/成美堂/9784791972180 学内販売予定

・New Horizon English Course 1~3/笠島準一他/東京書籍/2021/学内販売予定

・『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』/文部科学省(編)/

開隆堂出版/2018/9784304051692/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』/望月昭彦 (編著) 久保田章・磐崎弘貞・

卯城祐司 /大修館書店/2018/978-4469246216

・『英語教育用語辞典』白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則 著/大修館書店/2019/

9784469246285

・『小・中学校で英語を教えるための必携テキスト』中村典生監修/矢野淳/林裕子/鈴木渉/

巽撤著/2019/東京書籍/978-4-487-81248-6

・『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編』/文部科学省(編)/

開隆堂出版/2019/9784304051784/学内販売予定

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公立小・中学校における英語教員、小・中外国語教育コーディネーターの経験あり

英語科教育法ⅡA

EGR2250A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

火曜1限

DP2: 知識・理解力

60

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語科教育法Ⅰに引き続き、英語教員に必要な英語教育の基本理論の習得と授業実践力を身につけることを目標とします。具体的には、(1) 英語教育学の諸領域、および、学習指導要領の内容を理解し、(2) これに基づいた教材研究を行うための基礎的な知識・技能を身につけることを目指します。また、(3) 教材研究の成果を学習指導要領と関連させて、学習指導案と教材を作成し、(4) 「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業を実施するための基礎力を形成することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解すること
2. 適切な教材研究を行うための基礎的な知識・技能を習得すること
3. 授業を実施するための学習指導案の書き方と教材作成について知識・技能を習得すること
4. 授業実施における知識・技能を習得すること (教室英語・ティーチャーズトークを含む)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
英語科教育に関する知識	テキストや学習指導要領を読んでいる。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解していない。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解している。	英語教育学が扱う内容や、学習指導要領の内容を理解しており、これを他者に説明できる。

教材研究・授業構想力	学習指導要領を把握できておらず、学習指導案や教材が作成できない。	学習指導要領を参考に、目標や評価規準を設定して、学習指導案や教材を作成できる。	学習指導要領を活かして、目標や評価規準を設定するとともに、学習者の興味・関心に留意して学習指導案や教材を作成できる。	学習指導要領を活かして、目標や評価規準を設定するとともに、学習者の興味・関心に留意して、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる学習指導案や教材を作成できる。
授業実践力	学習指導案に基づいて、50分のうち実施部分について授業が通してできない。教える内容に関して大きな問題がある。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、50分のうちの分担部分について授業ができる。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、学習者の反応を見ながら、50分のうちの分担部分について授業ができる。	学習指導案に基づき、自身の発話に留意し、指示・説明・発問・板書、副教材の活用等を通して、学習者の反応を見ながら、50分のうちの分担部分について「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - ・英語科教材研究・教材開発について
 - ・教科書と教材研究
- 第 2 回 小中外国語科連携について
 - ・小学校外国語活動・外国語科から中学校英語科へ
 - ・ティーチャーズ・トークとスモールトーク
- 第 3 回 言語材料としての発音
 - ・発音の教材研究
 - ・教室英語 1
- 第 4 回 言語材料としての語彙
 - ・語彙の教材研究, 辞書検索指導
 - ・教室英語 2
- 第 5 回 言語材料としての文法
 - ・文法の教材研究
 - ・教室英語 3
- 第 6 回 言語材料としての文化

- ・文化の教材研究
 - ・教室英語 4
 - 第 7 回 英語教育とICT教材
 - ・ICT教材研究
 - ・教室英語 5
 - 第 8 回 リスニング・スピーキングの指導
 - ・リスニング諸相と指導の視点
 - ・コミュニケーションにおけるスピーキングの役割
 - ・リスニング・スピーキングの教材研究
 - 第 9 回 リーディング・ライティングの指導
 - ・リーディング・ライティング指導の実際
 - ・リーディング・ライティングの教材研究
 - 第 10 回 4技能統合型指導
 - ・スピーキング(やり取りと発表)・リスニング・リーディング・ライティング
 - ・Review, warm-up, introduction
 - 第 11 回 学習指導案と評価
 - 第 12 回 模擬授業(1): 受講者A群
 - 第 13 回 模擬授業(2): 受講者B群
 - 第 14 回 模擬授業(3): 受講者C群
 - 第 15 回 模擬授業(4): 受講者D群
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 定期試験を実施
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- ・授業実践力養成のため、講義形式の授業に加えて、個別(又はグループ)による模擬授業を実施します。
 - ・毎時のコメントシートに対するフィードバックとして、授業内でこれを共有し、全体での学びとします。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- ・新聞や英語教育雑誌等を通じて、英語教育に関わらず、教育全般に関する動向について、情報を入手するよう心掛けること
 - ・テキストやハンドアウトを参照して学習内容の復習を行うこと
 - ・次時に学習する範囲のテキストを精読して予習しておくこと
 - ・後期末(英語科教育法 I IA修了時点)でTOEIC 600点取得を目指して、英語運用能力向上のための努力をすること
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 60
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 授業内提出物 (20%), 小テスト (20%), 模擬授業 (30%), 定期試験 (30%)
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- 30分以上の遅刻・早退は欠席となります。遅刻・早退3回で欠席1回分とし、欠席が3回になった時点で単位取得を認めません。なお、やむを得ず欠席・遅刻する場合は、担当教員に事前にメール等でお知らせ下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・『新・グローバル時代の英語教育—新学習指導要領に対応した英語科教育法』/

岡 秀夫 編 飯野厚ら 著/成美堂/9784791972180 学内販売予定

・New Horizon English Course 1~3 /笠島準一他/東京書籍/2021/学内販売予定

・『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』/文部科学省(編)/

開隆堂出版/2018/9784304051692/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編』/文部科学省(編)/

開隆堂出版/2019/9784304051784/学内販売予定

・『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』望月昭彦(編著)久保田章ら著/

大修館出版/2018/978-4469246216

・『英語教育用語辞典』白畑知彦ら 著/大修館書店/2019/9784469246285

・『小・中学校で英語を教えるための必携テキスト』中村典生監修/矢野淳/林裕子/鈴木涉/

巽撤著/2019/東京書籍/978-4-487-81248-6

・『日本の英語教育200年』/伊村元道/大修館書店/2003/9784469244861

・『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』/江利川春雄(編著)/大修館/2012/9784469245738

・『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』鈴木涉(編)/大修館/2017/9784469246117

〔参考URL(URL for Reference)〕

・中学校外国語：移行期間における指導資料(小中接続・帯活動) https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1414459.htm

・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公立小学校・中学校における英語教員, 小中外国語教育コーディネーターの経験あり

英語圏文化

EGL3452N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜2限

DP4：思考・解決力

60

集中

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義は、英語圏の中でも特にイギリスに焦点をあて、その文化について複眼的に学ぶことを目的とする。「イギリス」の変化にも着目しながら、文化の理解に欠かせない歴史や宗教、政治に関する知識をも身につけると同時に、特に自分が関心を寄せる文化的事象についてより深く理解し考えることで、多角的な思考力を涵養することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語圏について複眼的な知識を習得する。
2. イギリスの社会と文化を考察することによって、多角的な思考力を涵養する。
3. イギリスの歴史について幅広い知識を習得する。
4. イギリスの社会と文化の仕組みを、様々な視点から理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
	できない	できる	よくできる	非常によくできる
自分を育てる力：予習をして授業に参加し、講義を能動的に聞くことができる。				
知識・理解力：各トピックについて基礎的な知識を持ち、様々な論点を理解できる。				

言語力：：各トピックに関する論考を読むための英語読解能力を持っている。				
思考・解決力：：各トピックに関して想像力をつかって多面的に理解できる。				
共生・協働する力：演習形式の際に意見交換やディスカッションを通じて、各トピックについてのお互いの理解を高めあえる。				
創造・発信力：：各トピックについて自分の言葉で内容や論点を表現できる。				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
シラバスの説明など
- 第 2 回 第1章
イギリスとはなにか
- 第 3 回 第2章
英語と英語圏について
- 第 4 回 第3章
イギリスの地理と自然環境
- 第 5 回 第4章
イギリスの歴史と文学
- 第 6 回 第5章
イギリスの宗教と生活
- 第 7 回 第6章
イギリスの音楽
- 第 8 回 第7章
イギリスの映像文化とメディア
- 第 9 回 第8章
イギリスの美術
- 第 10 回 第9章
イギリスのスポーツ身体文化
- 第 11 回 第10章

- イギリスの教育と社会階層
- 第 12 回 第11章
イギリスの王室と政治
- 第 13 回 第12章
世界の中のイギリス
- 第 14 回 補足
イギリスの外の英語圏
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は基本的には講義形式だが、演習やグループワークの形式をとることもある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回の授業で指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点：30%

期末レポート：70%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イギリス文化入門』/下楠昌哉他/三修社/
2010/978-4384055665/学内販売予定

配布プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英文学の歴史

EGL2200N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 3限

DP2：知識・理解力

60

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語圏の文学の中でもその源流であるイギリス文学を中心に英文学の歴史を紐解く授業である。同時にイギリス史を概観しながら、それぞれの時代を代表する文学者を取り

上げ紹介する。また彼らの具体的作品を読みながらその文学手法や思想に裏付けられた豊かな英語表現を理解する。また、それぞれの作品の背景になっているその時代、国と地域の状況と文化についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. イギリス文学の歴史、代表する作家や作品などを理解することができる。
2. 個々の作家やその作品に触れ、その特徴やテーマを理解することができる。
3. イギリス文学のジャンル、思想について幅広く学ぶことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業が聞けない。	授業の内容を漠然としか把握できない。	授業内容を把握し、まとめることができる。	把握した知識を発展させたり、発表することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
イギリスという国とイギリス文学史について
- 第 2 回 チョーサーの時代
14世紀の叙事詩、『カンタベリ物語』、トマス・マロリーの『アーサー王の死』
- 第 3 回 シェイクスピアの時代
詩の形式のソネット、エドモンド・スペンサー、フィリップ・シドニーの詩、トマス・モアの散文『ユートピア』、ウィリアム・シェイクスピアの劇
- 第 4 回 シェイクスピアの劇
シェイクスピア4大悲劇の一つ『ハムレット』を考え、映画 Hamlet を観る。
- 第 5 回 ミルトンの時代
ジョン・ダン、ロバート・ヘリック、ジョージ・ハーバートの詩、ジョン・ミルトンの詩『失楽園』
- 第 6 回 ドライデンとポウプの時代 (18世紀前半)
コーヒーハウスの出現、古典主義の詩、ジョン・ドライデンとアレグザンダー・ポープの詩、ダニエル・デフォーとジョナサン・スウィフトの小説
- 第 7 回 ジョンソンの時代 (18世紀後半)
サムユエル・ジョンソン、トマス・グレイ、ロバート・バーンズ、ウィリアム・ブレイクの詩、サムユエル・リチャードソン、ヘンリー・フィールディングの小説、サムユエル・ジョンソンの散文『英語辞典』
- 第 8 回 ワーズワースの時代 (19世紀初期)
ロマン派の詩人ワーズワース、ジョージ・ゴードン・バイロン、パーシー・バッシュー・シェリイ、ジョン・キーツ、ウィリアム・ワーズワース、サムユエル・テイラー・コウルリッジの詩、ジェーン・オースティンの小説

- 第 9 回 オースティンの劇を考える
映画『ある晴れた日に』を鑑賞
- 第 10 回 テニソンの時代
テニソンディケンズ、サッカレイ、ルイス・キャロル
- 第 11 回 ハーディの時代
トマス・ハーディの小説、W.B. イエイツの詩、オスカー・ワイルド、バーナード・ショーの劇
- 第 12 回 ジョイスの時代
T.S. エリオット、ウイスタン・ヒュー・アーデンの詩、ジェイムズ・ジョイス、ヴァージニア・ウルフ、ダイヴィッド・ハーバート・ロレンスの小説、サムユエル・ベケットの劇
- 第 13 回 20世紀の文学
- 第 14 回 イギリス文学史
クイズと重要項目総復習
- 第 15 回 全体総復習
テストとまとめ、フィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 文学史について本を読む。2. 作品もしくはその一部を読む。3. 文学映画を観る。
4. 文学作品について話し合う。5. クイズもしくはレポートの作成 6. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回の授業で指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

クラスリスボンズ (20%)、テスト (50%)、小テスト、レポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

作品を体験するには作品そのものを読むこと以外には途はない。しかし、映像化された作品はビデオ情報などを活用して体験可能であり、文学作品が多様な表現形式のための材料として扱われる場合がふえている。この点を念頭におき、オンライン上の情報・データはもとより映像・音楽などのメディアにも注意を怠ってはならない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『はじめて学ぶイギリス文学』/神谷妙子編所/ミネルヴァ書房///

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

English Literature by Jonathan Bate (Oxford University Press, 2010)

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

英文学作品研究

EGL2450N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 2限

DP4: 思考・解決力

90

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本コースでは、19世紀イギリス小説の中から代表的なものをいくつか取り上げ、その一部を英文で精読し、高い英語読解能力とテキスト解析能力を養うことを目標とする。また、優れた先行研究の一部を読むことで、文学作品を論じる方法を学ぶ。さらに、作品や批評についての自分の考えを表現することを通して、作品の読みどころを論じる能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 英文学作品を原文で読むための英語力の向上
- (2) テキスト分析能力の養成
- (3) 文学批評の理解
- (4) 自分の考えの客観的・論理的表現能力の養成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
	できない	できる	よくできる	非常によくできる
自分を育てる力：辞書を丁寧にひきながら予習をして授業に参加し、授業中の訳読や議論に積極的に参加できる				
知識・理解力：作者や作品の背景について基礎的な知識を持ち、作品に関する様々な論点を理解できる。				

言語力：文学作品を原書で読むための英語読解能力を持っている。				
思考・解決力：想像力をつかって作品を理解できる。				
共生・協働する力：意見交換やディスカッションを通じて、作品についてのお互いの理解を高めあえる。				
創造・発信力：作品の主題や読みどころについて自分の言葉で表現できる。				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
授業形態の説明、シラバスの内容の確認、および取り上げる作品とその理由の説明など。
- 第 2 回 「文学作品」の中の「小説」
-イアン・ワット『イギリス小説の勃興』(1957)・橋本宏他訳(1998)の一部を読む。
-解説(講義)を聞く。
-responにリアクションを記入する。
- 第 3 回 Jane Austen, Emma (1816)
-Emmaの一部を精読する。
-Assignment 1をおこなう。
- 第 4 回 小説におけるいくつかの要素について
-デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』(1992)・柴田元幸他訳(1997)の一部を読む。
-解説(講義)を聞く。
-responにリアクションを記入する。
- 第 5 回 Charles Dickens, *Great Expectations* (1860-61)
-*Great Expectations*の一部を精読する。
-Assignment 2をおこなう。
- 第 6 回 作品と作家の伝記的背景について
-エドモンド・ウィルソン「ディケンズー二人のスクルージ」(1940)・佐々木徹訳(2005)の一部を読む。
-解説(講義)を聞く。
-responにリアクションを記入する。

- 第 7 回 Charlotte Bronte, *Jane Eyre* (1847)
- *Jane Eyre*の一部を精読する。
- Assignment 3をおこなう。
- 第 8 回 小説を語り直す
- ジーン・リース『サルガッソーの広い海』(1966)
小沢瑞穂訳(2009)の一部を読む。
- 解説(講義)を聞く。
- responにリアクションを記入する。
- 第 9 回 小説を読み直す
- サンドラ・ギルバート、スーザン・グーバー『屋根裏の狂女』(1979)・山田晴子他訳(1986)の一部
を読む。
- 解説(講義)を聞く。
- responにリアクションを記入する。
- 第 10 回 George Eliot, *Middlemarch* (1870-71)
- *Middlemarch*の一部を精読する。
- Assignment 4をおこなう。
- 第 11 回 小説における「リアリズム」
- 解説(講義)を聞く。
- responにリアクションを記入する。
- 第 12 回 Henry James, *The Portrait of a Lady* (1881) (オンライン)
- *The Portrait of a Lady*の一部を精読する。
- Assignment 5をおこなう。
- 第 13 回 小説における「視点」について
- 解説(講義)を聞く。
- responにリアクションを記入する。
- 第 14 回 作品の主題を探る
- 作品についてのディスカッション
- レポート作成について
- 第 15 回 まとめとレポートの提出
- 授業内容の振り返り
- レポートの提出

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

本コースは、COVID-19の影響などによる社会状況に応じて、対面とオンラインのブレンド型授業となる可能性があります。オンラインはManabaをプラットフォームとして使用します。

<授業方法>

ManabaコースコンテンツにPDFにおいてある配布プリントの指定された箇所を読んでいる(文学作品の一部については精読している)ことを前提に、作品分析を行う。また、作品の背景や先行研究について講義する。

<学習方法>

- (1) ManabaコースコンテンツにPDFにおいてある配布プリントの指定された箇所を事前に読む。(文学作品の一部については精読する。)
- (2) 読んだ作品の内容について、Assignmentをおこない、提出する。

- (3) 講義を視聴し、レスポンスにリアクションを記入する。
(4) 授業で言及のあった作家の作品の中から興味を持った作品を読む。
(5) 最後にレポートを作成する。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

ManabaコースコンテンツにPDFにおいてある配布プリントの指定された箇所を読む。文学作品の一部については精読する。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments 50%

Respon 20%

レポート 30%

Assignmentsへのフィードバックは、内容にコメントをつけて返却することでおこないます。

[留意事項 (Other Information)]

本コースは、COVID-19の影響などによる社会状況に応じて、対面とオンラインのブレンド型授業となる可能性があります。また、授業計画は、受講生の課題への取り組みの進捗などに応じて変更することがあります。

授業形態については初回の授業で説明しますが、学期中に変更になる可能性もあります。変更点は原則として1週間前までにManabaのコースニュースで掲示しますので、毎週必ずManabaをチェックしてください。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

配布資料をPDFの形でManabaのコースコンテンツにおきます。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業中に紹介します。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

英文法 I

EGB1304N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

水曜 3限

DP3 : 言語力

60

田中 美和子

[科目の教育目標 (Course Description)]

課題となる英文法の項目を、言語学および英語学の知見を知って俯瞰する。それらにより、文法を有機的に理解して、作文や読解に生かすことができる。最終的に、英文法を効率的に説明することができるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英文法の理解を深めると同時に、自然な発音、語彙力、表現力など実践的な力も身につけることも意識したい。

1. 文の構造
2. 英語と日本語の違い
3. 発音記号
4. 言語使用場面における表現の適切性

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	英語の基礎的な文法・語法に関する知識がまだ不十分である。	英語の基礎的な文法・語法に関する知識を習得している。	英文法や語法に関する知識を習得し、さらに体系的に理解している。	英文法や語法に関する知識を習得かつ体系的に理解し、それらを応用することができる。
言語力	英語や言語一般に関する基礎的な知識と技術の習得がまだ不十分である。	英語や言語一般に関する基礎的な知識を習得し、発音・語彙・表現において基礎的なレベルを身に付ける。	英語や言語一般に関する知識を習得し、発音・語彙・表現において、実用的なレベルを身に付ける。	英語や言語一般に関する知識を習得し、発音・語彙・表現において、高度なレベルを身に付ける。
創造・発信力	英語や言語一般に関して、全く興味を持ってない。	英語や言語一般に関して興味を持ち、面白いテーマを見つけ、時間をかけて発信することができる。	英語や言語一般に関して常に興味を持ち、面白いテーマを見つけ、情報を集めて発信することができる。	英語や言語一般に関して深い興味を持ち、面白いテーマを見つけ、論理的に分析して発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 文 (Sentence)
 ガイダンス：教科書の使い方と予習の方法、日英語の違いという視点
 テーマ：ことばというもの・主語を探す・文の種類、発音の違い
- 第 2 回 5文型：主語と目的語
 品詞：名詞・代名詞、英語と日本語の違い
 ライティング課題?
- 第 3 回 5文型：補語（主格と目的格）
 品詞：形容詞（名詞を修飾する機能）英語と日本語の違い
 ライティング課題?
- 第 4 回 5文型：目的語
 品詞：名詞、冠詞
 ライティング課題③

- 第 5 回 7文型：場所を表す前置詞句と副詞 (L)
 品詞：前置詞、副詞（動詞を修飾する機能）
 ライティング課題④
- 第 6 回 5文型と7文型：文の要素としての動詞
 品詞：動詞（他動詞と自動詞）、動詞の活用
 ライティング課題⑤
- 第 7 回 5文型と7文型：文の要素としての動詞
 品詞：助動詞（未来、可能性、能力）と仮定法、そして表現を和らげる機能
 ライティング課題⑥
- 第 8 回 5文型と7文型のまとめ
 品詞：接続詞（等位接続詞と従位接続詞）と文の種類、副詞などの接続表現
 ライティング課題⑦
- 第 9 回 品詞：間投詞、8品詞のまとめ
 準動詞（品詞を変える）：to不定詞、分詞、動名詞
 ライティング課題⑧
- 第 10 回 関係代名詞と関係副詞
 関係代名詞と関係副詞
 ライティング課題⑨
- 第 11 回 現在、過去、未来と進行形
 時制：現在、過去、未来、進行形の意味
 ライティング課題⑩
- 第 12 回 現在、過去、未来と完了形
 時制：現在、過去、未来と完了形の意味、時制の一致
- 第 13 回 ショート・レクチャー?
 「3分間で英文法を教えてみよう」レポート作成
- 第 14 回 ショート・レクチャー?
 「3分間で英文法を教えてみよう」プレゼンテーション1回目
- 第 15 回 ショート・レクチャー③
 「3分間で英文法を教えてみよう」プレゼンテーション2回目

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法
 毎回の授業で扱う英文法のテーマを用いて、英語でライティングをする。次の授業では、それを基にスピーチをしてもらう。授業中は、テキストを読み予習してきていることを前提として、歌詞等の翻訳から始める。英語の電子辞書は各自持ってくるように。授業はテキストの内容に沿って進める。最終的に1つの文法項目を選び、ショート・レクチャーをしてもらう。
2. 学習方法
 目標として、教科書となっている『英文法総覧』を各自で読み切る。文法用語を覚えて、文法項目を整理する。そして、普段から、日本語と英語の違いにも興味を持つようにして、語学を研究する態度を身につけ、英文法を単に暗記するものと考えず、その仕組みを学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1.参加者全員が、授業の予習として、事前にテキストを読み、内容をある程度理解してくる。
 - 2.参加者全員が、授業の復習をして、授業内容を思い出し、宿題となるライティングをする。
 - 3.文法用語が出てきたら、その都度覚えていく。わからなければ質問をする。
 - 4.「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から、多くの英文にふれたり、実際に使うことが望ましい。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 1.提出物 (30%)：ライティング課題?～⑩
- 2.授業内発表 (10%)：スピーチ
- 3.ショート・レクチャー (30%)
- 4.授業への参加度 (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『英文法総覧』/安井稔/開拓社/1996/4758903832

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

英和辞書、和英辞書を用意すること。

(おすすめるは、ジーニアス英和・和英辞典です。スマホのアプリもあります。)

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英文法 II

EGB1354N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

水曜3限

DP3：言語力

60

「英文法I」履修者であること

田中 美和子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

課題となる英文法の項目を、言語学および英語学の知見をもって俯瞰する。それらにより、文法を有機的に理解して、作文や読解に生かすことができる。最終的に、英文法を効率的に説明することができるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

英文法の理解を深めると同時に、自然な発音、語彙力、表現力など実践的な力も身につけることも意識したい。

1. 文の構造
2. 英語と日本語の違い

3. 発音記号

4. 言語使用場面における表現の適切性

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	英語の基礎的な文法・語法に関する知識がまだ不十分である。	英語の基礎的な文法・語法に関する知識を習得している。	英文法や語法に関する知識を習得し、さらに体系的に理解している。	英文法や語法に関する知識を習得かつ体系的に理解して、それらを活用することができる。
言語力	英語や言語一般に関する基礎的な知識と技術の習得がまだ不十分である。	英語や言語一般に関する知識を習得し、発音・語彙・表現において、基礎的なレベルを身に付けている。	英語や言語一般に関する知識を習得し、発音・語彙・表現において、実用的なレベルを身に付けている。	英語や言語一般に関する知識を習得し、発音・語彙・表現において、高度なレベルを身に付けている。
創造・発信力	英語や言語一般に関して、全く興味を持ってない。	英語や言語一般に関して興味を持ち、面白いテーマを見つけ、時間をかけて発信することができる。	英語や言語一般に関して常に興味を持ち、面白いテーマを見つけ、情報を集めて発信することができる。	英語や言語一般に関して深い興味を持ち、面白いテーマを見つけ、論理的に分析して発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 「文型」と「品詞」

ガイダンス： 授業の進め方

教科書の使い方と予習の方法

自分なりの英語に対する切り口を

持つ (日英語の違い)

テーマ：5文型と7文型、8品詞、時制と完了形(前期の総まとめ)

第 2 回 受動態

態：受動態と能動態 (教科書 pp.299-316), 日英語の違い

ライティング?

第 3 回 仮定法

仮定法：未来についての仮定と仮定法過去 (教科書 pp.317-325), 日英語の違い

ライティング?

第 4 回 話法

話法：直接話法と間接話法 (教科書 pp.327-340), 日英語の違い

ライティング③

- 第 5 回 比較
比較：形容詞と副詞 (教科書 pp.341-357), 日英語の違い
ライティング④
- 第 6 回 否定
否定：さまざまな否定表現 (教科書 pp.358-370), 日英語の違い
ライティング⑤
- 第 7 回 動詞を中心とする構文
動詞構文 (教科書 pp.371-413), 日英語の違い
ライティング⑥
- 第 8 回 名詞を中心とする構文
名詞構文 (教科書 pp.414-426), 日英語の違い
◎後期レポートライティング：英語あるいは言語一般に関することをテーマに選び、レポート0章「はじめに」を書き始める。
- 第 9 回 形容詞を中心とする構文
形容詞構文 (教科書 pp.427-437), 日英語の違い
レポート1章「先行研究」
- 第 10 回 形式語itとthere
There構文と形式主語 it (文の主題) (教科書 pp.455-468), 日英語の違い
レポート2章「レッスン・プラン」
- 第 11 回 副詞節と副詞句
副詞節と副詞句 (時、条件、譲歩、様態など) (教科書 pp.500-527), 日英語の違い
レポート3章「まとめ」
- 第 12 回 情報構造
情報構造と強調 (教科書 pp.530-559), 日英語の違い
- 第 13 回 ショート・レクチャー?
「3分間で英文法 (言語に関するテーマ) を教えてみよう」 レッスン・プラン作成
- 第 14 回 ショート・レクチャー?
プレゼンテーション1回目
- 第 15 回 ショート・レクチャー③
プレゼンテーション2回目

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 授業方法

前半 (第7回目まで) は、毎回の授業で扱う英文法のテーマでライティングをする。次の授業では、それを基にスピーチをする。授業は、テキストを読み予習していることを前提に、歌詞等の翻訳から始め、テキストの内容に沿って進める。後半 (第8~11回) は、ショート・レクチャーをより良いものにするために、レポートを書いていく。最終的には、書き上がったレポートを基に、英語あるいは言語一般に関することをテーマに、ショート・レクチャーをする。

2. 学習方法

目標として、教科書となっている『英文法総覧』を各自で読み切る。文法用語を覚えて、文法項目を整理して、人に教えられるように理解しておく。普段から、英語や言語一

般に興味を持ち、語学を研究する態度を身につける。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

- 1.参加者全員が、授業の予習として、事前にテキストを読み、内容をある程度理解してくる。
 - 2.参加者全員が、宿題となるライティングをしながら、授業内容を思い出しておく。
 - 3.文法用語が出てきたら、その都度覚えていく。わからなければ質問をする。
 - 4.「文法を学びながら使い、使いながら学ぶ」という観点から、多くの英文にふれたり、実際に使うことが望ましい。
- [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

- 1.課題 (20%) : ライティング?~⑥
- 2.授業中発表 (10%) : スピーチ
- 3.レポート (20%) : 0章~3章
- 4.ショートレクチャー(20%) :
- 5.授業への参加度 (30%) : 出席点と授業態度 (遅刻3回で欠席1回に換算する)

[留意事項 (Other Information)]

教科書は、『英文法 I (前期)』と同じです。持っていない人のみ購入してください。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『英文法総覧』 / 安井稔 / 開拓社 / 1996 / 4758903832

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

英和辞書・和英辞書を用意してください。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

英米文学概論

EGF2200N0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

必修

須川 いずみ

[科目の教育目標 (Course Description)]

本コースでは、英語英文学の学生として知っておくべき文学作品と文学用語を学ぶ。英語圏の小説、劇、詩の具体的作品を読解し英語による表現力の理解を深める。物語の

構造を理解するため、映画を鑑賞したり、原作をじっくり読みこなす。また、作品の背景になっている国や地域の文化についてもしっかり学ぶので、やがて中学や高等学校で外国語科の授業を担当した場合にその知識を生かすことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 英語の読解力をつける。
- 2) 文学作品で使われている様々な英語表現について理解する。
- 3) 英語圏文学の背景である国や地域の文化について理解する。
- 4) 英語で書かれた代表的文学を知る。
- 5) 文学の基礎知識を得る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業をしっかり聞けない。	授業の内容を漠然としか理解できない。	授業を理解し、まとめることができる。	理解した内容を自分で発表することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 文学入門
- 第 3 回 小説の文法と表現
- 第 4 回 映画『Back to the Future』
- 第 5 回 性格描写、伏線、視点とナレーター論
- 第 6 回 ディケンズ、ジョイス、マンスフィールド、カズオ・イシグロ
- 第 7 回 それぞれの小説の時代・国・地域の文化
- 第 8 回 劇の文法と表現
- 第 9 回 映画『Romeo and Juliet』
- 第 10 回 シェイクスピアからオスカー・ワイルド、その時代・国・地域の文化
- 第 11 回 詩の文法と表現
- 第 12 回 シェイクスピア・ソネットからボブ・ディランまで
- 第 13 回 それぞれの時代・国・地域の文化
- 第 14 回 詩の考察・グループ学習
- 第 15 回 まとめとフィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 文学についての本を読む。
- 2) 作品を読む。
- 3) 映画鑑賞をする。
- 4) 作品の構造と表現を理解する。
- 5) 作品の背景になっている国や地域、またその時代について調査し、理解する。
- 6) 作品についてグループで話し合う。
- 7) 意見をまとめてレポート作成をする。
- 8) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小テストのために教科書やプリントの復習が必ず必要である。課題の作品読解とレポート提出も求められるのでそれぞれ準備すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

クラスレスポンス (20%)

テスト (50%)

小テスト、レポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

学生のレベルによってペースや内容を変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『A Guide to Literary Study』/Leon T. Dickinson/Naundo/2007年//学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『English Literature』/Andrew Sanders/Oxford University Press/2004/2004978-0-19-926338-7

『English Literature』/Jonathan Bate/Oxford University Press/2010/978-0-19-956926-7

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

応用言語学

EGR3450N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

上野 舞斗

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

応用言語学は言語学の諸言語教育への応用として成立し、言語学と隣接科学の中間領域に位置付けられています。本科目では、こうした広大な応用言語学の分野のうち、第二言語(外国語)習得理論に焦点を当て、履修者が第二言語(外国語)習得の仕組みについて基本的な内容を理解し、これを英語学習や英語教育に活かせるようになることを教育目標としています。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 第二言語習得理論の基礎を理解すること
2. 第二言語習得理論の知識・理解を基に自身の英語学習法を再考すること
3. 第二言語習得理論の知識・理解を英語教育に活かす方法について考えること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
SLAに関する基礎知識	テキストを全く読んでいない。	SLAに関する基礎知識	SLAに関する基礎知識	SLAに関する基礎知識を理解して

		を理解できていない。	を理解している。	おり、これを他者に説明できる。
SLAの英語学習・教育への応用	テキストを全く読んでおらず、SLAを英語学習・教育に応用するのに必要な知識を持っていない。	SLAに関する基礎知識を部分的に持った上で、抽象的ながらも英語学習・教育への応用方法を考えている。	SLAに関する基礎知識を持ち、これに依拠して、英語学習・教育への具体的な応用方法を考えている。	SLAに関する基礎知識を持ち、これを批判的に考察しながら、英語学習・教育への具体的な応用方法を考えている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：応用言語学とは
 - 第 2 回 第二言語習得 (SLA) 研究とは何か
 - 第 3 回 母語獲得：生得的言語習得と創発的言語習得
 - 第 4 回 母語と第二言語：転移とリテラシー
 - 第 5 回 誤用分析と中間言語
 - 第 6 回 認知的アプローチ (1)：情報処理アプローチ
 - 第 7 回 認知的アプローチ (2)：インプットーインタラクションーアウトプット
 - 第 8 回 社会的アプローチ
 - 第 9 回 SLAと外国語教授法 (1)：外国語教授法の変遷
 - 第 10 回 SLAと外国語教授法 (2)：Task-Based Language Teaching
 - 第 11 回 適性とパーソナリティ
 - 第 12 回 動機付けと学習方略
 - 第 13 回 臨界期仮説と早期英語教育
 - 第 14 回 複雑系理論のアプローチ
 - 第 15 回 コースのまとめ：言語学習に関する通説の検討
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 定期試験を実施
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- ・講義形式の授業に加えて、協同学習を中心とした問題演習を実施します
 - ・毎時のコメントシートに対するフィードバックとして、授業内でこれを共有し、全体での学びとします
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- <復習> 前時の授業内容をテキストおよび配布プリントを基に学習内容を復習してください。毎回授業開始時には、前時学習内容についての確認テストもあります。
- <予習> 次時で扱われるテキストの指定ページを必ず熟読し、自分なりの問題意識や疑問点を持った上で授業に出席してください。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 60
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 授業内提出物 (30%)、確認テスト (30%)、定期試験 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。
遅刻3回で欠席1回分とし、欠席が3回になった時点で単位取得を認めません。
なお、やむを得ず欠席・遅刻する場合は、必ず担当教員に事前にメール等で知らせてください。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『はじめての第二言語習得論講義』/馬場今日子・新多了/大修館書店/2016/9784469246087/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『英語教師のための第二言語習得論入門』/白井恭弘/大修館書店/2012/9784469245707
『タスク・ベースの英語指導—TBLTの理解と実践』/松村昌紀(編)/大修館書店/2017/9784469246094
Second Language Acquisition / Rod Ellis / Oxford University Press / 1997 / 9780194372121
How Languages Are Learned (4th edition) / Patsy M. Lightbown & Nina Spada / Oxford University Press / 2013 / 9780194541268
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学 I a

EGB2360N1E
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
2年次
1単位 後期集中
その他
DP3：言語力
15
集中
 グローバル英語コース必修
Steven Herder York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The university's regular study abroad system (Semester-accredited study abroad, studying abroad at a sister university in the United States, studying abroad in a global English course) aims to have students live and study in an English-speaking country for six months or one year, in order to develop themselves linguistically, emotionally, and intellectually.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Objectives in studying abroad include: 1) Develop real skills using English as a communication tool, 2) Gain intercultural experience with people from many countries, and 3) Develop a more global mindset and international perspective. These objectives will be enhanced by learning to observe and interact in an English-speaking country, then reflect and write in English to express lessons learned while abroad.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力: Build a study system; Be on time; Do assignments; Make enough efforts to succeed	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to think outside the box	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

1. Academic Reports are based on the Cultural Iceberg Theory that we studied in class. Like an iceberg, some cultural differences are very easy to see (about 1%), while many other differences are rather difficult to see (about 9%). Choose from the topics below and address a maximum of two topics for each essay.

Report 1 - Food, Language, Holidays, Festivals, Clothing, TV, Music

Report 2 - Family roles, Manners, Self-concept, Religious beliefs, Gender roles

Report 3 - Body language, Values, Beliefs & Assumptions, Concept of cleanliness, Rules

Report 4 - Friendships, Attitudes toward age, Learning styles, Beauty ideals, Leadership styles

Report 5 - Importance of time, Competitiveness, Health & medicine, Gestures, Individuality

Report 6 - Views on raising children, Women's power, Space & Distance, Social status

2. Personal Reports provide an opportunity to keep in touch with us here on Kyoto Notre Dame Campus. Simply answer these two questions, with as many details and examples as necessary:

a) What is going well in your study abroad experience?

b) What is not going well yet?

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

Each monthly report will be worth 16 points maximum. Completing all six reports results in a 4 point bonus, leading to 100 points in total.

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

Students are required to submit 6 monthly reports, consisting of two parts: 1) Academic report, and 2) Personal report. Reports are due by midnight on the final Sunday of each month. Write your report in your Google Drive document.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

In addition to the preparation you will receive in the 海外留学事前指導 course, make an effort to study at the i-Space, get accustomed to classes conducted in English only, and actively speak in class in order to get used to life completely in English. [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Each monthly report will be worth 16 points maximum. Submission of reports will be done in Google Drive, with an expectation of at least 500 words per report. We will evaluate your essay in terms of the contents (what you write) and delivery (how well you express it). Completing all six reports will result in a 4 point bonus, leading to 100 points in total.

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

海外留学 I b

EGB2310N1E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次 3年次
 1単位 前期集中
 その他
 DP3 : 言語力
 15
 集中
 小山 哲春

[科目の教育目標 (Course Description)]

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

海外留学 II a

EGB2361N1E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 2単位 後期集中
 その他
 DP3 : 言語力
 30
 集中
 小山 哲春

[科目の教育目標 (Course Description)]

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学 II b

EGB2311N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

2単位 前期集中

その他

DP3: 言語力

30

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、

対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学Ⅲ a

EGB2362N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

4単位 後期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に

培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学Ⅲ b

EGB2312N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

4単位 前期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイマージョンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学III c

EGB2363N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

4単位 後期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体

的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイマージョンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学III d

EGB2313N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

4単位 前期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイメージンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に

培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学III e

EGB2364N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

4単位 後期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイマージョンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学III f

EGB2314N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次

4単位 前期集中

その他

DP3 : 言語力

60

集中

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に本学の正規留学制度 (セメスター認定留学制度、米国姉妹大学留学制度、グローバル英語コース海外留学制度、交換留学制度、等) を利用して留学先受入機関にて学修し、対象言語運用能力を高めると同時に、対象言語を媒体として様々な活動を行うための素地を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の環境では達成することの難しい語学運用能力向上を目標とする。また、対象言語を用いて大学レベルでの学習、対人交流、社会での活躍ができるための素地を養う。具体

的には留学先の専門機関で参加する科目に合わせて別途、個別の課題を設定する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学と協定している留学先で参加する科目における教育・学習方法によるほか、個別課題に基づく達成度を自己評価し、確認しながら学習を進める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

留学先で受講する科目において指示される準備学習方法によるほか、渡航前より、本学のイマージョンスペース等を積極的に利用し、対象言語のみで行われる授業への慣れ、多文化環境において積極的に発言できる能力などを事前に培うことが必要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

留学先から報告される学習状況、成績等を基に個別課題の達成度を総合的に評価して単位を与える。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

海外留学事前指導

EGE2500N0E
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 1単位 前期
 月曜 5限
 DP5 : 共生・協働する力
 30
 集中 全7.5コマ
 Steven Herder

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course prepares students to get the most out of their study abroad (SA) experience by understanding study abroad as a process: Before (BSA), During (DSA), and After (ASA). With enough preparation and clear goals, students can adapt to their new environment better prepared to encounter a great change in their lives.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. Students will understand study abroad as a process: BSA, DSA, and ASA
2. Students will identify clear goals and an overall purpose of their SA
3. Students will learn meaningful lessons from roleplays, feedback, and group discussions

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

共生・協働する力: Ability to work together; Give opinions; Able to help others; Able to ask for help; Ability to find your role in a group; Ability to take action	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
--	---------------------------------------	--------------------------------	--	----------------------------------

[授業計画]

- 第 1 回 Maximizing your Study Abroad Experience
Before SA, During SA, and After SA
Research Opportunities Abroad 1: Semi-structured Interviews
 - 第 2 回 Textual Analysis
Research Opportunities Abroad 2:
 - 第 3 回 Surveys & Questionnaires
Research Opportunities Abroad 3:
 - 第 4 回 Coding & Frameworks
Research Opportunities Abroad 4:
 - 第 5 回 Inner Circle
Roleplay Lessons: (Roommates, Host Family, Dorm Residents, Classmates, and Friends)
 - 第 6 回 Outer Circle
Roleplay Lessons: (Professors, Campus Staff, Business People, and Strangers)
 - 第 7 回 渡航前事前準備
 - 第 8 回 渡航前オリエンテーションの補足説明
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

There will be short introductions of basic qualitative and quantitative primary research methods. Students will brainstorm and workshop ideas, then practice these methods between classes. Furthermore, role plays and small group discussions will be used to reflect on life abroad. Students will complete two oral research method reports.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students will need to prepare for classes by reading and brainstorming ideas. Students are expected to be very active in class, interacting with classmates and asking questions actively.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Research Method Projects 40%

Class participation 30%

Roleplay simulations 30%

〔留意事項 (Other Information)〕

第7回と8回の授業については、合わせて第7回に1.5コマ分の授業時間を確保する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Google Search Research Method Titles, "Making Online Surveys"

For example,

<https://www.google.com/forms/about/>

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

外国語としての日本語

EGR3202N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜4限

DP2: 知識・理解力

60

定員30人

三原 健一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語母語話者は、日本語を話し・聞き・理解することはできますが、日本語がどのような「仕組み」になっているかは案外知らないものです。本授業を受けることで、日本語を客観的に見る能力や、自分の頭で日本語を考える能力が身に付きます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 日本語を客観的に見る方法を学びます。(2) 意味や構造を中心に考えますが、音声、方言、言語生活などの話題も随時取り上げます。(3) みなさんが持っている(であろう)「文法」のイメージを180度転換し、文法のことを自分の頭で考えるのは「楽しい!」と思えるようになる話をします。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業を基盤として自分を育てる意欲に欠ける。	授業を基盤として今の自分より高い場所を目指す。	今より遥かから自分を客観的に観察できる。	自分のみならず他の人も育てようとすることができる。

知識・理解力	最も基本的な知識・理解力に欠ける。	少なくとも受動的な知識については活用できる。	身に付けた知識を日常生活の中で活用できる。	身に付けた知識を基にして応用することができる。
言語力	言葉についての最も基本的な認識が欠けている。	言葉が体系から成り立っていることが理解できる。	構造の観点から言葉を再構成することができる。	言葉に関する知識を日常生活の中での予測力に応用できる。
思考・解決力	自分の頭で考えようとする力に欠ける。	授業から論理力を学ぼうとする意欲がある。	授業で身に付けた論理力を日常生活の中で活用できる。	身に付けた論理力を縦横無尽に応用できる。
共生・協働する力	先行研究や他人の見解から学ぼうとしない。	他人の言葉に虚心坦懐に耳を傾けようとする。	言葉の背後にある意味合いを理解できる。	言葉のみならずその背後にあるものを見通せる。
創造・発信力	自ら発信しようとする意欲に欠ける。	自分の言葉に欠けていたものを認識できるようになる。	より効果的に言葉を他人に対して発信できる。	言葉の持つ無限の力を世界に向かって発信できる。

〔授業計画〕

第1回 Introduction

世界の中の日本語

第2回 社会言語学(1)

ことばと社会

第3回 社会言語学(2)

ものの言い方西東

第4回 社会言語学(3)

人を指すことば

第5回 音韻論(1)

日本語の音声

第6回 音韻論(2)

音の作り方

第7回 音韻論(3)

アクセント

第8回 形態論(1)

語形成

第9回 形態論(2)

活用形と「ら」抜きことば

第10回 形態論(3)

語の中心部分

第11回 意味論(1)

意味の世界

第12回 意味論(2)

日常生活の中の比喩

第13回 意味論(3)

心を表すことば

第 14 回 統語論

文の基本構造

第 15 回 総括

アスペクトの日英比較

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

プリントを配布し、講義形式を中心として授業を進めますが、授業中の質問やディスカッションを歓迎します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回の授業後に指示した内容について、次の授業までに考えてきて下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加・平常点 (20%) 及び、3～4 回行う小テスト (80%) を総合して評価します。学期末のテストは行いませんので、小テストを必ず受けて下さい。なお、小テストは次の週に返却し、テストの内容について解説します。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容が積み重ね式なので、毎回の授業後、必ず「復習」をして下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎回プリントを配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

研究方法論 (コミュニケーション学)

EGF2254NOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、コミュニケーション学領域における「英語英文学演習I/II (ゼミ)」および「卒業研究」での演習・研究で必要となる研究方法論を習得することを目標とする。

上記の目標を達成するため、「コミュニケーション」を科学的、人類学的、あるいは哲学的に分析する様々な方法論の基盤を学び、自身に関心を持つコミュニケーション現象を実際に観察、分析する初歩的な技術を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

[1] 社会科学の理解

[2] 具体的研究方法論習得 :

(a) 構成概念の観測方法と質問紙調査法の習得

(b) 実験法の習得

(c) フィールドワーク (参与者観察) 法の習得

(d) 言語理論による言語コミュニケーション分析法の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 コミュニケーション学およびコミュニケーション研究方法論概説

第 2 回 方法論 1 : 社会科学としてのコミュニケーション研究概説

第 3 回 方法論 2 : 人文学としてのコミュニケーション研究概説

第 4 回 方法論 3 : 構成概念の理解・構成概念計測法

第 5 回 方法論 4 : 質問紙調査法 (On-line Surveyを含む)

第 6 回 方法論 5 : 実験法

第 7 回 方法論 6 : フィールドワーク (参与観察) 法

第 8 回 Review & Midterm Exam

第 9 回 方法論 7 : 言語理論による言語コミュニケーション分析法 (言語哲学)

第 10 回 方法論 8 : 言語理論による言語コミュニケーション分析法 (語用論)

第 11 回 方法論 9 : 言語理論による言語コミュニケーション分析法 (会話分析)

第 12 回 論文講読演習 1 (質問紙調査研究 / 実験研究)

第 13 回 論文講読演習 1 (語用論研究 / 会話分析研究)

第 14 回 グループ研究プロジェクト発表 Day1 (学籍番号 前半)

第 15 回 グループ研究プロジェクト発表 Day2 (学籍番号 前半)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業 : 本科目は、前半は主に教員による講義と演習によって構成され、後半 (4 週間) は学生の発表およびディス

カッションを中心とする演習形式で構成される。適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表：(1) 指定されたコミュニケーションに関する学術論文についての発表、および、(2) グループで選んだトピック(コミュニケーション現象)を実際に分析した結果を口頭発表する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む
 (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Midterm Exam 25%

発表1 (学術論文の分析) 25%

発表2 (実践演習：グループ研究発表) 20%

Final Paper (発表2の内容を論文化したもの) 20%

ディスカッションへの貢献度 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版./2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『コミュニケーション学：その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/2011/

『コミュニケーションスタディーズ入門』/鈴木謙他/大修館書店/2011/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

研究方法論 (英語教育学) B

EGF2255B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2：知識・理解力

60

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生涯学習社会を見据え、教育に関する研究を進めていく上で、必要な基礎となる考え方及びその研究方法論の基礎の習得を目指します。この領域において用いられる代表的な研究手法について、講義、演習、ディスカッションを通して、主体的・協同的に学ぶ機会を提供します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・21世紀型英語教育について基礎的な知識を得る
- ・英語教育分野における研究方法について基本的な知識を得る
- ・卒業研究に向けて、英語教育分野における学習者自身の関心を高める
- ・英語教育分野に関する内容を、主体的・協同的に議論できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示がなければ、課題を進めることができない。または、課題を期日に提出できない	詳細に指示されれば、課題を期日に提出することができる	おおまかな指示でも、自分で予測・計画を立てて、課題を期日までに完成することができる	指示がなくとも、自分で予測・計画を立て、課題を期日までに完成することができるうえ、他にも助言できる
知識理解	第二言語習得理論や英語教育に関する知識がほとんどない	第二言語習得理論や英語教育に関する用語が少しわかる	第二言語習得理論や英語教育に関してだいたい理解している	第二言語習得理論や英語教育に関する知識について理解したうえで、資料を用いて説明できる
創造・発信力	得た知識をもとにしても、関連テーマについてまとめることができない	ガイドがあれば、得た知識をもとに、関連テーマについて、資料をもとにまとめることができる	得た知識をもとに、関連テーマについて、問いを立て、資料を集めたうえで考察することができる	得た知識をもとに、関連テーマについて、独自の問いを立て、資料を集めたうえで批判的に考察することができる
共生・協働する力	人と協力できない	指示されたことに限り、最低限の協力をしながら、課題や授業を進めることができる	指示されたことを中心に、それ以外のことも含めて、課題や授業が協力的に進められるように努めることができる	指示されなくとも、クラスメイトと協力しながら、課題や授業が協力的に進められるように努めることができる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

- 第 2 回 第1章 言語習得と環境 ①
 - 1. 言語習得に関する3つの観点
- 第 3 回 第1章 言語習得と環境 ②
 - 2. 心理言語学的観点
- 第 4 回 第1章 言語習得と環境 ③
 - 3. 社会言語学的観点
- 第 5 回 第1章 言語習得と環境 ④
 - 4. 1. 世界諸英語
 - 4. 2. 国際語としての英語
- 第 6 回 第1章 言語習得と環境 ⑤
 - 4. 4. 早期英語教育
- 第 7 回 第2章 学習のメカニズム ①
 - 1. 言語能力と言語運用
 - 2. バイリンガリズム
- 第 8 回 第2章 学習のメカニズム ②
 - 3. L2能力の発達
- 第 9 回 第3章 学習者の特性 ①
 - 1. 言語適性
- 第 10 回 第3章 学習者の特性 ②
 - 2. 動機づけ
- 第 11 回 第3章 学習者の特性 ③
 - 3. 言語学習方略
- 第 12 回 第3章 学習者の特性 ④
 - 4. 外国語不安
- 第 13 回 第4章 外国語教授法の変遷
- 第 14 回 英語教育に関する研究論文
- 第 15 回 実践のまとめとディスカッション

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

主体的・協同的な授業形態を採用するため、演習を中心として授業を展開します。演習中はクラス全体が「学習する組織」として機能するよう活発な意見交換が求められます。

課題・レポートに関するフィードバックは、必要に応じて、授業内またはweb上で、個人または全体に対して行います。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

授業は反転授業形式で進めます。したがって、毎回該当する章や参考文献を読んで、お互いに議論や質問できる状態になっていること。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業中の参加度 30%

発表とそれに関するレポート 30%

まとめのレポート 40%

[留意事項 (Other Information)]

●この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れます。

●上述に関連し、状況に応じて、事前連絡のうえ、授業予定を変更する場合があります。

●遅刻は授業の進行の妨げとなるため、10分以上の遅刻は

欠席とします。

●授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、必ず指定された予習や課題を行って授業に臨んでください。明らかに予習不足で議論に参加できない場合、出席しているとみなしません。

●やむを得ない場合を除き、担当箇所の発表を行わなかった場合は、単位が認められません。

●実習等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストを読んで、レポートにまとめて提出してください。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『英語指導法 理論と実践 21世紀型英語教育の探求』/赤松信彦編著/英報堂/2018/978-4269640283/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

適宜、授業中に指示します。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

研究方法論 (言語学)

EGF2256N0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

月曜3限

DP2: 知識・理解力

60

田口 茂樹

[科目の教育目標 (Course Description)]

この授業では、「英語英文学演習」への準備として、生成文法の基礎を学びながら、研究の方法や研究成果を分かりやすく伝える方法を身に付けます。まずは「ことば」とは何か?という素朴な疑問から始まり、ことばの研究ですべきこと、してはいけないことなどを理解します。そして、データの集め方や、それがどのように興味深いかを、自分の言葉で説明できるようにするのが目標です。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. ことばのどのようなところが、そしてなぜ興味深いのか、をデータを集めながら考えていく。
2. 集めたデータをもとに、いろいろな言語に共通するところと異なっているところを考える。
3. 集めたデータから、言語全体、または異なった言語での特徴を予想する。
4. 立てた予想が正しいかどうかを考え、それがどのように重要なのかを分かりやすく説明する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教材を通して積極的に内容を理解	教材を通して積極的に内容を理解	教材を通してある程度	教材の内容をほぼ理解できる

	しようとし ない	しようとし る	内容が理解 できる	
言語力	データを正しく理解することができない	データを正しく理解することができる	データを的確に分析できる	データを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	テーマについて考えようとししない	テーマについて考えようとする	興味深いテーマを考えられる	興味深いテーマを考え、それを分析できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 「ことば」を科学的に考える
 ・生成文法が、「ことば」を科学的に考える理由や歴史を紹介します。
 ・科学的な学問では、文章をどのように始めるとよいのかを考えます。
 ・テキストの第1章を読んでおきましょう。
- 第 2 回 「ことば」の身につけ方
 ・人間がどのように「ことば」を身につけていくかを考えます。
 ・「ことば」を身につけるにあたって、どのような興味深い点があるのか考えます。
 ・異なった考えがあるときに、それらをどのように比べるとよいのか、を話し合います。
 ・テキストの第2章を読んでおきましょう。
- 第 3 回 人間がもつ、「ことば」の共通点
 ・人間が生まれつきもっている、「ことば」に共通した性質を考えます。
 ・世界の「ことば」が異なっている理由について話し合います。
 ・さまざまな説がある中から自分が選んだ立場について、説得力のある書き方を学びます。
 ・テキストの第3章を読んでおきましょう。
- 第 4 回 「ことば」の部品
 ・「ことば」をつくっている部品を紹介していきます。
 ・意味の解釈をもとに、二つの部品に分けて紹介します。
 ・異なるタイプのものを分かりやすく比較する方法を学びます。
 ・テキストの第4章を読んでおきましょう。
- 第 5 回 「ことば」の中心：文法構造
 ・生成文法のなかで「文法」とされる考え方を学びます。
 ・「構成素」という考え方を学びます。
 ・筆者がいちばん導入したい分野を、どのように紹介していくか考えます。
 ・テキストの第5章を読んでおきましょう。
- 第 6 回 句の成り立ち
 ・「句」の成り立ちを導入します。
 ・句の構造を図で表す練習をします。

- ・句の構造を、ひとつの図にまとめます。
 ・理論がどのように発展していったかを、上手に説明する方法を学びます。
 ・テキストの第6章を読んでおきましょう。
- 第 7 回 文の組み立て
 ・一つの図にまとめた文の構造について、より深く掘り下げます。
 ・文法的に「見える」と「見えない」ものについて学びます。
 ・賛成されにくい考え方を、うまく説得する方法を学びます。
 ・テキストの第7章を読んでおきましょう。
- 第 8 回 意味とは何か？
 ・生成文法の中で、「意味」はどのようにとらえられているかを説明します。
 ・「名詞」が文の中でもつ役割について考えます。
 ・数多くあるものの特徴を、手短かにまとめて説明する方法を学びます。
 ・テキストの第8章を読んでおきましょう。
- 第 9 回 能動態と受動態
 ・「能動態」から「受動態」を生み出す操作について学びます。
 ・「格」とは何かを説明します。
 ・二つのものについて、関係を分かりやすく説明していく方法を身につけます。
 ・テキストの第9章を読んでおきましょう。
- 第 10 回 いろいろな名詞
 ・数や量を表す名詞のもつ特徴を説明します。
 ・代名詞が指し示すものを、公式の形でまとめます。
 ・理論の中心となる部分を、分かりやすく導入する方法を学びます。
 ・テキストの第10章を読んでおきましょう。
- 第 11 回 目に見えない主語？
 ・目に見える主語と見えない主語があることを説明します。
 ・「コントロール」という考え方を導入します。
 ・賛成されにくい考え方を、説得力のある書き方で説明する方法を学びます。
 ・テキストの第11章を読んでおきましょう。
- 第 12 回 主語？それとも目的語？
 ・「主語」と「目的語」という分け方が、かならずしも正しいとは限らないことを説明します。
 ・今までの考えとは異なる考えを、読み手に説得する書き方を学びます。
 ・テキストの第12章を読んでおきましょう。
- 第 13 回 主語はどこからくるの？
 ・主語は動詞の中からやってくることを説明します。
 ・今では当たり前になっている考え方を、効果的に導入する方法を学びます。
 ・テキストの第13章を読んでおきましょう。
- 第 14 回 移動するのは句だけではない

・句の中心となる「主要部」が移動することを説明します。

- ・複数の言語を比較する方法を学びます。
- ・テキストの第14章を読んでおきましょう。

第 15 回 疑問詞を使った疑問文の作り方、まとめ

- ・疑問詞が移動することによって、どのように疑問文が作られるかを考えます。
- ・とくに違いがわかりやすい例を使って、読み手をどのように説得するか、を学びます。
- ・授業のまとめをします。
- ・テキストの第15章を読んでおきましょう。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを提出してもらいます。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業はディスカッションを中心とした演習の形で行います。「なぜ?」と思うようなデータに、日頃から気を配っておきましょう。レポートの回数は未定ですが、文書あるいは口頭でフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「言語学概論」と「ことばのしくみ」の復習をしておきましょう。テキストはちゃんと読み、分からないところメモして質問して下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・授業参加：20%
- ・課題：30%
- ・レポート：50%

〔留意事項 (Other Information)〕

テキストはとても分かりやすいです。英語英文学演習の基礎となるので、毎回の授業できちんと学習内容を身につけていって下さい。ただし、理解度・進度によって授業の編成に変更がある場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ベーシック生成文法』岸本秀樹 (著) / ひつじ書房 / 978-4-89476-426-2/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語学概論

EGF2201A0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜 3限

DP2：知識・理解力

60

必修

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人文科学の分野では比較的マイナーな言語学ですが、楽しみながら学び、興味を持ってもらうのが目標です。さまざまな分野の言語学を紹介するので、その中から自分が特に気に入ったトピックについて理解を深めていってもらうことを到達目標とします。「一般言語学」と呼ばれる、一つの理論にし縛られない方法を用いて、音、語、文の仕組みや、それが意味とどのように関わっていくかなどを分析していきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・言語学とは？
- ・音
- ・音と意味
- ・語の成り立ち
- ・文法
- ・意味
- ・言語のバリエーション

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教材を通して積極的に内容を理解しようとしていない	教材を通して積極的に内容を理解しようとする	教材を通してある程度内容が理解できる	教材の内容をほぼ理解できる
言語力	データを正しく理解することができない	データを正しく理解することができる	データを的確に分析できる	データを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	テーマについて考えようとしない	テーマについて考えようと努める	興味深いテーマを考えられる	興味深いテーマを考え、それを分析できる

〔授業計画〕

第 1 回 言語学とは？

- ・言語学とはどのような学問で、どのように発展してきたかを説明します。
- ・テキストの第1講から第4講を読んでおきましょう。

- 第 2 回 音声学1
・口のしくみと音の出し方を理解します。
・テキストの第5講を読んでおきましょう。
- 第 3 回 音声学2
・母音と子音について学びます。
・テキストの第6講を読んでおきましょう。
- 第 4 回 音韻論1
・音と意味について学びます。
・テキストの第7講から第9講を読んでおきましょう。
- 第 5 回 音韻論2
・音と意味について理解を深めます。
・テキストの第7講から第9講を読んでおきましょう。
- 第 6 回 形態論1
・「語」の種類と組み立てについて学習します。
・テキストの第10講と第11講を読んでおきましょう。
- 第 7 回 形態論2
・語の「派生」について学習します。
・テキストの第12講と第13講を読んでおきましょう。
- 第 8 回 統語論1
・「句」と「文」の組み立てについて学習します。
・テキストの第14講と第15講を読んでおきましょう。
- 第 9 回 統語論2
・文の派生について学びます。
・「生成文法」という理論を紹介します。
・テキストの第15講から第17講を読んでおきましょう。
- 第 10 回 統語論2
・興味深い文法現象と、その分析を紹介します。
・テキストの第15講から第17講を読んでおきましょう。
- 第 11 回 意味論1
・意味とは何かを考えます。
・テキストの第18講と第19講を読んでおきましょう。
- 第 12 回 意味論2
・意味の分析にはさまざまな方法があることを説明します。
・テキストの第20講と第21講を読んでおきましょう。
- 第 13 回 語用論
・意味がどのような伝わり方をするか話し合います。
・テキストの第22講と第23講を読んでおきましょう。
- 第 14 回 言語の変化
・言語がどのように変化するかを歴史的に考えます。
・言語のバリエーションについて説明します。

- ・テキストの第24講と第25講を読んでおきましょう。
- 第 15 回 まとめ
・今までのまとめと、期末試験で特に理解しておいてほしいところを伝えます。
・期末試験に関する質問に答えます。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

・期末試験のみ実施します。オンラインで行いますので、フィードバックは自動的に表示されます。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義形式で行うので、テキストの復習をしっかりとしましょう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・授業で概略と用語説明を行います。テキストの復習を中心に受講してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・授業参加：20%

・小テスト：30%

・期末試験：50%

〔留意事項 (Other Information)〕

感染症防止のため、オンラインで授業を行うこともあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『言語学入門』 / 佐久間淳一 (他) / 研究社 / 2004/9.784327401382E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門講読 (英文学) A

EGF2250A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

まず表面の英語を正しく読めるように色々な英文でトレーニングする。その読解力の基本の単語や文法力をつけられるよう演習を入れる。その上で、文学の短編を英語読解するだけでなく、テキストに折り込まれた何層もの意味を分析する能力を培う。また、作家・作品の背景となる文化、

歴史、思想を学び、より深く個別作品を理解できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文学は高度な英語なので、その英語が読めるように英語読解能力を培う。
2. 文法の総復習をして読解力をつける。
3. 単語量を増やす。
4. テキスト分析法を学ぶ。
5. 文学研究に興味を持てるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業がしっかり聞けない。	漠然としか授業の内容を理解していない。	授業の内容を把握できてまとめることができる。	理解したことを自ら発表することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
20世紀初頭のアイルランドとアイルランド文学の解説
- 第 2 回 読解演習 1
”The Clever Whitewasher”リーディング演習
James Joyce’s *Dubliners* ”Araby” 精読
- 第 3 回 読解演習 2
”Captured”のリーディング演習
”Araby” 精読
- 第 4 回 読解演習 3
”Nothing Happened”のリーディング演習
”Araby” 精読
- 第 5 回 読解演習 4
”Dead as a Dodo”のリーディング演習
”Araby” 精読
- 第 6 回 読解演習 5
”Rex:A True Tale”のリーディング演習
”Araby” 精読
- 第 7 回 映像との比較研究 1
”Dr.Jekyll’s Other Self”のリーディング演習
映画”Araby” 鑑賞とディスカッション
- 第 8 回 読解演習 6
”Mr. Kling’s Secret”のリーディング演習
James Joyce’s ”A Painful Case”精読
- 第 9 回 読解演習 7
My Mother’s Wax Friends”のリーディング演習
James Joyce’s ”A Painful Case” 精読
- 第 10 回 読解演習 8
James Joyce’s ”A Painful Case” の精読
- 第 11 回 読解演習 9
James Joyce’s ”A Painful Case” の精読
- 第 12 回 映像との比較研究 2
フィルム”A Painful Case”の鑑賞とディスカッション
- 第 13 回 研究発表 1

Dublinersにおける担当作品の発表

第 14 回 研究発表 2

Dublinersにおける担当作品の発表

第 15 回 研究発表 3

発表の総括とジョイス研究の方法論とディスカッション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 予習
2. 文法復習
3. 部分的に精読
4. ノート提出
5. 確認
6. 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時に詳細に指示する。英文をしっかり読めるようにするために文法と単語の復習を宿題としてやってきてもらい、クラスで確認する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度40%、課題30%、テスト30%で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

英語単語・読解等のトレーニングも毎回入れる。学生のレベルによって内容を変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に個別に指示する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門講読 (英文学) B

EGF2250B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2 : 知識・理解力

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、英語で書かれた短編小説を、辞書を丁寧にひきながら読み、文学を読むための英語読解能力を習得することと、それぞれの作品を多角的な視点で解釈することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文学作品を原書で読むための英語読解能力を培う。
2. 作品の背景を学ぶ。
3. 想像力をつかって作品を多角的に理解することができる。
4. 作品の主題や読みどころについて自分の言葉で表現できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
	できない	できる	よくできる	非常によくできる
自分を育てる力：辞書を丁寧にひきながら予習をして授業に参加し、授業中の訳読や議論に積極的に参加できる				
知識・理解力：作者や作品の背景について基礎的な知識を持ち、作品に関する様々な論点を理解できる。				
言語力：文学作品を原書で読むための英語読解能力を持っている。				
思考・解決力：想像力をつかって作品を理解できる。				
共生・協働する力：意見交換やディスカッションを通じて、作品についてのお互いの理解を高めあえる。				

創造・発信力：作品の主題や読みどころについて自分の言葉で表現できる。				
------------------------------------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
授業形態の説明、シラバスの内容の確認
- 第 2 回 Virginia Woolf, "Kew Gardens" 精読(1)
pp.46
discussion
- 第 3 回 Virginia Woolf, "Kew Gardens" 精読(2)
pp.47-48
reaction and analysis
- 第 4 回 Virginia Woolf, "Kew Gardens" 精読(3)
pp.49-50
discussion
- 第 5 回 Virginia Woolf, "Kew Gardens" 精読(4)
pp.51-52
reaction and analysis
- 第 6 回 Virginia Woolf, "Kew Gardens" Review
group discussion
- 第 7 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(1)
pp.134-137
reaction and analysis
- 第 8 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(2)
pp.138-142
discussion
- 第 9 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(3)
pp.143-147
reaction and analysis
- 第 10 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(4)
pp.148-152
discussion
- 第 11 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(5)
pp.153-157
reaction and analysis
- 第 12 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(6)
pp.158-162
discussion
- 第 13 回 Thomas Hardy, "The Withered Arm" 精読(7)
pp.163-164
reaction and analysis
- 第 14 回 "The Withered Arm" Review
discussion
Final Paper についての説明
- 第 15 回 まとめと Final Paper 提出
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

＜授業方法＞

対面授業では、授業計画に沿ってテキストを精読し、内容に関するディスカッションを行います。

＜学習方法＞

1. 予習
2. 文法復習
3. 精読と訳文作成
4. ディスカッションへの参加
5. Final Paper作成

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加40%、課題40%、レポート20%で総合的に評価する。課題へのフィードバックは、個別に内容を添削し、コメントをつけて返却することでおこないます。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Selected Short Stories / Virginia Woolf / Penguin / 2019

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に個別に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評

2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理

3. 具体的な分析方法論の習得と実践

4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義/創造性/新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする (2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習／研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段

階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II(3年次ゼミ)で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文(卒業論文)を執筆することである。

卒業研究は大学における学習／研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論

理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする (2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600D0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義/創造性/新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする (2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理

3. 具体的な分析方法論の習得と実践

4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

対人コミュニケーション

EGL3403N1E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

守崎 誠一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コミュニケーション学の視点から、コミュニケーション全般について理解を深める。それにより、コミュニケーションが社会においてどのような役割を果たしており、よりよくコミュニケーションするために何が必要であるのかについて学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

他者との相互作用の中でどのように私たちは自分のことを他者に伝えるのか。どのようにすれば他者の持つ自己の印象を操作することができるのか。他者の意見や行動を効果的に変えるにはどうすればいいのか。マスメディアや広告はどのように人々の態度や考え方に影響を与えるのか。インターネットをはじめとする新たなメディアは、私たちのコミュニケーションにどのような影響を与えるのか、といったことについてコミュニケーション学の視点から学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	コミュニケーションに関心を持つ	コミュニケーションを理解しようとする	積極的に他者コミュニケーションしようとする	対者とのコミュニケーションによって、自身をよりよく変えていく
知識・理解力	受動的に知識を獲得し、理解をおこなう	能動的に知識を獲得し、理解をおこなう	学んだ知識や理解を基にして、自主的に新たな学びや理解に挑戦する	獲得した知識・理解を新たな分野に応用できるようになる
言語力	もっぱら授業を聞いているだけで発言をしない	質問されたことに対しては発言する	自ら積極的に発言をする	自ら問題を見つけて、それについて考え、独自の意見・考えを発言する
思考・解決力	与えられた情報を受け取るだけで、主体的な思考をおこなわない	与えられた問題や課題に対しては思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考し、解決していく
共生・協働する力	教員と共に学ぼうとする	友人たちとも一緒に学ぼうとする	友人たちとの学びの中で積極的にコミュニケーションに勤める	友人たちと積極的に関わり合い、コミュニケーションを通して創造的な活動をする
創造・発信力	テストを受ける	レポートを作成できる	レポートの内容に創造性を加える	コミュニケーション活動を通して、独自性のある情報の創造と発信ができるようになる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
コミュニケーション研究の歴史
- 第 2 回 コミュニケーション研究の概要
言語コミュニケーションとは何か
非言語コミュニケーションとは何か
- 第 3 回 ことばの使用の生物学的基盤
ことばの起源
ヒトのことばの特性
直立歩行とことばの関係
- 第 4 回 母語の獲得
子供はことばをどう獲得するのか
ヒトの言語発達
習得説vs.生得説
- 第 5 回 「わかる」とは
「わかる」というプロセス
「わかってもらう」とは
「わかりやすくモノを伝えられる人」はどういう人なのか
- 第 6 回 自己開示
自己開示を測る5つの次元
ジョハリ・ウインドウ
人が自己開示をおこなう理由
自己開示の効用
- 第 7 回 自己呈示
自己呈示の動機
自己呈示の方略
- 第 8 回 対人関係
対人関係の形成・発展・崩壊
親しさを表すコミュニケーション
- 第 9 回 説得
説得効果を高める要因
要請技法
- 第 10 回 集団とコミュニケーション
集団でのコミュニケーションが持つ特徴
- 第 11 回 葛藤・紛争状況におけるコミュニケーション
葛藤・紛争を解決するための方略
葛藤・紛争の解決に対する文化の影響
- 第 12 回 うわさ、流言、デマ
うわさの伝播を促進する要因
ネット社会における噂の怖さ
- 第 13 回 アサーティブネス
アサーショントレーニングの考え方と歴史
- 第 14 回 マス・コミュニケーション
マスメディア研究の歴史
マスメディアの影響をどのように捉えるか
- 第 15 回 新しいメディアとコミュニケーション
コンピュータを使ったコミュニケーションの光と影
メディアの変化と社会への影響

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各回、授業に参加する前に教科書（一部については、事前配布のプリント）の必要部分を事前に読んでくること。

教科書に書かれていること以外についても授業では取り上げるので、それらを含めて適宜ノートを取る。

定期試験では、問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えを論理的・説得的に論じることを求めるので、授業で学習したことを単に暗記するのではなく、自ら主体的に考える。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業初日に配布する詳細なシラバスによって、各回に教科書のどの部分を学ぶのかを事前に知らせるので、当該部分を必ず授業前に読んでくること。教科書を使用しない場合は、事前にプリント等を配布するので、それについても授業前に読んでくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60分

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験60%、宿題・授業中の課題40%

定期試験については、問われている質問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えが論理的・説得的に論じられているかを評価の対象とします。

宿題・授業中の課題については、授業内で学習した内容を基に適切な解答が行われているかどうかを評価の対象とします。

課題（宿題・授業中の課題・定期試験）に対するフィードバックは、個々の学生に対しておこなうのではなく、学生全体に対して次の授業の中でコメントをしたり、manabaのスレッドに書き込んだりしておこないます。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容の詳細および授業の進め方について、授業の初日に説明します。ですので、授業初日に必ず出席をしてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『インターパーソナルコミュニケーション』 深田博巳 北大路書房 1998年 978-4-7628-2103-5 学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献については、授業初日に配布するより詳細なシラバスの中で紹介するとともに、授業内でも適宜紹介をします。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

同時通訳法 I

EGB2308N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 4限

DP3：言語力

60

定員20人

嶋本 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 通訳クラスはスキルやプロとしての姿勢を学ぶための課目です。
2. しかし、本クラスでは英語力向上に焦点をあてます。
3. それには、何と言っても英語の聞き取り力が重要です。
4. このクラスでは英語の聞き取りに自信がなくても、聞き取り力を上げる技法を使います。
5. そのうえで、シャドーイングやリプロダクションなどの従来の通訳技法を取り入れます。
6. 教材はニュース英語に特化し、世界のさまざまなニュースを「英語から日本語」へと通訳の実践を行います。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. なによりも大切なことは基本となる語学力向上 (英語力) です。
2. 英語の聞き取りが苦手な学生のために、リスニング強化を行います。
3. 聞き取りの速度を調整することで、英語のリスニング力を高めます。
4. テキストは『CNNリスニング』で、アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語を聞きます。
5. シャドーイングやリテンションのような具体的な技法を学びます。
6. 学生の発表を重視します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	通訳について知ろうとする。	通訳を理解する。	通訳の実践を知り、練習する。	実際の英語を体得し、今後の英語への取り組みが深まる。
知識・理解力	テキストのニュース内容を知り、単語を覚える。	テキストのニュースのフレーズを覚える。	レベル2と3を融合させることができる。	BBCなどのメディアのニュースを聞くことで、時事への知識と英語の理解力を深める。

言語力	テキストのニュースの単語を覚える。	テキストのニュースのシャドーイングができるようになる。	テキストのニュースを聞いて、英語から日本語への逐次通訳ができるようになる。	テキストのニュースを聞きながら、英語から日本語への同時通訳ができるようになる。
思考・解決力	テキストのニュースの単語を覚え、正しく発音でき、その時事的な意味もわかるようになる。	テキストのニュースのシャドーイングを正しく行い、その意味もわかるようになる。	逐次通訳の実践を体験し、その思考方法を身につける。	同時通訳の実践を体験し、その思考方法を身につける。
共生・協働する力	講師の指導のもと、ともに学ぼうとする。	学友とともにペアワークを通じて、共に学ぼうとする。	学友とともに時事の課題を学ぼうとする。	クラスで学んだ内容をお互いに逐次通訳・同時通訳ができるようになる。
創造・発信力	テキストのニュース英語を、かなりゆっくりとしたスピードで聞き取り、シャドーイングと逐次通訳ができる。	テキストのニュース英語をゆっくりとしたスピードで聞き取り、シャドーイングと同時通訳ができる。	テキストのニュース英語をゆっくりとしたスピードで聞き、シャドーイング、逐次通訳と同時通訳ができるようになる。	テキストのニュース英語をナチュラルスピードで聞き、シャドーイング、逐次通訳と同時通訳ができるようになる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 通訳技法の紹介・リスニングの導入と実践-1
オリエンテーション。通訳技法の紹介とリスニングを実践します。
リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。
- 第 2 回 リスニングの実践-2
テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践をします。
リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。
- 第 3 回 シャドーイングの導入と実践-1
テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践をします。
シャドーイングとは、聞いたことをそのまま繰り返し言う練習法で、まったく同時に話すのではなく、少しずらして言うところがポイントです。リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。
- 第 4 回 シャドーイングの実践-2

- テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践をします。
リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。
- 第 5 回 シャドーイングの実践－3
英語から日本語への通訳の実践として、リプロダクションの技法を導入します。
reproductionとは「再生、再現」ということで、シャドーイングのように後について話すのではなく、音声を止めて、聞いたことをまるごと繰り返します。聞いたことを頭の中で記憶しておかなければならず、シャドーイングよりも難しいトレーニングです。最初は一つの文を以下のように短い固まりに区切って練習します。
- 第 6 回 シャドーイングの実践－4・リプロダクション－1の導入
英語から日本語への通訳の実践として、リプロダクションの技法を導入します。
reproductionとは「再生、再現」ということで、シャドーイングのように後について話すのではなく、音声を止めて、聞いたことをまるごと繰り返します。聞いたことを頭の中で記憶しておかなければならず、シャドーイングよりも難しいトレーニングです。最初は一つの文を以下のように短い固まりに区切って練習します。
- 第 7 回 通訳の実践－アメリカ英語1・リプロダクション－2
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクションの実践をします。
- 第 8 回 通訳の実践－アメリカ英語2・リプロダクション－3
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクションの実践をします。
- 第 9 回 通訳の実践－アメリカ英語3・逐次通訳－1
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践をします。
- 第 10 回 通訳の実践－イギリス英語1・逐次通訳－2
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践をします。
- 第 11 回 通訳の実践－イギリス英語2・逐次通訳－3
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践をします。
- 第 12 回 通訳の実践－イギリス英語3・同時通訳－1
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践をします。
- 第 13 回 通訳の実践－オーストラリア英語1・同時通訳－2

CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践をします。

- 第 14 回 通訳の実践－オーストラリア英語2
CNNニュースからトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践をします。
- 第 15 回 パフォーマンスチェック
一人ずつ実際にヘッドセットをし、通訳の実践を行うテストをします。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しませんが、第15回目のパフォーマンスチェックだけでなく、クラスのなかでも、実践を行います。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 英語の聞き取りを中心としたクラスです。
2. 留学前の学生に特化します。
3. 『CNNリスニング』のCDを使います。
4. 単語のチェック→シャドーイング→リプロダクションの技法の導入をします。
5. 逐次通訳→同時通訳までのプロセスを体験していただきます。
6. 復習をしっかりと行ってください。
7. 翌週にはその復習の成果を確認し、フィードバックします。
8. このクラスは実技ですので、適宜、口頭で授業中にフィードバックをします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 復習を心掛けてください。習ったところは何回も練習してください。
2. 予習をしないでください。あくまでも初見（初めて聞いてどれだけわかるか）が重要です。
3. 音読を常にこころがけてください。ニュースに慣れるようにCNNやNHKのニュースを英語で聞くことや、映画を見ることを心がけて下さい。
4. 日頃から日本語の文章を音読してください。これは訛りのない日本語訓練です。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 通訳授業参加態度 (30%)
授業中の意欲的な取組み (30%)
授業で行うプレゼンテーション (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

1. このクラスは通訳の基礎の基礎のクラスです。英語のリスニングを強化しながら、通訳技法を学ぶことです。英語や日本語を話すことを重視するクラスです。
2. 前期は留学を控えた学生とリスニングを強化したい初心者の学生に特化します。
3. 前期の場合、リスニング力を鍛えることは、留学前の英語の強化になります。
4. 日頃の英会話やTOEICなどの試験対策にもなります。

5. 後期は留学経験者と前期を受講した学生に特化します。
 6. 前期と後期の違いを作った理由は、留学前と後では、英語力の違いが相当あるからです。
 7. しかし、それでも受講を希望の場合は、直接講師と相談をしてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『CNNニュース・リスニング2021[春夏]』//朝日出版社/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語通訳への道』/日本通訳協会/大修館書店/2007/9784245295

『同時通訳者のシャドーイング』/木村裕也・工藤紘実/kADOKAWA/中経出版/2015/9784046008848

『同時通訳者の英語ノート術&学習法』/工藤紘実/kADOKAWA/中経出版/2014/9784876152193

『ウィスパリング同時通訳 実践ゼミ』/柴田パネッサ/南雲堂/2005/9784523264521

『同時通訳が頭の中で一瞬でやっている英訳術リプロセンシング』/田村智子/三修社/2010/9784384055696

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

講師は現在通訳案内業に特化していますが、以前はパーティー通訳、逐次通訳、同時通訳の一つの形態としてのウィスパリング通訳業務に携わっていましたので、その経験から実践性のあるクラスにしたいと思っています。

同時通訳法 II

EGB2358N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

DP3: 言語力

60

定員20人

嶋本 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. このクラスは前期「同時通訳法1」の継続と位置づけます。
2. 前期のクラスで学んだことをより一層実践することを目的とします。
3. **留学を終えた学生や前期の受講生を優先します。**
4. しかし、後期からでも学んでみたいと望む学生は相談の上で受講を許可します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 同時通訳は、「同時」という言葉通り、話者が話すのを通訳者が同時に訳す手法です。通訳者は話者の話を聞きながら、ほぼ同時に訳出も行います。したがって、大変高度な技術を要します。
2. 何よりも大切なことは基本の語学力向上(英語力)で

す。このクラスの目的は、スキルを学ぶという要素もありますが、主として英語力向上にあります。

3. それには、英語を正しく聞き取ることが重要です。そのために聞き取りのスピードを調整することで聞き取る力を伸ばします。

4. 学習テーマは社会、文化、生活に関するニュースを取り上げ、アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語を聞き、通訳の実践を行います。

5. 留学経験者を対象としたクラスですので、前期よりのレベルが高いと思います。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	通訳についてしろうとする。	通訳を理解する。	通訳の実践を知り、練習する。	実際の英語を体得し、今後の英語への取り組みが深まる。
知識・理解力	テキストのニュースの内容を知り、単語を覚える。	テキストのニュースのフレーズを覚える。	レベル2と3を融合させることができる。	BBCなどのメディアのニュースを聞くことで、時事への知識と英語の理解力を深める。
言語力	テキストのニュースの単語を覚える。	テキストのニュースのシャドーイングができるようになる。	テキストのニュースを聞いて、英語から日本語への逐次通訳ができるようになる。	テキストのニュースを聞きながら、英語から日本語への同時通訳ができるようになる。
思考・解決力	テキストのニュースの単語を覚え、正しく発音でき、その時事的な意味もわかるようになる。	テキストのニュースのシャドーイングを正しく行い、その意味もわかるようになる。	逐次通訳の実践を体験し、その思考方法を身につける。	同時通訳の実践を体験し、その思考方法を身につける。
共生・協働する力	講師の児童のもと、ともに学ぼうとする。	学友とともにペアワークを通じて、共に学ぼうとする。	学友とともに時事の課題を学ぼうとする。	クラスで学んだ内容をお互いに逐次通訳・同時通訳ができるようになる。
創造・発信力	テキストのニュース英語を、かなりゆっくり	テキストのニュース英語をゆっくりとしたス	テキストのニュース英語をゆっくりとしたス	テキストのニュース英語をナチュラルスピー

	としたスピー ードで聞き 取り、シャ ドーイング と逐次通訳 ができる。	ビードで聞 き、シャド ーイング、 逐次通訳と 同時通訳が できる。	ビードで聞 き、シャド ーイング、 逐次通訳と 同時通訳が できるよう になる。	ドで聞き、 シャドーイ ング逐次通 訳と同時通 訳ができる ようになる。
--	---	---	--	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 通訳技法の紹介・リスニングー 1
オリエンテーション。通訳技法の紹介とリスニングを実践します。
リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」「英語耳」を養います。
留学経験者を対象としますので、前期よりもレベルを高くします。
したがって、リスニングの速度調整はネイティブスピーカーに近い速度から始めます。
- 第 2 回 リスニングー 2・シャドーイングー 1
テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践をします。シャドーイングとは、聞いたことをそのまま繰り返し言う練習法です。
リスニングは速度調整をしながら、「聞き取れる」英語耳を養います。
- 第 3 回 シャドーイングー 2
テキストのニュースを一つ選び、リスニングとシャドーイングの実践を行います。
パフォーマンスチェック。
- 第 4 回 リプロダクションー 1
英語から日本語への通訳の実践として、リプロダクションの技法を導入します。
リプロダクションとは「再生、再現」ということで、シャドーイングのように後について話すのではなく、音声を止めて、聞いたことをまるごと繰り返します。
聞いたことを頭の中で記憶しておかなければならず、シャドーイングよりも難しいトレーニングです。最初は一つの文を短い固まりに区切って練習します。
- 第 5 回 リプロダクションー 2・逐次通訳ー 1
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクションの実践を行います。
逐次通訳を導入します。逐次通訳とは話者と通訳者が交互に話す形式の通訳です。
- 第 6 回 アメリカ英語 1・逐次通訳ー 2
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践を行います。
- 第 7 回 アメリカ英語 2・逐次通訳ー 3
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳の実践を行います。
- 第 8 回 アメリカ英語 3・同時通訳ー 1

- テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。同時通訳とは、「同時」という言葉通り、話者が話すのを通訳者が同時に訳す手法です。通訳者は話者の話を聞きながら、ほぼ同時に訳出も行う通訳です。
- 第 9 回 イギリス英語 1・同時通訳ー 2
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 10 回 イギリス英語 2・同時通訳ー 3
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 11 回 イギリス英語 3・総合練習ー 1
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 12 回 オーストラリア英語 1・総合練習ー 2
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 13 回 オーストラリア英語 2・総合練習ー 3
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 14 回 オーストラリア英語 3・総合練習ー 4
テキスト『CNNリスニング』から一つのトピックを選び、リスニング、シャドーイング、リプロダクション、逐次通訳、同時通訳の実践を行います。
- 第 15 回 パフォーマンスチェック
一人ずつ実際にヘッドセットをし、通訳の実践を行うテストをします。
試験範囲についてはその時に発表します。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
筆記の定期試験は実施しませんが、15回目に実技テストだけでなく、クラスの中でも実践をチェックします。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. 留学経験者や前期受講生に特化したクラスですから、リスニングの練習よりも、通訳技法の練習に焦点をあてます。
 2. 教材の英語ニュースのCDを使い、通訳技法のスキルアップをし、フィードバックします。
 3. 逐次通訳や同時通訳などを今の受講生のレベルに合わせて実践してもらいます。
 4. 英語から日本語 (英日) に通訳するだけでなく、時間のある限り、日本語から英語 (日英) に通訳する練習もします。

5. このクラスは実技のクラスですので、適宜、口頭で授業内にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 復習に心掛けてください。習ったところは何回も練習してください。次の週にチェックします。
2. 予習をしないで下さい。あくまでも初見（初めて聞いてどれだけわかるか）が重要です。
3. 日頃から「音読」を常に心がけてください。
4. 留学中の英語力を持続するように、英語ニュースや映画をよく見てください。
5. 日本語に翻訳する技術を必要ですから、日頃から日本語も音読してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 通訳授業参加態度 (30%)
2. 授業中で行うプレゼンテーション (30%)
3. 最終パフォーマンスチェック (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『CNNニュース・リスニング2021[秋冬]』//朝日出版社/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- 『英語通訳への道』/日本通訳協会/大修館書店/2017/
 『同時通訳者のシャドーイング』/木村裕也・工藤紘実/KADOKAWA/中経出版/2015/
 『同時通訳者の英語ノート術・学習法』/工藤紘実/KADOKAWA/中経出版/2014/
 『ウィスパリング同時通訳 実践ゼミ』/柴田バネッサ/南雲堂/2005/
 『同時通訳が頭の中で一瞬でやっている英語術リプロセッシング』/田村智子/三修社/2010/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

講師は現在通訳案内業に特化していますが、以前はパーティー通訳、逐次通訳、同時通訳の一つの形態としてのウィスパリング通訳に携わっていましたので、体験に基づいて教えます。

米文学の歴史

EGL2201N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜3限

DP2: 知識・理解力

60

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

アメリカ文学の歴史について、著名な作家と作品また時代背景を通じて、学んでいく。また、それぞれの時代に出現した作家たちの文学的手法や、思想などを理解することによって、批評的な視点から文学作品を読むスキルを習得することを目標とする。また、昨今のアメリカ合衆国が世界に及ぼす覇権的影響力に鑑みて、アメリカ文化の一翼を担う文学を学ぶことは、現代における世界情勢に対して新たな視点を習得する機会と成り得る。アメリカ文学の一連の流れを理解することによって、文学だけではなく、現代の様々な問題に対する深い思考力を養うことも、本講義の目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. アメリカ文学の特徴、歴史、また作家達の思想などを理解する。
2. 個々の作品が孕む哲学的テーマなどに触れることによって、アメリカ文学の奥行きを理解する。
3. アメリカの著名な作家とその作品についての幅広い知識を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イン트로ダクション：アメリカ文学史について
- 第 2 回 植民地時代の文学と独立革命の文学
- 第 3 回 アメリカン・ルネッサンス（時代背景）
- 第 4 回 アメリカン・ルネッサンス（作家及び作品の紹介）
- 第 5 回 アメリカン・ルネッサンス（まとめ）

- 第 6 回 南北戦争後の文学（リアリズム小説）
- 第 7 回 自然主義文学
- 第 8 回 モダニズム文学（時代背景）
- 第 9 回 モダニズム文学（作家及び作品の紹介）
- 第 10 回 1920年代の文学（時代背景）
- 第 11 回 1920年代の文学（ロストジェネレーションの作家及び作品の紹介）
- 第 12 回 1920年代の文学（まとめ）
- 第 13 回 プロレタリア文学
- 第 14 回 ユダヤ人文学
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は基本的には講義形式で、テキストに基づいて進められる。主要作品の原文の一部をできるだけ多く紹介するので、その内容を理解し文体に親しむこと。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

初回の授業で指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

平常点（20%）

期末試験（70%）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『はじめて学ぶアメリカ文学史』/板橋好枝、高田賢一/ミネルヴァ書房/1991年/9784623021055/学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

講義中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

米文学作品研究

EGL2451N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4：思考・解決力

90

竹井 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

多角的な解釈の例を通してアメリカ文学のテキストの面白さを知る。

文学批評の具体例に触れ、文学テキストを批判的に読む際

に必要な視点を学ぶ。

自らテキストを選び、分析的・批判的読みを実践する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・授業で扱うテキストを、テキスト内の要素（プロット、構成、語りの技法など）に留意しながら読む。

・テキストをめぐる諸要素（作家の伝記的背景や書かれた時代の社会的背景）を探る。

・テキストについての批評・解釈に触れる。

・自分でテキストを選び、分析的・批判的に読み、論じる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文学テキストの分析的読みについての理解	文学作品の分析的読みについて知ろうとしない。	文学テキスト内の諸要素（舞台・登場人物・プロットなど）を理解する。	文学テキストの語り手や語りの技法について理解する。	作品の社会的・伝記的背景と作品との関係について理解する。
批評論文を理解し評価する力	文学批評について知ろうとしない	文学批評で用いられる諸要素や用語を理解する。	特定の文学作品についての先行論文（批評）を調べ、文献リストを作成する。	先行論文（批評）を読み、要点を理解する。
文学作品を自分で解釈し発信する力	文学テキストを分析的に読まない。	文学テキストを、テキスト内の要素に力点を置いて分析的に読み、まとめる。またそれを口頭・文章で発表する。	文学テキストを、テキスト内外の要素を視野に入れて分析的に読み、まとめる。またそれを口頭・文章で発表する	他の批評と自分の解釈を比較し、自論を再考する。またそれを口頭・文章で発表する。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

・当該科目の目標・授業の進め方・成績評価についての説明

・授業で扱うテキスト（4つの短編小説）の説明
・文学批評についての概説

第 2 回 「黄色い壁紙」を読む（1）

シャーロット・パーキンス・ギルマンの短編小説「黄色い壁紙」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト内の要素について

第 3 回 「黄色い壁紙」を読む（2）

シャーロット・パーキンス・ギルマンの短編小説「黄色い壁紙」を、以下の点を中心に説明する
・テキスト外の要素について
・本作をめぐる批評について

第 4 回 「黄色い壁紙」を読む（3）

- シャーロット・パーキンス・ギルマンの短編小説「黄色い壁紙」を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト外の要素について
 - ・本作をめぐる批評について
- 第 5 回 「黄色い壁紙」を読む (4)
- シャーロット・パーキンス・ギルマンの短編小説「黄色い壁紙」を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト外の要素について
 - ・本作をめぐる批評について
- 第 6 回 ヘミングウェイの短編 (1)
- アーネスト・ヘミングウェイの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト内の要素について
 - ・本作をめぐる批評について
- 第 7 回 ヘミングウェイの短編 (2)
- アーネスト・ヘミングウェイの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト外の要素について
 - ・本作をめぐる批評について
- 第 8 回 ヘミングウェイの短編 (3)
- アーネスト・ヘミングウェイの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト外の要素について
 - ・本作をめぐる批評について
- 第 9 回 ヘンリー・ジェイズの短編 (1)
- ヘンリー・ジェイズの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト内の要素について
 - ・本作を巡る批評について
- 第 10 回 ヘンリー・ジェイズの短編 (2)
- ヘンリー・ジェイズの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト外の要素について
 - ・本作を巡る批評について
- 第 11 回 ヘンリー・ジェイズの短編 (3)
- ヘンリー・ジェイズの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト外の要素について
 - ・本作を巡る批評について
- 第 12 回 ヘンリー・ジェイズの短編 (4)
- ヘンリー・ジェイズの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト外の要素について
 - ・本作を巡る批評について
- 第 13 回 ケン・リウの短編小説 (1)
- ケン・リウの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト内の要素について
 - ・テキスト外の要素について
- 第 14 回 ケン・リウの短編小説 (2)
- ケン・リウの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト内の要素について
 - ・テキスト外の要素について

- 第 15 回 ケン・リウの短編小説 (3)
- ケン・リウの短編小説を、以下の点を中心に説明する
- ・テキスト内の要素について
 - ・テキスト外の要素について
 - ・批評について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に代わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・授業は講義を中心に進めるが、適宜グループディスカッションも行う。

・文学テキストを中心に扱いつつ、映画版や関連する他メディアのテキストも紹介する。

・提出されたレポートに対する講評・採点結果を本人に公開する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・授業までに当該テキストを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、授業中に実施する提出課題 (30%)、最終レポート (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は、学生の希望や進度によって適宜変更する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中に指示・配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『批評理論入門』 / 廣野由美子著 / 中公新書 / 2005年 / 4121017900

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床の医学・病院研修

EGR2253N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP2 : 知識・理解力

60

身近な医学

集中

須川 いずみ 木島 葉菜子 Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

京都府立医科大学との連携事業の開始の目的は、本学が今までANA総合研究所から出向教員を迎えて取り組んできたエアラインプログラムにおけるホスピタリティを基礎に、

外国人の医療サポートができる人材育成である。病院の受付を中心として、医療従事者と患者の意思疎通が少しでもスムーズになる英語の使い手を育成する。第一段階として医療現場に赴き各専門による医療の現状をこの実習で学ぶ。
〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.病院における専門性とその仕組みの理解
- 2.医療現場のチームアプローチの現状把握
- 3.病院における他職種連携及び地域連携の理解
- 4.医療現場における外国人患者の状況把握

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	講義や実習の内容を理解することができない。	講義や実習の内容を理解することができるが、まとめることができない。	講義や実習内容を理解し、疑問点を明らかにできる。	研修で学習したことを踏まえて、将来の課題やありかたを論じることができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 内科総論・総合診療科
- 第 3 回 見学研修／現場レクチャー（病院の概要・患者相談概要：総合案内）
- 第 4 回 見学研修／現場レクチャー（放射線部）
- 第 5 回 外科
- 第 6 回 救急科
- 第 7 回 見学研修／現場レクチャー（臨床検査部）
- 第 8 回 見学研修／現場レクチャー（薬剤部）
- 第 9 回 見学研修／現場レクチャー（地域医療連携室）
- 第 10 回 見学研修／現場見学（整形）
- 第 11 回

産婦人科

- 第 12 回 精神科
- 第 13 回 心理相談室
- 第 14 回 外国人患者対応について
- 第 15 回 分かち合い、レポート作成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

病院では、現場の医師によるレクチャーと各部門部署の見学研修を実施する。学生は、病院各科・各部門の見学研修について、事前指導を受けた後、研修先のHPなどで情報を得ておくこと。また、「医療サポート英語Ⅰ」と「医療サポート英語Ⅱ」で学んだ英語を復習した上で病院研修に臨むこと。授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 病院の仕組みの研究
2. 各部門部署の役割把握
3. 医療英語の復習

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

学外の研修であるため、全回の出席が前提となる。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、研修に対する取り組み姿勢、振り返りレポートの内容から総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本研修は、実際に病院に伺って研修をさせてもらうという大変貴重な経験ができるものである。そのため事前事後指導・病院研修における遅刻欠席は、社会常識をもって許されるものではない。自分の将来を見据えて、真摯に取り組もうとする学生のみ受け入れるつもりである。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Because We Care』/Inoue, Maki/Cengage Learning/2014/
『英語で診療』/板尾福光/金芳堂/2013/

『そのまま使える英語表現5000』/仁木久恵/医学書院/2009/
〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

Reading I B

EGB1300B0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

尾崎 裕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

平易な英語で書かれた様々なトピックに関する英文を読み、文章構造の確認や要約作成などをおこないながら、情報を正確に読み取る力を習得することを目指す。また、語彙力の強化と文法事項の復習をとおして、大学での学びに必要な英語力の基礎を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①英文読解に必要な基本的な語彙と文法を身につける。
- ②文の構造を理解し、正確に英文を読むことができる。
- ③英語を逐一訳すことなく、ある程度スムーズに読むことができる。
- ④日頃から英書を読む習慣を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業の準備をしない	指示された範囲のみ準備をする	指定された範囲外であっても下調べをする	調べた中でわからなかったことを積極的に質問する
知識・理解力	まったく興味を持たない	関心のあるトピックなら聞く耳をもつ	関心の薄いトピックでも聞く耳をもつ	自ら調べて知識を深めようとする
言語力	初級レベルの単語・文法が理解できない	初級レベルの単語・文法なら理解できる	準中級レベルの単語・文法を理解できる	中級以上の単語・文法を習得しようとする意欲がある
思考・解決力	まったくの受け身である	促されれば、問いを解決しようと努める	興味のあることを手がかりにして、自ら模索する	意欲的に調べて考察する
共生・協働する力	消極的である	活動の輪に加わろうと何らかの努力をする	協力して結果を出す喜びを知る	積極的に活動の輪に加わり、協力して課題に取り組む

創造・発信力	発信する意欲がまったくない	嫌々でも伝えようと努力をする	自分の考えを他人に伝える喜びを知る	能動的かつ効果的に発信できる
--------	---------------	----------------	-------------------	----------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
- ・授業の概要、評価方法、予習の仕方などの説明
 - ・ Extensive Reading 課題に関する説明
 - ・辞書の引き方について
- 第 2 回 Unit 1: Our Aging Society
英文の読解
- 第 3 回 Unit 1: Our Aging Society & 単語クイズ
現在形
- 第 4 回 Unit 2: Holiday Memories
英文の読解
- 第 5 回 Unit 2: Holiday Memories & 単語クイズ
過去形
- 第 6 回 Unit 3: Sport
英文の読解
- 第 7 回 Unit 3: Sport & 単語クイズ
進行形
- 第 8 回 まとめテスト&解説
- 第 9 回 Unit 4: Foreign Workers
英文の読解
- 第 10 回 Unit 4: Foreign Workers & 単語クイズ
完了形
- 第 11 回 Unit 8: Weather and Global Warming
英文の読解
- 第 12 回 Unit 8: Weather and Global Warming & 単語クイズ
比較
- 第 13 回 Unit 9: Recycling
英文の読解
- 第 14 回 Unit 9: Recycling & 単語クイズ
前置詞
- 第 15 回 まとめテスト&解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの英文で用いられている重要な英語表現や文法事項を確認し、本文に関する様々なタスクをこなすことで内容の理解を深める。さらに、簡単な作文問題をとおして英語表現の定着をはかる。

なお、受講生は授業時間外において継続的に英書を読むことが求められる。一冊読み終えるごとにM-Readerのサイト(下記の参考URL)にアクセスして、本の内容に関するクイズを受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定された範囲の予習をしてきてください。詳しくは開講時に指示します。

また、新しいUnitに入るごとに単語クイズを実施する予定なので準備しておくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業内での取り組みの積極性、予習・復習の度合い：20%

まとめテスト (2回)：40%

単語クイズ (6回)：20%

Extensive Readingの達成度：20%

[留意事項 (Other Information)]

授業の進度や扱うUnitは、クラスの状況に応じて変更になる可能性があります。

教室には必ず辞書を持参してください。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『English Indicator 2 (Pre-Intermediate)』 Terry O'Brien著 南雲堂、2017年。ISBN:9784523178323 学内販売有り

[参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

M-Reader website

<https://mreader.org/index.php>

[実務経験のある教員による実践的科目]

Reading I E

EGB1300E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

火曜1限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is for students to begin developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details. Students will increase their vocabulary from study of GSL and TOEIC lists. Students will demonstrate their understanding of course texts through written and oral work. Students will improve reading speed and fluency through timed and extensive reading, as well as develop their ability to read intensively for understanding of academic concepts.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can read at 120 WPM	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Can score TOEIC 200 in Reading	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Can understand the main ideas in text	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Can find reasons and examples in text	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Can express the meaning of written discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

第 1 回 Course Introduction

第 2 回 Topic 1: Family: introduction and text preview

第 3 回 Topic 1: Family: intensive reading

第 4 回 Topic 1: Family: expansion

第 5 回 Topic 2: Education: introduction and text preview

第 6 回 Topic 2: Education: intensive reading

第 7 回 Topic 2: Education: expansion

第 8 回 Midterm review

第 9 回 Topic 3: Health & stress: introduction and text preview

第 10 回 Topic 3: Health & stress: intensive reading

第 11 回 Topic 3: Health & stress: expansion

第 12 回 Topic 4: Culture: introduction and text preview

第 13 回 Topic 4: Culture: intensive reading

第 14 回 Topic 4: Culture: expansion

第 15 回 Course review

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

No final exam

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop vocabulary and knowledge of grammar and text construction through reading-based tasks. Students will receive written and oral feedback on their assignments.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Classroom participation 20%

Written work 20%

Homework 20%

Quizzes 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes) 20%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

This course will not use a textbook. Handouts will be provided by instructor.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Writing I C

EGB1301C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 前期

金曜 1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course develops English writing skills.

The course is good preparation for the sophomore class 'Advanced Writing I/II', future TOEIC tests, and for students

who wish to study abroad.

During the semester students learn how to write paragraphs, thesis statements, introductions, conclusions, as well as different genres of essay including example essays, descriptive essays, and narrative essays. Students should be able to write various types of essays by the end of the academic year.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

Use a variety of writing activities to build towards more elaborate prose.

Write English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力1) Is familiar with basic PC functions/formatting 2) Has an awareness of ways to organize ideas for writing: mindmaps, outlines3) Has an awareness of terminology used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)4) Has an awareness of the function and purpose of transitions 5) Is familiar with many writing genres:	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

<p>narrative, persuasive, emails6) Has an awareness of how to make writing interesting : thesaurus use, sentence types7) Has developed a writing habit possibly through a journal or timed writing exercises in class8) Has experience with reviewing classmates' writing samples</p>				
---	--	--	--	--

- 第 9 回 Unit 3: Celebrations and Special Days
Writing 1: Describing a Process, Punctuation
Explanation and exercises
- 第 10 回 Unit 3: Celebrations and Special Days
Writing 1: Describing a Process, Punctuation
Practice
- 第 11 回 Unit 3: Celebrations and Special Days
Writing 2: Main and Dependent Clauses
Explanation and exercises
- 第 12 回 Unit 3: Celebrations and Special Days
Writing 2: Main and Dependent Clauses
Practice
- 第 13 回 Unit 4: Amazing People
Writing 1: Unity. Irrelevant Sentences
Explanation, exercises, practice
- 第 14 回 Unit 4: Amazing People
Writing 2: Introducing examples
Explanation and exercises
- 第 15 回 Unit 4: Amazing People
Writing 2: Introducing examples
Practice
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of written exercises, assignments, tests, essays, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, tests, essays, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and tests 40%

Essays 60%

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 1: Your Personality
Writing 1: Paragraph, Capitalisation, Titles
Explanation and exercises
- 第 2 回 Unit 1: Your Personality
Writing 1: Paragraph, Capitalisation, Titles
Practice
- 第 3 回 Unit 1: Your Personality
Writing 2: Compound sentences
Explanation and exercises
- 第 4 回 Unit 1: Your Personality
Writing 2: Compound sentences
Practice
- 第 5 回 Unit 2: Food
Writing 1: The Topic Sentence
Explanation and exercises
- 第 6 回 Unit 2: Food
Writing 1: The Topic Sentence
Practice
- 第 7 回 Unit 2: Food
Writing 2: Supporting & Concluding Sentences
Explanation and exercises
- 第 8 回 Unit 2: Food
Writing 2: Supporting & Concluding Sentences
Practice

[留意事項 (Other Information)]

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

- 秀 Excellent (S) 90 to 100%
- 優 Very good (A) 80 to 89%
- 良 Good (B) 70 to 79%
- 可 Pass (C) 60 to 69%
- 不合格 Fail (D) 0 to 59%
- 提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:
lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:
Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)
<https://www.lyledesouza.com/contact>
[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
Weaving it Together 2, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 978-1305251656

This textbook is also used in Reading I.
[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
[参考URL(URL for Reference)]
www.lyledesouza.com/teaching
[実務経験のある教員による実践的科目]

Reading II B

EGB1350B0J
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
1年次
2単位 後期
火曜1限
DP3 : 言語力
60
必修 クラス指定
尾崎 裕子

[科目の教育目標 (Course Description)]
平易な英語で書かれた様々なトピックに関する英文を読み、文章構造の確認や要約作成などをおこないながら、情報を

正確に読み取る力を習得することを目指す。また、語彙力の強化と文法事項の復習をとおして、大学での学びに必要な英語力の基礎を身につけることを目標とする。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- ①英文読解に必要な基本的な語彙と文法を身につける。
- ②文の構造を理解し、正確に英文を読むことができる。
- ③英語を逐一訳すことなく、ある程度スムーズに読むことができる。
- ④日頃から英書を読む習慣を身につける。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業の準備をしない	指示された範囲のみ準備をする	指定された範囲外であっても下調べをする	調べた中でわからなかったことを積極的に質問する
知識・理解力	まったく興味を持たない	関心のあるトピックなら聞く耳をもつ	関心の薄いトピックでも聞く耳をもつ	自ら調べて知識を深めようとする
言語力	初級レベルの単語・文法が理解できない	初級レベルの単語・文法なら理解できる	準中級レベルの単語・文法を理解できる	中級以上の単語・文法を習得しようとする意欲がある
思考・解決力	まったくの受け身である	促されれば、問いを解決しようと努める	興味のあることを手がかりにして、自ら模索する	意欲的に調べて考察する
共生・協働する力	消極的である	活動の輪に加わろうと何らかの努力をする	協力して結果を出す喜びを知る	積極的に活動の輪に加わり、協力して課題に取り組む
創造・発信力	発信する意欲がまったくない	嫌々でも伝えようと努力をする	自分の考えを他人に伝える喜びを知る	能動的かつ効果的に発信できる

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction
授業の概要や進め方、評価方法などの説明
- 第 2 回 Unit 10: Commuting
英文の読解
- 第 3 回 Unit 10: Commuting & 単語クイズ
不定詞と動名詞
- 第 4 回 Unit 11: Crumbling Britain
英文の読解
- 第 5 回 Unit 11: Crumbling Britain & 単語クイズ
助動詞
- 第 6 回 Unit 12: Advertising
英文の読解

- 第 7 回 Unit 12: Advertising & 単語クイズ
受動態
- 第 8 回 復習テスト&解説
- 第 9 回 Unit 13: Technology and Us
英文の読解
- 第 10 回 Unit 13: Technology and Us & 単語クイズ
使役の表現
- 第 11 回 Unit 14: Cars
英文の読解
- 第 12 回 Unit 14: Cars & 単語クイズ
関係詞
- 第 13 回 Unit 15: Our Education
英文の読解
- 第 14 回 Unit 15: Our Education & 単語クイズ
仮定法
- 第 15 回 復習テスト&解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの英文で用いられている重要な英語表現や文法事項を確認し、本文に関する様々なタスクをこなすことで内容の理解を深める。さらに、簡単な作文問題をとおして英語表現の定着をはかる。

なお、受講生は授業時間外において継続的に英書を読むことが求められる。一冊読み終えるごとにM-Readerのサイト(下記の参考URL)にアクセスして、本の内容に関するクイズを受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定された範囲の予習をしてきてください。詳しくは開講時に指示します。

また、新しいUnitに入るごとに単語クイズを実施する予定なので準備しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内での取り組みの積極性、予習・復習の度合い: 20%

復習テスト (2回): 40%

単語クイズ (6回): 20%

Extensive Readingの達成度: 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進度や扱うUnitは、クラスの状況に応じて変更になる可能性があります。

教室には必ず辞書を持参してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『English Indicator 2 (Pre-Intermediate)』 Terry O'Brien 著 南雲堂、2017年。ISBN:9784523178323 学内販売有り

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

M-Reader website

<https://mreader.org/index.php>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Reading II E

EGB1350E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is for students to continue developing the skills needed for success in academic contexts. Reading skills will be taught in thematically organized units to promote fluency and accuracy. Critical reading skills will also be developed. In addition, students will also increase their receptive and productive vocabulary.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Active participation in all classroom-based activities is required. These include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and identifying main ideas and their details. Students will increase their vocabulary from study of GSL and TOEIC lists. Students will demonstrate their understanding of course texts through written and oral work. Students will improve reading speed and fluency through timed and extensive reading, as well as develop their ability to read intensively for understanding of academic concepts

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can read at 120 WPM	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Has reached Extensive Reading Goal	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Can score TOEIC 200 in Reading	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels	Exceeds most course expectations

			on some criteria	
4) Can understand the main ideas	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Can find reasons and examples	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Can express the meaning of written discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course introduction
- 第 2 回 Topic 1: Motivation: introduction & text preview
- 第 3 回 Topic 1: Motivation: intensive reading
- 第 4 回 Topic 1: Motivation: expansion
- 第 5 回 Topic 2: Human relationships: introduction & text preview
- 第 6 回 Topic 2: Human Relationships: intensive reading
- 第 7 回 Topic 2: Human Relationships: expansion
- 第 8 回 Midterm review
- 第 9 回 Topic 3: Media: introduction & text preview
- 第 10 回 Topic 3: Media: intensive reading
- 第 11 回 Topic 3: Media: expansion
- 第 12 回 Topic 4: Technology: introduction & text preview
- 第 13 回 Topic 4: Technology: intensive reading
- 第 14 回 Topic 4: Technology: expansion
- 第 15 回 Course review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

No final exam

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop vocabulary and knowledge of grammar and text construction through reading-based tasks. Students will receive written and oral feedback on their assignments.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for every class in order to participate actively.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation 10%

Written work 25%

Homework 25%

Quizzes 20%

Extensive Reading (M-Reader Quizzes) 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class. Students will receive written and oral feedback on their assignments.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

This course will not use a textbook. Handouts will be provided by instructor.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Writing II C

EGB1351C0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

金曜1限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course develops English writing skills.

The course is good preparation for the sophomore class 'Advanced Writing I/II', future TOEIC tests, and for students who wish to study abroad.

Students learn how to write different genres of essay including comparison and contrast essays, cause-and-effect essays, argument essays, and analysis essays. Students should be able to write various types of essays by the end of the academic year.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Use a variety of writing activities to build towards more elaborate prose.

Write English with increasingly difficult content, grammar, and vocabulary.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

<p>言語力1) Is familiar with basic PC functions/formatting 2) Has an awareness of ways to organize ideas for writing: mindmaps, outlines3) Has an awareness of terminology used to describe writing (topic sentences, supporting sentences, concluding sentences, transitions etc.)4) Has an awareness of the function and purpose of transitions 5) Is familiar with many writing genres: narrative, persuasive, emails6) Has an awareness of how to make writing interesting : thesaurus use, sentence types7) Has developed a writing habit possibly through a journal or timed writing exercises</p>	<p>Does not meet expectations for the course yet</p>	<p>Meets expectations set out for the course</p>	<p>Exceeds expectations in some areas of the course</p>	<p>Exceeds expectations in most areas of the course</p>
---	--	--	---	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 Unit 5: Nature Attacks!
Writing 1: Writing a Narrative Paragraph with Time Words
Explanation and exercises
 - 第 2 回 Unit 5: Nature Attacks!
Writing 1: Writing a Narrative Paragraph with Time Words
Practice
 - 第 3 回 Unit 5: Nature Attacks!
Writing 2: Introducing reasons with *because*
Explanation and exercises
 - 第 4 回 Unit 5: Nature Attacks!
Writing 2: Introducing reasons with *because*
Practice
 - 第 5 回 Unit 6: Inventions
Writing 1: Introducing Effects with *so* and *therefore*
Explanation and exercises
 - 第 6 回 Unit 6: Inventions
Writing 1: Introducing Effects with *so* and *therefore*
Practice
 - 第 7 回 Unit 6: Inventions
Writing 2: Giving an Opinion, Transitions Showing Addition
Explanation and exercises
 - 第 8 回 Unit 6: Inventions
Writing 2: Giving an Opinion, Transitions Showing Addition
Practice
 - 第 9 回 Unit 7: Customs and Traditions
Writing 1: Comparing and Contrasting
Explanation and exercises
 - 第 10 回 Unit 7: Customs and Traditions
Writing 1: Comparing and Contrasting
Practice
 - 第 11 回 Unit 7: Customs and Traditions
Writing 2: Writing Business Letters
Explanation and exercises
 - 第 12 回 Unit 7: Customs and Traditions
Writing 2: Writing Business Letters
Practice
 - 第 13 回 Unit 8: Readings from Literature
Writing 1: Using Adjectives in Poems
Explanation and exercises
 - 第 14 回 Unit 8: Readings from Literature
Writing 1: Using Adjectives in Poems
Practice
 - 第 15 回 Unit 8: Readings from Literature
Writing 2: Using Adjectives and Adverbs
Explanation, exercises, practice
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of written exercises, assignments, tests, essays, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, tests, essays, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor including completing any assigned readings.

Please bring the textbook, paper, and pens to class.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and tests 40%

Essays 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using

the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Weaving it Together 2, fourth edition/Broukal/National Geographic Learning/Cengage Learning/2015/ISBN 978-1305251656

This textbook is also used in Reading I.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

www.lyledesouza.com/teaching

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC II B

EGB1355BIJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

木曜3限

DP3: 言語力

60

定員40人

櫃本 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストです。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されています。

文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEIC(R)テストの形式、指示、問題の傾向になれ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEIC(R)テストでよく使用される語彙を身につける
3. TOEIC(R)テストのためだけの英語ではなく、一般的な英語コミュニケーションの基礎力を身につける
4. 400点~500点にスコアをのぼす

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示された課題に取り組めない。	指示された課題に取り組む。	指示された課題の意味を考え、積極的に取り組む。	指示された課題の意味を汲み取り、自分でさらに学習

				の幅を広げられる。
知識・理解力	TOEICの問題の仕組みを理解できない。	TOEICの問題の仕組みを理解できる。	TOEICの問題の仕組みを理解し、説明できる。	TOEICの問題の仕組みを理解し、説明でき、勉強方法を考えられる。
言語力	問題を解けず、英語も理解できない。	問題をいくつか正解し、英語もある程度は理解できる。	問題をいくつか正解し、英語を理解し、使うための英語として学ぼうとする。	問題の正解のみならず、英語を理解し、使うための英語として習得する。
思考・解決力	与えられた課題に自分で考えて取り組めない。	与えられた課題に自分で考えて取り組めるが、解決出来ない問題に出会った時に諦める。	解決出来ない問題に出会った時に、解決策を探そうとする。	解決出来ない問題に出会った時に、解決策を探すため、様々な方向から検討できる。
共生・協働する力	クラスメートとのペアワーク、グループワークに取り組めない。	クラスメートとのペアワーク、グループワークに取り組める。	ペアワーク、グループワークに積極的に取り組める。	ペアワーク、グループワークに積極的に取り組めるのみならず、全員が楽しく参加できるよう工夫する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション Listening 模擬試験
Listening 模擬試験
- 第 2 回 Reading 模擬試験
Reading 模擬試験
- 第 3 回 Part 1, Part 5
Part 1, 動詞の聞き取り
Part 5 文法問題
- 第 4 回 Part 5 Part 2
Part 5 語彙問題
Part 2 質問、応答の多様性
- 第 5 回 Part 1 Part 2 Part 5 小テスト
Part 1 Part 2 Part 5 実践問題
Part 1, 2, 5, の小テスト
- 第 6 回 Part 3 Part 6
Part 3 問題の種類と選択肢の特徴
Part 6 問題の種類とパラグラフリーディング
- 第 7 回 Part 3 Part 6 実践問題
Part 3, Part 6 実践問題

- 第 8 回 Part 3 Part 6 小テスト
Part 3, Part 6 実践問題
Part 3, 6, 小テスト
- 第 9 回 Part 4 Part 7
Part 4 問題文の先読みと選択肢の特徴
Part 7 実用文書の特徴
- 第 10 回 Part 4 Part 7
Part 4 シチュエーションの把握
Part 7 問題文の種類と選択肢の特徴
- 第 11 回 Part 4 Part 7
Part 4 実践問題
Part 7 問題分析
- 第 12 回 Part 4 Part 7
Part 4 実践問題
Part 7 実践問題
- 第 13 回 Part 4 Part 7 小テスト
Part 4, 7 実践問題
Part 4, 7 小テスト
- 第 14 回 Listening 模擬試験
Listening 模擬試験 と解説
- 第 15 回 Reading 模擬試験
Reading 模擬試験 と解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. 本番と同じ問題を使って TOEIC の出題形式や意図を理解する。
 2. 解答ストラテジー (= 解法) のポイントをおさえ、使えるようにする。
 3. TOEIC に取り組むための基本的英語力をおさえる。
 4. TOEIC を通じて、社会人として必要な英語力を養う。
 5. TOEIC 試験対策という目的を超えコミュニケーションのために使える英語の習得も目指す。
 6. 授業ではペアワーク、グループワーク、発表などを通じて発話しながら学ぶ。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
予習よりも、指示された課題を家庭学習してください。授業で学んだ箇所は、何度も音声で聞いてください。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
小テスト 30%、
プリント課題 50%
授業中の模擬試験 20%、
- 〔留意事項 (Other Information)〕
初めて TOEIC を受験する学生から 400~500 点を目指す学生に適切なレベルのクラスです。
授業で使う課題用プリントは忘れず持参できるようファイルなどにまとめて管理してください。
授業の内容を理解するだけではなく、英語、または日本語での発話が必要になります。
シラバスの内容、進度、小テストの回数などは進み具合で

変わる可能性があります。また、コロナにより一部、または全面的に遠隔授業を余儀なくされた場合にも、変更の可能性が有ります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 6/ 国際ビジネスコミュニケーション協会/2020 /ISBN-10: 490603358X , ISBN-13: 978-4906033584/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で、役に立つ書籍、サイト、アプリ、番組などを紹介していきます。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

TOEIC, TOEFL, IELTS, 英検、指導経験あり。入試問題制作経験あり。

TOEIC II C

EGB1355C1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

1年次

2単位 後期

水曜 4限

DP3 : 言語力

60

定員40人

岡崎 央希

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

TOEICとは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界150か国で実施されており、各国の様々な企業、学校、団体において、いろいろな用途・目的で幅広く採用されています。日本の企業でも、新入社員の英語能力測定、英語研修の効果測定、海外出張・昇進・昇格の要件として利用されています。本科目では、TOEICに必要な基礎的な英語力の習得・強化を目指し、スコアアップを目標とします(目標スコア500点以上)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. TOEICの形式・指示・問題の傾向に慣れ、受験時の適切な時間管理と効率的な情報処理能力を養う
2. TOEICでよく使用される語彙や表現を身につける
3. 文法の復習をしながら、リーディング力を強化する
4. TOEICのためだけでなく、日常的に使える英語表現を習得することで、一般的な英語のコミュニケーション能力向上を目指す

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	TOEICの問題形式が理解できてない。	TOEICの問題形式を理解できている。	各パートの問題形式を理解し、時間配分を考えて問題に取り組むことができる。 Part3,4,7においては、設問パターンに慣れる。	各パートの問題形式を理解し、時間配分を考え、問題を解くことができる。 Part3,4,7においては、設問を先読みして、問題に取り組むことができる。
言語力	TOEIC頻出語彙がまったくわからない、又は覚えられない。	TOEIC頻出語彙がわかる。テキストで新しく学習した語彙を覚えることができる。	Listening-学習した語彙を聞き取ることができる。単語を正しく発音することができる。 Reading-基本的な英文法の知識を持っている。	Listening-音声を聞いて、意味が理解できる。 Reading-英文を読む際に、文章の前から文の意味をとることができる。設問に対して必要な情報だけを聞きとる、読みとることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、Unit1 Daily Life
- 第 2 回 Unit2 Places
- 第 3 回 Unit3 People
- 第 4 回 Unit4 Travel
- 第 5 回 Unit5 Business
- 第 6 回 Unit6 Office
- 第 7 回 Unit7 Technology
- 第 8 回 Unit8 Personnel
- 第 9 回 Unit9 Management
- 第 10 回 Unit10 Purchasing
- 第 11 回 Unit11 Finances
- 第 12 回 Unit12 Media
- 第 13 回 Unit13 Entertainment
- 第 14 回 Unit14 Health
- 第 15 回 TOEIC ハーフテスト実施と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Unitごとに授業を進めていきます。各Unitではそれぞれ統一されたトピックで、TOEICのPart1から7の全パートを学習します。各パートの出題形式に慣れ、解答時のポイントを抑

え、スピーディに解答できるように練習していきます。さらに、音声を使って、ディクテーションやリピーティング、シャドーウィングの練習に取り組みながら、基本語彙・表現の習得とリスニング力の強化を図ります。

授業での課題（テキスト問題、プリント学習、テスト）においては、実施後解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. テキストの予習
2. 前回の復習（毎回授業初めに前回学習した内容から頻出語句のテストを実施）

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度及び授業態度（予習・発表・発声）20%、小テスト（語彙）30%、パート別プリント問題30%、TOEICハーフテスト20%で評価を行います。

〔留意事項（Other Information）〕

授業には必ず辞書を持参すること。携帯電話を利用した辞書は認めません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST GOAL600』/Mark D. Stafford/桐原書店/2017/978-4-342-55263-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing I E

EGB2301E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 前期

金曜2限

DP3：言語力

60

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標（Course Description）〕

The aim of this course is to improve students' writing skills in order to be able to construct sound and coherent essays.

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Produce quality academic prose by editing and revising successive drafts of each essay.

Formulate and develop drafts based on controversial topics with an awareness of how it will be read by a general audience, and well supported by evidence. Self-evaluate writing, and give

critical feedback to peers. Properly acknowledge sources and

know how to avoid plagiarism. Develop a personalised learning strategy for improving writing and general academic skills.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Introductions	Does not meet course expectations yet	Can formulate a basic introduction	Shows awareness of introduction structure	Can formulate an effective introduction which primes the reader for essay content
Body Paragraphs	Does not meet course expectations yet	Can formulate basic body paragraphs	Shows awareness of elements of body paragraphs	Can construct well argued body paragraphs that flow coherently
Argumentation	Does not meet course expectations yet	Can state opinions clearly	Begins to include evidence for arguments	Can provide evidence for arguments made succinctly
Using sources	Does not meet course expectations yet	Can include outside sources	Understands in-text referencing systems	Can appropriately reference outside sources in arguments
Conclusions	Does not meet course expectations yet	Can formulate a basic conclusion	Shows awareness of elements of a conclusion	Can construct a conclusion that effectively summarizes the argument and displays an essay's contribution

Feedback	Does not meet course expectations yet	Can give and basic feedback	Begins to give critical feedback	Can give and receive critical feedback and apply this learning in their own writing
----------	---------------------------------------	-----------------------------	----------------------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
Introduction to the aims of the course and explanation of writing types/genres.
- 第 2 回 Essay Topic 1A
Formulating a first essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion
- 第 3 回 Essay Topic 1B
Refining a first essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses
- 第 4 回 Essay Topic 1C
Completion and self-review of first essay: Learning how to proofread prior to feedback and developing a self-critical lens
- 第 5 回 Peer Review 1
Peer Review on Essay Topic 1
- 第 6 回 Essay Topic 2A
Formulating a second essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion with sufficient background information and concluding arguments
- 第 7 回 Essay Topic 2B
Refining a second essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses, including honest and rigorous evaluations of opposing arguments in the body paragraphs
- 第 8 回 Essay Topic 2C
Refining a first essay: Elaborating on arguments, critically analyzing outside sources
- 第 9 回 Peer Review 2
Peer Review on Essay Topic 2
- 第 10 回 Essay Topic 3A
Formulating a third essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion with sufficient background information and concluding arguments *on a topic not well known*
- 第 11 回 Essay Topic 3B
Refining a third essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses, including honest and rigorous evaluations of opposing arguments in the body paragraphs, *on a topic not well known*
- 第 12 回 Essay Topic 3C

- Refining a third essay: Elaborating on arguments, critically analyzing outside sources and filling in knowledge gaps *on a topic not well known*
- 第 13 回 Peer Review 3
Peer Review on Essay Topic 3
- 第 14 回 Preparing for Final Writing Assignment
Students will engage in practice for timed writing assessments
- 第 15 回 Final Writing Assignment
Students will begin writing their final essays and will be given ongoing feedback. The final essay will be submitted.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted primarily in English. It is imperative that students complete assigned homework to prepare for classroom activities. Writing assignments are to be submitted

via manaba, and feedback/peer review of assignments will be conducted in class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for class by doing all writing and homework assignments. Students who do not complete homework will have a difficult time participating during class

time so it is essential that effort is made to keep up with the assignments.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Essays: 40%

Final assignment: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule is flexible. The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided by the teacher in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening I C

EGB2302C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Philip Gurney

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to improve students' academic and general English listening skills for the purposes of communication and study.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Improvement in academic English Listening through understanding and application of listening strategies, identifying elements of discourse, note taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

(2) Improvements in General English Listening by understanding and engaging with authentic examples of spoken English, and development and application of personalized listening and learning strategies.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Advanced Listening Expectations	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
1) Pragmatic awareness/ Critical listening: Understands rhetoric and is able to explain how specific speech/texts are conveying certain stances on issues.				

2) Interaction : Is able to employ back-channeling , questioning for information/clarification to an interlocutor. Is able to ask questions for clarification in complicated texts.				
3) Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize longer passages after listening once.				

<p>4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.</p>				
<p>5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.</p>				

<p>6) Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/ conclusions/ hypothesis about meaning not explicitly stated.</p>				
---	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introducing a Listening Course
- 第 2 回 Determining your Listening Level
- 第 3 回 Identifying Listening Strategies
- 第 4 回 Listening for the Main Idea
- 第 5 回 Listening for Reasons and Explanations
- 第 6 回 Listening for English Rhetorical Structure
- 第 7 回 Listening for Specific Functions
- 第 8 回 Clarifying & Summarizing
- 第 9 回 Recognizing a Speaker's Tone
- 第 10 回 Recognizing Signposts and Transition Words
- 第 11 回 Recognizing Facts & Opinions
- 第 12 回 Recognizing Cause & Effect Relationships
- 第 13 回 Inferring Meaning
- 第 14 回 Oral & Written Summaries
- 第 15 回 Review & Reflection

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

Students will be exposed to a wide variety of listening opportunities through the following:

- 1) discussion and presentation of topics with other students;
- 2) instructor's learning materials and exercises;
- 3) authentic English in the form of conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher and

classmates.

Students will demonstrate their skill and effort by completing weekly tasks, projects, and quizzes

Learning will supported through individual reflection, and feedback from the instructor and peers

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students are expected to complete their homework on time.

Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Student assessment will be based on the following:

(1) Projects 45%

(2) Weekly tasks 30%

(3) Quizzes & Surveys 15%

(4) Participation 10%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will

set the pace according to the needs and abilities of the class

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No textbook is required.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

<https://www.newsinlevels.com/>

<http://ello.org>

<http://www.cdlponline.org>

<https://lyricstraining.com/>

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Listening I E

EGB2302E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is to improve both academic and general English listening skills in order to prepare students for either a successful study abroad experience or for continued development of overall English communication skills.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

(1) By the end of the course, students will have shown improvement in:

Academic English Listening--understanding metacognitive listening strategies (methods used to help students understand the way they learn), listening for elements of discourse (main ideas, reasons, details, etc.), note-taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

General English Listening--understanding the challenging realities of spoken English (linking, blends, weak vowels, dropped sounds, syllable stress, etc.), identifying main ideas, compensation strategies, personalized strategies for continued listening improvements.

(2) Students will have been exposed to a wide variety of listening opportunities: conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher and classmates.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Can achieve a score of 250 in the TOEIC Listening Section..	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
2) Interaction /Pragmatic awareness/ Critical listening: Is able to employ backchallenging, questioning for information/ clarification to an interlocutor. Is able to ask questions for clarification in complicated texts. Understands rhetoric and is able	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

to explain how specific speech/texts are conveying certain stances on issues.				
3) Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize longer passages after listening once.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/conclusions/hypothesis about meaning not explicitly stated.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

[授業計画]

- 第 1 回 course introduction
- 第 2 回 Unit 1: Living for Work: Prelistening
- 第 3 回 Unit 1: Living for Work: Listening to an interview
- 第 4 回 Unit 1: Living for Work: Listening to an informal conversation
- 第 5 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: Prelistening
- 第 6 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: Listening to a lecture
- 第 7 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: Listening to a talk
- 第 8 回 Unit 3: Treasures from the Past: prelistening
- 第 9 回 Unit 3: Treasures from the Past: listening to a talk

第 10 回 Unit 3: Treasures from the Past: listening to a conversation
 第 11 回 Midterm review and expansion
 Midterm review and expansion
 第 12 回 Unit 4: Weather and Climate: listening to a radio show
 第 13 回 Unit 4: Weather and Climate: listening to a conversation
 第 14 回 Unit 4: Weather and Climate: expansion
 第 15 回 course review
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This class will be conducted entirely in English. Students will receive oral and written feedback on their work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should maximize their exposure to English outside of class through activities such as listening to songs and watching movies in English. Because interaction with other students will be an important part of the course, it is crucial to prepare well for each lesson in order to work together.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Class participation and quizzes 40%

Homework 30%

Final Project 30%

[留意事項 (Other Information)]

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the needs and abilities of the class.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

This course will use the same textbook as Advanced Listening 1E:

Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking by Becky Tarver Chase.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Speaking I E

EGB2303E0E

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 前期

月曜1限

DP3: 言語力

15

必修 クラス指定

Jacques Wilburn Hardy Jr.

[科目の教育目標 (Course Description)]

The aim of this course is to improve both academic and general English speaking skills in order to prepare students for either a successful study abroad experience or for continued development of overall English communication skills.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

(1) By the end of the course, students will have shown improvement in:

Academic English Speaking increasing productive vocabulary, understanding the difference between passive and active vocabulary, making academic presentations, speaking logically, asking better questions, using set academic phrases.

General English Speaking gaining some confidence from practicing a wide range of functions: giving & asking for an opinion, agreeing & disagreeing, explaining, interrupting, complaining, describing, giving & asking for advice, etc.

(2) Students will have been given to a great number of speaking opportunities with the aim of these experiences leading to increased speaking confidence: pair work, small group work, speeches, asking questions, asking follow-up questions, sharing opinions in class, etc.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
1) Prosody: Produces utterances that reflect knowledge of intonation, tone, word stress, and rhythm of English.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

2) Fluency: Is approaching a natural speed and smoothness (100 wpm+)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
3) Pronunciation: Has an awareness for one's own pronunciation weaknesses + goals	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
4) Pragmatics: Has an awareness of appropriate language to use in a specific context.	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
5) Complexity: Can use a variety of grammar structures and more advanced vocabulary (NGSL/Quizlet Set 96)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
6) Non-verbal communication: Can use non-verbal communication to convey ideas (eye contact, gestures etc.)	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

第 2 回 Unit 1: Living for Work: topic preview
Unit 1: Living for Work: topic preview

第 3 回 Unit 1: Living for Work: discussion
Unit 1: Living for Work: discussion

第 4 回 Unit 1: Living for Work: expansion
Unit 1: Living for Work: expansion

第 5 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: topic preview
Unit 2: Good Times, Good Feelings: topic preview

第 6 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: discussion
Unit 2: Good Times, Good Feelings: discussion

第 7 回 Unit 2: Good Times, Good Feelings: expansion
Unit 2: Good Times, Good Feelings: expansion

第 8 回 Unit 3: Treasures from the Past: preview
Unit 3: Treasures from the Past: preview

第 9 回 Unit 3: Treasures from the Past: discussion
Unit 3: Treasures from the Past: discussion

第 10 回 Unit 3: Treasures from the Past: expansion
Unit 3: Treasures from the Past: expansion

第 11 回 Midterm review and expansion
Midterm review and expansion

第 12 回 Unit 4: Weather and Climate: topic preview
Unit 4: Weather and Climate: topic preview

第 13 回 Unit 4: Weather and Climate: discussion
Unit 4: Weather and Climate: discussion

第 14 回 Final presentations
Final presentations

第 15 回 Final Presentations
Final Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
This class will be conducted entirely in English. Students will receive oral and written feedback on their work. The schedule for instruction may change to meet the needs of the class.
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
Students are expected to come to class with homework completed, textbook, and materials for the day. Active participation and cooperation are required.
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
Participation 40%
Homework 30%
Final Presentation 30%
〔留意事項 (Other Information)〕
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
This course will use the same textbook as Advanced Listening 1E:
Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking by Becky Tarver Chase.

〔授業計画〕

第 1 回 course introduction
course introduction

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

Advanced Reading II E

EGB2350E0J
 大学
 国際言語文化学部 > 英語英文学科
 2年次
 2単位 後期
 火曜 2限
 DP3 : 言語力
 60
 必修 クラス指定
 (未定)

[科目の教育目標 (Course Description)]

The focus of this course is on the continued development of English reading skills. The main goal is for students to improve their reading comprehension and vocabulary skills through intensive and extensive reading activities. Students will also acquire critical reading skills and the ability to express their views on various topics through discussion, presentation, and writing tasks. This course will also help students prepare for study abroad through immersion in the cultures and current events of their chosen destination countries.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

授業の概要

The course begins with a review of reading skills and the differences between intensive and extensive reading. Students will have the opportunity to reflect on their own reading habits in relation to the goals of the course and consider their individual strengths and weaknesses.

Activities will include reading clozes, scanning and skimming activities, comprehension tasks, and exercises in identifying main ideas and their supporting details.

Students will also discuss and present their own ideas in order to explore a critical analysis of the readings.

In addition, students will increase their receptive and productive vocabulary through a variety of lexical analysis activities.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

言語力 Advanced Reading Expectations: 1) Can read over 150 WPM; 2) Has reached Extensive Reading Goal; 3) Can score TOEIC 250 in Reading; 4) Can begin to notice rhetorical devices; 5) Can distinguish elements of various genres; 6) Can process and understand some academic discourse	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels in some areas	Exceeds most course expectations
---	---------------------------------------	--------------------------------	---	----------------------------------

[授業計画]

- 第 1 回 Review of Basic Reading Skills; Self-Reflection on Reading Habits
 - 第 2 回 Topic Sentences and Main Ideas
 - 第 3 回 Identifying Arguments and Opinions
 - 第 4 回 Finding Synonyms to Identify Repeated Ideas
 - 第 5 回 Identifying Examples, Reasons, and Explanations
 - 第 6 回 Recognizing Signposting to Understand Text Organization
 - 第 7 回 Identifying Primary and Secondary Research
 - 第 8 回 Using Pronoun Reference to Understand Text Organization
 - 第 9 回 Identifying Tone to Understand an Author's Opinion
 - 第 10 回 Deducing the Meaning of New Words from Context
 - 第 11 回 Identifying Definitions in Texts
 - 第 12 回 Distinguishing Facts from Assumptions
 - 第 13 回 Scanning Texts for Specific Examples
 - 第 14 回 Note Taking in Your Own Words
 - 第 15 回 Forming Research Questions
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In-class tasks will be completed individually, in pairs, and in small groups. Students will develop grammar and vocabulary knowledge through reading-based tasks.

Students will also do extensive reading outside of class on a regular basis. This requires students to select and read graded readers that suit their own interests and abilities. Students will demonstrate their extensive reading progress by completing quizzes and/or submitting book reports.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will provide answers to all reading comprehension questions so that students may check their own work.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students will be required to prepare for classes by completing homework assignments on time.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Reading Activities 40%

Written Work 20%

Vocabulary Quizzes 20%

Extensive Reading 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will set the pace according to the unique characteristics of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Writing II E

EGB2351E0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

Daniel Pearce

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is an extension of the first semester, and will follow roughly the same schedule. Students will be expected to

improve on their work from the previous semester. The aim of this course is to improve students' writing skills in order to be able to construct sound and coherent essays.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Produce quality academic prose by editing and revising successive drafts of each essay.

Formulate and develop drafts based on controversial topics with an awareness of how it will be read by a general audience, and well supported by evidence. Self-evaluate writing, and give

critical feedback to peers. Properly acknowledge sources and know how to avoid plagiarism. Develop a personalised learning strategy for improving writing and general academic skills.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Introduction	Does not meet course expectations yet	Can formulate a basic introduction	Shows awareness of introduction structure	Can formulate an effective introduction which primes the reader for essay content
Body Paragraphs	Does not meet course expectations yet	Can formulate basic body paragraphs	Shows awareness of elements of body paragraphs	Can construct well argued body paragraphs that flow coherently
Argumentation	Does not meet course expectations yet	Can state opinions clearly	Begins to include evidence for arguments	Can provide evidence for arguments made succinctly
Using sources	Does not meet course expectations yet	Can include outside sources	Can include outside sources	Can appropriately reference outside sources in arguments
Conclusions	Does not meet course expectations yet	Can formulate a basic conclusion	Shows awareness of elements of a conclusion	Can construct a conclusion that effectively summarizes the argument and

				displays an essay's contribution
Feedback	Does not meet course expectations yet	Can give and receive basic feedback	Begins to give critical feedback	Can give and receive critical feedback and apply this learning in their own writing

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
Introduction to the aims of the course and explanation of writing types/genres.
- 第 2 回 Essay Topic 1A
Formulating a first essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion
- 第 3 回 Essay Topic 1B
Refining a first essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses
- 第 4 回 Essay Topic 1C
Completion and self-review of first essay: Learning how to proofread prior to feedback and developing a self-critical lens
- 第 5 回 Peer Review 1
Peer Review on Essay Topic 1
- 第 6 回 Essay Topic 2A
Formulating a second essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion with sufficient background information and concluding arguments
- 第 7 回 Essay Topic 2B
Refining a second essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical analyses, including honest and rigorous evaluations of opposing arguments in the body paragraphs
- 第 8 回 Essay Topic 2C
Refining a second essay: Elaborating on arguments, critically analyzing outside sources
- 第 9 回 Peer Review 2
Peer Review on Essay Topic 2
- 第 10 回 Essay Topic 3A
Formulating a third essay: Working on constructing a solid introduction and conclusion with sufficient background information and concluding arguments *on a topic not well known*
- 第 11 回 Essay Topic 3B
Refining a third essay: Elaborating on arguments, including outside sources, conducting critical

- analyses, including honest and rigorous evaluations of opposing arguments in the body paragraphs, on a topic not well known
- 第 12 回 Essay Topic 3C
Refining a third essay: Elaborating on arguments, critically analyzing outside sources and filling in knowledge gaps *on a topic not well known*
- 第 13 回 Peer Review 3
Peer Review on Essay Topic 3
- 第 14 回 Preparing for Final Writing Assignment
Returning to a prior topic and preparing to refine the essay for academic assessment
- 第 15 回 Final Writing Assignment
Students will begin writing their final essay and will be given ongoing feedback. The final essay will be submitted via manaba

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course will be conducted primarily in English. It is imperative that students complete assigned homework to prepare for classroom activities. Writing assignments are to be submitted

via manaba, and feedback/peer review of assignments will be conducted in class.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must prepare thoroughly for class by doing all writing and homework assignments. Students who do not complete homework will have a difficult time participating during class

time so it is essential that effort is made to keep up with the assignments.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Participation: 20%

Essays: 40%

Final assignment: 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule is flexible. The teacher sets the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Materials will be provided by the teacher in class.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Advanced Listening II C

EGB2352C0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

1単位 後期

水曜 2限

DP3 : 言語力

15

必修 クラス指定

Philip Gurney

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The aim of this course is to continue to improve students' academic and general English listening skills for the purposes of communication and study.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) Further improvement in academic English Listening through understanding and application of listening strategies, identifying elements of discourse, note taking, explaining, summarizing, and paraphrasing.

(2) Further improvements in General English Listening by understanding and engaging with authentic examples of spoken English, and development and application of personalized listening and learning strategies.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
Advanced Listening Expectations	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
1) Pragmatic awareness/ Critical listening: Understands rhetoric and is able to explain how specific speech/texts are conveying certain stances on issues.				

2) Interaction : Is able to employ back-channeling , questioning for information/clarification to an interlocutor. Is able to ask questions for clarification in complicated texts.				
3) Fluency: Is able to glean sufficient information to sufficiently summarize longer passages after listening once.				

<p>4) Pronunciation: Is able to understand a variety of English pronunciation. Understands that variety exists, and beginning to develop the skills to understand unknown pronunciation through contextual information.</p>				
<p>5) Prosody: Understanding how intonation, tone and word stress correlate with meaning. Understands how elision works in English and is able to discern individual words in a stream of speech.</p>				

<p>6) Understanding complex texts: Is able to draw information from various parts of a text to form ideas/ conclusions/ hypothesis about meaning not explicitly stated.</p>				
---	--	--	--	--

[授業計画]

第 1 回 Introducing a Listening Course

第 2 回 Introduction to topics

第 3 回 Review Self-Study Strategies

第 4 回 Review Listening Strategies

第 5 回 Disappearing and Linking Sounds

第 6 回 Meaning & Intonation: Casting Doubt

第 7 回 Meaning & Intonation: Confidence

第 8 回 Clarifying & Summarizing

第 9 回 Guessing Meaning through Patterns

第 10 回 Supporting Evidence

第 11 回 Intonation & Emotion

第 12 回 Informing & Persuading

第 13 回 Summarizing: Listen to Write

第 14 回 Summarizing: Listen to Speak

第 15 回 Review & Reflection

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

This course will be conducted entirely in English. In-class activities will be completed individually, in pairs, and in small groups.

Students will be exposed to a wide variety of listening opportunities through the following:

- 1) discussion and presentation of topics with other students;
- 2) instructor's learning materials and exercises;
- 3) authentic English in the form of conversations, short lectures, podcasts, YouTube videos, songs, movies & TV shows, news programs, interviews, and live spoken English by the teacher

and
classmates.

Students will demonstrate their skill and effort by completing weekly tasks, projects, and quizzes.

Learning will supported through individual reflection, and feedback from the instructor and peers.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to complete their homework on time. Homework assignments include vocabulary study, extensive listening, and preparation for in-class activities.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Student assessment will be based on the following:

- (1) Projects 45%
- (2) Weekly tasks 30%
- (3) Quizzes & Surveys 15%
- (4) Participation 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

The schedule for instruction will be flexible. The instructor will

set the pace according to the needs and abilities of the class.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No textbook is required.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

<https://www.newslevels.com/>

<http://elllo.org>

<http://www.cdlponline.org>

<https://lyricstraining.com/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

Academic Writing I F

EGB3301F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

金曜 4限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

孫工 季也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では各自が自己の関心に基づきテーマを選択し、段階的な執筆、他者からおよび他者化へのフィードバック、推敲、を繰り返しエッセイを完成させる。その過程を通じ

卒業論文のための基礎的な力を獲得するだけでなく、ライティングにおける読み手と書き手への認識を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. パラグラフおよびエッセイの書き方や構成法の獲得
2. 批判的な読みおよび批判への寛容性の獲得
3. 計画性の獲得
4. 書き手および自己に対する認識の深化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Introduction

- 授業の説明、評価など
- Final Essay: テーマ選定

第 2 回 Academic Writing & Essay

- アカデミック・ライティングの構成とは
- エッセイ (essay) とは
- Final Essay: テーマ選定 (2)
- パラグラフ・ライティング①

第 3 回 outline

- アウトラインとは
- Final Essay: テーマ発表
- パラグラフ・ライティング①のフィードバック

第 4 回 Research

- 参考・引用と剽窃
- Final Essay: アウトラインの発表
- Final Essay: リサーチ
- パラグラフ・ライティング②

第 5 回 Introduction

- Introduction
- Final Essay: リサーチ発表
- パラグラフ・ライティング②のフィードバック

第 6 回 Introduction 2

#NAME?

第 7 回 Introduction 3

- Final Essay: Introduction のフィードバック
- パラグラフ・ライティング③ <提出>

第 8 回 Body

- Body
 - パラグラフ・ライティング③のフィードバック
- 第 9 回 Body 2
 - #NAME?
- 第 10 回 Body 3
 - Final Essay : Bodyのフィードバック
 - パラグラフ・ライティング④
- 第 11 回 Conclusion
 - Conclusion
 - パラグラフ・ライティング④のフィードバック
- 第 12 回 Conclusion 2
 - #NAME?
- 第 13 回 Conclusion 3
 - Final Essay : Conclusionのフィードバック
 - パラグラフ・ライティング⑤
- 第 14 回 Revising Your Essay
 - Final Essay : 全体
 - パラグラフ・ライティング⑤のフィードバック
- 第 15 回 Checking Your Essay
 - Final Essay : 全体のフィードバック
 - まとめ

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

教員は学生の質問や回答に対し適宜フィードバックを行います。学生同士の主体的な学び合いにより授業が展開されていくことを望みます。授業ではペアワークやグループワークを取り入れます。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

- ・ 普段から身の回りの書きものの書かれ方に注目する
- ・ 普段から読み手および書き手を意識する

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業への積極的な参加と貢献 40%

課題提出 60%

[留意事項 (Other Information)]

授業の進度や学生の反応に応じてシラバスを変更することがあります。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

授業者が用意します。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業内で紹介します。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

Academic Writing II F

EGB3351F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 後期

金曜 4限

DP3 : 言語力

60

必修 クラス指定

孫工 季也

[科目の教育目標 (Course Description)]

この授業では前期に引き続き、各自が自己の関心に基づきテーマを選択し、段階的な執筆、他者からおよび他者へのフィードバック、推敲を繰り返しエッセイを完成させる。その中で卒業論文のための基礎的な力を獲得するだけでなく、ライティングにおける読み手と書き手である自己への認識を高めることを目標とする。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. パラグラフおよびエッセイの書き方や構成法の獲得
2. 批判的読みおよび批判への寛容性の獲得
3. 計画性
4. 書き手および自己に対する認識の深化

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力、表現力、読みやすさ、	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

[授業計画]

第 1 回 Introduction

●授業の説明

- Final Essay : テーマ選定

第 2 回 Academic Writing

- Final Essay : テーマ選定 (2)

- パラグラフ・ライティング①

第 3 回 Outline

●アウトラインとは

- Final Essay : テーマ発表

- パラグラフ・ライティング①のフィードバック

第 4 回 Research

- Final Essay : アウトラインの発表

- Final Essay : リサーチ

- パラグラフ・ライティング②

第 5 回 Introduction

●Introduction

- Final Essay : リサーチ発表

- パラグラフ・ライティング②のフィードバック

第 6 回 Introduction 2

#NAME?

- 第 7 回 Introduction 3
- Final Essay : Introductionのフィードバック
- パラグラフ・ライティング③
- 第 8 回 Body
●Body
- パラグラフ・ライティング③のフィードバック
- 第 9 回 Body 2
#NAME?
- 第 10 回 Body 3
- Final Essay : Bodyのフィードバック
- パラグラフ・ライティング④
- 第 11 回 Conclusion
●Conclusion
- パラグラフ・ライティング④のフィードバック
- 第 12 回 Conclusion 2
#NAME?
- 第 13 回 Conclusion 3
- Final Essay : Conclusionのフィードバック
- パラグラフ・ライティング⑤
- 第 14 回 Revising Your Essay
- Final Essay : 全体
(- パラグラフ・ライティング⑤のフィードバック)
- 第 15 回 Checking Your Essay
- Final Essay : 全体のフィードバック
- まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教員は学生の質問や回答に対して口頭で適宜フィードバックを行います。学生同士の主体的な学び合いにより授業が展開されていくことを望みます。授業ではペアワークやグループワークを取り入れます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 普段から身の回りの書きものの書かれ方に注目する
- ・ 普段から読み手を意識する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への積極的な参加と貢献 40%

課題提出 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進度や学生の反応に応じてシラバスを変更することがあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業者が用意します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門講読 (米文学) A

EGF2251A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、アメリカ文学の短編集を読み、基礎的なreading skillを習得することと、それぞれの作品を多角的な視点で解釈することを目的とする。テキストは全て原作で構成されており、生の英語文学に触れることを通じ、英語を正確に読む力を養う。また授業で扱う短編小説群は家族にまつわるストーリーで構成されている。一見すると、起承転結のない平凡な物語に見えるが、深くテキストを掘り下げることによって、様々な解釈が生み出されるものばかりである。ただ単に英語の文章を読むのではなく、一文一文丁寧に検証することによって、様々な意味を浮き彫りにし、文学が孕む無限の解釈の可能性を探っていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 文学を正確に読むために、語と語のつながりを、前置詞に至る次元まで正確に読む。
- 2 一文一語にこだわり解釈の可能性を見出す。
3. それぞれの作品の時代背景や、作家の自伝的要素に触れ、それらがテキストにどのように影響しているかを考察する。
4. 文学作品を英語で読む楽しみを覚える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 "Laughing Sam" (pp.7-9)
- 第 3 回 "Laughing Sam" (pp.10-12)
- 第 4 回 "Laughing Sam" (pp.13-15)
- 第 5 回 "Laughing Sam" Review & Analysis
- 第 6 回 "Locomotive 38, the Ojibway" (pp.16-19)
- 第 7 回 "Locomotive 38, the Ojibway" (pp.20-23)
- 第 8 回 "Locomotive 38, the Ojibway" (pp.24-27)
- 第 9 回 "Locomotive 38, the Ojibway" (pp.28-29), Review & Analysis
- 第 10 回 "The Pomegranate Trees" (pp.30-33)
- 第 11 回 "The Pomegranate Trees" (pp.34-37)
- 第 12 回 "The Pomegranate Trees" (pp.38-41)
- 第 13 回 "The Pomegranate Trees" (pp.42-45)
- 第 14 回 "The Pomegranate Trees" (pp.45-47)
- 第 15 回 "The Pomegranate Trees" Review & Analysis

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業では、一文ずつ意味をたどっていく。難しい箇所、また不可解な箇所について、時間を割き、テキストの検証を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

開講時に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (授業への貢献度) 30%

レポート 70%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Best Stories of William Saroyan / William Saroyan / 成美堂 / 1982 / 4-7919-0512-1 / 学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

研究方法論 (英語教育学) A

EGF2255A0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語教育学に関する研究を進めていく上で、必要な基礎となる考え方及びその研究方法論の基礎の習得を目指します。この領域において用いられる代表的な研究手法について、講義や演習を通して、主体的・協同的に学ぶ機会を提供します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・英語教育学について基礎的な知識を習得する。
- ・英語教育分野における研究方法について基本的な知識を習得する。
- ・英語教育分野に関する内容を、主体的・協同的に議論する。
- ・卒業研究に向けて、英語教育分野における学習者自身の関心を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自身の学習課題を持っていない。	指示された内容は実行できる。	指示された内容を少し広げて実行できる。	指示された内容から、自身の興味関心に結び付けて行動することができる。
知識・理解力	英語教育学について、何も語れない。	英語教育学の分野に関するテキストを読んでいる。	英語教育学分野に関して、テキストの範囲内容を理解している。	テキストを超えて、幅広く、英語教育学分野の研究内容について調べ、理解している。
共生・協働する力	ペアやグループで、一緒に活動できない。	グループで活動しようと努力している。	自ら一進んでグループやペアで活動しようとする。	自分の特性を把握したうえで、課題に応じて、をみつけることができる。かつ、全体のバランスに配慮することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 英語の国際化と日本の英語教育
 - ・国際コミュニケーションのための英語教育
 - ・日本の英語教育の変遷
- 第 3 回 言語習得と学習者
 - ・発達の要因, 適性要因, 認知的要因
- 第 4 回 言語習得と学習者
 - ・動機付け, アクティブ・ラーニング型の学習
- 第 5 回 英語教授法 1
 - ・教授法の種類, フォーカス・オン・フォームと英語教授法
- 第 6 回 英語教授法 2
 - ・Communicative Language Teaching, CLT
 - ・Content and Language Integrated Learning, CLIL
 - ・Content-Based Teaching, CBT
- 第 7 回 第二言語習得と英語教育
 - ・第二言語習得研究と英語教育
 - ・教室内第二言語習得の諸問題
- 第 8 回 コミュニケーション能力
 - ・コミュニケーションストラテジー
 - ・コミュニケーション活動
 - ・コミュニケーションと文法の知識
- 第 9 回 4技能統合型指導
 - ・中等英語科教育における4技能統合型指導について
 - ・初等英語科教育との相違
- 第 10 回 初等・中等英語教育
 - ・小学校における英語教育の早期化について
 - ・小中外国語科連携教育について
- 第 11 回 教科書と教材研究
 - ・教材研究の意義
 - ・教材分析と評価の視点
- 第 12 回 異文化理解と教材研究
 - ・異文化理解を取り入れたリーディング教材
 - ・英語の歌や映画を活用した異文化理解
- 第 13 回 語学教育とICT教材
 - ・英語教育におけるICT活用とその効果
- 第 14 回 英語教育に関する研究論文
- 第 15 回 まとめとディスカッション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・主体的・協同的な授業形態を採用するため, 演習を中心として授業を展開します。演習中はクラス全体が「学習する組織」として機能するよう活発な意見交換が求められます。課題・レポートに関するフィードバックは, 必要に応じて授業内またはweb上で, 個人または全体に対して行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回該当する章や参考文献を読んで, お互いに議論や質問できる状態になっているよう準備してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の参加度 30%
 発表 30%
 まとめのレポート 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので, 必ず指定された予習や課題を行って自身の課題を持って授業に臨んでください。明らかに予習不足で議論に参加できない場合, 出席しているとみなすことはできません。やむを得ない場合を除き, 担当箇所の発表を行わなかった場合は, 単位が認められません。

・実習等でやむを得ず欠席する場合は, 欠席した箇所のテキストを読んでレポートにまとめて提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』/望月昭彦(編著)/久保田章/磐崎弘貞/卯城祐司/大修館書店/2018/9784469246216 学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『英語教育用語辞典』白畑知彦ら 著/大修館書店/2019/9784469246285

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公立小・中学校英語教員, 小中外国語教育コーディネーターの経験あり

英語教材作成演習

EGR3252N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

初等外国語教育に重点を置き, 私立小学校や公立小学校における教科としての「英語科」と「外国語活動」を指導するために必要な知識と技能の習得を目指します。そのうえで, 教材作成を通して, 特に公立小学校での「外国語活動」の望ましい指導法を考案・実践できることを目標とします。教材作成には, 従来の副教材作成以外に, パワーポイント, 電子黒板, タブレットPCなどを利用したICT教材の作成と利用法の習得も含まれます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

小学校における外国語活動のための教材作成とその活用方法を考えます。①ピクチャーカードの作成, チャンツや英

語の歌の導入方法、ピクチャーブックを使用したストーリーテリング、フォニックスの活用について考えます。②個人/グループで作成した教材を活用し、模擬授業を行い小学校での授業実践に備えます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教材研究・授業構想力	学習指導案に基づいた教材作成ができない。	学習指導案に基づいた教材作成ができる。	学習指導案に基づいた教材作成ができ、活用できる。	学習指導案に基づいた独自の教材作成ができ、活用できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
理論編 1：小学校外国語教育の背景
- 第 2 回 学習指導要領 外国語活動・外国語編
理論編 2：目標と指導内容 3 領域から 5 領域へ
- 第 3 回 カリキュラム 外国語活動・外国語編
理論編 3：年間指導計画作成と単元計画のポイント
- 第 4 回 学習指導案と学習評価
理論編 4：指導案作成と評価方法
- 第 5 回 学習指導案と教材研究 1
実践編 1-1：場面設定とピクチャーカードの活用
- 第 6 回 学習指導案と教材研究 2
実践編 1-2：場面設定と ICT 教材の活用
- 第 7 回 教材研究と授業計画 1
実践編 2-1：個人/グループの教材作成：考案と作成（チャンツや歌を使った活動）
- 第 8 回 教材研究と授業実践 1
実践編 2-2：個人/グループによる模擬授業と教材修正
- 第 9 回 教材研究と授業計画 2
実践編 3-1：個人/グループの教材作成：考案と作成（ゲームを使った活動）
- 第 10 回 教材研究と授業実践 2
実践編 3-2：個人/グループによる模擬授業と教材修正
- 第 11 回 教材研究と授業計画 3
実践編 4-1：個人/グループの教材作成：考案と作成（絵本の活用）
- 第 12 回 教材研究と授業実践 3
実践編 4-2：個人/グループによる模擬授業と教材修正
- 第 13 回 教材研究と授業計画 4
実践編 5-1：個人/グループの教材作成：考案と作成（デジタル教材作成）
- 第 14 回 教材研究と授業実践 4
実践編 5-2：個人/グループによる模擬授業と教材修正
- 第 15 回 リフレクション
まとめ 授業実践と事後の評価と省察

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

小学校における外国語活動を円滑に進める教材作成を以下の方法で学びます。①小学校の英語活動を進める上で必要となる、指導目標と関連した指導内容、カリキュラムの組み方、指導案の事例研究と基礎理論と指導方法の理解。②個人/グループの教材作成と模擬授業。

各課題に対するフィードバックは、その都度行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストや参考文献を参照しながら、毎回の授業における教材の作成、指導案、模擬授業のための準備をしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

成績は以下の割合をもとに、総合的に評価します。

教材の作成	40%
指導案の作成	30%
模擬授業	30%

〔留意事項（Other Information）〕

教職課程の3年生以上の学生の履修が望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・『小学校外国語活動の進め方』/岡秀夫・金森強/成美堂/
ISBN-13: 978-4791971541

・Let's Try! 1—新学習指導要領対応小学校外国語活動教材 /
東京書籍/ ISBN-13: 978-4487258703

・Let's Try! 2—新学習指導要領対応小学校外国語活動教材 /
東京書籍/ ISBN-13: 978-4487258710

・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・
外国語編 開隆館出版

ISBN-13: 978-4304051685

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・コア・カリキュラム対応 小・中学校で英語を教えるための
必携テキスト/中村 典生(監修)/

/東京書籍/ ISBN-13: 978-4487811465

・小学校外国語活動“Let's Try! 1&2”の授業&評価プラン
『授業力&学級経営力』PLUS

/菅 正隆(著, 編集)/図書出版/ ISBN-13: 978-4180687244

〔参考URL(URL for Reference)〕

・新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm

・3年生教材 Let's Try 1 https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/12/12/1396780_06.pdf

・4年生教材 Let's Try 2
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/12/12/1396780_09.pdf

・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編（PDF）

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公立小・中学校における英語教員，小中外国語コーディネーター教員の経験あり

旅行観光業研究

EGR3500N1J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP5：共生・協働する力

60

集中

塩崎 裕司

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現在、新型コロナウイルスによる影響を大きく受けている観光・旅行業界であるが、観光資源保護の重要性や我が国観光政策がたどった経緯をとおり、観光を取り巻く環境とそれに対応する観光・旅行産業の動向を踏まえて、わが国が目指す「観光立国」の課題と展望を考察することができる。また、環境の変化や相手の事情を踏まえ、自らの行動を考えていく対応力を養う

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・「観光立国」を目指すわが国の動向や政策を理解し、その課題や展望を受講者自身の考えのもと説明できる知識を身につける。

・観光資源の保護と観光のかかわりを理解し、観光・旅行産業のありかたを考える。

・観光・旅行産業に関心をもつ受講生については、この授業で得た知識を契機に業界や企業研究をふかめ、進路選択に積極的に活用することを目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力	講義内容を理解できず、課題も把握できない。	理解できない点を明確に認識し、質問できる。	講義の内容を理解し自分で疑問点を解消出来る。	学習した内容を踏まえ、将来の課題やあり方を自身の考えで論じることが出来る
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
講師紹介、履修上の留意点、授業の概要、到達目標、成績評価などの説明。また、授業計画の構成についても説明する。
- 第 2 回 観光資源（世界遺産）
世界遺産を深く理解していく。無形文化遺産、世界危機遺産や「負」の遺産といわれている世界遺産についても詳しく解説する。
キーワード:ユネスコ三大事業、世界遺産、危機遺産
- 第 3 回 観光資源の保護（歴史的背景と自然公園法）
観光資源をいかに保護していくのか。現在にいたる経緯も含めて学習する。また資源を保護するために制定された法律も学ぶ。今回は「自然公園法」による保護。
キーワード:ラムサール条約、自然公園法、日本の国立公園
- 第 4 回 観光資源の保護（文化財保護法、古都保存法、景観法、民間の活動）
観光資源を保護するために制定された法律や民間の活動を学ぶ。
今回は、文化財保護法、古都保存法、景観法と民間の活動。
キーワード:文化財保護法、古都保存法、景観法、ナショナルトラスト
- 第 5 回 日本の観光政策（歴史と課題）
成長戦略として期待される観光業の果たすべき役割と、観光立国として目指すべき道について説明する。
キーワード:観光立国基本法、観光庁、ゴールデンルート
- 第 6 回 日本の観光政策（外客誘致）
少子高齢化が進展し国内消費が振るわないなか、訪日外国人を増やす方策と工夫が外貨獲得の大きな鍵となっている。2021年に延期されたオリンピック・パラリンピック、2025年の大阪・関西万博に向けて外国人にとって魅力ある観光づくりについて講義する。キーワード:日本政府観光局、オーバーツーリズム、民泊
- 第 7 回 日本の様々な観光旅行

- わが国特有の修学旅行、新婚旅行や家族旅行の現状と将来のあり方について学習する。
- キーワード:修学旅行、新婚旅行、ロングステイ
- 第 8 回 旅行業（旅行代理店の実態）
観光産業の主役である旅行業の実務について学習する。旅行業の役割と機能について解説し、旅行代理店の実態を学ぶ。
キーワード:旅行業法、営業保証金制度、旅行業務取扱管理者
- 第 9 回 旅行業の課題と将来展望
旅行代理店が直面している課題やその対応策を学習し、旅行業の将来像を展望する。
キーワード:大手旅行代理店、ネット専業業者、ホールセラー
- 第 10 回 リゾート法とテーマパーク
1987年に制定されたリゾート法が、観光業にもたらした影響を学ぶ。また、東京ディズニーリゾートやUSJなどのテーマパークについても、その成功事例と失敗事例を解説する。キーワード:リゾート法、テーマパーク、TDRとUSJ
- 第 11 回 観光関連産業（宿泊業）
観光と強い関連のある宿泊業について、その発祥と辿った歴史、現状とそのビジネス特性、経営形態の種類を学び、課題と将来展望を考察する。
キーワード:グランドホテル、旅館業法、運営受託方式とフランチャイズ方式
- 第 12 回 観光関連産業（航空業）
航空の歴史、特にオープンスカイ政策や我が国の45・47体制から航空自由化への流れを学習し、その結果生まれたLCCやアライアンスの特性について学ぶ。
キーワード:シカゴ条約、45・47体制、LCC、アライアンス
- 第 13 回 観光関連産業（鉄道業）
観光と深いかかわりをもつ鉄道について、JRや私鉄の生き残りをかけての工夫や努力を解説する。また、世界遺産に登録されている鉄道についても紹介。
キーワード:大手民鉄、観光列車、鉄道の関連事業、外部経済効果
- 第 14 回 観光関連産業（クルーズ）
海に囲まれた国でありながら、クルーズ後進国といわれるわが国において、その現状と課題について学習し、将来の展望を考える。
キーワード:外航クルーズ、ショートクルーズ、寄港回数
- 第 15 回 形成テストとまとめ
全体のまとめと形成テストを行う。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
対面講義形式で実施予定。毎回、授業用に作成したPPTを使って授業を行う。また、講義に関連したビデオも使いより

理解を深める内容としている。PPTに沿った資料を配布し、特に留意すべきポイントについては、履修者自らがPPTから得た内容を記入することで、授業の要点を把握する構成としている。毎回、授業後に理解度と学習状況把握のため、講義テーマに応じた設問へのコメントを出席表をかねた小レポートに記入・提出してもらおう。レポートの内容や質問については次回の講義冒頭にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・事前学習:日頃より新聞、各種メディアに取り上げられている「観光」に係る報道Topicsに注目し、積極的に予備知識の習得に努めるとともに、授業計画に示した各回講義のキーワードについて事前に調べ、毎回の授業終了後に提出するレポートに反映すること。

・事後学習:毎回配布する資料の空欄となっている要点についてPPTより読み取り、自らの知識として整理しておくこと。授業内容に関する質問がある場合は、授業終了後に提出するレポートに記入し、次回講義冒頭にフィードバックする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への取り組み40%：各回授業終了後に出席表をかねて提出するレポートの記述について日ごろから習得した知識や準備学習として調べた内容がいかに関係しているかを評価する。

形成テスト60%：各回の授業で学習した内容に関する設問をとおして、本講義の理解度を把握する。幅広い出題範囲への対応が求められるので、資料ポイントの復習・整理が必要。

上記、授業への取り組みと形成テストに基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用せず、授業用のレジュメを配布し、PPTの内容に沿って講義する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

観光経営学/岡本伸之(編著)/朝倉書店/2013

観光学入門/岡本伸之(編)/有斐閣アルマ/2001

数字が語る旅行業2020/日本旅行業協会(編)/日本旅行業協会/2020

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www.mint.go.jp/kankochu/> 観光庁HP 観光動向/各種データ等

<http://www.jnto.go.jp/jpn/> 日本政府観光局HP 観光動向/各種データ等

<https://www.jata-net.or.jp> 日本旅行業協会HP 観光動向/各種データ等

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

わが国主要航空会社であるANAで、空港旅客業務、国際線チャーター業務をはじめ旅行業務を担当するとともに、グループ会社を含む、総務・人事・経営部門に長年携わってきた。

英語英文学演習Ⅰ

EGS3500I0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

3年次

2単位 前期

水曜3限

DP5：共生・協働する力

60

集中

木島 菜菜子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本演習では、19世紀イギリスを代表する作家Charles Dickensの作品の一部を精読する。また、作品の背景や文学史上の位置づけについて、先行研究をもとに調査・考察することによって、知識を広げ、英語を正確に読む力、作品分析をする力、物事を多角的に評価し、批評する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. テクストの精読。
2. 作家の伝記的背景、時代背景およびテキスト成立の背景に関する調査。
3. 英文学史におけるテキストの位置づけについての調査。
4. 先行研究を踏まえた作品分析。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力：辞書を丁寧にひきながら予習をして授業に参加し、授業中の訳読や議論に積極的に参加できる				
知識・理解力：作者や作品の背景について基礎的な知識を持ち、作品に関する様々な論点を理解できる。				

言語力：文学作品を原書で読むための英語読解能力を持っている。				
思考・解決力：想像力をつかって作品を理解できる。				
共生・協働する力：意見交換やディスカッションを通じて、作品についてのお互いの理解を高めあえる。				
創造・発信力：作品の主題や読みどころについて自分の言葉で表現できる。				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction
- 第 2 回 *Great Expectations*: group presentation (1) and comments
Chapter 1
- 第 3 回 *Great Expectations*: group presentation (2) and comments
Chapter 2
- 第 4 回 *Great Expectations*: group presentation (3) and comments
Chapter 3
- 第 5 回 *Great Expectations*: group presentation (4) and comments
Chapter 4
- 第 6 回 *Great Expectations*: group presentation (5) and comments
Chapter 5
- 第 7 回 *Great Expectations*: group presentation (6) and comments
Chapter 6
- 第 8 回 *Great Expectations*: group presentation (7) and comments
Chapter 7
- 第 9 回 *Great Expectations*: group presentation (8) and comments
Chapter 8

- 第 10 回 *Great Expectations*: group presentation (9) and comments
Chapter 9
- 第 11 回 *Great Expectations*: group presentation (10) and comments
Chapter 10
- 第 12 回 *Great Expectations*: group presentation (11) and comments
Chapter 11
- 第 13 回 *Great Expectations*: group presentation (12) and comments
Chapter 12

第 14 回 Discussion and Final Paper directions

第 15 回 Review

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業は、各受講生のテキストの精読をもとにした輪読形式で進められる。

受講生は、毎週指定されるテキストの該当箇所を読んだ上で授業に出席する。

グループ・プレゼンテーションの担当者は、物語展開の要旨やテキスト精読上のポイント、注釈などをまとめて発表する。

受講生全員で、プレゼンテーションやテキストの内容について質疑応答やコメントを行う。

最後に、各受講生によるテキストの内容に関するプレゼンテーションを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週指定されるテキストの該当箇所を辞書や参考文献を参照しながら精読する。

プレゼンテーションを担当する際には、人数分のハンドアウトを用意する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 30% : 輪読、質疑応答、コメント、Discussion への参加。

課題 40% : group presentations, Final Presentation

Final paper 30%

課題へのフィードバックは、個別に内容を添削し、コメントをつけて返却することでおこないます。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Great Expectations / Charles Dickens / Penguin / 2003 / 学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600F0J

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600HOJ

大学

国際言語文化学部 > 英語英文学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II(3年次ゼミ)で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文(卒業論文)を執筆することである。

卒業研究は大学における学習／研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する:

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする(2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

EGS4600K0J
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
4年次
8単位 集中
その他
DP6: 創造・発信力
小山 哲春 York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II (3年次ゼミ) で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文 (卒業論文) を執筆することである。

卒業研究は大学における学習/研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する:

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義/創造性/新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする (2019年10月15日締切)。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段

階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門講読 (米文学) B

EGF2251B0J
大学
国際言語文化学部 > 英語英文学科
2年次
2単位 後期
金曜 3限
DP2: 知識・理解力
60
Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course introduces literature written by Nikkei diaspora.

The course prepares sophomore students for advanced study of Nikkei diaspora literature in their junior and senior years.

The course gives the necessary historical, methodological, and theoretical background needed to analyse diaspora literature.

The course uses a wide range of primary source materials in English.

With nearly 3 million Nikkei (more than the population of Osaka!) living in countries around the world, there are many fascinating works to study. We will study a sample of these, focusing this semester on short stories. We explore these stories using various methodologies, theories, and concepts which help us to understand what it means to be of Japanese ancestry outside of Japan. By starting with these short, relatively simple stories we will build up to longer, more complex novels in our future study.

Here is a list of the short stories we will read during this course:

Masako Fukui "When Blossoms Fall" (Australia)

Hisaye Yamamoto "A Day in Little Tokyo" (United States)

Kazuo Ishiguro "The Summer After the War" (United Kingdom)

Jeff Chiba Stearns and Lillian Michiko Blakey "On Being Yukiko" (Canada)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

This course introduces students to key issues relating to literature written by people of Japanese descent abroad.

By the end of the course, students will:

have an understanding of Japanese identity and belonging outside of Japan in English-speaking countries.

develop an ability to analyse literature using close reading.

improve their English reading and writing skills.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

[授業計画]

- 第 1 回 Japanese Diaspora Literature
- 第 2 回 Literary Theory
- 第 3 回 Identity & Belonging
- 第 4 回 Masako Fukui - "When Blossoms Fall" (pp. 1-7)
- 第 5 回 Masako Fukui - "When Blossoms Fall" (pp. 8-19)
- 第 6 回 Masako Fukui - "When Blossoms Fall" (pp. 20-31)
- 第 7 回 Masako Fukui - "When Blossoms Fall" (pp.32-43)
- 第 8 回 Hisaye Yamamoto - "A Day in Little Tokyo" (pp. 114-116)
- 第 9 回 Hisaye Yamamoto - "A Day in Little Tokyo" (pp. 117-121)
- 第 10 回 Kazuo Ishiguro "The Summer After the War" (pp. 1-3)
- 第 11 回 Kazuo Ishiguro "The Summer After the War" (pp. 4-8)
- 第 12 回 Kazuo Ishiguro "The Summer After the War" (pp. 9-13)
- 第 13 回 Kazuo Ishiguro "The Summer After the War" (pp. 14-17)
- 第 14 回 Jeff Chiba Stearns and Lillian Michiko Blakey "On Being Yukiko" (pp. 1-28)
- 第 15 回 Jeff Chiba Stearns and Lillian Michiko Blakey "On Being Yukiko" (pp. 29-56)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of group discussions, assignments, tests, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, tests, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Students should prepare for each class as directed by the professor. Usually this will be a close reading of the novel we are reading. **A close reading requires taking notes and writing a summary of the assigned pages, plus writing at least 2-3 questions and points for discussion with other students and the professor.**

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments and tests 100%

[留意事項 (Other Information)]

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

There is no textbook required for this course.

[参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

Chiba Stearns, Jeff and Lillian Michiko Blakey. "On Being Yukiko". Forthcoming December 2020. 56 pages.

Desoto, Hisaye Yamamoto. "A Day in Little Tokyo." Amerasia

Journal 13.2 (1986): 21-28.

Fukui, Masako, and Sally Breen. "When blossoms fall." Griffith Review 46 (2014): 187. <https://www.griffithreview.com/articles/when-blossoms-fall/>

Ishiguro, Kazuo. "The Summer After the War." Granta 7. (1983). <https://granta.com/summer-after-the-war/>
 [参考URL(URL for Reference)]
www.lyledesouza.com/teaching
 [実務経験のある教員による実践的科目]

ウェブプログラミング演習

CSA2463N0J
 大学
 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)
 2年次 3年次 4年次
 2単位 後期
 水曜3限
 DP4: 思考・解決力
 60
 定員24人
 伊藤 泰子

[科目の教育目標 (Course Description)]

プログラム言語JavaScriptを利用して、プログラミングやアルゴリズムを学ぶ。
 プログラミングを通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考やプログラム作成の技術を養う。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- ・ 基本制御構造
- ・ オブジェクト指向プログラミング
- ・ フォーム部品との連携
- ・ アルゴリズム
- ・ 動的なWebコンテンツの作成

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
制御構造の理解	制御構造がわからない	個々の制御構造が理解できる	制御構造を組み合わせてコーディングできる	逐次・選択・反復を適切な順序で組み合わせて、要求に応じたプログラムを完成できる
インタラクティブなページを作成できる	フォーム部品を知らない	fフォーム部品を使ったWebページを記述できる	的確なフォーム部品の選択し、Webページを作成することができる	ユーザが入力・選択した値に応じたプログラムを作成できる

アルゴリズムの理解	アルゴリズムを知らない	代表的なアルゴリズムを知っている	代表的なアルゴリズムが理解できる	代表的なアルゴリズムをプログラムで表現できる
動的なコンテンツの作成	動的なコンテンツに興味がない	動的なコンテンツがどのようなものか理解できる	動的なコンテンツを作成できる	ユーザーフェイスを考慮した使いやすい動的なコンテンツを作成できる

[授業計画]

- 第 1 回 JavaScriptとは
- 第 2 回 基本制御構造 1 (順次、反復)
- 第 3 回 基本制御構造 2 (選択)
- 第 4 回 オブジェクト指向 1 (オブジェクトとは、オブジェクトの種類)
- 第 5 回 オブジェクト指向 2 (フィールド、メソッドの利用)
- 第 6 回 オブジェクト指向 3 (メソッドの活用)
- 第 7 回 フォームタグとの連携 1 (文字列操作、デザイン変更)
- 第 8 回 フォームタグとの連携 2 (演算処理)
- 第 9 回 関数の定義とイベント処理
- 第 10 回 DOM CSSの操作 1 (JSを利用して動的にデザインを変更する)
- 第 11 回 DOM CSSの操作 2 (JSを利用して動的にHTMLコンテンツを変更する)
- 第 12 回 検索・ソートなどの代表的なアルゴリズム
- 第 13 回 CANVASを使って図形を描画する
- 第 14 回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ設計)
- 第 15 回 課題作成 (JavaScriptを利用したコンテンツ作成)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

実習形式で行う。適宜、演習課題や小テストも課す。フィードバックとして、課題・テスト提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

積み上げ式の授業なので、特に予習をする必要はないが、復習は必ず行う。毎回宿題を出すので、自分のペースでじっくり復習しながら問題を解いていく。わからない部分は必ず質問すること。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業参加度 (50%)、課題 (30%)、テスト (20%)

[留意事項 (Other Information)]

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。

適宜、必要資料を配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

ウェブプログラミング演習

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/js/index.html>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

スピーチの基礎

CSA2307N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

水曜 3限

DP3: 言語力

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

聞き手に受け入れられやすい話し方についての理解を深め、スピーチに関する基礎技法と心構えを習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・スピーチのための準備・練習・本番を通して、準備の必要性や楽しさを実感する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己課題を認識していない	自己課題を認識している。	自己課題を適切に認識し、改善に努めている。	自己課題を適切に認識し、改善している。
言語力	スピーチ等をしない。	スピーチ等の改善に取り組んでいる。	スピーチ等を適切に改善している。	スピーチ等の高度な技能を獲得している。

共生・協働する力	討議等に参加しない。	討議等に参加する。	討議等に積極的に参加し貢献している。	討議等で、他者を思いやり、工夫を凝らして貢献している。
----------	------------	-----------	--------------------	-----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 この授業のオリエンテーション (対面授業)
自己紹介
- 第 2 回 チェックポイントの検討① (対面授業)
グループで準備
- 第 3 回 チェックポイントの検討② (対面授業)
クラス全体で検討、スピーチ練習
- 第 4 回 発声・発音の基礎と音声表現 (対面授業)
スピーチ練習
- 第 5 回 プロジェクト (対面授業)
ゲストインタビューの内容検討
- 第 6 回 プロジェクト (対面授業)
ゲストインタビューの準備・練習 (対面授業)
- 第 7 回 プロジェクト (対面授業)
ゲストインタビューをクラス全体で準備・練習
- 第 8 回 プロジェクト (対面授業)
ゲストインタビュー本番
- 第 9 回 プロジェクト (対面授業)
振り返り
- 第 10 回 スピーチ (オンライン)
準備
- 第 11 回 スピーチ (対面授業)
リハーサル① (グループ)
- 第 12 回 スピーチ (対面授業)
リハーサル② (異なるグループ)
- 第 13 回 スピーチ (対面授業)
本番A
- 第 14 回 スピーチ (対面授業)
本番B
- 第 15 回 スピーチ (対面授業)
本番C

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・スピーチに関する映像の視聴を通して、望ましい話し方についてのチェックポイントをグループやクラス全体で検討する。
 - ・毎回、自己課題、学習内容、意見・感想等について記録し、知識や技能向上に努める。
 - ・様々なテーマや場面によるスピーチを練習する。
 - ・グループおよび受講者全員で協力して準備をし、ゲストとの授業を作り上げる。
 - ・プロジェクトを、チームで準備し実施する。
- *各課題について、全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・課題の準備や練習をする。
- ・毎日、発声練習をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、最終のスピーチ (30%)、授業参加度 (40%)、レポート (30%) に基づいて、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・対面で実施しますが、1回程度オンラインの予定です。
- ・皆で作り上げる授業です。積極的な参加を期待します。
- ・ゲストの状況次第で、土曜等に授業を実施する場合があります。
- ・実践的な授業であるため、状況にあわせて、内容・方法を調整していきます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『パブリック・スピーキング—人を動かすコミュニケーション術—』/蔭山洋介/NTT出版/2011/4757122837

『日本語の発声レッスン』/川和孝/親水社/1981/4915165019

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 現役のアナウンサーを招いて実践的に学ぶ。

プレゼンテーション演習

CSA2457N1J
大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次
2単位 後期
木曜 4限

DP4 : 思考・解決力
60

定員30人
平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

効果的なプレゼンテーション技法を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・数多く実践練習をすることを通して、望ましいプレゼンテーション技法を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

プレゼンテーション技能	テーマに適したプレゼンテーションになっていない。自己課題を認識してない。	各テーマに適したプレゼンテーションをする。自己課題を認識し、改善するよう取り組む。	聴衆にとって効果的なプレゼンテーションをすることができる。自己課題を認識し改善している。	工夫を凝らして、聴衆にとって効果的なプレゼンテーションにすることができる。自己課題を認識し、高度な技能を身につけている。
-------------	--------------------------------------	---	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (対面授業)
- 第 2 回 プレゼンテーションの基礎の確認 (対面授業)
プレゼンテーション技法に関するプレゼンテーション
- 第 3 回 身体表現 (対面授業)
プレゼンテーション (1)
- 第 4 回 効果的なプレゼンテーションの技法 (対面授業)
- 第 5 回 プレゼンテーション (2) (オンライン)
準備、練習 (イベント紹介)
- 第 6 回 プレゼンテーション (2) (対面授業)
発表と振り返り (イベント紹介)
- 第 7 回 プレゼンテーション (3) -① (オンライン)
準備、練習 (会社の説明)
- 第 8 回 プレゼンテーション (3) -① (対面授業)
プレゼンテーション (会社の説明)
- 第 9 回 プレゼンテーション (3) -② (オンライン)
準備、練習 (商品の説明)
- 第 10 回 プレゼンテーション (3) -② (対面授業)
社内検討会と聴衆分析
- 第 11 回 プレゼンテーション (3) -③ (オンライン)
社外プレゼンテーションの準備
- 第 12 回 プレゼンテーション (3) -③ (対面授業)
社外プレゼンテーションリハーサル
- 第 13 回 最終のプレゼンテーション (対面授業)
本番 A (実技テスト)
- 第 14 回 最終のプレゼンテーション (対面授業)
本番 B (実技テスト)
- 第 15 回 最終のプレゼンテーション (対面授業)
本番 C (実技テスト)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・口頭表現 (論理表現、音声表現) や身体表現についての基礎を学習し、数多く練習する。
- ・事前調査、聴衆分析、ストーリー作り、適切な用語の選択について実践的に行う。
- ・他者にコメントをすることを通して、自己のプレゼンテーションを振り返る。
- ・プレゼンテーションの本番の際にフィードバックがある。

・最終のプレゼンテーションについて報告書（レポート）を提出する。

・一部、オンライン（オンデマンド）で実施することで、充実した準備・練習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・各課題の準備・練習をする。

・自己課題について、普段から改善するよう努める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、最終のプレゼンテーション（30%）、授業参加度（40%）、レポート（30%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

・ブレンド型で実施をする。

・実践的な授業のため、進行状況等により、随時、内容・方法、スケジュールを調整していく。

・人前で話すことに自信がない場合やプレゼンテーションの基礎的な方法論から学習したい場合は、「プレゼンテーション概論」を履修してから本授業を履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ビジネスプレゼンテーション改訂版』/武田秀子編/実教出版/2011/4407322616

『パブリックスピーキング人を動かすコミュニケーション術』/蔭山洋介/NTT出版/2011/4757122837

『シンプルプレゼン』/ガー・レイノルズ/日経ビジネスアソシエ/2011/4822230546

『スティーブ・ジョブズ驚異のプレゼン』/カマイン・ガロ/日経BP社/2010/482224816X

『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』/ジェレミー・ドノバン/新潮社/2013/4105064916

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 社会人に対するセミナー（プレゼンテーション）講師経験あり。

ホスピタリティ・スキルA

EGR2100A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP1：自分を育てる力

60

定員20人

光末 香恵美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目では、ホスピタリティを他者に伝える言語・非言語コミュニケーションスタイルや一般的なビジネスマナーを学ぶとともにグループ討議や演習を繰り返すことによりホスピタリティに基づいた行動を実践出来るようになることを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・ホスピタリティを発揮するためには、どのような要素や考え方が必要なかを理解する

・実生活の中でホスピタリティの必要性に気づき、意識することが出来る

・実生活の中でホスピタリティに基づいた行動ができるようになる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

・講義計画、進め方、評価、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る

第 2 回 ホスピタリティを伝える

・コミュニケーションの考え方、高いコミュニケーションスキルを身に付けることの重要性を理解する

・挨拶、姿勢、立居振舞、身だしなみの基本を習得する

第 3 回 ビジネスマナー I

- ・言葉で表すホスピタリティについて学ぶ
 - ・敬語の基本を習得する
- 第 4 回 ビジネスマナーⅡ
- ・言葉に加えて文字で表現するホスピタリティについて学ぶ
 - ・電話の受け答え、メールの送受信などの基本を理解する
- 第 5 回 ビジネスマナーⅢ
- ・行動で表すホスピタリティについて学ぶ
 - ・食事、その他のルールについての基本を理解する
- 第 6 回 ホスピタリティと企業
- ・社会で求められる力と目指すレベルについてホスピタリティを基点に考える
- 第 7 回 国際理解
- ・自分と相手の考え方に違いがあることを理解して行動することを学ぶ
- 第 8 回 自己分析
- ・自分史やSWOT分析を使って自分の強みと弱みを理解する
- 第 9 回 自己表現Ⅰ（傾聴と主張）
- ・相手の意見を聞くことができ、自分の考えを相手に伝えることができる
 - ・人前で話すことに慣れる
- 第 10 回 自己表現Ⅱ（プレゼンテーション）
- ・自分の意見を効果的に伝える方法を学び、実践してみる
- 第 11 回 自己表現Ⅲ（グループディスカッション）
- ・グループディスカッションの方法を理解し、実践してみる
- 第 12 回 自己表現Ⅳ（ディベート）
- ・ディベートの方法を理解し、実践してみる
- 第 13 回 総合演習Ⅰ（ロールプレイング）
- ・学内における場面設定を行い発表する
- 第 14 回 総合演習Ⅱ（ロールプレイング）
- ・学内における場面設定を行い発表する
- 第 15 回 まとめ
- ・これまでの内容を振り返り、定着度を確認する
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- ・実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- ・パワーポイントの資料を使用し、講義と実習を中心に進める
 - ・適宜、レジュメを配布する
 - ・テーマに沿ったワーク、ディスカッション、発表などを随時取り入れる
 - ・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする
 - ・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
- ・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする

- ・講義で学んだ内容を日常生活の中で実践、継続する習慣をつけるよう努める
 - ・講義（配布資料がある場合は資料）の内容を理解し、自分なりにまとめておく
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 30
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
- ・受講態度（50％）実技習得度（50％）に基づいて総合的に評価する
 - ・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する
- 〔留意事項（Other Information）〕
- ・定員20名
 - ・基本的に対面で実施する
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
- ・テキストは使用しない
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- ・必要に応じて別途指示
- 〔参考URL(URL for Reference) 〕
- ・必要に応じて別途指示
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- ・エアラインの客室乗務員としてフロントラインで顧客サービスを実践した経歴を持つ
 - ・客室乗務員のインストラクターとして新入生やファーストクラスの訓練を担当した経歴をもとにホスピタリティについて分かり易く解説する

ホスピタリティ・スキルB

EGR2100BOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 3限

DP1：自分を育てる力

60

定員20人

光末 香恵美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目では、ホスピタリティを他者に伝える言語・非言語コミュニケーションスタイルや一般的なビジネスマナーを学ぶとともにグループ討議や演習を繰り返すことによりホスピタリティに基づいた行動を実践出来るようになることを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・ホスピタリティを発揮するためには、どのような要素や考え方が必要なのかを理解する
- ・実生活の中でホスピタリティの必要性に気づき、意識することが出来る

・実生活の中でホスピタリティに基づいた行動ができるようになる

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
・講義計画、進め方、評価、注意事項等について説明・理解し、心構えを作る
- 第 2 回 ホスピタリティを伝える
・コミュニケーションの考え方、高いコミュニケーションスキルを身に付けることの重要性を理解する
・挨拶、姿勢、立居振舞、身だしなみの基本を習得する
- 第 3 回 ビジネスマナーⅠ
・言葉で表すホスピタリティについて学ぶ
・敬語の基本を習得する
- 第 4 回 ビジネスマナーⅡ
・言葉に加えて文字で表現するホスピタリティについて学ぶ
・電話の受け答え、メールの送受信などの基本を理解する
- 第 5 回 ビジネスマナーⅢ
・行動で表すホスピタリティについて学ぶ
・食事、その他のルールについての基本を理解する
- 第 6 回 ホスピタリティと企業
・社会で求められる力と目指すレベルについてホスピタリティを基点に考える
- 第 7 回 国際理解
・自分と相手の考え方に違いがあることを理解して行動することを学ぶ
- 第 8 回 自己分析
・自分史やSWOT分析を使って自分の強みと弱みを理解する
- 第 9 回 自己表現Ⅰ（傾聴と主張）
・相手の意見を聞くことができ、自分の考えを相手に伝えることができる
・人前で話すことに慣れる

第 10 回 自己表現Ⅱ（プレゼンテーション）
・自分の意見を効果的に伝える方法を学び、実践してみる

第 11 回 自己表現Ⅲ（グループディスカッション）
・グループディスカッションの方法を理解し、実践してみる

第 12 回 自己表現Ⅳ（ディベート）
・ディベートの方法を理解し、実践してみる

第 13 回 総合演習Ⅰ（ロールプレイング）
・学内における場面設定を行い発表する

第 14 回 総合演習Ⅱ（ロールプレイング）
・学内における場面設定を行い発表する

第 15 回 まとめ
・これまでの内容を振り返り、定着度を確認する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

・実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・パワーポイントの資料を使用し、講義と実習を中心に進める

・適宜、レジュメを配布する
・テーマに沿ったワーク、ディスカッション、発表などを随時取り入れる

・講義中の発問と学生の解答に対して適宜、口頭でフィードバックする

・リアクションペーパーを活用してフィードバックを実施する

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・日頃より、ホスピタリティに関するニュースや記事等に関心をもって目配りをする

・講義で学んだ内容を日常生活の中で実践、継続する習慣をつけるよう努める

・講義（配布資料がある場合は資料）の内容を理解し、自分なりにまとめておく

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

・受講態度（50％）実技習得度（50％）に基づいて総合的に評価する

・受講態度の詳細は、オリエンテーションで説明する

〔留意事項（Other Information）〕

・定員20名

・基本的に対面で実施する

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

・テキストは使用しない

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

・必要に応じて別途指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

・必要に応じて別途指示

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

- ・エアラインの客室乗務員としてフロントラインで顧客サービスを実践した経歴を持つ
- ・客室乗務員のインストラクターとして新入生やファーストクラスの訓練を担当した経験をもとにホスピタリティについて分かり易く解説する

応用プレゼンテーション演習

CSA3900N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜 3限

ー

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

視覚資料の特性や作成上の留意点などを理解した上で資料作成を行い、プレゼンテーションに関する統合的な学習経験によって総合的思考力を高め、臨機応変の対応と効果的なプレゼンテーションができるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・プレゼンテーションの基礎知識をもとに、視覚資料に関する意義、種類、特徴などを理解し、聴者に効果的な視覚資料を作成できる。
- ・事前準備、プレゼンテーション、報告など、プレゼンテーション実務を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーション実務	プレゼンテーションをする。報告書を提出する。	各テーマに適した資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に答えることができる。ルールを守って、誤字脱字のない報告書が書ける。	聴衆にとって効果的な資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に対して、聴衆にわかりやすく説明することができる。読み手にわかりやすい報告書が書ける。	各テーマに工夫を凝らして、聴衆にとって効果的な資料作成、プレゼンテーションをすることができる。質問に対して、聴衆に効果的な説明等ができる。読み手に効果的な報告書を書くことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (対面受業)
- 第 2 回 ビジュアル化の意義 (対面受業)

視覚資料のポイントと図解、プレゼンテーション (準備)

- 第 3 回 ビジュアル化の意義 (オンライン)
図解を使ったプレゼンテーション準備、練習
- 第 4 回 ビジュアル化の意義 (対面受業)
図解を使ったプレゼンテーション A
- 第 5 回 ビジュアル化の意義 (対面受業)
図解を使ったプレゼンテーション B
- 第 6 回 ビジュアル化の意義 (対面受業)
図解を使ったプレゼンテーション C
- 第 7 回 視覚資料の種類と特徴 (対面受業)
視覚資料の理解、準備
- 第 8 回 視覚資料の種類と特徴 (オンライン)
視覚資料を使ったプレゼンテーション 準備、練習
- 第 9 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
視覚資料を使ったプレゼンテーション A
- 第 10 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
視覚資料を使ったプレゼンテーション B
- 第 11 回 提示資料・配布資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
視覚資料を使ったプレゼンテーション C
- 第 12 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点の理解、準備
- 第 13 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (オンライン)
準備、練習
- 第 14 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
準備 (リハーサル、相互評価)
- 第 15 回 提示資料・配付資料の特徴と作成上の留意点 (対面受業)
プレゼンテーション (実技テスト)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・各課題について、学習、準備、練習、発表を行う。
- ・実施するプレゼンテーションへの質問に対応する。
- ・相互評価をする。
- ・プレゼンテーションごとに、内容、工夫点、他者の発表から得たこと、今後の課題、感想等についての報告書を提出する (3回)。
- ・プレゼンテーションおよび報告書に対して、随時フィードバックがある。
- ・一部、オンライン (オンデマンド) で実施することで、充実した準備・練習をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各テーマについて、準備・練習を行う。
- ・授業内でできなかったことは、次週までに仕上げしておく。
- ・プレゼンテーション後に「報告書」を作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、最終プレゼンテーション (30%)、授業参加度 (40%)、報告書 (30%) に基づき、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ブレンド型で実施をする。
- ・ゲスト講師による授業を行うこともある。
- ・進行状況等によって、随時、内容・方法、スケジュールを調整していく。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション』/武田秀子編/実教出版/2011/978-4407322613/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『シンプル・プレゼン』/ガー・レイノルズ/日経ビジネスアソシエ/2011/4822230546

『プレゼンテーションZEN 第2版』/ガー・レイノルズ/ピアソン桐原/2012/462106603X

『TEDトーク 世界最高のプレゼン術』/ジェレミー・ドノバン/新潮社/2013/4105064916

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 社会人に対するセミナー (プレゼンテーション) 講師経験あり。

京都資料論 2017年度以降入学者

CSA2203NOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

1単位 集中

その他

DP2: 知識・理解力

30

全7.5コマ 司書に関する科目を兼ねる。

山下 ユミ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

京都に関する資料について知り、京都の情報資源について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 京都関係の文献目録や辞典、年表、データベース、ウェブサイトなどの参考資料、情報源を使いこなせる。

2 書籍、雑誌、地域資料、古典籍や古地図、データベース、ウェブサイトなど情報資源の形態と特徴がわかり、それらを参照・引用する際の書誌的事項の記述方法がわかる

3 Googleの詳細な検索方法について理解し、検索式を作成して細やかに情報を収集することができる。

4 情報収集ツールであるとともに情報提供も可能であるWikipediaやオープンデータの仕組みを理解し、これらを使って情報を検索・作成・提供することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 京都府立図書館に集合

授業の概要説明

図書館見学

第 2 回 京都に関する情報資源とは?

京都に関する情報資源の使い方、調べ方

参照文献情報の書き方

第 3 回 レファレンス実習・発表

第 4 回 オープンデータとは

京都に関する本のオープンデータについて

第 5 回 京都府立図書館に集合

オープンデータ作成実習

第 6 回 Wikipediaとは

データ作成実習

第 7 回 Google検索について

第 8 回 授業全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・京都に関する調査を行う際に必要な資料やデータベース等について講義したあと、それらを使用しながら実際に学生がレファレンス調査を実習し、発表する。

・Wikipedia、オープンデータについては、基本的な講義を行ったあとで、学生自身がデータを作成し、登録する実習を行う。

・Googleについては、詳細な検索方法や、Google Books、Google Scholarなどの周辺の検索機能について講義し、学生が自分で検索式を作成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

京都に関して情報収集を行う際にどのような資料を使うとよいかを図書館で調べ、実際に使ってみる。

オープンデータとは何かを調べ、どのようなデータが公開されているかを調べる。

Wikipediaにアクセスし、実際に検索を行うとともに、その意義や必要性について考える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提案した記事編集のための調査内容(執筆内容、難易度、資料選択の適切度など)と、授業への参加態度によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

2日間、京都府立図書館(京都市左京区)に集合し、見学と演習を行い、最終的に京都府立図書館で解散を予定しているが、新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、一部または全部をオンライン講義により行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

・レファレンス協同データベース <https://crd.ndl.go.jp/reference/>

・Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都府の図書館司書として20年間勤務

現在は、京都府立図書館に在職中

現代ジャーナリズム入門

CSA1252N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

1年次 2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

定員60人(うち心理定員15人)

荻原 靖史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新型コロナ禍に苛まれた2020年でしたが、21年も引き続き厳しい社会情勢が続くと思われまます。例年以上に「ニュースを読む力」が求められているのです。日常と激動する世界を関連づけて見る目(情報分析力)と迅速な対処は欠かせません。18歳から選挙権のある今は皆さん社会人。国政や外交、経済、社会への正しい知識と理解がその第一歩です。この講義は様々なニュース、取材するジャーナリズム活動を知り、「ニュースを読む・語る」を軸に、その初歩的応用(書くこと)まで学習できるプログラムです。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 複数のメディアのニュース報道やその解説、社論などを比較しながら読む

2 時事問題、用語の基本的な意味を知り、その都度、必要なキーワードと文脈に慣れる

3 自分たちの身近な社会に、日本という国に、広く世界に関心をもつ

4 誰もが読みたくなる、読みやすい文章を心がけ、実際に書いてみる

5 新聞、電波、雑誌、ネットのニュースへのメディアリテラシーの方法を学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	受講態度が悪く散漫で反応にぶい	受講態度は人並みで理解力も普通	受講態度が良好で資料も活用する	受講態度が良好で予習復習に熱心
知識・理解力	ニュース内容を理解できていない	ニュース内容の概要は理解できる	ニュース内容がほぼ理解できる	ニュース内容が理解でき関連言及
言語力	文章の記述が粗雑で誤りが多い	文章の記述は普通にこなせる	文章の記述に読ます工夫がある	文章の記述が明解で表現も創造的
思考・解決力	テーマの選び方、論の進め方が稚拙	テーマの選び方、論の進め方普通	テーマの選び方、論の進め方優秀	テーマの選び方、論の進め方が斬新
共生・協働する力	質問や発言に消極的で内容も拙い	質問や発言が普通にこなせる	質問や発言に意欲がみられる	質問や発言に積極的に語り上手
創造・発信力	視点が甘くプレゼン能力が低い	視点もプレゼン能力も普通程度	視点とプレゼン能力が良好	視点とプレゼン能力が極めて優秀

〔授業計画〕

第1回 この講義で学ぶこと・ねらいなど
講義の進め方について。ジャーナリズムとは。ニュース報道や各メディアの基本的性格を解説。メディアとの付き合い方、報道への疑問を皆さんに語ってもらう。

第2回 ニュースが語ること。どう読むか
新聞、テレビ、ネット報道の具体的なニュースを読んでみる。取材から紙面化までの流れについて解説。引き続き、各ニュースへの皆さんの意見を語ってもらう。

第3回 まず社会面から。事件報道の視点
犯罪報道とは。その取材から意義、問題点までを語る。日本の司法制度の基本を説明、裁判員制度への理解も深める。最近の気になるニュースについて語り合う。

第4回 再び社会面から。災害報道の現在
頻発する自然災害についてその報道を解説。この十数年、メディアが悩みつつ歩んできたこと。毎

- 回、記事表現について細かく解説し、日本語力を高めてもらう。
- 第 5 回 世界の動きを追う。国・人・外交
国際報道は世界を知る面。国際関係の知識はグローバル時代の必須科目。世界史的な知識も不可欠なのでその解説と経済記事などと関連づけた読み方も解説する。
- 第 6 回 五輪・スポーツ報道を振り返って
五輪はいまのところ開催が否か不明だが、コロナ禍という特殊な状況にあってスポーツ団体や政府、加えて経済界や国民の感情がどう動いたか、ともに考えたい。
- 第 7 回 身近雑記のエッセイを書いてみる
毎回の校閲された表現の日本語解説を続けながら、この回は実際に皆さんに書いてもらったエッセイについて講評。テーマをどう選ぶのか、どう書けばいいのか。
- 第 8 回 ジャーナリズムのあり方を考える
大衆心理やジャーナリズム、メディア論の古典「世論」からテーマアップ。さらにフェイクニュースが蔓延する時代のファクトチェック、誤報の歴史などを解説。
- 第 9 回 文化面・科学面とリベラルアーツ
人文科学、社会科学、自然科学...新聞の紙面で文化・科学面とそれに関連する面は学びの場所。個別に解説して、リベラルアーツに通じる考え方の根幹にふれる。
- 第 10 回 経済の最前線をどう伝えてきたか
まずGDPなど頻出する経済用語に横文字の応酬、各業界の会社情報、新システムや新商品...。エネルギー問題や国際経済も含めて基本の読み方、知識をまとめる。
- 第 11 回 財政とは。税金とは。基本の基本
年末には恒例の来年度予算案が報道される。コロナ禍の窮状にあり編成には引き続き例年以上の難しさがある。国民として知っておくべき基礎を報道に即し解説。
- 第 12 回 この1年のニュースを振り返って
年初は皆さんと語り合う。ここでは関心事項と意見を持ち寄ってほしい。読むことにアウトプットは書くことや語ること。日頃の思いをみんなの前でどう語るか。
- 第 13 回 有権者の皆さんに政治、選挙報道
皆さんが有権者である今、選挙システムの基本から学ぶ。なぜ必要か、誰を選ぶのか。そのため選挙報道や政局報道をどう読み、生かすか。賢い有権者になる。
- 第 14 回 今年の世界と国内の動きから点描
これまでの解説も参考にしながら皆さんに世界を占ってもらいます。どう動くか、それはなぜか、自分ならどう考えるのか。様々な紹介と解説の後には徹底討論。
- 第 15 回 再びジャーナリズムの未来を語る

最後は2回目のレポートの講評から。就活に、就職後も生かせるニュースチェックの方法などにも言及。深めていくための第一歩。ジャーナリズムの未来を展望。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

計2回のレポート提出を課題とします。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 実施方法は講義と意見発表、2回のレポートと講評など
- 2 講義では毎回、いくつかのニュースを紹介し、その読解と取材・解説の目線を語ります。

自分の意見と疑問が持てるよう心がけてください。ジャーナリズムは疑問から始まる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

受講者は(最近の)新聞やネット・電波メディアの報道、雑誌などを自由に読んで、自分なりの問題意識をもってください。ニュースを読む・知ることが準備学習です。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は授業参加度(30%)(*出席と発言の積極性など)と2回のレポート(70%)の総合評価。1回目は日常に取材した文章を書き、2回目は時事問題を自由に論じてもらいます。

〔留意事項 (Other Information)〕

毎年のことですが、ニュースは社会、国際情勢に対応して、その都度決めます。(今年のコロナ禍が昨年末のシラバス作成時には予想できなかったように)予測できない現代と世界を講義の中で実感してください。従って各回のテーマは便宜的なものです。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは新聞各紙が中心です。加えてテレビ、ネットなどのニュース報道や時事問題を扱う雑誌、ジャーナリズムやノンフィクションの古典から新しい書物まで。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

読んでおきたい図書(ジャーナリズム関連やノンフィクション、社会科学系の本など)や雑誌、映像メディア、ネットの分析記事などは講義の内容に合わせて解説・紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

新聞各紙(NHKも含めて)、およびそのニュースサイトが中心です。場合によっては他国の新聞や専門家のサイト、著書なども参考にします。各分野の時事問題を解説するニュースサイトは講義の中で紹介します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

新聞社(全国紙)で編集業務全般(取材記者・編集企画・デスク業務など)や、特集・コラム(編集委員)などを担当。ラジオのニュース番組で解説なども手がけました。

古文書読解

CSA2258N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

武田 美桜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

古文書に初めて接するという方がほとんどと思います。古文書を読みこなすには、それなりの時間がかかります。本講義では、古文書に慣れてもらうことに比重を置きつつ、古文書の基礎知識と読解の基礎技術を身に付けてもらいます。読み方のみではなく翻刻の技術も学んでもらいます。また古文書の現物にも触れてもらい、古文書の取り扱い方などを学んでもらいます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・まず、古文書に慣れてもらうことを重視します。
- ・中世・近世史料の翻刻を通して、読解力を高めて行きます。
- ・本講座を通じて、文化遺産としての古文書、そして古文書が歴史や地元地域史を明らかにできる価値を有する点を理解してもらいます。学芸員資格取得の方は特に学んでほしいと考えます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ND1 自分を育てる力	講義に出席する	講義の疑問・達成点を小ペーパーに記入する	講義を踏まえ、予習復習を行う	様々な古文書を見、古文書に対する理解を深める
ND2 共生・協働する力	教員の行う講義内容について学ぼうとする	友人が提出した小ペーパーの疑問や意見に対する返答を聞いて学ぼうとする	友人と文書の疑問点等について話し合う	友人とともに古文書について勉強し、それぞれの理解を深める
ND3 コミュニケーションする力	講義に出席し内容を聞く	疑問点・聞き逃した点を教員に聞く	友人と講義の内容について話し、理解を深める	古文書について主体的に勉強した成果を、友人と共有する

ND4 創造・発信する力	総括テストを受ける	自分が学んだことや学習したいと思ったことを小ペーパーに記入する	講義で学んだ古文書の知識を総括テストに記入する	講義で学んだ古文書の知識を、古文書になじみの無い人にもわかりやすい文で総括テストに記入する
ND5 思考・解決する力	講義を受け、古文書の読み方を学ぶ	くずし字辞典等を用いて古文書の文章を読解し、主語や述語を理解して現代語訳ができるようにする	講義で紹介した古文書について疑問点や課題を見つけ、自ら勉強して理解を深める	自分が興味を持った古文書について、参考文献等を用いて読解・勉強をする
ND6 主体的に行動する力	講義に出席し、ノートをとる	古文書に出てくるくずし字を辞典で確認する	実物文書の取り扱いの講義に積極的に参加したり、博物館等の展示を見る	参考文献や古文書に関する書籍を読み、古文書に対する理解を深める

〔授業計画〕

- 第 1 回 概説 古文書の取り扱いについて
- 第 2 回 現物の古文書に触れる(1) 文書の扱いを学ぶ
- 第 3 回 現物の古文書に触れる(2) 読んでみる
- 第 4 回 古文書の形を知る 縦紙・折紙・切紙
- 第 5 回 古文書を読むときの基礎知識 本紙・礼紙・封紙
- 第 6 回 古文書に慣れる (1) 書状
- 第 7 回 古文書に慣れる (2) 奉書
- 第 8 回 くずし字に慣れる (1) 朱印状
- 第 9 回 くずし字に慣れる (2) 起請文
- 第 10 回 くずし字に慣れる (3) 証文・手形
- 第 11 回 有名人の古文書 (1) 織田信長の手紙
- 第 12 回 有名人の古文書 (2) 武田信玄の手紙
- 第 13 回 有名人の古文書 (3) 豊臣秀吉の手紙
- 第 14 回 有名人の古文書 (4) 徳川家康の手紙
- 第 15 回 「古文書読解」まとめ・総括テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式ですが、読解のため、皆さんには古文書を読んでもらう講義となります。みずから古文書にあたり、辞典などを調べる作業も行います。毎講義終了時、小ペーパーに講義への意見を記述し提出してもらいます。これは出欠確認でもあります。また読解力を確認するため、適宜授業中に課題を行う場合もあります。課題・小ペーパーでの質問項目等については次回以降の講義で解説を行います。また、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本講義は、現在あまり使われない漢字やひらがなやなど、くずし字の読みを対象とするので、語学の1つとして理解してください。したがって読み続ける努力が大事です。読む時は音読で行ってください。くずし字に慣れるには、日記など継続する文章やそこに記されるくずし字を読み続けることが、効果を上げる方法です。したがって学んだことを繰り返し反復しておいてください。先にテキストを配布するので、くずし字辞典や漢和辞典(新字源)・国語辞典(日本国語大辞典)などで、テキストの意味・文言ほかを調べ、授業前にテキストの文書を解読しておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、総括テストまたはレポート (人数による) で行います。原則的に総括テストの点数で単位認定を行います。

2. 講義3分の2以上の出席をテスト (レポート) の参加 (提出) 資格とします。

3. 毎講義時に提出してもらった当該講義の意見の記述や課題は、特に必要と判断される場合に評価の参考とします。たとえば、病気など不可避な理由でテストを欠席した場合、評価は上記提出の意見や課題を基に行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

本講義は原則として対面形式にて行います。変更がある場合はコースニュースにて通知します。

本講義は、現在あまり使われないくずし字や文章表現の読みを対象とするので、語学の1つとして理解してください。したがって読み続け慣れることが大事です。

授業予定については、進捗状況等に応じて順序の入れ替え等の変更を行う場合があります。

また、テキストは使用せず、プリントを適宜授業内に配布します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しません。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『古文書学入門』 / 佐藤進一 / 法政大学出版局 / 2003/9784588320118

『概説古文書学古代中世編』 / 日本歴史学会 / 吉川弘文館 / 1983/4642071911

『概説古文書学近世編』 / 日本歴史学会 / 吉川弘文館 / 1989/4642071911

児玉幸多編 くずし字用例辞典 東京堂出版 1993 ISBN 9784490103335

児玉幸多編 くずし字解読辞典 東京堂出版 1993 ISBN 9784490103311

小川環樹・西田太一郎・赤塚忠編 角川新字源 角川書店 1994 ISBN 4040108043

小学館国語辞典編集部編集 日本国語大辞典 小学館 2006 ISBN 4095210230

〔参考URL(URL for Reference)〕

大阪市立図書館古文書を読もう

http://www.oml.city.osaka.lg.jp/?page_id=1220

同図書館が所蔵する古文書などを掲載し、読解のコツなどを紹介しています

新潟県立文書館インターネット古文書講座

<http://www.archives.pref.niigata.jp/internet-komonjo-koza/>

同文書館所蔵の古文書の画像と解説文、解説を掲載しています

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫研究所において古文書の取り扱い・読解の経験あり。

情報科学演習

CSA2453N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜2限

DP4: 思考・解決力

60

伊藤 泰子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「ITパスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT (information technology: 情報技術) 人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。コンピュータのしくみ・基礎理論を理解し、どのような技術があり、それをどのように活用すべきかを学習していく。現在のネットワーク社会において必要不可欠なデータベース、ネットワーク、セキュリティなどの技術・知識も習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・コンピュータの基礎理論
- ・コンピュータシステムのしくみ
- ・ソフトウェアとハードウェア
- ・インターフェイスとマルチメディア
- ・データベース
- ・ネットワーク
- ・セキュリティ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータの基礎理論	記憶容量の最小単位がわからない	bitやByte、2進数表記について知っている	基数変換、bit数による表現範囲がわかる	コンピュータ上の文字表現、色の表現など2進数表現を

				使って説明できる
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムのOSの名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ソフトウェアとハードウェアの理解	ソフトウェアとハードウェアが何かかわからない	ソフトウェアとハードウェアを知っている	ソフトウェアとハードウェアの具体例を説明できる	PCの性能表を見ておおよその説明をすることができる
インターネットのしくみの理解	インターネットに興味がない	代表的なプロトコルを知っている	IPアドレスやドメイン名について知っている	IPアドレスのクラスやサブネットマスクを理解できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 コンピュータの基礎理論
- 第 3 回 アルゴリズムとプログラム
- 第 4 回 コンピュータシステムのしくみ
- 第 5 回 ハードウェア
- 第 6 回 インターフェイス
- 第 7 回 ソフトウェア
- 第 8 回 マルチメディア
- 第 9 回 データベースの基礎知識
- 第 10 回 データベースの応用技術
- 第 11 回 ネットワークの基礎知識
- 第 12 回 ネットワークの応用技術
- 第 13 回 セキュリティ
- 第 14 回 暗号化技術
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。
- ・定期的に小テストを行う。

フィードバックとして、テスト実施後に解答の解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義対象とする教科書の内容は事前に告知するのでその部分を読んで予習しておく。さらに章ごとに小テストを実施するので、毎回きちんと復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (40%)、テスト (60%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集』/富士通エフ・オー・エム株式会社(FOM出版)/FOM出版/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

色彩デザイン論

CSA2417N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜2限

DP4: 思考・解決力

60

室 千草

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

視覚のメカニズムを学ぶことによって、視認性や、色のもつ心理的なイメージなどを理解し、目的に合ったイメージを色で表現できるよう、具体的な例を見ながら、色彩の基礎的な知識を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 12色相環 (PCCS)、明度スケール、トーン一覧表の作成
2. 色の三属性の理解とイメージ表現 3. 配色技法を用いたカラープランニング 4. WEBサイトと商品パッケージデザインにおける配色の検証

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
主体的に学ぶ事	色彩について知ろうとする	色彩について理解しようとする	色彩の理論に基づいて理解しようとする	色彩理論を理解し、実習に生かす事が出来る。
学習指導要領の理解力	学んだ事を、要領よく理解できない	授業内容を要領よく理解できる	授業内容を理解し、自ら身の回りの「色」について理解しようとする	授業内容を理解し、「色」について理解し、課題に反映することができる
思考・想像する力	課題をする	課題を積極的にこなす	出来なかった課題を再度自ら復習する	理論をもとに自ら想像し、課題をより理解しようとする

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入
色とはどういうものなのか
- 第 2 回 色と光
視覚のメカニズムについて
- 第 3 回 色の記録、伝達の方法
色の名前や、それにまつわるコミュニケーションについて
- 第 4 回 様々な表色系①
色の三属性、PCCS、マンセルシステム
- 第 5 回 様々な表色系②
オストワルト、XYZ表色系、L*a*b*表色系
- 第 6 回 色の混合
加法混色、減法混色について
- 第 7 回 色彩の心理①
色の見えの効果
- 第 8 回 色彩の心理②
色のイメージ
- 第 9 回 色彩調和①
色相、明度、彩度、トーンを基準にした配色
- 第 10 回 色彩調和②
様々な効果をねらった配色
- 第 11 回 色彩調和③
イメージと配色
- 第 12 回 色彩調和論
ヨハネスイッテン、シュプルーラーの色彩調和論など
- 第 13 回 カラーユニバーサルデザイン
視認性、バリアフリーと色について
- 第 14 回 カラープランニング①
webの配色体系と配色技法を用いたカラープランニングの考察
- 第 15 回 まとめ
webの配色体系の考察とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験内にテストを実施しないが、授業最終日にまとめとしてテスト (持ち込みあり) を行います。選択問題と色彩カードを実際に使用する問題も含まれ、授業と日々の課題をしっかりとこなしていれば簡単に解けるように設定しています。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの内容と画像資料を用いて理論を学び、配色カードによる確認実習作業を行う。

約2週間毎に簡単な小テストを実施し、色彩理論の理解度を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日常の身の回りにある色を注視し、グラフィックデザインやウェブページがどのような配色になっているかを観察すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内の課題60%、筆記試験 (最後のまとめテスト) 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

配色カードを用いる課題を行う際、はさみとのがりが必要です。各自持参して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『カラーコーディネーター入門 色彩』/大井義雄・川崎秀昭/日本色研事業(株)/2007年/9.784901355278E12/学内販売予定

『新配色カード199a』//日本色彩研究所///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

色彩学などの科目について

○着物の会社において商品企画における色彩計画業務あり (現在も継続中)。

○専門分野である映像分野のカラーグレーディングを担当 (現在も継続中)。

○国立民族博物館にて行われた「日本におけるユニバーサル・ミュージアムの現状と課題」というシンポジウムに参加。研究者や作家、障害を持つ人の美術作品の鑑賞方法についての考察を研究中 (現在も継続中)

上記の実務業務の経験から、授業内において、色彩の物質と心理的要因による原理の違いを講義形式で教えることや、実践的には、光の色の原理について、実際に学生に実技実習してもらう事によって、教科書上のものでない理解を深めてもらおうと考えている。また色彩におけるユニバーサルデザインの知識も深めてもらえるような講義を試みたい。

図書館情報技術論

CSA2218N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 5限

DP2 : 知識・理解力

60

定員46人 司書に関する科目を兼ねる。

矢田 峻太郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コンピュータとインターネットを構成する仕組みと技術について学び、それらによって流通する情報について理解する。様々な情報源とそれらにアクセスするための技術および保存提供するための技術や仕組みについて理解し、図書

館などの情報サービス機関または企業、公的機関などの組織で必要とされる電子情報、電子文書管理に応用できる能力を身につける。そして、現在のネットワーク社会、情報化社会における図書館の役割を果たし、図書館サービスを提供する上で必要な情報システム、機器の基礎を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コンピュータとインターネットに関する基礎知識を得る。
2. 情報へのアクセスを整備し、情報を保存、提供するための技術について理解する。
3. 情報サービス機関に関わる情報システム、機器についての基礎知識を得る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	テストにおいて、トピックに関する理解が十分に示されていない	テストにおいて、トピックに関する理解がある程度示されている	テストにおいて、トピックに関する理解がほぼ十分に示されている	テストにおいて、トピックに関する理解が網羅的に示されている

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方の説明：情報技術と図書館（テキスト1）
- 第 2 回 コンピュータに関する基礎知識（テキスト2：1-2）
- 第 3 回 ネットワークに関する基礎知識（テキスト2：3）
- 第 4 回 インターネットの仕組みと基礎技術（テキスト3：1-4）
- 第 5 回 XMLマークアップ言語（テキスト3：5）
- 第 6 回 図書館システム（テキスト5：1、2、4）
- 第 7 回 データベース管理システムとリレーショナルデータベース（テキスト5：3）
- 第 8 回 期間中テスト
- 第 9 回 電子情報（テキスト4）
- 第 10 回 メタデータ（テキスト6）
- 第 11 回 ネットワーク情報資源に関わる諸技術：RDFなど（テキスト7：1-2）
- 第 12 回 ネットワーク情報資源に関わる諸技術：WebAPI など（テキスト7：3）
- 第 13 回 情報セキュリティ（テキスト8）
- 第 14 回 ネットワーク社会における情報サービス（テキスト9）
- 第 15 回 まとめ：学習成果の確認とフィードバック
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの内容に沿った講義と演習課題を中心に授業を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当する箇所を読んでくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、課題（30%）・期間中の学習成果確認テスト（30%）・期末の学習成果の確認としてのテスト（40%）で評価する。理解度確認のテスト終了後に点数を学生本人に通知し、授業中に講評を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書館情報技術論』/杉本重雄編/樹村房/2014/9784883672035/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600IOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6：創造・発信力

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞学習や実践を通して、話しことばに関する自己の興味・関心を見つけ、卒業研究に向けての「問い」を考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 話しことばに関する基礎知識を深めるとともに、技能向上に努めることで、「話しことば」について考察し、卒業研究のテーマを検討する。

(2) 研究方法の基礎を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己課題を認識していない。	自己課題を認識している。	自己課題を適切に認識し、改善している。	自己課題を適切に認識し、高度な技能等を獲得している。

知識・理解力	放送など公的場面で話す意味を理解している。	放送など公的場面で話す意味を理解している。	放送などで話すための、その望ましい在り方を理解している。	放送など話すことについて理解し、創意工夫に努めている。
--------	-----------------------	-----------------------	------------------------------	-----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ番組の企画
- 第 2 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ①、企画
- 第 3 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ②、準備
- 第 4 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ③、準備、資料収集
- 第 5 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ④、内容・方法の検討
- 第 6 回 話しことばに関する研究・制作
ラジオ（公的場面）で話すということ⑤、準備・練習
- 第 7 回 話しことばに関する研究・制作
準備・練習
- 第 8 回 話しことばに関する研究・制作
リハーサル①
- 第 9 回 話しことばに関する研究・制作
リハーサル②
- 第 10 回 話しことばに関する研究・制作
実践①（フィールドワーク等）
- 第 11 回 話しことばに関する研究・制作
実践②（フィールドワーク等）
- 第 12 回 話しことばに関する研究・制作
振り返り
- 第 13 回 一斉授業
（実施回未定）
- 第 14 回 卒業研究・制作
卒業研究・制作に関する概要
- 第 15 回 卒業研究・制作
論文の書き方、各人の研究・制作の検討

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- （1）各人のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。
- （2）研究に必要な方法について実践的に取り組み、卒業研究に活かせるようにする。
- （3）「話しことば」に関する技能を向上させる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・課題について、発表等の準備をする。
- ・研究に関連する文献を収集し、内容を把握する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（50%）、発表（50%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・授業は対面で実施する。
- ・ゲスト講師による授業を行うことがある。
- ・学外授業を行うため、交通費などが必要である。
- ・さらにプロジェクトを実施する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ ラジオパーソナリティの経験あり

日本語コミュニケーションⅡA

CSB1550A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）

1年次

2単位 後期

金曜 2限

DP5：共生・協働する力

60

必修 文章表現を含む。

平野 美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕

実社会ではコミュニケーション能力が重視されている。また大学では、プレゼンテーションや、これまで話したことのないような人と話す機会が増える。本科目では、卒業後を見据え、また大学生活を充実したものにするために、人前で話すことや対人コミュニケーションに関する考え方や基礎技法の習得を目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・口頭表現に関する基礎技法を習得する。
- ・よりよいコミュニケーションについて考え、普段の生活に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己管理ができない。	自己課題を認識し授業内で改善に努めている。	自己課題を認識し、授業内だけでなく、授業外でも活かしている。	自己課題を的確に認識し、授業外だけでなく、授業外でも高度なレベルで活

				かしている。
共生・協働する力	討議等で意見等を述べない。	討議等で意見等を述べる。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加しチームに貢献している。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加しチームに高度なレベルで貢献している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 日本語コミュニケーション学習の必要性
- 第 3 回 音声表現の基礎
- 第 4 回 わかりやすく話すということ
- 第 5 回 ものの言い方と心の姿勢
- 第 6 回 コンセンサス
- 第 7 回 プロジェクト企画
- 第 8 回 プロジェクト台本作り、視覚資料準備、練習
- 第 9 回 プロジェクト準備、練習、リハーサル①
- 第 10 回 プロジェクト練習、リハーサル②
- 第 11 回 プロジェクト最終調整、リハーサル③
- 第 12 回 プロジェクト本番と振り返り
- 第 13 回 コミュニケーション
- 第 14 回 スピーチ準備、練習
- 第 15 回 スピーチ本番（技能テスト）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・理解するだけでなく、練習を通して、その基礎技法を習得する。
- ・グループで討議を行い、その後、全体で発表する。
- ・人前で話すための練習をする。
- ・毎回、一週間のコミュニケーションに関する自己の振り返り、毎回の授業の自己目標、自己課題、学習内容、意見、感想について記述し、知識や技能の向上に努める。
- ・発表等に対して、随時フィードバックがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・次回の課題の準備・練習をする。
- ・自己課題について、普段の生活でも改善に努める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、発表（30%）、授業参加度（40%）、ノート（30%）に基づいて、総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・対面授業である。
- ・ゲスト講師等を迎える可能性がある。
- ・実践的な授業のため、状況に合わせて内容・方法、スケジュールを変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『声のトレーニング』/福島英/岩波ジュニア新書/2005/4005005209

『テレビの日本語』/加藤昌男/岩波新書/2012/4004313783

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 司会、ナレーター、ラジオパーソナリティ、社会人に対するセミナー講師（コミュニケーション）の経験あり

日本語コミュニケーションⅡB

CSB1550B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）

1年次

2単位 後期

金曜3限

DP5：共生・協働する力

60

必修 文章表現を含む。

平野 美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕

実社会ではコミュニケーション能力が重視されている。また大学では、プレゼンテーションや、これまで話したことのないような人と話す機会が増える。本科目では、卒業後を見据え、また大学生活を充実したものにするために、人前で話すことや対人コミュニケーションに関する考え方や基礎技法の習得を目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・口頭表現に関する基礎技法を習得する。
- ・よりよいコミュニケーションについて考え、普段の生活に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己管理ができない。	自己課題を認識し授業内で改善に努めている。	自己課題を認識し、授業内だけでなく、授業	自己課題を的確に認識し、授業外だけでなく、授業外

			外でも活かしている。	でも高度なレベルで活かしている。
共生・協働する力	討議等で意見等を述べない。	討議等で意見等を述べる。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加し、チームに貢献している。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加しチームに高度なレベルで貢献している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 日本語コミュニケーション学習の必要性
- 第 3 回 音声表現の基礎
- 第 4 回 わかりやすく話すということ
- 第 5 回 ものの言い方と心の姿勢
- 第 6 回 コンセンサス
- 第 7 回 プロジェクト
企画
- 第 8 回 プロジェクト
台本作り、視覚資料準備、練習
- 第 9 回 プロジェクト
準備、練習、リハーサル①
- 第 10 回 プロジェクト
練習、リハーサル②
- 第 11 回 プロジェクト
最終調整、リハーサル③
- 第 12 回 プロジェクト
本番と振り返り
- 第 13 回 コミュニケーション
- 第 14 回 スピーチ
準備、練習
- 第 15 回 スピーチ
本番（技能テスト）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・理解するだけでなく、練習を通して、その基礎技法を習得する。
- ・グループで討議を行い、その後、全体で発表する。
- ・人前で話すための練習をする。
- ・毎回、一週間のコミュニケーションに関する自己の振り返り、毎回の授業の自己目標、自己課題、学習内容、意見、感想について記述し、知識や技能の向上に努める。
- ・発表等に対して、随時フィードバックがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・次回の課題の準備・練習をする。
- ・自己課題について、普段の生活でも改善に努める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、発表（30%）、授業参加度（40%）、ノート（30%）に基づいて、総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・対面授業である。
- ・ゲスト講師等を迎える可能性がある。
- ・実践的な授業のため、状況に合わせて内容・方法、スケジュールを変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『声のトレーニング』/福島英/岩波ジュニア新書/2005/4005005209

『テレビの日本語』/加藤昌男/岩波新書/2012/4004313783

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 司会、ナレーター、ラジオパーソナリティ、社会人に対するセミナー講師（コミュニケーション）の経験あり

日本語の朗読

CSA2406N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 3限

DP4：思考・解決力

60

定員30人

平野 美保

〔科目の教育目標（Course Description）〕

- ・発声・発音の基礎を習得し、豊かな音声表現力を身につける。
- ・朗読の難しさ楽しさを味わう。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・自己の音声表現を聞き、自己の音声表現の特徴等を知る。
- ・最初と最後の音声表現の違いから、その成長を実感する。
- ・羞恥心を克服し、豊かな音声表現を目指す。
- ・皆で協力して朗読会を成功させる。
- ・授業外でも、望ましい音声表現にする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

音声表現	音読をしている。	自己課題を認識し、改善に努めている。	自己課題を認識し、常に改善に努め、最終的に自信をもって朗読をすることができる。本授業外でも音声表現を改善するよう努めている。	自己課題を認識し、常に改善に努め、最終的に自信をもって高度な朗読をすることができる。本授業外でも豊かな音声表現でプレゼンテーション等を行うことができる。
共生・協働する力	意見等を述べることができない。	意見等を述べるができる。	積極的に活動に参加し、チームに貢献することができる。	積極的に活動に参加し、他者への傾聴や思いやりをもって、高度なレベルでチームに貢献することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業のオリエンテーション (対面授業)
- 第 2 回 音声表現の聴き比べ (対面授業)
- 第 3 回 音声表現に関する知識と発声・発音の基礎 (対面授業)
- 第 4 回 朗読会Ⅰ 発表① (対面授業) 試行
- 第 5 回 朗読会Ⅰ 発表② (対面授業) 解釈
- 第 6 回 朗読会Ⅰ 発表③ (対面授業) 「間」の検討
- 第 7 回 朗読会Ⅰ (対面授業) 表現、リハーサル
- 第 8 回 朗読会Ⅰと討議 (対面授業)
- 第 9 回 朗読会Ⅱ (対面授業) 作品検討
- 第 10 回 朗読会Ⅱ (オンライン) 作品準備、練習
- 第 11 回 朗読会Ⅱ (対面授業) リハーサル
- 第 12 回 朗読会Ⅱ (対面授業) 本番A
- 第 13 回 朗読会Ⅱ (対面授業) 本番B
- 第 14 回 朗読会Ⅱ (対面授業) 本番C
- 第 15 回 まとめ (対面授業) 最初の録音 (第 2 回の授業) とあわせて聴き比べ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・あらかじめ決められた文章で最初と最後に発話 (朗読) する。それを録音しておき、聞き比べる。
- ・発声・発音の基礎を毎授業で行い、基礎技能を向上させる。
- ・朗読会の準備や実施を通して、また、協同的に取り組むことを通して、楽しさや責任感を感じながら、音声表現力 (朗読) の向上を目指す。
- *朗読会Ⅰ、朗読会Ⅱ、2回目の聴き比べで、全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・課題の準備・練習をする。
- ・発音練習等の基礎練習を、各自で毎日行う。
- ・朗読作品を検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、最終の朗読 (30%)、授業参加度 (40%)、レポート (30%) に基づき、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・対面を基本にしますが、1回程度オンラインで実施予定です。
- ・朗読会については、教室外で実施したり、授業以外の日に設定したりする場合があります。
- ・皆で作り上げる授業です。積極的な参加を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『日本語の発声レッスン 俳優編』/川和孝/新水社/1981/4915165019/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『声のトレーニング 歌える!話せる!自信がつく!』/小林由紀子/NHK出版/2004/4140881135

『NHK 日本語発音アクセント新辞典』/NHK放送文化研究所編/NHK出版/2016/4140113456

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶ 番組やビジネス用途のコンテンツのナレーターとしての経験あり。

日本語教育入門

CSA2304N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP3: 言語力

60

安原 凜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

グローバル化とともに、日本を訪れる外国人は年々増え、日本語を学ぶ外国人は世界全体で1000万人を超えている。そのような内外の外国人学習者に日本語を教える「日本語教育」とはどのような仕事なのか。この授業は、日本語教育の現況、内容、方法、問題点等について概観し、日本語を教える人にとって必要な基礎知識を習得してもらうことをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語教育とはどのような仕事なのか理解する
2. 日本語教育の方法について理解する
3. 日本語の学習段階N1～N5について理解する
4. 日本語教育で用いられる専門用語に習熟する
5. 日本語教育能力検定試験に関する知識を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語教育について学ぶ努力が見られない。	日本語教育について学ぶ姿勢がある。	与えられた課題に積極的に取り組み、日本語教育について理解しようとする。	授業で学んだことを日々の生活に役立てようとする。
知識・理解力	授業内容を理解する努力、知識を得ようとする努力が見られない。	授業で扱われた内容については、わかる範囲内で理解しようとする。	授業で扱われた内容について、積極的に理解しようとする努力が見られる。	授業外にも自ら積極的に参考文献などにあたるなどして、知識を増やす努力が見られる。
言語力	日本語教育に関する専門用語を理解しようとしていない。	日本語教育に関する専門用語を理解できるが、十分ではない。	日本語教育に関する専門用語を理解し、使える。	日本語教育に関する専門用語を理解し、生活の中で役立つ。

思考・解決力	思考・解決する方法が示されてもそれが理解できない。	方法を全て示されれば、ある程度自分で思考・解決することができる。	自ら思考し、解決しようとする。あるいはヒントがあれば自分で解決できる。	多角的に物事を考える力があり、適切な解決方法を自ら見出すことができる。
共生・協働する力	他者と意見交換をせず、他者と学び合おうとしない。	他者と意見交換がしているが、その成果を課題等に生かすことができない。	他者と積極的に意見を交わし、助け合って課題を完成することができる。	他者と積極的に意見を交わし、助け合い、完成度の高い成果が得られるよう努力することができる。
創造・発信力	授業で得られた知識を生かそうとする努力が見られない。	授業で得られた知識を生かそうとする努力は見られるが、十分ではない。	授業で得られた知識を生かすことができる。	授業で得られた知識を発展させることができる。

〔授業計画〕

- 第1回 第1章 日本語教育とは
- 第2回 第2章 日本語学習者とは
- 第3回 第3章 日本語教師とは
- 第4回 第4章 日本語能力の測定と試験
- 第5回 第5章 コースデザイン
- 第6回 第6章 さまざまな教授法
- 第7回 第7章 教材・教具
- 第8回 第8章 日本語文法 動詞のグループ分け
- 第9回 第8章 日本語文法 テンス アスペクト モダリティ
- 第10回 第8章 学習者の誤用
- 第11回 第9章 ティーチングトークとやさしい日本語
- 第12回 第10章 教室でのやり取りと学習者へのフィードバック
- 第13回 第11章 授業の流れを考えてみよう
- 第14回 第15章 これからの日本語教育
- 第15回 まとめと見極め

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 基本的にテキストにもとづき講義を行うが、資料を配布することもある
2. 適宜課題を出し、その発表や提出を求める
3. 授業内容を理解したかどうか確認するために、小テストを実施する
4. 日本語教育能力検定試験の問題にとりくむ

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業に出席しただけでは、日本語教育に関する知識を全て習得することはできない。

1. 授業外に授業で提示した参考書に自ら積極的にあたり、基礎知識を身につけておくこと
2. 指示された調査課題・発表課題を準備してくること
3. 予習（講義であつかう予定のテキストの該当箇所を読んてくる）すること
4. 授業後復習すること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・課題 (30%)、期末試験 (40%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

日本語教員養成課程必修科目。外国人への日本語教育や国際交流に関心をもつ人の受講を歓迎する。ただし、国際日本文化学科学学生以外は、卒業要件単位に入らない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『超基礎日本語教育』 / 森篤嗣編/くろしお出版/2019/978-4-87424-803-4 /学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本語教育事典』//大修館書店//

『講座 日本語と日本語教育』//明治書院//

『日本語教師・分野別マスターシリーズ』//アルク//

『ベーシック日本語教育』 / 佐々木泰子編/ひつじ書房/

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業内で提示する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中学校、進学塾、日本語学校、大学などの機関で、留学生への日本語教育を行った経験がある。

博物館概論

CSA1208N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博物館に関する基礎的知識を身につける。身近にある博物館の活動内容を知り、博物館学的な観点からそれを考察できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

博物館や学芸員の活動について、基本的な事項と実例、歴史を学ぶ。また、これらの活動の根拠となる法律や倫理規定を理解する。身近な博物館を知り、考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	博物館に関する基本的な事項をほとんど知らない	博物館に関する基本的な事項を知っている	具体的な博物館について調査し、活動内容を博物館学的観点から理解できる	博物館を訪れた際に、博物館学的に分析することが出来る
言語力	博物館に関する用語をほとんど知らない	博物館に関する用語を適切に使うことが出来る	具体的な博物館について調査し、活動内容を博物館学的観点から記述できる	博物館を訪れた際に、博物館に関する用語を使いながら説明することが出来る
共生・協働する力	博物館を利用者としての観点で見えていない	博物館に関わる多様な人々の視点を理解できている	博物館活動を運営する側の視点で考察できている	すべての人に開かれた社会教育施設としての博物館の意義を理解している

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 博物館と博物館学について

第 3 回 博物館の機能・学芸員の役割

第 4 回 博物館に関する法令 (博物館法など)

第 5 回 諸外国の博物館史

第 6 回 諸外国の博物館の活動例

第 7 回 日本の博物館史

第 8 回 日本の博物館の活動例

第 9 回 博物館における「収集」

第 10 回 資料の「保存」

第 11 回 博物館における「展示」

第 12 回 博物館における「教育普及」

第 13 回 博物館における「調査研究」と情報発信

第 14 回 博物館の現状と課題

第 15 回 展覧会見学 (実施回未定)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義が中心であるが、受講者に課題発表を求めることがある。

・manabaで提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することで、フィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストや資料の指示された箇所を読んでくること。
2. 指示された課題を準備してくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義への参加態度50%・レポート評価50%

〔留意事項 (Other Information)〕

大学近隣の施設で博物館見学会を1回実施する。予定表では第15回に記載するが、実施回は未定であり、別の回に実施する可能性が高い。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

浜田弘明総編集『シリーズ現代博物館学1 博物館の理論と教育』朝倉書店 2014年

そのほか適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(兵庫県立美術館で学芸員として勤務経験あり)

発展演習 I Q

CSS2600C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

必修 クラス指定

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「発展演習」は、1年次の「基礎演習」での学びを「発展」させ、専門の学びへと繋げていく授業である。この授業では、調べる、読む、書くといった基本的なスキルを高めるとともに、プレゼンテーションやディスカッションという知的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、演習をとおして、専門の学びにおける自身の研究分野について考えてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 文献を読み、書かれた内容を的確に理解する。
- 2 必要な資料を調査し、考察をしたことを記述する。
- 3 聞き手を意識しながら、分かりやすくプレゼンテーションする。
- 4 人の意見を聞いて、建設的に議論する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について

第 2 回 基礎演習との合同授業

第 3 回 文献講読演習 (1) —文献と担当箇所について

第 4 回 文献講読演習 (2) —担当箇所の内容を理解する

第 5 回 文献講読演習 (3) —担当箇所について報告する

第 6 回 文献講読演習 (4) —担当箇所についての質疑応答

第 7 回 文献講読まとめ—ふり返りとレポート作成

第 8 回 個別面談

第 9 回 課題解決型学習 (1) —課題の内容を理解する

第 10 回 課題解決型学習 (2) —課題に対する現状を調査する

第 11 回 課題解決型学習 (3) —課題に対して案を協議する

第 12 回 課題解決型学習 (4) —課題に対する案を発表する

第 13 回 課題解決型学習合同成果発表会

第 14 回 課題解決型学習まとめ—ふり返りとレポート作成

第 15 回 発展演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は主として発表とグループワークによって進める。
- 2 文献講読演習における担当者は、担当箇所について内容を説明する。
- 3 担当者の報告について質疑応答を行う。
- 4 課題解決型学習においては、課題についてグループで提案を行う。
- 5 グループは調査、協議を通して立案し、プレゼンテーションを行う。
- 6 示された案について質疑応答を行う。
- 7 発表とグループワークについてレポートを作成しまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 文献を通読して、内容を理解しておく。
- 2 参考文献や資料を調査し、自分の考えをまとめておく。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

(1) 課題への取組姿勢と内容 : 70%

(2) 学期末提出レポート : 30%

ただし、欠席 5 回以上で、単位の取得は困難となる

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アジア文化論

CSA2274N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本・中国・韓国といった東アジア諸国の文化の特徴や共通点・相違点について理解し、その背景について考察する。特に隣国である韓国の諸文化を合わせ鏡とすることを通じ、日本の諸文化への理解を深めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 東アジアの文化に関する基本的な知識を身に付けている。

(2) 韓国や中国との比較を通じて日本の文化についての理解を深めることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
東アジアの文化に関する基本的な知識	東アジアの文化に関する基本的な知識についての基本的理解が不十分である。	東アジアの文化に関する基本的な知識についての基本的理解は十分であるが、それらの背景について問う視点が不十分である。	東アジアの文化に関する基本的な知識について深く理解できているが、それらの背景について問う視点が不十分である。	東アジアの文化に関する基本的な知識について深く理解できており、さらにそれら背景について問う視点を身に付けている。

比較を通じた日本文化への理解	比較を通じた日本文化についての理解が不十分である。	比較を通じた日本文化についての基本的理解は十分であるが、それらをもとに東アジアと日本との関係について問う視点が不十分である。	比較を通じた日本文化について深く理解できているが、それらをもとに東アジアと日本との関係について問う視点が不十分である。	比較を通じた日本文化について深く理解できているが、それらをもとに東アジアと日本との関係について問う視点を身に付けている。
----------------	---------------------------	--	---	--

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 東アジアの文化圏

第 3 回 東アジア文化の源流

第 4 回 東アジアの家族

第 5 回 東アジアのジェンダーとセクシュアリティ

第 6 回 東アジアの言語

第 7 回 東アジアの食事

第 8 回 東アジアの宗教

第 9 回 東アジアの倫理・道徳

第 10 回 東アジアの社会関係

第 11 回 東アジアの近代史

第 12 回 東アジアの現代史

第 13 回 東アジアの今とこれから

第 14 回 東アジアと日本

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は講義を中心とするが、教員と学生および学生同士の双方向的なコミュニケーションを通じた深い学びを追求する。適宜、質疑応答やディスカッションをおこなうので、積極的に参加すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日頃から新聞等に目を通し、東アジア諸国の動向について把握しておくこと。その他、必要な予習・復習の内容については授業中に指示する。しっかりと準備をおこない毎回の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 定期試験：60% (授業で学習した内容全体を出題範囲とする)

(2) 提出物：20% (毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートを提出させる)

(3) 授業態度：20% (授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定せず、授業中に配布するプリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インターネット社会論

CSA2259N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

DP2 : 知識・理解力

60

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネットは1990年代以降、急速に世界中に広まった。この新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。

この科目ではまず、LINE、twitter、facebookに代表されるSNS(Social Networking System)の発展を可能にしたテクノロジーの歴史を整理する。そして、インターネットの発展に寄与しているオープンソース・ソフトウェアに関して、ビジネスモデルやその意味と可能性の理解する。最後に、SNSがもたらすこれからの社会に関して、インターネット環境を利用したエンパワーメントというキーワードを軸に考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下の内容を理解する。

- ・ silent majority (静かなる大衆) が手に入れたSNS
- ・ 各種SNSが作りだすネット空間
- ・ SNSの発展を可能にした各種のテクノロジー
- ・ インターネットの発展とオープンソースの関係
- ・ ビッグデータとAI (特にディープラーニング) の関係
- ・ SNSがもたらすエンパワーメント

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
SNSの発展を可能にした各種テクノロジーの理解	トランジスターをはじめとする各種テクノロジーを理解していない。	テクノロジーに関して、授業で扱う内容を理解している。	テクノロジーに関して、授業で扱う内容の背景や、その発展について理解している。	最新のテクノロジーに興味を持ち、SNSとの関連を常に考えている。

インターネットの発展とオープンソースの関係の理解	オープンソースについて理解していない。	オープンソースに関して、授業で扱う内容を理解している。	オープンソースに関して、授業で扱う内容の背景や、その発展について理解している。	オープンソースに興味を持ち、インターネットの発展との関連を常に考えている。
ビッグデータとAIの関係の理解	AIについて理解していない。	AIに関して、授業で扱う内容を理解している。	AIに関して、授業で扱う内容の背景や、その発展について理解している。	AIに興味を持ち、ビッグデータとの関係を常に考えている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業概要、コンピュータとインターネットの発展 (人物に注目して考察)
- 第 2 回 SNSが作りだすネット空間
「第五の権力」とは? silent majority (静かなる大衆) が手にしたSNS(Social Networking System)
- 第 3 回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(1)
各種SNSが作りだすネット空間、コンピュータの小型化 (トランジスターとは?)
- 第 4 回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(2)
コンピュータ、ネットワーク環境の発展
- 第 5 回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(3)
日本の携帯電話事情 (ガラケーからスマホへ)
- 第 6 回 SNSの発展を可能にしたテクノロジー(4)
iPhoneとAndroidのビジネスモデル (iOSはApple社の商品、Androidはオープンソースである)
- 第 7 回 インターネットの発達とオープンソース(1)
オープンソース・ソフトウェアとは? オープンソース現象とは?
- 第 8 回 インターネットの発達とオープンソース(2)
オープンソースのネット発展への貢献
- 第 9 回 SNSがもたらすもの(1)
インターネットがお金を生み出すしくみ、広告とコミュニケーション
- 第 10 回 SNSがもたらすもの(2)
ビッグデータとAI、データサイエンティスト
- 第 11 回 SNSがもたらすもの(3)
SNSがもたらすエンパワーメント
- 第 12 回 ネット時代に関する考察(1)
各自のレポートのテーマ決定
- 第 13 回 ネット時代に関する考察(2)
各自のレポートの情報収集と構成の確認
- 第 14 回 ネット時代に関する考察(3)
「ネット時代に関する考察」に関するレポートの提出と情報共有
- 第 15 回 まとめ
確認テストの実施と解説。解答例や講評はmanabaでも公開する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義中心で行う。さらに、各自が作成した「ネット時代に関する考察」をテーマとしたレポートの作成、発表も行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (35%)、まとめテスト (35%) の総合点で評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

外部講師を招いて特別授業を実施することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『SNS って面白いの?』 / 草野真一 / 講談社 / 2015/9784062579261/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『図解でわかる14歳から知っておきたいAI』 / インフォビジュアル研究所/太田出版/2018/

『オープンソースの逆襲』 / 吉田智子/出版文化社/2007/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブデザイン I

CSA2414N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜2限

DP4 : 思考・解決力

60

定員24人

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インターネット技術の総括的な理解から、ウェブサイトの規格や使用する言語、文字・画像などの情報の関連付けと視覚化と各種形式、さらにサイト運営における著作権問題などを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

毎回の授業は演習室で行うが、実習は概要を理解するための実験と位置付けているため、基本は講義となる。教科書として「改訂新版 インターネット講座」(北大路書房)を利用し、インターネットのしくみ、World Wide Webのしく

み、HTMLとCSSを利用したWebページの記述、JavaScriptを利用したWebページについてを、操作実習も交えて学ぶ。加えて、各種のファイル形式の知識を整理し、Web制作者として必要な著作権問題についても学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回

ガイダンス (この授業と「ウェブデザイン実務士」資格について、大学内の各演習室で使えるアプリケーションについてなど)

第 2 回

Webデザインの仕事とは?、本学のWebサーバー環境、Web制作のための法的知識 (著作権、意匠権、商標権、肖像権)

第 3 回

Webサイトの批判的閲覧とHTMLを使ったWebページの制作の基本

第 4 回

HTMLを使ったWebページの作成(画像表示・階層構造の理解)

第 5 回

HTMLとCSSを利用したWebページの制作実習 (1) 導入

第 6 回

HTMLとCSSを利用したWebページの制作実習 (2) 活用

第 7 回

JavaScriptを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(1) 教科書11章前半

第 8 回

JavaScriptを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(2) 教科書11章後半

第 9 回

CGIを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(1) 教科書12章前半

第 10 回

CGIを利用した「インタラクティブなWebページ」の記述(2) 教科書12章後半

- 第 11 回 HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(1) 企画
- 第 12 回 HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(2) サイト設計・ページデザイン
- 第 13 回 HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(3) ページ制作
- 第 14 回 HTML(+CSS)でのオリジナルページ制作(4) 各種ブラウザで表示確認、最終レポート提出
- 第 15 回

まとめ（確認テストの実施とその解説。manabaに解答例を公開）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を基本とするが、実習を伴った方が理解が促進される内容については、パソコンを利用した操作実習をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・毎回の授業に関して教科書の該当ページを示すので、事前に読んで参加すること。

・「Webページの批判的閲覧」に関して、一度ずつ発表する必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、最終レポートを含む提出物（30%）、確認テスト（40%）の総合点で評価。なお、授業での発表点は、授業参加度（30%）の中に含む。

〔留意事項（Other Information）〕

ウェブデザイン実務士科目群の基本となるため、他のウェブデザイン実務士科目よりも先に（特に「ウェブデザイン演習」よりも先に）に履修することが望ましい。

2019年度入学者が最終学年となる科目なので、2022年度までの開講となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014/978-4-7628-2830-0/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ウェブデザイン II

CSA2462N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 1限

DP4：思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

様々な技術やメディア、コンテンツから成り立つウェブサイトの特性を理解し、サイト制作に用いられるソフトウェアの実習を通してウェブサイトの構築方法の基礎を学び、適切なファイル（形式、データサイズ、著作権など）の取り扱い方法や、コンテンツの企画、編集などの『ウェブデザイン』の知識と技術を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

Adobe Bracketsほか、制作ソフトウェア・ウェブサービスを活用し、演習と課題制作を行いウェブサイトの制作能力を身につける。

ウェブの特性、技術を理解し、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

1) HTML/CSSコーディングの基礎技術の習得

・制作ツールの活用、操作方法の習得

・文章構造を理解したコンテンツの制作と編集

2) ウェブサイトのデザイン、編集の知識・技術の習得

・レイアウト技術の習得

・サイト構造の設計、編集知識の習得

3) ウェブサイト制作に関わる、応用技術の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (PC、OSの操作)	PCの起動、終了など、OSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用、環境設定の変更、周辺機器（プリンタ、スキャナなど）も適切に利用できる	OS、ソフトウェアのバージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える

知識・理解力（演習用ソフトウェアの操作）	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成、編集することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、ユーザーにとっても有益なコンテンツを作成することができる
思考・解決力（必要な情報の検索・収集・編集）	必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、使用ツールの解説、ソフトウェア基礎・環境設定
- 第 2 回 HTML基礎1（ファイル作成、文章構造にそったコーディング、素材の管理と編集）
- 第 3 回 HTML基礎2（画像、リンク、汎用要素ほか、関連要素の学習）
- 第 4 回 CSS基礎1（記述方法、文字装飾、カラー、単位、画像素材等の編集などの学習）
- 第 5 回 CSS基礎2（セレクタを活用した要素の装飾・レイアウト方法の学習）
- 第 6 回 CSSレイアウト1（汎用要素、セクション要素の活用したレイアウト方法の学習）
- 第 7 回 CSSレイアウト2（ナビゲーション、リスト、Flexレイアウトなどの学習）
- 第 8 回 ウェブデザイン応用技術1（JavaScriptの活用）
- 第 9 回 ウェブデザイン応用技術2（ウェブフォント他、ウェブサービスの活用）
- 第 10 回 最終課題出題、企画書作成（コンテンツ企画、サイト設計）
- 第 11 回 最終課題制作（コンテンツ収集、編集、加工作业）
- 第 12 回 最終課題制作（サイトの制作・編集作業、個別サポート）
- 第 13 回 最終課題制作（中間発表、サイトの制作・編集作業、個別サポート）
- 第 14 回 最終課題制作（動作検証、調整、編集箇所の確認、ブラッシュアップ作業）
- 第 15 回 最終課題の提出、合評
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各回解説資料・素材データを配布し、リサーチ、演習などの課題制作を行う。

最終課題では、演習で学んだ技術を活用して、各自が課題テーマに沿ったコンテンツを企画・編集し、ウェブサイトを制作する。

最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

〔予習・復習〕

授業内で配布する資料、素材データを元に復習をしておくこと。またデザインや構造など参考になるウェブサイトを各自で調査・研究しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加・理解度（30%）、授業毎の演習課題提出、技術習得（35%）、最終課題の完成度（35%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

人数制限：18名

「マルチメディア演習」を履修済み、もしくは「Adobe Photoshop」が扱える事が望ましい。

「グラフィックデザインと冊子制作」の受講も推奨する。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『HTML5+CSS3の新しい教科書 改訂新版 基礎から覚える、深く理解できる。〈レスポンスWebデザイン対応〉』/こもりまさあき・原一宣・赤間公太郎/エムディエヌコーポレーション/2018/8/27/4844367838

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

ウェブデザイン演習

CSA3451N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 後期

木曜 2限

DP4：思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ウェブデザイン関連科目で学んだ内容の集大成として、オリジナル企画のウェブサイトの制作に取り組む。企画、情報収集、編集、デザイン、加工、コーディング、公開まで

サイト制作に関わるワークフローを体験・理解し、ウェブデザイン実務士の資格に値するサイト制作の知識と技術、魅力的かつ効率的な情報の発信力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) オリジナルウェブサイトの企画・編集
 - ・ウェブサイト、コンテンツの企画
 - ・企画書作成 (ラフスケッチ、ワイヤーフレーム、サイトマップ)
 - 2) ウェブサイトのデザイン
 - ・画像編集ツール等を活用したウェブページのデザイン
 - ・素材 (画像、テキスト) の制作、収集、加工、編集
 - 3) ウェブサイトの構築
 - ・Adobe Bracketsほか、制作ツールを活用したHTML/CSSコーディング、サーバ利用
 - 4) 公開、プレゼンテーション
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (PC、OSの操作)	PCの起動、終了など、OSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器 (プリンタ、スキャナなど) を適切に利用することができる	OS、ソフトウェアのバージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力 (演習用ソフトの操作)	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成、編集する事ができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、ユーザーにとっても有益なコンテンツを作成することができる
思考・解決力 (必要な情報の検索・収集・編集)	必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、環境設定セットアップ、ウェブサイトの制作方法の復習
- 第 2 回 ウェブサイトリサーチ1 (アイデアリサーチなど制作準備、サイトマップ作成)
- 第 3 回 ウェブサイトリサーチ2 (サイト設計、ワイヤーフレーム作成)

- 第 4 回 ウェブサイトリサーチ3 (サーバ、ドメインに関する学習)
 - 第 5 回 ウェブサイトリサーチ4 (ウェブサービス、CMSに関する学習)
 - 第 6 回 課題サイトの公開準備 (公開サーバとFTPソフトウェアに関する学習)
 - 第 7 回 ウェブサイト作成1 (企画書作成、関連情報・技術のリサーチ)
 - 第 8 回 ウェブサイト作成2 (企画内容の講評・調整、素材制作、収集、編集)
 - 第 9 回 ウェブサイト制作3 (サイト制作・編集作業、個別サポート)
 - 第 10 回 ウェブサイト制作4 (ウェブサービス活用・検証・実装、個別サポート)
 - 第 11 回 中間チェック (進行状況をプレゼンテーション、修正点の確認、個別サポート)
 - 第 12 回 ウェブサイト制作 (中間チェックで指摘を受けた箇所の修正、コンテンツの追加・編集)
 - 第 13 回 ウェブサイト制作 (修正箇所の再チェック、ブラッシュアップ、個別サポート)
 - 第 14 回 ウェブサイト制作 (最終調整、公開準備作業)
 - 第 15 回 完成データ提出、合評 (プレゼンテーション)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ウェブサイトリサーチの演習でサイト制作、運用の関連技術の学習を行い、本科目及び関連授業で習得した知識、技術を活用してオリジナルのウェブサイト、ウェブコンテンツを企画、制作する。完成後は学内ネットワーク、または外部サーバを利用して公開する。中間チェック、最終課題は完成作品のプレゼンテーション・合評を行い、ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

〔復習〕

「マルチメディア演習」「グラフィックデザインと冊子制作」「ウェブデザインII」の履修者は、各授業で配布したレジュメ、配布データを元に復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ウェブサイトの公開を単位取得の条件とする。授業参加・理解度 (30%)、技術習得度 (30%)、課題サイトの完成度 (40%) の総合点で評価する。なお、「ウェブデザイン実務士」の資格認定を希望するものは、70点以上の評価を受ける必要がある。

〔留意事項 (Other Information)〕

人数制限：18名

本授業を受講するにあたり、「マルチメディア演習」を履修済み (もしくはIllustratorまたはPhotoshopが扱える)、および「ウェブデザインI」「ウェブデザインII」を履修済み (もしくはまたはHTMLとCSSのコーディング経験、基礎知識を

有している)ことを必須条件とする。

また「グラフィックデザインと冊子制作」の履修も推奨する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HTML5+CSS3の新しい教科書 改訂新版 基礎から覚える、深く理解できる。〈レスポンスWebデザイン対応〉』/こもりまさあき・原一宣・赤間公太郎/エムディエヌコーポレーション/2018/8/27/4844367838

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

クールジャパン論

CSA3550N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

DP5: 共生・協働する力

60

Hernandez H. Alvaro D.

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

2000年代に入ると、ポケモンやハローキティなどを代表とする、海外に渡った日本大衆文化・メディア文化は「クール」(カッコいい)と評価され、マーケットを拡大し続けた。日本国内で評価を得ていなかった、または評価されていなかったいわゆる「サブカルチャー」は海外で「クール」と呼ばれた事をきっかけに注目され、国の施策の対象となるなど再評価された。その過程において、日本のコンテンツ産業を海外に発信する枠組みが発展し、「クールジャパン」という文化政策の複合が次第に形成された。こうした政策は海外における日本コンテンツのマーケット拡大を促進すると同時に、大衆文化を通して外国の市民の理解を求める外交の一種であるパブリックディプロマシー(対市民外交)という側面もある。本講義では海外に渡って行く日本のコンテンツの具体例を見ながら「クール・ジャパン」の形成過程とその仕組みをコンテンツ産業、文化政策と消費文化といった三つの視野から考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・具体的な作品事例を見る事で、東アジア、ヨーロッパと北米における「クールジャパン」の経緯と成り立ちを理解する。

・「クールジャパン」が対象とするコンテンツ産業の仕組みとその国内外市場の基本を理解する。

・外交や国際的な視野を持った文化政策としての「クール

ジャパン」の仕組みと経緯の基本を理解する。

・海外における日本文化の受容(解釈、使用と変遷)の例を見る事で、コンテンツ産業と文化政策の論理の外から「クールジャパン」を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 イントロダクション: 主流サブカルチャー、『シン・ゴジラ』と『君の名は。』

第2回 コンテンツ産業から見たクールジャパン論

第3回 成長するメディアミックスと消費社会

第4回 『Shirobako』ークリエイティブ・クラス、知的財産とアニメ産業

第5回 Netflix化する日本アニメと表現のプラットフォーム化

第6回 コラム: バブル崩壊と「ポストモダン・日本」

第7回 『桃太郎 海の神兵』から読む表現力と文化力

第8回 『キャプテン翼』、国際交流と文化政策

第9回 『おしん』と『ドラえもん』ー東アジアと文化交流

第10回 ジャパニメーションと日本戦後アニメの魅力ー『ルパン三世 カリオストロの城』

第11回 『AKIRA』とフランスにおけるジャポニズム

第12回 コラム: 異文化理解とサブカルチャー

第13回 漫画大衆文化から見たサブカルチャーと周縁

第14回 「ボーカロイドムーブメント」と参加型文化

第15回 クールジャパンを考え直す

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・基本的に、海外に渡ったいくつかの特定の作品に注目しながら、その作品と関わる産業、政策と受容の特徴を分析することで、「クールジャパン」の仕組みを考察する方法を身につける。

・レポートや毎回のコメントシートから代表的なコメント、質問や論点を授業中で取り上げることで、課題へのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・授業で紹介する作品を参考に、必要となる文献を解説し、キー概念について考察する。
 - ・授業で取り扱う海外の事情や、作品などについて知識を広げ、自分の関心がある点について事前に調べる。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・毎回の授業に関するアンケート (30%)
- ・中間レポート提出 (30%)
- ・試験に替わるレポート (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

本講義は三つのユニットがあります。最初の二つのユニットの最終回 (第6回、第12回) にミニレポートを書いてもらいます。試験に替わるレポートには三つのユニットの内容を参考にして作成する必要があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか』大塚英志、大澤信亮、角川書店、2005年

『文化の対話力—ソフト・パワーとブランドナショナルを超えて』岩瀬功一、日本経済新聞出版社、2007年

Soft Power Superpowers: Cultural and National Assets of Japan and the United States. Watanabe, Y., & McConnell, D. L., An East Gate Book. 2008.

The Rhetoric of Soft Power: Public Diplomacy. Hayden, C., Lexington Books, 2012.

『ソフト・パワーのメディア文化政策—国際発信力を求めて』佐藤卓己、渡辺靖、柴内康文、新曜社、2012年

Regionalizing Culture: The Political Economy of Japanese Popular Culture in Asia. Otmazgin, N. K., Univ of Hawaii Press, 2013

『クール・ジャパンはなぜ嫌われるのか-「熱狂」と「冷笑」を超えて』三原 龍太郎、中央公論新社、2014年

『アニメの社会学—アニメファンとアニメ制作者たちの文化産業論』永田大輔、松永慎太郎編、2020年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

グラフィックデザインと冊子制作

CSA2416N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Adobe Illustrator、InDesign等のデザイン、編集ソフトウェアを活用した印刷物の制作を行う。グラフィックデザインに関する講義と3つの課題制作を通して、情報を紙媒体に落とし込む「伝える力」と情報がデザインされたものを「見る力」の両方を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

専用アプリケーションを用いた演習と課題を通して、紙の種類や製本方法など印刷媒体の知識と、それらを表現する技術とデザインに関する意識の向上と思考、情報収集能力を身につける。

課題1: 名刺デザイン

- ・名刺の分析
- ・情報の整理整頓
- ・文字について
- ・Illustratorの基本操作 (テキストの操作、ガイド、整列など)
- ・プレゼンテーションと合評

課題2: フライヤーデザイン

- ・紙面の編集、構成、レイアウトの学習
- ・画像要素の取り扱い
- ・文字組のルール
- ・印刷に関する知識の学習
- ・プレゼンテーションと合評

最終課題: オリジナル企画の冊子の作成

- ・冊子の分析
- ・企画、ラフスケッチ
- ・レイアウトフォーマットの作成
- ・素材制作、収集、編集
- ・出力、製本
- ・校正と仕上げ
- ・プレゼンテーションと合評

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (PC、OSの操作)	PCの起動、終了など、OSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのOSの基	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺	OS、ソフトウェアのバージョンの違いによる差異やアッ

		本操作が行える	機器（プリンタ、スキャナなど）を適切に利用することができる	アップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力（演習用ソフトの操作）	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力（必要な情報の検索・収集・編集）	演習や課題に必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、Illustrator基礎1（基本操作、パス、各種設定）
- 第 2 回 Illustrator基礎2（図形作成、編集方法の学習）
- 第 3 回 Illustrator基礎3（文字のデザイン）
- 第 4 回 課題1 名刺デザイン（情報編集、その他レイアウト機能の学習）
- 第 5 回 課題1 名刺デザイン（プレゼンテーションと合評、ブラッシュアップ）
- 第 6 回 課題2 フライヤーデザイン（レイアウト、画像ソフトとの連携）
- 第 7 回 課題2 フライヤーデザイン（文字組のルール、印刷に関する学習）
- 第 8 回 課題2 フライヤーデザイン（プレゼンテーションと合評、ブラッシュアップ）
- 第 9 回 最終課題 冊子制作（冊子の分析、企画コンセプトシートの作成）
- 第 10 回 最終課題 冊子制作（レイアウトフォーマットの設計）
- 第 11 回 最終課題 冊子制作（画像、テキスト素材の収集、加工、編集）
- 第 12 回 最終課題 冊子制作（中間チェック、ブラッシュアップ）
- 第 13 回 最終課題 冊子制作（コンテンツ追加、編集、ブラッシュアップ）
- 第 14 回 最終課題 冊子制作（校正と製本）
- 第 15 回 最終課題 冊子制作（プレゼンテーションと合評）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Illustrator他、デザインツールの技術と知識の習得を目的とした演習と、グラフィックデザインについての講義、課題制作によって進行する。課題1では名刺デザイン、課題2ではフライヤーデザイン、最終課題ではオリジナル企画、コンテンツの冊子を制作する。

小課題、最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、個別質疑・ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

〔予習・復習〕

最終課題「オリジナル企画内容の冊子」の制作に向けて、コンテンツ内容の企画、編集、調査、必要な素材の収集や撮影など準備を進めておくこと。

〔課題〕授業時間内に完成できなかった場合は、授業時間外に制作場所と時間を確保し完成させること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度(25%)、課題1の完成度(15%)、課題2の完成度(20%)、最終課題の完成度(40%)の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

人数制限:18名、Adobe Photoshopの演習を行う「マルチメディア演習」も併せて履修する事が望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・デザイナーズハンドブック—これだけは知っておきたいDTP・印刷の基礎知識/パイインターナショナル/2015/8/24/978-4756242303

・なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本。〉筒井 美希/エムディエヌコーポレーション/2015/7/31/978-4844365174

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務経験あり。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

プレゼンテーション概論

CSA2305N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP3：言語力

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、実社会でのプレゼンテーションの方法論を把握し、現場で応用するための素地を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. プレゼンテーションの型に関する基礎の習得
2. プレゼンテーションの事前準備に関する基礎の習得
3. 視覚資料作成に関する基礎の習得
4. チームでするプレゼンテーションの基礎の習得
5. 話す基礎技能の習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
プレゼンテーションに実務に関する基礎力	プレゼンテーション実務の基礎を理解していない。	プレゼンテーション実務の基礎を理解している。	プレゼンテーション実務の基礎を理解し、おこなうことができる。	プレゼンテーション実務全般を理解し、基礎的なことが十分にできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (対面授業)
プレゼンテーションとは
- 第 2 回 目的と聴衆分析 (対面授業)
身近な例での演習
- 第 3 回 企業と商品の研究 (オンライン)
プレゼンテーションをする商品等に関する調査
- 第 4 回 聴衆分析と型 (対面授業)
企業の商品の報告と聴衆分析
- 第 5 回 構成 (オンライン)
プレゼンテーションの準備
- 第 6 回 事前の準備 (対面授業)
報告と事前の準備の方法の把握
- 第 7 回 視覚物 (対面授業)
パワーポイント・配布資料と報告
- 第 8 回 視覚物の作成 (オンライン)
視覚物の作成
- 第 9 回 プレゼンテーションの準備 (オンライン)
準備
- 第 10 回 非言語 (対面授業)
望ましい方法の理解と実践練習
- 第 11 回 プレゼンテーションのリハーサル① (対面授業)

プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互評価、本番に向けての準備

第 12 回 プレゼンテーションのリハーサル② (対面授業)
プレゼンテーション演習、少人数での実践と相互評価、最終調整

第 13 回 プレゼンテーション実践① (対面授業)
最終のプレゼンテーション

第 14 回 プレゼンテーション実践② (対面授業)
最終のプレゼンテーション

第 15 回 プレゼンテーション実践③ (対面授業)
最終のプレゼンテーション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実社会でのプレゼンテーションに関する準備、練習の方法を理解し、理解したことを直ちに実践することを通して、具体的な方法の把握とともにプレゼンテーション実務に関する基礎を習得する。具体的には、1つのプレゼンテーションを、順を追って実践しながら学習することを通して、実社会でのプレゼンテーションに関する知識と技能を向上させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の課題を次回までに準備しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ワークシート 30%

最終のプレゼンテーション 30%

授業への参加/貢献 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ブレンド型で実施をする。
- ・進行状況等によって、随時、内容・方法を調整していく。
- ・授業全体でプレゼンテーションを作り上げていくため、参加が重要である。
- ・ゲスト講師による授業を行うこともある。
- ・フィールドワークに出る場合がある。その場合、交通費等が必要である。
- ・全体での報告、プレゼンテーションの際に、随時、フィードバックがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ビジネスプレゼンテーション改訂版』/武田秀子編/実教出版/2011/4407322616/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ビジネスプレゼンテーション 改訂版』/武田秀子/実教出版/2011/

『Power Point スライドデザイン』宮野公樹/化学同人/2009/

『プレゼンテーション zen デザイン』/レイノルズ, G/ピアソン 桐原/2010/

『ビジネス・プレゼンテーション 101の鉄則』 Tim Hindle/
ピアソン・エデュケーション/2002

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

《実践的科目》 社会人に対するセミナー（プレゼンテーション）講師経験あり。

マルチメディア演習

CSA2415N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP4：思考・解決力

60

定員18人

大谷 俊郎

【科目の教育目標（Course Description）】

ウェブサイトや印刷物など様々な媒体で発信される視覚情報を、自らも制作・表現できる為の技術と知識を習得する。また、制作した課題の合評を行うことにより、情報発信者としての在り方と論理的なデザインの構築能力を養う。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

演習、課題を通して画像編集ソフトAdobe Photoshopの知識と技術を習得し、ウェブデザインや印刷物など様々な媒体で活用できる、魅力的かつ効率的な視覚情報の編集、発信能力を身につける。

- 1) Adobe Photoshop基本操作
 - ・画面構成
 - ・レイヤーの概念
- 2) 画像編集
 - ・保存形式
 - ・色調補正、カラーモード
 - ・切り抜き方法、マスク、合成
- 3) テキスト要素の編集
 - ・文字ツール活用
- 4) デザイン補助機能活用
 - ・ベジェ曲線
- 5) 中間課題：バナーデザイン
 - ・画像解像度
 - ・完成課題作品のプレゼンテーション
- 6) 最終課題：オリジナルウェブサイトの企画、編集、デザイン
 - ・ウェブサイトのデザインカンパデータを作成
 - ・完成課題作品のプレゼンテーション

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力（PC、OSの操作）	PCの起動、終了など、OSの基本操作ができない	フォルダの作成、ファイルの移動、整理などのOSの基本操作が行える	適切なファイルの管理や活用や、環境設定の変更、周辺機器（プリンタ、スキャナなど）を適切に利用することができる	OS、ソフトウェアのバージョンの違いによる差異やアップデートに関する注意を理解し、自身で判断が行える
知識・理解力（演習用ソフトウェアの操作）	演習で使用するソフトウェアの基本操作が覚えられない。配布ファイルの確認、管理ができない	演習を通して、利用するソフトウェアの知識・技術を習得し、課題データを完成させることができる	演習で学んだ知識・技術を応用し、オリジナルのコンテンツを作成することができる	関連する授業、ソフトウェアの知識・技術を活用し、総合的なコンテンツを作成することができる
思考・解決力（情報の検索・収集・編集）	演習や課題に必要な情報・素材の収集、管理ができない	著作権を理解し、情報・素材の収集、適切な取り扱いができる	広告や商品をデザイン・制作意図の側面から分析し、自身の創作へ活用できる	オリジナル素材の準備、推敲・編集を行い、提供、発信を行うことができる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション、Adobe Photoshop基本操作（画面構成、各種設定）
- 第 2 回 画像編集1（描画、画像補正、ファイル形式）
- 第 3 回 画像編集2（色調補正、カラーモード）
- 第 4 回 画像編集3（画像合成、加工、編集、画像解像度）
- 第 5 回 テキスト要素の編集（文字ツール、文字パネル、文字編集）
- 第 6 回 その他機能の学習（調整レイヤー、フィルター、マスク機能）
- 第 7 回 中間課題制作：バナーデザイン（課題説明、制作）
- 第 8 回 中間課題制作：バナーデザイン（編集・制作、個別サポート）
- 第 9 回 中間課題合評（完成課題作品をプレゼンテーション）
- 第 10 回 最終課題制作：オリジナルウェブサイトの企画・デザイン（リサーチ、企画書作成）
- 第 11 回 最終課題制作：オリジナルウェブサイトの企画・デザイン（企画内容の個別指導、素材制作、編集作業）
- 第 12 回 最終課題制作：オリジナルウェブサイトの企画・デザイン（制作、編集作業、個別サポート）
- 第 13 回 最終課題制作：オリジナルウェブサイトの企画・デザイン（中間発表、個別サポート）
- 第 14 回

最終課題制作：オリジナルウェブサイトの企画・デザイン（制作、個別サポート、合評準備）
第15回 最終課題合評（完成課題作品をプレゼンテーション、講評、個別サポート）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各回のAdobe Photoshopの機能と関連知識を解説し、配布ファイルを使用した演習の制作、提出を行う。

また、中間課題ではバナーデザイン、最終課題ではウェブサイトのデザインカンプを制作し、印刷物を含むメディアの差異、特性を理解し、それぞれの媒体に対応できる知識と画像編集技術を身につける。

中間、最終課題は完成作品のプレゼンテーション、および合評を行い、個別質疑・ディスカッションにより、評価点と改善点の共有と指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

〔課題〕

授業毎の課題、中間課題、最終課題制作が授業時間内に完了しなかった場合は、各自で配布資料を参考に取り組むこと。

〔その他〕

日常生活で目にするデザイン物（チラシ、車内吊り広告、ウェブサイト等）を意識して見てどこが参考になるか、逆にどこを修正すべきか、などを考えておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加・理解度（30%）、技術習得度（30%）、課題の完成度（40%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

人数制限：18名、Adobe Illustrator、InDesignを学習する「グラフィックデザインと冊子制作」科目も併せて履修する事を推奨する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・Photoshop しっかり入門 増補改訂版【CC完全対応】[Mac & Windows対応]/まきの ゆみ /SBクリエイティブ/2018/5/22/978-4797397246

・なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本。〉筒井 美希 / エムディエヌコーポレーション / 2015/7/31/978-4844365174

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

複数の教育機関で教員、技術スタッフとして勤務。教材開発・研究業務のほか、デザイナー・ディレクターとして企業のグラフィック、ウェブサイト、マルチメディアコンテンツの制作・管理を行っている。

ヨーロッパ文化論

CSA3252N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

DP2：知識・理解力

60

白幡 俊輔

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ヨーロッパ特有の風景として、田園地帯の中に島のように浮き上がる都市がある。都市内外の境界がはっきりとせず、市街地が連続的に広がる日本と違い、ヨーロッパは古代より、都市とそれ以外の世界がはっきりと分断された地域だった。都市では農村部と異なる特有の生活が生まれ、都市を運営するための政治活動も盛んになった。さらにそこから芸術や思想といった、都市独自の文化が育まれたのである。

本講義では、都市に根差したヨーロッパ文化を、古代ギリシャ・ローマ時代から歴史に沿って紹介していく。都市の誕生から、建築物や街路・都市計画、ヨーロッパ人が理想とした都市イメージ、そして様々な文化活動まで、多角的に紹介する。

とくに都市における芸術・建築・文化活動が盛んになったルネサンス期の都市文化を重点的に扱う。レオナルド・ダ・ヴィンチやポティチェリの絵画芸術、ブルネレスキやアルベルティの建築物、マキアヴェッリの政治思想など、よく知られたルネサンス文化も、「都市」という切り口から分析すると、また新たな側面が見えてくるだろう。

さらに本講義の後半では、ルネサンスに登場した「理想都市」論から近代都市の誕生までを紹介し、そうした変化が社会にもたらした影響も論じる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・ヨーロッパにおける都市の歴史的成り立ちや、その文化的特徴

・とくにルネサンス文化（建築・芸術・思想）の隆盛と、都市の関係

・古代・中世からルネサンスを経て、どのように都市は「近代化」していったか

・都市が「近代化」した結果、人々の生活や社会構造はどのように変化したか

・ヨーロッパ都市モデルの世界史的影響と、東洋の都市（とくに日本）との差異

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業を静かに聞く	配布されたプリントに授業内容についてメモをとる	授業・プリントの内容を自分なりにノートにまとめる	自ら疑問点を発見し、教員への質問や自習等で解決する

知識・理解力	授業を聞き、内容を理解する	授業内容と、自分の経験・知識を関連付けられる	レベル2に加え、そこから自分の知識の欠落部分に気づく	レベル3に加え、知識の欠落を補うべく、書籍等で自習できる
言語力	テストに回答する	テストにおいて授業内容を的確に要約できる	レベル2に加え、授業に対する自分の考えを表現できる	授業を要約し、自分の考えを表現するだけでなく、説得的に論じることができる
思考・解決力	テストに備えて復習する	疑問点を教員に質問したり、学習のアドバイスを受ける	新たに興味をもった問題について自学自習する	自学自習の成果をテストに反映させ、説得的に記述する
創造・発信力	授業を聞き、内容を理解しようと努める	授業で生じた疑問点を質問できる	疑問点を積極的に質問し、友人とも話し合ってみる	それまで質問して来た内容を反映したテスト答案を作成する

〔授業計画〕

- 第 1 回 「都市文化」とは何か
 - 第 2 回 古代ギリシャ社会とポリス（都市国家）成立
 - 第 3 回 全都市のモデルとしての古代ローマ
 - 第 4 回 ローマ帝国の「ラテン化」と都市文化の拡散
 - 第 5 回 帝国の衰退による地方の分断と、中世都市の成立
 - 第 6 回 中世都市社会の政治・経済・暮らし
 - 第 7 回 城壁 —都市の内外を分ける境界線の役割
 - 第 8 回 都市的宗教としてのキリスト教
 - 第 9 回 ルネサンス芸術と都市社会の関係
 - 第 10 回 都市の理想像とルネサンスの建築家たち
 - 第 11 回 ルネサンス理想都市から近代計画都市へ
 - 第 12 回 都市共和国の衰退と新しい政治学の登場 —マキアヴェッリと国家理性
 - 第 13 回 大航海時代と拡散する「ヨーロッパ都市」モデル
 - 第 14 回 「みやこ」京都とヨーロッパの都市文化比較
 - 第 15 回 現代ヨーロッパにおける歴史都市の文化的役割
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は、基本的に講義形式で行う。随時、授業のテーマに沿って関連資料をプリント配布する。また、必要に応じて映画・ドキュメンタリー等の映像も利用する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

特定の教科書は指定しない。その代わりに参考文献にあげた書籍ないし、「都市」や「都市生活」に関連する書籍（時代不問。ヨーロッパ以外の地域でも構わない）を最低一冊目を通し、都市文化や都市の歴史について考えるための知

識を予め用意しておくこと（授業中、あるいは定期試験で各自の読んだ書籍について尋ねる可能性がある）

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は定期試験（90%）、授業参加度（10%）とする。定期試験は小論文形式とし、授業で学んだ内容を的確に要約する能力、および学習で身に着けた知識をもとに、自らの考えを論理的に表現する能力を問う。授業参加度は、授業中ないし授業ごとに配布する質問票による、学生からの質問状況を主な評価基準とする。なお、定期試験では自筆ノート（コピー不可）および授業で配布したプリントのみ持ち込み可とする。

〔留意事項（Other Information）〕

携帯電話/スマートフォン等の使用は禁止する（電源は事前にOFFにすること）。どうしても電源をOFFにできない事情がある場合は、授業前に教員へ申し出ること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

①『古代ギリシアの歴史 ポリスの興隆と衰退』/伊藤貞夫/講談社学術文庫/2004/ 4061596659

②『都市—ローマ人はどのように都市を作ったか』/デビッド・マコーレイ/岩波書店/1980/ 4001105233

③『中世ヨーロッパの都市世界』/河原温/山川出版社/1996/ 4634342308

④『中世の高利貸』/ジャック・ル・ゴッフ/法政大学出版局/1989/ 4588002791

⑤『イタリア都市の諸相』/野口昌夫/刀水書房/2008/ 4887085028

⑥『ルネサンス理想都市』/中嶋和郎/講談社/1996/ 4062580772

⑦『ルッカー八三八年—古代ローマ円形闘技場遺構の再生』/黒田泰介/編集出版組織体アセテート/2006/ 490253911X

⑧『コーヒーハウス 18世紀ロンドン、都市の生活史』/小林章夫/講談社学術文庫/2000/ 4061594516

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

異界・妖怪学

CSA2451N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜2限

DP4：思考・解決力

60

南郷 晃子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代のポップカルチャーに不可欠になった「異界」「妖怪」という概念の背景知識を深め、異界・妖怪学を踏まえた日本文化の理解、考察を行うことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・生活圏の中にある「異界」を歴史文化と関連付ける。
- ・文化的背景を理解し「妖怪」を題材にした現代文化の考察を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考力・理解力	異界・妖怪表象について主体的に分析、考察することができない。	異界・妖怪表象について自らその意味、背景について考えることができる。	異界・妖怪表象について、歴史的、文化的背景と関連づけながら分析、考察することができる。	レベル3に加え、異界・妖怪表象のありかたから、社会・文化について考察することができる。
知識・関心	授業において取り扱った異界・妖怪に関する知識が定着をしていない。	授業において取り扱った異界・妖怪に関する知識が定着している。	授業において扱った知識とともに、周辺知識について関心を持って学ぶことができる。	主体的に関連文献を読み、知識を広げることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 「妖怪」とはなにか
私たちが普段なにげなくつかっている「妖怪」という言葉について考えを深めます。
- 第 2 回 江戸時代の「妖怪」:キャラクターとしての妖怪
現在の「妖怪」イメージの根幹となる江戸時代の「妖怪」について考えます。
- 第 3 回 メディアと妖怪コミュニティと「妖怪」
現代の妖怪イメージの固定にメディアが果たした功罪を考えます。
- 第 4 回 幽霊譚の源流:お菊、累
「お菊」「累」の物語を入り口に、都市文芸としての怪異譚の源流を考えます。
- 第 5 回 女の「祟り」について:橋姫

怨む女、祟る女というモチーフに伴う問題をクローズアップして検討します。

- 第 6 回 「境界」を見つめる
伝承世界における空間の役割を考え、また特に境界が意味するものについて考察を深めます。
- 第 7 回 地獄の諸相
日本における地獄観念についての知識を深め、人々が死後の世界をどのように描いてきたのかを考えます。
- 第 8 回 京の「異界」を探そう:エクスカーション①
学外授業として、京都における「異界」を探しに行くエクスカーションを行います。通常の授業時間を振り替えて、日曜日に行います。
- 第 9 回 京の「妖怪」を探そう:エクスカーション②
学外授業として、京都における「妖怪」を探しに行くエクスカーションを行います。通常の授業時間を振り替えて、日曜日に行います。
- 第 10 回 世界像と「異界」
伝統的世界像を知るとともに、そこにおける「異界」について考えます。
- 第 11 回 京の「異界」「妖怪」を深めよう:エクスカーション③
これまでの授業を踏まえて、学外授業として、京都における「異界」「妖怪」理解を深めに行くエクスカーションを行います。通常の授業時間を振り替えて、日曜日に行います。
- 第 12 回 社会変動と「妖怪」:怨霊から考える
「怨霊」を中心に社会の変動が「妖怪」といかに関わるのかをみていきます。
- 第 13 回 コミュニティと「妖怪」
社会共同体の維持が生み出す「妖怪」について考えます。
- 第 14 回 グループ発表:エクスカーションを踏まえて
これまでの授業内容を踏まえた上でエクスカーションの成果をグループ発表をしてもらいます。
- 第 15 回 漫画・アニメと異界・妖怪学とその展望
現代文化において「異界」「妖怪」の観念がどのように展開されているのかを考えるとともに、異界・妖怪学のこれからの展望について考えます。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

古典を多く取り扱うため、古文の知識を復習しておいてください。

またエクスカーションを踏まえたグループ発表を行ってもらうため、その準備もお願いします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前にmanabaに資料を掲載する場合は、その資料を読んでおくこと。

グループ発表については、グループでの議論を行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、グループ発表の評価を含む平常点70%、レポート30%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

予定されている学外授業3回における施設等の入館料、入場料ならびに交通費は各自実費負担とします。また学外授業は、日曜日に振り替える形で行います。

受講者の人数や、訪問先の都合により、エクスカッション、およびグループ発表については、日程や回数などを変更する可能性があります。またそれに伴い授業計画を一部変更する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『怪異学入門』/東アジア怪異学会/岩田書院/2012/9784872947342 C1021

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

漢文学入門

CSA2220N1J
大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

60

定員50人

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

明治時代まで日本人によく読まれていた漢文を中心に講読し、漢文の歴史的、文学的背景を細かく解説しながら授業を進めていく。日本の言語、文学、思想などは、中国から影響を受けつつ独自の発展を遂げてきたが、古代中国人と日本人が共通に享受していた漢文の古典作品を現代人の視点より再読することによって、特に言語と文学の面において日本文化と中国文化の関係について考えたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中国古典を読むことによって、現在使われている熟語の意味を出典にさかのぼり、さらに深く理解する。
2. 漢文訓読の基礎を身につける。
3. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

漢文への理解度	テキストの内容が全く理解出来ない。	テキストの内容が少し理解出来る。	テキストの内容がある程度理解出来る。	テキストの内容がほぼ理解出来る。
訓読み方のマスター	訓読み方は全く理解出来ない。	訓読み方は少し理解出来る。	訓読み方はある程度理解出来る。	訓読み方はほぼ理解出来る。
日本語における漢文の意味	日本語における漢文の重要性は全く理解出来ない。	日本語における漢文の重要性は少し理解出来る。	日本語における漢文の重要性はある程度理解出来る。	日本語における漢文の重要性はほぼ理解出来る。

〔授業計画〕

- 第1回 割鶏焉用牛刀 『論語』陽貨篇
- 第2回 五十歩百歩 『孟子』梁惠王上
- 第3回 渾沌 『莊子』応帝王編
- 第4回 轍鮒之急 『莊子』外物篇
- 第5回 朝三暮四 『列子』黄帝篇
- 第6回 塞翁馬 『淮南子』人間訓
- 第7回 漁夫之利 『戦国策』燕策
- 第8回 牛山之木 『孟子』告子篇上
- 第9回 顧而言他 『孟子』梁惠王下
- 第10回 守株 『韓非子』五蠹
- 第11回 愛憎之變 『韓非子』説難
- 第12回 狐假虎威 『戦国策』楚策
- 第13回 蛇足 『戦国策』齊策
- 第14回 先從隗始 『戦国策』燕策
- 第15回 テスト及びテスト問題の解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 時代背景、人物背景などを通して、漢文の内容を丁寧に説明する。
2. 漢文の読み下しを朗読する。
3. 最終回において、テスト問題の解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 課ごとに予習と復習する。
2. 漢和字典の使い方、漢字の表外訓などの知識を身につける。
3. 漢文の基本的な語法、返り点の付け方を練習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

7

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (15%)、形成テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業ごとに資料を配布する予定。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中国古典を読むために』/頼惟勤/大修館書店//

『漢文【まとめと要点】』/森野繁夫、佐藤利行/白帝社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I P

CSB1600PJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

必修 クラス指定

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「基礎演習」は、国際日本文化学科1年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。前期の基礎演習は、大学の授業や単位の仕組みを理解し、これから求められる「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を養うことを目標とする。また、大学での新しい人間関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 大学での「学び」について理解する。
- 2 大学の授業や単位の仕組みを理解する。
- 3 図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。
- 4 レポートの書き方の基礎的な方法を理解する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
ガイダンス—大学での「学び」
- 第2回 合同授業
発展演習との合同授業
- 第3回 日本語表現
日本語表現演習(1)—会話と語彙/授業の受け方とノート・テイキング
- 第4回 日本語表現
日本語表現演習(2)—敬語表現/図書館について
- 第5回 日本語表現
日本語表現演習(3)—言葉の意味/図書館を利用して資料を検索する
- 第6回 日本語表現
日本語表現演習(4)—文法と言葉遣い/インタ?ネットによる資料検索について
- 第7回 日本語表現

日本語表現演習(5)—手紙での言葉遣い/他者の意見と自分の意見—「引用」とは何か

- 第8回 日本語検定模擬試験
日本語検定模擬試験
- 第9回 個人面談
個人面談
- 第10回 レポートの書き方
レポートの書き方
- 第11回 文献読解
文献読解(1)—内容把握
- 第12回 文献読解
文献読解(2)—内容要約
- 第13回 文献読解
文献読解(3)—要旨作成
- 第14回 文献読解
文献読解のまとめ—要旨作成ふり返りとレポート作成
- 第15回 まとめ
基礎演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 日本語検定試験にむけた演習を行う。
- 3 情報検索方法を学び、実践する。
- 4 収集した資料を読み内容を理解する。
- 5 理解した内容をレポートにまとめてみる。
- 6 レポートに対するコメントを読み、レポートを完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。
- 3 課題に対して積極的に取り組む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

(1) 課題への取組姿勢と内容: 70%

(2) 学期末提出レポート: 30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I Q

CSB1600QJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

必修 クラス指定

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「基礎演習」は、国際日本文化学科1年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。前期の基礎演習は、大学の授業や単位の仕組みを理解し、これから求められる「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を養うことを目標とする。また、大学での新しい人間関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 大学での「学び」について理解する。
- 2 大学の授業や単位の仕組みを理解する。
- 3 図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。
- 4 レポートの書き方の基礎的な方法を理解する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。

言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしていたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見をもち、他者に伝えようとしれない。	自分の意見をもち、他者に伝えようとするることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段と手法によって伝えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス—大学での「学び」
- 第 2 回 合同授業
発展演習との合同授業
- 第 3 回 日本語表現
日本語表現演習(1)—会話と語彙/授業の受け方とノート・テイキング
- 第 4 回 日本語表現
日本語表現演習(2)—敬語表現/図書館について
- 第 5 回 日本語表現
日本語表現演習(3)—言葉の意味/図書館を利用して資料を検索する
- 第 6 回 日本語表現
日本語表現演習(4)—文法と言葉遣い/インタ?ネットによる資料検索について
- 第 7 回 日本語表現
日本語表現演習(5)—手紙での言葉遣い/他者の意見と自分の意見—「引用」とは何か
- 第 8 回 日本語検定模擬試験
日本語検定模擬試験
- 第 9 回 個人面談

- 個人面談
- 第 10 回 レポートの書き方
レポートの書き方
- 第 11 回 文献読解
文献読解 (1) —内容把握
- 第 12 回 文献読解
文献読解 (2) —内容要約
- 第 13 回 文献読解
文献読解 (3) —要旨作成
- 第 14 回 文献読解
文献読解のまとめ—要旨作成ふり返りとレポート作成
- 第 15 回 まとめ
基礎演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 日本語検定試験にむけた演習を行う。
- 3 情報検索方法を学び、実践する。
- 4 収集した資料を読み内容を理解する。
- 5 理解した内容をレポートにまとめてみる。
- 6 レポートに対するコメントを読み、レポートを完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。
- 3 課題に対して積極的に取り組む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席 5 回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I R

CSB1600R0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「基礎演習」は、国際日本文化学科 1 年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。前期の基礎演習は、大学の授業や単位の仕組みを理解し、これから求められる「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を養うことを目標とする。また、大学での新しい人間関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 大学での「学び」について理解する。
- 2 大学の授業や単位の仕組みを理解する。
- 3 図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。
- 4 レポートの書き方の基礎的な方法を理解する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献 (引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス—大学での「学び」
- 第 2 回 合同授業
発展演習との合同授業
- 第 3 回 日本語表現
日本語表現演習 (1) —会話と語彙/授業の受け方とノート・テイキング
- 第 4 回 日本語表現
日本語表現演習 (2) —敬語表現/図書館について
- 第 5 回 日本語表現
日本語表現演習 (3) —言葉の意味/図書館を利用して資料を検索する
- 第 6 回 日本語表現
日本語表現演習 (4) —文法と言葉遣い/インターネットによる資料検索について
- 第 7 回 日本語表現
日本語表現演習 (5) —手紙での言葉遣い/他者の意見と自分の意見—「引用」とは何か
- 第 8 回 日本語検定模擬試験
日本語検定模擬試験
- 第 9 回 個人面談
個人面談
- 第 10 回 レポートの書き方

- レポートの書き方
- 第 11 回 文献読解
文献読解（1）—内容把握
- 第 12 回 文献読解
文献読解（2）—内容要約
- 第 13 回 文献読解
文献読解（3）—要旨作成
- 第 14 回 文献読解
文献読解のまとめ—要旨作成ふり返りとレポート作成
- 第 15 回 まとめ
基礎演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 日本語検定試験にむけた演習を行う。
- 3 情報検索方法を学び、実践する。
- 4 収集した資料を読み内容を理解する。
- 5 理解した内容をレポートにまとめてみる。
- 6 レポートに対するコメントを読み、レポートを完成させる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。
- 3 課題に対して積極的に取り組む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の方法・基準によって評価する。

（1）課題への取組姿勢と内容：70%

（2）学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項（Other Information）〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』（くろしお出版、2007・4）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I S

CSB1600S0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

鷲見 朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「基礎演習」は、国際日本文化学科1年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。前期の基礎演習は、大学の授業や単位の仕組みを理解し、これから求められる「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を養うことを目標とする。また、大学での新しい人間関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1 大学での「学び」について理解する。
- 2 大学の授業や単位の仕組みを理解する。
- 3 図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。
- 4 レポートの書き方の基礎的な方法を理解する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス—大学での「学び」
- 第 2 回 合同授業
発展演習との合同授業
- 第 3 回 日本語表現
日本語表現演習（1）—会話と語彙／授業の受け方とノート・テイキング
- 第 4 回 日本語表現
日本語表現演習（2）—敬語表現／図書館について
- 第 5 回 日本語表現
日本語表現演習（3）—言葉の意味／図書館を利用して資料を検索する
- 第 6 回 日本語表現
日本語表現演習（4）—文法と言葉遣い／インターネットによる資料検索について
- 第 7 回 日本語表現
日本語表現演習（5）—手紙での言葉遣い／他者の意見と自分の意見—「引用」とは何か
- 第 8 回 日本語検定模擬試験
日本語検定模擬試験
- 第 9 回 個人面談
個人面談
- 第 10 回 レポートの書き方

- レポートの書き方
- 第 11 回 文献読解
文献読解（1）—内容把握
- 第 12 回 文献読解
文献読解（2）—内容要約
- 第 13 回 文献読解
文献読解（3）—要旨作成
- 第 14 回 文献読解
文献読解のまとめ—要旨作成ふり返りとレポート作成
- 第 15 回 まとめ
基礎演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 日本語検定試験にむけた演習を行う。
- 3 情報検索方法を学び、実践する。
- 4 収集した資料を読み内容を理解する。
- 5 理解した内容をレポートにまとめてみる。
- 6 レポートに対するコメントを読み、レポートを完成させる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。
- 3 課題に対して積極的に取り組む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I T

CSB1600T0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DP6：創造・発信力

90

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「基礎演習」は、国際日本文化学科1年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。前期の基礎演習は、大学の授業や単位の仕組みを理解し、これから求められる「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を養うことを目標とする。また、大学での新しい人間関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 大学での「学び」について理解する。
- 2 大学の授業や単位の仕組みを理解する。
- 3 図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。
- 4 レポートの書き方の基礎的な方法を理解する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス—大学での「学び」
- 第 2 回 合同授業
発展演習との合同授業
- 第 3 回 日本語表現
日本語表現演習(1)—会話と語彙/授業の受け方とノート・テイキング
- 第 4 回 日本語表現
日本語表現演習(2)—敬語表現/図書館について
- 第 5 回 日本語表現
日本語表現演習(3)—言葉の意味/図書館を利用して資料を検索する
- 第 6 回 日本語表現
日本語表現演習(4)—文法と言葉遣い/インタ?ネットによる資料検索について
- 第 7 回 日本語表現
日本語表現演習(5)—手紙での言葉遣い/他者の意見と自分の意見—「引用」とは何か
- 第 8 回 日本語検定模擬試験
日本語検定模擬試験
- 第 9 回 個人面談
個人面談
- 第 10 回 レポートの書き方
レポートの書き方

- 第 11 回 文献読解
文献読解（1）—内容把握
- 第 12 回 文献読解
文献読解（2）—内容要約
- 第 13 回 文献読解
文献読解（3）—要旨作成
- 第 14 回 文献読解
文献読解のまとめ—要旨作成ふり返りとレポート作成
- 第 15 回 まとめ
基礎演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 日本語検定試験にむけた演習を行う。
- 3 情報検索方法を学び、実践する。
- 4 収集した資料を読み内容を理解する。
- 5 理解した内容をレポートにまとめてみる。
- 6 レポートに対するコメントを読み、レポートを完成させる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。
- 3 課題に対して積極的に取り組む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項（Other Information）〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』（くろしお出版、2007・4）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 I W

CSB1600W0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

水曜 3限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を理解する。
- 2 資料に書かれた内容について考察する。
- 3 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する
- 4 人の意見を聞く態度を養う。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について

第 2 回 文献読解（1）—内容把握

第 3 回 文献読解（2）—内容要約

第 4 回 文献読解（3）—要旨作成

第 5 回 レポート作成（1）—アウトラインを組み立てる

第 6 回 レポート作成（2）—執筆する

第 7 回 レポート作成（3）—点検して体裁を整える

第 8 回 個人面談

第 9 回 一斉授業

第 10 回 プレゼンテーションとはなにか

第 11 回 プレゼンテーション（1）—Aグループ

第 12 回 プレゼンテーション（2）—Bグループ

第 13 回 発展演習との合同授業—1年プレゼンテーション発表会

第 14 回 発展演習との合同授業—2年ディベート大会

第 15 回 基礎演習後期まとめ 発展演習にむけて

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 文献や資料を読み内容を理解する。
- 3 文献や資料に書かれた内容について考察する。
- 4 自身の考察をレポートにまとめる。

- 5 プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。
- 6 プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。
- 7 プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 課題に関連する参考文献や資料を調査する。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II P

CSB1650POJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を理解する。
- 2 資料に書かれた内容について考察する。
- 3 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する
- 4 人の意見を聞く態度を養う。

- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンスー授業の位置づけ、進め方、評価について

第 2 回 文献読解 (1) —内容把握

第 3 回 文献読解 (2) —内容要約

第 4 回 文献読解 (3) —要旨作成

第 5 回 レポート作成 (1) —アウトラインを組み立てる

第 6 回 レポート作成 (2) —執筆する

第 7 回 レポート作成 (3) —点検して体裁を整える

第 8 回 個人面談

第 9 回 一斉授業

第 10 回 プレゼンテーションとはなにか

第 11 回 プレゼンテーション (1) —Aグループ

第 12 回 プレゼンテーション (2) —Bグループ

第 13 回 発展演習との合同授業—1年プレゼンテーション発表会

第 14 回 発展演習との合同授業—2年ディベート大会

第 15 回 基礎演習後期まとめ 発展演習にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 文献や資料を読み内容を理解する。
- 3 文献や資料に書かれた内容について考察する。
- 4 自身の考察をレポートにまとめる。
- 5 プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。
- 6 プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。
- 7 プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 課題に関連する参考文献や資料を調査する。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II Q

CSB1650Q0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

必修 クラス指定

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を理解する。
- 2 資料に書かれた内容について考察する。
- 3 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する
- 4 人の意見を聞く態度を養う。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスー授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第 2 回 文献読解(1)ー内容把握
- 第 3 回 文献読解(2)ー内容要約
- 第 4 回 文献読解(3)ー要旨作成
- 第 5 回 レポート作成(1)ーアウトラインを組み立てる
- 第 6 回 レポート作成(2)ー執筆する
- 第 7 回 レポート作成(3)ー点検して体裁を整える
- 第 8 回 個人面談
- 第 9 回 一斉授業
- 第 10 回 プレゼンテーションとはなにか
- 第 11 回 プレゼンテーション(1)ーAグループ
- 第 12 回 プレゼンテーション(2)ーBグループ
- 第 13 回 発展演習との合同授業ー1年プレゼンテーション発表会

第 14 回 発展演習との合同授業ー2年ディベート大会

第 15 回 基礎演習後期まとめ 発展演習にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート)〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 文献や資料を読み内容を理解する。
- 3 文献や資料に書かれた内容について考察する。
- 4 自身の考察をレポートにまとめる。
- 5 プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。
- 6 プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。
- 7 プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 課題に関連する参考文献や資料を調査する。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

(1) 課題への取組姿勢と内容 : 70%

(2) 学期末提出レポート : 30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II R

CSB1650R0J
 大学
 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
 1年次
 2単位 後期
 木曜2限
 DP6：創造・発信力
 60
 必修 クラス指定
 朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を理解する。
- 2 資料に書かれた内容について考察する。
- 3 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する
- 4 人の意見を聞く態度を養う。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。

思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしていたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見をもち、他者に伝えようとしめない。	自分の意見をもち、他者に伝えようとするることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段と手法によって伝えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスー授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第 2 回 文献読解 (1)ー内容把握
- 第 3 回 文献読解 (2)ー内容要約
- 第 4 回 文献読解 (3)ー要旨作成
- 第 5 回 レポート作成 (1)ーアウトラインを組み立てる
- 第 6 回 レポート作成 (2)ー執筆する
- 第 7 回 レポート作成 (3)ー点検して体裁を整える
- 第 8 回 個人面談
- 第 9 回 一斉授業
- 第 10 回 プレゼンテーションとはなにか
- 第 11 回 プレゼンテーション (1)ーAグループ
- 第 12 回 プレゼンテーション (2)ーBグループ
- 第 13 回 発展演習との合同授業ー1年プレゼンテーション発表会
- 第 14 回 発展演習との合同授業ー2年ディベート大会
- 第 15 回 基礎演習後期まとめ 発展演習にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 文献や資料を読み内容を理解する。
- 3 文献や資料に書かれた内容について考察する。
- 4 自身の考察をレポートにまとめる。
- 5 プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。
- 6 プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。
- 7 プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 課題に関連する参考文献や資料を調査する。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II S

CSB1650S0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を理解する。
- 2 資料に書かれた内容について考察する。
- 3 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する
- 4 人の意見を聞く態度を養う。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポー

ト作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

第1回 ガイダンスー授業の位置づけ、進め方、評価について

第2回 文献読解(1)ー内容把握

第3回 文献読解(2)ー内容要約

第4回 文献読解(3)ー要旨作成

第5回 レポート作成(1)ーアウトラインを組み立てる

第6回 レポート作成(2)ー執筆する

第7回 レポート作成(3)ー点検して体裁を整える

第8回 個人面談

第9回 一斉授業

第10回 プレゼンテーションとはなにか

第11回 プレゼンテーション(1)ーAグループ

第12回 プレゼンテーション(2)ーBグループ

第13回 発展演習との合同授業ー1年プレゼンテーション発表会

第14回 発展演習との合同授業ー2年ディベート大会

第15回 基礎演習後期まとめ 発展演習にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 文献や資料を読み内容を理解する。
- 3 文献や資料に書かれた内容について考察する。
- 4 自身の考察をレポートにまとめる。
- 5 プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。
- 6 プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。
- 7 プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 課題に関連する参考文献や資料を調査する。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II T

CSB1650TOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6 : 創造・発信力

90

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を理解する。
- 2 資料に書かれた内容について考察する。
- 3 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する
- 4 人の意見を聞く態度を養う。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスー授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第 2 回 文献読解(1)ー内容把握
- 第 3 回 文献読解(2)ー内容要約
- 第 4 回 文献読解(3)ー要旨作成
- 第 5 回 レポート作成(1)ーアウトラインを組み立てる
- 第 6 回 レポート作成(2)ー執筆する
- 第 7 回 レポート作成(3)ー点検して体裁を整える
- 第 8 回 個人面談
- 第 9 回 一斉授業
- 第 10 回 プレゼンテーションとはなにか
- 第 11 回 プレゼンテーション(1)ーAグループ
- 第 12 回 プレゼンテーション(2)ーBグループ
- 第 13 回 発展演習との合同授業ー1年プレゼンテーション発表会
- 第 14 回 発展演習との合同授業ー2年ディベート大会
- 第 15 回 基礎演習後期まとめ 発展演習にむけて
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 文献や資料を読み内容を理解する。
- 3 文献や資料に書かれた内容について考察する。
- 4 自身の考察をレポートにまとめる。
- 5 プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。
- 6 プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。
- 7 プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 課題に関連する参考文献や資料を調査する。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容 : 70%
- (2) 学期末提出レポート : 30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。
外部講師による招待講演を実施することがある。
学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

基礎演習 II W

CSB1650W0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 後期

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

60

必修 クラス指定

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を理解する。
- 2 資料に書かれた内容について考察する。
- 3 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する
- 4 人の意見を聞く態度を養う。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスー授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第 2 回 文献読解（1）ー内容把握
- 第 3 回 文献読解（2）ー内容要約
- 第 4 回 文献読解（3）ー要旨作成
- 第 5 回 レポート作成（1）ーアウトラインを組み立てる
- 第 6 回 レポート作成（2）ー執筆する
- 第 7 回 レポート作成（3）ー点検して体裁を整える
- 第 8 回 個人面談
- 第 9 回 一斉授業
- 第 10 回 プレゼンテーションとはなにか
- 第 11 回 プレゼンテーション（1）ーAグループ
- 第 12 回 プレゼンテーション（2）ーBグループ
- 第 13 回 発展演習との合同授業ー1年プレゼンテーション発表会
- 第 14 回 発展演習との合同授業ー2年ディベート大会
- 第 15 回 基礎演習後期まとめ 発展演習にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 文献や資料を読み内容を理解する。
- 3 文献や資料に書かれた内容について考察する。
- 4 自身の考察をレポートにまとめる。
- 5 プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。
- 6 プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。
- 7 プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 課題に関連する参考文献や資料を調査する。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』（くろしお出版、2007・4）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

京都フィールドワーク研究

CSA2403N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜2限

DP4：思考・解決力

60

定員25名

梅林 秀行

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

京都の「過去」はどのように〈構成〉されているのだろうか。本授業では研究の最前線の成果を踏まえた上で、歴史の舞台を実際に歩き、観察する。それによって京都の歴史、さらには人類史全般について、フィールドワーク視点から蓋然性（確からしさ）をもった理解の「技法」を深めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

既存研究の積み上げを通して、「現地」を観察する視点・技術を養っていく。現代の私たちとは異なる時代・社会の人びとは、どのような・どのように空間をつくり、育て、生きていったのか。歴史学・考古学・人類学・地質学の各分野の特性を把握しながら、総合的に理解を組み上げていく「技法」をつちかう。

1. 自己学習ツールの活用（デジタルアーカイブ、データベース）
2. 既存研究の理解・応用
3. 観察の「技法」習得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業内容を理解しようとししない	授業内容を理解しようとして努めている	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解した上で、学生自身の見解を付け加えようとしている

思考・解決力	授業内容について疑問を抱かない	授業内容について疑問を抱き、その解決に向けて努めている	授業内容の疑問を、学生なりに解決している	授業内容の疑問を解決した上で、学生自身で新たな学習課題を見出している
--------	-----------------	-----------------------------	----------------------	------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 京都フィールドワークの一步目
京都フィールドワークの総論。資料の調べ方、デジタルアーカイブの使い方を学ぶ。
- 第 2 回 京都盆地の成り立ち (1)
地質学の視点から、京都盆地の地形発達を学ぶ。
- 第 3 回 京都盆地の成り立ち (2)
フィールドワーク。「船岡山」と「西賀茂断層」を歩きながら、「地殻変動」と「断層運動」の実例を現地学ぶ。
- 第 4 回 平安宮・内裏の変遷 (1)
古代都城「平安京」の宮殿機能「平安宮」について、古代から中世・近世・近代に至る変遷を学ぶ。
- 第 5 回 平安宮・内裏の変遷 (2)
フィールドワーク。「平安宮」の痕跡を探し求めながら、古代宮殿の時代に応じた変遷を現地学ぶ。
- 第 6 回 清水坂 (1)
観音聖地「清水寺」の参道「清水坂」に集った中世の人々について、マイノリティ(被差別民、病者など)を中心に学ぶ。
- 第 7 回 清水坂 (2)
フィールドワーク。中世に栄えた観音聖地への参道「清水坂」(現松原通)を歩きながら、マイノリティの歴史の変遷を現地学ぶ。
- 第 8 回 本能寺の変 (1)
織田信長が戦死した「本能寺の変」の検討を通じて、中世から近世へ移り変わった戦国時代の京都の実像を学ぶ。
- 第 9 回 本能寺の変 (2)
フィールドワーク。「本能寺の変」を現地で検討しながら、惣構(都市を囲んだ堀・城壁)で囲まれた「戦国期京都」のスケールを体感・学習する。
- 第 10 回 御土居 (1)
近世京都を囲んだ堀・城壁の「御土居」を通じて、現代京都のスタート地点となった「豊臣政権」の京都改造を学ぶ。
- 第 11 回 御土居 (2)
フィールドワーク。「御土居」遺構が良好に残る箇所(京都市北区)を歩いて、近世統一政権の社会構想を現地で感じながら学ぶ。
- 第 12 回 祇園 (1)
近世鴨川の沿岸再開発事業によって誕生した、花街「祇園」の成り立ちと変遷を学ぶ。

第 13 回 祇園 (2)

フィールドワーク。観光化したイメージ形成前の「祇園」は、どのような場所に、どのようなすがただったのか。祇園の現地を歩きながら、「花街」の制度的特徴を観察・学習する。

第 14 回 新京極 (1)

近世から近代への移行期に、振興事業として実施された「新京極」の建設を通じて、「盛り場」の近世から近代の移り変わりを学ぶ。

第 15 回 新京極 (2)

フィールドワーク。「新京極」の現地を歩きながら、「寺町」から「劇場街」「商店街」へと変遷した京都最大の盛り場を体感・学習する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する (レポート)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 座学や自己調査による、予備知識や全体像の把握。
2. フィールドワークで得た知見による掘り下げ。
3. フィールドワーク時のレポートの講評は原則として次回講義時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストや参考文献を活用した事前リサーチ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

「授業参加度：30%、フィールドワーク時のレポート：40%、定期試験：30%」とする。なお、フィールドワークへの参加はできるだけ必須とする(身体に障害がある場合など、できるだけ講師側が配慮する)。

〔留意事項 (Other Information)〕

フィールドワークの際は、歩きやすい靴・服装でお願いします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『京都の凸凹を歩く1』/梅林秀行/青幻舎/2016/9784861525391
レジュメ・参考資料等は、各回の授業にて必要に応じて配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『京都の凸凹を歩く1』/梅林秀行/青幻舎/2016/9784861525391
『京都の凸凹を歩く2』/梅林秀行/青幻舎/2017/9784861526008
授業中にも、随時、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

京都学

CSA2255N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2：知識・理解力

60

福井 栄一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

京都が日本文化の核であり続けていることは論を俟たない。本講義では、京都の歴史・信仰・文学・歌舞音楽・芸能・祭礼・生活習俗などを幅広く採り上げる。

それらの理解を通じて、受講生ひとり一人が京都文化の見取図を得て、さらに日本文化そのものの特質へと考察を進めてもらうことが目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 京都の精神史
2. 京都の文学史
3. 京都の芸能史
4. 京都の生活史

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
理解力・思考力	京都に関心を持つ。	京都の固有名詞(地名、寺社名、人名など)を知る。	事象の歴史的な推移に目配りする。	因果関係を見出す。
発信力	地図やガイドブック類を閲覧する。	現地へ赴く。	事前に得ていた情報と現地情報を統合して論じる。	自身の知見を論稿にまとめて可視化する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. 京と黒髪：毛髪にこもる情念と狂気
毛髪に関する言い伝え、民間療法、寺社信仰、毛髪をモチーフにした文芸作品などを概観して、毛髪にこめられた民衆の情念を学ぶ。
- 第 2 回 2. 京と陰陽道①
京は陰陽道の聖地である。陰陽道の二大原理である陰陽説と五行説を学ぶ。
- 第 3 回 3. 京と陰陽道②
陰陽道思想と、暦・方位方角との相互関係を学ぶ。
- 第 4 回 4. 京と陰陽道③
京を舞台に活躍した、平安朝最強の陰陽師 安倍晴明の事績を学ぶ。
- 第 5 回 5. 京と草花：古都を彩る植物の美

京を華麗に彩ってきた草花や樹木の生態や逸話を学ぶ。

- 第 6 回 6. 京と小野小町①
世界三大美人のひとりである小野小町。京に色濃く残る小町伝説を学ぶ。
- 第 7 回 7. 京と小野小町②
小野小町は、京を舞台にした古典芸能にもしばしば登場する。それらを概観して、「小町もの」の芸能史を学ぶ。
- 第 8 回 8. 京と在原業平：元祖「色男」の軌跡
「色男」の代名詞である在原業平の京での事績を学ぶ。
- 第 9 回 9. 京と菅原道真①
京は、菅原道真信仰(天神信仰)が篤い地である。道真の前半生と逸話を学ぶ。
- 第 10 回 10. 京と菅原道真②
道真の後半生、とりわけ藤原氏との確執、太宰府への配流などについて学ぶ。
- 第 11 回 11. 京と菅原道真③
御霊信仰、雷神信仰などが習合した天神信仰の広がりについて学ぶ。
- 第 12 回 12. 京と歌舞伎：舞姫 出雲の阿国 登場
京は歌舞伎発祥の地である。阿国歌舞伎から野郎歌舞伎への変遷を学ぶ。
- 第 13 回 13. 京と梵鐘①
京の仏教文化を語る際、梵鐘は外せないキーワードのひとつである。梵鐘の機能と社会的な意味合いを学ぶ。
- 第 14 回 14. 京と梵鐘②
京、大坂、奈良などの名刹が擁する梵鐘について、由緒来歴や逸話を学ぶ。
- 第 15 回 15. 京と梵鐘③
梵鐘をモチーフにした「京鹿子娘道成寺」をめぐる芸能史を学ぶ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書・参考図書の内容に即するほか、講義中に配付するレジュメにも言及する。

なお、フィードバックは、次回講義冒頭あるいは学内ウェブシステムにて適宜行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバス記載の各講義の項目に従い、各自が教科書、参考書などを通読して、事前リサーチをしておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(60%)、定期試験(40%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『説話をつれて京都古典散歩』(福井栄一著、京都書房、2013年)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小野小町は舞う』(福井栄一著、東方出版、2005年)

『にんげん百物語』(福井栄一著、技報堂出版、2007年)

『龍の100の物語』(福井栄一著、技報堂出版、2011年)

『蛇と女と鐘』(福井栄一著、技報堂出版、2012年)

『説話と奇談でめぐる奈良』(福井栄一著、朱鷺書房、2019年)

『現代語訳 近江の説話』(福井栄一著、サンライズ出版、2020年)

〔参考URL(URL for Reference)〕

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~getsuei99>を閲覧し、「京都学」の問題意識を担当講師と共有する一助とされた。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

芸術への誘い

CSA2210N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

金曜3限

DP2: 知識・理解力

60

久野 将健 吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「現代音楽」「現代美術」と呼ばれる20世紀(とそれ以降)の芸術は、難しくて親しみにくいと言われることもある。しかし、これらの芸術は、日常に埋もれがちな感性を研ぎ澄ませる力を持っており、ぜひ体験してほしいものである。この科目では、作品鑑賞を通して、現代の芸術についての基本的な知識を得るとともに、鑑賞のポイントをつかむことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

音楽についてはストラヴィンスキーとメシアン、美術についてはピカソ以降の表現から選んだ作品を鑑賞し、現代の芸術表現に触れる。受講生の素直な感想を大切にしつつ、作品のしくみ、時代背景などを知ることで、さらに理解を深めることを目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 イントロダクション <久野、吉田>

第2回 ストラヴィンスキー その生涯と作風(音楽) <久野>

第3回 バレー音楽『ペトルーシュカ』 <久野>

第4回 バレー音楽『春の祭典』 <久野>

第5回 ピカソ(美術) <吉田>

第6回 抽象絵画 <吉田>

第7回 抽象彫刻 <吉田>

第8回 シュルレアリスム <吉田>

第9回 メシアン その生涯と作風(音楽) <久野>

第10回 ピアノ曲『幼子イエスに注ぐ20のまなざし』 <久野>

第11回 オルガン曲『主の降誕』 <久野>

第12回 歌劇『アッジの聖フランシスコ』 <久野>

第13回 ポップ・アート(美術) <吉田>

第14回 コンセプチュアル・アート <吉田>

第15回 パフォーマンス <吉田>

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義が中心であるが、受講者に感想や意見を求めることがある。また、必要に応じて課題発表を課すことがある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストや資料の指示された箇所を読むこと。
2. 指示された課題があれば、準備してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

全授業数の1/3を超えて欠席すると評価対象にならない(6回欠席で単位認定不可)。評価は授業参加度30%、期末レポート70%とする。期末レポートについては、音楽分野・美術分野の両方について提出する必要がある。

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業は1年次から履修できるが、音楽分野については「音楽文化概論」または「音楽鑑賞法」を履修した後の方が内容を理解しやすい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント等を配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜、授業時に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代音楽事情

CSA3203N1J

大学
 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
 2年次 3年次 4年次
 2単位 後期
 水曜1限
 DP2：知識・理解力
 60
 佐野 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代の音楽状況を取り巻く問題について、論じることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 20世紀の大衆社会における商品としてのポピュラー音楽のありようを理解する。
- 2) 様々な音楽が交流し、互いに影響しあうという視点より、20世紀の音楽についての知識を得る。
- 3) 音楽とその他の芸術との結びつきについて考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に参加する。	主体的に授業に参加する	授業内容をもとに音楽文化に関心を持つ。	授業内容をもとに身の回りの音楽文化に関心を持ち、自ら情報を得ようとする。
知識・理解力	現代の音楽事情を考える視点を得る。	現代の音楽事情を取り巻く背景について考える。	どのような社会的背景をもとに現代の音楽が発展してきたのかを理解する。	様々な音楽が相互に影響にしたい、新しい音楽ジャンルが生まれたことを考える。
言語力	授業で視聴した音楽の印象を語るができる。	授業で視聴した音楽の特徴を捉えることができる。	授業で視聴した音楽について、他の音楽と比較して言語化することができる。	授業で視聴した音楽の特徴をその背景とつなげて、他の人にわかりやすく伝えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 人間と音楽、音楽と社会との関わり
- 第 2 回 世界音楽という考え方、アフリカの音楽
- 第 3 回 アジアの音楽の影響

- 第 4 回 20世紀の社会と音楽
- 第 5 回 舞踊と音楽
- 第 6 回 日本伝統音楽と20世紀における展開
- 第 7 回 複製芸術と著作権
- 第 8 回 アメリカにおける黒人音楽の影響
- 第 9 回 ジャズの誕生からシンフォニックジャズまで
- 第 10 回 ジャズの展開
- 第 11 回 ロックンロールの身振りといビートルズの登場
- 第 12 回 ビートルズの音楽的変遷
- 第 13 回 日本語のうたと西洋音楽
- 第 14 回 日本のポピュラー音楽の変遷
- 第 15 回 ミュージカル

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各回に小レポートを課し、次回の授業で全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布したプリントを事前に読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度 (20%)、毎回の小レポート (40%)、最終授業における提出課題 (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・対面授業で実施。
- ・実際の授業の状況により、学生に周知した上で、予定の一部の順序を変更することがある。
- ・プリントを配布する。
- ・出席および毎回の授業への取り組みを重視する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『複製技術時代の芸術』ヴァルター・ベンヤミン (1936年) / 高木久雄・高原宏平訳 / 紀伊国屋書店 / 1965年
 『大衆音楽史—ジャズ、ロックからヒップ・ホップまで—』森正人 / 中公新書 / 2008年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代出版事情

CSA1253NOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2：知識・理解力

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本や雑誌をめぐる状況は、大きく変貌をとげている。古書でありながらそれをコンビニ感覚で販売する「新古書店」、インターネットで便利に購入できる「オンライン書店」、さまざまな形でコンテンツが入手できる「オンデマンド出版」、そして街の本屋や古本屋など。そして電子出版の新しい動きにより、出版そのものの成り立ちも今後大きく変わりうる。この授業では、こうした出版の現代的な実情と文化について、国際的な視点も取り入れつつ検討していく。その上で、マンガなどの日本独特の出版形態についても考察し、理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 出版の歴史、現状および将来の展望について理解する。
2. 出版に関わる文化について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業で扱われるトピックに関する知識・理解力	レポート課題において殆ど現れていない	レポート課題においてある程度現れている	レポート課題においてほぼ現れている	レポート課題において十分に現れている
トピックに関して現状、変化などを思考する能力	レポート課題において殆ど現れていない	レポート課題においてある程度現れている	レポート課題においてほぼ現れている	レポート課題において十分に現れている
課題について論理的かつ適切に文章で表現、説明できる能力	文章の内容が課題に全く沿っておらず、説明が適切でない	文章の内容が課題に沿っていない部分が多く、説明が不十分	文章の内容はある程度課題に沿っている。説明もほぼ適切	文章の内容が課題に十分に沿っており、説明も的確

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業内容のレビューと導入
- 第 2 回 出版流通と書店
- 第 3 回 出版メディアの歴史
- 第 4 回 書籍と雑誌について
- 第 5 回 現代の読書形態
- 第 6 回 出版社の概観、出版の企画
- 第 7 回 出版の電子化
- 第 8 回

表現の自由と出版に関する倫理 (レポート 1 提出)

- 第 9 回 著作権とそれに関わる諸問題
- 第 10 回 出版文化の国際比較
- 第 11 回 出版物から見る文化
- 第 12 回 学術情報の流通
- 第 13 回 フィールドトリップ (京都国際マンガミュージアム見学を予定 (変更の可能性あり))
- 第 14 回 マンガとその文化
- 第 15 回 まとめ：出版の役割と今後の展望 (レポート 2 提出)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を主体とするが、グループワーク、授業内課題も行う。講義内容に沿った課題についてレポートを作成することで理解を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業内容を復習し、レポートの準備を進める。授業内課題について準備する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート (2 回) により、講義内容の理解度を評価する (中間レポート 30%、期末レポート 60%) 授業への参加度 (10%) manaba で提出されたレポートに対して 講評、採点を本人に通知する。

〔留意事項 (Other Information)〕

京都国際マンガミュージアムへのフィールドトリップは、実施しない場合もある。その場合は代替の講義を行う。実施する場合には現地までの交通費が実費としてかかる。

〔テキスト (Textbook) (書籍名 (Title) / 著者 (Author) / 出版社 (Publisher) / 出版年 (Year Published) / ISBN / 学内販売の有無)〕

〔参考文献 (References) (書籍名 (Title) / 著者 (Author) / 出版社 (Publisher) / 出版年 (Year Published) / ISBN)〕

『出版メディア入門 (第 2 版)』 / 川井良介 (編) / 日本評論社 / 2012 / 9784535586161

〔参考 URL (URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国語学概論

CSA1201N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

木曜 5限

DP2 : 知識・理解力

60

音声言語を含む。

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

主に国語学学習未経験者を対象とし、どのような歴史の変遷の末に現在我々が話し聞き読み書きする日本語に至ったかという観点から、国語学の内、音韻・表記・語彙の分野における基礎を修得出来るようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語の文字・表記の特徴・歴史について学習する。
2. 日本語の音声・音韻の歴史について学習する。
3. 日本語の語彙に関する基礎知識について学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本語の語彙の種類や漢字の音訓についてまったく理解していない。	日本語の語彙の種類や漢字の音訓についてある程度理解している。	日本語の語彙の種類や漢字の音訓についてよく理解している。	日本語の語彙の種類や漢字の音訓について深く理解している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 漢字
- 第 2 回 音読み
- 第 3 回 訓読み
- 第 4 回 国字
- 第 5 回 当て字
- 第 6 回 熟字訓
- 第 7 回 音声記号
- 第 8 回 音韻数の変遷
- 第 9 回 平仮名の字源
- 第 10 回 片仮名の字源
- 第 11 回 ハ行転呼音
- 第 12 回 濁点・半濁点
- 第 13 回 連濁
- 第 14 回 濁音の共存・連続
- 第 15 回 和語・漢語

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義を受ける。
2. 小テストを受験する。
3. 次週に公開される小テストの解答を受けて、復習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布プリントを熟読し、辞典類で調べ、講義までに準備してくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度30点、小テスト70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

国語科教諭免許課程履修者および日本語教員養成課程履修者必修科目

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国際関係論

CSA1204N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

北澤 義之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 国際関係論の基礎的な用語を理解し使うことができる。
2. 身近な問題が国際社会の動きと、どう結びついていることか理解できる。
3. 自分たちの抱える問題を、どのように他の人達と(場合によっては国境を越えて)協力して解決できるか、その道筋を考えることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

国際社会の発展についての基本的歴史を知ること。国際関係の基礎的用語を使って、世界の現状について説明することができるようになること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	国際関係について知ろうとする。	国際関係の理論を理解しようとする。	国際関係の理論をもとに国際社会を理解しようとする。	国際社会の現実と理論の相違について議論しようとする。
知識・理解力	国際情勢に関心を持とうとする。	国際情勢の背景について理解しようとする。	国際関係の理論の発展と国際社会の関係について理解する。	冷戦後の国際社会の変化を説明できるようにする。
思考・解決力	国際社会の課題を知ろうとする。	国際社会の課題の背景を理解しようとする。	国際問題への対応の事例を学ぼうとする。	国際問題への対応の事例から、自分に可能な協力について考えるようになる。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする。	友人たちと一緒に学ぼうとする。	課題と一緒に解決しようとする。	友人とともに国際社会とのかかわり方を考えようとする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方とイントロダクション 国際社会の現状
事前学習：2021年の上半期で起きた最も重要な国際的事件を1つ探し、簡単に説明できるように情報をまとめる。
事後学習：授業の進め方とルールを確認する。他の受講者が紹介したニュースについて傾向を把握する。
- 第 2 回 国際社会の成立と国際関係論
事前学習：国際社会とは何か自分なりのイメージを説明できるように簡単にまとめる。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。国際社会と国際関係論の大まかな特徴を説明できるようにする。
- 第 3 回 国際政治の歴史（戦争を中心に）
事前学習：第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の原因と特徴と影響について簡潔に説明できるようにする。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。それぞれの大きな戦争が国際社会の変化にどのような影響を及ぼしたか考える。
- 第 4 回 国際関係に対する見方（リアリズムとリベラリズム）
事前学習：国際関係におけるリアリズム（現実主義）とは何かについて、概要を調べる。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。リアリズムとリベラリズムを対比して理解する。

- 第 5 回 ネオ・リベラリズム、ネオ・リアリズムの考え方の背景を確認する。
グローバルな問題と国際社会
事前学習：国際連盟と国際連合の類似点、相違点についてまとめる。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界が協力しないと解決しない問題には何があるのかを確認する。その中で国際機関の役割について確認する。
- 第 6 回 グローバル社会の新局面
地域的統合と対立／新しい政治アクターの登場について（NGO・NPO、MNCなど）
事前学習：EU成立の背景について調べる。／国家以外で国際社会に影響のある政治主体には何かがあるか調べる。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界の地域的協力と対立について基本的な特徴を確認する。／NGOやNPOの国際関係における機能について確認する。
- 第 7 回 現代世界と宗教 1
事前学習：世界の主要な宗教の分布を把握する。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世俗主義とは何か自分なりの考えをまとめる。
- 第 8 回 現代世界と宗教 2
事前学習：イスラム教の影響下にある地域を調べ、イスラム教の基本的な特徴を確認しておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。近年の世界的なイスラムと政治への注目の背景を確認する。
- 第 9 回 安全に関する国際協力（平和・紛争解決）
事前学習：第二次大戦後、国連が介入した紛争を調べておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。国連軍、PKOの活動の特徴と限界について確認する。
- 第 10 回 経済に関する国際協力（開発援助）
事前学習：世界の貧困国と先進工業国家の経済力の違いの概要をまとめておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。貧困問題が国際社会に及ぼす影響について確認する。
- 第 11 回 経済に関する国際協力（開発援助）
事前学習：代表的な難民問題を2つ調べ、その実態（実数、分布、背景）をまとめておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。難民問題と移民問題の現状を説明できるようにする。
- 第 12 回 新しい戦争・テロ問題
事前学習：テロリズムの定義と歴史を簡単にまとめておく。
事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。現代社会におけるテロの背景と現状について確認する。
- 第 13 回 環境・資源問題

事前学習：気候変動に関する京都議定書の内容と、2015年のCOP21の内容と課題を整理しておく。
 事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界の資源問題・環境問題を具体的にあげられるか確認する。

第 14 回 新しい協力と対立の可能性

事前学習：これまでに学習したこと以外に、国際社会で求められる協力には何があるか考えておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。

第 15 回 まとめ

事前学習：日本の世界とのかかわり方（援助、軍事協力）で何が近年問題になっているかを考えておく。

事後学習：これまで配布された資料の内容の確認と復習をする。国際社会の現状について振り返り、日本の課題を自分なりに指摘できるようにする。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講師が一方的に受講生に対してレクチャーする方式ではなく、学生のグループ別のディスカッションも行う、アクティブ・ラーニングの方式をとります。課題やレポートについては授業時にコメント・解説します。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

下の具体的なテーマについて、講師による講義のあと、いくつかのグループに分かれてグループ学習をし、その成果を発表してもらいます。この他に、毎回、コメント・質問票にを授業の終わるときに全員が提出します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価の対象となるのは、(1) グループ学習のプレゼンテーション、(2) 毎回提出するコメント・質問票、(3) レポートです。

点数の配分は、授業への参加度 20%、テーマに関する課題ワークシート(各人が毎回提出) 30%、レポート 50%。

〔留意事項（Other Information）〕

授業テーマに関する準備が前提になるので、かならず準備して授業に臨むように心がけてください。また、新聞の国際記事のタイトルだけでも、見るように習慣づけてください。最近の出来事を学習する中で、関心のあるテーマを見つけ、最終レポートとしてまとめてもらう予定です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

全体を通じてのテキストはありません。資料のプリントを適宜配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新版・国際政治学をつかむ』/村田晃嗣他/有斐閣/2015/9.784641177222E12

『国際理解のために』/高橋和夫/放送大学教育振興会/2013/9.784595314261E12

全体を通じての参考書は上の2冊だけです。

個別テーマごとに、教室で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

外務省ホームページ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

日本国際連合協会ホームページ <http://www.unaj.or.jp/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国際日本文化論

CSA1254N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

火曜 1限

DP2：知識・理解力

60

河野 有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この授業の目標は、国際的な視点から日本文化の諸相を捉えようとするものである。「国際的な視点」は自他の比較によって得られるが、自他の文化を対比は優劣を判定するものではない。ここでは、日本文化の特徴や各国の文化との関係性を、相互に隣接し並存し得るものと考えた姿勢を身に付ける。また、自らと異なるものに敬意をはらい尊重する態度を養うことを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 異なる文化を対比して論じる方法や態度を理解する。
- 文化表現を比較することで、日本文化の特徴を理解する。
- 文化表現の差異を、各国と日本の関係性の中で捉える。
- 参考文献や資料を参照しながら文化表現を読み解く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとすることができていない。	課題に主体的に取り組んでいる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
日本文化に対する知識・理解力	日本文化に対する理解ができていない。	日本文化に対する理解ができている。	日本文化の特徴を他の文化表現との対比により理解できている。	日本文化の特徴を他の文化表現との対比により理解し、それぞれの文化的な背景について

				考察することができる。
国際的な視点から文化表現について考える力	国際的な視点から文化表現を捉えることができる。	国際的な視点から文化表現を捉えることができる。	国際的な視点から文化表現を捉え、異なる文化表現を理解することができる。	国際的な視点から文化表現を捉え、異なる文化表現を尊重することができる。

〔授業計画〕

第 1 回	イントロダクション
第 2 回	文化を語るということ—国際日本文化とは
第 3 回	ジャパニーズホラー（1）—「リング」の世界
第 4 回	ジャパニーズホラー（2）—「The Ring」の世界
第 5 回	ジャパニーズホラー（3）—“比べる”とはどういうことか
第 6 回	ジャパニーズホラー（4）—「リング」と「The Ring」の比較
第 7 回	日本映画と韓国映画（1）—「サニー 永遠の仲間たち」と「SUNNY 強い気持ち・強い愛」
第 8 回	日本映画と韓国映画（2）—「サニー 永遠の仲間たち」の世界
第 9 回	日本映画と韓国映画（3）—「SUNNY 強い気持ち・強い愛」の世界
第 10 回	日本映画と韓国映画（4）—「サニー 永遠の仲間たち」と「SUNNY 強い気持ち・強い愛」の比較
第 11 回	日本映画とハリウッド（1）—「ハチ公物語」の世界
第 12 回	日本映画とハリウッド（2）—「HACHI 約束の犬」の世界
第 13 回	日本映画とハリウッド（3）—「ハチ公物語」と「HACHI 約束の犬」の比較
第 14 回	リメイクと「文化」
第 15 回	まとめと今後の課題

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業は講義形式で行う。
2. 海外でリメイクされた日本の映画をオリジナルと比較する。
3. 日本でリメイクされた海外の映画をオリジナルと比較する。
4. 比較をとおして、「文化」の相違について考察する。
5. 「文化」の相違を、内容と表現から考察する。
6. 最終授業では全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 課題に対して、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、課題に対する自分の考えをまとめておく。
3. 自分の感じたことや考えたことがどのように表現できるか、検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（40%）とレポート（60%）とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

テーマや取り扱う作品は履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国文学概論

CSA1200N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

火曜1限

DP2: 知識・理解力

60

国文学史を含む。

河野 有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕

国文学に対する多様な研究方法やその変遷について学び、それにより高等学校の教科書に掲載された諸作品を読みなおすことを通して、「読む」という行為について自覚的になることを目標とする。本文を校訂し、先行研究という読みの

歴史を辿り、文学研究の方法を意識しながら作品を読んで、自らの“読み”を客観的に論述できる力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国文学研究の方法について、基礎的な知識を身につける。
2. 文学の言葉と表現を読む力を養う。
3. 文学作品を読み、自分が考えたことを論述する力を養う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
国文学研究に関する知識・理解	国文学研究の方法や用いられている術語について理解していない。	国文学研究の方法や用いられている術語について理解している。	国文学研究の方法や用いられている術語について自身で調べ、理解している。	国文学研究の方法や用いられている術語について理解し、他の文献や術語の調査へと発展させることができる。
文学の言葉と表現を読む力	作品を言葉と表現に即して読むことができない。	作品を言葉と表現に即して読むことができる。	作品を言葉と表現に即して読み、言葉や表現の特質を把握できる。	作品を言葉と表現に即して読み、言葉や表現の特質を分析できる。
自分の考えを論述する力	自分の考えを論述することができない。	自分の考えを論述することができる。	自分の考えを適切な言葉や手法で論述することができる。	受信者を意識しながら、自分の考えを適切な言葉や手法で論述することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨN
- 第 2 回 “読む”とはどういうことか
- 第 3 回 芥川龍之介「羅生門」を読む(1)－本文と資料
- 第 4 回 芥川龍之介「羅生門」を読む(2)－同時代評と研究史
- 第 5 回 芥川龍之介「羅生門」を読む(3)－下人と老婆
- 第 6 回 中島敦「山月記」を読む(1)－本文と資料
- 第 7 回 中島敦「山月記」を読む(2)－同時代評と研究史
- 第 8 回 中島敦「山月記」を読む(3)－李徴と袁?
- 第 9 回 夏目漱石「こころ」を読む(1)－本文と資料

第 10 回 夏目漱石「こころ」を読む(2)－同時代評と研究史

第 11 回 夏目漱石「こころ」を読む(3)－「こころ」論争について

第 12 回 国文学研究の方法

第 13 回 文学研究とジェンダー

第 14 回 国文学史とは何か

第 15 回 まとめと今後の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は講義形式で行う。
2. プリントを配布して教材として活用する。
3. 授業の終了時に授業の内容にかかわる課題や感想、意見を提出する。
4. 課題に対しては次回の授業において、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。
3. 自分の感じたことや考えたことがどのように表現できるか、検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(40%)とレポート(60%)とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

書写研究

CSA2201N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2：知識・理解力

60

定員30人

安岡 素子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育職員免許状取得 (中学校 1 種免許状国語科) で必要とされる「書写」の知識と技能の基本を理解し、実技を通して学習指導の方法や技術を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 漢字、平仮名、片仮名成立と特性を理解し、実技に於いては、中学校国語科書写教育指導で必要となる毛筆「楷書」、「行書」の基本用筆を習得する。
2. 中学校国語科書写教育指導で必要となる硬筆、および教育実習、就職活動に於いて求められる書写能力 (ペン字) を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	書道・書写は単に筆で字を書くことだけだと理解している。	自分の書く文字を自己分析できない。	自分の書く文字の改善点を理解し、実践する。	実践するにあたっての努力、創意工夫をしている。また、その成果がみられる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義：書写教育について、実習について
- 第 2 回 講義：中国書道史概要、文房四宝について
- 第 3 回 講義：用筆法 実習：用筆法を理解して基本点画を書く
- 第 4 回 講義：楷書について 実習：楷書を書く
- 第 5 回 実習：楷書を書く (古典臨書)
- 第 6 回 実習：楷書を書く (古典臨書)、実習課題提出
- 第 7 回 実習：行書を書く
- 第 8 回 実習：行書を書く (古典臨書)、実習課題提出
- 第 9 回 講義：硬筆書写について 実習：(平仮名、片仮名を書く、ペン字)
- 第 10 回 講義：硬筆書写について 実習：(漢字、ペン字)
- 第 11 回 講義：教育実習現場における書写、ペン字 実習：教育実習簿、レポートの美しく見える書き方
- 第 12 回 実習：就職活動におけるペン字、履歴書、手紙の書き方
- 第 13 回 ペン字総合 (実習課題提出)
- 第 14 回 講義：日本書道史 (仮名成立まで) と日本の書写教育について、古筆鑑賞

第 15 回 書写教育まとめ (板書指導含む)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実習毛筆作品提出 (楷書、行書)

定期試験に替わるレポートとして、講義内容の中からの題目で考察したレポート (例 書体の変遷について)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義は参考文献をもとに、プリントを配布して行う。講義後は実習を行う。実技では、毛筆、硬筆を中心にを行い、個人添削を行う。毛筆 (楷書、行書) および硬筆 (ペン字) については、まとめとして実習提出物 (課題作品) を提出、講義内容をもとに、指定した題目でレポートを指定した期日までに作成 (学期末提出物) 提出し評価を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

中国の歴史について (図書館等で) 事前に調べておくこと。(楷書体が完成する) 唐代まで

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

0.5時間×15回

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業内の積極性30%、実習中提出物 (課題作品) 30%、学期末提出物 (レポート) 40%により総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領解説国語編』//東洋館出版社/2008年/9.78449102309E11

『すぐわかる中国の書』//東京美術/2006年/9.784808708016E12

『すぐわかる日本の書』//東京美術/2010年/9.784808708832E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高校書道科教員経験

現在も大阪の私学高校において書道科を担当している。

実際の授業実習例を具体的に提示することができる。

京都大学人文科学研究所技術補佐員

現在も技術補佐員として、所内の拓本整理及びデータベースを作成。

京都大学人文科学研究所蔵 石刻拓本資料 (拓本データベース) を

作成。(作業チームリーダーとして、研究所蔵漢代から中華民国初期の拓本

5000枚からおよそ180万文字の画像を切り出し、釈文をつける作業を8年従事)

授業においては、拓本データベース検索結果を「書体の変遷」の具体例として

提示解説している。

情報科学 A

CSA3400N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 前期

水曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

吉田 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになっている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきた。

本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 情報のデジタル化によるデータ表現について学ぶ
2. コンピュータの内部でのしくみについて学ぶ
3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の概要紹介, 情報とデータ
アナログとデジタル、コンピュータの種類
- 第 2 回 コンピュータ内部での情報の表現(1)
コンピュータと 2 進数、複数組の 2 値状態
- 第 3 回 コンピュータ内部での情報の表現(2)
2 進数と 10 進数、変換する方法
- 第 4 回 コンピュータ内部での情報の表現(3)
コンピュータ内部での文字の扱い、文字コード
- 第 5 回 コンピュータ内部での情報の表現(4)
コンピュータ画像の仕組み、RGB値

- 第 6 回 「コンピュータ内部での情報表現」のまとめ
小テスト1回目と解説
- 第 7 回 コンピュータの仕組み(1)
littleBitsを用いてコンピュータの論理回路の基礎を学ぶ
- 第 8 回 コンピュータの仕組み(2)
littleBitsを用いて足し算する回路を制作する
- 第 9 回 コンピュータの仕組み(3)
プログラミング言語を通してコンピュータの動作(CPUとメモリの関係)を学ぶ
- 第 10 回 「コンピュータの仕組み」のまとめ
小テスト2回目と解説
- 第 11 回 情報モラルと情報セキュリティ(1)
ネット上の情報の信頼性と信憑性について
- 第 12 回 情報モラルと情報セキュリティ(2)
知的財産権の保護、著作権や工業所有権について
- 第 13 回 情報モラルと情報セキュリティ(3)
情報を守るセキュリティの仕組み(ファイアウォール、暗号化、SSLなど)
- 第 14 回 「情報モラルと情報セキュリティ」のまとめ
小テスト3回目と解説
- 第 15 回 全体のまとめ、自己評価
これまでの授業の振り返りと自己評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

manabaを用いて各回の講義内容、教材を配信する予定である。

また、responを用いて講義ごとに振り返りを行い、授業内でフォードバックを行う。

小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするとうい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で扱う内容に関連するテキスト記述を、事前に読んでくる。さらに、テキストにある練習問題を宿題とした場合は、宿題をやってくること。また、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架している。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30点満点の小テストを3回実施し、それに10点分の授業への参加度、毎回のresponへのコメントや自己評価を加算し、100点満点で評価を行う。3回の小テスト(90点満点)の合計点が60点に満たない場合は、追試験を実施する。

〔留意事項 (Other Information)〕

2020年度入学者が最終学年となる科目なので、2023年度までの開講となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『情報の表現とコンピュータの仕組み[第5版]』/ムイスリ出版/2014/978-4896412307/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ルビィのぼうけん コンピューターの国のルビィ』/リンダ・リウカス/翔泳社/2017/978-4798138770

『なるほどわかった コンピューターとプログラミング』/ロージャー・ディキンズ/ひさかたチャイルド/2017/978-4865490886

『コンピュータを使わない情報処理、アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進 監訳/イーテキスト研究所/2007/978-4904013007

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

西洋思想史

CSA2223N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

松井 吉康

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ヨーロッパ古代から近代にいたる思想の歴史を学び、それがどのように現代の欧米社会の考え方の基礎となっているかを理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

欧米社会の考え方が、どのような歴史の中で形成されてきたのかを学び、それを私達の社会理解とリンクさせる。私達の社会は民主主義社会であるが、それがどのような経緯で成立してきたのかを学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 授業の目的と狙い

講義の進め方とガイダンス。

第 2 回 哲学前史

神話の時代。古代ギリシア世界とはどのようなものか。

第 3 回 哲学の誕生

ソクラテス以前の哲学者達。(1)
ミレトス学派。

第 4 回 哲学の誕生(承前)

ソクラテス以前の哲学者達(2)
パルメニデスとヘラクレイトス。

第 5 回 ソクラテス

ソクラテスの思想革命。
ソクラテスの問答法。「無知の知」

第 6 回 プラトン

プラトンの哲学。(1)
イデアとは何か。

第 7 回 アリストテレス

アリストテレスの方法。
現実世界へのまなざし。

第 8 回 キリスト教と哲学

キリスト教の影響。
キリスト教とはどのような宗教か。

第 9 回 神と哲学

神(啓示)と哲学。
キリスト教と哲学。

第 10 回 近代とは

近代の始まり
デカルト

第 11 回 デカルト哲学

疑いと主体性
コギトの目覚め

第 12 回 イギリス経験論

ロックとヒュームの哲学。

第 13 回 カント哲学

カントにおける「真理と現象」。

第 14 回 ドイツ観念論からニーチェへ

ヘーゲル・シェリングからニーチェへ。

第 15 回 まとめ

まとめと質問の時間。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式ではあるが、授業中に色々な質問を投げかけるので、一人一人が、その問いに応答することが求められる。発言を強制することはしないが、一人一人が問題に真剣に向き合ってもらいたい。レポートの内容評価については、manabaにて回答する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回の授業で扱ったテーマを、日常の生活の中で顧みて、普段の生活に活かすよう意識する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

100パーセント、最終レポートで評価する。レポート執筆の際は、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義という形式ですが、大切なことは、聴講している皆さんが自分で考えるということです。発言を強制したりはしませんが、できるだけ質疑応答が盛んに行われるような授業にしたいと思っていますので、積極的な参加を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

西洋美術史 I

CSA2207N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ギリシア・ローマからルネサンス、マニエリスムにいたるまでの西洋美術の基本的な流れを把握する。代表的な作品を知り、様式の変化を学ぶ。また、作品を観察して、自分なりの感想を述べられるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・時代区分について基本的な知識をおさえる。・代表的な作品をよく観察し、基本的な情報を知る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	西洋美術史の流れが曖昧である	西洋美術史の基本的な流れを把握している	西洋美術史の基本的な用語・有名な作者や作品の知識を持っている	作品を見たときに、自分の知識を生かして時代や地域を推測できる

言語力	美術作品を扱った文章に触れたことがない	様々な美術作品の解説文を読んでいる	講義で扱った作品について専門用語を使いながら説明できる	初見の作品を専門用語を使いながら記述できる
思考・解決力	作品をぼんやりとしか観察できない	時間をかけてじっくりと作品を観察できる	自分なりに作品の面白さや疑問点を発見できる	作品を様々な観点から検討し、問題を発見できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 ギリシア・ローマの美術
- 第 3 回 初期キリスト教美術
- 第 4 回 西欧初期中世美術
- 第 5 回 ビザンティン美術
- 第 6 回 ロマネスク美術
- 第 7 回 ゴシック美術
- 第 8 回 15世紀イタリア美術 (1) マザッチョなど
- 第 9 回 15世紀イタリア美術 (2) ボッティチェリなど
- 第 10 回 15世紀ネーデルラント美術
- 第 11 回 15世紀フランス・ドイツ美術
- 第 12 回 16世紀イタリア美術
- 第 13 回 16世紀ドイツ美術
- 第 14 回 16世紀ネーデルラント美術
- 第 15 回 16世紀フランス美術

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・スライド(パワーポイント)を用いた講義形式とする。
- ・試験の結果、間違えた学生が多発したポイントについて、manabaで説明を公開する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布資料の指示された箇所を読んでおくこと。不明な地域や地名について、地図やインターネットで確認すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50%、学期末試験50%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新西洋美術史』/千足伸行監修/西村書店/1999/4890135839
『世界美術大全集 西洋編 全28巻・別1巻』//小学館/1995-1997/4096010294他

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

画像検索サイト（英語） Web Gallery of Art (<https://www.wga.hu/>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

昔話とストーリーテリング

CSA2512N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP5：共生・協働する力

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標（Course Description）〕

日本をはじめ世界中の昔話を知り、その特徴や歴史的な役割の変遷を知る。また、実践を通して、口承文化がどのように継承されてきたかを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 昔話を数多く読み、その時代や地域による特徴や普遍性について学ぶ。
2. 昔話の生まれた文化的背景を学ぶ。
3. 子ども向けに編纂された昔話とその課題について学ぶ。
4. 昔話を実際に語ってみる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	昔話をたくさんは知らない。	多様な種類の昔話を知っている。	昔話と各地域の歴史・文化との関連性を理解している。	昔話と歴史・文化との関連性を知ったうえで、その継承の意義を理解している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 I 概論 昔話とは何か
- 第 2 回 II 昔話を読む
1) 2、3、7、12：数字の持つ意味
- 第 3 回 II 昔話を読む
2) 異類婚：日本とヨーロッパの違い
- 第 4 回 II 昔話を読む
3) 異形のものたち：人の心が生み出した妖しい存在
- 第 5 回 II 昔話を読む
4) 由来話：ものの起源、ことの起こり
- 第 6 回 III 昔話の歴史的な役割の変遷と文化的背景
1) 古代～中世
- 第 7 回 III 昔話の歴史的な役割の変遷と文化的背景
2) 近代～現代
- 第 8 回 IV 子どもと昔話
1) グリムの登場

第 9 回 IV 子どもと昔話

2) 昔話絵本

第 10 回 IV 子どもと昔話

3) 昔話の残酷性

第 11 回 V 昔話を語る

1) ストーリーテリング概論

第 12 回 V 昔話を語る

2) 実践

第 13 回 VI 現代への継承

1) 芸術や情報技術との関わり

第 14 回 VI 現代への継承

2) 継承の意義

第 15 回 VII 内容理解確認と振り返り

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義では、基本的な事項を把握する。
2. 演習では、昔話をさまざまな方法で実際に語ってみる。
3. 授業中の課題については、その場で口頭によってフィードバックを行う。筆記試験については、終了後manabaで講評をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 提示された昔話をあらかじめ読んでくる。
2. さまざまな工夫をこらして、昔話を語るための準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業中の課題40%、筆記試験60%（第15回に実施）で評価する。授業中の課題には、昔話を語る課題を含む。

〔留意事項（Other Information）〕

ゲスト講師を招くことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習Ⅰ

CSS3600A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係など、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 各自が関心のあるテーマを探し、それについて学ぶと同時に、研究対象とするために明確な問題意識を持つ。
2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。
 - 1) 卒業論文の作成プロセスを学ぶと共に、文献探索法を身につける。
 - 2) 各自の研究テーマに基づき、研究計画を立てる。
 - 3) 各自のテーマに沿って、調査・研究を進める中で、情報の収集だけでなく、その選択・利用の方法を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ゼミに受け身で参加している。	ゼミに主体的に参加し、発言できる。	自分の研究に積極的に取り組むことができる。	自分の研究に積極的に取り組み、その改善にも力を尽くすことができる。
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力	自分の「問い」を明確にすることができない。	自分の「問い」をはっきりと持っている。	自分の「問い」を明確に言語化することができる。	自分の「問い」を検証し、発展させることができる。
共生・協働する力				
創造・発信力	自分の研究に主体的に取り組めていない。	研究テーマについて、基礎的なことを言語化できる。	研究テーマを掘り下げ、その「問い」について議論をすることができる。	根拠を持って、研究テーマにおける「問い」を検証し、それを文章にすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 論文執筆のプロセス
- 第 3 回 卒業論文テーマの探し方
- 第 4 回 卒論のための図書館利用と文献探索の基礎
- 第 5 回 テーマ探索のための解説と討議
- 第 6 回 テーマ(1)に関する「問い」の検討
例) 図書館における子どもへのサービス
- 第 7 回 テーマ(2)に関する「問い」の検討
例) 子どもの発達と遊び
- 第 8 回 テーマ(3)に関する「問い」の検討
例) 子どもの絵本の選び方
- 第 9 回 卒論のための図書館利用と文献探索の応用(1)
- 第 10 回 卒論テーマ探しのプロセス発表(ゼミ発表)
- 第 11 回 文献読解と発表
- 第 12 回 フィールドワーク(1)
- 第 13 回 文献読解と発表
- 第 14 回 研究方法の模索(ゼミ発表)
- 第 15 回 夏休みに向けての課題(ゼミ発表)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。
2. 子どもの文化、といっても幅が広いので、具体的な内容は受講生の関心に合わせて調整する。
3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する基本的な知識や現状、他者の考え方を把握する。
4. 3をもとに、ゼミの中で討論することで、他の学生の考え方を知り、自分の考察を深めていく。
5. フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解では担当する文献を事前に読み、その要約に考察を加えたレジュメを作成する。
2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。

3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物70%、授業参加度30%とし、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

ゲスト講師による授業を行うこともある。

必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合、交通費が必要となる場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6 : 創造・発信力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 音楽のさまざまな諸要素を専門科目で学んできた知識を踏まえて、ゼミにおいては少人数指導の下、さらに専門的に掘り進め、卒業論文にまでつなげていくようにする。各自の主体的な研究を尊重しながら進めていきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 音楽に関する文献を購読し、読解力を深める
2. 卒論執筆に向けて、各自のテーマに沿って準備を進める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力	適切な文章を書くことができない。	集めた情報と自分の意見を分けて書くことができる。	集めた情報に基づいて、自分の意見を構築して書くことができる。	論理的で、説得力のある文章を書くことができる。
思考・解決力	自らの考えを論理的に構築できない。	自らの考えを表現できる。	自らの考えを論理的に構築できる。	自らの考えを論理的に構築し、それを研究に生かすことができる。
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 導入 (ゼミの進め方について)

第 2 回 クリティカル・リーディング (どうやって本を読むか?)

第 3 回 クリティカル・リーディング (問いを立てる)

第 4 回 クリティカル・リーディング (論理の構造)

第 5 回 クリティカル・リーディング (問いの発展)

第 6 回 資料検索 (その実際)

第 7 回 資料検索 (統計情報の種類と入手方法)

第 8 回 データ収集・分析 (データ分析とはどういうことか?)

第 9 回 データ収集・分析 (データの種類について)

第 10 回 データ収集・分析 (データ分析を伴う研究のポイント)

第 11 回 グループ学習 (そのポイントと効果)

第 12 回 グループ学習とIT利用

第 13 回 ディベート

第 14 回 成果発表

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ生の関心と論文作成予定のテーマによるが、音楽学の諸分野 (音楽史、音楽文化、音楽表現等) の紹介をした上で、実技要素も取り入れながら理解を深めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

文献購読、発表、演奏などの課題に対して、準備を入念にした上でゼミに臨んでほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、課題等 (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回以上の欠席) は、原則として単位を与えられないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『マンガで教養 CD付 はじめてのクラシック』/飯尾洋一/朝日新聞出版/2017年/402333183X/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『決定版 はじめての音楽史: 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』/片桐功他/音楽之友社/2017年/427611019X

『詳説総合音楽史年表—音楽を世界の歴史からグローバルにとらえる』/皆川達夫/倉田喜弘監修/教育芸術社/2004年/487788212X

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6 : 創造・発信力

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

出版、活字文化、そして、それと密接に関わってきた図書館は長い歴史を経て発展してきたが、現在のインターネットを中心とした情報化社会においてそれらは大きく変わりつつある。このゼミでは、出版、図書館を含むが、それに捉われず情報、メディア全般をテーマとする。様々な情報メディアを取り扱い、情報を探す、利用する、保存する、発信する、また提供する、といった点における諸問題について考察する。また、情報、メディアの過去から現在への変遷について考える。さらに現代社会における情報、メディアにかかわる諸問題、また文化と情報との関係、文化を発信する力といった面もとりあげる。そして、書物からイ

ンターネットまで、過去から現在に至る多様なメディアを読みとって、なにかを発見したり、検証する能力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 出版、情報メディアの歴史、諸問題について理解を深める。
2. 情報を探索し、分析、または繋げて行くことで研究テーマを見つける。
3. 調査、研究、論文、プレゼンテーション等での発表の方法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	自身の関心あるテーマについて考えたり調べたりすることがほとんどなく、それについての説明も不適切かつ不十分	自身の関心あるテーマに関する考えや調べることが十分ではなく、それについての説明も不足している	自身の関心あるテーマに関して考え、調べ、その内容について説明することができる	自身の関心あるテーマおよび関連領域に関して積極的、自発的に考え、調べ、その内容について説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (ゼミの進め方、各自の興味のあるテーマについてなど)
- 第 2 回 情報をどのように理解し、利用するか
- 第 3 回 フィールドワーク
- 第 4 回 論文講読、発表の準備
- 第 5 回 発表とディスカッション (出版、インターネットなどのメディア)
- 第 6 回 発表とディスカッション (情報、メディアを扱う機関)
- 第 7 回 発表とディスカッション (情報の利用)
- 第 8 回 発表とディスカッション (情報発信)
- 第 9 回 研究テーマ探求のための情報収集
- 第 10 回 調査、研究方法
- 第 11 回 論文の構成と各項目の役割
- 第 12 回 各自の興味あるテーマに関しての発表
- 第 13 回 各自の関心があるテーマに関しての発表 (発表に関連するディスカッション、補足)
- 第 14 回 各自の関心があるテーマに関しての発表 (レポート作成作業)

第 15 回 まとめ：学習内容の確認と課題についての講評
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表を行う。授業中に発表についてフィードバックをする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に指定された、または自身で選択した文献を読み、その内容についてまとめ、発表の準備をする。調査、情報収集が必要な課題については、図書館、インターネット等で調べてくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内活動への参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

関連するテーマについてゲスト講師による授業、学外見学を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600D0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中におけることばの共有の歴史に関する基本知識を学ぶ。

2. 卒業論文或いは卒業制作をまとめるに必要な論文構成力、資料調査方法を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。
2. 明治以降のことば研究 (西洋言語からの翻訳語、日本との共有)。
3. 現代日中ことばの交流 (漫画、ドラマ、貿易などによる新しいことばの共有)
4. 東西およびアジアの多文化交流 (文学、民俗、言語、人物などなど)。
5. 授業の最終回において、提出されたレポートを返却し、振り返り学習をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	文献講読に全く興味がない。ゼミ発表も全く参加しない。	文献講読内容をあまり理解できていない。ゼミ発表も欠席がある。	文献講読内容をある程度理解できている。ゼミ発表も欠席せずに参加する。	文献講読内容をほぼ理解できている。ゼミ発表も積極的に参加し、自分の意見をしっかりと述べる。
創造・発信力	卒業研究のテーマ、形式について全く考えていない。	卒業研究のテーマ、形式について少し考えている。	卒業研究のテーマ、形式についてある程度考えて、文献資料を少し用意出来ている。	卒業研究のテーマ、形式について積極的に考え、文献資料もほぼ用意できている。

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 各自の研究題目について議論する

第 3 回 レジюме及び参考文献リストの作成方法

第 4 回 中国語と日本語の漢字語彙について

第 5 回 近代日中ことばの交流 (明治時代を中心に) に関する論文を読む (1)
経済用語を中心に

第 6 回 近代日中ことばの交流 (明治時代を中心に) に関する論文を読む (2)
法律用語を中心に

第 7 回 フィールドワーク (1)

京都の街にある漢字語彙を探そう (1) 一案内標示を中心に

第 8 回 発表 (1)

日中の共通語彙について

第 9 回 現代日中ことばの交流に関する論文を読む (1)

漫画用語を中心に

第 10 回 現代日中ことばの交流に関する論文を読む (2)

飲食用語を中心に

- 第 11 回 フィールドワーク (2)
京都の街にある漢字語彙を探そう (2) - 漢字博物館を見学する
- 第 12 回 発表 (2)
日中語彙交流に関する書物、人物の交流について
- 第 13 回 卒業論文の資料について
図書館での研究関連資料の探し方
- 第 14 回 卒業論文について
卒業論文題目と章立てを考える、レポート提出
- 第 15 回 まとめ
レポート返却、振り返り学習

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 文献、研究論文を読む。
2. それぞれの興味のあるテーマを見つける。
3. 自分のテーマに関係のある参考書を調べ、文献リストを作る。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

上記の作業を繰り返し行い、参考文献の調査方法、参考書、研究論文の読み方を覚えてもらう。また前期では2回発表を行い、レジュメの作り方、図書の調べ方なども身につけてもらう。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

10

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

評価は授業参加度30点、発表内容及び課題提出70点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

[留意事項 (Other Information)]

ゲスト講師によるスペシャル授業を行うこともある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

適時にプリントを配布する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

専門演習 I

CSS3600E0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

鷲見 朗子

[科目の教育目標 (Course Description)]

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

ファンタジーの世界ゼミ (担当者: 鷲見朗子)

1. このゼミでは大きく分けて2つの異なる分野を扱い、ゼミ生はいずれの分野からテーマを選んでよい。

1つ目はアラブ・中東・イスラームの分野で、それらについての文学、歴史、宗教、政治、女性学、社会学、芸術等を調査し、明らかにする。中東の映画作品を扱ってもよい。

2つ目はファンタジーの分野で、この分野は時代、地域の枠にとらわれず、幅広いファンタジー作品を対象にする。ファンタジーとは、魔法を含む超自然的、幻想的、空想的な事物をテーマやストーリーの主な要素におき、それらの不可思議さに作品の魅力を求めたものを指す。

2. 各自が上の分野から卒業研究テーマを見つけるために、関心のある事柄について学術論文及び本を読む。

3. 論文を書くための基礎となる文献の探し方・読み方と論文の書き方や記述表現なども学んでいく。

4. 前期は主に「シンデレラ」を扱う。

5. 観光分野も卒業論文・制作の対象とする。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. ファンタジーの理解
2. 「シンデレラ」の理解
3. 文献調査・文献収集
4. 文献の読解
5. 論文の書き方

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる

知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えた上で、応用につなげる
言語力				
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	取り組んでできなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやるようとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす
創造・発信力	新しい物事や見方に関心を持ち、自分の意見を形成しようとする	新しい物事や見方を探求し、自分の意見を形成し、他者へ伝えようとする	新しい物事や見方を生み出し、自分の意見を他者へ伝える	新しい物事や見方を応用し、自分の意見を他者への確に伝える

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 ファンタジーにおける 3 つの前提条件
- 第 3 回 ファンタジーを読む (オンライン)
- 第 4 回 ファンタジーとはなにか
- 第 5 回 論文の書き方 (句読点、段落)
- 第 6 回 ファンタジーとしての「シンデレラ」
- 第 7 回 「シンデレラ」へのジェンダー学的観点
- 第 8 回 グリム童話における「シンデレラ」
- 第 9 回 論文の書き方 (注、引用文献)
- 第 10 回 論文の書き方 (問いと仮説) (オンライン)
- 第 11 回 サンドリヨン (灰っ子) からシンデレラへ
- 第 12 回 魔法の杖とガラスの靴
- 第 13 回 シンデレラの慈愛的世界観 (オンライン)
- 第 14 回 論文の書き方 (文献収集)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

卒業研究テーマを選ぶために、テキストを含めたさまざまな作品や文献を読む。文献読解によって、知識を深めるとともに、学生が自分自身で問題提起を行い、論理的に主張を組み立て、まとめる力を培う。また、論文を作成するのに必要な文献収集法および発表に必要な発表資料の作り方や発表の仕方などのスキルも学んでいく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 課題作品・文献や自分の興味のあるテーマに関する文献を読む。
2. 読んだ作品・文献についてほかのゼミ生と意見交換を行う。
3. 課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度50%、発表・レポート50%によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600G0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 聖書およびキリスト教関連の文献の研究を通してキリスト教の思想と文化について理解を深めることを目的とする。文献の研究や討論や発表を通して、聖書における世界観、人間観、キリスト教思想を理解し、卒業論文作成に向けてテーマを見出すことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。
- 2 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。
- 3 発表の仕方を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	キリスト教関連文書を	キリスト教関連文書を	キリスト教関連文書を	キリスト教関連文書を

	読み、理解しようとする	読むための基礎知識があり、おおむね解釈することができる。	読解するための基礎知識と批判的に理解する力があり、独創的な視点から解釈することができる。	読解するための基礎知識と批判的に理解する力があり、独創的な視点から解釈し、討議し、小論文にまとめることができる。
討議し、プレゼンテーションする力を身につける	グループで自分のテーマについてプレゼンテーションしようとする	グループで自分のテーマについて概ね的確にプレゼンテーションすることができる	グループで自分のテーマについて的確にプレゼンテーションすることができ、さらに他者と討議することができる	グループで自分のテーマについてプレゼンテーションすることができ、さらに他者と討議して、他者との意見交換によって理解を深めることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 卒業論文のテーマの選び方
- 第 3 回 論文作成の方法
- 第 4 回 研究のための図書館での文献探索
- 第 5 回 聖書釈義の方法
- 第 6 回 キリスト教関連文書の読解の基礎
- 第 7 回 フィールドワーク（キリスト教と芸術）
- 第 8 回 卒論テーマ探索に関する解説とディスカッション
- 第 9 回 文献の解説と討論（例：聖書における聖霊の賜物）
- 第 10 回 文献の解説と討論（例：キリスト教と詩人）
- 第 11 回 文献の解説と討論（例：キリスト教の聖人）
- 第 12 回 発表資料の作成方法
- 第 13 回 フィールドワーク（キリスト教と史跡）
- 第 14 回 文献読解と発表
- 第 15 回 後期に向けて

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 自分が掘り下げようとするテーマを発見し、卒業論文への方向付けを行う準備をする
- 2 受講生の関心に合わせて聖書やキリスト教関連の文書を選定し、その研究方法を学び、文献や資料を読んで知識を深める。
- 3 フィールドワークを実施し、聖書の背景となる文化やキリスト教に関連する芸術作品等の展示を見学して、キリスト教文化の理解を深める
- 4 上記の研究をもとに、ゼミの中で討論を行い、自分の

考えを発表し、他の受講者との意見交換を行う。

- 5 自分の研究をレポートにまとめる。
- 6 授業内で、発表およびレポートの講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1 文献の読解では担当する箇所と参考文献を事前に読み、発表するためのレジュメを用意する。
- 2 フィールドワークに参加して、文献で学んだことを、異なった角度から学ぶよう努める。
- 3 卒業論文のテーマを見つけるために多様な文献に触れ、多方面からそのテーマに関する理解を深めるようつとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、発表・レポート（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/9.78820212713E11/学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600H0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6 : 創造・発信力

60

河野 有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> テーマ作品（「秒速5センチメートル」）を対象として、各自の興味により、様々な角度や方法で作品世界を論じていく。その過程により、作品を分析する方法について自覚的になる。また、発表とディスカッションにより、コミュニケーション能力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 自らテーマと方法を選択する。
- 2. 参考文献、資料を収集し整理する。

3. 口頭発表の準備をし、口頭発表を行う。
 4. 「専門演習Ⅱ」のテーマについて考える。
 [ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとしない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている術語について理解できていない。	授業の内容や用いられている術語について、理解している。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
言語力	自分の考えを言語を用いて表現できない。	自分の考えを言語を用いて表現できる。	自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を把握することができない。	課題の問題点を把握し、解決するための手法を検討することができる。	課題の問題点を明らかにし、検討した手法によち解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	議論や意見交換に参加しようとすることがない。	議論や意見交換に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加し、異なる考え方を尊重できる。
創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法とによって表現することができる。

[授業計画]

- 第 1 回 イントロダクション
 第 2 回 アカデミック・ライティングにむけて
 第 3 回 対象作品の論じ方 (1) ー物語の内容について
 第 4 回 対象作品の論じ方 (2) ー物語の方法について

- 第 5 回 資料と参考文献について
 第 6 回 研究文献を読む (1) ー研究史を整理する
 第 7 回 研究文献を読む (2) ー先行研究を分析し批評する
 第 8 回 受講生による発表とディスカッション (1)
 第 9 回 受講生による発表とディスカッション (2)
 第 10 回 受講生による発表とディスカッション (3)
 第 11 回 受講生による発表とディスカッション (4)
 第 12 回 受講生による発表とディスカッション (5)
 第 13 回 受講生による発表とディスカッション (6)
 第 14 回 発表とディスカッションをふり返って
 第 15 回 専門演習Ⅱにむけて

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 担当者は自分で選択したテーマと方法に基づき資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
4. ディスカッションによって明らかになった課題については次回に補足説明する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. テーマ作品を鑑賞して、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、先行研究と自分の考えを対比させてみる。
3. 自分の考えたことがどのように表現できるか、検討する。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

評価は、授業参加度 (40%) と発表内容 (60%) とに基づいて総合的に行う。

[留意事項 (Other Information)]

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

ゲスト講師による授業を行うこともある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

プリントを配付する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業中に紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

専門演習Ⅰ

CSS3600K0J
 大学
 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
 3年次
 2単位 前期
 水曜 2限
 DP6：創造・発信力
 60
 吉田 朋子

【科目の教育目標（Course Description）】

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

自分の関心のあるテーマについて、情報収集し、考察を深め、発信する技術を身につける。担当教員の専門は17世紀末～19世紀初めの西洋美術史だが、卒論のテーマについてはなるべく希望に沿うように柔軟に対応する。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

関心のあるテーマについて学術的に調査し、得られた情報と考察を、分かりやすく発信するパンフレットと制作意図を解説する企画書を作成する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組めていない	課題に主体的に取り組んでいる	自分で進行管理しながら期限までに課題を仕上げていく	目指す水準を自分で設定し、それに向けて努力できる
知識・理解力	自分の関心対象についてあいまいな知識しかない	自分の関心対象について基本的な知識がある	自分の関心対象についてどのような調査をすればよいか理解している	自分の関心対象について可能な限り情報を収集している
言語力	自分の関心対象についてうまく説明できない	自分の関心対象について基本的な情報を明確にまとめている	自分の関心対象について詳しい情報と魅力を分かりやすく伝えることが出来る	自分の関心対象について、図解や図版を巧みに併用して分かりやすく伝えられる

思考・解決力	自分の関心対象について深く考えたことがない	自分の関心対象について様々な角度から検討している	自分の関心対象について自分なりの問いを見つけている	自分なりの問いを明らかにしようとして取り組んでいる
創造・発信力	効果的な表現について考えたことがない	様々な事例を見て、効果的な表現を指摘できる	自分なりに試行錯誤して効果的な表現を目指している	状況や受け手のことを考えて表現の手法を選択できている

【授業計画】

- 第 1 回 インTRODクシヨン
INTROクシヨン
- 第 2 回 発表
仮テーマについて
- 第 3 回 辞典・事典の活用
自分のテーマに関わる事項
- 第 4 回 図書館の活用
自分のテーマに関わる様々な文献資料
- 第 5 回 インターネットの活用
画像データベース・博物館ホームページなどの活用
- 第 6 回 パンフレット制作
全体の構成の計画
- 第 7 回 パンフレット制作
図版とキャプション
- 第 8 回 パンフレット制作
解説文の検討
- 第 9 回 パンフレット制作
事例（雑誌特集記事など）の研究
- 第 10 回 パンフレット制作
途中経過の発表
- 第 11 回 パンフレット制作
参考文献リスト
- 第 12 回 フィールドワーク
博物館見学（実施回未定）
- 第 13 回 フィールドワーク
展覧会鑑賞（実施回未定）
- 第 14 回 フィールドワーク
京都の文化財（実施回未定）
- 第 15 回 まとめ発表
制作したパンフレットの発表

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

1. 各自の関心を持つテーマについて調査する。
 2. 調査結果を発表し、議論を通じて考察を深める。
 3. 情報と考察を発信するパンフレット・制作意図を解説する企画書を作成する。
- ・manabaで提出された企画書へのコメントを本人に公開してフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 必要な調査を行い、発表できる形にしてくる。
2. パンフレットと企画書の制作に向け、必要な作業を行う。
3. 日頃から、展覧会や寺社仏閣などで美術作品に触れる機会をつくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50%、制作物 (パンフレット) と企画書の成績50%で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。フィールドワークに関して、費用負担が発生することがあり、授業講時以外への振り替えの可能性はある。フィールドワークの目的地については、変更する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『イメージ (上)』/前田茂・要真理子/ナカニシヤ出版/2011/9784779505546

『イメージ (下)』/前田茂・要真理子/ナカニシヤ出版/2012/9784779505553

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会/専修大学出版局/2006/4881251740

そのほか、適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600L0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 他者に対する捉え方や理解のあり方は自らを映す鏡でもある。わが国に最も近い隣国であり、歴史的に深い関係を持ってきた韓国の社会と文化について、多様な視点から考察することを通じ、韓国という国やそこ

で暮らす人々についての理解を深める。さらに、韓国を合わせ鏡とすることで、日本という国や日本で暮らす人々について再考することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 卒業論文とは何かについて理解している。
- 2) 韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけている。
- 3) 他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
卒業論文に対する理解	卒業論文とは何かについて理解できていない。	卒業論文とは何かについて理解している。	卒業論文とは何かについて深く理解している。	卒業論文とは何かについて深く理解しており、それを論文執筆につなげることができる。
韓国の社会と文化に関する基礎的な知識	韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけていない。	韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけている。	韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけた上で、より深い知識についても理解している。	韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけた上で、より深い知識についても理解しており、それを自らの姿勢や行動につなげることができる。
他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考える力	他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考える力がついていない。	他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化についてある程度考えることができる。	他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化についてしっかり考えることができる。	他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化についてしっかり考えることができ、それを自らの姿勢や行動につなげることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 卒業論文とレポートの違い
- 第 3 回 図書館の利用法と文献検索の方法
- 第 4 回 基礎文献読解①－ソウルの現在－
- 第 5 回 基礎文献読解②－朝鮮と韓国－
- 第 6 回 基礎文献読解③－日常の心得－
- 第 7 回 基礎文献読解④－街角の言語－

- 第 8 回 基礎文献読解⑤－食事に見る世界観－
- 第 9 回 基礎文献読解⑥－女たちの世界、化粧と美容整形－
- 第 10 回 基礎文献読解⑦－男たちの世界、徴兵制－
- 第 11 回 基礎文献読解⑧－映画の新しい波－
- 第 12 回 基礎文献読解⑨－日本観の変化－
- 第 13 回 基礎文献読解⑩－ソウルの食べ物日記－
- 第 14 回 基礎文献読解⑪－韓国の色彩－
- 第 15 回 基礎文献読解⑫－ウリと他者－

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・検討対象となる文献を精読し、その内容を正確に理解する。
- ・文献の内容について、その背景や関連する情報について調べ、理解をさらに深める。
- ・理解したことを参加者間で共有し、それらについてディスカッションをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布する文献や資料を各自しっかりと読んでくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内容の理解度40%

授業参加度40% (ディスカッションへの貢献度など)

レポート20%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・各回の授業テーマについて主体的・能動的に考察し、ディスカッション等に積極的に参加すること。
- ・ゲスト講師による授業をおこなうことがある。
- ・フィールドワークに行くことがある。その場合、交通費などの実費がかかる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

四方田犬彦『NHK人間講座 大好きな韓国』日本放送出版協会、2002年、ISBN: 978-4141890676、学内販売無(絶版のため購入不可、授業内で資料を配布する)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
3年次

2単位 後期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞ 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係、現代社会における子どもの遊びなど、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 各自のテーマについて明確な問題意識を持ち、そのテーマを多様な視点から考察する。
2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。(専門演習Iの1)～3)から続く。)
- 4) 研究テーマに関する知識を増やし、また、批判的思考を伴いながら、論文の目的に向かって内容を掘り下げていく。

5) 論文の内容を深めると共に、引用文献一覧・参考文献一覧の書き方など、論文作成の形式についても学ぶ。

3. 卒業論文のテーマを決め、その準備を進める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ゼミに受け身で参加している。	ゼミに主体的に参加し、発言できる。	自分の研究に積極的に取り組むことができる。	自分の研究に積極的に取り組み、その改善にも力を尽くすことができる。
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力	自分の「問い」を明確にすることができない。	自分の「問い」をはっきりと持っている。	自分の「問い」を明確に言語化することができる。	自分の「問い」を検証し、発展させることができる。
共生・協働する力				
創造・発信力	自分の研究に主体的に取り組めていない。	研究テーマについて、基礎的なことを言語化できる。	研究テーマを掘り下げ、その「問い」について議論をすることができる。	根拠を持って、研究テーマにおける「問い」を検証し、それを文章にすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 前期及び夏休みの成果発表（ゼミ発表）
 第 2 回 テーマについての合議
 第 3 回 テーマ 1 についての講義・討論
 例) 子どものための図書館・博物館
 第 4 回 テーマ 2 についての講義・討論
 例) 児童文学と子どもの発達
 第 5 回 フィールドワーク（1）
 第 6 回 テーマ 3 についての講義・討論
 例) 子どものメディア利用とその課題
 第 7 回 卒論のための図書館利用と文献探索の応用（2）
 第 8 回 卒論テーマの明確化と問いの探求（ゼミ発表）
 第 9 回 テーマ 1 に関する発表・討論
 例) 子どものための図書館・博物館
 第 10 回 テーマ 2 に関する発表・討論
 例) 児童文学と子どもの発達
 第 11 回 テーマ 3 に関する発表・討論
 例) 子どものメディア利用とその課題
 第 12 回 フィールドワーク（2）
 第 13 回 ゼミ発表及び研究方法についての討論
 第 14 回 卒業研究に向けての情報の整理と利用
 第 15 回 4 年次に向けての準備

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。
- 各自が自分のテーマに取り組むと共に、他の受講生のテーマについても共に学び、考えていく。
- 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する知識を深め、それについて討論する力を育成する。
- 3 をもとに、自分の「問い」をさらに掘り下げていく。
- フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- グループまたは個人で一つのテーマについて資料を集め、掘り下げて考察し、その結果を発表する。

- フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。
- 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物70%、授業参加度30%とし、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。
 テーマは学生の関心に応じて変更することもある。
 必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合交通費等がかかることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650BJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6: 創造・発信力

60

久野 将健

〔科目の教育目標（Course Description）〕

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞ 音楽のさまざまな諸要素を専門科目で学んできた知識を踏まえて、ゼミにおいては少人数指導の下、さらに専門的に掘り進め、卒業論文にまでつなげていくようにする。各自の主体的な研究を尊重しながら進めていきたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 音楽に関する文献を購読し、読解力を深める
- 卒論執筆に向けて、各自のテーマに沿って準備を進める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力	適切な文章を書くことができない。	集めた情報と自分の意見を分けて書くことができる。	集めた情報に基づいて、自分の意見を構築して書くことができる。	論理的で、説得力のある文章を書くことができる。
思考・解決力	自らの考えを論理的に構築できない。	自らの考えを表現できる。	自らの考えを論理的に構築できる。	自らの考えを論理的に構築し、それを研究に生かすことができる。
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入（後期ゼミの進め方について）
- 第 2 回 卒業論文作成の方法 1（はじめに）
- 第 3 回 卒業論文作成の方法 2（テーマを決める）
- 第 4 回 卒業論文作成の方法 3（参考文献を調べる）
- 第 5 回 卒業論文作成の方法 4（目次を立てる）
- 第 6 回 資料検索（その実際）
- 第 7 回 資料検索（統計情報の種類と入手方法）
- 第 8 回 データ収集・分析（データ分析とはどういうことか？）
- 第 9 回 データ収集・分析（データの種類について）
- 第 10 回 データ収集・分析（データ分析を伴う研究のポイント）
- 第 11 回 卒業論文構想 1（内容検討）
- 第 12 回 卒業論文構想 2（文章表現）
- 第 13 回 ディベート
- 第 14 回 成果発表
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

ゼミ生の関心と論文作成予定のテーマによるが、音楽学の諸分野（音楽史、音楽文化、音楽表現等）の紹介をした上で、実技要素も取り入れながら理解を深めていく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

文献購読、発表、演奏などの課題に対して、準備を入念にした上でゼミに臨んでほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30点）、課題等（70点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合（6回以上の欠席）は、原則として単位を与えられないので注意すること。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『西洋音楽史(放送大学教材)』/岡田暁生/放送大学教育振興会/2013年/4595314116/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

60

鎌田 均

〔科目の教育目標（Course Description）〕

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

専門演習Iの内容に基づいて、関連する分野で自分の興味のある研究テーマを見つける。それを研究課題として完成させ、研究計画を作成する方法、研究を進めるに必要な技術を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 発表、ディスカッションを通して、各自が関心のあるテーマから論文として完成可能な課題を見つける。
2. 論文作成の手順、技術またそれに必要な調査、研究方法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	自身の関心あるテーマについて考えたり調べたりすることがほとんどなく、それについての説明も不適切かつ不十分	自身の関心あるテーマに関する考えや調べることが十分ではなく、それについての説明も不足している	自身の関心あるテーマに関して考え、調べ、その内容について説明することができる	自身の関心あるテーマおよび関連領域に関して積極的、自発的に考え、調べ、その内容について説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 テーマを研究課題にする
- 第 2 回 テーマを研究課題とするための調査、情報収集
- 第 3 回 課題の設定と解決方法：必要な調査、情報の同定
- 第 4 回 課題解決までのステップ：論文アウトライン
- 第 5 回 情報の入手、分析、課題解決への利用
- 第 6 回 課題の再確認：先行研究の確認と達成可能性のチェック
- 第 7 回 情報の利用、論文作成のルール
- 第 8 回 議論、論述の方法と研究、分析の方法
- 第 9 回 実際の論文、論文報告から学ぶ
- 第 10 回 タスクマネジメント：作業、スケジュールの管理
- 第 11 回 フィールドワーク
- 第 12 回 各自の卒業研究に関する発表
- 第 13 回 各自の卒業研究に関する発表（今後の課題の同定）
- 第 14 回 論文の序章の提出とディスカッション
- 第 15 回 まとめ（各自の卒業論文完成へのスケジュール管理についての確認）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

受講者全員が指示された事前学習を行ったことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表し、内容についてフィードバックをする。授業の内容に即した学外見学を随時行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業で指示した資料を読み、また授業で提示された課題について図書館、インターネット等を利用して事前に調べてくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業内活動への参加（40%）、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価（60%）の総合点で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

ゲスト講師による授業、学外見学、フィールドワークを行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650DOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

60

朱 鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕

<共通目標>

国際日本学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中におけることばの共有の歴史に関する基本知識を学ぶ。

2. 卒業論文或いは卒業制作をまとめるに必要な論文構成力、資料調査方法を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。

2. 明治以降のことば研究（西洋言語からの翻訳語、日本との共有）。

3. 現代日中ことばの交流（漫画、ドラマ、貿易などによる新しいことばの共有）

4. 東西およびアジアの多文化交流（文学、民俗、言語、人物などなど）。

5. 授業の最終回において、レポートを返却し、振り返り学習をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	文献講読に全く興味がない。ゼミ発表も全く参加しない。	文献講読内容をあまり理解できていない。ゼミ発表も欠席がある。	文献講読内容をある程度理解できている。ゼミ発表も欠席せずに参加する。	文献講読内容をほぼ理解できている。ゼミ発表も積極的に参加し、自分の意見をしっかりと述べる。
創造・発信力	卒業研究のテーマ、形式について全く考えていない。	卒業研究のテーマ、形式について少し考えている。	卒業研究のテーマ、形式についてある程度考えて、文献資料を少し用意出来ている。	卒業研究のテーマ、形式について積極的に考え、文献資料もほぼ用意できている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 多文化交流（食文化1）
日中食文化における共通語彙に関する論文を読む
- 第 2 回 多文化交流（食文化2）
日中食文化における共通語彙（古代、近代、現代）を中心にディスカッション
- 第 3 回 多文化交流（民俗 1）
日中の風俗、年中行事における共通語彙に関する論文を読む
- 第 4 回 多文化交流（民俗2）
日中の風俗、年中行事における共通語彙（古代、近代、現代）を中心にディスカッション
- 第 5 回 フィールドワーク（1）
京都の多文化交流関連施設を訪ねる一京都文化博物館、泉屋博古館など
- 第 6 回 発表(1)
各自の卒業論文テーマについて
- 第 7 回 多文化交流（人物 1）
日中語彙交流史における宣教師の役割に関する論文を読む
- 第 8 回 多文化交流（人物 2）
日中語彙交流史における宣教師の役割についてディスカッション
- 第 9 回 多文化交流（出版物 1）
近代の西書翻訳とその出版に関する論文を読む
- 第 10 回 多文化交流（出版物 2）
近代の西書翻訳とその出版についてディスカッション
- 第 11 回 卒業論文の資料準備
図書館で各自の卒業論文題目に関連する資料作り
- 第 12 回 卒業論文について（1）
卒業論文構成の基本を学ぶ
- 第 13 回 発表（2）

- 各自の卒業論文構成について
- 第 14 回 卒業論文について（2）
卒業論文、卒業制作に関するQ&A、レポート提出
- 第 15 回 まとめ
レポート返却、振り返り学習
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
1.参考書及び関連論文を読み、自分のテーマに関するレポートを提出し、授業で発表する。2.クラス全員でお互い発表したテーマについて議論する。3.卒業論文のテーマを決める。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
発表と議論を通して、研究論文の構成及び書き方の基本を身につけること。後半では卒業論文の章立てを構成し、4年次の卒業論文作成の基礎をつくる。前期と同様に2回の発表も予定している。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
10
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は授業参加度30点、発表内容及び課題提出70点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。
- 〔留意事項（Other Information）〕
ゲスト講師による授業を行うこともある。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
適時にプリントを配布する。
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 〔参考URL(URL for Reference) 〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650E0J
大学
国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
3年次
2単位 後期
水曜 2限
DP6 : 創造・発信力
60
鷲見 朗子

- 〔科目の教育目標（Course Description）〕
＜共通目標＞国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4

年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> ファンタジーの世界ゼミ(担当者: 鷲見朗子)

「専門演習 I」で培った基本的知識と方法論を土台に、卒業研究テーマを絞っていく。アラブ・中東・イスラームの分野、ファンタジーの分野、観光の分野から関心のある事柄について学術論文及び本を読み、その内容を報告・発表する。各発表では意見交換を行い、知識を共有することをめざす。また、それぞれにふさわしい方法論を選択し、それらに関する見解を深めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマの選択
2. 発表の実践
3. 引用の仕方・参考文献の書き方

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えた上で、応用につなげる
言語力				
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	取り組んでできなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決策を提示する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやるようとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす
創造・発信力	新しい物事や見方に関心を持ち、自分の意見を形成しようとする	新しい物事や見方を探求し、自分の意見を形成し、他者へ伝えようとする	新しい物事や見方を生み出し、自分の意見を他者へ伝える	新しい物事や見方を応用し、自分の意見を他者への確に伝える

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 日本におけるディズニーアニメ映画「シンデレラ」(オンライン)の影響

第 3 回 ディズニーアニメ映画「シンデレラ」鑑賞

第 4 回 ディズニー実写映画「シンデレラ」鑑賞

第 5 回 図書館文献検索オリエンテーション

第 6 回 ファンタジーとしての「アラビアンナイト」(オンライン)

第 7 回 日本における「アラビアンナイト」(オンライン)

第 8 回 「アラビアンナイト」とイスラーム(オンライン)

第 9 回 卒論テーマと文献リスト作成(オンライン)

第 10 回 ゼミ生による発表と討論①卒論テーマ

第 11 回 ゼミ生による発表と討論②文献リスト

第 12 回 論文の書き方(剽窃の問題)(オンライン)

第 13 回 論文の書き方(引用方法の実践、引用文献リストの作成方法)

第 14 回 テーマまたは題目の確定と発表

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業では各自が選んだテーマにそって、関連文献を読み、それについて発表を行うことで、知識を深めるとともに卒業論文を書く準備を整える。論文作成に不可欠となる引用方法や参考文献の明記法もさらに実践を通して習得していく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

選んだテーマに関連する文献を読んで、発表の準備をする。その際、発表資料も作成する。

課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度50%、発表・レポート50%によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650G0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 専門演習 I 参照

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。

2 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。

3 発表の仕方を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	聖書の研究方法を知ろうとする	聖書を読解し解釈する研究方法に関する知識がある	聖書を読解し解釈する研究方法に関する知識があり、それを応用して実践的に聖書釈義を行うことができる	聖書を読解し解釈する研究方法に関する知識があり、それを応用して実践的に聖書釈義を行う理解力があり、キリスト教に関する文書の文化的・社会的背景を概ね理解し、発展的な研究を行うことができる

研究的に研究し発信する力を高める	研究を发表しようとする	研究テーマに関する文献を理解し、クラスで発表することができる	研究テーマに関する文献を理解し、クラスで発表し、討議を通じて研究を進展させることができる	研究テーマに関する文献を理解し、要点を抑えて発表することができ、また高度なレベルで討議する力があり、研究を創造的に独自の視点から発展させ、深めることができる
------------------	-------------	--------------------------------	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 テーマの発表
- 第 3 回 論文の研究方法について
- 第 4 回 キリスト教関連の文献調査
- 第 5 回 聖書の物語についての討論
- 第 6 回 聖書の聖霊論についての討論
- 第 7 回 キリスト教の聖人についての討論
- 第 8 回 聖書を題材とした詩画についての討論
- 第 9 回 フィールドワーク
- 第 10 回 聖書の物語についての発表
- 第 11 回 聖書の聖霊論についての発表
- 第 12 回 キリスト教の聖人についての発表
- 第 13 回 聖書を題材とした詩画についての発表
- 第 14 回 参考文献リストの作成と題目の発表
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 文化的背景を考慮しつつ聖書やを解釈するためのさまざまな方法を学んで聖書のテキストを釈義する。
- 2 福音書やキリスト教に関する書籍を読み、文化的・社会的背景を研究しつつ釈義し、発表してレポートにまとめる
- 3 フィールドワークを実施し、聖書の背景となる文化やキリスト教に関連する芸術作品等の展示を見学して、聖書の理解を深める
- 4 授業内で発表およびレポートについての講評を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自がテーマを選び、そのテーマに従って関連する論文や書籍を読んで発表を行う。専門分野の知識を深め、論文作成のための方法を実践的に学ぶ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、発表・レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009//学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650H0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 「専門演習 I」では、テーマ作品に対する発表とディスカッションを通して、作品を論じる方法について学んできた。「専門演習 II」では、自分のテーマや作品や方法を模索し、卒業研究・卒業制作に着実に取り組めるような準備を行う。また、発表とディスカッションにより、コミュニケーション能力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 自ら作品やテーマ、方法を選択する。
2. 作品やテーマ、方法に即した参考文献、資料を収集し整理する。
3. 口頭発表の準備をし、口頭発表を行う。
4. 卒業論文・卒業制作のテーマを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとしない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。

知識・理解力	授業の内容や用いられている術語について理解できていない。	授業の内容や用いられている術語について、理解している。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかわりから背景を理解できている。
言語力	自分の考えを言語を用いて表現できない。	自分の考えを言語を用いて表現できる。	自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を把握することができない。	課題の問題点を把握し、解決するための手法を検討することができる。	課題の問題点を明らかにし、検討した手法によち解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	議論や意見交換に参加しようとすることがない。	議論や意見交換に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加し、異なる考え方を尊重できる。
創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法とによって表現することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 卒業論文・卒業制作にむけて (1) - 卒業論文・卒業制作とは何か
- 第 3 回 卒業論文・卒業制作にむけて (2) - 本文と資料
- 第 4 回 卒業論文・卒業制作にむけて (3) - 研究史との対話
- 第 5 回 卒業論文・卒業制作のプレ構想検討会
- 第 6 回 受講生による発表とディスカッション (1) - 日本近代小説
- 第 7 回 受講生による発表とディスカッション (2) - 日本現代小説
- 第 8 回 受講生による発表とディスカッション (3) - 日本近代詩歌
- 第 9 回 受講生による発表とディスカッション (4) - 日本現代詩歌
- 第 10 回

受講生による発表とディスカッション(5)ー表象文化(漫画・アニメ・映画)

第11回 受講生による発表とディスカッション(6)ー表象文化(漫画・アニメ・映画)

第12回 発表とディスカッションをふり返って

第13回 卒業論文(卒業制作)の構想発表

第14回 卒業制作(卒業論文)の構想発表

第15回 卒業論文・卒業制作の計画と準備

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 担当者は自分で選択したテーマと方法に基づき資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
4. ディスカッションによって明らかになった課題については次回に補足説明する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

1. 作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、先行研究と自分の考えを対比させてみる。
3. 自分の考えたことがどのように表現できるか、検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

30

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

評価は、授業参加度(40%)と発表内容(60%)とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項(Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。
ゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習Ⅱ

CSS3650IOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

平野 美保

〔科目の教育目標(Course Description)〕

〈共通目標〉国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

〈個別クラスのねらい〉

- (1) 各自のテーマ決定に向けて、関連の内容を学習する。
- (2) 卒業論文作成のための方法を身につける。
- (3) 話しことばに関する技能向上に努めることによって、各人のテーマを深める。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

- (1) 各自のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。
- (2) 各自の興味・関心によるテーマについて発表し、討議する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己管理ができない。	自己課題等を認識している。	主体的に授業内容について準備を進めている。	主体的に高度なレベルで準備を進めている。
卒業論文・制作	卒業論文・制作の方法を理解していない。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集することができる。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集し要約等を行うことができる。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集し、論述等を行うことができる。
言語力	自己の卒業論文・制作について説明できない。	自己の論文・制作について説明できる。	自己の論文・制作とともに他者の研究等について、意見等を述べることができる。	自己の論文・制作について端的に述べるとともに、他者の研究についても的確に意見等を述べることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (対面授業)
課題の報告
- 第 2 回 卒業研究の基礎 (対面授業)
論文の基礎 (よく使われる文形、表現)
- 第 3 回 卒業研究の基礎 (対面授業)
引用
- 第 4 回 卒業研究の基礎 (実施回未定)
図書館講習
- 第 5 回 卒業研究・制作の検討 (対面授業)
論文Aの検討 (構成、)
- 第 6 回 卒業研究・制作の検討 (対面授業)
研究計画書の作成
- 第 7 回 研究計画書の作成と文献収集 (オンライン)
- 第 8 回 研究計画書の報告 (対面授業)
報告A
- 第 9 回 研究計画書の報告 (対面授業)
報告B
- 第 10 回 研究計画書修正版の報告 (対面授業)
報告A
- 第 11 回 研究計画書修正版の報告 (対面授業)
報告B
- 第 12 回 卒業研究 (対面授業)
論文Bの検討
- 第 13 回 卒業研究 (オンライン)
執筆練習
- 第 14 回 一斉授業 (実施回未定)
- 第 15 回 卒業研究 (対面授業)
研究計画書検討

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 論文作成のための内容・方法の基礎を把握する。
- (2) 各自の興味・関心によるテーマについて発表し、ゼミで討議する。

・課題に対して、随時フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自のテーマについて調査し、まとめ、発表の準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・対面が基本だが、2 回程度オンラインで実施予定である。
- ・ゲスト講師による授業を行うことがある。
- ・フィールドワークに行く場合、交通費などが必要である。
- ・授業内で資料を配付する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『レポート・論文・プレゼン スキルズ』/石坂春秋/くろしお出版/2003/4874242731

『論文ワークブック』/浜尾麻里他/くろしお出版/1997/4874241271

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650K0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 1. 専門演習 I で学んだ知識を実践しながら、調査研究を進める。2. 発表と討論の中で、自分の考えを明確にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学術的な論文の構成を理解し、実践する。2. 作品情報、参考文献の入手方法を学ぶ。3. 卒業研究に関する発表と討論を通じて、自分の目標を明確にする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組めない。	課題に主体的に取り組んでいる。	自分で課題の計画を立てて進行管理ができる。	自分で目指す目標を設定して努力できる。
知識・理解力	学術論文の組み立てや作法を理解していない	学術論文の組み立てを理解し、自分のアウトラインを作成している	卒業論文・卒業制作の執筆を一部開始している	自分の研究を先行研究の文脈に位置づけて取り組んでいる
言語力	学術論文を読んだことがない	学術論文を読み、適切なレジュメを作成できる	アウトラインを作成して、文章を設計できる。	論文に適した文章スタイルを用いて、論理的な文章を書くことが出来る。

思考・解決力	自分のテーマを明確にできていない。	自分のテーマを絞り込んでいる。	テーマへのアプローチ方法を検討し、準備を始めている。	様々なアプローチの中で、自分が選んだものの良さと限界を説明できる。
--------	-------------------	-----------------	----------------------------	-----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
仮テーマ確認と論文講読について
- 第 2 回 論文講読
西洋美術史（ルネサンス） ※変更の可能性がある
- 第 3 回 論文講読
西洋美術史（バロック） ※変更の可能性がある
- 第 4 回 論文講読
西洋美術史（18～19世紀） ※変更の可能性がある
- 第 5 回 論文講読
西洋美術史（現代） ※変更の可能性がある
- 第 6 回 論文講読
日本美術史 ※変更の可能性がある
- 第 7 回 論文の構成
学術論文の構成
- 第 8 回 文献リスト
文献リストの実例を検討する
- 第 9 回 先行研究
各自のテーマに関する先行研究
- 第 10 回 アウトライン
アウトラインとは何か
- 第 11 回 発表
仮アウトラインの発表
- 第 12 回 フィールドワーク
卒論テーマに関連する施設へのフィールドワーク（実施回未定）
- 第 13 回 フィールドワーク
美術館へのフィールドワーク（実施回未定）
- 第 14 回 フィールドワーク
資料収集のフィールドワーク（実施回未定）
- 第 15 回 まとめ
総括、卒論仮テーマに関するレポート提出

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 学術的な論文を読み、レジュメを作成することをとおして、論文の構成を理解する。
卒業研究テーマについて、口頭発表を行い、議論する。
2. 情報検索のしかた、参考文献の探し方について指導する。
3. 卒業研究テーマをほぼ決定し、レポートを書いて提出する。
・manabaで提出されたレポートへのコメントを本人に公開してフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 講読する論文は全員が読んでくる。担当者はレジュメを作成する。
2. 文献収集などの課題を確実にやり、発表できる形にしてくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度50%、発表やレポートの成績50%で評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。フィールドワークに関して、費用負担が発生することがあり、授業講時以外への振り替えの可能性がある。フィールドワークの目的地については、変更する可能性がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

プリント配布。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『はじめての美術史』/マルシア・ポイントン 木下哲夫訳/スカイドア/1995/4915879259

『A Survival Guide for Art History Students』/Christina Maranci/Prentice Hall/2004/0131401971

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650LOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 専門演習Iでの学びをふまえ、卒業研究・卒業制作へとつながる各自の関心テーマについて関連文献・資料を探し、精読し、その内容を整理し、発表する。さらに、発表内容について全員でディスカッションをおこなう。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

・卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけている。

・自らの問題関心を明らかにし、それを適切な方法で他者

へ伝えることができる。

・関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげることができる。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能	卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけていない。	卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけている。	卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能をしっかりと身につけている。	卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能をしっかりと身につけた上で、それを論文執筆につなげることができる。
自らの問題関心を明らかにし、それを適切な方法で他者へ伝える力	自らの問題関心を明らかにできていない、またはできていてもそれを適切な方法で他者へ伝えることができない。	自らの問題関心を明らかにし、それを適切な方法で他者へ伝えることができる。	自らの問題関心を明らかにし、それを適切な方法で他者へ分かりやすく伝えることができる。	自らの問題関心を明らかにし、それを適切な方法で他者へ分かりやすく、かつ効果的に伝えることができる。
関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげる力	関心テーマについて「問い」を立てられないか、または立てられていてもそれを学術的論文の作成につなげることができない。	関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげることができる。	関心テーマについて「問い」を立て、それをより適切な形で学術的論文の作成につなげることができる。	関心テーマについて「問い」を立て、それをより適切な形で、かつ効果的に学術的論文の作成につなげることができる。

[授業計画]

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 関心テーマの絞り方ーブレインストーミングとKJ法ー
- 第 3 回 リサーチクエスションの立て方ー素朴な疑問を学術的「問い」へと導くー
- 第 4 回 論文の基本的な構成
- 第 5 回 研究調査の方法
- 第 6 回 論文作成に関する基本的なルールと注意点
- 第 7 回 論理的思考の仕方と論理的な文章の書き方
- 第 8 回 卒業論文の目次(仮)を立ててみる①ー何を問題とするかー
- 第 9 回 卒業論文の目次(仮)を立ててみる②ー問題を解くためにどんな情報が必要かー

第 10 回 卒業論文の目次(仮)を立ててみる③ーどんな手順で問題を解いていくかー

第 11 回 各自の関心テーマについての発表①ー例) 大学入試制度の特徴と課題ー

第 12 回 各自の関心テーマについての発表②ー例) 家族のあり方の変化とその背景ー

第 13 回 各自の関心テーマについての発表③ー例) 日韓交流の歴史と現在ー

第 14 回 各自の関心テーマについての発表④ー例) 食文化の日韓比較ー

第 15 回 各自の関心テーマについての発表⑤ー例) 韓流ドラマにみる国際政治戦略ー

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

・これまであいまいな状態にあった自らの問題関心について見つめ直し、それを意識化・言語化することで、卒業研究・卒業制作へとつながる明確な「問い」を立てる。

・自らの関心テーマについて調べて理解したことを客観的かつ論理的なかたちで他者へ伝えるための方法と技術を学ぶ。同時に、自らの理解したことを他者へ正確に伝えることの難しさや、自らの意見や主張について他者を説得することの難しさについても学ぶ。

・各自が自らの関心テーマに取り組むとともに、他のメンバーの関心テーマについても学び、考え、議論していく。

・4年次になってスムーズに卒業研究・卒業制作をスタートできるよう準備をおこなう。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

卒業研究・卒業制作の成否は、関心テーマについての「問い」の立て方のよしあしにかかっているといっても過言ではないので、しっかりと取り組むこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業内容の理解度20%

発表40%

授業参加度40% (ディスカッションへの貢献度など)

[留意事項 (Other Information)]

・各回の授業テーマや発表内容について主体的・能動的に考察し、ディスカッション等に積極的に参加すること。

・ゲスト講師による授業をおこなうことがある。

・フィールドワークに行くことがある。その場合、交通費などの実費がかかる。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

なし。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業内で紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

卒業研究

CSS4600A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	定められたフォーマットや引用ルールを守って文章を書くことができない。	期日までに提出し、学科で定められたフォーマットや決まりをまもっている。知的財産権の配慮ができていない。	先行研究に関して引用ルールを守って、幅広く言及し、適切な研究方法を使って論文を書いている。	研究題目が明確かつ独創的で、その題目を論証するための研究資料を適確に提供している。

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。

研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査(指導教員)および副査(1名)による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文(制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に

合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
国際日本文化学科卒業論文評価基準	基準をほとんど満たしていない。	最低限度満たしている。	ある程度満たしている。	十分に満たしている。

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各指導教員の指導のもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600D0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める

4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ

5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	卒業研究に取り組もうとしない。	卒業研究に取り組む意欲があるが、能動的に考えようとする。	卒業研究に自ら取り組んで、研究テーマを能動的に決める。	卒業研究に積極的に取り組んで、ユニークな研究テーマを見つける。
卒業研究の完成度	卒業研究の文献収集、文献講読に全く無関心である。卒業論文・卒業制作を完成できない。	卒業研究の文献収集、文献講読に関心があるが、卒業論文・卒業制作の完成度が低い。	卒業研究の文献収集、文献講読に取り組んで、卒業論文・卒業制作度はやや高い。	卒業研究の文献収集、文献講読に積極的に取り組んで、質の高い卒業論文・卒業制作が出来る。

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導のもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでと

くに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600F0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力	新しい物事や見方に関心を持ち、自分の意見を形成しようとする	新しい物事や見方を求め、自分の意見を形成し、他者へ伝えようとする	新しい物事や見方を生み出し、自分の意見を他者へ伝える	新しい物事や見方を応用し、自分の意見を他者への確に伝える
--------	-------------------------------	----------------------------------	----------------------------	------------------------------

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

必要に応じて対面およびオンラインによる指導を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しないが、卒業論文・制作の作成と提出を求める。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。

研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600E0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業論文ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	新しい物事や見方に関心を持ち、自分の意見を形成しようとする	新しい物事や見方を探求し、自分の意見を形成し、他者へ伝えようとする	新しい物事や見方を生み出し、自分の意見を他者へ伝える	新しい物事や見方を応用し、自分の意見を他者への確に伝える

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

必要に応じて対面およびオンラインによる指導を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しないが、卒業論文・制作の作成と提出を求める。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。

研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査(指導教員)および副査(1名)による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文(制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600G0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	卒業論文にふさわしいテーマを選び、計画的に研究し、論理的な文章で論文を執筆することが出来る。	卒業論文にふさわしいテーマを選び、計画的に研究し、先行研究を理解した上で、論理的な文章で論文を執筆することが出来る。	卒業論文にふさわしいテーマを選び、計画的に研究し、先行研究を的確に理解した上で、論理的な文章で独創性のある論文を執筆することが出来る。	卒業論文にふさわしいテーマを選び、極めて計画的に研究および調査に取り組み、先行研究を的確に理解した上で、極めて論理的な文章で、非常に独創性のある説得力のある論文を執筆することが出来る。

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600H0J
大学
国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
4年次
8単位 集中
その他
DP6 : 創造・発信力
平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
卒業テーマ	明確さに欠けている	明確で、学問的創意がみられる	明確かつ独創的で、積極的な調査・研究をしている	明確かつ独創的で、積極的かつ多角的調査・研究により、その課題の解明に取り組んでいる
文章	論文形式が、卒論の手引きに則っていない	誤字、脱字、誤用表現等がほとんどなく、論文形式が卒論の手引きに則っている	誤字、脱字、誤用表現等がなく、論文形式が卒論の手引きに則っている	誤字、脱字、誤用表現等が全くなく、論文形式が卒論の手引きに則り、よく整っている
論の構成・展開、検証過程、調査方法	論の構成等が明快になっておらず、検証過程や調査方法に不備がある	論の構成・展開が明快で、検証方法・調査方法にもおおかた問題がない	論の構成・展開が緻密かつ明快で、検証方法・調査方法にも不備がない	論の構成・展開が緻密かつ明快で、検証方法・調査方法にも不備がなく、結論に強い説得力がある
引用	剽窃など引用の仕方に関する問題がある	引用文の使用の仕方に間違いがなく、文献一覧を正しく明示している	引用文献の仕方が適確で、文献一覧を正しく明示している	先行研究によく目を配り、引用文献の仕方も適確で、文献一覧を正しく明示している

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導のもとづき、計画的に学習を進めること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査 (指導教員) および副査 (1名) による口頭試問を行い、その結果をもとに学

科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文 (制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600IOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
2. テーマ決定後の研究計画を策定する
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	現実的な執筆計画を立てていない。	実行可能な執筆計画を立てて、教員と相談しながら進めている。	執筆計画を状況に応じて修正しながら、最終目標を意識して作業ができる。	自立して執筆の進行管理ができる。
知識・理解力	自分のテーマについて基本的な知識があいまいである。	自分のテーマについてある程度の知識を持ち、専門書に取り組むことができる。	自分のテーマについて主な先行研究を把握している。	自分のテーマについて国内外の先行研究を説明できる。
言語力	論文の形式にのっとった論述となっていない。	論文の形式を遵守し、十分に推敲した文章となっている。	論文の形式を遵守して、十分に推敲した学術的な文章となっている。	論文の形式を遵守し、論旨が明快に伝わるような構成を備えた学術的な文章となっている。
思考・解決力	自分なりの問題意識を持っていない。	自分で明らかにすべき問題を設定している。	自分が設定した問題に取り組む方法を試行錯誤して見出そうとしている。	自分の問題設定や方法論について、批判的に考えることが出来る。
共生・協働する力	必要な資料や情報を集めていない。	身近な図書館やインターネットで資料や情報を集めている。	外部の図書館・博物館などの施設でも情報収集している。	多様な手段を使い、関係各位と連絡をして情報収集している。
創造・発信力	自分の研究についてプレゼンをしたことがない。	自分の研究について15分ほどのプレゼンができる。	自分の研究について30分ほどのプレゼンができ、質疑応答にも対応できる。	自分の研究について、60分ほどのプレゼンができ、質疑応答にも対応できる。

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査 (指導教員) および副査 (1名) による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文 (制作作品)、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

典札音楽特講

CSA4121N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜 3限

DP1: 自分を育てる力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本のコンサートホールにも数多く設置されているパイプオルガンであるが、本来はヨーロッパを中心とした教会においてキリスト教と共に発展してきた。この授業ではパイプオルガンの歴史、構造、作品を中心に学ぶ。更にキリスト教典札におけるオルガンの役割についても考えてみたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. オルガンの仕組み
2. オルガンの歴史
3. 時代と国によって異なるオルガン音楽

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オルガンの構造①導入
- 第 2 回 オルガンの構造②展開
- 第 3 回 オルガンの歴史①導入
- 第 4 回 オルガンの歴史②展開
- 第 5 回 オルガン作品<中世・ルネッサンス>
- 第 6 回 オルガン作品<イタリアバロック>
- 第 7 回 オルガン作品<オランダ>
- 第 8 回 オルガン作品<スペイン>
- 第 9 回 オルガン作品<フランス古典>
- 第 10 回 オルガン作品<ドイツバロック>
- 第 11 回 オルガン作品<J.S. バッハ>
- 第 12 回 オルガン作品<ドイツロマン派>

- 第 13 回 オルガン作品<フランス近代>
- 第 14 回 オルガン作品<現代>
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1. 授業方法・・・①文献を読みながら理解を進める。②音楽を聴きながら、楽譜を検討する。
- 2. 学習方法・・・①CD, DVDによる理解。②演奏の実際を伴う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回に学ぶ箇所を指定しておくので、予習しておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、リアクションペーパー・レポート (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回欠席) は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキスト:『オルガンの芸術—歴史・楽器・奏法—』/日本オルガニスト協会/道和本書院/2019年/978-4-8105-3002-5/学内販

売有

その他、授業中にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本古典文学講読

CSA2250N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

天草版伊曾保物語とは、キリスト教を日本に布教するために16世紀に来日した、ポルトガル人を中心とした宣教師達が作成した、日本語学習用の文献である。この授業では、ポルトガル式のローマ字で表記された、日本語のイソップ物語を講読する力を身に付けることを目標とする。また、表音文字であるポルトガル式のローマ字を通して、室町時代当時の日本語について学習することも目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1. キリシタン資料について学習する。
- 2. 天草版伊曾保物語について学習する。
- 3. ポルトガル式のローマ字の読み方について学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
古典文学への関心・知識・理解	古典文学にまったく関心がなく、知識が乏しく、テキストを読むこともできないし、内容をまったく理解することもできない。	古典文学にある程度関心を持ち、基本的な知識を有し、テキストを読んで、ある程度その内容を理解することができる。	古典文学に関心があり、一定程度以上の知識を有し、テキストを読んで、その内容を正確に理解することができる。	古典文学に強い関心があり、詳しい知識を有し、テキストを読んで、その内容を深く正確に理解することができる。
変体仮名や日本文学史の知識	ポルトガル式ローマ字や日本文学史について、まったく知識がない。	ポルトガル式ローマ字や日本文学史について、ある程度知識がある。	ポルトガル式ローマ字や日本文学史について、かなり知識がある。	ポルトガル式ローマ字や日本文学史について、深い知識がある。

〔授業計画〕

- 第 1 回 天草版伊曾保物語概説
- 第 2 回 天草版伊曾保物語 1 「犬と,羊の事」
- 第 3 回 天草版伊曾保物語 2 「鶴と,狼の事」
- 第 4 回 天草版伊曾保物語 3 「鼠の事」
- 第 5 回 天草版伊曾保物語 4 「鷺と,蝸牛の事」
- 第 6 回 天草版伊曾保物語 5 「鳥と,狐の事」
- 第 7 回 天草版伊曾保物語 6 「狗と,馬の事」
- 第 8 回 天草版伊曾保物語 7 「獅子と,鼠の事」
- 第 9 回 天草版伊曾保物語 8 「鳶と,鳩の事」
- 第 10 回 天草版伊曾保物語 9 「狼と,豚の事」
- 第 11 回 天草版伊曾保物語 10 「孔雀と,鳥の事」
- 第 12 回 天草版伊曾保物語 11 「蠅と,蟻の事」
- 第 13 回 天草版伊曾保物語 12 「獅子と,馬の事」
- 第 14 回 天草版伊曾保物語 13 「鹿の事」
- 第 15 回 まとめと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ポルトガル式のローマ字の読み方を覚える。
2. 担当部分の天草版伊曾保物語を音読する。
3. 担当部分の天草版伊曾保物語を読解する。
4. 2・3について口頭発表する。
5. 口頭発表直後に、読み方や、語彙の意味等についてのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布する天草版伊曾保物語のテキストを音読し、所定の課題に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度30点、発表内容70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

国語科教諭免許課程履修者必修科目

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語コミュニケーション I

CSB1500N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次

2単位 前期

火曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

60

必修 文章表現を含む。

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語によるコミュニケーションの一環として、メールは必須である。特に、社会人になる前に、敬語を正しく用いたメール文書を作成出来るようになる必要がある。そのため、敬語を習得した上で、メール文書の作成方法を習得することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 敬語に関する知識を習得する。
2. メール文書の作成方法を習得する。
3. ペアワークを通して、協働作業を経験する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
日本語コミュニケーションに関する知識・理解力	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解していない。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解している。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解しながら、コミュニケーションを行うことができる。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解しながら、コミュニケーションを工夫することができる。
コミュニケーションの場に即した表現をする力	コミュニケーションの場に即した表現ができない。	コミュニケーションの場に即した表現をすることができる。	言葉や表現を工夫して、コミュニケーションの場に即した表現ができる。	受信者を意識した言葉や表現を工夫して、コミュニケーションの場に即した表現ができる。

共生・協働する力	ペアでの作業に参加しようとする ことがない。	ペアでの作業に参加することが できる。	ペアでの作業に積極的に参加する ことができる。	ペアでの作業に積極的に参加し、 協力し合う関係を構築 できる。
----------	---------------------------	------------------------	----------------------------	---------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 情報の整理方法（個人ワーク）
- 第 3 回 情報の整理方法（ペアワーク）
- 第 4 回 尊敬語
- 第 5 回 謙譲語
- 第 6 回 丁寧語
- 第 7 回 案内メールの作成（個人ワーク）
- 第 8 回 案内メールの作成（ペアワーク）
- 第 9 回 報告メールの作成（個人ワーク）
- 第 10 回 報告メールの作成（ペアワーク）
- 第 11 回 お願いのメールの作成（個人ワーク）
- 第 12 回 お願いのメールの作成（ペアワーク）
- 第 13 回 自己アピール文の作成（個人ワーク）
- 第 14 回 自己アピール文の作成（ペアワーク）
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 受講生（ペア）は授業中に出された課題やテーマに取り組む。
3. 課題の内容について他の受講者（ペア）とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 3 に対し、模範解答を示す等の形でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

小テストに向けて、個人ワーク・ペアワークの結果に対する解説内容について復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度40点、小テスト60点による総合評価である。

〔留意事項（Other Information）〕

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『日本語を書くトレーニング』第2版/野田尚史・森口稔/ひつじ書房/2014年/ISBN:9784894761773/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語コミュニケーションⅢ

CSB2500N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 前期

月曜3限

DP5：共生・協働する力

60

必修 文章表現を含む。

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標（Course Description）〕

日本語によるコミュニケーションの一環として、レポートは必須である。特に、卒業論文を作成する前に、レポートを作成出来るようになる必要がある。そのため、書き言葉を習得した上で、注や参考文献も含めた、正しい形式によるレポートの作成方法を習得することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 書き言葉に関する知識を習得する。
2. レポートの作成方法を習得する。
3. ペアワークを通して、協働作業を経験する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本語コミュニケーションに関する知識・理解力	日本語コミュニケーションについて、まったく理解せず、知識をもたない。	日本語コミュニケーションについて、ある程度理解し、知識をもっている。	日本語コミュニケーションについて、かなり理解し、知識ももっている。	日本語コミュニケーションについて、よく理解し、深い知識ももっている。
文章やレポートの作成	自分で文章をまとめることができず、正しい形式に則ったレポートを書くことができない。	自分である程度文章をまとめることができ、ほぼ正しい形式に従ってレポートを書くことができる。	自分ですべて工夫して文章をまとめることができ、正しい形式でレポートを書くことができる。	自分で構想して、きわめて独創的な文章をまとめることができ、形式面でも注や参考文献など遺漏なくレポートを書くことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 文体
- 第 3 回 話し言葉
- 第 4 回 書き言葉
- 第 5 回 事実
- 第 6 回 根拠
- 第 7 回 意見

- 第 8 回 引用文
 - 第 9 回 要約文
 - 第 10 回 参考文献リストの作成
 - 第 11 回 レポートの構成
 - 第 12 回 段落の作成
 - 第 13 回 接続詞の挿入
 - 第 14 回 レポート作成
 - 第 15 回 まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 受講生 (ペア) は授業中に出された課題やテーマに取り組む。
3. 課題の内容について他の受講者 (ペア) とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 3 に対し、模範解答を示す等の形でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小テストに向けて、個人ワーク・ペアワークの結果に対する解説内容について復習する。

事前に指定されたレポート課題に取り組む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度40点、小テスト30点、レポート課題30点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語研究

CSA2353N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜2限

DP3: 言語力

60

安原 凜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語教師になるための条件の一つである日本語教育能力検定試験で、特に難しいとされるのが音声・聴解部分の問題である。したがって、この授業では音声・聴解部分の知識を多様な演習問題を解きながら習得することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.日本語の音についての知識とそれを作り出すときのポイントについて理解する。
- 2.学習者の日本語を聞き、間違いが指摘できるようになる。
- 3.日本語教育能力検定試験の音声・聴解部分の問題が自力で解けるようになる。
- 4.学んだ知識を使って、よりよい音声教育について考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語表現を学ぶ努力が見られない	日本語表現への分析を学ぶ姿勢がある	与えられた課題には積極的に日本語表現の分析ができる	日々の生活から積極的に日本語表現の分析ができる
知識・理解力	授業内容を理解する努力、知識を得ようとする努力が見られない	授業で扱われた内容に関しては、わかる範囲内で理解しようとする	授業で扱われた内容に関しては、積極的に理解しようとする	自ら積極的に書物等に当たり、知識を増やす努力が見られる。
言語力	日本語の表現力を高めようとする努力が見られない	教えられたことに関しては知識として理解はするが、自らの言語活動に生かせない	教えられたことに関しては自らの言語活動に生かすことができる	貪欲に日本語の表現力を高めようとし、学んだことを自らの言語活動に取り入れる努力が見られる

思考・解決 力	思考・解決する方法が示されてもわからない	方法が示されれば、ある程度は思考・解決することができる	自ら解決法を見つけようと努力できる、あるいは、方法が示されればしっかりと思考・解決することができる	多角的に考える力があり、適切な解決方法を自ら見出すことができる
共生・協働 する力	他者と意見交換をせず、他者を助ける視点がない	他者と意見交換ができるが、その成果を課題等に生かすことができない	他者と積極的に意見を交わし、助け合って課題を完成することができる	他者と積極的に意見を交わし、助け合って、完成度の高い成果が得られるよう努力することができる
創造・発信 力	授業で得られた知識を生かそうとする努力が見られない	授業で得られた知識を生かそうとする努力は見られるが、十分ではない	授業で得られた知識を生かすことができる	授業で得られた知識を発展させることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業ガイダンス（日本語教育能力検定試験/音声教育の現状）
0
- 第 2 回 音声（1）
日本語の拍・モーラ
- 第 3 回 音声（2）
日本語のアクセント
- 第 4 回 音声（2）演習
演習問題
- 第 5 回 音声（3）
日本語のイントネーション、プロミネンス
- 第 6 回 音声（3）演習
演習問題
- 第 7 回 音声（4）
日本語の母音と子音の調音法
- 第 8 回 音声（4）演習
演習問題
- 第 9 回 音声（5）
口腔断面図の読み取り方
- 第 10 回 音声（5）演習
演習問題
- 第 11 回 日本語教育能力検定試験過去問対策 1
日本語教育能力検定試験対策の過去問
- 第 12 回 日本語教育能力検定試験過去問対策 2
日本語教育能力検定試験対策の過去問
- 第 13 回 音声教育の実践 1
拍の指導

第 14 回 音声教育の実践2

アクセント・イントネーションの指導

第 15 回 授業総括

総括テスト

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1.講義を基本として授業を進め、演習問題や小テストで理解を確かめながら進める。

2.毎回の授業で、日本語教育能力検定試験の過去問題や模擬試験問題の聴解部分を取り扱う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業に出席しただけでは、日本語教育に関する知識を全て習得することはできない。授業で紹介する参考書などに自ら積極的にあたり、基礎知識を身につけておくこと。予習復習を必ずすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、小テスト・課題（30%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

履修者の理解度に合わせて、授業進度を変更することがある。その場合は、別途通知する。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『日本語教育よくわかる音声』／松崎寛，河野俊之（著）／アルク／2018／978-4-7574-3093-8
学内販売予定 税込価格 2,200円

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本語教育能力検定試験 聴解・音声特訓プログラム』／遠藤 由美子，池田 悠子，奥澤 美佐，／三修社／2008／978-4384055177

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業内で紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中学校、進学塾、日本語学校、大学などの機関で、留学生への日本語教育を行った経験がある。

日本語表現

CSA2306N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

火曜1限

DP3：言語力

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

職業生活を中心とした社会生活において、よりよいコミュニケーションとなるための日本語表現を学習する。そのために、次の3点を目標とする。

- (1) 授業で扱った内容について、自分の考えをもつ。
- (2) 自分の伝えたいことを具体的にわかりやすく説明し、相手に正しく理解してもらうための文章表現ができる。
- (3) 正しい日本語の理解をベースに、マナーやビジネスシーンでの公的な文書の書き方まで含め、効果的な意思伝達ができるよう、その知識、技能を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 授業で扱った内容について考察する。
- ・ 正しい日本語を書けるようにする。
- ・ コミュニケーションのあり方を考える。
- ・ 公的文書の基礎技能を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文章力	正しい日本語になっていない。ビジネス文書のルールを理解せずに書く。	正しい日本語で文章を書くことができる。ビジネス文書の基本を理解し、例を見ながらであれば書くことができる。	わかりやすく正しい日本語で文章を書くことができる。ビジネス文書のルールを理解し、基本的なビジネス文書が書ける。	読者に配慮した、わかりやすく正しい日本語の文章を書くことができる。ビジネス文書のルールを理解し、応用的なビジネス文書が書ける。
理解・思考力	話しことばと書き言葉の相違や敬語等を理解していない。	授業で扱う内容をおおかた理解している。	授業で扱う内容を理解し、自分の意見を持つことができる。	授業で扱う内容を理解し、様々な視点から考察し、そのうえで、自分の意見を持つことができる。

〔授業計画〕

第 1 回 授業のオリエンテーション

第 2 回 日本語を知ろう

日本語の特質

第 3 回 日本語を知ろう

話しことばと書きことばの違い

第 4 回 日本語を知ろう

敬語

第 5 回 日本語を知ろう

敬語・敬意表現

第 6 回 ビジネス文書

ビジネス文書とは何か、「日本語を知ろう」小テスト

第 7 回 社外文書 (1)

慣用表現

第 8 回 社外文書 (2)

案内

第 9 回 社外文書 (3)

依頼

第 10 回 社内文書 (1)

社内文書 (連絡)、「社外文書」小テスト

第 11 回 メール (1)

基本

第 12 回 メール (2)

依頼

第 13 回 メール (3)

返信

第 14 回 メールのもつめ

「メール」小テスト

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 各回の話題やテーマから、自分の意見を、正しい日本語表現になるよう留意して記述する。
- ・ 関連の内容から、知識を確認したり、意識を高めたりする。
- ・ 各回のテーマに関する練習をする。
- ・ 小テストを実施し、知識や技能の習得を確認する。
- ・ 前半の提出物や小テストに対してフィードバックがある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 授業内でできなかった課題を次回までに進めておく。
- ・ 学習した内容について、実生活でも実践する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (45%)、レポート (25%)、小テスト (30%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

資料をmanabaにあげたり、配布したりする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版』/米田明美他/風間書房/2010/4759917772

『日本語表現法 改訂版』/沖森卓也・半沢幹一/三省堂/2007/4385345899

『ビジネス文書458文例』/田辺麻紀他/こう書房/2003/4769607989

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語文法

CSA2352N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜4限

DP3: 言語力

60

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

上代から現代それぞれの時代区分においての、動詞・形容詞・形容動詞の活用表を書けるようにする。また、高校の学校文法において、教育方針が変更しつつある部分について学習することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語文法の品詞分類について学習する。
2. 各時代の用言の活用表について学習する。
3. 用言の活用の変遷について学習する。
4. 学校文法の教育方針の変更点について学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
品詞について	品詞について理解していない。	品詞の名称を把握し、用例を挙げることができる。	品詞の機能と種類をおおむね理解し、用例を挙げることができる。	品詞の機能と種類をよく理解し、用例を挙げ、区別することができる。
動詞の活用	動詞の活用について理解していない。	五段動詞と一段動詞をおおむね区別することができる。	五段動詞と一段動詞を正しく区別することができる。	五段動詞と一段動詞の区別ができ、活用表を正確に書くことができる。

文法全体の理解	文法に関する基本的な考え方について理解できていない。	文法に関する基本的な考え方をおおむね理解している。	文法に関する基本的な考え方を理解し、他人にわかりやすく伝えることができる。	文法に関する基本的な考え方を理解し、他人に伝えることができ、自分なりに研究することもできる。
---------	----------------------------	---------------------------	---------------------------------------	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 品詞の種類
- 第 2 回 活用の種類と活用形
- 第 3 回 動詞の活用の種類の判別法
- 第 4 回 現代の動詞の活用
- 第 5 回 平安時代の動詞の活用(四段・二段・一段)
- 第 6 回 平安時代の動詞の活用(変格活用)
- 第 7 回 奈良時代の動詞の活用(四段・二段・一段)
- 第 8 回 奈良時代の動詞の活用(変格活用)
- 第 9 回 動詞の活用の種類の変遷(四段・二段・一段)
- 第 10 回 動詞の活用の種類の変遷(変格活用)
- 第 11 回 形容詞の活用
- 第 12 回 形容動詞の活用
- 第 13 回 形容詞・形容動詞の語幹の用法
- 第 14 回 音便
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義により、学校文法の活用表の書き方を学習する。
2. 講義により、文語文法の活用表の書き方を学習する。
3. 小テストを受験する。
4. 次週に公開される小テストの解答を受けて、復習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小テストに向けて、講義内容について復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度30点、小テスト70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

日本語教員養成課程履修者必修科目。国語科教諭免許課程履修者も受講することが望ましい。

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本思想

CSA2273N1J

大学
 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
 2年次 3年次 4年次
 2単位 後期
 月曜4限
 DP2：知識・理解力
 60
 松井 吉康

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本古来の宗教から現代の宗教までを概観するとともに、近代以降に成立した新たな哲学について学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代を生きる私達の行動や考え方は、日本の歴史の中で育まれてきたものである。つまり思想の伝統を理解することは、自分自身の行動や考え方を理解することにほかならない。そういう問題意識を持って、自分達の伝統を顧みつつ、自己理解を深めていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の狙い。ガイダンス。
- 第 2 回 日本の伝統宗教としての神道。(1) 神社
- 第 3 回 日本の伝統宗教としての神道。(2) 祭り
- 第 4 回 日本の伝統宗教としての仏教。(1) 釈迦の宗教
- 第 5 回 日本の伝統宗教としての仏教。(2) 大乘仏教
- 第 6 回 近代化とは何か
- 第 7 回 明治維新
- 第 8 回 富国強兵と日本の近代化
- 第 9 回 国家神道
- 第 10 回 敗戦と日本社会
- 第 11 回 戦後民主主義と高度経済成長期
- 第 12 回 日本社会と戦後教育
 日本近代の教育システムについて。
 富国強兵政策の一環としての教育。

第 13 回 1970年代

第 14 回 現代社会の空気

第 15 回 私達の時代とは

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義という形式であるが、各々のトピックについて学生に問いかける授業にする。発言を強制することはないが、自分自身で問題を考える訓練をするのだと思って参加して欲しい。レポートの内容評価については、manaba にて回答する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回の授業の内容を日常生活の中で顧みて、過去と現在のつながりを意識する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

100パーセント、最終レポートで評価する。レポートを執筆する際には、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義という形式ですが、大切なことは、聴講している皆さんが自分で考えるということです。発言を強制したりはしませんが、できるだけ質疑応答が盛んに行われるような授業にしたいと思っていますので、積極的な参加を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ドイツ・ミュンヘン大学 (LMU) にて、専任講師として日本語教育・日本文化紹介等の授業を担当

日本伝統文化論

CSA2202N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2：知識・理解力

60

鳥居本 幸代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

雅楽は伝統芸能のなかで最も長い歴史を有しているが、日本古来のものではない。6世紀中葉、仏教伝来とともに中国、朝鮮、ベトナムなどから伝来した外来の音楽と舞である。大宝律令に雅楽寮を置いて育成保護に務め、平安時代には宮廷行事に不可欠な存在となり、貴族の教養科目の1つに数えられるほど愛好された。千年の時を隔てて継承された雅楽を通して、伝統文化の一端を学ぶことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 雅楽の歴史
2. 雅楽をとりまく環境
3. 雅楽と舞楽
4. 雅楽と装束
5. 平安朝文学作品と雅楽

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 序論 日本音楽の流れ
- 第 2 回 雅楽の定義
- 第 3 回 三韓楽と伎楽の伝来
- 第 4 回 雅楽の演奏体験
- 第 5 回 外国音楽の消化
- 第 6 回 正倉院宝物の雅楽器
- 第 7 回 正倉院宝物の伎楽面
- 第 8 回 雅楽の日本化
- 第 9 回 舞楽の鑑賞
- 第 10 回 平安貴族の教養となった雅楽
- 第 11 回 平安朝宮廷の正月行事と雅楽

第 12 回 武芸と敬老行事にまつわる雅楽

第 13 回 法会と雅楽

第 14 回 祭礼と雅楽

第 15 回 雅楽の現代

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で授業を進めるが、DVDなどを活用してテキストの内容を補足する。さらに、雅楽器を手にとって演奏の体験をし、舞楽の鑑賞も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第 1 回の授業以降、次回の授業内容に相応するテキストの箇所を指定し、読んでおくこと。その結果確認のため、第 2 回講義から実施する小テストをmanabaを活用し行い、フィードバックをmanabaコンテンツにアップロードする。

第 2 回 P3～13

第 3 回 P15～24

第 4 回 P5～12

第 5 回 P28～45

第 6 回 P51～65

第 7 回 P24～27、P66～73

第 8 回 P75～92

第 9 回 P218～250

第10回 P95～122

第11回 P92～95、P123～146

第12回 P163～186、P196～204

第13回 P46～50、P186～196

第14回 P147～163

第15回 P205～217、P251～268

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度 (30%)、小テスト (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『雅楽—時空を超えた遙かな調べ—』/鳥居本幸代/春秋社/2008年/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本の古典芸能第 2 巻 『雅楽・王朝の宮廷芸能』/芸能史研究会編/平凡社/1970年/

『雅楽のデザイン・王朝装束の美意識』/多忠磨編/小学館/1990年/

『日本音楽叢書 1 『雅楽』』/木戸敏郎編/音楽友之社/1990年/

『雅楽・重要無形文化財』/下中記念財団編/平凡社/1990年/

『雅楽入門』/増本伎共子/音楽友之社/2000年/

『雅楽のコスモロジー』/小野真龍/法蔵館/2019年/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本年中行事論

CSA3250N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 後期

木曜 2限

DP2：知識・理解力

60

堀 勝博

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本には、さまざまな年中行事が今も行われているが、それぞれがどのような由来をもち、どのような意味をもつものであるのかということについては、存外知られていない。正月にしめ縄を飾るのはなぜ？ 雛祭りには桜ではなくどうして桃の花？ 盆踊りは何の意味がある？ —この授業は、そのようにわれわれが忘れてしまった日本の年中行事の意味について、由来や歴史をたどりつつ考察することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本の年中行事にどのようなものがあるかを知る
2. 日本の年中行事の特徴について学ぶ
3. 日本の年中行事の由来や歴史について探求する
4. 日本の年中行事の研究方法について学ぶ
5. 年中行事と関わりの深い暦法の由来や概略について理解する

日本の年中行事にゆかりのある名所・旧蹟に出かけ、実地で学習を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本年中行事への理解	日本年中行事への理解が薄弱で、定期試験レポートが評価に値しない。	日本年中行事への理解が一定程度あり、定期試験レポートもある程度評価できる。	日本年中行事への理解があり、定期試験レポートもかなり評価できる。	日本年中行事への深い理解があり、定期試験レポートも高く評価できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 —日本年中行事とは何か
- 第 2 回 日本文化と日本年中行事
- 第 3 回 日本年中行事の特徴 1 —大陸由来行事の多さ
- 第 4 回 日本年中行事の特徴 2 —晴れの日と子供と植物
- 第 5 回 日本年中行事の研究手法—通時・共時の視点
- 第 6 回 日本年中行事の発祥と暦法
- 第 7 回 日本年中行事と近代化 —明治の改暦
- 第 8 回 日本年中行事各論 —年越しと正月
- 第 9 回 各地における正月の民俗
- 第 10 回 正月行事の諸相—さまざまな験かつぎと禁忌
- 第 11 回 小正月、節分、事八日など

第 12 回 雛祭り、涅槃会、彼岸、端午、七夕など

第 13 回 盂蘭盆、中秋、重陽、七五三など

第 14 回 京都の祭り —祇園祭

第 15 回 京都の祭り —大文字

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 日本の主な年中行事の由来や意味について、講義形式で解説する
2. 日本年中行事を記録した画像や映像を見る
3. 授業内容に関する補足などを、manabaにより指示する
4. 受講者数等の状況次第では、上記 1 5 回のうちいずれかの回で、現地へ出向いて授業を実施する場合がある

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 事前にテキストを読んでくること
2. 事前に指示された調査課題・発表課題を準備してくること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に参加する意欲・態度の評価点 4 0 %、定期試験の成績 6 0 %で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『日本年中行事論講義資料集・同別冊』/堀勝博/京都ノートルダム女子大学/平成 2 3 年//学内販売をしない予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本年中行事辞典』/鈴木棠三/角川書店//

『日本民俗事典』/弘文堂/大塚民俗学会//

『年中行事大辞典』/加藤友康他/吉川弘文館//

授業中に指示する

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本美術史

CSA2212N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2：知識・理解力

60

山田 由希代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

古代から近代まで、日本の美術作品について概観し、作品からそれぞれの時代の文化を探る。それによって、制作された作品と社会との関係性を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.日本美術の基礎的知識の習得
- 2.作り手と受け手との関係

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 日本美術とは
- 第 2 回 縄文ー土器の華麗な変遷ー
- 第 3 回 弥生ー土器から金属器へー
- 第 4 回 飛鳥ー仏教がやって来たー
- 第 5 回 奈良ー華やかな海外文化の移入ー
- 第 6 回 平安ー心機一転、新しい都へー
- 第 7 回 平安ー貴族の王朝文化とはー
- 第 8 回 平安・鎌倉ー絵巻物の隆盛ー
- 第 9 回 鎌倉ーどこまでもリアルにー
- 第 10 回 室町・桃山ー異国趣味・武将好みー
- 第 11 回 江戸ー文様の流行ー
- 第 12 回 江戸ー和のデザイン・琳派ー
- 第 13 回 江戸ー浮世絵とはー
- 第 14 回 近代ーもっと、リアルにー
- 第 15 回

期末のまとめと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心とする。その際、作品鑑賞のために情報機器を用いて、視覚によっても理解を深める。必要に応じて資料を配布する。記述された課題等については授業内で触れていくこととする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

あらかじめ、図書館などで日本美術に関する図書に目を通しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末のまとめテスト (60%) および授業参加度 (40%) をあわせて評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

日頃から、美術館や博物館などで、なるべく多くの作品に接すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本の伝統文様』/並木誠士監修/東京美術/2006/

『日本美術の歴史』/辻惟雄/東京大学出版会/2005/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

美術館学芸員として勤務するなか、美術工芸品を扱うことや作家およびその制作過程に触れる経験を有しているため、通史的な内容に加えて実際に制作される際の詳細な技術など多様な視点から授業を行う。

日本美術特講

CSA3201N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次 4年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

苫名 悠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

京都は、平安時代以来近世に至るまで、日本の政治と文化の中心地として機能してきた。そのため京都では、各時代を代表する彫刻や絵画が多く生み出され、その一部が諸寺社などに現存している。これらの遺品について学ぶことは、日本美術史を理解する上で重要な意義を持つ。

本科目では、各学生が、講義を通して日本美術史に関する基礎知識と、京都市内に現存する各作例に関する近年の研究成果を学び、見学会を通して実際の作品を観察し、講義の内容を実地に検証する。

これらにより、先行研究を踏まえて作品を観察し、作品について自らの言葉で論じられるようになることが期待される。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本美術史に関する基礎知識を修得する。
2. 知識を踏まえて作品を鑑賞できる。
3. 作品について自らの言葉で論じることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業内容、スケジュール等の説明
- 第 2 回 仏像の基礎知識
仏像の種類、制作技法、様式の変遷などについて
- 第 3 回 広隆寺
半跏思惟像、不空罽索観音像、十二神将像等
- 第 4 回 松尾大社
三神像
- 第 5 回 千本釈迦堂
六観音像、十大弟子像
- 第 6 回 三十三間堂
千体千手観音像
- 第 7 回 智積院
長谷川等伯一門作障壁画
- 第 8 回 養源院
俵屋宗達筆杉戸絵、松図襖
- 第 9 回 まとめ
授業内容のまとめ
- 第 10 回 見学会①
11月27日（土）見学会① 広隆寺
- 第 11 回 見学会①
11月27日（土）見学会① 松尾大社
- 第 12 回 見学会①
11月27日（土）見学会① 千本釈迦堂
- 第 13 回 見学会②
11月28日（日）見学会② 三十三間堂
- 第 14 回 見学会②
11月28日（日）見学会② 智積院
- 第 15 回 見学会②
11月28日（日）見学会② 養源院

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は講義形式で行い、パワーポイントを用いて多くの作品の画像を提示し、適宜レジュメを配布する。講義では、受講生自らが画像を見て積極的に学び考えることを求める。見学会を2回行い、講義で取り上げた作品を実際に見に行く。見学会では、講義の内容を踏まえて作品を鑑賞し、作品に関する理解を深めることを期待する。

毎回提出してもらったコメントに対しては、次回授業時に回答・説明する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

博物館・美術館・寺社へ積極的に足を運び、文化財に関する興味や問題意識を持つこと。

見学会に向けて自主的に学習すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（50%）、期末テスト（50%）に基づいて総合的に行う。

11月27・28日（土・日）の見学会に参加することが履修条件である。二日間の見学会全日程に参加しなければ、単位を取得することはできない。

〔留意事項（Other Information）〕

見学会の費用は、合計4500円程度（見学会①：拝観料1700円＋交通費600円、見学会②：拝観料1600円＋交通費600円）。見学先の拝観料変更等により、費用が変動する可能性もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

別途指示。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本文化論

CSA1250N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2：知識・理解力

60

岩田 真由子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

日本はどのような国なのか、知っているようで意外と説明することは難しい。この授業では日本の生活文化、文字、神話、歴史、世界遺産、芸能など、日本についての基礎知識を定着させることができる。また、日本文学や日本語、伝統芸能などの日本文化を専門的に学ぶための土台を形成できる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・日本文化を生きたものとして理解し、自分の生活と結びつけて考察する。

- ・日本を中心とした、文化の多様な表現や実態にふれ、その特徴を理解する。

- ・文化研究の方法を知り、現代や過去の文化の在り方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	レベル2に満たない	授業に参加し、進捗を妨げない	集中して授業に取り組む	自ら興味を広げ、調べる
知識・理解力	レベル2に満たない	日本文化の基礎知識を身につける	日本文化の展開を理解する	幅広く日本文化の知識を持ち、関連づけて説明できる
言語力	レベル2に満たない	日本文化に関わる漢字・語彙をある程度身につける	日本文化に関わる漢字・語彙を全般的に身につける	国字や新語なども身につける

〔授業計画〕

- 第 1 回 日本の衣食住
和服、和食、日本の住居の特徴について基礎を学ぶ。
- 第 2 回 日本の文字—漢字・ひらがなの歴史—
日本語の表記の展開について学ぶ。
- 第 3 回 日本の神話
『古事記』と『日本書紀』を読み、日本の神話について学ぶ。
- 第 4 回 日本の神社・古墳
神社と古墳の歴史や特徴について学ぶ。
- 第 5 回 日本の世界遺産
日本の世界遺産の特徴について学ぶ。
- 第 6 回 奈良時代の文化 正倉院の宝物
正倉院の宝物をとおして、天平文化について学ぶ。
- 第 7 回 遣隋使・遣唐使
遣隋使・遣唐使の特徴と廃止にいたるまでの歴史について学ぶ。
- 第 8 回 平安時代の文化
唐風文化の発展と国風文化の成立について学ぶ。
- 第 9 回 京都の文化財
中世以後も都であり続けた京都の文化財について学ぶ。
- 第 10 回 能
伝統芸能である能の歴史と特徴について学ぶ。
- 第 11 回 狂言
伝統芸能である狂言の歴史と特徴について学ぶ。
- 第 12 回 茶道・華道
茶道・華道の歴史と特徴について学ぶ。
- 第 13 回 昔話
最古の昔話と考えられる「浦島太郎」を、神話や風土記から読み解く。
- 第 14 回 日本の生活文化①葬送
日本の葬送文化の変化と特徴について学ぶ。
- 第 15 回 日本の生活文化②結婚・家族・家

日本の家族がどのように変化してきたのか、その歴史と特徴について学ぶ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義形式で授業を行う。配布したプリントをとおして様々な文化表現や実態に触れ、授業をとおして日本文化に対する理解を深めることを目指す。

・考えをまとめ、表現する力を養うために、毎時間の終わりに、授業内容に対する感想・意見を提出してもらう。

・提出された感想・意見に対して次回授業でコメントすることで、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・授業で紹介した参考文献や文学、映像作品などを実際に自分で味わってみる。

・紹介した参考文献以外にも読書体験を広げ、日本文化について考えをまとめる。

・京都を実際に自分で歩いてみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50%)、定期試験 (50%) により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。授業中に資料を配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

風俗博物館

<http://www.iz2.or.jp/fukushoku/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

博物館情報・メディア論

CSA1454N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

山下 晃平

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博物館運営と情報・メディアとの関わり、その意義を理解する。VRやAR等、メディアの発展に伴って、今日の博物館を取り巻く環境は急速に変化しつつある。そのような動向

を捉え、自分なりのメディアリテラシーを身につけ、思考・活用するための基礎的な能力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・博物館の役割や活動においてどのような「情報」があるのかを理解する。

・メディアの発達と博物館運営がどのように関わっているのかを知る。

・具体的な作品あるいは表現方法とメディアとの関わりを知り、自身の専門領域において応用し得る知を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	情報やメディアの特性を理解できない	博物館における「情報」「メディア」の機能について理解できる	デジタル技術の発展と博物館運営の関わりについて理解できる	「情報・メディア」の多様さを知り、それを応用するための思考を身につける
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	情報やメディアの特性を理解し、その活用について考える	デジタル技術の発展と社会との関わりについて考えを深めようとする	現代社会とコミュニケーションの将来的な可能性について創造的に考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 博物館における情報・メディアの意義
- 第 2 回 情報・メディアを活用する1—展覧会におけるメディアの活用
- 第 3 回 情報・メディアを活用する2—データベースの構築
- 第 4 回 情報・メディアを活用する3—標本のデジタル化
- 第 5 回 情報・メディアを活用する4—インターネットの活用
- 第 6 回 芸術とメディア1—写真・映像
- 第 7 回 芸術とメディア2—空間・環境
- 第 8 回 芸術とメディア3—情報・デザイン
- 第 9 回 メディアの発達と博物館運営1—「アーカイブ」をめぐる今日の諸相
- 第 10 回 メディアの発達と博物館運営2—デジタル・アーカイブの現状と課題
- 第 11 回 メディアの発達と博物館運営3—バーチャルリアリティの活用
- 第 12 回 博物館運営と情報発信1—多様化するメディアの活用
- 第 13 回 博物館運営と情報発信2—体験の場としてのミュージアム
- 第 14 回 メディアコンテンツの諸問題—知的財産、著作権について
- 第 15 回 インタラクティブ・メディアとしての博物館

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

視聴覚機器 (プロジェクター、DVD、PPT) を用いて、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、博物館における情報とメディアとの関わりについて講義を中心に進める。また各回のコメントを参照しつつ、関連事項を取り上げたり補足を行う。本講義を導入として考え、自分なりの発想や応用を意識して授業に臨んで欲しい。

授業中の発問と中間小レポートに対しては、適宜口頭でフィードバックする。また期末課題 (レポート) に対しては、manabaを通じて講評と解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義への参加だけではなく、自ら積極的に博物館を見学またはイベントに参加し、「情報」をどのように扱っているのかを客観的に見て、分析して見ること。また本講義で紹介する参考文献、Webサイトやイベントを通して、現代社会の様々な「情報」のネットワークを知る、体験すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、授業時の課題 (20%)、課題に対するレポート (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用せず、講義毎に適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『博物館情報・メディア論(放送大学教材)』/稲村哲也、近藤智嗣/放送大学教育振興会/2018/4595318634

『知覚を刺激するミュージアム: 見て、触って、感じる博物館のつくりかた』/平井康之、藤智亮、野林厚志、真鍋徹、川窪伸光、三島美佐子/学芸出版社/2014/4761525681

『改訂新版 現場で使える美術著作権ガイド 2019』/甲野正道(著)、全国美術館会議(編集)/美術出版社/2019/4568240832

〔参考URL(URL for Reference)〕

・六本木未来会議 (<https://6mirai.tokyo-midtown.com>) 様々な分野で活躍するクリエイターを紹介しているWebマガジン形式のサイト。思考・視点の手がかりになります。

・文化遺産オンライン (<http://bunka.nii.ac.jp/>) デジタル・アーカイブに基づく文化遺産の高品質な画像や情報を掲載するWebサイト。

・美術館・アート情報 artsacpe (<http://artscape.jp>) 今日の国内外の美術動向や批評を配信しているWebサイト。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

該当なし

発展演習 I S

CSS2600A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 前期

木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

必修 クラス指定

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「発展演習」は、1年次の「基礎演習」での学びを「発展」させ、専門の学びへと繋げていく授業である。この授業では、調べる、読む、書くといった基本的なスキルを高めるとともに、プレゼンテーションやディスカッションという知的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、演習をとおして、専門の学びにおける自身の研究分野について考えてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 文献を読み、書かれた内容を的確に理解する。
- 2 必要な資料を調査し、考察をしたことを記述する。
- 3 聞き手を意識しながら、分かりやすくプレゼンテーションする。
- 4 人の意見を聞いて、建設的に議論する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第2回 基礎演習との合同授業
- 第3回 文献講読演習(1)—文献と担当箇所について
- 第4回 文献講読演習(2)—担当箇所の内容を理解する
- 第5回 文献講読演習(3)—担当箇所について報告する
- 第6回 文献講読演習(4)—担当箇所についての質疑応答
- 第7回 文献講読まとめ—ふり返りとレポート作成
- 第8回 個別面談
- 第9回 課題解決型学習(1)—課題の内容を理解する
- 第10回 課題解決型学習(2)—課題に対する現状を調査する
- 第11回 課題解決型学習(3)—課題に対して案を協議する
- 第12回 課題解決型学習(4)—課題に対する案を発表する
- 第13回 課題解決型学習合同成果発表会
- 第14回 課題解決型学習まとめ—ふり返りとレポート作成
- 第15回 発展演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は主として発表とグループワークによって進める。
- 2 文献講読演習における担当者は、担当箇所について内

容を説明する。

- 3 担当者の報告について質疑応答を行う。
- 4 課題解決型学習においては、課題についてグループで提案を行う。
- 5 グループは調査、協議を通して立案し、プレゼンテーションを行う。
- 6 示された案について質疑応答を行う。
- 7 発表とグループワークについてレポートを作成しまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 文献を通読して、内容を理解しておく。
- 2 参考文献や資料を調査し、自分の考えをまとめておく。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

(1) 課題への取組姿勢と内容: 70%

(2) 学期末提出レポート: 30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 I P

CSS2600B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 前期

木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

必修 クラス指定

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「発展演習」は、1年次の「基礎演習」での学びを「発展」させ、専門の学びへと繋げていく授業である。この授業では、調べる、読む、書くといった基本的なスキルを高めるとともに、プレゼンテーションやディスカッションという知的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。

る。また、演習をとおして、専門の学びにおける自身の研究分野について考えてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 文献を読み、書かれた内容を的確に理解する。
- 2 必要な資料を調査し、考察をしたことを記述する。
- 3 聞き手を意識しながら、分かりやすくプレゼンテーションする。
- 4 人の意見を聞いて、建設的に議論する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第 2 回 基礎演習との合同授業
- 第 3 回 文献講読演習 (1) —文献と担当箇所について
- 第 4 回 文献講読演習 (2) —担当箇所の内容を理解する
- 第 5 回 文献講読演習 (3) —担当箇所について報告する
- 第 6 回 文献講読演習 (4) —担当箇所についての質疑応答
- 第 7 回 文献講読まとめ—ふり返りとレポート作成
- 第 8 回 個別面談
- 第 9 回 課題解決型学習 (1) —課題の内容を理解する
- 第 10 回 課題解決型学習 (2) —課題に対する現状を調査する
- 第 11 回 課題解決型学習 (3) —課題に対して案を協議する
- 第 12 回 課題解決型学習 (4) —課題に対する案を発表する
- 第 13 回 課題解決型学習合同成果発表会
- 第 14 回 課題解決型学習まとめ—ふり返りとレポート作成
- 第 15 回 発展演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は主として発表とグループワークによって進める。
- 2 文献講読演習における担当者は、担当箇所について内容を説明する。
- 3 担当者の報告について質疑応答を行う。
- 4 課題解決型学習においては、課題についてグループで提案を行う。
- 5 グループは調査、協議を通して立案し、プレゼンテーションを行う。
- 6 示された案について質疑応答を行う。
- 7 発表とグループワークについてレポートを作成しまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 文献を通読して、内容を理解しておく。
- 2 参考文献や資料を調査し、自分の考えをまとめておく。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容 : 70%
- (2) 学期末提出レポート : 30%

ただし、欠席 5 回以上で、単位の取得は困難となる

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤裕・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 I R

CSS2600DJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 前期

木曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

必修 クラス指定

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「発展演習」は、1 年次の「基礎演習」での学びを「発展」させ、専門の学びへと繋げていく授業である。この授業では、調べる、読む、書くといった基本的なスキルを高めるとともに、プレゼンテーションやディスカッションという知的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、演習をとおして、専門の学びにおける自身の研究分野について考えてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 文献を読み、書かれた内容を的確に理解する。
- 2 必要な資料を調査し、考察をしたことを記述する。
- 3 聞き手を意識しながら、分かりやすくプレゼンテーションする。
- 4 人の意見を聞いて、建設的に議論する。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させる	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考

			ことができる。	察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見をもち、他者に伝えようとしなない。	自分の意見をもち、他者に伝えようとするすることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段と手法によって伝えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第 2 回 基礎演習との合同授業
- 第 3 回 文献講読演習（1）—文献と担当箇所について
- 第 4 回 文献講読演習（2）—担当箇所の内容を理解する
- 第 5 回 文献講読演習（3）—担当箇所について報告する
- 第 6 回 文献講読演習（4）—担当箇所についての質疑応答
- 第 7 回 文献講読まとめ—ふり返りとレポート作成
- 第 8 回 個別面談
- 第 9 回 課題解決型学習（1）—課題の内容を理解する
- 第 10 回 課題解決型学習（2）—課題に対する現状を調査する

第 11 回 課題解決型学習（3）—課題に対して案を協議する

第 12 回 課題解決型学習（4）—課題に対する案を発表する

第 13 回 課題解決型学習合同成果発表会

第 14 回 課題解決型学習まとめ—ふり返りとレポート作成

第 15 回 発展演習前期まとめ—後期にむけて

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 授業は主として発表とグループワークによって進める。
- 2 文献講読演習における担当者は、担当箇所について内容を説明する。
- 3 担当者の報告について質疑応答を行う。
- 4 課題解決型学習においては、課題についてグループで提案を行う。
- 5 グループは調査、協議を通して立案し、プレゼンテーションを行う。
- 6 示された案について質疑応答を行う。
- 7 発表とグループワークについてレポートを作成しまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1 文献を通読して、内容を理解しておく。
- 2 参考文献や資料を調査し、自分の考えをまとめておく。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の方法・基準によって評価する。

（1）課題への取組姿勢と内容：70%

（2）学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる

〔留意事項（Other Information）〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』（くろしお出版、2007・4）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 II Q

CSS2650A0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「発展演習」は、1年次の「基礎演習」や「発展演習」前期での学びをさらに「発展」させ、専門の学びへと繋げていく授業である。この授業では、調べる、読む、書くといった基本的なスキルを高めるとともに、プレゼンテーションやディスカッション、ディベートという知的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、演習をとおして、専門の学びにおける自身の研究テーマについて考えてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を的確に理解する。
- 2 必要な資料を精査し、考察をしたことを記述する。
- 3 聞き手を意識しながら、分かりやすくプレゼンテーションする。
- 4 人の意見を聞いて、建設的に議論し、自身の考察に生かす。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第 2 回 ディベートとは
- 第 3 回 ディベート演題を用いたレポート作成 (1) —演題の内容を理解する
- 第 4 回 ディベート演題を用いたレポート作成 (2) —演題に対する自分の意見をまとめる
- 第 5 回 ディベート演題を用いたプレゼンテーション (1) —演題の内容を理解する
- 第 6 回 ディベート演題を用いたプレゼンテーション (2) —演題に対する自分の意見をまとめる
- 第 7 回 ディベート演題を用いたレポート・プレゼンテーションまとめ
- 第 8 回 個人面談
- 第 9 回 分属説明会
- 第 10 回 ディベートの準備 (1) —演題の内容を理解する
- 第 11 回 ディベートの準備 (2) —演題に関連する資料集や調査を行う
- 第 12 回 ディベートの準備 (3) —演題についての意見をまとめ、発表の準備をする
- 第 13 回 基礎演習との合同授業 (1) —1年プレゼンテーション発表会
- 第 14 回 基礎演習との合同授業 (2) —2年ディベート大会

第 15 回 発展演習後期まとめ—専門演習にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は主として発表とグループワークによって進める。
- 2 提示された演題についてレポートを作成する。
- 3 提示された演題についてプレゼンテーションを行う。
- 4 提示された演題でディベートを行う。
- 5 ディベートでは演題について調査、協議し、プレゼンテーションを行う。
- 6 プレゼンテーションについて質疑応答を行い、互いに評価し合う。
- 7 ディベートについてレポートを作成しまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 文献を通読して、内容を理解しておく。
- 2 参考文献や資料を調査し、自分の考えをまとめておく。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

(1) 課題への取組姿勢と内容：70%

(2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 II S

CSS2650B0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 後期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「発展演習」は、1年次の「基礎演習」や「発展演習」前期での学びをさらに「発展」させ、専門の学びへと繋げていく授業である。この授業では、調べる、読む、書くといった基本的なスキルを高めるとともに、プレゼンテーションやディスカッション、ディベートという知的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、演習をとおして、専門の学びにおける自身の研究テーマについて考えてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を的確に理解する。
- 2 必要な資料を精査し、考察をしたことを記述する。
- 3 聞き手を意識しながら、分かりやすくプレゼンテーションする。
- 4 人の意見を聞いて、建設的に議論し、自身の考察に生かす。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。

思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしていたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとしていない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見をもち、他者に伝えようとしていない。	自分の意見をもち、他者に伝えようとしてすることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段と手法によって伝えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第 2 回 ディベートとは
- 第 3 回 ディベート演題を用いたレポート作成 (1) —演題の内容を理解する
- 第 4 回 ディベート演題を用いたレポート作成 (2) —演題に対する自分の意見をまとめる
- 第 5 回 ディベート演題を用いたプレゼンテーション (1) —演題の内容を理解する
- 第 6 回 ディベート演題を用いたプレゼンテーション (2) —演題に対する自分の意見をまとめる
- 第 7 回 ディベート演題を用いたレポート・プレゼンテーションまとめ
- 第 8 回 個人面談
- 第 9 回 分属説明会
- 第 10 回 ディベートの準備 (1) —演題の内容を理解する
- 第 11 回 ディベートの準備 (2) —演題に関連する資料集や調査を行う
- 第 12 回 ディベートの準備 (3) —演題についての意見をまとめ、発表の準備をする
- 第 13 回 基礎演習との合同授業 (1) —1年プレゼンテーション発表会
- 第 14 回 基礎演習との合同授業 (2) —2年ディベート大会
- 第 15 回 発展演習後期まとめ—専門演習にむけて
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は主として発表とグループワークによって進める。
- 2 提示された演題についてレポートを作成する。
- 3 提示された演題についてプレゼンテーションを行う。
- 4 提示された演題でディベートを行う。
- 5 ディベートでは演題について調査、協議し、プレゼンテーションを行う。
- 6 プレゼンテーションについて質疑応答を行い、互いに評価し合う。
- 7 ディベートについてレポートを作成しまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 文献を通読して、内容を理解しておく。
- 2 参考文献や資料を調査し、自分の考えをまとめておく。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 II P

CSS2650C0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 後期

木曜 2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「発展演習」は、1年次の「基礎演習」や「発展演習」前期での学びをさらに「発展」させ、専門の学びへと繋げていく授業である。この授業では、調べる、読む、書くといった基本的なスキルを高めるとともに、プレゼンテーショ

ンやディスカッション、ディベートという知的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、演習をとおして、専門の学びにおける自身の研究テーマについて考えてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を的確に理解する。
- 2 必要な資料を精査し、考察をしたことを記述する。
- 3 聞き手を意識しながら、分かりやすくプレゼンテーションする。
- 4 人の意見を聞いて、建設的に議論し、自身の考察に生かす。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について

第 2 回 ディベートとは

第 3 回 ディベート演題を用いたレポート作成 (1) —演題の内容を理解する

第 4 回 ディベート演題を用いたレポート作成 (2) —演題に対する自分の意見をまとめる

第 5 回 ディベート演題を用いたプレゼンテーション (1) —演題の内容を理解する

第 6 回 ディベート演題を用いたプレゼンテーション (2) —演題に対する自分の意見をまとめる

第 7 回 ディベート演題を用いたレポート・プレゼンテーションまとめ

第 8 回 個人面談

第 9 回 分属説明会

第 10 回 ディベートの準備 (1) —演題の内容を理解する

第 11 回 ディベートの準備 (2) —演題に関連する資料集や調査を行う

第 12 回 ディベートの準備 (3) —演題についての意見をまとめ、発表の準備をする

第 13 回 基礎演習との合同授業 (1) —1年プレゼンテーション発表会

第 14 回 基礎演習との合同授業 (2) —2年ディベート大会

第 15 回 発展演習後期まとめ—専門演習にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は主として発表とグループワークによって進める。
- 2 提示された演題についてレポートを作成する。
- 3 提示された演題についてプレゼンテーションを行う。
- 4 提示された演題でディベートを行う。
- 5 ディベートでは演題について調査、協議し、プレゼンテーションを行う。
- 6 プレゼンテーションについて質疑応答を行い、互いに評価し合う。
- 7 ディベートについてレポートを作成しまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 文献を通読して、内容を理解しておく。
- 2 参考文献や資料を調査し、自分の考えをまとめておく。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展演習 II R

CSS2650D0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次

2単位 後期

木曜2限

DP6：創造・発信力

60

必修 クラス指定

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「発展演習」は、1年次の「基礎演習」や「発展演習」前期での学びをさらに「発展」させ、専門の学びへと繋げていく授業である。この授業では、調べる、読む、書くといった基本的なスキルを高めるとともに、プレゼンテーションやディスカッション、ディベートという知的なコミュニケーション能力を養うことを目標とする。また、演習をとおして、専門の学びにおける自身の研究テーマについて考えてもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 資料を読み、書かれた内容を的確に理解する。
- 2 必要な資料を精査し、考察をしたことを記述する。
- 3 聞き手を意識しながら、分かりやすくプレゼンテーションする。
- 4 人の意見を聞いて、建設的に議論し、自身の考察に生

かす。

- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス—授業の位置づけ、進め方、評価について
- 第2回 ディベートとは
- 第3回 ディベート演題を用いたレポート作成(1)—演題の内容を理解する
- 第4回 ディベート演題を用いたレポート作成(2)—演題に対する自分の意見をまとめる
- 第5回 ディベート演題を用いたプレゼンテーション(1)—演題の内容を理解する
- 第6回 ディベート演題を用いたプレゼンテーション(2)—演題に対する自分の意見をまとめる
- 第7回 ディベート演題を用いたレポート・プレゼンテーションまとめ
- 第8回 個人面談
- 第9回 分属説明会
- 第10回 ディベートの準備(1)—演題の内容を理解する
- 第11回 ディベートの準備(2)—演題に関連する資料集や調査を行う
- 第12回 ディベートの準備(3)—演題についての意見をまとめ、発表の準備をする
- 第13回 基礎演習との合同授業(1)—1年プレゼンテーション発表会
- 第14回 基礎演習との合同授業(2)—2年ディベート大会

第15回 発展演習後期まとめ—専門演習にむけて

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 授業は主として発表とグループワークによって進める。
- 2 提示された演題についてレポートを作成する。
- 3 提示された演題についてプレゼンテーションを行う。
- 4 提示された演題でディベートを行う。
- 5 ディベートでは演題について調査、協議し、プレゼンテーションを行う。
- 6 プレゼンテーションについて質疑応答を行い。互いに評価し合う。
- 7 ディベートについてレポートを作成しまとめとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 文献を通読して、内容を理解しておく。
- 2 参考文献や資料を調査し、自分の考えをまとめておく。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席5回以上で、単位の取得は困難となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマや授業の順序は変更することがある。
 外部講師による招待講演を実施することがある。
 学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

物語舞台論

CSA3401N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜1限

DP4: 思考・解決力

60

石川 優

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、マンガ、アニメーション、ゲーム、ライトノベルなどのポピュラー文化が表現する物語は、私たちが暮らす世界に、さまざまな形で拡散している。この授業では、ポピュラー文化の物語世界と、現実世界とのつながりを「物語舞台」というキーワードから考察する。講義とフィールドワークをつうじて、現代日本の物語文化についての理解を深めることを、授業の目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・現代の物語文化を理解するための基本概念を習得し、その概念を説明できるようになる。
- ・グループワークやフィールドワークをつうじて、現代の物語文化に対する自分の考えを言語化できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	物語を意識的にとらえることができない。	物語を文化の一部として認識できる。	物語が社会で果たす役割について考えることができる。	物語が社会で果たす役割について考え、その知見を広く活用できる。

知識・理解力	現代の物語文化の特徴を理解していない。	現代の物語文化の特徴を理解している。	現代の物語文化の特徴と仕組みを理解している。	現代の物語文化の特徴と仕組みから、その長所・短所を把握している。
言語力	自分の意見を言語化できない。	自分の意見を断片的に言語化できる。	自分の意見を順序立てて言語化できる。	自分の意見を論理的な一貫性をもって言語化できる。
思考・解決力	授業で教えられたこと以上は考えようとしていない。	授業内容について考えを深めることができる。	授業内容について考えを深め、物語文化に対する問題を見つけることができる。	物語文化に対する問題意識を持ち、その問題を解決するための糸口を見つけることができる。
共生・協働する力	他者と意見交換ができない。	他者と意見交換ができる。	先行研究を調べ、他者と意見交換ができる。	先行研究のレビューと他者との意見交換をつうじて、自分の考えを深めることができる。
創造・発信力	学習したことを発信できない。	学習したことを発信できる。	学習したことを、他者に伝わりやすく発信できる。	学習したことを発信し、他者から得られたコメントを自らの学びにフィードバックできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の主題と射程、スケジュールについて
- 第 2 回 基礎理論 (1) 物語とは何か
物語の構造について
- 第 3 回 基礎理論 (2) キャラクターとは何か
キャラクターの構造について
- 第 4 回 基礎理論 (3) メディアミックスの歴史
メディアミックスの歴史について
- 第 5 回 基礎理論 (4) メディアミックスの現在
メディアミックスの現在について
- 第 6 回 事例研究 (1) 聖地巡礼の歴史
聖地巡礼の歴史について
- 第 7 回 事例研究 (2) 聖地巡礼の現在
聖地巡礼の現在について
- 第 8 回 フィールドワーク (京都市内)
「物語の舞台」を探そう

- 第 9 回 第10回とともに、第8回に集約
- 第 10 回 第9回とともに、第8回に集約
- 第 11 回 物語のモビリティ (1) アマチュアによる表現
同人誌の歴史について
- 第 12 回 物語のモビリティ (2) ファン・イベント
二次創作について
- 第 13 回 物語のモビリティ (3) マンガミュージアム
マンガミュージアムの成立について
- 第 14 回 海外の事例研究
海外における日本のポピュラー文化の受容について
- 第 15 回 総括と補遺
これまでの授業のふり返りと補足

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・受講生は、毎回の授業で、授業内容の理解度を問う課題にとりくむ。課題はmanabaをつうじて提出する。フィードバックは、次回授業の冒頭でおこなう。
- ・受講生はフィールドワークに参加し、小レポートを作成する。小レポートは、manabaをつうじて提出する。フィードバックは、次回以降の授業の冒頭でおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・資料をmanabaをつうじて配布することがある。教員から指示があった場合は、あらかじめ確認して、予習に役立てること。
- ・授業内で指示する参考文献に目をとおして、学習を深めること。
- ・日頃から、ポピュラー文化の物語世界が私たちの生活空間にどのように広がっているのかを意識してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・毎回の授業で提出する課題 (30%)
- ・フィールドワークに基づく小レポート (20%)
- ・期末レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・授業計画は暫定的なものであり、さまざまな事情から変更する場合がある。変更する場合は、授業やmanabaで事前に通知する。
- ・フィールドワークは原則として土曜日に実施する予定である。日時は授業にて通知する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

吉村和真監修、石川優編『マンガ研究の手引き』文化庁、2020年 (https://mediag.bunka.go.jp/mediag_wp/wp-content/uploads/2020/03/manga_guidance02.pdf)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

該当しない。javascript:void(0);

比較文化概論

CSA1203N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

木曜1限

DP2 : 知識・理解力

60

秋丸 知貴

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、比較により特徴を捉える学問的方法論を身に付けると共に、様々な文化事象を通じて西洋文化と日本文化の特徴を学ぶことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

異文化との比較により自文化を客観的に相対化する視点を養うと共に、それぞれの文化に優劣はなく、異文化と自文化にそれぞれ敬意を払い尊重する態度を涵養する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 比較文化とは何か?
- 第 2 回 西洋と日本における自然観の比較
- 第 3 回 西洋と日本における宗教観の比較
- 第 4 回 西洋と日本における人間観の比較
- 第 5 回 西洋と日本における絵画観の比較①——造形
- 第 6 回 西洋と日本における絵画観の比較②——画題
- 第 7 回 西洋と日本における彫刻観の比較
- 第 8 回 西洋と日本における建築観の比較
- 第 9 回 西洋と日本における庭園観の比較
- 第 10 回 西洋と日本における文学観の比較
- 第 11 回 西洋と日本における恋愛観の比較
- 第 12 回 西洋と日本における死生観の比較
- 第 13 回 河合隼雄の比較文化論——父性社会と母性社会
- 第 14 回 夏目漱石の比較文化論——内発的開化と外発的開化

第 15 回 加藤周一の比較文化論——純粹文化と雑種文化

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

期末レポート (1,200字以上)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

常に、授業の内容を自分自身の問題意識に引き付けて受講してほしい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回受講前に、前回までの内容を配布資料やノートで見返すようにしてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回のコメントシート (60%) 及び期末レポート (40%) による評価。いずれも、授業の内容を自分自身の問題意識に引き付け、自分自身の考えを文章としてまとめることを評価基準とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

私語及び授業中のスマートフォンの使用は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

教科書は特に定めない。参考文献は、下記の他は授業中に適宜紹介する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

河合隼雄『母性社会日本の病理』講談社+α文庫、1997年。

河合隼雄『中空構造日本の深層』中公文庫、1999年。

夏目漱石『漱石文明論集』岩波文庫、1986年。

加藤周一『加藤周一セレクション⑤』平凡社ライブラリー、1999年。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

音楽鑑賞法

CSA1211N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

60

久野 将健

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ピアノの前身はチェンバロやフォルテピアノといった鍵盤楽器であった。この授業は古い時代の鍵盤楽曲から始めて、古典派以降に発展するピアノとその音楽を理解したい。楽器の構造、歴史、作品を中心として考察をすすめていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 鍵盤楽器に興味を持ち、理解に努める。
- 2) 音楽を静かに鑑賞し、味わう。
- 3) 学んだことや感じとったことを適切に文章化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

第 1 回 はじめに 鍵盤楽器の概要

第 2 回 チェンバロとその音楽①～クーランとラモー～

第 3 回 チェンバロとその音楽②～D.スカララッティとヘンデル～

第 4 回 チェンバロとその音楽③～J.S.バッハ I～ (導入)

第 5 回 チェンバロとその音楽④～J.S.バッハ II～ (展開)

第 6 回 ピアノとその音楽①～ハイドン～

第 7 回 ピアノとその音楽②～モーツァルト～

第 8 回 ピアノとその音楽③～ベートーヴェン～

第 9 回 ピアノとその音楽④～シューベルトとシューマン～

第 10 回 ピアノとその音楽⑤～ショパン～

第 11 回 ピアノとその音楽⑥～リスト～

第 12 回 ピアノとその音楽⑦～ドビュッシー～

第 13 回 ピアノとその音楽⑧～ラヴェル～

第 14 回 ピアノとその音楽⑨～フォーレとサティ～

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業実施方法 講義。レポートを課すことがある。
2. 学習の方法 音楽を聴く際には静かにする。テキストの次の範囲に目を通しておく。
3. 使用教材 テキスト、プリント、CD,DVD等。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習箇所を指定するので予め準備しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30点)、レポート (70点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合 (6回欠席) は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

包括的理解のために、「音楽文化概論」「典礼音楽特講」を併せて受講することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『カラー図解 ピアノの歴史』/小倉貴久子/河出書房新社/2009/9784309270869/学内販売予定

そのほか適宜プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新西洋音楽史 上中下』/グラウト/パリスカ/音楽之友社/1998年/4276112125 C1073

『詳説総合音楽史年表』/皆川達夫/倉田喜弘監修/教育芸術社/2003年/487788212X C3073

ほか適宜授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中東文化論

CSA1255N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2：知識・理解力

60

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ニュースでは頻りに見聞きするものの、日本人にとってはまだまだ異質の文化圏である中東地域。そこはいくつかの重要な共通点をかかえつつも、異なる諸要素が複雑多様に絡み合った地域である。地域をより身近なものとして理解するために、さまざまな側面を幅広く観察・学習し、基本的知識を身に付ける。中東の地理、民族、歴史を学び、中東に関わる紛争を理解することでグローバル社会に対応できる知見を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中東についての基本的な知識
2. 中東の地理、民族、歴史
3. 中東をめぐる紛争

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えた上で、応用につなげる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション、中東とは
- 第 2 回 混乱の始まり
- 第 3 回 イラクのクウェート侵攻、アメリカ同時多発テロ
- 第 4 回 戦争とテロ (オンライン)
- 第 5 回 イラク内戦、アラブの春
- 第 6 回 地理・民族・歴史 (オンライン)
- 第 7 回 パレスチナ問題
- 第 8 回 イスラーム
- 第 9 回 コーラン、宗派 (オンライン)
- 第 10 回 石油
- 第 11 回 OPEC、南北問題
- 第 12 回 難民 (オンライン)
- 第 13 回 難民に対する日本の姿勢
- 第 14 回 国際貢献
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 主に講義によって授業をすすめる。
2. 簡単な小テストによって、学んだことから基礎的な事柄の復習と確認を行う。
3. 各自テーマを領域から選び (または与えられ)、発表を行い、討論により他の学生とその知識を共有し意見交換する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 講義内容を復習する。
2. 随時行われる小テストに備えて、学習を行う。
3. 発表のために調査し、準備を行う。
4. 課題に対するフィードバックは授業のなかで行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度30%、小テスト10%、試験 60% により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業をおこなうこともある。
また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『中東 混迷の本当の理由』/池上彰/小学館/
2017/978-4-09-388555-3/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本の歴史と文化

CSA1256N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

火曜 3限

DP2：知識・理解力

60

岩田 真由子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、主に京都を取り上げ、1つの土地に刻まれた重層的な歴史について学びます。授業をとおして、日本史の基礎的な知識を身に着けること、そして各時代に生きた人々の生活や文化について理解することを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ものごとの変化を捉えるだけではなく、なぜ変化したのか、その理由や背景についても考える。
- ・「観光」が生まれる以前、人々がどのような目的で国内を移動したのかを理解する。
- ・都の空間構造とその変化について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	レベル2に満たない	授業に参加し、進捗を妨げない	集中して授業に取り組む	自ら興味を広げ、調べる
知識・理解力	レベル2に満たない	日本史の基礎知識を身につける	各時代に起こった出来事とその理由について理解する	一つの時代に起こった複数の出来事に関連づけて、その時代全体を理解する
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
日本史の基礎的な知識について学ぶ。
- 第 2 回 奈良の都平城京
平城京の構造と人々の生活の実態について学ぶ。
- 第 3 回 奈良時代の旅—律令国家の光と影—
律令国家の時代に、どのような人々が都と地方との間を往来したのかについて学ぶ。
- 第 4 回 京都の都市空間①—平安京の成立と発展—
平安京の都市空間の広がりについて学ぶ。
- 第 5 回 京都の都市空間②—中世・近世における変貌—
応仁の乱や豊臣秀吉の都市改造による都市空間の変化について学ぶ。
- 第 6 回 平安京の人々の暮らし
貴族や庶民の生活の様子について学ぶ。
- 第 7 回 平安時代の浄土信仰と他界観
浄土信仰の影響により、人々が死後をどのように考えるようになったのかについて学ぶ。
- 第 8 回 平安貴族の寺社参詣
貴族の寺社参詣とその背景にある信仰について学ぶ。
- 第 9 回 中世の熊野詣
都から遠く離れた熊野への参詣とその背景にある信仰について学ぶ。
- 第 10 回 京都と鎌倉
鎌倉幕府成立以後、両都市間を往来した人々の様子について学ぶ。
- 第 11 回 応仁の乱とその影響—小京都の成立—
貴族の没落や文化の地方普及について学ぶ。
- 第 12 回 御霊信仰と祇園祭

疫病に対する恐怖からどのように祭礼が生まれたのかについて学ぶ。

- 第 13 回 江戸時代の物見遊山と名所
観光名所になった京都について学ぶ。
- 第 14 回 江戸時代の寺社参詣
庶民に広がった伊勢参りを中心に学ぶ。
- 第 15 回 京都御所
江戸時代の御所と天皇の暮らしについて学ぶ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義形式で行う。毎回資料プリントを配布する。
- ・毎回、授業の終わりに感想・質問を記入・提出してもらう。次回授業の際にそれに対してコメントし、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各授業のキーワードとなる歴史用語について辞典類で調べておくこと。
- ・授業で紹介した著書・メディア情報などに目を通し、日本史に対する知識を深めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50パーセント)、定期試験 (50%) により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

観光学概論

CSA1401N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 前期

金曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

加藤 淳一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「観光学概論」は、他の観光関連授業の基礎となる科目である。また、観光以外の様々な分野とも関連性の高い分野でもある。観光は誰にでも親しみやすい分野であるので、これをきっかけに知的好奇心を養い、観光に関する基礎・専

門知識について指導するとともに、観光を視点に他の分野でも応用できる汎用性のある思考能力を身につけ、様々な社会的課題を解決できる能力を修得出来るよう、ホテルや旅行業、レジャー観光関連施設など様々な観光関連業務に従事した実務経験をもとに受講生の将来に役立つ講義を実施する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 観光学に関わる基礎的用語や知識を修得する。
- (2) 観光とは何か?その現代的意義を理解する。
- (3) 観光産業の社会的意義について理解する。
- (4) 観光の現状や課題について学ぶ。
- (5) 観光の将来や課題解決について、自ら考え解決できる能力を修得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
観光学に対する知識・理解力	観光学の基礎・専門知識を学ぼうとしない。	観光学の基礎・専門知識を学び、理解することが出来る。	修得した知識を基に、他の分野でも応用できる知識や理解力を身に付ける。	国際的な広い視野と教養を持ち、深く考察できる知識や理解力を身に付ける。
思考・解決力	与えられたことについても、考えようとしなない。	与えられたこと以上については、考えようとしなない。	様々な課題を発見し、解決に向けた思考力を身に付ける。	社会的な課題に対して、情報を収集・分析する技能と論理的な思考力を身に付ける。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとしなない。	グループワークに参加すること出来る。	グループワークに積極的に参加し、他者との共生・協働を促す。	他者との共生・協働により、プレゼンテーション能力を向上させる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の概要や進め方、テキストの活用方法や事前・事後学修の方法
- 第 2 回 観光を学ぶ意義と観光の様々な効果
現代社会と観光の関わり、観光が人間・企業・地域にもたらす効果や影響
- 第 3 回 観光に関わる言葉
「観光」と「旅行・旅」、観光に関連する基礎用語
- 第 4 回 観光のしくみ
観光を構成する要素、観光事業の意味としくみ
- 第 5 回 観光資源と観光対象
観光資源の意味、観光資源と観光対象の特徴
- 第 6 回 観光産業の構成と特徴
観光産業の定義と種類、その構成業種・特徴・課題

- 第 7 回 様々な観光ビジネス (旅行業)
旅行業の意味・歴史・役割、旅行業と地域の関わり
- 第 8 回 様々な観光ビジネス (宿泊産業)
宿泊産業の歴史と発展、分類、ホテルの機能
- 第 9 回 様々な観光ビジネス (交通運輸業)
観光と交通の関わり、交通と交通運輸業
- 第 10 回 様々な観光ビジネス (その他関連産業)
テーマパーク、スキー場、展示・鑑賞施設、土産品業等
- 第 11 回 観光と情報
観光行動と情報、観光情報の媒体、効果的な情報発信・提供方法
- 第 12 回 観光政策と観光行政
観光政策と観光行政の意義、国・地方の観光政策と観光行政
- 第 13 回 観光のマーケティング
マーケティングと観光への応用等
- 第 14 回 旅の歴史とこれからの旅行
旅の歴史、マスツーリズムからサステイナブル・ツーリズムへ
- 第 15 回 観光と国際経済・社会・文化
インバウンドと異文化理解

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを中心に、観光のしくみや観光に携わる産業の社会的・経済的な役割を理解するため、映像視聴、グループワークやプレゼンテーションの機会を設ける。

レポートや課題に関しては、内容を確認後、次回以降にフィードバックを行なう。

なお、欠席者に対しては、次回出席時に個別でフォローを行なうと共に、配布物があった場合は、配布する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

〔事前〕各回の授業テーマに該当するテキスト対応部分に目を通し、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。

〔事後〕授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は講師へ連絡する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績評価は、以下の評価基準に基づき、総合評価とする。

- ・平常点：20% (授業参加度、受講態度・マナーを評価)
- ・取り組み姿勢：15% (積極的な授業参加、グループワークやプレゼンテーションを評価)
- ・レポート課題：15% (授業中に作成指示したレポートや課題の内容を評価)
- ・定期試験：50% (定期試験を実施し、その点数を評価)

〔留意事項 (Other Information)〕

進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『観光学基礎』(株) JTB総合研究所、2019年

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて、授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

必要に応じて、授業内で紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ホテルでの支配人やホスピタリティ業界での人事部長、海浜レジャー観光施設のディレクター、旅行添乗員など、様々な観光産業での実務経験を有する。

漢文学特講

CSA2265N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義は日本人に親しまれている唐代の詩、特に李白と杜甫の詞を中心に読む予定である。本講義は、学習を通して、漢詩に関する基本知識を把握し、文学作品としての漢詩への知識を深めることを目標とする。

また、漢詩の学習を通して、日本と中国が共有している漢字文化についても再認識してもらいたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 漢詩に関する基本知識を把握する。
2. 「律詩」「絶句」「五言」「七言」について学習する。
3. 日本語の独特な「返り点」の付け方、「読み下し」の方法をマスターする。
4. 授業の最終回において、テストとその解説を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
漢詩への理解度	テキストの内容が全く理解出来ない。	テキストの内容が少し理解出来る。	テキストの内容がある程度理解出来る。	テキストの内容がほぼ理解出来る。
訓読み方のマスター	訓読み方は全く理解出来ない。	訓読み方は少し理解出来る。	訓読み方はある程度理解出来る。	訓読み方はほぼ理解出来る。

漢詩と日本人の関係性	日本人の文化生活と漢詩の関係性について全く理解出来ない。	日本人の文化生活と漢詩の関係性について少し理解出来る。	日本人の文化生活と漢詩の関係性についてある程度理解出来る。	日本人の文化生活と漢詩の関係性についてほぼ理解出来る。
------------	------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	-----------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 漢詩の種類について
- 第 3 回 押韻と平仄について
- 第 4 回 孟浩然「春暁」
- 第 5 回 王維「送元二使安西」
- 第 6 回 王之涣「涼州詞」
- 第 7 回 王翰「涼州詞」
- 第 8 回 李白「黃鶴樓送孟浩然の廣陵」
- 第 9 回 李白「早發白帝城」
- 第 10 回 李白「送友人」
- 第 11 回 杜甫「春望」
- 第 12 回 杜甫「月夜」
- 第 13 回 杜甫「絶句」
- 第 14 回 杜甫「旅夜書懷」
- 第 15 回 テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業中、声を出して漢詩を読む。
2. ビデオを利用して、視覚的な映像を使って漢詩への知識と理解を深めて行く。
3. 作品ごとに文学的、歴史的な背景を詳細に説明する。
4. 最終授業日において、テストの解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 予習復習をしっかりと行う。
2. 指示に従って、漢詩を読むための準備知識として、周辺資料を数編を読む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (15%)、形成テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『唐代の詩』/森野繁夫編/白帝社/2004//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラビア語の世界

CSA2301NOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜 3限

DP3：言語力

60

アラビア語

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

前提科目「アラビア語」で学んだことを基盤に、アラビア語の4技能(読む、書く、話す、聞く)を統合的に活用でき、正しい文法知識に基づいたより高いコミュニケーション力を身につける。場面別に、新しい語彙をつけて、簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換ができるレベルに達することを旨とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 場面別にコミュニケーション力をつける。
2. 文法事項を正確に理解する。
3. 語彙・表現力をつける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し、覚えた上で、応用につなげる
言語力	単語や表現を理解しようとする	単語や表現を理解し、文の構造を把握しようとする	単語や表現を理解し、文の構造を把握できる	単語や表現、文の構造を把握し、場面に合わせ使うことができる
思考・解決力	宿題、課題や試験に取り組む	宿題、課題や試験に積極的に取り組む	取り組んでできなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決策を提示する

共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやりとうとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 アラビア語を勉強しています
- 第3回 パレスチナ料理を食べましたか
- 第4回 ジュハーが好きです
- 第5回 私の1日(オンライン)
- 第6回 住まい・暮らし
- 第7回 家族
- 第8回 食事・料理
- 第9回 数
- 第10回 街中で(オンライン)
- 第11回 交通・旅
- 第12回 スポーツ・ゲーム
- 第13回 身体・健康
- 第14回 自然・気候
- 第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 語彙・表現を覚える
2. 文章における構造を理解する
3. ペア・グループ学習

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 教科書をあらかじめ読んで、発音できるようにしておく
2. 小テストのための語彙・表現・動詞活用などを理解し、活用できるようにしておく
3. 課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加20%、小テスト・宿題30%、試験50%。

出席が3分の2に満たない場合は評価を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

「アラビア語」の単位取得者およびそれと同等のアラビア語の学力を備えていると担当教員がみなした者が履修できる。受講生の理解の度合いによって、授業内容の進度を調整する場合もある。ネイティブ・スピーカーなどの外部講師を招くことやオンラインでアラブ人と交流することもある。学外フィールドワークへ出かけることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『例文で学ぶアラビア語単語集』／鷺見朗子／大修館書店／2019／ISBN 978-4-469-21378-2／学内販売予定

『初歩のアラビア語』／鷺見朗子／放送大学教育振興会／2011/978-4-595-31293-9

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報・メディアの文化とリテラシー

CSA2411N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会におけるインターネットの発達、情報の受信と発信を容易にしている。インターネットは既存の出版、放送などのメディアに匹敵する影響力を得、情報流通の構造、ひいては社会の変化を国内外において促している。そして、個人にとって、インターネット上の情報に瞬時にアクセスでき、自らも容易に不特定多数に情報を発信できることは、知識獲得、コミュニケーションの利便性を高めている。一方で、情報の質や出所に注意し、情報を正しく使い、発信するスキルがこれまで以上に重要とされている。

情報リテラシーとは、単なる情報テクノロジーを利用できる能力にとどまらない、必要な情報を適切に認識、入手、評価、分析し、課題解決の為に効果的に利用できる総合的能力のことを指す。本講義では、この能力を、インターネットなどのメディア、情報の文化を理解することを通して習得することを目指す。個人、組織、社会が直面する様々な問題を理解し、解決するために必要な情報源へのアクセス方法、インターネットなどから発信される情報の評価、地域、文化による情報流通の差異、情報を利用または発信する際の著作権などの法的制限、倫理などを学習する。これらの学習を通して、現代社会に参画するために必要な知識、能力を習得する。

授業は講義を主体とするが、グループワーク、プレゼンテーション発表、その他授業内課題を含む。授業の内容に基づいて、レポートで指示された課題に答えるための自学自習に重きをおく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

情報、メディアの性質を理解する。

情報を評価できる能力を習得する。

情報を効果的に利用、発信できる能力を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業で扱ったトピックに関する知識・理解力	トピックへの理解が課題において全く示されていない	トピックへの理解が課題においてあまり示されていない	トピックへの理解が課題においてある程度示されている	トピックへの理解が課題において十分に示されている
レポート課題における言語力	文章の内容、記述が論理的でない、課題に沿った内容でない、もしくは表現が適切でない	文章の内容、記述が以下のいずれかにおいて十分でない:(文章が論理的か、内容が課題に沿ったものか、表現が適切か)	文章の内容、記述が以下においてある程度満たされている:(文章が論理的か、内容が課題に沿ったものか、表現が適切か)	文章の内容、記述が以下の全てにおいて十分に満たされている:(文章が論理的か、内容が課題に沿ったものか、表現が適切か)
各課題のための思考・解決力	自分の思考が全く示されておらず、課題解決のための情報収集、利用が全く十分でなく適切でない	自分の思考、情報収集、利用において不十分かつ不適切な箇所が多くある	自分の思考がある程度示され、情報収集、利用も十分かつ適切である	自分の思考が十分に示され、情報収集、利用も十分かつ適切である
プレゼンテーション課題における創造・発信力	内容が不十分かつ内容を伝えるための表現が適切でない	内容、表現に不十分かつ不適切な箇所がある程度ある	内容、表現がある程度十分である	内容、表現において優れている

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義内容及び課題のプレビュー
- 第 2 回 情報リテラシーと関連する「リテラシー」
- 第 3 回 情報と人との関わり
- 第 4 回 情報資源、情報メディアの種類と性質
- 第 5 回 情報、メディアの評価
- 第 6 回 インフォーマルな情報と社会
- 第 7 回 フェイクニュースと「ポスト真実」の時代
- 第 8 回 知識共有の新形態 (ウィキペディアの分析と理解)
- 第 9 回 参加型文化における情報
- 第 10 回 情報発信、利用の倫理とルール: 権利、プライバシーなどにおける諸問題
- 第 11 回 ソーシャルメディアと「個人」の情報発信、情報発信のための諸技術
- 第 12 回

データベース化する社会：ビッグデータがもたらす課題

第 13 回 情報と地域性、格差などの諸問題：情報の越境、文化間の流通

第 14 回 プレゼンテーション発表

第 15 回 プレゼンテーション発表の講評と授業全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を主体としつつ、授業内で出される課題を個人、またはグループで完成し、発表する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回授業までの課題 (次回授業のトピックに関する質問など) について事前に準備しておく。プレゼンテーションを作成する。プレゼンテーションについては授業中に講評する。レポートの点数は manaba で閲覧可能にし、講評する。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

中間レポート (30%)、期末レポート : (40%)、プレゼンテーション発表 (20%)、授業参加度 (10%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

観光文化論

CSA2550N0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

火曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

60

山川 拓也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目では、「人間の文化としての観光 (観光文化) が、私たちの生活や生き方にとってどのような意味を持つのか、社会全体においてどのように受容されているのか」という基本的なテーマについて考えることを目的としています。そのために、観光の文化的構造を理解し、生活文化としての観光の意義と重要性を一層深く認識できるようになることを、関係する知識・概念等の習得を通して目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・旅や観光という現象がどのような形で行われてきたかを中心に、それらが社会に与えた影響や時代毎での評価など、過去の観光の姿を理解する。

・20世紀以降における観光の特徴的な動きについて、主要テーマ毎に紹介することにより、現代の人が好み、求める観光の形を把握する。

・20世紀後半から議論され始めた「新しい観光」の概念を理解し、現代社会の中で観光がどのように評価されているかを検証し、これから私達は観光にどのように向き合っていくべきなのか考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識類の理解	観光の文化的構造および関係する知識・概念等を断片的・部分的に理解している。	観光の文化的構造および関係する知識・概念等を一定程度は理解している。	観光の文化的構造および関係する知識・概念等を概ね理解している。	観光の文化的構造および関係する知識・概念等を深く理解している。
思考及び表現	生活文化としての観光の意義と重要性を認識する様子は伺われるものの、自らの言葉で説明できない。	生活文化としての観光の意義と重要性を認識し、自らの言葉で説明できる。	生活文化としての観光の意義と重要性を理解し、自らの言葉かつ正しい日本語で説明できる。	生活文化としての観光の意義と重要性を理解し、自らの言葉かつ正しい日本語で論理的に説明できる。
創造及び発信	将来の観光の在り方に関して主体的に考えることができない。	将来の観光の在り方に関して主体的に考え、何かしらの提案ができる。	将来の観光の在り方に関して主体的かつ創造的に考え、具体的な提案ができる。	将来の観光の在り方に関して主体的かつ創造的に考え、論理性をもって具体的な提案ができる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス、開題「旅の原点」

・ガイダンスとして、科目概要・授業方法・成績評価等について説明します。また開題として、「旅の原点」について考えてみます。

第 2 回 観光と文化

・観光と文化のさまざまな関わりや、「ホスト & ゲスト論」について説明します。

第 3 回 観光の起源

・古代から中世までの観光の歴史と文化的形態について説明します。

第 4 回 教育と観光

- ・中世ヨーロッパのグランドツアーや日本の修学旅行制度を題材に、「学びとしての観光」の文化的形態について説明します。
 - 第 5 回 バカンスと観光
 - ・欧米を発祥とするリゾート (resort) を題材に、「保養としての観光」の文化的形態について説明します。
 - 第 6 回 近代観光の始まり
 - ・19世紀に成立した近代観光の文化的形態について説明します。
 - 第 7 回 マスツーリズムの台頭
 - ・20世紀になって隆盛した大量消費型観光の文化的形態について説明します。
 - 第 8 回 団体旅行と個人旅行 (前編)
 - ・近年における旅行スタイルの変化について説明します。
 - 第 9 回 団体旅行と個人旅行 (後編)
 - ・前回に続き、近年における旅行スタイルの変化について説明します。
 - 第 10 回 観光における「非日常性の演出」
 - ・模型文化としてのテーマパークをキーワードに、観光での「非日常性の演出」について説明します。
 - 第 11 回 観光における「真正性」
 - ・伝統芸能のイベント化をキーワードに、観光での「真正性」について説明します。
 - 第 12 回 観光における「文化の商品化」
 - ・伝統文化集積としての宿泊施設をキーワードに、観光での「文化の商品化」について説明します。
 - 第 13 回 観光の「負の効果」の克服
 - ・オーバーツーリズムやSDGsをキーワードに、観光の未来について考えてみます。
 - 第 14 回 現代社会における観光の評価と将来
 - ・次世代ツーリズムをキーワードに、観光の未来について考えてみます。
 - 第 15 回 まとめと総括
 - ・全体をまとめ、科目としての総括を行います。最終レポートについても案内します。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 【科目の教育目標】【教育・学習の個別課題】に記載された内容の習熟度を測るために、2回のレポート試験を行います。(一つ目は12回目終了後、二つ目は15回目終了後に予定)
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- ・授業は、レジュメを配布した上でパワーポイント (PPT) を用いて実施します。また動画等を使用することもあります。
 - ・必要に応じて授業中にresponを使用して意見等を収集することがあります。
 - ・授業理解度を確認するために、小テストを毎回実施し、ミニッツペーパーの提出を求めます。(responで実施)
 - ・小テストやミニッツペーパーに関して補足・解説等を加

- える必要があると判断したものは、次回の授業冒頭あるいはその他の方法により、適宜フィードバックを行います。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- ・テキストの該当部分を読んでおく。
 - ・新聞や雑誌を含む書籍類やインターネット等のメディア情報にアクセスし、授業内容や観光文化に関連する情報を収集しておく。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 30時間
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- ・知識や概念類に関する理解度を測る、毎回の小テストおよびミニッツペーパー：30%
 - ・「生活文化としての観光の意義と重要性」に関するレポート：30% (12回目終了後に実施)
 - ・「将来における観光の在り方」に関するレポート：30% (15回目終了後に実施)
 - ・その他10% (授業中の積極的な取り組み姿勢などの平常点を加味して評価します)
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- ・第1回の授業で、学習の進め方や成績評価方法を詳しく説明します。必ず出席してください。
 - ・毎回の出席確認は、responを用いて実施します。
 - ・正当な理由のない遅刻や早退、スマホなど電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語・睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等の行為については、態度不良・授業妨害と判断します。上記の評価方法・評価基準とは関係なく、成績の判定に重大な影響を及ぼしますので厳に慎んでください。
 - ・欠席・遅刻・申告なき離席・態度不良および類似する行為があった場合、一定基準のもとで減点します。
 - ・ミニッツペーパーの記述内容が優れる場合、一定基準のもとで加点します。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 観光文化学—旅から観光へ／飯田芳也／古今書院／2012年／ISBN：9784772231473
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 必要に応じて授業中に案内します。
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 必要に応じて授業中に案内します。
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

識字活動と子どもの権利

CSA2561N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜3限

DP5：共生・協働する力

60

岩崎 れい

【科目の教育目標（Course Description）】

読み書き能力すなわち識字能力は、人間が社会的な生活を送る上で欠くことのできない能力であり、その育成には出版物の充実も重要である。国際社会における識字教育及び出版支援への取り組みや考え方を知ることを通して、「書くこと」や「読むこと」を学ぶことの意義とそれにおける国語科教育の役割を理解することを目指す。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

1. 識字活動をめぐる世界の現状について知る。
2. 識字活動を支えた図書館や国際機関の役割について知る。
3. 識字活動の果たす社会的役割について考察する。
4. 子どもにとっての識字教育・出版支援の意義を考察する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
世界の現状を知る	世界の現状を知らない	現代社会において子どもたちがどのような教育環境にあるか理解している	地域における教育環境の相違を理解している	子どもたちの教育環境の社会的・文化的背景を理解している
図書館・国際機関の役割を学ぶ	図書館・国際機関と識字教育との関係を理解していない	図書館や国際機関が識字教育に関係のある機関であることを理解している	図書館や国際機関が識字教育において何をしているか具体的な事例を知っている	図書館や国際機関が識字教育において果たす役割を理解している
基本的人権と識字教育の関係を学ぶ	基本的人権について理解していない	基本的人権について一通りの知識がある	基本的人権と識字教育との関わりを理解している	基本的人権の保障において識字教育がどのような役割を果たすか理解している

日本における外国人児童の教育について学ぶ	日本における外国人児童の現状を知らない	日本における外国人児童の読み書きの現状を知っている	日本における外国人児童の識字教育について理解している	日本における外国人児童の識字教育の課題とその社会的背景を理解している
ハンディキャップを持つ子どもたちへの支援について学ぶ	ハンディキャップを持つ子どもたちの現状を知らない	ハンディキャップを持つ子どもたちの読み書きの現状を知っている	ハンディキャップを持つ子どもたちの識字教育がどのように行われているか知っている	ハンディキャップを持つ子どもたちの識字教育の方法とその課題を理解している

【授業計画】

- 第 1 回 1. 識字活動をめぐる世界の現状
識字活動概説と現状解説
- 第 2 回 2. 図書館・国際機関のリテラシー育成支援とその考え方
識字活動の歴史と課題
- 第 3 回 3. 基本的人権と識字能力との関連性
1) 紛争地域における識字教育支援
- 第 4 回 3. 基本的人権と識字能力との関連性
2) 少年労働と学校教育
- 第 5 回 3. 基本的人権と識字能力との関連性
3) 人間らしく生きるための識字能力の重要性
- 第 6 回 4. 乳幼児を対象とする識字教育・読書支援
1) 英国の事例～ブックスタート～
- 第 7 回 4. 乳幼児を対象とする識字教育・読書支援
2) 諸外国の事例
- 第 8 回 4. 乳幼児を対象とする識字教育・読書支援
3) 日本の現状と課題
- 第 9 回 5. 母語以外で学ぶ就学児への識字教育・読書支援(1)
1) 学校教育における制度
- 第 10 回 5. 母語以外で学ぶ就学児への識字教育・読書支援(2)
2) 現状と課題
- 第 11 回 6. 読書にハンディキャップを抱える子どもたちへの読書支援(1)
1) 身体的なハンディキャップを抱える子どもたちへの支援
- 第 12 回 6. 読書にハンディキャップを抱える子どもたちへの読書支援(2)
2) ディスレクシアの子どもたちへの支援
- 第 13 回 6. 読書にハンディキャップを抱える子どもたちへの読書支援(3)
3) 読書支援のためのツールの発達
- 第 14 回 7. 子どもにとっての識字活動と子どもの権利
リテラシー獲得と子どもの基本的人権との関連性
- 第 15 回 8. 内容理解確認と振り返り
内容理解を確認するための筆記試験とその解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義・演習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。筆記試験については終了後manabaで講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テーマに日頃から興味を持ち、新聞記事などに目を通しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験70% (第15回に実施)、授業中の課題・授業参加等の平常点30%として、その合計で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師をお招きする場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教文化

CSA3158NOJ

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

1年次 2年次

2単位 後期

木曜 3限

DPI: 自分を育てる力

60

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

キリスト教世界には、大巡礼地であるエルサレムとローマの他、多くの巡礼地があるが、それらは二大使徒聖ペトロと聖パウロや、聖人、殉教者などの人物と深い縁のある土地である。本科目においては、聖書における人物や聖人、殉教者に関連する文書および、縁の巡礼地の歴史および文化と現在の巡礼のあり方について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) キリスト教の聖人についての聖書の物語や伝記、著作等を読解してその歴史的背景や思想を理解する
- 2) キリスト教の巡礼地の文化について学ぶ
- 3) キリスト教の人物と巡礼地の関係性について理解し、プレゼンテーションを行い、文章にしてレポートを作成する

4) プレゼンテーションとレポートについての講評を授業中に行なう

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	キリスト教の人物と巡礼地の関係を知ろうとする	キリスト教の人物に関する歴史や思想と巡礼地の文化を学び、適切に理解することができる	キリスト教の人物に関する歴史や思想と巡礼地の文化との関係を創造的に学ぶ姿勢を持ち、高いレベルで理解し、レポートにまとめることができる	キリスト教の人物に関する歴史や思想と巡礼地の文化について創造的に学ぶ姿勢を持ち、非常に高いレベルで理解し、自ら探求して新しい知見を得て、高度なレポートにまとめることができる。
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	キリスト教の人物と巡礼地の関係についてディスカッションすることができる	キリスト教の人物に関する歴史や思想と巡礼地の関係について創造的に探求し、ディスカッションすることができる	キリスト教の人物に関する歴史や思想と巡礼地の関係について創造的に探求し、高度なディスカッションをし、プレゼンテーションすることができる	キリスト教の人物に関する歴史や思想と巡礼地の関係について創造的に探求し、高度なディスカッションをし、高いレベルでプレゼンテーションすることができる

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 キリスト教の人物と聖地巡礼

キリスト教における聖人・殉教者と聖地巡礼の歴史と現在

第 3 回 イエス・キリストと聖地

聖書 (福音書) におけるイエス・キリストの降誕物語および受難物語の読解と聖地

第 4 回 聖ペトロとヴァチカン

- 聖書（福音書・使徒言行録）における聖ペトロの物語とヴァチカンのサンピエトロ大聖堂
- 第 5 回 聖パウロとコリント
聖パウロの「コリントの信徒への第二の手紙」の読解とコリントの町と史跡
- 第 6 回 聖パウロとローマ
聖パウロの「ローマの信徒への手紙」の読解とローマの殉教地とサン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂
- 第 7 回 聖ヤコブとサンティアゴ・デ・コンポステーラ
聖書（福音書）における聖ヤコブの物語の読解とサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路と大聖堂
- 第 8 回 日本二十六聖人と長崎
ルイス・フロイス『日本二十六聖人殉教記』の読解と日本二十六聖人殉教地（西坂公園、長崎）
- 第 9 回 聖ベルナデッタとルルド
聖ベルナデッタの『魂の日記』の読解と巡礼地ルルドにおける奇跡とロザリオの祈り
- 第 10 回 聖ドミニコとトゥールーズおよびボローニャ
聖ドミニコに関する歴史および伝記の読解とジャコバン修道院（トゥールーズ）およびサン・ドミニコ教会（ボローニャ）
- 第 11 回 聖カタリナとシエナ
聖カタリナ『対話』の読解と聖カタリナ生家（シエナ）
- 第 12 回 学生によるプレゼンテーション準備
キリスト教の人物と聖地について、学生自ら探求しプレゼンテーションするための準備を行なう
- 第 13 回 学生によるプレゼンテーション
キリスト教の人物と巡礼地について、学生自ら探求しプレゼンテーションを実施する
- 第 14 回 巡礼地についてのディスカッション
プレゼンテーションを踏まえて、キリスト教の人物と巡礼地についての質疑およびディスカッションを行なう
- 第 15 回 まとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
レポートを提出する
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- 1) キリスト教の聖人や殉教者について、聖書および伝記や著作の読解によって、人物、歴史、思想を学ぶ。
 - 2) その人物にゆかりの巡礼地について映像鑑賞、資料、文書の読解等によってその文化を研究して、人物と巡礼地の文化の関係性を学ぶ
 - 3) 授業において、ディスカッション、プレゼンテーションを行なう
 - 4) キリスト教の人物と巡礼地の関係性についてレポートにまとめる
 - 5) プレゼンテーションとレポートの講評を授業中に行なう

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1) キリスト教の人物に関する聖書やその他の文書を事前に読んで授業に参加する
 - 2) 巡礼地に関する文書を事前に読んで授業に参加する
 - 3) 聖人、殉教者、巡礼地に関する資料を自ら収集する
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業におけるプレゼンテーション・ディスカッション（50パーセント）とレポート（50パーセント）

〔留意事項（Other Information）〕

『聖書』を各自が持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は適宜授業中に紹介します。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

比較文学講読

CSA3207N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

水曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

鷲見 朗子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

比較文学とは、特定の国という枠を超えた文学の研究であり、さらに文学とその他の芸術（絵画、建築、彫刻、音楽など）、宗教、哲学、歴史、社会科学（政治学、経済学、社会学など）、自然科学など他分野の知識や教養との関係を研究するものである。この科目では、世界の文学を深く読むことにより、それぞれの作品の背景や作品の意図を理解することを目的とする。今年度は『ハリー・ポッター』を題材にする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- （1）文学作品の読み方・理解の仕方を学ぶ
- （2）文学が人々に与える力を学ぶ
- （3）他の学生が感じていることを共有する
- （4）現代社会とのつながりの観点から作品を分析する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し覚えた上

				で、応用につなげる
--	--	--	--	-----------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 『ハリー・ポッター』(作者と背景)(オンライン)
- 第 3 回 『ハリー・ポッター』第1巻(1-6章)
- 第 4 回 『ハリー・ポッター』第1巻(7-12章)
- 第 5 回 『ハリー・ポッター』第1巻(13-17章)
- 第 6 回 『ハリー・ポッター』(作者の思い)
- 第 7 回 『ハリー・ポッター』(家族)(オンライン)
- 第 8 回 『ハリー・ポッター』(社会・宗教とのかかわり)(オンライン)
- 第 9 回 『ハリー・ポッター』原書(英語)読解
- 第 10 回 『ファンタスティックビーストと魔法使いの旅』第1部
- 第 11 回 『ファンタスティックビーストと魔法使いの旅』第2部
- 第 12 回 発表(登場人物)
- 第 13 回 発表(社会への影響)
- 第 14 回 発表(成長)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

- (1) 『ハリー・ポッター』に関する講義をきく
- (2) 『ハリー・ポッター』第1巻を注意深く読む
- (3) 『ファンタスティックビーストと魔法使いの旅』を理解する
- (4) 発表を行う
- (5) 英語で原書を読む

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

授業に備えて、『ハリー・ポッター』シリーズから課された範囲を読み、内容を理解する。

宿題が課されたときは、課題に取り組む。

発表のために調査を行い、準備する。

課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

15

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

授業参加・発言20%、発表30%、レポートまたは試験50%によって評価を行う。

5回以上の欠席者には単位を与えない。

〔留意事項(Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ハリー・ポッターと賢者の石 携帯版』/ローリング/静山社/2003//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本近代文学講読

CSA3251N1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜3限

DP2: 知識・理解力

60

河野 有時

〔科目の教育目標(Course Description)〕

この授業は芥川龍之介の小説を、これまでの研究や注釈を参照しながら講読していく。講読にあたっては、原典との対比を通じて、作品の題材や構成、言葉や表現を分析し、近代小説の豊かさについて考える。また、分析や考察した内容および自分が気づいた作品の魅力を表現し、人に伝えられる力を養う。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

1. 芥川龍之介の小説を対象とした研究文献を読み、文学研究の方法について学ぶ。
2. 芥川龍之介の小説を原典と比較し、近代小説の方法について学ぶ。
3. 芥川龍之介の小説の言葉や表現、社会文化背景を意識しながら分析を試みる。
4. 芥川龍之介の小説を読み、自分が感じたこと、考えたことを論述する力を養う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。

近代小説に関する知識・理解	近代小説の方法について理解しようとするできない。	近代小説の方法について調べることができる。	近代小説の方法について調べ、理解することができる。	近代小説の方法について理解し、他の文献の調査へと発展させることができる。
近代小説の言葉と表現を読む力	近代小説を言葉と表現に即して読むことができない。	近代小説を言葉と表現に即して読むことができる。	近代小説を言葉と表現に即して読み、言葉や表現の特質を把握できる。	近代小説を言葉と表現に即して読み、言葉や表現の特質を分析できる。
自分の考えを論述する力	自分の考えを論述することができない。	自分の考えを論述することができる。	自分の考えを適切な言葉や手法で論述することができる。	受信者を意識しながら、自分の考えを適切な言葉や手法で論述することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 日本近代文学における小説
- 第 3 回 芥川龍之介とその時代
- 第 4 回 芥川龍之介の歴史小説（1）－芥川における“歴史小説”
- 第 5 回 芥川龍之介の歴史小説（2）－歴史小説における原典
- 第 6 回 芥川龍之介の歴史小説（3）－歴史小説の方法
- 第 7 回 芥川龍之介の歴史小説（4）－歴史小説の世界
- 第 8 回 芥川龍之介の現代小説（1）－芥川における“現代小説”
- 第 9 回 芥川龍之介の現代小説（2）－現代小説の方法
- 第 10 回 芥川龍之介の現代小説（3）－現代小説の世界
- 第 11 回 芥川龍之介と児童文学（1）－芥川における“児童文学”
- 第 12 回 芥川龍之介と児童文学（2）－児童文学の世界
- 第 13 回 芥川龍之介と切支丹物（1）－芥川における“切支丹物”
- 第 14 回 芥川龍之介と切支丹物（2）－切支丹物の世界
- 第 15 回 まとめと今後の課題

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1. 授業は講義形式で行う。
- 2. プリントを配布して教材として活用する。
- 3. 授業の終了時に授業の内容にかかわる課題や感想、意見を提出する。
- 4. 課題に対しては次回の授業において、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. 作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。
- 2. 参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。
- 3. 自分の感じたことや考えたことがどのように表現できるか、検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、毎時間の意見文（30%）、学期末のレポート（40%）により総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

取り扱う作品やテーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 I

CSS3600F0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標（Course Description）〕

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。そして、自分の考えを効果的な手段と手法とによって表現できるようになることを目標とする。

<個別クラスのねらい>

- 1. 辞書・索引の引き方を学習する。
- 2. 用例の採取方法を学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 採取した用例を比較・分類し、整理する。
- 2. 担当語彙の語構成や歴史的変遷について考察する。
- 3. レジュメを作成し、口頭発表を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法とによって表現することができる。
--------	---------------	-------------------	-----------------------------	---------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨN
- 第 2 回 辞書の紹介
- 第 3 回 辞書についての解説
- 第 4 回 辞書を引く練習
- 第 5 回 索引を引く練習
- 第 6 回 確例である用例
- 第 7 回 確例ではない用例
- 第 8 回 用例を採取する練習
- 第 9 回 受講生による発表と質疑応答 (1) 上代
- 第 10 回 受講生による発表と質疑応答 (2) 中古
- 第 11 回 受講生による発表と質疑応答 (3) 中世
- 第 12 回 受講生による発表と質疑応答 (4) 近世
- 第 13 回 受講生による発表と質疑応答 (5) 近代
- 第 14 回 受講生による発表と質疑応答 (6) 現代
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 発表者は自分が担当する語彙に基づき、用例を採取し、準備する。
3. 準備した用例に即して発表し、他の受講者と質疑応答を行う。
4. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学習した方法を用いて、辞書や索引を引き、採取した用例を用いて、レジュメを作成する(発表回数は2回の予定である)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度30点、発表内容70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。
受講生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習 II

CSS3650F0J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP6: 創造・発信力

60

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<共通目標>

国際日本学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。そして、自分の考えを効果的な手段と手法とによって表現できるようになることを目標とする。

<個別クラスのねらい>

1. 辞書・索引の引き方を学習する。
2. 用例の採取方法を学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 自ら担当語彙を決定する。
2. 採取した用例を比較・分類し、整理する。
3. 担当語彙の語構成や歴史的変遷について考察する。
4. レジュメを作成し、口頭発表を行う。
5. 卒業論文の構成を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法とによって表現することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨN
- 第 2 回 卒業論文・卒業制作についての解説
- 第 3 回 調査語彙の決定
- 第 4 回 辞書を対象とした調査
- 第 5 回 索引を対象とした調査
- 第 6 回 用例の採取
- 第 7 回 受講生による発表と質疑応答 (1) 上代
- 第 8 回 受講生による発表と質疑応答 (2) 中古
- 第 9 回 受講生による発表と質疑応答 (3) 中世

- 第 10 回 受講生による発表と質疑応答 (4) 近世
- 第 11 回 受講生による発表と質疑応答 (5) 近代
- 第 12 回 参考書リストの作成
- 第 13 回 論文の構成の作成
- 第 14 回 論文の章立ての作成
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 発表者は自分が担当する語彙に基づき、用例を採取し、準備する。
3. 準備した用例に即して発表し、他の受講者と質疑応答を行う。
4. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学習した方法を用いて、辞書や索引を引き、採取した用例を用いて、レジユメを作成する(発表回数は2回の予定である)。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度30点、発表内容70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

CSS4600K1J

大学

国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
4年次

8単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

卒業論文ないし卒業制作が、大学4年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求めら

れる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する。
2. テーマ決定後の研究計画を策定する。
3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める。
4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ。
5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	卒業研究の課題に主体的に取り組んでいない。	卒業研究の課題に主体的に取り組んでいる。	卒業研究の課題に主体的に取り組む、積極的な調査をによって解明に努めている。	卒業研究の課題に主体的に取り組む、積極的な調査をによって解明に努めている。
知識・理解力	卒業研究の課題に関する先行研究を把握できていない。	卒業研究の課題に関する先行研究を把握できている。	卒業研究の課題に関する先行研究を把握し、的確に引用できている。	卒業研究の課題に関する先行研究の史的展開を把握したうえで、的確に引用できている。
言語力	誤字、脱字、誤用表現が散見され、論文形式として整っていない。	誤字、脱字、誤用表現が少なく、論文形式として整っている。	誤字、脱字、誤用表現がなく、論文形式として整っている。	誤字、脱字、誤用表現がなく、論文形式としてよく整っている。
思考・解決力	論の構成・展開が不明瞭であり、検証過程や結論が明示されていない。	論の構成・展開に意識的であり、検証過程が続いて結論が示されている。	論の構成・展開が整理されており、検証過程や結論が明確である。	論の構成・展開が明快であり、検証過程や結論が説得的である。
共生・協働する力	他者の卒業研究について関心をもち、研究対象や方法論、調査方法について意識することがない。	他者の卒業研究に関心をもち、研究対象や方法論、調査方法について問題意識を共有することができる。	他者の卒業研究に関心をもち、方法論や調査方法について議論することができる。	他者の卒業研究に敬意を払い、方法論や調査方法について積極的に意見交換している。
創造・発信力	研究対象が明確でない。	研究対象が定まってお	研究対象が明確で学問	研究対象が独創的で学

	く、学問的な分析や著述がなされていない。	り、学問的な分析と著述をおこなっている。	的な分析によって得られた成果を著述している。	問的創意に満ち、著述全体がよく彫刻されている。
--	----------------------	----------------------	------------------------	-------------------------

〔授業計画〕

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。

研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。

1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか。
2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか。
3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか。
4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか。
5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか。

〔留意事項 (Other Information)〕

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク演習Ⅰ 2017年度以降入学者

SWR2300NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 通年

木曜 2限

DP3：言語力

30

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習では、相談援助に必要な知識と技術を理解し、それを事例的・体験的に学び、現場で活用できるよう修得することを目的とする。相談援助の知識や技術に関わる他の専門科目とも関連づけ、現場実習の事前授業として位置づける。そのため、本演習では学生は各福祉現場の現状や援助場面を想定しながら、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざす。思考力、解決力、共生、協働していくことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

相談援助の意味を明確にし、その相談援助に必要な実践能力を身につけることである。そのために相談援助職としての専門的な「自己覚知」「ものの見方と考え方」、「援助者の態度」、「コミュニケーションスキル」、「援助プロセスの実際」を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉援助技術者を意識できない	社会福祉援助技術者を目標として考える	社会福祉援助技術者になるために必要な力量構築を考える	社会福祉援助技術者として将来、福祉の対象者への援助を行うことを考える
知識・理解力	社会福祉援助技術者が対人援助の専門職であることの理解がない	社会福祉援助技術者の役割、業務について理解できる	社会福祉援助技術者の役割が理解でき領域ごとの業務が理解できる	さまざまな場面での社会福祉援助技術者の援助方法が的確に展開される
コミュニケーション力	社会福祉援助技術者を意識して発言や傾聴することができない	社会福祉援助技術者として意見を発言することができる	社会福祉援助技術者として発言し他者の意見を傾聴することができる	社会福祉援助技術者として発言し、他者の意見を傾聴し発言の同意や違いについて説明を行うことができる

思考・解決力	教わったこと以上は考えようとしていない	社会福祉援助技術者として日常生活での支援活動の必要に思いをはせていく	社会福祉援助技術者として日常生活での支援活動の重要に向けて実践をイメージする	社会福祉援助技術者として必要なコミュニケーション技術に磨きをかけて問題の解決を行うことができる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献を参考にしながら対人援助の重要ほ考える	考えた結果を他者と共有し、さらに自分の考えを深めていく	レベル3に加えて社会福祉援助技術で学んだ知識を技術に活用する
創造・発信力	自分で勝手に判断や想像した内容を発信する	周囲の状況をしっかりと見極めて社会福祉援助技術者として情報収集できる	幅広い社会福祉援助技術を活用しながら福祉課題の解決策を考える	レベル3に加えて関連援助技術や介護技術の知識も活用して援助を考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 ソーシャルワーク演習Ⅰ
オリエンテーション、対人援助とは なぜ演習を行うのか
- 第 2 回 対人援助技術者として必要な技術1
自己理解と自己覚知をたしかめる
- 第 3 回 対人援助技術者として必要な技術2
他者を理解することをたしかめる
- 第 4 回 対人援助技術者として必要な技術3
自他の価値観をたしかめる
- 第 5 回 対人援助技術者として必要な技術4
専門職としての価値・倫理をたしかめる
- 第 6 回 対人援助技術者として必要な技術5
ソーシャルワーカーの使命と役割をたしかめる
- 第 7 回 対人援助技術者として必要な技術6
利用者への姿勢・態度・距離などをたしかめる
- 第 8 回 対人援助技術者として必要な技術7
利用者への視線・表情・反応をたしかめる
- 第 9 回 対人援助技術者として必要な技術8
相談援助の基本技術①(傾聴、共感)をたしかめる
- 第 10 回 対人援助技術者として必要な技術9
相談援助の基本技術②(受容的態度など)をたしかめる
- 第 11 回 対人援助技術者として必要な技術10
面接の基本技術①(反復の方法)をたしかめる
- 第 12 回 対人援助技術者として必要な技術11
面接の基本技術②(質問の方法)をたしかめる
- 第 13 回 対人援助技術者として必要な技術12
援助のプロセス①(援助することの意味)をたしかめる

- 第 14 回 対人援助技術者として必要な技術13
援助のプロセス②（援助の方法）をたしかめる
- 第 15 回 対人援助技術者として必要な技術14
前期のまとめ、相談、面接をたしかめる
- 第 16 回 対人援助技術者として必要な技術15
オリエンテーション 対人援助の必要をたしかめる
- 第 17 回 対人援助技術者として必要な技術16
援助のプロセス①（インテーク）をたしかめる
- 第 18 回 対人援助技術者として必要な技術17
援助のプロセス②（アセスメント）をたしかめる
- 第 19 回 対人援助技術者として必要な技術18
援助のプロセス③（プランニング）をたしかめる
- 第 20 回 対人援助技術者として必要な技術19
ケースカンファレンスの方法①（情報提供と情報共有）をたしかめる
- 第 21 回 対人援助技術者として必要な技術20
ケースカンファレンスの方法②（課題分析と整理）
- 第 22 回 対人援助技術者として必要な技術21
ケースカンファレンスの方法③（援助方法の検討）をたしかめる
- 第 23 回 対人援助技術者として必要な技術22
援助計画の作成①（児童・高齢者の虐待事例）をたしかめる
- 第 24 回 対人援助技術者として必要な技術23
援助計画の作成②（障がい児・者と家族の事例）をたしかめる
- 第 25 回 対人援助技術者として必要な技術24
援助計画の作成③（生活困窮家庭の事例）をたしかめる
- 第 26 回 対人援助技術者として必要な技術25
援助計画のまとめ、事例の振り返りをたしかめる
- 第 27 回 対人援助技術者として必要な技術26
観察と記録、事例の振り返りをたしかめる
- 第 28 回 対人援助技術者として必要な技術27
観察の視点をたしかめる
- 第 29 回 対人援助技術者として必要な技術28
記録の方法、事例の振り返りをたしかめる
- 第 30 回 ソーシャルワーク演習Ⅰのまとめ
後期のまとめ振り返り プロセス、プラン、実施、事例の振り返りをおこなう

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。レポートを課す

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

前期：相談援助の知識や技術に必要な講義と体験を通じた学び、個別ワークやグループワーク（ディスカッション）、事例を通じた学びを中心に、学生の主体的な参加型授業であり、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養う。

後期：「援助プロセスの実際」、「事例検討」をおこなう。この場合も、個別ワーク、グループワーク（ディスカッション）、発表等実践的な授業とする。

前期、後期ともに、グループ課題に取り組み、発表を行う。授業最終に全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

グループ課題が出題され場合には、各グループで協働して取り組みを進めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加の態度(30%)、グループ課題（20%）、レポート(50%)によって総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと

・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験あり。

ソーシャルワーク現場実習

SWR3501N0J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン・生活環境学科＞福祉生活デザイン学科・生活環境学科（実践的科目）

3年次

6単位 集中

その他

DP5：共生・協働する力

90

集中

三好 明夫 酒井 久美子 矢島 雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ソーシャルワークに関する専門科目で学んだ理論、知識、技術を踏まえて、主として相談援助に従事する社会福祉専門職（社会福祉士）に必要な専門知識、専門的な援助技術および関連技術を深め、援助者としての資質や能力の習得を目標とする。

社会福祉士を目指すうえで不可欠な現場実習であり、現場実習先の指導を受け、社会福祉士を意識して実習を行い、大学で学んだ知識、技術を生かして利用者理解と職員との協働を行えるよう挑戦することも重要な目標である。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 各自が実習する分野の社会福祉施設・機関の役割・機能、日常的な運営、職員配置、他の専門職との連携、地域との関係などについて理解を深める。

2. 利用者とのコミュニケーション能力を高め、利用者のニーズやさまざまな行動、態度などに対する洞察能力を養う。
3. 実習を通して援助者としての自己の気づき（自己覚知）を深める。
4. 実習現場の指導者によるスーパービジョンを受けながら、特定の利用者やケースに対する個別支援計画を立案し、援助する経験をもつ。
5. 施設のみならず、地域や在宅での援助の方法を幅広く理解し、他の職種との連携を深めて、現代的なニーズへの総合的な対応について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	現場実習先の役割及び指導者の役割、利用者理解に対する取り組みが行えない。	現場実習先の指導を受け、社会福祉士を意識して責任を持って実習を行うことができる。	現場実習先の指導を受け、社会福祉士を意識して実習を行い、利用者理解のために援助の工夫を行うことができる。	現場実習先の指導を受け、社会福祉士を意識して実習を行い、大学で学んだ知識、技術を生かして利用者理解と職員との協働を行えるよう挑戦する。

〔授業計画〕

各自の配属された現場実習先(施設、機関、団体等)で180時間以上の実習に取り組む。
 現場実習の内容および方法は現場実習先(施設、機関、団体等)とのオリエンテーションなどによってプランニングして進行できるようにする。
 現場実習(施設、機関、団体等)における必要な情報はソーシャルワーク実習指導Ⅰおよびソーシャルワーク実習指導Ⅱ、Ⅲの授業において行う。また現場実習の担当教員との個別指導により指示していく。
 現場実習を終えたあともソーシャルワーク実習指導Ⅲで振り返りを行いながら課題などを整理し、社会福祉士として活躍するイメージを膨らませて相談援助職の重要性を身に付けていく。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 社会福祉士受験資格取得希望者に対して指定された社会福祉士施設等での180時間（24日）以上の現場実習に取り組む。
2. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録、教員の実習巡回の際にスーパービジョンなどにより指導を受ける。
3. テキストは実習ハンドブック配付資料を用いる。
4. 現場実習終了後、ソーシャルワーク実習指導Ⅲにより、実習の内容を振り返り、フィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設等の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどに取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習修了者には60点、実習施設による評価（15点）、担当教員による評価（15点）、その他提出物、実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、180時間以上の実習に取り組む。

1. ソーシャルワーク実習指導Ⅱを履修し、ソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修中であること。
2. この科目は社会福祉士受験資格取得の必修科目である。現場実習修了後、引き続きソーシャルワーク実習指導Ⅲを履修しなければならない。
3. 実習期間は施設は施設・機関側との調整で決定されるため、8、9月以外の時期になる場合もある。
4. 実習状況によっては、実習途中であっても実習を中止することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》（現場実習指導者は、社会福祉士有資格者、相談援助の勤務経験あり。担当教員は、社会福祉士有資格者、社会福祉士実習演習教員研修受講済み）

ソーシャルワーク実習指導 I 2017年度以降入学者

SWR2251N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜 3限 木曜 4限

DP2: 知識・理解力

30

週2コマ

酒井 久美子 三好 明夫 矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 社会福祉施設・機関、病院での現場実習を効果的に取り組むために事前学習をおこなう。
2. 1. に向けて、施設等の運営の実際、利用者、援助の内容、職員の役割等について理解を深める。
3. 実習場面を想定した事例研究や援助に関する演習などに取り組み、理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下の点について掘り下げ、理解を深める。

1. ソーシャルワーク現場実習の意義と目的を理解する。
2. 社会福祉施設等を総合的に理解する。
3. 分野別の講義等で福祉現場や援助、社会福祉士の基本的姿勢について学ぶ。
4. 見学により社会福祉施設等の現状や援助の実際を学ぶ。
5. 体験学習により実習に必要な援助技術を知る。
6. チームアプローチについて理解する。
7. 各レポートは、提出後担当教員により、コメントともに返却する。最終授業日に、学生の発表に対して総括をおこなうとともにフィードバックをおこなう。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分について知ろうとしない	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分を知ろうとする	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分について知り、課題に向き合おうとする	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分に足りない部分を克服しようとする
知識・理解力	各種福祉現場の現状や課題について、理解することができない	各種福祉現場の現状や課題について、積極的に調べ、理解しようとする	各種福祉現場の現状や課題について、積極的に調べ、理解することができる	各種福祉現場の現状や課題について、理解し、現場実習について理解できる

言語力	ソーシャルワーカーとは何かについて、説明することができない	ソーシャルワーカーとは何かについて、意見交換することができる	ソーシャルワーカーとは何かについて、他者に説明することができる	ソーシャルワーカーとは何かについて、他者に説明し、質問に答えることができる
思考・解決力	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考えることができない	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考えようとする	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決についてどのようによいかならばよいか想像できる	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考え、意欲を持つことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習に関するオリエンテーション (授業のねらい、実習の意義、位置づけなど) (担当: 酒井)
実際のソーシャルワークの理解—講義 1 (高齢者福祉分野) (担当: 三好)
- 第 2 回 実習現場における現場体験学習及び見学実習 (実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験を含む) 見学授業 1 高齢者福祉施設 (担当: 三好、酒井、矢島)
- 第 3 回 見学実習 1 (高齢者福祉施設) の振り返り (担当: 三好、酒井、矢島)
実際のソーシャルワークの理解—講義 2 (児童福祉分野) (担当: 三好)
- 第 4 回 実習現場における現場体験学習及び見学実習 (実際の各種サービスの利用体験を含む) 見学授業 2 児童福祉施設 (担当: 三好、酒井、矢島)
- 第 5 回 見学実習 2 (児童福祉施設) の振り返り (担当: 三好、酒井、矢島)
実際のソーシャルワークの理解—講義 3 (障害者福祉分野) (担当: 矢島)
- 第 6 回 実習現場における現場体験学習及び見学実習 (実際の各種サービスの利用体験を含む) 見学授業 3 障害児・者福祉施設 (担当: 三好、酒井、矢島)
- 第 7 回 見学実習 3 (障がい児・者福祉施設) の振り返り (担当: 三好、酒井、矢島)
実際のソーシャルワークの理解—講義 4 (福祉機関・社会福祉協議会) (担当: 酒井)
実習施設選択の相談 (担当: 三好、酒井、矢島)
- 第 8 回 実際のソーシャルワークの理解—講義 5 (医療福祉現場) (担当: 三好)
実習を終えた学生による評価全体総括会 (実習報告会) への参加 (担当: 三好、酒井、矢島)
- 第 9 回 実習現場における現場体験学習及び見学実習 (実際の各種サービスの利用体験を含む) 見学授業 4 医療福祉現場 (担当: 三好、酒井、矢島)
- 第 10 回

実際のソーシャルワークの理解－講義6（福祉機関・地域包括支援センター）（担当：三好）
 実習分野に関する個別面談（担当：三好、酒井、矢島）

- 第11回 見学授業4（医療福祉現場）の振り返り（担当：三好、酒井、矢島）
 地域包括支援センター講義の振り返り（担当：三好、酒井、矢島）
- 第12回 利用者体験学習－体験学習1 車いす介助とブラインドウォーク（担当：三好）
- 第13回 利用者体験学習－体験学習2 高齢者疑似体験（担当：三好）
- 第14回 総括（小クラスにより、授業全体を振り返り、現場実習に向けて必要な援助のあり方や意欲の確認などグループワークで確認する）（担当：酒井）
- 第15回 実習指導Ⅰの振り返り（小クラスによる発表とディスカッション）（担当：三好、酒井、矢島）
 実習指導Ⅱ、現場実習、実習指導Ⅲに向けてのガイダンス（担当：酒井）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・実習の総合的な事前学習として、外部講師による講義の受講、見学、体験学習をおこなう。本科目は、小クラス制をとり、各クラスで対応しつつ、必要に応じて合同授業をおこなう。

・また、グループワークを取り入れ、専門職に求められるチームアプローチを体験し、その意義等について理解を深める。

・各レポートは、コメントともに返却し、授業最終日には、発表をもとにフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各分野の講義、見学実習に備えて、事前に関係する法律、社会福祉現場の現状等について調べ、問題意識を持って参加し、質問などできるように準備しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30点）、レポート（60点）、その他授業中の態度や参加度など平常点（10点）で総合的に評価する。

※レポートは、分野ごとに講義と見学を踏まえて、提出すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. この科目は社会福祉士受験資格の必修科目である。ソーシャルワーク論Ⅰおよび現代社会と福祉Ⅰを履修済みであることを原則とする。

2. 施設見学では大学より施設までの帰路を含む交通費は各自負担。

3. 原則として、欠席・遅刻は認めない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

ソーシャルワーク現場実習ハンドブック

ソーシャルワーク現場実習報告書

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（社会福祉士有資格者、福祉現場での勤務経験あり）

三好明夫：社会福祉士有資格

酒井久美子：社会福祉士有資格

矢島雅子：社会福祉士有資格

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

SWR3405N0J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン・生活環境学科＞福祉生活デザイン学科・生活環境学科（実践的科目）

3年次

1単位 前期

木曜 4限

DP4：思考・解決力

15

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

矢島 雅子 酒井 久美子 三好 明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ソーシャルワーク現場実習に必要な知識や技術などの具体的項目について、ガイダンス、相談指導など進め、実習に取り組む姿勢や態度を理解し、円滑で効果的な現場実習への導入を図ることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 各自が実習する分野の社会福祉施設・機関や医療機関の役割・機能、日常的な運営、職員配置、他の専門職との連携、地域との関係などについて理解を深め、専門職としての自覚を促す。
2. 行動観察と記録の作成について学ぶ。
3. 介護技術の必要な学生に対して介護の知識や技術を指導する。
4. 専門職として求められる資質や技能、倫理などについて、各分野に関する講義を通して理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分について知ろうとしない	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分を知ろうとする	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分について知り、課題に向き合おうとする	現場実習に向けて、ソーシャルワーカーとしての自分に足りない部分を克服しようとする
知識・理解力	社会福祉施設・機関の現状や課題について理	社会福祉施設・機関の現状や課題について、	社会福祉施設・機関の現状や課題について、	社会福祉施設・機関の現状や課題について、

	解することができない	積極的に調べ、理解しようとする	積極的に調べ、理解することができる	理解し、現場実習について理解できる
言語力	事実を正確に記述することはできないが、意見を述べることはできない	事実を正確に記述することはでき、意見を述べようとする	事実を正確に記述することはでき、意見を述べることができる	これまでに学んだ内容と関連づけ、根拠に基づいて意見を明確に述べることができる
思考・解決力	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考えることができない	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考えようとすることができる	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決についてどのようによいかに想像できる	現場実習に備え、実習のあり方、実習での課題解決について考え、意欲を持つことができる
共生・協働する力	他者に共感して寄り添うことができない	他者に共感して寄り添うことに努めている	他者に共感して寄り添い、協働することに努めている	他者に共感して寄り添い、協働して課題に取り組むことができる
創造・発信力	実習分野に関連した情報の収集・整理に取り組んでいない	実習分野に関連した情報の収集・整理に努めている	実習分野に関連した情報を収集し、学んだ内容をふまえて意見を整理している	実習分野に関連した情報を収集し、学んだ内容をふまえて意見を明確に言語化して発信することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 提出書類の書き方などの説明 (酒井、三好、矢島)
- 第 2 回 分野別講義1 (実習生に期待する・障害者分野) (矢島)
- 第 3 回 分野別講義2 (実習生に期待する・児童分野) (矢島)
- 第 4 回 分野別講義3 (実習生に期待する・福祉機関・社会福祉協議会) (酒井)
- 第 5 回 分野別講義4 (実習生に期待する・高齢者分野) (三好)
- 第 6 回 分野別講義5 (実習生に期待する・医療機関分野) (三好)
- 第 7 回 講義「感染症について」(萩原、三好)
- 第 8 回 前年度実習修了生による評価全体総括会 (実習報告会) への参加 (矢島、三好、酒井)
- 第 9 回

実習に向けてのガイダンス① (現場実習の目的と準備、事前訪問、実習中の心得 (酒井、三好、矢島))

- 第 10 回 実習に向けてのガイダンス② (実習の意義、目的の理解・明確化、事前訪問に向けての指導) (矢島、三好、酒井)
- 第 11 回 実習記録の目的と方法 (三好)
- 第 12 回 実習記録の例とその検討 演習方式 (三好)
- 第 13 回 実習記録の作成 演習方式 (矢島)
- 第 14 回 実習報告会 (前年度現場実習経験者を囲んで) (矢島、三好、酒井)
- 第 15 回 実習直前指導 (各自の実習目標、実習に臨む態度など再確認) (矢島、三好、酒井)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 担任教員制による小クラスでのガイダンス、個別指導、スーパービジョンや全体クラスによる講義、ガイダンスなどを行う。
2. 社会福祉施設等現場経験のある講師による講義、前年度現場実習修了生による実習報告会などを実施し、必要な知識や方向づけを行う。
3. テキストやソーシャルワーク現場実習ハンドブックや配付資料を用いる。
4. レポートは添削を行い、個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各実習施設に関する根拠法や現状等に関する情報の収集に努めること。

毎回の授業には、問題意識を持って臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (60%)、その他授業中の態度や参加度など平常点 (10%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱおよび現代社会と福祉Ⅱを履修済みであること。
2. 原則として、高齢者福祉論、児童福祉論、障害者福祉論を履修済みであること。
3. 原則として、ソーシャルワーク演習Ⅰを履修済み、ソーシャルワーク演習Ⅱを履修中であること。
4. 受講態度や適性などによっては現場実習を認めない場合もある。
5. 原則として、欠席・遅刻は認めない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で資料を配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

ソーシャルワーク現場実習ハンドブック

ソーシャルワーク現場実習報告集

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

分野別講義 社会福祉士として社会福祉施設や医療機関での実務経験あり。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

SWR3601N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

30

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

集中

三好 明夫 酒井 久美子 矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ソーシャルワーク実習指導Ⅱを踏まえ、ソーシャルワーク現場実習に向けた直前指導として、円滑に現場実習に取り組むことができるよう、実習計画書の作成や専門職に必要な資質や技能、倫理などについて学ぶ。また、ソーシャルワーク現場実習終了後の総括、振り返りとして、実習記録をもとにしたスーパービジョンを中心に、各自の援助技術を評価し、相談援助業務に従事する社会福祉専門職として必要な専門知識や関連知識を深める。そして、援助者としての資質や能力を向上させることを目的とする。特に、実習中の具体的な事例からどのような支援が必要なのか、自身のかかわりかたを振り返りながら理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 実習記録をもとに、利用者とのコミュニケーション、援助者としての役割のあり方、利用者のニーズやさまざまな行動、態度などに対する洞察能力を深める。
2. 実習記録をもとに、スーパービジョンを受けながら各自の援助、援助者としての役割や援助技術について再評価する。
3. 実習内容をふりかえり、自己覚知を深める。
4. 専門援助者としての次への展開のための新たな課題の認識を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現場実習において社会福祉士としての自分について知ろうとしない	現場実習において社会福祉士としての自分を知ろうとする	現場実習において社会福祉士として課題に向き合おうとする	現場実習において社会福祉士として自己覚知を深めようとする

知識・理解力	現場実習先の現状や課題について理解することができない	現場実習先の現状や課題について、積極的に調べ、理解しようとする	現場実習先の現状や課題について、積極的に調べ、理解することができる	現場実習先の現状や課題について、理解し、現場実習について理解できる
言語力	事実を正確に記述することはできないが、意見を述べることはできない	事実を正確に記述することはでき、意見を述べようとする	事実を正確に記述することはでき、意見を述べることができる	学びを現場実習で活用し根拠に基づいて意見を明確に述べるができる
思考・解決力	現場実習での実習目標、実習での課題解決について考えることができない	現場実習での実習目標、実習での課題解決について考えようとする	現場実習での実習目標、実習での課題解決についてどのようにすればよいか想像できる	現場実習での実習目標、実習のあり方、実習での課題解決について意欲を持つことができる
共生・協働する力	利用者に共感して寄り添うことができない	利用者に共感して寄り添うことに努めている	利用者に共感して寄り添い、協働することに努めている	利用者に共感して寄り添い、協働して課題に取り組むことができる
創造・発信力	現場実習先の情報の収集・整理に取り組んでいない	現場実習先の情報の収集・整理に努めている	現場実習先の情報を収集し、学習内容から意見を整理している	現場実習先の情報を収集し、学習内容から意見を明確に発信することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習指導Ⅲについて
実習指導Ⅲについてのオリエンテーション
- 第 2 回 実習計画書作成の指導方法1
実習計画書作成の指導方法 (個別指導、施設単位の指導)
実習計画書作成の意味と意義について
- 第 3 回 実習計画書作成の指導方法2
実習計画書作成の指導方法 (個別指導、施設単位の指導)
実習計画書の意義を踏まえて実習全体目標を考える
- 第 4 回 実習計画書作成の指導方法3
実習計画書作成の指導方法 (個別指導、施設単位の指導)
実習時の個別的な目標と達成するための方法を考える
- 第 5 回 実習計画書作成の指導方法4

	実習計画書作成の指導方法（個別指導、施設単位の指導）	第 19 回
	全体目標と個別目標、達成方法についてまとめ、修正を加える	第 20 回
第 6 回	実習計画書作成の指導方法5	第 21 回
	実習計画書作成の指導方法（個別指導、施設単位の指導）	第 22 回
	実習計画書の清書と事前学習の内容についての検討	第 23 回
第 7 回	実習振り返り会	第 24 回
	実習を行った先輩たちの実習報告を聞いて動機付けを高める(各クラス担当者)	第 25 回
	先輩たちに聞いておきたい質問を検討する	第 26 回
第 8 回	実習振り返り会	第 27 回
	実習を行った先輩たちの実習報告の発表から必要なこと、重要なことを整理する(各クラス担当者)	第 28 回
第 9 回	実習を終えての指導1	第 29 回
	実習事後指導1	第 30 回
	実習を終えての振り返り、小クラスで意見交換と反省会(各クラス担当者)	〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
第 10 回	実習を終えての指導2	実施しない
	実習事後指導2	〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
	実習を終えて小クラス小クラスで意見交換と反省会を終えると発表を意識した小レポートを作成する(各クラス担当者)	(共同)
第 11 回	実習を終えての指導3	児童福祉施設の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。
	実習事後指導3	(酒井 久美子)
	実習施設による実習評価票をもとにする前に各自の実習達成度、課題などについて自己評価票を作成してみる。(各クラス担当者)	社会福祉協議会の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。
第 12 回	実習を終えての指導4	(三好 明夫)
	実習事後指導4	医療機関の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。
	実習施設による実習評価票をもとに自己評価票との相違点などについて各自の実習達成度、課題などを振り返り個別に指導する。(各クラス担当者)	(三好 明夫)
第 13 回	実習を終えての指導5	高齢者施設の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。
	実習事後指導5	(矢島 雅子)
	現場実習修了後には実習内容について、その達成度を実習内容を列挙して評価しつつ、今後の課題について個別指導をおこなう。(各クラス担当者)	障害者施設の実習生を主に担当し、実習計画書の作成、現場実習の振り返りをおこなう。
第 14 回	実習を終えての指導6	〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
	実習を終えてのフィードバックとして全てのクラスが集まり「現場実践におけるソーシャルワークとは何か」という命題について演習形式でまとめる。(全クラス担当者)	実習計画書作りから現場実習に出掛けることへの意欲を高め、現場実習での自身の実習イメージを具体化する。実習終了後については実習報告会や実習レポートの作成において、実習内容を各自客観的に振り返り、社会福祉士という専門職者の自己覚知に努める。
第 15 回	実習を終えての指導7	〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
	実習指導Ⅲの総括、まとめとふりかえり	15
	実習総括レポート（社会福祉実習報告集）の作成をおこなう。(各クラス担当者)	〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
第 16 回		実習レポートの提出および内容（80点）、事後指導の内容（10点）、実習報告会、事後指導などへの参加、授業参加度（10点）で総合的に評価する。
第 17 回		〔留意事項（Other Information）〕
第 18 回		〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
		〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
		〔参考URL(URL for Reference)〕
		〔実務経験のある教員による実践的科目〕
		≪実践的科目≫ 社会福祉士として施設での勤務経験あり。

ソーシャルワーク論Ⅰ

SWR1251NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

月曜 3限

DP2：知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉に関する基礎科目「ソーシャルワークの基盤と専門職」の前半部分に該当する。本科目は、ソーシャルワークの専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを学び、専門職の役割と意義について理解することを目標とする。また、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程を学び、専門職に必要とされる価値規範と倫理について理解を深めることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
2. ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
3. ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	社会福祉士及び精神保健福祉士に必要とされる価値規範や倫理について理解できない。	社会福祉士及び精神保健福祉士に必要とされる価値規範や倫理について理解しようとする。	社会福祉士及び精神保健福祉士に必要とされる価値規範や倫理について自身の言葉で説明することができる。	社会福祉士及び精神保健福祉士に必要とされる価値規範や倫理について、ソーシャルワークの原理や理念と関連づけて明確に説明することができる。

思考・解決力	ソーシャルワークの基盤となる原理と理念について説明できない。	ソーシャルワークの基盤となる原理と理念について説明しようとする。	ソーシャルワークの基盤となる原理と理念について自身の言葉で説明することができる。	ソーシャルワークの基盤となる原理と理念について理解し、ソーシャルワークの専門職に求められる専門性について意見を明確に述べることができる。
--------	--------------------------------	----------------------------------	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、社会福祉士及び介護福祉士法
- 第 2 回 精神保健福祉士法
- 第 3 回 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性
- 第 4 回 社会福祉士及び精神保健福祉士に求められるコンピテンシー
- 第 5 回 ソーシャルワークの定義
- 第 6 回 ソーシャルワークの原理
- 第 7 回 ソーシャルワークの理念① -当事者主権、尊厳の保持、権利擁護-
- 第 8 回 ソーシャルワークの理念② -自立支援、ソーシャルインクルージョン等-
- 第 9 回 ソーシャルワークの形成過程① -慈善組織協会、セツルメント運動-
- 第 10 回 ソーシャルワークの形成過程② -医学モデルから生活モデルへ、ソーシャルワークの統合化-
- 第 11 回 専門職倫理の概念
- 第 12 回 倫理綱領
- 第 13 回 倫理的ジレンマ
- 第 14 回 形成テストと解説
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストと配付資料に基づいて講義を行う。また、授業中にワークシートを配付し、グループワークを実施する。ワークシートの回答の確認とフィードバックは全体に対して行う。形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストの指定箇所を読み、予習すること。
- ・毎回、ワークシートを配付するので、予習・復習に取り組むこと。
- ・新聞や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、ワークシート (15%)、形成テスト (70%) で総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮して行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ソーシャルワークの基盤と専門職』/伊藤新一郎・空閑浩人・田村綾子編集/中央法規/2021年/978-4-8058-8241-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク論Ⅱ

SWR2202N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜3限

DP2 : 知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は文部科学省令・厚生労働省令が定めた社会福祉に関する基礎科目「ソーシャルワークの基盤と専門職」の後半部分に該当する。本科目は、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲を理解し、多様な組織・機関・団体における専門職の役割について理解することを目標とする。また、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開について学び、多職種連携による包括的な支援の意義について理解を深めることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について理解する。
2. 多様な組織・機関・団体における専門職の役割について理解する。
3. マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開について理解する。
4. 多職種連携 (チームアプローチ) の意義と内容について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・理解力	多様な組織・機関・団体における専門職の役割について理解できない。	多様な組織・機関・団体における専門職の役割について理解しようと努力する。	多様な組織・機関・団体における専門職の役割について自身の言葉で説明することができる。	多様な組織・機関・団体における専門職の役割について理解し、ソーシャルワーク専門職に求められる知識・技術・価値について明確に説明することができる。
思考・解決力	多職種連携の必要性と包括的支援の意義について説明できない。	多職種連携の必要性と包括的支援の意義について説明しようと努力する。	多職種連携の必要性と包括的支援の意義について自身の言葉で説明することができる。	多職種連携の必要性と包括的支援の意義について意見を明確に述べることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、ソーシャルワーク専門職の概念と範囲
- 第 2 回 社会福祉士の職域と役割
- 第 3 回 精神保健福祉士の職域と役割
- 第 4 回 多様な組織・機関・団体における専門職
- 第 5 回 諸外国の動向
- 第 6 回 ミクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開
- 第 7 回 メゾレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開
- 第 8 回 マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開
- 第 9 回 総合的かつ包括的な問題解決におけるジェネラリストの視点
- 第 10 回 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容
- 第 11 回 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の実際
- 第 12 回 多職種連携及びチームアプローチの意義と内容
- 第 13 回 多職種連携及びチームアプローチの実際
- 第 14 回 形成テストと解説
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストと配付資料に基づいて講義を行う。また、授業中にワークシートを配付し、グループワークを実施する。ワークシートの回答の確認とフィードバックは全体に対して行う。形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストの指定箇所を読み、予習すること。
- ・毎回、ワークシートを配付するので、予習・復習に取り組むこと。
- ・新聞や報道等を通じて、常に福祉問題について関心を持つこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、ワークシート (15%)、形成テスト (70%) で総合的に評価する。欠席回数は3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮して行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『ソーシャルワークの基盤と専門職』/伊藤新一郎・空閑浩人・田村綾子編集/中央法規/2021年/978-4-8058-8241-2/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク論III

SWR2453N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

川上 尚子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、ソーシャルワークの基礎となる構造や概念について学びます。ソーシャルワーカーが会おうクライアントとはどのような人たちが、ソーシャルワーカーが行う相談援助とはどのようなものか、クライアントと共に生活課題にどう取り組んでいくかなど、今後みなさんがソーシャルワーカーとなるための学習を進め、援助を実践していくために大切な地盤を築くことを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ① ソーシャルワーカーが行う相談援助について
- ② 人と環境の交互作用について
- ③ クライアントとソーシャルワーカーの援助関係について
- ④ 相談援助の過程と技術について
- ⑤ ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	相談援助の基本的な構造や概念について理解できない。	相談援助の基本的な構造や概念について理解出来る。	相談援助の基本的な構造や概念について理解し、自分の言葉で説明することが出来る。	相談援助の基本的な構造や概念を理解し、実践に応用することが出来る。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ①オリエンテーション ②ソーシャルワーク (相談援助) の定義・枠組み・構成要素とその事例 (第1章1~3節)
- 第 2 回 ソーシャルワーカーの職場・所属組織 (第1章4~5節)
- 第 3 回 ソーシャルワーク (相談援助) の構造 (第2章1節)
- 第 4 回 ソーシャルワーク (相談援助) におけるニーズとソーシャルワークの機能 (第2章2~3節)
- 第 5 回 人と環境の交互作用 (第3章)
- 第 6 回 援助関係の意義・援助関係の形成プロセスに影響する要因・援助構造と援助関係 (第4章1~3節)
- 第 7 回 援助関係の質と自己覚知・援助関係とマイクロからマクロ実践領域 (第4章4~5節)
- 第 8 回 ソーシャルワーク (相談援助) の展開過程 I : 展開過程の流れ・ケース発見 (第5章1~2節)
- 第 9 回 ソーシャルワーク (相談援助) の展開過程 I : インテーク・問題把握・ニーズ確定 (第5章3~4節)
- 第 10 回 ソーシャルワーク (相談援助) の展開過程 I : アセスメントと支援標的・目的設定 (第5章5~6節)
- 第 11 回 ソーシャルワーク (相談援助) の展開過程 I : プランニングと支援の実施 (第5章7~8節)
- 第 12 回 ソーシャルワーク (相談援助) の展開過程 II : モニタリング・再アセスメント・支援の強化 (第6章1~2節)
- 第 13 回 ソーシャルワーク (相談援助) の展開過程 II : 支援の終結・効果測定・評価・アフターケア・予防的対応・サービス開発 (第6章3~4節)
- 第 14 回 アウトリーチの意義・目的・方法・留意点 (第7章)
- 第 15 回 形成テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを中心に講義を行います。より理解を深めるために、架空事例を用いたり、グループワークやディスカッションなどを行うことも予定しています。知識を定着させるため、適宜授業内容に関する復習クイズを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義における理解度を深めるために、各回のテキストを事前に読んで来てください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

本科目の評価は、授業参加度 (30%)、授業中成果 (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的に行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

・この科目は社会福祉士・精神保健福祉士受験資格の必修科目です。

・よりよい授業となるように、積極的な参加・発言をお願いします。

・実際の授業の状況に応じて、授業予定を変更する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』/社会福祉士養成講座編集委員会・編集/中央法規出版/2015/9.784805851036E12/学内販売予定

* 授業はテキストを中心に進めるので必ず準備し、毎回持参してください。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜配布・提示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

ソーシャルワーカーとして精神科病院で13年、公的機関(児童家庭相談事務所)で1年の勤務経験あり。

ソーシャルワーク論Ⅳ

SWR3404NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

川上 尚子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、ソーシャルワーク論Ⅲを踏まえ、相談援助のためのより実践的な技術を習得することを目標にします。クライアントの生活課題に取り組むためにどのような技術が用いられるかを知り、自身がソーシャルワーカーとして実践を行う際にはどのように行うのがよいか、具体的にイメージできるようにします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①ソーシャルワークのプロセス(アセスメント・介入・モニタリング・再アセスメント・効果測定・評価)について

②ソーシャルワークの面接技術について

④ソーシャルワークの記録の技術について

⑤ソーシャルワークの交渉の技術について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解・実践力	相談援助のための技術について、理解出来ない	相談援助のための技術について、理解出来ている	相談援助のための技術について理解し、自分の言葉で説明することが出来る	相談援助のための技術について理解し、実践に応用することが出来る

〔授業計画〕

第 1 回 ①オリエンテーション ②ソーシャルワーク(相談援助)のための契約の技術(第8章)

第 2 回 ソーシャルワーク(相談援助)のためのアセスメントの特性・援助関係・面接(第9章1節)

第 3 回 ソーシャルワーク(相談援助)のためのアセスメント面接で得た情報とアセスメントツール(第9章2・3節)

第 4 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための介入の技術(第10章)

第 5 回 ソーシャルワーク(相談援助)のためのモニタリング(第11章1節)

第 6 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための再アセスメント(第11章2節)

第 7 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための効果測定(第11章3節)

第 8 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための評価とサービス開発(第11章4節)

第 9 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための面接の目的と展開(第12章1・2節)

第 10 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための面接の技術と携帯(第12章3・4節)

第 11 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための記録の活用目的と種類(第13章1・2節)

第 12 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための記録の方法とIT化(第13章3節)

第 13 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための評価とサービス開発(第11章4節)

第 14 回 ソーシャルワーク(相談援助)のための交渉の技術(第14章)

第 15 回 形成テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを中心に講義を行います。より理解を深めるために、架空事例を用いたり、グループワークやディスカッション

ションなどを行うことも予定しています。知識を定着させるため、適宜授業内容に関する復習クイズを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義における理解度を深めるために、各回のテキストを事前に読んで来てください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、授業中成果 (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的に行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

・この科目は社会福祉士・精神保健福祉士受験資格の必修科目です。

・よりよい授業となるように、積極的な参加・発言をお願いします。

・実際の授業の状況に応じて、授業予定を変更する場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『相談援助の理論と方法I 第3版』//中央法規出版/2015/9.784805851036E12/学内販売予定

*授業はテキストを中心に進めるので必ず準備し、毎回持参してください。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜配布・提示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

ソーシャルワーカーとして精神科病院で13年、公的機関(児童家庭相談事務所)で1年の勤務経験あり。

ソーシャルワーク論V

SWR3550NOJ

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

3年次

2単位 後期

月曜3限

DP5:共生・協働する力

60

武藤 大司

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は社会福祉士養成科目「相談援助の理論と方法」に該当する。ソーシャルワーク論Ⅲ・Ⅳを踏まえ、ケースマネジメント(ケアマネジメント)やグループを活用した相談援助、コーディネートやネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発等、より専門的なソーシャルワーク実践力を有する社会福祉士に求められる知識と理解を深める。知識、理解力を深め、思考解決力をつけることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 相談援助における対象についてより深く理解する
- 2 ケース(ケア)マネジメント、グループを活用した相談援助についてより深く理解する
- 3 ネットワーキング、ネットワーキングについてより深く理解する
- 4 相談援助における社会資源の活用・調整・開発について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ソーシャルワークを意識できない	ソーシャルワーク論Vの項目を考える	ソーシャルワーク論Vの内容理解について考える	ソーシャルワーク論Vの内容理解が対人援助に役立つ方法として考える
知識・理解力	ソーシャルワーク論IVの仕組みが不明確である	ソーシャルワーク論Vの仕組みについて理解し、実施方法を理解できる	ソーシャルワーク論Vの仕組みについて理解し、I~IVとの関連等を理解できる	ソーシャルワーク論Vの実施方法を理解し、それぞれ長所、短所を説明できる
言語力	ソーシャルワーク論Vに関係する専門用語を理解していない	ソーシャルワーク論Vが対人援助にどのような有益かを理解する	ソーシャルワーク論Vの方法をそれぞれ簡単に説明できる	ソーシャルワーク論Vの方法をそれぞれ詳しく解説することができる
思考・解決力	学んだ内容以外は考えない	ソーシャルワーク論Vだけではなく、関連技術との関係性を考える	ソーシャルワーク論Vの技術を用いて実践しようとすることができる	ソーシャルワーク論Vの技術を用いて各援助を指定された方法で実践できる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしていない	各種文献をもとにソーシャルワーク論IVについて考えようとする	考えた結果を他者と共有し、意見交換して自身の考えを深める	レベル3に加えてソーシャルワーク論Vが地域社会の福祉実践に果たす意義を考える
創造・発信力	自分で勝手に想像して発信を行う	周囲の状況にかんがみ、ソーシャルワーク論Vの在り方を考える	ソーシャルワーク論Vに加えてオリジナルな援助方法を考えることができる	レベル3に加えてソーシャルワーク論Vと他の援助技術の活用で社

				会改良を考 える
--	--	--	--	-------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 相談援助の対象の理解 1
オリエンテーション・社会福祉援助活動の概念と定義
- 第 2 回 相談援助の対象の理解 2
相談援助の対象をどうとらえるか
- 第 3 回 相談援助の対象の理解 3
新たなソーシャルワークの展開と社会福祉士認定制度
- 第 4 回 ケース（ケア）マネジメント 1
ケースマネジメントの基本、過程
- 第 5 回 ケース（ケア）マネジメント 2
ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴、ケアプランの作成・実施の特徴
- 第 6 回 ケース（ケア）マネジメント 3
ケースマネジメントの特徴、ソーシャルワークとの関係
- 第 7 回 グループを活用した相談援助 1
グループを活用した相談援助
- 第 8 回 グループを活用した相談援助 2
自助グループを活用した相談援助
- 第 9 回 コーディネーションとネットワークング 1
コーディネート
- 第 10 回 コーディネーションとネットワークング 2
ネットワークング
- 第 11 回 コーディネーションとネットワークング 3
総合的なネットワークの形成とシステム化
- 第 12 回 社会資源の活用・調整・開発 1
社会資源の活用・調整・開発
意義、目的、自身の地域での社会資源マップ作り
- 第 13 回 社会資源の活用・調整・開発 2
社会資源の活用・調整・開発
方法、留意点
- 第 14 回 社会資源の活用・調整・開発 3
社会資源の活用・調整・開発
ソーシャルアクションによるシステムづくり
- 第 15 回 相談援助の理論と方法 総括
ソーシャルワークⅤのまとめとふりかえり

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを作成する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストに基づいて講義を行う。DVD教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出することもある。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

予習として、テキストの該当する部分を概読してくること。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、課題レポート（70%）で評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

社会福祉士受験のための必須科目である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』/社会福祉士養成校協会編集/中央法規/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜、授業で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 社会福祉士として、障害者（身体、知的、精神とも）福祉施設、福祉用具展示相談、都道府県高次脳機能障害支援普及事業、成年後見人（認知症高齢者、障害者）、地方検察庁社会福祉アドバイザー、スクールソーシャルワーカー経験等あり。

ターミナルケア論

SWR3403N1J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン・生活環境学科＞福祉生活デザイン学科・生活環境学科（実践的科目）

3年次

2単位 前期

金曜 2限

DP4：思考・解決力

60

松村 さかえ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

- ①人間の尊厳の意味を理解し、それを具体的に説明することができる。
- ②人生の意味を考え、人々の多様な生き方や人生を理解して尊重することができる。
- ③人間の生と死の意味を理解し、これについて話し合う能力を培う。
- ④終末期医療におけるケアのあり方を学び、それを実践的に有効に実践する態度を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ①ターミナルケアの理論および実践的な方法論について具体的なケースをもとに、自分自身の考え方について検討し、イメージをもてるようにする。
- ②終末期にかかわる心理・社会的問題を自分に引き寄せて、現状や課題を考察することが出来るようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力 I	ターミナルケアに関連する語彙についての知識がない	ターミナルケアに関する語彙は知っている	ターミナルケアに関する語彙の意味を説明できる	ターミナルケアに関する語彙の意味と変遷の背景について

				て説明できる
知識・理解力Ⅱ	終末期における医療現場の状況についての知識が殆ど無い	終末期における医療現場の状況について聞いた事がある	終末期における医療現場の状況について断片的には理解している	終末期における医療現場の状況と課題について理解し、説明する事ができる
思考・解決力	ターミナルケアに関連する課題を自分事としてと考えられない	ターミナルケアに関連する課題に対し、自分事として感じることができる	ターミナルケアに関連する課題に対して自分事として思考することができる	ターミナルケアに関連する課題を思考した上で背景になる要因と共に統合して理解出来る
言語力	ターミナルケアに関連する課題について説明できない	ターミナルケアに関連する課題について断片的に話す事ができる	ターミナルケアに関連する課題のいくつかを自分の言葉で説明できる	ターミナルケアに関連する課題について総合的に説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 終末期医療でのソーシャルワーカーの役割と援助について考える
事例を通して考えると共に、授業全体のオリエンテーション
- 第 2 回 人生の最終段階の意思決定支援について考える
事例を通して学び、学生自らの意識についても検討する。
- 第 3 回 終末期の療養場所の現状と希望について考える
事例を通して検討し考察する。
- 第 4 回 終末期患者に対する医療ソーシャルワーカーの援助について考える
事例を通して検討し考察する。
- 第 5 回 ターミナルケアにおける医療ソーシャルワーカーの実践を学ぶ(人生観、価値観)
人生観、価値観に関わる多様な意向について、事例を通して検討し考察する。
- 第 6 回 ターミナルケアにおける医療ソーシャルワーカーの実践を学ぶ(意思決定支援)
終末期患者に対する意思決定支援について、事例を通して検討し考察する。
- 第 7 回 ターミナルケアにおける医療ソーシャルワーカーの実践を学ぶ(家族への援助)
終末期患者を支える家族への援助について、事例を通して検討し考察する。
- 第 8 回 ターミナルケアにおける医療ソーシャルワーカーの実践を学ぶ(難病)
終末期患者(難病)の援助について、事例を通して検討し考察する。

- 第 9 回 ターミナルケアにおける医療ソーシャルワーカーの実践を学ぶ(認知症)
終末期患者(認知症)の援助について、事例を通して検討し考察する。
- 第 10 回 ターミナルケアにおける医療ソーシャルワーカーの実践を学ぶ(非がん)
終末期患者(非がん)の援助について、事例を通して検討し考察する。
- 第 11 回 ターミナルケアにおける医療ソーシャルワーカーの実践を学ぶ(末期がん)
終末期患者(末期がん)の援助について、事例を通して検討し考察する。
- 第 12 回 ターミナルケアにおける医療ソーシャルワーカーの実践を学ぶ(末期がん)
終末期患者(末期がん)の援助について、事例を通して検討し考察する。
- 第 13 回 ターミナルケアにおける多職種・多機関の連携・チームワークの意義を学ぶ
事例を通して、終末期患者を支えた具体的な現状を知る。
- 第 14 回 ターミナルケアにおける多職種・多機関の連携・チームワークの意義を学ぶ
事例を通して、終末期患者を支えた具体的な現状を知る。
- 第 15 回 まとめ
ターミナルケアの課題についてまとめると共に、自らの考えを深める

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義方式と演習の両方を活用する。
2. 事前に示したテーマに沿ってディスカッションする。
3. 事例に示したテーマに対してコメントを毎回発表する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業のテーマに関する事例について事前学習を行う。
授業時に事例に関してディスカッションを行いフィードバックを行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート (60%) と講義内での参加度 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に無し

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

「ケアの思想と対人援助」/村田久行/川島書店/1994/

「本人の意思を尊重する意思決定支援」/西川光則、長江弘子、横江由理子/南山堂/2016

「高齢者の終末期ケアーケアの質を高める4条件とケアマネ

ジメント・ツール」/樋口京子、篠田道子、杉本浩章、近藤克則（編）/中央法規/2010

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

リハビリテーション論

SWR2250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜1限

DP2: 知識・理解力

60

越智 淳子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「リハビリ」と略され、耳にすることもある「リハビリテーション」。その意味や内容を正しく理解していきます。

・リハビリテーションの概念を知るとともに、役割や位置づけを理解出来る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・リハビリテーションの概念を理解する。
- ・障害・疾病の捉え方を理解する。
- ・対象者や状況に応じたリハビリテーションを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力		リハビリテーションに興味を持っている。	リハビリテーションについて初歩的なことを知っている	リハビリテーションについて自ら積極的に学ぼうとする。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 リハビリテーションとは（リハビリテーションの理念と目的を理解する）
- 第 2 回 人体の構造（人の身体について理解する）
- 第 3 回 障害・疾病とは（障害の概念とその構造について理解する）

第 4 回 障害・疾病とは（疾病の捉え方について理解する）

第 5 回 チーム医療とは（関連職種について理解する）

第 6 回 リハビリテーションの手段（理学・作業・言語聴覚）

第 7 回 疾病別の評価とリハビリテーション（中枢神経の疾患）

第 8 回 疾病別の評価とリハビリテーション（整形外科の疾患）

第 9 回 疾病別の評価とリハビリテーション（その他の疾患）

第 10 回 地域包括ケアシステムのしくみと推移

第 11 回 地域包括ケアシステムにおける医療の位置づけ

第 12 回 医療におけるリハビリテーション

第 13 回 地域におけるリハビリテーション

第 14 回 リハビリテーションにおける社会保障制度

第 15 回 実際のリハビリテーションの理解（ゲストスピーカー）

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義，グループディスカッション，授業内小テスト，課題（レポート）を用いる。

・授業内小テストについては授業内で解答を学生間で確認したり，後日採点の後，返却する。

・レポートについては内容を確認の後，返却あるいはコメントを返す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎講義ごとに資料を配付します。事前に読んでおき，理解出来ない箇所があれば，各自で調べておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内小テスト50%

課題（レポートなど）50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で資料を配付します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義資料内で紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

理学療法士として病院，老人保健施設での勤務

理学療法士養成の短期大学・大学／学科での助手・助教業務従事

理学療法士養成の大学／学部・学科での講師および准教業務従事

レクリエーション論

SWA2401N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

三好 明夫

【科目の教育目標 (Course Description)】

外来語である『レクリエーション』の概念は、近年日本の様々な分野で活用されるようになってきている。医療福祉、地域の社会教育、そして個人の日常生活にいたるまで現代社会の中に浸透してきている。それぞれの分野で認識されているレクリエーション概念と実践は、その形態や意味合いに特徴がある。レクリエーションの基本的概念を学習し、様々な分野でのレクリエーション実践やその支援法を知ることを目標とする。そして、それらの知識を活用し、レクリエーションプログラムの基本的な企画・運営・管理方法を体験を通して学ぶ。

コミュニケーション力、クリティカルシンキング、問題解決能力が身につく。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. レクリエーション発祥の歴史から基本的概念を学ぶ。
2. 様々な分野でのレクリエーション実践例を知り、レクリエーションへの認識を広げる。
3. 具体的なレクリエーション活動を体験し、その意義を理解する。
4. レクリエーションプログラムの立案方法を学ぶ。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	レクリエーションを意識できない	レクリエーションの必要について考える	レクリエーションの重要について考える	レクリエーションがもたらす効果について考える
知識・理解力	レクリエーションとアクティビティの整理ができない	レクリエーションの仕組みを理解できる	レクリエーションの仕組みを理解し、各内容を理解できる	レクリエーションの展開での問題点や新たな展開について理解できる
言語力	レクリエーションの専門用語を理解しようとしない	レクリエーションのプログラムを理解できる	簡単なレクリエーションプログラムを実施できる	複雑なレクリエーションプログラムを実施できる

思考・解決力	教えられたこと以外は考えていこうとしない	レクリエーションの応用が生活の中にあることを理解する	レクリエーションの新たなプログラム作成意欲がある	新たなプログラムを活用して自らデモンストレーションできる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献をもとにレクリエーションの在り方を考える	考えた結果を他者と共有し自身の考えを深めていく	レベル3に加えてレクリエーションの地域社会浸透の方法を考える
創造・発信力	自分自身の考えだけで発信を行う	周囲の状況を勘案してレクリエーションの在り方を考える	新規レクリエーションの創造を踏まえて意欲的に考える	レクリエーションの創造と実践が地域社会に向けて発信できるように考える

【授業計画】

- 第 1 回 レクリエーションとは
レクリエーションの基礎理論
- 第 2 回 レクリエーションを考える
レクリエーション支援の理論
- 第 3 回 レクリエーションの実施場所1
教育現場でのレクリエーション
- 第 4 回 レクリエーションの実施場所2
地域におけるレクリエーション
- 第 5 回 レクリエーションの実施場所3
医療福祉現場のレクリエーション
- 第 6 回 新たなレクリエーション1
セラピューティックレクリエーションの概要
- 第 7 回 新たなレクリエーション2
セラピューティックレクリエーションの実際
- 第 8 回 新たなレクリエーション3
セラピューティックレクリエーションの課題
- 第 9 回 レクリエーションプログラムの実際1
室内レクリエーションの実践
- 第 10 回 レクリエーションプログラムの実際2
対象者と支援の場の想定
- 第 11 回 レクリエーションプログラムの実際3
ニーズの把握と目標設定
- 第 12 回 レクリエーションプログラムの実際4
レクリエーション財の選び方
- 第 13 回 レクリエーションプログラムの実際5
プログラム立案
- 第 14 回 レクリエーションプログラムの実際6
プログラムの実践
- 第 15 回 レクリエーションの総括
レクリエーションの課題と展望

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない。レポートを課す

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業の実施方法 1. 主に実技形式で行い、適宜資料を配布する。2. 講義の中で課題を提示し、個人もしくはグループで課題に取り組みながら解決していく。3. 具体的なレクリエーション活動を実際に体験し、そのプログラムの意図と効果を理解する。4. 実際の例からレクリエーションプログラムを構成する要素を学び、その立案に必要な知識を獲得する。学習の方法 1. 学習内容についてやグループワークの中での積極的な発言を意識する。2. 本講義で学んだものを自分の日常生活に照らし合わせ、活用できる部分は出来るように意識する。3. 課題を通して、事柄を分析する力、人に伝える力の向上を意識する。

小レポート、小テストを実施した場合には次回の授業時にフィードバック説明を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 自分の人生の中でレクリエーションに関係する要素を見つけ、振り返ってみる。2. 現代の日常生活に存在するレクリエーションに関する事柄があれば、それを紹介し共有する。3. 講義を通してレクリエーションプログラムの企画・運営に関する課題を提示する(ケーススタディやイベント企画等)。その発表を通して、レクリエーションプログラムを立案する能力と楽しさを知る。

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、グループ課題達成度 (25%)、講義内の小レポート・小テスト (15%)、最終レポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

プログラム活動を行うことがあるので活動しやすい服装で出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリント等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『(財)日本レクリエーション協会編「レクリエーション支援の基礎」』//日本レクリエーション協会/2007/

『レクリエーションの基礎理論』/池田勝 永吉宏英 西野仁 原田宗彦/杏林書院/1989/

『レクリエーション活動援助法』/吉田圭一 茅野宏明/ミネルヴァ書房/2007/

『楽しいをつくる やさしいレクリエーション実践』//日本レクリエーション協会/2000 /

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：福祉レクリエーションワーカーとして高齢者施設での勤務経験あり。

衣生活材料学

LDA2200N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜2限

DP2：知識・理解力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日常生活における衣服の役割を認識し、衣生活を支える繊維、糸、布、服への一連の流れ、衣服の色彩、機能性、衣服の管理や加工に使われる材料、環境問題等について幅広く知見を得るとともに衣生活のあり方について概観する。また、衣生活の分野の概略を知り、衣生活の全体像を見つめる。「衣生活とはどうあるべきか」、「衣類の選択、購入、管理」を通じて現代社会の諸問題に触れ、自身の考えを明確にし、未来の衣生活をより良くする方策を考えていくための能力を修得することを目標にする。

中学校および高等学校家庭科教育の衣生活領域の基礎知識を修得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

健康で快適な衣生活を構築するための衣服に関する基礎知識を修得する。

1. 衣服材料の種類と性能
2. 衣服材料の機能加工
3. 衣服材料の管理方法

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	衣生活材料の種類や区別がない。	衣生活材料についての基礎的内容を理解している。	衣生活材料について内容を理解し、衣生活を支える材料についても知識を深めようとする。	衣生活材料を理解し、さらに衣生活を支える関連材料についても理解する。
思考・解決力	被服材料の諸問題を捉えられない。	被服材料の諸問題を捉えられる。	被服材料の諸問題を的確に捉え、解決方法が提案できる。	被服材料の諸問題を的確に捉え、状況に応じた解決方法が提案できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、衣服の変遷
- 第 2 回 衣服の購入と製品表示
- 第 3 回 布とは
- 第 4 回 糸とは

- 第 5 回 天然繊維
- 第 6 回 化学繊維1(再生繊維・半合成繊維)
- 第 7 回 化学繊維2(合成繊維・その他)
- 第 8 回 繊維の構造と性質
- 第 9 回 機能加工
- 第 10 回 衣服の快適性
- 第 11 回 衣服の管理と保管1 (洗剤・洗濯)
- 第 12 回 衣服の管理と保管2 (柔軟処理・漂白・防虫)
- 第 13 回 染色材料
- 第 14 回 環境問題、講義内試験
- 第 15 回 試験解説、講義のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。適宜必要資料を配布する。必要に応じて動画などを観る。

フィードバックとして理解度確認の小テストを行い、解答の解説を行う。また、レポートについては添削を行い、解説をコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

常日頃から衣料品の素材に興味を持ち、品質表示の確認をして洗濯やアイロン仕上げ、保管などの経験しておくこと。講義前は教科書や関連する参考文献を熟読しておくこと。講義中に小テストや課題を出すので、講義後は復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義内試験 (60%)、小テスト・課題(30%)、学習意欲の有無 (10%)により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

この科目は、中・高の教員免許「家庭」の「教科に関する科目」である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『消費者視点からの衣生活概論』/菅井清美・諸岡晴美 編著/井上書院/2013/13: 978-4753023233/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『衣の科学シリーズ 衣服材料の科学 [第3版]』/島崎恒蔵 編著/建帛社/2009/978-4-7679-1049-9

『衣の科学シリーズ 衣服管理の科学』/片山倫子/建帛社/2012/978-4-7679-1048-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (企業における工学系開発業務)

衣生活実験 I

LDA3550N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期前半

火曜 3限 火曜 4限

DP5: 共生・協働する力

15

週2コマ連続 前半7.5コマ

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

衣生活に関わる実験技法を習得し、衣生活材料学、繊維材料学、染色加工学の講義で得た知識を深める。実験・観察・評価手法を用いて自身で体験することで科学的な考え方、論理的な思考を身につける。実験方法の提案や工夫など共同実験者との作業を通じて、問題解決能力や協働力を身につける。主として被服材料・物性・堅ろう性に関わる基本的性質に対する理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 衣生活に関わる科学実験技法の基本を習得する。
2. 実験・観察・評価手法を用いて科学的な考え方、論理的な思考を身につける。
3. 被服材料・物性に関わる基本的性質を理解する。
4. 共同実験者と円滑かつ迅速に作業を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	実験内容を理解できない。	実験内容を適切に理解している。	実験内容を詳細に理解し、専門講義の内容と結びつけることができる。	実験内容を詳細に理解し、専門講義の内容、自身の生活や社会と結びつけることができる。
思考・解決力	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられない。	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられる。	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられる。実験の応用を考えることができる。	実験目標、方法、結果、詳細な考察をレポートにまとめられる。実験の応用、解決法、しい提案などができる。
共生・協働する力	共同実験者と協力して実験を遂行することができない。	共同実験者と協力して安全に実験を遂行することができる。	共同実験者と協力して迅速かつ安全に実験を遂行することができる。	共同実験者と協力して迅速かつ安全に実験を遂行することができる。他の実

				験者へのサポートを行うことができる。
--	--	--	--	--------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・実験方法の説明・諸注意
- 第 2 回 技術の習得（ビーカー・ピペットの精度）
- 第 3 回 繊維の鑑別1（染色・呈色）
- 第 4 回 繊維の鑑別2（燃焼・溶解）
- 第 5 回 洗濯のしくみと布の熱収縮
- 第 6 回 布の構造
- 第 7 回 繊維・糸の構造
- 第 8 回 布の吸水性

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

実験テキスト・資料を配布する。
フィードバックとしてレポートの提出後にコメントを返し、理解を定着させるためレポートの再提出を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

事前に配布されたテキストをよく読み、実験に臨むこと。
実験の翌週にレポートを提出すること。
実験の最終には実験ノートを提出するため、丁寧に書いておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（授業への意欲・積極性含む）（50%）、レポート・課題（50%）

実験科目のため全回出席を原則とする。

〔留意事項（Other Information）〕

衣生活実験Ⅱもあわせて受講すること。白衣を各自用意すること。

実験室の都合上、定員（8名程度）を設ける。

実験器具数の都合上、実験の順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『衣服材料学実験(生活科学テキストシリーズ)』/松梨 久仁子, 平井 郁子(編著)/朝倉書店/2018/978-4254606348

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

«実践的科目»（企業における工学系開発業務）

衣生活実験Ⅱ

LDA3551N0J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

3年次

1単位 前期後半

火曜 3限 火曜 4限

DP5: 共生・協働する力

15

週2コマ連続 後半7.5コマ

安川 涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

衣生活に関わる実験技法を習得し、衣生活材料学、繊維材料学、染色加工学の講義で得た知識を深める。実験・観察・評価手法を用いて自身で体験することで科学的な考え方、論理的な思考を身につける。実験方法の提案や工夫など共同実験者との作業を通じて、問題解決能力や協働力を身につける。主として被服管理・染色加工に関わる基本的性質の理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 衣生活に関わる科学実験技法の基本を習得する。
2. 実験・観察・評価手法を用いて科学的な考え方を身につける。
3. 被服管理・染色加工に関わる基本的性質を理解する。
4. 共同実験者と円滑かつ迅速に作業を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	実験内容を理解できない。	実験内容を適切に理解している。	実験内容を詳細に理解し、専門講義の内容と結びつけることができる。	実験内容を詳細に理解し、専門講義の内容、自身の生活や社会と結びつけることができる。
思考・解決力	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられない。	実験目標、方法、結果、考察をレポートにまとめられる。	実験目標、方法、結果、詳細な考察をレポートにまとめられる。実験の応用を考えることができる。	実験目標、方法、結果、詳細な考察をレポートにまとめられる。実験の応用、解決法、新しい提案などができる。
共生・協働する力	共同実験者と協力して実験を遂行することができない。	共同実験者と協力して安全に実験を遂行することができる。	共同実験者と協力して迅速かつ安全に実験を遂行することができる。	共同実験者と協力して迅速かつ安全に実験を遂行することができる。他の実

				験者へのサポートを行うことができる。
--	--	--	--	--------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 石けんの合成
- 第 2 回 人工汚染布を用いた洗浄試験
- 第 3 回 布の防しわ・剛軟性
- 第 4 回 漂白と蛍光増白
- 第 5 回 天然染料による染色
- 第 6 回 合成染料による染色
- 第 7 回 マーブル染め or 絞り染め
- 第 8 回 レポート解説・実験のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実験テキスト・資料を配布する。
フィードバックとしてレポートの提出後にコメントを返し、理解を定着するためレポートの再提出を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布されたテキストをよく読み、実験に臨むこと。
実験の翌週にレポートを提出する。
実験の最終には実験ノートを提出するため、丁寧に書いておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度 (授業への意欲・積極性含む) (50%)、レポート・課題(50%)
実験科目のため全回出席を原則とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

衣生活実験 I を受講すること。
白衣を各自用意すること。
実験室の都合上、定員 (8名程度) を設ける。
実験器具数の都合上、実験の順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『衣服材料学実験 (生活科学テキストシリーズ)』 / 松梨 久仁子, 平井 郁子(編著) / 朝倉書店 / 2018 / 978-4254606348

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

«実践的科目» (企業における工学系開発業務)

医療ソーシャルワーク演習 I

SWR3503N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期

金曜1限

DP5: 共生・協働する力

15

松村 さかえ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- 1) 患者・家族の置かれる社会的現状を知り、様々に?じる? 活問題のイメージを考える。
- 2) 医療ソーシャルワークに必要な基礎知識を理解する。
- 3) 医療分野におけるソーシャルワーク実践 (業務や展開過程、他職種との連携など) を具体的に認識できるようになる。
- 4) 医療ソーシャルワーカーの実践事例を通じて、社会的存在意義や役割、連携の?法?について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

実際の現場での事例を通して、医療福祉領域 (病院・診療所・介護老人保健施設・医療関係団体等) でのソーシャルワークに必要なとされる視点 (価値・倫理) や知識・方法 (援助技術、傾聴技術) を、事例検討、スーパービジョン等を通して実践的に習得することを目的とする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	医療ソーシャルワーカーに関連する語彙についての知識がない	医療ソーシャルワーカーに関連する語彙は知っている	医療ソーシャルワーカーに関連する語彙の意味を説明できる	医療ソーシャルワーカーに関連する語彙の意味と変遷の背景について説明できる
知識・理解力	医療ソーシャルワーカーの業務や取り巻く状況についての知識が殆ど無い	医療ソーシャルワーカーの業務や取り巻く状況について聞いたことがある	医療ソーシャルワーカーの業務や取り巻く状況について断片的には理解している	医療ソーシャルワーカーの業務や取り巻く状況について理解し、説明することができる
言語力	医療ソーシャルワーカーに関連する課題について説明できない	医療ソーシャルワーカーに関連する課題について断片的に話すことができる	医療ソーシャルワーカーに関連する課題のいくつかを自分の言葉で説明できる	医療ソーシャルワーカーに関連する課題について総合的に説明することができる

思考・解決力	医療ソーシャルワーカーに関連する課題を自分事として考えられない	医療ソーシャルワーカーに関連する課題に対し、自分事として感じることができる	医療ソーシャルワーカーに関連する課題に対して自分事として思考することができる	医療ソーシャルワーカーに関連する課題を思考したうえで背景になる要因と共に統合して理解できる
共生・協働する力	医療ソーシャルワーカーを取り巻く共生・協働に関連する課題について説明できない	医療ソーシャルワーカーを取り巻く共生・協働に関連する課題を断片的に話すことができる	医療ソーシャルワーカーを取り巻く共生・協働に関連する課題をいくつか自分の言葉で説明できる	医療ソーシャルワーカーを取り巻く共生・協働に関連する課題を背景となる要因と共に統合して説明できる
創造・発信力	医療ソーシャルワーカーを取り巻く問題や課題を自分事として考えられない	医療ソーシャルワーカーを取り巻く問題や課題を自分事として感じることができる	医療ソーシャルワーカーを取り巻く問題や課題を自分事として思考することができる	医療ソーシャルワーカーを取り巻く問題や課題を思考したうえで背景になる要因と共に統合して理解できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 医療ソーシャルワーカーについてイメージする実践と現状を知ると共に、授業全体の学び方のオリエンテーション。
- 第 2 回 生活者としての患者・家族が直面する生活問題について理解を深める
現代的生活問題と疾病、傷病との関連性について、事例を通して検討し考察する。
- 第 3 回 生活者としての患者・家族が直面する生活問題について理解を深める
現代的生活問題と疾病、傷病との関連性について、事例を通して検討し考察する。
- 第 4 回 医療ソーシャルワーカーの役割と意義を学ぶ倫理綱領、業務指針の内容について、事例を通して学ぶ。
- 第 5 回 医療ソーシャルワーカーの役割と意義を学ぶ専門性と役割（業務）について、事例を通して考える。
- 第 6 回 医療機関の組織と専門職における特徴を知る多職種が協働する医療現場(病院)における連携と役割分担について、事例を通して検討し考察する。
- 第 7 回 医療機関の組織と専門職における特徴を知る多職種が協働する医療現場(在宅医療)における連携と役割分担について、事例を通して検討し考察する。

- 第 8 回 医療ソーシャルワーカーの業務と実践を学ぶ病院(急性期)の医療ソーシャルワーカーの役割について、事例を通して検討し考察する。
- 第 9 回 医療ソーシャルワーカーの業務と実践を学ぶ病院(慢性期)の医療ソーシャルワーカーの役割について、事例を通して検討し考察する。
- 第 10 回 医療ソーシャルワーカーの業務と実践を学ぶ終末期医療における医療ソーシャルワーカーの役割について、事例を通して検討し考察する。
- 第 11 回 医療ソーシャルワーカーの業務と実践を学ぶ在宅医療における医療ソーシャルワーカーの役割について、事例を通して検討し考察する。
- 第 12 回 医療ソーシャルワーカーの業務と実践を学ぶ在宅医療における医療ソーシャルワーカーの役割について、事例を通して検討し考察する。
- 第 13 回 医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの意義を学ぶ
チーム医療の事例に触れ、連携やチームワークの必要性について、検討し考察する。
- 第 14 回 医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの視点を学ぶ
地域包括ケアに関係する事例に触れ、連携・チームワークの現状について、検討し考察する。
- 第 15 回 まとめ
医療分野における現状や課題について振り返り、今後の医療ソーシャルワークの姿(取り組み)を考える。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義方式と演習の両方を活用する。
2. 事前に示したテーマに沿ってディスカッションする。
3. 事例に示したテーマに対してコメントを毎回発表する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業のテーマに関する事例について事前学習を行う。
授業時に事例に関してディスカッションを行いフィードバックを行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート (60%) と講義内での参加度 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に無し

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

「ケアの思想と対人援助」/村田久行/川島書店/1994/

「本人の意思を尊重する意思決定支援」/西川光則、長江弘子、横江由理子/南山堂/2016

「高齢者の終末期ケアーケアの質を高める4条件とケアマネ

ジメント・ツール」/樋口京子、篠田道子、杉本浩章、近藤克則（編）/中央法規/2010

「ケースワークの原則」/F・P・バイスティック、尾崎新、福田俊子、原田和幸（訳）/誠信書房/2006

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

医療機関においてソーシャルワーカーとして勤務経験あり。

医療ソーシャルワーク演習 II

SWR3650NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

1単位 後期

金曜1限

DP6: 創造・発信力

15

松村 さかえ

[科目の教育目標 (Course Description)]

①医療機関でのソーシャルワーク実習を踏まえた問題意識に対する自分なりの振り返りを行い、言語化出来る。

②援助プロセスの内容について論じることが出来る

③内外連携や地域資源開発の実際と課題を考察し、解決の道筋をイメージすることができる。

④実践上のジレンマを構成する要素について言語化することにより、新たな解決の糸口を考察しする力をつける。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

医療機関のソーシャルワーク実習において学習した点や疑問に思った点などについて、より一般化した形で医療ソーシャルワークの枠組みや概念に関するイメージを持てるようになる。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
制度の理解	医療ソーシャルワーカーに関わる制度についての知識がない	医療ソーシャルワーカーに関わる制度の大枠が分かる	医療ソーシャルワーカーに関わる制度の概要を説明できる	医療ソーシャルワーカーに関わる制度を実際に支援に活かせる
院内外連携・チーム	連携に関する知識を持っていない	連携に関わる知識の大枠のみ知っている	連携やチームに必要な知識を体系化して述べる事ができる	連携やチームに必要な知識を実際の場面と連動させて述べる事ができる
地域資源開発	地域資源開発についての方法が全く思いつかない	地域資源開発についてのいくつかの糸口を考えることができる	地域資源開発についての実際の状況に照らして考察できる	地域資源開発についての実際の状況に照らして開発できる

アセスメント	アセスメントに関する知識を持っていない	アセスメントについての断片的な知識がある	アセスメントに関わる知識・技術・価値について検討できる	アセスメントに関わる知識・技術・価値について実際の事例の中で応用できる
支援計画・実践	支援計画を立てることができない	支援計画における目標を考えることができる	支援の目標を立てて計画を作成できる	支援計画を実際の場面で展開することができる
ジレンマ・自己覚知	援助場面におけるジレンマに気が付かない	援助場面におけるジレンマへに気づき、その構造について考察できる	援助場面におけるジレンマへの対応について、いくつかの切り口を示すことができる	援助場面におけるジレンマへの対応について、解決に向けた道筋をイメージすることができる

[授業計画]

学生の実習後の問題意識によって授業を組み立てる。

第1回目の授業で、医療ソーシャルワーク現場実習での気づきを、より一般化した形で理解が深まる事を目指して、授業内容・方法を検討する。

例えば以下のようなテーマ(例)で、実習で学んだ事例を基に検討する。

- 1 実習での経験を分かち合う
- 2 検討したいテーマについてディスカッションし、事業計画を立てる

- 3 事例1に基づくアセスメント
- 4 事例2に基づくアセスメント
- 5 事例3に基づくアセスメント
- 6 院内連携
- 7 院外連携
- 6 地域資源の開発
- 8 支援のプロセス
- 9 事例1に基づく支援計画・実践
- 10 事例2に基づく支援計画・実践
- 12 実践における倫理的ジレンマ
- 13 学生1における自己覚知
- 14 学生2における自己覚知
- 15 全体の振り返り

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

レポートによる試験を実施する。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

医療ソーシャルワーク現場実習で学んだことをふまえて、さらに深く学びたいことを抽出して、学生自らが自主的に授業内容を構成できるように教員がサポートする。

テーマに沿って可能な限り効果的に学習できるような方

法を探り、ディスカッションを通じて自分事への理解に繋げる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

医療ソーシャルワーク現場実習で学んだことの中からさらに深く学びたいことを抽出する。

授業の中で検討したい内容について、スケジュールに沿って各回の準備を行う。

実習日誌に書かれたことなどを土台にして準備するなど、できるだけ具体性のある内容にすることが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業に対する姿勢や発表、ディスカッションの内容 (50%)
最終レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

医療ソーシャルワーク現場実習の履修生の登録を前提としている。

学生の抱える課題によって内容に変更を加える場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

医療ソーシャルワーク現場実習

SWR3502N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

6単位 集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

90

集中

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

① 保健医療機関における 現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。

② 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

③ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することができる。

④ 患者・家族の生活課題について共感し、寄り添う態度を身に付ける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

① 保健医療機関の相談援助実習を通じて、機関の役割・機能・運営、職員や他の専門職との連携、地域との基本的な関係について、実践的に理解を深める。

② 保健医療機関の相談援助に必要な知識や技術に対する具体的、実践的な理解の基に、利用者・家族理解に基づく援助関係の形成や、ニーズに沿った援助計画を立てるなど、社会福祉士としての資質、技能、倫理、自己覚知の課題把握など、総合的な対応能力を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
社会人としてのマナーや学ぶ姿勢	適切な挨拶をしたり、学ぶ姿勢を示すことができない	挨拶はできても学びに対する積極性を示すことができない	指示されたことには誠実に積極的に取り組むことができる	指示されなくても、積極的に適切な態度で学ぶことができる
実習する医療機関に関する知識	実習を行う医療機関の機能や特徴について理解していない	実習を行う医療機関の機能や特徴について知っている	実習を行う医療機関の機能や特徴について、ミクロ・メゾ・マクロレベルで理解できる	実習を行う医療機関の機能や特徴について、具体的な展開の実際や課題について述べることができる
援助のプロセス	援助のプロセスに関する知識を持っていない	援助のプロセスに関する知識を持っている	援助のプロセスに関する知識を具体的な事例を用いて説明できる	実際の事例の支援プロセスに関与することができる
ソーシャルワークの価値や権利擁護	ソーシャルワークの価値や権利擁護に関する知識がない	ソーシャルワークの価値や権利擁護に関する知識を持っているが具体的に理解できない	ソーシャルワークの価値や権利擁護に関する知識を具体的な例に基づいて考察できる	ソーシャルワークの価値や権利擁護に基づく実践を体験できる
連携・チーム	連携やチームに関する知識を持っていない	連携やチームに関する大枠の知識を持っている	連携やチームに関する実際の展開を観察し、説明することができる	連携やチームに関する実施の展開について知識に基づいて考察することができる
地域への働きかけ	医療ソーシャルワークの地域との関わりについての知識	医療ソーシャルワークの地域との関わりへの必要性について	医療ソーシャルワークの地域との関わりを実際を観察	医療ソーシャルワークの地域との関わりについて、その特

	を持っていない	では理解している	し、説明できる	徴や課題について、その考察することができる。
記録	医療ソーシャルワークに必要な記録について理解できない	医療ソーシャルワークに求められる記録の内容を理解できる	医療ソーシャルワークについて必要な内容や分量の記録を書くことができる	医療ソーシャルワークについて十分な内容と分量の記録を書と書くことにより考察を深めることができる

〔授業計画〕

以下の内容について、各自の保健医療機関の機能や、社会福祉士の業務の現状等に照らして、実習計画に基づき、学生、実習指導者、実習指導担当教員の3者の合意の上で実施する。

学生は実習指導者による指導を受ける。また実習指導担当教員は、学生ならびに実習先との連絡調整を密に行い、実習状況を把握した上で、個別指導を十分に行う。

①機関の位置づけ、経営方針、管理運営の特徴

医療法や医療政策、診療報酬上の機関の位置づけ、設置主体、機関の沿革、理念、管理運営の特徴等について理解を深める。

②地域住民との関係や広報、ボランティアの活用と運営

地域の中にある医療機関として、職員、関係者と地域住民などとの関係の経過や、広報、ボランティアの活用の実際とその運営の仕方を学ぶ

③患者・家族理解のための知識

様々な病気や障害を持った患者・家族理解のための基本的な知識を学ぶ。

④信頼関係の醸成と面接技法

信頼関係を醸成するための態度や技術の実際を学ぶ。

⑤アセスメントのための知識と技術 1

カルテや面接などから得た情報収集を基に、患者・家族の置かれている状況について、身体的状況、心理的状況、人間関係、社会的状況、コーピングリソース、スレングスなどの視点

からアセスメントの実際を学ぶ。

⑥アセスメントのための知識と技術 2

カルテや面接などから得た情報収集を基に、患者・家族の置かれている状況について、身体的状況、心理的状況、人間関係、社会的状況、コーピングリソース、スレングスなどの視点からアセスメントを行い、学習の課題を知る。

⑦援助計画の作成

アセスメントに基づき、援助計画の作成を試みる。またその内容について、患者・家族側の視点や他専門職との合意の観点からも検討する。

⑧援助プロセスの学習 1

援助記録・電子カルテの閲覧や実際の面接への同席の経験から、当該患者の援助の開始から終結までのプロセスを学ぶ。

⑨援助プロセスの学習 2

援助記録・電子カルテの閲覧や実際の面接への同席の経験から、当該患者の援助の開始から終結までのプロセスを学ぶことにより、当該医療機関の機能の観点からその意味と課題を考察する。

⑩患者の意思の尊重、意思決定支援のプロセス

患者の意思を尊重した支援が、どのような意思決定支援のプロセスにより実現することができるかについて、権利擁護の視点と支援の評価を踏まえて考察する。

⑪支援の評価とエンパワメント

支援の結果が、患者・家族にとって、また医療機関の側から、どのように評価できるかを検討する。また支援のプロセスが患者・家族のエンパワメントに寄与できたかを考察する。

⑫院内外連携システムの理解

機関内のチームアプローチの現状やシステムの実際について知る。また院内外の連携の実際、社会福祉士のチームへの関与や役割、貢献の内容を理解する。

⑬チームカンファレンスの実際と課題

院内外のスタッフや患者・家族によるカンファレンスへの同席などを通じて、その実際を知る。チームの目標や力動、社会福祉士の役割、患者・家族側の捉え方などにも注目する。

⑭社会福祉士としての職業倫理、職員としての自覚と責任

組織の一員としての社会福祉士の職業倫理の実際について学ぶ。また就業規定などに関する理解を深め、組織の一員としての機関における役割と責任の果たし方について学ぶ。

⑮地域完結型医療や地域包括ケアへの関与とネットワーキングの実際

地域完結型医療や地域包括ケアに関わる組織としての地域社会への働きかけやネットワーキングの実際と社会福祉士の役割を知る。社会資源の活用・開発の方法や課題について理解する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①社会福祉士受験資格取得希望者に対して指定された社会福祉施設等での180時間(24日)以上の現場実習を行う。

②実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う。

③担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョンなどにより指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先の医療機関の特徴をHPなどから収集し、その概要、沿革、特徴等について理解を深める。また社会福祉関連科目などの授業で習った知識を活用しながら、学びたい内容を整理する。実習中は現場のスーパーバイザーや担当教員

のアドバイスを得ながら自身の課題について振り返り、レベルアップを目指して学びを深める。また体調管理には特に留意する事。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

100

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習修了者には60点、実習機関による評価 (15点)、教員による評価(15点)、その他提出物、実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『医療福祉総合ガイドブック2019年度版』NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会/2019/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

医療ソーシャルワーク論 2017年度以降入学者

SWA2550NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

火曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

①保健医療ソーシャルワークの対象となる様々な領域、例えばがん、リハビリ、小児、認知症等における心理社会的な生活上の課題の概要と、支援のポイントについて論じる事ができる。

②病院機能別のソーシャルワークの業務のポイントについて、説明できる。

③病院組織における医療ソーシャルワーカーの地域医療に対する役割について論じる事ができる。

④価値に基づく医療ソーシャルワーク実践の展開について論じる事ができる。

⑤種々の医療上の困難を抱える患者・家族の課題に共感し、協働しながら解決方法を見出すことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①実践上の課題におけるテーマを取り上げ、アセスメントや支援の観点からディスカッションを行う。

②授業の際に配布される参考資料に目を通し、自分なりの考察を深めておく。

③以上を通して、患者・家族の抱える課題を自分事として想像し共感力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	MSWの存在の意味や意義について理解できない	MSWの存在の意味や意義について一面的には捉える事ができる	MSWの存在の意味や意義について多角的に考える事ができる	MSWの存在の意味や意義について総合的に考え説明できる
思考・解決力	疾患や障害について生活との関連で考える事ができない	疾患や障害について生活との関連で部分的にイメージ出来る	一部の疾患や障害について生活との関連を具体的に表現できる	疾患や障害について生活との関連で考えた上で、支援に対する具体的考えを表現できる
コミュニケーション・協働する力	MSWに関連する課題についての議論の糸口を掴めない	MSWの業務についての課題や疑問などを話し合う事ができる	MSWの業務についての具体的な場面の解決策などについて議論できる	MSWの業務についての具体的な場面の課題についてその背景や解決策について具体的に議論できる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

授業の進め方やスケジュール、授業への準備などに関するオリエンテーション

第 2 回 医療福祉の基礎

医療ソーシャルワーク実践について学ぶ上での医療福祉に関する基礎知識を概観する

第 3 回 患者理解

患者を理解するにはどのような知識や技術は求められるかについて学ぶ

第 4 回 家族理解

患者家族の置かれている立場や家族理解のために必要な知識の枠組みを学ぶ (ジェノグラム・エコマップを含む)

第 5 回 病院機能とソーシャルワーク (特定機能・急性期等)

病院の機能の理解と特定機能・急性期等における支援の実際を学ぶ

第 6 回 病院機能とソーシャルワーク (回復期リハビリテーション・療養病床等)

回復期リハビリテーション・療養病床等における支援の実際について学ぶ

第 7 回 組織内外連携と地域包括ケア

病院内外連携・チーム医療に必要な知識と、医療ソーシャルワーカーの地域包括ケアへの関わり方を学ぶ

- 第 8 回 がん医療とソーシャルワーク
がん対策、就労支援、人生の最終段階の意思決定支援などについて学ぶ
- 第 9 回 小児とソーシャルワーク
子供の病気の変遷とソーシャルワークの特徴を学ぶ
- 第 10 回 リハビリテーションとソーシャルワーク・障害受容
リハビリテーション・ソーシャルワークと障害受容について学ぶ
- 第 11 回 障がい当事者からのお話
障がい当事者からのお話を伺うことで理解を深める
- 第 12 回 HIV感染症とソーシャルワーク
HIV感染症の動向とソーシャルワークの実際について学ぶ
- 第 13 回 救急医療とソーシャルワーク
救急医療におけるソーシャルワークの特徴と実際について学ぶ
- 第 14 回 権利擁護と意思決定支援
権利擁護と意思決定支援にかかわるソーシャルワーク実践のあり方を考える
- 第 15 回 講義のまとめと振り返り
全体の講義を振り返ってディスカッションを行い、学びを整理する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

講義方式およびディスカッションを行う。

授業中の発問と学生の解答に対して、適宜口頭でフィードバックする。

2. 学習方法

講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。

テーマに沿った情報を各自事前に入手し、授業に臨むこと。詳細は授業中に指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業のテーマに該当するテキストの章・節を指示しますので、予習をして下さい。

また他の社会福祉関連の授業での知識を統合して理解できるように準備して下さい。

事前に指示をしたテーマに関連する情報を可能な限り収集し考察を深める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (70%) と講義内での授業参加度 (30%) の総合評価とします。

〔留意事項 (Other Information)〕

テキストは必ず購入して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる医療福祉—保健医療ソーシャルワーク』/小西加保留・田中千枝子/ミネルヴァ書房/2010/9784623055746/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『HIV/AIDSソーシャルワーカー実践と理論への展望』/小西加保留編著/中央法規/2017/9784805855980

『権利擁護がわかる意思決定支援』/日本福祉大学権利擁護研究センター監修/ミネルヴァ書房/2018/9784623083787

『救急患者支援 地域につなぐソーシャルワーク 救急認定ソーシャルワーカー標準テキスト』救急認定ソーシャルワーカー認定機構監修/へるす出版/2017/9784892699368

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関においてソーシャルワーカーとして勤務経験あり。

栄養学

LDA2403N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

集中

小林 ゆき子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人が生命を維持し、健康を保ち活動するために必須である「栄養」について理解し、栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義を生活している人の観点から理解するとともに、食品機能成分の働きならびに生体調節機能に関する知識も習得することを目的とする。

本科目の履修によって、習得した専門知識を自他の生活課題を解決するために活用することができる。また、生活のあり方や生活課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につけることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「栄養」とは何か、「食」の意義について理解する
2. エネルギーの代謝とその生理的意義を理解する
3. 各栄養素の代謝とその生理的意義を理解する
4. 健康と栄養の関係について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 食と健康とは、栄養とは何か
- 第 2 回 何をどれだけ食べればいいのか 1～空腹と食欲のメカニズムを知る
- 第 3 回 何をどれだけ食べればいいのか 2～日本人の食事摂取基準を知る
- 第 4 回 何をどれだけ食べればいいのか 3～食生活指針と食事バランスガイドを知る
- 第 5 回 食べるしくみ・機能について
- 第 6 回 消化・吸収・代謝のしくみについて
- 第 7 回 身体にとってエネルギーとは
- 第 8 回 身体にとって炭水化物とは
- 第 9 回 身体にとって脂質とは
- 第 10 回 身体にとってたんぱく質とは
- 第 11 回 身体にとってビタミンとは
- 第 12 回 身体にとってミネラルとは
- 第 13 回 身体にとって水とは、アルコールとは
- 第 14 回 栄養状態と疾患・健康の保持・増進の関係
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。試験内容についてmanabaにて受講者全体に向けてフィードバックする。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義形式で、テキストを使い、板書とスライドで進行する。必要に応じて補足プリントやDVD等を使用する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業内容について講義内容をまとめたノートを作成する。次回内容について教科書の内容を把握しておくこと。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験80%およびレポート等課題20%+αで評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

私語が著しい者には退席を求める。

出席が規定回数に達しない場合は試験受験資格を失う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『栄養の基本がわかる図解事典』/中村丁次著/成美堂出版/2015年/978-4-415-32028-1/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 管理栄養士として臨床現場での勤務経験あり

介護概論

SWA2451N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

2年次

2単位 後期

木曜1限

DP4: 思考・解決力

60

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 「介護福祉」とは何かを理解する。 2. 介護福祉の知識・技術・倫理への理解を深める。 3. 福祉・保健・医療の連携・統合の必要性を学ぶ。 4. 在宅福祉、介護機器・住宅改修の適用を学ぶ。知識、技術の習得ができ、課題認識と理解力が高まる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 介護福祉の意義や目標、機能 2. 介護福祉サービスを必要とする人間の理解 3. 介護保険制度における介護 4. 介護福祉を展開する際に必要な知識

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	介護福祉について意識できない	介護福祉の必要性を考える	介護福祉の重要性を考える	介護福祉の更なる応用構築について考える
知識・理解力	介護と介護福祉の区別がつかない	介護福祉実践の仕組みを理解できる	介護福祉実践の仕組みを理解し、その内容について説明できる	介護福祉実践の問題点、将来像について説明できる
言語力	介護福祉実践に関する用語を理解しようとしていない	介護福祉実践で用いる専門用語を理解する	介護福祉実践で用いる用語の説明、開設ができる	介護福祉実践で用いる援助内容が地域社会でどのように活かせるか説明できる
思考・解決力	教わったこと以上は考えていこうとしない	介護福祉実践の応用の必要が現代社会で必要であると考えられる	現代社会における介護実践の課題を自らまとめ、解決策	介護福祉実践の担い手の中心である介護福祉士の専門性に言及できる

			を提案できる	
共生・協働する力	他者の意見や各種先行研究を参考にしない	先行研究等を参考にし、考えようとする	考えた結果を皆で共有し、自身も考えを深めようとする	レベル3に加えて介護福祉実践が地域社会での共生に寄与することを考える
創造・発信力	自分の勝手な想像で発信してしまう	周囲の状況も勘案しながら詩文の情報発信を考える	介護福祉実践の状況を調べ、発信の正確さを検討する	レベル3に加えて介護サービスは対人援助技術の一環であることを考える

〔授業計画〕

第 1 回	介護福祉入門 「介護福祉」とは何か
第 2 回	介護福祉を考える1 介護の概念と範囲
第 3 回	介護福祉を考える2 介護の理念と対象
第 4 回	介護保険制度 介護保険制度と介護予防の必要性
第 5 回	介護予防とは 介護予防に関する制度と状況
第 6 回	介護マネジメント 介護過程の概要の概要と技法
第 7 回	認知症ケア1 認知症ケアの基本的考え方
第 8 回	認知症ケア2 認知症ケアの実際
第 9 回	認知症ケア3 終末期ケアの基本的考え方
第 10 回	終末を支える介護福祉1 終末期場面における人間観と倫理
第 11 回	終末を支える介護福祉2 終末期場面での介護の実際
第 12 回	居宅での住まい環境 要介護高齢者の住環境、周辺環境
第 13 回	居宅での生活支援を考える 訪問介護員、介護職員の役割
第 14 回	介護保険制度を支える人たち 介護に関連する専門職や関係者
第 15 回	介護福祉の総括 高齢者介護の課題と将来展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書を活用しながらも資料も活用しながら講義を行う。視覚教材も使用して理解を深めてもらう。講義終了時には毎回の講義の理解度を確認するために指定する様式での小

テストを提出する。

最終授業で全体のフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

高齢者介護福祉の現状は日々刻々と変化している。タイムリーな話題として高齢者介護福祉等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めるので日常の高齢者介護の関連問題には留意すること。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (20%)、定期試験 (50%) とし、その総合点を最終評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士資格の取得をめざす学生は本科目を履修しなければならない。

○介護概論と老人福祉論は同一テキストを使用する。社会福祉士の指定科目においては「高齢者に対する支援と介護保険制度」として一つの科目として統合されているが、本学では前述のように2科目に分けて実施している。よって社会福祉士受験希望者以外であっても「老人福祉論と介護概論」両科目の履修をすすめる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

「高齢者に対する支援と介護保険制度第4版」

岡田進一、橋本正明編著 ミネルヴァ書房 2018年

ISBN 9784623083466

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ケアの本質』/ミルトン・メイヤロフ 著 田村真 他訳/ゆみる出版//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 介護福祉士、社会福祉士として施設での勤務経験あり。

介護技術

SWA2400N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

定員15名

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

個々の人権意識と利用者の多様性を理解する。

そのために必要なコミュニケーション技術、介護技術を身につける。

自己研鑽への態度の増強、共感、協働する力を蓄えることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 介護技術を学ぶ意義と人権保障について習得する。
2. コミュニケーション技法、観察・技法について学習する。
3. 環境整備と福祉用具の用い方についての知識を習得する。
4. 認知症の理解。
5. 生活場面での移乗・移動介助について理解し、介助の技術を身につける。
6. 食事の介護について知識を身につけ、介助できるようにする。
7. 排泄の意義と目的を理解した上で、介助技術を習得する。
8. 着脱と整容の介護についてその意味を理解し、介助できるようにする。
9. 清潔の介護の意義を理解し、介助技術を習得する。
10. 医療との連携の必要性と意義を理解し、緊急時の対応について学習する。
11. 事例をもとに介護の実際を文章に落とし込み、実践する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	介護技術の認識ができない	介護技術の必要性を考える	介護技術の重要性を考える	介護技術実践の具体的展開を考える
知識・理解力	介護と介護福祉の区別がつかない	介護技術の仕組みと現状を理解できる	介護技術の仕組みが理解でき、具体的な支援がわかる	介護技術の理解をしたうえで介護実態での課題整理ができる
言語力	介護技術での用語の理解ができない	介護技術専用の用語について理解できる	介護技術の用語の理解ができ、説明ができる	介護技術サービスの長所、短所について理解できる
思考・解決力	教わったこと以上は学習していない	介護技術の活用は現代社会において不可欠であると考える	現代社会での介護技術の活用が結びついて考えられる	介護技術サービスが対人援助技術であることを理解できる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献から学びを広めようとする	考えた結果を他者と共有し、自身も深めようとする	レベル3に加えて介護技術と現代社会での連携を考えられる

創造・発信力	自身で勝手に想像したことを発信する	自身で周囲の状況を考え、介護技術の在り方を考える	介護技術サービスの提供実績を踏まえて援助について考える	レベル3に加えて介護保険法の理解をしながら考える
--------	-------------------	--------------------------	-----------------------------	--------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 介護技術入門
介護技術を学ぶ意義 ―その基本視点―
介護技術と人権保障
- 第 2 回 介護技術での関係性
コミュニケーションの技法について
- 第 3 回 介護技術での技法
観察・記録の技法について
- 第 4 回 介護技術と環境の整備
環境整備 住環境、寝具の整備 ユニバーサルデザインについて
- 第 5 回 介護技術と福祉用具
福祉用具の用い方について
- 第 6 回 介護技術と介助体験1
移乗・移動介助 I ―ベッドサイドの移動・移乗の介護―について
- 第 7 回 介護技術と介護体験2
移乗・移動介助 II ―歩行の介護と車いす利用時の介護―について
- 第 8 回 介護技術と認知症ケア1
認知症ケアと食事の介護について
- 第 9 回 介護技術の認知症ケア2
認知症ケアと排泄介護について
- 第 10 回 介護技術と認知症ケア3
認知症ケアと入浴介護について
- 第 11 回 介護技術と認知症ケア4
認知症ケアの方法 パーソンセンタードケアについて
- 第 12 回 介護技術と認知症ケア5
認知症ケアの方法 ユマニチュードについて
- 第 13 回 介護技術と認知症ケア6
認知症ケアの方法 バリデーションについて
- 第 14 回 介護技術と医療支援
医療との連携 急変・事故の時の対応について
- 第 15 回 介護技術での総括
まとめ ―コミュニケーション技術に焦点を当てて―

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。レポートを課す

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業方法は講義・演習・小テスト・実技による。実技を多用することがある。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- 1 人体の構造と機能についての予備学習(プリント, DVD)
- 2 演習に入る前に講義による知識を得て, デモンストレーション・実技を実施する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ①欠席回数が3分の1を超越した場合受験資格を失う。
- ②授業参加度 40%
- ③小テスト 20%
- ④レポート試験 40% で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実技を実施するので動きやすい服装であること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『介護技術学』/三好明夫・仲田勝美/学文社///学内販売予定別途指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

別途指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

日本介護福祉士会

<http://www.jaccw.or.jp/>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 介護業務を行う高齢者福祉施設での勤務経験あり

建築構造力学

LDR3200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

水曜 1限

DP2 : 知識・理解力

60

建築一般構造

ドイル 恵美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

建築は人を守るために「安全」でなければならない。安全な建築物を造るためには、柱や梁にどのような力が作用して、どのように変形するかを知るための「力学」の基礎知識が求められる。具体的には、静定構造物の応力計算に関する知識の習得を目標とする。二級建築士試験では、問題

25問中に、約6-7問は構造力学から出題されるため、本講義ではそのテスト対策として演習もおこなう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

難しいと思われるがちな建築構造力学の基礎は、「中学の理科レベル+α」の知識で十分に対応できる。主に次の項目に関する理解に重点を置く。

- 1.作用・反作用の知識による反力の計算
- 2.反力と外力をもとにした単純支持ばりや門型骨組の曲げモーメントとせん断力の計算
- 3.上記を踏まえた構造力学の基礎等

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	物理・数学の基礎が理解できる	力学の基礎問題が理解できる	建築士2級レベルまで理解できる	建築士2級合格可能レベルまで到達する

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (建築構造・力学の基礎)
建築構造の概要、構造力学に必要な基礎学力 (物理・数学)について説明する。基礎学力テスト実施。他に構造力学から「社会」について考える。
- 第 2 回 模型実習
建築構造学の必要性を理解するために、身近なものを活用し、構造物を作る模型実習を行う。
- 第 3 回 構造力学の必要性
「模型実習」の振り返りおよび「構造の働きとその美しさ」について各自が解説する (レポートおよびプレゼンテーションあり)。
- 第 4 回 部材と力学
部材の伸縮、応力度、ひずみ: 物体の中も力が働いている。これらの力学的性質を理解し、強く、変形しにくく、粘り強い材料について習得する。
- 第 5 回 力学の基礎 (力の和・分解)
物理・力学とは現象に対するイメージを正しく持つことが求められる。作用反作用の法則・ベクトル等についての力学基礎知識を習得する。
- 第 6 回 力学の基礎 (モーメント)
物理・力学とは現象に対するイメージを正しく持つことが求められる。モーメントといったねじりも含めた力学基礎知識を習得する。
- 第 7 回 建築構造のモデル化
応力とモーメントの計算法について習得し、建築構造のモデル化および反力について習得する。
- 第 8 回 部材に生じる力1
柱・梁といった部材を例に、部材に生じる力の種類(外力)と計算法を習得する。
- 第 9 回 部材に生じる力2
柱・梁といった部材を例に、部材に生じる力の種類(内力)と計算法を習得する。
- 第 10 回 静定構造の解き方 1

- ラーメン構造・ヒンジのある構造を例に、部材に生じる力の種類(外力)と計算法を習得する
- 第 11 回 静定構造の解き方 2
- ラーメン構造・ヒンジのある構造を例に、部材に生じる力の種類(内力)と計算法を習得する
- 第 12 回 トラス部材の解き方
トラス部材について切断法・接点法を用いて計算する。演習あり。
- 第 13 回 静定構造のまとめ
静定構造の解き方と応力について復習する。演習あり。
- 第 14 回 建築士2級の演習
建築士2級の構造力学分野にかかる演習を行う。
- 第 15 回 定期試験および建築士2級試験の復習
建築士2級の構造演習の復習を行うと共に、最終到達度を確認するために試験を実施する(持ち込み可)。終了後は復習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

最終日(15日)に到達度を確認するための試験を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本的にはテキストに基づいて、構造力学の解説、例題問題の説明、そして、類似問題の演習を行い、構造力学の基礎に即した講義を行う。グループワーク (演習)、プレゼンテーションまたはレポート(1回)も含む。課題へのフィードバックは講義時間内に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

(1) 基本的に1時間1単元で進むので、必ずその時間の講義を理解し、わからない場合は次の講義で質問すること。復習を必ずすること。

(2) 欠席すると次の時間の理解に支障が生じるので注意すること。

(3) 復習のための課題や演習が毎週ある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15(復習に週1時間程度)

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

5回程度の小テストが実施される。出席・課題 (40点) 定期テスト(40点)、グループワークやプレゼンテーション(20点)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図解入門図解レクチャー 構造力学 (静定・不静定構造を学ぶ)』/浅野清昭/学芸出版社/2011 /ISBN9784761525231/学内販売をしない予定

他、演習プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

構造力学向けの教科書は多数販売されているので、講義がある程度進行してから書店または図書館で手にとって確かめるのが望ましい。

考えるプロセスがわかる力のつり合いを理解する構造力学、小野里 憲一、西村 彰敏、彰国社

初めての建築構造力学、<建築のテキスト>編集委員会編、学芸出版社

わかる建築学 建築構造力学、安達 洋・丸田栄蔵編、学芸出版社

よくわかる構造力学の基本、松本慎也著、秀和システム

新・建築構造入門、西谷 章著、鹿島出版会

やさしい建築構造力学 演習問題集 浅野清昭 学芸出版社

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

1994-1998年：国内ゼネコンにて、技術研究(耐震・免振)および構造設計業務経験あり。

1998-2013年：海外にて、インフラプロジェクト立案・計画・管理経験あり。

更生保護制度

SWR3402N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期前半

月曜4限

DP4：思考・解決力

30

全7.5コマ

武藤 大司

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

成人の犯罪、子どもの非行といった問題に対して、司法的側面ばかりではなく、福祉的な側面も視野に入れ、関係機関との連携を図っていかねばならないという今日的な状況を見逃すことは出来ない。

また、ソーシャルワーカーとして取り組む相談援助活動の場面においても、更生保護制度を中心とした刑事司法・少年司法制度についての理解は不可欠な状況である。

こうした観点から、司法の枠組みの中で展開される社会福祉的機能や社会福祉的实践について、具体的な問題を中心に学ぶことを通して、更生保護制度だけではなく、社会の中での更生保護の在り方を批判的・論理的に考え、現状の問題点を解決する考え方(思考・解決力)を身につけることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 刑事司法・少年司法制度について理解する。
- 2 更生保護制度の枠組を理解する。
- 3 更生保護制度を支える組織、専門職について理解する。
- 4 関係機関との連携のあり方について理解する。
- 5 様々な制度が社会の動きとどうつながっているかを理解し、問題点を明確化し、解決のための批判力や論理的思考力を養う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	更生保護制度に関心がない	更生保護制度を理解しようとする	更生保護制度の現状について、その特徴と問題点を検討する	更生保護制度に関する自分の意見を持つ
知識・理解力	更生保護制度に関する知識がなく、理解できない	更生保護制度に関する知識が少なく、理解しようとしている	更生保護制度に関する知識があり、理解できる	更生保護制度に関する知識、理解があり、自分の意見をもつ
言語力	更生保護制度に関する用語を理解できない	更生保護制度に関する用語を理解しようとする	更生保護制度に関する用語を簡単に説明できる	更生保護制度に関する用語を詳細に説明できる
思考・解決力	制度の問題点や課題を考えようとしない	制度の問題点や課題を意識する	制度の問題点や課題の要点をまとめる	制度の問題点や課題について自分の考えを持つ
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	他者の意見を聞き、友人と一緒に学ぶ	制度の問題点や課題を他者と共有して自身の考えを深める	制度の問題点や課題を他者と共有しながら、新たな自分の考えを持つ
創造・発信力	自分勝手に考えて、発信する	周辺状況を鑑み、更生保護制度を考え、発信する	更生保護制度を創造し、発信する	更生保護制度以外の置かれた環境も想像でき、そのうえで社会改良を創造し、発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 刑事司法と福祉
刑事司法と福祉について理解する。
- 第 2 回 刑事司法、少年司法
刑事司法、少年司法について理解する。
- 第 3 回 施設内処遇
施設内処遇について理解する。
- 第 4 回 社会内処遇 1
社会内処遇、特に保護観察、更生緊急保護等の制度面について理解する。
- 第 5 回 社会内処遇 2
社会内処遇、特に実際について理解する。
- 第 6 回 多様なニーズを有する犯罪行為者

多様なニーズを有する犯罪行為者について理解する。

第 7 回 犯罪被害者支援、コミュニティと刑事司法
犯罪被害者支援、コミュニティと刑事司法について理解する。

第 8 回 更生保護制度 総括
更生保護制度のまとめとふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを作成する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストに基づいて講義を行う。DVD教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出してもらうこともある。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

本科目は社会福祉士国家試験科目であり、新カリキュラム科目「刑事司法と福祉」は学修時間が倍増された重要な科目なので、受験予定者は特に丹念な学習が不可欠である。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストは新カリキュラム「刑事司法と福祉」を用いており、倍増されたテキストとなっている。そのため、事前に予習しておかないと授業が理解できないこととなる。

テキストの章に合わせた項目名にしているので、講義で取り扱う該当箇所を熟読しておくことが不可欠である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、課題レポート(70%)で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『刑事司法と福祉』/社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規/2021年/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『更生支援計画をつくる』/一般社団法人東京TSネット編/現代人文社/2016年/

その他、授業で適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》地方検察庁社会福祉アドバイザーとして、地方検察庁内で起訴前の拘留者(知的障害者等)に面接し、関係機関との連携や更生支援計画の作成等をしてきた。

社会福祉運営論

SWR3451N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会福祉サービスに関する組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会）等について理解を深める。社会福祉のサービスの組織団体と経営に関する基礎理論の理解を深める。社会福祉サービスの経営と管理運営について理解を深める。知識、理解力をつけることができ、創造・発信力をつけることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会福祉運営管理の基礎的な概念を把握する。 2. 社会福祉の環境の中での社会福祉運営の展開方法と課題を学ぶ。 3. さまざまな社会福祉サービス展開の中で注目されている組織団体の役割と経営全般について学ぶ。 4. 社会福祉運営管理（ソーシャルアドミニストレーション）、社会福祉施設運営管理（ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション）を理解する。 5. 社会福祉基礎構造改革、特定非営利活動促進法、介護保険法など社会福祉の運営枠組み変化での社会福祉運営管理について方法や展開について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉の運営管理を意識できない	社会福祉の運営と管理についてそれぞれの展開を考える	福祉施設等を健全運営するために必要なことを考える	近代化する福祉現場での運営と管理について将来を見据えて考える
知識・理解力	運営と管理の区別が十分についていない	運営管理の仕組みについて理解し内容について理解できる	運営管理の仕組みが理解でき、経営上の問題についても理解できる	さまざまな福祉現場での運営管理と経営課題について整理できている
言語力	社会福祉の運営管理での用語を理解しようとしていない	運営管理を円滑に進めるための用語と実践があることを理解する	簡単な運営管理の概要と予算決算の理解ができる	複雑な運営管理と予算決算の仕組みを理解できる

思考・解決力	教わったこと以上のことは考えようとしない	近年の社会福祉施設動向を踏まえた運営管理を考える	新しい福祉施設経営などでの問題整理ができる	新しい福祉施設の運営管理について管理者の立場で理解できる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種の文献をもとに経営安定のための運営管理を考える	考えた結果を他者と共有し自分自身の考えを深める	レベル3に加えて地域社会の一員としての福祉施設としての警戒を考える
創造・発信力	自分で勝手に想像した内容の発信を行う	周囲の状況を鑑みて自らの運営管理について考える	新規の社会福祉施設等の運営管理の健全な経営策を考える	レベル3に加えて対人援助技術の一環として存在していることを考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会福祉運営管理とは
社会福祉運営管理の概念
- 第 2 回 社会福祉運営管理1
社会福祉法人制度
- 第 3 回 社会福祉運営管理2
特定非営利活動法人制度
- 第 4 回 社会福祉運営管理3
その他の組織や団体
- 第 5 回 社会福祉運営管理4
組織に関する基礎理論
- 第 6 回 社会福祉運営管理5
経営に関する基礎理論
- 第 7 回 社会福祉運営管理6
管理運営に関する基礎理論
- 第 8 回 社会福祉運営管理7
集団の力学とリーダーシップの基礎理論
- 第 9 回 社会福祉運営管理8
理事会の役割と財源
- 第 10 回 社会福祉運営管理9
福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス
- 第 11 回 社会福祉運営管理10
福祉サービス提供組織における人材の養成と確保
- 第 12 回 社会福祉運営管理11
福祉サービス提供組織の経営の実際
- 第 13 回 社会福祉運営管理12
適切なサービス提供体制の確保の方法
- 第 14 回 社会福祉運営管理13
働きやすい労働環境の整備の実際
- 第 15 回 社会福祉運営管理の総括
福祉サービスの管理運営の実際、課題と展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。レポートを課す

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

社会福祉サービスにおける運営と管理の具体的な内容と性格について確認していく。社会福祉行政の運営管理の方法、社会福祉施設の運営管理の方法、社会福祉協議会の運営管理の方法などを習得して課題や将来展望について考え、間接援助技術の技法のひとつとしてまとめることができるようにする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

社会福祉の運営や管理等についての話題提供と理解を深めるために社会福祉運営管理等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めるのでできるだけ日常の社会福祉運営管理等の関連問題には留意すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (20%)、最終レポート (50%) とし、その総合点を最終評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士資格の取得をめざす学生は本科目を履修しておく必要がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

できるだけタイムリーな社会福祉の現場実践での運営管理情報をパワーポイントを中心にして印刷物も配布して解説していきたい。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『社会福祉士シリーズ『福祉サービスの組織と経営』//弘文社//

授業時に適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ NPO法人代表として法人運営管理の経験あり。

社会福祉調査法

SWR2400N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

平尾 良治

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会的現実を把握するときには、一定の理論や仮説をもちいながら、対象にアプローチし、現象を支配している何らかの法則を明らかにすることが求められます。その際に有効な技術としての「社会調査法」が必要となります。ここでは社会的現実の一つである「社会福祉」を対象として、質的調査と量的調査の具体的な方法を学びます。とくに社会福祉の対象である国民の生活問題をどのようにとらえ、どのように調査・分析すべきかについて、具体的な調査データの分析作業を通して考えます。同時に受講生とともに福祉現場の実態を明らかにする「調査票」づくりをおこないます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 社会福祉とは何か
- ・ 社会認識の方法としての社会・福祉調査
- ・ 社会調査の倫理および個人情報の保護
- ・ 社会・福祉調査の種類と内容 (質的・量的調査)
- ・ 調査票の作成
- ・ 統計法の理解 (標本・標本抽出・記述・推測)
- ・ 調査実施にあたってのIT活用法
- ・ 調査データの点検・集計・分析 (統計法の基礎)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	対象者(利用者)と専門職の立場を認識できない	人権を守ることと調査活動がどのような関係かを理解できる	対象者の人権に配慮するとはどのようなものかを理解できる	人権保障立場から対象者の状況改善する調査を理解できる
知識・理解力	社会調査の歴史、質的・量的調査が理解できない	統治のための調査から問題解決の調査にいたる流れを理解できる	社会(福祉)調査の歴史を概観し調査手法の特徴を理解できる	量的調査・質的調査の違い、方法を理解できる
言語力	調査票の構造を理解できない	先行研究から調査票を理解し、調査票の構造を理解できる	先行研究から問題意識・調査仮説について理解できる	先行研究から調査票を理解し調査仮説をつくることのできる

思考・解決力	調査を福祉問題分析の方法として考えることができない	調査対象者の生活問題を社会問題として考えることができる	対象者の生活問題を改善する方法として調査を考えることができる	調査対象者の状況・問題に合わせた調査方法を工夫することができる
共生・協働する力	他者の意見を尊重できず、協働作業ができない	福祉課題改善・条件整備のための仮説を協働して考えることができる	周囲の人と協働して調査票を検討し、まとめることができる	調査を実施するための手順・条件を考えることができる
創造・発信力	恣意的な調査を行うことの弊害を理解できない	調査報告書の構成・内容について理解できる	先行研究を通して調査報告書の課題・問題点を考えることができる	情報モラルを加味した発信をすることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
・授業テーマ・目標・授業計画・評価方法などの確認
・協同学習のためのグループ分け
- 第 2 回 社会的現実を見る視点
・権利としての社会福祉、対象者(利用者)の立場
・社会科学と自然科学、自分なりの概念装置
- 第 3 回 社会福祉調査とは何か
・社会福祉士の役割と社会調査
・社会調査の定義、調査主体と調査対象・社会調査の分類など
- 第 4 回 社会(福祉)調査の歴史
・調査のルーツ、近代社会と社会調査の発展
・社会福祉士と社会調査など
- 第 5 回 量的調査の概要(目的、対象、方法、統計法)
・全数調査・標本調査(sampling)、尺度、統計法
・種類(面接・電話・留置・郵送・集合・インターネット)など
- 第 6 回 社会調査の流れと留意点
・調査票の作成方法と留意点
・既存調査の利用、基本仮説から作業仮説・調査票作成の留意点
- 第 7 回 調査仮説と調査票づくり
・作業 調査仮説と「質問紙」の検討
・ワーディング
- 第 8 回 調査の実際(回収・点検・コーディング)
・調査票の配布と回収・点検、エディティング、コーディング
・作業(入力・集計)
- 第 9 回 量的調査におけるデータ解析①
・データ特性(尺度) ヒストグラム、代表値、散布度、クロス集計、
・検定

- 第 10 回 量的調査におけるデータ解析②
・作業:調査票の入力・集計・分析
・作業:調査報告書の検討
- 第 11 回 質的調査の特徴と種類
・方法:観察法、面接法、ドキュメント分析、アクション・リサーチ
・方法:KJ法、GTA
- 第 12 回 質的調査の設計と対象者の選定
・質的調査の調査手法、調査の実施の手順
・調査設計と対象者の選定
- 第 13 回 質的調査の分析と発表・報告
・分析
・図式化・文章化・発表の留意点
- 第 14 回 社会調査における倫理と個人情報保護
・社会調査における人権プライバシーの保護
・日本社会福祉士会の倫理綱領・行動規範
- 第 15 回 社会調査におけるITの活用
・社会調査におけるITの活用
・コンピュータを用いた先行研究の検索とデータ収集

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

授業形式は、講義を中心にしながら、小グループでの討議、作業、発表などをおりませずおすすめ。テキストは『社会調査の基礎(第3版)』中央法規出版を使用します。事前にテキストの学習範囲を指定するので、参考資料も併せて可能な限り目を通してください。この授業では集計・分析方法を理解した上で、具体的な調査票作成までを目標とします。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

予習:テキストの指定範囲を读了し、授業に臨んでください。
復習:授業のなかで「ミニレポート」作成、「確認ドリル」を実施します。

結果:レポート・ドリルを採点した後、結果について翌週の授業で解説し内容を深めます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

2

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

評価は学習状況(態度・発表)30%、確認ドリル・レポート30%、期末テスト40%により総合的に行います。なお確認ドリル・レポートの結果・解説は授業内で行います。

〔留意事項(Other Information)〕

受講者のグループをつくり、役割を決めて発表し討論をする学習形態をとるので、受講者は主体的に参加して下さい。
〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『社会調査の基礎(第3版)』/社会福祉士養成講座編集委員会編著/中央法規出版/2014年/9784805837603/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『社会福祉の基礎理論』/林博幸・安井喜行編著/ミネルヴァ書房/2002年/4623035980

『社会調査の基礎』/岩永ほか編著/放送大学教育振興会/2003年/4595126875

『新・社会調査へのアプローチ(第2版)』/大谷信介ほか編著/ミネルヴァ書房/2013年/9784623066544

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住計画演習 I

LDR3600N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

3年次

2単位 前期

木曜1限 木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

住居製図I、住居製図II

定員25人 週1.5コマ連続

岸 研一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会における個人と家族、社会との関係の考察や、情報化や環境問題の課題の検討を行いつつ、住宅の計画・設計の一連の作業を演習する。自らの考え方やアイデアを効果的に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住宅設計における計画能力の養成 2. 空間構成能力及び造形能力の養成 3. 住宅および周辺環境に対する新たな視点の獲得 4. プレゼンテーション能力の養成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス・課題発表

ガイダンス

課題発表

課題建物についてレクチャー

第 2 回 学外学習

住宅展示場見学(予定) 事例研究

第 3 回 エスキス(1)

エスキスチェック(1)(コンセプト、ゾーニング、プラン)

第 4 回 エスキス(2)

エスキスチェック(2)(プラン)

第 5 回 エスキス(3)

エスキスチェック(3)(プラン、作図 CAD)

第 6 回 作図(1)

作図(1)(CAD 通り芯、壁)

第 7 回 作図(2)

作図(2)(CAD 窓、出入口)

第 8 回 作図(3)

作図(3)(CAD 仕上、家具、外構、寸法等)

第 9 回 パース演習(1)

内観パースの書き方について、演習

第 10 回 パース演習(2)

内観パース演習(トレース、添景)

第 11 回 パース演習(3)

内観パース作成(1)(構図確定、グリッド作成)

第 12 回 パース演習(4)

内観パース作成(2)(下描き)

第 13 回 パース演習(5)

内観パース作成(3)(仕上、着色)

第 14 回 作図

提出図面まとめ(仕上、着色、プレゼンテーション)

第 15 回 発表、講評

課題提出、発表、講評

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 半期1つの設計課題を通じて指導する。 2. 課題は、図面で表現する。CADによる作図も取り入れる。 3. 課題は作図のみならず、コンセプトワークや先行事例のレビューを充分に行ない、図面・パース・イメージ写真・文章等でプレゼンテーションの訓練も行う。 4. 計画した住宅を立体的な空間として把握し、より効果的なプレゼンテーションを行う為、パースを作成する。 5. 各課題は、計画段階で何度かエスキスチェックを行い、1人ずつ講評する。 6. 各演習課題の内容やスケジュールについては変更することもある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・課題への取り組みは、締め切りを念頭において、授業空き時間を利用し計画的に行うこと。

・先行事例のレビューや資料集め、計画案の下書き(エスキス)を十分に行った上で授業に臨むよう、計画的に準備を行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

4

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題および授業の取り組み状況 (70%) により総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

前提科目「住居製図Ⅰ、Ⅱ」を受講していることが必須
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (26年)

ゼネコン勤務5年、設計事務所勤務3年、設計事務所開業19年、により実務経験あり。

住計画演習Ⅱ

LDR3650N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

木曜1限 木曜2限

DP6: 創造・発信力

60

住計画演習I

定員25人 週1.5コマ連続 ※入学年度により履修条件が異なる。

詳細は学生便覧を参照。

岸 研一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「住計画演習Ⅰ」の授業をふまえ、本演習では、個々の住宅のみならず、居住地(敷地)全体を含めた住環境の計画・設計を演習する。立体的な作図手法や着彩による、効果的なプレゼンテーションを行い、自分の提案する計画を相手に伝える能力を身に付ける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住宅設計における計画能力の養成 2. 空間構成能力及び造形能力の養成 3. 住宅に対する新たな視点の獲得 4. 基本的な寸法を理解する 5. 効果的なプレゼンテーション手法の養成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・課題発表
ガイダンス、課題発表、課題建物についてレクチャー
敷地見学
- 第 2 回 学外学習
参考事例研究
家具・インテリアショールーム見学 (予定)
- 第 3 回 エスキス (1)
敷地レポート提出
エスキスチェック (1) (コンセプト、ゾーニング、参考事例研究)
- 第 4 回 エスキス (2)
エスキスチェック (2) (プラン)
- 第 5 回 作図 (1)
作図 (1) (CAD 通り芯、壁)
- 第 6 回 作図 (2)
作図 (2) (CAD 窓、出入口)
- 第 7 回 作図 (3)
作図 (3) (CAD 仕上、家具、外構、寸法等)
- 第 8 回 パース演習 (1)
内観パース作成 (1) (アングル検討、下描き)
- 第 9 回 パース演習 (2)
内観パース作成 (2) (下描き、トレース)
- 第 10 回 パース演習 (3)
内観パース作成 (3) (着彩、仕上)
- 第 11 回 パース演習 (4)
アクソメ・俯瞰図・断面パース等演習
- 第 12 回 パース演習 (5)
アクソメ・俯瞰図・断面パース等 作成 (1) (下描き)
- 第 13 回 パース演習 (6)
アクソメ・俯瞰図・断面パース等 作成 (2) (着彩、仕上)
- 第 14 回 作図
提出図面仕上げ、着彩、プレゼンテーション
- 第 15 回 発表、講評
課題提出、発表 講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 半期1つの設計課題を通じて指導する。 2. 各課題は、図面で表現する。CADによる作図も取り入れる。
3. 課題は作図のみならず、コンセプトワークや先行事例のレビューを充分に行ない、図面・パース・イメージ写真・文章等でプレゼンテーションの訓練も行う。また、グループワークを行なう場合もある。 4. 計画した住宅を立体的な空間とし、効果的なプレゼンテーションを行う為、

パス等を作成する。5. 各演習課題の内容やスケジュールについては変更することもある。6. 課題は発表後、講評を行い、提出課題に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・課題への取り組みは、締め切りを念頭において、授業空き時間を利用し計画的に行うこと。

・先行事例のレビューや資料集め、計画案の下書き(エスキス)を十分に行った上で授業に臨むよう、計画的に準備を行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

4

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、課題および授業の取り組み状況(70%)により総合的に評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

「住計画演習Ⅰ」を住計画演習Ⅱの前段階として位置付けているので、同じ年度に両方合わせて受講することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(26年)

ゼネコン勤務5年、設計事務所勤務3年、設計事務所開業19年による実務経験あり。

色彩学

LDR3202N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜3限

DP2: 知識・理解力

60

定員30人

室 千草

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「色」は造形活動のうえで、形、テキストチャーとともに、表現するための重要な要素ともいえる。「色」を体系的に学ぶことにより、色彩システムの基本知識を習得し、色彩表現、色彩計画において色を有効に活用できるよう、色の区別、再現、配色方法に関する理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.12色相環(PCCS表とトーン表)の作成 2.色の三属性を把握する配色演習 3.季節感の色彩構成 4.日本の和の色の色彩表現 5.配色技法を用いたパターン制作 6.インテリアの色彩設計

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
主体的に学ぶ事	色彩について知ろうとする	色彩について理解しようとする	色彩の理論に基づいて、課題実習をする	色彩の理論に基づいて、課題実習に生かすことができる
学習指導要領の理解力	学んだ事を、要領よく理解できない	学んだ事を、要領よく理解できる	授業内容を理解し、色彩実習をする	授業内容を理解し、色彩実習の課題に反映する事が出来る
思考・想像する力	実習課題をする	課題を積極的にこなす事が出来る	うまくいかなかった課題を次の課題にいかす事が出来る	理論を元に自ら想像し、理解し、課題に反映する事が出来る

〔授業計画〕

- 第1回 色の本質について
色と視覚、色の分類、色知覚の三属性
- 第2回 演習課題1
12色相環の作成(目的色の出し方、混色方法)
- 第3回 色の体系
色名と日本色研配色体系、PCCS、マンセル表色系
- 第4回 演習課題2
色の三属性を把握する配色演習
- 第5回 色の見え方
対比と同化、面積効果など
- 第6回 演習課題3
季節感の色彩構成(色のイメージ表現)
- 第7回 色の心理
色のイメージと感情効果
- 第8回 演習課題4
日本の和の色を用いた、かさねの色目の実習課題
- 第9回 色の調和と配色
色彩調和と配色の理論
- 第10回 演習課題5
配色技法を用いたパターン制作
- 第11回 色彩設計
建築及びインテリアの色彩設計を考える
- 第12回 演習課題6
建築及びインテリアの色彩設計を考え、実習課題
- 第13回 色彩調和
インテリアの色彩調和の技法と名前
- 第14回 演習課題7
インテリアの色彩設計と実習課題
- 第15回 まとめ
色彩設計や実習を通じての考察とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験内にテストを実施しないが、授業最終日にまとめとしてテスト (持ち込みアリ) を行います。選択問題と色彩カードを実際に使用する問題も含まれ、授業と日々の課題をしっかりとこなしていれば簡単に解けるように設定しています。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

配付プリントと画像資料を用いて理論を学ぶ。より理解度を深める為に簡単な小テストを計3回程実施する予定。理論を学んだ次の週は、配色カードや絵の具による実技演習を行う。

理論と実習を交互に行う事により、小テストや実技課題によりフィードバックを行い、色彩学を身体的に深く学ぶ事が出来る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日常に存在する標識や看板や、パッケージデザインやテキスタイル、建築の内装 (インテリア) や外装 (エクステリア) がどのような配色になっているかを日々観察すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業時の課題・授業参加度(60%)と最終日に行うまとめテスト(40%)の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

課題で配色カードを使用する際、のりとはさみが必要になります。この他に絵具やケント紙などの画材が必要となります。※初回の授業時に、画材についての説明と申込用紙を配布

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新配色カード199a』//日本色彩研究所///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『カラーコーディネーター入門 色彩』/大井義雄・川崎秀昭/日本色研事業(株)/2007年/9.784901355278E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

色彩学などの科目について

着物の会社において商品企画における色彩計画業務あり(現在も継続中)。

専門分野である映像分野のカラーグレーディングを担当(現在も継続中)。

上記の実務業務の経験から、授業内において、色彩の物質と心理的要因による原理の違いを講義形式で教えることや、実践的には、光の色の原理について、実際に学生に実技実習してもらい、教科書上のものだけでない理解を深めてもらおうと考えている。

人体の構造と機能及び疾病

SWA2205N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

寺谷 愉利子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目覚ましく、医療機関の機能は益々複雑になりつつある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」を治療したり、ケアするという医療の本質は、いつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や、専門的分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて、福祉医療に携わる将来のために、基礎的、かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 人の成長・発達と老化
2. 身体構造と心身の機能
3. 国際生活機能分類 (ICF)の基本的考え方と概要
4. 健康のとらえ方
5. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病と障害の概要
6. リハビリテーションの概要

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業前の宿題に主体的に取り組む	提出期限までに課題を提出できない	提出した課題に教本・レジュメを十分に活用されていない	提出した課題に教本・レジュメを十分活用している	提出した課題内容に独自性がある
筆記試験	筆記試験に参加しない	それまでの学びで得た知識が十分活用されていない	それまでの学びで得た知識をほぼ活用されている	それまでの学びで得た知識が十分活用されている
授業参加	授業を3分の1以上欠席	授業出席状況と参加が劣る	授業出席状況と参加がほぼ満たされている	授業出席状況と参加が十分満たされている

〔授業計画〕

第 1 回 第1回

オリエンテーション、第1章人の成長・発達と老化 第1節、第2節、第3節

第 2 回 第2回

第2章身体構造と心身の機能 第1節、第2節10,1～5

第3回 第3回
第2章身体構造と心身の機能 第2節6～8

第4回 第4回
第2章身体構造と心身の機能 第2節9,11～13

第5回 第5回
第3章 疾病の概要第1節～第4節

第6回 第6回
第3章 疾病の概要 第5節～第8節

第7回 第7回
第3章 疾病の概要 第9節～第12節

第8回 第8回
第3章 疾病の概要 第13節～18節

第9回 第9回
中間テスト 第4章 障害の概要 第1節～第3節

第10回 第10回
中間テスト解答 第4章 障害の概要 第4節～第7節

第11回 第11回
第4章 障害の概要 第8節～第10節

第12回 第12回
第5章リハビリテーションの概要 第1節～第5節

第13回 第13回
第6章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要 第1節～第4節、第7章 健康のとらえ方 第1節～第2節

第14回 第14回
第7章 健康のとらえ方 第3節～第7節

第15回 第15回
第7章 健康のとらえ方 第8節～第9節、まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法
講義形式
2. 学習方法
(1)テキストに沿って行う、プリントで内容補充。
(2)人体模型やOHC、パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。
(3)毎回宿題を出すので、復習しながらやること。必ず次回提出すること。返却するときに、講義で解説する。
3. テキスト・文献など
(1)テキストは社会福祉士養成講座 『医学一般』(中央法規)を用いる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 毎回宿題をやりながら復習をして、内容を理解すること。毎時間補助プリントを配付するので、しっかり読んでおくこと。分からないところは、次の授業で必ず質問すること。
2. テキストの大項目と太字のところを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 成績は、中間テスト (15%)、定期テスト (70%)、授業参加度 (10%)、毎回の宿題 (5%) の総合評価とする。
2. 3分の2以上の出席がないものは、期末試験の受験資格を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

他の受講生に迷惑となる私語、スマホによるメールの送受信、飲食は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『社会福祉士養成講座 『1 人体の構造と機能及び疾病』 - 医学一般』/社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 看護師として施設での勤務経験あり。

精神科リハビリテーション学 II

SWR3452N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

橋本 史人

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

その人の人生をどう支援していくかを、講義、視聴覚教材、演習などを通して、身体 (生物学的)・こころ (心理学的)・環境 (社会的) から見る事が出来るよう、自身を含めた身近なコトとして一緒に考えていきましょう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 障害を持つ人へのリハビリテーション技術を理解する
- 2 他職種等とのチームワーク、関係機関とのネットワークの重要性を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	精神障がい者を取り巻	精神障がい者を取り巻	障がいを持つ人へのリ	精神障がい者支援を身

	く諸問題を自身を含めた身近なコトとして考えられない。	く諸問題を自身を含めた身近なコトとして考えられる。	ハビリテーション技術を理解する。	体(生物学的)・こころ(心理学的)・環境(社会学的)から見る事が出来る。
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神科リハビリテーションの概念と歴史
 - 第 2 回 精神科リハビリテーションの理念と現状
 - 第 3 回 地域を基盤にした相談援助ー受理面接
 - 第 4 回 地域を基盤にした相談援助ー支援の計画と終結
 - 第 5 回 地域を基盤にした相談援助ー家族の支援
 - 第 6 回 集団療法
 - 第 7 回 行動療法
 - 第 8 回 面接技法 I 種類
 - 第 9 回 面接技法 II ロールプレイ
 - 第 10 回 ケアマネジメントの概念と歴史
 - 第 11 回 ケアマネジメントの理念と現状
 - 第 12 回 スーパービジョン
 - 第 13 回 コンサルテーション
 - 第 14 回 ネットワーキングとセルフヘルプ
 - 第 15 回 これからの精神科リハビリテーションの課題
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、小テスト、視聴覚教材、プリント、グループワークなど。課題はその都度講義内でフィードバックする。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。試験のフィードバックは試験後に解説し行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自分や周りの人々を含めて、メンタルヘルス(精神保健)について疑問を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験(50%)、授業参加(30%)、小テスト(20%)。出席回数3分の2に満たない者はテスト等の受験資格を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座(4)精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』//中央法規///学内販売予定

*テキストは使用しないが適宜読むこと。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 社会福祉士・精神保健福祉士として施設で勤務中。

精神疾患とその治療 I 2021年度以降入学者

SWR2203N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

金曜1限

DP2:知識・理解力

60

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学Iでは、統合失調症、躁うつ病、不安障害(パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害)、摂食障害、心身症など代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解していくことを目的とする。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者と家族の支援のあり方について説明することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統合失調症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
2. 躁病・うつ病の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
3. 不安障害(パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害)の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
4. 心身症について説明できる
5. 摂食障害の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

6. 向精神薬の特徴と作用について説明できる

7. 医療が必要な状態について説明できる

【ループリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害の分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の原因と症状について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因と症状について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的な治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的な治療について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の薬物療法や専門的な治療について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる

医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、知識を持っている	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況について、知識を持っていない	精神障がい者と家族がおかれている状況について、知識を持っている	得られた知識をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて気づくことができる	気づいたギャップについて、学んだ知識をもとに情報を収集し、課題を見出すことができる

【授業計画】

- 第 1 回 精神医学概論（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 2 回 統合失調症とは（1）概論（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 3 回 統合失調症とは（2）幻覚・妄想など
- 第 4 回 統合失調症とは（3）自我障害、陰性症状など
- 第 5 回 統合失調症とは（4）治療など
- 第 6 回 確認テスト／躁うつ病概論・うつ病（精神保健・福祉の歴史を含む）
- 第 7 回 うつ病および躁病（1）症状・診断について
- 第 8 回 うつ病および躁病（2）治療・対応について
- 第 9 回 確認テスト／不安障害（1）概論／パニック障害などについて
- 第 10 回 不安障害（2）パニック障害・広場恐怖／社交不安障害などについて
- 第 11 回 不安障害（3）社交不安障害／強迫性障害などについて
- 第 12 回 不安障害（4）強迫性障害／転換性障害、解離性障害などについて
- 第 13 回 確認テスト／不安障害（5）転換性障害、解離性障害／心身症などについて

第 14 回

摂食障害（1）病態および合併症について

第 15 回

確認テスト／摂食障害（2）治療などについて

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する

毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする

確認試験に対するフィードバックは、試験結果の返却時に講評・解説を口頭で行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストで、該当箇所を読んでおくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

討議を含む授業参加度・授業態度（15%）、確認テスト（85%）による総合評価。

〔留意事項（Other Information）〕

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『精神医学と精神医療』/一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集/中央法規/2021//学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版)』/日本精神保健福祉士養成精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学—精神疾患とその治療（改訂新版精神医学(MINOR TEXTBOOK)』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

精神疾患とその治療Ⅱ 2021年度以降入学者

SWR2454N1J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン・生活環境学科＞福祉生活デザイン学科・生活環境学科（実践的科目）

2年次

2単位 後期

金曜 5限

DP4：思考・解決力

60

精神疾患とその治療I

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神疾患とその治療Ⅱでは、PTSD、適応障害、パーソナリティ障害、発達障害、アルコール・薬物依存、睡眠障害、認知症、てんかんなど各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解し、また向精神薬の作用についても理解していく。さらに、医療機関との連携や地域精神保健の展開についても理解を深めていく。これらの理解のうえに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について分析する力をつける。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者・家族の支援のあり方について説明することができる
5. 精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について、分析し説明することができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. PTSD、適応障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
2. パーソナリティ障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
3. 発達障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
4. アルコール依存・薬物依存の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
5. 主な睡眠障害の症状・診断について説明できる
6. てんかんの症状・診断法・治療法・支援の方法について説明できる
7. 主な認知症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
8. 地域で暮らす精神障害者の支援とその課題について具体的に述べることができる
9. 医療が必要な状態について説明できる
10. 向精神薬の特徴と作用について説明できる
11. 精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱで学んだ精神障害に関する

る知識をもとに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について説明できる

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害の分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の原因と症状について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因と症状について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的治療について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の薬物療法や専門的治療について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる

精神医療・精神保健福祉に関連する法律について	知識を持っていない	知識を持っている	講義資料等を用いて、説明できる	精神医療・精神保健福祉に関連する法律の課題について議論することが出来る
医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、知識を持っている	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて、説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況について、知識を持っていない	精神障がい者と家族がおかれている状況について、知識を持っている	得られた知識をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて気づくことができる	気づいたギャップについて、学んだ知識をもとに情報を収集し、課題を見出すことができる

【授業計画】

- 第 1 回 ストレス関連障害（1）－PTSD概論－
- 第 2 回 ストレス関連障害（2）－PTSD各論、適応障害など－
- 第 3 回 ストレス関連障害（2）－急性ストレス障害、適応障害など－
- 第 4 回 パーソナリティ障害（1）概論
- 第 5 回 パーソナリティ障害（2）各論
- 第 6 回 確認テスト／発達障害（1）概論、学習障害など
- 第 7 回 発達障害（2）ADHDなど
- 第 8 回 発達障害（3）自閉スペクトラム症
- 第 9 回 アルコール依存
- 第 10 回 薬物依存
- 第 11 回 確認テスト／睡眠障害／てんかん（1）－概論

- 第 12 回 てんかん（2）－診断・症状・治療・対応について
- 第 13 回 認知症について－概論・アルツハイマー病
- 第 14 回 その他の主な認知症について
- 第 15 回 確認テスト／精神保健福祉法、地域精神医療について

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心とし、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する。

毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする

確認試験に対するフィードバックは、試験実施後や試験結果の返却時等に講評・解説を口頭で行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストで、該当箇所を読んでおくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

討議を含む授業参加度・授業態度（15%）、確認テスト（85%）による総合評価。

〔留意事項（Other Information）〕

・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。

・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神医学と精神医療』/一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集/中央法規/2021//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版)』/精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学(MINOR TEXTBOOK)』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

精神保健学 I

SWA2204N1J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン・生活環境学科＞福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜 5限

DP2: 知識・理解力

60

光井 朱美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「こころの健康」を保持増進するための精神保健学は、精神医学・公衆衛生学・発達心理学・臨床心理学などとともに発展してきた実践的な学問です。「こころの健康」を個人・集団・環境などさまざまな観点から考え、現代社会が直面している精神保健の課題を全般的に理解し、広い視野を持ってその課題を見る視点について学びます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

「こころの健康」を自分や家族の身近なテーマとして意識することからはじめ、現代社会を生きる人々の「こころの健康」をどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
こころの健康に関する正しい知識を身につける	こころの病は特別な人になる特別な病気であると考えている。	こころの病は誰にでもなるものであり、ストレス解消や支えが必要であることが理解し説明できる。	こころの病は誰にでもなるものであり、その状態にあわせて必要な支援が理解し説明できる。	こころの病は誰にでもなるものであり、その人の状態に加え、その人の置かれている状況や資源をふまえた必要な支援が理解し説明できる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション・わたしたちとこころの健康
本当は誰にとっても身近であるこころの健康の考え方について学びます。

第 2 回 精神保健の歴史と課題
遅れている日本の精神保健福祉システムの理由を理解するためにこれまでの歴史を学びます。

第 3 回 ライフサイクルと精神の健康 I（乳児期から思春期）
人の人生はそれぞれの時期に求められる発達課題があります。乳児期から思春期の発達課題とこころの健康について学びます。

第 4 回 ライフサイクルと精神の健康 II（青年期から老年期）

- 人の人生はそれぞれの時期に求められる発達課題があります。青年期から老年期の発達課題とこころの健康について学びます。
- 第 5 回 ストレスと精神の健康、精神保健に関する予防
ストレスとこころの健康との関連、精神保健の予
防という考え方を学びます。
- 第 6 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ
(1) 結婚と育児
精神保健と家族の課題として、結婚と出産、育児
について学びます。
- 第 7 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ
(2) 社会的引きこもり
精神保健と家族の課題として、思春期・青年期の
社会的ひきこもりについて学びます。
- 第 8 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ
(3) 病気療養や介護
精神保健と家族の課題として、家族の誰かが病気
や「障害」、高齢になってケアや介護が必要にな
った場合の「ケアラー」について学びます。
- 第 9 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプロ
ーチ (1) 現代の学校教育と生徒児童の特徴
精神保健と学校教育の課題として、不登校やいじ
めなど子どもたちの直面する課題について学びま
す。
- 第 10 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプロ
ーチ (2) 教員の精神保健
精神保健と学校教育の課題として、子どもたちに
向かい合っている教員のメンタルヘルスについて
学びます。
- 第 11 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプロ
ーチ (3) 学校における精神保健福祉士の役割
精神保健と学校教育の課題として、スクールソー
シャルワーカーの活動と実際について学びます。
- 第 12 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプロ
ーチ (1) 現代日本の労働環境
精神保健と労働の課題として、長時間労働やスト
レスフルな労働環境など勤労者が直面する課題に
ついて学びます。
- 第 13 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプロ
ーチ (2) うつ病と過労自殺
精神保健と労働の課題として、うつ病や過労自殺
について学びます。
- 第 14 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプロ
ーチ (3) 職場における精神保健福祉士の役割
精神保健と労働の課題として、ソーシャルワーク
の果たす役割について学びます。
- 第 15 回 理解度確認テストと解説・まとめ
これまでの授業の理解度を確認するためのテスト
と解説を行い、まとめを行います。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積
極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に
配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義
などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記
入し提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記
入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて
返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
該当する部分を教科書等で整理しておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))]〕
30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で
評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点
が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕
教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入するこ
と。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕
『最新・精神保健福祉士養成講座 精神保健の課題と支援
(2) 第3版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央
法規/2021/978-4-8058-5595-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕
授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫ 保健師として行政での精神保健業務並びに
児童福祉司として児童相談所での勤務経験あり。

精神保健学 II

SWA2452N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

月曜 5限

DP4 : 思考・解決力

60

光井 朱美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健学 I の基本的知識をふまえて、「こころの健康」の
個別の課題に対して理解を深め、現代社会が直面している
精神保健の課題に対する具体的な支援や解決方法について
学びます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代社会を生きる人々の「こころの健康」の個別課題についてどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
こころの健康の個別課題に関する正しい知識を身につける	こころの病の個別課題の違いについて理解できていない。	こころの病の個別課題の違いについて、理解し説明できる。	こころの病の個別課題の違いについて理解し説明できるとともに、その状態にあわせて必要な支援が理解し説明できる。?	こころの病の個別課題の違いについて理解し説明できるとともに、その人の状態に加え、その人の置かれている状況や資源をふまえた必要な支援が理解し説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・こころの健康と支援
「こころの健康」の個別の課題に対して具体的な支援や解決方法についての考え方について学びます。
- 第 2 回 発達障害とこころの健康
発達障害について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 3 回 アルコール・薬物問題とこころの健康
アルコール・薬物問題について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 4 回 うつ病・自殺対策とこころの健康
うつ病・自殺対策について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 5 回 認知症とこころの健康
認知症について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 6 回 災害とこころの健康
災害とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 7 回 DVとこころの健康
DV (夫婦間暴力) とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 8 回 貧困とこころの健康
貧困とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 9 回 ホームレス問題とこころの健康
ホームレス問題とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 10 回 LGBTとこころの健康
LGBTとこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。

- 第 11 回 ターミナルケアとこころの健康
ターミナルケアとこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 12 回 WHOとこころの健康
WHO (世界保健機関) とこころの健康について理解し、全世界で取り組まれているこころの健康についての施策や取り組みについて理解します。
- 第 13 回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 (イタリア)
イタリアにおける精神保健の現状について学び、日本の課題について振り返ります。
- 第 14 回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策 (イギリス)
イギリスにおける精神保健の現状について学び、日本の課題について振り返ります。
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

該当する部分を教科書等で整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『最新・精神保健福祉士養成講座 精神保健の課題と支援 (2) 第3版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2021/978-4-8058-5595-9/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 保健師として行政での精神保健業務並びに児童福祉司として児童相談所での勤務経験あり。

精神保健福祉援助演習（基礎）

SWR3202NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科（実践的科目）

3年次

1単位 前期

水曜 2限

DP2：知識・理解力

15

知名 純子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

精神保健福祉士の援助に必要な対人援助の基礎を学ぶ。援助とは、相談・訪問・グループ活動などさまざまな場面で、自分という人間を通して相手に働きかける行為でもあり、自分自身を知ること、他者を理解することを基盤に、面接等における傾聴の姿勢を習得すると同時に、そこから浮かび上がるニーズを、個人にとどまらず環境（人間関係や社会資源、そして地域社会）との接点にどのように働きかけるかについてグループワーク、ロールプレイ等を通して演習を行う。

- (1) 支援の仕事を目指す自己の動機と目的意識を確認し、自己理解と他者理解を深める契機とする
- (2) 援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得する
- (3) 援助専門職に求められる面接技法、記録技術、コミュニケーションの基礎を習得する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得する	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解できていない	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき説明できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実行できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実行できるとともにわかりやすく説明できる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション・ソーシャルワークとは
 ソーシャルワークの基本と視点を学び、これから身につけていく姿勢と技術を確認します。

- 第 2 回 自分を知ること 自己覚知
 ソーシャルワークは「自分を使って」支援する職業です。自分をより知ることは良い支援に必須です。いくつかのワークで自分をより知ることを目指します。
- 第 3 回 自分を知り他者を知る 「見えている世界」の違いの理解
 ソーシャルワークの重要なもう一つの視点は、クライアントやその家族の身になって考えることです。いくつかのワークを通して自分の「見えている世界」を確かめてみます。
- 第 4 回 精神保健福祉士の価値と倫理
 精神保健福祉士の価値と倫理をいくつかのワークを通して身につけます。
- 第 5 回 援助の基本姿勢 バイスティックの原則の理解を通して
 ソーシャルワークの基本姿勢として、バイスティックの原則を学び身につけます。
- 第 6 回 援助の基本姿勢 傾聴について学ぶ
 傾聴はソーシャルワークの基本姿勢・技術として中核となるものです。傾聴のあり方についていくつかのワークを通して身につけます。
- 第 7 回 援助の基本姿勢 問うことの工夫
 ソーシャルワークはクライアントとの協働が求められるため、聴くだけでは十分ではありません。どのように「問う」かをいくつかのワークで考えます。
- 第 8 回 援助の基本姿勢 望んでいない支援を届ける
 表面的には支援を望んでいない人にも支援を届ける必要がある場合があります。どのような姿勢でどのようにかかわっていくのか、いくつかのワークでその関わり方の基本を身につけます。
- 第 9 回 援助の基本姿勢 グループワークとは何か
 グループの力をどのように活用するのか、いくつかのワークを通してその姿勢と方法を身につけます。
- 第 10 回 アセスメントの重要性 ニーズをとらえる
 本人が口にするだけで「ニーズ」ではありません。口にされたデマンド以外にさまざまな要素を考えて「ニーズ」を（本人とともに）見つけていかないとけません。その姿勢と基本的技術を身につけます。
- 第 11 回 プランニングに求められること 目標を共有する
 協働であるソーシャルワークは、本人の願いや希望をともに考え、それを実現するための方法もともに考えるところに特徴があります。支援計画を立てていく際の基本姿勢と基本技術を身につけます。
- 第 12 回 記録の重要性 振り返ること、支援をつなげること
 記録はソーシャルワークをよりよくしていくものとして欠かせないものです。その記録の基本について学びます。

第 13 回 コミュニティアセスメント ネットワークの重要性

クライアントの願いや希望は多様でひとりの人やひとつの機関だけでは完結しないものです。多くの機関や支援者とともに支援をしていくネットワークのあり方についてワークを通じて身につけていきます。

第 14 回 社会資源の開発・ソーシャルアクション

ソーシャルワークの重要な特徴のひとつは、個別のニーズをいかに地域の課題と連動してとらえ、コミュニティに働きかけるソーシャルアクションです。ソーシャルアクションの基本姿勢についてワークを通して身につけます。

第 15 回 事例を通して精神保健福祉士の援助に必要な対人援助の基礎を学ぶ

これまでの学びを総合的に活かし、ひとつの事例にどのようにかかわっていくかを学んでいきます。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。授業中に口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当する部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (100点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016/978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

総合病院、京都市行政、精神科診療所で精神保健福祉士の経験あり

精神保健福祉援助演習 (専門) I

SWR3454N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

1単位 後期

金曜 2限

DP4: 思考・解決力

15

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉士が行う相談援助を体系的に学び、ケースワークやグループワークなどの説明できるとともに、それらの具体的な技術を用いて精神に「障害」のある人に対して適切な支援を提供できる。また、自己を客体視する力、主体的に行動する力、そして精神に「障害」のある人の生活や人生を深く理解する力を養い、より適切な支援が可能となることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

精神保健福祉援助実習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術	精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができている	精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実習施設にあわせて実践できる準備ができている	精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術をその施設がある地域の実情にあわせて実践できる準備ができている

〔授業計画〕

- 第 1 回 ケースワーク技術－面接相談
- 第 2 回 ケースワーク技術－電話相談
- 第 3 回 ケースワーク技術－訪問援助
- 第 4 回 グループワーク技術－グループワーク体験
- 第 5 回 グループワーク技術－S S T
- 第 6 回 コミュニティワーク技術－社会資源の活用
- 第 7 回 コミュニティワーク技術－ネットワーキング
- 第 8 回 ケアマネジメント技術－インテークからアセスメント
- 第 9 回 ケアマネジメント技術－プランニングから終わりで
- 第 10 回 チームアプローチ
- 第 11 回 精神科医療機関における事例の検討－地域移行

第 12 回 相談支援事業所における事例の検討ーピアサポート

第 13 回 就労支援事業所における事例の検討ー就労

第 14 回 行政機関における事例の検討ー危機介入

第 15 回 まとめ・精神保健福祉における支援とは

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当する部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (100点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016/978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助技術各論 I

SWR3453N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

水曜 1限

DP4 : 思考・解決力

60

知名 純子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを一緒に考えていきます。(1) 地域移行支援について、(2) 精神障害者と家族について、(3) 個別支援について等を具体的事例に基づきながら理解を深めていきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 人と「向き合い」、「寄り添い」、「支援する」について

(2) 社会的入院ー地域移行・地域定着について

(3) 家族支援について

(4) 個人に対する援助方法 (ケースワーク)

(5) グループを用いて援助する方法 (グループワーク)

(6) 専門性について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	援助専門職として相談援助に何が必要か、理解できていない	援助専門職として相談援助に何が必要か、理解できていない	援助専門職として相談援助に必要な基本的知識・情報について理解し、実践できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実践できるとともにわかりやすく説明できる
思考・解決力	知識を習得できていないため、問題を解決できない	理論については理解し記憶しているが、事例に応用できない	理論についての確に理解し、事例にも応用ができる	理論を知識として習得し、事例に対する解決方法が複数考えられる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

～自分を知らう～

第 2 回 自分について考える

相談援助の周辺理論 1 : 非言語コミュニケーション・防衛機制

第 3 回 私のコミュニケーション

相談援助の周辺理論 2 : 交流分析

第 4 回 他者を理解するために必要なこと

相談援助の周辺理論 3 : ナラティブ・アプローチ

第 5 回 精神障害者の支援モデル

社会資源について学ぶ

第 6 回 ケースワーク 1

相談援助の過程① : インテーク、契約、アセスメント

第 7 回 ケースワーク 2

相談援助の過程② : インターベンション、モニタリング、効果測定・評価、終結とアフターケア

第 8 回 ケースワーク 3

面接の意味と目的

第 9 回 ケースワーク 4

面接技法と記録の内容

第 10 回 グループワーク 1

集団を活用した支援の実際と事例分析① : デイケアとグループワーク

第 11 回 グループワーク 2

集団を活用した支援の実際と事例分析② : S S T (生活技能訓練)

- 第12回 グループワーク3
集団を活用した支援の実際と事例分析③：セルフヘルプグループ
- 第13回 クライアントと家族の相互作用
家族支援の方法
- 第14回 支援者の成長と支援
スーパービジョンとコンサルテーション
- 第15回 試験とまとめ
試験後、試験内容と全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義はグループ演習、ディスカッション、ロールプレイなど参加型で行います。また、現場の生の声を届けられるよう、新聞記事や動画を見ながら考えたり、ゲストスピーカーを迎えるなどを行います。精神保健福祉士の実践の基礎を学べる授業を考えています。クライアントを支援するにあたり、まず押さえておくべき自身の考え方の癖や特徴を客観的に把握できるようになること、また同じ物事に直面したときの問題の捉え方の違いが人それぞれにあることを知った上で、事例や課題を検討します。最終講義日試験の説明は試験終了後に授業で行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

なぜ、あなたは精神保健福祉士を目指すのか、あなたの中の「精神保健福祉士」のイメージや理想像などについて、考えておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

指定するメディア情報、配付資料に目を通すこと。次回授業の最初の方で、設題に回答してもらいます。

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(40点)・試験(60点)の総合評価とします。参加型の授業スタイルのため、欠席、遅刻は他の受講生の迷惑になります。また演習に参加できないと授業で得られる成果が半減しますので注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

予定は、授業の流れによって前後します。

毎回、グループワークを実施し、演習テーマを設けたり、動画を観て現状について考たりした上で、自分の考えや意見を述べてもらう時間があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (新カリキュラム対応) 第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II』/日本精神保健福祉士養成協会/中央法規/2012/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業で紹介します

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

総合病院で精神科ソーシャルワーカーとして、行政と精神科診療所で精神保健福祉士の実務経験あり。

精神保健福祉援助実習Ⅰ

SWR3551NOJ

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

60

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。

2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。

3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。

4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っている個別支援	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っている個別支援がわからない	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っている個別支援の基本を実践できる	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っている個別支援を場面に応じて実践できる	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っている個別支援を環境にも同時に働きかけて実践できる

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。なお社会福祉援助技術現場実習の単位修得者は、本科目は免除となるため、履修する必要はない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり
伊藤一美 臨床心理士として精神科病院の勤務経験あり
薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習 II

SWR3552N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

60

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を用いてプログラム運営を行う	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術をよく理解できていないため、実施できない	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使い、プログラムの基本的な働きかけができる	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使い、プログラムの場面に応じた働きかけができる	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使い、プログラムのメンバーのニーズや置かれている地域を踏まえた働きかけができる

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり
 伊藤一美 臨床心理士として精神科病院の勤務経験あり
 薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習Ⅲ

SWR3553N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

3単位 集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

105

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神科医療機関における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術	精神科医療機関の精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術が理解できていない	精神科医療機関の精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を基本的な場面で提供できる	精神科医療機関の精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を場面に応じて提供できる	精神科医療機関の精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を、置かれている環境も考慮に入れて提供できる

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

指定された精神科病院、精神科診療所での指導のもと、90時間(13日)以上の実習に取り組む。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶

佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり
 伊藤一美 臨床心理士として精神科病院の勤務経験あり
 薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習指導

SWR3455N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

3単位 後期

木曜 3限 木曜 4限 木曜 5限

DP4: 思考・解決力

45

週3コマ

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習の意義を理解するとともに、実習を通して精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶことができるよう、精神に「障害」のある人の現状やその生活実態と困難を理解し、精神保健福祉士として求められる資質、知識、技術等を総合的に発揮できるような能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
- 2 精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の困難について理解する。
- 3 精神保健福祉援助にかかる知識と技術について具体的かつ実際に理解する。
- 4 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題などを把握し、総合的に能力を発揮できる力を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健医療福祉機関の実習に臨むために必要な準備	精神保健医療機関の実習に臨むために必要な知識や具体的な支援技術を知らない	精神保健医療機関の実習に臨むために必要な知識や具体的な支援技術を基本的な場面で提供できている	精神保健医療機関の実習に臨むために必要な知識や具体的な支援技術を、個別的な状況にあわせて提供できている	精神保健医療機関の実習に臨むために必要な知識や具体的な支援技術を、置かれている環境にも働きかけられる準備ができている

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習オリエンテーション
- 第 2 回 精神科医療機関における精神保健福祉士の実際 / 精神科医療機関の見学実習
- 第 3 回 精神科診療所における精神保健福祉士の実際 / 精神科診療所の見学実習
- 第 4 回 生活支援事業所における精神保健福祉士の実際 / 生活支援事業所の見学実習
- 第 5 回 就労支援事業所における精神保健福祉士の実際 / 就労支援事業の見学実習

- 第 6 回 行政、相談機関における精神保健福祉士の実際／行政、相談機関における精神保健福祉士の実際
- 第 7 回 実習先施設の事前訪問・見学実習
- 第 8 回 自己覚知 1 (自分を知る)
- 第 9 回 自己覚知 2 (自分のフィルターを知る)
- 第 10 回 実習計画書の作成 (目標設定) / 本人の体験談から学ぶ
- 第 11 回 実習計画書の作成 (方法) / 家族の体験談から学ぶ
- 第 12 回 実習記録の書き方
- 第 13 回 支援計画の作り方 (アセスメント)
- 第 14 回 支援計画の作り方 (プランニング)
- 第 15 回 実習直前指導

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

授業開始時に配付する資料に基づいて講義演習実習を行う。施設見学実習も5回行う。口頭で適宜フィードバックする。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

前の講義で指示された準備学習をしていくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

授業参加度 (50点) とレポートなどの事前学習における評価 (50点) で評価を行う。

[留意事項 (Other Information)]

3コマ連続の授業である。見学先の都合により、曜日時間等の変更もある。見学には交通費実費 (往復500円~1,000円程度) が必要となる。授業第1回目に詳細を説明する。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

なし

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業時に紹介する

[参考URL(URL for Reference)]

授業時に紹介する

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫

佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり
伊藤一美 臨床心理士として精神科病院の勤務経験あり
薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉相談援助の基盤(基礎) 2017年度以降入学者

SWR1250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

佐藤 純

[科目の教育目標 (Course Description)]

1) 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み (理念・視点・関係性) について理解する。

2) 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。

3) 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1) 社会モデルを用いて「障害」を説明できること

2) 精神障害者の障害特性やその生活上の困難について説明できること

3) 精神「障害」のある当事者やその家族と置かれている状況について説明できること

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害者の「障害」やその生活支援について説明できること	精神障害者の「障害」やその生活支援について説明できない	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できる	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できるとともに社会関係からも説明を加えることができる	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できるとともに、海外や日本の特性も加えて説明を加えることができる

[授業計画]

- 第 1 回 オリエンテーションーソーシャルワークとは
- 第 2 回 精神保健福祉士とは
- 第 3 回 障害者福祉の思想と原理
- 第 4 回 障害者福祉の理念
- 第 5 回 障害者福祉の歴史的展開
- 第 6 回 障害者福祉の現状
- 第 7 回 国際生活機能分類 (ICF)
- 第 8 回 精神疾患と精神「障害」
- 第 9 回 各法における「精神障害者」の定義

- 第 10 回 日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事 (昭和まで)
- 第 11 回 日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事 (平成以降)
- 第 12 回 社会的排除と社会的障壁 諸外国の動向
- 第 13 回 日本の社会的障壁
- 第 14 回 精神障害をどうとらえるか (まとめ)
- 第 15 回 理解度確認テスト・解答解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に manaba に記入し授業終了時に提出します。次回の授業までには教員がコメントを記入して manaba に返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前にテキストを読み、概要を理解しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト50点、レポート35点、授業参加度15点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神保健福祉の原理』/最新・精神保健福祉士養成講座/日本精神保健福祉養成校協会編/中央法規/2021/978-4-8058-8256-6/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉相談援助の基盤(専門)

SWR2401N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜3限

DP4: 思考・解決力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉士が行う相談援助の対象及び相談援助の役割や意義、理念や権利擁護について学ぶことにより理解し、それらを体系的に説明でき、多職種とともに精神に「障害」のある人に対して適切な支援を判断できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉士の役割と意義を説明できる
- 2 精神保健福祉士の相談援助の定義、理念、権利擁護について説明できる
- 3 精神保健福祉分野における相談援助の体系について説明できる
- 4 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲と総合的・包括的な援助や多職種連携について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉士の役割と意義を説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を説明できない	精神保健福祉士の役割と意義を説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を社会的背景も踏まえて説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を社会的背景とこれまでの歴史的経過も踏まえて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 精神保健福祉士の支援とは
- 第 2 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅰ (意義と役割)
- 第 3 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅱ (Y問題)
- 第 4 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅲ (精神保健福祉士法)
- 第 5 回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅰ (ソーシャルワーク)
- 第 6 回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅱ (支援技術)
- 第 7 回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅰ (医療職)
- 第 8 回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅱ (その他)
- 第 9 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅰ (偏見)
- 第 10 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅱ (医療)

- 第 11 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅲ（地域生活）
- 第 12 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅳ（社会生活）
- 第 13 回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅰ（包括的な支援）
- 第 14 回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅱ（ネットワーキング）
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後にmanabaに記入し授業終了時に提出します。次回の授業までには教員がコメントを記入してmanabaに返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

理解度確認テスト（50点）、授業参加度（15点）、レポート点（35点）で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大いなので注意。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『新・精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2015/978-4-8058-5118-0/学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

授業中に示す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示す。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉論Ⅰ

SWR2201N1J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン・生活環境学科＞福祉生活デザイン学科・生活環境学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期

水曜 3限

DP2：知識・理解力

60

早川 紗耶香

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「精神障害」の概念を理解したうえで、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し、支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステム形成に関わる知識と技術を習得し、実践力の高い精神保健福祉士となることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解し説明できること
2. 精神に「障害」のある人が置かれている現状を知り、地域生活を支えるための制度施策や視点について理解し説明できること
3. 精神に「障害」のある人の生活を支える精神保健福祉士のあり方について理解し説明できること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解し説明できること	精神「障害」を説明することができない	精神「障害」を疾患との関係で説明することができる	精神「障害」を疾患との関連に加え、社会との関連についても説明できる	精神「障害」を疾患との関連に加え、社会との関連、さらには国の文化や歴史をふまえて説明できる
精神障害のある人の地域生活を支えるための支援や制度、方向性について論じることができる	支援や制度、方向性について論じることが全くできない	精神障害のある人の地域生活を支えるための方向性について理解し説明することができる	精神障害のある人の地域生活を支えるための支援や制度について説明できる	精神障害のある人の地域生活を支えるための方向性について論じ、支援や制度について具体的に説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神障害者の概念Ⅰ 精神疾患とは
- 第 2 回 精神障害者の概念Ⅱ 精神疾患と精神障害
- 第 3 回 精神障害者の生活の実際
- 第 4 回 精神障害者の生活と人権

第 5 回 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援

第 6 回 余暇活動・広義の「働くこと」について

第 7 回 ソーシャルサポートネットワーク

第 8 回 精神障害のある人の居住支援

第 9 回 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割

第 10 回 精神障害のある人の雇用・就業支援Ⅰ 理念及び制度

第 11 回 精神障害のある人の雇用・就業支援Ⅱ 実践

第 12 回 精神障害のある人の雇用・就業支援Ⅲ 福祉的就労

第 13 回 行政における精神保健福祉士の役割

第 14 回 海外における地域生活支援

第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
講義形式で行う。
視聴覚教材の活用や、ゲストスピーカーに参加していただきながら、講義の理解を深めてもらいたい。授業開始時にコメントカードを配布するので、質問や感想は授業中や授業後に記載し提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。
コメントカードについては提出分については教員がコメントを記入して返却し、共有できるものがあれば全体で共有する。レポートについては採点し、コメントを記入し返却する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
理解度確認テスト (60点)、レポート点 (40点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕
教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『新精神保健福祉士養成講座 (7) 精神障害者の生活支援システム 第3版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018/978-4-8058-5597-3/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業時に紹介する
〔参考URL(URL for Reference)〕
授業時に紹介する
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫ 早川紗耶香 精神保健福祉士として施設での勤務経験あり。

精神保健福祉論Ⅱ

SWR2452N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

水曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

「精神保健福祉論Ⅰ」の履修者であること

早川 紗耶香

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉法や障害者総合支援法を理解し、精神障害者の支援や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士の視点を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院や行動制限の際の権利擁護の手段と方法について説明できる。
- 2 精神保健福祉法や障害者総合支援法における精神保健福祉士の役割と課題について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護の在り方や精神保健福祉士の役割について論じることができる	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護について説明が全くできない	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護の在り方を論じることができる	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護の在り方を論じ、精神保健福祉士の役割について説明できる	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護の在り方や精神保健福祉士の役割について現状と課題を論じることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・精神障害者への相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス
- 第 2 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯Ⅰ 精神衛生法成立まで
精神衛生法制定以前の精神障害のある人の置かれていた状況や歴史的背景について知る
- 第 3 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯Ⅱ 精神衛生法の改正
主に改正精神衛生法の留意点や課題について考える
- 第 4 回 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
精神保健法から精神保健福祉法に至った経緯や留意事項などを学ぶ
- 第 5 回 精神保健福祉法成立の意義とその後の展開

- 精神保健福祉法の概略を把握する
- 第 6 回 精神保健福祉法の構成（1・目的と対象）
精神保健福祉法の対象や目的について理解する
- 第 7 回 精神保健福祉法の構成（2・入院形態）
入院形態の種別などについて理解し、権利擁護のありかたを考える
- 第 8 回 精神保健福祉法の構成（3・行動制限など）
精神保健福祉法に規定されている行動制限について理解し、課題についても考える
- 第 9 回 精神保健福祉法の構成（4・保健及び福祉）
精神保健福祉手帳や保健所などの精神保健福祉法に規定されているサービス等について知る
- 第 10 回 精神保健福祉法の動向と課題
精神保健福祉法の動向を理解し、現時点での課題についても触れる
- 第 11 回 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割及び課題について考える
- 第 12 回 障害者基本法と精神障害者施策との関わり
障害者基本法および障害者施策について理解する
- 第 13 回 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際
障害者総合支援法の中で、精神障害のある人がどのようなサービスを使っているのかを知る
- 第 14 回 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際
福祉施策や事業の実際を知り、現状における課題についても考える
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式を中心とする。理解を深めるために視聴覚教材を使用する。
授業開始時にコメントカードを配布するので、授業中もしくは授業後に感想及び質問を記載し提出すること。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
授業当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。
授業中や授業後に記入してもらったコメントカードはコメントをつけ授業開始時に返却する。共有したほうが良いものについてはクラス全体で共有する。レポートは採点し、コメントをつけて返却する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
理解度確認テスト（60点）、レポート点（40点）で評価を行う。
〔留意事項（Other Information）〕
教科書を使って授業をするので必ず購入すること。
授業計画は、状況に応じて変更もある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『新・精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018 //学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業時に紹介する
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
《実践的科目》 早川紗耶香 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉論 III

SWR4500N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

4年次

2単位 前期

水曜2限

DP5：共生・協働する力

90

早川 紗耶香

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神障害者の支援にかかわる法律や施策について学び、それらを説明できるとともに、対象者に応じた制度の説明を考えることができる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1) 精神保健福祉の関連施策について理解し説明できる
- 2) 更生保護制度と医療観察法について理解し説明できる
- 3) 社会資源開発にかかる社会調査の概要と活用について理解し説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉の関連施策について理解し説明できる	精神保健福祉の関連施策についてまったく説明できない	精神保健福祉の関連施策について理解し説明できる	精神保健福祉の関連施策について理解し精神に障害のある人を支援する際に必要な制度やサービスについて説明できる	支援する対象の人にあわせて必要な制度やサービスについて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 精神障害者と社会保障制度
第 2 回 社会保障制度と社会福祉制度
日本の社会保障制度の仕組みについて大要を把握する
第 3 回 医療保険制度

- 医療保険制度の概要について理解する
- 第 4 回 介護保険制度
介護保険制度の概要、障害福祉サービスとの関連などについて理解する
- 第 5 回 生活保護制度
生活保護の概要、留意事項等について理解する
- 第 6 回 年金保険制度
日本の年金保険制度について概要を理解する
- 第 7 回 社会手当・雇用保険など
日本の社会手当、雇用保険の概要を知る
- 第 8 回 相談援助に係わる行政組織と民間組織
精神障害のある人の相談援助機関はどのようなものがあるか知る
- 第 9 回 福祉サービス提供施設・機関の役割、インフォーマルな社会資源について
フォーマル及びインフォーマルな社会資源の概要や目的を学ぶ
- 第 10 回 刑事司法と更生保護制度Ⅰ 司法の仕組み
日本における司法の仕組みについて大要を把握する
- 第 11 回 刑事司法と更生保護制度Ⅱ 司法・医療・福祉の連携の実際
司法医療福祉の連携の実際について事例を紹介する
- 第 12 回 医療観察法Ⅰ 意義と目的
医療観察法における意義・目的を理解する
- 第 13 回 医療観察法Ⅱ 制度概要と課題
医療観察法の概要を理解し、現状の課題を考える
- 第 14 回 社会調査の意義と目的
社会福祉における調査の意義や調査における留意事項について知り、使用頻度の高い調査方法について理解する。
- 第 15 回 理解度確認テスト、解説及び総括
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
講義形式を中心とする。
理解を深めるために教科書以外の資料や視聴覚教材などを使用する。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。
小テストは採点し、コメントをつけ次回授業開始時に返却する。
確認テストも同様。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業中に行う小テスト (50点) 及び授業最終回の理解度確認テスト (50点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業をするので必ず購入すること。なおこの教科書は精神保健福祉論Ⅱ (2年次配当) と同じであるので、その教科書でよい。

授業計画は状況に応じて変更あり。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (6) 精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2018/978-4-8058-5596-6/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 早川紗耶香 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

染色加工学

LDA3200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

木曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

衣服をはじめとした繊維製品の重要な付加価値機能として染色加工があげられる。染色加工の事象、染料や顔料、色彩、繊維と染料の相互作用等の科学的な観点ならびに繊維製品の品質管理、堅ろう性、機能加工等の実用的な観点の理解を深める。得られた知見を日常生活や社会に役立てられる応用力を修得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 染色加工について、染料や顔料、繊維と染料の相互作用、染色機構を理解する。
2. 染色加工、機能加工の視点から社会を支えるさまざまな科学的技術について知識を得る。
3. 繊維製品の品質管理、染色堅ろう性について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	色材の種類や区別、染色加工の理解ができていない。	色材、染色加工についての基礎的内容を理解している。	色材、染色加工の内容を詳細に理解し、繊維製品の品質管理について	色材、染色加工の内容を詳細に理解し、繊維製品の品質管理、堅ろう性、機能

			でも知識を深める。	加工などについて幅広く知識を深める。
思考・解決力	色材、染色加工に関する諸問題を捉えられない。	色材、染色加工に関する諸問題を捉えられる。	色材、染色加工に関する諸問題を的確に捉え、解決方法を提案できる。	色材、染色加工に関する諸問題を的確に捉え、多角的な解決方法を提案できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、なぜ染めるのか
- 第 2 回 染色の歴史、染料・顔料
- 第 3 回 天然染料と媒染
- 第 4 回 合成染料1
(酸性染料・塩基性染料・酸化染料・分散染料等)
- 第 5 回 合成染料2
(直接染料・反応染料・建染染料・ナフトール染料・硫化染料等)
- 第 6 回 前処理工程・染色助剤
- 第 7 回 染色のしくみ
- 第 8 回 光と色彩
- 第 9 回 色の評価と表色系
- 第 10 回 工芸染色
- 第 11 回 染色堅ろう度
- 第 12 回 品質表示
- 第 13 回 苦情事例
- 第 14 回 仕上げ加工・講義内試験
- 第 15 回 試験解説・講義のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。適宜必要資料を配布する。必要に応じて動画などを観る。

フィードバックとして 理解度確認の小テストを行い、解答の解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義前は関連する参考文献、配布資料を熟読しておくこと。講義中に小テストや課題を出すので、講義後は復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義内試験 (50%)、小テスト・課題(40%)、学習意欲の有無(10%)により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

衣生活材料学・繊維材料学を取っていただくことが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

「染色」って何?—やさしい染色の化学/上甲恭平 著/繊維社/2012/978-4990258047

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (企業における工学系開発業務)

繊維材料学 2017年度以降入学者

LDA2251N1J

大学

現代人間学部>福祉生活デザイン・生活環境学科>福祉生活デザイン学科・生活環境学科(実践的科目)

2年次

2単位 後期

水曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちの生活を支える繊維材料について基礎的内容から専門的内容について理解を深める。

繊維の種類や性質、糸や布の種類や構造、性質などについて解説し、健康で快適な衣生活を目指していくための能力、解決方法を修得することを目標にする。

繊維製品品質管理士 (TES) に必要とされる繊維に関する一般知識、繊維製品の製造と品質について理解を得る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

QOL(quality of life, 生活の質)の向上を目指すために、繊維材料や繊維製品に関する専門知識を修得する。

1. 繊維材料について、繊維・糸・布の種類や構造、性質を理解する。
2. 繊維材料の視点から社会を支えるさまざまな科学的技術について知識を得る。
3. 繊維製品の製造と品質要求について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	繊維材料の区別がつかず、理解できていない。	繊維材料の基礎的内容を理解している。	繊維材料を理解し、衣生活材料以外の材料についても知識を深めようとする。	繊維材料を詳細に理解し、さらに衣生活材料についても理解する。
思考・解決力	繊維に関する諸問題を捉えられない。	繊維に関する諸問題を捉えられる。	繊維に関する諸問題を的確に捉え、解決方法が提案できる。	繊維に関する諸問題を的確に捉え、状況に応じた解決方法が提案できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・衣生活と繊維材料

- 第 2 回 繊維と化学
- 第 3 回 天然繊維1 (セルロース系)
- 第 4 回 天然繊維2 (タンパク質系)
- 第 5 回 化学繊維1 (再生繊維・半合成繊維)
- 第 6 回 化学繊維2 (合成繊維・無機繊維・その他)
- 第 7 回 糸の構造と性質
- 第 8 回 布の種類と構造 (編物)
- 第 9 回 布の種類と構造 (織物)
- 第 10 回 布の種類と構造 (その他)
- 第 11 回 繊維材料の性質1 (力学的性質)
- 第 12 回 繊維材料の性質2 (形態的性質・ほか)
- 第 13 回 繊維製品の分類と新素材
- 第 14 回 ウェアラブル製品・講義内試験
- 第 15 回 試験解説・講義のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。適宜必要資料を配布する。必要に応じてビデオなどを観る。

フィードバックとして理解度確認の小テストを行い、解答の解説を行う。また、レポートについては、解説をコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日頃から衣服材料に興味を持ち、品質表示の確認、洗濯やアイロン仕上げ、保管などの経験しておくこと。

講義前は教科書や関連する参考文献、配布資料を熟読しておくこと。

講義中に小テストや課題を出すことがあるので、講義後は復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義内試験 (50%)、小テスト・課題(40%)、学習意欲の有無 (10%)により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

衣生活材料学を取っておくこと。

繊維製品品質管理士(TES)試験を受験予定の人は受けておく方が望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『衣の科学シリーズ 衣服材料の科学 [第3版]』/島崎恒蔵編著/建帛社/2009/978-4-7679-1049-9

『新訂 (第3版) 繊維製品の基礎知識シリーズ』3分冊

※繊維製品品質管理士 (TES) 試験を受験予定の人は必須。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

〈実践的科目〉 (企業における工学系開発業務)

地域福祉論 I

SWA3200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々がさまざまな生活問題や社会福祉問題を抱えながら暮らしているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安全・安心に暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。

このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通して考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方 (概念)・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要な取り組み、専門機関や各種関連組織等について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分の地域や課題について、考えようとすることができない	自分の地域や課題について、情報収集しようとするができる	自分の地域や課題について、理解することができる	自分の地域や課題について、理解し、そのために何ができるかを考えることができる
知識・理解力	地域や地域福祉について、理解することができない	地域や地域福祉について、理解しようとするができる	地域や地域福祉について、理解し、大切なことが何かを考えることができる	地域や地域福祉について、理解し、課題解決に必要なことを考えることができる
言語力	地域や地域福祉について、説明することができない	地域や地域福祉について、説明しようとするができる	地域や地域福祉について、説明することができる	地域や地域福祉について、説明することができ、他者にも伝えようとするができる

思考・解決力	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができない	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決するために何が必要かを考えようとすることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決に向けて考えることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができる
共生・協働する力	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとするできない	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとすることができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動しようとするができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動し、解決することができる
創造・発信力	地域や地域福祉について、何ができるかを考えることができない	地域や地域福祉について、何ができるかを考えようとするができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者に取り組みうと発信することができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者とともに新たな取り組みができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 地域福祉の概念 ①地域とは何か
- 第 3 回 地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か
- 第 4 回 地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流（欧米の歴史的展開）
- 第 5 回 地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程
- 第 6 回 社会福祉法における地域福祉の位置づけ
- 第 7 回 地域福祉の主体と対象
- 第 8 回 地域福祉計画と地域福祉活動計画
- 第 9 回 地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会
- 第 10 回 地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員
- 第 11 回 地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など
- 第 12 回 地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織
- 第 13 回 地域福祉の人材・財源
- 第 14 回 形成テストおよび総括
- 第 15 回 地域福祉推進の課題と展望

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。
 参考文献については随時紹介する。
 予習、復習の確認のため、小テストを実施する。manabaの小テスト機能で回答の確認をし、フィードバックをおこなう。

形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

地域福祉に関連する社会福祉法や各種制度とその変革の流れ、参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。

また、各自が暮らしている地域についても、どのような施策が講じられているのか、またどのような活動が展開されているのか確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回小テストを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと予習、復習して臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業態度（30%）、小テスト（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—』/全国社会福祉協議会//2008/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

地域福祉論 II

SWA3450N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 3限

DP4：思考・解決力

60

地域福祉論I

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域住民による主体的な取り組みが重要である。地域住民の主体的な取り組みを推進していくためには、住民の主体形成、地域の組織化を進めていくことが必要である。そこで、住民主体の原則を再度確認し、なぜ住民が主体なのか、住民の主体的な取り組みの必要性について理解を深め、地域福祉を推進するための方法について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住民の主体的な取り組みの必要性について考える。
2. 住民が主体的に取り組むために必要な支援について考える。
3. 特に小地域の取り組みについて検討する。
4. 毎回小テスト (予習・復習の確認) を実施し、manabaの所テスト機能で回答の確認をし、フィードバックをおこなう。
5. 形成テストについては、終了後に回答の確認・解説をおこない、フィードバックをおこなう。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	地域福祉を推進するために、何ができるのかを考えようとしな	地域福祉を推進するために、自分のできることを考えようとする	地域福祉を推進するために、自分のできることをイメージすることができる	地域福祉を推進するために、イメージしたことを実践しようとする
知識・理解力	地域福祉推進に必要なことがらを理解することができない	地域福祉推進に必要なことがらを理解しようと努力する	地域福祉推進に必要なことがらを理解し、具体的な方法を考える	地域福祉推進に必要なことがらを理解し、具体的な方法を考える取り組もうとする
思考・解決力	地域福祉の課題について、考えることができない	地域福祉の課題について、考えようとする	地域福祉の課題について、考え、対応を考えることができる	地域福祉の課題について、解決策を検討することができる

創造・発信力	地域福祉の課題について、できることを考え、他者に発信することができない	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに共有することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決方法を検討することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決に向けて取り組むことができる
--------	-------------------------------------	---------------------------------------	--	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - 第 2 回 地域福祉と福祉教育
 - 第 3 回 福祉教育の概念・展開
 - 第 4 回 地域福祉と住民参加
 - 第 5 回 コミュニティソーシャルワークについて
 - 第 6 回 ソーシャルサポートネットワークについて
 - 第 7 回 地域の組織化
 - 第 8 回 社会資源の活用
 - 第 9 回 地域特性の把握について
 - 第 10 回 地域における生活問題、課題の把握について
 - 第 11 回 地域活動への支援体制について
 - 第 12 回 地域における連携・協働とは
 - 第 13 回 小地域における住民活動の実際
 - 第 14 回 形成テストおよび総括
 - 第 15 回 住民主体の地域福祉活動に関する課題と展望
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自が暮らしている地域の住民活動について調べておくことが望ましい。

住民活動への支援体制について調べておくことが望ましい。理解度を促進するため、毎回小テストを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと予習・復習をして臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を各自必ずダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、復習クイズ (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士、精神保健福祉士に必要な地域福祉推進にかかわる専門的知識や技術、方法に関する内容が中心となるため、その点を十分考慮したうえで、履修登録すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

福祉コミュニティの実践

SWA3500N0J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン・生活環境学科＞福祉生活デザイン学科・生活環境学科（実践的科目）

3年次

2単位 集中

その他

DP5：共生・協働する力

60

集中

酒井 久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

地域コミュニティには、子どもから高齢者、障がい者や生活困窮者など多様な人が暮らしている。現代社会において、人々が抱える課題やニーズは複雑、多様化し、潜在的なものも多くなっている。そこで本演習では、地域で起きている多様な課題が何かを検討し、それらを解決するために衣食住、家族、福祉の視点で何ができるかを考え、地域コミュニティを舞台に企画、立案、実践する。このような取り組みを通して、履修生各自が今後の自らの地域生活において、どのようなことに取り組むことが大切か、また生活者を支援する立場としてどのようなことが必要かを体験的に学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 地域の課題とは何かを理解し、把握する力を身につける。（情報収集、分析力）
2. 把握した課題を解決するために、何ができるかを考える力を身につける。（企画力）
3. 考えたことを実践するために、どのような協力者が必要かを考え、交渉する力を身につける。（発信力、コミュニケーション力）
4. 一人ひとりの気づきやアイデアをグループメンバーと共有する力を身につける。（協働力）
5. グループで考えた企画を実践する力を身につける。（行動力）
6. 企画、立案、実践の内容について、プレゼンテーションすることができる。（プレゼンテーション力）
7. 企画内容について、成果発表会で質疑応答等を実施す

る。また、その内容、授業全体を振り返り、授業最終日にフィードバックする。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
情報収集力	地域の課題について情報収集することができない	地域の課題について情報収集する方法を知っている	地域の課題について情報収集することができる	地域の課題について情報収集し、整理することができる
分析力	情報収集した内容を分析することができない	情報収集した内容を分析しようとすることができる	情報収集した内容を分析し、考察することができる	情報収集した内容を分析し、考察し、何が必要かを考えることができる
企画力、創造力	明確になった課題をもとに、アイデアを出すことができない	課題に応じて必要なことが何かを考慮することができる	課題に応じた企画立案し、その内容を提案し、具体的に造り出すことができる	課題に応じた企画した内容を、さらに発展的に考えることができる
発信力、コミュニケーション力	企画した内容を伝えることができない	企画した内容を他者に伝え、発信することができる	企画した内容を他者に伝え、他者の意見も取り入れ、ともに取り組もうと働きかけることができる	企画した内容に応じて他者と協働した内容について振り返ることができる
協働力、行動力	企画した内容を他者と協働し、ともに実行することができない	企画した内容を他者とともに実行することができる	企画した内容を他者とともに実行し、計画的に取り組むことができる	企画した内容を他者とともに実行し、課題を明確にすることができる
プレゼンテーション力	企画、立案、実行した内容について明確にプレゼンすることができない	企画、立案、実行した内容を明確にプレゼンすることができる	プレゼンした内容について、質疑応答に対応できる	プレゼンした内容を振り返り、さらによりよいプレゼン方法を考えることができる

〔授業計画〕

集中授業のため、活動等の状況に応じて進めていく。

概略の授業内容は以下のとおりである。

- ①オリエンテーション：授業の内容、スケジュール等について
- ②地域課題の把握方法：地域課題のとらえ方について理解

する

- ③情報収集：各自で活動に必要な情報収集をおこなう
- ④情報共有：各自が情報収集した内容について全員で共有する
- ⑤企画立案：企画立案に向けて、グループでディスカッションする
- ⑥企画内容の検討：グループで共有した内容を基に、具体的な企画内容を検討する「企画書案の作成」
- ⑦準備（協力関係者の検討）：企画した内容を実行するために必要な協力関係者を考え、依頼する
- ⑧準備（実施に向けたスケジュールの検討）：企画した内容を進めるために、スケジュールを作成する
- ⑨準備（役割分担の決定）：役割分担を決め、準備を進める
- ⑩準備(情報共有) 役割遂行とともに情報を共有し、準備状況を確認しながら取り組む
- ⑪リハーサル：企画した内容を実施するために、リハーサル（試作含む）をおこなう
- ⑫企画の実施：企画、立案した内容を実行する
- ⑬成果発表の準備：成果発表に向けて、プレゼンテーションの準備をおこなう
- ⑭成果発表：企画、立案、実施した内容について、発表する
- ⑮総括：全体の振り返りをおこなう

上記以外に、各自、グループで自主的に活動等行う必要がある。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

基本的な内容に関する講義と履修生各自の主體的、積極的な学習、準備を中心とする

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業や活動時間帯以外に、決定したスケジュールに基づき、各自で取り組み（情報収集、企画案の検討、準備等）を進めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

情報収集力（10%）、分析力（10%）、企画・創造力（20%）、発信・コミュニケーション力（10%）、協働・行動力（30%）、プレゼンテーション力（10%）、平常点（10%）を基本とする

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

福祉行財政と福祉計画

SWR3450N1J

大学

現代人間学部＞福祉生活デザイン・生活環境学科＞福祉生活デザイン学科・生活環境学科（実践的科目）

3年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4：思考・解決力

60

武藤 大司

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、福祉行財政の基礎的な知識をふまえたうえで、住民自治の視点から福祉計画のあり方を学ぶ。具体的には、①福祉行政の実施体制について、国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係を学び、②国と地方双方の福祉財政の内容を理解する。その際、国の社会保障関係費及び地方自治体の民生費を詳しく把握する。次に①と②をふまえ、各種福祉計画の目的、意義、主体、方法について事例検討を通して学ぶ。また実際に地域福祉計画を参考にして、計画策定の方法について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ①福祉の動向を理解する。
- ②福祉行政の実施体制（国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係）を理解する。
- ③国と地方の福祉財政（社会保障関係費及び地方自治体の民生費など）を理解する。
- ④福祉の相談過程と専門職の役割を理解する。
- ⑤福祉計画の目的と意義を理解する。
- ⑥福祉計画の理論と技法を理解する。
- ⑦福祉計画の実際を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	福祉行財政と福祉計画に関心がない	福祉行財政と福祉計画を理解しようとする	福祉行財政と福祉計画の内容について理解できる	福祉行財政と福祉計画の内容について理解でき、自分の意見を持つ
知識・理解力	福祉行財政と福祉計画に関する知識がなく、理解できない	福祉行財政と福祉計画に関する知識が少なく、理解しようとしている	福祉行財政と福祉計画に関する知識があり、理解できる	福祉行財政と福祉計画に関する知識があり、自分の意見をもつ
言語力	福祉行財政と福祉計画に関する用語を理解できない	福祉行財政と福祉計画に関する用語を理解しようとする	福祉行財政と福祉計画に関する用語を簡単に説明できる	福祉行財政と福祉計画に関する用語を詳細に説明できる

思考・解決力	福祉行財政と福祉計画の問題点や課題を考えない	福祉行財政と福祉計画の問題点や課題を意識する	福祉行財政と福祉計画の問題点や課題の要点をまとめる	福祉行財政と福祉計画の問題点や課題について自身の考えをもつ
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	他者の意見を聞き、友人と一緒に学ぶ	他者と共有して自身の考えを深める	他者と共有しながら新たな自分の考えをもつ
創造・発信力	自分勝手に考えて発信する	周辺状況を鑑み、福祉行財政と福祉計画を考え、発信する	福祉行財政と福祉計画を創造し、発信する	福祉行財政と福祉計画以外も含めて多角的に考えたうえで創造し、発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 福祉行財政と福祉計画
オリエンテーション、福祉行財政と福祉計画
- 第 2 回 福祉行政 1
福祉の骨格、社会福祉と法制度
- 第 3 回 福祉行政 2
福祉行政の組織、社会福祉基礎構造
- 第 4 回 福祉財政 1
財政と社会福祉、一般会計予算と社会保障関係費の動向、地方自治体の財政と民生費の動向
- 第 5 回 福祉行政 2
民間社会福祉事業の財源、福祉サービスの利用と費用負担
- 第 6 回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 1
社会福祉基礎構造改革、相談過程
- 第 7 回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 2
相談体制、専門諸機関
- 第 8 回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 3
地域の相談システム、専門職
- 第 9 回 福祉計画の目的と意義 1
福祉計画の目的と意義
- 第 10 回 福祉計画の目的と意義 2
福祉援助の現場から福祉計画へ、計画のサイクルと福祉援助の現場
- 第 11 回 福祉計画の理論と技法 1
福祉計画の基本的視点、過程と留意点
- 第 12 回 福祉計画の理論と技法 2
福祉計画におけるニーズ把握、評価、住民参加
- 第 13 回 福祉計画の実際 1
福祉計画の事例研究の視点、老人福祉計画・介護保険事業計画、障害者計画・障害福祉計画
- 第 14 回 福祉計画の実際 2
次世代育成支援行動計画、地域福祉計画
- 第 15 回 福祉行財政と福祉計画 総括
福祉行財政と福祉計画のまとめとふりかえり

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを作成する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストに基づいて講義を行う。DVD教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出してもらうこともある。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

予習として、テキストの該当する部分を概読してくる。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20時間

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、課題レポート（70%）で評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画 第5版』/社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規/2017/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」 地方自治体や地方自治体委託事業にて、障害福祉計画策定委員長、次世代育成支援対策地域協議会委員長、子ども子育て会議副委員長等の経験あり。

福祉生活デザイン概論 2017年度以降入学者

SLB1202N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

土曜1限

DP2：知識・理解力

60

必修

加藤 佐千子 中村 久美 酒井 久美子 竹原 広実 佐藤 純 三好 明夫 牛田 好美 矢島 雅子 藤原 智子 青木 加奈子 安川 涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

QOLとは何か、また、人々のQOLを向上するためには何が必要なのであろうか。本講義では衣・食・住・家族・福祉等の領域から、人々のQOLについて言及するとともに、福祉生活デザイン学科専門科目の入門として位置付ける。講義を通して現代生活に関心を持ち、課題を見出し、自身や他者の生活を質的に向上することに対する知識や理解力を身につける。これらの学びを通して、4年間の自身の成長を見据え、4年後にどのような社会人になって巣立とうとするのかを自覚し、その目標を明確にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) QOLを理解する
- 2) 現代社会や現代生活における課題を見出す
- 3) 自身や他者のQOL向上に必要な知識や技術について理解する
- 4) 1) から3) をベースに、4年後の成長した自分を創造し、目標を立てる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	各領域のどの内容にも関心がない	生活と福祉の内容に興味を持てる	自分の興味のある専門領域がわかる	興味のある領域を決定し、進むべきコースを決定できる
知識・理解力	福祉生活デザイン概論の内容構成を理解できない	福祉生活デザイン概論の内容構成を理解できている	各論の一部を取り挙げて他者に説明ができる	身についた知識をもとに発展学習ができる
言語力	ワークシートへの記述がされていない	自分の言葉で、ワークシートに記載ができる	各担当者の求めに応じてレポートが書ける	自分の考えを適切な言語・表現で他者に伝えることができ、記載もできる

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義の概要、評価の仕方、超高齢社会の現状等の説明、および老年学の立場からウェルビーイングの条件と生活の質 (QOL) の考え方とその背景、生活の質に関わる4つのポイントを説明する。また、高齢者の食と生活機能、健康観、精神的健康度の関係を例に挙げて、生活の質を追求する上での食生活の重要性について概説する。(加藤佐千子)
- 第 2 回 社会福祉学の立場から、QOLの捉え方、解釈について概説する。人は、機能低下がみられても支援の活用によって生活の質 (QOL) が保たれることについて高齢者を例に挙げて説明する。(三好明夫)
- 第 3 回 生活学の立場から、生活基盤としての住まいの持つ根源的な意味を考え、生活の質 (QOL) を追求する上での居住環境の重要性について概説する。(中村久美)
- 第 4 回 家族の発達段階で直面する生活課題と、世話を必要とする子どもがいる家族にとっての生活の質 (QOL) をワークライフバランスとジェンダーの視点から考える。(青木加奈子)
- 第 5 回 子どもと若者の食と健康について、現在のみならず将来にわたってQOLの向上に資する食生活のあり方を概説する。(藤原智子)
- 第 6 回

持続可能な衣生活のために、環境に配慮した衣服材料や衣生活の現状と課題について概説する。(安川涼子)

- 第 7 回 住環境要素が人に与える影響について人間工学の観点から概説し、人の特性を組み込んだ住環境のあり方を考察する。(竹原広実)
- 第 8 回 人はなぜ服を着るのか。ファッションや装いについて心理的な観点から概説する。(牛田好美)
- 第 9 回 人の暮らしやQOLに大きな影響を与えるものの、見過ごされがちな「こころの健康」や「精神疾患・精神障害」について、正しい理解を進める。(佐藤 純)
- 第 10 回 人は誰とどんな場所でどのようなコミュニティを形成して暮らしていけばよいか、住生活基本法をとりあげながら、あるべき住生活の姿について概説する。(中村久美)
- 第 11 回 地域福祉の現状と課題について概説し、地域住民の主体的な取り組みによって地域住民のよりよい生活に向けて相互に支え合うことの重要性を説明する。(酒井久美子)
- 第 12 回 日本における福祉の歴史的展開を概説するとともに「福祉とは何か」を説明する。(矢島雅子)
- 第 13 回 高齢者福祉の現状と課題について概説し、人生の最期まで生活の質を低下させずに過ごす支援方法について説明する。(三好明夫)
- 第 14 回 障害者福祉の現状と課題について概説し、障害があっても生活のしづらさを解決できることを説明する。(矢島雅子)
- 第 15 回 これまでの講義をもとに、自分と他者の生活の質についてグループで議論させ、生活の質を高めるには何が必要かを考えさせる。また、今後4年間に行うべきこと、めざす資格について自身の考えをまとめさせる。(加藤佐千子)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・授業は、オンデマンド形式で行うので配信された資料で各自学習を進めること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各教員から配信される資料をよく読み、疑問点を明確にして、授業に臨むこと。

日常の生活に関心を持ち、新聞やニュースを見る習慣をつける。

各教員に提出されたレポートは、manaba(コレクション昨日、レポート機能)を用いて、各教員がそれぞれの担当回のフィードバックを行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 1) 小レポート11本の提出(1本5点~9点で採点し加算する)
- 2) 小レポートの本数が8本以下の場合は、原則として1)の算定を適用できない。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・講義の順を変更することがある。
- ・「福祉生活デザインワークブック」を自分で印刷するなどして、学習に利用する。
- ・オムニバス科目のため、提出物等は授業担当教員に提出すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

manabaコンテンツに資料を掲載する。ダウンロード(印刷して)して学習をすること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

三好明夫： 社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験
特定非営利活動法人理事長としてNPO法人団体経営の実務経験

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

保育学 (実習及び家庭看護を含む)

LDA3652N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

水曜1限

DP6：創造・発信力

58

全16コマ

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人間の子どもは他の動物と異なり、自立のために親が長期にわたって世話をし、育てはぐくむ必要がある。子どもをしっかりと育てることは社会全体の最大の責任である。保育書を読んだり、ニュース等について考える時には、基礎となる正しい医学的・生物学的・社会学的知識を身に付けている必要がある。

本講義の目的は、学んだ保育の知識や技術を活用でき、家庭科教員や母親となった時の判断力を養い、必要に応じて発信やプレゼンテーション能力を身に付けていることである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育を学ぶ
2. 子どもの発達
3. 子どもを育てる
4. 子どもの育つ環境の整備
5. 子どもとふれ合う (保育園見学実習)
6. 家庭における看護

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	子どもを育てる意味が分からない	子どもを育てる意味は分かる	自分の子どもを想像して、育てる意義を考えようとする	保育学で得た知識をもとに、自分自身で考え方を変えていくことができる
知識・理解力	保育学と育児学の違いが理解できない	保育学と育児学の違いは理解できる	保育学の中で、今まで得た知識をより一層専門的なものにしようとする	保育学の中で、今まで得た知識を他者に発表して他者にアドバイスできる
言語力	保育学で専門的な用語の意味が理解できない	保育学で用いる専門用語の意味が理解できる	保育学を中心に関連する専門用語の意味を理解しようとする	保育学に関連する専門用語を使って書類を作成できる
思考・解決力	教えられたこと以外は考えようと思わない	教えられたことを自分の生活の中で考えることができる	保育における問題提起に対して積極的な解決策を考えようとする	レベル3に加えて解決策を他者に発信できる
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究や他者の意見を参考にしようとする	周囲の人たちに対して自分が得た知識から、意見が言えるようになる	レベル3に加えて周囲の人たちに対して積極的に働きかけて保育のサポートができる
創造・発信力	自分勝手な内容の発信を行う	自分から発信する情報の内容を吟味できる	自分から新しい情報を得るための試行錯誤をしようとする	保育学の知識に基づいて、子育てについての新しい情報を発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション, 第 1 章 保育を学ぶ, 第 2 章 子どもの A.)
育児学と保育学の違いについて述べる。
母体の健康管理と子どもの誕生について詳述する。
- 第 2 回 (第 2 章 子どもの発達 B. 子どもの心身の発育・発達 (I))
子どもの心身の発育・発達について解説する。
新生児の生活現象についても触れる。
- 第 3 回 (第 2 章 子どもの発達 B. 子どもの心身の発育・発達 (II))
子どもの心身の発達の個人差について、パーセンタイルの考を用いて解説する。
- 第 4 回 (第 3 章 子どもを育てる A. B.)

<p>第 5 回 (第 3 章 子どもを育てる C.)</p> <p>A. 子どもの愛着行動の重要性について解説する。 B. 親のかかわりと人格形成について解説する。 C. 親の保育責任について述べる。 基本的な生活習慣について解説する。</p>	<p>〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の講義分のテキストを、しっかり読んでくること。 <p>〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕</p> <p>40</p> <p>〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕</p>
<p>第 6 回 (第 3 章 子どもを育てる D., 第 4 章 子どもの育つ環境の整備 A.)</p> <p>D. 児童虐待など、親の不適切なかかわりとその影響について解説する。</p>	<p>レポート (10%)、授業参加度 (10%)、形成テスト (80%) の総合評価とする。</p> <p>〔留意事項 (Other Information)〕</p>
<p>第 7 回 (第 4 章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊び)</p> <p>子どもの生活でとくに衣生活、住生活について解説する。</p>	<p>第 16 回 第 5 章 子どもとふれ合う (保育園見学実習 事後指導)</p> <p>その日程により、事前・事後指導の日程が決まる。</p>
<p>第 8 回 (第 4 章 子どもの育つ環境の整備 A. 子どもの生活と遊び)</p> <p>子どもの遊びと文化について述べる。絵本についても説く。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の状況により、変更となる可能性がある。</p>
<p>第 9 回 (第 4 章 B. 家庭保育と集団保育, C. 児童福祉)</p> <p>B. 家庭保育と集団保育など、子どもの育つ環境の整備について解説する。</p> <p>C. 児童福祉, 子育て支援について詳しく述べる。</p>	<p>子育ての講義に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送信は禁止。</p> <p>〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無) (I)〕</p>
<p>第 10 回 (第 6 章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手配)</p> <p>A (I) 子どもの死因および感染症について詳しく述べる。</p>	<p>『新保育学』/岡野雅子ほか/南山堂/2014//学内販売予定</p> <p>〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕</p>
<p>第 11 回 (第 6 章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手配)</p> <p>A (II) 子どもの悪性新生物やアレルギー疾患などについて述べる。</p>	<p>『子どもは素晴らしい』/牛尾信也ほか/金原出版/2007/</p> <p>〔参考URL(URL for Reference)〕</p>
<p>第 12 回 (第 6 章 家庭における看護 A. 病気や事故の予防と手配)</p> <p>A (III) 子どもの小児生活習慣病、発達障害、不慮の事故について解説する。</p>	<p>〔実務経験のある教員による実践的科目〕</p> <p>「実践的科目」 産婦人科医師として病院等での診療経験あり</p>
<p>第 13 回 (第 6 章 家庭における看護 B. 家庭における看護)</p> <p>B. 家庭における事故、火傷に対する看護について述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児の人工蘇生法実技演習 ・ まとめ 	<p>保健医療サービス</p> <p>SWR2450N1J</p>
<p>第 14 回 (形成テスト、不登校の話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形成テストを行う (途中退出不可) ・ 不登校について、原因や現状の対策などについて述べる。 	<p>大学</p> <p>現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)</p> <p>2 年次</p>
<p>第 15 回 (形成テストの解説と評価, 第 5 章 子どもとふれ合う)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形成テストの解説と評価を行う。 ・ 保育園見学実習の事前指導を行う。 	<p>2 単位 後期</p> <p>金曜 1 限</p> <p>DP4 : 思考・解決力</p> <p>60</p>
<p>第 16 回 (第 5 章 子どもとふれ合う (保育園見学実習 事後指導))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園に出向いて、子どもたちと実際に触れ合う。 ・ 終了後、振り返りをしてレポート提出。 	<p>集中</p> <p>福嶋 正人</p>
<p>〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕</p> <p>実施しない</p> <p>〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方法 講義形式、見学実習では、現場へ出向する。 2. 学習方法 <p>(1) テキストに沿って行う。プリント、OHC、パワーポイントで内容補充。</p> <p>(2) 提起された問題点を“一緒に考える”といった態度で授業に臨んで欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終授業での形成テストの解説により、全体に対するフィードバックを行う。 	<p>〔科目の教育目標 (Course Description)〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療機関の基本的仕組みや現状や課題が理解できる。 2) 保健医療分野での社会福祉士の役割が理解できる。 3) 保健医療分野で働く時、自分が何をすればよいのか明確にすることができる。 <p>〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕</p> <p>患者や利用者、その家族が、病気や障害を抱えながらも日常生活を継続させていくためには、包括的な保健・医療・福祉サービスの利用や支援が必要となる。そのような支援体制を構築するため (ネットワーク作り) に、保健・医療と福祉の連携は欠かすことができない。社会福祉士を目指す学生にとって、保健・医療分野の知識、そこで働く専門</p>

職の理解は、現場で働く時、ネットワーク作りやチームケアを行うために必須のスキルとなるだろう。この授業は講義を通して、保健医療の機関・専門職・サービス内容を理解し、社会福祉の専門職の役割や期待されていることを、事例などを用いて具体的に伝えていきたい。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力1	医療提供体制や制度についての知識が殆どない	医療提供体制や制度についての概要は理解している	医療提供体制や制度について、大凡の体系を理解している	医療提供体制や制度について体系的に理解し説明することができる
知識・理解力2	医療ソーシャルワーカーの業務に関する知識を殆ど持っていない	医療ソーシャルワーカーの業務に関する知識の概要を知っている	医療ソーシャルワーカーの業務に関して具体的に説明できる	医療ソーシャルワーカーの業務に関して総合的に説明できる
知識・理解力3	MSW業務に関する歴史や国際比較についての知識を持っていない	MSW業務に関する歴史や国際比較について、その経過や背景の概要を知っている	MSW業務に関する歴史や国際比較について、その概要を説明できる	MSW業務に関する歴史や国際比較から、医療とMSWに関して構造的に理解できる
思考・解決力	チームや連携についてのイメージが持てない	チームや連携についての重要性や意義について理解することができる	具体的な状況におけるチームや連携についてイメージで説明できる	具体的な状況におけるチームや連携についてその必要性や課題を説明できる

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の進め方、授業の展開について
- 第 2 回 戦後の保健医療サービスの歴史
戦後の保健医療サービスの歴史を知る。
- 第 3 回 主に医療法を学ぶ。
医療サービスの変遷と法体制について学ぶと共に医療法の変遷の概要を知る
- 第 4 回 医療保険制度の概要
医療保険制度の種類や給付内容、変遷の概要を学ぶ
- 第 5 回 診療報酬制度
診療報酬制度の仕組みと、社会福祉士
- 第 6 回 保健医療におけるその他の福祉関連制度
医療保険制度と福祉制度の関連について学ぶ
- 第 7 回 保健医療サービスにおける専門職の業務と役割
保健医療サービスにおける専門職の連携・資格や業務内容、役割などを知る
- 第 8 回 医療法に規定された医療施設

- 「医療保健に関わる施設とシステムⅠ」医療法に規定された医療施設
- 第 9 回 診療報酬上に規定された医療施設
「医療保健に関わる施設とシステムⅢ」診療報酬上に規定された医療施設
- 第 10 回 介護保険法の施設
「医療保健に関わる施設とシステムⅢ」介護保険法の施設
- 第 11 回 保健医療ソーシャルワーカーの業務の方法
医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み
- 第 12 回 医療ソーシャルワークの歴史（イギリス）
医療ソーシャルワークの歴史について学ぶ
- 第 13 回 医療ソーシャルワークの歴史2（アメリカ）
医療ソーシャルワークの歴史について学ぶ
- 第 14 回 医療ソーシャルワークの歴史3（日本）
日本の医療ソーシャルワークの歴史の概要を知る
- 第 15 回 保健医療サービスを取り巻く動向と課題
授業のまとめとして保健医療サービスを取り巻く動向と課題について学ぶ

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施する。詳細については授業内で告知する。

【教育・学習の方法（Course Methods）】

1. 授業方法
講義形式（一部演習形式を採用する）
2. 学習方法
 - ①講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。
 - ② 毎回の講義について必ず予習・復習を行うこと。
 - ③授業における意見や質問をコメント用紙に記入し、次回の授業における教員からのコメントに基づき、理解を深める。
 - ④連携・協働のあり方や保健医療サービスの意義や発展のための課題や方法について考察し、演習形式でディスカッションを行う。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

各テーマに該当するテキストの章・節について適宜、案内をするので予習をして臨むこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30分

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

定期試験（50％）授業参加度（50％）。

【留意事項（Other Information）】

- テキストを必ず購入すること
- 社会福祉士受験の指定科目です。
- 【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】
- 新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス 第3版 中央法規出版
- 【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】
- 講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。
- またテーマに沿った参考文献について、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

老人福祉論

SWA2201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科 > 福祉生活デザイン学科・生活環境学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜1限

DP2：知識・理解力

60

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会は階層性のある社会である。その階層性の中で低位に位置づけられる存在が安心して生活できるならば、その社会は多くの人が安心して生活できる社会である。低位に位置づけられる存在とはいわゆる社会的弱者であり、その中の最大の層が高齢者である。すなわち、高齢者が安心して生活できる社会は多くの人が安心して生活できる社会である。逆もまた真である。老人の福祉を問うことは自分自身の生活保障を問うことである。社会に階層性がある以上、老いにも階層性がある。この授業では生活困難に見舞われている高齢者の問題を中心に扱う。特に我が国における老いと高齢化、高齢者自身を巡る問題に焦点を当て、高齢者の福祉を考えていく基礎を構築する。知識、理解力、思考、問題解決力が身につく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 高齢者をめぐる福祉課題の拡大化について学ぶ 2. 高齢者福祉に関わる歴史について学ぶ 3. 高齢者福祉に関わる制度の概要と各種サービスについて学ぶ 4. 老人福祉法について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	老人福祉制度を理解できない	老人福祉法とは何かの概要を考える	老人福祉法の具体的な支援内容を考える	老人福祉法と人権の擁護について考える
知識・理解力	老人福祉法と介護保険法の区別がつかない	介護保険法の仕組みについて理解できる	介護保険法の具体的なサービス内容が理解できる	介護保険法の課題整理と展望がわかる
言語力	老人福祉法の専門用語を理解しようとしていない	老人福祉法の専門用語を理解する	老人福祉法の専門用語を説明できる	老人福祉法と介護保険法の用語を説明できる

思考・解決力	教えられたこと以上を考えようとしない	老人福祉法が現代社会に不可欠であることを考える	老人福祉法が現代社会のどの部分に關与しているか考える	老人福祉法の現場実践活用の具体策を考えられる
共生・協働する力	他者の意見、各種文献等を参考にしない	各種文献を活用し考えていこうとする	考えたことを自分の言葉でまとめて皆と共有できる。	レベル3に加えて法の理解により現在社会に寄与する方法が考えられる
創造・発信力	自分の想像だけで発信を行う	周囲の状況にも目を配り老人福祉法に実務を考える	進歩する老人福祉状況を踏まえて援助実践を考える	レベル3に加えて長寿社会実現に向けての策を創造できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 高齢者福祉入門1
高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第 2 回 高齢者福祉入門2
高齢者の福祉需要
- 第 3 回 高齢者福祉の実態
高齢者の地域移行や就労の実態
- 第 4 回 高齢者に関する制度
老人福祉法の理解
- 第 5 回 介護保険制度1
介護保険法の概要
- 第 6 回 介護保険制度2
介護保険法の理解 組織・団体
- 第 7 回 介護保険制度3
介護保険法の理解 専門職
- 第 8 回 介護保険制度4
介護保険法の理解 ネットワーク
- 第 9 回 地域の高齢者を支える
地域包括支援センター
- 第 10 回 高齢者の権利を擁護する
高齢者虐待防止法
- 第 11 回 高齢者を護る制度1
高齢者に関する法規
- 第 12 回 高齢者を護る制度2
高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
- 第 13 回 高齢者の在宅支援1
高齢者向け優良賃貸住宅、高齢者専用賃貸住宅
- 第 14 回 高齢者の在宅支援2
高齢者居住支援センターの役割
- 第 15 回 高齢者支援の総括
高齢者福祉制度と実践の課題と将来

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書を使用しつつも授業時に配布する資料も活用しながら講義を行う。視覚教材も使用して理解を深めてもらう。講義終了時には毎回の講義の理解度を確認するために指定する様式での小テストを提出する。

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

高齢者福祉の現状は日々刻々と変化している。タイムリーな話題として高齢者福祉等に関する新聞記事などを紹介また印刷するが、その場合に受講生に意見感想を求めるのでできるだけ日常の高齢者関連問題には留意すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (20%)、定期試験 (50%) とし、その総合点を最終評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士資格の取得をめざす学生は、履修しなければならない。

○老人福祉論と介護概論は同一テキストを使用する。社会福祉士養成の科目においては「高齢者に対する支援と介護保険制度」として一つの科目として統合されているが、本学では前述のように2科目に分けて実施している。よって社会福祉士受験希望者以外であっても「老人福祉論と介護概論」両科目の履修をすすめる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

「高齢者に対する支援と介護保険制度第4版」
岡田進一、橋本正明編著 ミネルヴァ書房 2018年
ISBN 9784623083466

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

随時紹介する

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 社会福祉士、介護福祉士として施設での勤務経験あり。

アパレルデザイン

LDA2450N1J
大学
現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
2年次
2単位 後期
月曜3限
DP4: 思考・解決力
60
牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人間は生活する上で快適な環境を構築するため、さまざまなモノをデザインし、造形している。生活とデザインに

は密接な関係があり、人間そしてその生活を中心に置いたデザインが基本的な要素として必要になる。デザインには「用」(機能性)と「美」(審美性)の2つの基本的な性能が必要であり、これらの2つを見える形として表現することがデザインである。アパレルデザインは他のさまざまなデザインと異なり、人間という動き、表情、個性など多くの要素が加わった形で表現される。人間らしく、快適で個性を尊重したアパレルデザインを追求することを目標に、衣服が企画され、製作され、販売される過程を理解し、理想的なアパレルデザインについて学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

アパレルデザインの本質を正しく理解するためのデザインの基礎、および造形美の諸原則を中心に講義する。また、ファッションデザイナーやコスチュームデザイナーに焦点を当て、各デザイナーのコンセプトがどのようにその作品に反映されているかについて知り、現在の衣服における問題点や今後のファッションの方向性などを考え、解決策を提案する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	関連知識や情報に興味・関心がみられない。	関連知識や情報を得ることに興味・関心がある。	得られた知識や情報を整理し、デザインに活用できる。	得られた知識や情報を活用でき、クリエイティブな発想でデザインができる。
創造・発信力	クリエイションに興味・関心がみられない。	クリエイションに興味・関心がある。	クリエイティブな発想に価値を置く。	クリエイティブな発想を作品にして、発信できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
アパレルデザインとは何か。定義と関連する用語など。
- 第 2 回 ファッションの歴史① 古代から
ファッションの変遷とその背景①－歴史をふりかえって－
- 第 3 回 ファッションの歴史② 現代ファッション
ファッションの変遷とその背景②－現代におけるファッション－
- 第 4 回 デザインの基礎
ファッションデザインのデザインの中での位置づけと基礎
- 第 5 回 ファッションデザインの要素① フォーム
フォーム
- 第 6 回 ファッションデザインの要素②－1 カラー基礎
カラー①－基礎－
- 第 7 回 ファッションデザインの要素②－2 カラー応用
カラー②－応用－
- 第 8 回 ファッションデザインの要素③ テキスタイル

- テキストイル
- 第 9 回 デザイン演習① ファッションイラスト
ファッションイラストレーション描き方
- 第 10 回 デザイン演習② しめーじと表現
見る人に伝える
- 第 11 回 コスチュームデザイン
特別講義「コスチュームデザイン」
- 第 12 回 デザインとイメージ① 日常場面
①-日常場面において-
- 第 13 回 デザインとイメージ② 非日常場面
②-非日常場面において-
- 第 14 回 課題
課題提出と試験
- 第 15 回 まとめ
課題の合評と試験返却および解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

＜授業の実施方法＞

主に講義形式で授業を進めるが、必要に応じて、演習形式の時間も設ける。授業はDVDやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

＜課題のフィードバック方法＞

試験については、最終授業で返却をし解説する。演習課題については、全員の課題を張り出し合評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

できるだけ多くの衣服を見たり、触ったり、すること。また、歴史や文化に関する本を多く読むこと。映画や舞台芸術を積極的に鑑賞し、身体、衣装、身体表現 (パフォーマンス) について考え、自分の意見を持つこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、課題 (40%)、試験 (30%) を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生数や受講生の関心、また、特別講師の都合によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アパレルデザイン演習Ⅰ 2017年度以降入学者

LDA2650N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
2年次

1単位 後期

月曜2限

DP6: 創造・発信力

15

定員16人

山田 憲

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

デザインには、「形態」、「色彩」、「材料」という造形の3要素がある。この3要素はデザイン分野すべてに共通するものであるが、特にアパレルデザインにおいて、人間が着装して美しい形態につくりあげるには、パターン (形態) が重要である。イメージをシルエットやディテールにするために、パターンメイキングの基礎から応用について学ぶ。学んだ知識や技術を基に、クリエイティブなデザインを発信する力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 基本シルエット
2. 平面と立体
3. 人体と布

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	他者と協力しようとする姿勢がみられない。	自己と他者の違いを認めることができる。	自己と他者の適切な役割分担ができる。	適切な役割分担のもと、同じ目標に向かって行動できる。
創造・発信力	基礎的な知識・技術を得ることに意欲がみられない。	基礎的な知識・技術を得ることに意欲がある。	基礎的な知識・技術が自分のものになり、作品で発表できる。	基礎的な知識・技術を身につけ、応用でき、創造的な作品として発表できる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業の進め方について。

第 2 回 パターンの基礎① スカート原型作成

基本シルエット① タイトスカート型紙作成。

第 3 回 パターンの基礎② スカート原型裁断

基本シルエット① タイトスカート裁断。

第 4 回 パターンの基礎③ スカート原型縫製

基本シルエット① タイトスカート縫製。

第 5 回 パターンの応用① スカートの展開Ⅰ

基本シルエット② セミタイトスカートへの型紙展開。

- 基本シルエット③ フレアスカートへの型紙展開。
- 第 6 回 パターンの応用② スカートの展開Ⅱ
基本シルエット④ ギャザースカートへの型紙展開。
- 第 7 回 パターンの基礎④ 身頃原型作成Ⅰ
基本シルエット⑤ 前身頃型紙作成。
- 第 8 回 パターンの基礎⑤ 身頃原型作成Ⅱ
基本シルエット⑤ 後身頃型紙作成。
- 第 9 回 パターンの基礎⑥ 身頃原型裁断
基本シルエット⑤ 前後身頃裁断。
- 第 10 回 パターンの基礎⑦ 身頃原型縫製
基本シルエット⑤ 前後身頃縫製。
- 第 11 回 創作デザイン①
創作スカートのデザイン考案。
- 第 12 回 創作デザイン②
創作スカートの型紙作成。
- 第 13 回 創作デザイン③
創作スカートの縫製。
- 第 14 回 創作デザイン④
創作スカートの仕上げ。
- 第 15 回 まとめ
創作スカートの合評とまとめ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習形式で行う。具体的には、最初に説明をし、グループあるいは個人で実際にパターンを引き、実物を組み立てながら、知識および技術を身につける。

最終授業で課題の合評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

創作スカートを作成するため、事前に情報収集を行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(50%)、課題作品およびプレゼンテーション(50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業で実施。

授業内容に変更の可能性あり。

創作作品に使用する材料費は自己負担。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

シャツ専門店を営み、自社ブランドのデザイン・パターン・縫製などを行う。

アパレルデザイン演習Ⅱ

LDA3600NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

1単位 前期

月曜2限

DP6: 創造・発信力

15

定員16人

山田 憲

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

デザインには、「形態」、「色彩」、「材料」という造形の3要素がある。この3要素はデザイン分野すべてに共通するものであるが、特にアパレルデザインにおいては、着装者である人間の印象に色彩が影響を与える。アパレルデザインⅠでフォームの基礎的知識と技術を修得した上で、イメージを形態と色彩で表現できるように基礎から応用について学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 色のイメージ
2. 配色の効果
3. 人間と色彩
4. 人体と布

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	他者と協力する姿勢がみられない。	自己と他者の違いを認め、適切な役割分担ができる。	自己と他者の適切な役割分担のもと、作業を進めることができる。	同じ目標を持ち、作業を進め、成果をあげることができる。
創造・発信力	色・柄、素材への興味・関心がみられない。	色・柄、素材の基礎知識をもっている。	色・柄、素材の基礎知識をデザインに活用し、作品発表ができる。	色・柄、素材に関する知識や技術を応用して、創造的な作品制作ができ、発表できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業の進め方について。
- 第 2 回 イメージと色① 可視化
画材を使用し、音や感情を可視化。
- 第 3 回 イメージと色② カラーージュ
画材や生地を使用してカラーージュの作成。
- 第 4 回 創作デザイン 考案
創作ワンピースのデザインを考案。
- 第 5 回 創作デザイン 立体①
創作ワンピースの型紙を作成。

- 第 6 回 創作デザイン 立体②
創作ワンピースの型紙修正や補正。
- 第 7 回 創作デザイン 立体③
創作ワンピースの試作。
- 第 8 回 創作デザイン 制作①
創作ワンピースの生地裁断。
- 第 9 回 創作デザイン 制作②
創作ワンピースの下準備。
- 第 10 回 創作デザイン 制作③
創作ワンピースの身頃縫製。
- 第 11 回 創作デザイン 制作④
創作ワンピースの始末。
- 第 12 回 創作デザイン 制作⑤
創作ワンピースの仕上げ。
- 第 13 回 縫製演習 応用①
手縫いによる縫製手法。
- 第 14 回 縫製演習 応用②
ミシンによる縫製手法。
- 第 15 回 まとめ
創作ワンピースの合評とまとめ。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
演習方式で行う。ディスカッションを踏まえてグループあるいは個人で実際のパターンを作成し、色の効果を考えた創作作品を制作する。
最終授業で課題の合評を行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
創作ワンピースを作成するため、事前に情報収集を行っておくこと。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度(50%)、課題作品およびプレゼンテーション(50%)
- 〔留意事項 (Other Information)〕
対面授業で実施。
授業内容に変更の可能性あり。
アパレルデザイン演習 I を修得していることが望ましい。
創作作品に使用する材料費は自己負担。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
シャツ専門店を営み、自社ブランドのデザイン・パターン・縫製などを行う。

アパレル造形学 (実習を含む)

LDA2400NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
2年次

2単位 前期

金曜 1限 金曜 2限

DP4: 思考・解決力

45

定員16人 週1.5コマ連続

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

被服構成の方法には立体構成と平面構成とがある。日本において前者は洋服、後者は和服に代表される。今年度は、浴衣を課題とし、両者の考え方の違いを理解しながら、着衣基体である人体の理解と、家庭科教員免許状に必要な基礎技術の習得をはかる。立体裁断、平面製図について、それぞれの解説を行い、理解をうながす。

日本の歴史や文化に関する関心を深め、積極的に浴衣製作に取り組む中で、人体と衣服の関係について考えながら、技術の習得および製作実習の中で起こる問題について解決する力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

アパレル造形の理論と技術を浴衣の製作を通じて理解し、実習技術を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	日本の文化や浴衣製作に興味が見られない。	歴史や文化への興味・関心はある。	歴史や文化への知識を持ちながら、浴衣製作に取り組むことができる。	得られた知識や技術を応用して制作でき、今後に活かすことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業の進め方
立体構成法(洋服)と平面構成法(和服)の相違点について
- 第 2 回 採寸
採寸による人体把握
- 第 3 回 浴衣制作
浴衣製作の概要説明
- 第 4 回 材料と用具
生地と裁縫用具について
- 第 5 回 浴衣製作① 柄合わせ、裁断
① 柄合わせ、裁断
- 第 6 回 浴衣製作② しるしつけ
② しるしつけ
- 第 7 回 浴衣製作③ 袖
③ 袖

- 第 8 回 浴衣製作④ 背縫い
 - ④ 背縫い
- 第 9 回 浴衣製作⑤ 脇縫い
 - ⑤ 脇縫い
- 第 10 回 浴衣製作⑥ おくみ付け
 - ⑥ おくみ付け
- 第 11 回 浴衣製作⑦ えり付け
 - ⑦ えり付け
- 第 12 回 浴衣製作⑧ 袖付け
 - ⑧ 袖付け
- 第 13 回 仕上げ
 - 仕上げ
- 第 14 回 授業内試験と合評
 - 授業内試験
- 第 15 回 まとめ
 - 試験返却と着付け

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

随時、プリントを配布する。

試験については、第15週に返却および解説をする。

完成した浴衣については、自分および他者への着付けができる力をつける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布資料をよく読むこと。浴衣製作においては、その授業内で仕上げられなかったことは、必ず、次週までに仕上げ、次の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題の提出(60%)、授業参加度(15%) 試験(25%)により、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

材料費については、自己負担です。

実習を含む講義であるため、欠席した場合、次週授業までかなりの準備が必要となり負担が大きくなります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インテリア装備学

LDA3251NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
3年次

2単位 後期

金曜2限

DP2: 知識・理解力

60

定員14人

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

インテリアを特徴づける構成要素について理解し、それらの構成要素の視覚的効果を把握したうえでどう選択し配置するかを考え、依頼に沿って適切にインテリアコーディネートできることを目標とする。主体的に情報収集してインテリアに関する知識を豊富にし、イメージを具現化する方法として、CGソフトを用いた表現する力、他者にプレゼンテーションする力を養う。また具体的なイメージ提案は最終実務である。他の住居科目(建築材料学、福祉住環境デザイン、住環境学など)の総合的な知識を動員して提案をすることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. インテリア構成要素(家具、照明器具、ウインドウトリートメント)の視覚効果と、それらを用いた雰囲気計画を理解する。
2. 依頼主の要望に沿って適切なインテリアコーディネートが提案できる。
3. イメージソフトを用いた表現手法を修得する。
4. 主体的にインテリアに関する知識を豊富にし、実際にふれる機会を多く持つ。
5. 他者に対して課題作品をプレゼンテーションする、伝える力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ノートを作成しない	教材や資料を単に写した程度のノートしか作成していない	要点がとらえられている。教材以外に主体的に得た情報量が多いノートを作成している	知識を再構成したノートを作成し、さらに授業での気づきを復習している
知識・理解力	インテリアエレメントがわからない	基本的なインテリアエレメントやカラーコーディネートの基礎知識がある	独自の学びによる豊富な知識を備えている	豊富な知識を再構成した提案ができる

思考・解決 力	依頼者の要望が理解できない	依頼者の要望が理解できる	依頼者の立場に沿った適切なインテリアコーディネートを提案できる	依頼者の要望をさらに昇華したオリジナリティのあるコーディネートを提案できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (対面) ガイダンス
授業方法、評価基準の説明、自由課題及び14回小テストの説明、オンライン授業のノート作成に関する説明と第2回のための予習箇所のアナウンス(テキスト第2章)、今回のノート提出の方法
- 第 2 回 (対面) インテリアデザインとは
ノートの共有、インテリアデザインの要点の確認CGソフトの操作とインテリアコーディネートの演習(上品な、活動的な、落ち着いたの試作)、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 3 回 (on-line) カラースキームの知識理解(テキスト第6章)
ノート作成、ノート提出
- 第 4 回 (対面) カラースキームの実践演習
ノートの共有、CGソフトによるカラーコーディネート演習(第2回試作との比較)、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 5 回 (on-line) 照明器具とウィンドウトリートメントの知識理解(テキスト第8章)
ノート作成、ノート提出
- 第 6 回 (対面) 照明器具とウィンドウトリートメントの実践演習
ノートの共有、CGソフトによるライティング、ウィンドウトリートメントの演習
ミニットペーパーの作成と提出
- 第 7 回 (on-line) インテリアの歴史(世界編)の知識理解(テキスト第10章)
ノート作成、ノート提出
- 第 8 回 (対面) 家具、インテリアスタイルの実践演習
ノートの共有、CGソフトによるインテリアスタイルの演習、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 9 回 (対面) 自由課題(インテリア計画と事項の整理)
インテリアの立案、条件の整理、コンセプトシートの作成、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 10 回 (対面) 自由課題の計画発表(プラン・コンセプト)
自由課題のコンセプト発表・プレゼンテーション、意見交換、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 11 回 (対面) 自由課題の作成
自由課題の作成、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 12 回 (対面) 自由課題の中間発表(コンセプトとインテリア要素の関連づけ)
自由課題の中間発表・プレゼンテーション、意見交換、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 13 回 (対面) 自由課題の作成

- 自由課題の作成、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 14 回 (対面) 小テスト及び自由課題の作成
小テストの実施、自由課題の作成、ミニットペーパーの作成と提出
- 第 15 回 (対面) 完成した課題のプレゼンテーション
自由課題の完成発表・プレゼンテーション、意見交換と講評、ミニットペーパーの作成と提出
- 〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

ブレンド型授業とする。(1)オンライン授業は、インテリアに関する基礎知識を学ぶ。ノートを作成することで、単元の要点を理解し、関連情報を収集、修得した個々の知識を自分なりに再構成し自分なりの気づきやインテリア計画全体を俯瞰したノートを作成し提出する。(2)対面授業は、まず他者のノートを共有し理解を深める。知識に基づきCGソフトで実践的にインテリア計画を行う。第14回目にインテリアの基礎知識の小テストを行う。第15回目に完成した課題作品のプレゼンテーション発表、意見交換を行う。途中、計画発表と中間発表も行う。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

平日頃から意識してインテリア雑誌を読む、家具販売店やインテリア雑貨店、ショールームを訪れるなどし多くの実例に触れることでセンスを養う。世界的建築家が手掛けた家具や照明器具についてインターネットを利用するなどし積極的に情報にふれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

60

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

評価は、オンライン授業のノート(20)、対面授業のミニットペーパー(27)、小テスト(30)、課題作品と発表(23)である。ノート提出は4回で毎回5点を上限とし[学習内容に不足がある(1)/内容は網羅しているが資料を単に写した程度(2)/要点をとらえてわかりやすくまとめている(3)/主体的に収集した情報が多い(4)/知識を再構成し自分なりの解釈ができて(5)]

ミニットペーパーは9回で毎回3点を上限とし、自分なりの気づきや内省ができて(5)かを評価する。

課題発表は、計画発表(4)、中間発表(4)、課題作品(15)[完成度(5)、コンセプト(依頼者の要望)と作品の合致(5)、美しさ(5)]である

〔留意事項(Other Information)〕

1. ブレンド型授業のため、一部オンライン授業とする。
2. 対面授業、オンライン授業に関わらず毎回提出物がある。
3. 本科目の受講者は住居製図Ⅱの履修者(受講経験者)、定員制(15人まで)である。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『実践につながるインテリアデザインの基本』/橋口信一郎/学芸出版社/2018//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『モダンリビング』//婦人画報社//

『新建築』////

『インテリアコーディネータ』/町田ひろ子アカデミー/エク
スナレッジ//

『やさしいインテリアコーディネート』/宮後浩/学芸出版社//
978-4-7615-2436-4/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルマーケティング論

LDR3253N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2：知識・理解力

60

新村 佳史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は、従来の企業活動では見落とされがちだった社会福祉に関わる仕事の「価値」について考え、改めて仕事の意義を問い直すというものです。福祉や保育系に進もうという人だけでなく、民間企業や公務員で働こうという人にもぜひ受けてほしい、現代社会の問題点について考えていく授業です。これからの企業は、儲かればいだけではだめです。社会の幸福にどう貢献するか、それがソーシャルマーケティングの考え方の1つです。思いがけない就職先が見つかるかもしれませんよ。ソーシャルマーケティングという概念自体が新しいものですが、数学的な理論学習よりも、今の社会を知り、どんな課題がみなさんにかせられているのかをしっかりと考えます。海外に関心のある人にも楽しい授業ですよ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

今の社会について知る 企業の存在意義とは何か 社会保障制度の必要性

国や公共事業体ができること 企業ではない「法人」について知ろう

世界の社会保障制度とその歴史 日本の問題点

社会が幸福になる企業活動とは 介護や保育に求められるマーケティングとは

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分の未来と真剣に向き合えない	未来の自分の幸福な形について考える姿勢を作る	自分の幸せと社会の在り方について考える習慣を持つ	自分の理想とする未来像を描けるようになる

知識・理解力	企業や自治体と言う組織に関心が持てない	組織がなぜ成立しているのかを理解する	社会の中で組織がどう観戦しあっているかを理解する	今後、生き残る組織とその要素について理解する
言語力	公文書を面白いと思えない	企業が用いる言葉と特徴を理解する	消費者としての自分がどう発言するか考える	専門用語を用い、簡潔で意味が規定された文書を書く
思考・解決力	データをうまく活用できない	自分の考えを補強するようにデータが使える	社会の課題を発見できる	課題に対して自分の回答を準備する
共生・協働する力	社会、ことに福祉について興味が無い	介護や福祉、社会問題が自分の問題であると理解する	共同作業である調査活動に積極的に参加する	社会のために自分が何ができるかをしっかり考える
創造・発信力	幸福とは何かという問いに向き合えない	様々な社会の形を知り、自分がそこにいたらと考えられる	今の自分たちが社会に何ができるかを考える	社会の幸福のために自分ができることを確認する

〔授業計画〕

- 第 1 回 なぜ世界に恵まれない人がいるのか？
数字の見方に慣れていこう、世界の幸福度
- 第 2 回 資本主義社会の利点と弱点
私たちが生きている「今」の世界について知ろう
- 第 3 回 企業の論理は勝者の論理
マーケティングを駆使するグローバル企業と、社会的弱者の関係
- 第 4 回 国や自治体のできること
マーケティング戦略の取れない公務の弱点
- 第 5 回 法人って、何？
国と企業の間立つ様々な法人について知ろう
- 第 6 回 公益事業の民営化って？
少子高齢化にどう対応するか
- 第 7 回 企業の社会貢献-1
利益を社会に還元する企業の在り方とは？コトラーに学ぶ
- 第 8 回 企業の社会貢献-2
消費者保護、そして環境対策
- 第 9 回 週休4日制？
ソーシャルマーケティングの視点から見たワークシェア
- 第 10 回 効率の良い福祉や保育は可能か？
法人へのマーケティング技術の導入
- 第 11 回 世界のソーシャルマーケティングの実践例
アフリカを救うためにミュージシャンが行ったこと

- 第 12 回 私たちにできること-1
ここまでの学習を通してのグループディスカッション
- 第 13 回 私たちにできること-2
ディスカッションの報告
- 第 14 回 持ち込み可の試験
60分で試験を実施します。その後に簡単な解説を行います
- 第 15 回 未来について考えよう
試験を返却します。また、保育や介護などの仕事
がこれからどうなるか、可能性を探ります

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行いません

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

世界でおきていることを「自分の問題」として考えるのがソーシャルマーケティングの第1歩です。覚えるよりも考える、発表することを重視します。発表内容については授業時間内に講評を行います。「気づき」を高く評価します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

この分野はどんどん変化しています。まず毎日のニュースに気を配ることを心がけてください。難民問題や医療問題など、その時々
のニュースの解説も行います。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期間内試験 50% ディスカッションの参加・発表 25% 普通の授業態度

25% 社会への関心の高さを見せてください。試験については問題の狙いについて詳しく解説し、最終授業の際に添削を加えて返却します。

〔留意事項 (Other Information)〕

毎回、プリントを配布します。そこに講義中のメモを書き込み、自分だけのテキストを完成させてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない予定です (毎回プリントを配布します)。ただし、講義前に良い本が出た場合は、最初の授業で購入を指示します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

最初の授業に指示します。またディスカッションの場合、グループごとに参考資料を貸与します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク演習 II

SWR3500NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 通年

月曜1限

DP5 : 共生・協働する力

30

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、多様な生活課題を抱える人々に寄り添い理解を深め、生活状況やニーズを適切に把握して支援計画を策定する能力を涵養することを目標としている。また、地域の社会資源を活用・調整・開発し、他職種と協働しながらかわる支援者としての対人援助能力を身につけることを目標としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

ソーシャルワークの意義と方法を学び、実際の援助場面で用いられるソーシャルワークの基礎的理論について理解する。事例研究を通して対人援助専門職に必要なとされるコミュニケーションの技術、アセスメントやプランニングの技術、チームアプローチの技術を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	理論や専門用語を調べることができない。	理論や専門用語を調べることができる。	理論や専門用語を調べ、内容を理解している。	理論や専門用語の内容を理解し、どのような場面で活用できるのか説明することはできる。
思考・解決力	ニーズを把握することができない。	ニーズを把握することができる。	ニーズを把握し、解決策を考えることはできる。	ニーズを把握し、具体的な解決策を説明することができる。
表現力・考察力	ニーズの背景を考慮することができない。	ニーズの背景を考慮することができる。	ニーズの背景を考え、ニーズ充足に必要な支援を考慮することはできる。	ニーズの背景を考え、ニーズ充足に必要な支援を具体的に説明することができる。

コミュニケーション力	発言や傾聴をすることができない。	意見を発言することはできる。	意見を発言し、他者の話を傾聴することはできる。	意見を発言し、他者の話を傾聴し、意見の共通点や相違点を説明することができる。
------------	------------------	----------------	-------------------------	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 ソーシャルワークとは何か
- 第 2 回 ソーシャルワークの意義と方法
- 第 3 回 インテークの実際
- 第 4 回 アセスメントの実際
- 第 5 回 プランニングの実際
- 第 6 回 支援の実際
- 第 7 回 モニタリングの実際
- 第 8 回 効果測定の実際
- 第 9 回 終結とアフターケアの実際
- 第 10 回 アウトリーチの実際
- 第 11 回 チームアプローチの実際
- 第 12 回 ネットワーキングの実際
- 第 13 回 社会資源の活用・調整・開発
- 第 14 回 ケースカンファレンスの実際
- 第 15 回 ソーシャルワーカーの専門性
- 第 16 回 対人援助の本質
- 第 17 回 事例研究の意義
- 第 18 回 事例研究の基本枠組み
- 第 19 回 事例研究の進め方
- 第 20 回 事例のまとめ方
- 第 21 回 事例の分析
- 第 22 回 事例研究 児童と家族の相談援助事例
- 第 23 回 事例研究 障害のある児童と家族の相談援助事例
- 第 24 回 事例研究 身体障害のある人の相談援助事例
- 第 25 回 事例研究 知的障害のある人の相談援助事例
- 第 26 回 事例研究 精神障害のある人の相談援助事例
- 第 27 回 事例研究 在宅要介護高齢者の相談援助事例
- 第 28 回 事例研究 施設要介護高齢者の相談援助事例
- 第 29 回 事例研究 地域包括支援センターにおける相談援助事例
- 第 30 回 事例研究の総括と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ソーシャルワークの実際に関する資料／映像の提示
2. ソーシャルワークの視点からの講義と解説
3. ロールプレイ、カンファレンスを含んだ演習、事例研究を行う。

本演習では、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に参加し行動発言することを求める。

4. 各回課題について、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

社会福祉実践の現場は常に変化している。日頃からテレビや新聞等で社会福祉関連の話題や記事を見つけて理解を深めておく必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50%) と演習課題レポート (50%) をもって総合評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士受験予定者は必ず受講すること。

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で資料を配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で参考文献一覧を配付する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク演習Ⅲ

SWR4600NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
4年次

1単位 前期

木曜 3限

DP6：創造・発信力

45

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

相談援助には、個別支援にとどまらず、さまざまな問題を総合的・包括的な視点で捉え、地域支援へと展開することが求められている。また、地域における各種の課題や問題状況を把握、分析したうえで、必要な専門職（他職種含む）や地域住民・組織・団体等との連携・協働を視野に入れながら、解決するための方法を模索することも求められる。そこで本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士（専門職）取得を目指す学生が、必要な専門知識をもとに、実践的な力を習得することを目標とする。特に、地域支援や地域福祉の基盤整備と開発にかかわる実践力の習得をめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 利用者のニーズから地域課題を考える。
2. 地域の現状把握と地域における生活課題、福祉課題を考える。
3. 地域福祉を推進するための情報収集、課題の分析、計画づくりの過程について学ぶ。
4. グループ発表については、発表後に全体でフィードバックをおこなう。

5. 授業最終日に、レポート等に対するフィードバックをおこなう。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現場実習の内容を振り返り、自分の課題を見つけることができない	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について見つめようとすることができる	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について克服するために何をすべきか理解できる	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について克服しようとする努力することができる
知識・理解力	ソーシャルワークの地域展開について、理解することができない	ソーシャルワークの地域展開について、理解しようとして、課題に取り組むことができる	ソーシャルワークの地域展開の意味を理解し、地域の課題について考えることができる	ソーシャルワークの地域展開の意味を理解し、地域の課題解決に向けて提案することができる
言語力	グループワークにおいて、意見を述べることができない	グループワークにおいて、意見を述べようとする努力することができる	グループワークにおいて、他者の意見を尊重することができる	グループワークにおいて、多様な意見を尊重し、グループとしての意見集約をすることができる
思考・解決力	演習課題やグループワークで、考え、解決することができない	演習課題やグループワークで、考え、解決しようとする努力することができる	演習課題やグループワークで、考え、解決するために何が必要かを考えることができる	演習課題やグループワークで、考え、解決するために提案することができる
共生・協働する力	グループワークにおいて、互いを尊重して取り組むことができない	グループワークにおいて、互いを尊重して取り組もうとすることができる	グループワークにおいて、互いを尊重して課題解決に向けて取り組もうとすることができる	グループワークにおいて、互いを尊重して課題解決に向けてともに考えることができる

創造・発信力	演習課題やグループワークにおいて、解決策を提案することができない	演習課題やグループワークにおいて、解決策について、考えようとするができる	演習課題やグループワークにおいて、解決策について、他者に発信することができる	演習課題やグループワークにおいて、解決策について、他者に発信し、新たな考えを導き出すことができる
--------	----------------------------------	--------------------------------------	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 現場実習の振り返りと総括
- 第 3 回 実習の学びを事例にした演習①（地域連携の実際
- 第 4 回 実習の学びを事例にした演習②（チームアプローチの可能性）
- 第 5 回 個別支援から地域支援を考える①（ソーシャルワーカーの援助方針と視点）
- 第 6 回 個別支援から地域支援を考える②（地域住民への働きかけ）
- 第 7 回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開①（相談への対応）
- 第 8 回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開②（情報収集の方法）
- 第 9 回 個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開③（ネットワーク形成）
- 第 10 回 地域福祉計画の策定過程について
- 第 11 回 地域の情報収集について
- 第 12 回 地域の課題把握・分析について
- 第 13 回 サービス評価について
- 第 14 回 計画づくりについて
- 第 15 回 グループ発表と総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

現場実習で体験した内容や具体的な事例をもとに、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション等に取り組む。そのために学生は主体的にかかわり、各課題に積極的に取り組む。また、提示する課題に対して、グループワークによる発表、レポート作成に取り組む。毎回のグループワークの発表等に対して、コメントを含めて、フィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各自の現場実習を振り返り、成果や課題を明確にしておくこと。

地域福祉にかかわる情報や社会資源について情報収集しておくこと。

グループワークによる課題への取り組みに対して、情報収集、情報共有、まとめの作業など、グループによる取り組みを進めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、グループ課題発表 (20%)、個人レポート課題 (50%) で総合的におこなう。欠席回数 が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得を希望する学生は、必ず受講すること。

専門職に必要な演習科目のため、受講者一人ひとりが自主的、積極的に演習に取り組むこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

各自の社会福祉援助技術現場実習記録

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (社会福祉士有資格、自治体、社会福祉協議会等における地域福祉にかかわる委員等の経験あり)

ソーシャルワーク論VI

SWR4502N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
4年次

2単位 前期

月曜3限

DP5: 共生・協働する力

90

武藤 大司

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、社会福祉士養成科目「相談援助の理論と方法」に該当する。この科目では、ソーシャルワーク論Ⅲ、Ⅳ、Ⅴを踏まえ、専門的ソーシャルワーク実践力を有する社会福祉士に求められる知識と理解を包括的に深め、社会のために多職種連携のもとにソーシャルワーク (相談援助) を実践する準備を全うすることにあり、具体的目標は以下の通りである: 1) クライアントのウェルビーイングのためのソーシャルワーク事例分析ができる、2) ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践し、クライアントに寄り添うことができる、3) 地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 事例検討を通して、包括的に習得したソーシャルワーク (相談援助) の様々なモデル、アプローチを現場で実践する準備を完了する。

2 ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備を終える

3 地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護する準備を整える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
ソーシャルワーク現場実践準備にあたるソーシャルワーク諸モデルの事例検討	ソーシャルワーク現場実践準備にあたるソーシャルワーク諸モデルの事例検討ができない	ソーシャルワーク現場実践準備にあたるソーシャルワーク諸モデルの事例検討がある程度できている	ソーシャルワーク現場実践準備にあたるソーシャルワーク諸モデルの事例検討が十分にできている	レベル3に加えて、ソーシャルワークの諸モデルの実践を試みる
ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備	ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備ができない	ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備がある程度できている	ソーシャルワークのプロセス・関連知識と技術を包括的に実践しクライアントに寄り添う準備が十分にできている	レベル3に加えて、現場でクライアントに寄り添う技術を試みる
地域や福祉の現場で他職種との連携/協働とクライアントの権利擁護	地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護する準備ができない	地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護する準備がある程度できている	地域や福祉の現場で他職種と連携・協働し、クライアントの権利を擁護する準備充分にできている	レベル3に加えて、地域や福祉の現場で他職種との連携・協働を試みる

〔授業計画〕

- 第 1 回 さまざまな実践モデルとアプローチ 1
①オリエンテーション ②ソーシャルワーク (相談援助) の実践モデルとその意味 (第6章1節)
- 第 2 回 さまざまな実践モデルとアプローチ 2
治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル (第6章2節)
- 第 3 回 さまざまな実践モデルとアプローチ 3
ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル (第6章3節)
- 第 4 回 さまざまな実践モデルとアプローチ 4
心理社会アプローチと機能的アプローチ (第7章 1・2節)
- 第 5 回 さまざまな実践モデルとアプローチ 5
問題解決アプローチと課題中心アプローチ (第7章3・4節)
- 第 6 回 さまざまな実践モデルとアプローチ 6
危機介入アプローチ・行動変容アプローチ・事例考察によるアプローチ理解 (第7章5・6.7節)
- 第 7 回 さまざまな実践モデルとアプローチ 7
エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチ・認知アプローチなど (第8章 1～3節)

第 8 回 さまざまな実践モデルとアプローチ 8
事例考察によるアプローチ理解と課題 (第8章4・5節)

第 9 回 スーパービジョンとコンサルテーション
スーパービジョンとコンサルテーション (第9章)

第 10 回 ケースカンファレンスの技術
ケースカンファレンスの技術 (第10章)

第 11 回 相談援助における個人情報保護
相談援助における個人情報保護 (第11章)

第 12 回 相談援助における情報通信技術 (ICT) の活用
相談援助における情報通信技術 (ICT) の活用 (第12章)

第 13 回 事例研究・事例分析
事例研究・事例分析 (第13章)

第 14 回 相談援助の実際
相談援助の実際 (第14章)

第 15 回 相談援助の理論と方法 総括
ソーシャルワーク論Ⅵのまとめとふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
定期試験に替わるレポートを作成する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
テキストに基づいて講義を行う。DVD教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出することもある。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
予習として、テキストの該当する部分を概読してくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度 (30%)、課題レポート (70%) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕
授業内で適宜資料を配布する。
実際の授業の状況に応じて、学生に周知した上で授業予定を変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』/社会福祉士養成校協会編集/中央法規/2015//学内販売予定

授業はテキストを中心に進めるので必ず購入すること

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
適宜、授業で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
《実践的科目》社会福祉士として、障害者 (身体、知的、精神とも) 福祉施設、福祉用具展示相談、都道府県高次脳機能障害支援普及事業、成年後見人 (認知症高齢者、障害者)、地方検察庁社会福祉アドバイザー、スクールソーシャルワーカー経験等あり。

デザイン論 I

LDR3201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

月曜2限

DP2: 知識・理解力

60

西田 雅嗣

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

身の回りの建築がどんな風に出てきているのか、建築の様々な形にはどんな意味があって、どんな歴史がそこに隠れているのかを、建築を成り立たせている様々なデザインの形をつぶさに観察し考察することで考える。身の回りの生活空間や建築の中にある意味と歴史を知る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. デザインの理解を通して、身の回りにおける建築を新たな目で見ることのできる発見を得る。
2. 建築を構成している色々な形の成り立ちや意味、そして歴史を、デザインとして学ぶ。
3. 得た発見や学んだ知識を、自分の身の回りの生活空間に発見する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
この講義の目標や課題を説明し、講義の進め方、講義全体の構成、各回の個別内容の概略について説明する。
- 第 2 回 柱-1 日本の柱
日本建築の「柱」について、言葉の意味や形式、歴史を学ぶ。特に伊勢神宮の柱を考えることで、日本建築がいかに多様な意味を「柱」にこめているかを知る。
- 第 3 回 柱-2 西洋の柱
西洋建築の「柱」について、言葉の意味や形式、歴史を学ぶ。特にパルテノン神殿に由来し、凱旋

門モチーなどを構成する「オーダー」と呼ばれる柱が、西洋建築では歴史を通じて常に建築デザインの中心的存在であったことを知る。

- 第 4 回 柱-3 柱の東西
建築のデザインにおける日本の柱と西洋の柱を、構造、象徴、装飾、そして比例を観点として、「記念柱」や「床柱」、「木割り」や「プロポーション」を例にして比較して考えてみる。
- 第 5 回 窓-1 日本の窓
日本建築の「窓」について、デザインを通して考える。日本語での「窓」の意味や、御所に由来する「橢形窓」、古くから使われてきた「連子窓」、茶室が発明した「下地窓」などの形式、歴史、意味を知る。
- 第 6 回 窓-2 西洋の窓
西洋建築の「窓」について、デザインを通して考える。石造の壁に穿たれた穴としての西洋建築の「窓」において対照的な二つのあり方を見せるロマネスクの教会堂の窓とゴシックの大聖堂の「ステンドグラス」を例に、西洋の窓の意味を知る。
- 第 7 回 窓-3 窓の東西
建築のデザインにおける日本の窓と西洋の窓を比較して考えてみる。特に、モースやタウトの西洋が見る日本の窓と、窓のあり方を根本から変えた西洋の近代建築の窓を例に考える。
- 第 8 回 壁-1 日本の壁
日本建築の「壁」について、デザインを通して考える。日本語の「壁」の意味、日本家屋での壁の役割を考える。「垣」と「塀」の具体例の中に「隔て」と「囲い」という二つの役割を確認し、「板壁」と「塗壁」という伝統技術が西洋建築の輸入に使われたことを知る。
- 第 9 回 壁-2 西洋の壁
西洋建築の「壁」について、デザインを通して考える。欧語での「壁」という言葉の意味から始まって、古代のウィトルウィウス建築書からルネサンスや近世の建築理論書での「壁」の扱われ方を見ることで西洋建築での「壁」の意味を考える。
- 第 10 回 壁-3 壁の東西
建築のデザインにおける日本の壁と西洋の壁を比較して考えてみる。日本人の抱く西洋建築のイメージを代表する「下見板」と「赤煉瓦」について、日本と西洋での作り方や考え方の違いを学習する。
- 第 11 回 屋根-1 日本の屋根
日本建築の「屋根」について、デザインを通して考える。日本語での「屋根」の意味を見たのち、住居の原型である竪穴住居と高床住居の小屋組の検討から、日本建築の屋根の基本形式である「寄棟造」と「切妻造」の歴史的・文化的意味を知る。
- 第 12 回 屋根-2 西洋の屋根
西洋建築の「屋根」について、デザインを通して考える。屋根を見せない正当的な古典主義建築

と、「マンサール屋根」など、屋根を見せるフランスの古典主義デザイン、そしてゴシック大聖堂の急勾配の屋根を通して、西洋の「屋根」を知る。

- 第 13 回 屋根-3 屋根の東西
建築のデザインにおける日本の屋根と西洋の屋根を比較して考えてみる。タウトやモースが解釈した日本建築の屋根を検討した後、屋根をのせる日本の近代建築と、勾配屋根を嫌った西洋の近代建築という対照的なあり方を見てみる。
- 第 14 回 建築を読む
トピックスとして、西洋中世の修道院であるル・トロネの建築を読む試みを行う。シトー会の無装飾ロマネスク建築が、どのようにどんなメッセージを伝えているのかを見てみる。
- 第 15 回 まとめと期末レポート
これまでの講義の内容を振り返り、期末レポートのテーマを各自考えた上で、期末レポートを執筆する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法：パワーポイントで画像資料を投影しながら、それを解説する形で講義を進める。
2. 授業参加：授業時間内で、ディスカッションや小レポート作成を行うことがある。小レポートについては、次回以降の授業時間内において、必要に応じてディスカッションのテーマとするとともに、適宜コメントをする。
3. 参考文献：必要に応じて授業中に適宜指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各回の授業に該当するテキストの箇所を必ず読んで上で授業に出席する。
2. 各回の授業のテーマに関係する、興味を持てる参考図書を自分で事前に探して見るのも良い。
3. 各回の授業のテーマについて、自分で興味で、身の回りの事例を事前に見学するのも良い。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート (70%)、小レポート (20%)、授業参加度 (10%) を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

建築や街の風景をよく見て、本を色々読んでみて、色々と考えを巡らして見るのが重要です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当教員がこの授業用に作成した資料を印刷・製本してテキストとして使用する。実費にて頒布する。頒布は、通常の学内販売ではなく、教務課を通して行う。(西田雅嗣『京都ノートルダム女子大学 デザイン論 I』)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本人の住まい』新装版/E・S・モース著/八坂書房/2004/ISBN 9784896948417

『日本美の再発見』増補改訳版/ブルーノ・タウト著/岩波新書/1962/ISBN 9784004000105

『図説精読 日本美の再発見』/ブルーノ・タウト著/岩波書店/2019/ISBN 9784000613767

『ウィトルーウィウス建築書』第二版/森田慶一訳/東海大学出版会/1979/ISBN 9784486005025

『日本デザイン論』/伊藤ていじ著/鹿島出版会/1966/ISBN 9784306050051

『建築をめざして』/ル・コルビュジェ著/鹿島出版会/1967/ISBN 9784306050211

『建築用語図鑑 西洋篇』/杉本龍彦他著/オーム社/2020/ISBN 9784274225734

『建築用語図鑑 日本篇』/中山繁信他著/オーム社/2020/ISBN 9784274223624

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

デザイン論 II

LDR3251N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 後期

月曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

西田 雅嗣

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

身の回りの場所や空間がどんな風に出来ているのか、そこに見られる様々な形にはどんな意味があって、どんな歴史がそこに隠れているのかを、私たちの生活空間を成り立たせている様々な場所・空間のデザインをつぶさに観察し考察することで知る。身の回りの生活空間めぐる形と意味と歴史とを知る。デザイン論 II では、デザイン論 I で扱ったテーマよりも場所性や空間性に重点を置いたテーマを扱う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. デザインの理解を通して、身の回りの場所や空間を新たな目で見える眼差しを得る。
2. 私たちの生活空間を構成している色々なデザインの成り立ちや意味、歴史を学ぶ。
3. 得た発見や学んだ知識を、自分の身の回りの生活空間に発見する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 インTRODクシヨン

この講義の目標や課題を説明し、講義の進め方、講義全体の構成、各回の個別内容の概略について説明する。

第 2 回 街路-1 西洋の街路

西洋の都市の「街路」のデザインを観察する。具体的には、西洋の都市空間構造の成り立ちのいくつかの型を、街路の観点から観察してみる。また、近代都市が生んだ商業空間の街路であるパリの「パッサージュ」も見てみる。

第 3 回 街路-2 日本の街路

日本の都市の「街路」のデザインを観察する。具体的には、平安京以来の京都の都市空間のあり方の歴史を、京の都市空間構造と街路に着目して辿り、またその空間の日本の特質を、清水界限などを例に検討して見る。

第 4 回 街路-3 西洋と日本の街路

西洋と日本の都市における「街路」デザインを比較して考えてみる。「街路」や「ファサード」、あるいは「広場」の構成や役割、あるいはそれらの意味の、西洋と日本における違いを学ぶ。

第 5 回 中庭-1 西洋の中庭

西洋の「中庭」のデザインを考えてみる。エーゲ海文明にまで遡る源流、そして古代ローマの住宅建築以来の長い伝統と、特に中世の修道院の回廊空間に着目して、「中庭」空間の意味と歴史を西洋の文化として学ぶ。

第 6 回 中庭-2 日本の中庭

日本の「中庭」のデザインを考えてみる。「庭」という日本語の意味の検討の後、町家に見られる坪庭や古代貴族住宅の寝殿造の南庭、あるいは龍安寺などの方丈庭園、茶室の露地などを例に、日本の中庭空間のいろいろなあり方と意味を知る。

第 7 回 中庭-3 西洋と日本の中庭

中庭のデザインの、日本と西洋の場合を比較して考えてみる。西洋と日本に共通する「回廊空間」を取り上げ、結果された「聖なる空間」としての庭空間を考えて見る。西洋中世修道院の回廊や回廊が巡る日本の仏教寺院伽藍を見てみる。

第 8 回 塔-1 西洋の塔

西洋建築の「塔」について、デザインを通して考える。古代オリエントのジグuratの建築からバ

ベルの塔の図像表現、そしてフランスの片田舎の中世の教会堂の鐘塔を例に、塔の持つ象徴性や聖書的な意味の表れを考えてみる。

第 9 回 塔-2 日本の塔

日本建築の「塔」について、デザインを通して考える。日本語の「塔」は「塔婆」の意味である。「塔婆」の語源である「ストゥーパ」の建築をアジア文化の歴史に探り、法隆寺の五重の塔をはじめとする日本建築における仏塔を例に、日本建築における「塔」のいろいろな側面を学ぶ。

第 10 回 塔-3 西洋と日本の塔

「塔」のデザインにおける日本と西洋を比較して考えてみる。19世紀ヨーロッパのジャポニズムでもてはやされた五重塔を通して、西洋文明が手にしたかった日本建築を考えてみる。また同じ時期に登場したエッフェル塔と合わせて考えることで、近代が作り上げた「タワー」という建築の意味を学ぶ。

第 11 回 建築-1 西洋の建築

「光」により姿を現す西洋の建築というものの姿を、中世建築を例に見てみる。フランスの美術史家が日本で行った「西洋中世の宗教建築における光」と題された講演内容を、講演時に映されたスライドとともに迎ってみる。

第 12 回 建築-2 日本の建築

日本の建築とはどういうものか、ということ西洋の建築家の目を通して考えてみる。明治の御雇外国人建築家であるジョサイア・コンドルが日本に建てた西洋建築を観察することで、建築における日本性を考えてみる。

第 13 回 建築-3 西洋と日本の建築

西洋における建築の意味の一つは記憶の保存術である。記憶の保存と伝達の仕方における日本と西洋の建築での対照的な二つの戦略を考えてみることで、西洋と日本のそれぞれに固有の文化財継承の二つの形を学ぶ。

第 14 回 日本建築の空間

トピックスとして、日本建築の空間の出現の歴史を、仏堂建築の形式の歴史の変遷を古代から近世まで辿ることで学ぶ。金堂と呼ばれる古代の仏堂から、中世における仏堂空間の建築的な飛躍、そして大人数の信者を収容する近世の本堂の形成までを辿る。

第 15 回 まとめと期末レポート

これまでの講義の内容を振り返り、期末レポートのテーマを各自考えた上で、期末レポートを執筆する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法：パワーポイントで画像資料を投影しながら、それを解説する形で講義を進める。
2. 授業参加：授業時間内で、ディスカッションや小レポー

ト作成を行うことがある。小レポートについては、次回以降の授業時間内において、必要に応じてディスカッションのテーマとするとともに、適宜コメントをする。

3. 参考文献：必要に応じて授業中に適宜指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各回の授業に対応するテキストの該当箇所を必ず読んで上で授業に出席する。

2. 参考文献に挙げた本、あるいはそれに類した本を自分で探し、授業の関係箇所をその中に探して、授業の前に読んでおくことは大変に良い勉強になる。

3. 各回の授業のテーマについて、自分で興味を持って身の回りの関係する事例を事前に見学してみるのも良い。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート (70%)、小レポート (20%)、授業参加度 (10%) を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

建築や街の風景をよく見て、場所や景観が醸し出す雰囲気に対して感受性を豊かにして、そして本を色々読んで、考えを色々巡らして見るのが大事です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当教員がこの授業用に作成した資料を印刷・製本してテキストとして使用する。実費にて頒布する。頒布は、通常の学内販売ではなく、教務課を通して行う。(西田雅嗣『ノートルダム女子大学 デザイン論 II』)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『都市のイメージ』新装版/ケヴィン・リンチ著/岩波書店/2007/ISBN 9784000241380

『日本の都市空間』/都市デザイン研究体著/彰国社/1968/ISBN 9784395000500

『広場の造形』/カミロ・ジッテ著/鹿島出版会/1983/9784306051751

『街並みの美学』/芦原義信著/岩波現代文庫/2001/ISBN 9784006000493

『タワーの文化史』/河村英和著/丸善出版/2013/ISBN 9784621086995

『日本建築の空間』/井上充夫著/鹿島出版会/1969/ISBN 978-4306050372

『空間体験 世界の都市・建築デザイン』/日本建築学会編/井上書院/1998/ISBN 9784753017331

『空間演出 世界の都市・建築デザイン』/日本建築学会編/井上書院/2000/ISBN 9784753017355

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ビジネスの基礎 I

LDR2201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 前期

火曜1限

DP2：知識・理解力

60

新村 佳史

【科目の教育目標 (Course Description)】

この授業の目標は、社会人として求められる一般教養、そしてコミュニケーション力を育てよう、というものです。みなさんは「自分が考えていることをきちんと人に伝える」ことができますか？ちょっと苦手、という人はぜひ選択してください。それを楽しく身につけていくために、音楽やファッション、食べものなど身近なことをまず見つけます。そこから話題を深めていきましょう。考えるための知識をまず身につけていきます。次に、自分なりの考えをまとめていく、と言う企画作りに入ります。未来を考える力を育てることを目標にしています。書く、考える、話し合う、就職試験で求められる面接やグループディスカッション対策にもなる講義です。人と話すことで自分を見つめることができるようになります。この授業で、新たな友人を見つけてもらえれば幸いです。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

・基礎教養の再確認 世界を広げるための基礎力チェックとその養成、ことに宗教と民族の特性について ・メディアの特質とその個性 新聞、テレビ、映画、通信、広告などの役割 ・社会参加の様々な方法を知ろう ・ビジネスにおける情報の価値を知る ・これから企業や社会はどうなるか ・コミュニケーション力とはなにか ・相手を知らないとは始まらない ・世代論の基礎 自分たち世代の強み、弱みを知ろう ・企画とはなにか すべては上手な目標設定から ・企画を実際に立ててみよう 上手に自分の考えを伝える手法

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から行動できない	与えられた課題にきちんと取り組む	自分で課題を考えられるようになる	課題の解決に進んで取り組めるようになる
知識・理解力	社会に関心を持っていない	ニュースに関心を持つようになる	知識は「使えるものだ」と認識する	自ら新しい知識を得ることに喜びを感じる
言語力	人の話を聞けない	他者の話に関心を持つ	他者に伝わる言葉を考え、発話する	他者の視点を意識した文書作成心がける

思考・解決力	物事に対して「なぜ」という問いかけができない	「なぜ」を考える習慣を身につける	「なぜ」を深く掘り下げられるようになる	自分の疑問をもとに他者と議論できるようになる「
共生・協働する力	あいさつができない	目を合わせてあいさつができる	他者の話に笑顔で合図値が打てるようになる	話し合いを通して意見を共有できるようになる
創造・発信力	好きなものがない	自分の好きなことを他者に伝える	他者の好きなことに関心を持つ	未来を考え、それを他者に語る習慣を持つ

【授業計画】

- 第 1 回 メディアとの付き合い方
メディアについて知ろう 日本のメディアの特質と、広告論、聞く力の重要性
- 第 2 回 今の世界を支えているものは？
世界を知る基礎教養・1 世界のことをもっと知ろう 宗教、民族の基礎
- 第 3 回 世界は楽しい
世界を知る基礎教養・2 面白い現代史 アジアと西洋をつなぐもの
- 第 4 回 インタビュアーになってみる
自分を伝える技術を持とう・1 上手な話の聞き方、まとめかた
- 第 5 回 社会人レベルの文章の書き方
自分を伝える技術を持とう・2 こう書けば、簡単に伝わる文章が書ける
- 第 6 回 聞いて、話して、まとめてみる
コミュニケーション力とは何か ディスカッションを楽しもう
- 第 7 回 世代を知ろう 今の20代を大人はどう見ているか知ろう
- 第 8 回 さまざまな人の中での自分の客観化 「私」はどこにいる
- 第 9 回 人と自分は違って当然
ターゲット、という考え方 自分と人とは似ているし、違う
- 第 10 回 相手のために何かを考えてみる
企画力をつける・1 目的の立て方
- 第 11 回 企画の作り方
企画力をつける・2 手順の確認と評価の仕方
- 第 12 回 楽しくアイデアをまとめてみる
企画書を作る・1 グループで考える
- 第 13 回 データを見せてみよう
企画書を作る・2 根拠を示すための数字の使い方
- 第 14 回 プレゼンテーションです
企画書を作る・3 課題に沿って企画書を作る、そして発表する
- 第 15 回 20代の自分の企画は？

これからの時代と自分の役割について考える
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回プリントを準備し、さまざまなテーマについて知り、考えるという作業を行ないます。みなさんの興味により、内容は変化することもあります。また、企画書の作成はもちろんのこと、その回のテーマについて考えたことを多様なスタイルで「書く」ことで、自分の考え方の確認をするとともに、言葉を用いての情報発信の技術を身につけていきます。書くことがきっと、楽しくなります。プリント、作成物をまとめておくファイルを必ず準備してください。興味を持てる領域が広がり、知識を使いこなして自分の意見を形成でき、発信できる力を身につけてください。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞を読む、ニュースを見るという習慣を身につけて置いてください。

毎時、関心を持ったニュースについての発表を行います。また海外、そして国内の旅への関心の高い人を歓迎します。講義を通して、みなさんが旅行したくなる場所を見つけてくれれば幸いです。旅は生きるためのフォーム・基礎力を育ててくれます。一人で京都の街を歩く、というのも最高の学習です。そこで感じたことを授業で短時間で発表してもらい、こちらからの感想をお返しします。作文の形で表現する練習も行います。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験は行ないません。授業中の態度と制作物、小テストで判断します。授業態度・姿勢 30% 授業での課題(作文など) 30% 最終制作物(企画書) 40% 毎回の課題(作文、アイデア出し、ディベート) 授業内にそれぞれの良い点を指摘します。授業態度の評価度合いが高いので、欠席が多いようだ単位の認定は難しくなります。注意してください。また提出物についてはすべて返却します。その際に、特に、どの点が伸びたかについて詳しく説明します。

〔留意事項 (Other Information)〕

みなさんの興味によって授業内容は変わります。自分の関心あることを積極的に発言してください。聞くだけ、座っているだけという受け身の姿勢からは、何も生まれません。毎時、必ずみなさん全員の意見を求めます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは特に使用しません。毎回、みなさんの意見を聞きながらプリントを準備します。プリントは皆さんが各自ファイルし、毎時、持参してください。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

世界地図

好きな雑誌

世界について書かれた好きな本

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ビジネスの基礎Ⅱ

LDR2252N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

火曜3限

DP2: 知識・理解力

60

ビジネスの基礎I

新村 佳史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

考える力、そのために必要な知識の組み立て方、話し方、聞き方を総合的に伸ばしていきます。「ビジネスの基礎」の授業をより深めていく(資料を読み込む、より高度な企画書作りに取り組む)授業です。そのため「ビジネスの基礎」受講修了者(過年度でも可)対象者のみの受講となります。読む力、調べる力を身につけ、生涯にわたって学び続けるという基本フォームを形成します。就職試験の対策、就職前のトレーニングとなることも目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・コミュニケーション力のさらなる上昇 ・知的好奇心の育成
・資料読解力の育成 ・未来の課題の確認
・企画力の充実 ・個々の「幸福感」の形成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現状で満足している	新しいこと、未知のことへの関心を持つ	自分で取り組む課題、スケジュールを立てられるようになる	自己の目標に対して達成基準を厳しく作れるようになる
知識・理解力	知識を組み合わせることができない	1つの課題から自分で新たな課題を作れる	読書の内容を他者に面白く伝えられる	自分の知識をもとに未来を考察できる
言語力	形容詞に頼る表現しかできない	比喩をまじえて具体的に人に伝えることを心がける	使える語彙を増やすことに面白さを感じる	書く力、話す力の向上に喜びを感じる

思考・解決力	調べ方がわからない	スマホを用いた「調べる」力をつける	出来事の中の「ポイント」を見抜くように心がける	歴史と現在、未来の関連づけが楽しくなる
共生・協働する力	ディスカッションに入れない	他者の話に関心を持ち、より深い内容を引き出す	自分の意見と他者の意見を組み合わせる工夫をする	自分の意見と他者の意見から全く新しい視点を探せる
創造・発信力	とことん好きと言えないものがない	好きなことを他者に理解してもらえよう表現を工夫する	発表を通して好きなものの本質を考える	好きなものの「記事」が作れるようになる

〔授業計画〕

- 第 1 回 新聞に慣れよう
世界を知るための方法を考える まず新聞について、ネットニュースとの違いを知る
- 第 2 回 本を読むとはどういうことか
未来を考えるための方法を考える 読書の楽しさを再確認
- 第 3 回 同じものを読んでも感想は異なるもの
考えたことを話し合ってみる、意見をまとめてみる
- 第 4 回 作文ではなく、論文ばいものを
論文(報告書)を書いてみる(提出物1)
- 第 5 回 高度なディスカッションのために
自分のことを知る・対話を通して自分を確認する
- 第 6 回 他者との違いを意識して
自分カタログ作りに挑戦する・今の自分、過去の自分の確認
- 第 7 回 人に合わせる必要はありません
自分の長所、欠点を再確認し、成長目標を決める
- 第 8 回 自分を生かせる場所はどこですか
今後の目標を作り、まとめてみる(提出物2)
- 第 9 回 企画書作りを思い出しましょう
企画の作り方の再確認
- 第 10 回 違う個性が集まって新しいものを作る
チームで企画を作ることに挑戦する・何が欠けているかを確認、役割を決める
- 第 11 回 資料の探し方・スマホをフル活用
企画作りに必要な資料を分担して集め、企画書を作る
- 第 12 回 プレゼンテーション
企画書の完成と、グループでのプレゼンテーション(提出物3)
- 第 13 回 少しだけ難しそうな本を読む
これからの社会、企業、家庭がどうなるかを考える
- 第 14 回 幸福について考える

働き方と、幸福度の関係について考える
第 15 回 自分の成長を確認しよう
各自が自分の目標について改めて考えてみる、書いてみる、発表する(提出物4)

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

短時間に資料を読む、まとめる、発表するという授業を基本に、他者とのディスカッション、共同作業を行います。また文章力の育成も重視します。書くこと、話すことの楽しさを感じてもらえるよう、みなさんに応じて工夫していきたいと思っています。期待してくださいね。提出物に関しては簡単な添削を加えてすべて返却します。また、個々の良い点について授業内で指摘します。個々の「伸び」を高く評価します。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

とにかく、何にでも興味を持つこと。毎回「今の私の関心ごと」について細かく聞きます。みなさんが新しいことに挑戦することが、毎回の宿題です。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

60

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

授業態度・授業参加度(50%)、個々の成長度(課題の制作物の内容により判定)(50%)全授業終了後、提出物の返却と同時に個々の評価を添えた文書をお渡しします。

〔留意事項(Other Information)〕

毎回、何らかの課題が出ます(楽しい課題です)。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に用いません。ただし、個々に応じて課題図書を貸与します。新書本を指定図書として購入する可能性もあります。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

随時指示します。新聞に目を通す習慣は作ってください。

〔参考URL(URL for Reference)〕

随時指示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フードコーディネータ論

LDA3650NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 後期

金曜 2限

DP6：創造・発信力

60

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

マナーを含む食文化に関する基本的な知識と、実践のための具体的方法を習得する。また、食器、食空間など食のアメニティの創造要因について知り、フードビジネスに必要な知識を身につけ、食を総合的にコーディネートすることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 食をコーディネートするための基本的知識を学ぶ。
2. 事業として食を提供する具体的方法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フードコーディネートの知識	食環境をコーディネートするための基礎的な事柄が身につけていない	食環境をコーディネートするための基礎的な事柄を理解している	レベル2に加えて、食産業のマネジメントに必要な基本的事項を理解している	レベル3に加えて、食の生産から消費に至るフードシステムの流れを理解している
フードコーディネートの実践力	アメニティやホスピタリティといったフードコーディネートの基本理念を説明できない	アメニティやホスピタリティといったフードコーディネートの基本理念を説明できる	フードコーディネートの基本理念に基づき、食空間のコーディネートやメニュープランニングが自在に設計できる	レベル3に加えて、環境や人に配慮した持続可能な食企画を設計できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 フードコーディネートの基本理念
- 第 2 回 日本の食文化
- 第 3 回 外国の食文化
- 第 4 回 日本の食卓のコーディネート
- 第 5 回 外国の食卓のコーディネート
- 第 6 回 サービスとマナー

第 7 回 メニュープランニング

第 8 回 料理様式とメニュー開発

第 9 回 食空間のレイアウト

第 10 回 食空間の設備

第 11 回 フードサービスマネジメントの基本

第 12 回 フードサービスの起業

第 13 回 食企画書の作成

第 14 回 食企画の実践コーディネート

第 15 回 フードコーディネートの進展

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義形式で授業を行う。
- ・授業中に小テストを実施したり、その場でのレポート作成と提出を指示する場合がある。または授業外レポートを課す。
- ・小テスト、レポートについては採点后返却し、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (20%)、授業内小テストおよび授業内レポート (60%)、授業外レポート (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面で実施する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

三訂フードコーディネータ論/(社)日本フードスペシャリスト協会編/建帛社/2019/9784767904405/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

フードスペシャリスト論

LDR2500NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP5：共生・協働する力

60

水谷 由記子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

消費者の立場に立って豊かな食生活の重要性について考えることができる。フードスペシャリストとしての役割とその専門性を理解し、具体的な業務についての基礎知識と活用術を修得する。到達目標 1. フードスペシャリストの全体像が理解できる。2. フードスペシャリストとして具体的な業務の事例について理解できる。3. フードスペシャリストとして日本人の食生活の行方にプラスになる行動ができるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フードスペシャリストとして、食品流通と食文化を背景に、安全性・安心性を配慮した上で、どのようにして食品を仕入れ、いかに健康的かつ美味しい食事を演出するかを学ぶ。さらには、食の多方面において活躍できるよう各分野に必要な業務についての基礎知識を学ぶ。講義で行う予定の教科書の該当項目の章を予め熟読しておくこと。前回の講義内容について、講義中に指摘する「ポイント」を中心に、次回の講義までに必ず復習を行うこと。各章の終わりにその章の内容の理解度を確認する小テスト及び課題に取り組み、わからない用語や興味のある項目については、各自で書籍や文献、インターネットにより調べ、メディアで取り上げられる食に関するニュース等にも関心を持ち、さらに知識を深められるように努めて期末試験及びレポート課題のための準備をすること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 第 1 章 フードスペシャリストとは

(1) 食の専門職の現状 (2) フードスペシャリストの概念 (3) フードスペシャリストの業務とその専門性 (4) フードスペシャリストの養成と資格 (5) 専門フードスペシャリスト資格の成立 (6) 専門フードスペシャリスト資格の食品関連企業就業者への開放 (7) フードスペシャリストの活躍分野 (8) フードスペシャリストの責務

第 2 回 第 2 章 人類と食物

(1) 人類の歩みと食物

第 3 回 第 2 章 人類と食物

(2) 食品加工・保存技術史

第 4 回 第 3 章 世界の食

(1) 食作法 (2) 食の禁忌と忌避 (3) 世界各地の食事情

第 5 回 第 4 章 日本の食

(1) 日本食物史 (2) 食の地域差

第 6 回 第 5 章 現代日本の食生活

(1) 戦後の食生活の変化 (2) 食生活の現状と消費生活 (3) 食生活の変化と食産業

第 7 回 第 5 章 現代日本の食生活

(4) 食料の供給と食料自給率 (5) 環境と食

第 8 回 第 6 章 食品産業の役割

(1) フードシステムと食品産業 (2) 食品製造業の規模と動向 (3) 食品製造業の目的と特徴

第 9 回 第 6 章 食品産業の役割

(4) 食品卸売業 (5) 食品小売業 (6) 外食産業

第 10 回 第 7 章 食品の品質規格と表示

(1) 食品の品質規格、表示にかかわる法律 (2) JAS法による規格

第 11 回 第 7 章 食品の品質規格と表示

(3) 食品表示法による表示

第 12 回 第 7 章 食品の品質規格と表示

(4) 健康や栄養に関する表示制度 (5) その他の法律による表示

第 13 回 第 8 章 食情報と消費者保護

(1) 食情報の発信と受容 (2) 食情報の濫用 (3) 食品の情報処理 (4) 食品の安全 (5) 消費者保護の制度

第 14 回 フードスペシャリスト論の基本知識の総復習

第 1 章から第 8 章の総復習

レポート課題の実施

第 15 回 フードスペシャリスト論の基本知識に関する理解度の確認

期末試験の実施と解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①授業方法：講義形式

②学習方法：適宜、授業内小テストやレポート課題を実施する。

授業内小テスト及び課題の実施後に理解度の確認と解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスにそって、教科書の該当箇所を熟読して予習する。前回の講義内容について、講義中に指摘する「ポイント」を中心に、次回の講義までに必ず復習を行い、わからない用語や興味のある項目については、各自で書籍や文献、インターネットにより調べ、メディアで取り上げられる食に関するニュース等にも関心を持ち、さらに知識を深められるように努めて小テストやレポート課題に備えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(15%)、小テスト(25%)、レポート(15%)、期末試験(45%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進捗状況に応じて授業予定が変更になる場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『四訂フードスペシャリスト論第6版』 / (公社) 日本フードスペシャリスト協会編/建帛社/2020.01.15/978-4-7679-0660-7/学内販売予定

改訂された場合は最新版に変更する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『2021年版フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』 / (公社) 日本フードスペシャリスト協会編/建帛社

その他、講義中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

マーケティング論

LDR3203N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

火曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

新村 佳史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「映画が好き、食べることが好き、音楽が好き、彼氏も好き」・・・好き、という言葉は何にでも使えますよね?でも、「好き」の中身は微妙に異なるはず。なんとかその違いを、うまく言い表せないかな、と考えたときに、役に立つのが「数字」です。感覚的なことを、上手に数値化する、というのが現在の「マーケティング」です。数字で語ることができる、数字を読むことができる基礎を学ぶ授業です。また、数字を使うための上手な調査—アンケートの作り方については、時間をかけてじっくり学べるように考えています。正しい情報、データを見抜き、賢い消費者になれる力を育てます。数学が苦手でも、数字の面白さがわかるよう

に進めていきます。これからの時代を上手に生きていくために必要な力を身につけてください。特に、大事なお金の使い方については丁寧に指導していきます。広告にだまされない知恵を身につけましょう。良い生活者となるための授業です。数学が苦手な人でも大丈夫ですよ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・データの読み方、集め方・企業の商品開発の進め方・集めたデータから何を取り出すか・イメージの数値化・好き、嫌いの感覚を分析する手法・自分がビジネスをするとしたら・・・ビジネスチャンスをデータから発見する・調査票を作る・データは取り方で変化する・調査結果を加工、報告する・これからの時代のお金の運用・・・大事なお金を減らさないために

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会に関心がない	社会の中の自己、を意識できる	社会の中での自分の位置づけを意識する	自分が今の社会で何を期待されているのかを理解する
知識・理解力	データに興味がない	自分の好みをデータとして処理できるようにする	時系列的なデータの意味をつかめるようになる	データ上の特異点を見抜く力を持つ
言語力	アンケートの作り方に興味がない	アンケートは聞き方によって変化することを理解する	簡単な言葉ほど人によって感じ方が変わること理解する	仮説を確認できる上手なアンケートを作る
思考・解決力	仮説が立てられない	自分と他者の違いを理解する	他者についての仮説が立てられる	仮説が正しいか検証できる
共生・協働する力	他者の好みに関心が持てない	他者の話を聞き、自分との違いを確認しうえて相手を認める	アンケート制作、分析の共同作業にきちんと参加できる	他者を認めた上で自分の好みを認識、自分の長所を知る
創造・発信力	好きなことを他者に伝えられない	自分の主観を客観的にとらえ直すことが面白くなる	他者の興味を理解したうえで自分の感想を発表できる	新商品開発の課題に積極的に取り組める

〔授業計画〕

- 第 1 回 なんで私はこれが好き?
自分たちの「好み」とその形成をふりかえって好きになるって何?
- 第 2 回 みんなに買ってもらうために
企業が「好み」をつかまえる技術・・・マーケティングの考え方と流行の誕生

- 第 3 回 知るから、買うまでの段階
ニーズから行動へ 購買行動を考える・・・あなたの
の買い方はみんなと同じですか
- 第 4 回 流行は誰が作る
リーダーはどこにいる イノベーターという考え
方
- 第 5 回 細分化されるターゲット
テレビ番組やコマーシャルのターゲットは誰でし
ょう・・・万人向けから、個性的なターゲットへ
マスメディアからSNSへ
- 第 6 回 アンケートで作られる「今の時代」
質問紙作成のテクニック 調査は『聞き方』で決
まる
- 第 7 回 聞きたいことを聞いてみる
グループで調査計画、質問紙を作成してみよう
- 第 8 回 聞いた結果をどう見せる？
調査結果の上手な報告の仕方について
- 第 9 回 上手な発表の仕方
グループごとに調査結果を報告してみよう
- 第 10 回 あなたは買い物上手ですか？
消費者集団とはなにか 自分ははたして「普通」
だろうか
- 第 11 回 これからの時代に求められるセンスとは
差別化戦略とその具体的な方法論
- 第 12 回 流行に負けないために
マーケティングはどんな業種で求められているの
か、そしてみなさんをどう巻き込もうとしている
のか
- 第 13 回 お金はどう使うのが良いのだろうか
これからの経済と、お金の守り方について
- 第 14 回 持ち込み可
試験（1時間）これからのマーケティングの課題
- 第 15 回 添削して返却します
試験解説、総論、まとめ、および今からの資産運
用について

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

基本的には自分の好みをなんとか数字にして、データを個
々で蓄積していきます。また簡単なアンケート票の作成、
発表をグループ単位で実施。実践的な演習を行いません。
各自の趣味、関心について「自分がなぜそれを好きになっ
たのか」を探りながら、現代社会における企業の戦略につ
いても各々が「気づく」ことを意識して授業を進めます。
それにより、社会や企業活動に関心が深まることを期待し
ています。グループでの共同作業が多くなりますので、積
極的に授業にかかわってください。発表についてはその際
に問題点の指摘など細かくフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分が好きなこと（音楽、ファッション等なんでもいいで
す）の理由をいつも考えておいてください。あなたはなぜ、
それが好きなんですか？ペットと彼氏とスイーツの「好き」
に順位をつけることはできますか？とにかく考えることを

重視します。その良さを上手に他人に伝えましょう。きっ
と、友達が増えますよ。毎回、みなさんに質問を投げかけ
ていきます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業に対する積極的な参加姿勢（30%）。授業内での課題
への評価（30%）。授業期間内での試験（40%）。授業
中の積極的な発言、課題への真剣な取り組みを高く評価し
ます。

試験については最後の授業で詳しく解説を行うほか、添削
を加えて各自に返却します。

〔留意事項（Other Information）〕

グループ作業が多い授業です、積極的に人と話すことが求
められます。グループの仲間に迷惑をかけないように、き
ちんと出席してくださいね。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

特定のテキストは使用しません。毎回、プリントを準備し
ます。

プリントはみなさんが各自保存し、毎時、持参してくださ
い。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

衣生活概論

SLB1200N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

木曜3限

DP2: 知識・理解力

60

必修

牛田 好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

少子高齢社会が急速に進むにつれて、保護を必要とする
乳幼児・高齢者・身体障がい者など社会的障がいを持つ人
々だけでなく、すべての人が普通に生活できるような社会
を構築できるよう支援しなければならない。そのためには
さまざまな暮らしをしている人々の衣食住に関する実践的・
専門的知識が必要である。なかでも衣生活については、年
齢に応じて異なる生理機能や障がいの種類などに最も影響
を受けるとされる。そこで福祉の視点から、高齢者、障
がい者、健常者すべての人々にもっとも適した衣服につ
いて考え、ファッションイメージを描き、それを実践する能
力を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 快適な衣服環境
2. 衣生活とユニバーサルデザイン
3. 衣生活とパーソナルデザイン
4. ユニバーサルファッションの実践

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	衣生活やファッションへの興味・関心がみられない。	衣生活やファッションの現状について理解ができる。	衣生活やファッションについての知識や情報を得ることに積極的である。	衣生活やファッションについて得られた知識や情報を自己や他者の生活に活かす提案ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 衣生活と福祉
- 第 2 回 乳幼児の成長と衣生活
- 第 3 回 高齢者の生活と衣服
- 第 4 回 障がい者に適した衣服
- 第 5 回 ユニバーサルファッション (基礎)
- 第 6 回 ユニバーサルファッション (応用)
- 第 7 回 ユニフォーム (スクール)
- 第 8 回 ユニフォーム (ビジネス)
- 第 9 回 ライフサイクルと衣生活
- 第 10 回 ユニバーサルファッションの実践・評価
- 第 11 回 グループごとの発表 (ユニバーサルファッション)
- 第 12 回 グループごとの発表 (ユニフォーム (スクール))
- 第 13 回 グループごとの発表 (ユニフォーム (ビジネス))
- 第 14 回 課題
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に講義形式で授業を行う。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的に快適な衣生活の実践方法が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

課題については、第15回授業において、返却および解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日常生活の中で、被服のはたらきを意識すること、また、身体との関係を考え、より満足感を高めるための工夫をすること。あらゆる年代、障がいの方の声に耳をすませること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、課題 (50%)、発表 (20%) を総合して判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

ビジュアル衣生活論 編著：岡田宣子 共著：植竹桃子・川端博子・深沢太香子・布施谷節子・三ツ井紀子 建帛社 2010年 ISBN 978-4-7679-1445-9 C3077

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践の科目〕

衣生活情報論

LDA3250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

衣服は人間の身体の一部としての機能を持つものであり、衣服を着用することは人間のみならず与えられた生活行為である。そして、人間はこの行為を自己表現の手段として用いる。すなわち、人間は自分で衣服を選択し、着装して外観的な面だけではなく、内面的な人間性までも表現する。現在はほとんど既製服が着用されているので、衣服の選択は購買行動である。衣服は素材・色柄・形の三要素によって構成され、それらの表現性を利用して商品はディスプレイされる。また情報技術の進化に伴い、衣服はアパレルCADというコンピュータにより製作され、着装感や着装状態はCGによって表現されるようになった。このように衣生活には情報という要素が深く関わるようになってきている。そこで、服飾環境を形成する要素と衣生活に関わる情報技術について、理解を深め、衣生活をよりよく整え営むことができる能力を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 衣服と人間
2. 衣服と社会
3. 衣生活と文化
4. 衣生活と情報

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	ファッションに興味・関心がみられない。	ファッションビジネスやファッションコーデ	ファッションに関する知識や情報を自ら取	ファッションに関する知識や情報から、現代

		イネイトに興味・関心があり、知識や情報の収集に積極的である。	集・整理し、日常生活に活用できる。	の衣生活の問題点を見つけ、解決策を提案できる。
創造・発信力	ファッションにおける創造・発信に興味・関心がみられない。	ファッションにおける創造・発信に興味・関心がある。	ファッションにおける創造・発信に積極的である。	ファッションにおける創造・発信を行い、今後も継続する可能性が大きい。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
衣生活と情報について
- 第 2 回 ファッションビジネスについて
ファッションビジネスの基礎
- 第 3 回 ファッション業界の仕事
ファッション業界の職種とその内容
- 第 4 回 ファッション雑誌の創られ方
DVDを視聴して、自分の考えをまとめる
- 第 5 回 ファッション雑誌を創る
情報を収集し、読み手に届く内容を考える
- 第 6 回 ファッションマーチャンダイジング①
ファッションマーチャンダイジング演習①－ブランド企画－
- 第 7 回 ファッションマーチャンダイジング②
ファッションマーチャンダイジング演習②－ショップ企画－
- 第 8 回 ファッションマーケティング
マーケティングとは何か
- 第 9 回 ファッションコーディネートとは
場面に応じたファッションコーディネート
- 第 10 回 ファッションコーディネート①
ファッションコーディネート演習①－小物・アクセサリー－
- 第 11 回 ファッションコーディネート②
ファッションコーディネート演習②－色の使い方－
- 第 12 回 ファッションコーディネート③
ファッションコーディネート演習③－全体のバランス－
- 第 13 回 グループワーク
ネット販売について考える。
- 第 14 回 課題、授業内試験
授業内試験を行い、課題作品を提出する。
- 第 15 回 まとめ
試験返却、課題作品合評を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で授業を進める。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素や情報環境が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。

第15回授業で、試験の返却および解説、課題の合評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞、雑誌などを読み、社会情勢に敏感になっておくこと。ファッションとは何かを意識し、市場に出回っているものを、機会あるごとに多く見ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(30%) 課題 (50%) 授業への意欲・積極性(20%)を総合して評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家族関係

LDA2406N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

東日本大震災の経験は、私たちの生活が家族や地域の人々に支えられて成り立っていることを再確認させてくれた。その一方で、少子化や未婚化が進み、ひとり親世帯が増加するなかで、現代の家族が、これまでのような家族機能を果たせなくなっているのも事実である。さらに、家庭内暴力(DV)や親族間での殺人等連日メディアをにぎわす家族をめぐる問題は、家族とは一体なにかという問いを私たちに突きつける。

この授業では、現代の家族が抱えるさまざまな問題を社会と関連させながら考えていく。夫婦関係や親子関係だけでなく、きょうだい関係や祖父母と孫関係の視点も含めて客観的・批判的に検討することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1) 家族が抱える問題を社会とのかかわりから考えることができるようになる。

2) 家族や家族関係が普遍的なものではなく、時代や社会状

況によって変化しうるものであることが理解できるようになる。

3) 個人的な家族経験を振り返りつつも、価値観の多様化が進む現代社会における家族や家族関係を、批判的・客観的に議論できるようになる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	理論(考え方)が分からない、理解していない。	理論が理解できている。	理論を理解した上で、自分の考えを組み立てることができる。	レベル3に加えて、批判的・客観的な考え方ができる。
言語力	問われたことに対する回答がなされていない。誤字や脱字が多い。あるいは漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所が5ヶ所以上ある。	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、問われたことに対して適切に回答している。	適切な表現を用いながら、簡潔に回答している。	レベル3に加えて、批判的・論理的な回答ができる。
思考・解決力	考えることをしない。考えることを途中で止める。	現代の家族に関するさまざまな現象を、自身の家族経験と比較しながら、理解しようとする。	現代の家族に関するさまざまな現象を、社会の変化との関係から理解する。	レベル3に加えて、批判的・論理的な議論を行う。
共生・協働する力	グループワークのときに、作業をせず人任せにする。または人の意見を受け入れられない。	グループワークのときに、メンバーと役割を決めて、課題に取り組む。	グループワークで、各自が作った成果物を持ち寄り、より良いものになるように全員で協力して課題を完成させる。	グループワークで各自の役割を全うするだけでなく、メンバーの成果物を評価し、より良いものをつくり上げることができる。

創造・発信力	指名されても発言しない。課題を提出しない。	指名されたら、自分の意見を言える。課題を提出する。	自発的に発言する。あるいは「見られる」「評価される」ことを意識した提出物を作成している。	レベル3に加えて、発言も提出物も、主観だけでなく資料からの裏づけをもとに行っている。
--------	-----------------------	---------------------------	--	--

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション:「個(孤)族」化する家族
- 第2回 歴史のなかの家族
- 第3回 戦後の家族
- 第4回 配偶者選択:結婚する?しない?
- 第5回 さまざまなパートナー関係:夫婦別姓を考える(グループワークの予定)
- 第6回 子どもを持つ選択・持たない選択
- 第7回 子育ての主体は誰?
- 第8回 高齢期と家族
- 第9回 介護が「問題」となるとき
- 第10回 「家族」という言葉が持つ重圧(プレッシャー)
- 第11回 子どもの貧困を考える
- 第12回 ひとり親、ステップファミリーが抱える生活課題
- 第13回 親密な関係に潜む暴力
- 第14回 確認テストおよび新しい「家族」の可能性
- 第15回 確認テストのフィードバックと全体のまとめ

【定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法(Course Methods)】

＜教育・学習の方法＞

講義が中心であるが、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらい機会を多く設ける。そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は欠席とみなす。

＜課題(レポート)のフィードバック方法＞

課題(レポート)は授業中に受講生自ら発言する機会を設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する(場合によっては、manabaで公開する)。

【準備学習の具体的な方法(Class Preparation)】

＜復習＞

授業で投影したスライドは、授業終了後の一両日中にmanabaへアップする。授業中に聞き逃したことや分からなかった所は復習をして、必要に応じて担当教員に尋ねること。

＜予習＞

・授業中に次回までの課題を出す。必ず完成させて授業に臨むこと。

・次回の受講生用レジュメは、授業の3日前までにmanabaへアップする。内容を確認し、分からないところは事前に調べたり、関連しそうな新聞記事やインターネットの情報に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

確認テスト 50%、授業中の課題 30%、受講態度20%

〔留意事項 (Other Information)〕

・受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合があります。

・10回以上の出席がなければ最終評価の対象から外す。

・「平常点」には出席回数は含まない。

・欠席した回の「授業中の課題」の評価は「0点」となるので注意すること。

・レジュメは授業の3日前までに「manaba」に公開する。必要あれば、プリントするなど各自で準備をすること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『21世紀家族へ[第3版]』/落合恵美子/ゆうひかく選書/2004/9784641280915

『家族のデザイン』/小長谷有紀(編)/東信堂/2008/9784887138070

『家族を超える社会学』/牟田和恵(編)/新曜社/2009/9784788511835

『<オトコの育児>の社会学』/工藤保則ほか(編著)/ミネルヴァ書房/2016/9784623076840

そのほか、授業中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家族社会学

LDA3450N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 後期

火曜3限

DP4: 思考・解決力

60

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、「家族を通して社会を考えること」である。客観的・批判的な見方を培うために、時代や世代、文化等による比較の視点を取り入れて授業を進める。扱うテーマは、ケアを中心に、家族規範(恋愛観・家族観・子ども観)や性の多様性、労働問題である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 授業で扱う家族や社会の現象は単独で発生しているのではなく、社会システムや規範の変化のなかで生じていることを理解する。

2. 時代や世代、文化等の比較を通して、日本社会が抱える

問題の特異性を理解する。

3. 1と2を身につけたうえで、日本社会の持続可能性を議論する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	新しい知識や考え方がわからない。理解しようとしなない。	時代差や世代差、文化差を理解できる。	現代の家族や社会に関するさまざまな現象の特異性を、時代や世代、文化の比較から理解できる。	レベル3に加えて、批判的・客観的な議論ができる。
言語力	問われたことに対する回答がなされていない。誤字や脱字が多い。あるいは漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所が5ヶ所以上ある。	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、問われたことに対して適切に回答している。	適切な表現を使いながら、簡潔に回答している。	レベル3に加えて、批判的・論理的に回答している..
思考・解決力	主観的な考え方しかしない。新しい知識や考え方を受け入れようとしなない。	新しい知識や考え方を受け入れつつ、自分の考えを持つことができる。	レベル2に加えて、ほかの受講生の意見も取り入れながら、自分の考えを組み立てることができる。	レベル3に加えて、現在、多くの問題を抱える日本社会が、どうしたら持続可能な社会になるかという課題に取り組むことができる。
共生・協働する力	グループワークのときに、作業をせず人任せにする。または人の意見を受け入れない。	グループワークのときに、メンバーと役割を決めて、課題に取り組む。	グループワークで、各自が作った成果物を持ち寄り、より良いものになるように全員で協力して課題を完成させる。	グループワークで各自の役割を全うするだけでなく、メンバーの成果物を評価し、より良いものをつくり上げることができる。
創造・発信力	指名されても発言しない。課題を提出しない。	指名されたら、自分の意見を言える。	自発的に発言する。あるいは提出物が「見ら	レベル3に加えて、発言も提出物も、主観だ

		る。課題を提出する	れる」「評価される」ことを意識して作成する。	けでなく資料からの裏づけをもとに行っている。
--	--	-----------	------------------------	------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 近代社会の恋愛観・結婚観
- 第 3 回 見える身体：「買う」性・「買われる」性
- 第 4 回 法制度と家族
- 第 5 回 生殖医療の可能性と課題
- 第 6 回 LGBTQ+と社会
- 第 7 回 ケアの社会学①：問題提起
- 第 8 回 ケアの社会学②：グループ報告に向けた準備・ディスカッション
- 第 9 回 ケアの社会学③：グループ報告
- 第 10 回 ケアの社会学④：福祉レジーム論からみるケアの主体
- 第 11 回 ケアの社会学⑤：国境を越えるケア労働者
- 第 12 回 「ケア」のまとめと次テーマの解説
- 第 13 回 受講生によるテーマ決定
- 第 14 回 受講生による報告
- 第 15 回 授業のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する (期末レポート)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

〔教育・学習の方法〕

- ・前半は教員による講義が中心であるが、受講生に意見を求める機会を多く設ける。
- ・中盤の「ケアの社会学」では、小グループごとに担当の国 (地域) を決め、その国 (地域) のケア事情について調べて報告をしてもらう。
- ・後半は、様々なテーマが取り上げられている書籍から、受講生の興味関心に応じたテーマを選んでもらい、その内容について報告してもらう。

〔課題 (レポート) のフィードバック方法〕

- ・課題のフィードバックは、原則授業内で行う。manabaも活用し、受講生全員で共有できるようにする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に次回までの課題を指示する。必ず準備して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート 40%、2回の報告 30%、授業中の課題 20%、受講態度 10%

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・10回以上の出席がなければ最終評価の対象から外す。
- ・受講生の人数や関心によって、授業予定が変更になる場合がある。事前に授業内で連絡するので、しっかり聞いて

おくこと。

- ・事前に配布する文献・資料は、必ず内容を理解して授業に臨むこと。
- ・作業やディスカッションでは積極的に参加すること。
- ・「家族関係」を受講していない者で今後も受講する予定がない者は、必ず、事前に落合恵美子 (著)「21世紀家族へ」を読み、「近代家族」や「近代社会」について理解しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

21世紀家族へ-家族の戦後体制の見かた・超えかた [第4版]/落合恵美子 (著) /有斐閣選書/2019年/978-4641281462
家族を読み解く12章 /日本家政学会家族関係学部会 (編) /丸善出版 /2018年/ 978-4621303436

※その他の文献は授業内で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭科教育法Ⅰ (生活の自立と衣食住)

LDA2407N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
2年次

2単位 前期

水曜 2限

DP4 : 思考・解決力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- ①学習指導要領における中学校家庭分野、高等学校家庭科の目標及び主な内容 (特に生活の自立や衣食住、消費・環境) 並びに全体の構造を理解している。
 - ②家庭分野や家庭科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
 - ③家庭分野や家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
 - ④基礎的知識や基礎技能を習得するとともに、「教える」と「教えられる」の違いがわかる。
 - ⑤地域連携活動を通じてサービスラーニングを行う。
- テーマ : 中学校家庭分野、高等学校家庭科の生活の自立や衣食住、消費・環境の内容について「学ぶ側」と「教える側」の違いを理解しよう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・中学校、高等学校における指導内容を理解する。
- ・基礎的知識、技術の習得と理解に努める。
- ・自主的に学習を進め、知識の習得に努める。
- ・商品の流通経路について関心を持つ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	学習指導要領を読んでいない。	学習指導要領の内容を理解しようとしている。	学習指導要領の内容及びその内容に伴う衣食住・消費と環境について基礎的理解をしている。	学習指導要領の内容及びその内容に伴う衣食住・消費と環境について理解し、知識が十分にある。
言語力	発表や発言ができないし、記述もできない。	教科の内容を適切な言語を使用して伝えることができる。	教科の内容を様々な角度から記述でき、言語を駆使して表現して、他者に伝えられる。	生徒の理解を深める言葉、記述方法、話し方、表現力を身につけている。
思考・解決力	他者に教えるということ、教師となることについて考えない。	教える立場と教えられる立場の違いを考えることができる。	生徒の立場にたって、支援の方法を考え、解決しようとしている。	教科の内容についてわかりやすい教え方を考え、実践へとつなげる解決能力がある。
共生・協働する力	他者と一緒に活動できない。	実験や演習を他者と一緒にできる。	生徒の立場から共生や協働する状況がわかり、支援できる。	適切な教育方法のアプローチを自ら考え、生徒を共生・協働させるよう導くことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業の進め方と評価についての説明
- 第 2 回 学習指導要領の解説
改訂の経緯、目標、内容、指導上の留意点、小・中・高との関連
- 第 3 回 被服材料の教授法の説明と演習とその教授法1
繊維・糸
- 第 4 回 被服材料の教授法の説明と演習とその教授法2
布・性質
- 第 5 回 被服管理の教授法の説明と実験と教授法
洗濯、界面活性剤の働き
- 第 6 回 和装、洋装の原型の製図とその教授法
- 第 7 回 基礎縫いの実技および和装の着用と和装キットの製作とその教授法
- 第 8 回 食生活に関する実験とその教授法1
食品添加物の検出、だしのうま味の対比
- 第 9 回 食生活に関する演習とその教授法
栄養素、食品の組み合わせ
食事バランスガイドの解説と料理カード
- 第 10 回 食生活に関する実験とその教授法2

- 食品の成分(小麦粉のグルテン)の抽出
砂糖の温度変化について
- 第 11 回 住生活に関する演習とその教授法1
住生活の自立の内容の解説
平面図と記号の理解
- 第 12 回 学習ソフトを用いた教授法とソフト使用法の理解
(栄養価・ファッションデザイン)
- 第 13 回 消費・環境の内容と衣食住との関連及び教授法
地域連携(スクールプロジェクト)食育活動の準備①
- 第 14 回 課題発表1(食生活の報告、プレゼンテーション)
地域連携(スクールプロジェクト)食育活動の準備②
- 第 15 回 課題発表2(衣生活・住生活の報告、プレゼンテーション)、授業の総括
地域連携(スクールプロジェクト)食育活動の準備③

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義形式、討論形式、実習、演習、実験、ロールプレイ、ビデオ視聴、発表などを取り入れながら授業を進める。見学、特別講師による授業を取り入れることもある。
- ・提出されたレポートにはコメントをつけて返却する。また、発表に対しては、受講者との意見交換や教員からコメントを行い、学びを深める。
- ・家庭科の内容(衣食住)にかかわる専門科目を担当する教員に助言を自ら求め、教材研究を深めるとよい。
- ・現在受講する教育法以外の科目の授業形態(指導方法、学習環境、学習者の様子、教師から生徒へのアプローチの仕方)を観察し、整理しておくことよい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストをよく読むこと。
- ・衣・食・住と関連する専門書を読んで、知識の習得に努めること。
- ・レポートは、教える立場に立って、学習者が理解しやすいようにするにはどのように工夫すればよいかを考えながら作成するとよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

<評価基準>

- ・学習指導要領を理解できたか。(定期試験)
- ・家庭科で取り扱う内容を理解できたか。(定期試験)
- ・家庭科に必要な基本的技能を習得できたか。(態度・発表)
- ・家庭分野や家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したか。(態度・レポート)
- ・「教える」と「教えられる」の違いを客観的に理解できたか。(レポート)

<評価方法>

- ・試験 (50%) ・ ・ 目標①②③④に対応。
- ・レポート (30%) ・ ・ 目標③④に対応。

- ・制作物(10%)・・目標①②③④。
- ・態度・発表(10%)・・目標①②③に対応。
- ・原則として遅刻・欠席は認めない。
- ・10回以上の出席がなければ試験を受けることができない。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・原則として2年次前期に履修すること。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・上記に示したテキスト以外に、「家庭科教育法」のテキストおよび、中学校家庭・高等学校家庭の教科書が必要である。(授業の中で説明する)
- ・受講生の理解度によって内容を変更することがある。
- ・原則として遅刻・欠席は認めない。
- ・実習費用として実費(500円~1000円)が必要。
- ・サービスマスターングとして地域連携の食育活動への参加をしなければならない。
- ・京都第一・第二市場の見学の予定である。(時期未定)
- ・授業計画から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回目」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『高等学校学習指導要領解説家庭編』/文部科学省////学内販売予定

『中学校学習指導要領解説-技術・家庭編-』/文部科学省////学内販売予定

『小学校家庭科概論-生活の学びを深めるために』/加地芳子・大塚真理子/ミネルヴァ書房/2011//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】』//文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター//教育出版//2011

『文部科学省検定済中学校技術・家庭教科書「家庭分野」』//東京書籍//

『文部科学省検定済高等学校家庭基礎』//東京書籍//

『中学校学習指導要領』//文部科学省//

『高等学校学習指導要領』//文部科学省//

『気になる子ども』と共に学ぶ家庭科//伊藤圭子//開隆堂//2017

〔参考URL(URL for Reference)〕

消費者庁:消費者教育のための参考資料

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/teaching_material/

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭科教育法Ⅱ (家族・家庭生活と福祉)

LDA2350N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

水曜2限

DP3: 言語力

60

「家庭科教育法I (生活の自立と衣食住)」履修者であること

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- ①学習指導要領における中学校家庭分野、高等学校家庭科の目標及び主な内容(特に家族・家庭生活、福祉)並びに全体構造を理解している。
- ②家庭分野や家庭科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- ③家庭分野や家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
- ④基礎的知識や基礎技能、教授方法を習得するとともに、「教える」と「教えられる」の違いを理解して、適切な言葉や表現を用いて他者に接することができる。

テーマ:

中学校家庭分野、高等学校家庭科の家族・家庭生活・福祉の内容について体験的に学び、教授法を理解しよう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・中学校、高等学校における指導内容を理解する。
- ・基礎的知識、技術の習得と理解に努める。
- ・自主的に学習を進め、知識の習得に努める。
- ・15回出席すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	家族や家庭生活の内容について取り組む態度が見られない。	家族や家庭生活に関する学習指導要領の内容がわかる。	学習指導の内容の理解に加えて他者に説明ができる。	教えるべき内容を深め、知識の充実を自ら目指している。
言語力	他者に自分の考えを伝えられない。発表をしない。	生徒に対する声掛けの方法について考えられる。	同じ内容を、表現を変えて伝える(教える)ことができる。	他者とのコミュニケーションを積極的にとって言語力を磨くとともに、適切な発表もできる。

共生・協働する力	グループでの活動ができない。	スクールプロジェクトに取り組もうとしている。	スクールプロジェクトの方法を他者と共に考え、計画できる。	スクールプロジェクトを実践・評価し、改善できる。
----------	----------------	------------------------	------------------------------	--------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義の進め方、評価の仕方の説明、学習指導要領（目標、内容、指導上の留意点）の解説
- 第 2 回 家族と家庭生活の歴史的变化、現代の家族の特徴の講義とその教授法
- 第 3 回 家庭・家族の機能についての講義と教授法
- 第 4 回 自立に向けた人の一生と制度を考えさせる教授法
- 第 5 回 SDGsの理解と教授法
- 第 6 回 乳児の発達と保育を理解させる教授法
- 第 7 回 保育実習のための準備と心得の教授法

- 第 8 回 高齢者理解の教授法
- 第 9 回 高齢者福祉施設の種類と内容を理解するための教授法
- 第 10 回 消費者教育についての教授法（ロールプレイングの方法）
- 第 11 回 消費者教育についての教授法（NIEの方法、国民生活センター等の活用方法）
- 第 12 回 課題発表に向けてのテーマ設定・ディスカッション
- 第 13 回 課題発表①：家族に関わるプレゼンテーション
- 第 14 回 課題発表①-家族（家族に関わるホームプロジェクト）プレゼンテーションの技法
課題発表②：消費者教育に関わるプレゼンテーション
- 第 15 回 授業の総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義形式、討論形式、実習、演習、実験、ロールプレイ、ビデオ視聴、発表などを取り入れながら授業を進める。
- ・討論、発表の際には、教員や受講者として意見交換をして、学びを深められるようにする。
- ・SDGsや消費・環境について日頃から記事や話題を集めておくことよい。
- ・提出レポートはコメントをつけて返却するので、それをもとに振り返りを行うこと。
- ・家庭科の内容（家族・保育・経済経営・福祉）にかかわる専門科目を担当する教員に自ら助言を求め、教材研究を深めていくこと。
- ・現在受講する教育法以外の科目の授業形態（指導方法、学習環境、学習者の様子、教師から生徒へのアプローチの仕方）を観察し、整理しておくことよい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・レポート作成は、教える立場に立って、学習者にどのような方法を用いて教えると理解しやすいかを考えて作成するとよい。
- ・日頃から子供や高齢者と接する機会を持つこと。
- ・家族に関する法律や保険制度などについて日頃から興味を持ち、知識を高めるよう努力すること。
- ・専門書で、十分な知識の習得を行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価基準・学習指導要領を理解できたか（試験）

家庭科に必要な内容を理解できたか（試験）

試験）

家庭科に必要な基本的技能を習得できたか（態度・発表）

発表）

プレゼンテーションの方法を工夫し、積極的に取り組めたか（態度・発表）

発表）

評価方法・・・試験（50%）、レポート(20%)、態度・発表(30%)

※原則として遅刻・欠席は認めない。10回以上出席しなければ試験を受けることができない

〔留意事項（Other Information）〕

・原則として家庭科教育法Iを履修したものを対象とし、2年次後期で履修のこと。

・受講生の理解度に合わせて内容を変更することがある。

・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。

・社会の状況により、授業内容に一部変更が生じる可能性がある。第1回目の授業に必ず出席のこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『中学校学習指導要領解説－技術・家庭科編－』/文部科学省////学内販売予定

『高等学校学習指導要領解説家庭編』/文部科学省////学内販売予定

『小学校家庭科概論 生活の学びを深めるために』/加地芳子・大塚真理子/ミネルヴァ書房/2011/9.784623059942E12/学内販売予定

////学内販売予定

家庭科教育法Iで購入したものと同じ

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領』//文部科学省//

『高等学校学習指導要領』//文部科学省//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭科教育法Ⅲ（指導法と教材作成）

LDA3601N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

水曜2限

DP6：創造・発信力

60

「家庭科教育法Ⅱ」履修者であること

大塚 眞理子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

テーマ：中学高校家庭科における学習指導計画の立案と教材研究を学び、授業実践力を高める

- ・家庭分野及び家庭科の学習内容について指導上の留意点を理解している。
- ・家庭分野、及び家庭科の学習評価の考え方を理解している。
- ・生活のあらゆる場面で教材を見出し、学習指導に生かすことができる。
- ・中学生や高校生の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計を理解している。
- ・家庭分野及び家庭科の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業構想と学習指導案を作成することができる。
- ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・中学校、高等学校における指導方法を理解する。
- ・中学校、高等学校における指導に必要な教材研究を深める。
- ・指導案の作成、評価を理解する。
- ・模擬授業を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教師になろうという気がない	教師を目指して自分なりに努力している	教育現場で奉仕活動をし、教師としての資質を身につけようとしている	教師になるための資質を持ち、さらに高めるための行動をしている
知識・理解力	学習指導の方法に関する知識を理解しようとしていない	学習指導の方法について自ら知識を得ようとしている	学習指導の方法について知識を豊富に身につけている	指導者としての知識を身につけ、さらに努力を行っている

言語力	教授するにふさわしい話し方、記述ができないし、努力もしない	教授する内容やアプローチの方法によって表現や記載方法を工夫できる	生徒の気持ちを汲んで教師の立場からふさわしい表現ができる。適切な言語を用いて記述ができる	実際の現場で相応しい表現ができ、記述力がある
思考・解決力	指導法について関心がない	自身の指導法を顧みて解決方法を探そうとしている	自身の指導法を顧みて、よりよくする方策を考え、改善しようとしている	生徒と、教師の立場で物事を思考し、課題解決に向けて実践できる
共生・協働する力	他者と協力して授業を計画しようとしめない	他者と協力して、授業計画を立て、実践しようとする努力している	他者と協力して、授業計画案を作成、実践できる	自他ともに、成長するように、他者に対して働きかけができる
創造・発信力	教師の立場に立って教え方を自ら創造し発信ができない	教師の立場に立って考え、創造し、発信しようとする努力している	教師の立場に立って、他者の意見も取り入れ、現状を改善し発信もできる	生徒の対場を考えながら教師としての教授方法を模索、創造し、発信をしている

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

本講義の進め方と評価の説明、家庭科教育の特質と家庭科の歴史的変遷、家庭科の意義についての解説

第 2 回 学習指導要領について

学習指導要領の解説、改訂の経緯の説明

第 3 回 家庭科の目標と内容

学習指導要領の示す目標と内容、内容の取扱いについての解説

第 4 回 指導計画と学習評価について

小学校、中学校、高等学校の家庭科の位置づけ、年間指導計画立案

評価（観点など）についての解説

第 5 回 家庭科の指導方法

施設・設備の説明
教育機器の使用法
アクティブラーニングの導入

第 6 回 家庭科授業例の検討

指導事例や、授業DVDを視聴る

第 7 回 教材研究①

「家族、家庭生活」「保育」を題材にする教育方法、教材開発

資料集(家族と家庭の指導の実践例)を検討する。

- 第 8 回 教材研究②
製作実習
- 第 9 回 教材研究③
消費者教育を題材にする教育方法、教材開発
- 第 10 回 教材研究④
I C Tを使った教育方法、教材開発
- 第 11 回 教材研究の発表
教材研究、教材開発の発表、相互評価
- 第 12 回 指導案作成
指導案作成における 目標、指導計画 本時
案 評価について
題材の選定
- 第 13 回 指導案検討
指導案の検討 ワークシートの作成
- 第 14 回 模擬授業
模擬授業の実践と検討
- 第 15 回 総括
模擬授業反省 指導案の改善
家庭科教師になるということ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義、教材研究、発表、模擬授業等によって授業を進める。
- ・提出レポートはコメントをして個人に返却する。発表では、受講者間での意見交換や教員のコメントをその場で行う。
- ・教材研究を生かした授業設計及び指導案作成を行う
- ・教材研究を深めるために家庭科の内容にかかわる専門科目担当教員に助言を求めたり、文献・論文等で見識を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・人の前で話す練習や、大きな声を出す練習をしておくことよい。
- ・板書の練習をしておくことよい。
- ・教科に関する専門書をよく読み知識の習得につとめるようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40～60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価規準・教材研究に意欲をもって取り組めたか(態度・発表)

指導案が適切に作成できたか(提出物)

教材研究が十分にされ、オリジナリティのある指導案を作成できたか(提出物)

模擬授業の準備がよくできていて、学びが成立した授業であったか(模擬授業)

授業観察の方法がわかったか(発表)

評価方法・提出物、教材研究(50%)、態度・発表(15%)、指導案、模擬授業(35%)

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・原則として家庭科教育法I(生活の自立と衣食住)、家庭科教育法II(家族・家庭生活と福祉)を履修済とする。
- ・3年次前期で履修のこと。
- ・家庭科教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。
- ・教材研究と指導案の個別指導は、並行して行うようにする。
- ・受講数により、模擬授業に充てる授業回数を変更することがある。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『中学校教科書『新しい技術・家庭分野』東京書籍

『高等学校教科書『家庭基礎』東京書籍

中学校家庭分野と高等学校家庭の教科書を各自準備しておくこと

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領 解説』/文部科学省(平成29年告示)

『高等学校学習指導要領』/文部科学省(平成30年告示)

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校技術・家庭/国立教育政策研究所教育課程研究センター(2020年) 東洋館出版社

『評価基準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料 高等学校共通教科「家庭」/国立教育政策研究所教育課程センター(平成24年) 教育出版

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中学、高等学校で家庭科授業を担当していたので、その時の指導資料冊子を教材として使う予定である。生徒の実態や実習経験などを教材研究の指導に生かすことができる。

家庭科教育法IV(模擬授業)

LDA3651N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 後期

水曜2限

DP6: 創造・発信力

60

「家庭科教育法III」履修者であること

大塚 眞理子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

テーマ: 模擬授業を通して、授業計画の大切さを実感し、授業実践力や授業観察力を高める

- ・中学校家庭分野及び高等学校家庭科の学習内容について、指導上の留意点を理解している。
- ・家庭分野及び家庭科の学習評価を理解している。
- ・学習内容について教材研究を行い、探求することができる。

- ・中学生や高校生の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。
- ・家庭分野及び家庭科の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
- ・模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。
- ・家庭分野や家庭科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・工夫を取り入れた指導案作成をスムーズに行う。
- ・実際に教壇に立ち、模擬授業を行う。
- ・模擬授業の実践、検討を通して、授業構成力、指導力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教えることに関心がなく、努力もしない。	教師になることを目指して努力している	より高い能力を身につけた教師になるための努力をしている	将来の教師像を描き教師になるための準備を継続している
知識・理解力	授業計画・実施方法の知識がなく、理解していない	授業計画や授業実践に役立つ知識をつけようと努力している	授業計画、実施について、学習指導要領を深く理解できている	教師として授業計画・実施に関するあらゆる知識を習得し、理解している
言語力	生徒に言語を用いて伝える事ができない	表現を工夫して、他者に伝える努力をしている	表現を工夫し、他者に伝えたり教えられる。指導案を適切な表現を用いて作製できる	教師として指導案の作成、教授、評価などの場面で適切な言語を使用できる
思考・解決力	学習指導案を考案できない	授業を設計し、自分なりに、実行・解決する努力をしている	授業計画・実施について十分に思考できている。また、評価、反省を通して問題点を解決する力を備えている	教師として授業計画の考案ができ、評価し、課題を解決できる能力を備えている

共生・協働する力	生徒役や他の受講者と協力・協働する姿勢がない	生徒役や他の受講者と協力・協働しようとする努力している	生徒役や他の受講者と協力・協働し、自ら積極的に働きかけることができる	教師としての他の教師と協力して生徒の教育ができる
創造・発信力	授業づくりの発想・発信ができない	教える側の立場に立って教え、創造し、発信しようとしている	教える立場にたって、生徒を支援する方法を工夫し、発信できている	教師として生徒を教える十分な能力を持ち、創造したり発信したりできる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
本講義の進め方と評価についての説明
家庭科教育の意義
学習指導要領などこれまでの復習
- 第 2 回 家庭科指導と指導案作成について
これまでの復習。家庭科の学習評価、評価標準、観点別評価の説明。
指導案作成の留意点
発展的学習内容の説明
- 第 3 回 教材研究 1
マスメディアから教材を探す
- 第 4 回 学習指導案の作成と指導 (中学) ①
中学校家庭分野の内容の学習指導案の作成
- 第 5 回 学習指導案の作成と指導 (中学) ②
指導案の指導と修正
- 第 6 回 授業研究
現役教員による講演、または授業見学 (予定)
- 第 7 回 模擬授業実施
中学校家庭分野の内容の模擬授業の実施と検討
- 第 8 回 指導案の改善
指導案の指導と改善 (模擬授業での評価をもとに行う)
- 第 9 回 学習指導案の作成と指導 (高校) ①
高等学校家庭基礎の題材で指導案を作成する
- 第 10 回 学習指導案の作成と指導 (高校) ②
指導案の指導と修正
- 第 11 回 教材研究 2
ITC機器を取り入れた学習
- 第 12 回 模擬授業実施
高等学校家庭基礎の内容の模擬授業の実施と検討
- 第 13 回 模擬授業の振り返り
反省と評価 (模擬授業収録ビデオの視聴をもとに行う)
- 第 14 回 指導案の改善
指導案の指導と改善 (模擬授業での評価をもとに行う)
- 第 15 回 総括

本講義で学んだことの振り返り、家庭科教師になるために求められる資質とは？

教育実習、採用試験に向けての説明

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・実際に受講生が先生役と生徒となり模擬授業を行う。
- ・他者の授業観察及び評価を行う。
- ・指導案の個別指導を行う。
- ・模擬授業実施後、学習者間での意見交換や、教員からのコメントで学びを深める。
- ・模擬授業をビデオ収録できた場合は、さらに客観的に自己評価する。
- ・教材研究を深めるため、より良い指導案作成のために、家庭科の内容にかかわる専門科目担当教員にも助言を求めるとよい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・大きな声を出す練習をしておくことよい。
- ・板書の練習をしておくことよい。
- ・教科に関する専門的な知識を身につけておく必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価基準・指導案の作成方法がわかったか (提出物)
模擬授業を工夫して実施できたか (模擬授業)
授業観察の方法がわかったか (授業態度)

評価方法・指導案の提出、内容、模擬授業の内容等により行う

指導案 (初版、修正版、改善版、最終版など) の提出 (60%)、

模擬授業の内容25%、授業態度、取り組み15%
・試験は行わない。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・特別な事情がない限り、遅刻、欠席は認めない。10回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
- ・原則として家庭科教育法I、II、IIIを履修済のもの。
- ・3年次後期で履修のこと。
- ・教師になりたいという強い希望を持つ学生を対象とする。
- ・教材研究と指導案の個別指導は、並行して行うようにする。
- ・受講人数により、模擬授業に充てる授業回数を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

家庭科教育法I・II・IIIで使用したものと同一。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

家庭科教育法I・II・IIIで使用したものと同一。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中学、高等学校で家庭科授業を担当していたので、生徒の実態や授業の構成などを模擬授業の指導に生かすことができる。また、授業見学や、現役の家庭科教員による講演講習も実施することを予定している。

家庭電気・機械及び情報処理

LDA1250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期集中

その他

DP2: 知識・理解力

60

藪 哲郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

家庭には様々な家電製品やガス器具・機械・情報機器がある。

電気に関する基礎知識を身につけ、家電製品の仕組みを知ることで、これらの機器を適切に扱えるようにする。

家庭における機械・ガスについても基礎知識を身につける。

家庭科教師として身につけておくべきパソコン技術を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 電気の基礎知識を学ぶ。2. 送電、配電についての基礎知識を身につける。3. 家電製品のしくみを理解し、適切な使用方法を知る。4. 家庭における情報機器の基礎知識を身につける。5. ガスについての基礎知識を学ぶ。6. 家庭機械の基礎知識を学ぶ。7. 家庭科教師として必要な情報技術を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 電気の基礎 (電圧・電流・電力)

第 2 回 電気の計算

第 3 回 電気と磁気の基本法則

第 4 回 ガスについて

第 5 回 送電・配電

- 第 6 回 感電・漏電
- 第 7 回 白物家電（エアコン・インバータ・冷蔵庫・洗濯機）
- 第 8 回 白物家電（掃除機・電子レンジ・IH調理器）
- 第 9 回 照明
- 第 10 回 情報家電
- 第 11 回 家庭における機械
- 第 12 回 家庭科教材の作成（ベジェ曲線の理論）
- 第 13 回 家庭科教材の作成（ベジェ曲線を用いた型紙の作成）
- 第 14 回 家庭科教材の作成（ガイドを用いた型紙の作成）
- 第 15 回 家庭科教材の作成（ガイドとベジェ曲線を用いた型紙の作成）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

電気・機械の分野については講義を行う。復習をすること。情報分野については演習を行う。欠席せずに、課題の提出期限を守る。

授業中の質問に関しては、適宜口頭でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

指示された予習事項がある場合は、予習してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

電気・機械分野のテスト55%、電気分野のレポート15%、情報分野の課題30%の割合で評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、オンライン講義となることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

オリジナルのテキストを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『電気のすべてがわかる本』/谷腰欣司/ナツメ社/2009/

『電気のことがわかる事典』/戸谷次延/西東社/2015/

『電気が一番わかる』/福田京平/技術評論社/2009/

『図解入門よくわかる最新電気の基本としくみ』/藤澤和弘/秀和システム/2012/

『電気の基本としくみがよくわかる本』/福田務/ナツメ社/2011/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

京都生活論 2017年度以降入学者

LDA2254N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

金曜2限

DP2：知識・理解力

60

鳥居本 幸代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

京都は平安京遷都以来、文化の発信地となり、現在に至っている。京都の気候風土にあった衣生活、食生活、住生活のルーツを探りながら変遷を知ることによって、今日の京都独自の生活文化が探求できる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1.京都の衣生活としては、キモノの基礎知識から地場産業として発展した西陣織のルーツ、友禅染の発生などについて述べる。

2.京都の食生活としては、京料理の概要、京都で発展した魚料理、京野菜、茶の湯と京菓子などについて述べる。

3.京都の住生活としては、寝殿造から京町家にいたる経緯、伝統建築などについて述べるとともに、現存する建築物の紹介する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 キモノを知る

第 2 回 京の着倒れ

第 3 回 キモノの色と友禅染

第 4 回 キモノの模様と西陣織

第 5 回 キモノの付属アイテム

第 6 回 京料理とは

第 7 回 京都の魚料理

第 8 回 京野菜を味わう

第 9 回 茶の湯と京菓子

第 10 回 京都人の食へのこだわり

第 11 回 平安京を取り巻く自然と都市計画

第12回 変貌する平安の都
 第13回 京町家の工夫
 第14回 京都を逍遙する
 第15回 京都の伝統文化を知る
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施する
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 講義形式をとり、パワーポイントやDVDを使用して視覚的理解を促す。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 第1回の授業以降、次回の授業内容に相応するテキストの箇所を指定し、読んでおくこと。その結果確認のため、第2回目講義後、manabaを活用してまとめの小テストを実施する。小テストのフィードバックはmanabaのコンテンツにアップロードする。
 第1回 P66～73、P82～85
 第2回 P74～81、P98～101
 第3回 P90～93、P102～105
 第4回 P94～97、P106～110
 第5回 P110～125
 第6回 P4～7、P24～27
 第7回 P8～19
 第8回 P28～39
 第9回 P48～55
 第10回 P20～23、P40～47、P56～63
 第11回 P148～151、P176～179
 第12回 P132～135、P140～147、P184～187
 第13回 P160～167
 第14回 P128～131、P136～140、P180～183
 第15回 P152～159、P168～175
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 15
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 評価は授業参加度 (30%)、小テスト (20%)、確認テスト (50%) にもとずいて、総合的に行う。
 [留意事項 (Other Information)]
 遅刻は15分以内とする。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 『京都人のたしなみ』/鳥居本幸代/春秋社/2019/学内販売
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 『和食に恋して』/鳥居本 幸代/春秋社/2015年
 『平安京のくらし』/鳥居本 幸代/春秋社/2014年/
 978-4-393-48226-1
 『平安朝のファッション文化』/鳥居本幸代/春秋社/2003年/
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

建築一般構造

LDA2201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 前期

月曜3限

DP2: 知識・理解力

60

中村 久美

[科目の教育目標 (Course Description)]

住宅や建築を学ぶうえで、骨組みとしての構造や仕上げの仕組みなどの建築一般構造への理解が大前提となる。

本授業の受講により、建築材料や施工法を含め、建築構造の種別とそれぞれの概要、およびインテリアデザインの基礎となる内部造作の仕組みについて理解し、住宅計画や住宅問題の議論に参加できる基本的な力を身につける。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 構造種別を理解する。 2. 各構法の知識を身につける。 3. インテリアとしての造作とその仕組みを理解する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力 (建築構造への理解)	構造、構法の種別がわからない。	構造、構法の種別は理解できているが、部材の名前はよくわからない	構造、構法や各部材の名前は大体わかるが、架構のしくみまでは理解できていない。	構造、構法や各部材の名前はわかる。加えてその架構についても大体理解できている。
自分を育てる力 (主体的に学ぶこと)	指示されたテキストやスライドを見る。小テストに解答する	テキストや配布資料に適宜書き込みをした。準備学習をして小テストに解答する。	自分のノートを作ったり、教員や友人に積極的に質問する。小テストの振り返りも行う。	関連図書などをすすんで読み、工事現場や身近な建築物の様子に関心を寄せる
思考・解決力	建築計画における機能や意匠と、構造の関係性について思考できない	建築計画における機能や意匠と構造との関係性について、ところどころなら思考できる	建築計画において求められる機能や意匠に適応する構造の条件を考え提示できる	建築計画において求められる機能や意匠に適応した構造の提案や不適合の場合の解決策が提示できる

[授業計画]

- 第1回 建築構造の種別
- 第2回 木構造の特徴と構造形式
- 第3回 軸組構法と枠組構法

- 第 4 回 鉄筋コンクリートの材料と力学的性質
 - 第 5 回 鉄筋コンクリート造の架構と部材の力学
 - 第 6 回 鉄筋コンクリート工事
 - 第 7 回 鋼材とその接合
 - 第 8 回 鉄骨構造
 - 第 9 回 その他の構造
 - 第 10 回 住宅被覆の仕組み
 - 第 11 回 住宅内部の仕上げ
 - 第 12 回 開口部と建具
 - 第 13 回 和風造作
 - 第 14 回 地震による被害と耐震設計
 - 第 15 回 住宅構造の動向 まとめのテストおよび解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストの内容をパワーポイントによって補足しながら授業をすすめる。授業後はテキストと配布資料で建築の部材や構造、施工に関する用語の復習を必ず行うこと。また毎回、次回の内容とテキストの関連ページをアナウンスするので予習することが必要である。毎回の小テストは直後に答え合わせをして次週に返却するので見直すこと。まとめのテストでは直後に解説をするとともに、授業を総括し学びの振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバス、および初回レクチャー時に配布した授業スケジュールにそってテキストを読んでおくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回授業冒頭実施する前回授業の振り返りテスト (13 回 52%)、およびまとめのテスト (48%) より評価する。なお最終回はまとめのテストとその解説を行ったうえで、住宅構造の動向を解説する。

〔留意事項 (Other Information)〕

建築、住居、インテリア分野の一番基礎となる科目で、他の住居系科目の前提科目となる。本授業で住居のしくみ、基本知識をしっかりと身に着けないと、他の住居学分野の科目の理解が困難になるのでそのつもりで受講のこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『初めての建築一般構造』/＜建築のテキスト＞編集委員会/学芸出版社//9784761525859/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『分り易く図で学ぶ 建築一般構造』/江上外人・林静雄/共立出版株式会社//

『一般構造』/青木博文監修/実教出版//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

建築材料学

LDA3201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

火曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

建築一般構造

定員20人

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

建築物は人間の生活や活動を営むための容器であり、同時に街や都市をつくるひとつの単位でもある。そして建築物を形づくるのは材料であり、建築物に使用される材料はその時代の文化や文明、その土地の風土を反映するものである。また、使用する材料によって建築物の性格や品質が左右され、強く長く持ちするか、好感をもたれるか、など建築物がどのようなものになるかは材料の用い方にかかっており、建築材料に対する知識を持ち、それらを適材適所に使い分けることは重要である。授業では建築物をつくっていく上で必要な材料についての知識を深め、材料を用いる際の基本事項は何かについて考えていきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 材料の種類や性質など知識の修得
2. 建築の用途・機能に適した材料の用い方への理解
3. 構造材と仕上材の使い分けの理解
4. 個別課題を自ら学習し、授業でプレゼンテーションする能力を高める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力 (ノート作成)	ノートを作成しない	資料を写した程度のノートしか作成しない	要点がとらえられている。自発的に収集した情報量が多いノートである	自分なりの気づきや疑問を記述し、知識を再構成したノートを作成している。
知識・理解力	建築材料に関する基本的な専門用語の理解ができていない	建築材料に関する専門用語や基礎知識を理解している	建築材料の性質と用い方に関する知識を理解している。	従来からの建材だけでなく新しく開発された建材への知識ももち、再構成し、適切な建築及び空間計画のあり方を理解している。

思考・解決力	材料と建築との関連がわからない(無頓着である)	材料の用いかたと建築との関連や問題に気づくことができる	建築材料が建築に与える影響、社会的課題について考えることができる。	多くの建材から目的に合ったものを選択・提案できる(解のない問題を論じることができる)
--------	-------------------------	-----------------------------	-----------------------------------	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 (対面) ガイダンス
授業の方法、評価基準の説明、online授業のノート作成、ノート提出の方法の説明
建築における材料の位置づけ
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 2 回 (対面) 建築材料の概要
材料について歴史的観点から変遷をたどり今後を展望する
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 3 回 (on-line) 天然材料(木材の特性の理解)
ノート作成、ノートの提出
- 第 4 回 (対面) 天然材料(木材の特性の総括)
ノートの共有
事前知識の確認テスト
木材の特性への理解を深め、日本建築における木材の意味を考える
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 5 回 (on-line) 天然材料(建材としての木材の基礎知識)
ノート作成、ノートの提出
- 第 6 回 (対面) 天然材料(建材としての木材の総括)
ノートの共有
事前知識の確認テスト
建材としての木材の用い方について理解を深める
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 7 回 (on-line) 人工材料(コンクリートの基礎)
ノート作成、ノートの提出
- 第 8 回 (対面) 人工材料(コンクリートの基礎の総括)
ノートの共有
事前知識の確認テスト
人工材料登場の背景、コンクリート生成、施工に関する理解を深める
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 9 回 (on-line) 人工材料(コンクリートの性質と種類)
ノート作成、ノートの提出
- 第 10 回 (対面) 人工材料(コンクリートの性質と種類の総括)
ノートの共有
事前知識の確認テスト
コンクリートの種類、寿命について理解を深める。
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 11 回 (on-line) 焼成品、ガラス、石材

- ノート作成、ノートの提出
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 12 回 (on-line) 左官材料、ボード類
ノート作成、ノートの提出
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 13 回 (on-line) 塗料、プラスチック材料
ノート作成、ノートの提出
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 14 回 (見学) 積水ハウス住宅総合研究所(またはホームセンター)
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 15 回 (対面) 建築材料の総括
建築材料を俯瞰的に考え、今後の展望や新素材について考える
ミニッツペーパーの作成と提出、共有

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ブレンド型授業とする。オンライン授業と対面授業を交互に行う。

オンライン授業は、教材に加えて主体的に収集した情報を活用して学びを深めノートを作成する。ノートは評価の対象であり、ループリックを参考にする。(要点の把握と情報量、疑問に対して自分なりの解を考える、知識を再構成し気づいたことや自分なりの解釈を加える。)また他者のノートを相互閲覧で共有し理解を深める。

対面授業は、授業冒頭に知識の確認テストを行う。授業内容はノートのコメント及び確認テストの様子を受けて進め、習得した知識を自分なりに再構成し、ミニッツペーパーを作成することで正解のない問題に取り組む。ミニッツペーパーは共有しコメントしあい理解を深める。第11,12,13回は受講者が作成したコンテンツのプレゼンテーションによる学習である。ひとり一つの材料を担当する。第15回(最終回)は最終レポートを共有し、建築材料についての課題と展望を考える。第14回(見学)は積水ハウス住宅総合研究所を予定しているが、先方との調整の上、実際の実施時期は授業で連絡する。やむなく行き先が変更することもある。(交通費は自費)

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

基礎知識の習得においては、動画コンテンツとテキスト、またネットで建材メーカーなどの情報を収集し、多くの知識にふれておく。疑問をもったことは主体的に調べるなどして情報を得ておく。建材に関してはホームセンターなどへ自主的に訪れ、実物を確認すると知識の定着や理解が深まるので推奨する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価の方法は、オンライン授業のノート(@3x7回)、対面授業の知識の確認テスト(合計得点を30点に換算)、ミニッツペーパー(@3x11回)、担当発表(15点)である。

ノートは毎回3点を上限とし[資料を写した程度(1点)/要点

をとらえ、自発的に収集した情報量が多い(2点)/気づきや疑問を記述し知識を再構築している(3点)]とする。ミニットペーパーは知識の応用化、内省をみる。

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業はブレンド型である。ひとつの単元はオンライン授業と対面授業を組み合わせる。オンライン授業は基礎知識の習得、対面授業は演習問題や解の無い問題に取り組む。対面授業ではオンライン授業の内容を重複して行うことはない。そのため、オンライン授業でしっかりと知識を習得しておくことが肝要である。またオンライン授業の一部では学生自身によるコンテンツの作成とプレゼンテーションを求め、評価の対象でもある。尚、受講者数によって授業計画が変更になることもあるが、第1回授業時に説明する。学外見学に伴う交通費は自費とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『やさしい建築材料』/松本進/学芸出版社//978-4-7615-2727-3/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

建築施工

LDR3250N1J
大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
3年次

2単位 後期
木曜3限

DP2：知識・理解力
60

建築一般構造
岸 研一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

建築施工とは、設計図書に従って工事現場で実際に建築物をつくっていく行為であり、計画、材料、構造、法規などの広範な基礎的知識が要求される。しかし、建築施工は施工者に必須の知識であるばかりでなく、施工者の対極にある建築士やインテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーターなどをめざす人にも必須の知識でもある。講義では、建築全般に関して知識と興味を深める為、知っておくべき著名な建築家の名前や作品紹介と実作品の見学を行う。テキストを補足するためにスライドを使用して、施工法と施工管理について計画、材料、構造、法規とどのような関連があるのかということもあわせて取り上げる。各種の資格取得に際して最も取っつき難い分野とされている建築施工に対する理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

女性の社会進出のためにも、建築生産現場に対する認識を深めて貰うとともに、二級建築士等の資格試験への備えとするために、次のような点を重点的に取り上げる。

- (1) 建築に関わる法律にはどのようなものがあるか
 - (2) 建築工事の施工標準にはどのようなものがあるか
 - (3) 建築工事の管理はどのようにして行われているか
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス
著名建築家及び作品紹介 (四大巨匠建築家)
- 第 2 回 建築紹介 (1)
著名建築家及び作品紹介 (海外の著名建築家、国内の著名建築家 (1))
- 第 3 回 建築紹介 (2)
著名建築家及び作品紹介 (国内の著名建築家 (2))
確認テスト (1)
- 第 4 回 学外学習
身近にある著名建築作品の見学
- 第 5 回 建築生産
建築生産のしくみ
- 第 6 回 仮設工事
準備工事・山留め工事
- 第 7 回 地業工事
杭工事・土工事
確認テスト (2)
- 第 8 回 躯体工事 (1)
地下躯体工事 (1) (鉄筋・型枠工事)
- 第 9 回 躯体工事 (2)
地下躯体工事 (2) (コンクリート工事)
確認テスト (3)
- 第 10 回 躯体工事 (3)
地上躯体工事 (鉄骨工事)
- 第 11 回 仕上工事 (1)
確認テスト (4)
仕上工事 (外装仕上工事)
- 第 12 回 仕上工事 (2)
仕上工事 (内装仕上工事)
- 第 13 回 設備工事

設備工事（電気・空調・給排水衛生・昇降・防災設備工事）

第 14 回 外構工事・その他

外構工事・竣工

維持・保全・改修工事

第 15 回 まとめテスト

まとめテスト、解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。まとめテスト及び解説。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストの内容を図や写真を交えたパワーポイントで視覚化するとともに、黒板への板書きを併用して講義を進める。理解度を把握するために簡単な小テストを5回程度実施する。小テスト及びまとめテストは終了後に解答解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

前回の講義内容を、テキストに書き込んだマーキングやメモ書きを見ながら復習するとともに、次回の講義の内容は何かを確認しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

25

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（20%）、確認テスト(20%)、まとめテスト(60%)の総合評価による。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『施工がわかるイラスト建築生産入門』/一般社団法人日本建設業連合会 編/彰国社/2017年11月/978-4-395-32100-1/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本建築学会 建築工事標準仕様書』////

『国交省営繕部 公共建築工事標準仕様書』////

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（26年）

ゼネコン勤務5年（施工管理）、設計事務所勤務3年、設計事務所開業19年、により実務経験あり。

建築法規

LDA2452N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

水曜2限

DP4：思考・解決力

60

建築一般構造

中村 久美 竹原 広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕

建築基準法の単体規程、集団規程、制度規程を中心に、都市計画法、消防法、建築士法などについて学習する。建築物の計画・設計・工事管理や建築行政に関する法規の知識を習得し、法規的取り扱いや手続きのしくみを理解したうえで、実社会や生活場面で活かす。加えて建築士業務に求められる倫理的態度を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.建築関係法令の法体系を理解する
- 2.建築基準法の単体規程、集団規程の法知識を習得する
- 3.建築士の位置づけ、業務のあり方を理解する
- 4.法規の成立の背景や意図、さらには法規の遂行・順守によって発生する課題についても考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力 (建築法規への理解)	建築法規の構成、および用語の理解ができていない	単体規程、集団規定に関わる用語については大体理解できている	用語の理解のうえに、テキストの例題を中心に規定に沿って面積や高さなどの計算も大体できる	建築法規上の様々な実例について背景や潜在する問題を考えると同時に、法規に沿った算定もいろいろなケースに対応できる
自分を育てる力 (主体的に学ぶこと)	授業中の課題や小テストの取り組みがふじゅうぶんである	授業中の例題や小テストにはまずまず解答する。	授業の例題に不明な点があれば、教員や他の受講者に質問するなどして積極的に取り組む	授業外の新聞やニュースに含まれる現実の建築基準法に関する事象、事項について関心をもって調べる

思考・解決力	法規を覚えようとするだけで、まちづくりや住宅性能に対する建築法規の役割を考えたことがない。	まちづくりや住宅性能の向上と建築法規を結び付けて考えることができる。	まちづくりや住宅性能の向上にとって現況の建築法規の役割や課題を部分的には捉えることができる。	まちづくりや住宅性能の向上にとって、現況の建築法規の役割や課題を的確に捉えられる。
--------	---	------------------------------------	--	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 建築関連法規の体系,法令の読み方,建築士法<竹原>
- 第 2 回 単体規程 1 (建築物の用語と定義) <竹原>
- 第 3 回 単体規程 2 (防火上、設計及び工事上の用語と定義) <竹原>
- 第 4 回 単体規程 3 (面積及び高さの算定) <竹原>
- 第 5 回 単体規程 4 (単体規程総論 採光、換気) <竹原>
- 第 6 回 単体規程 5 (一般構造、天井高、階段) <竹原>
- 第 7 回 単体規程のテストと解説<竹原>
- 第 8 回 集団規程 1 (道路と敷地 用途地域) <中村>
- 第 9 回 集団規程 2 (建蔽率 容積率) <中村>
- 第 10 回 集団規程 3 (高さ制限) <中村>
- 第 11 回 集団規程 4 (まちづくり関係) <中村>
- 第 12 回 手続き規程と建築行政<中村>
- 第 13 回 消防法<中村>
- 第 14 回 都市計画法<中村>
- 第 15 回 集団規定のテストと解説 建築法規の総括<中村>

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1.テキスト、配布資料、パワーポイントにより授業をすすめる
- 2.毎回登場する法規についてその都度テキストや配布資料により復習しておくこと
- 3.法規を現実に適用する際の考え方や実務、計画基準値の計算などの実際を演習する。 4.毎回授業冒頭で実施する小テストはその場で答え合わせと解説を行い前回授業の振り返りを行う。さらに7回目と15回目に実施する確認テストはそれぞれ直後に解説し、単体規程、および集団規定の振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスに書かれた授業予定にそってテキストを前もって読んでおくこと。また小テストのための復習は必須である。なお一部 (9回目~12回目) は、解説付きスライドによる予習を前提とし、授業では演習問題やケーススタディを行う反転授業とする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

確認試験 (50%) と授業参加状況 (20%)、授業途中で適宜行う小テスト (30%) により評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『建築法規用教材 最新版』/日本建築学会////学内販売予定

『建築基準法関係法令集 最新版』/日建学院 編/建築資料研究社///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

権利擁護と成年後見制度

SWR3401N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

金曜 5限

DP4 : 思考・解決力

60

高岡 克行

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

悪徳商法被害や虐待など、講師が実際に取り扱った事件を紹介しながら、成年後見制度、民法、憲法を理解することを目標とする。基本的には法律の講義であるが、条文解釈ではなく、具体的な事例を通して相談援助活動とのかわりを理解し、社会的実践に必要な法律知識の習得を目指す。ここで得られた法律知識と相談援助活動実践を活用し、超高齢社会を迎えた現代社会が抱える課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によってより良い方向性を見出し、解決しようとする力を身につけている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 日本国憲法の基本原理,民法(財産法,家族法),行政法,刑法
- 2 成年後見制度
- 3 日常生活自立支援事業
- 4 成年後見制度利用支援事業
- 5 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際
- 6 権利擁護活動の実際

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 権利擁護と成年後見制度を学ぶ前に
権利擁護と成年後見制度の相談援助活動において、社会福祉士がとらえる権利擁護の基盤にある人権と諸権利、権利擁護の視点と方法について概観する
- 第 2 回 日本国憲法の理解①
基本的人権の種類・内容・法的性格・調整などについて、体系的に学ぶ
- 第 3 回 日本国憲法の理解②
日本国憲法は国民の権利を護る手段として権力分離原則に基づく国家統治機構を規定しているため、国会、内閣、裁判所、地方公共団体に役割について学習する
- 第 4 回 民法の理解①
民法の物権・債権という財産権に関する領域について、当事者間に権利義務関係を生じさせる「契約」という法制度のあり方について学習する
- 第 5 回 民法の理解②
民法の物権・債権という財産権に関する領域について、当事者間に権利義務関係を生じさせる「不法行為」という法制度のあり方について学習する
- 第 6 回 民法の理解③
親族・相続の領域について、夫婦・親子等のかかわりや財産相続等の法律関係を理解する
- 第 7 回 行政法の理解
社会福祉に携わる者として、行政庁の違法・不当な処分から、利用者・要保護者の権利を護るために、「行政法」に共通するルールを学習する
- 第 8 回 成年後見制度の理解①
法定後見制度全体と、成年後見の対象者（成年被後見人）と成年後見人の役割について学ぶ
- 第 9 回 成年後見制度の理解②
保佐の対象者（被保佐人）、補助の対象者（被補助人）と保佐人、補助人の役割について学ぶ
- 第 10 回 任意後見制度の理解
任意後見制度は、自己の後見のあり方を自らの意思を決めておくという自己決定の尊重の理念に則した制度であることを理解する
- 第 11 回 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携
日常生活自立支援事業の概要、専門員・生活支援員の役割、日常生活自立支援事業の利用に必要な判断能力、成年後見制度との関係（活用）、福祉関係者・法律関係者との連携、最近の動向について学ぶ
- 第 12 回 成年後見制度利用支援事業の概要
成年後見制度利用支援事業の内容・特性について理解する

- 第 13 回 権利擁護にかかわる組織・団体
家庭裁判所を中心にして、法務局、市町村、社会福祉協議会、児童相談所等の役割について理解する
- 第 14 回 権利擁護にかかわる専門職の役割
成年後見制度を支える専門家集団である社会福祉士、弁護士、医師等の権利擁護をめぐる取り組みと役割を理解する
- 第 15 回 成年後見活動の実際について
権利擁護の視点から、成年後見制度によって判断能力の不十分な高齢者、障がい者等を支援する社会福祉士の活動の実例を事例から学ぶ。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義を中心に進める。教材は講師が用意したプリントを使用するが、社会的に関心の高い時事問題も取り上げる。なお、講義への積極的参加を促すためディスカッション、発表等は随時行う。なお、最終講義にて全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

次回に使用するプリントを配布するので、これに目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

定期テスト（50％）及び授業の参加度(50％)をもとに総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・社会福祉士国家試験受験資格を取得するための科目です
- ・社会福祉専門職である社会福祉士になる人間としての自覚をもって授業に参加してください
- ・テキストや配布資料等での予習復習をして下さい

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

山口光治編『新・社会福祉士養成課程対応 権利擁護と成年後見 第3版』みらい 2017年

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

社会福祉法人大阪ボランティア教会編集『福祉小六法2017』中央法規 2016年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と家庭経営 2017年度以降入学者

SLB1450NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP4：思考・解決力

60

必修

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

長引く経済の低迷や少子高齢化の進展によって、日本社会は、既存の社会システムからの大転換期を迎えている。このような混沌とした社会においては、「生きる力」を養い主体的な生活を営むための知識の習得が求められている。この授業では、生活の基本単位である家族がより良い生活を送るための家庭経営の知識を身につける。前半は、家族形態と機能が変化しつつあるなかで、現代の家族が抱える問題を学ぶ。中盤では、主体的に生きる消費者としての知識を習得してもらう。具体的には、生涯を見通した家計の管理ができるようになることと、現代の消費者問題について考える。後半は、地域社会における家族の役割や環境に配慮した家庭経営とはどのようなものかを検討する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 現代の家族が抱える問題を社会の変化と結びつけて理解することができる。
2. 家庭経済という視点から、より良い家庭生活を営んでいくうえでの課題やリスクを学び、問題解決のための方法を自ら考えることができる。
3. 生活を見直し、社会の一員として、持続可能な社会を形成していくために自分自身や家族ができることを考え行動することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	家庭経営に関する知識を習得しない。理解しようとしていない。	家族経営に関する最低限の知識を習得している。	家庭経営に関する基本的な知識全般を習得している。	基本的な知識の習得に加えて、応用力も身につけている。

言語力	問われたことに対する回答がなされていない。誤字や脱字が多い。あるいは漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所がある。	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、問われたことに対して適切に回答している。	適切な表現を用いながら、簡潔に回答している。	レベル3に加えて、批判的・論理的に回答している。
思考・解決力	家庭経営で生じる生活課題を思考できない。他人任せにして自ら解決しようとしていない。	家庭経営で生じる生活課題を考えてみる。解決に向けて取り組もうとする。	ほかの受講生の意見も取り入れながら、さまざまな角度から生活課題を想定し、状況に合った解決策を考えることができる。	社会の変化やライフステージに応じた生活課題を想定し、自らの生活に適した解決策を考え、行動することができる。
創造・発信力	指名されても発言しない。課題を提出しない。	指名されたら、自分の意見を言える。課題を提出する。	自発的に発言する。あるいは「見られる」「評価される」ことを意識した提出物を作成している。	レベル3に加えて、発言も提出物も、主観だけでなく資料からの裏づけをもとに行っている。

〔授業計画〕

- 第1回 家族の発達と現代の家族をめぐる問題
 - 第2回 家族のかたち・機能の変化
 - 第3回 生活の変化
 - 第4回 生活時間の男女差
 - 第5回 家計管理の基本的な考え方：収支とは何か？
 - 第6回 日本の財政と税金についての講義（ゲストスピーカー）
 - 第7回 支出とその評価
 - 第8回 家計に影響を与える要因
 - 第9回 長期的な生活設計と家計管理
 - 第10回 家庭経営における予測の事態への備え
 - 第11回 賢い消費者であるために①：通信販売の利点と問題点
 - 第12回 賢い消費者であるために②：多重債務問題
 - 第13回 さまざまな消費者問題と消費者政策
 - 第14回 地域社会のなかの家庭生活
 - 第15回 まとめ：持続可能なライフスタイルをめざして
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
期末試験

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

＜教育・学習の方法＞

講義が中心であるが、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらう機会を多く設ける。そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は、欠席とみなす。

＜課題（レポート）のフィードバック方法＞

課題（レポート）は授業中に受講生自ら発言する機会を設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する（場合によっては、manabaで公開する）。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

＜復習＞

対面授業：授業で投影したスライドは、授業終了後の一兩日中にmanabaへアップする。授業中に聞き逃したことや分からなかった所は復習をして、必要に応じて担当教員に尋ねること。

オンライン授業：授業開始時間に合わせて音声つきスライドを公開する。期末まで公開とするので、わからない部分は何度も繰り返し視聴すること。

＜予習＞

・授業中に次回までの課題を出す。必ず完成させて授業に臨むこと。

・関連しそうな新聞記事やインターネットの情報に目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末試験50%、授業中の課題30%、受講態度20%

〔留意事項 (Other Information)〕

・ゲストスピーカーの予定や受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合がある。

・「受講態度」には出席回数は含まない。また、10回以上の出席がなければ最終評価の対象から外す。

・欠席した回の「授業中の課題」の評価は「0点」となるので注意すること。

・対面授業の場合、レジュメは授業の3日前までに「manaba」に公開する。必要であれば、プリントするなど各自で準備をすること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『家族生活研究』/宮本みち子・清水新二（編著）/放送大学出版協会/2009/9784595139000

『生活経営学』/赤星礼子・奥村美代子（編）/九州大学出版会/2013/9784798501055

『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第2版]』/伊藤純・斎藤悦子（編著）/ミネルヴァ書房/2015/9784623073542

そのほか、授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と福祉Ⅰ

SLB1100N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

木曜 2限

DP1：自分を育てる力

60

福祉生活デザイン学科必修

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会福祉とは何か、その対象とはどのようなものかについて学ぶことを目的とする。社会福祉の対象となるさまざまな社会問題を理解する。それらの社会問題を抱えている人々への支援に向けて何が必要なのかを総合的に理解できるように。これらを学び、現代社会における社会福祉の必要性について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会福祉の歴史的展開を学ぶ。
2. 現代の社会福祉の諸相を学ぶ。
3. 社会福祉の課題を理解し、その支援について学ぶ。
4. 社会福祉の動向について、法律や制度、考え方を概観する。
5. 諸外国の福祉について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	社会福祉がどのように展開してきたかを理解できない。	社会福祉がどのように展開してきたのかを理解しようと努力する。	社会福祉の展開過程から現代の社会福祉について理解できる。	社会福祉の展開過程を理解し、社会福祉の必要性について理解できる。
思考・解決力	社会福祉の対象となる課題について理解することができない。	社会福祉の対象となる課題について理解できる。	社会福祉の対象となる課題について考え、何が必要かを考えることができる。	社会福祉の対象となる課題について理解し、自分にできることを考え、行動しようとする。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 社会福祉の歴史的展開①海外の動向

第 3 回 社会福祉の歴史的展開②日本の動向

- 第 4 回 社会問題の背景
- 第 5 回 社会福祉の対象課題①児童
- 第 6 回 社会福祉の対象課題②高齢者
- 第 7 回 社会福祉の対象課題③障がい者
- 第 8 回 社会福祉の対象課題④生活困窮者
- 第 9 回 社会福祉と地域福祉
- 第 10 回 社会福祉の対象とニーズ
- 第 11 回 社会資源
- 第 12 回 社会福祉の政策動向（法律や制度）
- 第 13 回 社会福祉の国際比較（デンマークを中心に）
- 第 14 回 形成テストと解説
- 第 15 回 総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義を中心としつつ、必要に応じて、グループワーク等も実施する。講義資料を事前にmanabaを通じて配付する。予習、復習の確認のため、小テストを実施する。manabaの小テスト機能で回答の確認をし、フィードバックをおこなう。形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

理解度を促進するため、毎回小テストを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと予習、復習して臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし、テキストと照合し、予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（15%）、小テスト（15%）、テスト（70%）で総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

「社会福祉の原理と政策」／坪洋一、伊藤新一郎、武川正吾／中央法規／2020

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と福祉Ⅱ

SWA1250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP2：知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は「現代社会と福祉Ⅰ」で学んだことを踏まえた上で、社会福祉の思想・哲学や理論について理解を深めることを目指す。また、福祉政策ならびに関連政策の実施方法を学び、福祉サービスの供給と利用の現状について理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。
2. 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上の
ニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。
3. 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	社会福祉がどのような思想や理論に基づいて実践されているのか理解できない。	社会福祉がどのような思想や理論に基づいて実践されているのか理解しようと努力する。	社会福祉がどのような思想や理論に基づいて実践されているのか理解できる。	社会福祉の思想や理論について理解し、自身の言葉で説明することができる。
思考・解決力	福祉政策と福祉サービスをどのように実施していく必要があるのか説明することができない。	福祉政策と福祉サービスをどのように実施していく必要があるのか説明しようと努力する。	福祉政策と福祉サービスをどのように実施していく必要があるのか文献を引用して説明することができる。	福祉政策と福祉サービスをどのように実施していく必要があるのか具体的に説明し、意見を明確に述べることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、社会福祉の思想・哲学の考え方
- 第 2 回 社会福祉の思想・哲学 一人間の尊厳、社会正義、平和主義等一
- 第 3 回 戦後社会福祉の展開と社会福祉の理論
- 第 4 回 欧米の社会福祉の理論
- 第 5 回 社会福祉の論点① 一公私関係、効率性と公平性、普遍主義と選別主義一

- 第 6 回 社会福祉の論点② – 自立と依存、自己選択・自己決定とパターナリズム等 –
- 第 7 回 福祉政策の構成要素
- 第 8 回 福祉政策の過程
- 第 9 回 福祉政策と関連施策① – 保健医療政策、教育政策 –
- 第 10 回 福祉政策と関連施策② – 住宅政策、労働政策、経済政策 –
- 第 11 回 福祉サービスの供給部門
- 第 12 回 福祉サービスの供給過程
- 第 13 回 福祉サービスの利用過程
- 第 14 回 形成テストと解説
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストと配付資料に基づいて講義を行う。また、必要に応じて、グループワーク等も実施する。授業中に小テストを実施し、理解度を確認する。小テストの回答の確認とフィードバックを個別に行う。形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストの指定箇所を読み、予習すること。
- ・毎回、小テストを実施するので、予習・復習に取り組むこと。
- ・新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) で総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮して行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『社会福祉の原理と政策』/ 坪洋一・伊藤新一郎・武川正吾編/中央法規/2021/978-4-8058-8234-4/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公的扶助論

SWR3200N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

木曜 5限

DP2: 知識・理解力

60

福嶋 正人

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

公的扶助 (生活保護) 制度は人々の生存権を保障するための生活保障制度である。まずは貧困・低所得層の生活実態と政策動向について学ぶ。その上でわが国及び欧米における公的扶助制度の歴史を概観し、そして生活保護の原理及び原則について具体的事例を交えながら理解を深める。最後に生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金の概略、ホームレス支援について学び、社会保障における自立支援について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ① 貧困・低所得者の生活実態と政策動向を理解する
- ② 公的扶助制度の歴史と意義を理解する。
- ③ 生活保護制度の原理、原則、組織や専門職の役割を理解する。
- ④ 生活困窮者自立支援制度の概略を理解する。
- ⑤ 社会保障における自立支援のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	貧困問題を知ろうとする。	公的扶助制度の概要を知る。	公的扶助制度の課題を知る。	これからの公的扶助のあり方を考える。
言語力				
思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自分の問題として課題に取り組む	文献などを精査して、自分の考えを提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーション

第 2 回 貧困とは
現代社会における貧困とは
貧困問題の諸相について

- 第 3 回 制度の仕組み
社会サービスの理解と公的扶助制度の歴史
- 第 4 回 生活保護制度の基本原則
生活保護制度の基本原則
- 第 5 回 生活生活保護制度の実施体制
生活生活保護制度の実施体制
- 第 6 回 生活保護お具体的内容
生活保護の具体的内容
- 第 7 回 保護の要否判定
保護の要否判定
- 第 8 回 生活保護制度利用における権利と義務
生活保護制度利用における権利と義務
- 第 9 回 最低生活保障水準と生活保護基準
最低生活保障水準と生活保護基準
ナショナルミニマム
- 第 10 回 生活保護制度の動向と財源
生活保護制度の動向と財源
- 第 11 回 専門職の役割と相談援助
専門職の役割と相談援助
- 第 12 回 生活困窮者自立支援制度
生活困窮者自立支援制度
その他 諸制度
- 第 13 回 生活福祉資金
生活福祉資金
その他 諸制度
- 第 14 回 ホームレス支援の実態と課題
ホームレス支援の実態と課題
- 第 15 回 まとめと振り返り
まとめと振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

課題 (試験またはレポート) の結果については授業内で開示する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進めるが、適宜、視聴覚教材も取り入れている。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、授業中に紹介する参考文献に興味関心を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30分

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は出席点 (50点)、定期試験 (50点) とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は単位を認めない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業進行の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保護のてびき 令和元年度版』/生活保護制度研究会/第一法規/978-4-474-06840-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

児童福祉論

SWA2203N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 前期

水曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

黒田 将史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもを取り巻く環境はに変化しており、子どもや子育て中の親の状況、家庭をめぐる地域社会の状況も、時代とともに変化している。その生活実態を把握することを通し、現代の子ども・子育て家庭が有するニーズを確認することを通し、児童や家庭福祉の意義と歴史的な発展過程、子どもの権利について学ぶ。その上で、現代の児童や家庭福祉にかかわる法制度と関連機関・施設、さらにそこに携わっている専門職の役割や、支援内容について理解し、児童福祉法にも明記されている児童が権利の主体であるという児童・家庭福祉の基本的な視座を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会 環境について理解する。
2. 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。
3. 児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。
4. 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、専門職の役割について理解する。
5. 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
講師の自己紹介と授業の進め方について
- 第 2 回 子ども家庭福祉の定義と権利保障
子ども家庭福祉の定義や子どもの権利の保障について
- 第 3 回 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境
統計を用いて児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境の状況について
- 第 4 回 児童・家庭福祉の歴史的展開
児童・家庭福祉の先駆者の活動内容や法制度の変遷について
- 第 5 回 子ども家庭福祉に関する法律
児童福祉法をはじめとする児童福祉六法等の概略について
- 第 6 回 子ども家庭福祉の実施体制と財源～国、都道府県、市町村の役割
- 第 7 回 子ども・子育て支援と児童健全育成
地域子ども・子育て支援事業や児童健全育成について
- 第 8 回 保育
保育に関するサービスについて
- 第 9 回 母子の健康と母子保健・医療・福祉サービス
母子の健康と母子保健・医療・福祉サービス
- 第 10 回 児童虐待への対策
児童虐待防止対策やその支援について
- 第 11 回 社会的養育
社会的養護にかかわる施設・専門職、里親制度について
- 第 12 回 ひとり親家庭の福祉
ひとり親家庭を支える福祉サービスについて
- 第 13 回 障害のある子どもの福祉、心理的困難・非行問題のある子どもの福祉
障害のある子どもの福祉、心理的困難・非行問題のある子どもの福祉について
- 第 14 回 子どもと家庭にかかわる女性福祉
DVへの対応等を含む子どもや家庭にかかわる福祉サービスについて
- 第 15 回 子ども家庭への相談援助活動と全体のまとめ
子ども家庭への相談援助活動についてや全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法 講義を中心に行う。より理解を深めるためビデオ等も使用する。対話を重視し、グループワークも実施する。2. テキスト・文献等 (1)テキストを用いる。(2)参考文献 授業中に適宜紹介する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学生は各授業の準備として、授業テーマに該当するテキストの章を熟読しておく。子ども・家庭にかかわる福祉問題について日頃から関心を持ち、新聞や書籍、文献、マスメディアなどで学びを深めてほしい

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

本科目の評価の内訳は、授業参加度と前回の講義内容の習得度を確認するための小テスト (40%) と定期試験 (60%) により総合的に判断する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

カードリーダーで出欠を確認するので、学生カードを必ず携帯すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

最新 社会福祉士養成講座 専門科目「児童・家庭福祉」/一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規出版/2021/ISBN978-4-8058-8246-7

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小学校におけるスクールソーシャルワーカーとしての経験
地域との協働による学習支援活動運営・活動の経験
地域子育て支援拠点事業での活動経験

社会福祉特講 I

SWR4601N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

2単位 前期

火曜 5限 火曜 4限

DP6 : 創造・発信力

90

全15コマ

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ソーシャルワークの演習・実習指導・現場実習で習得した専門的知識及び技術をさらに向上させることを目指す。社会福祉施設や医療機関等の相談援助においては、利用者の生活実態と取り巻く社会情勢、社会福祉制度や社会保障の動向を理解しておくことが必要とされている。特講 I では、高齢者や障害者、児童家庭福祉、公的扶助や権利擁護、更生保護等の社会福祉制度や社会保障の動向を幅広く学び、具体的なサービスの理解と支援方法の習得を目指す。事例を用いたグループ討議も行い、相談援助に係る知識と技術を実践的に習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

社会福祉を支えるために必要な各種制度や法律を理解し、さまざまな領域で必要とされる専門的価値、倫理、知識、技術を総合的に理解するとともに修得した技術を実践場面で展開また応用できるようにソーシャルワークの在り方をこれまでの総括として説明することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉特講学習をイメージできない。	社会福祉特講学習をイメージできる	社会福祉特講学習をイメージして現実の学習に役立てる	社会福祉特講学習をイメージして主体的学習ができる
知識・理解力	社会福祉特講学習の意味が理解できない	社会福祉特講学習の意味が理解できる	社会福祉特講学習の意味が理解でき、興味がわいてくる	L3に加え特講に対する知識を広く理解しようとする
言語力	社会福祉特講学習での専門用語の意味が理解できない	社会福祉特講学習での専門用語の意味が理解できる	社会福祉特講学習での専門用語を理解し、より深く探求する。	L3に加え特講及び福祉関連の専門用語についても広く理解しようとする
思考・解決力	教えられたこと以外は考えようとしない	現状の状況に当てはめて考えようとする	社会福祉特講と福祉周辺領域の用語の意味理解ができる	L3に加え特講及び福祉関連の専門用語を駆使し解説ができる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞くことができる	考えた結果を他者と共有理解することができる	L3に加え特講で学んだ内容についてさらに深い学びを探求する
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を判断して自分の考えを発信する	新たな検討や振り返りて特講を自身のものにできる	L3に加え特講及び福祉関連の内容を理解して他所に発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 子ども家庭福祉とは何か、子ども家庭福祉にかかわる法制度
児童福祉について考え学ぶ
- 第 2 回 子ども家庭にかかわる福祉・保健と援助活動
児童福祉の課題と将来について考え学ぶ
- 第 3 回 高齢者の特性、少子高齢社会と高齢者
高齢者福祉、老人福祉法についての理解を深める
- 第 4 回 介護保険制度の枠組みと体系、介護の概念や対象、介護過程

介護保険法について理解を深め、介護実践についての知識を学ぶ

- 第 5 回 障害者自立支援制度
障害者のおかれている環境と法律の理解を学ぶ
- 第 6 回 組織・機関の役割、専門職の役割と実際と多職種連携・ネットワークング
障害者を守り育む支援の必要について学ぶ
- 第 7 回 生活保護制度の仕組み、最低生活保障水準と生活保護基準
生活保護法の理解について学ぶ
- 第 8 回 生活保護の動向、低所得者対策の概要と援助活動
生活保護法の課題と今後の展望について
- 第 9 回 社会保障の歴史と構造、財源と費用
社会保障制度の構造理解を学ぶ
- 第 10 回 年金保険制度や医療保険制度の各種保険制度
社会保障制度での各種保険制度をそれぞれ理解して学ぶ
- 第 11 回 地域福祉の発展過程、福祉コミュニティの考え方
地域福祉の意義、展開の必要について学ぶ
- 第 12 回 コミュニティソーシャルワークの考え方と展開
地域福祉推進の援助技術について学ぶ
- 第 13 回 福祉サービスにおける組織、団体と経営
社会福祉の運営管理について理解を深める
- 第 14 回 福祉サービスの管理運営の方法、人事、労務管理、財務管理
社会福祉現場での運営方法の実際についてさまざまな角度から考える
- 第 15 回 社会調査の対象と方法と状況
社会調査の意義、在り方、方法について理解を深める

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材や最新の関連情報の資料を活用します。各回で理解の習熟を振り返るため小テストを実施するとともに最終回では総合テストを実施し解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

当日までにテキストを概読し、授業内容を把握して出席すること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (15点)、小テスト (4点×15=60点)、総合力テスト (25点) の100点満点の合計で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士受験予定者については受講をすすめます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

事前に購入を指示する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」 相談援助職として高齢者福祉施設での勤務経験あり。

NPO理事長として非営利活動の運営管理経験あり。

社会福祉特講 II

SWR4602N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

2単位 通年

金曜 5限

DP6：創造・発信力

90

全15コマ

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉に対する幅広い視野と知識を身につけ、精神保健福祉士として相談援助や生活支援、リハビリテーションや就労支援、そして家族支援やケアマネジメントなど、地域における精神障害のある人に対する適切な役割を果たせる力を身につけるために、4年間での学んだ事項を十分理解し、相談者に理解してもらえるように説明できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

精神保健福祉に関する歴史や現状の知識を背景に、支援に必要な専門的技術とともに制度や支援システム、そしてさまざまな支援サービスを体系的に整理して理解し説明することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉の制度や支援システムを体系的に理解し説明することができる	精神保健福祉の制度や支援システムを体系的に理解していないため、説明できない	精神保健福祉の制度や支援システムを体系的に理解し、資料を見ながらであれば説明できる	精神保健福祉の制度や支援システムを体系的に理解し、資料を見なくてもおおまかな概要は説明できる	精神保健福祉の制度や支援システムを体系的に理解し、資料を見ずに細かい手続き等を説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・精神保健福祉の歴史
- 第 2 回 精神保健福祉法の理解 (定義その他)
- 第 3 回 精神保健福祉法の理解 (精神科入院形態)
- 第 4 回 精神保健福祉法の理解 (隔離拘束等)
- 第 5 回 第1回まとめテストと解説

第 6 回 障害者基本法の理解 (合理的配慮・障害者権利条約)

第 7 回 障害者総合支援法の理解 (就労支援)

第 8 回 障害者総合支援法の理解 (相談支援)

第 9 回 障害者総合支援法の理解 (生活支援)

第 10 回 第2回まとめテストと解説

第 11 回 経済的支援 (障害年金/社会手当)

第 12 回 経済的支援 (高額療養費/自立支援医療精神通院)

第 13 回 経済的支援 (生活困窮者自立支援法・生活福祉資金)

第 14 回 経済的支援 (生活保護)

第 15 回 第3回まとめテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、全部で3回のまとめテストと15回目に総合テストを実施し解説を行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (15点)、まとめテスト (20点×3=60点)、総合力テスト (25点) の100点満点の合計で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

事前に購入しているテキストを使用する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」 精神保健福祉士として行政機関での勤務経験あり。

社会保障論 I

SWA2200N1J
 大学
 現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
 2年次
 2単位 前期
 月曜 2限
 DP2：知識・理解力
 60
 大風 薫

【科目の教育目標 (Course Description)】

現代の生活において社会保障は人々の生活に欠かせないのであり、我々は社会保険料や消費税を払い、医療や年金の給付などを受けられる。本講義では現代社会における社会保障の存在意義、理念、歴史、制度の概略など社会保障の基礎を学ぶ。具体的には少子高齢化が急速に進むわが国における社会保障制度を中心に、対象や課題を確認し、欧米を含む社会保障の展開過程を学ぶ。その上で、社会保障の財源及び社会保障を構成する制度群を社会保険と社会扶助の二つに分けて理解を深める。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ①現代社会における社会保障制度の役割を理解する。
- ②社会保障制度の理念と歴史を理解する。
- ③社会保障の財源と費用を理解する。
- ④社会保険と社会扶助の関係を理解する。
- ⑤日本の社会保障制度の概略を理解する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	社会保障の動向を知ろうとする。	社会制度の成り立ちや日本の社会保障制度の役割・機能・概要を理解する。	日本の社会保障制度の課題を理解する。	これからの社会保障のあり方を考える。
言語力				
思考・解決力	テストをうける	社会保障に関する基本的な知識をもとにレポートが作成できる	社会保障に関する基本的な知識をもとに、そこでの課題について自分の考えを述べるができる	レベル3に加えて文献などを精査しながら、自分の考えを提示できる
共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

- 第 1 回 社会保障とは、福祉とは
- 第 2 回 くらしと社会保障
- 第 3 回 西洋の社会保障の歴史
- 第 4 回 日本の社会保障の歴史
- 第 5 回 社会保障の意義と理念
- 第 6 回 社会保障の制度体系と保障方法
- 第 7 回 社会保障の機能
- 第 8 回 社会保障と財政・行政
- 第 9 回 現代日本における社会保障の課題
- 第 10 回 社会保険の概要①：年金
- 第 11 回 社会保険の概要②：医療・介護・雇用
- 第 12 回 社会福祉制度の概要
- 第 13 回 公的扶助の概要
- 第 14 回 権利擁護
- 第 15 回 まとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施する。

課題（試験またはレポート）の結果についてはmanaba等で本人に開示する。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

講義を中心に進めるが、適宜、グループディスカッションも取り入れる。教材として視聴覚教材を使用することもある。授業の冒頭に、前回の授業の復習としてミニテストを行うこともある。

ミニテストや提出された課題は次回の授業で全体に対してフィードバックし、他の受講生に共有することがある。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

授業前にmanabaに掲載する資料を読んでおくこと。授業の冒頭に確認する。

また授業中に次回までの課題を出された場合は、それを完成させて授業に臨むこと。課題には、授業のトピックに関連する新聞・インターネット・雑誌などの情報提供を求めるとも含むため、日ごろから情報へアクセスする習慣をつけるよう心掛けること。授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

評価は、定期試験50%、授業中の課題35%、受講態度15%とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を認めない。

【留意事項 (Other Information)】

- ・第1回目の授業は可能な限り出席すること。出席せずに本授業の履修を希望する場合は担当教員にその旨を第2回授業までに連絡すること。

- ・講義の都合上、授業の順番を入れ替えたり授業内容の一部を変更することがある。

- ・「受講態度」に出席回数は含まない。

- ・授業を欠席した場合の「課題点」は0点になるので注意すること。

- ・対面授業を基本とするが、状況によって変更することも

ある。

・授業資料は授業の3日前までにmanabaに掲載する。必要な場合は各自で印刷して持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『社会保障・社会福祉』/福田素生/医学書院/2020/9784260040860

『はじめての社会保障第17版』/棕野美智子・田中耕太郎著/有斐閣/2019/9784641221642

『入門テキスト 社会保障の基礎』/西村淳編著/東洋経済新報社/2016/9784492701430

『社会保障入門』/橘木俊詔/ミネルヴァ書房/2019/9784623087907

その他、授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

厚生労働省ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

厚生労働白書 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/index.html

国立社会保障・人口問題研究所 社会保障費用統計

http://www.ipss.go.jp/site-ad/index_Japanese/security.asp

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会保障論Ⅱ

SWA2450N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

月曜2限

DP4: 思考・解決力

60

大風 薫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では社会保障Ⅰで学んだ社会保障の基礎的理解に立って、社会保障を構成する各制度を具体的に学び、これからの社会保障のあり方を考えることを目標とする。まずは複雑に分立したわが国の社会保障制度を鳥瞰しながらその全体像を把握する。そして社会保障の支柱である社会保険の原理を理解した上で、年金保険、医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険の詳細を学ぶ。さらに公的扶助、福祉サービスを概観し、最後に欧米の社会保障と比較しながら、わが国の社会保障の特質について理解し、これからの社会保障の課題とあり方を検討する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①年金保険と医療保険の仕組みを理解する。
- ②雇用保険、労災保険、介護保険の仕組みを理解する。
- ③生活保護制度の内容と問題を理解する。

④社会手当と社会福祉の概要を理解する。

⑤諸外国の社会保障制度の概要を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	社会保障の動向を知ろうとする。	日本の社会保障制度の見取り図と各制度の概要を理解する。	日本の社会保障制度の見取り図、各制度とその課題を理解する。	これからの社会保障のあり方を考える。
言語力				
思考・解決力	テストをうける	社会保障に関する基本的な知識をもとにレポートが作成できる	社会保障に関する基本的な知識をもとに、そこでの課題について自分の考えを述べることができる	レベル3に加えて文献などを精査して、自分の考えを提示できる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第1回 社会保障の見取り図
- 第2回 公的年金制度①: 仕組み、被保険者と保険料、老齢年金、財政方式
- 第3回 公的年金制度②: 障害年金、遺族年金
- 第4回 企業年金制度等
- 第5回 医療保険制度①: 仕組み、被保険者と保険料、保険給付
- 第6回 医療保険制度②: 高齢者医療制度、国民医療費、医療提供体制
- 第7回 介護保険制度
- 第8回 雇用保険制度
- 第9回 労働者災害補償保険制度
- 第10回 生活保護制度
- 第11回 社会手当(児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当)
- 第12回 社会福祉(高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉)
- 第13回 諸外国の社会保障制度
- 第14回 日本の社会保障制度の課題
- 第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

課題 (定期試験に替わるレポート) の結果についてはmanaba等で本人に開示する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進めるが、適宜、グループディスカッションも取り入れる。教材として視聴覚教材を使用することもある。授業の冒頭に、前回の授業の復習としてミニテストを行うこともある。

ミニテストや課題は次回の授業で全体に対してフィードバックし、他の受講生に共有することがある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業前にmanabaに掲載する資料を読んでおくこと。授業の冒頭に確認する。

また授業中に次回までの課題を出された場合は、それを完成させて授業に臨むこと。課題には、授業のトピックに関連する新聞・インターネット・雑誌などの情報提供を求めるときも含むため、日ごろから情報へアクセスする習慣をつけるよう心掛けること。授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、定期試験50%、授業中の課題35%、受講態度15%とする。欠席回数が3分の1を超過した場合は原則として単位を認めない。

〔留意事項 (Other Information)〕

・第1回目の授業は可能な限り出席すること。出席せずに本授業の履修を希望する場合は担当教員にその旨を第2回授業までに連絡すること。

・講義の都合上、授業の順番を入れ替えたり授業内容の一部を変更することがある。

・「受講態度」に出席回数は含まない。

・授業を欠席した場合の「課題点」は0点になるので注意すること。

・対面授業を基本とするが、状況によって変更することもある。

・授業資料は授業の3日前までにmanabaに掲載する。必要な場合は各自で印刷して持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『社会保障・社会福祉』/福田素生/医学書院/2020/9784260040860

『はじめての社会保障第17版』/椋野美智子・田中耕太郎著/有斐閣/2019/9784641221642

『入門テキスト 社会保障の基礎』/西村淳編著/東洋経済新報社/2016/9784492701430

『社会保障入門』/橘木俊詔/ミネルヴァ書房/

2019/9784623087907

その他、授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

厚生労働省ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

厚生労働白書 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/index.html

国立社会保障・人口問題研究所 社会保障費用統計

http://www.ipss.go.jp/site-ad/index_Japanese/security.asp

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

就労支援

SWR3400N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

1単位 前期

水曜1限

DP4: 思考・解決力

30

全7.5コマ

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

地域や福祉の現場で他職種と協働しながら就労支援に従事する支援者としての知識と技術を身につけることを目標とする。まずは現在の雇用・就労の動向と労働施策を検討する。その上で、民間企業等における障害者雇用の状況や、当事者への具体的な支援方法、就労サポートシステムの構築について学ぶ。続いて低所得者の就労支援に関する制度、当事者への相談援助の方法、就労支援を担う組織との連携について学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 現在の雇用・就労の動向を理解する。
- (2) 相談援助活動における自立支援の観点から、障害者や低所得者に対する就労支援制度の概要について理解する。
- (3) 障害者や低所得者の就労支援を担う組織、団体及び専門職について理解する。
- (4) 就労支援の連携と実際について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	就労支援の概要について知ろうとする。	就労支援の制度や方法について理解しようとする。	就労支援の制度や方法をもとに、考えを深めようとする。	就労支援に従事する専門職の役割を自ら考え、連携の必要性を説明することができる。
知識・理解力	現在の雇用・就労の	障害者や低所得者に対する就労支援制度の概	就労支援を担う組織、団体及び専門職につい	就労支援においてどのような連携が必要であ

	動向を知ろうとする。	要を理解している。	て理解している。	るのか説明することができる。
思考・解決力	テキストやプリントに記載してある内容は覚えている。	テキストやプリントに記載してある内容を自身の言葉で説明することができる。	授業で学んだ内容に基づき、意見を述べることができる。	授業で学んだ内容をさらに調べ、内容を掘り下げて意見を述べることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 働くことの意味と社会福祉士の役割
- 第 2 回 雇用・就労の動向と施策
- 第 3 回 障害者の就労の現状
- 第 4 回 障害者の就労支援の実際
- 第 5 回 低所得者等の就労の現状と就労支援の実際
- 第 6 回 専門職の役割と実際
- 第 7 回 就労支援の連携と実際
- 第 8 回 さまざまな働き方の支援

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進めるが、適宜、グループワークを取り入れる。各回授業中にワークシートを配付し、理解度を把握する。各回のワークシートは次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

レポートはmanabaを使用して添削・コメントを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、授業中に紹介する参考文献も読んでみる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (20%)、ワークシート (30%)、レポート (50%) によって総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・社会福祉士養成講座〈18〉 就労支援サービス』/社会福祉士養成講座編集委員会 (編集)/中央法規/2019/978-4-8058-5304-7学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住環境学

LDA2252N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

火曜2限

DP2: 知識・理解力

60

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

科学技術の進歩とともに私たちの生活環境は向上し、快適な住宅に暮らしていると考えられている。しかし、毎年続く異常気象や高気密高断熱住宅の課題など、新たな課題も発生している。本科目は環境工学 (音、光、熱、空気環境) の基礎知識を習得し、環境要素の制御の仕方を理解する。そして健康、安全、快適な住まいに対する深い理解と実生活への積極的な応用、また近年の新たな課題について環境工学の見地から解を考える。他者のノートやミニッツペーパーの共有を通して自己の理解の客観視と内省を促し学習を深化させる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 建築環境工学を理解する。
2. 各環境要素の基礎的専門用語、指標を習得する。
3. 各環境要素の住生活への影響を理解する。
4. 環境要素を複合的にとらえ、解のない問題を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ノートを作成しない	資料を写した程度のノートしか作成しない	要点がとらえられている。自発的に収集した情報量が多いノートである	自分なりの気づきや疑問を記述し、知識を再構成したノートを作成し復習をする
知識・理解力	建築環境工学に関する基本的な専門用語の理解ができていない	建築環境工学に関する専門用語や指標を理解している	建築環境の各要素のコントロール方法に関する知識を理解している。	住環境に関する知識を自分なりに統合、再構成し、適切な空間計画のあり方を理解している。
思考・解決力	環境要素と住生活との関連がわからない	音、光、熱、空気と住生活の関連や問題に気づくことができる	音、光、熱、空気の環境要素の物理的特性がそれぞれ人に与える影響や課題、解	複数の環境要素を複合的にとらえ、総合的な環境評価 (解のない問題) を論

			決への提案 ができる	じることが できる
--	--	--	---------------	--------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 (対面) ガイダンス
授業の方法、評価基準の説明、
第 2 回のための予習の資料説明とノート作成、ノ
ート提出の方法の説明
住環境工学という学問の説明
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 2 回 (対面) 音環境の基礎
事前知識の確認テスト
ノートの共有
音の 3 要素の確認
音の基礎に関する補足
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 3 回 (on-line) 静かな環境をつくる、音響計画の基本
ノート作成、ノートの提出
- 第 4 回 (対面) 音環境のコントロールと計画の総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
騒音対策、音響計画の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 5 回 (on-line) 伝熱の基礎、住まいの保温性(保冷性)
の基本
ノート作成、ノートの提出
- 第 6 回 (対面) 熱環境のコントロールと計画の総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
断熱、熱計画の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 7 回 (on-line) 結露現象のメカニズム
ノート作成、ノートの提出
- 第 8 回 (対面) 結露のコントロールと総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
結露のメカニズムとコントロール、湿り空気線図
の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 9 回 (on-line) 体感温度の基礎
ノート作成、ノートの提出
- 第 10 回 (対面) 体感温度のコントロールと総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
体感温度指標、標準新有効温度の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 11 回 (on-line) 安全な空気環境の基本
ノート作成、ノートの提出
- 第 12 回 (対面) 空気環境の計画と総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
シックハウス症候群、換気の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
- 第 13 回 (on-line) 光環境、照明計画の基本

- ノート作成、ノートの提出
- 第 14 回 1/14 (対面) 光環境の計画と総括
事前知識の確認テスト
ノートの共有
人工光、昼光の照明計画の補足、総括
ミニッツペーパーの作成と提出、共有
レポートの提出期限の確認
- 第 15 回 (対面) 住環境学の総括
レポートの共有
複合的に環境要素をとらえる
ミニッツペーパーの作成と提出、共有

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ブレンド型授業とする。オンライン授業と対面授業を交互
に行う。

オンライン授業は、教材に加えて主体的に収集した情報を
活用して学びを深めノートを作成し、対面授業に備える。
ノートは評価の対象であり、ループリックを参考にする。
(要点の把握と情報量、疑問に対して自分なりの解を考え
る、知識を再構成し気づいたことや自分なりの解釈を加え
る。)

対面授業は、授業冒頭に知識の確認テストを行う。他者の
ノートを共有することで理解を深める。主たる授業内容は
オンライン授業で習得した知識を自分なりに再構成し、ミ
ニッツペーパーを作成することで正解のない問題に取り組
む。第15回(最終回)は最終レポートを共有し、環境工学
の視点から住宅の在り方を考える。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

オンラインのコンテンツによって基礎知識の習得をする。
学術的な単位や記号、式、評価基準に関しては正しく理解
するよう努力すること。また日常の生活体験を通して環境
工学を理解し、身の回りにある課題に気づき関心を持つ。
疑問をもったことは主体的に調べるなどして情報を得てお
く。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価の方法は、オンライン授業のノート(28)、対面授業の知
識の確認テスト(30)、ミニッツペーパー(27)、最終レポート
(15)である。

ノートは毎回 3 点を上限とし[資料を写した程度(1点)/要点
をとらえ、自発的に収集した情報量が多い(2点)/気づきや疑
問を記述し知識を再構築している(3点)]とする。ミニッツペ
ーパーは知識の応用化をみる。最終レポートの課題は社会
における新たな課題について自分なりの解をみつけるもの
とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業はブレンド型である。ひとつの単元はオンライン
授業 1 週と対面授業 1 週を組み合わせで完結する。オンラ
イン授業は基礎知識の習得、対面授業は演習問題や解の無
い問題に取り組む。対面授業ではオンライン授業の内容を

重複して行うことはない。そのため、オンライン授業でしっかりと知識を習得しておくことが肝要である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕

『基礎からわかる建築環境工学』/榎 究/彰国社//978-4-395-32009-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN〕

『生活環境学』/岩田利枝/井上書院/2008/

『建築環境工学』/加藤信介/彰国社/2002/

『やさしい建築環境』/辻原万規彦/学芸出版社/2009/

『図解住居学5 住まいの環境』/図解住居学編集委員会編/彰国社//

『初学者の建築講座 建築環境工学 (第2版)』//市ヶ谷出版社//

表題に環境工学、建築環境工学、建築環境 と銘打った書籍であれば参考になる

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住居学概論 2017年度以降入学者

SLB1201N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

必修

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

・ 住まいのかたちと風土気候との関係を知り、環境共生について考える。

・ 個人や家族がライフスタイルを尊重した住生活について考える。

・ 健康的で安全、快適な住まいについて理解し、室内環境を維持・調整方法を考える。

・ 授業で得た知識を現実の課題への解決策へと内省できる力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・ 日本の住宅、および住生活の現状を理解する

・ 現代日本の住生活の課題と住宅政策や環境問題について理解する

・ 実生活の中で住居に関する身近な課題を発見する。

・ 暮らしの基盤としての住生活を理解し、知識を内省し課題に対して提案する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

住居学に対する理解	住居学が包含する諸単元についてほとんど認識していない	住居学を構成する諸単元については大体認識している	住居学を構成する諸単元の詳細について理解しているものもあればわからないものもある	住居学を構成する諸単元すべてについて理解している。
主体的に学ぶこと	事前に提供されたテキストや資料をみて予習しない	予習ノートを作成して授業を聴く。事前に不明点を明らかにしておく。	提供されたテキストや資料以外に、自ら他の文献やネットで関連情報を収集する	授業で不明点を明らかにする。ネットや身の回りの事項を学んだ知識と関連付けて復習する
思考・解決力	予習で自分の理解を把握していない。	授業中に実施する確認テストやブレイククイズに積極的に参加しない	授業中の事例に関して理解している。	授業を通して得た知識を、身近な課題の解決へと内省し提案できる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業の進行に関する説明

予習コンテンツに関する説明

ミニットペーパーの提出と相互評価

第 2 回 サステイナブル社会の住まい

確認テスト

コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える

ミニットペーパーの提出と相互評価

第 3 回 住まいを取り巻く環境

確認テスト

コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える

ミニットペーパーの提出と相互評価

第 4 回 住生活のあり方と変遷

確認テスト

コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える

ミニットペーパーの提出と相互評価

第 5 回 住生活のための人間工学

確認テスト

コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える

ミニットペーパーの提出と相互評価

第 6 回 住まいの環境調整

確認テスト

コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える

ミニットペーパーの提出と相互評価

- 第 7 回 住まいの空気
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 8 回 住まいの材料、構造、構法
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 9 回 住まいの安心、安全
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 10 回 ユニバーサルデザイン
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 11 回 インテリアデザインと心理効果
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 12 回 住まいの設備
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 13 回 住まいの法律
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 14 回 住まいの設計手法
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 15 回 エクステリア・ランドスケープ
確認テスト
コンテンツの補足、課題への現実的な対応策や提案を考える
ミニットペーパーの提出と相互評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

manabaにより授業前に配信するコンテンツとテキストを予習したうえで講義に臨むこと。授業ではresponを使い、授業冒頭に予習の確認テストを行い要点を確認することで学びを深める。授業は予習コンテンツの補足をしコンテンツを繰り返すことはしない。予習で得た知識をもとに、現実の

課題をどう解決するかを授業では考える。

授業の最後にミニットペーパーを実施し、知識を内省する。相互評価を行うことにより自分の理解の位置づけをし、他の意見を知る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時に次回のキーワードを伝える。事前にmanabaで配信するコンテンツでノートを作成し、また書籍、ネット情報など収集して予習する。不明点などを明らかにして授業に臨む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

予習に関する確認テスト (14回 40%) とミニットペーパー15回 (45~60%) により評価する。確認テストとミニットペーパーはresponで実施する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

私たちの住居学(第2版): サステナブル社会の住まいと暮らし/中根芳一/オーム社//2019/4274223485/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住居史

LDA2253N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

木谷 康子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

①先史から近代にいたる、日本の住居の空間構成や意匠の歴史的変容を、そこで展開される生活のあり様を含め、理解し、自己の見識とする。そのうえで②歴史的に醸成された日本の住まいの特徴と現在の住環境を歴史的視点から評価し、住宅建築の将来の発展について自分なりに考えることができるようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 各時代の様式を、そこで展開される生活も含めて理解する
2. 住宅平面や意匠における変容を理解する
3. 支配階級の住宅と庶民住宅それぞれの発展の過程を把握する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
日本の住まいの発展過	住まいの歴史のたまか	日本の住まいの変遷は	住まいの変遷と結果と	各時代の住まいの細部

程と特徴への理解	な流れもよくわからない。	大体わかる。	しての日本の住まいの特徴は理解できている。	まで理解したうえで、近代につながる日本の住まいの変遷や特徴を説明し、将来のあり方を考える。
主体的に学ぶこと	指示されたテキストや配付資料、スライドは見る。	授業中のアンケートには大体参加する。	アンケートには必ず参加するとともに、授業で推奨された建築の見学に行く。	複数建築の見学に行くと同時に、関連文献で自主的に調べたりする。

〔授業計画〕

第 1 回 住居史の視点

第 2 回 竪穴住居の復元

第 3 回 高床住居と平地住居 および原始集落

第 4 回 神社と住宅 古代初期の貴族の邸宅

第 5 回 古代の都市と宮殿

第 6 回 寝殿造 1 敷地と建物構成

第 7 回 寝殿造 2 空間構成としつらえ

第 8 回 平安末期の寝殿造

第 9 回 中世武士の住宅

第 10 回 書院造の成立

第 11 回 数奇屋風書院造

第 12 回 庶民住宅の流れ

第 13 回 明治の洋館 上流階級の住まいの近代化

第 14 回 中流層の住宅

第 15 回 和風住居の建築特性 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストとパワーポイントにより授業をすすめる。毎回授業冒頭で前回の振り返りをするので、配付資料やテキストによる復習を行うこと。授業中、受講者の意見を問うアンケートとそれをふまえたディスカッションを行う。なお、実際に授業で取り上げた建築の見学を強く奨励する。最終回のまとめのテストについてはその場で解説し授業全体の振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバス、およびオリエンテーション時に配付した授業スケジュールにそってテキストを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度として授業中のmanabaによるアンケートや毎時間の終わりのresponへの参加と毎時間提出する受講カードへ

の記述内容 (25%)、まとめのテスト (60%)、見学記録 (15%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『日本建築史図集 新訂第三版』/日本建築学会編/彰国社///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『図説日本住宅史』/太田博太郎/彰国社//

『日本建築史』/藤田勝也 古賀秀策/昭和堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住居製図 I

LDA2600N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 前期

火曜 3限

DP6 : 創造・発信力

15

定員16人

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

製図は単なる描画ではない。製図の線や記号は、文字や文章の代わりとして多くの建築関係者に伝達するものである。正確に伝達するためには、ルールに従った正しい製図法を習得することが重要である。授業は実習で住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識の理解と製図技法の習得を目指すものである。基本図法を学んだ上で、各種図面の作図、表現方法を演習する。同時に様々な住宅図面を読み取り空間感覚を養うこと、空間に配置される多様なもののスケールへの認識を深めることも合わせて行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・線だけで建築関係者に詳細な設計事項を正確に伝達する製図法を理解する

・製図技法の習得する

・平面だけでなく図面を俯瞰できる空間感覚を養う

・予習に相当するオンラインコンテンツを通して、製図の各段階の意味とテクニックを理解し、それを対面授業の実習で実践する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	製図記号や線種の理解ができていない	平面図において中心線から始まり、壁を描	開口部記号や設備記号などを理解し、正しく描くことができる	勾配定規を用いて屋根勾配を正しく描くことができる

		くことができ		
創造・発信力	直線になっていない線の強弱や濃淡が適切でない仕上がりで紙面が汚れている	平面図において製図記号や線種などをについて理解し表現できている	立面図、断面図を正しく美しく表現することができる	図面に基づいて正しく、美しく立体模型を作成できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (対面) ガイダンス
授業の進め方、評価の説明
オンライン授業に関する説明
建築における製図の意味について理解する
- 第 2 回 (on-line) 建築における製図の意味
建築における製図の意味、道具の使い方、線の引き方、ルーブリック
レポート提出
- 第 3 回 (対面) 道具の使い方、線を引く
建築における製図の意味、道具の使い方、ルーブリックの理解、作図実践
- 第 4 回 (on-line) 建築図面の種類、平面図について
建築図面の種類、木造住宅平面図の理解、中心線、グリッドの理解
レポート提出
- 第 5 回 (対面) 木造住宅平面図トレース課題演習 1 (下書き線)
木造住宅平面図の理解、中心線の作図実践
- 第 6 回 (on-line) 壁、柱の下書きについて
壁、柱の下書きの作図方法の理解
レポート提出
- 第 7 回 (対面) 木造住宅平面図トレース課題演習 2 (壁、柱の下書き)
壁、柱の下書きの作図実践
- 第 8 回 (on-line) 開口部 (建具) の作図法
建具の種類、作図ルール
レポート提出
- 第 9 回 (対面) 木造住宅平面図トレース課題演習 3 (建具)
建具の作図実践
- 第 10 回 (on-line) 階段の作図法
階段の作図方法 (分割) の理解、建築設備の意味と種類、作図法の理解
レポート提出
- 第 11 回 (対面) 木造住宅平面図トレース課題演習 4 (階段、建築設備)
階段の作図方法 (分割) の実践、建築設備の作図実践
- 第 12 回 (on-line) 造作家具、インテリアエレメントの作図法
造作家具の種類、作図法の理解
レポート提出

第 13 回 (対面) 木造住宅平面図トレース課題演習 5 (造作家具、インテリアエレメント)
造作家具の種類と作図実践

第 14 回 (on-line) 寸法線、文字、記号の作成
寸法線、文字の書き方、各種記号の意味の理解
レポート提出

第 15 回 (対面) 木造住宅平面図トレース課題演習 6 (仕上げ)
寸法線、文字、各種記号を正しく作図し仕上げる
ルーブリックによる図面の自己評価と講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業の方式は、オンライン授業と対面授業を隔週交互に実施する、ブレンド型とする。初回授業のガイダンスで授業方法について説明をする。基本的な授業の流れは、オンライン授業コンテンツで課題のポイントを理解し、対面授業では前週のコンテンツの理解を踏まえ、課題図面の作図演習を行う。オンライン授業に関しては毎回簡単なレポートの提出ををもって出席及び評価対象の一部とする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

オンライン授業コンテンツを通して、製図の基本や作図記号の意味をしっかりと理解しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

オンライン授業コンテンツでの学びに対するレポートの評価(20)、製図のルーブリックに照らし合わせた実技課題の評価(60)と、授業への参加度(15)などを加味して総合評価する。指定された期限内に課題を提出することが必須条件である。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講希望者の状況によっては実習室における過密を避けるため、グループに分けて実施をする場合がある。その場合の具体的なスケジュールは初回ガイダンスで連絡するので、初回ガイダンスは必ず出席すること。

科目の性格上、全出席が原則である。

初回から必ず指定のテキストを用意すること (テキストの図面をトレースするため)

尚、授業内容は進行状況によって変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『建築デザイン製図』/政木哲也/学芸出版社//2018//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新しい建築の製図』/編集委員会編/学芸出版社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住居製図Ⅱ

LDA2651N0J
 大学
 現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
 2年次
 1単位 後期
 火曜3限 火曜4限
 DP6：創造・発信力
 15
 定員16人 隔週
 竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

CADによる建築製図の技法を学ぶ。戸建住宅の製図課題を通し、住宅の計画、設計に欠かせない建築設計製図の基礎知識や、各種スペース・設備等のスケール感を養う。住計画演習Ⅰ、Ⅱの科目での自由設計課題において、自由に構想した建築物を表現することができるスキルを身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 建築の製図法の基礎知識の理解
2. 建築図面の理解と製図技法の習得
3. CAD基本操作の習得
4. 正確に図面をよみとり、作図法を構築する姿勢

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	CAD操作の理解が不十分でわからないコマンドがある	基本的なコマンドの操作を身につけ建築製図を作成できる	印刷や文字、寸法線などの設定についても理解し作成できる	教えられた方法だけではなく自分なりに効率のよい方法を構築する
建築製図の理解	平面図、立面図、断面図をよみとれない	平面図、立面図、断面図をよみとれる	図面をよみとり、おおむね正確な図面を作成できる	図面を正しくよみとり、正確な図面にしあげる

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
 授業のすすめ方、評価基準の説明、教材の紹介、課題とする戸建住宅の平面図の理解の確認
- 第2回 戸建住宅
 画層の作成と設定、基準線の作成
- 第3回 戸建住宅
 ブロックの作成、寸法の記入
- 第4回 戸建住宅
 躯体の作成
- 第5回 戸建住宅
 階段、収納の作図（階段矢印ブロックの作成）、開口部の作成
- 第6回 戸建住宅
 建具の作成、建具の配置

- 第7回 戸建住宅
 家具ブロックの配置、ハッチング、部屋名の記入
- 第8回 各種設定の仕方
 図面枠ブロックの作成、ページ設定の作成、印刷、テンプレートの作成
- 第9回 集合住宅（エクストラ課題 平面図）
 躯体の作成
- 第10回 集合住宅（エクストラ課題 平面図）
 階段、開口部の作成
- 第11回 集合住宅（エクストラ課題 平面図）
 建具、ハッチング、部屋名
- 第12回 集合住宅（エクストラ課題 立面図）
 基準線、屋根、壁、バルコニー、印刷
- 第13回 集合住宅（エクストラ課題 断面図）
 屋根、壁、リビング・ダイニングの天井、窓
- 第14回 集合住宅（エクストラ課題 断面図）
 洗面台、家具、印刷
- 第15回 総括（講評）
 成果物の建築図面に対する自己評価、講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 課題の演習を基本とする。
2. 個々の進捗状況によって、授業外時間を利用し課題の作成を各自すすめておく。
3. チュートリアル動画、教員や他の受講者とのコミュニケーションから、積極的にCAD技術を習得する
4. 自分の習得レベルに応じて各種検定試験に挑戦するなど、能動的に学修する。
5. 単なる技術の習得ではなく、建築図面を理解しながら作図を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業についていけるよう事前準備が必要である。事前準備とは、作図に遅れが生じている場合は授業外時間を利用し着実に進めておくことである。授業を欠席した場合も、次回授業までに各自、課題を進めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、戸建住宅と集合住宅の成果物により行う。戸建住宅の課題によるCAD操作の基本(64)と集合住宅のエクストラ課題(32)とする。

評価のチェック項目は①壁②包絡③建具④設備部品⑤雑線⑥寸法⑦文字⑧図面全体のイメージ⑨図面の理解である。チェックするポイントは作図の正しさと4段階で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業は2コマ連続で隔週とする。

初回授業時に授業日の確認をする。

CADの操作演習の授業であるので、毎回の出席が肝要となる。欠席した場合はその分を次回までに空き時間を利用して作業を進めておくこと。また授業時間内に目標まで到達しない場合も同様に次回までに作業を進めておく。

コンピュータの操作を指導する授業のため、遅刻、欠席に対する個別対応はできない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

紹介する動画コンテンツがテキストになる。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

基礎から学ぶ建CAD～基本操作から作図まで~/テラハウスCAD研究会/彰国社/2016

〔参考URL(URL for Reference)〕

AUTODESKサイト、初心者向けAUTOCADの使い方

<https://www.autodesk.co.jp/solutions/autocad-tutorials>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住生活学

LDA2404N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

木曜4限

DP4: 思考・解決力

60

木谷 康子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

居住面にあらわれる生活様式である「住様式」を主対象とし、その種々相について問題を論じる。近代以降の住宅平面の発展とそれに伴う住様式の変化を理解したうえで、家族の変化や地球環境問題、地域問題や集住などの視点から、今日的な住生活の問題を考察する。最終的に歴史的、社会的背景を認識したうえで住生活のあり方を深く掘り下げて考え、これからの発展すべき方向を主体的に探求していくことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 住生活、住様式の問題とその視点の重要性への理解
2. 住様式の問題に関する過去の研究成果の理解
3. 平面の発展と機能分化過程の把握
4. 以上の知識の上に身の回りの住生活の問題を見極め、より良い方向を考える力を身につける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

住生活への理解および思考	住生活を考える意義や日本の住様式、日本人の住居観という概念がわからない。	住様式や住居観という概念を理解して、日本の住宅や住生活の近代化の過程が大体理解できている。	住様式、住居観の変遷や日本の住宅や住生活の近代化の過程を把握したうえで、現代の住生活の問題について、ある程度は理解し、それについて自分でも考えられる。	日本の住生活、住宅の近代化への過程をふまえ、現代における住生活の諸課題を理解・思考したうえで、今後の動向についても考え、意見を持つ。
主体的に学ぶこと	指示されたテキストやスライドを見る。復習レポートは書かないこともある。	ノートをとったり配付資料に書き込みをしながら受講する。復習レポートも大体欠かさず書く。	復習レポートは必ず書き、友人のレポートや翌週の講評を参考に、よりよいものに修正する。	毎回の復習レポートの作成と適宜の修正はもとより、テレビや新聞、Webなどから住まいや住生活に関わる情報に関心を寄せる。

〔授業計画〕

- 第1回 住まいの意味と住居観 生活様式と住様式
- 第2回 住宅平面の分化と住様式の変化
- 第3回 公私分離とリビングルーム
- 第4回 起居様式の洋式化と和室の動向
- 第5回 入浴様式と浴室
- 第6回 食生活、衣生活と住まい
- 第7回 家族と住生活 家族関係と住生活の問題
- 第8回 家族と住生活 ライフサイクルと住まい
- 第9回 家族と住生活 世帯の変化と新しい居住のあり方
- 第10回 地球環境問題と住まい 自然との応答性ある住まいと住み方
- 第11回 地球環境問題と住まい 住まいの寿命と住宅管理
- 第12回 地球環境問題と住まい モノの保有と生活財管理
- 第13回 住環境と地域生活 地域生活とコミュニティ
- 第14回 住環境と地域生活 集合住宅と住生活
- 第15回 住環境と地域生活 住民参加とまちづくり まとめのテストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

今回の授業内容に関連するテキストページをアナウンスするので、必ず目を通し予習すること。復習として、毎回授業要点をまとめるレポートを作成し、自己のポートフォリオに積み重ねていく。本レポートについては、次週の授業冒頭で提出分を通覧すると同時に、前回授業の要点を振

り返る。さらに最終回のまとめのテストでは、直後に解説を行い、授業全体の振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスをみて次回授業のテーマを確認しておくこと。そのうえで上記の要領で予習すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

manabaによる前回授業の要点レポート (manabaのポートフォリオとして収録) の作成と毎時間の終わりに提出する受講カードの記述内容 (40%)、まとめのテスト (60%) により評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『住環境の計画1 住まいを考える』//彰国社///学内販売予定

あわせて適宜資料を配付する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『住まいを語る—体験記述による日本住居現代史』/鈴木成文/建築資料研究社/2002/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

女性起業論

LDR4202N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

2単位 後期集中

その他

DP2: 知識・理解力

90

濱口 桂

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代の女性を取り巻く社会的変化に伴い、団体・組織等に雇用されない働き方の一つとしての起業についての理解を深めるとともに、自ら情報収集、分析、考察をし、将来企業等に就職した場合であっても、正解のない社会的課題に取り組める実践的なスキルを身に付ける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ライフスタイルや雇用環境など女性を取り巻く社会的変化を知る
2. 女性による商品やサービス開発の事例を学び、自身でも開発案を創出する
3. 新聞や雑誌、文献等からの情報収集と情報分析手法を学ぶ
4. 社会的課題についてビジネス手法を活用して解決するビジネスモデルを考える

5. ビジネスゲームをやることでコミュニケーションを醸成する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

2021年10月30日 (土)

- 第1回 講義オリエンテーション—授業の目的と計画—
- 第2回 アフターコロナのビジネス環境の変化を知る
- 第3回 アフターコロナの女性を取り巻く働き方の変化を知る

2021年11月13日 (土)

- 第4回 女性起業家・経営者ゲストによるケーススタディ(1)
- 第5回 女性起業家・経営者ゲストによるケーススタディ(2)
- 第6回 女性起業家・経営者ゲストとの質問会・座談会

2021年11月20日 (土)

- 第7回 女性の視点を活かした商品開発 (事例研究)
- 第8回 女性の視点を活かした商品開発 (アイデア創出)
- 第9回 女性の視点を活かした商品開発 (プレゼン)

2021年11月27日 (土)

- 第10回 ビジネスの視点をもって社会的課題を見つける
- 第11回 ビジネスの視点をもって社会的課題の解決策を考える
- 第12回 解決策をビジネスモデルのワークシートに落とし込む

2021年12月18日 (土)

- 第13回 ビジネスゲーム体験によるコミュニケーション醸成 (1)
- 第14回 ビジネスゲーム体験によるコミュニケーション醸成 (2)
- 第15回 全体の振り返りと予備日

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義による解説のほか、小グループのディスカッション、グループワーク、起業家との座談会など、受講生の主体的な参加による学習を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

受講生は、日ごろから新聞や雑誌、文献、インターネット等を通じた社会的ニーズや起業に関する情報収集を行い、ビジネス社会における変化・変容に敏感になっておく

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発言・質問等の授業参加度 (50%)

授業中に指示する課題レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・本授業は土曜日集中講義となる
- ・全日程学内で実施する予定
- ・最新のビジネス情報を取り入れるため授業計画は随時変更する
- ・可能な限り女性起業家・女性経営者・女性専門家などをゲストとして招請する
- ・コロナ感染防止対策のため、グループワークや座談会などは一部制限をする場合がある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考となる文献や資料については、必要に応じて授業中に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

民間の企業調査機関で企業の調査研究及び経営コンサルティングの経験あり

ビジネスコンテストでの審査及び、複数の創業(企業)講座での講師経験あり

女性起業家対象のワークショップでのファシリテーター経験あり

消費者教育

LDA3400N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

水曜1限

DP4: 思考・解決力

60

鬼頭 弥生

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちの生活は商品やサービスを消費することで成り立っている。2004年の消費者基本法では、消費者の権利を尊重すると共に、消費者の自立を支援することが定められ

ている。しかしその後も、消費者被害は後を絶たない。消費者を取り巻く環境は大きく変化しており、消費者被害の対象は広範囲に及び、問題の内容も複雑化・多様化している。また、社会問題や環境問題の深化から、消費者の責任がますます求められるようになっていく。

本講義では、こうした社会背景をとらえ、情報の理解力や、適切な「選ぶ目、決める力」を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・消費者問題の歴史と消費者を取り巻く新たな環境
- ・製品や取引をめぐる様々な消費者被害の実態
- ・消費者行政の仕組み
- ・消費者の意思決定プロセス
- ・消費行動が社会にもたらす影響
- ・消費者に求められる行動

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

消費者問題とは何か、消費者教育がなぜ必要かについて解説する。

第 2 回 消費者を知る：消費者の認知プロセス

消費者がものごとを認知する際のバイアスや、情報処理の特徴を学ぶ。

第 3 回 消費者を知る：消費者の意思決定プロセス

商品・サービスを購入する際に、どのように情報を処理し、決定しているのかについて説明する。

第 4 回 消費者問題の歴史

戦後から現在に至るまで、日本ではどのような消費者被害が発生し、問題はどのように変わってきたのかについて説明する。

第 5 回 消費者被害の実際：悪質商法による被害

様々な悪質商法による被害の実際とその対策について概説する。

第 6 回 消費者被害の実際：生活用品に関する被害

生活用品に関する消費者被害の実際とその対策について概説する。

第 7 回 消費者被害の実際：インターネット普及に伴う問題

インターネットの普及に伴う消費者心理の変化と、インターネット普及を背景に生み出された新たな消費者問題の実際とその対策について概説する。

- 第 8 回 消費者被害の実際：個人情報をめぐる問題
情報化社会のなかで生み出された新たな消費者問題として、個人情報保護の問題とその対策について概説する。
- 第 9 回 消費者行政・制度
消費者行政の仕組みや法律、消費者被害の救済制度について概説する。
- 第 10 回 食品安全確保のための制度
消費者の健康保護のための制度として、食品の安全確保の国際レベル・国レベル・企業レベルの仕組みや考え方を説明する。
- 第 11 回 消費行動の影響：倫理的消費
私たちの消費行動が社会にどのような影響を与えているか、具体的な事例をもとに考える。人や社会、環境に配慮した「倫理的消費」や公正な貿易のしくみである「フェアトレード」についてとりあげる。
- 第 12 回 消費行動の影響：どのような働きかけが必要か
私たちの消費行動が社会にどのような影響を与えているか、具体的な事例を踏まえて考える。映像教材も交えながら、よりよい社会を生み出すためには私たちはどのように行動すべきか、消費者に対してどのような働きかけが必要かを考える。
- 第 13 回 企業と消費者の倫理と社会的責任
私たちの消費行動だけでなく、企業の経営行動が社会にもたらす影響を考慮し、その倫理と社会的責任について考える。
- 第 14 回 消費行動のあり方を考えるワークショップ
消費者個人の行動が社会にもたらす影響を考え、よりよい行動につなげるにあたっては、どのような方法をとることが有効なのか、「ゲームストーミング」という手法を用いたグループワークを通して考える。
- 第 15 回 消費者に必要とされること
これまでの内容を踏まえて、これから消費者に必要とされること、身につけておくべきことは何かを考える。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストは使用せず、毎回資料を配布する。スライドや映像教材を活用する。

授業時に提出してもらった感想や、授業時に提出してもらった課題 (小レポート) に対しては、授業内で適宜、口頭または配布資料でフィードバックを行う。

また、定期試験の内容の復習を促すため、定期試験終了後に、解答のポイントについてmanabaにおいて講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日常的に消費者問題に関心を持ち、新聞やニュース等で情報を収集しておくこと。授業後に課題を提示するので、次の授業時に提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度と授業態度、課題 (40%)、試験 (60%) で評価する。毎回、授業後に感想を提出してもらう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内で資料を配布する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新しい消費者教育』/神山久美・中村年春・細川幸一編著/慶應義塾大学出版会/2016/9784766423075

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

障害者福祉論

SWA2250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、国民の約7.6%は何らかの障害を有しているといわれている。障害のある人が日常生活や社会生活を送る上でどのような支援を必要としているのか学び、理解を深める。そして、生活のしづらさを解決する障害者福祉の法制度・サービス体系・支援方法を学び、どうすれば生活上の困難を解決することができるのか解決策を提示できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国際障害分類と国際生活機能分類の違いを学び、障害を構造的に理解する。2. 障害のある人の基本的人権、ノーマライゼーション、リハビリテーションと自立生活運動、エンパワーメント等の理念を学び、理念を学ぶ意義を説明することができる。3. 戦前から今日に至るまでの障害者福祉制度の発展過程を説明することができる。4. 障害のある人の生活ニーズについて理解を深め、生活困難を解決する支援方法を提示することができる。5. 障害者総合支援法における専門職の役割と多職種との連携について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
障害概念の理解力	国際生活機能分類のことを知らない。	国際生活機能分類が発表されたことは知っている。	国際生活機能分類の成立経緯を説明することができる。	国際生活機能分類の成立経緯と特徴を説明することができる。
理念の理解力	障害者福祉の理念があることを知らない。	障害者福祉の理念があることは知っているが、理念の内容を説明することはできない。	障害者福祉の理念の特徴について説明することができる。	障害者福祉の理念の特徴を説明することができる。理念の必要性を理解している。
制度の理解力	障害者福祉制度があることを知らない。	障害者福祉制度があることは知っているが、制度の内容を説明することはできない。	障害者福祉制度の経緯と制度の内容を説明することができる。	障害者福祉制度の経緯と制度の内容を説明することができる。制度の必要性を理解している。
支援方法の考察力	障害のある人のニーズを把握していない。	障害のある人のニーズを把握することができる。	障害のある人のニーズ充足に必要な社会資源を説明することができる。	障害のある人のニーズ充足に必要な社会資源と具体的な支援方法を提示することができる。
専門職の役割の理解力	どのような専門職が支援しているのか知らない。	専門職の法律の位置づけを説明することができる。	専門職の法律の位置づけと業務内容を説明することができる。	専門職それぞれの法律の位置づけや業務内容、役割について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害概念と特性 ―国際生活機能分類 (ICF) と障害の社会モデル―
- 第 2 回 障害者福祉の理念
- 第 3 回 障害者福祉の歴史① ―障害者処遇の変遷―
- 第 4 回 障害者福祉の歴史② ―障害者権利条約と障害者基本法―
- 第 5 回 障害者と家族の生活実態 ―ゲストスピーカーによる講義―
- 第 6 回 障害者と家族を取り巻く社会環境と課題
- 第 7 回 障害者に対する法制度① ―法制度の全体像―
- 第 8 回

障害者に対する法制度② ―障害者総合支援法―

- 第 9 回 障害者に対する法制度③ ―障害者虐待防止法と障害者差別解消法―
- 第 10 回 障害者に対する法制度④ ―バリアフリー法と障害者雇用促進法―
- 第 11 回 障害者と家族等の支援における関係機関の役割
- 第 12 回 関連する専門職等の役割
- 第 13 回 障害領域におけるソーシャルワーカーの役割
- 第 14 回 障害者と家族等に対する支援の実態
- 第 15 回 今後の障害者福祉の展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パワーポイントと配布資料に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。ワークシートとレポートの課題は個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各回ワークシートを配付する。
- ・次回の授業までにワークシート (復習と予習の課題) に取り組み、提出する。
- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (50%)、レポート (20%)、授業参加度 (15%)、ワークシート (15%) によって総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『障害者福祉』/一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編/中央法規/2021/9784805882382/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる障害者福祉』/小澤温/ミネルヴァ書房/2016/9784623076444

『共生社会を切り開く―障害者福祉改革の羅針盤―』/佐藤久夫/有斐閣/2015/9784641174092

『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉』/竹端寛・山下幸子・尾崎剛志他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623069675

授業内で参考文献一覧を配付する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食生活概論

SLB1250NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

金曜 2限

DP2：知識・理解力

60

必修

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「食べる」ということは、人が生きるために欠かすことのできない行為である。そこで、本授業では、「人はどのように考えて食物を選択するか」について知識や理解力を高める。特に、超高齢社会でより良く生きるために、食生活にかかわる諸問題や各発達段階で選択すべき食物や食生活のあり方について、講義や視聴覚教材を用いながら概観する。また、グループワークやプレゼンテーションによって他者と意見交換しながら、「食生活とはどうあるべきか、食物の選択をどのように考え、実行していくべきか」について自身の考えを明確にし、未来の食生活をより良くする方策を考えていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・超高齢社会と食生活の諸問題、各発達段階における健康と食との関連を理解し、望ましい食物選択について考えることができる

・現状の食生活の問題・課題を発見し、解決策を考え、未来の生活に生かすことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	食生活の大切さを理解できない。	わが国の食生活の変化や、食事の大切さがわかる。	自身の食生活を講義で得た知識をもとに評価できる。	食生活改善に必要な内容がわかり、さらに専門書を用いて知識の習得を継続している。
言語力	発言を求められても黙っている。発表をしない。	質問や課題についての発言ができる。	取得した知識を他者に伝えたり、プレゼンテーションすることができる。	自ら説得できる資料を記述し、専門用語を駆使して自分の意見を発信できる。

思考・解決力	与えられた課題に向き合わない。	現代の食生活について考え、評価できる。また、解決策を考えることができる。	様々な発達段階の人々の健康維持や食事改善について、専門書をもとに思考し、課題を解決する力を身につけている。	実際に生活や将来の生活に目を向け、人々の健康維持や食生活課題を考え、解決できる能力がある
--------	-----------------	--------------------------------------	---	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・第1章 食生活とは①
：対面授業形式
本講義の進め方、評価の説明、授業の進め方の説明、食生活の概念、食生活と社会の変化
- 第 2 回 第1章 食生活とは②
：対面授業形式
食生活と社会の変化、食生活にかかわる諸問題
- 第 3 回 第2章 日本の食文化とのもその変遷①
：オンデマンド形式
(食文化・食習慣の概念、食文化と自然環境・異文化の融合、行事・儀礼食と食事形式行事・儀礼食と食事形式、日常食とその変遷、食の地域差と郷土食)
- 第 4 回 第2章 日本の食文化とのもその変遷②
：対面授業形式
フィードバックとディスカッション
- 第 5 回 第3章 食環境と食生活①
：オンデマンド形式
(食料自給率の変遷と食生活の変化、社会・家庭環境の変化と国際化、食品産業の発展と食生活)
- 第 6 回 第3章 食環境と食生活②
：対面授業形式
(フィードバックとディスカッション)
- 第 7 回 第6章 ライフステージの健康と食生活①
：オンデマンド形式
(乳児期、幼児期、児童期、思春期、壮年期、老年期)
- 第 8 回 第6章 ライフステージの健康と食生活②
：対面授業形式
(フィードバックとディスカッション、妊娠期、授乳期)
- 第 9 回 個人発表とディスカッション①
：対面授業形式
一週間の食事と自己評価の発表①
- 第 10 回 個人発表とディスカッション②
：対面授業形式
一週間の食事と自己評価の発表②
- 第 11 回 個人発表とディスカッション③
：対面授業形式
一週間の食事と自己評価の発表③
- 第 12 回 第4章 ライフスタイルと食生活①

：オンデマンド形式
日本人の生活時間と食生活、生活に伴う情報機器の変化、価値観と食生活

第13回 第4章 ライフスタイルと食生活②
：対面授業形式
フィードバックとディスカッション

第14回 第5章 日本型食生活①
：オンデマンド形式
日本型食生活の特徴、食習慣と健康のかかわり、食事作法

第15回 第5章 日本型食生活②・形成テスト
：対面授業形式
フィードバックと本講義の総括及び形成テスト
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
＜教育方法＞
講義形式、オンデマンド形式、個人の発表、グループディスカッション、グループワーク、グループ発表などを取り入れながら授業を進める。
提出レポートは教員がチェックして個々に返却する。発表は他の受講者からコメントをもらい学習成果を振り返る。
＜事前の学習方法＞
・manabaのコンテンツに各種資料をアップする。
・個人発表は、PowerPointを用いたプレゼンテーションを行う。他の受講者に適切に伝わるよう準備する。
・家庭での調べ学習や資料収集など、主体的学習を行うこと。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
・対面授業の際に、全体に向けてコメントする。それをもとに振り返りをするとよい。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
・テキストを事前によく読み、疑問点を明確にしておくこと
・ディスカッションやプレゼンテーションでは自発的な学習や情報収集が必要のため、日頃から新聞やニュース、関連のホームページから食生活に関連する情報を得ておくこと
・自分や家族の食事を記録して問題点を見出すこと
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
＜評価基準＞
・食生活の現状や諸問題、各発達段階における健康と食との関係を理解できたか (形成テスト)
・望ましい食物選択について考えることができたか (提出物)
・ディスカッションやプレゼンテーションに積極的に取り組めたか (発表・態度)
＜評価方法＞
・形成テスト (35%)、提出物 (35%)、発表 (20%)、態度 (10%)
〔留意事項 (Other Information)〕
・この授業はブレンド型授業である。オンデマンド授業のコンテンツは授業日から6日間公開する。それ以降は閲覧す

ることができない。
・この科目は、中高の教員免許「家庭」の「教科に関する科目」である。
・対面授業中の私語、居眠り、飲食など著しく態度が悪い場合、他の受講者の迷惑となる場合は、退出してもらうこともある。
・課題の提出および個人発表を必ず行うこと。
・対面授業日の遅刻は授業開始15分までを認める。(交通機関の遅延についてはその限りではない)
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『食生活論』/岡崎光子/光生館/2015/978-4-332-04058/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『応用栄養学ライフステージからみた人間栄養学第9版』/森基子ら/医歯薬出版//
『小学校家庭科概論－生活の学びを深めるために』/加地芳子・大塚眞理子/ミネルヴァ書房/2011/978-4-623-05994-2
『初めて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ6 応用栄養学 第2版 適切な食生活を実践するための基礎』/奥田あかり・他/化学同人/2015/978-4-7598-1451-4
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品安全性学

LDR2250N1J
大学
現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
2年次
2単位 後期
木曜2限
DP2：知識・理解力
60
市川 雅美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

食品の流通や加工技術がめざましい発展を遂げ、世界中の食品が輸入・消費される今日において、食品の安全性を関ること、つまり食品による健康障害を起ささないよう、予防対策を講じることは必要不可欠である。食生活の安全を確保するためには、生産者や製造・加工・流通・販売に関わる者、行政だけでなく、消費者も正しい知識を持ち、的確に選択、保存、調理、消費することが必要である。これらの観点から、食品の安全性を高めるための基本的知識を身につけることを本講義の目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 食品の安全を脅かす因子と発生原因を知る。
2. 食品の安全性を高めるための方策を学び、それを食生活に生かす方法を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	食品の安全性について知ろうとする	食品の安全性を、理論的に理解しようとする	食品の安全性について、理論的に考えを深めようとする	食品の安全性の仕組みを理解する
知識・理解力	食品の安全性の知識を得ようとする	レベル1の知識の曖昧さや欠落に気づく	食品の安全性について正しく知り、理解する	知識を関連づけて統合する
言語力	読む、書く、聞く、話す	事実を書く、話す等の言語表現法を身につける	個別的、具体的な事象から一般的、抽象的な概念に基づいて説明する	根拠や論理に基づき、筋道を立てて考えを説明する
思考・解決力	形成テストに解答する	形成テストを積極的に受け、できなかった問題を再度やってみる	自ら課題を考え、自ら解決していく	文献などを精査しながら、自分の考えを思考する
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする	友人たちとも一緒に学ぼうとする	課題と一緒に解決しようとする	友人たちと勉強会をする
創造・発信力	形成テストをうける	疑問に思ったこと、興味をもったことを明らかにする	レベル2を課題として、情報の収集・分析を行い、まとめる	レベル3に加えて、思考を整理しながら、論理的に説明する

〔授業計画〕

- 第 1 回 食品の安全性
- 第 2 回 食品の腐敗・変敗とその防止
- 第 3 回 食中毒（食中毒の分類と発生状況、微生物性食中毒）
- 第 4 回 食中毒（微生物性食中毒）
- 第 5 回 食中毒（自然毒食中毒、化学性食中毒、経口的寄生虫疾患）
形成テスト（食中毒まとめ）
- 第 6 回 食品の安全性の確保（食肉・食肉加工品、生鮮魚介類、水産加工品、野菜・果実類、牛乳・乳製品）
- 第 7 回 食品の安全性の確保（鶏卵、惣菜類、弁当・にぎり飯・米飯・調理パン、食用油脂および油脂を多く含む食品、冷凍食品）
- 第 8 回 家庭における食品の安全保持
- 第 9 回 環境汚染と食品
- 第 10 回 器具および容器包装
- 第 11 回 水の衛生
- 第 12 回 食品の安全流通と表示（食品の表示、食品添加物）
- 第 13 回

食品の安全流通と表示（輸入食品、遺伝子組換え食品、食品とアレルギー、発がん物質）

第 14 回 食品の安全管理
形成テスト

第 15 回 形成テスト結果による理解度の確認、まとめ
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業方法は講義形式で、スライド、テキストを使用して行い、配布資料で補足する。また、授業中の発問や2度の形成テストの解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 予習

・事前に授業予定部分のテキストを読む。また日頃から食の安全性に関する話題に留意し、食の安全性の現状と問題点を把握しておく。

2. 復習

・受講した内容を復習して知識を定着させるとともに、不明な点を明らかにして質問できるようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、授業態度（20%）、形成テスト（50%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

授業予定回を変更して行う場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『三訂食品の安全性』/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社/2016/9784767905747/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『食品安全学』/中村好志・西島基弘 編著/同文書院/2005/4810313143077

〔参考URL(URL for Reference)〕

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/attach/1399643.htm

<https://globe.asahi.com/article/12238585>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

0

食品加工学（実験を含む）

LDA2550N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

3単位 後期

火曜3限 火曜4限

DP5：共生・協働する力

75

定員24人 週2コマ連続

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、食品加工の目的、食品成分の化学的変化、食品の物理的性質、製造工程や加工の原理を演習や実験・実習を通して学ぶことを目的とする。さらに、食品の加工方法、包装方法、保存方法についての学びを生かして、日常生活の中で、加工食品を適切に利用できる態度を養い、食品加工に関する基礎知識と技術を身につけることを目指す。実習レポートの作成を通して加工食品についての情報収集力や記述力を磨き、グループ活動を通して協働力を身につけ、相手の立場に立って行動できる態度を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 化学実験の基礎技術（器具装置の扱い方、試料の調整法、試薬の扱い方、データの処理の仕方）を身につける。
2. 定性実験の手法・原理を理解する。
3. 食品成分の化学変化、物理的性質を理解する。
4. 食品加工の製造過程、原理を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	食品加工に興味を持っていない	食品加工のプロセス・原理を理解している	食品加工の科学的、物理的原理を理解し、専門書によって深い知識を身につけている	将来に生かせるように、知識の習得や、食品加工の理解を深める努力継続している
言語力	食品加工について言語で表現しようとしらない	専門用語を使用して話せる	専門用語を使用して、加工の原理について記述したり、他者に説明できる	加工の理論や原理を一般の人にも説明ができ、自ら記述した資料で発信できる

思考・解決力	食品加工について、考えないし、課題を解決しようとしていない	加工のメカニズムについて考え、課題解決に向き合っている	食品加工や実験を振り返り、原理や失敗の原因について考え、専門書を用いて解決を試みている	学びをもとに市販食品の加工の原理を考えることができる。また、自ら食品の加工に取り組み、失敗のない方策を考えられる
共生・協働する力	グループで作業ができない	グループでの協働ができる	他者と協力して、加工食品の製造ができる	リーダーとしてグループをまとめ、活動の困難な他者に働きかけて支援できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、器具・簡単な装置の扱い方
A・Bグループ：対面授業 オリエンテーション 器具の取り扱い方
- 第 2 回 食品のpH、塩分、糖分の測定A／穀類の加工B
Aグループ：対面授業 食品、飲料のpHの測定、食品の塩分と糖度の測定
Bグループ：オンデマンド 穀類の加工
- 第 3 回 食品のpH、塩分、糖分の測定B／穀類の加工A
Aグループ：オンデマンド 穀類の加工
Bグループ：対面授業 食品、飲料のpHの測定、食品の塩分と糖度の測加
- 第 4 回 滴定A／野菜の加工B
Aグループ：対面授業 有機酸の定量・ヨーグルトの酸度の定量
Bグループ：オンデマンド 野菜の加工
- 第 5 回 滴定B／野菜の加工A
Aグループ：オンデマンド 野菜の加工
Bグループ：対面授業 有機酸の定量・ヨーグルトの酸度の定量
- 第 6 回 豆の加工（味噌）A／豆の加工（餡）B
Aグループ：対面授業 豆の加工（味噌の製造）
Bグループ：オンデマンド 豆の加工（餡の製造）
- 第 7 回 豆の加工（味噌）B／卵の加工（餡）A
Aグループ：オンデマンド 豆の加工（餡の製造）
Bグループ：対面授業 豆の加工（味噌の製造）
- 第 8 回 豆の加工（豆腐、湯葉）A／卵の加工B
Aグループ：対面授業 豆の加工（豆腐、湯葉の製造）
Bグループ：オンデマンド 卵の加工（マヨネーズの製造）
- 第 9 回 卵の加工A／豆の加工（豆腐、湯葉）B

- Aグループ：オンデマンド 卵の加工（マヨネーズの製造）
 Bグループ：対面授業 豆の加工（豆腐、湯葉の製造）
- 第 10 回 芋の加工A／海藻の加工B
 Aグループ：対面授業 いもの加工（こんにゃくの製造）
 Bグループ：オンデマンド 海藻の加工（昆布の佃煮）
- 第 11 回 芋の加工B／海藻の加工A
 Aグループ：オンデマンド 海藻の加工（昆布の佃煮）
 Bグループ：対面授業 いもの加工（こんにゃくの製造）
- 第 12 回 果物の加工A／乳の加工（バター） B
 Aグループ：対面授業 果物の加工（マーマレード、林檎ジャムの製造、糖度の測定、瓶詰め）
 Bグループ：オンデマンド 乳の加工（カッテージチーズの製造）
- 第 13 回 果物の加工B／乳の加工（バター） A
 Aグループ：オンデマンド 乳の加工（カッテージチーズの製造）
 Bグループ：対面授業 果物の加工（マーマレード、林檎ジャムの製造、糖度の測定、瓶詰め）
- 第 14 回 乳の加工AB
 A・Bグループ：対面授業
 乳の加工（ヨーグルト、バターの製造）
- 第 15 回 形成テスト・総括
 A・Bグループ：対面授業 形成テスト 授業のまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 2～4人のグループで実習する。
2. 実験法・操作法の講義と実験または実習で授業を構成する。
3. 原則として、所定の授業時間内に完了する内容とするが、必要に応じて時間割上の時間以外にも出席して実験する必要もある。
4. 事前に予習をし、実習前のレポートにする。
5. 実習後のレポートは結果と考察を記載して提出を行う。
6. 積極的に参加し、必ず自分の手で操作する。
7. 提出レポートは、コメントをつけて返却するので、それをもとに復習するとよい。
8. コロナウイルス感染を避けるために、受講生を半分に分けて対面授業とオンデマンド授業をミックスしたブレンド型授業とする。
9. COVID-19の感染収束状況によってはすべて対面授業に変更する可能性がある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 教科書、配布冊子を熟読する（授業の内容と関連する教科書のページは以下の通り）。
2. レポート作成では、教科書や配布冊子以外に専門書や

文献を用いて理解を深めて記述するとよい。

3. 食品成分表や食事摂取基準のデータを元に、実験で用いた食品や加工実験で製造した食品について調べて記述するとよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価基準・・・レポートの提出ができたか。各実験の原理や食品加工の基礎を理解できたか。意欲的に取り組んでいたか。

評価方法・・・レポート提出52（4点×13）%、レポート内容18%、形成テスト10%、平常点（実験への参加態度・協働）20%。

〔留意事項（Other Information）〕

・今年度はCOVID-19感染防止のため、少人数での授業を実施するためにブレンド型授業とする。対面授業とオンデマンド授業の日程が学生によって異なるので、間違えないようにすること。

・実験中は、種々の危険が伴うので、安全に気をつけるとともに、私語は慎むこと。

・実験試料・試薬費用、食品加工材料・道具費などの費用を徴収する（実費5000円位）。

・受講生が極端に少ない場合は、実費費用を追加徴収することがある。

・白衣を着用すること。

・対面授業のレポート提出の期限は、翌週の授業開始前とする。

・材料入手の都合により、予定日を変更する場合がある。

・レポート作成上のルールを守る。剽窃が認められた場合、当該レポートは不可となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『食品加工学実験書』/森 孝夫/化学同人/2008/9.784759809299E12/学内販売予定

必要に応じて資料を配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『基礎からの食品・栄養学実験』/村上俊男/建帛社/1998/4.767902177E9

『食品加工実習・実験書』/吉田企世子/医歯薬出版/2003/4.263703073E9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品学

LDA2401N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 前期

月曜2限

DP4：思考・解決力

60

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

食品中に含有される主要な成分の化学的性質と特徴について学び、多種多様な食品の特性を科学的に説明することができる。また食品の貯蔵・加工・調理の過程で起こる食品成分の変化、さらに成分間での相互作用について理解し、日常生活のなかで食品を適切に選択することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 食品学を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につける。
2. 食品をみた時に、その中に含まれる主要成分や特徴的な成分を挙げることができる。
3. 食品中の主要成分や特徴的な成分の働きを説明できる。
4. 貯蔵・調理・加工中に、食品に含まれる成分間で起こる化学反応を説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
食品に対する化学的理解	食品中の物質の特性を示す化学式(分子式)が理解できない	食品中の物質の特性を示す化学式(分子式)が理解できる	化学式(分子式・構造式)から食品中の物質の特性を理解できる	化学式(分子式・構造式)から食品中の物質の反応性について理解できる
科学的思考	それぞれの食品成分への理解が不十分で、その特徴が正確に説明できない	それぞれの食品成分の特徴が的確に説明できる	食品成分間の相互作用について理論的に説明できる	食品成分間の反応機序について科学的根拠を示して説明できる

〔授業計画〕

第 1 回 食品成分としての水

第 2 回 炭水化物(単糖類・少糖類・消化性多糖類)

第 3 回 炭水化物(難消化性多糖類)

第 4 回 脂質(脂肪酸)

第 5 回 脂質(酸化)

第 6 回 タンパク質(アミノ酸)

第 7 回 タンパク質(変性)

第 8 回 ビタミンの構造

第 9 回 ミネラルの種類

第 10 回 嗜好成分(色)

第 11 回 嗜好成分(褐変)

第 12 回 嗜好成分(香り)

第 13 回 嗜好成分(味)

第 14 回 食品のコロイド特性

第 15 回 食品成分の相互作用

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

・講義形式で授業を行うが、意見や質問など積極的な発言を求めている。

・授業中に実施する小テストについては採点后に解説を行い、定期試験において再度理解度を確認する。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

30

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

授業参加度(20%)、小テスト(30%)、定期試験(50%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項(Other Information)〕

対面で実施する。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

イラスト食品学総論/種村安子他/東京教学社/2020/9784808260743/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録/数研出版編集部/数研出版/2017/

9784410273865

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品官能評価演習（実験を含む）

LDA2500N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 前期

火曜4限

DP5：共生・協働する力

15

「食品官能評価論」を同年度に履修すること

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

望ましい生活を支えるために、市場に出回る多くの個別食品を適切に鑑別できる知識と能力を身につけることを目的とする。加工食品の品種、銘柄、特徴、分類方法、製造方法、保存方法などについての理解を深める。また、個別食品の種類と特徴、品質と取り扱い方法については、事前学習と学習者主導の発表や意見交換を通して知識の定着を図る。学習者の主体的な市場調査を通して、より身近な食品の鑑別について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ①食品の科学的評価法、物理的評価法を理解する。
- ②食品の官能評価の方法を実際に体験して理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	食品の官能評価や鑑別に取り組む意欲がみられず、学習によって自身を高めようという意欲がない	食品の官能評価や鑑別に取り組む意欲があり、興味をもって学ぼうとしている	食品の官能評価や鑑別に意欲を持って取り組み、さらに自身を高めようと努力している	将来の職業に学びを生かせるよう、発展的な学習に積極的に取り組み自身の能力を高めようとしている
知識・理解力	食品の官能評価や鑑別について興味がない	官能評価の基本、食品の鑑別について理解しようとして努力している	官能評価や食品の鑑別について深く理解し、発展的な知識を自らつける努力をしている	官能評価や食品の鑑別の知識を自身の生活や卒論に生かすよう、知識の習得を継続している
言語力	食品の官能評価や鑑別の内容を記述したり、他者に言葉で伝えたりしていない	食品の官能評価や鑑別の内容や演習の結果を専門用語を使用して記述でき、発言できる	食品の官能評価や鑑別の内容や演習の結果を専門用語を用いて他者にわかりやすく説明ができる	適切な表現を用いて学びを卒業研究や将来の職業に生かせるように努力を続けている

思考・解決力	食品の官能評価や鑑別の内容・方法・結果に興味がなく、思考しようとしていない	食品の官能評価や鑑別の内容・方法・結果に興味を持ち、思考している	食品の官能評価や鑑別の内容・方法・結果について、専門書を用いて原因や理由を考え、解決しようとしている	専門書を用いて、実験結果の理由や根拠を追求し、発展的な内容に踏み込んで考え、考察をしている
共生・協働する力	グループでの活動ができない。一部のものを排除しようとする態度がみられる。	他者と協力して演習や実験に臨んでいる	他者と協力して活動し、他者を援助できる	リーダーとなって、グループ活動を円滑し、理解困難な隣人に働きかけて援助できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義の進め方・評価の方法、実験室・器具の使い方の説明
食品の品質、食品の官能評価の概要
- 第 2 回 食品官能評価演習 1（5味の識別）
- 第 3 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 2（2点識別試験法を用いた分析。閾値の測定1）
- 第 4 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 3（2点嗜好試験法を用いた分析、閾値の測定2）
- 第 5 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 4（3点識別試験法、閾値の測定3・4）
- 第 6 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 5（順位法1；スピアマンの順位相関係数）
- 第 7 回 分析方法の解説
食品官能評価演習 6（順位法2；Newwell & MacFarlane）、（順位法3；ケンドールの一致性の係数）
- 第 8 回 食品の鑑別演習と実験 1 卵の鮮度・調理性の実験（ハウユニット測定法）
- 第 9 回 物理的評価法の解説と実験 2（色・粘度の測定）
測色色差計、音叉式粘度計による食品の色、粘度の測定
- 第 10 回 物理的評価法の解説と実験 3（レオロジー・テクスチャー測定）
カードメーターを用いた硬さの測定
- 第 11 回 科学的評価法の解説と実験 4（酵素的褐変：リンゴ、じゃがいも）
- 第 12 回 科学的評価法の解説と実験 5（非酵素的褐変）
アミノ酸と糖類を用いた褐変実験
- 第 13 回 科学的評価法の解説と実験 6（糖度・酸度）
滴定による酸度の測定と糖度計による糖度の測定、糖酸度の比較

第 14 回 分析方法の解説
官能評価法演習 7 (評点法・SD法) マドレーヌグループによる食品官能評価の計画

第 15 回 官能評価法演習 8 (各グループが立案した食品官能評価の実践)

まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

＜教育の方法＞

- ・ 3～4 人のグループで実験・演習を行う
- ・ 主に実験、演習を組み合わせた授業を構成する。
- ・ 事前に予習をするとよい。
- ・ 食品官能評価論 (3講時) において理論を理解したうえで、実際に実験や体験による授業を展開する。

＜学習の方法＞

- ・ 事前に教科書や専門書で理論を理解しておく。
- ・ 実験・演習後にレポートを提出する。
- ・ 実験・演習に積極的に参加し、必ず自分で評価してみる。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

- ・ 提出されたレポートはコメントを入れて返却する。また、授業内で取り上げて、解説する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 教科書をよく読むこと。
- ・ 専門書を利用して、さらに深く学習して、授業に臨むこと。
- ・ レポートは、理論、統計手法、結果の考察を記載するとよい。
- ・ 「食品官能評価論」(火曜日3講時)で行った解説をもとに実験を行うので、3講時の授業をよく聞いておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価基準・・・レポートの提出ができたか

各評価の方法を理解できたか

統計分析の方法を理解できたか

評価方法・・・レポート提出52%・・・目標①②に対応

レポート内容33%・・・目標①②に対応

授業への参加度15%目標②に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ 実験・演習中は、種々の危険が伴うので、安全に気をつけること。
- ・ 実験・演習中は、白衣を着用すること。
- ・ 実験・演習中・官能評価中は私語を慎むこと。
- ・ 1クラス定員24人とする。
- ・ レポート提出は、翌週の授業開始前とする。
- ・ 授業で使用する試料・試薬代等(実費1000円位)を徴収する。
- ・ 受講生が定員に満たない場合は、実費の追加請求を行うことがある。
- ・ 食品官能評価の試料の調達の都合で授業内容を変更することがある。
- ・ 同じ年度に開講する「食品官能評価論」(3講時)を同時に登録しなければ履修できない。
- ・ レポート作成上のルールを守ること。剽窃が認められた

場合、当該レポートは不可となるので注意されたい。

・ COVID-19の感染状況により、ブレンド型あるいはオンデマンド型の授業に変更する場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新版 食品官能評価・鑑別演習第3版』/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『おいしさを測る食品官能評価の実際』/古川秀子/幸書房//

『調理科学実験』/大羽和子, 川端明子/学研書院//

『官能評価士テキスト』/日本官能評価学会/建帛社//

『調理と食品の官能評価』/松元仲子/建帛社/2012/9.784767904504E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品官能評価論

LDA2402N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4: 思考・解決力

30

定員24人 「食品官能評価演習 (実験を含む)」を同年度に履修すること

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

望ましい生活を支えるために、市場に出回る多くの個別食品を適切に鑑別できる知識と能力を身につけることを目的とする。加工食品の品種、銘柄、特徴、分類方法、製造方法、保存方法などについての理解を深める。また、個別食品の種類と特徴、品質と取り扱い方法については、事前学習と学習者主導の発表や意見交換を通して知識の定着を図る。学習者の主体的な市場調査を通して、より身近な食品の鑑別について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①食品の科学的評価法、物理的評価法を理解する。

②食品の官能評価の方法を理解する。

③個々の食品に関する知識を身につけ、食品の鑑別に役立てることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	食品の鑑別や自分の生活改善に興味がない。個別課題に取り組まない。	課題に一生身の能力を高めようとしている。	課題をやり遂げ、成長したことを実感し、さらに次の段階を目指そ	学びを将来の職業に生かせるよう発展的な内容にも取り組み、自身の能力を高

			うとしている。	めようとしている。
知識・理解力	官能評価や食品鑑別の理論について興味がなく、理解しようとしな	官能評価や食品の鑑別について基礎理解ができている。	割当られた食品鑑別の知識に加えて、他者の発表内容も十分に理解している。	食品の鑑別や官能評価の知識を日常生活や卒業研究などに生かすことができる。
言語力	課題をレポートやワークシート等に言語化することができないし、口頭での表現もできない。	官能評価や食品の鑑別に関する専門用語を使用して、記載したり発表したりできる。	官能評価や食品の鑑別について、専門用語を用いて他者に説明ができる。	学びを受講生以外の人たちにわかりやすく解説することができる。
思考・解決力	食品の鑑別や官能評価の方法の理論に興味がない。	食品の鑑別や官能評価について出された課題を解決する方策を考えようとしている。	食品の鑑別や官能評価の課題を自分で思考し、解決できる力がある。	専門書を用いて、さらに発展的な内容にまで踏み込んで思考し、解決することができる。
共生・協働する力	グループでの活動ができない。	他者と協力して課題解決に向けた話し合いに臨める。	他者を助け、活動を円滑に進めることができる。	リーダーとしてグループをまとめたり、理解困難な隣人に働きかけて援助できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 本講義の進め方・評価の方法の説明
- 食品の品質、食品の官能評価の概要
- 第 2 回 食品官能評価の基本・実施法の講義とDVD視聴
- 5味の識別の解説と演習
- 第 3 回 分析方法の解説
- 閾値についての解説
- 第 4 回 分析方法の解説
- 2点嗜好試験法と閾値の測定2の解説と演習法の説明
- 食品の鑑別理論 1 (米・小麦粉製品)
- 第 5 回 分析方法の解説
- 3点識別試験法と閾値の測定3・4の解説と演習法の説明
- 食品の鑑別理論 2 (そば・イモ類)
- 第 6 回 分析方法の解説
- 順位法1 (スピアマンの順位相関係数) の解説と演習法の説明
- 食品の鑑別理論 3 (豆類・種実類、海藻類)
- 第 7 回

- 分析方法の解説
- 順位法2 (Newwell & MacFarlane、ケンドールの一貫性の係数) の説明と演習方法の解説
- 食品の鑑別理論 4 (肉類)
- 第 8 回 食品の鑑別演習について 卵の鮮度・調理性の実験(ハウユニット測定法)の解説
- 食品の鑑別理論 5 (卵とその加工品)
- 第 9 回 物理的評価法の解説(色・粘度の測定)
- 食品の鑑別理論6 (野菜類・キノコ類・果実)
- 第 10 回 物理的評価法の解説 (レオロジー・テクスチャー測定)
- 食品の鑑別理論 7 (乳と乳製品)
- 第 11 回 科学的評価法の解説(酵素的褐変)
- 食品の鑑別理論8 (魚介類とその加工品・油脂)
- 第 12 回 科学的評価法の解説(非酵素的褐変)
- 食品の鑑別理論 9 (果実類・醸造食品・調味料)
- 第 13 回 科学的評価法の解説(糖度・酸度)
- 食品の鑑別理論10 (コーヒー・ココア、茶類、清涼飲料)
- 第 14 回 分析方法の解説
- 官能評価法演習 (評点法・SD法)
- グループによる食品官能評価の計画
- 食品の鑑別理論11 (菓子類インスタント食品・弁当・惣菜)
- 第 15 回 食品の鑑別理論の形成テストと解説
- 全体のまとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
- ＜教育の方法＞
- ・講義と演習を組み合わせた授業を構成する。
- ・学習者の自立学習を主とする。学習者が主体となった授業を展開する。
- ＜学習の方法＞
- ・事前に予習をする。
- ・ワークシートを作成しその問題を解くとともに解説できるよう準備する。
- ・積極的に参加する。
- ＜課題に対するフィードバックの方法＞
- ・形成テストは、テスト終了後、正解を配布し、適宜解説する。
- ・ワークシートへの記入は、教科書を熟読することで達成できる。未回答の箇所があった場合には、個別にコメントをしたり、解説を行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
- ・教科書を事前によく読むこと
- ・個別食品鑑別についてのワークシートを分担して作成し、それを用いて予習・復習をすること。
- ・専門書を利用して、さらに深く学習するとよい。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価基準・・・ワークシートの作成及びその提出ができたか
個別食品の鑑別に関する知識が身についたか

評価方法・・・問題ワークシートの提出40%・・・目標の①②に対応

解答したワークシート(回答付き)の提出30%・・・目標①③に対応

形成テスト30%・・・目標①②③に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

・本科目(火曜日3講時前期)は、「食品官能評価演習(実験を含む)」(火曜日4講時前期)と同じ年度に履修しなければならない(2つの科目をそれぞれ違う学年で履修することはできない)。

- ・1クラス定員24人とする。
- ・教科書の内容を分担して問題作成(ワークシート)を行い、その提出をしなければならない
- ・配布されたワークシートに回答を記入して提出をしなければならない。
- ・食品の鑑別理論は学習者主体の事前学習が必須である。
- ・提出期日に遅れたレポートは、特別の理由のある場合を除き、「未提出」となる。
- ・私語、居眠りをしている人はその都度教室内で注意をする。
- ・レポート作成上のルールを守ること。剽窃が認められた場合、当該レポートは不可となるので注意されたい。
- ・COVID-19の感染状況により、ブレンド型あるいはオンデマンド型の授業にすることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新版 食品官能評価・鑑別演習第3版』/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『おいしさを測る食品官能評価の実際』/古川秀子/幸書房//『調理科学実験』/大羽和子, 川端明子/学研書院//

『官能評価士テキスト』/日本官能評価学会/建帛社//『調理と食品の官能評価』/松元仲子/建帛社/

2012/9.784767904504E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

食品流通論

LDR2251N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

金曜 5限

DP2: 知識・理解力

60

小林 千夏

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

食品は生きるうえで不可欠なものであり、かつ身近なものである一方、その背後にある生産・流通のシステムは複雑化・多様化しており、私たち消費者からは見えにくい。本講義では、食生活の変化、食品が農場から食卓に至るまでの仕組み、生産・加工・流通にかかわる事業主体の行動や各段階の特徴についての知識を習得し、理解することを目標とする。食についての現状を把握し、私たちが直面している食をめぐる問題や課題について考えられるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・食生活の変化とその背景
- ・フードビジネス (小売業、卸売業、外食産業、中食産業)の行動や特徴
- ・主要食品の流通
- ・現在の食品消費の課題

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

食生活や食品生産・流通の仕組みを理解する意義について、フードシステムという概念をもとに説明する。

第 2 回 食生活の変化

現在の私たちの食生活の特徴について理解する。食生活形態の変化や、変化の要因について説明する。

第 3 回 品目別食品消費の変化

- コメ、野菜、畜産物などの品目別消費量の変化や、食の変化を示すキーワードについて学ぶ。
- 第 4 回 卸売市場
生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場について説明する。
- 第 5 回 卸売流通
加工食品を扱う食品問屋（食品卸）について、その役割と近年の動向を説明する。
- 第 6 回 小売流通
食品小売業について学ぶ。スーパーマーケットなどを取り上げ、その運営の仕組みや商品政策について説明する。
- 第 7 回 外食産業
チェーンレストランなどを取り上げ、その運営の仕組みや食材供給システムについて解説する。
- 第 8 回 中食産業
主にコンビニエンスストアを取り上げ、その運営の仕組みや今後の動向などについて説明する。
- 第 9 回 主要食品の流通（1）
主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ。米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類および食肉の流通について取り扱う。
- 第 10 回 主要食品の流通（2）
主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ。乳製品、大豆加工品、惣菜食品、飲料などについて取り扱う。
- 第 11 回 フードマーケティング
フードビジネスによるマーケティングを理解する。マーケティングの基礎的な用語を理解する。
- 第 12 回 環境問題と食
食にかかわる環境問題、また環境保全のための国や企業の取り組みについて解説する。さらに食品廃棄・ロスの現状についても説明する。
- 第 13 回 食品の安全確保
食品の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する。リスクアナリシスの仕組みと、企業における食品安全管理システム（HACCPなど）を学ぶ。
- 第 14 回 食料生産と消費者
現代の食品や農産物の認証制度、販売と消費の傾向などを解説し、それに向き合う消費者の役割について考える。
- 第 15 回 食品の表示と認証制度
食品に添付される様々な表示と認証制度について説明し、その役割を学ぶ。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストを用いて、講義形式で授業を行う。必要に応じて、レジュメや資料を配布する。

授業時には適宜、感想や課題（小レポート）を提出してもらう他、復習を兼ねた小テストを実施する。提出物に対し

ては、授業内で口頭または配布資料などでフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

日ごろから食に関することに興味を持ち、新聞・ニュース等を通じて情報を収集すること。事前にテキスト（授業予定分）を読んでおくこと。授業終了時に課題を提示することがあるので、次回の授業時に提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度（20%）、提出課題・小テスト（20%）、定期試験（60%）で評価する。毎回講義後に、感想を提出してもらう。

〔留意事項（Other Information）〕

テキストに関して：2021年に販売された「四訂」を使用しますので、購入の際は旧版の「三訂」ではないか、確認して購入するようお願いいたします。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『四訂 食品の消費と流通』/日本フードスペシャリスト協会/建帛社/2021/9784767906874/学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『食料経済—フードシステムからみた食料問題—』/高橋正朗・清水みゆき編著/オーム社/2016/9784274219221

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

精神科リハビリテーション学 I

SWR3201N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

火曜 4限

DP2：知識・理解力

60

勇川 昌史

〔科目の教育目標（Course Description）〕

1. 精神保健福祉を取り巻く状況の変化に対応し、関連する歴史や制度を体系的に理解する
2. 精神保健福祉士が拠る所にする理念を理解し、実践へ向けた基礎を築く
3. 精神保健福祉の向上を目的に、社会的な課題を発見し社会との接点に介入する力を養う

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方を理解する
2. 精神科リハビリテーションの構成と精神保健福祉士の役割について理解する

3. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術の活用方法について理解する

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	精神障害に対する理解が浅く、教えられたこと以上は考えようとしていない。	精神障害に対する理解が自身の生活と結びつけることができる。	理解を深めるため、自身で様々な情報にアクセスし、新たな知見を身につけることができる。	精神障害を自分事として捉え、様々な機会を活かし、解決しよう指向する。
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない。	先行研究や他者の意見を基に、精神障害について考えようとする。	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする。	レベル3に加えて、新たに得た学びや理解を深める機会を自ら求めることができる。
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 精神障害とはー精神疾患と障害の理解
- 第 2 回 精神障害者に対する支援の基本的な考え方
- 第 3 回 諸外国の精神保健医療福祉の歴史と動向
- 第 4 回 日本の精神保健医療福祉の歴史と動向
- 第 5 回 精神科リハビリテーションとはーその理念、意義
- 第 6 回 精神科リハビリテーションとはー構成と展開
- 第 7 回 日本における精神科リハビリテーションの現状ー諸外国との比較
- 第 8 回 精神科リハビリテーションのプロセサー回復と支援プロセス
- 第 9 回 精神科リハビリテーションのプロセサーライフサイクルと支援プロセス
- 第 10 回 精神保健福祉士の役割
- 第 11 回 医療的リハビリテーションー専門療法
- 第 12 回 医療的リハビリテーションー家族教育プログラム・デイケア
- 第 13 回 医療的リハビリテーションーアウトリーチ・チーム医療
- 第 14 回 精神障害者支援の実践モデル
- 第 15 回 試験とまとめ

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

基本はテキストに沿った事業を展開するが、現在の精神保健福祉を取り巻く状況をおさえ、精神保健福祉士として現場で使える知識を獲得する。国家試験受験への意欲向上と実力養成を図る。講義、視聴覚教材、プリントなど。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。最終講義日に試験を実施し、その場で答え合わせを実施し、解説を行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

能動的な学習態度で履修して下さい。

まずは様々なことに疑問を持ち、自ら調べ、文献を読み、質問をすること等で、知識を深めていって下さい。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

15

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

試験 (70%)、授業参加 (30%)。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

[留意事項 (Other Information)]

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『新精神保健福祉士養成講座(4) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』//中央法規///学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

適宜紹介する

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

実務経験等：あり 現在精神保健福祉士として障害福祉サービス事業所での就労支援業務、相談支援業務、また社会福祉法人の理事長として施設運営を行う。

精神保健福祉援助演習 (専門) II

SWR4503N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

1単位 前期

木曜 2限

DP5 : 共生・協働する力

45

佐藤 純

[科目の教育目標 (Course Description)]

精神保健福祉士としての専門的な支援が可能となるよう、ケースワーク、グループワーク等や事例検討などによって体験的に学ぶことによって体得し、それらを体系的に説明できるとともに、精神に「障害」のある人に対して適切な支援が提供できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。また、実習の振り返りから自己覚知を進め、実践力を強める。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉援助実習を終え修得した精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術	精神保健福祉援助における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できない	精神保健福祉援助における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる	精神保健福祉援助における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を状況や場面にあわせて実践できる	精神保健福祉援助における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を地域の実情をふまえて実践できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習の振り返りー自己覚知 個別
- 第 2 回 実習の振り返りー自己覚知 グループ
- 第 3 回 実習事例の検討<医療機関の事例>
- 第 4 回 実習事例の検討<福祉施設>
- 第 5 回 実習事例の検討<総合的な観点からの検討>
- 第 6 回 精神保健福祉士の倫理の実践
- 第 7 回 精神保健福祉士の倫理とジレンマ
- 第 8 回 事例演習ー医療に結びつける援助
- 第 9 回 事例演習ー危機的状況における援助
- 第 10 回 事例演習ー児童虐待・DV
- 第 11 回 事例演習ー地域ネットワーク
- 第 12 回 事例演習ー社会資源の開発
- 第 13 回 セルフヘルプへの支援技術
- 第 14 回 セルフヘルプへの支援技術ー事例に基づいて
- 第 15 回 まとめー精神保健福祉士の専門的援助技術とは何か

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。授業中に適宜口頭でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当する部分を概読してくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (100点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016 /978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示す。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

授業中に示す。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助技術各論 II

SWR4501N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

2単位 前期

水曜1限

DP5 : 共生・協働する力

90

知名 純子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ことについて考えます。(1) 地域生活支援について、(2) 精神障害者ケアマネジメントについて、(3) 障害者が地域で生活すること等について、「精神保健福祉援助技術各論 I」での学びをさらに展開させ、生活者支援の視点から具体的事例に基づき理解を深めていきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークの応用

(2) 精神障害者支援のためのチームアプローチ

(3) 個別支援に必要なコミュニティの構築について

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	援助専門職としてコミュニティワークに何が必要か、理解できていない	援助専門職としてコミュニティワークに必要な基本的知識・情報について理解でき説明できる	援助専門職としてコミュニティワークに必要な基本的知識・情報について理解し、実践できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実践できるとともにわかりやすく説明できる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

- ～精神保健医療福祉の歴史と動向～
- 第 2 回 地域生活支援について
精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識
 - 第 3 回 地域生活支援について2
精神科リハビリテーションの概念と構成
 - 第 4 回 地域生活支援について3
精神科リハビリテーションのプロセス
 - 第 5 回 地域生活支援について4
医療機関における精神科リハビリテーションの展開
 - 第 6 回 精神障害者ケアマネジメント1
精神障害者のケアマネジメント
 - 第 7 回 精神障害者ケアマネジメント2
精神障害者支援の実践モデル
 - 第 8 回 精神障害者ケアマネジメント3
地域を基盤にした相談援助活動の意義と展開
 - 第 9 回 障害者が地域で生活すること1
地域において主体的に生活すること
 - 第 10 回 障害者が地域で生活すること2
地域に根ざした包括的な支援活動
 - 第 11 回 障害者が地域で生活すること3
地域における資源の動員とネットワークングの実際
 - 第 12 回 障害者が地域で生活すること4
地域における支援の具体的事例検討
 - 第 13 回 連携に求められる他専門職への理解
他職種の特長性
 - 第 14 回 クライアントのニーズに応えるために
精神保健福祉士と多職種との連携
 - 第 15 回 ふりかえり
試験、内容と全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループディスカッション、ロールプレイ、発表など参加型の授業を行いたいと思います。将来的に精神保健福祉士としての実践の基盤となる理論や技術の応用力の習得を目指します。

各課題、テーマについて、「自分はどうか考えるのか」、そして「周囲の他の学生はどんな意見を持っているのか」に着目して授業を受けてください。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当箇所を事前に読んで概要をつかんでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間 (指定する資料やメディアに目を通しておくこと)

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (60点)・試験 (40点) の総合評価とする。参加型の授業スタイルのため、欠席、遅刻は他の受講生の迷惑になりますので、注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

各回において、グループワークを基に、事例や現状の課題について一緒に考えます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (新カリキュラム対応) 第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II』/日本精神保健福祉士養成協会/中央法規/2012/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は随時、紹介していきます。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

総合病院で精神科ソーシャルワーカーとして、行政と精神科診療所で精神保健福祉士の実務経験あり。

卒業研究

SLS4600A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組み、自ら問題解決することができる	積極的に取り組み、問題解決する能力がある

表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンをすることができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

(2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600BOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

牛田 好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組み、自ら問題解決することができる	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確に	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考	研究を活かしてさらに発展的に考察できる

		することが できる	察すること ができる	
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンをする事ができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）
- (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）
- (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組むが、自ら問題解決することができない	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内	口頭試問において、プレゼンの内	口頭試問において、プレゼンの内	さらに高度なプレゼンをするこ

	容が明確ではない	容が明確である	容、質疑応答にも明確に対応できる	ができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- 以下の点を総合的に評価する。
- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）
 - (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）
 - (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）
- 詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。
- ・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。
- ・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。
- ・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

- 竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり
- 三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり
- 佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員としての18年勤務経験あり
- 酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進

にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600DOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

酒井 久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組み、自ら問題解決することができる	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼン内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼン内容が明確である	口頭試問において、プレゼン内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンテーションができ、専門的な力を発揮することができる

専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している
-----------	------------------	-----------------	------------------	---------------------

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）
- (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）
- (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組み、自ら問題解決することができる	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンテーションができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

(2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員としての18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600F0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

竹原 広美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組むが、自ら問題解決することができない	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンテーションをすることができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

(2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員としての18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600G0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

藤原 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組み、自ら問題解決することができる	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンテーションができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

- (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

- (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員としての18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600H0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

三好 明夫

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組むが、自ら問題解決することができない	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンテーションをすることができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

- (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

- (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員としての18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600IOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

矢島 雅子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組み、自ら問題解決することができる	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンテーションをすることができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

- (1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

- (2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

- (3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

- ・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

- ・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

- ・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員としての18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

卒業研究

SLS4600J0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

4年次

8単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

安川 涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。

そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組み、計画的に進めることができる	積極的に取り組むが、自ら問題解決することができない	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンテーションをすることができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）

(2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）

詳細は手引きを参照すること。

〔留意事項（Other Information）〕

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として18年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

調理学

LDA2451N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

月曜2限

DP4：思考・解決力

60

藤原 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

食生活における調理の意義を、基本的な調理操作や調理による食品成分の変化を学ぶことにより理解し、各々の食品素材に起こる調理過程の諸現象について科学的に説明でき、必要かつ適切な調理操作が判断できる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. おいしさの要因を多角的に理解する。

2. 各種調理操作の物理化学的メカニズムを理解する。

3. 食品成分の調理過程における変化を学び、それぞれの調理特性を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
調理の意義に対する理解	基本的な調理操作のそれぞれの特徴を理解できない	基本的な調理操作のそれぞれの特徴を理解できる	基本的な調理操作の特徴を化学的、物理学的視点で理解できる	レベル3に加えて、調理操作によって「食品」が「食べ物」になることの意義を科学的に捉えることができる
科学的思考	調理による食品成分の変化について、基本的な内容を説明できない	調理による食品成分の変化について、基本的な内容を説明できる	調理による食品成分の変化について、基本的な内容を化学的、物理学的観点から説明できる	レベル3に加えて、的確な科学的根拠を示して、調理による食品成分の変化を予測できる

〔授業計画〕

第 1 回 おいしさの化学的要因

第 2 回 おいしさの物理的要因

第 3 回 調理操作（湿式加熱）

第 4 回 調理操作（乾式加熱）

第 5 回 調理操作（誘電加熱・誘導加熱・非加熱）

第 6 回 調味

第 7 回 米の調理

第 8 回 小麦粉の調理

第 9 回 いも類・豆類の調理

第 10 回 野菜・果物の調理

第 11 回 肉・魚の調理

第 12 回 卵・牛乳の調理

第 13 回 砂糖・油脂の調理

第 14 回 ゲル化剤の調理

第 15 回 調理における食品相互の作用と効果

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義形式で授業を行うが、意見や質問など積極的な発言を求めている。

・授業中に実施する小テストについては採点後に解説を行い、定期試験において再度理解度を確認する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスにそって教科書の該当箇所を予習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (20%)、小テスト (30%)、定期試験 (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面で実施する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Nブックス新版調理学/鈴野弘子・真部真里子編/建帛社/2020/978476790645/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

NEW調理と理論/山崎清子他/同文書院/2016/9784810313956

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

調理学実習

LDA3500NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 前期

木曜 3限 木曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

60

週2コマ連続 定員16人

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

実践を通して、基本的な調理操作と食品素材の調理特性について理解し、調理技術の基礎を修得することにより、自他の食生活を健全で豊かなものとするために必要な力を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 科学的な調理理論に基づいた調理操作を理解する。
2. 基礎的な調理技術を身につける。
3. 基本的な食事マナーやサーブの仕方を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識	調理学・食品学・栄養学等で学んだ知識を調理操作に利用できない	調理学・食品学・栄養学等で学んだ知識を調理操作に利用できる	調理学・食品学・栄養学等で学んだ知識を体系的に整理したうえで、調理理論として調理操作に横断的に利用できる	レベル3に加えて、自ら科学的な根拠に基づいて判断し、必要な調理操作を選択できる
思考・解決力	食品の特徴や調理過程で起こる変化について、自ら考察することなしに調理操作を行う	食品の特徴や調理過程で起こる変化について、自ら考察しながら調理操作を行うことができる	食品の特徴や調理過程で起こる変化について、自ら考察しながら調理操作を行い、知識と関連づけて技能を高めることができる	レベル3に加えて、科学的根拠に基づいた創造的な工夫を思考し、発展的な技術・技能を自ら開発することができる

共生・協働する力	グループで協力体制を構築することができない	グループで協働して、課題に取り組むことができる	グループ内で、自分の役割を積極的に見つけ、よりよい成果をあげるために協働できる	レベル3に加えて、クラス全体の動線にも留意し、それぞれの課題の遂行が円滑に行えるよう配慮ができる
----------	-----------------------	-------------------------	---	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
(実習の進め方について)
- 第 2 回 調理の基本操作①はかる
(製菓)
- 第 3 回 調理の基本操作②浸出 (だし)・炊く
(日本料理製作)
- 第 4 回 調理の基本操作③切る・ゆでる
(西洋料理製作)
- 第 5 回 調理の基本操作④炒める
(中国料理製作)
- 第 6 回 調理の基本操作⑤煮る・味をつける
(日本料理製作)
- 第 7 回 調理の基本操作⑥焼く
(西洋料理製作)
- 第 8 回 調理の基本操作⑦天火焼
(製菓)
- 第 9 回 調理の基本操作⑧蒸す
(中国料理・点心製作)
- 第 10 回 調理の基本操作⑨揚げる
(日本料理製作)
- 第 11 回 調理の基本操作⑩寄せる (ゲル化)
(製菓)
- 第 12 回 調理の基本操作⑪混合 (乳化)
(西洋料理製作)
- 第 13 回 調理の基本操作⑫魚をさばく
(日本料理製作)
- 第 14 回 調理の基本操作⑬スパイスとハーブ
(西洋料理製作)
- 第 15 回 まとめテストと解説、実習室の清掃

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・実習内容についての説明 (資料配付) の後、グループごとに調理、試食を行う。
- ・片付け、掃除を終え、担当者の確認を得るまでが授業である。
- ・毎回提出を求めるレポート課題については、コメントを添えて次週に返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、課題レポートを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は授業参加度 (30%)、課題レポート (50%)、まとめテスト (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・対面で実施する。
- ・初回到食材費、その他諸費として12,000円を徴収し、最終回到残金を返却する。
- ・授業内で資料配付を行う。
- ・実習時には白衣を着用する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

新版トータルクッキング健康のための調理実習/大喜多祥子・濱口郁枝編著/講談社/2017/9784061398436/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

NEW調理と理論/山崎清子他/同文書院/2016/9784810313956

日本食品標準成分表2021

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発展調理学実習

LDA3552N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

2単位 後期

木曜 3限 木曜 4限

DP5 : 共生・協働する力

60

調理学実習

週2コマ連続 定員16人

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

各国の料理や日本の行事食などの製作を通して、献立から調理、テーブルコーディネートに至るまでに必要不可欠な要素を理解し、食文化に関する様々な場面に対応できる力を身につける。さらにグローバルな視点で豊かな食生活環境を自ら構築していく姿勢を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 様々な場面における献立の組み方と調理操作の流れを理解する。
2. 食卓の整え方を学び、食文化について造詣を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	世界の食文化や食事マナーについて理解する	世界の食文化や食事マナーについて理解する	世界の食文化や食事マナーについて、社会情	レベル3に加えて、分子ガストロノミーなど

	ことができない	ことができる	勢によるその変容も含めて理解することができる	革新的料理様式についても理解することができる
思考・解決力	それぞれの背景となる風土(自然と歴史)をふまえて日本各地あるいは世界の食文化について考察することができない	それぞれの背景となる風土(自然と歴史)をふまえたうえで、日本各地あるいは世界の食文化について考察することができる	レベル2に加えて、時代の流れの中で変容していく食文化をいかに継承していくべきか問題意識を持つことができる	レベル3に加えて、時代の流れの中で変容していく食文化をいかに継承していくか、根拠に基づいた自らの考えを示すことができる
共生・協働する力	日本各地あるいは世界の食文化を尊重することができない、あるいは積極的に体験しようとしめない	日本各地あるいは世界の食文化を尊重し、積極的に理解して授業の中で体験しようとする姿勢をもつ	レベル2に加えて、日本各地あるいは世界の食文化について、書物や文献を通して深く学び、知り得た情報を授業の中で積極的に共有することができる	レベル3に加えて、年齢や出身地の違う人々と積極的に食に関する交流の機会をもち、そこで得た情報を授業の中で適切に共有することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 テーブルマナー
- 第 2 回 日本の飲み物と和菓子
(製菓)
- 第 3 回 日本料理の特徴
(日本料理製作)
- 第 4 回 フランス料理の特徴
(フランス料理製作)
- 第 5 回 中国料理の特徴
(中国料理製作)
- 第 6 回 エスニック料理の特徴
(タイ・ベトナム料理製作)
- 第 7 回 イタリア料理の特徴
(イタリア料理製作)
- 第 8 回 外国の飲み物と洋菓子
(製菓)
- 第 9 回 行事食①クリスマスの食卓
(クリスマス料理製作)
- 第 10 回 行事食②クリスマスのお菓子
(クリスマスのための製菓)
- 第 11 回 行事食③お正月の食卓
(おせち料理製作)
- 第 12 回 衛生管理と食事
(お弁当製作)

- 第 13 回 行事食④カジュアルパーティー
(アペタイザーとデザート製作)
- 第 14 回 行事食⑤雛祭りの食卓
(日本料理製作)
- 第 15 回 まとめテストと解説、実習室の清掃

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・実習内容についての説明(資料配付)の後、グループごとに調理、試食を行う。
- ・片付け、掃除を終え、担当者の確認を得るまでが授業である。
- ・毎回提出を求めるレポート課題については、コメントを添えて次週に返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、課題レポートを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(30%)、課題レポート(50%)、まとめテスト(20%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・対面で実施する。
- ・初回到に食材費、その他諸費として12,000円を徴収し、最終回到に残金を返却する。
- ・授業内で資料配付を行う。
- ・実習時には白衣を着用する。
- ・前提科目として調理学実習を受講しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

新版トータルクッキング健康のための調理実習/大喜多祥子・濱口郁枝編著/講談社/2017/9784061398436/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

NEW調理と理論/山崎清子他/同文書院/2016/9784810313956
日本食品標準成分表2021

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

服飾心理学 2017年度以降入学者

LDA2250N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 後期

木曜2限

DP2: 知識・理解力

60

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

被服の社会・心理的機能には3つあるとされる。第1は「自己の確認・強化・変容」機能、第2は「情報伝達機能」、第3は「社会的相互作用の促進・抑制」機能である。それらの機能を理解し、日常生活をよりよく営める能力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

次の3つの社会・心理的機能に着目し、被服に関する人間の行動を解明する。

1. 自己の確認・強化・変容機能
2. 情報伝達機能
3. 社会的相互作用の促進・抑制機能

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業での発言	・発言しない	・好き嫌いでの意見や単なる感想にとどまる。	・他者の意見への賛成や反対を表明し、自分の意見を発言する。	・根拠を示して説得的な意見を述べたり、新たな。
レポートおよびプレゼンテーション課題選択・設定	・選択・設定されない	・特に理由なく選択・設定する。	・単なる興味・関心から選択・設定にとどまる。	・課題と自己との関係を説明・課題と社会との関係を説明できる。
引用した資料や文献の理解度	・コピー・アンド・ペースト	・不適切な引用や誤読・引用と意見の混在している。	・内容の一部のみ説明・恣意的な引用と説明がみられる。	・引用した資料や文献の枠組みに沿って、客観的に記述が説明されている。
自分自身の意見	・コピー・アンド・ペースト	・好き嫌いでの意見や単なる感想にとどまる。	・引用した資料や文献と関係のない意見・第三者の意見の引用がみられる。	・根拠を示して、論理的に資料や文献の内容に対する意見が述べられている。

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

授業の進め方の説明、被服や身体装飾への社会心理学アプローチについて

- 第 2 回 被服と自己意識(1) ボディイメージ
(1) ボディイメージとは
- 第 3 回 被服と自己意識(2) 自己過程
(2) 社会で形成されるボディイメージ
- 第 4 回 被服と服人認知(1) 印象管理
(1) 印象管理
- 第 5 回 被服と対人認知(2) 自己管理、自己呈示、役割理論
(2) 自己管理、自己呈示、役割理論
- 第 6 回 被服と非言語コミュニケーション
被服が伝えるもの
- 第 7 回 被服と対人行動
被服が他者に与える影響
- 第 8 回 被服と集合行動
制服について考える
- 第 9 回 被服とジェンダー
ジェンダーと被服行動
- 第 10 回 流行
流行の普及と採用
- 第 11 回 グループディスカッション
興味のあるテーマについて、話し合う
- 第 12 回 個人発表(第1グループ)
各自テーマを設定し、プレゼンテーション
- 第 13 回 個人発表(第2グループ)
各自テーマを設定し、プレゼンテーション
- 第 14 回 課題、授業内試験
授業の質疑応答および試験、レポート提出
- 第 15 回 まとめ
レポート課題、試験返却および解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に、講義形式で行うが、DVD視聴、グループディスカッション、個人発表などを取り入れながら授業を進める。

課題および授業内試験については、第15週授業で返却し、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ほぼ、毎回の授業で小課題をだすので、普段から新聞や雑誌などを読み、社会情勢に敏感になっておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、試験(30%)、レポートおよび発表 (40%)で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『21世紀の社会心理学シリーズ8 被服行動の社会心理学』/高木修(監修) /北大路書房/1999/4-7628-2161-6

『被服と化粧の社会心理学』/高木修(監修) /北大路書房/1996/4-7628-2058-X

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉住環境デザイン

LDA2405N1J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

2単位 前期

火曜 2限

DP4 : 思考・解決力

60

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

科学技術の進歩は住宅においても目覚ましいものがあり、こういった技術を導入するべく住まいの造りは変わり、新しい設備器具などが次々と開発されている。一方、人間の営みは長い年月の間に営々と築きあげられてきたものである。そのため、時には人がモノと均衡がとれない事態も生じ、この場合多くは人側に障害が表れ安全性が脅かされる。本来人間が持つ機能や特性を活かした住宅のあり方が求められる。講義では特に建築的側面からの人間工学について、人間の身体的、動作的、心理的、生理的特性に沿った住宅環境や設備のあり方について理解すること、日常生活における課題に気づき、解決する能力を養うことを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 人を中心とした生活空間・建築・住宅意匠のあり方
2. 空間感覚の理解と体得
3. 建築・住宅設備の基礎的デザインへの理解
4. 公共空間の建築計画の基礎知識の修得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	予習をしない。予習ノートを作成しない	予習ノートを作成するが、資料を映した程度である。	要点をとらえ、自発的に収集した情報が多いノートを作成する	授業後の振り返りや疑問点をノートに追加するなど復習する
知識・理解力	空間スケールについて理解していない	空間スケールについて理解する	人間工学に基づいた空間デザインを理解する	人間工学に基づいた空間デザインを計画することができる

思考・解決力	身の回りのスケール感について理解できない	適切なスケールについて理解でき、不適切な箇所がわかる。	不適切な場合に適切になるよう解決できる	寸法的にも、心理的にも人間にとって快適な空間計画ができる
--------	----------------------	-----------------------------	---------------------	------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (人間工学とは)
授業の進め方、予習に関する説明
ミニットペーパー
- 第 2 回 デザインと寸法
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 3 回 人体寸法とモノの寸法
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 4 回 椅子の寸法、差尺、家具の分類
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 5 回 姿勢、動作域
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 6 回 動作寸法、動作空間
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 7 回 バリアフリー、ユニバーサルデザイン
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 8 回 空間の寸法計画 (演習)
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 9 回 ステレオタイプ
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 10 回 心理特性
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 11 回 集団、社会 (群衆行動)、移動、歩行
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 12 回 住宅の計画
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 13 回 住宅の計画 (演習)
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 14 回 図書館・オフィスの計画
事前確認テスト、ミニットペーパー
- 第 15 回 美術館・劇場の計画
事前確認テスト、ミニットペーパー

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

事前に配信するコンテンツとテキストを使って予習しておく。授業では、冒頭に予習した知識を確認し、確認テストの様子をみて授業を進める。授業時間の最後に学んだ知識を生活にいかすことができる考え方を養うためのミニットペーパーを実施、共有することで理解を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配信する授業コンテンツとテキスト、また関連ある事項については自ら調べるなどし、ノートを作成し、そのノートをもって授業にのぞむことを強く推奨する。また人間工学的配慮が日常生活のどのような場面で活かされているか、身の回りのモノのあり方に関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、毎回の授業冒頭に実施する予習の確認テスト(40)とミニットペーパー(@3×15回)、最終レポート[第13回授業](10)を予定している。優れたミニットペーパーは加点する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『建築計画の基礎』/西出和彦/数理工学社//978-4-901683-64-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『空間デザインの原点』/岡田光正著/理工学社//

『インテリアの計画と設計』/小原二郎編/彰国社//

『人間の空間』/R.ソマー著/鹿島出版会//

『人間工学入門』/人間工学研究会編/日刊工業新聞社//

『建築計画(改訂版)』/長澤泰/市ヶ谷出版社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ

SLF1300A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP3: 言語力

60

必修 クラス指定

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、本学での学習に必要な基礎的技能を修得するとともに、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。

5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは福祉生活デザイン基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
本を読んで要約する力	要約することができない	本を読んで指定された箇所を要約できる	著者の意図を踏まえて適切に要約できる	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら著者の意図を踏まえて適切に要約できる
ディスカッションをする力	資料を準備してディスカッションに参加できない	資料を準備してディスカッションに参加する	メンバーの議論を踏まえてさらにディスカッションを深めることができる	メンバーの議論を踏まえてディスカッションをする中で新しい見方や考え方を創造できる
要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成する力	レポートを作成できない	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえて、さらに文献を調べ内容を深めたレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成し、素地の中で新しい見方や考え方を深めた考察を入れられる

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

第2回 ノートのとり方 キャリア自己形成システムの確認

第3回 テキストの読み方、要約の仕方

第4回 テキスト1:「要約」、意見の書き方

第5回 テキスト1:「意見」、ディスカッション、議事録の書き方

第6回 テキスト1:「ディスカッション」、レポートの書き方

第7回 テキスト1:「レポート」

第8回 テキスト2:「要約」

第9回 テキスト2:「意見」

第10回 テキスト2:「ディスカッション」

第11回 テキスト2:「レポート」

第12回 テキスト3:「要約、意見」

第13回 テキスト3:「ディスカッション」

第14回 テキスト3:「レポート」

第15回 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。

2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。

3) 毎週出される課題は必ず行うこと。

4) テキスト：別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

提出された課題は、全員で読み、コメントを記入して、フィードバックする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 改訂版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2016/4874246508/学内販売予定

その他は別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ

SLF1250A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2：知識・理解力

60

必修 クラス指定

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活と福祉に関する幅広い知識と基礎技能を身につけるこ

とを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

4つのテーマワークでの体験から広く福祉生活デザインの基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	生活と福祉に関わる知識を説明できない	生活と福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス キャリア形成カルテの確認

第2回 テーマワーク①-1「食べる」(日常の食事)

第3回 テーマワーク①-2「食べる」(ティータイムのもてなし)

第4回 テーマワーク①のふりかえり・学びの共有

第5回 テーマワーク②-1「装う」(衣服素材の理解)

第6回 テーマワーク②-2「装う」(身体形態の理解とデザイン実習)

第7回 テーマワーク②のふりかえり・学びの共有

第8回 ③-1「住まう」(インテリアコーディネートでの体験) テーマワーク②のふりかえり・学びの共有

第9回 テーマワーク③のふりかえり・学びの共有

第10回 テーマワーク④-1「支える」(マネープランニング) かいり・学びの共有

第11回 テーマワーク④-2「支える」(傾聴)

第12回 テーマワーク④-3「支える」(車いす体験)

第13回 テーマワーク④のふりかえり・学びの共有

第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業

第15回 全体のふりかえりとキャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。

(2) 各テーマワークによる体験からの学びを共有する。

(3) 4つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活と福祉の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「支える」の各テーマワークを小グループごとに体験する。体験学習の順番は、授業計画と異なる可能性もある。また、テーマワークの内容が一部変更になる可能性がある。第1回の授業には必ず出席すること。

テーマワークの担当者

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 竹原広実

「支える」: 矢島雅子、青木加奈子、佐藤純

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ A

SLF2100A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 前期

金曜 3限 金曜 4限

DP1: 自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線 (の現状) への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身をおく体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	自らフィールド先の情報を集め、理解を深めて参加している	フィールド先での体験を活かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	フィールドワークでの学びがない	フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	フィールドワークの学びを活かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる
体験を言語化すること	フィールドワークの体験を言語化していない	フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	フィールドでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション: 授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示
- 第 2 回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習: 課題意識の醸成
- 第 3 回 フィールドワーク1の実施①: 実践現場の理解
- 第 4 回 フィールドワーク1の実施②: 実習実施
- 第 5 回 フィールドワーク2「支える」の事前学習: 課題意識の醸成
- 第 6 回 フィールドワーク2の実施①: 実践現場の理解
- 第 7 回 フィールドワーク2の実施②: 実習実施
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度：50%

(2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。また第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。

(2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。

(3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ B

SLF2100BOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 前期

金曜3限 金曜4限

DPI：自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身をおく体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	自らフィールドワーク先の情報を集め、理解を深めて参加している	フィールドワーク先での体験を活かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	フィールドワークでの学びがない	フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	フィールドワークの学びを活かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる
体験を言語化すること	フィールドワークの体験を言語化していない	フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	フィールドワークでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示

第2回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成

第3回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解

第4回 フィールドワーク1の実施②：実習実施

第5回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成

第6回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解

第7回 フィールドワーク2の実施②：実習実施

第8回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度：50%

(2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。また第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。

(2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。

(3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン基礎演習ⅢC

SLF2100C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 前期

金曜3限 金曜4限

DPI：自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身をおく体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	自らフィールドワーク先の情報を集め、理解を深めて参加している	フィールドワーク先での体験を活かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	フィールドワークでの学びがない	フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	フィールドワークの学びを活かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる
体験を言語化すること	フィールドワークの体験を言語化していない	フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	フィールドワークでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示
- 第2回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成
- 第3回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解
- 第4回 フィールドワーク1の実施②：実習実施
- 第5回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成
- 第6回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解
- 第7回 フィールドワーク2の実施②：実習実施
- 第8回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度：50%

(2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。また第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。

(2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。

(3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ D

SLF2100D0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 前期

金曜3限 金曜4限

DPI：自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身をおく体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	自らフィールドワーク先の情報を集め、理解を深めて参加している	フィールドワーク先での体験を活かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	フィールドワークでの学びがない	フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	フィールドワークの学びを活かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる
体験を言語化すること	フィールドワークの体験を言語化していない	フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	フィールドワークでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示

第2回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成

第3回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解

第4回 フィールドワーク1の実施②：実習実施

第5回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成

第6回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解

第7回 フィールドワーク2の実施②：実習実施

第8回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。

(2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。

(3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度：50%

(2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。また第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。

(2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。

(3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ E

SLF2100EOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 前期

金曜3限 金曜4限

DPI：自分を育てる力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。

これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身をおく体験をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
フィールドワークのための準備と課題設定	訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	自らフィールドワーク先の情報を集め、理解を深めて参加している	フィールドワーク先での体験を活かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	フィールドワークでの学びがない	フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	フィールドワークの学びを活かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる
体験を言語化すること	フィールドワークの体験を言語化していない	フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	フィールドワークでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示

第2回 フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成

第3回 フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解

第4回 フィールドワーク1の実施②：実習実施

第5回 フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成

第6回 フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解

第7回 フィールドワーク2の実施②：実習実施

第8回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。

(2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。

(3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度：50%

(2) フィールドワークレポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

(1) 学生によってフィールドワーク1と2の順序が入れ替わる場合がある。また第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。

(2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。

(3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン基礎演習ⅣA

SLF2650A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 後期

金曜 3限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢを通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏づけによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1) 福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢまでの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。

2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。

3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

第2回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備

第3回 研究課題の設定②：課題決定

第4回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション

第5回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成

第6回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認

第7回 プレゼンテーション

第8回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1) 基礎演習ⅠからⅢと同一のクラス編成のなかで、2グループに分かれて作業を進めていく。

2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。

3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第7回のプレゼンテーションは1年次生の基礎演習Ⅱと合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習Ⅰで使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン基礎演習ⅣB

SLF2650B0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 後期

金曜 3限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢを通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏づけによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢまでの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第3回 研究課題の設定②：課題決定
- 第4回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第5回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第6回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第7回 プレゼンテーション
- 第8回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習ⅠからⅢと同一のクラス編成のなかで、2グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。ま

た、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第7回のプレゼンテーションは1年次生の基礎演習Ⅱと合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習Ⅰで使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン基礎演習ⅣC

SLF2650C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 後期

金曜 3限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢを通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏づけによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢまでの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
解決力・考察力	考えようともしないし、解決もできない	書く・読む・要約する技能を活かして自分の考えを発信しようとしている	課題解決に向けて、他者と意見を交わし、自らも努力しようとしている	新たな課題を見つけ自ら深く考え、解決することができる
協調性	グループワークに参加しない	自分の意見と他者の意見の違いが分かり、協力しようとしている	自らアイデアや意見を出すなど、積極的にグループワークに参加している	他者と協力・協働ができ、新たな課題に取り組んでいる
プレゼンテーション能力	プレゼンテーションの作成に参加していない	最低限必要な情報を入れたプレゼンテーションを作成することができる	適宜、イラストやアニメーションを入れながらプレゼンすることができる	レベル3に加えて、オーディエンスの反応を見ながら、元気に、はっきりとした声でプレゼンができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第 3 回 研究課題の設定②：課題決定
- 第 4 回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第 5 回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第 6 回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第 7 回 プレゼンテーション
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習ⅠからⅢと同一のクラス編成のなかで、2グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第7回のプレゼンテーションは1年次生の基礎演習Ⅱと合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習Ⅰで使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン基礎演習ⅣD

SLF2650D0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

2年次

1単位 後期

金曜3限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢを通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏づけによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢまでの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス

- 第 2 回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第 3 回 研究課題の設定②：課題決定
- 第 4 回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第 5 回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第 6 回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第 7 回 プレゼンテーション
- 第 8 回 全体のふりかえり
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習 I から III と同一のクラス編成のなかで、2 グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。
評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第 7 回のプレゼンテーションは 1 年次生の基礎演習 II と合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習 I で使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

〈実践的科目〉

福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ E

SLF2650E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
2 年次

1 単位 後期

金曜 3 限

DP6：創造・発信力

30

必修 クラス指定 全7.5コマ

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉生活デザイン基礎演習 I から III を通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏づけによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習 I から III までの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
解決力・考察力	解決もできないし、考えようもしない	書く・読む・要約する技能を生かして自分の考えを発信しようとしている	課題解決に向けて、他者と意見を交わし、自らも努力しようとしている	新たな課題を見つけ自ら深く考え、解決することができる
協調性	グループワークに参加しない	自分の意見と他者の意見の違いが分かり、協力しようとしている	自らアイデアや意見を出すなど、積極的にグループワークに参加している	他者と協力・協働ができ新たな課題に取り組んでいる

プレゼンテーションの作成に参加していない	プレゼンテーションの作成に参加していない	最低限必要な情報を入れたプレゼンテーションを作成することができる	適宜、イラストやアニメーションを入れながらプレゼンすることができる	レベル3に加えて、オーディエンスの反応を見ながら、元気に、はっきりとした声でプレゼンができる
----------------------	----------------------	----------------------------------	-----------------------------------	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備
- 第 3 回 研究課題の設定②：課題決定
- 第 4 回 研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション
- 第 5 回 研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成
- 第 6 回 研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認
- 第 7 回 プレゼンテーション
- 第 8 回 全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 基礎演習 I から III と同一のクラス編成のなかで、2グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

第7回のプレゼンテーションは1年次生の基礎演習IIと合同授業とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習 I で使用したテキストを随時使う。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

福祉生活デザイン特論

SLS3400A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔授業計画〕

各クラス(ゼミ)の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 各専門分野別のクラス(ゼミ)に分かれて学習する。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3) 各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各クラス(ゼミ)の担当教員の指示によること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、平常点 (形成テスト等を含む) (40%)、提出物 (30%) により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400B0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3) までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。

(3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、平常点 (形成テスト等を含む) (40%)、提出物 (30%) により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体

化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる
研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができない	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる

〔授業計画〕

各クラス(ゼミ)の担当教員の指示によること
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 各専門分野別のクラス(ゼミ)に分かれて学習する。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3) 各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各クラス(ゼミ)の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、平常点(形成テスト等を含む)(40%)、提出物(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画(活動計画)策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり(企業における工学系開発業務)

福祉生活デザイン特論

SLS3400DOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる
研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができない	多様な研究方法について一定の理解ができる	量的研究、質的研究の違いについて理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP4：思考・解決力

120

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1)各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2)各専門分野における研究動向を理解する。
- (3)各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4)(1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、平常点 (形成テスト等を含む) (40%)、提出物 (30%) により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400F0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3) までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。

(3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、平常点 (形成テスト等を含む) (40%)、提出物 (30%) により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400H0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体

化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔授業計画〕

各クラス(ゼミ)の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 各専門分野別のクラス(ゼミ)に分かれて学習する。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3) 各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各クラス(ゼミ)の担当教員の指示によること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、平常点(形成テスト等を含む)(40%)、提出物(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画(活動計画)策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり(企業における工学系開発業務)

福祉生活デザイン特論

SLS3400IOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
3年次

4単位 通年

水曜3限

DP4：思考・解決力

120

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔授業計画〕

各クラス(ゼミ)の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 各専門分野別のクラス(ゼミ)に分かれて学習する。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3) 各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各クラス(ゼミ)の担当教員の指示によること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、平常点(形成テスト等を含む)(40%)、提出物(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400J0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP4：思考・解決力

120

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3) 各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業

に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

福祉生活デザイン特論

SLS3400K0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP4：思考・解決力

120

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。

- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
 (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

〔授業計画〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
 (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
 (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

消費生活 2021年度以降入学者

LDA1450NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

木曜1限

DP4：思考・解決力

60

大風 薫

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「消費」とは人びとの欲求を満たすために財やサービス（商品）を使うことを指す。個人や家族の生活を維持・向上させる人間の行動の一つであり、現代ではその行動が社会のあり方や変化と結びついている。例えば情報通信技術の飛躍的な進歩、グローバル化の進展などの環境変化は消費者に大きな影響を及ぼす。逆に、消費者が地球環境や社会に影響を及ぼしている。この授業では、消費生活に関わる知識を幅広く学び、消費者として自主的、かつ実践的に考え・行動できるための基礎的な知識を身につけることを目標とする。身近な話題から地球規模の問題までも含めて消費に関わる様々な事象を検討しながら、消費とは何か、安全・安心、豊かで持続的な消費生活を実現するにはどうすればよいかを考えてゆきたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 消費者を取り巻く環境変化の動向（家計消費、物価、経済社会の構造変化、消費者の意識と行動など）を理解する。
2. 近年の消費者を取り巻く問題や消費者政策を理解する。
3. 持続可能な消費生活を実現するためにはどうすべきか、自ら考え、その考えを述べることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力	消費を取り巻く環境や消費・消費者問題など、そこでの問題や課題について考えない	現代の消費生活における動向やどのような消費者問題が生じているのか、それがなぜ起こっているのかを理解し、自分自身がどのような実践をすべきか述べる。	授業内で学んだことを理解し、他の受講生の意見も取り入れた上で、消費生活における課題の整理と、自分みならず家族や地域でどのような実践をすべきか述べる。	他の受講生の意見や文献・資料などによる知識も取り入れた上で、消費生活に関する課題を整理でき、持続可能な消費社会の形成に向けた考えを述べることができる。
共生・協働する力				
創造・発信力	指名されても発言をしない、指定された課題を提出しない	指名されたら自らの意見を述べ、指定された課題を提出する	指名されなくても発言をしたり、疑問点について積極的に質問する、自分などの工夫を加えて課題を提出する	レベル3に加え、他の受講生との意見交換を積極的に促す、客観的なデータなどを提示しながら課題を提出する

〔授業計画〕

第 1 回	消費、消費社会とは何か
第 2 回	消費者を取り巻く環境変化①：家計消費、物価、経済社会の構造変化
第 3 回	消費者を取り巻く環境変化②：消費者の意識と行動
第 4 回	消費社会を作ったもの：広告と企業活動
第 5 回	ウーマン・エコノミー
第 6 回	消費社会の諸問題：豊かさの不均衡、過剰な豊かさ
第 7 回	現代消費社会の変化と課題
第 8 回	企業の役割
第 9 回	消費者の心理と行動①：消費者の選択と行動経済学、限定合理性
第 10 回	消費者の心理と行動②：消費者の脆弱性、ネット社会と新たな消費者

第 11 回	持続可能性（サステナビリティ）の視点
第 12 回	市場の機能と消費者政策
第 13 回	近年注目される消費者問題
第 14 回	環境・資源と消費
第 15 回	まとめ：持続可能な消費生活をめざして
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕 実施する（レポート）	
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕 講義、ワーク、ディスカッションを組み合わせで行う。そのため、受講生には授業への主体的な参加を求める。指名されても答えない、ディスカッションに参加しない場合は、受講態度の減点となる。 ワークは事前課題と授業内で取り組むものがある。提出された課題は次回の授業で全体に対してフィードバックし、他の受講生に共有することがある。	
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕 授業前にmanabaに掲載する資料を読んでおくこと。授業の冒頭に確認する。 また授業中に次回までの課題を出された場合は、それを完成させて授業に臨むこと。課題には、授業のトピックに関連する新聞・インターネット・雑誌などの情報提供を求めるとも含むため、日ごろから情報へアクセスする習慣をつけるよう心掛けること。	
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕 40	
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕 期末レポート35%、授業内での課題35%、受講態度30%	
〔留意事項（Other Information）〕 ・第1回目の授業は可能な限り出席すること。出席せずに本授業の履修を希望する場合は担当教員にその旨を第2回授業までに連絡をすること。 ・受講生数や受講生の関心によって、授業の順番を入れ替えたり授業内容の一部を変更することがある。 ・「受講態度」に出席回数は含まない。 ・授業を欠席した場合の「課題点」は0点になるので注意すること。 ・対面授業を基本とするが、状況によって変更することもある。 ・授業資料は授業の3日前までにmanabaに掲載する。必要な場合は各自で印刷して持参すること。 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕 テキストは使用しない。	

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『消費経済学入門』／樋口一清／中央経済社／2019／978-4-502-30751-5

『新しい消費者教育第2版：これからの消費生活を考える』／神山久美ら編著／慶應義塾大学出版会／2019／978-4766426335

『消費社会の新潮流』／間々田孝夫編／立教大学出版会／2015／978-4-901988-28-8

『消費社会論』／間々田孝夫／有斐閣／2000／4-641-07631-6

『消費者理解のための心理学』杉本徹雄編／福村出版／1997／4-571-25025-8

〔参考URL(URL for Reference)〕

消費者庁ウェブサイト <https://www.caa.go.jp/>

消費者白書 https://www.caa.go.jp/publication/annual_reports/

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活環境概論

SLB1203N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

金曜 4限

DP2：知識・理解力

60

三好 明夫 青木 加奈子 佐藤 純 藤原 智子 竹原 広実 大風 薫 矢島 雅子 中村 久美 酒井 久美子 加藤 佐千子 牛田 好美 安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人間の暮らしに関する知識や理解を深めるために、本科目を、衣・食・住・家族・生活経営、福祉等の領域を総合的に学ぶ専門基礎科目、すなわち、生活環境学科専門科目の入門として位置付ける。講義を通して、生活科学、社会福祉学および関連領域に関する基礎知識を身につけ、人の生活を生活環境の側面からとらえ、暮らしにかかわる多様な課題を理解することからはじめる。これらの学びを通して、4年間の自身の成長を見据え、4年後にどのような社会人になって巣立とうとするのかを自覚し、その目標を明確にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 人の生活を生活環境の側面からとらえる
- 2) 暮らしにかかわる多様な課題を理解する
- 3) 課題の本質を探り、解決に向けて、より良い方向を見出すために必要な知識や技術について理解する
- 4) 1) から 3) をベースに、4年後の成長した自分を想像し、4年後の目標を立てる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	各領域のどの内容にも関心がない	生活と福祉の内容に興味を持てる	自分の興味のある専門領域がわかる	興味のある領域を決定し、進むべきコースを決定できる
知識・理解力	生活環境概論の内容構成を理解できない	生活環境概論の内容構成を理解できている	各論の一部を取り挙げて他者に説明ができる	身についた知識をもとに発展学習ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義の概要、評価の仕方等 (牛田好美)
生活環境学の今 (藤原智子)
- 第 2 回 最も身近な環境一装いところ (牛田好美)
- 第 3 回 幸福(well-being)を環境(社会)との関係から考える一暮らし・こころ・そして福祉 (佐藤純)
- 第 4 回 環境に配慮した衣服材料や衣生活の現状と課題 (安川涼子)
- 第 5 回 未来を育む食生活 (藤原智子)
- 第 6 回 日本の建築、住まいの美学 (竹原広実)
- 第 7 回 多様な「家族」のかたちと生活環境 (青木加奈子)
- 第 8 回 働き方とライフプランニング (大風薫)
- 第 9 回 高齢者福祉の現状と課題 (三好明夫)
- 第 10 回 障がいのある人の豊かな暮らしを目指して (矢島雅子)
- 第 11 回 こころの健康・精神「障がい」を環境(社会)との関係から考える一精神保健福祉士は困難に直面している人をどのように支援するのか (佐藤純)
- 第 12 回 健康と食環境 (加藤佐千子)
- 第 13 回 住み方の視点から捉える生活環境 (中村久美)
- 第 14 回 安全・安心して暮らせる地域生活環境について (酒井久美子)
- 第 15 回 授業のまとめ一キャリアを見据えた学びに向けて (青木加奈子)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・授業は、講義を中心に行う。授業内容に応じて、DVD、OHC、スライドを用いる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・各回授業の資料をよく読み、疑問点を明確にして、授業に臨むこと。

・日常の生活に関心を持ち、新聞やニュースを見る習慣をつけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 1) 小レポートの提出(1本5点～9点で採点し加算する)
- 2) 小レポートの提出が課題設定の3分の2に満たない場合は、原則として1)の算定を適用できない。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ 出席はレスポンスを使用する。
- ・ 講義内容や順番については変更することがある。
- ・ オムニバス科目のため、授業を欠席した場合は、授業担当教員に措置を尋ねること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

manabaコンテンツに資料を掲載するので、必ず確認して授業に臨むこと

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

三好明夫： 社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験
 特定非営利活動法人理事長としてNPO法人団体経営の実務経験

佐藤 純： 精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子： 企業における工学系開発業務

女性と家族のソーシャルワーク

SLB1204N0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

月曜 4限

DP2：知識・理解力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会の中で位置づけられている「女性」という立場や、ともすると押しつけられている「家族」に対する過剰な期待の位置づけを認識するとともに、社会の女性や家族の先入観や社会的排除を改善する方法について検討し、女性や家族がそれぞれ自分らしく、その家族らしく生きることへの支援についての基本を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 社会の中で位置づけられている「女性」の立場について多面的に説明できる
- 2 社会の中で位置づけられている「家族」に対する過剰な期待の位置づけについて多面的に説明できる
- 3 「女性」に対するソーシャルワークのあり方について説明できる
- 4 「家族」に対するソーシャルワークのあり方について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

「女性」に対するソーシャルワークのあり方について説明できる	「女性」に対するソーシャルワークのあり方について説明できない	「女性」に対するソーシャルワークのあり方について基本的な点は説明できる	「女性」に対するソーシャルワークのあり方について社会的観点からも加えて説明できる	「女性」に対するソーシャルワークのあり方について海外との比較からも加えて説明できる
「家族」に対するソーシャルワークのあり方について説明できる	「家族」に対するソーシャルワークのあり方について説明できない	「家族」に対するソーシャルワークのあり方について基本的な点は説明できる	「家族」に対するソーシャルワークのあり方について社会的観点からも加えて説明できる	「家族」に対するソーシャルワークのあり方について海外との比較からも加えて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 女性と家族のソーシャルワークとは
- 第 2 回 ソーシャルワークとは
- 第 3 回 社会における「女性」の位置づけ
- 第 4 回 世界における「女性」の位置づけ
- 第 5 回 社会における「家族」の位置づけ
- 第 6 回 世界における「家族」の位置づけ
- 第 7 回 「児童虐待」と女性・家族
- 第 8 回 「児童虐待」の支援の現場から
外部講師
- 第 9 回 「DV」と女性支援・家族支援
- 第 10 回 「DV」の支援の現場から
外部講師
- 第 11 回 「貧困」と女性・家族
- 第 12 回 「貧困」の支援の現場から
外部講師
- 第 13 回 「女性」に対するソーシャルワーク
- 第 14 回 「家族」に対するソーシャルワーク
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に関連のあるテーマをインターネット等で調べ、概要を理解しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート点 (35点) で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が高いので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・『ソーシャルワーカーのための女性支援ガイドブック』/女性の暮らしやすさを考えるソーシャルワーク研究会編著/中央法規 /2019/978-4-8058-5906-3/

・『女性の生きづらさ その痛みを語る こころの科学Special Issue (こころの科学増刊)』/信田さよ子著/日本評論社/2019/978-4-535-90455-2

・『生き延びるためのアディクション—嵐の後を生きる「彼女たち」へのソーシャルワーク』/大嶋栄子著/金剛出版/2019/978-4-772-41727-3

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

生活環境基礎演習ⅡC 2021年度以降入学者

SLF1251C0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、生活環境基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

5つのテーマワークでの体験から広く生活環境の基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス キャリア形成カルテの確認

第2回 テーマワーク①-1 「食べる」(日常の食事)

第3回 テーマワーク①-2 「食べる」(ティータイムのもてなし)

第4回 テーマワーク①のふりかえり・学びの共有

第5回 テーマワーク②-1 「装う」(衣服素材の理解)

第6回 テーマワーク②-2 「装う」(身体形態の理解とデザイン実習)

第7回 テーマワーク③「住まう」(インテリアコーディネート体験)

第8回 テーマワーク②③のふりかえり・学びの共有

第9回 テーマワーク④-1 「営む」(マネープランニング)

第10回 テーマワーク④-2 「営む」(さまざまな保険と家計)

第11回 テーマワーク⑤-1 「支える」(傾聴)

第12回 テーマワーク⑤-2 「支える」(車いす体験)

第13回 テーマワーク④⑤のふりかえり・学びの共有

第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業

第15回 全体のふりかえりとキャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 生活環境基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに5つのテーマワークに取り組む。

(2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。

(3) 5つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活環境の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート): 50%

(2) レポート: 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」の各テーマワークを小グループごとに体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの内容が一部変更になる可能性がある。第1回目の授業には必ず出席すること。

テーマワークの担当者

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 竹原広実

「営む」: 青木加奈子、大風薫

「支える」: 佐藤純、矢島雅子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子：企業における工学系開発業務

佐藤純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

生活環境基礎演習ⅡD 2021年度以降入学者

SLF1251D0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

金曜3限

DP2：知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、生活環境基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

5つのテーマワークでの体験から広く生活環境の基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	生活環境に関わる知識を説明できない	生活環境に関わる複数領域の知識を説明できる	生活環境に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	生活環境に関わる知識を広く総合的に説明できる

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス キャリア形成カルテの確認
- 第2回 テーマワーク①-1「食べる」(日常の食事)
- 第3回 テーマワーク①-2「食べる」(ティータイムのもてなし)
- 第4回 テーマワーク①のふりかえり・学びの共有
- 第5回 テーマワーク②-1「装う」(衣服素材の理解)

第6回 テーマワーク②-2「装う」(身体形態の理解とデザイン実習)

第7回 テーマワーク③「住まう」(インテリアコーディネート体験)

第8回 テーマワーク②③のふりかえり・学びの共有

第9回 テーマワーク④-1「営む」(マネープランニング)

第10回 テーマワーク④-2「営む」(さまざまな保険と家計)

第11回 テーマワーク⑤-1「支える」(傾聴)

第12回 テーマワーク⑤-2「支える」(車いす体験)

第13回 テーマワーク④⑤のふりかえり・学びの共有

第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業

第15回 全体のふりかえりとキャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 生活環境基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに5つのテーマワークに取り組む。

(2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。

(3) 5つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活環境の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」の各テーマワークを小グループごとに体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの内容が一部変更になる可能性がある。第1回目の授業には必ず出席すること。

テーマワークの担当者

「食べる」：加藤佐千子、藤原智子

「装う」：牛田好美、安川涼子

「住まう」：竹原広実

「営む」：青木加奈子、大風薫

「支える」：佐藤純、矢島雅子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子：企業における工学系開発業務

佐藤純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

生活環境基礎演習Ⅱ E 2021年度以降入学者

SLF1251E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2：知識・理解力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、生活環境基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

5つのテーマワークでの体験から広く生活環境の基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス キャリア形成カルテの確認
- 第2回 テーマワーク①-1「食べる」(日常の食事)
- 第3回 テーマワーク①-2「食べる」(ティータイムのもてなし)
- 第4回 テーマワーク①のふりかえり・学びの共有
- 第5回 テーマワーク②-1「装う」(衣服素材の理解)
- 第6回 テーマワーク②-2「装う」(身体形態の理解とデザイン実習)
- 第7回 テーマワーク③「住まう」(インテリアコーディネート体験)
- 第8回 テーマワーク②③のふりかえり・学びの共有
- 第9回 テーマワーク④-1「営む」(マネープランニング)
- 第10回 テーマワーク④-2「営む」(さまざまな保険と家計)
- 第11回 テーマワーク⑤-1「支える」(傾聴)
- 第12回 テーマワーク⑤-2「支える」(車いす体験)
- 第13回 テーマワーク④⑤のふりかえり・学びの共有
- 第14回 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業
- 第15回 全体のふりかえりとキャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 生活環境基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに5つのテーマワークに取り組む。

(2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。

(3) 5つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活環境の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」の各テーマワークを小グループごとに体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの内容が一部変更になる可能性がある。第1回目の授業には必ず出席すること。

テーマワークの担当者

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 竹原広実

「営む」: 青木加奈子、大風薫

「支える」: 佐藤純、矢島雅子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子：企業における工学系開発業務

佐藤純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

住居学概論（製図含む） 2021年度以降入学者

SLB1251NOJ

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2：知識・理解力

60

竹原 広実

〔科目の教育目標（Course Description）〕

- ・住まいのかたちと風土気候との関係を知り、環境共生について考える。
- ・個人や家族がライフスタイルを尊重した住生活について考える。
- ・健康的で安全、快適な住まいについて理解し、室内環境を維持・調整方法を考える。
- ・授業で得た知識を現実の課題への解決策へと内省できる力を身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・日本の住宅、および住生活の現状を理解する
- ・現代日本の住生活の課題と住宅政策や環境問題について理解する
- ・実生活の中で住居に関する身近な課題を発見する。
- ・暮らしの基盤としての住生活を理解し、知識を内省し課題に対して提案する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
住居学に対する理解	住居学が包含する諸単元についてほとんど認識していない	住居学を構成する諸単元については大体認識している	住居学を構成する諸単元の詳細について理解しているものもあればわからないものもある	住居学を構成する諸単元すべてについて理解している。
主体的に学ぶこと	事前に提供されたテキストや資料をみて予習しない	予習ノートを作成して授業を聴く。事前に不明点を明らかにしておく。	提供されたテキストや資料以外に、自ら他の文献やネットで関連情報を収集する	授業での気づきを他の情報を収集し、ノートに追記するなど復習する。
思考・解決力	予習で自分の理解を把握していない。	授業中に実施する確認テストやブレイクイズに積極的に参加しない	授業中の事例に関して理解している。	授業を通して得た知識を、身近な課題の解決へと内省し提案できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
住居学の学問的位置づけの理解、授業の進行に関する説明、予習コンテンツに関する説明。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 2 回 サステイナブル社会の住まい
確認テスト。サステイナブル社会の理解と持続可能な政策のひとつとしての住居のあり方を考察する。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 3 回 住まいを取り巻く環境
確認テスト。住宅と風土気候との関連について考察する。
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 4 回 住生活のあり方と変遷
確認テスト。堅穴住居から今日の住居までの変遷の背景を理解し今後のあり方を考える。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 5 回 住生活のための人間工学
確認テスト。人の身体寸法、動作特性などを住宅設計に反映する意味を理解する。
ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 6 回 住まいの環境調整
確認テスト。熱、光、音など自然科学の観点から快適な住まいを考える。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 7 回 住まいの空気
確認テスト。室内空気汚染への理解と対応を考える。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 8 回 住まいの材料、構造、構法
確認テスト。住まいを形成する材料や構造・構法が住宅内環境に及ぼす影響を考える。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 9 回 住まいの安心、安全
確認テスト。日常災害、非常災害に強い住宅のあり方を考える。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 10 回 ユニバーサルデザイン
確認テスト。ユニバーサルデザインの社会課題と現実の対応事例を知り今後のあり方を考察する。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 11 回 インテリアデザインと心理効果
確認テスト。インテリアデザインと感覚・感情・行動との関連を知り適切なデザインを考える。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 12 回 住まいの設備
確認テスト。社会インフラとしての給排水、衛生設備を理解する。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 13 回 住まいの法律
確認テスト。住まいに関する法律を知り、住宅や街など生活空間の形成にどう関連しているか考える。ミニットペーパーの提出と相互評価
- 第 14 回 住まいの設計手法（製図）

確認テスト。製図の意味を理解し、基礎的な記号などを知る。簡単な住居設計の製図を行う。ミニットペーパーの提出と相互評価

第 15 回 エクステリア・ランドスケープ

確認テスト。エクステリアの社会的意義の理解、日本庭園を理解する。ミニットペーパーの提出と相互評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

manabaにより事前に配信する予習コンテンツとテキストでノートを作成したうえで授業に臨むことを推奨する。授業方法は講義とresponを使った参加型の形式である。授業は冒頭に予習の確認テストを行い要点の理解度を確認する。その理解度の様子を見て授業を進める。主たる授業内容は知識をもとに現実の課題に気づくこと、そしてどう解決するか、解のない問題に対して自分なりの解を考えることである。授業時間の最後にミニットペーパーを実施し、知識を内省する。ミニットペーパーは相互評価を行うことにより自分の理解の位置づけをし、他者の意見を知る。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時に次のキーワードを伝える。授業は予習して臨むことを強く推奨する。予習方法は、事前にmanabaで配信する予習コンテンツやテキストを学習すること、関連する書籍、ネット情報を収集するなどして自分のノートを作成すること、また不明点を明らかにしておくことなどである。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

予習に関する確認テスト (14回 40%) とミニットペーパー15回 (45~60%) により評価する。確認テストとミニットペーパーはresponで実施する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

私たちの住居学(第2版): サステナブル社会の住まいと暮らし/中根芳一/オーム社//2019/4274223485/学内販売

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活環境基礎演習 II A 2021年度以降入学者

SLF1251A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

大風 薫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、生活環境基礎演習 I を通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

5つのテーマワークでの体験から広く生活環境の基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス キャリア形成カルテの確認
- 第 2 回 テーマワーク①-1 「食べる」(日常の食事)
- 第 3 回 テーマワーク①-2 「食べる」(ティータイムのもてなし)
- 第 4 回 テーマワーク①のふりかえり・学びの共有
- 第 5 回 テーマワーク②-1 「装う」(衣服素材の理解)
- 第 6 回 テーマワーク②-2 「装う」(身体形態の理解とデザイン実習)
- 第 7 回 テーマワーク③「住まう」(インテリアコーディネート体験)
- 第 8 回 テーマワーク②③のふりかえり・学びの共有
- 第 9 回 テーマワーク④-1 「営む」(マネープランニング)
- 第 10 回 テーマワーク④-2 「営む」(さまざまな保険と家計)
- 第 11 回 テーマワーク⑤-1 「支える」(傾聴)
- 第 12 回 テーマワーク⑤-2 「支える」(車いす体験)
- 第 13 回 テーマワーク④⑤のふりかえり・学びの共有
- 第 14 回 福祉生活デザイン基礎演習IVと合同授業
- 第 15 回 全体のふりかえりとキャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 生活環境基礎演習 I と同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに5つのテーマワークに取り組む。

(2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。

(3) 5つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活環境の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」の各テーマワークを小グループごとに体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの内容が一部変更になる可能性がある。第1回目の授業には必ず出席すること。

テーマワークの担当者

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 竹原広実

「営む」: 青木加奈子、大風薫

「支える」: 佐藤純、矢島雅子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子: 企業における工学系開発業務

佐藤純: 精神保健福祉士として行政での勤務経験

生活環境基礎演習 II B 2021年度以降入学者

SLF1251B0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、生活環境基礎演習 I を通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、

生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

5つのテーマワークでの体験から広く生活環境の基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス キャリア形成カルテの確認

第2回 テーマワーク①-1 「食べる」(日常の食事)

第3回 テーマワーク①-2 「食べる」(ティータイムのもてなし)

第4回 テーマワーク①のふりかえり・学びの共有

第5回 テーマワーク②-1 「装う」(衣服素材の理解)

第6回 テーマワーク②-2 「装う」(身体形態の理解とデザイン実習)

第7回 テーマワーク③「住まう」(インテリアコーディネート体験)

第8回 テーマワーク②③のふりかえり・学びの共有

第9回 テーマワーク④-1 「営む」(マネープランニング)

第10回 テーマワーク④-2 「営む」(さまざまな保険と家計)

第11回 テーマワーク⑤-1 「支える」(傾聴)

第12回 テーマワーク⑤-2 「支える」(車いす体験)

第13回 テーマワーク④⑤のふりかえり・学びの共有

第14回 福祉生活デザイン基礎演習IVと合同授業

第15回 全体のふりかえりとキャリア形成カルテの確認

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 生活環境基礎演習 I と同一クラスを構成する。この各クラス内で2~3人程度の小グループを構成し、小グループごとに5つのテーマワークに取り組む。

(2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。

(3) 5つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活環境の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%

(2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

〔留意事項 (Other Information)〕

「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」の各テーマワークを小グループごとに体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの内容が一部変更になる可能性がある。第1回目の授業には必ず出席すること。

テーマワークの担当者

「食べる」：加藤佐千子、藤原智子

「装う」：牛田好美、安川涼子

「住まう」：竹原広実

「営む」：青木加奈子、大風薫

「支える」：佐藤純、矢島雅子

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

別途案内する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子：企業における工学系開発業務

佐藤純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

生活環境基礎演習ⅠA 2021年度以降入学者

SLF1301A0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP3：言語力

60

大風 薫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を修得し、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。また、本学での学習に必要な基礎的技能を修得し、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を養う。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。

4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。

5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは生活環境基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

キャリア自己形成システムの確認

第 2 回 ノートのとり方

第 3 回 テキストの読み方

第 4 回 新書1：要約

要約の仕方

第 5 回 新書1：意見

意見の書き方

第 6 回 新書1：ディスカッション

ディスカッション、議事録の書き方

第 7 回 新書1：レポート

レポートの書き方

第 8 回 新書2：要約

第 9 回 新書2：意見

第 10 回 新書2：ディスカッション

第 11 回 新書2：レポート

第 12 回 新書3：要約、意見

第 13 回 新書3：ディスカッション

第 14 回 新書3：レポート

第 15 回 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活環境基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。

2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。

3) 毎週出される課題は必ず行うこと。

4) テキスト：別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 第5版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2019/978-4-87424-789-1 C1081/学内販売予定

その他は別途案内する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子：企業における工学系開発業務

佐藤純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

生活環境基礎演習ⅠB 2021年度以降入学者

SLF1301B0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP3：言語力

60

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を修得し、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。また、本学での学習に必要な基礎的技能を修得し、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を養う。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは生活環境基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認
- 第2回 ノートのとり方
- 第3回 テキストの読み方
- 第4回 新書1：要約
要約の仕方
- 第5回 新書1：意見

意見の書き方

第6回 新書1：ディスカッション
ディスカッション、議事録の書き方

第7回 新書1：レポート
レポートの書き方

第8回 新書2：要約

第9回 新書2：意見

第10回 新書2：ディスカッション

第11回 新書2：レポート

第12回 新書3：要約、意見

第13回 新書3：ディスカッション

第14回 新書3：レポート

第15回 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活環境基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。
- 3) 毎週出される課題は必ず行うこと。
- 4) テキスト：別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 第5版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2019/978-4-87424-789-1 C1081/学内販売予定

その他は別途案内する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子：企業における工学系開発業務

佐藤純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

生活環境基礎演習ⅠC 2021年度以降入学者

SLF1301C0J
大学
現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
1年次
2単位 前期
金曜 3限
DP3: 言語力
60
藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を修得し、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。また、本学での学習に必要な基礎的技能を修得し、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を養う。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは生活環境基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔授業計画〕

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認 |
| 第2回 | ノートのとり方 |
| 第3回 | テキストの読み方 |
| 第4回 | 新書1: 要約
要約の仕方 |
| 第5回 | 新書1: 意見
意見の書き方 |
| 第6回 | 新書1: ディスカッション
ディスカッション、議事録の書き方 |
| 第7回 | 新書1: レポート
レポートの書き方 |
| 第8回 | 新書2: 要約 |
| 第9回 | 新書2: 意見 |
| 第10回 | 新書2: ディスカッション |
| 第11回 | 新書2: レポート |
| 第12回 | 新書3: 要約、意見 |
| 第13回 | 新書3: ディスカッション |
| 第14回 | 新書3: レポート |
| 第15回 | 全体の振り返り |

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活環境基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。
- 3) 毎週出される課題は必ず行うこと。
- 4) テキスト: 別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 第5版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2019/978-4-87424-789-1 C1081/学内販売予定
その他は別途案内する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子: 企業における工学系開発業務

佐藤純: 精神保健福祉士として行政での勤務経験

生活環境基礎演習ⅠD 2021年度以降入学者

SLF1301D0J
大学
現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
1年次
2単位 前期
金曜 3限
DP3: 言語力
60
矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通

して、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を修得し、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。また、本学での学習に必要な基礎的技能を修得し、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を養う。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは生活環境基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔授業計画〕

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認 |
| 第 2 回 | ノートのとり方 |
| 第 3 回 | テキストの読み方 |
| 第 4 回 | 新書1：要約
要約の仕方 |
| 第 5 回 | 新書1：意見
意見の書き方 |
| 第 6 回 | 新書1：ディスカッション
ディスカッション、議事録の書き方 |
| 第 7 回 | 新書1：レポート
レポートの書き方 |
| 第 8 回 | 新書2：要約 |
| 第 9 回 | 新書2：意見 |
| 第 10 回 | 新書2：ディスカッション |
| 第 11 回 | 新書2：レポート |
| 第 12 回 | 新書3：要約、意見 |
| 第 13 回 | 新書3：ディスカッション |
| 第 14 回 | 新書3：レポート |
| 第 15 回 | 全体の振り返り |

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活環境基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。
- 3) 毎週出される課題は必ず行うこと。
- 4) テキスト：別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 第5版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2019/978-4-87424-789-1 C1081/学内販売予定

その他は別途案内する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子：企業における工学系開発業務

佐藤純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

生活環境基礎演習ⅠE 2021年度以降入学者

SLF1301E0J

大学

現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科

1年次

2単位 前期

金曜3限

DP3：言語力

60

安川 涼子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を修得し、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。また、本学での学習に必要な基礎的技能を修得し、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を養う。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。

3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。

4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。

5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは生活環境基礎演習Ⅱの評価に加える。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力・言語力	要約することができない。	本を読んで指定された箇所を要約できる。	著者の意図を踏まえて適切に要約できる。	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら著者の意図を踏まえて適切に要約できる。
共生・協働する力	資料を準備してディスカッションに参加できない。	資料を準備してディスカッションに参加する。	メンバーの議論を踏まえてさらにディスカッションを深めることができる。	メンバーの議論を踏まえてディスカッションをする中で新しい見方や考え方を創造できる。
思考・解決力・創造・発信力	レポートを作成できない。	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成できる。	要約とディスカッションを踏まえて、さらに文献を調べて内容を深めたレポートを作成できる。	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成し、素地の中で新しい見方や考え方を深めた考察を入れられる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
キャリア自己形成システムの確認
- 第 2 回 ノートのとり方
- 第 3 回 テキストの読み方
- 第 4 回 新書1: 要約
要約の仕方
- 第 5 回 新書1: 意見
意見の書き方
- 第 6 回 新書1: ディスカッション
ディスカッション、議事録の書き方
- 第 7 回 新書1: レポート
レポートの書き方
- 第 8 回 新書2: 要約
- 第 9 回 新書2: 意見
- 第 10 回 新書2: ディスカッション
- 第 11 回 新書2: レポート

第 12 回 新書3: 要約、意見

第 13 回 新書3: ディスカッション

第 14 回 新書3: レポート

第 15 回 全体の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1) 10数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活環境基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。

2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。

3) 毎週出される課題は必ず行うこと。

4) テキスト: 別途購入を指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『知へのステップ 第5版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2019/978-4-87424-789-1 C1081/学内販売予定

その他は別途案内する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

安川涼子: 企業における工学系開発業務

佐藤純: 精神保健福祉士として行政での勤務経験

精神保健福祉の原理 I 2021年度以降入学者

SWR1252NOJ
 大学
 現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
 1年次
 2単位 後期
 月曜 4限
 DP2：知識・理解力
 60
 佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- 1) 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み (理念・視点・関係性) について理解する。
- 2) 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
- 3) 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 社会モデルを用いて「障害」を説明できること
- 2) 精神障害者の障害特性やその生活上の困難について説明できること
- 3) 精神「障害」のある当事者やその家族と置かれている状況について説明できること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害者の「障害」やその生活支援について説明できること	精神障害者の「障害」やその生活支援について説明できない	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できる	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できるとともに社会関係からも説明を加えることができる	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できるとともに、海外や日本の特性も加えて説明を加えることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションーソーシャルワークとは
- 第 2 回 精神保健福祉士とは
- 第 3 回 障害者福祉の思想と原理
- 第 4 回 障害者福祉の理念
- 第 5 回 障害者福祉の歴史的展開
- 第 6 回 障害者福祉の現状
- 第 7 回 国際生活機能分類 (ICF)
- 第 8 回 精神疾患と精神「障害」
- 第 9 回 各法における「精神障害者」の定義

- 第 10 回 日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事 (昭和まで)
 - 第 11 回 日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事 (平成以降)
 - 第 12 回 社会的排除と社会的障壁 諸外国の動向
 - 第 13 回 日本の社会的障壁
 - 第 14 回 精神障害をどうとらえるか (まとめ)
 - 第 15 回 理解度確認テスト・解答解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に manaba に記入し授業終了時に提出します。次回の授業までには教員がコメントを記入して manaba に返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前にテキストを読み、概要を理解しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト50点、レポート35点、授業参加度15点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神保健福祉の原理』/最新・精神保健福祉士養成講座/日本精神保健福祉養成校協会編/中央法規/2021/978-4-8058-8256-6/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

PSA3502NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次 4年次

2単位 前期

火曜4限

DP5：共生・協働する力

60

佐藤 睦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

学校臨床には、幅広い領域に関する知識が必要とされる。また、対象となるクライアントも、児童生徒・教員・保護者と多岐にわたる。本講義では、初めにすべての心理学に共通な学校臨床心理の基本的概念を学んだ後、学校における実践例を提示しながら、さまざまな症状を訴える児童生徒に対するカウンセリング、教員・保護者に対するコンサルテーションのありかたについて、実践例を交えて考察し、学んでいく。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学校臨床における基礎的知識について学んだ上で、学校臨床の特色や、スクールカウンセラーとはどのような仕事をするのかを学ぶ。
2. 学校で相談活動を行なう上でのクライアントとスクールカウンセラーとの関係性・責任・倫理について学ぶ。
3. スクールカウンセラーが学校に存在する意味について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に取り組みようとしない（理由のある場合を除く）	課題に取り組む	積極的に課題に取り組む	積極的に課題に取り組み、授業の中でも発言する
知識・理解力	準備学習をしない（理由のある場合を除く）	準備学習をする	準備学習とともに授業における学びを深める	準備学習をもとに授業の理解力を確かなものとする
言語力	自分の考えを表現しない（理由のある場合を除く）	自分の考えを表現する	自分の考えを相手の受け取りやすさを考えて表現する	自分の考えの発表だけでなく、他者の意見も丁寧に聞き取ることができる
思考・解決力	課題を提出しない（理由のある場合を除く）	課題を提出する	オリジナルな視点を加えつつ課題に取り組む	自分だけでなく、他者の視点に立って課題を作成し提出する

共生・協働する力	ディスカッションに参加しない（理由のある場合を除く）	ディスカッションに参加する	ディスカッションに積極的に参加する	ディスカッションに積極的に参加し、リーダー的役割を果たそうとする
創造・発信力	発言しようとしめない（理由のある場合を除く）	自分の意見を発言する	自分の意見をわかりやすく発言する	適切な状況で積極的に発言する

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校臨床における近年の課題について
- 第 2 回 学校臨床における連携について
- 第 3 回 学校現場における事例の提示とディスカッション（不登校生母親の事例）
- 第 4 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 5 回 学校現場における事例の提示とディスカッション（神経症の生徒の事例）
- 第 6 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 7 回 学校現場における事例の提示と個人課題（非行の事例）
- 第 8 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 9 回 学校現場における事例の提示とディスカッション（虐待が疑われる事例）
- 第 10 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 11 回 学校現場における事例の提示とディスカッション（発達障害の事例）
- 第 12 回 上記事例に関するディスカッションの結果と解説
- 第 13 回 これまでの事例に関する振り返りとまとめ
- 第 14 回 到達度確認の課題
- 第 15 回 到達度確認課題結果の振り返りとまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は講義とディスカッションを中心に行なう。学校臨床について基礎的知識について講義を行った後、ディスカッションに入る。ディスカッションは、クライアントに対するアプローチについて検討し、クライアントの病理について解説する講義を2回に分けて行ない、時間をかけて考察することとなる。各自のディスカッションへの積極的な参加姿勢を期待している。また、実践例の授業が終了するごとにレポートを課す。

これらの体験の中から、学校臨床とは何か、スクールカウンセラーの役割とは何かを考え理解することを目標として学習を進める。

授業を受けたいと思う学生のうち、ディスカッションが苦手な者は遠慮なく申し出ること。個別に相談して、学びたい意欲に応じていきたいと思っています。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の振り返りを行い、結果をレポートとしてmanabaより提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業内で課されるレポートの提出回数が約30%と期末に行なわれる課題が50%、その他、授業参加度（ディスカッションに積極的に参加しているかどうか）を20%として評価を行う。また、授業中の発問と学生の解答に対しては、適宜口頭でフィードバックする。

〔留意事項 (Other Information)〕

ディスカッションのグループは、前半と後半で組み替える。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として医療機関・教育機関での経験あり

感情・人格心理学 2021年度以降入学者

PSA2207N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 後期

火曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、主として情意的側面から人格について理解し、その形成や変化に影響する要因について学ぶ。パーソナリティの類型論と特性論を理解した後、代表的アプローチである精神分析学、学習理論、認知理論等について学び、各理論が基礎とする人間観について知る。また、測定や査定についての基礎知識を習得するため、講義では代表的な性格検査を紹介し、各方法の特徴や測定に関する倫理の問題について論じる。さらに本科目では、パーソナリティとも関連の深い感情について学ぶ。代表的な感情理論への理解を深め、感情喚起のメカニズムや感情が行動に及ぼす影響等について、具体的かつ日常的な例を通して学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. パーソナリティの形成や変化の要因について考える。
2. パーソナリティに関する代表的アプローチについて学ぶ。
3. パーソナリティの測定法およびその特徴について学ぶ。
4. 感情に関する代表的な理論を学ぶ。
5. 感情の働きやその影響について知る。

4. 価値や道徳による評価とは異なる立場から、個人差を捉える視点を持つ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
感情や人格に関する基礎的な心理学専門用語の知識と理解	専門用語やその意味を知らない。	特定の専門用語やその意味のみを理解している。	幾つかの専門用語やその意味を理解している。	専門用語やその意味を理解している。
感情や人格に関する主要な理論とその背景にある人間観についての知識と理解	理論や理論の背景にある人間観を知らない。	特定の理論や理論の背景にある人間観のみを理解している。	幾つかの理論や理論の背景にある人間観を理解している。	主要な理論や理論の背景にある人間観を理解している。
感情や人格の心理学的測定法や留意点についての知識と理解	心理学的測定法や留意点を知らない。	特定の測定法や留意点についてのみ理解している。	幾つかの測定法や留意点について理解している。	測定法や留意点について理解している。
主体的に学ぶこと	授業内・授業外での課題に取り組もうとしない。課題を提出しない。	授業内・授業外での課題に取り組む。課題を提出する。	授業内・授業外での課題について、独自の視点を加えて取り組み、提出する。	授業内・授業外での課題について、複数の独創的な視点にもとづいて課題を作成し、自らの考えを深め、その結果を提出する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 パーソナリティとは
- 第 2 回 パーソナリティ研究の歴史
- 第 3 回 パーソナリティ形成と変化の要因：遺伝と環境
- 第 4 回 パーソナリティの理論 (1)：類型論と特性論
- 第 5 回 パーソナリティの理論 (2)：精神分析理論からみたパーソナリティ
- 第 6 回 パーソナリティの理論 (3)：行動理論からみたパーソナリティ
- 第 7 回 パーソナリティの理論 (4)：認知理論からみたパーソナリティ
- 第 8 回 パーソナリティ測定法：質問紙法
- 第 9 回 パーソナリティ測定法：作業検査法・投影法
- 第 10 回 パーソナリティ測定法：観察法・実験法・面接法
- 第 11 回 測定・査定における留意点と倫理
- 第 12 回 パーソナリティと感情
- 第 13 回 感情の理論
- 第 14 回 感情が行動に及ぼす影響

第 15 回 到達度確認テストと解説・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業中に資料を配布するので、各自で整理して学習に活用すること。また、毎回の講義で「前回の講義内容の復習」の時間を設けるので、この時間を活用して各自が講義内容の繋がりを理解し、知識の定着に努めること。ワークシート等の課題へのフィードバックは、授業期間中に口頭あるいは文書によって行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストは使用しない。講義の中で紹介する参考資料や書籍を各自が読み込み、学んだことを理解したり、深めたりすること。「心理学概論」「心理テスト入門」「心理テスト実習」等の講義で学んだ性格や性格検査に関連する事項について復習し、この授業においても適宜参照できるようにしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中に実施する到達度確認テスト (60%)、課題・提出物・授業への取り組み態度 (40%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中に講義内容に関連した簡単な教材に反応を求めたり、作業を課したりすることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『パーソナリティ心理学』/小塩真司(著)/サイエンス社/2014/
『パーソナリティと感情の心理学』/島義弘(著)/サイエンス社/2017/

『性格心理学の技法』/杉山憲司・堀毛一也(編著)/福村出版/1999/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」臨床心理士として教育機関等の相談室での勤務経験あり。

関係行政論 2021年度以降入学者

PSA3255N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP2: 知識・理解力

60

浦田 洋

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

重大な犯罪・非行の発生等に対応して時々刻々と変遷する刑事司法制度及び少年保護制度の概要を包括的に理解できる。

両制度の中で、心理学の知見がいかに実践に活用されているかを把握できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

犯罪白書等を詳細かつ丁寧に読み込むことで、犯罪・非行、犯罪被害等に関する心理学や法律の基本的知識を身に付ける。また、提示された図表を素早く正確に理解し、重要な点を漏らさず表現できるようになる。加えて、司法・犯罪領域における心理臨床の位置付けを確認し、この領域での心理学の応用と限界について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 犯罪白書の基礎知識
犯罪白書の成り立ちと、各年の特集から見る我が国の刑事政策の流れ
- 第 2 回 平成における主な法規の変遷
刑罰法規及び処遇関係等法規の変遷
- 第 3 回 平成における犯罪・少年非行の動向 (1)
犯罪及び少年非行の動向
- 第 4 回 平成における犯罪・少年非行の動向 (2)
少年非行の動向 (続き)
諸外国における犯罪傾向
- 第 5 回 平成における犯罪者・非行少年の処遇 (1)
犯罪者の処遇 (概要, 検察, 裁判, 成人矯正, 更生保護)
- 第 6 回 平成における犯罪者・非行少年の処遇 (2)
非行少年の処遇 (概要, 検察, 裁判, 少年鑑別所, 少年院, 保護観察)
- 第 7 回 平成における犯罪者・非行少年の処遇 (3)
非行少年の処遇 (続き)
刑事司法における国際協力
- 第 8 回 平成における各種犯罪の動向と各種犯罪者の処遇 (1)
交通犯罪, 薬物犯罪, 組織犯罪, サイバー犯罪等

- 第 9 回 平成における各種犯罪の動向と各種犯罪者の処遇 (2)
児童虐待・配偶者間暴力・ストーカー等に係る犯罪
女性犯罪, 高齢者犯罪, 外国人犯罪, 精神障害の
ある者による犯罪等
- 第 10 回 平成における再犯・再非行
再犯防止対策の推進
再犯・再非行の概要
- 第 11 回 平成における犯罪被害者 (1)
犯罪被害の概要
- 第 12 回 平成における犯罪被害者 (2)
刑事司法における被害者への配慮
- 第 13 回 平成の刑事政策
令和元年版犯罪白書のまとめ
- 第 14 回 薬物犯罪についての最新の動向 (1)
薬物の概要
薬物法規の変遷
- 第 15 回 薬物犯罪についての最新の動向 (2)
薬物事犯者の処遇等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出させる。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に、パワーポイントを利用した講義を実施する。極力具体的な事例を提示し、言わば「法律等に基づく実務」についての理解を深める。また、新聞記事等に掲載された直近の事件等を紹介し丁寧に解説することで、事件等の正しい理解を進める。

なお、課題等については適宜授業の中でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で取り扱う話題に関して、予め自身が現在持っている認識等を確認して授業に臨むことで、その認識等が正しいものかどうかを授業を通じて確認できる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度 (50%), レポート課題等 (50%) にて評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『令和元年版犯罪白書』/法務省法務総合研究所編/昭和情報プロセス株式会社/2019/978-4-907343-18-7

『令和2年版犯罪白書』/法務省法務総合研究所編/株式会社/2020/ (出版待ち)

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

法務省の心理専門職として、長年犯罪者や非行少年への面接や心理検査を行い、再犯防止に寄与してきた。

高齢者の心理学 2021年度以降入学者

PSA3201N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 前期

水曜1限

DP2: 知識・理解力

60

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

高齢化社会の到来とともに、発達心理学においても高齢期をも含めた生涯発達の観点から理論が再構築されつつある。この講義では、個人差が拡大する成人期から高齢期について、心理・社会学的データを背景に、生涯発達の観点から生理・認知・パーソナリティ・対人関係・病理などの特徴や変化について学ぶことで、高齢期の心理と課題を理解できる。さらに、心理臨床現場で必要となる高齢者に対する心理的な検査・治療・援助などの方法論についても学び、心理的な支援につなげて理解できる。また、異世代が共存する社会の中で若年層の果たす役割と、老いゆく存在として必要になるエイジング・エデュケーションにも触れ、老いゆく存在として自他理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 成人期から中年期、高齢期へと向かう過程での、心理・社会的な変化について学ぶ。
2. 現代の高齢者の心理社会的な位置付けと心理的諸側面を発達および臨床の両面から学ぶ。
3. 実践の場で必要になるテストや援助のスキルを学ぶ。
4. 老若の関係性と若年層へのエイジング・エデュケーションについて、実践を通して学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	高齢者や高齢について関心を持つ	授業で得た知識を自分や身近な人の理解につなげる	授業で得た知識から自身や周囲の人々の将来展望に結びつける	授業で得た知識を自他への貢献に結びつける
知識・理解・言語力	基本的な用語や理論を言える	基本的な用語や理論を説明できる	基本的な用語や理論を説明でき、体系的に理解できる	体系的な理解のもとに、実社会と結びつけて応用的批判的に考察できる

思考・解決・創造力	授業内容について興味関心をもつ	授業内容を地域社会や他者の問題と結びつける	授業内容を社会や自他の問題解決に活用する	授業内容に自学習の知識や考察を加え、新たな社会や自他の問題解決に役立てる
共生・協働する力	集団授業のマナーを守り、他の受講生や教員と協力して学ぶ	授業内容からよりより社会や周囲の人々のかかわり考える	授業内容から社会や周囲の人々のかかわりに活かし実践する	人の幸福やよりより社会づくりに向けて考察し実践する

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 ライフサイクルの諸理論 (1) 縦断的視点
- 第 3 回 ライフサイクルの諸理論 (2) 横断的視点
- 第 4 回 青年期から成人前期へ
- 第 5 回 中年期の心理社会的特徴
- 第 6 回 老化・加齢・高齢期に関する概念および理論
- 第 7 回 高齢期の知能
- 第 8 回 高齢期の認知機能
- 第 9 回 高齢期のパーソナリティと適応
- 第 10 回 高齢期の対人関係と社会生活
- 第 11 回 高齢期の精神疾患
- 第 12 回 終末期について
- 第 13 回 高齢者に対する心理テストと心理療法
- 第 14 回 異世代間の交流とエイジング・エデュケーション
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

指定テキストはなし。適宜資料を配布、テキストの紹介をする。

講義を中心に、映像やワークなど実際に体験できるような課題も行い、それらを素材にmanabaなどを使用しながら、共有・ディスカッションも行いたい。

授業中の発問やワークシートについては、個別あるいは講義の中で適宜口頭でフィードバックする。期末レポートについては、授業終了後に返却機会を設け、評価とコメントをフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

* 授業中に呈示された資料、テキストなどを積極的に参照し、持ち帰りとなるワークについては、自らの経験と学んだ知識とを関連付けて自主的に学ぶ。

* 新聞・テレビ・インターネット等メディアで取り上げられる「若い」や「高齢者」の問題について、トピックを拾っておく。

* 身近な人々の年代、発達課題などを考えるべく、さまざまな年代の方と接点を持つように心がける。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度と授業内のワークプリント (50%)、期末レポート試験 (50%) に基づき、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

期末試験に代わる期末レポート試験を実施する。欠席が3分の1を超えた場合には、原則として期末レポートの提出ができない。

なお、授業内容や順番は、受講生の関心や理解に応じて変更する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『老年心理学』/下仲順子(編)/培風館/1997/9784563057541

『老いることの意味』/南・山田(編)/金子書房/1995/9784760892150

『高齢期の心理と臨床心理学』/下仲順子(編)/培風館/2007/9784563057060

『エピソードでつかむ老年心理学』/大川・宇都宮・日下・奥村・土田(著)/ミネルヴァ書房/2011/9784623058952

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫/臨床心理士・公認心理師として医療機関等での勤務経験あり。

司法・犯罪心理学 2021年度以降入学者

PSA3256NOJ
大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 後期集中

その他

DP2: 知識・理解力

60
浦田 洋

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

司法・犯罪分野の制度及び同分野に関係する心理臨床の領域についてその概要を説明できる。

犯罪の要因やメカニズムに関する各種理論を習得できる。

警察、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、刑事施設、保護観察所、被害支援領域における心理臨床業務に関する知識を身に付けられる。

非行・犯罪に関するアセスメント及び処遇技法に関する基礎知識を習得できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

非行・犯罪についての知識や犯罪や処遇機関の活動は、一般の学生にとってはこれまで慣れ親しんできたものではないので、理論等の説明ばかりではなく、具体的な事例を紹

介したり、視聴覚教材を利用する等して、飽きずに正しい知識を身に付けてもらう。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 司法・犯罪心理学の基礎知識
犯罪の定義, 司法における心理臨床の業務・領域, 少年・成人の司法制度
- 第 2 回 犯罪心理学の展開 (1)
ロンブローゾから現在の犯罪心理学まで
- 第 3 回 犯罪心理学の展開 (2)
エビデンスに基づく犯罪心理学
- 第 4 回 各種犯罪 (1)
財産犯・暴力犯罪
- 第 5 回 各種犯罪 (2)
高齢者の犯罪・薬物犯罪
- 第 6 回 各種犯罪 (3)
依存と関係する犯罪
- 第 7 回 各種犯罪 (4)
性犯罪 (1)
- 第 8 回 各種犯罪 (5)
性犯罪 (2)
- 第 9 回 捜査心理学 (1)
プロファイリング
- 第 10 回 捜査心理学 (2)
虚偽検出の理論・証言の心理学
- 第 11 回 精神鑑定
精神鑑定の種類と手続き
- 第 12 回 犯罪心理を扱う職種 (1)
家庭裁判所における心理臨床
- 第 13 回 犯罪心理を扱う職種 (2)
少年鑑別所における心理臨床
- 第 14 回 犯罪心理を扱う職種 (3)
少年院・刑務所における心理臨床
- 第 15 回 犯罪被害者支援
虐待・DV・性犯罪等の被害者の心理, 被害者への具体的な支援の在り方

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に, パワーポイントや動画を用いた講義を実施し, 随時, 学生の感想や意見を聴取し, 次回以降の講義に生かす。
なお, 課題等については適宜授業の中でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回の講義の題目についての自身のイメージを明確にしておくことで, 犯罪報道等から得た知識と, 学問としての犯罪心理学の知識の異同を理解でき, 受講後, 犯罪報道等を自分の目で批判的に理解できるようになる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義とテキストの理解を試験によって評価する。授業参加度50%、レポート50%。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理アセスメントの理論と実際』/高瀬由嗣、関山徹、武藤翔太(編著)/岩崎学術出版社/2020/978-4-7533-1166-8

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

法務省の心理専門職として長年, 犯罪者や非行少年への面接や心理検査を行い, 再犯防止に寄与してきた。

社会・集団・家族心理学Ⅱ(家族) 2021年度以降入学者

PSA2551N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 後期

金曜 3限

DP5: 共生・協働する力

60

福山 幸子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちは誰もが家族としての体験をもっており, それぞれの家族観をもっている。しかし, その限定された体験のみでは現代社会の家族の問題や現象を読み解くことはできない。私たちは家族についてのより広い視野を持ち, 問題の背景を考えるべきではないだろうか。家族心理学は比較的歴史の浅い分野であるが, そのような理解を手助けしてくれる学問である。

本科目では, 社会の最小単位として家族が成立し, 家族

関係が変化していく様子を改めて見直していく。その過程で現代の家族が直面している課題を様々な側面からとらえ、理解を深めるとともに、心理的援助の実際を学んでいく。さらには、家族をはじめとする様々なシステムが個人に及ぼす心理的影響についても検討する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 家族心理学の枠組みを理解する
2. 家族とは何かということ問い直す
3. 家族への心理的援助の実際を学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 家族心理学
オリエンテーション：家族心理学とは
- 第 2 回 家族心理学
家族とは何だろう①：家族システム理論
- 第 3 回 家族心理学
家族とは何だろう②：家族ライフサイクル
- 第 4 回 家族心理学
家族づくりの前の時期
- 第 5 回 家族心理学
家族の成立期
- 第 6 回 家族心理学
乳幼児を育てる時期
- 第 7 回 家族心理学
子育ての時期
- 第 8 回 家族心理学
若者世代とその家族
- 第 9 回 家族心理学
老年期の家族
- 第 10 回 家族心理学
家族の中のコミュニケーション
- 第 11 回 家族心理学
家族とジェンダー
- 第 12 回 家族心理学
家族への心理的援助の実際①：子育て支援
- 第 13 回 家族心理学
家族への心理的援助の実際②：夫婦関係の危機
- 第 14 回 家族心理学

家族への心理的援助の実際③：家族心理教育

第 15 回 家族心理学

まとめとふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

期末レポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主として講義形式で行う。授業時にミニレポートを課し、学んだことを基に自分で考え、表現する力を養う。ミニレポートに関しては、次回授業時に全体的に講評する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回までの講義資料を見直し、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。興味をもった分野については図書館で文献を探し、自主的にさらに深く学ぶこと。また、メディアで取り上げられている家族心理学関連の情報を積極的に取り入れること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度および授業時のミニレポート(50%)、期末レポート及び提出課題(50%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストは使用しない。資料は適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業のテーマに沿ったものを授業時間内に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理士・公認心理師として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

障害者・障害児心理学 2021年度以降入学者

PSA2502N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 前期

月曜 3限

DP5：共生・協働する力

60

薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「障害」という言葉の持つ意味は多様で、定義や概念も複雑である。また障害のある人は個々様々な状態ゆえ、障害種別やその基本的特徴を理解することは必須である。本科目では、障害の要因やその生理的・身体的、精神的問題について考え、行動特徴や精神機能、心理的特徴の理解を深める。更に、身体・知的・精神障害者等の支援に関して、家

族の心理や生涯発達過程における心理社会的課題に気づき、学校教育における特別支援、就労、地域生活の課題について社会的資源を含めた環境の問題等、社会の現状を知り、理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 障害とは何かを理解する。
2. 障害の要因を理解する。
3. 各障害の定義や種類と実際の状態について考える。
4. 障害による心理的特徴を理解する。
5. 障害者・障害児がおかれる環境と発達過程における心理社会的問題について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
主な障害種別についての知識を身につけ、理解を深める	身体・知的・発達・精神障害の違いについて基本的な理解ができていない、または知らない。	身体・知的・発達・精神障害の違いや定義について、資料を見ながら説明したり、レポートにまとめることができる。	身体・知的・発達・精神障害の違いや定義について、簡単な説明ができた。問いに答えられる。	身体・知的・発達・精神障害の違いや定義について、わかりやすい詳細な説明ができ、また問いに対して正確に答えられる。
障害が生じる要因についての基本的知識を身につけ、理解を深める	障害の種類によっては、誰にでも生じうる状態であることを理解できない。	障害が生じる要因やその状態にある背景要因について、多面的に考える必要があることを理解し、資料に基づき説明できる。	障害が生じる要因やその状態にある背景要因について、多面的に考えることができ、簡単な説明ができる。	障害が生じる要因やその状態にある背景要因について、多面的に考えることができ、正確に説明できる。
共生・協働する力:現代社会における障害児・者やその家族が置かれている状況や課題を知る	現代社会において、障害児・者が抱える困難や課題をイメージすることが難しく、説明できない。	現代社会において、障害児・者やその家族が抱える困難や課題をイメージできる。	現代社会において、障害児・者やその家族が抱える困難や課題をイメージでき、簡単な説明ができる。	現代社会において、障害児・者やその家族が抱える困難や課題を一般の人にもわかりやすく、詳細に説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 「障害」の概念・定義
- 第 2 回 障害者・障害児に関する施策の歴史と現状
- 第 3 回 障害の要因 (身体メカニズムとその発達および精神機能との関連)

- 第 4 回 障害の要因 (遺伝的要因と環境要因)
- 第 5 回 障害の分類 (1) 知的障害
- 第 6 回 障害の分類 (2) 運動障害と重複障害
- 第 7 回 障害の分類 (3) 視覚障害・聴覚障害
- 第 8 回 障害の分類 (4) 発達性協調運動障害
- 第 9 回 障害の分類 (5) 学習障害 (限局性学習症)
- 第 10 回 障害の分類 (6) 注意欠如・多動症
- 第 11 回 障害の分類 (7) 自閉スペクトラム症
- 第 12 回 障害の分類 (8) 精神障害
- 第 13 回 障害者・障害児の発達過程における心理社会的問題

第 14 回 障害者・障害児の家族の心理について

第 15 回 障害者・障害児の支援に関する課題とまとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。講義内容によって個別に小課題(ワーク等)を実施することがある。授業中に行った小課題については、課題日以降の授業でのコメントまたは個別に評価を返却する。また、期末テストについては、manaba上で受講者全体に向けてのコメント等でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 授業中に紹介する文献やテキストを参考に、障害や疾病についての理解を深めておく。
2. 授業で提示された課題、レジュメ資料を参考に、復習をしておく。
3. 多面的な視点で障害について考えるため、日ごろから地域活動や報道で取り上げられる障害や疾病にまつわる情報は、関心をもって調べておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中に行う小課題 (20%)、学期末に実施する試験 (80%) により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

予定されている授業内容は、順序が入れ替わることがある。また、状況によって遠隔授業を行う場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の配布資料にて、毎回呈示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として学校現場、医療・保健機関等での支援業務の経験あり。

PSA3600NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科(実践的科目)

2年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

60

空間 美智子 薦田 未央 中藤 信哉

【科目の教育目標 (Course Description)】

心理学を基礎とする対人援助の実践現場は、保健医療、福祉、教育、司法、産業など様々な分野に広がっている。本研修では、そのような実践現場の施設見学を通して、心理学が対人援助の現場でどのように役に立っているのかを学ぶことを目標とする。様々な分野における心理学の貢献の実際に広く触れることで、対人援助職の専門性を高めるための基礎とする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

受講生は、保健医療、福祉、教育、司法など、心理学を基礎とする対人援助の実践現場における研修を必須とする。また、事前事後指導を受け、施設研修の意義を深める。事後指導においては、研修によって得た知識や課題についてレポートを作成し、それをもとに報告会とグループディスカッションを行う。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
対人援助の現場についての基本的知識	事前事後指導で課された課題を提出しない。	研修で訪問する現場の仕事について基本的な用語を知り、資料に基づいた説明できる。	研修で訪問する現場の仕事について、資料や研修で学んだ知識を踏まえ、自身の理解に基づき説明できる。	研修で訪問する現場の仕事について、資料や研修で学んだ知識を踏まえ、その社会的意味や課題について考察できる。
研修先の仕事内容や対人援助の対象者に関する理解	事前事後指導、および現場研修の学習に参加せず、基本的な用語が理解できていない。	研修先の基本情報について自ら調べ、基本用語を理解できる。	研修に関連する資料や研修で学んだ知識を踏まえ、基本用語を説明し、課題を整理できる。	研修に関連する資料や研修で学んだ知識を踏まえ、課題の解決方法を考察できる。
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 事前指導1: 研修の概要や心構え
- 第 3 回 事前指導2: 保健医療分野・司法分野
- 第 4 回 事前指導3: 教育分野・福祉分野
- 第 5 回 保健医療分野・司法分野における研修1
- 第 6 回 保健医療分野・司法分野における研修2
- 第 7 回 保健医療分野・司法分野における研修3
- 第 8 回 保健医療分野・司法分野における研修4
- 第 9 回 教育分野・福祉分野における研修1
- 第 10 回 教育分野・福祉分野における研修2
- 第 11 回 教育分野・福祉分野における研修3
- 第 12 回 教育分野・福祉分野における研修4
- 第 13 回 事後指導1: 保健医療分野・司法分野のまとめと報告会
- 第 14 回 事後指導2: 教育分野・福祉分野のまとめと報告会
- 第 15 回 事後指導3: 研修全体のまとめと振り返り

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

受講者を複数のグループに分け、合同でのオリエンテーションと、ディスカッションを中心とした事前事後指導を行う。心理学の知識や技能を用いて対人援助を行っている機関や施設を訪れ、現場での実践について学ぶ。研修ごとの振り返りレポートをもとに講評を行い、学習成果の定着を図る。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

心理学が、保健医療、福祉、教育、司法などの分野において、どのように活用されているのかを文献を通じて熟知した上で、事前指導に臨んでほしい。充実した施設研修とするためには、幅広い視点から、自分なりの問題意識を明確にして持っておくことが重要である。現場に関する基礎知識が不足した状態で研修を行うことは、研修先に対して失礼となりうることも知っておくべきである。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

10

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

学外研修を含む内容であるため、原則として、全回出席が単位認定の基本条件となる。その上で、研修に取り組む態度、事後指導における学習とディスカッション、および、振り返りレポート内容から総合的に評価する。

【留意事項 (Other Information)】

本研修は、実際に対象者を受け入れている施設内の見学・研修を含むものである。そのため、事前事後指導、施設内の見学・研修における遅刻や欠席は、社会的常識として許

されるものではない。自分の将来を見据えて、真摯に取り組もうとする姿勢が特に必要となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

研修分野ごとに、必要に応じて文献等を紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 本科目担当教員は、臨床心理士・臨床発達心理士として医療機関や教育機関等の施設での勤務経験あり。心理学の知識や技能を用いて対人援助を行っている機関や施設を訪れ、現場での実践活動について学ぶ。

心理カウンセリング概論 2021年度以降入学者

PSA1500N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

火曜 2限

DP5 : 共生・協働する力

60

定員150人

中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

カウンセリング・心理療法には、様々な理論や技法があり、そのもととなる考え方や背景にある人間観も多様である。他方、種々の理論や技法に共通する、基本的な考え方、姿勢、話を聴くスキルなども存在する。本科目の教育目標は以下の通りである。

①専門的学習への基礎作りとして、カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについて理解し、説明することができる。

②カウンセリング・心理療法の基本的な流れを理解し、ポイントとなる事柄について説明することができる。

③代表的な理論や技法について理解し、概要を説明することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. カウンセリング・心理療法の基本的な考え方、姿勢、話を聴くスキルについて、具体的に学ぶ。

2. カウンセリング・心理療法の基本的な流れ、ポイントとなる事柄について学ぶ。

3. カウンセリング・心理療法における代表的な理論や技法、背景にある人間観や臨床観について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについて理解し説明すること	カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについて理解していない。	カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについてある程度理解し、説明することができる。	カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについておおむね理解し、説明することができる。	カウンセリング・心理療法の基本的な考え方や姿勢、話を聴く・伝えるスキルについてよく理解し、説明することができる。
カウンセリング・心理療法の基本的な流れを理解し、ポイントとなる事柄について説明すること	カウンセリング・心理療法の基本的な流れを理解していない。	カウンセリング・心理療法の基本的な流れをある程度理解し、ポイントとなる事柄について説明することができる。	カウンセリング・心理療法の基本的な流れをおおむね理解し、ポイントとなる事柄について説明することができる。	カウンセリング・心理療法の基本的な流れをよく理解し、ポイントとなる事柄について説明することができる。
代表的な理論や技法について理解し、概要を説明すること	代表的な理論や技法について理解していない。	代表的な理論や技法についてある程度理解し、概要を説明することができる。	代表的な理論や技法についておおむね理解し、概要を説明することができる。	代表的な理論や技法についてよく理解し、概要を説明することができる。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション・カウンセリングとは

第2回 カウンセラーの基本姿勢 (1) 「聴く」

第3回 カウンセラーの基本姿勢 (2) 「共感する」

第4回 カウンセラーの基本姿勢 (3) 「かかわる」・「伝える」

第5回 カウンセリングの過程 (1) 受理面接・見立て (アセスメント)

第6回 カウンセリングの過程 (2) 関係性の深まり・クライエントの変容

第7回 カウンセリングの過程 (3) 中断と終結

第8回 カウンセリングにおける設定と制限

第9回 カウンセリングの理論と技法 (精神分析)

第10回 カウンセリングの理論と技法 (ユング派心理療法)

第11回 カウンセリングの理論と技法 (クライエント中心療法)

第12回 カウンセリングの理論と技法 (行動療法・認知行動療法)

第13回 カウンセリングの理論と技法 (子どもの心理療法・集団心理療法)

第14回 カウンセリングにおける倫理

第15回 まとめのテストとフィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義形式で行う。基本的には毎回レジュメを配布し、それに基づき授業を進める。体験的な学びを得るために、適宜、ワークやロールプレイ、ディスカッション等を行うことがある。
2. 体験的内容の授業の際には、振り返りも兼ねて授業時間内に小レポートを課す場合がある。
3. 小レポートについては、レポート提出後の授業において、全体に対してフィードバックを行う。
4. 第15回のまとめのテストについては、実施後、授業内で講義の全体的内容の振り返りも兼ねたフィードバックを全体に対して行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 毎回、授業内容について、復習を行うこと。
- ・ 資料を事前配布する場合には、講義までに目を通しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、授業時間内に行う小レポート (30%)、まとめのテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業での実施を予定しているが、受講人数等の事情により実施方法・内容に変更が生じる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時間内に適宜、配布・紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理カウンセリング実践 (面接技法)

PSB3601NOJ
大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

金曜 3限

DP6 : 創造・発信力

60

佐藤 睦子 鶴田 薫 福山 幸子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理カウンセリングにおける技法を体験的に学ぶ。具体的には、受講者は、カウンセリング、集団療法、プレイセラピーの3演習を順に体験する。実際に体験することを通して、各技法の特徴を体験的に理解するとともに、各技法を用いる上でどのような事柄に留意する必要があるのか、留

意点や危険性についても学んでいく。各技法を体験した後は、グループでの振り返りや演習終了後のレポート課題において、体験を言葉にしたり、学んだ事柄を整理していくことで、さらに学びを深めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理カウンセリングにおける技法を体験的に学ぶ。
2. 各技法を用いる上での留意点や危険性について、体験的に学ぶ。
3. グループでの振り返りやレポート課題において、体験を言葉にしていくことを通して、学びを深めていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	正当な理由なく実習に参加しない	実習に参加する	興味を持って積極的に実習参加する	自分以外の視点を得て実習経験を深める
知識・理解力	正当な理由なく課題に取り組まない	課題に取り組む	興味を持って積極的に課題に取り組む	課題に対して、将来どのように生かしていくかという視点を取り入れる
言語力	正当な理由なく自分の考えを表明しない	自分の意見を表明する	興味を持って積極的に自分の意見を表明する	自分だけでなく、他者の意見も取り入れながら表明する意見を深める
思考・解決力	正当な理由なく課題を提出しない	課題を提出する	興味を持って積極的に課題を提出する	課題提出の際、興味あることをさらに深めながら論じる
共生・協働する力	正当な理由なくグループワークを行わない	グループワークに参加する	興味を持って積極的にグループワークに参加する	グループワークでリーダー的な役割を取ってみようとする
創造・発信力	正当な理由なく発表を行わない	発表を行う	興味を持って積極的に発表を行う	発表において、自分以外の視点を得てより良い発表を行う

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション (佐藤・鶴田・福山)
- 第2回 カウンセリング (学生相談) (鶴田)
- 第3回 カウンセリング (“聴かない”実習) (鶴田)
- 第4回 カウンセリング (医療機関) (鶴田)
- 第5回 カウンセリング (教育相談) (鶴田)

- 第6回 集団療法（第一印象）（福山）
- 第7回 集団療法（情報を伝える/わかちあう）（福山）
- 第8回 全体演習（佐藤・鶴田・福山）
- 第9回 集団療法（情報を共有する）（福山）
- 第10回 集団療法（共感する）（福山）
- 第11回 プレイセラピー（プレイセラピーとは）（佐藤）
- 第12回 プレイセラピー（制限と枠）（佐藤）
- 第13回 プレイセラピー（ロールプレイ①：実際に遊ぶ）（佐藤）
- 第14回 プレイセラピー（ロールプレイ②：セラピーを受ける）（佐藤）
- 第15回 まとめ（佐藤・鶴田・福山）

※グループごとに3つの演習を順に行っていくため、演習の順序はグループによって異なる。上記は1グループを例にとったものである。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

演習形式。1つの演習は4回かけて行う。#1のオリエンテーションののち、受講生は4グループに分かれ、3つの演習を順に行っていく。#8は全体演習、#15はまとめの授業を行う。各演習終了後は、演習ごとにレポート課題を課し、それに対して担当教員がコメントをつけて返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各演習前に、その演習のテーマに関して復習や下調べをしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

演習形式の授業のため、全回の出席が前提である。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。その上で、演習での取り組みの姿勢（50%）、グループごとに課されるレポートの内容（50%）から、総合的に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 体験的な学びの場であるため、自分自身、そして他の受講生の体験を尊重し、大切に扱う心構えで臨むこと。
2. 各演習の担当者は、カウンセリングが鶴田薫、集団療法が福山幸子、プレイセラピーが佐藤睦子である。
3. 心理カウンセリングの技法を実際に体験するため、場合によっては、個人の問題に直面するなどして、精神的な負担が生じることも考えられる。演習に臨む上で特に心配な事柄がある場合、また、万が一、そのような状況に陥った場合には、担当教員に相談してほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 全担当教員について、心理専門職として施設での勤務経験あり。

心理テスト論 2021年度以降入学者

PSA1450NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

1年次

2単位 後期

火曜3限

DP4：思考・解決力

60

心理カウンセリングコース必修

伊藤 一美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この授業では、心理テストの成り立ちと有効に活用するための基礎知識を習得する。そのための素地作りとして、心理テストのプレ体験を通してその組み立てを批判的に捉えつつ、指標の意味を理解し、テスト実施の扱いの基本について学ぶ。

以降で履修する「心理テスト演習」「心理的アセスメント」といった、心理アセスメントに関する科目群の入門編であり、心の「個人差」を捉えようとしてきた心理学の歴史をたどりつつ、知能テスト・発達検査・パーソナリティ検査・神経心理学的検査などから代表的なものについて、その特徴や理論的背景を学ぶ。そのうえで、テストに必要な信頼性と妥当性、標準化テストとそうでないテストのちがいを理解する。

さらに、心理テストを使用する際の倫理的配慮についても学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 心理テストの成り立ちと歴史を学ぶ。
2. 心理テストの利用目的を知る。
3. 代表的な心理テストの理論と特徴を知り、体験を通してその組み立てを学びつつ、指標の処理等についてもスキルを習得する。
4. 心理テストが備えておくべき条件を学び、その効用と限界を学ぶ。
5. テストの実施、結果の利用にあたっての倫理を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業内容に関心を持つ	授業内容と自身の体験を関連づける	授業内容を自己理解につなげる	授業内容により自己理解を深め、将来展望に活かす
知識・理解力	ノートやレジュメを用いて学ぶ	知識を自分なりに整理してまとめる	知識を応用して疑問や理解につなげる	自ら文献を読むなどして知識を広げ、深めて、批判的に考察する

言語力・思考力	基本的用語を言うことができる	基本的な用語や理論を説明できる	基本的な用語や理論を体験と結びつけて説明できる	基本的な用語や理論を関連づけ、体系的に説明できる
共生・協働する力	集団授業のマナーを守ることができる	他の受講者や教員とともに学ぼうとする	自身を他の受講者や教員との学びに活かそうとする	本科目での学びを社会でどのように生かせるか考察できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション…人の「人となり」はどうやったら測れるのか？
- 第 2 回 心理テストのなりたちと利用の目的
- 第 3 回 心理テストの歴史
- 第 4 回 知能の理論
- 第 5 回 知能テスト（1）ビネーの知能テスト
- 第 6 回 知能テスト（2）ウェクスラーの知能テスト
- 第 7 回 子どもの発達検査
- 第 8 回 パーソナリティ検査（1）質問紙法・作業検査法
- 第 9 回 パーソナリティ検査（2）投映法
- 第 10 回 そのほかの心理テスト（神経心理学的検査、適性検査など）
- 第 11 回 心理テストの信頼性と妥当性…測りたいものがちゃんと測れているのか？
- 第 12 回 心理テストの標準化…まっとうな心理テストにするために
- 第 13 回 テスト・バッテリーと現場での心理テスト
- 第 14 回 心理テストを利用する際の倫理的配慮
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

スライドと配布プリントによる講義形式。ワークプリントで、心理テストの模擬体験なども行う。その中で、心理テストの組み立てや心理テストが備えるべき条件を理解する。また、さまざまな側面から個人差を捉えることの難しさと興味深さを学ぶ。

授業中の発問やワークプリントについては、適宜口頭や記述コメントによってフィードバックを行う。期末試験については、解答例と解説を配布し、個別質問等に対応する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

* 授業中に実施したプリントワークなどの内容について、必要に応じて教員に尋ねる、上記の参考図書で学ぶなど、自主的に学習すること。

* 日ごろから一般向けの雑誌やネットなどで紹介されている「心理テスト的なもの」のものにも興味を持つ。そして、どんな内容が多いのか、人々がどのように関心を向けているのか、それにどのような問題点があるのかについて考えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度と授業時間中のプリント課題（40%）、期末定期試験（60%）の提出に基づき、総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

職業倫理的に守秘性のある内容に触れる場合もあるため、担当教員の許可なく録音やスライドの撮影などをしないこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理検査法入門』/渡辺洋（編著）/福村出版/1993/9784571240294

『心理尺度のつくり方』/村上宜寛/北大路出版/2006/9784762825231

『心理テスト法入門（第4版）』/松原達哉（編著）/日本文化科学社/2002/9784821063604

『臨床心理アセスメントハンドブック』/村上宜寛・村上千恵子/北大路出版/2004/9784762824029

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫/臨床心理士・公認心理師として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理学的支援法 2021年度以降入学者

PSA3503N0J
大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）
3年次 4年次
2単位 前期
火曜 2限

DP5：共生・協働する力

60

村松 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理療法には様々な技法があり、理論、アプローチの仕方、何を重要と考えるかなどの点で異なっている。その一方で共通点も多く、異なる技法を組み合わせる折衷派・統合派のセラピストも多い。本科目ではそうした異なる技法の主要なものについて学び、その特徴を理解するとともに、心理療法全般に共通する点、普遍的に重要である点についても理解することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

心理療法の総論およびそれぞれの各論のコンセプトを理解し、さらには実際の心理療法の現場感覚についてある程度のイメージを持てることとし、以下の個別課題を設定する。
(1)代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界

- (2)訪問による支援や地域支援の意義
- (3)良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- (4)プライバシーへの配慮
- (5)心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
- (6)心の健康教育を学び、支援者として心理学的観点を培うこと

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己への気づきが全くない	自分についてこれまで気づいていたことに結びつけて考えることができる	自分について何となく気づいていたことについて理解を深めることができる	これまで気づいていなかった自分の気づきが得られ、内省することができる
知識・理解力	心理療法の総論、各論の理解ができていない	部分的に理解できている	各論について、それぞれ説明できる	複数の心理療法のアプローチの違いと共通点を説明できる
言語力	講義で理解したことを言葉で説明できない	講義で理解したことを部分的に言葉で説明できる	講義で理解したことを概ね言葉で表現できる	講義で理解したことを他の人に理解を促進するように説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
心理学的支援を行う者の役割と責任
- 第 2 回 心理療法の広がり：歴史と概観
- 第 3 回 精神分析的な心理療法
- 第 4 回 分析心理学（ユング心理学の基礎理論）
- 第 5 回 来談者中心療法
- 第 6 回 行動療法
- 第 7 回 認知行動療法
- 第 8 回 日本で生まれた心理療法（森田療法・内観療法）
- 第 9 回 箱庭療法・遊戯療法・表現療法
- 第 10 回 家族療法
- 第 11 回 訪問による支援や地域支援；アウトリーチ、コンサルテーション、リエゾンなど
- 第 12 回 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- 第 13 回 関係者に対する支援と心の心理教育
- 第 14 回 プライバシーへの配慮
守秘義務と説明責任について
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 主として講義形式で行う。教科書は使用せず、毎回レジュメを配布してそれに応じた内容で進める。
2. 視聴覚教材などを取り入れ、体験的理解を促す。
3. 質問や意見を頻繁に聞いていくので、積極的な発言を求める。それによって、一方通行の講義ではなく、皆で考えながら学べる講義を目指す。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

心理療法を行うには、長期の専門的訓練が必要となる。本科目は将来そうした訓練を受けることを希望する学生が受講することを想定している。参考文献を紹介するので、自ら意欲を持って学習することを期待する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

まとめの試験と平常成績（授業参加度や授業態度、授業中の発言）、授業中に行うミニレポートで総合評価する。

＜平常成績とミニレポート（50%）、まとめの試験（50%）＞
ミニレポートについて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

まとめの試験の後に、解説とまとめの説明を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

この講義では、授業中も発言したり、考えたりと積極的な態度を求めます。ですから、他の受講生の妨げになるような私語や携帯電話の使用は認めません。遅刻/早退や欠席も極力控えて下さい。

進行上の都合により、内容が変更となる場合があります。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

『臨床心理学入門 多様なアプローチを越境する』/岩壁茂/有斐閣アルマ/2013/9.784641220034E12

その他、必要に応じて授業時間内に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理士として、医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理的アセスメント 2021年度以降入学者

PSA2451N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

金曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

心理テスト演習

三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理的アセスメントは、心理的支援の対象者の状態や特性についての情報を、心理面接・心理テスト・行動観察といった専門的手法により生物、心理、社会的観点から収集し、問題状況を総合的に把握・評価して適切な支援の方向性を見極めることを目的として行われる。また、心理的アセスメントは、個人や集団の問題に深く立ち入る必要にも迫られる営みであるため、心理的アセスメントを学ぶ者は、それに伴う倫理についても十分に学んでおく必要がある。

①心理的アセスメントの目的と倫理

心理的アセスメントの目的、および、守秘義務、プライバシーの尊重、対象者の人格・人権の尊重等の心理専門職の倫理について、講義を通して学ぶ。

②心理的アセスメントの方法と展開

心理面接・心理テスト・行動観察といった心理的アセスメントの具体的方法、およびこれらの実践的展開について、模擬体験および講義を通して学ぶ。

③心理的アセスメントの記録と報告

アセスメント内容の適切な記録、収集した情報に基づく支援方法の検討、対象者・関係者等への報告、関係機関との連携について、模擬体験および講義を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①心理的アセスメントの目的と倫理について学ぶ。

②心理的アセスメントの方法と展開について学ぶ。

③心理的アセスメントの記録と報告について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理的アセスメントの学びを通して、自分を育てる動機がある程度持っている	心理的アセスメントの学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理的アセスメントの学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理的アセスメントに必要な知識・理解力がみられない	心理的アセスメントに必要な知識・理解力がある程度ある	心理的アセスメントに必要な知識・理解力がおおむねある	心理的アセスメントに必要な知識・理解力がかなりある

言語力	心理的アセスメントに必要な言語力がみられない	心理的アセスメントに必要な言語力がある程度ある	心理的アセスメントに必要な言語力がおおむねある	心理的アセスメントに必要な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について考えることが難しい	与えられた課題について考えることができる程度できる	与えられた課題について考えることがおおむねできる	与えられた課題について考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	グループ活動を他者と協力して行うことができる程度できる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行うことができる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する力がかなりある

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

第2回 心理的アセスメントの目的と倫理

第3回 心理的アセスメントの方法と展開①: 心理的アセスメントの方法

第4回 心理的アセスメントの方法と展開②: 心理面接 (インタビュー面接) の技法と収集すべき基本的情報

第5回 心理的アセスメントの方法と展開③: 心理面接 (インタビュー面接) に関する模擬体験

第6回 心理的アセスメントの方法と展開④: 心理テストの概要

第7回 心理的アセスメントの方法と展開⑤: 心理テストの模擬体験 (SCT)

第8回 心理的アセスメントの方法と展開⑥: 心理テストの模擬体験 (ロールシャッハテスト)

第9回 心理的アセスメントの方法と展開⑦: 心理テストの模擬体験 (描画法)

第10回 心理的アセスメントの方法と展開⑧: 心理テストの模擬体験 (神経心理学検査)

第11回 心理的アセスメントの方法と展開⑨: 行動観察の概要

第12回 心理的アセスメントの方法と展開⑩: 行動観察に関する模擬体験

第13回 心理的アセスメントの記録と報告①: 記録の仕方、対象者等への報告の概要

第14回 心理的アセスメントの記録と報告②: 記録と報告に関する模擬体験

第15回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポート課題を出す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義および模擬体験を通して学ぶ。テキストは指定せず、資料を配布する。受講生へのフィードバックは、manaba上で行う予定である。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

これまで受講した心理検査関連の授業、および、毎回の授業内容の復習を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、受講参加度20%、模擬体験の感想レポート40%、期末レポート40%をもとに、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

平成29年度以後入学者は「心理テスト演習」、平成25年度以後入学者は「心理テスト実習」、平成24年度以前入学者は「心理検査法実習」を履修していること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中に資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理専門職として施設での勤務経験あり。

神経・生理心理学 2021年度以降入学者

PSA3258N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 後期

水曜4限

DP2: 知識・理解力

60

小松 光友

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

公認心理師 (臨床心理士) や対人援助職として必要となる、神経・生理心理学の基本的な知識と理解の習得を目指す。乳幼児から高齢者までの、脳の病気や障害によるさまざまな問題や困難を抱える方々をよく理解して、効果的に支援し、あたたかく寄り添えるための学びとする。

主に学んでいただくことは、次の3点である。「脳神経系の主な構造と機能を専門用語を用いて説明することができる」「記憶・感情などの生理学的反応の機序、人間の心理・行動を脳のメカニズムから説明することができる」「高次脳機能障害や発達障害の概要を脳のメカニズムから説明することができる」ことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 脳神経系の主な構造、そして大脳皮質 (葉、回など) と機能局在、大脳辺縁系や基底核

とその働き、活動電位や神経伝達物質、ホルモンに

ついて説明できる。

2. 知覚や感覚とその障害および大脳半球の機能的非対称性について説明できる。

3. 視知覚運動能力や空間認知など、学習や記憶の障害のメカニズムについて説明できる。

4. 情動に関する機構および動機づけと行動の遂行について説明できる。

5. 周産期からの老年期の各発達段階で見られる脳の病気や障害について理解している。

6. 失語・失認・失行・その他の高次脳機能障害について理解し説明できる。

7. 意識と自我の神経基盤、臨床心理学と脳科学、脳と心の関係について理解している。

8. 心の病気と脳に関する最近の知見について理解している。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
脳神経系の主な構造とその働きについて	大脳皮質 (葉、回など) と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについての知識をもっていない	大脳皮質 (葉、回など) と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについて、理解している	大脳皮質 (葉、回など) と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについて、講義資料等を用いて、説明できる	大脳皮質 (葉、回など) と機能局在、大脳辺縁系や基底核とその働きについて、自ら図示し、説明できる
失語・失行・失認について	ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語、失行の定義、失認の定義についての知識を持っていない	失語の定義、そして、ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語、失行、失認についての責任領域や特徴などを、理解している	失語の定義、そして、ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語、失行、失認についての責任領域や特徴などを、講義資料等を用いて、説明できる	失語の定義、そして、ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語、失行、失認についての責任領域や特徴などを、自ら図示し、説明できる
脳の機能障害による様々な症候について	様々な症候についての知識を持っていない	様々な症候について、その責任領域や特徴などを、理解している	様々な症候について、その責任領域や特徴などを、講義資料等を用いて、説明できる	様々な症候について、その責任領域や特徴などを、自ら図示し、説明できる
脳の機能と関連する臨床心理学的	、脳の機能と関連する臨床心理学的諸問題についての知	脳の機能と関連する臨床心理学的諸問題についてその責	脳の機能と関連する臨床心理学的諸問題について、その	脳の機能と関連する臨床心理学的諸問題について、その

諸問題について	識を持っていない	任領域や特徴などを、理解している	責任領域や特徴などを、講義資料等を用いて、説明できる	責任領域や特徴などを、講義資料等を用いて、説明できる
注意・記憶障害について	注意・記憶の種類とメカニズム、それらの障害の責任領域についての知識を持っていない	注意・記憶の種類とメカニズム、それらの障害の責任領域について、理解している	注意・記憶の種類とメカニズム、それらの障害の責任領域について、講義資料等を用いて、説明できる	注意・記憶の種類とメカニズム、それらの障害の責任領域について、自ら図示し、説明できる
行動や情動の障害について	行動や情動の障害についての知識を持っていない	行動や情動の障害について、理解することができる	行動や情動の障害について、講義資料等を用いて、説明できる	行動や情動の障害について、議論することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・神経・生理心理学の歴史
講義全体の学習の進め方を説明します。神経・生理心理学の概要と、その歴史について講義する。
- 第 2 回 脳の構造についてーヒトの脳の特徴とはー
脳の解剖学的な基礎知識と、神経系の発生、胎生期からの脳の発達を概観しながら、その構造と特徴について説明する。
- 第 3 回 脳の構造と機能
脳の構造と機能、神経機能の階層と局在、連合野などについて理解を深める。
- 第 4 回 脳と感覚・知覚・運動
視覚以外の感覚、一次運動野、高次運動野、大脳基底核、小脳について理解を深める。
- 第 5 回 視覚系の仕組み
視覚系のメカニズムと、眼と精神の関係、視知覚運動能力なども説明する。
- 第 6 回 症候の理解（1）注意障害
注意障害の症状とメカニズム、リハビリや効果的な対応について理解を深める。
- 第 7 回 症候の理解（2）記憶障害
記憶のメカニズムと記憶障害、海馬、ワーキングメモリー、長期記憶の形成について理解を深める。
- 第 8 回 症候の理解（3）遂行機能障害
前頭前野と実行機能、意思決定などについて理解を深める。
- 第 9 回 行動障害・情動障害
前頭葉機能や自律神経系、視床下部、扁桃体、島皮質、報酬系の仕組みについて理解し、その機能障害の現れ方と対応について学ぶ。
- 第 10 回 睡眠・覚醒・リラクゼーション

睡眠・覚醒にかかわる神経伝達物質やメカニズム、臨床心理学に関連したリラクゼーションなどについて理解を深める。

- 第 11 回 言語と脳神経系
言語獲得、失語・失行・失認などを統一的に説明する。
- 第 12 回 脳と臨床心理学
神経発達障害や精神疾患、深層心理学と脳機能との関係など説明する。
- 第 13 回 脳と小児期・思春期の問題
小児期や思春期に見られる脳の機能障害や疾病について、これまで学んだ知識の理解を深める。
- 第 14 回 脳と高齢期の問題
認知症や老年期のうつ病などの具体的な事例を通じて、脳機能との関係について理解を深める。
- 第 15 回 脳と現代の問題
これまで授業で学んだことを概観しながら、脳に関する最近のテーマについてお互いに学ぶ。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
行わない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 毎回プリントを配布します。心理臨床で実際に必要となる知識の習得を目指す。
2. まず予習用のテキストを読んでから受講してください。興味のあるテーマへの理解を深めるための参考文献などを授業でご紹介する。
3. 講義にはスライドや視聴覚教材も用いて、理解しやすいようにする。
4. ブレインイメージングを用いた人間の感情や行動に関する最新の研究を紹介し、高次脳機能の理解と対応に関連する脳のメカニズムを理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・事前に予習用テキストで該当箇所を予習しておいてください。
- ・毎回理解が深まったかの振り返りを行い、レポートなどmanabaで提出して頂きます。
- ・興味ある内容について学習を深められるように授業で参考文献や論文なども紹介します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（75%）と確認レポート（まとめ）（25%）により判断する。

〔留意事項（Other Information）〕

○授業が始まるまでに、予習用のテキストの該当部分を読んでおいてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

○予習用のテキスト

『図解でわかる14歳から知る人類の脳科学、その現在と未来』/松元健二監修/太田出版/2019/978-4-7783-1667-9/

○講義および復習のためにテキスト

『公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学』/緑川晶・山口加代子・三村將編/医歯薬出版/2018/978-4-263-26561-1/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ぜんぶわかる 脳の事典』/坂井建雄・久光正著/成美堂出版/2011/ 図が多く分かりやすいので復習する時に役に立ちます。

『神経心理学入門』/山鳥 重/医学書院/1985/神経心理学の本格的な参考書で、すべてを精緻に網羅している内容ですが、学部生には難しいかもしれません。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士（公認心理師）として医療機関等での勤務経験があり。

「脳」の勉強は難しいと思われるかもしれませんが、私の長年の臨床経験からの事例などもご紹介し、興味を持っていただけるように工夫したいと思います。スライドやビデオなどの視覚的な教材や、ブレインイメージングを用いた人間の感情や行動に関する最新の研究も利用して、神経・生理心理学への理解を深めていただけるように努めます。

人体の構造と機能及び疾病

SWA2205N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

2年次

2単位 前期

水曜4限

DP2：知識・理解力

60

寺谷 愉利子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目覚ましく、医療機関の機能は益々複雑になりつつある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」を治療したり、ケアするという医療の本質は、いつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や、専門的分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて、福祉医療に携わる将来のために、基礎的、かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 人の成長・発達と老化
2. 身体構造と心身の機能
3. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要
4. 健康のとらえ方
5. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病と障害の概要
6. リハビリテーションの概要

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業前の宿題に主体的に取り組む	提出期限までに課題を提出できない	提出した課題に教本・レジュメを十分に活用されていない	提出した課題に教本・レジュメを十分活用している	提出した課題内容に独自性がある
筆記試験	筆記試験に参加しない	それまでの学びで得た知識が十分活用されていない	それまでの学びで得た知識をほぼ活用されている	それまでの学びで得た知識が十分活用されている
授業参加	授業を3分の1以上欠席	授業出席状況と参加が劣る	授業出席状況と参加がほぼ満たされている	授業出席状況と参加が十分満たされている

〔授業計画〕

- 第 1 回 第1回
オリエンテーション、第1章人の成長・発達と老化 第1節、第2節、第3節
- 第 2 回 第2回
第2章身体構造と心身の機能 第1節、第2節10,1～5
- 第 3 回 第3回
第2章身体構造と心身の機能 第2節6～8
- 第 4 回 第4回
第2章身体構造と心身の機能 第2節9,11～13
- 第 5 回 第5回
第3章 疾病の概要第1節～第4節
- 第 6 回 第6回
第3章 疾病の概要 第5節～第8節
- 第 7 回 第7回
第3章 疾病の概要 第9節～第12節
- 第 8 回 第8回
第3章 疾病の概要 第13節～18節
- 第 9 回 第9回
中間テスト 第4章 障害の概要 第1節～第3節
- 第 10 回 第10回
中間テスト解答 第4章 障害の概要 第4節～第7節
- 第 11 回 第11回
第4章 障害の概要 第8節～第10節
- 第 12 回 第12回

第5章リハビリテーションの概要 第1節～第5節
 第13回 第13回
 第6章 国際生活機能分類の基本的考え方と概要
 第1節～第4節、第7章 健康のとらえ方 第1節～第2節
 第14回 第14回
 第7章 健康のとらえ方 第3節～第7節
 第15回 第15回
 第7章 健康のとらえ方 第8節～第9節、まとめ
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施する

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

(1)テキストに沿って行く、プリントで内容補充。

(2)人体模型やOHC、パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。

(3)毎回宿題を出すので、復習しながらやること。必ず次回提出すること。返却するときに、講義で解説する。

3. テキスト・文献など

(1)テキストは社会福祉士養成講座 『医学一般』(中央法規)を用いる。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. 毎回宿題をやりながら復習をして、内容を理解すること。毎時間補助プリントを配付するので、しっかり読んでおくこと。分からないところは、次の授業で必ず質問すること。

2. テキストの大項目と太字のところを読んでおくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

1. 成績は、中間テスト (15%)、定期テスト (70%)、授業参加度 (10%)、毎回の宿題 (5%) の総合評価とする。

2. 3分の2以上の出席がないものは、期末試験の受験資格を与えない。

[留意事項 (Other Information)]

他の受講生に迷惑となる私語、スマホによるメールの送受信、飲食は禁止。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『社会福祉士養成講座 『1 人体の構造と機能及び疾病』 - 医学一般』/社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規/2015//学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫ 看護師として施設での勤務経験あり。

精神科リハビリテーション学 II

SWR3452N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

橋本 史人

[科目の教育目標 (Course Description)]

その人の人生をどう支援していくかを、講義、視聴覚教材、演習などを通して、身体(生物学的)・こころ(心理学的)・環境(社会学的)から見る事が出来るよう、自身を含めた身近なコトとして一緒に考えていきましょう。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- 1 障害を持つ人へのリハビリテーション技術を理解する
- 2 他職種等とのチームワーク、関係機関とのネットワークの重要性を理解する

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	精神障がい者を取り巻く諸問題を自身を含めた身近なコトとして考えられない。	精神障がい者を取り巻く諸問題を自身を含めた身近なコトとして考えられる。	障がいを持つ人へのリハビリテーション技術を理解する。	精神障がい者支援を身体的(生物学的)・こころ(心理学的)・環境(社会学的)から見る事が出来る。
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第1回 精神科リハビリテーションの概念と歴史
- 第2回 精神科リハビリテーションの理念と現状
- 第3回 地域を基盤にした相談援助ー受理面接
- 第4回 地域を基盤にした相談援助ー支援の計画と終結
- 第5回 地域を基盤にした相談援助ー家族の支援
- 第6回 集団療法
- 第7回 行動療法
- 第8回 面接技法 I 種類
- 第9回 面接技法 II ロールプレイ

- 第 10 回 ケアマネジメントの概念と歴史
- 第 11 回 ケアマネジメントの理念と現状
- 第 12 回 スーパービジョン
- 第 13 回 コンサルテーション
- 第 14 回 ネットワーキングとセルフヘルプ
- 第 15 回 これからの精神科リハビリテーションの課題
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、小テスト、視聴覚教材、プリント、グループワークなど。課題はその都度講義内でフィードバックする。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。試験のフィードバックは試験後に解説し行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自分や周りの人々を含めて、メンタルヘルス (精神保健) について疑問を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 (50%)、授業参加 (30%)、小テスト (20%)。出席回数3分の2に満たない者はテスト等の受験資格を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (4) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』//中央法規///学内販売予定

*テキストは使用しないが適宜読むこと。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 社会福祉士・精神保健福祉士として施設で勤務中。

精神疾患とその治療 I 2021年度以降入学者

SWR2203N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

金曜1限

DP2: 知識・理解力

60

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを

学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学 I では、統合失調症、躁うつ病、不安障害 (パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害)、摂食障害、心身症など代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解していくことを目的とする。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者と家族の支援のあり方について説明することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統合失調症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
2. 躁病・うつ病の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
3. 不安障害 (パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害) の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
4. 心身症について説明できる
5. 摂食障害の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
6. 向精神薬の特徴と作用について説明できる
7. 医療が必要な状態について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害の分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の原因と症状について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因と症状について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的な治	精神障害の薬物療法や専門的な治

や専門的な治療について			療について、講義資料等を用いて、説明できる	療について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、知識を持っている	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況について、知識を持っていない	精神障がい者と家族がおかれている状況について、知識を持っている	得られた知識をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて気づくことができる	気づいたギャップについて、学んだ知識をもとに情報を収集し、課題を見出すことができる

〔授業計画〕

第 1 回	
第 2 回	精神医学概論（精神保健・福祉の歴史を含む）
第 3 回	統合失調症とは（1）概論（精神保健・福祉の歴史を含む）
第 4 回	統合失調症とは（2）幻覚・妄想など
第 5 回	統合失調症とは（3）自我障害、陰性症状など
第 6 回	統合失調症とは（4）治療など
第 7 回	確認テスト／躁うつ病概論・うつ病（精神保健・福祉の歴史を含む）

第 8 回	うつ病および躁病（1）症状・診断について
第 9 回	うつ病および躁病（2）治療・対応について
第 10 回	確認テスト／不安障害（1）概論／パニック障害などについて
第 11 回	不安障害（2）パニック障害・広場恐怖／社交不安障害などについて
第 12 回	不安障害（3）社交不安障害／強迫性障害などについて
第 13 回	不安障害（4）強迫性障害／転換性障害、解離性障害などについて
第 14 回	確認テスト／不安障害（5）転換性障害、解離性障害／心身症などについて
第 15 回	摂食障害（1）病態および合併症について
	確認テスト／摂食障害（2）治療などについて
	〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕 実施しない
	〔教育・学習の方法（Course Methods）〕 講義形式で、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する
	毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする
	確認試験に対するフィードバックは、試験結果の返却時に講評・解説を口頭で行う。
	〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕 テキストで、該当箇所を読んでおくこと
	〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕 40
	〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕 討議を含む授業参加度・授業態度（15%）、確認テスト（85%）による総合評価。
	〔留意事項（Other Information）〕 ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。 ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。
	〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕 『精神医学と精神医療』/一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集/中央法規/2021//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版)』/日本精神保健福祉士養成精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学—精神疾患とその治療 (改訂新版精神医学(MINOR TEXTBOOK))』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶ 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

精神疾患とその治療Ⅱ 2021年度以降入学者

SWR2454N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

金曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

精神疾患とその治療I

河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神疾患とその治療Ⅱでは、PTSD、適応障害、パーソナリティ障害、発達障害、アルコール・薬物依存、睡眠障害、認知症、てんかんなど各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解し、また向精神薬の作用についても理解していく。さらに、医療機関との連携や地域精神保健の展開についても理解を深めていく。これらの理解のうえに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について分析する力をつける。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者・家族の支援のあり方について説明することができる
5. 精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について、分析し説明することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. PTSD、適応障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
2. パーソナリティ障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
3. 発達障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

4. アルコール依存・薬物依存の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

5. 主な睡眠障害の症状・診断について説明できる

6. てんかんの症状・診断法・治療法・支援の方法について説明できる

7. 主な認知症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる

8. 地域で暮らす精神障害者の支援とその課題について具体的に述べるができる

9. 医療が必要な状態について説明できる

10. 向精神薬の特徴と作用について説明できる

11. 精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱで学んだ精神障害に関する知識をもとに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害の分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の原因と症状について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因と症状について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的治療について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の薬物療法や専門的治療について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をも

家族の支援について			用いて、説明できる	とに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
精神医療・精神保健福祉に関連する法律について	知識を持っていない	知識を持っている	講義資料等を用いて、説明できる	精神医療・精神保健福祉に関連する法律の課題について議論することが出来る
医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、知識を持っている	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて、説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況について、知識を持っていない	精神障がい者と家族がおかれている状況について、知識を持っている	得られた知識をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて気づくことができる	気づいたギャップについて、学んだ知識をもとに情報を収集し、課題を見出すことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回
ストレス関連障害（1）－PTSD概論－
- 第 2 回
ストレス関連障害（2）－PTSD各論、適応障害など－
- 第 3 回
ストレス関連障害（2）－急性ストレス障害、適応障害など－
- 第 4 回
パーソナリティ障害（1）概論
- 第 5 回
パーソナリティ障害（2）各論
- 第 6 回
確認テスト／発達障害（1）概論、学習障害など
- 第 7 回
発達障害（2）ADHDなど
- 第 8 回
発達障害（3）自閉スペクトラム症
- 第 9 回
アルコール依存

- 第 10 回
薬物依存
- 第 11 回
確認テスト／睡眠障害／てんかん（1）－概論
- 第 12 回
てんかん（2）－診断・症状・治療・対応について
- 第 13 回
認知症について－概論・アルツハイマー病
- 第 14 回
その他の主な認知症について
- 第 15 回
確認テスト／精神保健福祉法、地域精神医療について
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式を中心とし、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する。
- 毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする
確認試験に対するフィードバックは、試験実施後や試験結果の返却時等に講評・解説を口頭で行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
テキストで、該当箇所を読んでおくこと
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
40
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
討議を含む授業参加度・授業態度（15%）、確認テスト（85%）による総合評価。
- 〔留意事項（Other Information）〕
・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『精神医学と精神医療』/一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集/中央法規/2021//学内販売予定
- 〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『精神医学—精神疾患とその治療(改訂新版)』/精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//
『精神医学(MINOR TEXTBOOK)』/加藤伸勝/金芳堂//
『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//
- 〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

精神保健学 I

SWA2204N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

月曜 5限

DP2: 知識・理解力

60

光井 朱美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「こころの健康」を保持増進するための精神保健学は、精神医学・公衆衛生学・発達心理学・臨床心理学などとともに発展してきた実践的な学問です。「こころの健康」を個人・集団・環境などさまざまな観点から考え、現代社会が直面している精神保健の課題を全般的に理解し、広い視野を持ってその課題を見る視点について学びます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

「こころの健康」を自分や家族の身近なテーマとして意識することからはじめ、現代社会を生きる人々の「こころの健康」をどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
こころの健康に関する正しい知識を身につける	こころの病は特別な人になる特別な病気であると考えている。	こころの病は誰にでもなるものであり、ストレス解消や支えが必要であることが理解し説明できる。	こころの病は誰にでもなるものであり、その状態にあわせて必要な支援が理解し説明できる。	こころの病は誰にでもなるものであり、その人の状態に加え、その人の置かれている状況や資源をふまえた必要な支援が理解し説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・わたしたちとこころの健康
本当は誰にとっても身近であるこころの健康の考え方について学びます。
- 第 2 回 精神保健の歴史と課題
遅れている日本の精神保健福祉システムの理由を理解するためにこれまでの歴史を学びます。
- 第 3 回 ライフサイクルと精神の健康 I (乳児期から思春期)

人の人生はそれぞれの時期に求められる発達課題があります。乳児期から思春期の発達課題とこころの健康について学びます。

- 第 4 回 ライフサイクルと精神の健康 II (青年期から老年期)
人の人生はそれぞれの時期に求められる発達課題があります。青年期から老年期の発達課題とこころの健康について学びます。
- 第 5 回 ストレスと精神の健康、精神保健に関する予防
ストレスとこころの健康との関連、精神保健の予防という考え方を学びます。
- 第 6 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (1) 結婚と育児
精神保健と家族の課題として、結婚と出産、育児について学びます。
- 第 7 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (2) 社会的引きこもり
精神保健と家族の課題として、思春期・青年期の社会的ひきこもりについて学びます。
- 第 8 回 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ (3) 病気療養や介護
精神保健と家族の課題として、家族の誰かが病気や「障害」、高齢になってケアや介護が必要になった場合の「ケアラー」について学びます。
- 第 9 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (1) 現代の学校教育と生徒児童の特徴
精神保健と学校教育の課題として、不登校やいじめなど子どもたちの直面する課題について学びます。
- 第 10 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (2) 教員の精神保健
精神保健と学校教育の課題として、子どもたちに向かい合っている教員のメンタルヘルスについて学びます。
- 第 11 回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ (3) 学校における精神保健福祉士の役割
精神保健と学校教育の課題として、スクールソーシャルワーカーの活動と実際について学びます。
- 第 12 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (1) 現代日本の労働環境
精神保健と労働の課題として、長時間労働やストレスフルな労働環境など勤労者が直面する課題について学びます。
- 第 13 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (2) うつ病と過労自殺
精神保健と労働の課題として、うつ病や過労自殺について学びます。
- 第 14 回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ (3) 職場における精神保健福祉士の役割
精神保健と労働の課題として、ソーシャルワークの果たす役割について学びます。
- 第 15 回 理解度確認テストと解説・まとめ
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

該当する部分を教科書等で整理しておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『最新・精神保健福祉士養成講座 精神保健の課題と支援 (2) 第3版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2021/978-4-8058-5595-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 保健師として行政での精神保健業務並びに児童福祉司として児童相談所での勤務経験あり。

精神保健学 II

SWA2452N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

月曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

光井 朱美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健学 I の基本的知識をふまえて、「こころの健康」の個別の課題に対して理解を深め、現代社会が直面している精神保健の課題に対する具体的な支援や解決方法について学びます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現代社会を生きる人々の「こころの健康」の個別課題についてどうとらえ、どう支援をしていくかについて自分の考えを述べられるようになることを目指します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
こころの健康の個別課題に関する正しい知識を身につける	こころの病の個別課題の違いについて理解できていない。	こころの病の個別課題の違いについて、理解し説明できる。	こころの病の個別課題の違いについて理解し説明できるとともに、その状態にあわせて必要な支援が理解し説明できる。?	こころの病の個別課題の違いについて理解し説明できるとともに、その人の状態に加え、その人の置かれている状況や資源をふまえた必要な支援が理解し説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・こころの健康と支援
「こころの健康」の個別の課題に対して具体的な支援や解決方法についての考え方について学びます。
- 第 2 回 発達障害とこころの健康
発達障害について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 3 回 アルコール・薬物問題とこころの健康
アルコール・薬物問題について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 4 回 うつ病・自殺対策とこころの健康
うつ病・自殺対策について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 5 回 認知症とこころの健康
認知症について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 6 回 災害とこころの健康
災害とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 7 回 DVとこころの健康
DV (夫婦間暴力) とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 8 回 貧困とこころの健康
貧困とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 9 回 ホームレス問題とこころの健康
ホームレス問題とこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 10 回 LGBTとこころの健康
LGBTとこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。

- 第 11 回 ターミナルケアとこころの健康
ターミナルケアとこころの健康について理解し、具体的な支援や解決方法について学びます。
- 第 12 回 WHOとこころの健康
WHO（世界保健機関）とこころの健康について理解し、全世界で取り組まれているこころの健康についての施策や取り組みについて理解します。
- 第 13 回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策（イタリア）
イタリアにおける精神保健の現状について学び、日本の課題について振り返ります。
- 第 14 回 諸外国の精神保健活動の現状及び対策（イギリス）
イギリスにおける精神保健の現状について学び、日本の課題について振り返ります。
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ
これまでの授業の理解度を確認するためのテストと解説を行い、まとめを行います。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に記入し授業終了時に提出します。次回の授業最初には教員がコメントを記入して返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

該当する部分を教科書等で整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

理解度確認テスト50点、授業参加度15点、レポート35点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項（Other Information）〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『最新・精神保健福祉士養成講座 精神保健の課題と支援(2) 第3版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2021/978-4-8058-5595-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 保健師として行政での精神保健業務並びに児童福祉司として児童相談所での勤務経験あり。

精神保健福祉援助演習（基礎）

SWR3202NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

1単位 前期

水曜 2限

DP2：知識・理解力

15

知名 純子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

精神保健福祉士の援助に必要な対人援助の基礎を学ぶ。援助とは、相談・訪問・グループ活動などさまざまな場面で、自分という人間を通して相手に働きかける行為でもあり、自分自身を知ること、他者を理解することを基盤に、面接等における傾聴の姿勢を習得すると同時に、そこから浮かび上がるニーズを、個人にとどまらず環境（人間関係や社会資源、そして地域社会）との接点にどのように働きかけるかについてグループワーク、ロールプレイ等を通して演習を行う。

(1) 支援の仕事を目指す自己の動機と目的意識を確認し、自己理解と他者理解を深める契機とする

(2) 援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得する

(3) 援助専門職に求められる面接技法、記録技術、コミュニケーションの基礎を習得する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得する	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解できていない	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき説明できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実行できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実行できるとともにわかりやすく説明できる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション・ソーシャルワークとは
ソーシャルワークの基本と視点を学び、これから身につけていく姿勢と技術を確認します。

- 第 2 回 自分を知ること 自己覚知
ソーシャルワークは「自分を使って」支援する職業です。自分をより知ることは良い支援に必須です。いくつかのワークで自分をより知ることを目指します。
- 第 3 回 自分を知り他者を知る 「見えている世界」の違いの理解
ソーシャルワークの重要なもう一つの視点は、クライアントやその家族の身になって考えることです。いくつかのワークを通して自分の「見えている世界」を確かめてみます。
- 第 4 回 精神保健福祉士の価値と倫理
精神保健福祉士の価値と倫理をいくつかのワークを通して身につけます。
- 第 5 回 援助の基本姿勢 バイスティックの原則の理解を通して
ソーシャルワークの基本姿勢として、バイスティックの原則を学び身につけます。
- 第 6 回 援助の基本姿勢 傾聴について学ぶ
傾聴はソーシャルワークの基本姿勢・技術として中核となるものです。傾聴のあり方についていくつかのワークを通して身につけます。
- 第 7 回 援助の基本姿勢 問うことの工夫
ソーシャルワークはクライアントとの協働が求められるため、聴くだけでは十分ではありません。どのように「問う」かをいくつかのワークで考えます。
- 第 8 回 援助の基本姿勢 望んでいない支援を届ける
表面的には支援を望んでいない人にも支援を届ける必要がある場合があります。どのような姿勢でどのようにかかわっていくのか、いくつかのワークでその関わり方の基本を身につけます。
- 第 9 回 援助の基本姿勢 グループワークとは何か
グループの力をどのように活用するのか、いくつかのワークを通してその姿勢と方法を身につけます。
- 第 10 回 アセスメントの重要性 ニーズをとらえる
本人が口にするだけで「ニーズ」ではありません。口にされたデマンド以外にさまざまな要素を考えて「ニーズ」を（本人とともに）見つけていかないとけません。その姿勢と基本的技術を身につけます。
- 第 11 回 プランニングに求められること 目標を共有する協働であるソーシャルワークは、本人の願いや希望をともに考え、それを実現するための方法もともに考えるところに特徴があります。支援計画を立てていく際の基本姿勢と基本技術を身につけます。
- 第 12 回 記録の重要性 振り返ること、支援をつなげること
記録はソーシャルワークをよりよくしていくものとして欠かせないものです。その記録の基本について学びます。

- 第 13 回 コミュニティアセスメント ネットワークの重要性
クライアントの願いや希望は多様でひとりの人やひとつの機関だけでは完結しないものです。多くの機関や支援者とともに支援をしていくネットワークのあり方についてワークを通じて身につけていきます。

- 第 14 回 社会資源の開発・ソーシャルアクション
ソーシャルワークの重要な特徴のひとつは、個別のニーズをいかに地域の課題と連動してとらえ、コミュニティに働きかけるソーシャルアクションです。ソーシャルアクションの基本姿勢についてワークを通して身につけます。

- 第 15 回 事例を通して精神保健福祉士の援助に必要な対人援助の基礎を学ぶ
これまでの学びを総合的に活かし、ひとつの事例にどのようにかかわっていくかを学んでいきます。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。授業中に口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当する部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (100点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (8) 精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016/978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

総合病院、京都市行政、精神科診療所で精神保健福祉士の経験あり

精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ

SWR3454N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

1単位 後期

金曜 2限

DP4：思考・解決力

15

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神保健福祉士が行う相談援助を体系的に学び、ケースワークやグループワークなどの説明できるとともに、それらの具体的な技術を用いて精神に「障害」のある人に対して適切な支援を提供できる。また、自己を客体視する力、主体的に行動する力、そして精神に「障害」のある人の生活や人生を深く理解する力を養い、より適切な支援が可能となることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

精神保健福祉援助実習に向けた精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術として、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントを、ロールプレイと事例検討を通じて習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術	精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない	精神保健福祉援助実習に向けて精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を実践できる準備ができていない

〔授業計画〕

- 第 1 回 ケースワーク技術－面接相談
- 第 2 回 ケースワーク技術－電話相談
- 第 3 回 ケースワーク技術－訪問援助
- 第 4 回 グループワーク技術－グループワーク体験
- 第 5 回 グループワーク技術－S S T
- 第 6 回 コミュニティワーク技術－社会資源の活用
- 第 7 回 コミュニティワーク技術－ネットワーキング
- 第 8 回 ケアマネジメント技術－インテークからアセスメント
- 第 9 回 ケアマネジメント技術－プランニングから終結まで
- 第 10 回 チームアプローチ
- 第 11 回 精神科医療機関における事例の検討－地域移行

第 12 回 相談支援事業所における事例の検討－ピアサポート

第 13 回 就労支援事業所における事例の検討－就労

第 14 回 行政機関における事例の検討－危機介入

第 15 回 まとめ・精神保健福祉における支援とは

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストを題材に演習・事例検討・ロールプレイを行う。視聴覚教材も積極的に活用する。口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストの該当部分を概読してくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（100点）で評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座（8）精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2016/978-4-8058-5313-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

SWR3453N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

2単位 後期

水曜 1限

DP4：思考・解決力

60

知名 純子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本講義では、精神障害者の置かれてきた社会的状況を念頭に置き、精神保健福祉士として求められる知識と技術の習得を目的としています。人と「向き合い」、「寄り添い」、そして「支援する」ということを一緒に考えていきます。（1）地域移行支援について、（2）精神障害者と家族について、（3）個別支援について等を具体的な事例に基づきながら理解を深めていきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 人と「向き合い」、「寄り添い」、「支援する」について
- (2) 社会的入院ー地域移行・地域定着について
- (3) 家族支援について
- (4) 個人に対する援助方法 (ケースワーク)
- (5) グループを用いて援助する方法 (グループワーク)
- (6) 専門性について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	援助専門職として相談援助に何が必要か、理解できていない	援助専門職として相談援助に何が必要か、理解できていない	援助専門職として相談援助に必要な基本的知識・情報について理解し、実践できる	援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解でき実践できるとともにわかりやすく説明できる
思考・解決力	知識を習得できていないため、問題を解決できない	理論については理解し記憶しているが、事例に応用できない	理論についての確に理解し、事例にも応用ができる	理論を知識として習得し、事例に対する解決方法が複数考えられる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
～自分を知らう～
- 第 2 回 自分について考える
相談援助の周辺理論 1：非言語コミュニケーション・防衛機制
- 第 3 回 私のコミュニケーション
相談援助の周辺理論 2：交流分析
- 第 4 回 他者を理解するために必要なこと
相談援助の周辺理論 3：ナラティブ・アプローチ
- 第 5 回 精神障害者の支援モデル
社会資源について学ぶ
- 第 6 回 ケースワーク 1
相談援助の過程①：インターク、契約、アセスメント
- 第 7 回 ケースワーク 2
相談援助の過程②：インターベンション、モニタリング、効果測定・評価、終結とアフターケア
- 第 8 回 ケースワーク 3
面接の意味と目的
- 第 9 回 ケースワーク 4
面接技法と記録の内容
- 第 10 回 グループワーク 1
集団を活用した支援の実際と事例分析①：デイケアとグループワーク
- 第 11 回 グループワーク 2
集団を活用した支援の実際と事例分析②：S S T (生活技能訓練)

- 第 12 回 グループワーク 3
集団を活用した支援の実際と事例分析③：セルフヘルプグループ
- 第 13 回 クライアントと家族の相互作用
家族支援の方法
- 第 14 回 支援者の成長と支援
スーパービジョンとコンサルテーション
- 第 15 回 試験とまとめ
試験後、試験内容と全体のふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義はグループ演習、ディスカッション、ロールプレイなど参加型で行います。また、現場の生の声を届けられるよう、新聞記事や動画を見ながら考えたり、ゲストスピーカーを迎えるなどを行います。精神保健福祉士の実践の基礎を学べる授業を考えています。クライアントを支援するにあたり、まず押さえておくべき自身の考え方の癖や特徴を客観的に把握できるようになること、また同じ物事に直面したときの問題の捉え方の違いが人それぞれにあることを知った上で、事例や課題を検討します。最終講義日試験の説明は試験終了後に授業で行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

なぜ、あなたは精神保健福祉士を目指すのか、あなたの中の「精神保健福祉士」のイメージや理想像などについて、考えておいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30時間

指定するメディア情報、配付資料に目を通すこと。次回授業の最初の方で、設題に回答してもらいます。

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(40点)・試験(60点)の総合評価とします。参加型の授業スタイルのため、欠席、遅刻は他の受講生の迷惑になります。また演習に参加できないと授業で得られる成果が半減しますので注意してください。

〔留意事項 (Other Information)〕

予定は、授業の流れによって前後します。毎回、グループワークを実施し、演習テーマを設けたり、動画を観て現状について考たりした上で、自分の考えや意見を述べてもらう時間があります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座 (新カリキュラム対応) 第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II』/日本精神保健福祉士養成協会/中央法規/2012/

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業で紹介します

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

総合病院で精神科ソーシャルワーカーとして、行政と精神科診療所で精神保健福祉士の実務経験あり。

精神保健福祉援助実習Ⅰ

SWR3551N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

60

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っての個別支援	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っての個別支援がわからない	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っての個別支援の基本を実践できる	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っての個別支援を場面に応じて実践できる	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使っての個別支援を環境にも同時に働きかけて実践できる

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。なお社会福祉援助技術現場実習の単位修得者は、本科目は免除となるため、履修する必要はない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり
伊藤一美 臨床心理士として精神科病院の勤務経験あり
薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習Ⅱ

SWR3552N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

60

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を用いてプログラム運営を行う	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術をよく理解できていないため、実施できない	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使い、プログラムの運営の基本的な働きかけができる	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使い、プログラムの運営の場面に応じた働きかけができる	精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を使い、プログラムの運営のメンバーのニーズや置かれている地域を踏まえた働きかけができる

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神保健福祉施設等での60時間(9日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

実習施設・機関等の指導のもと、60時間以上の実習に取り組む。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり
伊藤一美 臨床心理士として精神科病院の勤務経験あり
薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習Ⅲ

SWR3553N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

3単位 集中

その他

DP5: 共生・協働する力

105

集中

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習を通して、これまでの講義や演習で学んできた精神保健福祉士としての基本的な知識・技術や関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深め、説明できる。また、精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学び、専門職としての自覚に基づいた実践ができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神科医療機関における精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術	精神科医療機関の精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術が理解できていない	精神科医療機関の精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を基本的な場面で提供できる	精神科医療機関の精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を場面に応じて提供できる	精神科医療機関の精神保健福祉士の視点と具体的な支援技術を、置かれている環境も考慮に入れて提供できる

〔授業計画〕

精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 精神保健福祉士受験資格取得希望者に対して指定された精神科病院、精神科診療所での90時間(13日)以上の現場実習を行う。
2. 実習生、担当教員、実習施設の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成を行う
3. 担当教員や実習施設の実習指導者による個別指導や実習記録などによる、教員の実習巡回の際のスーパービジョン、帰校による実習中の学生の集団スーパービジョンなどにより指導を行う。
4. 実習施設担当者、学生、大学の三者による実習懇談会を開催し、実習報告と意見交換を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自配属された実習施設の理念、概要、利用者理解などについて、理解を深めておくこと。円滑に実習に取り組むことができるよう、できれば事前にボランティアなどおこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設による評価 (40点)、担当教員による評価 (40点)、その他提出物、実習ノートなど (20点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

指定された精神科病院、精神科診療所での指導のもと、90時間(13日)以上の実習に取り組む。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり
伊藤一美 臨床心理士として精神科病院の勤務経験あり
薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

精神保健福祉援助実習指導

SWR3455N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

3単位 後期

木曜 3限 木曜 4限 木曜 5限

DP4: 思考・解決力

45

週3コマ

佐藤 純 伊藤 一美 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉現場における実習の意義を理解するとともに、実習を通して精神保健福祉士が専門職としての価値・倫理に基づき、その専門的知識と技術を活用することを身をもって学ぶことができるよう、精神に「障害」のある人の現状やその生活実態と困難を理解し、精神保健福祉士として求められる資質、知識、技術等を総合的に発揮できるような能力を涵養する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
- 2 精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の困難について理解する。
- 3 精神保健福祉援助にかかる知識と技術について具体的かつ実際に理解する。
- 4 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題などを把握し、総合的に能力を発揮できる力を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健医療福祉機関の実習に臨むために必要な準備	精神保健医療機関の実習に臨むために必要な知識や具体的な支援技術を知らない	精神保健医療機関の実習に臨むために必要な知識や具体的な支援技術を基本的な場面で提供することができる	精神保健医療機関の実習に臨むために必要な知識や具体的な支援技術を、個別の状況にあわせて提供することができる	精神保健医療機関の実習に臨むために必要な知識や具体的な支援技術を、置かれている環境にも働きかけられる準備ができている

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習オリエンテーション
- 第 2 回 精神科医療機関における精神保健福祉士の実際／精神科医療機関の見学実習
- 第 3 回 精神科診療所における精神保健福祉士の実際／精神科診療所の見学実習
- 第 4 回 生活支援事業所における精神保健福祉士の実際／生活支援事業所の見学実習
- 第 5 回 就労支援事業所における精神保健福祉士の実際／就労支援事業の見学実習

- 第 6 回 行政、相談機関における精神保健福祉士の実際／行政、相談機関における精神保健福祉士の実際
- 第 7 回 実習先施設の事前訪問・見学実習
- 第 8 回 自己覚知 1 (自分を知る)
- 第 9 回 自己覚知 2 (自分のフィルターを知る)
- 第 10 回 実習計画書の作成 (目標設定) / 本人の体験談から学ぶ
- 第 11 回 実習計画書の作成 (方法) / 家族の体験談から学ぶ
- 第 12 回 実習記録の書き方
- 第 13 回 支援計画の作り方 (アセスメント)
- 第 14 回 支援計画の作り方 (プランニング)
- 第 15 回 実習直前指導

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業開始時に配付する資料に基づいて講義演習実習を行う。施設見学実習も5回行う。口頭で適宜フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前の講義で指示された準備学習をしてくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50点) とレポートなどの事前学習における評価 (50点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

3コマ連続の授業である。見学先の都合により、曜日時間等の変更もある。見学には交通費実費 (往復500円～1,000円程度) が必要となる。授業第1回目に詳細を説明する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業時に紹介する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

- 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり
 伊藤一美 臨床心理士として精神科病院の勤務経験あり
 薦田未央 臨床心理士として総合病院精神科勤務経験あり

SWR1250N1J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科(実践的科目)
 1年次
 2単位 後期
 月曜 4限
 DP2: 知識・理解力
 60
 佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- 1) 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。
- 2) 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
- 3) 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 社会モデルを用いて「障害」を説明できること
- 2) 精神障害者の障害特性やその生活上の困難について説明できること
- 3) 精神「障害」のある当事者やその家族と置かれている状況について説明できること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神障害者の「障害」やその生活支援について説明できること	精神障害者の「障害」やその生活支援について説明できない	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できる	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できるとともに社会関係からも説明を加えることができる	精神障害者の「障害」やその生活支援について基本的なことも説明できるとともに、海外や日本の特性も加えて説明を加えることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションーソーシャルワークとは
- 第 2 回 精神保健福祉士とは
- 第 3 回 障害者福祉の思想と原理
- 第 4 回 障害者福祉の理念
- 第 5 回 障害者福祉の歴史的展開
- 第 6 回 障害者福祉の現状
- 第 7 回 国際生活機能分類 (ICF)
- 第 8 回 精神疾患と精神「障害」
- 第 9 回 各法における「精神障害者」の定義

- 第 10 回 日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事(昭和まで)
 - 第 11 回 日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事(平成以降)
 - 第 12 回 社会的排除と社会的障壁 諸外国の動向
 - 第 13 回 日本の社会的障壁
 - 第 14 回 精神障害をどうとらえるか(まとめ)
 - 第 15 回 理解度確認テスト・解答解説
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後にmanabaに記入し授業終了時に提出します。次回の授業までには教員がコメントを記入してmanabaに返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前にテキストを読み、概要を理解しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト50点、レポート35点、授業参加度15点で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『精神保健福祉の原理』/最新・精神保健福祉士養成講座/日本精神保健福祉養成校協会編/中央法規/2021/978-4-8058-8256-6/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉相談援助の基盤(専門)

SWR2401N1J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)
 2年次
 2単位 前期
 木曜 3限
 DP4: 思考・解決力
 60
 佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉士が行う相談援助の対象及び相談援助の役割や意義、理念や権利擁護について学ぶことにより理解し、それらを体系的に説明でき、多職種とともに精神に「障害」のある人に対して適切な支援を判断できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 精神保健福祉士の役割と意義を説明できる
- 2 精神保健福祉士の相談援助の定義、理念、権利擁護について説明できる
- 3 精神保健福祉分野における相談援助の体系について説明できる
- 4 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲と総合的・包括的な援助や多職種連携について説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉士の役割と意義を説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を説明できない	精神保健福祉士の役割と意義を説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を社会的背景も踏まえて説明できる	精神保健福祉士の役割と意義を社会的背景とこれまでの歴史的経過も踏まえて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 精神保健福祉士の支援とは
- 第 2 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅰ (意義と役割)
- 第 3 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅱ (Y問題)
- 第 4 回 精神保健福祉士の役割と意義Ⅲ (精神保健福祉士法)
- 第 5 回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅰ (ソーシャルワーク)
- 第 6 回 精神保健福祉分野における相談援助の体系Ⅱ (支援技術)
- 第 7 回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅰ (医療職)
- 第 8 回 精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲Ⅱ (その他)
- 第 9 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅰ (偏見)
- 第 10 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅱ (医療)

- 第 11 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅲ (地域生活)
- 第 12 回 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲Ⅳ (社会生活)
- 第 13 回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅰ (包括的な支援)
- 第 14 回 精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携Ⅱ (ネットワーキング)
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とし、理解を助けるために視聴覚教材は積極的に活用します。振り返りシートを毎回授業の開始時に配付しますので、前回の学習内容の振り返り、本日の講義などで学んだこと、感想や質問などを授業中や授業後に manaba に記入し授業終了時に提出します。次回の授業までには教員がコメントを記入して manaba に返却します。レポートは採点し、コメントをつけて返却するとともに口頭で全体にフィードバックします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (50点)、授業参加度 (15点)、レポート点 (35点) で評価を行う。理解度確認テストとレポートのどちらも配点が大きいので注意。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎・専門) 第2版』 / 日本精神保健福祉士養成校協会編集 / 中央法規 / 2015/978-4-8058-5118-0/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示す。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉論 I

SWR2201N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜3限

DP2: 知識・理解力

60

早川 紗耶香

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「精神障害」の概念を理解したうえで、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進し、支援するために必要な相談支援、居住支援、就労支援、権利擁護を含む地域での総合的・継続的なシステム形成に関わる知識と技術を習得し、実践力の高い精神保健福祉士となることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解し説明できること
2. 精神に「障害」のある人が置かれている現状を知り、地域生活を支えるための制度施策や視点について理解し説明できること
3. 精神に「障害」のある人の生活を支える精神保健福祉士のあり方について理解し説明できること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神「障害」という言葉が指す事態を、総合的に理解し説明できること	精神「障害」を説明することができない	精神「障害」を疾患との関係で説明することが出来る	精神「障害」を疾患との関連に加え、社会との関連についても説明できる	精神「障害」を疾患との関連に加え、社会との関連、さらには国の文化や歴史をふまえて説明できる
精神障害のある人の地域生活を支えるための支援や制度、方向性について論じることができる	支援や制度、方向性について論じることが全くできない	精神障害のある人の地域生活を支えるための方向性について理解し説明することができる	精神障害のある人の地域生活を支えるための支援や制度について説明できる	精神障害のある人の地域生活を支えるための方向性について論じ、支援や制度について具体的に説明することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 精神障害者の概念 I 精神疾患とは
- 第 2 回 精神障害者の概念 II 精神疾患と精神障害
- 第 3 回 精神障害者の生活の実際
- 第 4 回 精神障害者の生活と人権

第 5 回 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援

第 6 回 余暇活動・広義の「働くこと」について

第 7 回 ソーシャルサポートネットワーク

第 8 回 精神障害のある人の居住支援

第 9 回 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割

第 10 回 精神障害のある人の雇用・就業支援 I 理念及び制度

第 11 回 精神障害のある人の雇用・就業支援 II 実践

第 12 回 精神障害のある人の雇用・就業支援 III 福祉的就労

第 13 回 行政における精神保健福祉士の役割

第 14 回 海外における地域生活支援

第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う。

視聴覚教材の活用や、ゲストスピーカーに参加していただきながら、講義の理解を深めてもらいたい。授業開始時にコメントカードを配布するので、質問や感想は授業中や授業後に記載し提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

理念や理論を中心とした内容であり、当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

コメントカードについては提出分については教員がコメントを記入して返却し、共有できるものがあれば全体で共有する。レポートについては採点し、コメントを記入し返却する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (60点)、レポート点 (40点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業しますので、必ず教科書を購入すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (7) 精神障害者の生活支援システム 第3版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018/978-4-8058-5597-3/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業時に紹介する

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 早川紗耶香 精神保健福祉士として施設での勤務経験あり。

精神保健福祉論 II

SWR2452N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

水曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

「精神保健福祉論I」の履修者であること

早川 紗耶香

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神保健福祉法や障害者総合支援法を理解し、精神障害者の支援や施策について現状と課題を修得する。さらに、今後の課題に向けての精神保健福祉士の視点を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における入院や行動制限の際の権利擁護の手段と方法について説明できる。

2 精神保健福祉法や障害者総合支援法における精神保健福祉士の役割と課題について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護の在り方や精神保健福祉士の役割について論じることができる	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護について説明が全くできない	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護の在り方を論じることができる	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護の在り方を論じ、精神保健福祉士の役割について説明できる	精神保健福祉法の意義について理解し、精神保健福祉法における権利擁護の在り方や精神保健福祉士の役割について現状と課題を論じることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・精神障害者への相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービス
- 第 2 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯 I 精神衛生法成立まで
精神衛生法制定以前の精神障害のある人の置かれていた状況や歴史的背景について知る
- 第 3 回 精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯 II 精神衛生法の改正
主に改正精神衛生法の留意点や課題について考える
- 第 4 回 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯
精神保健法から精神保健福祉法に至った経緯や留意事項などを学ぶ
- 第 5 回 精神保健福祉法成立の意義とその後の展開

精神保健福祉法の概略を把握する

- 第 6 回 精神保健福祉法の構成 (1・目的と対象)
精神保健福祉法の対象や目的について理解する
- 第 7 回 精神保健福祉法の構成 (2・入院形態)
入院形態の種別などについて理解し、権利擁護のありかたを考える
- 第 8 回 精神保健福祉法の構成 (3・行動制限など)
精神保健福祉法に規定されている行動制限について理解し、課題についても考える
- 第 9 回 精神保健福祉法の構成 (4・保健及び福祉)
精神保健福祉手帳や保健所などの精神保健福祉法に規定されているサービス等について知る
- 第 10 回 精神保健福祉法の動向と課題
精神保健福祉法の動向を理解し、現時点での課題についても触れる
- 第 11 回 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割
精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割及び課題について考える
- 第 12 回 障害者基本法と精神障害者施策との関わり
障害者基本法および障害者施策について理解する
- 第 13 回 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際
障害者総合支援法の中で、精神障害のある人がどのようなサービスを使っているのかを知る
- 第 14 回 精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際
福祉施策や事業の実際を知り、現状における課題についても考える
- 第 15 回 理解度確認テスト・解説とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式を中心とする。理解を深めるために視聴覚教材を使用する。

授業開始時にコメントカードを配布するので、授業中もしくは授業後に感想及び質問を記載し提出すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。

授業中や授業後に記入してもらったコメントカードはコメントをつけ授業開始時に返却する。共有したほうが良いものについてはクラス全体で共有する。レポートは採点し、コメントをつけて返却する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

理解度確認テスト (60点)、レポート点 (40点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業をするので必ず購入すること。

授業計画は、状況に応じて変更もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座(6) 精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版』/日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集/中央法規/2018 //学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 早川紗耶香 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

精神保健福祉論III

SWR4500N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

4年次

2単位 前期

水曜2限

DP5: 共生・協働する力

90

早川 紗耶香

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神障害者の支援にかかわる法律や施策について学び、それらを説明できるとともに、対象者に応じた制度の説明を考察することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 精神保健福祉の関連施策について理解し説明できる
- 2) 更生保護制度と医療観察法について理解し説明できる
- 3) 社会資源開発にかかる社会調査の概要と活用について理解し説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神保健福祉の関連施策について理解し説明できる	精神保健福祉の関連施策についてまったく説明できない	精神保健福祉の関連施策について理解し説明できる	精神保健福祉の関連施策について理解し精神に障害のある人を支援する際に必要な制度やサービスについて説明できる	支援する対象の人にあわせて必要な制度やサービスについて説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 精神障害者と社会保障制度
 第 2 回 社会保障制度と社会福祉制度
 日本の社会保障制度の仕組みについて大要を把握する
 第 3 回 医療保険制度

- 医療保険制度の概要について理解する
 第 4 回 介護保険制度
 介護保険制度の概要、障害福祉サービスとの関連などについて理解する
 第 5 回 生活保護制度
 生活保護の概要、留意事項等について理解する
 第 6 回 年金保険制度
 日本の年金保険制度について概要を理解する
 第 7 回 社会手当・雇用保険など
 日本の社会手当、雇用保険の概要を知る
 第 8 回 相談援助に係わる行政組織と民間組織
 精神障害のある人の相談援助機関はどのようなものがあるか知る
 第 9 回 福祉サービス提供施設・機関の役割、インフォーマルな社会資源について
 フォーマル及びインフォーマルな社会資源の概要や目的を学ぶ
 第 10 回 刑事司法と更生保護制度Ⅰ 司法の仕組み
 日本における司法の仕組みについて大要を把握する
 第 11 回 刑事司法と更生保護制度Ⅱ 司法・医療・福祉の連携の実際
 司法医療福祉の連携の実際について事例を紹介する
 第 12 回 医療観察法Ⅰ 意義と目的
 医療観察法における意義・目的を理解する
 第 13 回 医療観察法Ⅱ 制度概要と課題
 医療観察法の概要を理解し、現状の課題を考える
 第 14 回 社会調査の意義と目的
 社会福祉における調査の意義や調査における留意事項について知り、使用頻度の高い調査方法について理解する。
 第 15 回 理解度確認テスト、解説及び総括
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない。
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 講義形式を中心とする。
 理解を深めるために教科書以外の資料や視聴覚教材などを使用する。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 当日までにテキストを概読し、大要をつかんだ上で出席すること。
 小テストは採点し、コメントをつけ次回授業開始時に返却する。
 確認テストも同様。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 30
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 授業中に行う小テスト (50点) 及び授業最終回の理解度確認テスト (50点) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

教科書を使って授業をするので必ず購入すること。なおこの教科書は精神保健福祉論Ⅱ（2年次配当）と同じであるので、その教科書でよい。

授業計画は状況に応じて変更あり。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉に関する制度とサービス 第6版』/日本精神保健福祉士養成校協会編集/中央法規/2018/978-4-8058-5596-6/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に紹介する。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 早川紗耶香 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

地域福祉論Ⅰ

SWA3200N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々がさまざまな生活問題や社会福祉問題を抱えながら暮らしているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安全・安心に暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。

このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通して考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方 (概念)・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要な取り組み、専門機関や各種関連組織等について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自分の地域や課題について、考えようとすることができない	自分の地域や課題について、情報収集しようとするができる	自分の地域や課題について、理解することができる	自分の地域や課題について、理解し、そのため何ができるかを考えることができる
知識・理解力	地域や地域福祉について、理解することができない	地域や地域福祉について、理解しようとするができる	地域や地域福祉について、理解し、大切なことが何かをすることができる	地域や地域福祉について、理解し、課題解決に必要なことを考えることができる
言語力	地域や地域福祉について、説明することができない	地域や地域福祉について、説明しようとするができる	地域や地域福祉について、説明することができる	地域や地域福祉について、説明することができ、他者にも伝えようとするができる
思考・解決力	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができない	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決のために何が必要かを考えようとするができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決に向けて考えることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができる
共生・協働する力	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとすることができない	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとすることができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動しようとするができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動し、解決することができる
創造・発信力	地域や地域福祉について、何ができるかを考えることができない	地域や地域福祉について、何ができるかを考えようとするができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者に取り組みようとするができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者とともに新たな取り組みができる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 地域福祉の概念 ①地域とは何か

第 3 回 地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か

第 4 回

- 地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流（欧米の歴史的展開）
- 第5回 地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程
- 第6回 社会福祉法における地域福祉の位置づけ
- 第7回 地域福祉の主体と対象
- 第8回 地域福祉計画と地域福祉活動計画
- 第9回 地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会
- 第10回 地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員
- 第11回 地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など
- 第12回 地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織
- 第13回 地域福祉の人材・財源
- 第14回 形成テストおよび総括
- 第15回 地域福祉推進の課題と展望

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

予習、復習の確認のため、小テストを実施する。manabaの小テスト機能で回答の確認をし、フィードバックをおこなう。形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

地域福祉に関連する社会福祉法や各種制度とその変革の流れ、参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。

また、各自が暮らしている地域についても、どのような施策が講じられているのか、またどのような活動が展開されているのか確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回小テストを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと予習、復習して臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業態度（30%）、小テスト（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—』/全国社会福祉協議会//2008/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

地域福祉論 II

SWA3450N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

2単位 後期

火曜3限

DP4：思考・解決力

60

地域福祉論I

酒井 久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域住民による主体的な取り組みが重要である。地域住民の主体的な取り組みを推進していくためには、住民の主体形成、地域の組織化を進めていくことが必要である。そこで、住民主体の原則を再度確認し、なぜ住民が主体なのか、住民の主体的な取り組みの必要性について理解を深め、地域福祉を推進するための方法について考える。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 住民の主体的な取り組みの必要性について考える。
2. 住民が主体的に取り組むために必要な支援について考える。
3. 特に小地域の取り組みについて検討する。
4. 毎回小テスト（予習・復習の確認）を実施し、manabaの所テスト機能で回答の確認をし、フィードバックをおこなう。
5. 形成テストについては、終了後に回答の確認・解説をおこない、フィードバックをおこなう。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	地域福祉を推進するために、何ができるのかを考えようとしない	地域福祉を推進するために、自分のできることを考えようとする	地域福祉を推進するために、自分のできることをイメージすることができる	地域福祉を推進するために、イメージしたことを実践しようとする
知識・理解力	地域福祉推進に必要なことから理解するこ	地域福祉推進に必要なことから	地域福祉推進に必要なことから理解し、具	地域福祉推進に必要なことから理解し、具

	とができない	理解しようと努力する	体的な方法を考える	体的な方法を考える取り組みを行う
思考・解決力	地域福祉の課題について、考えることができない	地域福祉の課題について、考えようとする事ができる	地域福祉の課題について、考え、対応を考えることができる	地域福祉の課題について、解決策を検討することができる
創造・発信力	地域福祉の課題について、できることを考え、他者に発信することができない	地域福祉の課題について、できることを考え、他者と共有することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決方法を検討することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決に向けて取り組みすることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - 第 2 回 地域福祉と福祉教育
 - 第 3 回 福祉教育の概念・展開
 - 第 4 回 地域福祉と住民参加
 - 第 5 回 コミュニティソーシャルワークについて
 - 第 6 回 ソーシャルサポートネットワークについて
 - 第 7 回 地域の組織化
 - 第 8 回 社会資源の活用
 - 第 9 回 地域特性の把握について
 - 第 10 回 地域における生活問題、課題の把握について
 - 第 11 回 地域活動への支援体制について
 - 第 12 回 地域における連携・協働とは
 - 第 13 回 小地域における住民活動の実際
 - 第 14 回 形成テストおよび総括
 - 第 15 回 住民主体の地域福祉活動に関する課題と展望
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。
参考文献については随時紹介する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各自が暮らしている地域の住民活動について調べておくことが望ましい。

住民活動への支援体制について調べておくことが望ましい。理解度を促進するため、毎回小テストを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと予習・復習をして臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を各自必ずダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度 (30%)、復習クイズ (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的におこなう。欠席回数3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

社会福祉士、精神保健福祉士に必要な地域福祉推進にかかわる専門的知識や技術、方法に関する内容が中心となるため、その点を十分考慮したうえで、履修登録すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画 (活動計画) 策定委員等の経験あり

発達心理学概論

PSA2201N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 前期

月曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

誕生から老年期に至るまでの、精神の発達過程を学ぶことは、人間のさまざまな精神的機能の発生や変化のメカニズムを理解することにもつながる。そこで、人間の精神活動の仕組みとその発達に関する基礎知識を身につけることを第1の目標とする。そして、その知識をもとにして、子どもと関わったり、高齢者の心理を理解したり、様々な年齢の人の発達を支援するための素養を身につけることを第2の目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 乳児期から老年期まで、さまざまな発達段階の特徴について学ぶ。
2. 対人活動の発達・認知発達・言語発達・パーソナリティの形成等について、プロセスを理解する。
3. 発達を規定する要因として、個人的要因、子どもを取り巻く学校・社会・文化といった環境的役割について理解を深め、発達の支援を行うための基礎知識を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・理解力	発達心理学の基礎知識が不足している	発達心理学の基礎知識をおおむね理解している	発達心理学の知識をおおむね理解し、発達の支援の視点についても考えることができる。	発達心理学の知識を深く、幅広く理解し、発達支援のための基礎的知識を習得している。
--------	-------------------	-----------------------	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 発達の要因：遺伝と環境
発達の要因および発達段階についての基本的な考え方
- 第 2 回 遺伝と環境の相互作用
遺伝と環境の相互作用に関する研究（行動遺伝学など）の紹介
- 第 3 回 初期経験の影響について
初期環境の発達への影響と児童虐待（ネグレクト）の事例
- 第 4 回 社会性の発達①
新生児期から人間に備わっているものは何か？
初期の親子関係について
- 第 5 回 社会性の発達②
幼児期以降の仲間関係について
- 第 6 回 認知発達とピアジェ理論①
乳児期からの認知発達とピアジェの発達段階説の理解
- 第 7 回 認知発達とピアジェ理論②
幼児期から青年期の認知発達と学校教育との関係の理解
- 第 8 回 言語発達の生物学的要因
系統発生の過程で、ヒトはなぜ言葉を話すようになったのか？考える
- 第 9 回 認知発達と脳神経の発達
脳神経の発達について仕組みを理解する
障害児の「心の理論」の発達についても触れる
- 第 10 回 言語発達と環境
環境は言葉の発達にどのように影響するか？様々な視点から学び、言語発達の支援についても理解する
- 第 11 回 自我・パーソナリティの発達
フロイトとエリクソンの発達段階説を中心に自我形成のプロセスを理解する
- 第 12 回 高齢者の心理①
エリクソンの理論と生涯を通したパーソナリティの形成
- 第 13 回 高齢者の心理②
高齢者の認知機能とパーソナリティの変容
- 第 14 回 発達障害等非定型発達についての基本的な知識及び考え方
障害児の発達と支援について
これまでの授業課題のフィードバックも行う
- 第 15 回 振り返りとまとめ
振り返りとまとめのテスト

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は講義を中心に配布プリントを用いて行う。授業内筆記課題も随時行うが、提出された課題は返却し、授業でフィードバックを行う。フィードバックでは、返却課題についての講評を行い、特に課題の成果が不十分であった点については、解説を行うこととする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

日常生活において、子どもを観察したり、子どもと関わることを通じて、子どもの心理に触れて、さまざまな問題意識を持ってほしい。高齢者が身近にいる人は、しっかりと関わって、相手の気持ちを理解することに努めてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業態度を加味した授業内筆記課題（20％）とまとめのテスト（80％）。

〔留意事項（Other Information）〕

授業の順番は変わることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。プリントを配布。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『児童心理』/岡本夏木/岩波書店/1991/など

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫臨床発達心理士として、障害児の発達アセスメントの経験あり。

福祉行財政と福祉計画

SWR3450N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科（実践的科目）

3年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4：思考・解決力

60

武藤 大司

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、福祉行財政の基礎的な知識をふまえたうえで、住民自治の視点から福祉計画のあり方を学ぶ。具体的には、①福祉行政の実施体制について、国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係を学び、②国と地方双方の福祉財政の内容を理解する。その際、国の社会保障関係費及び地方自治体の民生費を詳しく把握する。次に①と②をふまえ、各種福祉計画の目的、意義、主体、方法について事例

検討を通して学ぶ。また実際に地域福祉計画を参考にして、計画策定の方法について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①福祉の動向を理解する。
- ②福祉行政の実施体制（国、都道府県、市町村それぞれの役割と政府間関係）を理解する。
- ③国と地方の福祉財政（社会保障関係費及び地方自治体の民生費など）を理解する。
- ④福祉の相談過程と専門職の役割を理解する。
- ⑤福祉計画の目的と意義を理解する。
- ⑥福祉計画の理論と技法を理解する。
- ⑦福祉計画の実際を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	福祉行財政と福祉計画に関心がない	福祉行財政と福祉計画を理解しようとする	福祉行財政と福祉計画の内容について理解できる	福祉行財政と福祉計画の内容について理解でき、自分の意見を持つ
知識・理解力	福祉行財政と福祉計画に関する知識がなく、理解できない	福祉行財政と福祉計画に関する知識が少なく、理解しようとしている	福祉行財政と福祉計画に関する知識があり、理解できる	福祉行財政と福祉計画に関する知識があり、自分の意見をもつ
言語力	福祉行財政と福祉計画に関する用語を理解できない	福祉行財政と福祉計画に関する用語を理解しようとする	福祉行財政と福祉計画に関する用語を簡単に説明できる	福祉行財政と福祉計画に関する用語を詳細に説明できる
思考・解決力	福祉行財政と福祉計画の問題点や課題を考えない	福祉行財政と福祉計画の問題点や課題を意識する	福祉行財政と福祉計画の問題点や課題の要点をまとめる	福祉行財政と福祉計画の問題点や課題について自身の考えをもつ
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	他者の意見を聞き、友人と一緒に学ぶ	他者と共有して自身の考えを深める	他者と共有しながら新たな自分の考えをもつ
創造・発信力	自分勝手に考えて発信する	周辺状況を鑑み、福祉行財政と福祉計画を考え、発信する	福祉行財政と福祉計画を創造し、発信する	福祉行財政と福祉計画以外にも含めて多角的に考えたうえで創造し、発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 福祉行財政と福祉計画
オリエンテーション、福祉行財政と福祉計画
- 第 2 回 福祉行政 1

- 福祉の骨格、社会福祉と法制度
- 第 3 回 福祉行政 2
福祉行政の組織、社会福祉基礎構造
- 第 4 回 福祉財政 1
財政と社会福祉、一般会計予算と社会保障関係費の動向、地方自治体の財政と民生費の動向
- 第 5 回 福祉行政 2
民間社会福祉事業の財源、福祉サービスの利用と費用負担
- 第 6 回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 1
社会福祉基礎構造改革、相談過程
- 第 7 回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 2
相談体制、専門諸機関
- 第 8 回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割 3
地域の相談システム、専門職
- 第 9 回 福祉計画の目的と意義 1
福祉計画の目的と意義
- 第 10 回 福祉計画の目的と意義 2
福祉援助の現場から福祉計画へ、計画のサイクルと福祉援助の現場
- 第 11 回 福祉計画の理論と技法 1
福祉計画の基本的視点、過程と留意点
- 第 12 回 福祉計画の理論と技法 2
福祉計画におけるニーズ把握、評価、住民参加
- 第 13 回 福祉計画の実際 1
福祉計画の事例研究の視点、老人福祉計画・介護保険事業計画、障害者計画・障害福祉計画
- 第 14 回 福祉計画の実際 2
次世代育成支援行動計画、地域福祉計画
- 第 15 回 福祉行財政と福祉計画 総括
福祉行財政と福祉計画のまとめとふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを作成する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストに基づいて講義を行う。DVD教材も積極的に活用する。講義終了時にその日の質問、感想、意見を記述したリアクションペーパーを提出してもらうこともある。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習として、テキストの該当する部分を概読してくる。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
20時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題レポート (70%) で評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・社会福祉士養成講座 1 0 福祉行財政と福祉計画 第 5 版』/社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規/2017/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 地方自治体や地方自治体委託事業にて、障害福祉計画策定委員長、次世代育成支援対策地域協議会委員長、子ども子育て会議副委員長等の経験あり。

保健医療サービス

SWR2450N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

金曜1限

DP4: 思考・解決力

60

集中

福嶋 正人

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

- 1) 保健医療機関の基本的仕組みや現状や課題が理解できる。
- 2) 保健医療分野での社会福祉士の役割が理解できる。
- 3) 保健医療分野で働く時、自分が何をすればよいのか明確にすることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

患者や利用者、その家族が、病気や障害を抱えながらも日常生活を継続させていくためには、包括的な保健・医療・福祉サービスの利用や支援が必要となる。そのような支援体制を構築するため(ネットワーク作り)に、保健・医療と福祉の連携は欠かすことができない。社会福祉士を目指す学生にとって、保健・医療分野の知識、そこで働く専門職の理解は、現場で働く時、ネットワーク作りやチームケアを行うために必須のスキルとなるだろう。この授業は講義を通して、保健医療の機関・専門職・サービス内容を理解し、社会福祉の専門職の役割や期待されていることを、事例などを用いて具体的に伝えていきたい。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力1	医療提供体制や制度についての知識が殆どない	医療提供体制や制度についての概要は理解している	医療提供体制や制度について、大凡の体系を理解している	医療提供体制や制度について体系的に理解し説明することができる
知識・理解力2	医療ソーシャルワーカーの業務に関する知識を殆ど持っていない	医療ソーシャルワーカーの業務に関する知識の概要を知っている	医療ソーシャルワーカーの業務に関して具体的に説明できる	医療ソーシャルワーカーの業務に関して総合的に説明できる

知識・理解力3	MSW業務に関する歴史や国際比較についての知識を持っていない	MSW業務に関する歴史や国際比較について、その経過や背景の概要を知っている	MSW業務に関する歴史や国際比較について、その概要を説明できる	MSW業務に関する歴史や国際比較から、医療とMSWに関して構造的に理解できる
思考・解決力	チームや連携についてのイメージが持てない	チームや連携についての重要性や意義について理解することができる	具体的な状況におけるチームや連携についてイメージできる	具体的な状況におけるチームや連携についてその必要性や課題を説明できる

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
授業の進め方、授業の展開について
- 第2回 戦後の保健医療サービスの歴史
戦後の保健医療サービスの歴史を知る。
- 第3回 主に医療法を学ぶ。
医療サービスの変遷と法体制について学ぶと共に医療法の変遷の概要を知る
- 第4回 医療保険制度の概要
医療保険制度の種類や給付内容、変遷の概要を学ぶ
- 第5回 診療報酬制度
診療報酬制度の仕組みと、社会福祉士
- 第6回 保健医療におけるその他の福祉関連制度
医療保険制度と福祉制度の関連について学ぶ
- 第7回 保健医療サービスにおける専門職の業務と役割
保健医療サービスにおける専門職の連携・資格や業務内容、役割などを知る
- 第8回 医療法に規定された医療施設
「医療保健に関わる施設とシステムⅠ」医療法に規定された医療施設
- 第9回 診療報酬上に規定された医療施設
「医療保健に関わる施設とシステムⅢ」診療報酬上に規定された医療施設
- 第10回 介護保険法の施設
「医療保健に関わる施設とシステムⅢ」介護保険法の施設
- 第11回 保健医療ソーシャルワーカーの業務の方法
医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み
- 第12回 医療ソーシャルワークの歴史(イギリス)
医療ソーシャルワークの歴史について学ぶ
- 第13回 医療ソーシャルワークの歴史2(アメリカ)
医療ソーシャルワークの歴史について学ぶ
- 第14回 医療ソーシャルワークの歴史3(日本)
日本の医療ソーシャルワークの歴史の概要を知る
- 第15回 保健医療サービスを取り巻く動向と課題
授業のまとめとして保健医療サービスを取り巻く動向と課題について学ぶ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。詳細については授業内で告知する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

講義形式 (一部演習形式を採用する)

2. 学習方法

- ①講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。
- ②毎回の講義について必ず予習・復習を行うこと。
- ③授業における意見や質問をコメント用紙に記入し、次回の授業における教員からのコメントに基づき、理解を深める。
- ④連携・協働のあり方や保健医療サービスの意義や発展のための課題や方法について考察し、演習形式でディスカッションを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各テーマに該当するテキストの章・節について適宜、案内をするので予習をして臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30分

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (50%) 授業参加度 (50%)。

〔留意事項 (Other Information)〕

テキストを必ず購入すること

社会福祉士受験の指定科目です。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス 第3版
中央法規出版

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

講義においてはテキストを使用し、適宜資料を配布する。

またテーマに沿った参考文献について、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

無意識の心理学 2021年度以降入学者

PSA2253NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 後期

金曜 1限

DP2: 知識・理解力

60

集中

茅野 綾子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

普段の生活の中で、私たちは、「自分には、そんなつもりはないのに、思わぬ失敗をしてしまった」というような経験をすることが、よくある。例えば、毎日顔を合わせてい

る友達の名前を急に「度忘れ」したり、「いい間違い」たりするなどである。

また、別に怖い夢を見たいと思って眠る訳ではないのに、悪夢にうなされて目覚めたり、行ったこともない場所や見知らぬ人が夢の中に出てくるといったことも、多くの人が経験していることであろう。

私たちは、自分の「心」を、自分の意志する通りにコントロールしたいと思っている。しかし、上にあげた例のように、他でもない自分自身の「心」であるにも拘らず、感情・態度・夢の内容を思うようにコントロールできないのも事実である。

Freud,S は、このような、日常の何気ない「言い間違い」、「度忘れ」、「訳のわからない感情」「夢」などは、私たちの意志とは異なる原理、原則に則って機能する、普段は意識されていない心の働きによるものではないかと考え、これを「無意識」と呼んだ。そして、様々な心理的問題の背景にも、この「無意識」が関与していると主張したのである。現代においても、「無意識」という概念は、精神分析的な方向性を持つ心理療法の基本的前提となる概念である。この講義では、フロイトの精神分析理論を中心に無意識を扱う重要な理論を概説し、無意識の基本的な機能、構造、性質を概観することによって、より深い人間理解の眼を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 精神分析における「無意識」発見の歴史について学び、「無意識」という心的領域の存在を想定するに到る過程を理解する。
2. 「無意識」が抽象的、思弁的な概念ではなく、私達の日常生活にも大きな影響を与えている現実的、経験的な現象であることを理解する。
3. 精神疾患や身体疾患と「無意識」との関係について考察する。
4. 自由連想、夢分析など、「無意識」を理解するための方法についても言及する。
5. 無意識を扱う上での倫理的な問題について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 無意識の重要性

- 「無意識」概念の心理学における位置づけについて
臨床心理学と精神分析の関わりについて
- 第 2 回 フロイトの精神分析理論 (1)
精神分析の誕生と無意識の発見の過程① (ヒステリー治療の催眠からの出発)
- 第 3 回 フロイトの精神分析理論 (2)
精神分析の誕生と無意識の発見の過程② (催眠から自由連想法へ)
- 第 4 回 フロイトの精神分析理論 (3)
精神分析の誕生と無意識の発見の過程③ (夢分析と錯誤行為)
- 第 5 回 力動-構造論
こころを自我、エス、超自我によって、構造的、局所的に捉える
- 第 6 回 力動-経済論
心のエネルギーの力関係から行動や症状をみる
- 第 7 回 不安-防衛論
不安内容とそれに対する防衛を理解する
- 第 8 回 生成-分析論
自我の一次過程・二次過程や、快感原則・現実原則について理解する
- 第 9 回 発生-発達論
心のエネルギーの展開や固着から心の発達や病理をみる
- 第 10 回 自己愛論
自己愛から対象愛への展開をみる
- 第 11 回 精神分析の実際
精神分析の実際を技法として学ぶ
- 第 12 回 精神分析理論の展開
フロイトから発展した重要な精神分析理論を概観する
- 第 13 回 フロイトとは別の深層心理学 (1)
フロイトとの出会いと離反-ユングとアドラー
- 第 14 回 フロイトとは別の深層心理学 (2)
ユングの分析心理学
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は、基本的に講義形式で行う。受講生の理解度を確認しながら、すすめていく。

受講生は授業の最後に感想と質問を提出する。次回の授業は質問の回答から始め、前回の授業を受講生が理解できてから次にすすめる。感想と質問が授業の参加度となる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業の内容をノートやレジюмеなどで復習し、理解できていない所があれば、授業時に質問できるようにしておく。

課題 (レポート) は、コメントをつけて返却する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、出席状況・受講態度・参加度50%、レポート50%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要に応じて教員が準備する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に、適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (詳しい勤務経験等)

臨床心理士・公認心理師として、医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理学概論 2021年度以降入学者

PSA2204N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜2限

DP2: 知識・理解力

60

心理カウンセリングコース必修

三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

臨床心理学は心理学の一つの研究分野であると共に、こころに問題や悩みを抱えた人々を理解し、支援するという実践的な活動を行う際の基礎となる学問でもある。本科目は、臨床心理学を初めて学ぶ受講生を対象に、臨床心理学の歴史や代表的な理論・研究法などについて学び、臨床心理学による支援の実際について、知識や関心を拡げることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.臨床心理学の基礎用語を理解すること。
- 2.臨床心理学の代表的な理論と背景となる人間観を理解すること。
- 3.臨床心理学における研究法について理解すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	臨床心理学の学びを通して自分を育てる動機がみられない	臨床心理学の学びを通して自分を育てる動機がある程度ある	臨床心理学の学びを通して自分を育てる動機がおおむねある	臨床心理学の学びを通して自分を育てる動機がかなりある
知識・理解力	臨床心理学に必要な知	臨床心理学に必要な知	臨床心理学に必要な知	臨床心理学に必要な知

	識・理解力がみられない	識・理解力がある程度ある	識・理解力がおおむねある	識・理解力がかなりある
言語力	臨床心理学に必要な言語力がみられない	臨床心理学に必要な言語力がある程度ある	臨床心理学に必要な言語力がおおむねある	臨床心理学に必要な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について考えることが難しい	与えられた課題について考える程度がある程度できる	与えられた課題について考えることがおおむねできる	与えられた課題について考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	他者と協力して活動することがある程度できる	他者と協力して活動することがおおむねできる	他者と協力して活動することができる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを表現する力がある程度ある	自分の考えを表現する力がおおむねある	自分の考えを表現する力がある

〔授業計画〕

- 第 1 回 臨床心理学とは
- 第 2 回 臨床心理学の歴史と成り立ち
- 第 3 回 臨床心理学の諸領域
- 第 4 回 理論と臨床の実際：精神力動的アプローチ1（フロイトの精神分析）
- 第 5 回 理論と臨床の実際：精神力動的アプローチ2（フロイト以後）
- 第 6 回 理論と臨床の実際：行動主義的アプローチ
- 第 7 回 理論と臨床の実際：認知主義的アプローチ
- 第 8 回 理論と臨床の実際：人間性心理学のアプローチ
- 第 9 回 理論と臨床の実際：遊びとイメージを介したアプローチ
- 第 10 回 理論と臨床の実際：身体を介したアプローチ
- 第 11 回 理論と臨床の実際：日本で生まれたアプローチ
- 第 12 回 臨床心理学的アセスメント1：観察・面接
- 第 13 回 臨床心理学的アセスメント2：心理検査
- 第 14 回 臨床心理学領域での訓練・倫理
- 第 15 回 確認テストと解説

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義形式で行う。基本的には毎回レジュメを配布し、それに基づき授業を進める。
2. 体験的内容の授業の際には、小レポートの提出を求める。
3. 確認テストについては、実施後、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・ 毎回、授業内容について、復習を行うこと。
- ・ 資料を配布する場合には、指示に従って目を通しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、授業時間内に行う小レポート（30%）、確認テスト（40%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

受講状況等によって授業内容に変更が生じることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

開講時に指示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業時に適宜、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 心理専門職として施設での勤務経験あり。

学習・言語心理学 2021年度以降入学者

PSA2254N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

木曜3限

DP2：知識・理解力

60

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習理論である。本科目ではまず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習などについて学び、学習成立の基礎過程を理解する。次に、記憶、概念、思考などの認知過程における学習について学ぶ。さらに、人間がコミュニケーションに使用する記号システムである言語について、その特徴や構造を学び、言語習得のメカニズムについて理解する。これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、身体的・認知的技能や言語の習得について考察することを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学習の基礎的なメカニズムの理解
2. 概念や思考の学習、および人間の知識獲得の理解
3. 言語獲得のメカニズムについての理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習・言語獲得に関する基礎的概念・知識を理解し、説	学習・言語獲得に関する基礎的概念・知識を理解し、説	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決

	明することができない。	明することができる。	明することができる。	明することができる。
--	-------------	------------	------------	------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 レスポンド条件づけ
- 第 3 回 オペラント条件づけ
- 第 4 回 条件づけの応用
- 第 5 回 条件づけの制約
- 第 6 回 社会的学習
- 第 7 回 技能学習
- 第 8 回 記憶
- 第 9 回 知識と学習
- 第 10 回 問題解決と学習
- 第 11 回 学習理論の展開
- 第 12 回 言語
- 第 13 回 言語獲得
- 第 14 回 リテラシーの獲得
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主としてPowerPointや映像資料を使った講義形式で行う。テキストは使用せず、必要な授業資料等はmanabaから入手する。また、課題の提出やそれに対するフィードバックもmanabaから行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業資料を読んでおく。出された課題をmanabaから提出する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テストは行わず、複数回の小テスト・中テスト(100%)に基づき評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。状況によっては、授業の一部または全部をオンラインで行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学習心理学への招待—学習・記憶のしくみを探る』/篠原彰一/サイエンス社/2008/4781912044

『言語心理学入門—言語力を育てる』/福田由紀/培風館/2012/9784563052317

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育心理学概論 2017年度以降入学者

PSA1250N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次 2年次

2単位 後期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育過程における人間の心の働きや、学校教育現場における課題について、心理学的な知識、方法、視点から理解することを旨とする。特に幼児、児童、生徒の心身の発達、学習の過程、知的・情意的側面の測定・評価を中心に学び、教育心理学の基本用語の習得を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの身体的、心理的諸側面の発達とその特徴を理解し、年齢・発達に応じた教育について考察する。
2. 効果的な学習を援助する教授法や認知の働きを学ぶ。
3. 知能や学力、性格における個人差の評価を学ぶ。
4. 学級集団における児童・生徒について学ぶ。
5. 現代の学校教育の現状や問題点を心理学の立場から考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	教育心理学の知識や方法に関する知識が身についていない。	ある程度、教育心理学の知識や方法に関する知識を身につけている。	おおむね教育心理学の知識や研究方法に関する知識を身につけている。	教育心理学の知識や研究方法に関する知識を十分身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	教育の諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりす	ある程度、教育の諸問題を心理学の知識で解決したり考	おおむね教育の諸問題を心理学の知識で解決したり考察	教育の諸問題を心理学の知識で解決したり考

	る力が身につけていない。	察したりする力が身につけている。	したりする力が身につけている。	る力が十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育心理学とは
- 第 2 回 教育心理学の研究法
- 第 3 回 教育と発達
- 第 4 回 学習への意欲と動機づけ I (古典的な動機づけ理論)
- 第 5 回 学習への意欲と動機づけ II (近年の動機づけ理論)
- 第 6 回 原因帰属と動機づけ
- 第 7 回 学習を阻害する要因
- 第 8 回 知識の獲得方法 (行動主義の観点から)
- 第 9 回 知識の獲得方法 (認知主義の観点から)
- 第 10 回 学級集団
- 第 11 回 学級環境が子どもに及ぼす影響
- 第 12 回 教師のリーダーシップと管理主義
- 第 13 回 教育評価の目的
- 第 14 回 教育評価の方法
- 第 15 回 まとめと振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義形式で進める。
- ・毎回授業後に、授業内容のコメントを求める。
- ・講義内容をただ覚えるだけでなく、自分の身のまわりから実例を探したり、これまで自身が学校教育で経験してきたことと関連づけるなど、受け身的ではなく、積極的に講義に臨むことを期待したい。
- ・課題 (テスト) については、授業内に解説を行うことでフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。その際、本やインターネットの丸写し等、機械的な予習にならないように注意すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業期間中の小テスト 2 回 (70%)、毎回の予習・振り返り・小テスト (30%) により総合的に判断する。欠席が授業回数数の 1 / 3 を超えた場合、原則として期末テストは受けられない。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理学事典』/中島義明ら (編) /有斐閣//

『教育心理学キーワード』/森敏昭・秋田喜代美 (編) /有斐閣//

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

健康・医療心理学

PSA2255N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

鶴田 薫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

健康・医療心理学は、心理学がいかにかに人々の健康で幸福な生活に貢献できるか、その可能性を究める実践的な学問である。

そこで本科目では、まず心身の健康と大きな関わりをもつストレスについての理解を深める。次に、健康・医療心理学を実践する医療や保健活動の現場が直面している課題を、心理社会的な側面からとらえ、それに対する支援を学ぶ。また、災害時のメンタルヘルスと必要な心理的支援についても学習する。

さらに、これらの支援は通常、チーム医療や多職種連携のもとで行われている。そのシステムを学ぶとともに、そのシステムにおける心理職の役割と課題についても検討する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

① ストレスと心身の疾病の関係を理解する

② 医療現場における心理社会的課題および必要な支援を学ぶ

③保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援を学ぶ

④災害時などに必要な心理に関する支援を学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
ストレスとは？
- 第 2 回 ストレスが心身の健康に与える影響、ストレスへの対処
- 第 3 回 医療現場における心理職の業務・役割
- 第 4 回 保健活動について
- 第 5 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援①
気分障害
- 第 6 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援②
発達障害
- 第 7 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援③
依存症
- 第 8 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援④
緩和ケア
- 第 9 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援⑤
自殺とその対策
- 第 10 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援⑥
ひきこもりとその支援
- 第 11 回 医療・保健活動の現場における心理社会的課題および必要な支援⑦
認知症高齢者
- 第 12 回 チーム医療と多職種連携
- 第 13 回 災害時に必要な心理に関する支援
- 第 14 回 被災者の心のケア
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で行う

- ・授業中の学生の発問に対して、適宜口頭でフィードバックを行う
- ・授業全体に対しては、最終回に授業内容をふりかえりフィードバックを行う
- ・課題 (レポート等) に対しては、授業やmanabaを通してフィードバックを行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

前回までに配布された講義資料を見直し、理解を深めたくて授業に臨むこと。

疑問や興味を感じた点については、文献を検索するなどして、自主的な学習を行うこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、出席状況と参加態度(30%)、提出課題および期末レポートの内容(70%)に基づいて総合的に行う

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内で資料を配布する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

公認心理師分野別テキスト①保健医療分野/津川律子・江口昌克(編)/太洋社/2019/978-4-422-11691-4

健康・医療心理学/宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫(編)/医歯薬出版/2018/978-4-263-26577-2

保健と健康の心理学 標準テキスト第6巻 健康・医療心理学/岸太一・藤野秀美/ナカニシヤ出版/2017/978-4-7795-1207-0

臨床心理学 第15巻第1号 医療・保健領域で働く心理職のスタンダード/下山晴彦・熊野宏昭・中島義文・松澤広和(編)/金剛出版/2015/978-4-7724-1411-1

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理士・公認心理師として医療機関での勤務経験あり

権利擁護と成年後見制度

SWR3401N1J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 2単位 前期
 金曜 5限
 DP4: 思考・解決力
 60
 高岡 克行

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

悪徳商法被害や虐待など、講師が実際に取り扱った事件を紹介しながら、成年後見制度、民法、憲法を理解することを目標とする。基本的には法律の講義であるが、条文解釈ではなく、具体的な事例を通して相談援助活動とのかかわりを理解し、社会的実践に必要な法律知識の習得を目指す。ここで得られた法律知識と相談援助活動実践を活用し、超高齢社会を迎えた現代社会が抱える課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によってより良い方向性を見出し、解決しようとする力を身につけている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 日本国憲法の基本原理, 民法(財産法, 家族法), 行政法, 刑法
- 2 成年後見制度
- 3 日常生活自立支援事業
- 4 成年後見制度利用支援事業
- 5 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際
- 6 権利擁護活動の実際

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 権利擁護と成年後見制度を学ぶ前に
 権利擁護と成年後見制度の相談援助活動において、社会福祉士がとらえる権利擁護の基盤にある人権と諸権利、権利擁護の視点と方法について概観する
- 第 2 回 日本国憲法の理解①
 基本的人権の種類・内容・法的性格・調整などについて、体系的に学ぶ

- 第 3 回 日本国憲法の理解②
 日本国憲法は国民の権利を護る手段として権力分離原則に基づく国家統治機構を規定しているため、国会、内閣、裁判所、地方公共団体に役割について学習する
- 第 4 回 民法の理解①
 民法の物権・債権という財産権に関する領域について、当事者間に権利義務関係を生じさせる「契約」という法制度のあり方について学習する
- 第 5 回 民法の理解②
 民法の物権・債権という財産権に関する領域について、当事者間に権利義務関係を生じさせる「不法行為」という法制度のあり方について学習する
- 第 6 回 民法の理解③
 親族・相続の領域について、夫婦・親子等のかかわりや財産相続等の法律関係を理解する
- 第 7 回 行政法の理解
 社会福祉に携わる者として、行政庁の違法・不当な処分から、利用者・要保護者の権利を護るために、「行政法」に共通するルールを学習する
- 第 8 回 成年後見制度の理解①
 法定後見制度全体と、成年後見の対象者（成年被後見人）と成年後見人の役割について学ぶ
- 第 9 回 成年後見制度の理解②
 保佐の対象者（被保佐人）、補助の対象者（被補助人）と保佐人、補助人の役割について学ぶ
- 第 10 回 任意後見制度の理解
 任意後見制度は、自己の後見のあり方を自らの意思を決めておくという自己決定の尊重の理念に則した制度であることを理解する
- 第 11 回 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携
 日常生活自立支援事業の概要、専門員・生活支援員の役割、日常生活自立支援事業の利用に必要な判断能力、成年後見制度との関係（活用）、福祉関係者・法律関係者との連携、最近の動向について学ぶ
- 第 12 回 成年後見制度利用支援事業の概要
 成年後見制度利用支援事業の内容・特性について理解する
- 第 13 回 権利擁護にかかわる組織・団体
 家庭裁判所を中心にして、法務局、市町村、社会福祉協議会、児童相談所等の役割について理解する
- 第 14 回 権利擁護にかかわる専門職の役割
 成年後見制度を支える専門家集団である社会福祉士、弁護士、医師等の権利擁護をめぐる取り組みと役割を理解する
- 第 15 回 成年後見活動の実際について
 権利擁護の視点から、成年後見制度によって判断能力の不十分な高齢者、障がい者等を支援する社会福祉士の活動の実際を事例から学ぶ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進める。教材は講師が用意したプリントを使用するが、社会的に関心の高い時事問題も取り上げる。なお、講義への積極的参加を促すためディスカッション、発表等は随時行う。なお、最終講義にて全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回に使用するプリントを配布するので、これに目を通しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テスト (50%) 及び授業の参加度(50%)をもとに総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・社会福祉士国家試験受験資格を取得するための科目です
- ・社会福祉専門職である社会福祉士になる人間としての自覚をもって授業に参加してください
- ・テキストや配布資料等での予習復習をして下さい

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

山口光治編『新・社会福祉士養成課程対応 権利擁護と成年後見 第3版』みらい 2017年

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

社会福祉法人大阪ボランティア教会編集『福祉小六法2017』中央法法規 2016年

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と福祉 I

SLB1100NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 前期

木曜2限

DPI: 自分を育てる力

60

福祉生活デザイン学科必修

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会福祉とは何か、その対象とはどのようなものかについて学ぶことを目的とする。社会福祉の対象となるさまざまな社会問題を理解する。それらの社会問題を抱えている人々への支援に向けて何が必要なのかを総合的に理解できるようになる。これら学び、現代社会における社会福祉の必要性について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会福祉の歴史的展開を学ぶ。
2. 現代の社会福祉の諸相を学ぶ。
3. 社会福祉の課題を理解し、その支援について学ぶ。
4. 社会福祉の動向について、法律や制度、考え方を概観する。
5. 諸外国の福祉について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	社会福祉がどのように展開してきたかを理解できない。	社会福祉がどのように展開してきたかを理解しようと努力する。	社会福祉の展開過程から現代の社会福祉について理解できる。	社会福祉の展開過程を理解し、社会福祉の必要性について理解できる。
思考・解決力	社会福祉の対象となる課題について理解することができない。	社会福祉の対象となる課題について理解できる。	社会福祉の対象となる課題について考え、何が必要かを考えることができる。	社会福祉の対象となる課題について理解し、自分にできることを考え、行動しようとする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 社会福祉の歴史的展開①海外の動向
- 第 3 回 社会福祉の歴史的展開②日本の動向
- 第 4 回 社会問題の背景
- 第 5 回 社会福祉の対象課題①児童
- 第 6 回 社会福祉の対象課題②高齢者
- 第 7 回 社会福祉の対象課題③障がい者
- 第 8 回 社会福祉の対象課題④生活困窮者
- 第 9 回 社会福祉と地域福祉
- 第 10 回 社会福祉の対象とニーズ
- 第 11 回 社会資源
- 第 12 回 社会福祉の政策動向 (法律や制度)
- 第 13 回 社会福祉の国際比較 (デンマークを中心に)
- 第 14 回 形成テストと解説
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心としつつ、必要に応じて、グループワーク等も実施する。講義資料を事前にmanabaを通じて配付する。予習、復習の確認のため、小テストを実施する。manabaの小テスト機能で回答の確認をし、フィードバックをおこなう。形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

理解度を促進するため、毎回小テストを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと予習、復習して臨むこと。

加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし、テキストと照合し、予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) で総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

「社会福祉の原理と政策」／坪洋一、伊藤新一郎、武川正吾／中央法規／2020

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と福祉 II

SWA1250N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は「現代社会と福祉 I」で学んだことを踏まえた上で、社会福祉の思想・哲学や理論について理解を深めることを目指す。また、福祉政策ならびに関連政策の実施方法を学び、福祉サービスの供給と利用の現状について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。
2. 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上の

ニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。

3. 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	社会福祉がどのような思想や理論に基づいて実践されているのか理解できない。	社会福祉がどのような思想や理論に基づいて実践されているのか理解しようと努力する。	社会福祉がどのような思想や理論に基づいて実践されているのか理解できる。	社会福祉の思想や理論について理解し、自身の言葉で説明することができる。
思考・解決力	福祉政策と福祉サービスをどのように実施していく必要があるのか説明することができない。	福祉政策と福祉サービスをどのように実施していく必要があるのか説明しようと努力する。	福祉政策と福祉サービスをどのように実施していく必要があるのか文献を引用して説明することができる。	福祉政策と福祉サービスをどのように実施していく必要があるのか具体的に説明し、意見を明確に述べるができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、社会福祉の思想・哲学の考え方
- 第 2 回 社会福祉の思想・哲学 一人間の尊厳、社会正義、平和主義等
- 第 3 回 戦後社会福祉の展開と社会福祉の理論
- 第 4 回 欧米の社会福祉の理論
- 第 5 回 社会福祉の論点① 公私関係、効率性と公平性、普遍主義と選別主義
- 第 6 回 社会福祉の論点② 自立と依存、自己選択・自己決定とパターンリズム等
- 第 7 回 福祉政策の構成要素
- 第 8 回 福祉政策の過程
- 第 9 回 福祉政策と関連施策① 保健医療政策、教育政策
- 第 10 回 福祉政策と関連施策② 住宅政策、労働政策、経済政策
- 第 11 回 福祉サービスの供給部門
- 第 12 回 福祉サービスの供給過程
- 第 13 回 福祉サービスの利用過程
- 第 14 回 形成テストと解説
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストと配付資料に基づいて講義を行う。また、必要に応じて、グループワーク等も実施する。授業中に小テストを実施し、理解度を確認する。小テストの回答の確認とフィードバックを個別に行う。形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・テキストの指定箇所を読み、予習すること。
- ・毎回、小テストを実施するので、予習・復習に取り組むこと。

・新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) で総合的に評価する。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮して行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『社会福祉の原理と政策』/坏洋一・伊藤新一郎・武川正吾編/中央法規/2021/978-4-8058-8234-4/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会調査入門

PSB1401NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DP4 : 思考・解決力

60

定員150人 社会・ビジネス心理コース必修

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会調査は、学術的な関心によって行われるだけではなく、官公庁やマスメディア、一般企業におけるマーケティング(市場調査)、実態調査など幅広い領域で利用される方法である。本講義では、社会調査の目的、意義、倫理、量的調査や質的調査の方法を中心に説明を進める。さらに、新聞やテレビ等のマスメディアで取り上げられる様々な調査について、実例を挙げ、適切な社会調査の実施や結果の見方を学ぶことを目的とする。そして、調査データを正しく読み取る力、リサーチ・リテラシーを身につけることを目指したい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・社会調査の目的と調査の種類を修得する。
- ・社会調査の過程(調査内容、調査対象の決定、実施方法、分析方法)を修得する。
- ・社会調査結果の見方や問題点を捉える力を修得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	社会調査や社会調査の方法に関する知識を身につけていない。	ある程度、社会調査や社会調査の方法に関する知識を身につけている。	おおむね社会調査や社会調査の方法に関する知識を身につけている。	社会調査や社会調査の方法に関する知識を十分身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身につけている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	社会の問題をどの様に調査し、問題解決していくか、について力が身につけていない。	ある程度、社会の問題をどの様に調査し、問題解決していくか、について力が身につけている。	おおむね社会の問題をどの様に調査し、問題解決していくか、について力が身につけている。	社会の問題をどの様に調査し、問題解決していくか、について十分力が身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション 社会調査とは
- 第 2 回 社会調査の歴史
- 第 3 回 社会調査の目的
- 第 4 回 社会調査の方法 1 (課題の設定)
- 第 5 回 社会調査の方法 2 (調査の積み上げと活用)
- 第 6 回 社会調査の倫理

- 第 7 回 量的調査 (方法)
 - 第 8 回 量的調査 (事例)
 - 第 9 回 質的調査 (方法)
 - 第 10 回 質的調査 (事例)
 - 第 11 回 世論調査・マーケティングリサーチ
 - 第 12 回 国勢調査と官庁統計
 - 第 13 回 質問紙調査法の基礎
 - 第 14 回 フィールドワーク
 - 第 15 回 インターネット調査
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義形式で進める。
- ・毎回授業後に、授業内容のコメントを求める。
- ・社会調査の実例を探したり、問題点を見つける等、受身的ではなく、積極的に講義に臨むことを期待したい。
- ・manabaを使用して授業中に受講生から意見を求めたり、復習問題を行う。解答は授業中にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。その際、本やインターネットの丸写し等機械的な予習にならないように気をつけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業期間中の小テスト 2 回 (約70%)、毎回の予習・振り返り (約30%) により総合的に判断する。小テストの解説や結果は、授業中にフィードバックする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代青年の心理学 2021年度以降入学者

PSA2251N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 後期

木曜 4限

DP2 : 知識・理解力

60

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

青年期とは、人生の発達段階の一ステージである。この時期は、子どもから大人への移行期であるが、第二の誕生

と言われるように、心身ともに重要な変容の段階でもある。青年にまつわる問題は古くから存在するが、同時に青年の行動や思考とは、時代を如実に反映するものであり、常に新しい問題を含んでいる。この授業では、青年期がどのようにとらえられてきたかに始まり、青年期に特有な身体と心の問題、自己意識、対人関係 (友人関係、親子関係、恋愛関係)、進路決定等の観点から、現代青年の心理について理解を深めることを目標とする。また、受講生の多くが青年期にあることから、受講生自身の自己理解に結びつくような作業や実習等も取り入れながら授業を進めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 従来の諸学説を学び、青年期がどのようにとらえられてきたかを理解する。
2. さまざまなデータや現象記述を通して、現代青年の心理について多面的に考察する。
3. 体験的学習をもとに、自分自身への理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている
知識・理解力	実験方法や背景にある理論的知識が身についていない	ある程度、実験方法や背景にある理論的知識を身につけている	おおむね実験方法や背景にある理論的知識を身につけている	実験方法や背景にある理論的知識を十分身につけている
言語力	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についている	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力が身についていない	ある程度、実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている	おおむね実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を十分身につけている
共生・協働する力	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についていない	ある程度、学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が	おおむね学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についている	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が十分身についている

		身につけている		
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 青年期とは
- 第 2 回 青年期のとらえ方
- 第 3 回 青年期の身体と心
- 第 4 回 現代青年の身体と心をめぐる問題
- 第 5 回 青年期の自己意識
- 第 6 回 青年期におけるアイデンティティ
- 第 7 回 現代青年の自己・アイデンティティをめぐる問題
- 第 8 回 青年期の親子関係
- 第 9 回 現代青年の親子関係
- 第 10 回 青年期の友人関係
- 第 11 回 現代青年の友人関係
- 第 12 回 青年期の異性関係
- 第 13 回 青年期の進路決定
- 第 14 回 現代青年の進路をめぐる問題
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキストは用いず、必要に応じて資料を配布する。
2. 講義を中心に進めていくが、適宜、受講者の自己理解に結びつくような体験的学習も取り入れる。
3. 講義内容を受身的に覚えるのではなく、自分自身の体験や周囲の人たちと関連づけて考える主体的な受講態度が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に前回の授業内容を復習しておくこと。興味をもったテーマに関しては、図書館で文献を探すなどして、自主的に学びを深めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、小テスト・レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

小テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。必要に応じて遠隔授業を実施する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公的扶助論

SWR3200N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 前期

木曜 5限

DP2 : 知識・理解力

60

福島 正人

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

公的扶助（生活保護）制度は人々の生存権を保障するための生活保障制度である。まずは貧困・低所得層の生活実態と政策動向について学ぶ。その上でわが国及び欧米における公的扶助制度の歴史を概観し、そして生活保護の原理及び原則について具体的事例を交えながら理解を深める。最後に生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金の概略、ホームレス支援について学び、社会保障における自立支援について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ① 貧困・低所得者の生活実態と政策動向を理解する
- ② 公的扶助制度の歴史と意義を理解する。
- ③ 生活保護制度の原理、原則、組織や専門職の役割を理解する。
- ④ 生活困窮者自立支援制度の概略を理解する。
- ⑤ 社会保障における自立支援のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	貧困問題を知ろうとする。	公的扶助制度の概要を知る。	公的扶助制度の課題を知る。	これからの公的扶助のあり方を考える。
言語力				
思考・解決力	テストをうける	レポートが作成できる	自分の問題として課題に取り組む	文献などを精査して、自分の考えを提示する
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション

- オリエンテーション
- 第 2 回 貧困とは
現代社会における貧困とは
貧困問題の諸相について
- 第 3 回 制度の仕組み
社会サービスの理解と公的扶助制度の歴史
- 第 4 回 生活保護制度の基本原則
生活保護制度の基本原則
- 第 5 回 生活生活保護制度の実施体制
生活生活保護制度の実施体制
- 第 6 回 生活保護お具体的内容
生活保護の具体的内容
- 第 7 回 保護の要否判定
保護の要否判定
- 第 8 回 生活保護制度利用における権利と義務
生活保護制度利用における権利と義務
- 第 9 回 最低生活保障水準と生活保護基準
最低生活保障水準と生活保護基準
ナショナルミニマム
- 第 10 回 生活保護制度の動向と財源
生活保護制度の動向と財源
- 第 11 回 専門職の役割と相談援助
専門職の役割と相談援助
- 第 12 回 生活困窮者自立支援制度
生活困窮者自立支援制度
その他 諸制度
- 第 13 回 生活福祉資金
生活福祉資金
その他 諸制度
- 第 14 回 ホームレス支援の実態と課題
ホームレス支援の実態と課題
- 第 15 回 まとめと振り返り
まとめと振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

課題 (試験またはレポート) の結果については授業内で開示する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に進めるが、適宜、視聴覚教材も取り入れていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新聞やテレビなどのニュースに関心を持ち、授業中に紹介する参考文献に興味関心を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30分

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は出席点 (50点)、定期試験 (50点) とする。欠席回数
が3分の1を超過した場合は単位を認めない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業進行の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

『保護のてびき 令和元年度版』/生活保護制度研究会/第一法
規/978-4-474-06840-7/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

行動科学概論 2021年度以降入学者

PSB1250N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜2限

DP2: 知識・理解力

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

行動科学とは、人間や動物の行動を科学的に分析し、行動
の諸現象を理解し、行動の諸問題を解決することを目指し
た科学である。本科目は、人間および動物の行動について
の (心理学を含む) 様々な分野の研究を紹介し、行動の基
礎にある原理の科学的な理解を深めることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 人や動物は、環境からどのような影響を受けているか。
2. 人や動物は、どのように行動を変化させるのか。
3. 人や動物は、その行動をみればすべて理解できるのか。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	行動科学の諸概念について理解していない	行動科学の諸概念について理解している	行動科学の諸概念を理解し、異なる事象を説明できる	3に加えて行動科学の論文等を読み自ら知識を増やすことができる

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 動物の弁別・強化
動物の認知、行動
模倣

第 3 回 人の行動・しぐさ
ノートを取る手段の影響
うそをつく時のしぐさ

第 4 回 人の発達・猫の記憶
読み障害
猫の記憶

第 5 回 エクスボージャ・介入実験

- 引きこもり
体重測定による介入
- 第 6 回 官能評価・ごまかし
被実験下における人の行動
ごまかし時の表情
- 第 7 回 テンポ・カワイイ
テンポが人の行動に与える影響
カワイイものを見た時の人の行動への影響
- 第 8 回 認知行動療法・仮眠後の影響
ストレスへの対処
覚醒法の違いによる認知行動生理への影響
- 第 9 回 行動の変化
偽ブランド品が与える影響
- 第 10 回 マウスのADHD・行動変容
マウスのADHD化の実験
刺激性制御によるごみ捨て行動の変容
- 第 11 回 表情と言葉・認知行動療法
表情と言葉の信頼行動への影響
摂食障害に対する認知行動療法の効果
- 第 12 回 植物状態
行動が観察できない対象への生理・脳科学的アプローチ
- 第 13 回 幼児の発達
方言理解
評判懸念
- 第 14 回 利他的援助行動・犬の認知
幼児とチンパンジーの比較行動学
犬の人の信頼性判断
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

PowerPointや映像資料を使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。学生からの積極的な発言、質問を求める。ミニテストの内容について講義を行い、特に間違えの多かった問題に関しては詳しくフィードバックを行う。最終回の授業で間違えの多かった問題を中心に復習テストを行う。またわからない所があればオフィスアワーなどを利用して解決できるように積極的に学習に取り組むこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の資料をよく読み込み、ミニテストに備える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業の最初にレスポンスによるミニテストを実施する。その結果によって成績評価を行う。ミニテストは各回1～2個、各ミニテストは4問から5問。全部で20～25個のミニテストを行う。出題された問題数を100%として、そのうち何%答えられたかによって成績を判定する。ただし、学生の理解度に応じて授業を進めるので、ミニテストの数は前後する可能性がある。なお復習テストは補修課題として

実施するため、ミニテストの正答率にプラスした点数が最終成績となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

産業・組織心理学 2021年度以降入学者

PSA3254N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 後期

火曜 5限

DP2 : 知識・理解力

60

石田 正浩

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

組織と関わる中で生じる心理・行動上の問題を、心理学の概念を用いて理解し、対処が考えられるようになる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ワークモチベーションの高低が生じる仕組みを理解する。
- ・組織・キャリアヘコミットすることの意義を理解する。
- ・集団生産性・リーダーシップの有効性を規定する要因を理解し、集団作業を効率的に進める際の対処の視点を獲得する。
- ・組織ストレスの特徴を理解し、その対処法を考えられるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 導入：産業・組織心理学とは

- 産業・組織心理学という学問領域を小史、分野、現代の課題を通して概説
- 第 2 回 ワークモチベーション 1
ワークモチベーションの基本概念と欲求階層理論
- 第 3 回 ワークモチベーション 2
動機づけ要因－衛生要因理論、達成・勢力・親和欲求、内発的動機づけの解説
- 第 4 回 ワークモチベーション 3
過程理論から、公平理論と期待理論について解説
- 第 5 回 ワークモチベーションの理論と実践
目標設定理論と目標管理、ジョブ・デザイン
- 第 6 回 応用行動分析
行動分析の基本的な考え方と組織場面への応用
- 第 7 回 組織とキャリアへのコミットメント
組織やキャリアへのコミットメントの解説
- 第 8 回 集団生産性 1
集団生産性を考える基本的な枠組みと社会的促進現象、規範の影響
- 第 9 回 集団生産性 2
シュタイナーによる集団課題の分類とパフォーマンスの関連
- 第 10 回 集団生産性 3
集団意思決定の諸問題
- 第 11 回 リーダーシップ 1
リーダーシップ概念と特性論、行動論
- 第 12 回 リーダーシップ 2
リーダーシップの条件即応理論
- 第 13 回 リーダーシップ 3
条件即応理論後のリーダーシップ研究の展開
- 第 14 回 組織ストレス 1
組織におけるストレス理解の基本的枠組みとラザルスのストレス理論
- 第 15 回 組織ストレス 2、総括
バーンアウトと組織におけるストレス管理。最後に15回の講義全体を総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式。毎回、授業時間の最後に授業内容の振り返りの課題を課す。次の授業のはじめに課題の回答に対するフィードバックを行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎時間、授業の最後に次回につながる小課題を出し、それに取り組むことで次回の授業の予習とする

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

基本概念、理論の理解と応用力を問う試験(60%)と毎授業時間の小課題(質問・コメントを含む)(40%)に基づき、総合的に行う

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内容は、新たに学習すべき内容が発生することがあるので、柔軟に変更していく

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『産業・組織心理学エッセンシャルズ第4版』/外島裕監修・田中堅一郎編/ナカニシヤ出版/2019/9784779513855

『産業と組織の心理学』/池田浩編/サイエンス社/2018/9784781914107

他、授業時間中に適宜、紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

質問紙調査法 2021年度以降入学者

PSB2404N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

火曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

心理カウンセリングコース必修

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

あらかじめ定めた質問項目に対する回答をもとに、個人の内面を幅広くとらえる質問紙調査法は、用途が広く実施も比較的容易であることから、人間の内面に迫る心理学の研究分野では欠かせない方法である。しかし、質問紙によるデータを有効に活用するためには、質問項目の作成や調査対象者の選出をはじめとする、専門的な知識・技術と入念な準備が必要である。講義では、質問紙調査法の基礎から質問紙の作成、データ処理や結果の表現法、調査の倫理などについて卒業研究での活用を視野に入れて解説する。また講義の後半では、質問紙調査では見落とされがちなデータの質的側面を捉える方法として、インタビューや観察などの質的研究法についても解説する。講義に加え、データ処理や図表の作成などの課題を通して実践的な知識と技術の習得を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 質問紙調査法の特徴、利点と限界について学ぶ。
2. 質問紙の作成に関する知識や技術を習得する。
3. 調査の計画や実施の際に考慮すべき事柄を知る。
4. 集計やデータ処理に関する基礎的知識を習得する。
5. 結果の表現法や調査の倫理について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	質問紙作成や調査法に関する基礎的な知識が身についていない	ある程度、質問紙作成や調査法に関する基礎的な知識が身についている	おおむね質問紙作成や調査法に関する基礎的な知識が身についている	おおむね質問紙作成や調査法に関する基礎的な知識が身についている
言語力	質問紙調査法の利点や限界点、調査実施の際に留意すべき事柄について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、質問紙調査法の利点や限界点、調査実施の際に留意すべき事柄について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね質問紙調査法の利点や限界点、調査実施の際に留意すべき事柄について、自分の言葉で言語化する力が身についている	質問紙調査法の利点や限界点、調査実施の際に留意すべき事柄について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身についている
創造・発信力	自分自身で質問紙を作成する力が身についていない	ある程度、自分自身で質問紙を作成する力が身についている	おおむね自分自身で質問紙を作成する力が身についている	自分自身で質問紙を作成する力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 データの種類：質的データと量的データ
- 第 2 回 仮説と変数の設定、測定と尺度
- 第 3 回 データ収集の方法
- 第 4 回 調査対象者の選出：全数調査と標本調査
- 第 5 回 研究のデザインと調査の方法
- 第 6 回 質問項目の作成（1）：質問と回答の種類
- 第 7 回 質問項目の作成（2）：質問項目の収集と作成
- 第 8 回 調査票や質問紙の作成

- 第 9 回 調査における信頼性と妥当性
- 第 10 回 調査データの整理（1）：基礎整理
- 第 11 回 調査データの整理（2）：データ処理
- 第 12 回 データにおける質的側面
- 第 13 回 質的研究法
- 第 14 回 結果の表現法
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業では、必要に応じてプリントを配布するので、各自で整理して学習に活用すること。講義期間の半ばに中間テストを行う。また、適宜、講義内容に関連した課題や提出物を課す。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

講義の中では「心理統計法」「推測統計学」「心理学研究法」での学習内容が参照されることがあるため、これらの科目との対応ができるように、各自で資料等を整えておくこと。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

期末に実施するテスト（70%）、中間テスト（15%）、課題・提出物・授業への取り組み態度（15%）により評価する。

テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。必要に応じて遠隔授業を実施する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『あなたもできるデータの処理と解析』/岩淵千明/福村出版/1997//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『質問紙調査の手順』/小塩真司ほか/ナカニシヤ出版/2007/

『質問紙調査と心理測定尺度』/宮本聡介ほか/サイエンス社/2014/

『改訂新版 心理学論文の書き方』/松井豊/河出書房新社/2010/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会・ビジネス心理フィールド 研修

PSA2600NOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 2年次
 2単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 60
 定員30人 集中
 松島 るみ 尾崎 仁美 廣瀬 直哉 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会調査に関する知識を背景に、企業や店舗が行うマーケティング・リサーチや商品企画開発に関する一連の調査過程について体験することを目標とする。企業や店舗の現状を把握した上で、課題設定・調査・分析を行い、最終的には協力企業や店舗に対して、分析結果を踏まえた具体的な提案を行うという一連の過程を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①社会調査の一連の過程（問題の設定・調査の実施及び分析・結果の解釈）を学ぶ。
- ②マーケティング・リサーチの基礎を学ぶ。
- ③分析結果について発信する力を身につける。
- ④日頃から消費者心理や消費者行動に関心を持ち、課題を設定したり、問題解決する能力を養う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	問題解決するための力と自律的な学習態度が身につけていない。	ある程度、問題解決するための力と自律的な学習態度を身につけている。	おおむね主体的に問題解決するための力と自律的で積極的な学習態度を身につけている。	主体的に問題解決するための十分な力と自律的で積極的な学習態度を身につけている。
知識・理解力	調査や統計、研究方法に関する力が身につけていない。	ある程度、調査や統計、研究方法に関する十分な力を身につけている。	おおむね調査や統計、研究方法に関する十分な力を身につけている。	調査や統計、研究方法に関する十分な力を身につけている。
言語力	分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力が身につけていない。	ある程度、分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力を身につけている。	おおむね分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力を身につけている。	分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする十分な言語力を身につけている。

思考・解決力	与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力が身につけていない。	ある程度、与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力を身につけている。	おおむね与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力を身につけている。	与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する十分な力を身につけている。
共生・協働する力	他者と共生・協働し問題解決する力が身につけていない。	ある程度、他者と共生・協働し問題解決する力を身につけている。	おおむね他者と共生・協働し問題解決する力を身につけている。	他者と共生・協働し問題解決する力を十分身につけている。
創造・発信力	自らの成果をまとめ、創造的に発信する十分な力が身につけていない。	ある程度、自らの成果をまとめ、創造的に発信する力を身につけている。	おおむね自らの成果をまとめ、創造的に発信する力を身につけている。	自らの成果をまとめ、創造的に発信する十分な力を身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションと心構え (全員)
- 第 2 回 協力企業 (店舗) との打ち合わせ (全員)
- 第 3 回 課題解決に向けての情報収集 (全員)
- 第 4 回 仮説の検討 (全員)
- 第 5 回 調査項目に関する情報収集 (全員)
- 第 6 回 調査項目の検討 (全員)
- 第 7 回 調査用紙の作成 (全員)
- 第 8 回 調査データの入力 (全員)
- 第 9 回 調査データの分析 (基礎的統計) (全員)
- 第 10 回 調査データの分析 (統計的検定) (全員)
- 第 11 回 調査結果の考察 (全員)
- 第 12 回 調査結果を協力企業や店舗でどの様に役立てるかの検討 (全員)
- 第 13 回 プレゼンテーション資料の作成 (全員)
- 第 14 回 プレゼンテーションの練習 (全員)
- 第 15 回 最終報告会 (全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ①事前指導として、社会調査やマーケティング・リサーチの基礎を学ぶ。
- ②協力企業や協力店舗に関する情報の共有及び課題の設定を行う。
- ③調査内容の検討と調査実施、データ分析と結果のまとめを行う。
- ④協力企業や協力店舗への結果報告会を実施し、調査結果をどの様に活用出来るかの提案を行う。

⑤授業中、ディスカッションを通して、学生の意見や考えに対して適宜フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」や「現代社会調査入門」を受講していることが望ましい。授業前に出された課題や作業は必ず次の授業までに完成させておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度・他者との協働 (50%)、結果の分析・プレゼンテーション (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

時には、授業の時間外にもデータ分析や報告書の作成等を行うことがあるが、本研修では学外の企業や店舗に協力して頂くため、決められた期間内に受講生が協力して作業を行うことが求められる。責任感を持って、最後までやり遂げられる学生の受講を求める。

授業日時は不定期となるため、登録前に日程を必ず確認し、登録後は全ての授業・実習に参加すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会・集団・家族心理学Ⅰ (社会・集団)

PSA1551N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

金曜2限

DP5: 共生・協働する力

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会で生きていく上で、他者と上手に付き合ったり、仲良くなることは重要なことです。しかし世の中にはさまざまな物の見方 (バイアスや偏見) が存在し、それらが他者との関係に悪く影響することはしばしばあります。ではどのような文脈の時に、そういったバイアスや偏見が人の感情や認知や態度、判断や行動に影響するのでしょうか。

本科目では、人が様々なバイアスや文脈 (社会) からの影響を受けて考え、悩み、ときに間違え、判断し、行動しているかを理解することを目指します。更にそういった人の判断や行動が個人内で完結せず他者や社会に影響を与えていることを理解することを目指します。それによってさまざまな人々と共生・協働する力を身につけることを目指します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 人の「癖」(認知過程) や「間違い」(バイアスや推論) が態度や対人関係に与える影響を理解する
2. 集団間関係 (差別やヘイトスピーチ等) について現実の問題に即して考える
3. 自己の多層性 (個人としての自分、友人といるときの自分、日本人としての自分等) について理解する
4. 文化と心理の関係を理解し、異文化のヒトとの共生・協働について考える
5. 社会心理学の応用可能性について考える

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	社会心理学の諸概念について理解していない	社会心理学の諸概念について理解している	社会心理学の諸概念について理解しており、自分の言葉で説明できる	3に加え、日常の出来事を社会心理学の諸概念を使って理解、説明ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 自己認知: 自分の心を理解する
- 第 2 回 対人認知: 人の心は読めるのか
- 第 3 回 社会的推論とバイアス
- 第 4 回 帰属過程
- 第 5 回 ステレオタイプ・差別行動
- 第 6 回 態度
- 第 7 回 社会的自己の幅広い影響
- 第 8 回 中間テスト
各自が自身の学習習熟度を理解するために実施する。中間テストで出題された問題から期末テストにも出題される
- 第 9 回 感情
- 第 10 回 組織
- 第 11 回 集団過程
- 第 12 回 モチベーション
- 第 13 回 健康・幸福
- 第 14 回 文化の違いとその影響
- 第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 積極的に質問したり、自身の意見を述べること。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。
4. 適宜、レスポンス等を通じて質問できる機会を作り、それに対するフィードバックを口頭で行う。
5. 中間テストの答えについては授業内で、期末テストの答えは授業内、またはオンライン上で一定期間公開する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。わからないところがあれば、質問できるように準備しておくこと。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の小テスト (30%) と期末テスト (70%) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

図書館に「社会心理学」と名前のつく本が複数有るので適宜参照すること

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

認知、感情、態度などに関わる社会心理学の実験を実施し、複数の国際学術誌に掲載している。

消費者行動の心理学 2017年度以降入学者

PSA2203N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 前期

木曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

モノであれ、コト (サービス) であれ、消費行動は我々人間がほぼ毎日、頻繁に行っている行動である。にも関わらず、その行動の理由については、自覚的であるとは限らない。本科目では自分の好きなモノや世間で流行っている事柄について心理学的考察を深め、それらが消費される理由について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 人の持つ基本的な欲求について説明できる
2. 世間で受け入れられているものについて、心理学の用語を用いて自分なりに説明できる
3. 心理学の知識を用いて商品の販促が出来る

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	消費者行動にかかわる心理学の諸概念について理解していない	消費者行動にかかわる心理学の諸概念について理解している	消費者行動にかかわる心理学の諸概念について理解し、自分の言葉で説明できる	3に加え、世の中の商品・サービス等について心理学の諸概念を使って説明できる
思考・解決力				消費者行動にかかわる心理学の諸概念を使って自ら商品の企画・広告の製作等ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション: 「消費」について
- 第 2 回 消費と幸/不幸について (1) 食の消費
- 第 3 回 大学の選択という消費/選ばれる大学と選ばれない大学
- 第 4 回 知覚と注意
- 第 5 回 記憶・学習
- 第 6 回 動機/欲求
- 第 7 回 自己・アイデンティティー
- 第 8 回 態度
- 第 9 回 中間プレゼンテーション発表
- 第 10 回 広告
- 第 11 回 期末プレゼンテーション発表準備
- 第 12 回 アンビエント (空間・音楽)
- 第 13 回 消費と神経科学
- 第 14 回 期末プレゼンテーション発表
- 第 15 回 まとめとテスト

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習形式で、講義、学生の発表、ディスカッションにそれぞれ同程度の時間を割いて行う。

中間プレゼンテーションや期末プレゼンテーション、期末テストに対して授業内で口頭でフィードバックをする。また教員からのフィードバックを待たず、学生から積極的に発言、質問する態度が求められる

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 授業の中でさまざまな商品や芸能人についてディスカッションを行うので、自分の好きなモノやヒトについて話ができるように準備しておく
2. 講義の内容をよく復習し、ディスカッションや発表で使えるように理解を深める

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内発表 (20%) x2、授業参加(20%)、期末テスト(40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

本授業では学生自身の考えについて発表してもらおう機会が数多くあります。自分や人の行動について「なぜか」を考え、その考えを発表する機会を通じて学びを深めていく授業であり、教員の講義を聴くだけの授業とは違いますので、注意してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

消費者の行動に関する認知神経科学的研究を実施、複数の国際学術誌に掲載している。

障害者福祉論

SWA2250N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

金曜4限

DP2 : 知識・理解力

60

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、国民の約7.6%は何らかの障害を有しているといわれている。障害のある人が日常生活や社会生活を送る上でどのような支援を必要としているのか学び、理解を深める。そして、生活のしづらさを解決する障害者福祉の法制度・サービス体系・支援方法を学び、どうすれば生活上の困難を解決することができるのか解決策を提示できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国際障害分類と国際生活機能分類の違いを学び、障害を構造的に理解する。2. 障害のある人の基本的な人権、ノーマライゼーション、リハビリテーションと自立生活運動、エンパワーメント等の理念を学び、理念を学ぶ意義を説明することができる。3. 戦前から今日に至るまでの障害者福祉制度の発展過程を説明することができる。4. 障害のある人の生活ニーズについて理解を深め、生活困難を解決する支援方法を提示することができる。5. 障害者総合支援法における専門職の役割と多職種との連携について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

障害概念の理解力	国際生活機能分類のことを知らない。	国際生活機能分類が発表されたことは知っている。	国際生活機能分類の成立経緯を説明することができる。	国際生活機能分類の成立経緯と特徴を説明することができる。
理念の理解力	障害者福祉の理念があることを知らない。	障害者福祉の理念があることは知っているが、理念の内容を説明することはできない。	障害者福祉の理念の特徴について説明することができる。	障害者福祉の理念の特徴を説明することができる。理念の必要性を理解している。
制度の理解力	障害者福祉制度があることを知らない。	障害者福祉制度があることは知っているが、制度の内容を説明することはできない。	障害者福祉制度の経緯と制度の内容を説明することができる。	障害者福祉制度の経緯と制度の内容を説明することができる。制度の必要性を理解している。
支援方法の考察力	障害のある人のニーズを把握していない。	障害のある人のニーズを把握することができる。	障害のある人のニーズ充足に必要な社会資源を説明することができる。	障害のある人のニーズ充足に必要な社会資源と具体的な支援方法を提示することができる。
専門職の役割の理解力	どのような専門職が支援しているのか知らない。	専門職の法律の位置づけを説明することができる。	専門職の法律の位置づけと業務内容を説明することができる。	専門職それぞれの法律の位置づけや業務内容、役割について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害概念と特性 – 国際生活機能分類 (ICF) と障害の社会モデル –
- 第 2 回 障害者福祉の理念
- 第 3 回 障害者福祉の歴史① – 障害者処遇の変遷 –
- 第 4 回 障害者福祉の歴史② – 障害者権利条約と障害者基本法 –
- 第 5 回 障害者と家族の生活実態 – ゲストスピーカーによる講義 –
- 第 6 回 障害者と家族を取り巻く社会環境と課題
- 第 7 回 障害者に対する法制度① – 法制度の全体像 –
- 第 8 回 障害者に対する法制度② – 障害者総合支援法 –
- 第 9 回 障害者に対する法制度③ – 障害者虐待防止法と障害者差別解消法 –

第 10 回 障害者に対する法制度④ーバリアフリー法と障害者雇用促進法ー

第 11 回 障害者と家族等の支援における関係機関の役割

第 12 回 関連する専門職等の役割

第 13 回 障害領域におけるソーシャルワーカーの役割

第 14 回 障害者と家族等に対する支援の実際

第 15 回 今後の障害者福祉の展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

パワーポイントと配布資料に基づいて講義を行う。視聴覚教材も積極的に活用する。ワークシートとレポートの課題は個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・各回ワークシートを配付する。
- ・次回の授業までにワークシート (復習と予習の課題) に取り組み、提出する。
- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (50%)、レポート (20%)、授業参加度 (15%)、ワークシート (15%) によって総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『障害者福祉』/一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編/中央法規/2021/9784805882382/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる障害者福祉』/小澤温/ミネルヴァ書房/2016/9784623076444

『共生社会を切り開くー障害者福祉改革の羅針盤ー』/佐藤久夫/有斐閣/2015/9784641174092

『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉』/竹端寛・山下幸子・尾崎剛志他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623069675

授業内で参考文献一覧を配付する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

上級実験演習

PSB3600N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 前期

木曜 2限

DP6 : 創造・発信力

60

心理学実験演習I又は心理学実験演習II

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学実験演習等で学んだ心理学実験に関する基礎知識のもとに、実験・観察・調査の企画から実施、データ分析、発表・レポートの作成までの一連の研究プロセスを体験的に学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、各グループで研究テーマを設定して、実験計画や刺激素材の作成、実験・観察の設定、質問紙の作成などを主体的に行い、実験法・観察法・調査法によりデータを収集し、分析を行い仮説を検証する。これらの過程を通じて、卒業研究・卒業論文において自ら研究が行えるだけの研究の基礎能力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関連する文献を収集し、内容を整理する
2. 目的・仮説に沿って、研究計画を立てる
3. 実験・観察・調査を実施し、データを収集する
4. データ分析を行い、考察としてまとめる
5. 研究発表を行う
6. レポートを執筆する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	グループメンバーと協働することができない	グループメンバーと協働することができる	レベル2に加えてリーダーシップを取ることができる	レベル3に加えてメンバーのちからを最大限引き出せる
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したりすることができない。	主体的に研究計画を立てて実行することができる。	レベル2に加えて、研究成果をまとめて発信することができる。	卒業研究と同等の研究計画の立案・実施・成果発表を行うことができる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 グループ分けと研究の進め方

第 3 回 研究テーマの選定

第 4 回 関連文献の収集と整理

第 5 回 研究計画と仮説の立案

第 6 回 実験・観察・調査の準備

第 7 回 中間報告

- 第 8 回 実験・観察・調査の実施
 - 第 9 回 データ入力
 - 第 10 回 基礎集計
 - 第 11 回 検定と多変量解析
 - 第 12 回 結果の解釈と考察
 - 第 13 回 研究発表の準備
 - 第 14 回 研究発表
 - 第 15 回 レポートの作成
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習室において、グループに分かれて実習・演習形式で行う。グループでの作業が中心となるため、積極的な関与が求められる。

課題等のフィードバックは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示を行う他、各グループで決めた課題を期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (20%)、成果発表 (50%)、レポート (30%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

1,2回目の授業には必ず出席をすること。連絡なく欠席した場合は研究グループに所属できず、単位の取得ができない場合があるので注意すること。

グループでの活動を行うため、**毎回の出席が必須**である。どうしても欠席せざるを得ない場合は必ず連絡すること。必須の履修要件ではないが、推測統計学 I・II を習得済みであることが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理テスト演習

PSB2403N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

金曜2限

DP4: 思考・解決力

60

心理カウンセリングコース必修

向山 泰代 中藤 信哉 鶴田 薫 福山 幸子 片山 綾

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、臨床心理の実践現場で用いられている心理テストに触れ、実施手順等について学んだり、実際に被検者となることを通して、心理テストについて体験的に学習する。演習後はレポートを作成し、体験した事柄を言葉にし文章としてまとめていくことにより、心理テストについてさらに理解を深める。一部の演習では、受講生ペアが検査者および被検者となり、ロールプレイ形式で行うことがある。これにより、被検者としての体験のみならず、検査者の役割や姿勢、心構え等について学び、心理テストに関する倫理についても理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

質問紙法、作業検査法、投映法の中から、代表的な4つの心理テストについて演習を行う。各心理テストの測定するもの、その特徴を理解するとともに、実施方法、結果の整理の仕方、分析・解釈の方法などについて体験を通して学習する。被検者および検査者としての体験をもとに、心理テストの効用と限界、検査結果を客観的に捉えることの重要性、心理テストに関わる倫理等についても学び、演習を通して受講生の心理テストへの興味関心を高め、自己理解を深めることを目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
レポートの体裁	レポートにおいて求められる基本的な構成が整っていない	レポートは基本的な構成で書かれている	レポートの構成が正確で、表現方法も適切である	レポートの構成の正確さ、表現方法の適切さに加え、レイアウトも整っている
結果に関する記述	結果に関する記載がない	結果の一部について記載漏れや、記載に不十分な点がある	記載すべき結果が漏れなく書かれている	結果が漏れなく記載されており、考察につながるよに説明がなされている

考察に関する記述	心理テストや演習についての感想にとどまっている	結果を繰り返して述べるにとどまり、考察がなされていない	結果に関する考察はなされているが、そのほとんどが主観的推論にとどまっている	結果について先行研究や文献にも触れながら、客観的かつ総合的に考察がなされている
文献に関する記述	引用・参考文献が書かれていない	引用・参考文献の記載はあるが、表記方法が適切ではない	引用・参考文献を過不足なく記載している	文献の引用方法、引用箇所との対応、表記方法が適切で正確である

〔授業計画〕

- 第 1 回 合同オリエンテーション (向山)
本科目の目的、課題、授業の進め方などについての解説
- 第 2 回 グループ別：心理テスト演習Ⅰ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テスト体験①
- 第 3 回 グループ別：心理テスト演習Ⅰ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テストの解説と結果の整理②
- 第 4 回 グループ別：心理テスト演習Ⅰ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テスト結果の考察、レポートの作成指導③
- 第 5 回 グループ別：心理テスト演習Ⅱ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テスト体験①
- 第 6 回 グループ別：心理テスト演習Ⅱ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テストの解説と結果の整理②
- 第 7 回 グループ別：心理テスト演習Ⅱ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テスト結果の考察、レポートの作成指導③
- 第 8 回 グループ別：心理テスト演習Ⅲ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テスト体験①
- 第 9 回 グループ別：心理テスト演習Ⅲ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テストの解説と結果の整理②
- 第 10 回 グループ別：心理テスト演習Ⅲ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テスト結果の考察、レポートの作成指導③
- 第 11 回 グループ別：心理テスト演習Ⅳ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テスト体験①
- 第 12 回 グループ別：心理テスト演習Ⅳ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テストの解説と結果の整理②
- 第 13 回 グループ別：心理テスト演習Ⅳ (中藤・片山・鶴田・福山)
心理テスト結果の考察、レポートの作成指導③

- 第 14 回 合同講義 (向山)
心理テスト概説、心理テストの倫理
- 第 15 回 合同講義 (向山)
演習のまとめと振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。演習ごとにレポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 受講生はグループに分かれて合計4つの心理テストを演習し、担当教員から指導を受ける。1つの演習は3週間連続で行われ、演習ごとに担当教員が交代する。
2. 遅刻、欠席は授業の妨げになるため、厳禁である。欠席すると、その演習のレポート評価を受ける資格がなくなるので、注意すること。

3. 演習ごとにレポートが課される。担当教員の指示に従って、所定の期日までに提出先 (学事課やmanabaによる提出など) に提出すること。

4. 配布資料や返却されたレポートは、次年度以降も参照できるように保存しておくこと。

5. テキストは使用しない。教材や資料は、演習ごとに適宜、配布や貸し出しを行う。参考文献についても、演習ごとに適宜、指示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 心理テストについて、事前に文献などで調べておくこと。
2. 心理テストに関してこれまで他の授業で学んだことを復習しつつ、演習に臨むこと。
3. 返却されたレポートを見直し、文章やレポートの書き方について改善や工夫に努めるとともに、演習を振り返って自己理解につなげること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各演習でのレポートや受講態度などを総合して評価する (各演習における満点は25点)。なお、オリエンテーション、合同講義、各演習における欠席・遅刻は、受講態度の一環として指導の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・1回目のオリエンテーションと14回・15回目のまとめの授業は、受講生全員に対する合同講義である。演習のスケジュール、グループ分け、教室等については、1回目のオリエンテーションで伝達する。

- ・演習は異なる教室でグループ別に行い、演習ごとに担当教員が交代する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

向山泰代 実務経験あり：心理専門職として施設での勤務経験あり

中藤信哉 実務経験あり：心理専門職として施設での勤務

経験あり
 鶴田 薫 実務経験あり：心理専門職として施設での勤務
 経験あり
 福山幸子 実務経験あり：心理専門職として施設での勤務
 経験あり

心理演習（心理支援の実際）

PSA3651N0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 2単位 後期
 金曜4限
 DP6：創造・発信力
 90
 三好 智子 福山 幸子

【科目の教育目標（Course Description）】

心理支援に関する基本的な知識および技能を修得する。保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野における具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）、および、事例検討を通して、心理支援の実際について理解を深める。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

1. 心理支援における①コミュニケーション②心理アセスメント③心理面接④地域支援等の基本的な知識および技能を修得する。
2. 役割演技や事例検討を通して、心理に関する支援を要する者等を理解し、ニーズを把握する技能を習得した上で、支援計画を作成する。
3. 事例検討を通して、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携および地域連携の現状と課題を理解する。
4. 役割演技や事例検討を通して、公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を深める。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	心理演習の学びを通して自分を育てる動機がみられない	心理演習の学びを通して自分を育てる動機がある程度ある	心理演習の学びを通して自分を育てる動機がおおむねある	心理演習の学びを通して自分を育てる動機がかなりある
知識・理解力	心理支援に必要な知識・理解力がみられない	心理支援に必要な知識・理解力がある程度ある	心理支援に必要な知識・理解力がおおむねある	心理支援に必要な知識・理解力がかなりある
言語力	心理支援に必要な言語力がみられない	心理支援に必要な言語力がある程度ある	心理支援に必要な言語力がおおむねある	心理支援に必要な言語力がかなりある

思考・解決力	与えられた課題について考えることが難しい	与えられた課題について考える程度できる	与えられた課題について考えることがおむねできる	与えられた課題について考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	他者と協力して活動することがある程度できる	他者と協力して活動することがおむねできる	他者と協力して活動することができる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを表現することがある程度できる	自分の考えを表現することがおむねできる	自分の考えを表現することができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 保健医療分野における心理支援（事例検討）
 第3回 保健医療分野における心理支援（役割演技）
 第4回 福祉分野における心理支援（事例検討）
 第5回 福祉分野における心理支援（役割演技）
 第6回 教育分野における心理支援（事例検討）
 第7回 教育分野における心理支援（役割演技）
 第8回 司法・犯罪分野における心理支援（事例検討）
 第9回 司法・犯罪分野における心理支援（役割演技）
 第10回 産業・労働分野における心理支援（事例検討）
 第11回 産業・労働分野における心理支援（役割演技）
 第12回 支援計画、チームアプローチ、地域連携（事例検討）
 第13回 支援計画、チームアプローチ、地域連携（計画の策定）
 第14回 公認心理師としての職業倫理および法的義務
 第15回 まとめと振り返り

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法（Course Methods）】

第1回のオリエンテーションの後、受講生は2グループに分かれて演習を行う。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

各演習前に、その演習のテーマに関して復習や下調べをしておく。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準（Evaluation）】

演習形式の授業のため、全回の出席が前提である。原則として欠席および遅刻は認めず、全回出席をもって単位認定の基本条件とする。授業態度(50%)、各演習のレポート(50%)をもとに総合的に評価する。

各演習のレポートについては、15回目にフィードバックを行う。

【留意事項（Other Information）】

役割演技等の実践の時間を多く含むことから、自分自身や他の受講生の体験を尊重して演習に臨むこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 全担当教員について、心理専門職として施設での勤務経験あり。

心理学英文講読 (応用)

PSB3350N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 前期

金曜5限

DP3: 言語力

60

中村 千珠

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、心理学演習や実験、卒業論文の準備などをする際に必要となる、心理学の英語文献を自力で読めるようになるため、心理学の主要分野からいくつかトピックを選び読解することで、専門用語、基本的概念を英語により確認し、習得することを目的とする。さらに、英語の論文を通じて、最新の心理学の知見に触れる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1、心理学の専門用語や基本的概念を英語により確認し、意味を理解する。

2、心理学の英語の文献や論文の内容を理解できるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための専門的知識が身についていない	ある程度、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための専門的知識が身についている	おおむね心理学の英語文献を自力で読めるようになるための専門的知識が身についている	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための専門的知識が十分身についている

言語力	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についていない	ある程度、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についている	おおむね、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身についている	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 文献読解 発達心理学 1
(児童期の認知発達; ピアジェの理論)
- 第 3 回 文献読解 発達心理学 2
(児童期の認知発達)
- 第 4 回 文献読解 学習心理学 1
(古典的条件付け)
- 第 5 回 文献読解 学習心理学 2
(道具的条件付け)
- 第 6 回 文献読解 認知心理学 1
(記憶について; 記憶に関する実験など)
- 第 7 回 文献読解 認知心理学 2
(記憶について)
- 第 8 回 文献読解 人格心理学 1
(防衛機制; 抑圧など)
- 第 9 回 文献読解 人格心理学 2
(防衛機制; 否認など)
- 第 10 回 文献読解 臨床心理学 1
(精神症状; 恐怖症など)
- 第 11 回 文献読解 臨床心理学 2
(精神症状; 強迫性障害など)
- 第 12 回 文献読解 臨床心理学 3
(行動療法)
- 第 13 回 文献読解 臨床心理学 4
(認知療法)
- 第 14 回 文献読解 臨床心理学 4
論文紹介
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1、各自が、適宜配布した文献を丁寧に和訳して授業に臨む。
- 2、授業による読解を通して、各自の理解度をチェックする。
- 3、授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 事前に配布した文献を予習することを基本とする。理解できない用語は各自調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表など授業への参加状況70%、まとめの課題30%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

事前予習が不可欠である。授業はオンラインで実施する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

心理学の文献を適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学英文講読 (基礎)

PSB2350N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

火曜 4限

DP3: 言語力

60

菱田 一仁

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

最新の心理学の知見に触れるためには、英語の文献にあたること大事である。そこで、この授業では、心理学演習や実験、卒業論文の準備などをする際に必要となる、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための基礎的な訓練をおこなう。そのために、基本的な英語で書かれている心理学書籍を読解し、その内容についてディスカッションをすることを通して、英語で心理学の概念を学ぶ基礎を身につけることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1、英語の文献を読むことに慣れる。
- 2、心理学の専門用語や基本的概念を英語により確認し、書かれている内容について理解できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身につけていない	ある程度、自律的な学習態度が身につけている	おおむね自律的な学習態度が身につけている	自律的な学習態度が十分身につけている

知識・理解力	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための知識が身につけていない	ある程度、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための知識が身につけている	おおむね心理学の英語文献を自力で読めるようになるための知識が身につけている	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための知識が十分身につけている
言語力	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身につけていない	ある程度、心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身につけている	おおむね心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が身につけている	心理学の英語文献を自力で読めるようになるための力が十分身につけている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身につけている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションと導入
Introduction (テキストp.11-13)
- 第 2 回 文献読解 Chapter1 (p.15-16)
テキストChapter1を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 3 回 文献読解 Chapter1つづき (p.17-18)
テキストChapter1つづき (p.17-18)を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 4 回 文献読解 Chapter1つづき (p.18-20)
テキストChapter1つづき (p.18-20)を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 5 回 文献読解 Chapter1つづき (p.21-22)
テキストChapter1つづき (p.21-22)を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 6 回 文献読解 Chapter 1つづき (p.23-25)
テキストChapter 1つづき (p.23-25)を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 7 回 文献読解 Chapter1つづき (p.25-27)
テキストChapter1つづき (p.25-27)を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 8 回 文献読解 Chapter2 (p.29-30)
テキストChapter2 (p.29-30)を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 9 回 文献読解 Chapter2-3 (p.31-34)
テキストChapter2-3 (p.31-34)を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 10 回 文献読解 Chapter3 (p.35-36)
テキストChapter3 (p.35-36)を読み、その内容についてディスカッションを行う

- 第 11 回 文献読解 Chapter4 (p.37-39)
テキストChapter4 (p.37-39) を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 12 回 文献読解 Chapter4 (p.39-41)
テキストChapter4 (p.39-41) を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 13 回 文献読解 Chapter5 (p.43-45)
テキストChapter5 (p.43-45) を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 14 回 文献読解 Chapter5 (p.45-47)
テキストChapter5 (p.45-47) を読み、その内容についてディスカッションを行う
- 第 15 回 まとめ Chapter5 (p.47-50)
テキストChapter5 (p.47-50) を読み、これまでのテキストの内容についてディスカッションを行う

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

テキストの内容に関するレポート課題を実施する。内容は授業中に指示する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1、各自が、テキストの該当部分を丁寧に和訳して授業に臨む。
- 2、授業による読解を通して、各自の理解度をチェックする。
- 3、授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストを予習することを基本とする。理解できない用語は各自調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表など授業への参加状況60%、レポート課題40%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

事前予習が不可欠である。

各授業回で扱う部分は、授業の進行によって変わる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Come Closer/ Ilse Sand / Jessica Kingsley publishers / 2017 / ISBN 9781785923978/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600A0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

120

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までに関わる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができると。	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討

- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. グループで演習形式、実習形式で行う。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600DOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6: 創造・発信力

120

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにあたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。「大学生の心理に関する調査」「女性の生き方に関する調査」「企業や店舗等と連携して行う調査」いずれかについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
9. 結果を解釈し、表現する力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的で積極的な学習態度が身についている	おおむね自律的で積極的な学習態度が身についている	自律的で積極的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	心理学の研究法や統計の知識が身についていない	ある程度、心理学の研究法や統計の知識が身についている	おおむね心理学の研究法や統計の知識が身についている	心理学の研究法や統計の知識が十分身についている
言語力	研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についていない	ある程度、研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についている	おおむね研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についている	研究結果を言語化したり、人に説明する力が十分身についている

思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についていない	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についている	おおむね心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についている	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が十分身についている
共生・協働する力	学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についていない	ある程度、学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についている	おおむね学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についている	学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が十分身についている
創造・発信力	研究成果を他者に発信する力が身についていない	ある程度、研究成果を他者に発信する力が身についている	おおむね研究成果を他者に発信する力が身についている	研究成果を他者に発信する力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討
- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. グループでの演習形式、実習形式で行う。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示を行う。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

必要に応じて遠隔授業を行う場合がある。

〔テキスト (Textbook) (書籍名 (Title)/著者 (Author)/出版社 (Publisher)/出版年 (Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献 (References) (書籍名 (Title)/著者 (Author)/出版社 (Publisher)/出版年 (Year Published)/ISBN)〕

〔参考 URL (URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600H0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP6 : 創造・発信力

120

薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までに行わたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。

4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができると。	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討
- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。

2. グループで演習形式、実習形式で行う。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600J0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

120

佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにあたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。

8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身につける。
〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができる。	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 調査の企画
第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
第 6 回 仮説の構成
第 7 回 質問項目の資料収集
第 8 回 質問項目の検討
第 9 回 予備調査の実施
第 10 回 予備調査の検討
第 11 回 本調査の実施に向けて
第 12 回 本調査の実施
第 13 回 コーディング
第 14 回 エディティング
第 15 回 中間まとめ
第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
第 18 回 相関係数①分析の実施
第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
第 20 回 t検定①分析の実施
第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
第 22 回 分散分析①分析の実施
第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
第 26 回 仮説の検証
第 27 回 成果発表に向けての準備
第 28 回 成果発表
第 29 回 報告書案の作成
第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
- グループで演習形式、実習形式で行う。
- 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600LOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP6 : 創造・発信力

120

空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
- 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
- 調査方法に関する知識や技術を習得する。
- 調査の実施において留意すべきことを理解する。
- データの入力方法を習得する。
- データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
- 統計的検定の基本概念を理解する。
- ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
- 結果を解釈し、表現する力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができる。	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討
- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. グループで演習形式、実習形式で行う。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600POJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6: 創造・発信力

120

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができる。	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。
--------	-------------------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討
- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. グループで演習形式、実習形式で行う。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600Q0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

120

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に専門分野の研究法を習得する。具体的には、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる調査研究の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。

テーマは、①現代社会の諸問題に関する意識調査、②大学生の心理を分析する調査、③一般企業・店舗や組織と連携して進める調査、のいずれかを受講生と相談しながら決定し、一年を通して課題に取り組んでいく。前期は主に、小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。後期は主に、データ分析や考察、報告書の作成を行う。

3年次で身につけた力を4年次の卒業研究や卒業論文で活かすことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 質問紙作成に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する
6. データ分析の力を身につける。
7. データにもとづき、報告書にまとめる力を身につける。
8. 分析結果を他者に伝える力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的で積極的な態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	心理学の研究法や統計の知識を身につけていない。	ある程度、心理学の研究法や統計の知識を身につけている。	おおむね心理学の研究法や統計の知識を身につけている。	心理学の研究法や統計の知識を十分身につけている。
言語力	研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけている。	おおむね研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけている。	研究結果を言語化したり、人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけている。	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究成果を他者に発信する力が身につけていない。	ある程度、研究成果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究成果を他者に発信する力を身につけている。	研究成果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 調査の企画
- 第3回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第4回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第5回 先行研究・文献の収集、整理
- 第6回 仮説の構成
- 第7回 質問項目・尺度の資料収集
- 第8回 質問項目・尺度の検討
- 第9回 質問紙の作成
- 第10回 質問紙の完成
- 第11回 調査の実施に向けて
- 第12回 調査の実施

- 第13回 データ入力
- 第14回 エディティング
- 第15回 中間のまとめ
- 第16回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第17回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第18回 相関係数①分析の実施
- 第19回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第20回 t検定①分析の実施
- 第21回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第22回 分散分析①分析の実施
- 第23回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第24回 χ^2 検定①分析の実施
- 第25回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第26回 仮説の検証
- 第27回 成果発表に向けての準備
- 第28回 成果発表
- 第29回 報告書案の作成
- 第30回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
4. グループでの協働作業が中心となるため、積極的な授業参加を心がけること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に指示するが、「質問紙調査法」「現代社会調査入門」「心理学統計法 I・II」「推測統計学 I・II」で学んだ内容を復習しながら授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600ROJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜 3限
 DP6 : 創造・発信力
 120
 三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができ	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができ	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施

- 第 10 回 予備調査の検討
- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員(指導教員)の指導内容を身につけていく。
 2. グループで演習形式、実習形式で行う。
 3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
- なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600S0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜 3限
 DP6：創造・発信力
 120
 向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までに行わたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができると。	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討

- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員(指導教員)の指導内容を身につけていく。
 2. グループで演習形式、実習形式で行う。
 3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
- なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、課題の提出・発表および最終レポート(70%)により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600TOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜 3限
 DP6：創造・発信力
 120
 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までに行わたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができると。	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討

- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 20 回 t検定①分析の実施
- 第 21 回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
 2. グループで演習形式、実習形式で行う。
 3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
- なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学概論 2021年度以降入学者

PSB1200NOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 1年次
 2単位 前期
 月曜 4限
 DP2: 知識・理解力
 60
 必修
 廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学の対象は、我々が日常生活で経験している行動である。本科目では、人間のさまざまな行動をよりよく理解し、その精神活動の内面をうかがい知るために、人間の心理や行動の基礎にある原理について概説する。特に、知覚、学習、記憶、発達、個人差、社会行動について、そのしくみを概観し、心理学の基本的な考え方を学ぶ。これらの講義を通して、人の心の基本的な仕組み及び働きを理解すること、および心理学の基礎用語や知識を習得することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学とは何か、その成り立ちを理解する。
2. 知覚、記憶、学習などのメカニズムを理解する。
3. 人間の発達の過程を理解する。
4. 心理学において人間の個性をどのように捉えるのかを学ぶ。
5. 他者との関わりの中で生じる認知や行動のしくみを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができない。	心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 心理学の成り立ち
- 第 3 回 脳と心
- 第 4 回 発達
- 第 5 回 知覚
- 第 6 回 学習
- 第 7 回 記憶
- 第 8 回 コミュニケーション
- 第 9 回 思考
- 第 10 回 動機づけ
- 第 11 回 個人差
- 第 12 回 対人行動

- 第 13 回 集団
- 第 14 回 消費行動
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主にPowerPointや映像資料を使った講義形式で行う。テキストは使用せず、必要な授業資料等はmanabaから入手する。また、課題の提出やそれに対するフィードバックも原則manabaから行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に授業資料を読んでおく。出された課題をmanabaから提出する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テストは行わず、複数回の小テスト・中テスト(100%)に基づき評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。状況によっては、授業の一部または全部をオンラインで行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理学 第5版補訂版』/鹿取廣人ほか/東京大学出版会/2020/4130121170

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学基礎演習Ⅰ 2017年度以降入学者

PSB1300NOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 1年次
 2単位 前期
 火曜 4限
 DP3: 言語力
 60
 必修
 伊藤 一美 薦田 未央 村松 朋子 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

共に学ぶ友人や心理学科教員との関わりを通して、大学での学びの基盤を形成する。そして、日本語の文章や数字で表されるデータについて、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①大学での学習に必要な基礎的日本語能力やデータ活用の基礎の習得を通じて、アカデミックリテラシーを身につける。その中でも、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を習得し、レポート作成時の「文献(引用文献や参考文献)」の適切な扱い方を身につける。
- ②資料やデジタルファイルの管理方法、オンラインを用いた学習方法について習得する。
- ③学生同士あるいは担任を核とした心理学科教員との人間関係を構築する。
- ④社会の中での心理学の役割や職種についての知識を習得し、専門教育に向けて動機づけを行い、社会的視野を広げる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	心理学の学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学習を通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学習を通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学習を通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	ある程度グループ活動を他者と協力して行うことができる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行う力がかなりある
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がかなりある

〔授業計画〕

- 第 1 回 全体オリエンテーション
*教員全員担当

- 第 2 回 テーマA (大学というフィールドを知ろう—情報収集)
*半数のグループは、テーマBに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 3 回 テーマA (大学というフィールドを知ろう—発展)
*半数のグループは、テーマBに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 4 回 全体会 I (キャリア・資格について)
*教員全員担当
- 第 5 回 テーマB (確率と仲良くなる—サイコロでパターンの数を理解しよう)
*半数のグループは、テーマAに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 6 回 テーマB (確率と仲良くなる—プロフィールを当てよう)
*半数のグループは、テーマAに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 7 回 全体会 II (心理学科のコースについて)
*教員全員担当
- 第 8 回 中間オリエンテーション (前半の振り返り)
*各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う。
- 第 9 回 テーマC (レポートを作成しよう—レポート作成の基礎)
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 10 回 テーマC (レポートを作成しよう—短いレポートの作成)
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 11 回 テーマC (レポートを作成しよう—相互評価)
*半数のグループは、テーマDに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 12 回 テーマD (商品試験をしてみよう—商品の評価ポイントを考える)
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 13 回 テーマD (商品試験をしてみよう—実験)
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 14 回 テーマD (商品試験をしてみよう—発展)
*半数のグループは、テーマCに取り組む。
*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 15 回 まとめ
*各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- グループに分かれて、ローテーション方式で行う。内容は、
①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業
③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生やOGの

体験報告会の聴講、本学でのコースでの学びの紹介などを行う予定。

また、高校までの学習内容のリマインドのためクイズ形式の課題を行うこともある。

課題に対するフィードバックは、授業中またはmanabaで行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校～高校での国語・数学の学習や総合的な学習の時間での発表学習を繰り返す。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・授業態度70%、発表・レポート30%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマA・B・C・Dの実施順は異なる。回によって教室が異なるので、オリエンテーション時の資料に従い、その都度気を付けること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学基礎演習Ⅰ (20以前)

PSB1300W0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 前期

木曜 5限

DP3: 言語力

60

必修

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

大学での学びの基盤を形成する。そして、日本語の文章や数字で表されるデータについて、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①アカデミックリテラシーの習得 (大学教育に必要な基礎的日本語能力やデータ活用の基礎を学ぶ)

②心理学の基礎知識に親しむ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力	心理学の基礎的文献を読んで理解することができない。	心理学の基礎的文献を読んで理解することができる。	心理学の基礎的文献を読んで理解した内容を自分の言葉で表現できる。	レベル3に加えて、文献についての自分や他者の意見などを批判的にまとめて発信することができる。
-----	---------------------------	--------------------------	----------------------------------	--

〔授業計画〕

第 1 回 全体オリエンテーション

第 2 回 新聞記事 (あるいは雑誌記事) の中で、心理学に関係する記事を読み、意見交換する。

第 3 回 新聞記事 (あるいは雑誌記事) について、小レポートを作成。

第 4 回 心理学の基礎的文献①を読んで、意見交換する。

第 5 回 心理学の基礎的文献①について、小レポートを作成。

第 6 回 心理学の基礎的文献②を読んで、意見交換する。

第 7 回 心理学の基礎的文献②について、小レポートを作成。

第 8 回 中間オリエンテーション

第 9 回 心理学の基礎的文献③を読んで、意見交換する。

第 10 回 心理学の基礎的文献③について、小レポートを作成。

第 11 回 青年を扱う心理学の文献を読んで、意見交換する。

第 12 回 青年を扱う心理学の文献について、小レポートを作成。

第 13 回 子どもを対象とした心理学の文献を読んで、意見交換する。

第 14 回 子どもを対象とした心理学の文献について的小レポートを作成。

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①教員によるオリエンテーション ②心理学の基礎知識に関係する文献を読んで意見交換 ③小レポートにまとめる

④課題へのフィードバックとして、小レポートにはコメントをつけて各自に返却を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校～高校での国語・数学の学習や総合的な学習の時間での発表学習を繰り返す。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、小レポート (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

再履修生のためのクラスとなる。

状況によっては、授業の一部または全部をオンラインで行

うことがある。また、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学基礎演習Ⅱ 2017年度以降入学者

PSB1350NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

火曜4限

DP3: 言語力

60

必修

松島 るみ 尾崎 仁美 佐藤 睦子 中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

友人や心理学科教員との関わりを深め、心理学科の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.アカデミックリテラシーの構築 (読むこと、理解すること、文章や図・表にまとめること、発表すること等)
- 2.人間関係の構築 (学生同士および担任を核とする心理学科教員との関わりを深める)
- 3.専門教育への導入 (心理学科の専門教育を受けるための基盤形成)
- 4.社会の中での心理学の役割や職種についての知識習得 (専門教育に向けて動機づけを行い社会的視野を広げる)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がかなりある

言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度できる	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	グループ活動を他者と協力して行うことができる程度できる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行うことができる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がかなりある

〔授業計画〕

- 第 1 回 全体オリエンテーション
* 教員全員担当
- 第 2 回 テーマA (新聞から社会を覗いてみようーグループ課題)
* 半数のグループは、テーマBに取り組む。
* 教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 3 回 テーマA (新聞から社会を覗いてみようー投稿記事の作成)
* 半数のグループは、テーマBに取り組む。
* 教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 4 回 テーマB (グラフを読み取るうー身近なグラフ探し)
* 半数のグループは、テーマAに取り組む。
* 教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 5 回 テーマB (グラフを読み取るうーグラフの読み取り)
* 半数のグループは、テーマAに取り組む。
* 教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 6 回 全体会 I (フィールド研修・インターンシップについて)
* 教員全員担当
- 第 7 回 テーマC (心理学の文献を読もうー文献講読とディスカッション)
* 半数のグループは、テーマDに取り組む。
* 教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 8 回 テーマC (心理学の文献を読もうー発表資料の作成)
* 半数のグループは、テーマDに取り組む。
* 教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第 9 回 テーマC (心理学の文献を読もうー発表と振り返り)

- *半数のグループは、テーマDに取り組む。
- *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第10回 中間オリエンテーション（前半の振り返り）
- *各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う
- 第11回 テーマD（データ集計を体験しようー質問紙調査のプレ体験）
- *半数のグループは、テーマCに取り組む。
- *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第12回 テーマD（データ集計を体験しようー発表資料作成）
- *半数のグループは、テーマCに取り組む。
- *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第13回 テーマD（データ集計を体験しようーグループ発表）
- *半数のグループは、テーマCに取り組む。
- *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
- 第14回 全体会Ⅱ（就職内定者報告、資格・コース選択説明）
- *教員全員担当
- 第15回 まとめ
- *各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

AからDの各テーマをグループに分かれてローテーション方式で学ぶほか、全体会やグループに分かれての振り返りを行う。具体的な内容としては、

①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業 ③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生やOGの体験報告会の聴講などを行う予定。

課題に対するフィードバックは、授業中またはmanabaで行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

心理学基礎演習Ⅰでの学習内容をふり返る。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・授業態度70%、発表・レポート30%とする。

〔留意事項（Other Information）〕

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマA・B・C・Dの実施順は異なり、回によって教室が異なるので、気を付けること。テーマAおよびCは佐藤・松島、テーマBおよびDは尾崎・中藤が担当する。

全体会の内容は、変更される場合もある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学基礎演習Ⅱ（20以前）

PSB1350W0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜 5限

DP3：言語力

60

必修

廣瀬 直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科教員との関わりを深め、心理学科の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1.アカデミックリテラシーの構築（読むこと、理解すること、文章や図・表にまとめること、発表すること等）

2.心理学科の専門教育の導入

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力	心理学の基礎的文献を読んで理解することができない。	心理学の基礎的文献を読んで理解することができる。	心理学の基礎的文献を読んで理解した内容を自分の言葉で表現できる。	レベル3に加えて、文献についての自分や他者の意見などを批判的にまとめることができる。

〔授業計画〕

第1回 全体オリエンテーション

第2回 認知心理学に関する基礎知識を学ぶ

第3回 認知心理学に関する基礎文献を読んで、意見交換する

第4回 認知心理学について小レポートにまとめる

第5回 発達心理学に関する基礎知識を学ぶ

第6回 発達心理学に関する基礎文献を読んで、意見交換

第7回 発達心理学について小レポートにまとめる

第8回 中間オリエンテーション（前半の振り返り）

第9回 社会心理学に関する基礎知識を学ぶ

第10回 社会心理学に関する基礎文献を読んで、意見交換

第11回 社会心理学に関する小レポートにまとめる

第12回 臨床心理学に関する基礎知識を学ぶ

第13回 臨床心理学に関する基礎文献を読んで、意見交換

第 14 回 臨床心理学について小レポートにまとめる

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

①教員によるオリエンテーション ②さまざまな心理学の基礎的文献を読んで、意見交換 ③小レポートにまとめる

④課題へのフィードバックとして、小レポートにはコメントをつけて各自に返却する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理学基礎演習 I での学習内容をふり返る。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度50%、小レポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

再履修生のみクラスとなる。

状況によっては、授業の一部または全部をオンラインで行うことがある。また、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学研究法 2021年度以降入学者

PSB2401N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

必修

向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目では、心理現象という実体のない、直接観察できないものを、科学的に研究するために、心理学がこれまでどのような方法を発展させてきたのかを学ぶ。心理学における代表的な研究方法の特徴について知識を得るとともに、研究に伴う倫理についても学習する。受講生自らが研究に携わることを念頭において、テーマの設定や研究計画の作成等、研究に関する実践的な知識や技術についても講義し、データにもとづく実証科学としての心理学への興味や関心を拡充することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・心理学における研究方法の重要性について理解する。
- ・調査、実験、検査、観察、面接といった代表的な研究方法の特徴について学ぶ。
- ・研究に伴う倫理について学ぶ。
- ・研究計画から結果の公表までの研究の展開について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理学研究法に関する基礎的な専門用語の知識と理解	専門用語やその意味を知らない。	特定の専門用語やその意味のみを理解している。	幾つかの専門用語やその意味を理解している。	専門用語やその意味を理解している。
心理学における研究法の特徴と研究倫理に関する知識と理解	心理学における研究法の特徴や研究倫理について知らない。	特定の研究法の特徴や研究倫理のみを理解している。	幾つかの研究法の特徴や研究倫理について理解している。	研究法の特徴と研究倫理を理解している。
日常の出来事や経験を研究と関連づけて考えること	日常の出来事や経験を研究と関連づけて考えようとしない。	日常の出来事や経験を研究と関連づけて考える。	日常の出来事や経験を研究と関連づけて考え、資料などを探索する。	日常の出来事や経験を研究と関連づけて考え、資料などを探索し、課題などでその成果を示す。
主体的に学ぶこと	授業内・授業外での課題に取り組もうとしない。課題を提出しない。	授業内・授業外での課題に取り組む。課題を提出する。	授業内・授業外での課題について、独自の視点を加えて取り組み、提出する。	授業内・授業外での課題について複数の独自の視点にもとづいて課題を作成し、自らの考えを深め、その結果を提出する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義概要と留意点
- 第 2 回 心理学の研究の特徴、量的研究と質的研究
- 第 3 回 調査法1 (調査法概説)
- 第 4 回 調査法2 (調査法における留意点)
- 第 5 回 実験法1 (実験法概説)
- 第 6 回 実験法2 (実験法における留意点)
- 第 7 回 中間テスト
- 第 8 回 検査法1 (検査法概説)
- 第 9 回 検査法2 (検査法における留意点)
- 第 10 回 面接法1 (面接法概説)
- 第 11 回 面接法2 (面接法における留意点)
- 第 12 回 観察法1 (観察法概説)

第13回 観察法2（観察法における留意点）
 第14回 その他の研究法、研究における倫理
 第15回 到達度確認テストと解説・まとめ
 [定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法（Course Methods）]

講義に沿った資料を準備するので、各自で整理して学習に活用すること。また、毎回の講義で「前回の講義内容の復習」の時間を設けるので、この時間を活用して、各自が講義内容の繋がりを理解し、知識の定着に努めること。ワークシート等の課題へのフィードバックは、授業期間内に口頭あるいは文書で行う。

[準備学習の具体的な方法（Class Preparation）]

指定のテキストを各自で購入し、授業開始までに目を通しておくこと。図書館を積極的に活用して講義に関連する書籍や文献を自ら探索し、準備学習を進めること。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

40

[評価方法・評価基準（Evaluation）]

授業中に実施する到達度確認テスト（60%）、中間テスト（20%）、課題・提出物・授業への取り組み態度（20%）で評価する。

[留意事項（Other Information）]

受講生の理解度等に応じて、授業計画で示した項目の順序を変更することがある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

心理学研究法入門/南風原朝和ほか/東京大学出版会/2001/
 ISBN4-13-012035-2

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『心理学の卒業研究ワークブック』/小塩真司ほか/金子書房/2015/

『心理学研究法』/高野陽太郎ほか/有斐閣/2004/

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

心理学実験演習Ⅰ 2021年度以降入学者

PSB1455NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

火曜2限

DP4: 思考・解決力

60

必修

尾崎 仁美 松島 るみ 後藤 伸彦 山下 雅俊

[科目の教育目標（Course Description）]

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法（仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく）に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

[教育・学習の個別課題（Course Objectives）]

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのか、実験の計画・立案の方法を習得する。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。
8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数（試行数）の記載方法を習得し、統計に関する基礎的知識を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	実験方法や背景にある理論的知識が身についていない。	ある程度、実験方法や背景にある理論的知識を身につけている。	おおむね実験方法や背景にある理論的知識を身につけている。	実験方法や背景にある理論的知識を十分身につけている。
言語力	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についていない。	ある程度、実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についている。	おおむね実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についている。	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている。
思考・解決力	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力が身についていない。	ある程度、実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている。	おおむね実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている。	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についている。	おおむね学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についている。	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が十分身についている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が十分身についている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (尾崎)
- 第 2 回 社会的認知 (実験) (後藤)
- 第 3 回 社会的認知 (分析) (後藤)
- 第 4 回 社会的認知 (執筆) (後藤)
- 第 5 回 錯視 (実験) (松島)
- 第 6 回 錯視 (分析) (松島)
- 第 7 回 錯視 (執筆) (松島)

- 第 8 回 語の記銘 (実験) (尾崎)
- 第 9 回 語の記銘 (分析) (尾崎)
- 第 10 回 語の記銘 (執筆) (尾崎)
- 第 11 回 鏡映描写 (実験) (山下)
- 第 12 回 鏡映描写 (分析) (山下)
- 第 13 回 鏡映描写 (執筆) (山下)
- 第 14 回 合同講義 (尾崎)
- 第 15 回 まとめと振り返り (尾崎)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 4 課題の実験を実施する。
2. 課題ごとの実験演習は 3 週にわたって行うため、担当者の実験場所が変わるので注意する。
3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 各レポートは授業期間内に添削をしてフィードバックする

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各実験課題の演習参加度とレポート (25%) × 4 課題分を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・授業は実験演習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。やむを得ず欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

・第1回、第14回、第15回は尾崎が担当する。

・第2回～第13回については、社会的認知は後藤、錯視は松島、語の記銘は尾崎が担当する。鏡映描写は担当者未定 (後期に決定する)。実験の順番はグループによって入れ替わる。

・「初級実験実習Ⅱ (16以前)」履修者は、一部別実験を行う可能性がある。

・一部授業はオンラインで実施する場合がある。オンラインで実施する授業については初回授業時に指示をする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学実験演習Ⅱ 2021年度以降入学者

PSB2405N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

火曜2限

DP4: 思考・解決力

60

江 聚名 後藤 伸彦 松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法（仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく）に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのか、実験の計画・立案の方法を習得する。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。
8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数（試行数）の記載方法を習得し、統計に関する基礎的知識を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	実験方法や背景にある理論的知識が身につけていない。	ある程度、実験方法や背景にある理論的知識を身につけている。	おおむね実験方法や背景にある理論的知識を身につけている。	実験方法や背景にある理論的知識を十分な身につけている。
言語力	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけていない。	ある程度、実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけている。	おおむね実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけている。	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が十分身につけている。
思考・解決力	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力が身につけていない。	ある程度、実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている。	おおむね実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている。	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけている。	おおむね学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけている。	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけている。	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (松島) (対面)
- 第 2 回 印象評価 (一対比較とSD法) (実験) (松島) (オンライン)
- 第 3 回 印象評価 (一対比較の分析と結果の解釈) (松島) (対面)
- 第 4 回 印象評価 (SD法の分析と結果の解釈) (松島) (対面)

- 第 5 回 印象評価 (結果の解釈と執筆) (松島) (オンライン)
 - 第 6 回 潜在的連合テスト (IAT) (質問紙とIATの実験) (後藤) (オンライン)
 - 第 7 回 潜在的連合テスト (IAT) (IATデータの整理) (後藤) (対面)
 - 第 8 回 潜在的連合テスト (IAT) (質問紙とIATの分析・図表作成) (後藤) (対面)
 - 第 9 回 潜在的連合テスト (IAT) (執筆) (後藤) (対面)
 - 第 10 回 大きさの恒常性 (実験 1) (江) (対面)
 - 第 11 回 大きさの恒常性 (実験 2) (江) (対面)
 - 第 12 回 大きさの恒常性 (結果の整理と解釈) (江) (対面)
 - 第 13 回 大きさの恒常性 (執筆) 執筆 (江) (対面: 希望者はオンライン)
 - 第 14 回 合同講義 (補足実験) (松島) (対面)
 - 第 15 回 まとめと振り返り (松島) (オンライン)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 3課題の実験を実施する。
2. 課題ごとの実験実習は4週にわたって行うため、担当者と実験場所が変わるので注意する。
3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 各レポートは授業期間内に添削をしてフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各実験のレポート (30%) ×3回分と合同講義での振り返り課題 (10%) を総合して評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・授業は実験演習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。
- ・対面授業をベースとするが、一部オンライン (オンデマンド) 授業を取り入れる。
- ・第1回、第14回、第15回は松島が合同講義を担当する。
- ・第2回～第13回について、印象評価は松島、潜在的連合テストは後藤、大きさの恒常性は江が担当する。実験の順番はグループによって入れ替わる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『教材心理学』/木下富雄他 (編)/ナカニシヤ出版/1990/4888480125/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学情報処理 2021年度以降入学者

PSB3400N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 後期

月曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

推測統計学I、推測統計学II

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

情報処理とは入力されたデータに何らかの加工を施して情報をあらわにすることである。したがって、この科目では、心理学の実験・調査において得られた数量的・非数量的なデータを、コンピュータを利用して解析することによって、心理学的事実を見つけ出す技法に習熟することを目的とする。

統計学の基礎的な知識の上に、統計解析に関わる知識の獲得と統計解析プログラムソフトの活用技法について習得しなければならない。あわせて、データをコンピュータ処理する場合のさまざまな問題点 (データ入力でのエラー、処理プログラムの適用エラーなど) について認識を深めることが期待される。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 測定及び記述統計学の基礎知識を獲得していること。
- 2) Excel, SPSSの基本操作に習熟すること。
- 3) 統計的検定の基本概念を理解すること。
- 4) 分散分析の概念を理解すること。
- 5) 多変量解析の概要を理解すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度を身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。

知識・理解力	統計的知識や分析方法に関するスキルが身につけていない。	ある程度、統計的知識や分析方法に関するスキルを身につけている。	おおむね統計的知識や分析方法に関するスキルを身につけている。	統計的知識や分析方法について十分なスキルを身につけている。
言語力	分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけていない。	ある程度、分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけている。	おおむね分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけている。	分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が十分身につけている。
思考・解決力	適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身につけていない。	ある程度、適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身につけている。	おおむね適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身につけている。	適切な統計的手法を使用して分析を行う十分な力が身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけている。	学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 統計的検定の考え方の復習
- 第 2 回 記述統計の算出
- 第 3 回 相関係数の概要と解説
- 第 4 回 相関係数算出と結果の記述
- 第 5 回 t 検定の概要と解説
- 第 6 回 t 検定の実行と結果の記述
- 第 7 回 分散分析の概要と解説
- 第 8 回 1 要因分散分析（被験者間要因）の実行と結果の記述
- 第 9 回 1 要因分散分析（被験者内要因）の実行と結果の記述
- 第 10 回 2 要因分散分析の実行と結果の記述 1（2 要因被験者間）
- 第 11 回 2 要因分散分析の実行と結果の記述 2（2 要因被験者内）

第 12 回 2 要因分散分析の実行と結果の記述 3（2 要因混合計画）

第 13 回 多変量解析の概要と解説、因子分析の概要の解説

第 14 回 因子分析の実行と結果の記述

第 15 回 重回帰分析の概念の解説と実行および結果の記述
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・授業は演習室での実習・演習形式で行う。
- ・統計解析について考え方を理解することと適用方法を具体的に把握するために、各自でコンピュータ操作をしなければならない。時には授業時間以外の時間帯にコンピュータ操作が必要となることがある。
- ・授業中の課題は添削して返却することでフィードバックする。
- ・最終課題は、manabaを通してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「推測統計学Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を常に復習しつつ授業に臨むこと。
各分析ごとの課題は、添削して返却するので、添削された内容をよく読み直しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

各分析ごとの課題提出（各分析法の解説の後、その分析プログラムを実行し、得られた結果をもとに文章化する）（50%）と最終課題の内容（30%）および授業参加度（20%）により評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

演習室にて対面授業で実施する。受講者の進捗状況によって、授業内容が入れ替わることがあったり、時間的制約のためにある種のプログラムの実行が省略されることがなくはないが、予定している項目は上記（授業計画）の通りである

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学統計法Ⅰ（20以前） 2021年度以降入学者

PSB1402NOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 1年次
 2単位 前期
 木曜4限
 DP4：思考・解決力
 60
 必修
 高井 直美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとに実証的データを収集し、統計的分析を行うことが必要となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

そして、この科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

前期に配当されるこの科目では、まず統計的な考え方になじむため、日常的な具体例などで、心理統計の基礎的な考え方の理解を促していく。そして、記述統計に関する重要な基礎知識を具体例を通して理解し、統計的手法を実践的に身に付けていくことを課題とする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	心理統計の基礎が、理解できていない	心理統計の基礎について、最低限の理解ができていない	心理統計の基礎について、十分な理解ができていない	心理統計の基礎についての理解は、申し分ない
思考・解決力	心理統計の基礎的な問題を解くための学習が、不十分である	心理統計の基礎的な問題を解く力がある	心理統計の基礎的な問題を解く力を、十分身につけている	心理統計の基礎的な問題に対して、高度な思考力を持つ

〔授業計画〕

- 第 1 回 心理統計の基礎
心理学と数字（心理統計の基本的な考え方）
- 第 2 回 記述統計と推測統計
心理統計の実際（一般的な統計資料の収集方法）
- 第 3 回 変数の理解
変数と尺度水準
- 第 4 回 データの表し方
データの図表化①（既存統計資料の読み方）
- 第 5 回 図表の作り方

データの図表化②（ヒストグラムと棒グラフの作成）

- 第 6 回 様々な代表値
データの代表値（平均、中央値、最頻値など）
- 第 7 回 データの散布度について
データの散らばり（分散と標準偏差）
- 第 8 回 論文データの読み方など
既存統計資料における標準偏差の読み方
- 第 9 回 標準化とは？
データの標準化（z得点と偏差値）
- 第 10 回 2つの変数の関係について
散布図と共分散
- 第 11 回 散布図からわかること
既存統計資料の散布図の読み方
- 第 12 回 相関について
相関係数が示す相関関係
- 第 13 回 連関の考え方
クロス集計とφ係数（連関）
- 第 14 回 まとめのテスト
理解度を測るテスト
- 第 15 回 テストの解説など
因果関係と相関関係の違い 14回目に行ったテストの返却と解説を行い、自分の理解度について振り返るように促す。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義と各自で行うプリント教材等によるワークを組み合わせ、授業を進めていく。復習のための課題も適宜出していく。15回目に、テストの返却と解説を行い、自分の理解度について振り返るように促す。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

新聞、雑誌、TV、インターネットなどのメディアで公表された各種統計データに日頃から関心をもっておいてもらいたい。また図表を作成したり、熟練された表計算をするためには、情報関係の授業や休み時間を利用して、Excelの使用になじんでおくことも重要となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

原則として、授業期間中に行うまとめのテストによって評価するが、毎回の課題の提出状況についても評価の参考にする。

〔留意事項（Other Information）〕

受講生の理解度を見ながら進めていくので、授業予定で示した順番や内容が、多少変わることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史、村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売予定なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学統計法Ⅱ (20以前) 2021年度以降入学者

PSB1452NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

必修

高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとに実証的データを収集し、統計的分析を行うことが必要となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

そして、この科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

後期に配当されているこの科目では、記述統計学と推測統計学を区別し、統計的仮説検定の基本的な考え方について学び、基本的な検定の初歩的な方法を身に付けることを課題とする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	統計的仮説検定の基礎が、まったく理解できていない	記述統計と推測統計の違いを理解している	推測統計の基礎的な知識を身に付けている	推測統計の基礎的な知識を十分身に付けている
思考・解決力	統計的仮説検定の基礎的な問題が、まったく解決できない	統計的仮説検定の基礎的な問題を解く力をつける	統計的仮説検定の基礎的な問題を解く力が十分ある	統計的仮説検定の基礎的な問題を解く力は、大変優れている

〔授業計画〕

第 1 回 心理統計の分類

記述統計と推測統計

第 2 回 推測統計の基礎
母集団と標本

第 3 回 正規分布
正規分布とは

第 4 回 正規分布の標準化
標準正規分布表

第 5 回 標本分布と標準誤差
標本分布

第 6 回 不偏性について
標本分散と不偏分散

第 7 回 統計的仮説検定の基礎
「統計的仮説検定」の考え方

第 8 回 帰無仮説と対立仮説
「統計的仮説検定」の実例から

第 9 回 検定結果の報告
有意水準とは

第 10 回 2種類の検定方法
両側検定と片側検定

第 11 回 統計における2種類の誤り
「基礎的な統計的仮説検定」の実例

第 12 回 標準正規分布を用いた検定
「基礎的な統計的仮説検定」の練習問題

第 13 回 カイ2乗検定
「基礎的な統計的仮説検定」の応用問題

第 14 回 まとめのテスト
理解度を測るまとめのテスト

第 15 回 テストのフィードバックと復習
まとめ 14回目に行ったテストの返却と解説を行い、自分の理解度について振り返るように促す。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

心理統計法Ⅰと同様に、講義と各自で行うプリント教材等によるワークを組み合わせて、授業を進めていく。復習のための課題も適宜出していく。15回目に、テストの返却と解説を行い、自分の理解度について振り返るように促す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理統計法Ⅰで学んだことをテキストおよびプリント教材で復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則として、授業期間中に行うまとめのテストによって評価するが、毎回の課題の提出状況についても評価の参考にする。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の内容や順番は変わることもある。

プリント教材は、manabaを利用した小テストに変えることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史、村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売予定なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

推測統計学 I A 2021年度以降入学者

PSB2402AOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

金曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

社会・ビジネス心理コース必修 クラス指定

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる（できている）者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立っていることを理解していくこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	統計的検定の基礎的な知識が身についていない	ある程度、統計的検定の基礎的な知識が身についている	おおむね統計的検定の基礎的な知識が身についている	統計的検定の基礎的な知識が十分身についている

言語力	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身についている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	おおむね学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 記述統計の復習① (代表値)
- 第 3 回 記述統計の復習② (散布度)
- 第 4 回 統計的検定の考え方① (統計的検定とは何か)
- 第 5 回 統計的検定の考え方② (標本と母集団, 標本抽出)
- 第 6 回 統計的検定の考え方③ (統計的検定・帰無仮説)
- 第 7 回 統計的検定の考え方④ (有意水準, 検定結果の報告)
- 第 8 回 統計的検定の考え方⑤ (統計的検定における 2 種類の誤り)
- 第 9 回 統計的検定の考え方⑥ (両側検定・片側検定)
- 第 10 回 χ^2 検定① (χ^2 検定の前提条件)
- 第 11 回 χ^2 検定② (χ^2 検定: 一標本の検定)
- 第 12 回 χ^2 検定③ (χ^2 検定: 2×2 分割表の検定)
- 第 13 回 χ^2 検定④ (χ^2 検定: $m \times n$ 分割表の検定)
- 第 14 回 χ^2 検定⑤ (χ^2 検定: イェーツの修正)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

課題やテストに関しては、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

持込みなしの筆記テスト (90%)、小テスト・授業参加度 (10%) を併せて総合的に評価を行う。

テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。必要に応じて遠隔授業を実施する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初歩の心理教育統計法』/住田幸次郎/ミネルヴァ書房/1988/
『よくわかる心理統計』/山田剛史・村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

推測統計学ⅠB 2021年度以降入学者

PSB2402B0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 前期

火曜1限

DP4: 思考・解決力

60

社会・ビジネス心理コース必修 クラス指定

江 聚名

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる (できている) 者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立っていることを理解していくこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	統計的検定の基礎的な知識が身についていない	ある程度、統計的検定の基礎的な知識が身についている	おおむね統計的検定の基礎的な知識が身についている	統計的検定の基礎的な知識が十分身についている
言語力	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身についている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身についている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身についている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	おおむね学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身についている	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 記述統計の復習① (代表値)
- 第 3 回 記述統計の復習② (散布度)
- 第 4 回 統計的検定の考え方① (統計的検定とは何か)
- 第 5 回 統計的検定の考え方② (標本と母集団, 標本抽出)
- 第 6 回 統計的検定の考え方③ (統計的検定・帰無仮説)
- 第 7 回 統計的検定の考え方④ (有意水準, 検定結果の報告)
- 第 8 回 統計的検定の考え方⑤ (統計的検定における 2 種類の誤り)
- 第 9 回 統計的検定の考え方⑥ (両側検定・片側検定)
- 第 10 回 χ^2 検定① (χ^2 検定の前提条件)
- 第 11 回 χ^2 検定② (χ^2 検定: 一標本の検定)
- 第 12 回 χ^2 検定③ (χ^2 検定: 2×2 分割表の検定)
- 第 13 回 χ^2 検定④ (χ^2 検定: $m \times n$ 分割表の検定)
- 第 14 回 χ^2 検定⑤ (χ^2 検定: イェーツの修正)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1 年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

持込みなしの筆記テスト (90%)、小テスト・授業参加度 (10%) を併せて総合的に評価を行う。

テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。日常生活の中で、つねに実験条件等を考え、実際にデータを取ったりして、統計の手法を具体的に学習するようにしてほしい。特にExcelの操作方法は、自己学習をしながら向上させていくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史・村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売をしない予定

クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初歩の心理教育統計法』/住田幸次郎/ミネルヴァ書房/1988/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

推測統計学 II A 2021年度以降入学者

PSB2450A0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP4: 思考・解決力

60

社会・ビジネス心理コース必修 クラス指定

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

簡単に電卓やコンピュータプログラムで統計的検定が機械的におこなうことが可能な時代になってきているが、その意味を理解できる (できている) 者はあまりみられないのが実情である。

本講義ではやさしい言葉と豊富な実例を提示することによって、授業をすすめたい。なお、1年次の「心理統計法」を十分理解した上で、この科目と取り組んで頂きたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 統計的検定の意味をよく理解すること。
2. 統計的検定で何がわかり、何がわからないかを頭に入れておくこと。誤用に特に注意すること。
3. 根本的には確率的な考え方から成立っていることを理解していくこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的な学習態度が身についている	おおむね自律的な学習態度が身についている	自律的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	統計的検定の基礎的な知識が身についていない	ある程度、統計的検定の基礎的な知識が身についている	おおむね統計的検定の基礎的な知識が身についている	統計的検定の基礎的な知識が十分身についている
言語力	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身についている	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が

	身につけていない	身につけている	身につけている	十分身につけている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身につけている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけている	おおむね学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけている	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が十分身につけている

〔授業計画〕

- 第 1 回 推測統計学 I の復習
- 第 2 回 相関係数①（ピアソンの相関係数）
- 第 3 回 相関係数②（順位相関係数）
- 第 4 回 相関係数③（偏相関）
- 第 5 回 t 検定①（独立 2 平均の t 検定）
- 第 6 回 t 検定②（連関する 2 平均の t 検定）
- 第 7 回 分散分析とは
- 第 8 回 一要因分散分析①（被験者間要因）
- 第 9 回 一要因分散分析②（被験者内要因）
- 第 10 回 二要因分散分析①（被験者間要因）
- 第 11 回 二要因分散分析②（被験者内要因）
- 第 12 回 二要因分散分析③（混合計画）
- 第 13 回 二要因分散分析④（交互作用）
- 第 14 回 二要因分散分析⑤（多重比較）
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は演習室において、講義と演習を並行して行う予定である。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1 年次の必修科目である「心理統計法」を復習しつつ授業に出ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

持込みなしの筆記テスト（90%）、小テスト・授業参加度（10%）を併せて総合的に評価を行う。

テストについては、テスト終了後に解説を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

進行状況によって、授業内容に変更が生じることがある。

必要に応じて遠隔授業を実施する場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN〕

『初歩の心理教育統計法』/住田幸次郎/ナカニシヤ/1988/
『よくわかる心理統計』/山田剛史・村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

推測統計学 II B 2021年度以降入学者

PSB2450B0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次

2単位 後期

火曜1限

DP4：思考・解決力

60

社会・ビジネス心理コース必修 クラス指定

山下 雅俊

〔科目の教育目標（Course Description）〕

○本講義では、1年次の「心理学統計法」で習得した内容を踏まえ、基礎的実践的な統計手法についての講義を行う。

○表計算ソフトExcelおよび統計ソフトSPSSを使用した模擬データの分析実習を行う。

○「思考・解決力」の育成に重きを置く本講義では、学生が苦手意識を持つことなく安心して統計知識を修学できるように優しく努める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

○本講義を通じて、心理学で使用する統計手法の理解や基礎的実践的な知識を獲得すること。

○卒業論文・演習などに必要な統計手法について、本講義を通じて実際に使用できるようになること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身につけていない	ある程度、自律的な学習態度が身につけている	おおむね自律的な学習態度が身につけている	自律的な学習態度が十分身につけている
知識・理解力	統計的検定の基礎的な知識が身につけていない	ある程度、統計的検定の基礎的な知識が身につけている	おおむね統計的検定の基礎的な知識が身につけている	統計的検定の基礎的な知識が十分身につけている

言語力	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身につけていない	ある程度、統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身につけている	おおむね統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が身につけている	統計的検定の意味や検定結果について、自分の言葉で言語化する力が十分身につけている
思考・解決力	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけていない	ある程度、授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけている	おおむね授業で提示された課題について考え、問題解決する力が身につけている	授業で提示された課題について考え、問題解決する力が十分身につけている
共生・協働する力	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけていない	ある程度、他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけている	おおむね他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が身につけている	他者と協働して課題に取り組み、互いに学び合う意欲が十分身につけている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけている	おおむね学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が身につけている	学習したことを他者に説明したり、他の場で応用したりできる力が十分身につけている

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・心理学統計法の復習
○授業進行について説明する。
○心理学統計法で習得した内容について、簡単に振り返る。
→有意水準、図表作成などの実習を行う。
- 第 2 回 相関分析 (1) 2つの変数の関係
○相関関係とは何か、相関係数の数値とその判断基準について解説する。
○2つの相関係数（ピアソンの積率相関係数とスピアマンの順位相関係数）の使い分けについて解説する。
→模擬データを使用して散布図の作成とその解釈についての実習を行う。
- 第 3 回 相関分析 (2) 実習
○模擬データを使用してSPSSによる相関分析の実習を行う。
→ピアソンの積率相関係数とスピアマンの順位相関係数を扱う。
→図表の作成、結果の記述について扱う。
- 第 4 回 相関分析 (3) 偏相関係数・実習

- 疑似相関の危険性について解説する。
→模擬データを使用してSPSSによる偏相関分析（ピアソンとスピアマン）の実習を行う。
- 第 5 回 t検定 (1) 対応のないt検定・実習
○対応のないデータとは何か、仮説の設定、分散の等質性の問題について解説する。
→模擬データを使用して図表作成、SPSSによる分析、結果の記述についての実習を行う。
- 第 6 回 t検定 (2) 対応のあるt検定・実習
○対応のあるデータとは何かについて解説する。
→模擬データを使用してSPSSによる分析、結果の記述についての実習を行う。
- 第 7 回 分散分析 (1) 1要因参加者間計画・実習
○分散分析とは何かについて解説する。
→模擬データを使用して図表の作成、SPSSによる分析、結果の記述についての実習を行う。
- 第 8 回 分散分析 (2) 多重比較・実験計画
○多重比較法と実験計画（要因と水準、参加者間計画と参加者内計画）、データの性質（正規性、球形性）について解説する。
- 第 9 回 分散分析 (3) 1要因参加者内計画・実習
○第7回「分散分析 (1) 1要因参加者間計画・実習」と第8回「分散分析 (2) 多重比較・実験計画」時に解説した内容の復習を行う。
○模擬データを使用して図表の作成、SPSSによる分析、結果の記述についての実習を行う。
- 第 10 回 分散分析 (4) 2要因参加者間計画・実習
○2要因参加者間計画の性質について解説する。
→模擬データを使用してSPSSによる分析、結果の記述についての実習を行う。
- 第 11 回 分散分析 (5) 2要因参加者内計画・実習
○2要因参加者内計画の性質について解説する。
→模擬データを使用してSPSSによる分析、結果の記述についての実習を行う。
- 第 12 回 分散分析 (6) 2要因混合計画・実習
○2要因混合計画の性質について解説する。
→模擬データを使用してSPSSによる分析、結果の記述についての実習を行う。
- 第 13 回 分散分析 (7) 交互作用の理解
○第10回から第12回までの2要因計画についての復習を行う。
○交互作用と主効果に関する理解をより深める。
- 第 14 回 SPSSを使用した解析の復習・記述方法の確認
○レポート試験に向けて、これまでの解析と図表作成、結果の記述についての復習を行う。
- 第 15 回 まとめ
○レポート試験を行う。なお試験終了後に解説を行う。
→SPSS解析・図表作成・結果の記述をレポートにまとめ、その完成度について評価する。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
○実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

○授業は演習室において進め、各授業計画に関連したデータ解析実習を表計算ソフトExcelや統計ソフトSPSSで適宜行う。

○習熟度や解析実習の到達度を確認するために、不定期で授業終了前に20分程度の時間を取り小テストを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

○本講義は1年次の「心理学統計法」を履修している前提で講義を行うため、履修前には心理学統計法の内容を十分に理解しておくこと。

○心理学統計法の復習の他、各授業計画に該当したトピックについて下記のテキストや参考文献を予め熟読しておくことが望ましい。なお、これらのテキストは購入が必須でないため、その代わりとして講義ノートや授業レジュメの整理と復習は重要である。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

○30時間

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

○成績評価は、第15回「まとめ」時に実施するSPSS解析・図表作成・結果の記述などをまとめたレポート試験 (60%)と、小テスト・出席状況・データ解析実習の参加を含む平常点 (40%) で評価する。

○試験について、試験終了後に解説を行う。

【留意事項 (Other Information)】

○授業計画の順序や配分、内容を一部変更することがある。
○ExcelやWordの操作について特に、図表作成は自己学習することが重要である。

○その他、何らかの変更が生じる場合は適宜アナウンスする。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

○よくわかる心理統計/山田 剛史・村井 潤一郎/ミネルヴァ書房/2004年/ISBN978-4-623-03999-9

※学内販売をしない予定。クラスによって、使用テキスト・教材が異なる場合があるため注意すること。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

○医療統計解析 使いこなし実践ガイド/対馬 栄輝 (編)/羊土社/2020年/ISBN978-4-7581-0248-3

○心理学実験マニュアル/若島 孔文・都築 誉史・松井 博史/北樹出版/2005年/ISBN4-7793-0001-0

○心理学のためのデータ解析テクニカルブック/森 敏昭・吉田 寿夫/北大路書房/1990年/ISBN4-7628-0131-3

○統計学の基礎から学ぶ Excelデータ分析の全知識/三好 大悟/インプレス/2021年/ISBN978-4-295-01108-8

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

生活環境の心理学 2021年度以降入学者

PSA2202N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 前期

金曜3限

DP2: 知識・理解力

60

廣瀬 直哉

【科目の教育目標 (Course Description)】

人間の行動は、すべて人間の内的過程（脳における情報処理など）によって規定されるわけではなく、外部の様々な要因による影響を受ける。本科目では、私たちが生活している環境が私たちの行動にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目指す。具体的には、環境心理学・生態心理学の観点から、環境における知覚・認知・行為などについて研究を紹介し、人間と環境の関わりについて考察する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 環境の知覚・認知についての理解
2. 自然・都市環境の心理的影響についての理解
3. ギブソンの生態学的視覚論についての理解
4. 環境のアフォーダンスについての理解

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	環境・生態心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができない。	環境・生態心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

【授業計画】

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 環境心理学とは
- 第 3 回 環境の認知
- 第 4 回 環境の評価
- 第 5 回 自然環境における行動
- 第 6 回 都市環境における行動
- 第 7 回 物理的痕跡
- 第 8 回 対人環境
- 第 9 回 学校・教室環境
- 第 10 回 環境ストレス
- 第 11 回 アフォーダンスの知覚
- 第 12 回 デザインとアフォーダンス
- 第 13 回 環境行動の観察
- 第 14 回 身体と環境の関係
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

PowerPointや映像資料を使った講義形式とグループワークや演習などを組み合わせて行う。テキストは使用せず、必要な授業資料等はmanabaから入手する。また、課題の提出やそれに対するフィードバックもmanabaから行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業資料を読んでおく。出された課題をmanabaから提出する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期テストは行わず、課題提出(100%)に基づき評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。状況によっては、授業の一部または全部をオンラインで行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新版 アフォーダンス』/佐々木正人/岩波書店/2015/4000296345

『環境心理学—人間と環境の調和のために』/羽生和紀/サイエンス社/2008/4781911943

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

精神科リハビリテーション学 I

SWR3201N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 前期

火曜4限

DP2: 知識・理解力

60

勇川 昌史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 精神保健福祉を取り巻く状況の変化に対応し、関連する歴史や制度を体系的に理解する

2. 精神保健福祉士が拠り所にする理念を理解し、実践へ向けた基礎を築く

3. 精神保健福祉の向上を目的に、社会的な課題を発見し社会との接点に介入する力を養う

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方を理解する

2. 精神科リハビリテーションの構成と精神保健福祉士の役割について理解する

3. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術の活用方法について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	精神障害に対する理解が浅く、教えられたこと以上は考えようとしていない。	精神障害に対する理解が自身の生活と結びつけることができる。	理解を深めるため、自身で様々な情報にアクセスし、新たな知見を身につけることができる。	精神障害を自分事として捉え、様々な機会を活かし、解決しよう指向する。
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない。	先行研究や他者の意見を基に、精神障害について考えようとする。	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする。	レベル3に加えて、新たに得た学びや理解を深める機会を自ら求めることができる。
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 精神障害とは—精神疾患と障害の理解

第 2 回 精神障害者に対する支援の基本的な考え方

第 3 回 諸外国の精神保健医療福祉の歴史と動向

第 4 回 日本の精神保健医療福祉の歴史と動向

第 5 回 精神科リハビリテーションとは—その理念、意義

第 6 回 精神科リハビリテーションとは—構成と展開

第 7 回 日本における精神科リハビリテーションの現状—諸外国との比較

第 8 回 精神科リハビリテーションのプロセス—回復と支援プロセス

第 9 回 精神科リハビリテーションのプロセス—ライフサイクルと支援プロセス

第 10 回 精神保健福祉士の役割

第 11 回 医療的リハビリテーション—専門療法

第 12 回 医療的リハビリテーション—家族教育プログラム・デイケア

第 13 回 医療的リハビリテーション—アウトリーチ・チーム医療

第 14 回 精神障害者支援の実践モデル

第 15 回 試験とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本はテキストに沿った事業を展開するが、現在の精神保健福祉を取り巻く状況をおさえ、精神保健福祉士として現場で使える知識を獲得する。国家試験受験への意欲向上と実力養成を図る。講義、視聴覚教材、プリントなど。講義時にその日の質問、感想、意見を記述したペーパーを提出する。最終講義日に試験を実施し、その場で答え合わせを実施し、解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

能動的な学習態度で履修して下さい。

まずは様々なことに疑問を持ち、自ら調べ、文献を読み、質問をすること等で、知識を深めていって下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 (70%)、授業参加 (30%)。出席回数3分の2に満たない者は評価の対象とならない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業中の迷惑行為に関しては大きく評価を減点する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新精神保健福祉士養成講座 (4) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』//中央法規///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり 現在精神保健福祉士として障害福祉サービス事業所での就労支援業務、相談支援業務、また社会福祉法人の理事長として施設運営を行う。

卒業研究

PSS4600AOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる

2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる

3. 研究結果を適切に考察することができる

4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む

2. 関連文献を精読する

3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する

4. 得られたデータを適切に分析する

5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する

6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。
方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的な問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観)	非論理的、主観的である	概ね論理的、客観的	論理的、客観的に記載	非常に論理的、客観的

的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。	り、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的に出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600BOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を行い、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程	テーマに関する知識が認められ、独創性や有	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有

論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。	性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。
方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。

成果発表（研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が全度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600C0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6 : 創造・発信力
 中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

問題・目的 (独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。
方法 (研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的な問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果 (研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察 (論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。

成果発表 (研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的出来る。

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
- 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
- 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600DOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

- 研究テーマの妥当性について説明できる
- 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
- 研究結果を適切に考察することができる
- 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 卒業研究に熱意をもって取り組む
- 関連文献を精読する
- 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
- 得られたデータを適切に分析する
- 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
- 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

生じていないか。)				
方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者に一定程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	---	---

[授業計画]

各担当教員から個別に指示する。

[定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート]

口頭発表またはポスター発表を行う。

[教育・学習の方法(Course Methods)]

ゼミ別に個別指導を行う。

[準備学習の具体的な方法(Class Preparation)]

授業時間以外の学習活動が重要である。

[準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours (Total))]

120

[評価方法・評価基準(Evaluation)]

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

[留意事項(Other Information)]

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

[テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

卒業研究

PSS4600E0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的な問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る程度回答されている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
---------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600FOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	---	---

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600G0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的な問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る程度回答されている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
---------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600H0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	---	---

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600IOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 廣瀬 直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る程度回答されている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
---------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600J0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

松島 るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	---	---

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600K0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 三好 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る程度回答されている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
---------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600LOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	---	---

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業研究

PSS4600MOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学演習で学習した内容を踏まえ、4年間の学習の集大成として、卒業研究の作成に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 研究成果を他者に効果的に発信することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 卒業研究に熱意をもって取り組む
2. 関連文献を精読する
3. 計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する
4. 得られたデータを適切に分析する
5. 研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する
6. 研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る程度回答されている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来る。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
---------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各担当教員から個別に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭発表またはポスター発表を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習活動が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601A0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（口頭試問では、質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究が遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究が遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究が遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究が遂行出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的に出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	--	---

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601B0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 尾崎 仁美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(口頭試問では、質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答が出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
--------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601C0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（口頭試問では、質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的に出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	--	---

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601D0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 薦田 未央

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(口頭試問では、質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答が出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
--------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
- 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
- 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
- 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601E0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

- 研究テーマの妥当性について説明できる
- 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
- 研究結果を適切に考察することができる
- 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

- 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
- 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
- 倫理的問題に適切に対処することができる。
- 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
- 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
- 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（口頭試問では、質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	---	---

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601F0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 空間 美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(口頭試問では、質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答が出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
---------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
- 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
- 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
- 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601G0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

- 研究テーマの妥当性について説明できる
- 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
- 研究結果を適切に考察することができる
- 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

- 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
- 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
- 倫理的問題に適切に対処することができる。
- 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
- 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
- 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（口頭試問では、質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的に出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	--	---

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601IOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 廣瀬 直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(口頭試問では、質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
--------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601J0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（口頭試問では、質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的に出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	--	---

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601K0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 三好 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(口頭試問では、質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
---------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601LOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式(表紙、本文、要約、引用文献など)にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（口頭試問では、質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。

研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的に出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。
--	---	---	--	---

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

120

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601MOJ
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 村松 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。

方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(口頭試問では、質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対して適切な回答が出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答が出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論を)	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢であ	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導

して研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	る。指導教員と議論が出来ない。	程度は出来る。	も積極的に出来る。	教員との議論も非常に積極的に出来る。
---------------------------------------	-----------------	---------	-----------	--------------------

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。
2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。
2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。
3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

対人関係論 2021年度以降入学者

PSA2500N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 前期

月曜 4限

DP5: 共生・協働する力

60

定員150人

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、対人関係、特に自己と他者との二者関係において生じる諸事象を、社会心理学の立場から論じる。

友人関係や恋愛関係をはじめとする対人関係の形成、維持・進展、崩壊の過程、他者との関係を築くうえで基礎となる自己認知のしくみ、対人関係と対人行動などについて学ぶ。具体的な研究例とそこから見出された知見を解説することを通して、二者関係における対人行動のメカニズムを理解することを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズムを理解する。
2. 対人関係の形成過程、維持と進展の過程、および葛藤と崩壊のメカニズムを理解する。
3. 自己に対する認知と評価のあり方について考える。
4. 対人関係における自己表現について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	対人関係に関する知識や方法に関する知識が身についていない。	ある程度、対人関係に関する知識や方法に関する知識を身につけている。	おおむね対人関係に関する知識や研究方法に関する知識を身につけている。	対人関係に関する知識や研究方法に関する知識を十分身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が十分身についている。

思考・解決力	対人関係における諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が身につけていない。	ある程度、対人関係における諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が身につけている。	おおむね対人関係における諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が身につけている。	対人関係における諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が十分身につけている。
共生・協働する力	対人関係の知識にもとづき、自己をどの様に表現し、様々な他者と関わるのか考えようとする力が身につけていない。	ある程度、対人関係の知識にもとづき、自己をどの様に表現し、様々な他者と関わるのか考えようとする力が身につけていない。	おおむね対人関係の知識にもとづき、自己をどの様に表現し、様々な他者と関わるのか考えようとする力が身につけていない。	対人関係の知識にもとづき、自己をどの様に表現し、様々な他者と関わるのか考えようとする力が十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを、他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を身につけている。	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 対人関係と人間関係
- 第 2 回 対人認知 (1) 印象形成
- 第 3 回 対人認知 (2) 対人情報処理
- 第 4 回 対人魅力
- 第 5 回 対人的コミュニケーション
- 第 6 回 対人関係の形成 (1) 友人関係
- 第 7 回 対人関係の形成 (2) 恋愛関係
- 第 8 回 対人関係の維持
- 第 9 回 対人関係の崩壊
- 第 10 回 対人関係における自己 (1) 自己とは、自己概念
- 第 11 回 対人関係における自己 (2) 自己評価
- 第 12 回 対人関係における自己 (3) 自己開示、自己呈示
- 第 13 回 対人関係における自己 (4) 自己意識、対人不安
- 第 14 回 対人ストレス
- 第 15 回 まとめと振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義形式で進める。
- ・毎回授業中にresponにより意見を聞き取り、受講生で共有する。

- ・毎回授業後に授業内容のコメントを求める。
- ・講義内容をただ覚えるだけではなく、自分の身のまわりから実例を探したり、これまで自身が対人関係で経験してきたことと関連づけるなど、受け身的ではなく、積極的に講義に臨むことを期待したい。
- ・課題 (テスト) については、授業内に解説を行うことでフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、次回の授業で行うキーワードを提示するので、予め自分なりの考えをまとめた上で授業に臨むこと。その際、本やインターネットの丸写し等、機械的な予習にならないように注意すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業期間中の 2 回の小テスト (70%)、毎回の予習・振り返り・小テスト (30%) により総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

知覚・認知心理学 2021年度以降入学者

PSA2205N1J

大学

現代人間学部 > 心理学科

2年次 3年次

2単位 集中

その他

DP2: 知識・理解力

60

森下 正修

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「知覚」「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味します。人が日常でおこなう様々な活動が、認知心理学の研究対象に含まれます。

外界の情報を見たり聞いたりすること。顔や表情を認識すること。心の中に物体のイメージや、ある空間の地図を思い浮かべること。何かに注意を向けたり記憶したりすること。推理をしたり判断をしたりすること。それらに対して生まれる感情と関連付けて把握すること。

学生は、こうした人の認知に関する基礎的な理論を身につけるとともに、自分の日常生活の中のさまざまな行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようになります。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 上記のような人の知覚・認知に関わる心理学理論を理解すること
2. 知覚・認知的な実験課題やデモに触れ、理

論に対する具体的なイメージをもつこと 3. 日常の行動と、知覚・認知心理学的な説明を対応づけること 4. 脳研究や症例研究をもとに、人の知覚・認知の機序と障害について理解すること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、イントロダクション
本講義の進め方、評価方法と、知覚・認知とは何かについて説明します
- 第 2 回 感覚、知覚の一般的特性
閾や順応、経験・先天的障害の影響など、感覚・知覚一般にみられる特性について説明します
- 第 3 回 明るさの知覚、形の知覚①
知覚における明暗の知覚と、形の知覚の基礎について説明します
- 第 4 回 形の知覚②
錯覚などをまじえて、形の知覚の不思議な特性を取り上げます
- 第 5 回 奥行きの知覚
三次元世界を見るための奥行きの手がかりについて説明します
- 第 6 回 運動の知覚
動きのある世界を見るための知覚の特徴について説明します
- 第 7 回 色の知覚
カラーの世界を見るための知覚の仕組みについて説明します。
- 第 8 回 顔、物体の知覚
人の顔やそれ以外の物体の知覚処理の特徴について説明します
- 第 9 回 注意① 選択的注意
外界を見聞きするときに重要な役割を果たす「注意」について、その機能と障害について説明します
- 第 10 回 注意② 注意資源、アクションスリップ
人が行動する際に必要となる心的資源としての「注意」と、それに関連する行動のし間違いについて説明します

第 11 回 記憶① 記憶の意味、3つの記憶
記憶があることの意味と、記憶の分類および特徴について、記憶の障害と関連させて説明します

第 12 回 記憶② 日常記憶
日常生活に密接に関わる記憶についての研究を取り上げます

第 13 回 問題解決、推論
さまざまな問題について解決を探ったり、今ある情報をもとに推論をはたらかせたりする心の機能を解説します

第 14 回 認知地図
われわれが心の中に形成する地図の特性について説明します

第 15 回 認知と感情
認知が感情に与える影響と、感情が認知に与える影響について説明します

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

集中講義の最終日、第15回の講義の後で実施します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・授業の実施方法：独自に作成したプリントを配布し、PowerPointによるスライドで講義を進めます。予習として、上記の知覚・認知活動が日常のどのような行動に当てはまるかを事前に考えてもらいます。

・試験に対するフィードバック：試験終了後に解説を配布しますので、参考にしてください

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

参考文献に挙げた認知心理学の概論書を読んだり、人の心・行動に関する科学ニュースをチェックしたりしておく、講義が理解しやすくなると思います。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) と最終テスト (70%) により総合的に評価します。

授業参加度は、講義中に出されるさまざまな質問に対し回答用紙に記入された内容をもとに判断します。

最終テストは、授業で配布した資料のみ持ち込み可で記述式の問題に答えてもらいます。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『感覚知覚心理学』/菊池正/朝倉書店/2008/9784254526660

『知覚と感性の心理学』/三浦佳世/岩波書店/2007/9784000281119

『対話で学ぶ認知心理学』/塩見邦雄/ナカニシヤ出版/2006/9784888488762

『日常認知の心理学』/井上毅・佐藤浩一/北大路書房/2002/9784762822426

『認知心理学』/箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋/有斐閣/2010/9784641053748

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

認知行動療法概論

PSA3550NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 後期

木曜 2限

DP5: 共生・協働する力

60

空間 美智子

【科目の教育目標 (Course Description)】

本科目では、まず、認知行動療法の基礎的な理論と技法について学んだ上で、それらが保健・医療、教育、福祉、司法・犯罪等の臨床現場において、どのように活かされるのかについて学ぶ。臨床現場における事例を考察することに加え、受講生自身の身の周りの事象に対して、認知行動療法に基づく介入を体験することにより、認知行動療法の理論と技法、および、今後の課題について理解を深める。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- (1) 認知行動療法の基礎的な理論、特に、行動の諸法則が、実際の臨床活動にどのように活かされているのか理解する。
- (2) 認知行動療法の基本的技法を理解し、具体例を示して説明できる。
- (3) 日常場面での諸事象に対し、機能的アセスメントに基づく介入計画を立て、行動の変化を測定した上で、介入の効果および今後の課題について説明できる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
認知行動療法の基礎的な理論の理解	基本的な専門用語について正確に説明できない。	専門用語の説明はできるが、日常場面での具体例として正確に説明できない。	専門用語を用いて日常場面での具体例を正確に説明できる。	複数の異なる理論の立場から、専門用語を用いて日常場面での具体例を正確に説明した上で、課題を明確に提示できる。
機能的アセスメントの理解	機能的アセスメントについて正確に説明できない。	日常場面での具体例や事例を通して、機能的アセスメントについて正確に説明できる。	日常場面での具体例や事例について、機能的アセスメントを正確に実践できる。	複数の事例をもとに、機能的アセスメントの適用における課題を明確に説明できる。

認知行動療法の技法の実践	認知行動療法の技法を実践できない。	認知行動療法を自分自身に対して実践し、その課題を明確に説明できる。	認知行動療法の技法を他者に対して実践し、その課題を明確に説明できる。	複数の事例に対し、適切な認知行動療法の具体的な技法について、根拠を示して説明できる。
--------------	-------------------	-----------------------------------	------------------------------------	--

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 認知行動療法とは
- 第 3 回 認知行動療法の理論 (レスポデント条件づけの原理とその応用)
- 第 4 回 認知行動療法の理論 (オペラント条件づけの原理とその応用)
- 第 5 回 認知行動療法の理論 (応用行動分析の基本的技法)
- 第 6 回 認知行動療法の理論 (社会的学習理論)
- 第 7 回 認知行動療法の理論 (認知療法の理論)
- 第 8 回 認知行動療法の技法と実際 (保健・医療領域における認知行動療法)
- 第 9 回 認知行動療法の技法と実際 (教育領域における認知行動療法)
- 第 10 回 認知行動療法の技法と実際 (福祉領域における認知行動療法)
- 第 11 回 認知行動療法の技法と実際 (司法・犯罪領域における認知行動療法)
- 第 12 回 実習・グループ活動①: 機能的アセスメント
- 第 13 回 実習・グループ活動②: 介入の実施と効果の査定
- 第 14 回 認知行動療法の新しい展開
- 第 15 回 まとめと振り返り

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

基本的には講義形式で進めるが、短時間の実習やグループでの議論を行うこともある。小テストやレポートはmanabaを通じて全体にフィードバックを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

オリエンテーションで指示する。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

20

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

小テスト (20%)、講義末試験 (50%)、および、授業への参加度 (授業内での質疑応答、manabaへの課題の提出と内容) (30%) で評価する。

【留意事項 (Other Information)】

講義内で扱う内容についての理解を深めるため、短時間の実習やグループでの議論を行う予定である。受講生はこれらに積極的に参加してほしい。また、自分自身が臨床活動を行う際の課題について考えながら受講してほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

福祉心理学

PSA3300N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

2単位 前期集中

その他

DP3: 言語力

90

磯部 美也子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

福祉現場における現状、制度、問題と課題を知り、その解決のための社会資源の活用、及び心理職の役割、心理支援の方法について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

福祉対象者を理解する。そして、福祉対象者の心理社会的課題、心理職の役割、支援方法について理解し、説明できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 第 1 章 社会福祉の展開と心理支援
オリエンテーション
社会福祉の理念、制度全体について理解する。社会福祉の歴史と動向、日本における社会福祉の歴史と動向
- 第 2 回 第 2 章 総論：生活を支える心理支援
福祉の対象者の概要について
- 第 3 回 第 3 章 暴力被害者への心理支援
夫婦間暴力 (DV)、子どもの虐待の問題と女性への支援について理解する

- 第 4 回 第 4 章 高齢者への心理支援
高齢者福祉の制度、現状と心理支援について理解する
- 第 5 回 第 5 章 障害・疾病のある人への心理支援
知的障害、身体障害について 特にアセスメントと心理支援、特別支援教育について
- 第 6 回 第 6 章 生活困窮・貧困者への心理支援
近年の生活困窮者の実態について
- 第 7 回 第 7 章 児童虐待への心理支援の実際
児童虐待の実態、被虐待児の心理的問題と児童相談所の機能、児童福祉施設など社会的養護について
- 第 8 回 第 8 章 子どもと親への心理支援の実際
近年の児童がいる家族の課題について 福祉機関における家族支援の事例について
- 第 9 回 第 9 章 認知症高齢者の心理支援の実際
認知症の特徴と心理的問題について 地域包括支援センターの役割と介護の問題について
- 第 10 回 第 10 章 引きこもり・自殺予防の心理支援の実際
ひきこもりの定義と支援について 我が国の自殺者の現状、特に自殺予防における国の施策と心理支援について
- 第 11 回 第 11 章 精神障害者への心理支援の実際
うつ病・統合失調症・不安症等の症状について 精神障害者を支える制度について
- 第 12 回 第 12 章 家族・職員への心理支援の実際
福祉対象者の家族・職員のストレスについて
- 第 13 回 第 13 章 福祉・介護分野での多職種協働 (IPW) と心理職の位置づけ
福祉現場で必要となる職種とその役割について 多職種連携について
- 第 14 回 第 14 章 IPW実践事例報告
実際の事例を通して、現場の課題を考える
- 第 15 回 学習到達度確認
学習到達度チェックのためのテストを実施
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
定期試験にかわるものとして、到達度・理解度を見るためのテストを実施し、その解説もあわせて行う。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
講義が中心。実践がわかるようにDVD教材も用いる。課題の提出とともに質問・疑問を受け、以降の授業に反映させる。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
教科書に沿って、順に進行する予定なので、次回のわりあてである章を予習しておく。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
その週の章を読むとともに、キーワードについて社会福祉用語集、インターネットなどで事前に調べておく。約1時間
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
最終回の学習到達度確認テスト (約70%)、および平常授業における課題の提出 (約30%) で行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

日頃から、社会福祉に関するニュースや新聞記事を読むように

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

福祉心理学中島健一(編)遠見書房2018 9784866160672
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

福祉心理学 太田信夫(監)小畑フ文也(編)北大路書房2017 9784762830051

〔参考URL(URL for Reference)〕

厚生労働省HP<https://www.mhlw.go.jp/index.html> 福祉の制度や統計資料等が記載されているので、予習・復習に使用してほしい。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教員は、児童相談所、児童養護施設、障害児療育機関、DV相談などで心理職としての勤務経験があり、心理アセスメント、心理支援を行ってきた。事例なども紹介するので、福祉心理学領域の実務について理解を深めてほしい。

公認心理師の職責

PSA4203NOJ
大学
現代人間学部 > 心理学科
4年次
2単位 前期
木曜 2限
DP2: 知識・理解力
60
向山 泰代 伊藤 一美 佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、公認心理師の社会における役割や業務内容を理解し、倫理観・使命感といった職責を備えた専門職となるための基本的姿勢を養うことを目標とする。具体的には、公認心理師の役割、法的義務及び倫理、要支援者の安全確保、情報の適切な取扱い、各分野での具体的な業務、それに伴う他職種との連携や地域連携といった内容について学ぶ。また、専門職として、課題発見とその解決能力を身につけることや、生涯学習として自己研鑽しつづけられる基盤を形成することの重要性について理解する。

本科目は、公認心理師養成に必要な学部カリキュラム構成のトップに配置されているが、本学科では「心理実習」と共に4年次に配置することにより、講義で得た知識と支援現場での実践活動との連動を目指す。受講生は、これまでの心理学専門科目での学びを踏まえ、公認心理師としての自身の将来像を見据えて、その職責について十分自覚をもつことが期待される。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 公認心理師の役割について、主要な4つの業務および5つの分野での活動から理解する。
2. 憲法やさまざまな行政法、公認心理師法などの法にそくして、公認心理師の法的義務や倫理、その法的根拠を知る。

3. 要心理支援の安全確保に必要とされる手続き、当事者の権利、留意点などについて学ぶ。

4. 心理支援の過程で知りえた情報の取り扱いや他職種等との情報共有や連携のあり方について理解する。

5. 主要な5つの分野における公認心理師の業務内容を理解し、他専門職との協働について学ぶ。

6. 支援者としての専門性を維持し、高めるための自己課題発見と解決への取組みについて理解する。また、職業倫理の一環としての生涯学習の必要性を学び、養成段階での心得や職業アイデンティティの確立について学ぶ。

7. チーム医療など他職種と連携した心理的支援の重要性や、地域社会と連携した予防やアウトリーチなどの心理的支援の在り方について学ぶ。

8. 社会情勢の変化に関心を向け、公認心理師に対する現代的ニーズを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に取り組もうとしない	課題に取り組む	課題をもとに自らの考えを深める	課題をもとに自らの考えを深め表現する
知識・理解力	準備学習をしない	準備学習をする	積極的に準備学習をする	積極的に準備学習を行い授業の中で発信する
言語力	自分の考えを表現しない	自分の考えを表現する	自分の考えが他者に伝わるように効果的に表現する	自分の考えが他者に伝わるように効果的に表現し、他者からの意見に適切に応答する
思考・解決力	課題を提出しない	課題を提出する	独自の観点を加えて課題を作成し、提出する	複数の独創的な観点にもとづいて課題を作成し、提出する
共生・協働する力	グループワークに参加しない	グループワークに参加する	グループワークやディスカッションに参加する	グループワークやディスカッションに積極的に参加する
創造・発信力	指名されても発言しない	指名されたら発言する	適切な状況で自ら発言する	適切な状況で積極的にかつ創造的に発言する

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション (向山・伊藤・佐藤)
- 第2回 現代社会と公認心理師の役割 (伊藤)
- 第3回 公認心理師の法的義務および倫理 (伊藤)

- 第 4 回 公認心理師の仕事 1 : 保健医療分野 (伊藤)
- 第 5 回 専門職としての心構え 1 : 心理支援を要する人々の安全確保 (伊藤)
- 第 6 回 専門職としての心構え 2 : 守秘義務およびプライバシーの保護 (佐藤)
- 第 7 回 第1回～第6回のまとめと振り返り (向山・伊藤・佐藤)
- 第 8 回 公認心理師の仕事 2 : 教育分野 (佐藤)
- 第 9 回 公認心理師の仕事 3 : 福祉分野 (佐藤)
- 第 10 回 他職種および地域との連携 (佐藤)
- 第 11 回 公認心理師の仕事 4 : 司法・犯罪分野 (向山)
- 第 12 回 公認心理師の仕事 5 : 産業・労働分野 (向山)
- 第 13 回 専門職としての心構え 3 : 心理支援と自己理解 (向山)
- 第 14 回 専門職としての心構え 4 : 生涯学習とキャリア発達 (向山)
- 第 15 回 まとめ : 到達度確認テスト (向山・伊藤・佐藤)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

指定テキストおよび配布資料をもとに講義を進める。資料は原則、manabaを活用して配布する。授業中、講義内容に関連した課題を課したり、模擬事例等を素材としたグループワークやディスカッションを行う予定である。課題等には、授業期間内に適宜、口頭や文書でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定テキストを通読し、予習すること。これまでに学んだ心理学専門科目、特に公認心理師資格取得に必要な科目について復習し、この授業においても適宜参照できるようにしておくこと。4年次に並行して履修する「心理実習」での学びと連動させ、事前学習や準備をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度と授業時間中の課題 (40%)、授業中に実施する到達度確認テスト (60%) に基づき、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生の理解度等に応じて、授業計画で示した各回の順序を変更することがある。職業倫理的に守秘性のある内容に触れる場合もあるため、担当教員の許可なく録音やスライドの撮影などをしない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

公認心理師の職責 下山晴彦ほか (監修・編著) ミネルヴァ書房 2020年 9784623086115

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

公認心理師の職責 野島一彦 (編) 遠見書房 2018年 9784866160511

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

担当教員全員が、公認心理師および臨床心理士として、医療・教育・福祉分野での実務経験あり。

心理実習

PSA4601NOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

4年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

10

集中 学外実習80時間

佐藤 睦子 伊藤 一美 向山 泰代 三好 智子 空
間 美智子 村松 朋子 中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、心理支援を実践するために必要な知識を得た上で実際の現場に身を置き、公認心理師の在り方について学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 各分野の施設・機関について、その特徴を説明できる。
- 2 各施設・機関において心理に関する支援を要する人々に対して行われている心理支援について、チームアプローチや多職種連携、地域連携を含めて説明できる。
- 3 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解について説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に取り組まない	主体性をもって課題に取り組む	課題から興味を見つけて取り組む	将来心理職を目指すものとして、課題だけでなく広い視野をもって取り組む
知識・理解力	準備学習をしない	自ら準備学習を行う	準備学習だけでなく、視野を広げて考える	心理職として、どのように準備学習をしたらよいのか考える
言語力	自分の考えを表明しない	主体性をもって考えを表明する	自らの考えをよりよく表明するための方法を考える	心理職として、自らの考えを表明するための方法を見つける
思考・解決力	課題を提出しない	課題を提出する	興味を見つけて課題に取り組む	将来心理職として、どのような方向性を持つのか考えな

				から課題に 取り組む
共生・協働 する力	グループデ ィスカッシ ョンを行わ ない	グループデ ィスカッシ ョンに参加 する	積極的にグ ループデ ィスカッシ ョンに参加 する	心理職とし て、どのよ うに発信す れば伝わり やすいのか 考えながら 話し合う
創造・発信 力	発表しない	発表を行う	発表を積極 的に行い、 リーダー役 割も挑戦す る	心理職とし て、将来発 表する場面 も想定しな がら発表に 臨む

〔授業計画〕

本科目は21回行われ、すべて出席すると実習時間が84時間（公認心理師取得に必要な時間は80時間）となる。オリエンテーションは、前期期間中に行われ、全体のまとめはすべての実習が修了した後期期間中に行われる。ただし、3回目から19回目までの各施設に関する見学実習の順については、前後する可能性がある。

- 1回目 オリエンテーション①（実習の概要と心得について）
- 2回目 オリエンテーション②（必要書類の作成について）
- 3回目 医療機関事前学習（グループワーク・発表討論）
- 4回目 医療機関見学実習①（見学等）
- 5回目 医療機関見学実習②（見学等）
- 6回目 医療機関事後学習（まとめと自己評価報告）
- 7回目 福祉機関事前学習（グループワーク・発表討論）
- 8回目 福祉機関見学実習①（見学等）
- 9回目 福祉機関見学実習②（見学等）
- 10回目 福祉機関見学実習③（見学等）
- 11回目 福祉機関事後学習（まとめと自己評価報告）
- 12回目 教育機関事前学習（グループワーク・発表討論）
- 13回目 教育機関見学実習①（見学等）
- 14回目 教育機関見学実習②（見学等）
- 15回目 教育機関事後学習（まとめと自己評価報告）
- 16回目 司法機関事前学習（グループワーク・発表討論）
- 17回目 司法機関見学実習①（見学等）
- 18回目 司法機関見学実習②（見学等）
- 19回目 司法機関事後学習（まとめと自己評価報告）
- 20回目 全体のまとめ①（提出書類記載・確認）
- 21回目 全体のまとめ②（自己評価と今後の課題）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

行わない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1 本科目は、公認心理師に関わる主要5分野（医療・福祉・教育・司法・産業）において複数の施設の見学実習を行う。実習担当教員による大学等での指導を含めて、公認心理師試験受験資格に必要な80時間以上の見学実習が行われる。

2 見学実習施設に関連した実習中のリスク管理等につい

て、施設の実習指導者、実習担当教員と協議し確認を行う。

3 見学実習中は、施設の実習指導者や実習担当教員による指導を受け、また実習ノートによる振り返りを行う

4 見学実習の成果については、施設の実習指導者と実習担当教員が実習ノートのコメントあるいは口頭で適宜行っていく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

事前指導の時間を通じ、見学実習を行う施設に関する情報（歴史・理念・概要・利用者等）について、資料に基づき理解を深める。また、本実習の前に行われる心理演習において学んでいる基本的な支援態度・知識・倫理について振り返り、自己理解を深めておく必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

① 実習ノート（事前学習、施設見学、事後学習関するもの）、レポートなどの提出物 50点② 授業参加度 50点とするが、オリエンテーション、すべての分野の事前学習、見学実習、事後学習への出席状況、実習時の参加態度、主体的取り組み等を含めて総合的に判断する。なお、施設の実習指導者の評価も含まれる。

〔留意事項（Other Information）〕

本実習は、専門家養成を目的に、実際に心理支援を要する対象者を受け入れている施設見学実習を含むものである。そのため、事前事後学習、施設見学における遅刻や欠席は、社会的常識として許されるものではない。自分の将来を見据えて真摯に取り組もうとする姿勢が特に必要となる。なお、心理演習を既習であることが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

担当教員全員が、臨床心理士・公認心理師として、医療・教育・福祉分野での実務経験あり。

心理学統計法

PSB1453N0J

大学

現代人間学部 > 心理学科

1年次

2単位 後期

木曜3限

DP4：思考・解決力

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学の研究を科学的、実証的に進めていくためには、研究目的に適合した研究計画を立てること、そしてその計画のもとにデータを収集し、統計的分析を行うことが必要

となる。

そのために習得しておかなければならない統計的方法に関する基礎知識と基礎的な方法を学ぶ。

なおこの科目は、推測統計学、心理学情報処理など、2年次生以上に配当されている、より高度な心理統計に関する科目を学ぶための重要な基盤を形成するものとして位置付けられている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

この科目では、まず統計的な考え方になじむため、日常的な具体例などで、心理統計の基礎的な考え方の理解を促していく。そして、記述統計に関する重要な基礎知識を具体例を通して理解し、統計的手法を実践的に身に付けていくことを課題とする。後半では、記述統計学と推測統計学を区別し、統計的仮説検定の基本的な考え方について学び、基本的な検定の初歩的な方法を身に付けることを課題とする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力				心理統計の基礎的な知識が十分身についている
言語力				心理統計の基礎的な知識について自分の言葉で十分説明できる
思考・解決力				心理統計の基礎的な知識を用いて考えたり問いに答えたりする力が十分身についている

〔授業計画〕

- 第1回目 心理学と数字 (心理統計の基本的な考え方)
- 第2回目 変数と尺度水準
- 第3回目 データの図表化 (ヒストグラムと棒グラフの作成)
- 第4回目 データの代表値 (平均、中央値、最頻値など)
- 第5回目 データの散らばり (分散と標準偏差)
- 第6回目 散布図と共分散
- 第7回目 相関係数が示す相関関係
- 第8回目 記述統計と推測統計
- 第9回目 母集団と正規分布
- 第10回目 標本と標本分布
- 第11回目 「統計的仮説検定」の考え方と実例
- 第12回目 有意水準とは
- 第13回目 両側検定と片側検定

第14回目 「基礎的な統計的仮説検定」の実例と練習問題

第15回目 テストとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と毎回のワークを組み合わせ、授業を進めていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書の該当範囲を事前に読み進めておくこと。またExcelの使用に慣れ親しんでおくこと。授業のはじめに前回の課題の解説を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の課題 (40%) とまとめテスト (60%) により評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生の理解度を見ながら進めていくので、授業予定で示した順番や内容が、多少変わることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『よくわかる心理統計』/山田剛史、村井潤一郎/ミネルヴァ書房/2004//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

SS3600BOJ

大学

現代人間学部 > 心理学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

120

後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。

「社会心理学的テーマ (対人関係や集団への所属が認知機能、メンタルヘルス、偏見・差別などに与える影響)」「消費者行動」「企業や店舗等と連携して行う調査」のいずれかを受講生と相談しながら決定し、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、

報告書の作成を行う。また4年次の卒業研究のための下準備を進める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
9. データを解釈し、他者に伝える力を身に着ける。
10. データにもとづき、報告書にまとめる力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力				心理学の研究法や統計の知識が十分身につけている
言語力				研究結果を文章や口頭で説明する力が十分身につけている
思考・解決力				要因や変数間の連関関係や因果関係を見抜いたり顕彰したりする力が十分身につけている

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 調査の企画
- 第3回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第4回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第5回 先行研究・文献の収集、整理
- 第6回 仮説の構成
- 第7回 質問項目・尺度の資料収集
- 第8回 質問項目・尺度の検討
- 第9回 質問紙の作成
- 第10回 質問紙の完成
- 第11回 予備調査の実施
- 第12回 本調査の実施
- 第13回 コーディング
- 第14回 データ入力
- 第15回 中間のまとめ

- 第16回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第17回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第18回 相関係数①分析の実施
- 第19回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第20回 t検定①分析の実施
- 第21回 t検定②結果の図表作成と解釈
- 第22回 分散分析①分析の実施
- 第23回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第24回 χ^2 検定①分析の実施
- 第25回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第26回 仮説の検証
- 第27回 成果発表に向けての準備
- 第28回 成果発表
- 第29回 報告書案の作成
- 第30回 報告書の完成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員(指導教員)の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
4. グループでの協働作業が中心となるため、積極的な授業参加を心がけること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、発表 (30%) および最終レポート (40%) により評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学演習

PSS3600C0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜 3限
 DP6：創造・発信力
 120
 中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにあたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。ゼミで決めたテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. ExcelやSPSSの操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができ	レベル2に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目の資料収集
- 第 8 回 質問項目の検討
- 第 9 回 予備調査の実施
- 第 10 回 予備調査の検討

- 第 11 回 本調査の実施に向けて
- 第 12 回 本調査の実施
- 第 13 回 コーディング
- 第 14 回 エディティング
- 第 15 回 中間まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. グループで演習形式、実習形式で行う。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

なお、課題等のフィードバックはmanabaもしくは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

PSS4601H0J
 大学
 現代人間学部 > 心理学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6：創造・発信力
 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学科における4年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、そのテーマに沿った卒業論文を作成する。

1. 研究テーマの妥当性について説明できる
2. 研究テーマにそって研究を適切に遂行できる
3. 研究結果を適切に考察することができる
4. 卒業論文の内容について適切に議論ができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が卒業論文として取り上げたテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、決められた様式にそって論文として、他者に理解できるように記述する。

1. 研究テーマの独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる
2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。
3. 倫理的問題に適切に対処することができる。
4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。
5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがって論文をまとめることができる。
6. 図や表を適切に使用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的(独創性、有用性、体系的性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。
方法(研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。)	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。

結果(研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか)	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察(論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。)	非論理的、主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表(口頭試問では、質問に正確に答えられたか。)	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており、他者に一定程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス(スケジュールに沿って研究が遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究が遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究が遂行出来たか。)	スケジュールに沿って研究が遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来、他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。

〔授業計画〕

各ゼミで指導を受けること。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

口頭試問を行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミ別に個別指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 卒業論文の内容および完成度、口頭試問の内容に基づき、総合的に評価する。

2. 評価のポイントは、関連文献の検討が十分であるか、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、などである。詳細は手引きを確認すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 卒業論文関連の日程については、学生便覧と掲示を参照すること。

2. 配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

3. 大学院進学にあたっては、いずれの大学においても卒業論文の内容が重視される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

LD等教育総論

EDD3251NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

江川 正一 相澤 雅文

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

通常学級にいる言語障害、LD、ADHD、自閉スペクトラム等の発達障害のある子どもについての基礎的な病理、生理、心理について理解し、それぞれの障害特性に応じた指導法について考える。

重度重複障害のある子どもについて理解するとともに、その育ちを支える方法について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 発達障害等のある子どもの特性について理解し、その困りについて捉えることができる。

2. 発達障害のある子どもの指導、支援の方法がわかる。

3. 重度重複障害のある子どもの課題をとらえ、その支援の方法について考えることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとする。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかがわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。

創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。
--------	-----------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 支援の必要な子どもたち
教室にいる特別な支援の必要な子どもたち（江川）
- 第 2 回 発達障害等の子どもたちを支える 1
発達障害等の子どもたちを支えるシステム（江川）
- 第 3 回 言語障害、聴覚障害
言語障害、聴覚障害の理解と指導（江川）
- 第 4 回 学習障害（LD） 1
学習障害（LD）の理解（相澤）
- 第 5 回 学習障害（LD） 2
学習障害（LD）の指導（相澤）
- 第 6 回 注意欠如多動性障害（ADHD） 1
注意欠如多動性障害（ADHD）の理解（相澤）
- 第 7 回 注意欠如多動性障害（ADHD） 2
注意欠如多動性障害（ADHD）の指導（相澤）
- 第 8 回 自閉スペクトラム（ASD）
自閉スペクトラム（ASD）の理解（相澤）
- 第 9 回 自閉スペクトラム（ASD）
自閉スペクトラム（ASD）の指導（相澤）
- 第 10 回 発達障害の二次障害
発達障害の二次障害の現れ方、引き起こす原因について（相澤）
- 第 11 回 発達障害等の子どもたちを支える 2
学習のユニバーサルデザイン（江川）
- 第 12 回 重度重複障害 1
重度重複障害の子どもの理解（江川）
- 第 13 回 重度重複障害 2
重度重複障害の子どもの指導（江川）
- 第 14 回 重度重複障害 3
重度重複障害の子どもを支える医療と福祉（江川）
- 第 15 回 まとめ
発達障害、重度重複障害についての基礎的な事柄についてまとめるとともに確認する（江川）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義等を通して子どもの困りを身近のものとしてとらえ、障害特性に応じた支援の方法を理解する。

課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

発達障害については、社会の関心も高く関連する書物も多く出されている。図書館を活用し、関連する書物を積極的に

に読むようにする。

また新聞、テレビ等で取り上げられることも多く、それらに関心を持って視聴するようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（30%）、レポート（30%）及びテスト（40%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

対面授業で実施します。

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業時に適時資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『特別支援教育の基礎・基本 2020』/国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2020/9784863715486

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 12年（内 難聴学級担任10年）

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱）

19年

京都市立特別支援学校校長 2年

アクティブラーニングの指導法

EDP3451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

3年次

2単位 後期

火曜 2限

DP4：思考・解決力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標（Course Description）〕

小学校におけるアクティブラーニングの実際を知り、主体的に参加したメンバーが協働体験を通じて学習し創造を生み出す場を作るために提案された様々な手法を実際に体験し、どの場面ではどの手法を用いることが有効なのか理解する。考えをより多く出す場合、多くの異なる考えの中から合意を形成する場合等、実体験の中からそれぞれの手法の特徴を知る。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・小学校におけるアクティブラーニングの歴史と実践
- ・アクティブラーニングに用いることの出来る手法
- ・小学校におけるアクティブラーニングの課題設定

・アクティブラーニングを組み込んだ学習指導案の作成と授業実践
 [ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	小学校学習指導要領の各教科の目標を理解できず、本講義のテーマに沿った学習指導案の作成や模擬授業を実施できない。	小学校学習指導要領の各教科の目標は理解しているもの、本講義のテーマに沿った学習指導案の作成や模擬授業を実施できない。	小学校学習指導要領の各教科の目標を理解し、本講義のテーマに沿った学習指導案を作成しているもの、模擬授業が実施できていない。	小学校学習指導要領の各教科の目標を理解し、本講義のテーマに沿った学習指導案を作成し、適切な模擬授業が実施できている。
思考・解決力	学習者が主体となる授業実践について考えることができない。	学習者が主体となる授業実践について考えることは出来る。	学習者が主体となる授業実践について考え、実践を開発することができる。	学習者が主体となる授業実践について考え、実践を開発し、実際に行うことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 アクティブラーニングとは何か (対面)
- 第 2 回 アクティブラーニングの視点から見た日本教育史 (対面)
- 第 3 回 アクティブラーニングへの移行 (対面)
- 第 4 回 先人の実践に学ぶ (対面)
- 第 5 回 アクティブラーニングの視点をふまえた教材研究「国語・社会・算数・理科・生活」(対面)
- 第 6 回 アクティブラーニングの視点をふまえた実践開発「国語・社会・算数・理科・生活」(オンライン)
- 第 7 回 アクティブラーニングの視点をふまえた学習指導案の作成「国語・社会・算数・理科・生活」(オンライン)
- 第 8 回 アクティブラーニングの視点をふまえた模擬授業「国語・算数」(対面)
- 第 9 回 アクティブラーニングの視点をふまえた模擬授業「社会・理科・生活」(対面)
- 第 10 回 模擬授業のリフレクション (対面)
- 第 11 回 アクティブラーニングの視点をふまえた教材研究「体育・音楽・図工・道徳・特別活動」(対面)
- 第 12 回 アクティブラーニングの視点をふまえた実践開発「体育・音楽・図工・道徳・特別活動」(オンライン)
- 第 13 回 アクティブラーニングの視点をふまえた学習指導案の作成「体育・音楽・図工・道徳・特別活動」(オンライン)
- 第 14 回 アクティブラーニングの視点をふまえた模擬授業「体育・音楽・図工」(対面)

第 15 回 アクティブラーニングの視点をふまえた模擬授業「道徳・特別活動」(対面)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

*提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

模擬授業の際のリフレクションカード (30%)、学習指導案 (40%)、模擬授業 (30%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特に指定しない。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について

／ 小学校教員としての勤務経験あり

こどもの保健 I

EDI2250N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生命の保持と情緒の安定を図る保育において、子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。また、子どもの発育・発達状況を把握し、子どもの健康状態の把握について熟知する。さらに、子どもの病気の予防と対応について学ぶ。最終的に、学生が子どもの心身の健康維持に関する知識を有することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの保健の意義について理解する
2. 子どもの健康と統計を理解する
3. 子どもの健康と地域における保健活動・虐待防止について理解する
4. 子どもの成長・発達と保健について理解する
5. 子どもの心身の健康状態とその把握について理解する
6. 子どもの病気の予防と適切な対応について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	こどもの発育・発達をイメージできない	こどもの発育・発達のイメージができる	こどもの発育・発達に関する事柄に広く興味が持てる	レベル3に加えて実際のこどもの未来に対してイメージを繋げて行ける
知識・理解力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について理解できない	こどもの発育・発達や病気の予防と対応についてある程度理解できる	より深くこどもの発育・発達や病気の予防と対応について理解できる	レベル3に加えて実際の子どもに応用して考えることができる
言語力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関して使用される言葉が理解できない	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関して使用される言葉が理解できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関する言葉を理解して自分で使用できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関する言葉や周辺で必要となる言葉など、幅広く理解して使用できる
思考・解決力	教えられたこと以外は考えようとしない	現実の状況に当てはめて考えようとする	発生する課題を解決しようとする	現実から発展させて考えて、起こりうる問題を解決しようとする
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて参考にする	考えた結果を周囲の人たちと共有する	考えた結果を周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする

創造・発信力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自分の勝手な考えを発信する	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自分の考えを発信できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	レベル3に加えて、情報モラルも加味しながら、自分の考えを発信できる
--------	--------------------------------------	------------------------------------	--	-----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 1 章 子どもと保育保健 1 子どもの定義と保育保健のための法と理念 2 保育保健の意義 第 2 章 子どもの健康と統計)
- ・子どもの定義と保育保健の意義について詳述する。
 - ・健康の定義、子どもにかかわる諸統計について述べる。
- 第 2 回 (第 3 章 子どもの健康と地域における保健活動・虐待防止 1 現代社会における子どもの健康に関する現状 2 子どもの健康課題 3 子どもを取り巻く地域における保健活動 4 児童虐待と対策)
- ・子どもの身体・心・養育環境の課題について詳述する。
 - ・地域保健活動・母子保健・学校保健について述べる。
 - ・児童虐待の現状について詳述する。
- 第 3 回 (第 4 章 子どもの成長・発達と保健 1 子どもの成長と発達 2 子どもの生理機能の発達(1))
- ・子どもの発育とその特徴について述べる。
 - ・子どもの生理機能(循環機能)について詳述する。
- 第 4 回 (第 4 章 子どもの成長・発達と保健 2 子どもの生理機能の発達(2) 3 子どもの身体発育(1))
- ・子どもの生理機能(呼吸機能、消化機能、排泄機能、免疫機能、体温調節機能等)について述べる。
 - ・新生児期、乳幼児期の身体発育について詳述する。
- 第 5 回 (第 4 章 子どもの成長・発達と保健 3 子どもの身体発育(2) 4 子どもの運動・精神機能の発達(1))
- ・身体発育の評価について詳述する。
 - ・運動・精神機能をつかさどる神経系について詳述する。
 - ・運動機能の発達について詳述する。
- 第 6 回 (第 4 章 子どもの成長・発達と保健 4 子どもの運動・精神機能の発達(2) 5 子どもの成長・発達と保育)
- ・精神機能の発達について詳述する。
 - ・子どもの発達とその評価について詳述する。

- 第 7 回 (第 5 章 子どもの心身の健康状態とその把握
1 日々の健康観察と心身の不調の早期発見)
・「健康な子どもとは」について詳述する。
・心身の不調とその判断について述べる。
- 第 8 回 (第 5 章 子どもの心身の健康状態とその把握
2 成長・発達の把握と健康診断 3 保護者との情報共有 第 6 章 子どもの病気と予防 1 子どもの病気の考え方)
・身体計測・運動能力の測定について詳述する。
・健康診断について詳述する。
・入園前・入園時の状態把握と日々の保護者との情報共有について述べる。
- 第 9 回 (第 6 章 子どもの病気と予防 2 感染症(1))
・主な感染症 (インフルエンザ、麻疹 (はしか) 等のウイルス感染症について詳述する。
- 第 10 回 (第 6 章 子どもの病気と予防 2 感染症(2))
・主な感染症 (百日咳、結核等の細菌感染症について詳述する。
- 第 11 回 (第 6 章 子どもの病気と予防 2 感染症(3) 3 アレルギー疾患 4 子どもに多いその他の病気 (1))
・園における対応について詳述する。
・主なアレルギー疾患について詳述する。
・先天性疾患、消化器疾患、呼吸器疾患について述べる。
- 第 12 回 (第 6 章 子どもの病気と予防 4 子どもに多いその他の病気(2))
・循環器疾患、血液・腫瘍性疾患、腎・尿路系疾患、神経・筋疾患などについて述べる。
- 第 13 回 (第 6 章 子どもの病気と予防 5 子ども病気の予防ー予防接種)
・予防接種について詳述する。
- 第 14 回 (形成テスト)
形成テストを行う。途中退出は不可とする。
- 第 15 回 (形成テストの解説と評価)
採点後の形成テストを返却し、問題の解答と解説を行って、全体を評価する。
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
実施しない
- [教育・学習の方法 (Course Methods)]
1. 授業方法
講義形式
 2. 学習方法
(1) テキストに沿って行く、プリントで内容補充
(2) パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。
(3) 授業の始めに設問 (小テスト形式) を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。
(4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。
 3. 各回の小テストについて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。
2. 分からないところは、直接尋ねるかあるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

40

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

- ・評価は、小テスト (10%)、授業参加度 (10%)、形成テスト (80%) に基づいて総合的に行う。

[留意事項 (Other Information)]

他の受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送受信、居眠り、摂食は禁止。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『保育を学ぶ人のための子どもの保健』/堀 浩樹・梶 美保編著/建帛社/2020/978-4-7679-5108-9/学内販売有

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『子どもの保健-理論と実際-』/岸井勇雄ほか/同文書院/2015/978-4-8103-1398-7

『子どもの健康と安全』/高内正子・梶 美保編著/建帛社/2020/978-4-7679-5124-9

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫、医師として病院等での診療経験あり

こどもの保健 II

EDI3201N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

萩原 暢子

[科目の教育目標 (Course Description)]

子どもの病気の特徴を理解し、特に感染症と予防接種について詳しく述べる。また、事故と安全対策については、その実態を学ぶとともに、救急処置を含む対処法および、事故を未然に防ぐ方策について述べる。さらに、保育所と家庭との連携を通じた保健の重要性を理解させ、母子保健の実際を学ぶ。

これより、子どもの感染症の知識を持ち、救急処置ができる。また、母子保健について現状を理解できている。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 子どもの病気の特徴、特に感染症と予防接種について理解する。
2. 事故と応急処置について理解する。
3. 母子保健の現状について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	こどもの病気をイメージできない	こどもの病気をイメージできる	こどもの病気を広く興味を持って学ぼうとする	レベル3に加えて周囲の人たちと意見を交流させる
知識・理解力	こどもの病気について理解できない	こどもの病気について理解しようとする	こどもの病気についての知識を深めて発展させようとする	レベル3に加えて周囲の人たちに知識を広めて指導する
言語力	こどもの病気に関する言葉が分からない	こどもの病気に関する言葉を分かろうとする	こどもの病気に関する高度な知識を持って必要な言葉を理解する	レベル3に加えて現状を踏まえてより詳しい言語を自由に使える
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	こどもの病気について現状にあてはめて考えようとする	こどもの病気について現状から判断して発生した問題を解決できる	レベル3に加えてより高度な医学的知識を駆使できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて考える	周囲の人たちと知識を共有し、さらに高度な知識を得ようとする	レベル3に加えて周囲の人たちにより高度な知識を広めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を考えながら自分の意見を発信できる	こどもの病気について自分自身で考察した意見や考えを発信できる	レベル3に加えて情報モラルも加味しながら自分自身の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 7 章 子どもの病気と保育 I)
子どもの健康状態の把握について詳述する。
- 第 2 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 II)
子どものおもな症状の見方と対応について詳述する。
- 第 3 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 III)
アレルギー疾患についてメカニズムから詳述する。
- 第 4 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 IV 感染症①)
子どもの感染症について詳述する。(総論、各論 1)
- 第 5 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 V 感染症②)

子どもの感染症について詳述する。(各論 2、食中毒)

- 第 6 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 VI)
予防接種について詳述する。
- 第 7 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 VII)
子どもの病気で、循環器、血液・悪性腫瘍、消化器、腎臓の病気について詳述する。
- 第 8 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 VIII)
子どもの病気で、呼吸器、内分泌、代謝、生活習慣病、皮膚の病気について詳述する。
- 第 9 回 (第 7 章 子どもの病気と保育 IX)
障害のある子どもたちの実際について説明する。また、発達障害について詳述する。
- 第 10 回 (第 8 章 救急処置について)
救急処置について詳述する。
- 第 11 回 (第 9 章 保育所と家庭の連携 I)
保育所と家庭の連携で、子どもの生活リズム、食事、睡眠の連携について詳述する。また、健康教育についても触れる。
- 第 12 回 (第 9 章 保育所と家庭の連携 II、第 10 章 母と子どもの保健 I)
保育所と家庭の連携で睡眠の発達について詳述する。母子保健の歴史について述べる。
- 第 13 回 (第 10 章 母と子どもの保健 II)
保育の現状と対策について詳述する。また、児童虐待について述べる。
- 第 14 回 (形成テスト)
形成テストを実施する。(途中退出不可)
- 第 15 回 (形成テストの解説と評価)
採点を済ませた形成テストを返却し、解説と評価を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法

講義形式

2. 学習方法

(1) テキストに沿って行う、プリントで内容補充

(2) パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。

(3) 授業の始めに設問を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。

(4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。

2. 分からないところは、直接質問するか、あるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・評価は、設問への記入 (10%)、授業参加度 (10%)、形成テスト (80%) の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

他の受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送受信、摂食は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『子どもの保健-理論と実際-』/岸井勇雄ほか/同文書院/2015//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『最新子ども保健』/澤田淳・細井創・日本小児医事出版社/2017/978-4-88924-255-3

『子どもの保健』/巷野悟郎編/診断と治療社/2011/

『子どもの保健』/渡辺 博/中山書店/2012/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 医師として病院等での診療経験あり。

こどもの保健演習

EDI3251N0J
大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)
2年次
1単位 集中
その他
DP2 : 知識・理解力
15
集中
萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもが安心して過ごすためには、環境の安全が必須条件となる。そのために保育現場での衛生管理を徹底する必要がある。また、事故防止と安全対策について学ぶことは、安心できる環境整備のために不可欠である。災害への備えと危機管理についても学習する必要がある。さらに、子どもの体調不良などへの実際の対応についても、学ぶことが重要である。

そのためには、現場を想定した学習が必要であり、乳児モデルを用いて、乳幼児の養護や沐浴について、各自が実際に演習する。また、救急事態に対しては、現場を再現し実際の人形を用いた救急蘇生法の実技を学ぶ。最終的に学生は、子どもの保育実践に際し、子どもの健康と安全について現場における対応を理解できている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの健康支援について理解する
2. 感染症の予防と対策を理解する
3. 養護・沐浴などの3歳未満児への対応を理解する
4. 個別な配慮を必要とする子どもへの対応を理解する
5. 事故防止および安全対策
6. 子どもの体調不良に対する適切な対応を理解する

7. 応急手当・救命手当 (救急蘇生法) を理解する
8. 災害への備えについて理解する
9. 保育における健康と安全管理の実際を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもの健康と安全についてイメージできない	子どもの健康と安全についてイメージできる	子どもの健康と安全について興味を持って取り組める	レベル3に加えてさらに学んだことを発信することができる
知識・理解力	子どもの健康と安全について内容を理解できない	子どもの健康と安全について内容を理解できる	子どもの健康と安全についての内容を更に発展させることができる	レベル3に加えて発展させた内容を周囲に広めることができる
言語力	子どもの健康と安全について使用される言語が理解できない	子どもの健康と安全について使用される言語が理解できる	子どもの健康と安全のより高度な内容で使用される言語が理解できる	レベル3に加えて周囲へ演習の知識を言語を駆使して広めることができる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	子どもの健康と安全についての内容を考えることができる	子どもの健康と安全についての内容の展開を考えることができる	レベル3に加えて現実に当てはめた内容を周囲に広く発表することができる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて考えることができる	考えた結果を周囲の人たちと共有できる	考えた結果を周囲の人たちと共有しさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発展させた後発信できる	レベル3に加えて情報モラルを加味しながら自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 1 章 子どもの健康と保育)
- ・講義全体の進め方などのオリエンテーションを行う。
 - ・子どもの健康と保育における環境について述べる。
 - ・手洗い実習を行う。

- 第 2 回 (第 2 章 子どもの健康支援)
 ・日々の健康観察について述べる。
 ・身体計測と発達状態の把握について述べる。
 ・生理機能の測定と異常の早期発見について述べる。
- 第 3 回 (第 6 章 子どもの体調不良等に対する適切な対応(1))
 ・発熱、咳、嘔吐などの体調不良時の対応について詳述する。
- 第 4 回 (第 3 章 環境および衛生管理)
 ・感染症に関する基本的な知識について述べる。
 ・感染源対策、感染経路対策、感受性対策について詳述する。
- 第 5 回 (第 4 章 保育における保健的対応(1))
 ・3歳未満児への対応として、抱っこ、おむつ替え、ミルクの飲ませ方を実物大の赤ちゃんモデル人形を用いて演習する。
- 第 6 回 (第 4 章 保育における保健的対応(2))
 ・沐浴について実物大の赤ちゃんモデル人形を用いて演習する。
- 第 7 回 (第 4 章 保育における保健的対応(3))
 ・個別な配慮を要する子どもへの対応について述べる。
- 第 8 回 (第 5 章 事故防止および安全対策)
 ・子どもの事故および保育現場での事故について述べる。
 ・プール活動、水遊びの安全について詳述する。
 ・危機管理体制について詳述する。
- 第 9 回 (第 6 章 子どもの体調不良等に対する適切な対応(2))
 ・室内/屋外での起こりやすい事故と応急手当についてビデオを用いて詳述する。
- 第 10 回 (第 6 章 子どもの体調不良等に対する適切な対応(3))
 ・応急手当について詳述する。
- 第 11 回 (第 6 章 子どもの体調不良等に対する適切な対応(4))
 ・救命手当(救急蘇生法)の実際についてDVDを見ながら詳述する。
- 第 12 回 (第 7 章 災害への備え)
 ・組織実施体制について詳述する。
 ・平常時における災害対策について詳述する。
 ・災害時の対応について詳述する。
- 第 13 回 (第 8 章 健康および安全管理の実施体制)
 ・職員間の連携・協働と組織的とり組みについて詳述する。
 ・保育における保健活動の計画および評価について詳述する。
 ・地域保健・母子保健における自治体との連携について詳述する。
- 第 14 回 (形成テスト)
 ・形成テストを行う。
- 第 15 回 (形成テストの解説と評価)

・実施した形成テストについて、解説と評価を行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法 グループに分かれて演習を行う。

2. 学習方法

(1) 対面授業 (講義形態と演習形態)、状況によりオンライン授業を取り入れることもある。

(2) 実物大のモデル人形を用いて実際の実技を学ぶ。

(3) DVDやビデオによりイメージを作っていく。

※ 最終授業での形成テストの解説において、全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストの次回講義範囲を読んでおくこと。

2. 分からないところは質問して、必ず解決しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・評価は、毎回の課題提出 (20%)、授業参加度 (30%)、形成テスト (50%) の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

・赤ちゃんの人形を使った実技を行う。

・他の受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送受信、居眠り、摂食は禁止。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保育の場で生きる 子どもの健康と安全』/高内正子・梶美保編著/建帛社/2020/978-4-7679-5124-9/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『子どもの保健演習ガイド』/高内正子編著/建帛社/2015/978-4-7679-5028-0

『重大事故を防ぐ園づくり』猪熊弘子、新保庄三、寺町東子著/ひとなる書房/2019/978-4-89464-262-1

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》、医師として病院等での診療経験あり

こども教育フィールド研修

EDB1500N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

木曜2限

DP5: 共生・協働する力

15

必修

高田 佳孝 神月 紀輔 藤本 陽三 畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 田中 裕喜 古庵 晶子 江川 正一 小川 博士 太田 容次 大西 慎也 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の観察実習を行い、自身のコース選択の視点を獲得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①保育・教育現場での子どもや教師の姿を丁寧に観察することができる。
- ②保育・教育現場での観察実習に相応しい態度、服装などを理解し、実践できる。
- ③保育・教育現場での観察実習を通して、教職を目指すことの責任を理解し、その後のコース選択、講義等に活かすことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学びに向かう力	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、説明できない。	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、おおまかに説明できる。	これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる。	自身のキャリアを見据え、これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる。
キャリア選択	自らの考えでコース選択をすることができない。	観察実習を踏まえて、自らの考えでコース選択をすることができる。	観察実習を踏まえたり、将来のキャリアを見据えたりして、自らの考えで納得したコース選択をすることができる。	

観察実習に関わる社会人基礎力	観察実習に相応しい態度、服装を実践できない。	観察実習に相応しい態度、服装などについて、教員からの助言に基づいて実践できる。	観察実習に相応しい態度、服装などを十分に理解し、自ら実践できる。	
協働する力	グループで共有したり話し合ったりすることができない。	グループで共有したり話し合ったりするなど、他者と関わるができる。	グループで共有したり話し合ったりする良さを理解し、積極的に他者と関わるができる。	レベル3に加え、協働によって、最適解を検討することができる。
知識・理解力(保育・教育現場の観察)	保育・教育現場での子どもや教師の姿について、観察した結果を適切に記録することができない。	保育・教育現場での子どもや教師の姿を観察し、ある程度、記録することができる。	保育・教育現場での子どもや教師の姿を観察し、事実と考えを区別して適切に記録することができる。	保育・教育現場での子どもや教師の姿を丁寧に観察し、事実と考えを区別して詳細に記録することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (全員)
- 第 2 回 観察実習の取り組み方 (藤本、全員)
- 第 3 回 幼稚園・小学校観察実習事前指導 (全員)
- 第 4 回 小学校観察実習 (子どもの学びの様子を観察する) (全員)
- 第 5 回 小学校観察実習 (教師の指導の様子を観察する) (全員)
- 第 6 回 幼稚園観察実習 (園児の様子を観察する) (全員)
- 第 7 回 幼稚園観察実習 (幼稚園教諭の園児への支援の様子を観察する) (全員)
- 第 8 回 幼稚園・小学校観察実習事後指導 (全員)
- 第 9 回 保育所・特別支援学校観察実習事前指導 (全員)
- 第 10 回 特別支援学校観察実習 (子どもの学びの様子を観察する) (全員)
- 第 11 回 特別支援学校観察実習 (教師の指導の様子を観察する) (全員)
- 第 12 回 保育所観察実習 (園児の様子を観察する) (全員)
- 第 13 回 保育所観察実習 (保育士の園児への支援の様子を観察する) (全員)
- 第 14 回 保育所・特別支援学校観察実習事後指導 (全員)
- 第 15 回 ディスカッション及びコース選択についての説明 (全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ①教員によるオリエンテーション・事前指導
- ②保育・教育現場の見学
- ③見学後の振り返り、レポート作成

なお、レポートについては、教員が添削しフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自分の子どもの頃の学習の記録・学習の作品類を見直し、幼稚園・小学校などのそれぞれの教育現場で、子どもの姿はどのようなものなのか、指導者の言動はどのようなものかなどの観察の観点を整理しておく。また、観察実習する者としての、態度・服装なども充分考えておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

出席状況・参加態度80%，レポート20%

保育・教育現場での観察実習が中心のため、原則、すべて出席すること

〔留意事項 (Other Information)〕

・訪問する保育・教育現場の事情により、シラバス通りと異なる可能性があるため、担当教員のアナウンスを聞き、留意すること。

・保育・教育現場での観察実習であることから、TPOを踏まえた態度、服装を心掛けること。

・実習先までの交通費は自己負担なので、留意すること。

・こども教育基礎演習と連携しながら演習を進める。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要に応じて、資料等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫有資格者として勤務経験あり (石井)

教員として学校勤務経験あり (藤本, 河佐, 江川, 高田, 太田, 大西, 小川, 神月)

医師として病院等での診療経験あり (萩原, 東道)

こども教育基礎演習

EDB1200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

木曜1限

DP2: 知識・理解力

15

必修

藤本 陽三 畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 河
佐 英俊 田中 裕喜 古庵 晶子 神月 紀輔 江
川 正一 小川 博士 太田 容次 大西 慎也 高
田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育士及び幼稚園・小学校教諭・特別支援学校教諭の仕事を正しく理解するとともに、4年間の大学生活に必要な基礎知識を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

保育士および幼稚園・小学校教諭・特別支援学校教諭になるための基礎的な学習課題を見つけ、今後の学習を進めることができるようにする。大学生としての学び方を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教育・保育に興味を持っていない。	教員としての力をつけようとする。	自主的に文献を読み、理想の教員の姿を創造できる	積極的に研究会やボランティアに参加し、そのことを生かして、目指すキャリアに近づこうとする。
知識・理解力	教育に関する情報から知識を得ようとしていない。	学習指導要領などを理解し、学校や保育園の現状や実情を知識として持っている。	文部科学省や厚生労働省のWebページなどから最新の情報を得ようとする。	自ら得た情報に加え、教員や文献を用い、自主的に知識を得ようとする。
言語力	文章表現力に乏しく、外国語に関しても興味がない。	大学生としてのレポート等の書き方がおおむね理解できる。	様々な人とのコミュニケーションをとるために、自主的に言語の学習をしている。	卒業論文程度の文章力を持ち、また、外国語に関してもコミュニケーションの手段として積極的に活用し、外国語の文献を理解しようとする。

思考・解決力	問題の解決を人にゆだねてしまっている。	これまでの学習を生かし、自ら問題を解決しようとする。	これまでの学習や経験を活かし、自ら問題解決を探り、他の学生や教員などとも一緒に解決の道を探る。	先行研究などを生かし、問題に関して熟考し、筋道を立てて問題を解決しようとするができる。
共生・協働する力	他の学生とのディスカッションを行わない。	他の学生とのディスカッションにより学ぼうとする	学生だけでなく、教員や現職教員からも学ぼうとする。	自らがリーダーになって、積極的にディスカッションを働きかけ、自分以外の学生の学びも考える。
創造・発信力	自分の考えを、人にわかる言葉で表現できない。	自分の考えを、序論・本論・結論の形でまとめることができる。	他者の意見を参考にしながら、自分の意見をまとめ、レポートや論述としてまとめることができる。	国内外の事例なども参考にしながら、広い視野で自分の考えをまとめ、プレゼンテーションやWebページなどに発信できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション（大西，全員）
- 第 2 回 保育士と保育の現状（石井，畠山）
- 第 3 回 保育に関するディスカッション（石井，畠山）
- 第 4 回 小児医療から見た特別支援教育（萩原）
- 第 5 回 特別支援教育とその現状（太田，江川）
- 第 6 回 特別支援教育に関するディスカッション（太田，江川）
- 第 7 回 幼稚園教諭と幼稚園・認定こども園の現状（田中，古庵）
- 第 8 回 幼児教育に関するディスカッション（田中，古庵）
- 第 9 回 小学校教諭と小学校や学校教育の現状（藤本，河佐，大西，小川）
- 第 10 回 学校教育に関するディスカッション（大西，小川）
- 第 11 回 保育・学校見学に関する注意事項（石井，藤本）
- 第 12 回 保育・学校見学後のディスカッション（全員）
- 第 13 回 これからの保育・幼児教育（渡邊，神月）
- 第 14 回 これからの学校教育（渡邊，神月）
- 第 15 回 まとめとコース選択（大西，全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

グループディスカッションや自学自習を基本とし、経験のある教員からの話を基に、自分の知識を磨いていく。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

出席できるように体調を整えること。

新聞・テレビ・インターネットなどの情報を活用し、保育・教育に対して、積極的に情報を収集しておく。

学びに対して、わからないところを事前に調べたり、教員に質問したりして、自ら積極的に取り組める準備をしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加意欲・態度（70%）：将来を見据え、積極的に授業に参加しようとする態度と、知識を得ようとする態度を評価する。毎回の授業後に振り返りシートを配布し記入していく。

レポート（30%）：講義による学校園の現状把握と、見学後のまとめレポートを課す。

〔留意事項（Other Information）〕

この授業は、こども教育フィールド研修と連動して行い、学校園への見学が入ることがある。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

指定しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に指示します。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

有資格者として勤務経験あり（石井）

教員として学校勤務経験あり（渡邊，藤本，河佐，江川，太田，大西，小川，神月）

医師として病院等での診療経験あり（萩原）

こども情報リテラシー

EDP1200NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

月曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

※この科目は旧カリキュラムのもので、2021年度以降の入学
生は履修できません。

近年のこどもの情報機器の扱い方から、情報モラルの在り方や、大人の役割、こどもを指導する教師としての知識などを学び、こどもが情報機器や巷にあふれる情報を学びのために活用できるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

まず学生自身が情報機器を使えるようになること。

ソフトウェアなどの活用をできること。

情報に関する知識を蓄積すること。

危機管理能力を発揮できるようになること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査と処理の方法, 尺度と質問紙の作成
- 第 3 回 平均, 標準偏差と簡単な記述統計
- 第 4 回 統計処理と検定
- 第 5 回 情報活用能力の育成と学習指導要領
- 第 6 回 情報活用の実践力を育てる教材とその活用
- 第 7 回 幼稚園小中学校現場における情報活用の実践力の育成
- 第 8 回 アクティブラーニングと情報活用能力
- 第 9 回 自らの情報活用力を自己評価
- 第 10 回 情報社会に参画する態度
- 第 11 回 ソーシャルメディアによる問題点, スマートフォンとゲーム依存

第 12 回 消費者教育からの問題点 (外部講師を予定)

第 13 回 これからの高度情報化社会

第 14 回 理想の情報社会と保護者や教師の役割

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学習の方法

全編をオンライン学習により行うのでテキストに沿いながら自学自習で学んでいくことになる。また、疑問点などは自ら調べて解決することが望まれる。主体的に学ぼうとする態度が望まれる。

フィードバック

毎回の授業ではresponを使用し、感想・質問・コメントを教員が読み次の時間にフィードバックする。

個別には、オフィスアワーなどで課題等の質問を受け、その場でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストを読む。期日までに課題は仕上げておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加意欲・態度 (40%), 課題やレポートに対する自己評価・相互評価 (30%), 期末レポート (30%) を自己評価に重点を置き評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

2020年度以前入学者用の科目です。

2021年度以降入学者は履修できません。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『情報活用力』/Noa出版/Noa出版/2014/9784990242046/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校学習指導要領』/文部科学省/文部科学省//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として公立学校で経験あり

ピアノ実技 A

EDC1400A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

木曜 3限

DP4: 思考・解決力

15

南 智子

【科目の教育目標 (Course Description)】

「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場で必要な童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法の基礎を修得し、教育・保育現場に必要な音楽理論を理解する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

(1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。

(2)聴く...様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。

(3)歌う・演奏する...発声法や、童謡・手遊びうたを中心としたピアノ演奏法を知る。

(4)表現する...簡単なアンサンブル・合奏を経験し、演奏技術や表現力を高める。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ピアノ課題に対し消極的である。	ピアノ課題に取り組もうとする。	ピアノ課題に対し、積極的に取り組み、習得しようとする。	ピアノ課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。
知識・理解力	音楽の基礎的な知識を理解しようとしなない。	音楽の基礎的な知識を少しでも理解しようとする。	基礎的な知識について深め、子どもの表現活動に活用しようとする。	知識を更に深め、子どもの表現活動に応じた活用方法を考える。
言語力	保育・教育現場で必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表をしようとする。	子どもの音楽についての工夫などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高めようとする。

思考・解決力	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとしなない。	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとする。	練習方法を工夫し、自分にあった方法を見つけようとする。	自分に合った練習方法を重ね、基礎のピアノ演奏技術を身に着ける。
共生・協働する力	グループワークに消極的である。	簡単なアンサンブルや合奏に取り組む。	アンサンブル・合奏における演奏を、グループで工夫する。	アンサンブル・合奏の演奏技術や表現力を高める。
創造・発信力	様々なジャンルに対し、興味を示さない。	様々なジャンルの曲を見つけ、課題として提案する。	提案した曲を聴き、子どもの表現活動にどのように活かすか考える。	レベル3に加え、活用方法について友だちと情報交換する。

【授業計画】

- 第 1 回 譜読みの基礎 (1)
五線譜・音符と鍵盤の位置
全音符・二分音符・四分音符・八分音符と鍵盤上の手フォーム
- 第 2 回 譜読みの基礎 (2)
全休符・二分休符・四分休符・八分休符
十六分音符と十六分休符 ヘ音記号 ハ長調の音階
- 第 3 回 コードについて (1)
ハ長調主要三和音 メジャーコード
コードの見つけ方
- 第 4 回 コードについて (2)
コードの転回形と伴奏形
ブロックコード・アルペジオ・ルート
- 第 5 回 コードについて (3)
G7とマイナーコード
付点二分音符・付点四分音符・付点八分音符
- 第 6 回 拍子について
拍子に合わせた伴奏形と拍子について
- 第 7 回 音符のリズムについて
付点四分音符・付点八分音符の弾き方
- 第 8 回 音階と臨時記号
全音と半音
臨時記号 シャープ・フラット・ナチュラル ト
長調・ハ長調
- 第 9 回 コードについて (4)
ト長調・ハ長調の主要三和音
色々なカデンツの形
- 第 10 回 コード伴奏法応用 (1)
コード省略・ベースライン
- 第 11 回 コード伴奏法応用 (2)
イ短調・ホ短調・ニ短調
- 第 12 回 コード伴奏法応用 (3)

学習してきたことを元に課題にあう伴奏形を考える

第 13 回 簡易伴奏の弾き方と作り方

伴奏譜のアレンジを考える

第 14 回 伴奏の工夫と応用

ピアノ実技テスト曲の解説

第 15 回 ピアノ実技テスト

前期ピアノ実技テスト・講評・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組み、課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

読譜する、鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季 春夏の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940379

『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 音楽講師、音楽指導員として、保育園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。

短大にてピアノ実技指導経験、小学校音楽授業経験あり。

ピアノ実技B

EDC1400B0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

水曜2限

DP4: 思考・解決力

15

南 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場で必要な童謡・小学校歌唱共通教材を中心とした課題に取り組み、現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法の基礎を修得し、教育・保育現場に必要な音楽理論を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。

(2)聴く...様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。

(3)歌う・演奏する...発声法や、童謡、小学校歌唱共通教材を中心としたピアノ演奏法を知る。

(4)表現する...簡単なアンサンブルを経験し、演奏技術や表現力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出来ないことのため、面倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	最低限の課題をこなそうと取り組むものの、もう少し努力すべきだと自覚している。	ピアノや弾き歌い課題について、求められているレベルまでこなすことが出来、更なる努力をしている。	提示された課題だけでなく、音楽技能について自身に未だ不足している力を自覚し、努力を続ける。
知識・理解力	小・中学時代の音楽の授業で習得した知識を殆ど忘れている。	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼・小・特のそれぞれ違う教育現場で、自身の持っている音楽技能を生かす方法を、探求している。

言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしなさい。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディーの構成の関係を理解している。	教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージ出来ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方が出来る。
思考・解決力	課せられた課題ができないと、教育現場で何に困ることになるか考えることを回避している。	技能習得において、身に付いていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	主要三和音を覚え、コードネームを見た瞬時に音構成を把握しながら弾くことが出来る。	主要三和音以外のコードにも興味を持ち、楽譜に表記されていない個所に、コードを当てはめて弾くことが出来る。
共生・協働する力	グループでのアンサンブルに必要な練習を怠る。	アンサンブルを楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブルにおいて、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良いものにしていこうとする意欲がある。	より良い表現のために、ブロックコードだけでなく、自主的にリズムを変えて、演奏効果をねらっている。
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 譜読みの基礎 (1)
五線譜・音符と鍵盤の位置
全音符・二分音符・四分音符・八分音符と鍵盤上の手のフォーム
- 第 2 回 譜読みの基礎 (2)
全休符・二分休符・四分休符・八分休符
十六分休符・十六分休符とへ音記号 ハ長調の音階

- 第 3 回 コードについて (1)
ハ長調主要三和音 メジャーコード
コードの見つけ方 コード奏・基本形
- 第 4 回 コードについて (2)
コードの転回形と伴奏形
ブロックコード・アルペジオ・ルート
- 第 5 回 コードについて (3)
G7とマイナーコード
付点二分音符・付点四分音符・付点八分音符
- 第 6 回 拍子について
拍子に合わせた伴奏形と拍子について
- 第 7 回 付点のリズムについて
付点四分音符・付点八分音符の弾き方
- 第 8 回 音階と臨時記号
全音と半音
臨時記号 シャープ・フラット・ナチュラル
- 第 9 回 コードについて (4)
ト長調・ヘ長調の主要三和音
色々なカデンツの形
- 第 10 回 コード伴奏法応用 (1)
コード省略・ベースライン
- 第 11 回 コード伴奏法応用 (2)
イ短調・ホ短調・ニ短調
- 第 12 回 コード伴奏法応用 (3)
学習してきたことを元に課題にあう伴奏形を考える
- 第 13 回 簡易伴奏の弾き方と作り方
伴奏譜のアレンジを考える
- 第 14 回 伴奏の工夫と応用
ピアノ実技テスト曲の解説
- 第 15 回 ピアノ実技テスト
ピアノ弾き歌いテスト 講評 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループレッスンで童謡・小学校歌唱共通教材を中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。最終週に課題曲のテストを行い、終了後に講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

参考文献などで、読譜したり鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。課外でも構わないので積極的な質問を期待する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。爪が伸びている場合と、授業の目的以外で携帯電話等を使用した場合は減点する。

〔留意事項 (Other Information)〕

五線ノートを初回から持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 春夏の歌 (エー・ティ・エヌ)

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」音楽講師・音楽指導員として、保育園・こども園での合唱、合奏、鍵盤のしどう実務経験あり。
短大にてピアノ実技指導経験、小学校音楽授業経験あり。

ピアノ実技C

EDC1400C0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 前期

水曜3限

DP4：思考・解決力

15

南 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場で必要な童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法の基礎を修得し、教育・保育現場で必要な音楽理論を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。

(2)聴く...様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。

(3)歌う・演奏する...発声法や、童謡・手遊びうたを中心としたピアノ演奏法を知る。

(4)表現する...簡単なアンサンブル・合奏を経験し、演奏技術や表現力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ピアノ課題に対し消極的である。	ピアノ課題に取り組もうとする。	ピアノ課題に対し、積極的に取り組み、習得しようとする。	ピアノ課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。

知識・理解力	音楽の基礎的な知識を理解しようとしな	音楽の基礎的な知識を少しでも理解しようとする。	基礎的な知識について深め、子どもの表現活動に活用しようとする。	知識を更に深め、子どもの表現活動に応じた活用方法を考える。
言語力	保育・教育現場で必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表をしようとする。	子どもの音楽についての工夫などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高めようとする。
思考・解決力	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとし	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとする。	練習方法を工夫し、自分にあった方法を見つけようとする。	自分に合った練習方法を重ね、基礎のピアノ演奏技術を身に付ける。
共生・協働する力	グループワークに消極的である。	簡単なアンサンブルや合奏に取り組む。	アンサンブル・合奏における演奏を、グループで工夫する。	アンサンブル・合奏の演奏技術や表現力を高める。
創造・発信力	様々なジャンルに対し、興味を示さない。	様々なジャンルの曲を見つけ、課題として提案する。	提案した曲を聴き、子どもの表現活動にどのように活かすか考える。	レベル3に加え、活用方法について友だちと情報交換する。

〔授業計画〕

第 1 回 譜読みの基礎 (1)

五線譜・音符と鍵盤の位置

全音符・二分音符・四分音符・八分音符と鍵盤上の手のフォーム

第 2 回 譜読みの基礎 (2)

全休符・二分休符・四分休符・八分休符

十六分音符・十六分休符とへ音記号 ハ長調の音階

第 3 回 コードについて (1)

発ハ長調主要三和音

コードの見つけ方 コード奏・基本形

第 4 回 コードについて (2)

コードの転回形と伴奏形

ブロックコード・アルペジオ・ルート

第 5 回 コードについて (3)

G7とマイナーコード

付点二分音符・付点四分音符・付点八分音符

第 6 回 拍子について

拍子に合わせた伴奏形と拍子について

- 第 7 回 音符のリズムについて
付点四分音符・付点八分音符の弾き方
- 第 8 回 音階と臨時記号
全音と半音
臨時記号 シャープ・フラット・ナチュラル ト
長調・へ長調
- 第 9 回 コードについて (4)
ト長調・へ長調の主要三和音
色々なカデンツの形
- 第 10 回 コード伴奏法応用 (1)
コード省略・ベースライン
- 第 11 回 コード伴奏法応用 (2)
イ短調・ホ短調・ニ短調
- 第 12 回 コード伴奏法応用 (3)
学習してきたことを元に課題にあう伴奏形を考
える
- 第 13 回 簡易伴奏の弾き方と作り方
伴奏譜のアレンジを考える
- 第 14 回 伴奏の工夫と応用
ピアノ実技テスト曲の解説
- 第 15 回 ピアノ実技テスト
前期ピアノ実技テスト・講評・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポ
ート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に
取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器
を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取
り組む。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業
内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を
行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行
う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

読譜する、鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に
慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながら
リズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、
経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ
実技テスト60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季 春夏の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・
エヌ//9784754940379

『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・
エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 音楽講師、音楽指導員として、保育園・こ
ども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。
短大にてピアノ実技指導経験、小学校音楽授業経験あり。

音楽 I

EDC1450BJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

1単位 後期

水曜1限

DP4: 思考・解決力

15

古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ピアノ実技」で習得した技術をもとに、子どもに音楽の楽
しみと、表現する喜びを伝えるために必要なピアノ技術・
歌唱の技術を習得できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. ピアノ課題をこなし、弾き歌いのレパートリーを増やす。
2. 教材を様々な角度から分析したり、自ら教材を作成した
りするための、音楽理論を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育て る力	出来ないこ との克服の ために、面 倒に思っ ている練習 を後回しに して、頑張 ることがで きない。	最低限の課 題をこなそ うと取り組 む者の、も う少し努力 すべきだと 自覚してい る。	ピアノや弾 き歌い課題 について、 求められて いるレベル までこなす ことが出 来、更なる 努力をして いる。	提示された 課題だけで なく、音楽 技能につい て自身に未 だ不足して いる力を自 覚し、努力 を続ける。
知識・理解 力	小・中学校 時代の音楽 の授業で習 得した知識 を殆ど忘れ ている。	楽譜にある 音符や記号 などの情報 を読み取る 力が少し弱 い。	教育現場で 求められる 音楽技能を 理解してお り、未知の ことに対し ては貪欲に 取り組む。	幼稚園・小 学校・特別 支援学校の それぞれ違 う教育現場 で、地震の 持っている 音楽技能を 生かす方法 を、模索し ている。

言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしな	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディー構成の関係を理解している。	教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージで着ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。
思考・解決力	課せられた課題が出来ないと、教育現場で何に困ることになるか考えることを回避している。	技能習得において、身に付いていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	主要三和音を覚え、コードネームを見た瞬時に音構成を把握しながら弾くことが出来る。	主要三和音以外のコードにも興味を持ち、楽譜に表記されていない個所に、コードを当てはめて弾くことが出来る。
共生・協働する力	グループでのアンサンブル演奏に必要な練習を怠る。	アンサンブル演奏を楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブル演奏において、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良いものにしていこうとする意欲がある。	より良い表現のために、ブロックコードだけでなく、自主的にリズムを変えて、演奏効果をねらっている。
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 弾き歌いの姿勢
- 第 2 回 弾き歌いの留意点
- 第 3 回 弾き歌いの目線と発声
- 第 4 回 童謡 発声
- 第 5 回 童謡の表現方法
- 第 6 回 わらべうた 発声

- 第 7 回 わらべうたの表現方法
- 第 8 回 様々なリズムと表記方法 1
4分音符 2分音符
- 第 9 回 様々なリズムと表記方法 2
8分音符 16分音符
- 第 10 回 新しい拍子と付点のリズム
- 第 11 回 リズムアンサンブル
- 第 12 回 季節の歌の表現方法
- 第 13 回 行事の歌の表現方法
- 第 14 回 その他の歌の表現方法
- 第 15 回 ピアノ実技テスト

ピアノ弾き歌いテスト 講評 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グルーブレッスンで童謡・小学校歌唱共通教材を中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内において部分的にオンデマンドで行う場合、前日に manaba でその旨連絡をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ピアノを自宅でよく練習しておくこと
常日頃、様々なジャンルの音楽に触れておくこと
課外でも構わないので積極的な質問を期待する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。爪が伸びていた場合と、授業中の携帯電話使用等、授業に集中していない態度が見られた場合は減点の対象とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。ピアノ演奏に支障が出ることに加え、将来教育者になることを自覚し、子どもへの安全の意識を持って爪を伸ばさないこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

①「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」全国大学音楽教育学会編 音楽之友社

②「幼児の四季 秋冬の歌」早川四郎編曲・編纂 エー・ティ・エヌ

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

音楽 II A

EDC2200A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

木曜 4限

DP2: 知識・理解力

15

古庵 晶子

【科目の教育目標 (Course Description)】

ピアノ技術の基礎及び応用を図り、弾き歌いのレパートリーを増やす。教育・保育現場における複数の鍵盤楽器や、他の楽器を使用したアンサンブルの必要性を理解し、他者とともに演奏する喜びを感じ取る。物語を音楽で演出するなどの方法で、表現の幅を広げ、楽しい音楽活動をプロデュースできる保育者・教育者を目指す。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 子どもの歌の歌唱を通して音楽理論を身につける。
2. ピアノ譜の読譜の前段階として、子どもの歌の基礎的なコード奏を習得する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ピアノ技術の基礎及び応用に対し消極的である。	ピアノ技術の基礎及び応用に対し、取り組もうとする。	応用する方法について具体的に考えようとする。	レベル3に加え、子どもの表現活動に活用する方法を身につける。
知識・理解力	コードについて、理解しようとしていない。	コードについて、理解しようとする。	新しいコードを習得し、転回形について理解しようとする。	曲の中で転回形を使いこなせるようにする。
言語力	弾きながら語ることに興味を示さない。	弾きながら語ることに挑戦しようとする。	演奏しながら、場面に応じた語りを考え、実践する。	その場面に必要な声かけ、語り、演奏について考え、実践力として身につける。
思考・解決力	音楽理論の習得に対し、消極的である。	音楽理論の習得に取り組もうとする。	子どもの歌唱活動の中で音楽理論を学ぼうとする。	子どもの歌唱活動の中で必要な音楽理論を身につける。

共生・協働する力	アンサンブルの必要性に対し理解しない。	アンサンブルの必要性を理解できる。	複数の鍵盤楽器やアンサンブルに対し、積極的に取り組もうとする。	他者とともに演奏する楽しさを感じ取る。
創造・発信力	物語を音楽で演出する方法に興味を示さない。	物語に効果音を取り入れる経験をする。	物語に適した効果音を考え、実践しようとする。	レベル3をグループで行い、子どもにとって楽しい音楽活動をプロデュースする力を身につける。

【授業計画】

- 第 1 回 臨時記号
- 第 2 回 五度圏
- 第 3 回 長調の音階と楽曲
- 第 4 回 短調の音階と楽曲
- 第 5 回 キーボードのアンサンブル
- 第 6 回 シンコペーションのリズム
- 第 7 回 キーボードと他の楽器によるアンサンブル
- 第 8 回 転調の方法
- 第 9 回 装飾音の弾き方
- 第 10 回 付点のリズム
- 第 11 回 半音階
- 第 12 回 効果音と挿入方法
- 第 13 回 物語をベースにしたアンサンブル
- 第 14 回 課題発表会
- 第 15 回 ピアノ実技テスト・講評・まとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

グループレッスンと個別レッスンを交互に行い、リズム活動・アンサンブルの経験を重ねる。音楽活動の企画を練り、物語に効果音を挿入して音楽作品に仕上げる体験を行う。音楽理論の理解を確実にするために小テストを行い、最終授業でピアノ実技テスト・講評・まとめを行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

ピアノや弾き歌いの実技は毎日の積み重ねが不可欠なため、自宅での練習を怠らないこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

15

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%

〔留意事項 (Other Information)〕

音楽ノートを毎回持参のこと。可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。積極的な自習と質問を期待する。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『どこから始めてもOK なるほど! バイエル1』/古庵晶子 他/サーベル社/2009/2009 978-4-88371-514-5

早川四郎編曲・編纂: 幼児の四季 秋冬の歌 (エー・ティ・エヌ)

早川四郎編曲・編纂: 幼児の四季 春夏の歌 (エー・ティ・エヌ)

全国大学音楽教育学会編 音楽之友社「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年のあゆみ」

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

音楽 II B

EDC2200B0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

金曜 4限

DP2 : 知識・理解力

15

古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

リコーダーやその他の楽器を使用したアンサンブルの必要性を理解し、他者ととともに演奏する喜びを感じ取る。イメージを音楽で演出するなどの方法で、表現の幅を広げ、楽しい音楽活動をプロデュースできる教育者をを目指す。希望がある場合は、ピアノの弾き歌いチェックも行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. リコーダーアンサンブルを通して、音の調和の美しさを感じ取る。
2. その他の楽器のアンサンブルを通して、協働の音楽の楽しさを知る。
3. 小学校音楽科における音楽づくりの基礎を実践し、音楽づくりに対する迷いをなくす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	出来ないことの克服のために、面倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	最低限の課題をこなそうと取り組む者の、もう少し努力すべきだと自覚している。	アンサンブルで求められているレベルまでこなすことが出来、更なる努力をしている。	提示された課題だけでなく、音楽技能について自身に未だ不足している力を自覚し、努力を続ける。
知識・理解力	小・中学校時代の音楽の授業で習得した知識を殆ど忘れていている。	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼稚園・小学校・特別支援学校のそれぞれ違う教育現場で、地震の持っている音楽技能を生かす方法を、模索している。
言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしない。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディー構成の関係を理解している。	保育・教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージで着ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。
思考・解決力	課せられた課題が出来ないと、教育現場で何に困ることになるか考えることを回避している。	技能習得において、身に付いていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	楽譜を見て、音構成を把握しながら相応しい音について考える。	メロディーしかない楽譜に相応しい楽器を考え、音の出し方を工夫できる。
共生・協働する力	グループでのアンサンブル演奏に必要な練習を怠る。	アンサンブル演奏を楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブル演奏において、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良いものにしていく意欲がある。	合奏におけるより良い表現のために、お互いの演奏効果を考えることができる。
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を	保育者・教育者として技能習得の必要性を理	他の表現系の授業において、本授業で得た知	保育・教育現場における音楽の重要性を理解

	感じていない。	解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	識と技能を十分に生かすことが出来る。	し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。
--	---------	------------------------	--------------------	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 リコーダー演習 1
3～4 年生の教材研究
- 第 2 回 リコーダー演習 2
4～5 年生の教材研究
- 第 3 回 リコーダー演習 3
5～6 年生の教材研究
- 第 4 回 音楽づくり演習 1
既成打楽器（音程のない打楽器）による表現
- 第 5 回 音楽づくり演習 2
既成打楽器（音程のある打楽器）による表現
- 第 6 回 物語の音楽 1
絵本（文字あり）の音楽と効果音
- 第 7 回 物語の音楽 2
絵本（文字無し）の音楽と効果音
- 第 8 回 合奏の演習 1
幼稚園向きの楽曲
- 第 9 回 合奏の演習 2
小学校低学年の教材
- 第 10 回 合奏の演習 3
小学校中学年の教材
- 第 11 回 合奏の演習 4
小学校高学年の教材
- 第 12 回 絵から起こす音の演習 1
絵からストーリーを作成する
- 第 13 回 絵から起こす音の演習 2
ストーリーのBGMを構成する
- 第 14 回 リコーダーのテスト
リコーダー課題のテスト 講評 まとめ
- 第 15 回 課題発表会
アンサンブル課題の発表 講評 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

グループワークまたは全体での取り組みが中心となる。様々な形態の音のアンサンブルを経験する。授業中にミニレポートを提出する。リコーダーのテストを行う。授業内発表を行う。最低15名前後の履修者が揃わないと実施できない回が多いので、履修者が少ないためにアンサンブルが困難な場合は、ディスカッションの上、授業内容を変更することがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

ソプラノリコーダーは小学校で既習の場合が多いので、練習を怠りがちになりその場限りになりがちであるが、回ご

とに楽曲が変わるときがあるので、前もって練習しておくこと。合奏は授業時以外の個人では練習に限界があるため、DVDやインターネット動画などで、プロの演奏家から幼児まで、普段聴く機会のないジャンルのもので、出来るだけたくさん視聴する機会を持ち、イメージを膨らませること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度20% 提出物40% 指導案40%とし、総合的に評価する。爪を伸ばしている場合と、授業と関連のない目的での携帯電話使用等、授業外の行為が見られた場合は減点の対象とする

〔留意事項（Other Information）〕

最低15名前後の履修者が揃わないと実施できない回が多いので、履修者が少ないためにアンサンブルが困難な場合は、ディスカッションの上、授業内容を変更することがある。積極的な自習と質問を期待する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

吉沢実編著『リコーダーアンサンブルの基礎と技法』全音楽譜出版社

柳生力著『ふえのほん』コトブキ楽器出版

北村俊彦『笛星人』トヤマ出版

山田俊之著『楽しいボディーパーカッション①～③』音楽之友社

サティスN. コールマン著 丸林実千代訳『子どもと音楽創造』開成出版 ほか

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

音楽 III A

EDC2250A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期

木曜 4限

DP2 : 知識・理解力

15

古庵 晶子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「音楽が子どもの成長・発達において果たす役割を知る」をテーマに、子どもの発達段階を理解し、教育・保育現場に必要な歌唱技術やピアノの伴奏方法を習得し、深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの歌の歌唱を通して音楽理論を身につける。
2. 子どもの歌伴奏に必用なコード奏とその応用を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	音楽が子どもの成長・発達において果たす役割について、興味を示さない。	音楽が子どもの成長・発達において果たす役割について、理解しようとする。	子どもの発達段階を踏まえ、それぞれの年齢に必要な歌唱技術、ピアノ伴奏法を習得しようとする。	教育・保育現場で必要な歌唱技術やピアノ伴奏法について、更に深めようとする。
知識・理解力	音楽理論に対し、興味を示さない。	音楽理論に対し、理解しようとする。	子どもの歌唱活動を通して、音楽理論を身につけようとする。	レベル3に加え、現場で実践する際に必要な知識を習得する。
言語力	保育・教育現場で必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表しようとする。	子どもの音楽についての工夫や、導入などについて発表できる。	子どもの音楽についての活動の流れを組み立て、発表する力を身につける。
思考・解決力	子どもの歌伴奏に必要なコードとその応用について考えようとしなない。	コードの応用について考えてみようとする。	子どもの歌活動に必要なコードの応用に具体的に考え、実践してみる。	様々な調の中で、コードの応用について考え、実践力として身につける。
共生・協働する力	リズムアンサンブル、合奏に対して消極的である。	リズムアンサンブル、合奏に挑戦しようとする。	アンサンブルにおける役割、担当等についてグループで考えることができる。	グループでアンサンブルの演奏技術を高めることができる。
創造・発信力	イントロ、エンディング作りについて消極的である。	イントロ、エンディング作りについて取り組もうとする。	アレンジを積極的に行う。	グループでアレンジを工夫し、発表する力を身につける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 手遊び歌 1
姿勢・奏法
- 第 2 回 手遊び歌 2
イントロとエンディング

- 第 3 回 手遊び歌 3
身体表現を取り入れた伴奏法
- 第 4 回 コードワーク 1
グループワークによる編曲
- 第 5 回 コードワーク 2
グループワークによるイントロ作り
- 第 6 回 カデンツ 1
子どもの歌の伴奏を工夫する (基本形)
- 第 7 回 カデンツ 2
子どもの歌の伴奏を工夫する (展開形)
- 第 8 回 移調
子どもの声域を考える
- 第 9 回 転調
- 第 10 回 アンサンブル 1
編成・記譜の方法
- 第 11 回 アンサンブル 2
鍵盤楽器・打楽器の記譜方法
- 第 12 回 アンサンブル 3
アンサンブル課題発表会
- 第 13 回 リハーサル
ピアノソロ・弾き歌い
- 第 14 回 ピアノソロ・弾き歌い課題発表会
- 第 15 回 ピアノ実技テスト・講評・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

童謡・手遊びうたを、保育の様々な場面で演奏することを想定し、子どもの成長段階を踏まえた演奏方法を考える課題に取り組み、それに必要な歌唱・伴奏技術を習得する。また、弾き歌い、合奏、キーボードアンサンブルに取り組み、授業内発表を行う。最終授業でピアノ実技テスト・講評・まとめを行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ピアノや弾き歌いの実技は毎日の積み重ねが不可欠なため、自宅での練習を怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%とし、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

音楽ノートを各自準備し、毎回持参すること。可能な限り様々なジャンルの音楽に触れておくこと。積極的な自習と質問を期待する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 秋冬の歌（エー・ティ・エヌ）

早川四郎編曲・編纂：幼児の四季 春夏の歌（エー・ティ・エヌ）

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

音楽III B

EDC2250BJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期

金曜3限

DP2：知識・理解力

15

古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

小学校音楽科で使用する楽器によるアンサンブルの必要性を理解し、他者ととともに演奏する喜びを感じとる。イメージを音で演出することを重点に、楽しい音楽活動をプロデュースできる教育者を旨とする。教員採用試験の過去問の取り組みやピアノの弾き歌いチェックは、希望があれば実施する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. リコーダーアンサンブルを通して、音の調和の美しさを表現できる。
2. リコーダーの副教材の新旧の比較を行い、基礎練習の重要性を知る。
3. その他さまざまなアンサンブルを通して、協働の音楽の楽しさを伝える方法を見いだせる。
4. 小学校音楽科における音楽づくりを実践し、方法を考えることができる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出来ないことのため、面倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	最低限の課題をこなそうと取り組む者の、もう少し努力すべきだと自覚している。	アンサンブルで求められているレベルまでこなすことが出来、更なる努力をしている。	提示された課題だけでなく、音楽技能について自身に未だ不足している力を自覚し、努力を続ける。

知識・理解力	小・中学校時代の音楽の授業で習得した知識をほとんど忘れている。	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼稚園・小学校・特別支援学校のそれぞれ違う教育現場で、自身の持っている音楽技能を生かす方法を、模索している。
言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしない。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に特に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディー構成の関係を理解している。	保育・教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージで着ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。
思考・解決力	課せられた課題が出来ないと、教育現場で何に困ることになるかを実感できない。	技能習得において、身につけていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	楽譜を見て、音構成を把握しながら相応しい音について考える。	メロディーしかない楽譜にふさわしい楽器を考え、音の出し方を工夫できる。
共生・協働する力	グループでのアンサンブル演奏に必要な練習を怠る。	アンサンブル演奏を楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブル演奏において、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良いものにしていこうとする意欲がある。	合奏におけるより良い表現のために、お互いの演奏効果を考えることが出来る。
創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ソプラノリコーダーの演習 1
リコーダー副教材の研究と演習 (1970年代)
- 第 2 回 ソプラノリコーダーの演習 2
リコーダー副教材の研究と演習 (1990年代以降)
- 第 3 回 その他のリコーダーの演習
様々な種類のリコーダーアンサンブル
- 第 4 回 キーボードアンサンブル 1
様々な音色でのアンサンブル
- 第 5 回 キーボードアンサンブル 2
キーボードと打楽器のアンサンブル
- 第 6 回 小学校用合奏教材の演習 1
中学年用教材
- 第 7 回 小学校用合奏教材の演習 2
高学年用教材
- 第 8 回 音楽づくりの演習 1
リズムリレーと楽曲構成
- 第 9 回 音楽づくりの演習 2
ボディーパーカッション
- 第 10 回 音楽づくりの演習 3
手作り楽器演習 (打楽器)
- 第 11 回 音楽づくりの演習 4
手作り楽器演習 (管楽器)
- 第 12 回 音楽づくりの演習 5
既成楽器と手作り楽器の組み合わせ
- 第 13 回 合奏教材の研究
歌唱教材の編曲
- 第 14 回 授業研究
ユニバーサルデザインの合奏授業
- 第 15 回 器楽指導案作成
器楽合奏の略案作成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループワークまたは全体での取り組みが中心となる。様々な形態の音のアンサンブルを経験する。それぞれの留意点から指導メモを作成し、提出する。器楽指導の指導案を作成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

合奏は授業時以外の個人では練習に限界があるため、DVD やインターネット動画などで、プロの演奏家から幼児まで、普段聴く機会のないジャンルのもので、出来るだけたくさん視聴する機会を持ち、イメージを膨らませること。手づくり楽器のための下調べをしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の取り組み40% 提出物30% リコーダーのテスト30%とし、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

最低15名前後の履修者が揃わないと実施できない回が多いので、履修者が少ないためにアンサンブルが困難な場合は、

ディスカッションの上、授業内容を変更することがある。積極的な自習と質問を期待する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

吉沢実編著『リコーダーアンサンブルの基礎と技法』全音楽譜出版社

柳生力著『ふえのほん』コトブキ楽器出版

北村俊彦『笛星人』トヤマ出版

山田俊之著『楽しいボディーパーカッション①～③』音楽之友社

サティスN. コールマン著 丸林実千代訳『子どもと音楽創造』開成出版 ほか

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家庭

EDP2200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期集中

その他

DP2 : 知識・理解力

60

平野 江美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

家庭科教育の意義、目標、特質、歴史など基礎的事項の理解と家庭科の授業実践に関する内容を習得し、家庭科教育の課題と展望について考察する。

小学校における家庭科教育について理解を深めるため、家庭生活に視点をあて、食生活・衣生活を中心とする基礎的事項と各領域の研究動向等を理解する。さらに、自分の生活を見直し、充実した家庭生活を営むために応用・発展できる力、自信を持って教育実習に臨める知識と技能を身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・家庭科教育の特質と小学校家庭科が果たす役割について理解する。

- ・具体的な学習指導内容を通して、実践的能力を養う。

- ・家族との関わりを考えながら、家庭生活に必要な知識と技能を身につける。

- ・家族の一員としての自覚と生活を工夫できる実践的な態度を養うにはどうすればよいか探究する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	家庭の生活をふり返らない。	家族の一員として家庭生活を送る。	家庭や地域社会の一員であることを意識して家庭生活を送る。	家庭や地域社会の一員として家庭生活を創り出せる。
知識・理解力	家庭科の教科の内容を知らない。	小学校の家庭科の内容を理解している。	小学校の家庭科の内容を理解し、自身の生活と関連づけて考える。	小学校及び中学校・高等学校の家庭科の学習内容を理解している。
言語力	自身の生活に起こっていることが説明できない。	自身の生活で起こっていることを説明することができる。	自身の生活における事象について、学習したことをつかって説明できる。	自身の生活において起こっている事象について専門的な用語も交えて説明できる。
思考・解決力	自身の生活と学びを結びつけない。	学習したことを自身の生活に取り入れる。	学習したことを自身の生活に取り入れ、よりよい生活を築こうとする。	学習したことをさらに工夫して自身の生活に取り入れ、生活を創造する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 家庭科の構成（家庭科の3つの領域）、学習計画について
- 第 2 回 A 家族・家庭生活（1）家族のあり方、自分の成長と家族
- 第 3 回 A 家族・家庭生活（2）生活時間、家族や地域社会とのかかわり方
- 第 4 回 B 衣食住の生活〈食生活〉（1）食事の意味、五大栄養素
- 第 5 回 B 衣食住の生活〈食生活〉（2）調理実習について、食品の調理特性
- 第 6 回 B 衣食住の生活〈食生活〉（3）調理の基礎（用具の扱い）
- 第 7 回 B 衣食住の生活〈食生活〉（4）食品の衛生と安全、1食分の献立の作成
- 第 8 回 B 衣食住の生活〈衣生活〉（1）衣服の役わり、快適な衣生活
- 第 9 回 B 衣食住の生活〈衣生活〉（2）繊維製品の取り扱い、基礎的な技能（手縫い）
- 第 10 回 B 衣食住の生活〈住生活〉（1）住まいと健康
- 第 11 回 B 衣食住の生活〈住生活〉（2）快適な住まい方
- 第 12 回 C 消費生活・環境（1）環境に配慮した生活
- 第 13 回 C 消費生活・環境（2）よりよい商品の購入
- 第 14 回 C 消費生活・環境（3）消費者をまもるしくみ
- 第 15 回 学習のまとめ 「家庭科を学ぶ」 ことについてグループ討論を行う

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義
- ・実習（調理・小物製作）
- ・レポート（家庭での実践記録や学びを教育にどう生かすか）
- ・発表

☆ 作品やレポート等に対しては、小学校教員として基礎的な知識技能の習得や見方考え方ができているかどうかを評価の上、返却する。

☆ 授業における発表等に対しては、その場で小学校教員としての視点から評価を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分自身の生活を見直してみましょう。

まず、自分が生活の主体者となることが大切です。

毎日何気なくやっていることにも理由があります。「なぜ」と立ち止まってみてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

課題レポート・提出物（40%）、小テスト・作品（30%）、まとめのレポート（30%）

〔留意事項（Other Information）〕

調理や小物製作など講義の中で実習を行う。その際には、小学校の授業で使用する程度の準備物が必要となる。詳しくは、授業で指示を行う。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『小学校学習指導要領解説 家庭編』/東洋館出版社/2018/978-4-491-03466-9/学内販売予定

『初等家庭科教育』/原清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹監修、三沢徳枝・勝田映子編著/ミネルヴァ書房/2019/978-4-6230-8204-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

新しい家庭5・6/浜島京子・岡陽子ほか/東京書籍/2020/978-4-487-10590-8

わたしたちの家庭科/鳴海多恵子・石井克子・堀内かおるほか/開隆堂/2020/978-4-304-08086-9

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

小学校及び小中一貫校において教員経験がある。

現在は、小学校教員である。

家庭科指導法

EDP2452N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期集中

その他

DP4: 思考・解決力

60

幼小・小特必修

平野 江美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

今日の家庭科教育の特徴と小学校家庭科が果たす役割について知るとともに、児童の実態をふまえた家庭科学習のあり方を、具体的な学習指導計画の作成を通じて実践的に検討し提案することができるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・小学校家庭科の内容とねらいについて理解を深める。
- ・授業設計について理解し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。
- ・模擬授業を評価することで授業の改善点・改善方法を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習指導要領解説(家庭編)を知らない。	学習指導要領解説(家庭編)を理解している。	学習指導要領解説(家庭編)を理解し、授業の構想に使うことができる。	学習指導要領解説(家庭編)を完全に理解し、授業の構想に自由に活用できる。
言語力	教科書に書かれていることが理解できない。	教科書に書かれていることについて児童に説明できる。	教科書に書かれていることについて、児童にわかりやすい例を用いて説明できる。	児童の思考を考えながらことばを選んで授業を作ることができる。
思考・解決力	授業を構想することができない。	授業を構想し、模擬授業を実施することができる。	目標を立てて授業を構想し、目標を達成するための授業を構想する。	目標を意識しながら主体的な課題解決に向けた授業の構想をする。
共生・協働する力	自分中心に授業を構想する。	指導者グループで話しあって授業を構想する。	児童生徒を意識して授業を構想する。	児童生徒の学びや成長を意識しながら授業を構想する。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

小学校家庭科の役わりと育てたい力小学校学習指導要領の目標と内容、小・中・高のつながり、他教科・領域との関連

第 2 回 A「家族・家庭生活」

A「家族・家庭生活」の内容について理解する

第 3 回 B「衣食住の生活」

B「衣食住の生活」の内容について理解する

第 4 回 C「消費生活・環境」

C「消費生活・環境」の内容について理解する

第 5 回 授業の構想・運営

授業の準備と予備実験、用具の管理

第 6 回 学習指導について

学習指導案の読み方と作成の方法、指導と評価

第 7 回 教材研究

教材のとらえ方や指導計画の立て方について

第 8 回 本時案の作成

本時案の作成の方法について、本時案の作成

第 9 回 授業の準備

様々な授業について、家庭での体験を学習に生かすこと(家庭との連携)、実習・実験と安全の確保、模擬授業のあり方

第 10 回 家族・家庭生活の授業

家族・家庭生活にかかわる指導案の検討と模擬授業

第 11 回 衣生活・住生活の授業

衣生活・住生活にかかわる指導案の検討と模擬授業

第 12 回 食生活の授業

食生活にかかわる指導案の検討と模擬授業

第 13 回 消費生活の授業

消費生活にかかわる指導案の検討と模擬授業

第 14 回 環境の授業

環境にかかわる指導案の検討と模擬授業

第 15 回 まとめ

模擬授業後の修正学習指導案の作成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義と演習・実習を併用する。・学習指導案の作成にむけた教材研究を大切にする。
- ・学習指導案の作成と模擬授業…授業者は、授業づくりを大切にする。児童役は、児童の目線で授業を分析する。
- ・レポート…自身の生活と照らし合わせながら、子どもたちにどのような力をつけたいのか考えながら作成する。
- ☆ 指導案やレポートについては、小学校教員として子どもたちに教育を行うという観点で作成ができていくかどうかを評価して返却する。
- ☆ 模擬授業については、学習指導要領の内容と児童の実態などを関連づけて構成されたものであるかどうかを評価して返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校学習指導要領解説家庭を熟読する。テキストに採用する児童用教科書を熟読する。

食生活・衣生活等の実習項目を実際に家庭で実践する。

詳細は授業時に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎時間の小レポート (20%)、学習指導案作成力 (30%)、模擬授業実践力 (30%)、授業評価分析 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数の多寡により模擬授業と授業計画時数の変更あり
模擬授業の内容により、小学校家庭科で使用する程度の準備物が必要な場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新しい家庭5・6』/浜島京子・岡陽子他/東京書籍/2020/978-4-487-10590-8/学内販売予定

『小学校学習指導要領解説 家庭編』/東洋館出版社/2018/978-4-491-03466-9/学内販売予定

『初等家庭科教育』/原清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹監修、三沢徳枝・勝田映子編著/ミネルヴァ書房/2019/978-4-6230-8204-9/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初等家庭科教育』(MINERVAはじめて学ぶ教科教育8)/河村美穂/ミネルヴァ書房/2020/9784623087815

『わたしたちの家庭科』/鳴海多恵子・石井克枝・堀内かおるほか/開隆堂/2020/978-4304080869

これまでに発行された教科書が大学図書館等にある。

(使用期間外のため購入することはできない)

『新編新しい家庭5・6』/渡邊彩子他/東京書籍/2015/9784487104901

『わたしたちの家庭科』/内野紀子他/開隆堂/2015/9784304080647

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

小学校及び小中一貫校において教員経験がある。

現在は、小学校教員である。

介護等体験A

EDR3600A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次 3年次

1単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

15

集中

太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援学校や社会福祉施設における介護等の体験を通じて、学生自らが個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図ることを目的としている。また、障害のある児童生徒や、支援を必要としている人とのふれあいを通して、お互いを尊重し、思いやりの心を育み、共に生きる社会の原動力になれることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 介護等体験の制度とその趣旨について理解し、手続きを適切に行う。

(2) 体験にあたっての心構えや体験先でのマナーについて社会人基礎力の観点も踏まえて理解する。

(3) 特別支援学校における介護等体験の実際について理解する。

(4) 社会福祉施設における介護等体験の実際について理解する。

(5) 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、介護等の体験を行う。

(6) 体験を振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	教職について自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	教職に就くにあたり目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	将来教職に就く者として、何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしな	教職に関して学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのか	教職に関して学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席しているだけで、教職に就く者として、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	教職に関する自分の学びを振り返り、考えることができる。	教職に関して新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、教職に関する協働の活動等に積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前指導：介護等体験の制度と趣旨、申込手続きについて
- 第 2 回 事前指導：介護等体験にあたっての心構え（上級生の体験発表）
- 第 3 回 事前指導：アイマスクを使った体験、車椅子の介助方法
- 第 4 回 事前指導：体験日誌の記入について
- 第 5 回 事前指導：特別支援学校における介護等体験
- 第 6 回 事前指導：社会福祉施設における介護等体験（ゲストスピーカーによる講義）
- 第 7 回 事前指導のまとめ
- 第 8 回 特別支援学校における介護等体験～1日目
- 第 9 回 特別支援学校における介護等体験～2日目
- 第 10 回 社会福祉施設における介護等体験～1日目
- 第 11 回 社会福祉施設における介護等体験～2日目
- 第 12 回 社会福祉施設における介護等体験～3日目
- 第 13 回 社会福祉施設における介護等体験～4日目
- 第 14 回 社会福祉施設における介護等体験～5日目
- 第 15 回 事後指導：体験の振り返り
各自の体験レポートを小グループで発表し合い、学んだことを共有する。その後、全グループの体験概要を共有することで、教職を目指す者としての自覚を深める。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 事前指導は講義を中心とするが、適宜演習等も取り入れられる。
2. 事後指導ではグループ討議等を行う。
3. 毎講義後レポート提出を義務づけている。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・事前指導までにテキストを必ず読んで予習しておくこと。
- ・教育現場で必要と思われるルールやマナーを、学生としてではなく将来教職に就く者として、日頃から守るよう心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

学生としてではなく、社会人基礎力を身につけた、将来教職に就く者として、ルーブリックに示す項目から総合的に評価する。

毎回のレポート 40% 個別課題(1)(2)(3)(4)に対応
日誌 20%、報告書 20% 個別課題(3)(4)(5)に対応
グループワークへの参画や発表をルーブリックに示す視点から総合的に評価 20% 個別課題(3)(4)(6)に対応
〔留意事項（Other Information）〕

1. 学生便覧の**教育職員免許状取得に関するページ**（「はじめに」は必読）を熟読しておくこと。
2. 正当な理由なく欠席することは認めない。また、ルーブリックに示したように、出席していても、受講態度等が欠席等と同様と考えられる場合（例：出席しているが席で寝ていて講義・演習等に参加していない。教員の指示がない場面でスマホ等を操作している。離席が多い等）は、欠席等とみなす場合がある。
3. 学生便覧に書かれている通り、卒業後、**教職に就くことを希望する者が教育職員免許状を取得**するのが原則である。そのことを理解していることを前提に、事前指導において申込書・誓約書の提出を求める。
4. 4年次生は、体験時期が2月以降になった場合、単位認定できないことがある。
5. 特別支援学校と社会福祉施設の目的や事業内容について事前学習を行い、体験に向けて目標を設定すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『介護等体験ガイドブック 新フィリア』/全国特別支援学校長会編著/ジアース教育新社/2020/978-4-86371-522-6/学内販売予定

『第5版 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』/増田雅暢執筆代表/全国社会福祉協議会/全国社会福祉協議会/2018/978-4-7935-1277-3/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『介護等体験マニュアルノート』〔2019年12月改訂版〕/東京都社会福祉協議会/東京都社会福祉協議会/2019/978-4-86353-283-0

『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック五訂版』/現代教師養成研究会編/東京大修館書店/2020/9784469268768

〔参考URL(URL for Reference)〕

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)において教員として勤務経験あり。

環境教育

EDC3450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜4限

DP4: 思考・解決力

60

定員30人

小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

環境問題は、現在人類共通の最重要課題の1つとなっている。それに応じて、環境教育は世界的視野から見て、ますますその必要性が高まっている。本科目の目標は、環境問題の認識や環境教育の目的、指導法について理解することである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・「環境」「環境問題」について説明することができる。
- ・環境教育の背景や目的、指導について理解している。
- ・環境教育の重要性を認識することができる。
- ・学校における環境教育の現状や課題について考察することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	地球規模の環境問題について、説明することができない。	地球規模の環境問題について、ある程度説明することができる。	地球規模の環境問題について、説明することができる。	

思考・解決力	環境教育の目的やESD、SDGsの理解が不十分であり、環境教育実践にどうつながるか考察できない。	環境教育の目的やESD、SDGsについて理解し、それらが環境教育実践にどうつながるか、ある程度考察することができる。	環境教育の目的やESD、SDGsについて十分に理解し、それらが環境教育実践にどうつながるか、考察することができる。	レベル3に加えて、環境教育の目的やESD、SDGsの考え方を組み込んだ授業づくりを行うことができる。
--------	--	--	---	--

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション<対面>
- 第2回 環境問題の顕在化<対面>
- 第3回 調べ学習(環境問題レポートの作成・発表準備)<個別学習>
- 第4回 レポート発表<オンライン>
- 第5回 環境教育の系譜、目的、ESD、SDGs<対面>
- 第6回 環境教育と学校教育(ESD for SDGs、理科とのかわりを中心に)<対面>
- 第7回 エコバスツアー(外部機関との連携について)
- 第8回 エコバスツアー(見学)
- 第9回 エコバスツアー(京都市のごみ処理・減量化の取り組み)
- 第10回 エコバスツアー(振り返り・グループディスカッション)
- 第11回 エネルギー教育・防災教育<対面>
- 第12回 自然体験教育<対面>
- 第13回 ごみの分別・減量化の取り組み<対面>
- 第14回 総括レポートの作成<個別学習>
- 第15回 レポート発表とまとめ<対面>

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義に加え、学外学習や調べ学習・発表等、参加・体験型の授業を行う。
- ・一部、オンラインによる授業を行う予定なので、授業時のアナウンス等に留意すること。
- ・提出されたレポートについては、コメントしたり、全体に対してフィードバックしたりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、今日話題となっている環境問題に目を向け、その問題や課題について自分なりに考えてみるのが大切である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

課題レポート(20%×3本)60%, 授業内小レポート(5%×4本)20%, 授業参加度(responによる授業の振り返りコメント等)20%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の実態や教材の準備状況によって学習内容を変更することがある。

第7～10回は、授業日以外の6月（予定）の土曜日に学外学習として連続して実施する予定なので留意すること。詳細は、初回のオリエンテーションで伝える。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし

授業の資料は、適宜提示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』/国立教育政策研究所 教育課程研究センター/東洋館出版社/2014/978-4491030630

『総合的な学習の時間』/森田真樹・篠原正典（編集）/ミネルヴァ書房/2018/978-4623081912

『私たちと環境』/太田和子 他/東京教学社/2015/978-4808250164

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 小学校教員として公立小学校での勤務経験あり。

教育の方法と技術

EDN2251NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

月曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

必修

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

幼稚園、小学校の各発達段階において、望ましい教育方法を探求し、その実践を行えるようにする。具体的には、主体的な学びの創造、情報活用能力の育成、アクティブラーニング、社会的構成主義学習理論に基づくコミュニケーションを生かした教育方法等である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

下記の3項目について、理解した上で、その実践的指導を学校教育の指導の中で行えるようにする。

- ・ 思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動
- ・ 情報活用の実践力を育む授業実践方法
- ・ 社会的構成主義学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくり

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

学習指導要領の理解	学習指導要領や幼稚園教育要領を知らない。	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解している	学習指導要領や幼稚園教育要領を完全に理解し、観点ごとの評価に生かそうとする。	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解し、授業や保育に生かすとともに、授業案を創造できる
主体的に学ぶこと	先生主導の教育のみを行っている	子供の状況に配慮しつつ、先生主導の教育を行い、一部子供の自主性を促す	子供のための教材を提供でき、その周辺の知識に詳しく、学習の動機づけをすることができ、自己評価に繋げることができる。	レベル3に加えて子供同士が相互作用を用いながら学ぶ教材を提供でき、授業外でもその学びを子供たちが生かすことができる。
情報機器の活用	情報機器を使うことに抵抗がある。	先生が情報機器を使って授業ができる。	教員が情報機器の特性を理解し、子供が無理なく情報機器を学習のために使えるように、ツールとして提供できる。	レベル3に加えて子供が情報機器の特性を知りながら、子供の自らの学びのために機器を活用するように指導できる。
コミュニケーションを生かした授業	子供の考え方を聞かず、教師の考えだけで授業を進める。	子供の発話を用いた授業を考えることができる	子供の発話や議論を促すためにどのように子供に接するか等の方法を知り、それを生かした授業をしようとする。	レベル3に加えて、子供同士の相互作用を促し、子供が自ら学ぶためにコミュニケーションを活性化しようとする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (対面)
- 第 2 回 教育とは (オンライン)
- 第 3 回 学習理論とは (オンライン)
- 第 4 回 主体的な学び、アクティブラーニングとは (オンライン)
- 第 5 回 主体的な学びを促進する授業の設計 (グループディスカッション, 対面)
- 第 6 回 主体的な学びを促進する授業の相互評価 (グループディスカッション, 対面)
- 第 7 回 主体的な学びを促進する教師の役割 (パネル発表, 対面)
- 第 8 回 教育評価 (オンライン)

- 第 9 回 情報教育の目標と情報活用能力 (オンライン)
 - 第 10 回 情報活用能力の育成 (オンライン)
 - 第 11 回 情報活用の実践力を育てる授業設計1 (対面)
 - 第 12 回 情報活用の実践力を育てる授業設計2 (対面)
 - 第 13 回 情報活用の実践力を育てる授業の相互評価 (パネル発表, 対面)
 - 第 14 回 オンライン授業とその評価 (オンライン)
 - 第 15 回 まとめ 理想の教育方法とは (オンライン)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・対面とオンラインを組み合わせたブレンド型学習を行う
- ・自律型の学習を主とする。
- ・積極的にグループディスカッションに参加し、学習を深めることを期待する。
- ・オンライン学習ではインターネットを介したe-Learningによる授業とする。
- ・評価は自己評価を含む形で行う。
- ・学習を進めるために、responによるコメントの提出を求め、次の回にフィードバックする。
- ・課題に関してはmanaba courseによる提出を行い、その中でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業内で話し合う機会が多いので、教員が提示する各トピックに対して準備を行う必要がある。

これまでのGPAによる準備学習方法

(下記のGPAはあくまでも参考で、自分のレベルにあった準備をしてください)

GPA<1.5の場合 保育内容または各教科の指導法の内容を復習しておいてください

GPAが1.5から3までの場合 上記に加えて、身の回りにある情報機器に興味を持ち、保育・教育の場面での利用を考えておきましょう。

GPA>3.0の場合 上記に加えて、「こどもの教育心理学」の授業から「学習」に関する復習をし、理解しておきましょう。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

基本的には下記の項目について、自己評価を取り入れる。
授業に参加する態度 (40%) 各個人の状況に応じて、出席したかどうかでなく、授業中の態度も含めて、最終授業時に40点満点で自己採点を行う。

課題 (40%) 3回提出の予定である。その都度、教員からレポート内容についての評価項目を示すので、それによって自己評価を行う。

グループへの参加態度 (20%) 最終授業時に行うグループ内相互評価をもとに、教員の示す評価基準で自己採点を行う。

上記の自己採点を基本とし、教員が総合的に判断し、評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

自ら進んで学ぶ態度が必要になります。今すぐに役立つ内容でない部分もありますが、今後のために積極的に学習に参加しましょう。

オンライン学習は、動画配信による授業とResponによるコメント収集(オンデマンド型)で行います。manabaコースの指示に従って進めてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607/学内販売有

※ この中に幼稚園教育要領が含まれています。

〔注意〕 すでに他の授業で購入している場合は、再度購入の必要はありません。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中にその都度提示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

文部科学省 学習指導要領 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm

文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として公立学校での勤務経験あり。

教育経営論

EDB2250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

選択必修

河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

今日的な教育課題に適切に対応する学校経営の在り方、また教育目標を達成するための教育の在り方など、教育の本質的な理解を基盤として、これからの教育経営について、自分の考えが明確に論じられるよう認識を深めていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 公教育制度の歴史と基本的な原理について理解する。
2. 日本の教育行政・学校教育の変遷と特徴を理解する。
3. 学校経営における諸問題について理解し、その解決方法を見出せるようにする。
4. 学校と地域との連携等これからの学校教育のあり方を考察していく。
5. 危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：教育経営の全体像
- 第 2 回 社会の変化と教育「学校を巡る近年の様々な状況の変化」

- 第 3 回 子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題
- 第 4 回 近年の教育政策の動向「学習指導要領改訂の動向」
- 第 5 回 公教育制度の基本原則及び公教育制度を構成している教育関係法規
- 第 6 回 教育制度を支える教育行政の理念と仕組み
- 第 7 回 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿
- 第 8 回 学校評価と学校改善「学校における教育活動の年間の流れと学校評価（PDCAサイクル）の重要性」
- 第 9 回 学級経営と学校経営「学級経営の仕組みと効果的な方法」
- 第 10 回 学校組織マネジメントの重要性「学校経営と予算財務」
- 第 11 回 開かれた学校経営「市民ぐるみ・地域ぐるみの教育」
- 第 12 回 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯
- 第 13 回 学校の危機管理（クライシスマネジメント・リスクマネジメント）の必要性
- 第 14 回 学校をとりまく安全上の課題と安全対策「具体的な事例から」
- 第 15 回 望ましい教育経営とは「教師に求められるリーダーシップと組織対応」

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

学校教育に関わる制度、行政、経営の基本的な原理についての理解を深め、最新の教育経営をめぐる諸問題について具体事例を基に考察していく。パワーポイント等を活用しながら、現在の学校教育経営に関するテーマについてディスカッションを行うなど問題解決的な学習を重視する。レポートについては、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

日常のニュース等に関心をもち、教育に関する今日的課題を見つけておく。A4版のノートまたはファイルを準備し、学習のまとめをする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度(20%)、小レポート(30%)、定期試験(50%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

・対面授業で実施する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教育学の探求－教師の専門的思索のために』/佐藤博志編著 /川島書店/2013年/9.784761008932E12

『新しい時代の教育方法』/橋本美保他/有斐閣/2012年/978464112479E12

『小学校学習指導要領』解説/文部科学省/東洋館出版/平成29年/9784491034614

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 25年(内、教頭6年)

京都市立小学校校長 6年

教育実習事前事後指導

EDN3600N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

3年次

1単位 通年

火曜 5限 その他

DP6: 創造・発信力

15

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 江川 正一 小川 博士 太田 容次 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育実習を有効かつ円滑に行い、実りあるものにするため、事前指導においては、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄や、心構えを確実に身につけることをめざす。さらに事後指導においては、実習を通して学んだ成果や反省をもとに、今後の自己の学習の方向づけを援助することをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

実習の意義をよく理解すること。教育に関する知識や技能を教育の場で再構成できるよう準備すること。実習体験を、今後の自己の教育に活かすよう心掛けること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教員としての自覚が持てない	教員になる心構えを持つ	これまでの学習を生かし、教員としての最初の一步を踏み出そうとする	さまざまな学習を前向きにとらえ、自分のものにしようとする

知識・理解力	教員に対する知識を持っていない。	学習指導要領や教育要領を理解する	学校現場の実情や、現状を理解し、個人情報や学校情報の扱いも理解している。	自ら、ボランティアや学校園見学で知識を増やそうとする
言語力	実習ノートをまとめることができない	教育用語を理解し、ディスカッションできる言語力を持つ	その日にあったことを図示しながらレポートとしてわかりやすくまとめることができる。	外国語を理解し、日本語のわからない子供たちにも積極的にコミュニケーションを取ろうとする
思考・解決力	常に指示を待ち、自ら思考できない。	順序だてて、整理して物事を考えることができる	これまでの学習を生かし、臨機応変にその場の問題を解決しようとする。	1つ1つの出来事を内省し、次のステップに行くために、何をすべきか設計できる。
共生・協働する力	人の学びに興味がなく、一緒に問題を解決しようとするしない。	他の学生や先輩後輩とも共に学ぶために円滑な人間関係を構築できる	教員からの助言を適切に受け取ることができ、他の学生とチームで問題解決にあたることができる	地域の方々や、教員以外の人のリソースも活用した教育を考えることができ、また自らも地域社会に貢献しようとする。
創造・発信力	自分で授業の組み立てができない	授業を創造できる	指導案という形で、授業の概要を示すことができる	研究協議などを主宰することができ、その成果を個人情報に配慮しながらWeb等で発信できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育実習オリエンテーション・教育実習の意義、内容、目的、実習手続、評価の観点(担当: 神月, 藤本, 河佐, 渡邊, 田中, 大西, 小川)
- 第 2 回 教育実習の具体的な内容と心構え, 教育実習担当教員との打ち合わせ(担当: 神月, 藤本, 河佐, 渡邊, 田中, 大西, 小川)
- 第 3 回 授業参観から学ぶこと(担当: 大西)
教育実習ノートの書き方(担当: 藤本)
- 第 4 回 人権教育(道徳教育)(担当: 河佐)

- 第 5 回 人権教育 (情報モラル) (担当: 神月)
- 第 6 回 特別支援教育 (担当: 太田, 江川)
- 第 7 回 幼稚園での実習について (生活指導・指導案作成指導含む) (担当: 特別講師, 田中, 高田)
- 第 8 回 小学校での実習について (生活指導・指導案作成指導含む) (担当: 藤本, 河佐)
- 第 9 回 模擬授業指導案作成・模擬授業教材開発・教材教具の活用 (担当: 小川, 大西, 高田, 田中, 神月)
- 第 10 回 模擬授業 (担当: 小川, 大西, 田中, 神月)
- 第 11 回 模擬授業を踏まえてのリフレクション (担当: 小川, 大西, 田中, 神月)
- 第 12 回 実習中のリフレクションの方法について (担当: 小川, 大西, 田中, 神月)
- 第 13 回 最終確認及び心構え等 (担当: 神月, 藤本, 田中)
- 第 14 回 教育実習事後指導: 実習後のリフレクション, 実習で学んだことをグループで話し合う (担当: 神月, 藤本, 河佐, 渡邊, 田中, 大西, 小川)
- 第 15 回 教育実習事後指導: 実習における問題点の整理、討論 (担当: 神月, 藤本, 河佐, 渡邊, 田中, 大西, 小川)

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 事前事後指導 事前指導にあつては、教育実習に当たつて必要な事柄を理解し、教育実習の心構え等を学ぶ。事後指導においては、教育実習の報告反省会、レポート提出等を行い、教育実習のフィードバックを行う。
2. 文献、参考資料等はその都度配布する。
3. レポート・課題は、できるだけ黒ボールペン・ペンを使用し、修正には修正テープ等は使用しないこと。課題等は全て担当教員が添削の上、返却するので、教育実習に生かすこと。また、内容の不備や文字の修正等は再提出を求めることがある。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

各教科・保育の指導法で学んだ内容を復習しておくこと。事前に配布された資料には目を通しておき、わからない言葉などは辞書やこれまでの使用したテキストなどを用いて、明確にしておくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

10

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

[留意事項 (Other Information)]

1. 教育実習、事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的

能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。

2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

※日程は、原則として、教育実習開始前までに13回目まで終了する。事後指導は11月に行い実習報告会がある。3月の教職課程オリエンテーションで日程は確認すること。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫実務経験等: 神月, 藤本, 河佐, 白瀬, 大西, 小川, 太田, 江川 教員として学校に勤務経験あり

教育相談の理論と方法

EDN3400N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

水曜1限

DP4: 思考・解決力

60

薦田 未央

[科目の教育目標 (Course Description)]

学校現場における教育相談の意義や役割を理解し、基礎知識を習得する。また、幼児・児童・生徒の発達課題を理解し、心身の発達状態を把握する視点と方法を学ぶ。さらに、幼児・児童・生徒およびその保護者や教師が抱える悩みや問題についても理解を深め、カウンセリングの基礎理論や教育相談における支援方法を学ぶ。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 学校における教育相談に関する基礎知識と理論、および相談の意義を理解する。
2. 幼児・児童・生徒を理解する発達の視点と個別の問題を把握する方法を学ぶ。
3. 幼児・児童・生徒自身が発達課題を乗り越えられるような予防・開発的教育、相談支援について理解する。
3. カウンセリングの理論と技法を学び、カウンセリングマインドの必要性を理解する。
3. 不登校、いじめ、非行、虐待、貧困等の家庭背景に派生する問題等について理解し、子どもの発達に応じた相談支援について考える。
4. 幼児・児童・生徒、その保護者の支援について、校内

組織の在り方、相談支援の進め方を理解する。

5. 学校と地域外部専門機関との連携について、その意義と必要性を理解し、方法を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育相談に関する基礎知識	学校における教育相談の対象者について説明できない。	学校における教育相談の対象者、生じている問題についての知識を備え、簡単な説明ができる。	学校における教育相談の対象者、生じている問題、支援者・組織についての知識を備え、簡単な説明ができる。	学校における教育相談の対象者、生じている問題、支援者・組織についての知識を備え、正確かつ詳細に説明できる。
教育相談の機能についての理解	教育相談にはいくつかの機能があることを理解しておらず説明できない。	教育相談の主な機能を言える。	教育相談の主な機能を理解し、その内容をそれぞれ簡単に説明できる。	教育相談の主な機能を理解し、その支援内容や方法について正確に説明できる。
幼児・児童・生徒の発達課題を踏まえた支援方法を理解し、考える。	子どもの発達段階による課題があることを理解できない。	子どもの発達段階による課題は異なることを理解し、説明できる。	子どもの発達段階により課題は異なり、またそれに対する支援方法も異なることが説明できる。	子どもの発達段階により課題は異なり、またそれに対する支援方法についても多様なアプローチがあることを理解し、詳細な説明ができる。
相談支援機関における連携の意義と方法の理解	相談支援において校内および学校外機関、多職種で連携することを理解していない。	相談支援において校内で協働、連携する人の役割や職種について説明できる。	相談支援において校外で協働、連携する人の役割や職種について説明できる。	相談支援において多職種、多機関で連携の必要性や意義について理解し、説明できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育相談の基本概念とその意義
- 第 2 回 幼児・児童・生徒の発達課題（認知・精神の発達）
- 第 3 回 幼児・児童・生徒の発達課題（社会性・道徳性の発達）
- 第 4 回 学級経営と教育相談（予防的・開発的教育）
- 第 5 回 予防的・開発的教育の実際
- 第 6 回 幼児・児童・生徒の理解の方法

- 第 7 回 カウンセリング理論とカウンセリングマインド
- 第 8 回 理解と支援①不登校（児童期）
- 第 9 回 理解と支援②不登校（思春期・青年期）
- 第 10 回 理解と支援③いじめ
- 第 11 回 理解と支援④学習意欲・発達障害
- 第 12 回 理解と予防・支援⑤二次障害・発達課題・精神医学的問題
- 第 13 回 理解と支援⑥非行問題
- 第 14 回 保護者・教師への支援
- 第 15 回 校内連携および専門家・専門機関との連携、まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストは用いず、適宜資料を配布する。講義が中心の授業であるが、授業時間中に小課題を課すことがある。

授業中に行った小課題については、課題日以降の授業内でのコメントまたは個別に評価を返却する。また、期末テストについては、manaba上で受講者全体に向けてのコメント等でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

学校における諸問題や現代の子どもたちの発達に影響する問題について、日常生活で見聞きする報道や文献などを通して、意識的に情報を収集し、考える機会を持っておく。また、自分の考えや意見を表現できるように準備しておく。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業中に行う小課題（20%）、学期末に実施する試験（80%）により総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

講義の内容は、上記の順序が入れ替わることもある。また、状況によっては遠隔授業で行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは用いず、適宜資料を配布する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業で毎回配布する資料にて、紹介、掲載する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として学校現場、医療・保健機関等での支援業務の経験あり。

教育評価 2021年度以降入学者

EDN3250NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

金曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

大西 慎也

【科目の教育目標 (Course Description)】

具体的な教育評価の事例にふれながら、教育評価のありかたや技法について習得する。さらに、目標と指導と評価の一体化を具現した教育評価の意義について理解する。そして、これからの教育評価のあり方について考える。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 教育評価の意義とあり方について理解する。
2. 学習評価の具体例について理解する。
3. 目標と指導と評価のあり方について理解する。
4. これからの教育評価のあり方について考えることができる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	目標準拠評価、形成的評価について理解していない。	目標準拠評価、形成的評価の意味については、理解している。	目標準拠評価、形成的評価の重要性について理解しており、それらを組み込んだ実践案を開発できる。	目標準拠評価、形成的評価の重要性について理解しており、それらを組み込むだけでなく、評価をふまえた改善実践案を開発できる。

【授業計画】

- 第 1 回 教育評価とは何か
教育評価の意義、教育実践における教育評価の位置づけ
- 第 2 回 「テスト」をどう扱うか
「テスト」による評価体験、「テスト」の目的
- 第 3 回 「テスト」に基づく評価のあり方
相対評価と到達度評価、「テスト」の考え方
- 第 4 回 真正の評価にどう取り組むか
パフォーマンス評価とルーブリック
- 第 5 回 真正の評価のありかた
ポートフォリオ評価、ポートフォリオを使った相互評価
- 第 6 回 何を評価するのか
診断的評価・形成的評価・総合的評価
- 第 7 回 幼児・児童理解に基づいた評価の意義

よりよい保育・教育のために

- 第 8 回 幼児・児童理解に基づいた評価の基本的な考え方
よりよい指導につながる記録の活かし方
- 第 9 回 幼児・児童理解に基づいた評価
幼児指導要録と児童指導要録
- 第 10 回 幼児理解に基づいた評価の実際
幼稚園における評価の事例に学ぶ
- 第 11 回 児童理解に基づいた評価の実際
小学校における評価の事例に学ぶ
- 第 12 回 学習指導要領を踏まえた学習評価
目標と指導と評価の一体化
- 第 13 回 学習評価の基本的な流れ
評価規準の作成及び評価の実施
- 第 14 回 児童作品の評価
モデレーション
- 第 15 回 評価にこめる願い
子どもを育むための評価

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

1. 講義
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート

* 提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議の課題として活用したりする。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

配布した資料を熟読してくること。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

毎時間のリフレクションが45%、レポートが55%。

以上により総合的に判断する。

【留意事項 (Other Information)】

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

特に指定しない。

必要な資料は、講義で配布する。

【参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

『はじめて学ぶ教育評価』/佐倉英明/ジアース教育新社/2015/

『新しい教育評価入門』/西岡加名恵・石井英真・田中耕治/有斐閣/2015/

『教育評価との付き合い方』/関田一彦・渡辺貴裕・仲道雅輝/さくら社/2016/

【参考URL(URL for Reference)】

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
 ≪実践的科目≫教職に関わる科目について
 / 小学校教員としての勤務経験あり

教職専門ゼミナール

EDN3603NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜1限

DP6 : 創造・発信力

60

藤本 陽三

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義は文献の講読を通して、教員として必要な資質や知識を身につけることを目標とする。教育現場において教員は教育に関わる法規に則り、その職責の遂行に努めなければならない。また、保育園、幼稚園、小学校、中学校等、他校種間での連携、家庭・地域との連携のあり方等を始めとする様々な教育の今日的課題について理解し、日々実践することが求められる。そこで本講義では、教育法規に関する知識、及び教育の今日的課題についての知識を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教育六法をはじめとする教育法規の通読と考察
- ・西洋教育史、日本教育史についての理解と考察
- ・教育の今日的課題に関する考察と小論文作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育法規の概要についての理解が不十分で、説明することができない。	教育法規についてその概要を理解し、ある程度説明することができる。	教育法規の概要を理解し、教育に関わる事例との関連について説明することができる。	教育に関わるさまざまな事例について、関連する法規を引用して説明することができる。
思考・解決力	教育の今日的課題について、課題解決についての自らの考えを論述することができない。	教育の今日的課題について、課題解決についての自らの考えを論述することができる。	教育の今日的課題について、課題解決についての自らの考えを論述を述べることができる。	教育の今日的課題について、課題解決に向けての取組についての自らの考えを論述を明確にしつつ述べる

学びに向かう力	教員として必要な知識及び思考・解決力について自らの学習課題について説明することができない。	教員として必要な知識及び思考・解決力について自らの学習課題についてある程度説明することができる。	教員として必要な知識及び思考・解決力について自らの学習課題について説明することができる。	教員として必要な知識及び思考・解決力について自らの学習課題と具体的な解決策について説明することができる。
---------	---	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 教職に必要な教養とは何か
- 第 2 回 日本国憲法と教育基本法についての理解
- 第 3 回 学校教育法および学校教育法施行令、学校教育法施行規則についての理解
- 第 4 回 教育公務員特例法,教育職員免許法,学校保健法および学校図書館法についての理解
- 第 5 回 教育行政、教育福祉および人権に関する法規等についての理解
- 第 6 回 西洋教育史についての理解
- 第 7 回 日本教育史についての理解
- 第 8 回 教育の今日的課題についての考察(1) 他校種間、家庭・地域との連携
- 第 9 回 教育の今日的課題についての考察(2) 人権教育
- 第 10 回 教育の今日的課題についての考察(3) 特別支援教育他
- 第 11 回 教育の今日的課題についての考察(4) キャリア教育他
- 第 12 回 小論文 (教育の今日的課題について...他校種間、家庭・地域との連携) 作成
- 第 13 回 小論文 (教育の今日的課題について...人権教育) 作成
- 第 14 回 小論文 (教育の今日的課題について...特別支援教育・キャリア教育他) 作成
- 第 15 回 ふりかえり

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストを用いて講義を行う。小グループでの討論も必要に応じて行う。後半では教育の今日的課題についての考察をもとに小論文を作成、知識の定着をはかる。

*提出されたレポートについては添削の後、返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に配布する文献資料を精読し、理解を深めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は授業参加度 (30%)、小論文 (40%)、最終レポート (30%) によって総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業で資料プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業において指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》／ 教員として学校に勤務経験あり

教職論

EDB1100N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

金曜 3限

DPI : 自分を育てる力

60

必修

河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解
学校教育の現状と課題を理解する。
- 2.教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解
教員の職務や求められる教員の資質を理解する。
- 3.教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。
- 4.学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。

知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしめない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかがわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 公教育の目的と教職を考えることの意義
- 第 2 回 教職の職業的特徴と進路選択
- 第 3 回 教職への進路 「教員養成と教員免許制度」
- 第 4 回 今日の教員に求められる役割
- 第 5 回 教員に求められる基礎的な資質・能力
- 第 6 回 教員の職務の全体像
- 第 7 回 教育公務員としての教師①「服務上・身分上の義務及び身分保障」
- 第 8 回 教育公務員としての教師② 「規範意識の確立とコンプライアンス」
- 第 9 回 教員研修の意義と制度上の位置づけ
- 第 10 回 学び続ける教師
- 第 11 回

学校運営への対応 「学校内外の専門家等との連携」

第 12 回 学校、家庭、地域の連携と教員のかかわり

第 13 回 チーム学校としての組織的な対応

第 14 回 変わりゆく社会の中での学校と教師

第 15 回 理想としての教師像と自己の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業形態は講義を基本としながら適宜プレゼンテーション、グループディスカッション等を取り入れる。提出されたレポートは最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回で配布したプリント(資料)は、ノート(A4版)やファイルに閉じ、その日の講義でわかったことや考えたことを次回講義までにまとめておく。必要に応じて予習課題を出す。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(20%)、小レポート (30%)、定期試験 (50%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

・本授業は、教師をめざす上での登竜門である。その重要性を受け止めて授業に参加してほしい。教師としての基礎的資質を醸成してくれることを期待する。

・対面授業で実施する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 総則編』/文部科学省/東洋館出版社/平成29年/9784491034614/学内販売予定

授業において適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『現代教育概論』/佐藤晴雄/学陽書房/2011年/9784313611382E12

『求められる教師像と教員養成』/山崎英則他/ミネルヴァ書房/2008年/4623034461

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 25年(内、教頭6年)

京都市立小学校校長 6年

国語

EDN1250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

水曜3限

DP2: 知識・理解力

60

渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

小学校国語科の授業内容に基づき、教材研究の方法を学ぶとともに、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことに関する力を高め、授業実践力の基礎を身に付けられるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「国語」学習指導の意義を理解する。
2. 国語科の各領域を指導するための基礎を学ぶ。
3. 国語科授業実践力の基礎を身に付ける。
4. 言語能力向上のために新聞記事の読解と意見の記述を課す。また、朗読を行う。
5. 学習の記録をポートフォリオにまとめる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	講義を理解しようとする姿勢が乏しい。受講生の相互交流においても消極的で、学びの姿勢が乏しい。テキストから学ぼうとする意欲が乏しい。	講義を聞き理解しようとする。受講生との相互交流に参加しようとする。他者を理解し、学ぼうとする。与えられたテキストから学ぼうとする。	理解の深化を心がけている。講義を聴き、疑問点を質問したり、新たな課題を見出したりする。相互交流に積極的に参加し、発言し、他者を理解し、他者から学ぼうとする。テキストのみならず、関連参考書からも学ぼうとする。自らの学びを振り返ろうとする。	理解の深化を求めて意識的に調べ、講義を関連知識と結びつけて理解し、自ら課題を見出し、追求しようとする。受講生の相互交流において他者を理解し、新たに創造的な知見を提供しようとする。テキスト、参考書類からも学び、関連知識を増やそうとしている。自ら学びを振り返り、新たな学びを展開しようとする。

音読・朗読する力	文字を語・句で認識し、スムーズに読むことができない。	技能を意識し、語・句で認識し、朗読できる。	技能を意識し、語・句・文で認識し、解釈を表現に込めて、語りかけるように音読・朗読できる。	技能を意識し、語・句・文で認識し、自らの解釈を表現に込めて、創造的に語りかけるように音読・朗読できる。
教材研究(読む力)	ジャンルに応じた教材研究ができず、教材に教育的価値を見出すことができない。	ジャンルに応じた教材研究を行い、教材に教育的価値を見出すことができる。	ジャンルに応じ、教材の教育的価値を、知識・技能、思考・判断・表現の面を意識して見出すことができる。	ジャンルに応じ、教材の教育的価値を、知識・技能、思考・判断・表現の面から多角的、創造的に見出すことができる。
書く力	課題・自主課題について論点、論旨、構成、表現等が不十分である。	課題、自主課題に応じて、論点を見出し、引用・事例等を用い、構成を整え、適切な言葉を使用し、論旨のわかる文章を書くことができる。	課題、自主課題に応じて、論点に基づき、引用・事例等を用い、構成を整え、適切な言葉を使用し、論旨の一貫した、説得力のある文章を書くことができる。	課題、自主課題に応じて、論点を明確にし、適切な引用・事例等を生かすとともに、緊密に構成し、適切な言葉を使用して説得力のある、論旨の明快な文章を書くことができる。

話す・聞く力	話し聞くことを通した学びを成立させることができない。	要点をとらえて理解し、疑問点を尋ねたり、意見を述べたりして、話を展開することができる。	要点をとらえて理解し、話を吟味しつつ聞くとともに、疑問点を尋ねたり、意見を述べたりして、話を創造的に展開することができる。	要点をとらえて、話し手の真意を理解し、話を吟味しつつ聞くとともに、疑問点を尋ねたり、意見を述べたり、価値ある話題を提供したりし、話を創造的に展開し、話す・聞くことの価値を実感することができる。
--------	----------------------------	---	---	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーション 講義：国語科を担当するために
- 第 2 回 「国語」科の必要性
開講スピーチ：私の教師を目指すきっかけ 講義：「国語」科はなぜ必要か
- 第 3 回 小学校国語科教材の音読・朗読
小学校国語科教材の音読・朗読・群読（群読課題の提示）
- 第 4 回 朗読発表
小学校国語科教材の音読・朗読の発表
- 第 5 回 文学作品の教材研究方法
文学作品の教材研究の方法と研究の実際
- 第 6 回 文学教材研究方法の応用
文学作品の教材研究の方法の応用
- 第 7 回 説明文教材の研究の方法と研究の実際
説明的文章教材の研究の方法と研究の実際
- 第 8 回 説明文教材の研究の方法の応用
説明的文章教材研究の方法の応用
- 第 9 回 書くことの学習指導
書くことの学習指導
- 第 10 回 書くことの実際（情報収集と発信）
書くことの学習・情報の収集と発信
- 第 11 回 学習指導案の書き方理解
学習指導案の書き方
学習指導要領と学習指導案
- 第 12 回 学習指導案作成の基本の理解
学習指導案の作成（グループによる作成）
- 第 13 回 学習指導案作成の応用
学習指導案の作成（個別作成）
- 第 14 回 群読発表
群読発表
グループごとに発表
- 第 15 回 国語科指導法の学びの振り返り

閉講スピーチ：「国語」の授業で学んだこと・レポート提出

授業者による総括（成果と課題）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義式
2. 討議
3. 発表
4. レポート
5. 自主課題
6. フィードバック

「3. 発表」については、講評を行う。「4・レポート」・「自主課題」については、全体的に講評を行うとともに、個別にコメントを付して返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 教科書教材を中心に、音読・朗読できるように準備する。
2. 群読課題に応じて、グループで群読ができるように準備する。
3. 文学的文章教材・説明的文章教材の教材研究の方法を理解し、教科書教材の教材研究を行う。
4. 情報を収集し、意見文を書けるようにする。
5. テーマに基づき、ディベートができるように準備する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

話し合い参加と小レポート等提出（40%）。スピーチ・群読とパフォーマンスの発表（30%）。まとめのレポート・ポートフォリオ（30%）。

〔留意事項（Other Information）〕

受講者数他の理由によって、授業予定を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントして配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『国語教育の新常識』/森山卓郎・達富洋二/明治図書/2010/9784183011152

『国語科教育総論』/浜本純逸/溪水社/2011/9784863271296

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

私立・公立高等学校において24年間、国語科教員として勤務した経験があり、附属小学校校長として実務に携わった経験もある。また、小学校国語科の授業づくり、授業の指導に大学教員として関わった経験もある。これまでの実務経験を、学生の教材研究力、および、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことに関する力を高め、授業実践力の基礎を身に付ける指導に生かすことが可能である。

国語科指導法

EDP2400N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

金曜2限

DP4：思考・解決力

60

幼小・小特必修

渡邊 春美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

テーマ：国語科授業実践力の育成

1. 小学校国語科教員として求められる実践力（①学習者把握力・②教材把握力・③授業構想力・④授業実践力・⑤授業評価力）を身に付ける。

2. 学習指導案作成の方法を理解し、指導案が作成できるようにする。

3. 各領域に関する学習指導法を理解する。

4. 模擬授業を通して、授業実践の方法を理解する。

5. 言語能力を高める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学習指導要領の基本理念と領域に関する目標、指導事項を理解する。

2. 教材と学習指導要領に基づき、学習指導案を作成する。

3. 各領域の具体的な指導方法を理解する。

4. 国語科の評価の方法を理解する。

5. 言語能力の育成のために新聞記事の読解と意見の記述他を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自己教育力	講義を理解しようとする姿勢が乏しい。受講生の相互交流においても消極的で、学びの姿勢が乏しい。テキストから学ぼうとする意欲が乏しい。	講義を聞き理解しようとする。受講生との相互交流に参加しようとする。他者を理解し、学ぼうとする。与えられた教材から学ぼうとする。	言語力の向上を心がけている。講義を聴き、疑問点を質問したり、新たな課題を見出した。相互交流に積極的に参加し、発言し、他者を理解し、他者から学ぼうとする。教材のみならず、関連参考書からも学ぼうとする。自らの学びを振り返ろうとする。	言語力の向上を求めて生活の中でも常時意識的に実践しようとする。講義を関連知識と結びつけて理解し自ら課題を見出し、追求しようとする。受講生の相互交流において他者を理解するとともに、新たに創造的な知見を提供しようとする。教材、参考書類から学ぼうとし、関連知識を増やそうとしている。自ら学びを振り返り、新たな学びを展開する。
教材把握力	教材の種類に応じた教材研究の方法が分からず、教材研究ができない。	教材の種類に応じた教材研究を、受講者や教員からの助言を得て行うことができる。	教材の種類に応じた教材研究を行い、教育的価値を見出し、学習者の側からも教材を検討することができる。	教材の種類に応じた教材研究を行い、教育的価値を創造的に見出し、学習者の側からも教材を検討することによって、教材の価値を評価することができている。

授業構想力 (学習指導案作成)	学習指導要領の基本理念、目標、指導事項が把握できず、教材に基づく学習指導案が作成できない。	学習指導要領の基本理念、目標、指導事項を把握し、目標と評価規準を設定して、教材を基に学習指導案を作成できる。	学習指導要領の基本理念、目標、指導事項を生かし、教材に基づき、目標と評価規準を明確に設定し、学習者の興味や関心に留意し、学習指導案を作成できる。	学習指導要領の基本理念、目標、指導事項を生かし、教材に基づき、目標と評価規準を明確に設定し、学習者の興味や関心に留意し、言語活動を取り入れ、導入・展開・まとめの指導過程が明確な学習指導案を作成できる。
授業実践力 (模擬授業)	学習指導案に基づいて、45分のうち分担部分について授業が通してできない。大きな間違いがある。	学習指導案に基づき、声の大きさ、話す速さに留意し、指示・説明・発問・板書等を通して、45分のうちの分担部分について指導ができる。	学習指導案に基づき、声の大きさ、話す速さに留意し、指示・説明・発問・板書等を通して、授業をコントロールし、45分のうちの分担部分について指導ができる。	学習指導案に基づき、声の大きさ、話す速さに留意し、指示・説明・発問・板書等を通して、授業をコントロールし、学習者の反応を生かし、45分のうちの分担部分について指導ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
オリエンテーション 講義：国語科授業の活性化（主体的・対話的で深い学び）
- 第 2 回 国語科授業の創造
開講スピーチ：私の求める国語科教師像 講義：国語科授業の創造
- 第 3 回 国語の知識と技能
知識及び技能—ことばの特徴と機能・情報の扱い方・言語と文化
- 第 4 回 読むことの学習指導の方法
思考・判断・表現力—読むことの学習指導の方法
- 第 5 回 書くことの学習指導の方法
思考・判断・表現力—書くことの学習指導の方法
- 第 6 回 話すこと・聞くことの学習指導の方法

- 思考・判断・表現力—話すこと・聞くことの学習指導の方法
(情報機器の有効活用を含む)
- 第 7 回 学習指導要領の書き方 1 (基本)
学習指導要領と国語科学習指導案の書き方 1 (基本)
- 第 8 回 学習指導要領の書き方 2 (応用)
学習指導要領と国語科指導案の書き方 2 (応用)
- 第 9 回 模擬授業 1
模擬授業 1 : 読むこと (物語・読書指導)
- 第 10 回 模擬授業 2
模擬授業 2 : 読むこと (説明的文章・読書指導)
- 第 11 回 模擬授業 3
模擬授業 3 : 書くことの学習指導
- 第 12 回 模擬授業 4
模擬授業 4 : 話すこと・聞くことの学習指導
- 第 13 回 模擬授業 5
模擬授業 5 : 漢字・ことばの学習指導
- 第 14 回 模擬授業 6
模擬授業 6 : 言語文化の学習指導 (書写を含む)
- 第 15 回 国語科指導法の学びの振り返り
閉講スピーチ : 国語科指導法で学んだこと 授業者の総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。改善学習指導案 (略案) を最終レポートとする。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義
2. 討議
3. 発表
4. 模擬授業
5. レポート
6. フィードバック

「3. 発表」については、講評を行う。「4・模擬授業」においては、研究協議をおこなうとともに、指導者から講評を行う。また、「5. レポート」については、全体的に講評を行い、併せて個別にコメントを付して返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 国語科に関する学習指導要領を理解する。
2. 教材研究を行い、学習指導要領を理解して学習指導案を作成する。
3. 模擬授業を行う (グループ協働学習)
4. 模擬授業の成果と課題をレポートにまとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加と小レポート提出 (60%)。発表 (10%)。まとめのレポート (30%)

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、受講者の人数によって、授業予定を変えることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新編 新しい国語 6』/小森茂他/東京書籍/2017//学内販売予定

『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 国語編』(文部科学省)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『国語科教育総論』/浜本純逸/溪水社/2011/9784863271296

『「伝統的な言語文化」の言語活動アイデアBOOK』/渡辺春美/明治図書/2012/9784180523535

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

私立・公立高等学校において24年間、国語科教員として勤務した経験があり、附属小学校校長として実務に携わった経験もある。また、小学校国語科の授業づくり、授業の指導に大学教員として関わった経験もある。これまでの実務経験を、学生の教材研究力、および、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことに関する力を高め、授業実践力を身に付ける指導に生かすことが可能である。

算数

EDN1251N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2 : 知識・理解力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

高等学校までに学習してきた算数・数学の内容を、関連性と発展性の立場から改めて見直し、小学校で学習する算数の各領域の内容がどのように関連しているか、また、中学校・高等学校の数学にどのように発展していくのかという道筋を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

テキストに沿って、学び方を習得したのち、「数・代数」、「立体・空間・変換」、「量・関数・解析」、「確率・統計」、「集合・論理」の各分野について、関連性と発展性を理解できるようにグループワークなどを取り入れながら進め、算数科指導法につなげる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	算数に関して興味関心	算数の各領域の内容が	算数の各領域の問題を	自ら課題を考え、子供

	をもちとせ ず、あき らめてい る。	理解でき る。	概ね解くこ とができ る。	向いに指導 をするため の教材を作 ることがで きる。
--	-----------------------------	------------	---------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (対面)
- 第 2 回 算数・数学を学ぶ意義 (オンライン)
- 第 3 回 数の概念 (オンライン)
- 第 4 回 計算 (オンライン)
- 第 5 回 文字を使った式 (オンライン)
- 第 6 回 立体図形 (対面)
- 第 7 回 アフィン変換と射影変換 (対面)
- 第 8 回 量と割合 (オンライン)
- 第 9 回 関数 (オンライン)
- 第 10 回 微分・積分と極限 (対面)
- 第 11 回 確率 (オンライン)
- 第 12 回 統計 (オンライン)
- 第 13 回 集合の考え、命題と推論 (オンライン)
- 第 14 回 算数とプログラミング (対面)
- 第 15 回 まとめと自己評価 (対面)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・基本的にはグループ学習による自学自習で自律的に学習する。
- ・グループ間での発表活動を数回行い、相互評価を行う。
- ・オンライン学習の場合は、インターネットを利用したe-Learningで行う。
- ・学習を進めるために、responによるコメントの提出を求め、次の回にフィードバックする。
- ・課題に関してはmanaba courseによる提出を行い、その中でフィードバックを行う。
- ・評価に関しては、自己評価を取り入れる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

評価方法にあるように、この授業は自己評価が中心となるので、自分の学習の進捗状況を自分で毎回とらえる必要がある。そのため、毎回提出する授業コメントは授業内にて紹介し、他の学習者がどの程度の学習を行っているかを常に把握しておく必要がある。教育制度は改革期を向かえ、テキストの内容だけを学習しては追いつかなくなっている。自ら、新聞・テレビ・インターネットなどの情報源を駆使して、教育改革についての情報を集めておく姿勢が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

この授業は、算数・数学を関連性・発展性から理解し、授業内で得た知識や自分での学習を総合して、自ら下記項目によって評価を行う。

- ・授業における態度 (40%) 単に出席したかどうかでな

く、授業に主体的に取り組んだか、グループ活動への参加意欲はどうか、算数への理解を自ら行おうとしたか、などを最終授業において教員の提示する項目に数値による自己評価を行う。

- ・小テスト (40%) 期間中5回程度出題される小テストについて、教員からの評価規準に基づき、自己採点を行う。
- ・レポート (20%) 期間中数回行われるグループ活動において、グループ間相互評価の内容とグループ内の構成員からの相互評価をもとにレポートを作成し自己評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・この授業は、対面授業とオンライン学習を組み合わせたブレンド型で行います。
- ・オンライン学習では、動画による配信とresponによるコメント収集を中心としたオンデマンド型の授業を行います。
- ・講師・他の学習者を含め、他者からの学びを重視し、様々な角度から算数について考える姿勢で臨むこと。
- ・常に自分の学習の進捗を意識し、足りないところは友達との意見交換や、講師への質問を行うなど、自ら解決しようとする事。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 算数編』/文部科学省/日本文教出版/2018/978-4536590105/学内販売予定

『数学教育の基礎』/黒田恭史/ミネルヴァ書房/2011/9.784623059959E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『公式集 (モノグラム)』/矢野健太郎/科学新興新社/1998/9.784894281639E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：教員として公立学校に勤務経験あり

算数科指導法

EDP2402N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4：思考・解決力

60

幼小・小特必修

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

算数で学んだ算数科の基礎をもとに、実践的指導力をつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

2~3回のマイクロティーチングにより、自らの指導力の向上を目指すとともに、子どもの立場から算数科指導のあり方を見直し、相互評価できるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業を行うことが難しい	算数の授業を積極的に進めようとする	多少の失敗も前向きにとらえ、次への反省材料とする	他者の授業をみて、自分の中にある問題点に気づき、改善しようとする
知識・理解力	算数に関する知識を持ち合わせていない	算数に関する基礎知識を持っている	算数・数学に関する知識を増やそうとしている	算数・数学の問題を解くことができ、生活の中で活用する手段を理解している
言語力	算数に関する用語の理解が不足している	算数に関する用語を理解している	算数に関する、記号や式の意味を理解し、説明に使うことができる。	子供だけでなく、様々な人に、算数・数学の用語・式・記号などを使って分かりやすく説明ができる
思考・解決力	算数の授業をすることが難しい	授業の構成を考え、わかりやすい授業を作ろうとする	子供が操作的に数学的活動をできるように考えることができる。	生活の中にある、算数・数学を発達年齢や学習指導要領に合わせて取り上げ、子供が主体的に考える授業をすることができる
共生・協働する力	他者の意見に耳を貸さない	わからないところを他の学生や教員に相談できる	授業後のディスカッションなど積極的に参加し、意見を述べ、受け手の気持ちや意見を考えた助言ができる。チームティーチングをすることもできる	相互評価をすることができ、自分の意見を言うだけでなく、人の意見を前向きにとらえることができる。

創造・発信力	指導書に頼った授業になる	教科書から授業を創造できる	教科書や指導書なしでも授業を創造できる。	オリジナリティのある授業を創造でき、実践することができる
--------	--------------	---------------	----------------------	------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション, グループ編成
- 第 2 回 トピック1による学習指導略案の作成
- 第 3 回 作成した指導案のグループでの検討
- 第 4 回 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
- 第 5 回 5分間のマイクロティーチング (全員が行う)
- 第 6 回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
- 第 7 回 トピック2による学習指導略案の作成
- 第 8 回 作成した指導案のグループでの検討
- 第 9 回 作成した指導案でのグループ内でのプレ・マイクロティーチング
- 第 10 回 5分間のマイクロティーチング (全員が行う)
- 第 11 回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション
- 第 12 回 ICT機器を活用した学習指導略案の作成
- 第 13 回 作成した指導案のグループでの検討およびプレ・マイクロティーチング
- 第 14 回 5分間のマイクロティーチング (全員が行う)
- 第 15 回 指導法向上のためのリフレクションとグループディスカッション

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

2~3回、定められたテーマについて1時間 (45分) 分の指導計画を考え、そのうちの5分間をマイクロティーチングとして行う。3回目はICT (情報通信技術) の活用を取り入れた授業設計をする。単に授業演習をするだけでなく、他の学習者の授業に参加し、相互評価する中で、仲間としてともに成長するようにディスカッションを多く取り入れる。マイクロティーチングは、ビデオ撮影し、自分の反省の材料とする。また、事後にはグループによる反省会を設ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

できるだけたくさん資料を図書館やインターネットを用いて閲覧し、算数科の教材だけにこだわらず広い視野から指導法を考えるようにしておきたい。またその指導により児童の学びをどのように評価すべきかを、これまでの様々な授業を通して考えておきたい。授業内では、他の受講生と多くディスカッションを行い、指導法についてさまざまな方法を模索するので、事前に自分の考え方を整理し、他の受講生や教員の意見を柔軟に取り入れる準備をしてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

2～3回のマイクロティーチングについての自己評価 (40%)
 他の学習者からの指導法についての相互評価 (30%) グループ学習への参加態度 (30%) 以上を総合的に判断し評価を行う。定期テストは行わない。
 評価の観点についてはルーブリックを参照されたい。

〔留意事項 (Other Information)〕

文部科学省検定小学校教科書は貸し出しをします。マイクロティーチングだけが重要なのではなく、総合的に実践力を上げ、受講生全員の力をあげることが目的です。そのため他の受講生の授業から学び、相互評価できるようにしましょう。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校学習指導要領解説 算数編/文部科学省/日本文教出版/2018/978-4536590105/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『初等算数科教育法』/黒田恭史/ミネルヴァ書房/2010/9.784623057634E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として公立学校に勤務経験あり

肢体不自由者の心理・生理・病理

EDD2501NOJ
 大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)
 2年次

2単位 前期
 水曜4限 その他

DP5: 共生・協働する力

60

廣田 陽代 丹羽 登 東道 伸二郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援学校に在籍する肢体に不自由のある子供の実態として、重度知的障害と運動障害を併せ有する重度・重複化が進んでいる。肢体不自由の原因となる疾患・筋骨格系の構造や仕組み(生理・病理)や運動、情動、認知、言語等の発達に関する知識(心理)について学び、指導・支援に関わる基礎的理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

肢体不自由に関する心理・生理・病理の基礎的知識を得る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス、肢体不自由教育の歴史 (東道, 丹羽)

第 2 回 肢体不自由の定義及び起因疾患 (東道)

第 3 回 神経系、運動機能の仕組みと発達 (廣田)

第 4 回 脳性麻痺について (廣田)

第 5 回 筋ジストロフィーについて (廣田)

第 6 回 脊椎損傷・二分脊椎について (東道)

第 7 回 重度・重複障害について (東道)

第 8 回 病院見学による肢体不自由者の理解 (廣田)

第 9 回 生理・病理に応じた個別対応 (丹羽)

第 10 回 病理を踏まえた自立活動の実際 (丹羽)

第 11 回 アシスティブテクノロジーの活用 (丹羽)

第 12 回 肢体不自由者のキャリア発達と自立 (丹羽)

第 13 回 学習への支援 (丹羽)

第 14 回 肢体不自由者をめぐる最新の状況 (東道)

第 15 回 講義のまとめとレポート発表 (東道, 丹羽)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義内容に関する最新の研究レポート等の概要をまとめて発表する。授業者による解説と学生の討議を行う。講義の最終回には、講義内容の理解に関するレポートを提出し、その報告を行う。小テスト・レポート等の実施後、その講評や解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

最新の知見や実践事例から、肢体に不自由のある子供の行動やその背景について考える。

最新の研究のレポート報告や討議を通して、主体的に学ぶ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参画50%, レポート50%

〔留意事項 (Other Information)〕

講義中、病院現場への見学が含まれる。教職を目指す者として、相応の態度で臨むこと。その際の交通費は自己負担である。

一部の授業は集中講義で行うので、日程等留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

必要な資料は適宜配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』/独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 / ジアーズ教育新社 / 2015/978-4863712973

〔参考URL(URL for Reference)〕

病気の子どもの理解のために

http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html

全国特別支援学校病弱教育校長会作成

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

肢体不自由者教育論 I

EDD2451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

火曜 2限

DP4 : 思考・解決力

60

太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援教育における肢体不自由のある幼児、児童及び生徒（以下、こどもと記す）に対する教育の基本的な考え方と特別支援学校における教育課程の編成とその基本的構造を理解する。肢体不自由教育における教育課程の特徴、指導及び実践の基本を理解することで、特別な教育的ニーズに応じた教育課程の編成力と実践力の基盤を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)特別支援学校(肢体不自由)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。

(2)特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能**を習得する。

(3)学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだことを実際に生かすために、**演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる**。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。

知識・理解力	肢体不自由教育で何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしな	肢体不自由教育で、何が最も重要な事柄なのか	肢体不自由教育に関する知識の中で、重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	肢体不自由教育に関して自分の学びを振り返り、考えることができる。	肢体不自由教育に関する新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	肢体不自由教育に関して学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	肢体不自由教育に関して学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、肢体不自由教育に関して学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (授業の概要・評価について) 障害児教育の歴史
- 第 2 回 肢体不自由の基礎知識と実態把握
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 3 回 特別支援教育の理念と基本的な考え方、学習指導要領による教育課程の編成、配慮事項
特別支援学校(肢体不自由)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 4 回 肢体不自由児に対応した教育課程の考え方と編成、教科書

特別支援学校(肢体不自由)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。

- 第 5 回 障害の重度・重複化と今日的課題
～医療的ケア等
- 第 6 回 特別支援学校における自立活動の6区分と指導
～健康の保持、身体の動きを中心に
- 第 7 回 特別支援学校における自立活動の6区分と指導
～コミュニケーション、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握を中心に
- 第 8 回 個別の教育支援計画と個別の指導計画による指導・支援
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 9 回 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成演習
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 10 回 情報機器等の活用とその授業の実際
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 11 回 社会的・職業的自立をめざした進路指導、職業教育とキャリア教育
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 12 回 個別の指導計画をもとにした指導案作成と教材研究
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 13 回 授業改善につなげるための授業研究
肢体不自由のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識・技能を習得する。
- 第 14 回 授業の振り返りとレポート提出
- 第 15 回 レポート発表と評価
作成したレポートを基にまとめた内容をプレゼンテーションする。発表内容を受講者間で相互評価し、評価内容を教員も含めてフィードバックすることで、今後の学びに生かせるようにする。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義及び学んだことに対する意見の発表、ディスカッションなどの演習を行う。毎回、学習内容を振り返り、整理するためにミニコメントシートを作成し、manaba等で提出する。また、講義の中で、前回出された意見の紹介や説明を行い、出された疑問をテーマにディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストを熟読しておくこと。

肢体不自由のあるこどもを教育する小学校特別支援学級や特別支援学校でボランティア活動等を定期的に行い、特別支援教育の現場を体験していることが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

肢体不自由教育に関する学習指導要領や教育課程編成について、授業で扱った基礎的な内容を理解できるように、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ループリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート 50% 個別課題(1)(2)に対応

毎回のミニコメントシート 30% 個別課題(1)(2)(3)に対応
グループワークや発表をループリックから総合的に評価
20% 個別課題(3)に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目と知的障害者教育論Iで扱う内容を考慮し、授業予定を調整して行う場合がある。その際は、事前に予告し、事前学習できるようにする。

学習指導案作成や授業の実際などについて、大学での学びを実際のなものとするために、近隣の特別支援学校に協力をお願いし、学外授業により授業参観と授業研究の演習を行う予定である。(交通費等は実費必要)

特別支援学校教員として最低限必要な基礎・基本を実践的に学ぶため、全回出席し学修することを原則とする。何らかの理由で欠席した場合は、後日補習等を実施する。

今期は、新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル【改定版】 (https://www.notredame.ac.jp/pdf/cms/0816_manual.pdf)に基づく配慮の上で、対面授業を原則とする。感染の疑いがある場合や発熱などの症状がある場合などは、マニュアルを参照し必要な対応をとること。また、健康不安等の場合はZoomによる授業参加も可能な場合がある。接続方法も含めて事前に申し出ること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 2020』/独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 著作/ジアース教育新社/2020/978-4-86371-548-6/学内販売有

(他の障害種の教育論でもテキストとして使用します)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》特別支援教育の専門教育科目について

特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱虚弱）において教員として勤務経験あり。

肢体不自由者教育論 II

EDD3401N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

3年次

2単位 前期

木曜3限

DP4：思考・解決力

60

太田 容次

〔科目の教育目標（Course Description）〕

肢体不自由のある幼児、児童及び生徒(以下、こどもと記す)の特別な教育的ニーズに応じた個別の教育支援計画と個別の指導計画を活用したコミュニケーション指導のための教材・教具の作成演習や様々な授業実践事例を通して、指導・支援の理論と方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1)肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。

(2)個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習**と、授業計画に基づく**学習指導案の作成と模擬授業**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。

(3)学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだことを実際に生かすために、**演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる**。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	肢体不自由教育において、何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしな	肢体不自由教育において、学ぶことの中で、何が最も重要な事柄なのか	肢体不自由教育における知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、肢体不自由教育について、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	肢体不自由教育について、自分の学びを振り返り、考えることができる。	肢体不自由教育について、新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	肢体不自由教育について、仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	肢体不自由教育について、グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	肢体不自由教育について、学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	肢体不自由教育について、自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、肢体不自由教育に関して学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス（授業の概要・評価について）

第 2 回 特別支援学校(肢体不自由)の教育課程

肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。

第 3 回 個別の指導計画の作成による授業計画

肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。

第 4 回 コミュニケーションの発達と拡大・代替コミュニケーション（AAC）の活用

肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。

第 5 回 コミュニケーションの障害とAAC（知的障害、自閉スペクトラム症、肢体不自由）

肢体不自由のあるこどもへの**指導・支援に必要な知識と技能**を習得する。

第 6 回 教材・教具の作成準備

個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。

第 7 回 教材・教具の作成

個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。

第 8 回 教材・教具の発表と相互評価

個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した**教材・教具の作成演習**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。

第 9 回 授業計画と学習指導案の作成：講義・演習

個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した授業計画に基づく**学習指導案の作成と模擬授業**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。

第 10 回 授業実践例から考える

～準ずる課程の教科、総合的な学習

第 11 回 授業実践例から考える

～知的障害を併せ有するこどもの各教科を中心とした教育課程

第 12 回 授業実践例から考える

～自立活動を中心とした教育課程

第 13 回 医療的ケアの必要なこどもに対する保護者と連携した指導や支援

第 14 回 授業研究の方法と授業改善の演習

個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した授業計画に基づく**学習指導案の作成と模擬授業**を、グループでの演習により行い、**指導・支援のための理論と方法**を学ぶ。

第 15 回 レポート発表と相互評価

作成したレポートを基にまとめた内容をプレゼンテーションする。発表内容を受講者間で相互評価し、評価内容を教員も含めてフィードバックすることで、今後の学びに生かせるようにする。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

近年、特別支援学校の教員等から「**介護等体験や教育実習に来て特別支援学校の現場の実際を体験するのではなく、学生の段階で特別支援学校の体験と、体験に基づく大学での学修を進めてほしい。**」といった要望を聞く。これは、中教審答申 (参考URL参照) にも述べられている事である。

そのため、4年次に特別支援教育実習を控えていることを前提に、講義及び学んだことに対する意見の発表やディスカッション、模擬授業などの演習を行う。

毎回、学習内容を振り返り、整理するためにミニコメントシートを作成し、manaba等で提出する。また、講義の中で、前回出された意見の紹介や補足説明を行い、出された疑問をテーマにディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次年度に控えた特別支援教育実習に対応できる学修とするため、肢体不自由のあるこどもを教育する特別支援学校でボランティア活動等を定期的に行っていることが望まし

い。本科目では、特別支援学校での定期的なボランティア等を行なっていることを前提として講義や演習を進めたい。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

肢体不自由教育に関する基礎的な内容の理解を基に、教材・教具の作成や実際の授業について実践力につながる基盤を身に付けるために、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ルーブリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート 50% 個別課題(1)(2)に対応

毎回のミニコメントシート 30% 個別課題(1)(2)(3)に対応

グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価

20% 個別課題(3)に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

4年次での**特別支援教育実習に必須の実践力となる知識や技能などを学ぶ**。そのために、**全回出席し学ぶことが大前提で、主体的に学ぶこと**を期待する。何らかの理由で欠席した場合は、後日補習等を実施する。

本科目と知的障害者教育論Ⅱで扱う内容を考慮し、授業予定を調整して行う場合がある。その際は、事前に予告し、事前学習できるようにする。

次年度の特別支援教育実習に向けて、こどもの実態・課題に応じた学習指導案作成や授業実践に関する学びを実践的なものとするために、近隣の特別支援学校に協力をお願いし、学外授業により授業参観と授業研究の演習を行う予定である。(交通費等は実費必要)

また、医療的ケアの必要なこどもへの指導は保護者との連携が欠かせないため、第13回では保護者の体験談を聴く予定である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 2020』/独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 著作/ジアース教育新社/2020/978-4-86371-548-6/学内販売有

(他の障害種の教育論でもテキストとして使用します)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部) / 文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)

中央教育審議会答申 平成27年12月21日 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyuo0/toushin/1365665.htm)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》特別支援教育の専門教育科目について

特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱虚弱）において教員として勤務経験あり。

社会

EDP1250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

1年次

2単位 後期

月曜3限

DP2：知識・理解力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標（Course Description）〕

小学校社会科で扱う内容である「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」に関する社会諸科学の最新の研究成果についての知識を習得する。また、社会認識が空間軸・時間軸に応じて形成されることを、それぞれの分野の講義において事象を探究することをとおして理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1、小学校社会科の授業を開発、実践するために必要な知識を習得する。
- 2、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」に関する最新の知識を習得する。
- 3、社会事象について探究したり、フィールドワークを行ったりする。
- 4、空間軸・時間軸による社会認識形成の過程において働く「思考」「判断」について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	小学校社会科の内容が理解できていない。(59%以下)	小学校社会科の内容が十分に理解できていない。(60～79%)	小学校社会科の内容が理解できている。(80～89%)	小学校社会科の内容はもちろん、それ以上の内容を理解できている。(90～)

学びに向かう力	小学校社会科の内容を理解するための予習・復習を全く行わない。	小学校社会科の内容を理解するための予習・復習を十分に行わない。	小学校社会科の内容を理解するための予習・復習を行っている。	小学校社会科の内容を理解するための予習・復習はもちろん、自ら興味関心をもった内容を積極的に学ぼうとしている。
---------	--------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--

〔授業計画〕

- 第1回 社会科とは
小学校社会科の内容が社会諸科学に基づいていること、社会科学の研究方法について（対面）
- 第2回 学習指導要領の変遷とその背景
社会科の誕生と変遷（対面）
- 第3回 日本の産業構造
日本の農業、水産業、工業などのしくみ（対面）
- 第4回 日本の諸地域と地理的環境
日本各地の気候や自然環境や地誌について（対面）
- 第5回 地図の利用
地図の作成や主題図、一般図について（対面）
- 第6回 フィールドワーク
第3回～第5回の学習を活かして、フィールドワークを行う（対面：個別学習）
- 第7回 歴史を学ぶ意味
歴史の見方・考え方、歴史認識について（対面）
- 第8回 日本列島の歴史
日本の文化とその背景（対面）
- 第9回 歴史上の人物と文化財
京都を舞台に活躍した人物や京都の文化財について（対面）
- 第10回 国内時事問題
政治・経済を中心に時事問題について（対面）
- 第11回 海外時事問題
政治・経済を中心に時事問題について（対面）
- 第12回 学習指導案について
学習指導案について（オンライン）
- 第13回 学習指導案の作成
学習指導案作成方法（オンライン）
- 第14回 学習指導案検討会
提出された学習指導案について（対面）
- 第15回 社会事象を探究する社会科
社会科授業とは（対面）、講義内試験

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。

*提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回で配布したプリントは、ノートに貼り付け、その日の講義でわかったことを、次回講義までにノートにまとめておく。毎時間、予習課題を出す。自力で分からない予習課題は、図書館の資料などを活用して自力解決することが基本になる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎時間のリフレクションを30%、学習指導案を20%、最終試験を50%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。講義の中で適時紹介する。また、資料を講義の中で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『社会科教育のルネサンス』/原田智仁編著/保育出版社/2016/9.784905493228E12

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について
／ 小学校教員としての勤務経験あり

社会科指導法

EDP2401N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜2限

DP4 : 思考・解決力

60

幼小・小特必修

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

先人が行ってきた授業事例に学びながら、教材研究、単元づくりを行い、社会科の授業づくりと学習指導案の作成方法を理解する。模擬授業を実践し、授業内容と共に発問、板書についても理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教材研究、単元づくりの進め方を理解する。
- 2.学習指導案の作成方法を理解する。
- 3.授業の展開方法や発問、板書の方法を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解	小学校学習指導要領における社会科の目標は理解できているものの、学習指導案の作成、模擬授業の実施が困難である。	小学校学習指導要領における社会科の目標を理解し、学習指導案を作成できるものの、模擬授業を実施できない。	小学校学習指導要領における社会科の目標を理解し、学習指導案を作成でき、模擬授業が実施できる。	小学校学習指導要領における社会科の目標を踏まえつつ、より発展的な学習内容を考え、学習指導案を作成し、模擬授業を実施できる。
思考・判断・表現	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に活かすことが全くできない。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に十分に活かすことができない。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に十分に活かすことができる。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に活かすのはもちろん、さらなる改善に努めている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会科の授業事例の紹介と分析① (第3・4学年内容)
- 第 2 回 社会科の授業事例の紹介と分析② (第5・6学年内容)
- 第 3 回 模擬授業の在り方と意義
- 第 4 回 学習指導案の作成方法
- 第 5 回 学習指導案の作成① (個人)
- 第 6 回 学習指導案の作成② (グループ)
- 第 7 回 教材の開発
- 第 8 回 学習指導案の分析
- 第 9 回 模擬授業の実施と検討① (第3・4学年「地域の産業、消費生活、生活環境、安全の学習」)
- 第 10 回 模擬授業の実施と検討② (第3・4学年「地域の地理的環境、先人の働きの学習」)
- 第 11 回 模擬授業の実施と検討③ (第5学年「国土と環境の学習」)
- 第 12 回 模擬授業の実施と検討④ (第5学年「産業の学習」)
- 第 13 回 模擬授業の実施と検討⑤ (第6学年「歴史的分野の学習」)
- 第 14 回 模擬授業の実施と検討⑥ (第6学年「公民的分野の学習」)
- 第 15 回 模擬授業の総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学習指導案の作成、模擬授業の準備に授業時間外の学習を求める。教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、模擬授業時のリフレクションカード (30%)、学習指導案 (50%)、模擬授業 (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説社会編』/文部科学省/日本文教出版/2018/978-4536590099/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『社会科固有の授業理論30の提言』/岩田一彦/明治図書/2001/9.784184543138E12

『「習得・活用・探究」の社会科授業&評価問題プラン 小学校編』/米田豊/明治図書/2011/9.784180222285E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕
 ≪実践的科目≫教職に関わる科目について
 / 小学校教員としての勤務経験あり

初等教育実習 I a

EDN3601N0J
 大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)
 3年次
 2単位 集中
 その他

DP6 : 創造・発信力
 60
 別に定める
 集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 小川 博士 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身につけた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。

これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

大学で学んだ教育・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子供の問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を、自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

〔授業計画〕

協力いただける小学校において、教育実習を4週間行う。教育実習の方法は、各小学校と打ち合わせること。必要な情報は、教育実習事前指導で指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

実習ノートは返却をし、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・

文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。
3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校学習指導要領/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607/学内販売あり

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

神月(藤本, 河佐, 白瀬, 大西, 小川, 高田) 教員として公立学校の勤務経験あり

初等教育実習 I b

EDN3602N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

60

別に定める

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 小川 博士 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいえるべきものである。これは学生にはかけがえない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておかなければならない。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	教育実習に取り組むことができない	教育実習に取り組もうとする	実習内で積極的に実践力をあげる努力をする	実習だけでなく実習前後も含めて、自ら教員の話の聞こうとしたり、研究会などへ参加するなど、実践力向上に取り組む
知識・理解力	学習指導要領が理解できない	学習指導要領がわかる	学習指導要領の内容を自分の授業に生かす	教育法規・教育方法等を全般的を理解できている
言語力	児童に適切な声の大きさと話すことができない、また適切な言葉が使えない	児童に適切な声の大きさやわかりやすい言葉が使えらる	児童の立場に立ったわかりやすい言葉を使うことができる日本語のわからない児童・保護者に英語などで簡単な指示ができる	わかりやすい授業が展開でき、日本語のわからない児童・保護者にも日本語以外の言語でも授業をすることができる
思考・解決力	授業構成の工夫をしない	授業や指導に対して工夫しようとする	授業や指導の実践力をあげるために、資料などを参考にしようとする	授業や指導のために、先行研究を踏まえ自分で理論を考え、その実践を行おうとする。
共生・協働する力	ひとりよがりの授業・指導を行う	わからないことなど、実習先の教員や実習生仲間へ聞き、ともに問題解決にあたる	実習先の学校・学年・学級の目標を理解し、教員と同一歩調を取ろうとする。	自ら進んでチームティーチングなど協働作業に取り組み、成果をあげようとする。
創造・発信力	指導案や実習ノートを書いたり、書き方などを自分で考えない	指導案や実習ノートなどを自分で考えて記そうとする	研究授業などでも自分の考えた授業や指導を人前で見せることができる	学級通信や学校のWebに自分の授業成果や児童の活動を個人情報等に配慮しながら発信できる

〔授業計画〕

別途提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。フィードバックは、実習中の授業反省会の内容を踏まえて教育実習事後指導内で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

教育実習ノートの内容、日常の意欲・態度、実習校からの評価によって総合的に評価する。

評価の観点はルーブリックおよび事前事後指導内で配布された人材育成指標・履修カルテを参考にすること。

なお、原則として欠席があった場合は単位認定は認めない。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 教育実習、事前事後指導の2科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。(4月当初より開講)

2. このような理由から、2科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書等が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要な資料等は授業内で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 教員として学校に勤務経験あり(神月、藤本、河佐、白瀬、大西、小川)

初等教育実習 II a

EDN4600NJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

60

別に定める

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 小川 博士 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身につけた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。

これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

大学で学んだ教育・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子供の問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を、自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

〔授業計画〕

協力いただける小学校において、教育実習を4週間行う。

教育実習の方法は、各小学校と打ち合わせる。

必要な情報は、教育実習事前指導で指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

実習ノートは返却をし、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということから自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校学習指導要領/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：

神月、藤本、河佐、白瀬、大西、小川、高田 教員として公立学校の勤務経験あり

初等教育実習 II b

EDN4601N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

60

別に定める

集中

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 小川 博士 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいえるべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておかなければならない。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教育実習に取り組むことができない	教育実習に取り組もうとする	実習内で積極的に実践力をあげる努力をする	実習だけでなく実習前後も含めて、自ら教員の話や研究会などへ参加するなど、実践力向上に取り組む
知識・理解力	学習指導要領が理解できない	学習指導要領がわかる	学習指導要領の内容を自分の授業に生かす	教育法規・教育方法を全般的に理解できている

言語力	児童に適切な声の大きさが話すことができない、また適切な言葉が使えない	児童に適切な声の大きさをわかりやすい言葉が使える	児童の立場に立ったわかりやすい言葉を使うことができる日本語のわからない児童・保護者に英語などで簡単な指示ができる	わかりやすい授業が展開でき、日本語のわからない児童・保護者にも日本語以外の言語でも授業をすることができる
思考・解決力	授業構成の工夫をしない	授業や指導に対して工夫しようとする	授業や指導の実践力をあげるために、資料などを参考にしようとする	授業や指導のために、先行研究を踏まえ自分で理論を考え、その実践を行おうとする。
共生・協働する力	ひとりよがりの授業・指導を行う	わからないことなど、実習先の教員や実習生仲間に聞き、ともに問題解決にあたる	実習先の学校・学年・学級の目標を理解し、教員と同一歩調を取ろうとする。	自ら進んでチームティーチングなど協働作業に取り組み、成果をあげようとする。
創造・発信力	指導案や実習ノートをものものを写したり、書き方などを自分で考えない	指導案や実習ノートなどを自分で考えて記そうとする	研究授業などでも自分の考えた授業や指導を人前で見せることができる	学級通信や学校のWebに自分の授業成果や児童の活動を個人情報等に配慮しながら発信できる

〔授業計画〕

別途提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。フィードバックは、実習中の授業反省会の内容を踏まえて教育実習事後指導内で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

教育実習ノートの内容、日常の意欲・態度、実習校からの評価によって総合的に評価する。

評価の観点はルーブリックおよび事前事後指導内で配布された人材育成指標・履修カルテを参考にすること。

なお、原則として欠席があった場合は単位認定は認めない。

〔留意事項 (Other Information)〕

※この科目は、小学校教育実習に3または4週間行く場合に、初等教育実習 I b と同時に履修すること。小学校教育実習が2週間の場合は、初等教育実習 I b のみでよくこの科目は履修しないこと。

1. 教育実習、事前事後指導の2科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力をと努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。(4月当初より開講)

2. このような理由から、2科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書等が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要な資料等は授業内で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として学校に勤務経験あり(神月、藤本、河佐、白瀬、大西、小川、高田)

障害者教育課程論

EDD3250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

木曜2限

DP2: 知識・理解力

60

江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援教育の対象は、特別支援学校が対象とする障害種別である視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、病弱虚弱だけではない。特別支援教育は、小・中学校の特別支援学級における指導や通常の学級に在籍している子供に

対する指導など、障害に基づく学習上又は生活上の困難の改善・克服に必要な特別の指導を、全ての学校で行うこととしている。

本授業では、特別な教育的ニーズのある子供の理解を深め、その評価・指導・支援に関する基本的な知識と技能を習得することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 我が国の特別支援教育に関わる教育制度、教育法規等について理解する。
2. 特別支援教育における教育課程編成の方法を理解する。
3. 特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の指導のあり方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や責任などを尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。

創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。
--------	-----------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害のある子どもの教育課程 1
教育課程に関する法制、教育課程の意義
- 第 2 回 障害のある子どもの教育課程 2
学校における教育課程編成について
- 第 3 回 障害のある子どもの教育課程 3
教育課程編成上の一般方針、内容等の取り扱いの共通事項
- 第 4 回 特別支援学校の教育課程 1
特別支援学校幼稚部、小学部、中学部、高等部の特徴
- 第 5 回 特別支援学校の教育課程 2
個別の指導計画、個別の教育支援計画
- 第 6 回 特別支援学校の教育課程 3
自立活動の目標と指導内容、指導計画作成
- 第 7 回 特別支援学校の教育課程 4
キャリア教育の視点から見た教育課程のあり方
- 第 8 回 特別支援学校の教育課程 5
視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者、病弱者に対する特別支援学校の教育課程の特徴
- 第 9 回 特別支援学校の教育課程 6
知的障害者に対する特別支援学校の教育課程の特徴
- 第 10 回 特別支援学校の教育課程 7
重複障害、訪問教育の教育課程
- 第 11 回 特別支援学校の教育課程 8
交流・共同学習の推進
- 第 12 回 学習指導要領
学習指導要領改訂のポイントについて
- 第 13 回 地域における特別支援学校の役割
特別支援教育コーディネーターと特別支援学校のセンター的機能について
- 第 14 回 小中学校における特別支援教育 1
特別支援学級の教育課程について
- 第 15 回 小中学校における特別支援教育 2
通級指導の教育課程について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心として、講義内容に基づくテーマについてディスカッションを適時行い、特別支援教育の教育システム、教育課程の編成等について理解をする。
レポートについて、次回授業の中で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 事前にテキストの関係する箇所を熟読しておく。
 特別支援学校等のホームページを閲覧し、実際の指導の様子を把握しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (30%) 及び学習指導計画案 (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業で実施します。

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領』／文部科学省／海文堂出版／ 2018／978430312424243／学内販売なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編 (幼稚部・小学部・中学部)』／文部科学省／開隆堂／2018／9784304042294

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説各教科等編 (小学部・中学部)』／文部科学省／開隆堂／2018／9784304042300

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部)』／文部科学省／開隆堂／2018／9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱)

19年

京都市立特別支援学校校長 2年

情報教育

EDC3400N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

月曜 4限

DP4 : 思考・解決力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

情報教育の目標である「情報活用能力の育成」について理解し、今後の生活に役立てるとともに、地域で指導できる人材の育成を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

情報活用能力の3つの構成要素、

- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的理解
- ・情報社会に参画する態度の育成

に関して正しく理解し、社会で生かせるようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	情報教育の目標を理解できない	情報活用能力を理解している	各観点における、教育や問題点を理解している	各教科や保育での除法教育の在り方が完全に理解でき、人に教えることができる。
言語力	情報教育における用語を理解できない	情報教育に関する用語を理解できる	情報教育に関する外国語の用語の意味を理解できる	ディスカッションで、用語を確実に使うことができ、英語などを用いて自分の考えを話すことができる
思考・解決力	様々な情報を問題解決に活用しない	情報を活用した、問題解決を考えることができる	なぜその情報はそこにあるのか熟考し、活用をすることができる。	子供の実態に応じた、情報の活用を考えることができ、発達年齢に配慮しながら、情報活用力の力をつけようとする
共生・協働する力	自分の考えでのみ動いてしまう	人と話し合い、問題を解決しようとする	教員で話し合い、チームとして子供の指導に当たることができる	Webやネットの特性も理解したうえで、遠隔会議やe-Learningにも積極的に参加し、他者と協働して成果を上げようとする
創造・発信力	情報教育の目標に合う授業を考えることができない	情報活用の実践力を育てる授業を創造できる	情報活用能力全般を育てる授業を常に意識して考えるこ	自らの授業内容を学級通信などを通して、正確に保護者にも伝える

			とができ る。	ことができ る
--	--	--	------------	------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義オリエンテーション
- 第 2 回 情報教育の目標および情報活用能力について
- 第 3 回 情報教育の重要性と課題
- 第 4 回 情報活用の実践力の現状と課題
- 第 5 回 情報活用の実践力を育む教材
- 第 6 回 学校現場における情報活用の実践力
- 第 7 回 子供たちが情報活用能力を養うためのポイント
- 第 8 回 小学校におけるプログラミング教育
- 第 9 回 プログラミング教育の実践演習
- 第 10 回 情報社会に参画する態度
- 第 11 回 スマートフォンとゲーム依存およびソーシャルメディアによる問題点
- 第 12 回 行政サイドから見た問題点（外部講師）
- 第 13 回 これからの高度情報化社会
- 第 14 回 理想の情報活用能力とは
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本講義は、対面授業とオンライン学習のブレンド型で授業を進める。オンライン講義による解説と受講者の小グループによる対面ディスカッションを適時、導入し、受講生が主体的に講義に参加できる学習方法を取り入れて行う。

内容は、小学校・幼稚園での情報教育の方法について考えることになる。

課題に関しては、授業中に相互評価を行ったうえで、教員からコメントを述べる形でフィードバックを行う。また、個別にオフィスアワーなどで質問等を受け、指導する。

毎回の講義に関しては、responを使用したコメントを収集し、その内容に関しては次の講義で紹介をし、質問項目などは全体の場でフィードバックを行う。

プログラミング教育実践演習では、タブレットを用いたプログラミングの体験を基に小学生への指導方法をディスカッションで考え、教員の助言も参考に授業の組み立てができるようにする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

前回までの復習をしておくこと。

学習指導要領や教育要領をよくみておくこと。

自分が授業をするというイメージをもって授業に臨むこと。

グループでの活動に積極的に参加すること

GPAによる個別学習方法（ここでのGPAはあくまでも目安です）

GPAが1.5程度未満の場合

「教育の方法と技術」の復習を確実にしておくこと

※上記科目未履修の場合は、新しい学習指導要領をみおく。

GPAが1.5から3程度の場合

上記に加えて、最近の情報教育に関する情報をWeb等で確

認しておく

GPAが3.0程度以上の場合

上記に加えて、情報機器の活用および小学校プログラミング教育の現状把握を文献やWebで行っておく

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加意欲・態度（30%）

課題やレポートに対する自己評価・相互評価（40%）

期末レポート（30%）

〔留意事項（Other Information）〕

この授業は教員（幼稚園も含む）を志望する学生向けの実践的科目として設定しており、教員志望者以外は、その旨理解して参加することが必要である。教員志望者以外への配慮は特別に行わないので注意すること。

教育実践について小グループによるディスカッションを行うので、講義に主体的に参加することが重要である。

現場での情報教育の実践家など外部講師を招いての授業を行うことがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校学習指導要領』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607

『高等学校学習指導要領解説情報編』/文部科学省/開隆館出版販売/2010/9.784304041655E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 教員として公立学校に勤務経験あり

食と健康の教育

EDC3451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

3年次

2単位 後期

水曜4限

DP4：思考・解決力

60

住本 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

食生活は健康の基盤となるだけでなく、我々の生活を豊かにするうえでも重要な役割を果たしている。本授業では、健康の維持・増進のために知っておきたい栄養素の働きやバランスの良い食事について理解することに加えて、様々な視点から食について考え、自身の食生活を振り返ることなどを通じて、「食」に対する興味・関心を深めることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・栄養素の基礎やバランスの良い食事について理解する。
- ・我々の生活における食の役割について理解する。
- ・自分自身の食生活について振り返り、健全な食生活とは何か考える。
- ・食教育について知り、簡単な教育計画が提案できるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	食や食育に関して興味関心を持っていない、学ぶ意欲がない。	食や食育に関する基礎的事項を理解できる。	食や食育に関する発展的事項を理解できる。	食や食育に関する発展的事項を理解し活用することができる。
創造・発信力	調べたことのプレゼンテーションを行っていない。	調べたことのプレゼンテーションを行うことができる。	調べたことのプレゼンテーションを行い、他者にその内容を適確に伝えることができる。	調べたことのプレゼンテーションが創造性豊かであり、他者にその内容を適確に伝えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
現代の食に関する諸問題
- 第 2 回 食の概念と大切さ
- 第 3 回 食に関する基本的知識
- 第 4 回 食育について
- 第 5 回 PBLの進め方について
- 第 6 回 調査・発表資料作成① (各自テーマを決める)
- 第 7 回 調査・発表資料作成② (何をどう調査していくのか)
- 第 8 回 調査・発表資料作成③ (調査結果と分析)
- 第 9 回 調査・発表資料作成④ (結果の考察と資料作成)
- 第 10 回 調査・発表資料作成⑤ (資料作成と発表の工夫)
- 第 11 回 発表① (例: 食の大量廃棄について)
- 第 12 回 発表② (例: 幼稚園での食育実践例)
- 第 13 回 発表③ (例: 食の好み・大人と子どもの比較から)
- 第 14 回 発表④ (例: 食物アレルギーの実態)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義を中心とした形式で進め、演習やDVD鑑賞も適宜取り入れる。
- ・テーマにもとづいて、各自 (またはグループ) でまとめ (発表) を行うことにより理解を深める。

・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

食に対して興味・関心を持ち、普段から食に関する内容について情報を収集する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表、発表資料 (60%)、授業内における活動 (20%)、小レポート (20%) に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『栄養の基本がわかる図解事典』/中村丁次監修/成美堂出版//
『食と健康の科学』/稲山貴代・大森玲子編著/建帛社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (小学校教員として、給食指導、家庭科授業を通した食育に取り組んだ経験あり)

図工 I

EDC2201N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

月曜 2限

DP2 : 知識・理解力

15

藤本 陽三

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

図画工作科が担うべき役割とその目指すところ、内容構成の考え方や、各領域の内容の概要について、小学校学習指導要領、教科書等から理解する。そして、その目標を具現化するための方法を、美術と教育の本質から考える。そのために、各領域の題材についての教材研究や学校教育現場での実践例等を通して、子どもたちが、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科教育のあるべき姿を考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・図画工作科の性格と目標について理解する。
- ・図画工作科教育の変遷と今日的課題について理解する。
- ・図画工作科の内容構成について理解する。
- ・図画工作科の指導内容について、各領域の題材についての教材研究を通して把握する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	図画工作科の目標・内容の理解が不十分で、説明することができない。	図画工作科の目標・内容を理解し、ある程度説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、授業づくりの視点とともに説明することができる。
技能・表現力	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等の習得が不十分で、使うことができない。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等のある程度習得し、使うことができる。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等を習得し、活用することができる。	学習に必要な材料・用具の使い方や技法等を習得し、状況に応じて選んだり組み合わせたりして活用することができる。
学びに向かう力	図画工作科の指導における自らの学習課題について説明することができない。	図画工作科の指導における自らの学習課題についてある程度説明することができる。	図画工作科の指導における自らの学習課題について説明することができる。	図画工作科の指導における自らの学習課題と課題解決の具体策について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 図画工作科の担うべき役割と目指すもの
- 第 2 回 図画工作科教育の変遷
- 第 3 回 小学校学習指導要領の変遷と今日的課題
- 第 4 回 図画工作科の性格と目標
- 第 5 回 図画工作科の内容構成
- 第 6 回 造形遊び①（指導内容についての理論研究）
- 第 7 回 造形遊び②（演習）
- 第 8 回 絵や立体に表す①（指導内容についての理論研究）
- 第 9 回 絵や立体に表す②（演習）
- 第 10 回 工作に表す①（指導内容についての理論研究）
- 第 11 回 工作に表す②（演習）
- 第 12 回 鑑賞①（指導内容についての理論研究）
- 第 13 回 鑑賞②（演習）
- 第 14 回 図画工作科の指導と評価
- 第 15 回 指導計画の作成及び各教科・領域等との関連、まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義、討論、実習、演習を中心に進める。具体的な題材に関する実習も必要に応じて行う。

* 提出された課題等については添削の後、返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回の学習内容と対応する教科書の章を読んでおくこと（第1回「図画工作科の担うべき役割と目指すもの」は第1部第1章「美術教育の目標」、第2回以降は講義の中で指示する）

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、小レポート[作品等の提出課題も含む]（40%）、試験に替えてのレポート（30%）により行う。

〔留意事項（Other Information）〕

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『美術教育概論（新訂版）』/大橋 功/日本文教出版/2018.10/9784536601030/学内販売予定

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』/文部科学省/日本文教出版/2018.2/9784536590112/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫/教員として学校に勤務経験あり

図工 II

EDC2202N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

水曜 1限

DP2: 知識・理解力

15

藤本 陽三

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「保育所保育指針」に示された「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」の具現化を図るため、幼児教育における造形の指導を行ううえで必要となる基礎的・基本的な知識や技能を習得するとともに、受講者自身が造形の楽しさや喜びを体験し、感性を豊かにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) 造形活動に必要な材料・用具についての基礎的・基本的な知識・技能を習得する。

(2) さまざまな表現方法を体験し、「かくこと」「つくること」の楽しさや喜びを味わいつつ、感性を豊かにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等についての理解が不十分で、説明できない。	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等について理解し、ある程度説明することができる。	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等について理解し、説明することができる。	より豊かな造形活動の具現化に向け、材料・用具及び技法を選んだり、組み合わせたりして活用することについて説明することができる。
技能・表現力	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等を使って活動(表現)することができない。	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等を使って活動(表現)することができる。	幼児の造形活動に必要な材料・用具及び技法等を活用して活動(表現)することができる。	幼児の活動をより豊かなものにするという視点から、材料・用具及び技法等の使い方を工夫したり、組み合わせたりして活用することができる。
学びに向かう力	幼児の造形活動の指導における自らの学習課題について説明することができない。	幼児の造形活動の指導における自らの学習課題についてある程度説明することができる。	幼児の造形活動の指導における自らの学習課題について説明することができる。	幼児の造形活動の指導における自らの学習課題について説明するとともに課題解決の具体策について説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 造形遊び① (材料・素材遊び...並べる・積む)
- 第 3 回 造形遊び② (材料・素材遊び...組み合わせる)
- 第 4 回 造形遊び③ (技法・道具遊び)
- 第 5 回 絵や立体に表す① (材料・用具の使い方...パス・クレヨン他)
- 第 6 回 絵や立体に表す② (材料・用具の使い方...絵具他)
- 第 7 回 絵や立体に表す③ (観察からの表現)
- 第 8 回 絵や立体に表す④ (経験からの表現)
- 第 9 回 絵や立体に表す⑤ (お話・空想からの表現)

- 第 10 回 絵や立体に表す⑥ (まとめ...心象表現)
- 第 11 回 遊んだり・使ったりするものをつくる① (用途を考えた表現...「使う」)
- 第 12 回 遊んだり・使ったりするものをつくる② (用途を考えた表現...「飾る」)
- 第 13 回 遊んだり・使ったりするものをつくる③ (機能を考えた表現...「動く」)
- 第 14 回 遊んだり・使ったりするものをつくる④ (機能を考えた表現...「音が出る」)
- 第 15 回 遊んだり・使ったりするものをつくる⑤ (まとめ...適用表現)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習、演習を中心に、講義も交えて進める。具体的な題材の指導に関する演習も必要に応じて行う。

* 提出された課題 (作品等) についてはコメントを添付して返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の学習内容について、提示する資料等により予習するとともに、必要に応じて材料等を準備する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (30%)、作品等の提出課題 [小レポートも含む] (70%)

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『美術教育概論 (新訂版)』/大橋 功/日本文教出版/2018.10/9784536601030/学内販売予定

『保育所保育指針解説』/厚生労働省/フレーベル館/2018.3/9784577814482/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫/ 教員として学校に勤務経験あり

図工科指導法

EDP2451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

水曜1限

DP4: 思考・解決力

60

幼小・小特必修

藤本 陽三

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもたちが表現や鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら「つくりだす喜び」を味わい、一人一人のよさを発揮しながら自己実現を図るための図画工作科の実践的な指導力を習得する。そのために、小学校学習指導要領の内容や教科の特質を踏まえつつ、各領域の題材についての教材研究、学習指導案の作成、模擬授業とその分析等を通して、授業づくりの基礎を身につけ、具体的な指導法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 図画工作科の性格、目標、内容について、小学校学習指導要領、教科書等を通して理解する。
- ・ 指導計画及び学習指導案の作成方法を理解する。
- ・ 各領域の題材についての教材研究を通して、その内容と指導法を理解する。
- ・ 学習指導案を作成し、模擬授業とその分析を通して、授業づくりの基礎を身につける。
- ・ 材料・用具の使い方や安全面での配慮について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	図画工作科の目標・内容の理解が不十分であり、説明することができない。	図画工作科の目標・内容を理解し、ある程度説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、説明することができる。	図画工作科の目標・内容を理解し、授業づくりの視点とともに説明することができる。
思考・解決力	学習指導の基本的事項が身に付いておらず、学習指導計画が立案できない。	学習指導の基本的事項を身に付け、学習指導計画が立案できる。	学習指導の基本的事項を身に付けるとともに、学びの過程での資質・能力の働きを明確にし、その実現に向けて学習指導計画が立案できる。	教科書等の題材をもとに、状況に合わせて新たな題材を考案・開発できる。

学びに向かう力	より良い学習指導の実現に向けての自らの学習課題について説明することができない。	より良い学習指導の実現に向けて、自らの学習課題についてある程度説明することができる。	より良い学習指導の実現に向けて、自らの学習課題について説明することができる。	より良い学習指導の実現に向けて、自らの学習課題と課題解決の具体策について説明することができる。
---------	---	--	--	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 図画工作科の性格、目標について
- 第 2 回 図画工作科の授業づくりについて、教科書、学校教育現場における授業実践等から学ぶ
- 第 3 回 指導計画と評価、学習指導案の作成方法について
- 第 4 回 「造形遊び」の題材の指導について
- 第 5 回 「造形遊び」の題材の指導案作成
- 第 6 回 「絵や立体に表す」の題材の指導について
- 第 7 回 「絵や立体に表す」の題材の指導案作成
- 第 8 回 「工作」の題材の指導について
- 第 9 回 「工作」の指導案作成
- 第 10 回 「鑑賞」の題材の指導について
- 第 11 回 「鑑賞」の題材の指導案作成
- 第 12 回 模擬授業 (前半)
- 第 13 回 模擬授業 (後半)
- 第 14 回 模擬授業の分析、考察 (各班ごと)
- 第 15 回 模擬授業の分析、考察 (全体)、まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、討論、演習及び実習を中心に進める。
* 提出されたレポート (学習指導案等) については添削の後、返却したり、授業での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第1回から第4回及び第6回、第8回、第10回の受講に際しては、毎回の学習内容と対応する教科書の章を読む。第5回、第7回、第9回、第11回の受講に際しては、配布した資料をもとにして、学習指導案の指定された項目について、各自立案する。第12回、第13回については、模擬授業の準備を行い、あわせて児童の反応を予想してまとめる。第14回、第15回については各自で授業についての分析・考察を行っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (20%)、学習指導案及び模擬授業 (40%)、試験 (40%) により行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『美術教育概論 (新訂版)』/大橋 功/日本文教出版/2018.10/9784536601030/学内販売予定

『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 図画工作編』/文部科学省/日本文教出版/2018.2/9784536590112/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫/ 教員として学校に勤務経験あり

生活

EDN1252N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

火曜3限

DP2: 知識・理解力

60

小川 博士 大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活科の目標・内容について、生活科に関わるさまざまな領域の事例や演習を通して、理解する。また、他教科、総合的な学習の時間との関連についても理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生活科の目標・内容について、学習指導要領や具体的な活動や体験を通して理解することができる。
2. 生活科と総合的な学習の時間とのつながりや、他教科との関連について理解することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	小学校生活科の内容構成の理解が不十分であり、それについて説明することができない。	小学校生活科の内容構成を理解し、それについてある程度、説明することができる。	小学校生活科の内容構成を理解し、それについて説明することができる。	小学校生活科の内容構成を理解し、それについて授業づくりの視点とともに説明することができる。

学びに向かう力	小学校生活科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、説明できない。	小学校生活科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、ある程度説明できる。	小学校生活科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、明確に説明できる。	小学校生活科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、授業づくりと関連させて説明できる。
---------	--	---	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション<対面>
 第 2 回 学習指導要領の変遷とその背景、生活科の目標 (担当: 大西) <対面>
 第 3 回 生活科の内容構成① (主として自然との関わり) と大学探検 (担当: 小川) <対面>
 第 4 回 植物の栽培 (担当: 小川) <対面>
 第 5 回 身近な自然との触れ合い (担当: 小川) <対面・学外演習の予定>
 第 6 回 生活科と理科との関連 (担当: 小川) <対面>
 第 7 回 自然や物を使った遊び (担当: 小川) <個別学習>
 第 8 回 遊び発表会 (担当: 小川) <オンライン>
 第 9 回 授業内試験及びディスカッション① (主として自然との関わりについて) (担当: 小川) <対面>
 第 10 回 生活科の内容構成とその意義 (担当: 大西) <対面>
 第 11 回 生活科授業デザインのための理論&プラン (担当: 大西) <対面>
 第 12 回 町探検 (担当: 大西) <オンライン>
 第 13 回 地域マップづくり (担当: 大西) <個別学習>
 第 14 回 生活科の評価及び他教科・領域との関連 (担当: 大西) <対面>
 第 15 回 授業内試験及びディスカッション② (担当: 大西) <対面>

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義を主とする。ただし、内容により、フィールドワークやグループでの討議など演習も交えながら進める。
- ・一部、オンライン授業を行うので、シラバスや授業時のアナウンスに留意すること。
- ・授業内試験やレポートは、全体に対してフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

必要に応じて予習課題を出す。

本講義の中で、小学校生活科のすべての内容を扱うことは難しい。扱えなかった内容については、講義の内容をもとに各自で学習することが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

各担当者が50%ずつ評価する。授業参加度 (10%×2=20%)、授業内試験 (40%×2=80%)

〔留意事項 (Other Information)〕

・受講者の人数やニーズにより、授業内容を変更することがある。

・教材づくりに関わる費用の一部を負担してもらう場合があるので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説生活編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034645/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 大西、小川：小学校教員として公立小学校での勤務経験あり。

生活科指導法

EDP2404NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜2限

DP4：思考・解決力

60

幼小・小特必修

大西 慎也 小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

履修済みの「生活」で学習した内容を活用して、生活科の具体的な指導方法を習得する。単元づくり、学習指導案の作成方法を理解する。実際に体験的な活動を行いながら、社会、自然、自分との関わりの重要性を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.生活科設立の趣旨である社会と自然と自分との関わりについて理解する。

2.学習指導案の作成方法を理解する。

3.体験的な学習の指導方法を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解	小学校学習指導要領における生活科の目標を理解できず、学習指導案の作成、模擬授業の実施が困難である。	小学校学習指導要領における生活科の目標は理解できるものの、学習指導案の作成、模擬授業の実施が困難である。	小学校学習指導要領における生活科の目標を理解し、学習指導案を作成できるものの、模擬授業を実施できない。	小学校学習指導要領における生活科の目標を理解し、学習指導案を作成することができ、模擬授業が実施できる。
思考・判断・表現	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に活かすことが全くできない。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に十分に活かすことができない。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に十分に活かすことができる。	教員や履修生からの指摘を指導案の改善に活かすのはもちろん、さらなる改善に努めている。

〔授業計画〕

第1回 生活科の授業事例と分析 (大西・小川)

第2回 体験的な活動 (小川)

第3回 模擬授業の在り方と意義 (オンライン) (小川)

第4回 学習指導案の作成方法 (小川)

第5回 学習指導案の作成① (個人) (大西)

第6回 学習指導案の作成② (グループ) (大西)

第7回 教材の開発 (大西)

第8回 学習指導案の検討 (大西)

第9回 模擬授業の実施と検討①・・・社会との関わり (社会との関わり「地域のよさ」) (大西)

第10回 模擬授業の実施と検討②・・・自然との関わり (自然との関わり「自然のすばらしさ」) (小川)

第11回 模擬授業の実施と検討③・・・自分との関わり (自分との関わり「家族とのかかわり」) (大西)

第12回 模擬授業の実施と検討④・・・社会との関わり (社会との関わり「集団や社会の一員として」) (大西)

第13回 模擬授業の実施と検討⑤・・・自然との関わり (自然との関わり「自然を活かした遊びや生活の工夫」) (小川)

第14回 模擬授業の実施と検討⑥・・・自分との関わり (自分との関わり「自分の良さや可能性」) (小川)

第15回 模擬授業の総括 (小川)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と模擬授業などの演習を並行して行う。

一部、オンライン授業を実施する予定である。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学習指導案の作成、模擬授業の準備にあたって、文献調査や実地調査など、授業時間外の学習を求める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、模擬授業後のリフレクションカード (30%)、学習指導案 (50%)、模擬授業 (20%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説生活編』/文部科学省/東洋館出版/2018/978-4491034645/学内販売をしない予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『気付きの質を高める生活科指導法』/原田信之、須本良夫、友田靖雄/東洋館出版/2011/9.7844910268E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について

／ 担当者2名とも小学校教員としての勤務経験あり

生徒指導・進路指導

EDP3202N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

木曜2限

DP2: 知識・理解力

60

河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもたち自身が社会の中で、自己実現できるように指導・援助する方法を身に付ける。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導・進路指導を進めていくために必要な知識・技能を身に付ける。また、実際の事例を通し、学校の教育目標と生徒指導・進路指導の関連を学習指導要領上の位置づけの中で理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。
2. すべての児童及び生徒を対象とした生徒指導、進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。
3. 児童及び生徒が抱える生徒指導、進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方とあり方を理解する。
4. 養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回

教育課程における生徒指導の位置付け及び生徒指導体制と教育相談体制

第 2 回

各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性

第 3 回

- 集団指導・個別指導の方法原理
- 第 4 回 年間学習計画に基づいた組織的な取組の重要性
- 第 5 回 基礎的な生活習慣の確立と規範意識の醸成における生徒指導の在り方
- 第 6 回 校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令等
- 第 7 回 暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点
- 第 8 回 今日的な生徒指導上の課題と専門家や関係機関等の連携の在り方
「児童・生徒の自己有用感の高まりと意図的な場づくり」
- 第 9 回 教育課程における進路指導・キャリア教育の視点と指導の在り方
- 第 10 回 学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方
- 第 11 回 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携
- 第 12 回 キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義
- 第 13 回 ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義
- 第 14 回 キャリア形成の視点に立った自己評価の意義
「ポートフォリオの活用の在り方」
- 第 15 回 キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義形式
2. 討論
3. 発表
4. 小レポート
5. レポートについては、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校、中学校、高校での自分自身や友達に関わるトラブルをどのようにに解決してきたかを振り返る。

これまでの自らの進路選択について、その意思決定の経過を振り返る。

新聞、テレビ等で子どもや学校に関わる報道に関心をもつ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(20%)、小レポート (30%)、定期試験(50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

・ 対面授業で実施する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『生徒指導提要』/文部科学省/教育図書/2010/9784877302740/学内販売予定

授業中に適時資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『生徒指導・進路指導の理論と実際』/河村茂雄編著/図書文化/2011/978481001582

『事例から学ぶ児童・生徒への指導と援助』/庄司一子監修/ナカニシヤ出版/2010/9784779509650

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 25年 (内、教頭6年)

京都市立小学校校長 6年

総合的な学習の指導法

EDP3450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

金曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「総合的な学習の時間」導入の背景、ねらいについて、学習指導要領の変遷に基づいて理解する。先人の開発したカリキュラムに学びながら、「総合的な学習の時間」のカリキュラムについて理解する。さらに、学習指導案の作成方法、評価の在り方に理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「総合的な学習の時間」導入の背景、ねらいについて理解する
2. 「総合的な学習の時間」のカリキュラム作成について理解する。
3. 「総合的な学習の時間」の指導案を作成できる。
4. 「総合的な学習の時間」の評価方法について理解できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解	総合的な学習の時間の目標が理解できていない。	総合的な学習の時間の目標が理解できている。	総合的な学習の時間の目標を理解しており、カリキュラムの重要性も理解できている。	総合的な学習の時間の目標を理解しており、カリキュラムの重要性を理解し、実践の開発に活かすことができる。
技能・実践力	本講義のテーマに沿った学習指導案の作成や模擬授業を実施できない。	本講義のテーマに沿った学習指導案を作成できるものの、模擬授業を実施できない。	本講義のテーマに沿った学習指導案を作成し、模擬授業を実施できる。	本講義のテーマに沿っているだけでなく、先人の知見から学んだことを活かしながら学習指導案を作成し、且つ模擬授業を辞しできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 「総合的な学習の時間」とは何か（対面）
 - 第 2 回 学習指導要領の変遷と「総合的な学習の時間」のねらい（対面）
 - 第 3 回 戦前の「総合的な学習の時間」の理論と歴史（対面）
 - 第 4 回 戦後の「総合的な学習の時間」の理論と歴史（対面）
 - 第 5 回 大正自由教育期と戦後新教育運動期の明石附小における取組（対面）
 - 第 6 回 コアカリキュラムとは（対面）
 - 第 7 回 コアカリキュラムの視点をふまえた教材研究（対面）
 - 第 8 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークのあり方（対面）
 - 第 9 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークの実際（対面）
 - 第 10 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークのまとめ（対面）
 - 第 11 回 コアカリキュラムの視点をふまえた実践開発（オンライン）
 - 第 12 回 コアカリキュラムの視点をふまえたカリキュラム開発（オンライン）
 - 第 13 回 コアカリキュラムの視点をふまえた学習指導案の作成（オンライン）
 - 第 14 回 模擬授業（対面）
 - 第 15 回 「総合的な学習の時間」とは何か・まとめ（対面）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。

*提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

実践を開発するため、文献調査や実地調査を行う必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

毎時間のリフレクションカード30%、開発した実践の内容70%

〔留意事項（Other Information）〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編/文部科学省/東洋館出版/2018/978-4491034683/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について
／ 小学校教員としての勤務経験あり

体育 I

EDC2203N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

15

高田 佳孝

〔科目の教育目標（Course Description）〕

体育・スポーツのもつ教育的可能性、体育科の基礎知識（体育科の基本的性格や内容論）等を理解する。体育科教育・スポーツ教育を取り巻く基礎的・制度的条件について理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・生涯スポーツと学校体育について考察する。
- ・体育科の特性と役割について学習指導要領から理解する。
- ・実践を通して、各運動領域の特性とねらいについて理解する。
- ・体育授業の指導者になるという意識を持ち、授業に取り組む。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習指導要領の理解	学習指導要領を知らない	学習指導要領の各領域について理解している	学習指導要領の各領域について理解し、その特徴を捉えている	
積極性：主体性	消極的態度であり、実技に参加しない	積極的態度で授業に臨むことができる	他の学生に配慮しながら、相互作用行動がとることができる	
思考・解決力	与えられたテーマについて思考しない	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考することができる	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考し、他者の意見を取り入れることができる	

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 スポーツ、体育の歴史
- 第 3 回 学校体育が抱える諸問題
- 第 4 回 体育科教育・スポーツ教育における日本の動きと国際的な動向
- 第 5 回 欧米諸国で提案されているスポーツ教育論
- 第 6 回 文化としてのスポーツ・体育の意義や多様性
- 第 7 回 体育科を通じた教師の成長と必要な資質
- 第 8 回 小学校体育科の基本的性格と目的
- 第 9 回 学習者としての児童の発育発達
- 第 10 回 教科内容論（系統性を踏まえた運動領域編成）
- 第 11 回 体育科の教材づくり論
- 第 12 回 各運動領域の構造（体づくり運動、表現運動）
- 第 13 回 各運動領域の構造（器械運動、陸上運動）
- 第 14 回 各運動領域の構造（ゲーム・ボール運動）
- 第 15 回 まとめ（フィードバックと解説）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションおよび実技を中心に展開する。
- ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。

・次回の授業内容について、学習指導要領や参考文献で確認しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度、授業態度（30%）、小レポート（20%）、テスト（50%）として総合的に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

実技時は、運動できる服装（ジャージ等）に更衣し、体育館シューズを履くこと。

安全確保のために、適宜、持ち物等の指示を行う。

講義内容について前後する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『体育授業を観察・評価する』/高橋建夫編著/明和出版//

『新版 体育科教育学入門』/高橋建夫ほか編著/大修館書店//

『小学校学習指導要領解説 体育編』/文部科学省/東洋館出版社//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（小学校教員として、体育授業研究に取り組んだ経験）

体育 II

EDC2204N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

2年次

1単位 前期

木曜 5限

DP2：知識・理解力

15

高田 佳孝

〔科目の教育目標（Course Description）〕

幼児期における運動遊びのねらいと内容について理解する。心と体の健康維持・増進を重点におき、発達段階や安全に配慮した運動遊びに必要な基礎的技能を習得する。子どもたちの自主性・主体性を核とした運動支援方法の知識を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・運動遊び実践において必要な知識と技能を習得する。
- ・運動遊びにおける安全管理を理解する。
- ・幼児の運動遊びや伝承遊びを自ら理解し、遊びを工夫する。
- ・幼児の表現力を引き出すための題材、環境、構成、援助について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

幼児期運動指針の理解	幼児期運動指針を知らない	幼児期運動指針について理解している	幼児期運動指針について理解し、その特徴を捉えている
積極性：主体性	消極的態度であり、実技に参加しない	積極的態度で授業に臨むことができる	他の学生に配慮しながら、相互作用行動がとることができる
思考・解決力	与えられたテーマについて思考しない	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考することができる	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考し、他者の意見を取り入れることができる

〔授業計画〕

第 1 回	第1回 オリエンテーション	今年の子どものからだの異変とその対策
第 2 回	実技①体育あそびの実践	からだを使ったあそび
第 3 回	実技②体育あそびの実践	用具を使ったあそび ボール運動
第 4 回	実技③体育あそびの実践	フープ、なわを使ったあそび
第 5 回	実技④体育あそびの実践	マット、とび箱
第 6 回	実技⑤体育あそびの実践	リズム運動
第 7 回	実技⑥体育あそびの実践	組体操、チームゲーム
第 8 回	実技⑦体育あそびの実践	コーナーあそびの設定のしかた、行い方からサーキット遊びへの発展
第 9 回	実技⑧体育あそびの実践	運動会種目（競技種目、表現・リズム種目、レクリエーション種目）
第 10 回	実技⑨体育あそびの実践	幼児の体力測定の実践を学ぶ
第 11 回	理論①子どもの生活と運動	
第 12 回	理論②運動発現のメカニズム	体力測定評価
第 13 回	理論③幼児体育の意義と役割、創意工夫をした遊びを考える	
第 14 回	理論④幼児体育指導上の留意事項、運動遊びの発表	
第 15 回	運動遊びの発表、まとめ、フィードバック	

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・講義とそれに基づく課題についてのディスカッションおよび実技を中心に展開する。
- ・実習を中心とするので、積極的に自らが運動遊びを楽しむ。
- ・実践者、幼児役それぞれの観点からの議論を行う。

- ・グループ学習によって、相互理解を深める活動を行う。
- ・資料は適宜配布する。
- ・レポート課題については、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- ・最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・関連性を持って、講義を進行していくので、前回の授業内容について復習する。
- ・ニュースや新聞の記事を注視し、幼児の運動についての問題点や疑問点を常に持つように心がけること。
- ・文部科学省『幼児期運動指針』を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度、授業態度（50%）、提出物・小レポート（30%）、実技に関する課題（20%）とし、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

実技時は、運動できる服装（ジャージ等）に更衣し、体育館シューズを履くこと。

安全確保のために、適宜、持ち物等の指示を行う。

講義内容について前後する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児体育－理論と実践－第5版』/日本幼児体育学会/大学教育出版/2016/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（小学校教員として、体育授業研究に取り組んだ経験）

体育科指導法

EDP2453N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

2年次

2単位 後期

金曜3限

DP4：思考・解決力

60

幼小・小特必修

高田 佳孝

〔科目の教育目標（Course Description）〕

体育科の目標、学習内容、運動の特性などに関する基本的な知識について理解する。 小学校において児童が熱中して運動に取り組む体育授業を実践する能力（教材の工夫・指導方法・授業計画）を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 教科の内容、各運動領域の特性とねらいについて理解を深める。
- ・ 学習指導案の作成、学習カードの作成、発問の仕方等について理解する。
- ・ 運動の苦手な児童に対する支援や助言の仕方について理解する。
- ・ 指導案を作成し、模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。
- ・ 模擬授業を評価することで授業の改善点に気づき、改善方法を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習指導要領の理解	学習指導要領を知らない	学習指導要領の各領域について理解している	学習指導要領の各領域について理解し、その特徴を捉えている	
積極性：主体性	消極的態度であり、実技に参加しない	積極的態度で授業に臨むことができる	他の学生に配慮しながら、相互作用行動がとることができる	
思考・解決力	与えられたテーマについて思考しない	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考することができる	与えられたテーマについて、自身の経験に照らし合わせ思考し、他者の意見を取り入れることができる	

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 小学校体育科の目標、教科内容
- 第 3 回 運動の特性を理解した授業の組み立て
- 第 4 回 効果的な運動の学習指導方法
- 第 5 回 各運動領域の内容、特性、教材づくり① (体づくり運動、陸上運動系)
- 第 6 回 各運動領域の内容、特性、教材づくり② (器械運動系、水泳系)
- 第 7 回 各運動領域の内容、特性、教材づくり③ (ボール運動系、表現運動系)
- 第 8 回 模擬授業に向けた準備① (指導案の書き方)
- 第 9 回 模擬授業に向けた準備② (授業観察法について)
- 第 10 回 模擬授業① (陸上運動)
- 第 11 回 模擬授業② (体づくり運動)
- 第 12 回 模擬授業③ (器械運動)
- 第 13 回 模擬授業④ (ボール運動)
- 第 14 回 模擬授業⑤ (表現運動)

第 15 回 まとめ:体育授業づくりと指導のフィードバック
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 講義と演習 (教材作成、発表、模擬授業、グループ別活動等) を中心に行う。
- ・ 資料については適宜配布する。
- ・ レポート課題・模擬授業については、授業時にフィードバックを行う。
- ・ 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小学校学習指導要領解説体育編を熟読した上で参加すること。
インターネットを活用し、多様な体育科学習指導案に触れること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、授業態度 (30%)、指導案 (20%)、模擬授業 (30%)、小テスト・小レポート (20%) として総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

模擬授業は、実技を伴う。
実技時は運動できる服装 (ジャージ等) に更衣し、体育館シューズを履くこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 体育編』/文部科学省/東洋館出版社//

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新版 体育科教育学入門』/高橋健夫ほか/大修館書店//

『初等体育授業づくり入門』/岩田靖ほか/大修館書店//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (小学校教員として、体育授業研究に取り組んだ経験)

知的障害者の心理・生理・病理

EDD2500N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜3限 その他

DP5: 共生・協働する力

60

丹羽 登 東道 伸二郎

【科目の教育目標 (Course Description)】

知的障害のある子供の脳の構造と機能を学び、そこから知的障害児を理解するために、引き起こされる具体的な原因疾患について言及する。また、代表的な疾患に加えて、知的障害の定義と分類を概説する。知的障害児の発達は全般的な知的発達の遅れだけでなく、身体・運動、知覚、学習、情緒、言語コミュニケーションなどあらゆる領域において、生活上、学習上の困難がみられることから、その特性を概説し、指導や支援を考えるための基礎的な理解を深める。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

知的障害に関する心理・生理・病理の基礎的知識を得る。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス,知的障害教育の歴史と現状 (東道,丹羽)
- 第 2 回 脳の基本的な構造と機能 (東道)
- 第 3 回 脳の生理学, 大脳皮質の機能区分 (東道)
- 第 4 回 遺伝要因および先天的な成因 (メンデル遺伝病, 常染色体遺伝病など) (東道)
- 第 5 回 先天的な成因 (代謝異常症, ダウン症候群, 内分泌疾患) (東道)
- 第 6 回 周産期の成因1 (重症黄疸, 分娩仮死状態など) (東道)
- 第 7 回 周産期の成因2 (脳性麻痺) (東道)
- 第 8 回 乳幼児期の成因1 (高熱, 脳炎の後遺症, てんかんなど) (東道)
- 第 9 回

乳幼児期の成因2 (限局性学習障害, 自閉スペクトラム症) (東道)

- 第 10 回 知的障害のある子供の実態把握 (丹羽)
 - 第 11 回 知的障害児の心理的特性について (丹羽)
 - 第 12 回 知的障害児の心理的援助について (丹羽)
 - 第 13 回 知的障害児の心理をふまえた教科・自立活動の指導 (丹羽)
 - 第 14 回 知的障害児の人間関係の形成や社会性の発達に関する行動理解と支援 (丹羽)
 - 第 15 回 講義のまとめとレポート発表 (東道, 丹羽)
- 【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

指示する回の内容に関する最新の研究レポート等について、その概要をまとめて発表する。発表に対して授業者が解説を行い、学生との討議を行う。講義の最終回には講義内容の理解に関するレポートを提出し、その報告を行う。小テスト・レポート等の実施後、その講評や解説を行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

最新の知見や実践事例から、知的障害のある子供の行動やその背景について考える。

最新の研究のレポート報告や討議を通して、主体的に学ぶ。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業への参画50%, レポート50%

【留意事項 (Other Information)】

必要な資料は適宜配布する。

シラバスを変更することもありうる。

その都度、連絡するので注意すること。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

『発達障害児の医療・療育・教育』/松本昭子/金芳社/2014/978-4765315999

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』/独立行政法人国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2015/978-4863712973

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫

知的障害者教育論 I

EDD2450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

金曜1限

DP4: 思考・解決力

60

太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援教育における知的障害のある幼児、児童及び生徒（以下、こどもと記す）に対する教育の基本的な考え方と特別支援学校における教育課程の編成とその基本的構造を理解する。知的障害教育における教育課程の特徴、指導及び実践の基本を理解することで、こども一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成力と実践力の基盤を養うことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。

(2)特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。

(3)学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだことを実際に生かすために、**演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる**。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	知的障害教育で何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしなない。	知的障害教育の中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	知的障害教育で必要な知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	知的障害教育に関する自分の学びを振り返り、考えることができる。	知的障害教育に関する新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	知的障害教育に関して学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	知的障害教育に関して自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	知的障害教育に関して自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス (授業の概要・評価について) 障害児教育の歴史
- 第 2 回 知的障害の基礎知識と実態把握 (主な検査の種類と方法)
- 第 3 回 特別支援教育の理念と知的障害のあるこどもに応じた教育課程編成
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 4 回 自立活動の6区分と相互に関連づけた指導
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 5 回 知的障害教育の授業の形態 (教科別、各教科等を合わせた指導)
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 6 回 遊びの指導、日常生活の指導、生活単元学習の授業
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 7 回 作業学習の授業
特別支援学校(知的障害)における**教育課程の編成とその基本的な構造**について理解する。
- 第 8 回 個別の教育支援計画と個別の指導計画

特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。

第 9 回 交流及び共同学習とインクルーシブ教育システムの構築
特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。

第 10 回 情報機器等の活用とその実際
特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。

第 11 回 社会的・職業的自立をめざした進路指導、職業教育とキャリア教育
特別支援教育体制の中で、**特別支援学校が地域で担う役割と、知的障害のあるこどもの教育を実践するための基礎的な知識**を習得する。

第 12 回 各教科等を合わせた指導の授業
各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部を合わせた指導（各教科等を合わせた指導）の授業（特別支援学校の授業参観）

第 13 回 各教科等を合わせた指導の授業研究

第 14 回 授業の振り返りとレポート提出

第 15 回 レポート発表と評価
作成したレポートを基にまとめた内容をプレゼンテーションする。発表内容を受講者間で相互評価し、評価内容を教員も含めてフィードバックすることで、今後の学びに生かせるようにする。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義及び学んだことに対する意見の発表、ディスカッションなどの演習を行う。毎回、学習内容を振り返り整理するために、ミニコメントシートを作成し、manaba等で提出する。また、講義の中で、前回出された意見の紹介や補足説明を行い、出された疑問をテーマにディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
テキストを事前に熟読しておくこと。
知的障害のあるこどもを教育する小学校の特別支援学級や特別支援学校でボランティア活動等を定期的に行い、特別支援教育の現場を体験していることが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
知的障害教育に関する学習指導要領や教育課程編成について、授業で扱った基礎的な内容を理解できるように、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ルーブリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート 50% 個別課題(1)(2)に対応

毎回のミニコメントシート 30% 個別課題(1)(2)(3)に対応
グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価
20% 個別課題(3)に対応

〔留意事項（Other Information）〕

本科目と肢体不自由者教育論Ⅰで扱う内容を考慮し、授業予定を調整して行う場合がある。その際は、事前に予告し、事前学習できるようにする。

学習指導案作成や授業の実際などについて、大学での学びを実践的なものとするために、近隣の特別支援学校に協力をお願いし、学外授業により授業参観と授業研究の演習を行う予定である。（交通費等は実費必要）

また、知的障害のあるこどもへの指導は保護者との連携・協働が欠かせないため、保護者の体験談を聴く予定である。

特別支援学校教員として最低限必要な基礎・基本を実践的に学ぶため、全回出席し学修することを原則とする。何らかの理由で欠席した場合は、後日補習等を実施する。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大予防マニュアル【改定版】 (https://www.notredame.ac.jp/pdf/cms/0816_manual.pdf)に基づく配慮の上で、対面授業を原則とする。感染の疑いがある場合や発熱などの症状がある場合などは、マニュアルを参照し必要な対応をとること。また、健康不安等の場合はZoomによる授業参加も可能な場合がある。接続方法も含めて事前に申し出ること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 2020』/独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 著作/ジアース教育新社/2020/978-4-86371-548-6/学内販売有

(他の障害種の教育論でもテキストとして使用します)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) / 文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》特別支援教育の専門教育科目について

特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)において教員として勤務経験あり

知的障害者教育論 II

EDD3400NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

金曜 3限

DP4: 思考・解決力

60

太田 容次

【科目の教育目標 (Course Description)】

知的障害のある幼児、児童及び生徒（以下、こどもと記す）の特別な教育的ニーズに応じた個別的教育支援計画と個別の指導計画を活用したコミュニケーション指導のための教材・教具の作成演習や、学習指導案作成から模擬授業の演習を通して、授業実践の実際について学ぶ。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

(1)知的障害のあるこどもへの指導・支援に必要な知識と技能を習得する。

(2)個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した教材・教具の作成演習と、授業計画に基づく学習指導案の作成と模擬授業を、グループでの演習により行い、指導・支援のための理論と方法を学ぶ。

(3)学んだ内容を知識として理解するだけでなく、学んだことを実際に生かすために、演習などを通して社会人基礎力を主体的に向上させる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	知的障害教育について何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしめない。	知的障害教育について学ぶことの中で、何が最も重要な事柄なのか分かる。	知的障害教育について学ぶ知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	知的障害教育について、自分の学びを振り返り、考えることができる。	知的障害教育について新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	知的障害教育について学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	知的障害教育について学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	知的障害教育について自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	知的障害教育に関して自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス (授業の概要・評価について)
- 第 2 回 特別支援学校(知的障害)の教育課程
知的障害のあるこどもへの指導・支援に必要な知識と技能を習得する。
- 第 3 回 知的障害児へのアセスメント
行動観察法・チェックリスト法・標準化された検査法を知る。
- 第 4 回 特別支援教育センター的機能と特別支援教育コーディネーター
知的障害のあるこどもへの指導・支援に必要な知識と技能を習得する。
- 第 5 回 ふさわしい学びの場への就学と卒業後の社会的・職業的自立
知的障害のあるこどもへの指導・支援に必要な知識と技能を習得する。
- 第 6 回 特別な教育的ニーズに応じた教材・教具
～アシスティブテクノロジーを活用した教材・教具の活用について学ぶ。
- 第 7 回 教材・教具の作成～演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面を想定した教材・教具の作成演習を、グループでの演習により行い、指導・支援のための理論と方法を学ぶ。

- 第 8 回 教材・教具の作成～発表と相互評価
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面
を想定した**教材・教具の作成演習を、グループでの
演習**により行い、**指導・支援のための理論と方法**
を学ぶ。
- 第 9 回 授業計画と学習指導案の作成：講義・演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面
を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模
擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・
支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 10 回 授業計画と学習指導案の作成：模擬授業の準備
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面
を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模
擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・
支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 11 回 模擬授業 1：知的障害のある児童・生徒の学級
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面
を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模
擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・
支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 12 回 模擬授業 2：知的障害及び自閉スペクトラム症の
ある児童・生徒の学級
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面
を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模
擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・
支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 13 回 授業研究の方法と授業改善の演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面
を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模
擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・
支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 14 回 個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づく学
習計画、学習指導の総合的な活用演習
個別の指導計画の活用による具体的な指導場面
を想定した**授業計画に基づく学習指導案の作成と模
擬授業を、グループでの演習**により行い、**指導・
支援のための理論と方法**を学ぶ。
- 第 15 回 レポート発表と相互評価
作成したレポートを基にまとめた内容をプレゼン
テーションする。発表内容を受講者間で相互評価
し、評価内容を教員も含めてフィードバックする
ことで、今後の学びに生かせるようにする。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポ
ート〕
定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察する
レポートを課す。
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
近年、特別支援学校の教員等から「**介護等体験や教育実
習に来て特別支援学校の現場の実際を体験するのではなく、
学生の段階で特別支援学校の体験と、体験に基づく大学で
の学修を進めてほしい。**」といった要望を聞く。これは、中
教審答申（参考URL参照）にも述べられている事である。
そのため、4年次に特別支援教育実習を控えていること
を前提に、講義及び学んだことに対する意見の発表やディ

スカッション、模擬授業などの演習を行う。

毎回、学習内容を振り返り、整理するためにミニコメン
トシートを作成し、manaba等で提出する。また、講義の中
で、前回出された意見の紹介や補足説明を行い、出された
疑問をテーマにディスカッションする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

特別支援教育実習に対応できる学修とするため、知的障
害のあるこどもを教育する特別支援学校でボランティア活
動等を定期的に行っていることが望ましい。本科目では、
特別支援学校等での定期的なボランティア等を行なってい
ることを前提として講義や演習を進めたい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

知的障害教育に関する基礎的な内容の理解を基に、教材・
教具の作成や実際の授業について実践力につながる基盤を
身に付けるために、最終の個別レポートだけで評価するの
ではなく、ルーブリックに示す項目を基に、下記の点から
総合的に評価する。

個別レポート 50% 個別課題(1)(2)に対応

毎回のミニコメントシート 30% 個別課題(1)(2)(3)に対応
グループワークや発表をルーブリックから総合的に評価

20% 個別課題(3)に対応

〔留意事項（Other Information）〕

4年次での**特別支援教育実習に必須の実践力となる知識
や技能**などを学ぶ。そのために、**全回出席し学ぶことが大
前提で、主体的に学ぶこと**を期待する。何らかの理由で欠
席した場合は、後日補習等を実施する。

本科目と肢体不自由者教育論Ⅱで扱う内容を考慮し、授
業予定を調整して行う場合がある。その際は、事前に予告
し、事前学習できるようにする。

次年度の特別支援教育実習に向けて、こどもの実態・課
題に応じた学習指導案作成や授業実践に関する学びを実際
的なものとするために、近隣の特別支援学校に協力をお願
いし、学外授業により授業参観と授業研究の演習を行う予
定である。（交通費等は実費必要）

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 2020』/独立行政法人 国立特別
支援教育総合研究所 著作/ジアース教育新社/
2020/978-4-86371-548-6/学内販売有

(他の障害種の教育論でもテキストとして使用します)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要
領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚
部・小学部・中学部) / 文部科学省/ 開隆堂出版/
2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中
学部) /文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園部・小学部・中学部） / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)

中央教育審議会答申 平成27年12月21日 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》特別支援教育の専門教育科目について

特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱虚弱）において教員として勤務経験あり。

地域福祉論 I

SWA3200N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

3年次

2単位 前期

火曜3限

DP2：知識・理解力

60

酒井 久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々がさまざまな生活問題や社会福祉問題を抱えながら暮らしているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安全・安心に暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。

このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通して考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方（概念）・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要な取り組み、専門機関や各種関連組織等について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	自分の地域や課題について、考えようとすることができない	自分の地域や課題について、情報収集しようとするができる	自分の地域や課題について、理解することができる	自分の地域や課題について、理解し、そのため何ができるかを考えることができる
知識・理解力	地域や地域福祉について、理解することができない	地域や地域福祉について、理解しようとするができる	地域や地域福祉について、理解し、大切なことが何かをすることができる	地域や地域福祉について、理解し、課題解決に必要なことを考えることができる
言語力	地域や地域福祉について、説明することができない	地域や地域福祉について、説明しようとするができる	地域や地域福祉について、説明することができる	地域や地域福祉について、説明ことができ、他者にも伝えようとするができる
思考・解決力	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができない	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決のために何が必要かを考えようとするができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決に向けて考えることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができる
共生・協働する力	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとすることができない	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとすることができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動しようとするができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動し、解決することができる
創造・発信力	地域や地域福祉について、何ができるかを考えることができない	地域や地域福祉について、何ができるかを考えようとするができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者に取り組もうと発信することができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者とともに新たな取り組みができる

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 地域福祉の概念 ①地域とは何か

第 3 回 地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か

第 4 回

- 地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流（欧米の歴史的展開）
- 第5回 地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程
- 第6回 社会福祉法における地域福祉の位置づけ
- 第7回 地域福祉の主体と対象
- 第8回 地域福祉計画と地域福祉活動計画
- 第9回 地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会
- 第10回 地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員
- 第11回 地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など
- 第12回 地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織
- 第13回 地域福祉の人材・財源
- 第14回 形成テストおよび総括
- 第15回 地域福祉推進の課題と展望

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

予習、復習の確認のため、小テストを実施する。manabaの小テスト機能で回答の確認をし、フィードバックをおこなう。形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

地域福祉に関連する社会福祉法や各種制度とその変革の流れ、参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。

また、各自が暮らしている地域についても、どのような施策が講じられているのか、またどのような活動が展開されているのか確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回小テストを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと予習、復習して臨むこと。加えて、事前にmanabaで配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし予習して授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業態度（30%）、小テスト（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—』/全国社会福祉協議会//2008/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

聴覚障害者の心理・生理・病理

EDD2550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期前半

水曜3限

DP5：共生・協働する力

30

全7.5コマ

江川 正一 東道 伸二郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

聴覚障害の心理、生理、病理についての基礎的な理解をもとに、聴覚障害が及ぼす影響について理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 聞こえに関わる生理及び病理の基本的な事項について理解する。
2. 聴力の測定の方法や、結果が表す意味について理解する。
3. 聞こえにくさが及ぼす影響について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしれない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうと	自分の学びを振り返り、考える	新たな問題を発見した時に、自分のこれまで	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や

	する態度が見られない。	ことができる。	の学びを足掛かりに考えることができる。	仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 聴覚障害者の心理 1
コミュニケーションについて考える (江川)
- 第 2 回 聴覚障害者の心理 2
聞こえないということ (江川)
- 第 3 回 聴覚障害の病理、生理 1
聴こえの仕組み、聴覚障害について (東道)
- 第 4 回 聴覚障害の病理、生理 2
聴覚の程度を測る (聴力検査) (東道)
- 第 5 回 聴覚障害の病理、生理 3
聴覚補償について (補聴器、人工内耳等) (東道)
- 第 6 回 聴覚障害者の心理 3
聞こえにくさが及ぼす影響 1 (コミュニケーション、言語) (江川)
- 第 7 回 聴覚障害者の心理 4
聞こえにくさが及ぼす影響 2 (心理、学習) (江川)
- 第 8 回 まとめ
聴覚障害にかかわる基礎的な内容についてまとめる (江川)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心として、講義内容についての討議やミニテストを行う。

聴覚障害についての疑似体験を行い、その体験をレポートにまとめる。

レポート等については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

聴器の構造について調べておく。

生活の様々な場面で、「音が聞こえなかったら」どのような不都合があるかについて考える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (30%) 及びミニテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業で実施します。

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業時に適時資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

聴覚障害教育これまでとこれから 脇中起余子 北大路書房 2009/9784762826900

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱) 19年

京都市立特別支援学校校長 2年

聴覚障害者教育論

EDD2452N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期後半

水曜 3限 その他

DP4: 思考・解決力

30

全7.5コマ

江川 正一 中瀬 浩一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

聴覚障害は学習上、社会生活、心理など子どもに大きく影響を及ぼす。それらに対して適切な指導・支援の方法について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 聴覚障害のある子どもの生活や学習上の課題やその指導について理解する。

2. 学習指導案を作成し、模擬授業を行うことを通して実際的な指導の方法を身に付ける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしれない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション
 聴覚障害児の教育システム（特別支援学校、難聴学級、きこえの教室）（江川）

第 2 回 聴覚障害のある子どもへの指導 1
 教育課程について（中瀬）

第 3 回 聴覚障害のある子どもへの指導 2
 聴覚障害教育史－手話と口話－（中瀬）

第 4 回 聴覚障害のある子どもへの指導 3
 幼稚部・小学部の教育（中瀬）

第 5 回 聴覚障害のある子どもへの指導 4
 自立活動－日本語の指導－（中瀬）

第 6 回 教室の中の子ども
 通常学級での配慮について（中瀬）

第 7 回 学習指導案の作成
 学習指導案を作成する（江川）

第 8 回 模擬授業
 作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う（江川）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
 実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
 講義を中心として、討議及び小レポートを行う。
 学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
 レポートについては、次回授業時においてフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
 参考文献等聴覚障害教育に関わる文献に読んでおく。
 聾学校（聴覚特別支援学校）のホームページを閲覧する。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
 30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
 授業参加度（30%）、レポート（30%）及び学習指導案・模擬授業（40%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕
 対面授業で実施します。
 授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
 授業時に適時資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
 『聴覚障害教育の基本と実際』/中野善達 松本匡文/田研出版/2008/9784860890186
 『聴覚障害教育これまでとこれから』/脇中起余子/北大路書房/2009/9784762826900
 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』/文部科学省/教育出版/2009/9784316300160
 『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)』/文部科学省/海文堂出版/2009/9784303124328

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 12年（内 難聴学級担任10年）
京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱）
19年
京都市立特別支援学校校長 2年

道徳の指導法

EDP3200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）

3年次

2単位 前期

金曜2限

DP2：知識・理解力

60

河佐 英俊

〔科目の教育目標（Course Description）〕

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.教育課程における道徳の位置づけと、その目標、内容、方法について理解する。
- 2.学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。
- 3.授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成する。
- 4.道徳科の特質を生かした多様な指導法を身に付ける。
- 5.道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 道徳教育の意義(本授業のガイダンスを含む) 年間スケジュール及びこの授業での到達目標の確認
- 第 2 回 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）
- 第 3 回 子供の心の成長と道徳性の発達
- 第 4 回 学校における道徳教育（1）－教育課程上の位置づけとその目標－
- 第 5 回 学校における道徳教育（2）－道徳の内容－
- 第 6 回 学校における道徳教育（3）－道徳の時間の年間指導計画－
- 第 7 回 道徳科の特質を生かした多様な指導方法
- 第 8 回 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
- 第 9 回 学習指導案の内容と作成手順 道徳の学習指導案に盛り込むべき内容と作成手順について
- 第 10 回 資料分析と授業構想(一部グループワークも取り入れる) 各自、何点かの読み物資料より選択したものを活用した授業を構想する演習を行う。
- 第 11 回 学習指導案の作成① 基本構想 学習指導案を作成する演習を行う。
- 第 12 回 学習指導案の作成② 導入・展開・終末段階 学習指導案を作成する演習を行う。(導入・展開・終末各段階の構想)

第 13 回 模擬授業① 前回作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し、批評し合う。

第 14 回 模擬授業② 及びまとめ 前回と異なる授業者による模擬授業を実施し、批評し合う。これまでの学習について振り返り、まとめを提出する。

第 15 回 我が国の道德教育の課題 今日の課題をもとに道德教育の重要性についてディスカッションする。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学習指導要領の理解や魅力ある授業づくりについての講義、及び、指導案の作成や発問・板書を検討した模擬授業とその評価による指導力の養成、学生による道德教育についてのプレゼンテーション演習等を行う。

課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、学習指導要領及び解説を意識してよく読むこと。子どもたちの心を育てる授業づくりと自分自身がよりよく生きることに對して、常にアンテナを高くして関心と問題意識を持っておくこと。各種メディアにおける道德教育に関する内容にも目を向けておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は、小レポート(20%)、模擬授業・学習指導案作成(30%)、定期試験(50%)の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

・平成30年度(小学校)より「特別の教科 道德」が、全面実施されている。そのような中、日々新しい情報が発信されている。様々な動向に注視してほしい。

・対面授業で実施する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』/文部科学省/廣済堂あかつき/平成29年/9784908255359

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校学習指導要領の展開 特別の教科 道德編』/永田繁雄/明治図書/平成28年/9784182711237E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 25年(内、教頭6年)

京都市立小学校校長 6年

特別活動の指導法

EDP3201N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜2限

DP2: 知識・理解力

60

河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学校教育における特別活動の位置づけとその意義
2. 子ども達の現状と特別活動の特質
3. 特別活動の変遷と今日的意義
4. 特別活動の内容とその具体的な活動内容
5. 特別活動の指導計画
6. 特別活動と他の教育活動との関連
7. 特別活動の評価

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしめない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かう

				ことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

第 1 回	学校教育における特別活動の位置づけとその意義
第 2 回	学習指導要領における特別活動の目標と内容
第 3 回	特別活動と道徳・生徒指導との関連（いじめ・不登校等）
第 4 回	特別活動と教科横断的なカリキュラム・マネジメント
第 5 回	学級活動の目標と内容・特質
第 6 回	学級会の指導案作成と発表「よりよい人間関係を築くために」
第 7 回	児童会・クラブ活動の目標と内容・特質
第 8 回	学校行事の目標と内容・特質
第 9 回	教育課程全体で取り組む特別活動
第 10 回	特別活動における取組の評価・改善活動の重要性
第 11 回	クラスの人間関係形成の目的・方法
第 12 回	学級会における話し合いの方法
第 13 回	小1 プロブレムと中1 ギャップ
第 14 回	

特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携

第 15 回

これからの学校教育と特別活動

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

発表や討論、ロール・プレイング等の活動を織り交ぜながら、特別活動の大切さを共に追及していく。

課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

クラス作り，人間関係作り等に関わる教育ニュースに目を向け，収集しコメントをつける等，興味と問題意識を持つ。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（20%）、小レポート（30%）、定期試験(50%)の総合評価とする。

〔留意事項（Other Information）〕

・対面授業で実施する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説 特別活動編』/文部科学省/東洋館出版社/2017年/9784491031903/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校特別活動指導資料「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」』/文部科学省国立教育政策研究所/文溪堂/2016年/9784799900987

『よりよい人間関係を築く特別活動』/杉田 洋/図書文化社/2009年/9784810095463

授業中に適宜資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 25年（内、教頭6年）

京都市立小学校校長 6年

特別支援教育基礎理論

EDD1250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

火曜 2限

DP2: 知識・理解力

60

必修

江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援教育の動向について、障害についてのとらえ方の変遷を踏まえた歴史的な視点を捉える。それをもとに特別支援教育の理念と思想について理解を深め、特別支援教育を担う教員に必要な特別支援教育制度、指導法、最近の動向についての基礎的な知識と理解を得る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 障害のある子どもの教育の歴史的な変遷を理解する。
- 2 特別支援教育の対象となる子どもを理解する。
- 3 特別支援教育の教育課程、指導法について理解する。
- 4 特別支援学校での教育の実際について理解する。
- 5 小中学校における障害のある子どもの教育について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 特別支援教育の理念とその思想
特殊教育から特別支援教育への過程と特別支援教育の理念について
- 第 2 回 インクルーシブ教育システム
障害についてのとらえ方の変遷
インクルーシブ教育システムについての国際的な動向とともに、日本の状況について
- 第 3 回 特別支援学校の教育 1
特別支援学校の教育課程の特徴について
- 第 4 回 特別支援学校の教育 2
障害のある児童生徒の実態把握の方法、自立活動の取り組みについて
- 第 5 回 特別支援学校の教育 3
個別の教育支援計画と個別の指導計画について
- 第 6 回 障害に応じた指導 1
知的障害のある児童生徒の指導について
- 第 7 回 障害に応じた指導 2
肢体不自由のある児童生徒の指導について
- 第 8 回 障害の応じた指導 3
発達障害のある児童生徒の指導について
- 第 9 回 障害に応じた指導 4
聴覚障害、言語障害のある児童生徒の指導について

- 第 10 回 障害に応じた指導 5
視覚障害、病弱のある児童生徒の指導について
- 第 11 回 障害に応じた指導 6
重度重複障害児の課題と指導、医療的ケアについて
- 第 12 回 特別支援学校の取組
特別支援学校のセンター的機能、地域、社会と結びついた動きについて
- 第 13 回 小中学校での特別支援教育 1
特別支援学級、通級指導教室について
- 第 14 回 小中学校での特別支援教育 2
特別支援教育を支える学校組織、ユニバーサルデザインについて
- 第 15 回 まとめ
障害のある児童生徒の就学について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心として講義容に基づくテーマについてのディスカッションを適時行う。

適時授業内容に即した課題についてレポートを作成する。課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

これまで学校教育を受けてきた経験の中で障害のある子どもへの指導について思い起こすとともに、自分なら障害のある子どもたちへの指導をどのようにするかを考えておく。特別支援学校のホームページを閲覧するなどして、特別支援学校等で行われている教育の情報を得るようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) レポート (30%) 及びテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業で実施します。

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業時に適時資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『特別支援教育の基礎・基本 2020』/国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2020/9784863715486/
『特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』/文部科学省/海文堂出版/2018 / 4303124249

〔参考URL(URL for Reference)〕

国立特別支援教育総合研究所

<http://www.nise.go.jp/cms/>

特別支援教育に関わる情報がある

京都市立総合支援学校

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/#shien>

京都市立の各総合支援学校のホームページにリンクする。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱) 19年

京都市立特別支援学校校長 2年

特別支援教育論 (初等)

EDC1200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

金曜2限

DP2 : 知識・理解力

60

太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

幼稚園や保育園、認定こども園、小学校の通常学級・特別支援学級、特別支援学校等に、発達障害や知的障害をはじめとする障害や、障害はないが特別の教育的ニーズがある特別な支援が必要な幼児、児童及び生徒 (以下、こどもと記す) が在籍している。教員や保育士は、こども一人一人が実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、学習上または生活上の困難を理解することが必要である。また、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関等と連携しながら組織的に指導・支援していくことも求められる。この科目では、専門職として将来働くために必要な特別支援教育に関する最低限の知識や支援方法の基礎・基本を理解し、実際の場面で生かすことを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。

(2) 特別の支援を必要とするこどもの**教育課程及び支援の方法**を理解する。

(3) **障害はないが特別の教育的ニーズのあるこどもの学習上又は生活上の困難とその対応**を理解する。

(4) 将来**教員や保育者として求められる社会人基礎力**を、講義を聴くだけでなく、**演習などを通して主体的に向上**させる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働し

	ら学ぼうとしない。			た学びができる。
知識・理解力	特別支援教育の中で、何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	特別支援教育について学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかかわかる。	特別支援教育について学ぶべき知識等の中で、最も重要なことをいくつか認識するために、ツールを適切に活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに関連させて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	特別支援教育について自分の学びを振り返り、考えることができる。	特別支援教育について新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働学修の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方などを尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	特別支援教育について学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	特別支援教育について自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、特別支援教育について学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 特別支援教育について
講義全体の概要と特別支援教育の制度の理念や仕組みについて
- 第 2 回 心身の発達、心理的特性及び学習の過程について
発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とするこどもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程について
- 第 3 回 視覚障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について

- 特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
 - 第 4 回 聴覚障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
 - 第 5 回 知的障害のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
 - 第 6 回 肢体不自由のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
 - 第 7 回 病弱等のあるこどもの学習上又は生活上の困難について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
 - 第 8 回 発達障害や軽度知的障害について
特別の支援を必要とするこどもの**障害の特性及び心身の発達**を理解する。
 - 第 9 回 通級による指導」及び「自立活動」について
「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容について
 - 第 10 回 個別の指導計画及び個別の教育支援計画について
特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について
 - 第 11 回 特別支援教育体制について
特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について
 - 第 12 回 障害以外の特別の教育的ニーズについて
母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのあるこどもの学習上または生活上の困難や組織的な対応について
 - 第 13 回 障害の心理的疑似体験
障害のあるこどもの心理的疑似体験
 - 第 14 回 個別レポート作成とテーマ別グループワーク
心理的疑似体験を基にした指導や支援方法に関する個別レポート作成とテーマ別グループワーク
 - 第 15 回 グループワークの発表
グループワークの発表（マイクロプレゼンテーション）、相互評価とフィードバック
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
定期試験は実施しない。学修した内容を総合的に考察するレポートを課す。
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義を中心に、演習も必要に応じて行う。授業後に学修したことを振り返るために、manabaでミニコメントシートを提出する。その中で共有すべき情報や課題、疑問については、次回の授業で全体にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

特別な教育的ニーズのある子どもへの教育や保育に関する基礎的・基盤的な知識や技能の習得は、卒業後に子どもに関わる専門職として必須である。そのため、テキストを事前に読み込み、あらかじめ疑問点や注目点を自分なりに考えて、積極的に授業に参画できるように準備学習を行った上で授業に望むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業の学びを振り返り整理するために、manabaによりミニコメントシートを提出する。

卒業後、教育や保育に携わる専門職として求められる社会人基礎力の考え方を理解し、将来発揮できるように、最終の個別レポートだけで評価するのではなく、ループリックに示す項目を基に、下記の点から総合的に評価する。

個別レポート 40% 個別課題(1)(2)(3)に対応

毎回のミニコメントシート 40% 個別課題(1)(2)(3)(4)に対応

グループワークや発表をループリックから総合的に評価

20% 個別課題(4)に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

学修状況を考慮して授業予定を変更して行う場合がある。その際は、事前に予告し事前学習できるようにする。

欠席等は、学生便覧(学生手帳)の授業・試験の欠席の取扱いに従って対応することとし、15回の講義のうち2/3以上の出席者を、ループリックに従って評価の対象とする。また、遅刻(15分)は複数回(3回)で欠席1回とみなす。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト: 気付き、工夫して、つなげる。/小林倫代編・著;藤井茂樹, 廣瀬由美子, 星祐子著/学研教育みらい/2018/9784058008904/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』/独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2015/9784863712973

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領/文部科学省/海文堂出版/2018/978-4-303-12424-3

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042294

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042300

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/9784304042317

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領解説 文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 特別支援学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)において教員として勤務経験あり

乳児保育

EDI3250NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

3年次

2単位 前期

火曜3限

DP2: 知識・理解力

60

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。

保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。広く乳児期(3歳未満児)の発達と保育について学びながら、そこに関わる大人の役割について、事例をもとに具体的に理解する。乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を討議しながら考え、問題解決の方法を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 乳幼児保育を取り巻く様々な問題について学ぶ。
2. 乳幼児の発達の理解とともに、その保育環境や実際の援助について学ぶ。
3. 保育所と家庭や他機関・地域との連携について考察する。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	乳児の発育・発達に興味がない	乳児の発育・発達に興味をもち、イメージができる	乳児の発育・発達に関する内容に広く興味をもち、イメージができる	レベル3に加え、将来の乳児への関わりについて、具体的なイメージをもつ
知識・理解力	乳児の発達や必要な援助が理解できない	乳児の発達や必要な援助について、ある程度理解できる	より深く、乳児の発達や必要な援助について理解できる	レベル3に加え、実際の乳児に対する具体的な援助を考えることができる

言語力	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関する言葉が理解できない	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関して使用されている言葉が理解できる	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関する言葉を理解し、自分で使用できる	レベル3に加え、乳児を保育する上で必要な専門的な言葉を理解し、使用できる
思考・理解力	教えられたことが理解できない	教えられたことを理解し、実際の経験したことに当てはめて考えようとする	基本的な内容を理解し、応用的な課題に対して解決しようとする	レベル3に加え、実際の経験に当てはめ、起こり得る問題を予測し、対応を検討しようとする
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見を受け止め、参考にする	考えたことや意見を周囲の人たちと共有する	レベル3に加え、自分の考えを深めようとする
創造・発信力	乳児の発達や必要な援助について、自分の勝手な考えを発信する	乳児の発達や必要な援助について、根拠に基づいた自分の考えを発信できる	乳児の発達や必要な援助について、自ら周囲の状況を踏まえて、自分の考えを発信できる	レベル3に加え、情報モラルを加味しながら、自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 乳児保育の意義
(1)乳児・乳児保育の概念
(2)保育ニーズと乳児保育の考え方の基本
- 第 2 回 乳児保育の発展の経緯と現状
(1)乳児に対する保育感の変遷
(2)乳児保育の一般化への過程
- 第 3 回 乳児保育の発展の経緯と現状
(3)保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ
- 第 4 回 乳児の発達と保育
(1)0歳児の発達と保育（新生時期、0歳児前期、0歳児後期）
- 第 5 回 乳児の発達と保育
(2)1才児の発達と保育
- 第 6 回 乳児の発達と保育
(3)2歳児の発達と保育
- 第 7 回 乳児の発達と保育
(4)乳児の発達と保育（援助の基本的視点の獲得）
- 第 8 回 乳児の保育

- (1)乳児保育の計画（保育課程、指導計画）
- 第 9 回 乳児の保育
(2)保育形態と保育の環境構成
- 第 10 回 乳児の保育
(3)職員の協力体制
- 第 11 回 乳児の保育
(4)家庭・他機関・地域との連携
- 第 12 回 保育の計画と記録・評価
(1)記録・評価
- 第 13 回 保育の計画と記録・評価
(2)保育者の専門性
- 第 14 回 今後の課題
- 第 15 回 形成テスト及びフィードバック
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
・講義形式で授業を進めるが、適宜演習を取り入れる。
・教科書と資料の内容に沿って進め、適宜DVD視聴により具体的内容を確認しながら学ぶ。
・最終授業で形成テスト及び、授業全体に対するフィードバックを行う。
〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
・事前に指定教科書にある「乳幼児期の心身の発達」を読んで、おおまかな子どもの発達について理解しておくこと。
・授業後、教科書や配布資料を見直して、次回までに内容を確認すること。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
30時間
〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、授業参加度(10%)、授業時の課題や課題提出(20%)、形成テスト(70%)に基づいて総合的に行う。
〔留意事項（Other Information）〕
・対面授業で実施。
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
健やかな育ちを支える 乳児保育Ⅰ・Ⅱ/高内正子・豊田和子・梶 美保編著/石井浩子・柏 まり・後藤由美・笹瀬ひと美・高井芳江・土谷長子・長倉里香・深澤悦子・森 知子共著/建帛社/2019/9784767951126
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『乳児の生活と保育』/松本園子編著/ななみ書房/2015年/9784903355252E12
『やさしい 乳児保育』/伊藤輝子・天野珠路 編著/青踏社/2012年/9784902636178E12
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

病弱者の心理・生理・病理

EDD2502N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

火曜4限

DP5: 共生・協働する力

60

萩原 暢子 東道 伸二郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもは日々、友達とのやり取りや達成感などで成長する。病気のときも同様で、治療が必要なところは医療に任せて、子どもたちの日常を取り戻すための手助けをすることは大切なことである。「できること」、「楽しいこと」、「挑戦すること」がある学校生活は子どもの成長の糧となる。病弱教育は、実際は8~9割の子どもたちが、一般の小中学校で学んでいる。そのため、病弱教育こそが通常学級や支援学級を担任する教師が、内容について理解する必要がある。最終的に学生は、病弱者の心理・生理・病理に基づいた共生・協働する力について十分理解できている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.子どもの身体的および精神的発達について理解する。
- 2.発達障害について理解する。
- 3.代表的な疾患の特徴と病弱児への対応や支援方法について理解する。
- 4.病気や障害を持つ子どもの心理-生理的理解と発達段階から見た心理社会的問題について理解する。
- 5.病弱児に対する教育・医療・保健・福祉の連携と支援および法制度について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	こどもの病気と対処法のイメージができない	こどもの病気と対処法をイメージできる	こどもの病気と対処法をより深く学ぼうとする	レベル3に加えてより広い知識を駆使できる
知識・理解力	こどもの病気と対処法の意味が分からない	こどもの病気と対処法の意味が理解できる	こどもの病気と対処法について広く興味を持って理解しようとする	レベル3に加えてより発展した知識について理解できる
言語力	こどもの病気と対処法で使われる用語の意味が分からない	こどもの病気と対処法で使われる用語の意味が理解できる	こどもの病気と対処法での使用言語を自由に使える。	レベル3に加えて、周辺で必要となる用語をも理解し使える

思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	こどもの病気と対処法について自分なりに考えようとする	こどもの病気と対処法について現実にはめ解決しようとする	レベル3に加えてより発展した知識を駆使して
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて考える	こどもの病気と対処法について知識を周囲の人たちと共有し、現実にはめしようとする	レベル3に加えてさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を踏まえて自分の意見を発信しようとする	新たな知見を取り入れて独自の発信を発信できる	レベル3に加えて情報モラルを加味しながら自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 I 部 子どもの発達と発達障害 I)
第1章 子どもの発達—精神面・運動面の発達
第2章 発達障害の考え方と広汎性発達障害・注意欠陥多動性障害 (担当: 東道)
- 第 2 回 (第 I 部 子どもの発達と発達障害 II)
第3章 知的障害を伴わない発達障害と二次障害 (担当: 東道)
- 第 3 回 (第 II 部 子どもの病気 I)
第4章 循環器疾患の理解と支援 (担当: 萩原)
- 第 4 回 (第 II 部 子どもの病気 II)
第5章 呼吸器疾患の理解と支援 (担当: 萩原)
- 第 5 回 (第 II 部 子どもの病気 III)
第6章 悪性腫瘍の理解と支援 (担当: 萩原)
- 第 6 回 (第 II 部 子どもの病気 IV)
第7章 腎・泌尿器疾患の理解と支援 (担当: 萩原)
- 第 7 回 (第 II 部 子どもの病気 V)
第8章 成長障害、内分泌疾患の理解と支援 (担当: 萩原)
- 第 8 回 (第 II 部 子どもの病気 VI)
第9章 消化器・肝臓・栄養疾患の理解と支援 (担当: 萩原)
- 第 9 回 (第 II 部 子どもの病気 VII)
第10章 神経系疾患の理解と支援 (1) (てんかん、脳性まひ、ダウン症、神経皮膚症候群) (担当: 東道)
- 第 10 回 (第 II 部 子どもの病気 VIII)
第11章 神経系疾患の理解と支援 (2) (知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、水頭症) (担当: 東道)
- 第 11 回 (第 III 部 病気、障害の子どもを守る I)

- 第12章 病気, 障害の受容とセルフケア (担当: 東道)
- 第 12 回 (第Ⅲ部 病気, 障害の子どもを守る Ⅱ)
- 第13章 病気, 障害の子どもの心理的特性 (担当: 東道)
- 第 13 回 (第Ⅲ部 病気, 障害の子どもを守る Ⅲ)
- 第14章 教育・医療・保健・福祉の連携と支援 (担当: 東道)
- 第15章 病気, 障害のある子どもを支える法制度 (担当: 東道)
- 第 14 回 (形成テスト)
- 形成テストを実施する。(担当: 萩原)
- 第 15 回 (形成テストの解説と評価)
- 採点済の形成テストを返却し、解説と評価を行う。(萩原)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義形式
2. テキストに沿って進めるが、プリントなどで内容を補足する。
3. パワーポイントやOHCを用いて、実際の画像によって理解を深める。
4. 各回授業の終了時にFD用紙に感想や質問などを記入し、次回の授業で解説する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストに沿って進めるので、次回の内容に目を通しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) と形成テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

他の学生に迷惑となるような飲食や、スマホを触ったり、私語は厳禁とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『病弱児の生理・病理・心理』/小野次朗ほか/ミネルヴァ書房/2015/978-4-623-06153-2/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』/宮本信也、土橋圭子/金芳堂/2017/978-4-7653-1627-9

『特別支援教育の基礎・基本』/独立行政法人国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2017/978-4-86371-297-3

『病気の子どものガイドブック』/全国特別支援学校病弱教育校長会/ジアース教育新社/2016/978-4-86371-180-8

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 医師として病院等での診療経験あり

病弱者教育論 I

EDD3402N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

水曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

医療の進歩と社会の構造的な変化等によって、病弱教育の対象となる子ども達も多様化してきている。そのため、教育的ニーズに基づく病弱教育の教育制度や教育環境も時代と共に大きく変化し、教育方法や学びの場も多様化してきている。この現状を踏まえ、病弱・身体虚弱児の課題をどのように解決していくか、その教育システムについて理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 病弱教育の意義と病気の子どもについて理解する。
2. 病気の子どもの家族が抱える課題を理解する。
3. 病気の子どもを取り巻く状況と、病弱教育の課題を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解

				決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方や方法を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 病弱教育とは
病弱教育の歴史、病気の子どもの教育の場について
- 第 2 回 病弱教育の対象 1
病弱教育の対象とする子どもの現状について
- 第 3 回 病弱教育の対象 2
病弱の子どもが抱える課題について
- 第 4 回 病弱教育 1
病弱の子どもの就学システムについて
- 第 5 回 病弱教育 2
病弱教育における教育課程編成について
- 第 6 回 病弱教育 3
病弱教育における教科学習について
- 第 7 回 病弱教育 4
病弱教育における自立活動について
- 第 8 回 連携のあり方 1
病院関係者との連携
- 第 9 回 連携のあり方 2
前籍校との連携
- 第 10 回 家族支援 1
病気の子どもの保護者を支える
- 第 11 回 家族支援 2
病気の子どもの兄弟姉妹を支える
- 第 12 回 病弱教育のフォローアップ 1
退院後の支援について
- 第 13 回 病弱教育のフォローアップ 2
キャリアオーバー（成人になった病弱児）について
- 第 14 回 病弱教育の課題
現在の病弱教育の課題について

第 15 回 まとめ

病弱教育に関する基本的な事柄についてまとめる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義のテーマに即したディスカッションを通して、病気やその治療のために様々な制限がある中で学習保障や病気持ち、心理的なケアなどの支援を行う教育システムについて考える。

課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

病弱特別支援学校のホームページを随時閲覧し、教育方針や実際の指導の様子について把握しておく。

自分自身が病気と向き合う立場に立つ可能性を持ちながら、講義のテーマを考える姿勢を持つようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (30%) 及びテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業で実施します。

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 2020』/国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2020/9784863715486/学内販売なし

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『15メートルの通学路』/山本純士/角川書店/2007/9784043861019

『標準「病弱児の教育」テキスト』/日本育療学会編集/ジアース教育新社/2019/9784863714939

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱) 19年

京都市立特別支援学校校長 2年

病弱者教育論 II

EDD3450N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 後期

水曜 2限

DP4: 思考・解決力

60

江川 正一

【科目の教育目標 (Course Description)】

病弱・身体虚弱児は、病気や身体虚弱のために長期にわたり医療や生活上の様々な規制を必要としている。このことからくる子どもたちの課題を解決していくための指導方法を理解する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 病気の子どもの疾患、病状、治療、教育環境に応じた指導方法や支援の在り方について理解する、
2. 子どもへの死に関わることへの対応について理解する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。

共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

【授業計画】

- 第 1 回 病気の子どもの指導 1
入院直後の指導
- 第 2 回 病気の子どもの指導 2
教科指導の実際 1 (指導内容の精選)
- 第 3 回 病気の子どもの指導 3
教科指導の実際 2 (自立活動と関連付けて)
- 第 4 回 病気の子どもの指導 4
教科指導の実際 3 (各教科等を相互に関連づけた指導 1)
- 第 5 回 病気の子どもの指導 5
病弱教育におけるICTの活用
- 第 6 回 病気の子どもの指導 6
自立活動の指導1(心の病に焦点を当てて)
- 第 7 回 病気の子どもの指導 7
自立活動の指導2(怒りのコントロール)
- 第 8 回 病気の子どもの指導 8
自立活動の指導3(病気の理解のための資料づくり)
- 第 9 回 病気の子どもの指導 9
自立活動の指導3(病気の理解のためのプレゼンテーション)
- 第 10 回 病気の子どもの指導 9
キャリア教育の視点から病弱教育を考える
- 第 11 回 模擬授業
病気の子どもの理解するための学習指導案に基づいて模擬授業を行う
- 第 12 回 子どもへの死に向き合う 1
ターミナル期の子どもの指導
- 第 13 回 子どもへの死に向き合う 2
子どもの死をとらえる (子どもたちへの指導)
- 第 14 回 子どもへの死に向き合う 3
子どもの死をとらえる (指導者への支援)
- 第 15 回 まとめ

病弱教育における指導のあり方についてまとめる
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義とディスカッションを通して、病気やその治療のために様々な制限がある中で学習保障や病気理解、心理的なケアなど教育の立場からどのような支援を行うことができるかについて考えていく。

学習指導案を作成し、模擬授業を行う。学習指導案については、模擬授業実施時にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

随時病弱の特別支援学校のホームページを閲覧し、実際の指導の様子を掴んでおく。

病気の子どもに関係する事柄に、関心を持って、新聞、テレビ等の報道等に注意を払っておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、レポート (30%) 及び学習指導案 (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業で実施します。

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『特別支援教育の基礎・基本 2020』/国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新社/2020/9784863715486/学内販売なし

他の障害種の教育論でもテキストとして使用

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ』/副島賢和/学研教育みらい/2015/9784054062962

〔参考URL(URL for Reference)〕

全国特別支援学校病弱教育校長会「病気の子どもの理解のために」http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱)

19年

京都市立特別支援学校校長 2年

保育原理

ED11250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

金曜 4限

DP2: 知識・理解力

60

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在の子どもを取り巻く環境は、社会の変化に影響を受け、大きく変化している。そして、社会の変化により、保育所に求められる役割も多様化している。このような中で、健全な子どもたちの育ちを担うため、保育者として、まず、保育の意義や目的、関係法令と制度、保育の思想と歴史の変遷について理解する。また、保育所保育指針における保育の基本として、子どもの発達とその過程に応じた保育の内容、保育所保育の計画、保育の現状と課題について学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1)子どもを取り巻く環境や保育の現状について理解する。
- (2)保育の目的、保育実践の内容や方法を学ぶ。
- (3)子どもの発達や幼児理解、カリキュラムについて理解する。
- (4)保育者の資質について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	保育の原理について学ぶ意識がない	保育の原理に興味をもち、学ぶ意欲がある	保育の原理に関する内容に広く興味をもって学び、イメージができる	保育の原理に関する内容に広く興味をもち、具体的なイメージをもって知識を深めていく
知識・理解力	保育の目的、保育実践の内容や方法について理解できない	保育の目的、保育実践の内容や方法の基本について、理解できる	より深く、保育の目的、保育実践の内容や方法について理解できる	レベル3に加え、実際の保育の目的や保育の実践の内容や方法について考えることができる
言語力	保育用語について理解ができない	基本的な保育用語を理解できる	保育用語の内容を理解し、使用する	レベル3に加え、さらに専門的な保育用語を理解し、使用できる
思考・解決力	子どもを取り巻く環境	子どもを取り巻く環境	子どもを取り巻く環境	子どもを取り巻く環境

	や保育の現状について理解できない	や保育の現状について理解できる	や保育の現状を考慮することができる	や保育の現状を考慮、起こりうる問題を予測し、対策を検討しようとする
共生・協働する力	保育の歴史や制度、他人の意見を参考にしない	保育の歴史や制度に基づいて、保育の原理について理解を深めようとする	保育の歴史や制度に基づいて、保育の原理の内容について周囲の人たちと共有することができる	レベル3に加え、保育の原理の内容を周囲の人と共有したことから、自分の意見を深めることができる
創造・発信力	保育の原理について、自分なりの偏った考えを発信する	保育の原理について、保育の歴史や制度に基づいた自分の考えを発信できる	保育の原理について、保育の歴史や制度に基づいた自分の考えと、周囲の状況を踏まえた発信ができる	レベル3に加え、情報モラルを加味しながら、自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育の本質
 - (1)保育の意義とその思想
 - (2)保育の目標
- 第 2 回 保育の本質
 - (3)子どもの発達特性
 - (4)保育の原理
- 第 3 回 保育の制度と現状
- 第 4 回 保育の歴史と現状
 - (1)西欧における保育施設の誕生と発展
- 第 5 回 保育の歴史と現状
 - (2)日本における保育施設の誕生と発展
- 第 6 回 保育所保育の原理
 - (1)保育の特性
 - (2)保育の目標
- 第 7 回 保育所保育の原理
 - (3)保育の方法
- 第 8 回 保育所保育の原理
 - (4)保育の環境
- 第 9 回 保育所保育の内容
 - (1)保育の内容構成の基本方針
- 第 10 回 保育所保育の内容
 - (2)ねらい、内容、領域
- 第 11 回 保育所保育の内容

- (3)遊びと生活
- (4)保育形態と保育方法
- 第 12 回 保育所保育の計画
 - (1)保育の計画作成上の基本的視点
- 第 13 回 保育所保育の計画
 - (2)保育計画と指導計画
 - (3)保育の計画作成上の留意事項
- 第 14 回 保育士の資質と任務
 - (1)資格制度と専門性 (2)子ども、保護者とのかかわり (3)保育者間の連携
- 第 15 回 日本の保育の現状と課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

 - ・講義形式で、教科書に沿って授業を進める。
 - ・適宜、プリントやパワーポイントによる資料提示をする。また、ディスカッション、レポート課題、確認テストを実施する。
 - ・3～5回に1度、確認プリントを配布し、それに対してのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

 - ・教科書「第12章 保育の現状と課題」を読んで把握しておくこと。
 - ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を授業で取り上げた際は、その詳細を教科書で確認すること。
 - ・授業前後に教科書と資料を読んで、「保育」の理解に努めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(10%)、授業時の課題と課題の提出(20%)、定期試験(70%)に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新しい保育講座①保育原理』/渡邊秀則・高島景子・大豆生田啓友編著/ミネルヴァ書房/2018年/9784623080274/
『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』/内閣府/厚生労働省/文部科学省/文部科学省/厚生労働省/チャイルド本社/2017年/9784805402580/
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『最新保育講座①保育原理 [第3版]』/森上史朗・小林紀子・若月芳浩/ミネルヴァ書房/2015年/9784623073511E12
『保育原理の基礎と演習』/柴崎正行 編著/わかば書房/2016年/9784907270179
『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』/汐見稔幸 監修/汐見稔幸 監修/2017年/9784623080984
〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育実習Ⅰ－1

EDI2601N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

10

集中

畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 古庵 晶子 太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育所において乳幼児と生活をともにし、乳幼児の理解を深めるとともに、保育士の仕事に助手的に携わることを通して、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。また、乳幼児をとりまく現代の家庭や社会についての考えを深め、保育士を志す者としての自覚を高める。

そして、これまでに学んだ知識・技術・考え方等と実践の統合を図り、さらに新しい学習課題を見出す契機とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)保育所の概要を把握し、保育の一日の流れや乳幼児の発達の特徴などをつかむ。

(2)保育者の助手的な役割をしながら、保育の実践について学ぶ。

(3)保育の指導案作成や準備を行ってから、実際に責任をもって保育をし、反省・評価して次への課題を見出す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習園の理解	事前訪問で話された実習園の概要を理解していない	事前訪問で話された実習園の概要について、実習での観察や体験を通して理解しようとする	事前訪問で話された実習園の概要を再認識し、実習中に、観察したり体験したりして、理解しようとする	前訪問で話された実習園の概要を把握し、実習中に体験したり、積極的に質問したりして理解を深めようとする
実習態度	保育者の指導や助言を改善しようとしめない	言われた作業や保育の援助を行う	保育者からの指導や助言を受け止め、自分で作業を探するなど、積極的に行動する	保育者の動きを注意深く観察し、研究的な視点から自分の行動を変化させるなどして、積極的に行動する

子どもへの関わり	自分から子どもに関わろうとしない	自分から子どもに積極的に関わり、コミュニケーションをとることができる	子どもの年齢とその日の様子から判断して、個々に応じた関わり方ができる	乳幼児の発達の特性をつかみ、個々の気持ちや思いを考えた上で、状況に応じた適切な関わりができる
保育者との関わり	自分から挨拶をしたり、質問や相談をしない	分からないことなど質問や相談を積極的にして行動する	質問や相談をしながら、これからの活動について予測をして行動しようとする	保育者の子どもとの関りに注目し、保育者の意図を考察したり、保育の中で自分も実践したりする

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習施設について理解する。
保育における一日の生活の流れの全体的理解をして参加する。
- 第 2 回 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。
- 第 3 回 保育計画や指導計画を理解する。
- 第 4 回 生活指導の態度およびその技術、遊びの展開とその関わり方について学ぶ。
- 第 5 回 人的・物的条件の理解、乳幼児の集団行動・個別行動の観察を行う。
- 第 6 回 生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する。
- 第 7 回 保育士の職務内容と役割、他の職員とのチームワークなどを学ぶ。
- 第 8 回 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭や地域社会について理解する。
- 第 9 回 子どもの最善の利益を具体的に具体化する方法について学ぶ。
- 第 10 回 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。
- 第 11 回 乳幼児の健康・安全に対する配慮、疾病予防への配慮などについて理解する。
- 第 12 回 実習の段階と内容
①観察実習
- 第 13 回 ②参加実習
- 第 14 回 ③部分実習
保育士の指導のもと、指導案を作成して保育を行う。
- 第 15 回 ④実習のふりかえり
省察・評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1)実習園として決定した保育所において、おおむね10日間の現場実習を行う。

(2)実習では、所(園)長や実習担当の保育士から指導を受ける。

(3)実習中に、大学の実習担当教員が実習園に訪問し、実習生への指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・これまで履修した講義や演習について、保育での実践に役立つようまとめておく。

・保育所実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。

・実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

・「保育実習指導 I-1」(前期授業)を履修済みでなければ、実習をすることはできない。また、履修済みであっても、その授業態度及び保育士資格関係科目の単位の履修・取得状況により、履修を許可しないこともあるので注意すること。

・事前準備として(学内)健康診断受け、実習前に細菌(検便)検査をし、結果を実習施設に提出しなければならない。実習初日に提出できない場合は、原則として、実習を中止とする。

・各実習園でかかる費用(給食費など)については、各自で実習園に、直接支払う。

・「保育実習指導 I-1」と「保育実習 I-1」は一体となって「保育実習」を遂行するため、一方が不合格の場合は、両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『健康福祉シリーズ4 新・実習指導概説 保育・教育・施設実習』/前橋 明・石井浩子編著/ふくろう出版/2019年/9784861867606

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』/内閣府/厚生労働省/文部科学省/文部科学省/厚生労働省/チャイルド本社/2017年/978-4805402580

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

植田：保育助手・講師として、幼稚園での実務経験あり。

保育実習 I - 2

EDI2602N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

2単位 集中

その他

DP6：創造・発信力

10

集中

島山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 古庵 晶子 太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

居住型の乳児院や児童養護施設、障害児施設などの生活の場に参加し、施設の役割と機能、施設における保育士の職務、養護内容、乳幼児や利用者に対する理解を深めるとともに、施設と学校との連携や地域に果たす役割などを学ぶ。また、取得した知識・技能を基礎とし、それらを総合的に実践する応用力を養う。実習課題を個々が明確にし、保育士を志す者としての自覚を高めることをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 福祉施設の意義・機能などを実践の場で観察・体験を通して理解する。

(2) 親元を離れ、福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益の具現化について学ぶ。

(3) 施設で働く保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を実体験する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習を通して、施設の役割や機能について理解する。	実習を通して、施設の役割や機能についてやや理解できる。	実習を通して、施設の役割や機能について理解できる。	実習を通して、施設の役割や機能についてよく理解できる。	実習を通して、施設の役割や機能について非常によく理解できる。
実習を通して、利用者を理解する。	実習を通して、利用者理解でややできる。	実習を通して、利用者理解ができる。	実習を通して、利用者理解がよくできる。	実習を通して、利用者理解が非常によくできる。
実習を通して、施設で働く保育士の役割について理解する。	実習を通して、施設で働く保育士の役割についてやや理解できる。	実習を通して、施設で働く保育士の役割について理解できる。	実習を通して、施設で働く保育士の役割についてよく理解できる。	実習を通して、施設で働く保育士の役割について非常によくできる。
実習を通して、保育士以外の他職種との連携	実習を通して、保育士以外の他職種との連携	実習を通して、保育士以外の他職種との連携	実習を通して、保育士以外の他職種との連携	実習を通して、保育士以外の他職種との連携

等の在り方について理解する。	等の在り方についてやや理解できる。	等の在り方について理解できる。	等の在り方についてよく理解できる。	等の在り方について非常によく理解できる。
----------------	-------------------	-----------------	-------------------	----------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 実習施設の沿革と職員構成、各職種の職務分担、勤務形態、勤務時間について理解する。
- 第 2 回 実習施設の保育士の職務内容と役割、施設の地理的条件、設備等について理解する。
- 第 3 回 施設の定員、在籍数、年齢、性別居室構成、措置理由、在所期間、心身の発達状況、障害の程度などについて個別に理解する。
- 第 4 回 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する。
- 第 5 回 心身の発達や障害の程度を考慮して居室が配置・構成されている状況を学ぶ。
- 第 6 回 養護の一日の流れを理解し、参加する。(子どもの日常生活がどのように確保され、指導されているのかを学ぶ。)
- 第 7 回 援助計画を理解し、子どもの日常生活における基本的な生活習慣の形成や生活技術の習得、移動・食事・排泄などの援助の一部を担当する。
- 第 8 回 援助計画を理解し、保育士の養護活動や援助技術、異業種との協力体制について体験を通じて習得する。
- 第 9 回 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
- 第 10 回 記録や利用者とのコミュニケーション、施設職員からのなどを通して、施設と家庭や地域社会との連携の実態について理解する。
- 第 11 回 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
- 第 12 回 保育士としての職業倫理(守秘義務の)を具体的に学ぶ。
- 第 13 回 安全及び、疾病予防への配慮について理解する。
- 第 14 回 見学・観察実習(実習施設の役割や機能などを知り、施設や施設養護の特質について理解を深めるとともに、保育士や指導員の助手として手伝いながら、子どもの年齢や性別、入所理由、入所期間、心身の発達の状況、障害の程度、生活居室の運営と職員の活動状況、職員の構成と勤務の状況、一日の生活など、子どもの状況と施設養護の実際を観察・理解する)
- 第 15 回 参加・助手実習(子どもの生活集団の構成員の一人として加わり、子どもの身の世話や生活上の指導に補佐的に関わりながら、子どもの個性や個人差などに応じた関わり方や生活面の指導の仕方などを学ぶ)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習生は、実習施設の職員に準じて勤務実習する。指導には、施設長及び、施設長が任命する実習指導担当者が当たる。実習巡回時に、実習担当教員により指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・実習までに履修した講義や演習を実習での実践に役立つようまとめておく。
- ・施設実習に必要な事柄を教科書や配布資料を基に再度確認しておく。
- ・実習時における具体的な自己課題を明確にしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・保育士資格関係科目の単位取得状況、履修状況によっては履修を許可しないことがあるので注意すること。
- ・必要に応じて説明会、事後指導等を行うので必ず出席すること。
- ・事前準備として、健康診断と実習前に細菌(検便)検査〔赤痢菌、サルモネラ菌、O-157、虫卵〕をし、結果を実習施設に提出しなければならない。インフルエンザ予防接種も行うこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

0

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育士養成課程 5訂 福祉施設実習ハンドブック』/岡本邦彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎/みらい/2019年/9784860154813

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

保育実習Ⅱ

EDI3655A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

2単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

60

保育原理、保育者論、保育実習I-1・I-2、保育実習指導I-1・I-2

集中

畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育所の役割を踏まえ、実際に体験することで保育士としての資質・能力・機能などを学ぶ。子どもの最善の利益を保障することの意義、各関係機関との連携、保護者との連携、家庭への援助、地域とのかかわりや地域の在宅親子への支援など、保育所の担っている社会的役割への理解を深める。また、実習I-1からの反省や課題を明確化し、自己課題への取り組みを積極的に行い、指導案の立案、実施をする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)保育所の目的・役割、意義や機能など、保育現場での体験を通して理解を深める。

(2)保育所保育指針に基づき、子どもの発達過程を理解し、子どもの一人ひとりへの援助や集団としての保育を捉え、保育の指導案を立案して実践する。

(3)実習I-1を振り返ることにより、自己課題を明確化し、課題への取り組みを積極的に行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習施設の理解	実習訪問で話された実習園の概要を理解できない	実習訪問で話された実習園の概要をふりかえり、実習での観察を通して理解しようとする	実習訪問で話された実習園の概要をふりかえり、実習中に観察したり、体験したりすることで理解しようとする	実習訪問で話された実習園の概要を再認識し、実習中に観察や体験をしたり、質問を積極的にすることで理解を深めようとする
実習態度	保育者の指導や助言を改善しようとしめない	保育者に指示された作業や保育の援助を行う	保育者からの指示や助言を受け止め、さらに、状況を判断して自分がすべきことを考えて行動できる	保育者の動きを注意深く観察し、指導されたことを踏まえて、自分の行動を変化させて、積極的に行動する

子どもとの関り	自分から子どもに関わろうとしない	自分から子どもに積極的に関わり、コミュニケーションをとることができる	子どもの年齢とその日の様子から判断して、個々に応じた関わりができる	乳幼児の発達特性をつかみ、個々の気持ちや思いを考慮し、状況に応じた適正な関りができる
保育者との関わり	自分から挨拶をしたり、質問や相談をしない	分からないことなど、質問や相談を積極的にして行動する	質問や相談をしながら、いれからの活動について予測して、行動しようとする	保育者の子どもとの関りに注目し、保育者の意図を考察したり、保育の中で自分でも実践したりする
自己課題	自己課題と行動がともなわない	自己課題を意識して行動し、最後にふりかえり、達成度を検討することができる	自己課題を意識して行動し、保育者の指導を受けて課題を修正し、実行ができる	自己課題を意識して行動し、実習の状況から自ら判断して課題を修正し、実行・評価ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育所の目的と役割、その機能の理解
・保育所の社会的役割と責任
- 第 2 回 乳幼児の発達と生活全体の流れや展開の把握
- 第 3 回 子どもの最善の利益を保障することの配慮についての理解
- 第 4 回 観察に基づく保育理解
(1)子どもの心身の状態や活動の観察
- 第 5 回 観察に基づく保育理解
(2)保育士等の動きや実践の観察
- 第 6 回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(1)環境を通して行う保育や生活、遊びを通して総合的に行う保育の理解
- 第 7 回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(2)入所児の保護者支援及び地域の子育て家庭への支援
- 第 8 回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(3)各関係機関との連携
- 第 9 回 子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
(4)地域社会との連携
- 第 10 回 安全危機管理、衛生危機管理などの理解
- 第 11 回

指導計画の作成と実践、観察、記録、評価

(1)保育過程に基づく指導計画の作成と実践、省察、評価と保育過程の理解

第12回 指導計画の作成と実践、観察、記録、評価

(2)作成した指導計画に基づく保育実践と評価

第13回 保育士の業務と職業倫理

(1)多様な保育の展開と保育士の業務

第14回 保育士の業務と職業倫理

(2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理

第15回 自己課題の明確化

・保育士に求められる資質、能力、技術など

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・実習生は、実習施設の職員の勤務に準じて実習する。
- ・実習では、園長や実習担当の保育士から指導を受ける。
- ・実習中に、大学の实習担当教員が訪問し、指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・実習 I-1 で学んだことを振り返り、実習記録や指導案を見直す。
- ・指導案作成や教材研究、教材準備をしておくこと。
- ・関係授業の復習をしておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

原則、実習評価80%、実習記録20%とする。ただし、実習状況を勘案して、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・「保育実習Ⅱ」の履修登録時には、「保育実習指導Ⅱ」も履修登録すること。
- ・保育士資格関係科目の単位取得状況や履修状況によっては、実習を許可しないことがあるので注意すること。
- ・事前準備として、(学内)健康診断を受け、実習前に細菌検査をし、それらの結果を実習施設に提出する。実習初日に提出できなかった場合は、原則として、実習中止とする。
- ・各実習園でかかる費用(給食費など)については、実習園に、各自で直接支払う。
- ・事後指導には、必ず出席すること。
- ・「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」は一体となって「保育実習」を遂行するため、一方が不合格の場合は、両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『こども教育ハンドブック』/田中裕喜, 石井浩子, 古庵晶子, 河佐英俊, 江川正一, 神月紀輔, 萩原暢子, 畠山 寛, 藤本陽三, 住本 純, 植田恵理子, 大西慎也, 太田容次, 小川博士, 渡邊晴美/田中プリント/2020年/

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『健康福祉シリーズ4 新・実習指導概説 保育・教育・施設実習』/前橋 明・石井浩子 編著植田恵理子, 福田真奈,

佐野裕子, 志濃原亜美, 長谷川直子, 山本智也, 畠山寛, 萩原暢子, 鶴飼真理子, 古庵晶子, 橘信子/ふくろう出版/2019年/9784861867606

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』/内閣府/厚生労働省/文部科学省/文部科学省/厚生労働省/チャイルド本社/2017年/978-4805402580

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

植田：保育助手・講師として、幼稚園での実務経験あり。

保育実習指導Ⅰ-1

EDI2600N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 前期

火曜2限

DP6：創造・発信力

15

集中

畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育所における実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を実りあるものにするを目標とする。具体的には、保育所の制度、役割、機能、子どもの発達、観察と援助の仕方、指導計画の立て方、記録の方法などの基礎的な項目について学び、保育実習への理解を深めるとともに、実習の心構えを身につける。

事後指導では、実習を通して学んだことや反省などから、今後の自己の学習内容や課題を探る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1)実習の目的や内容、方法、留意事項などを具体的に理解する。
- (2)保育観察の方法や「実習記録」の記入の仕方、指導計画の作成方法、基礎的な保育技能・技法を身につける。
- (3)実習を評価・反省し、実習後の学習課題を明確にする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習に関する知識・理解・意欲・態度	実習への意欲がみられない	実習への意欲があり、実習生としての態度が身についている	実習への意欲があり、礼儀や言葉づかい、服装など、実習生として必要な態度	レベル3に加え、他の学生の模範となる行動がとれる

			を身につけている	
創造・発信力	実習に必要な書類や授業課題の提出ができなかったり遅れたりする	実習に必要な書類や授業課題を決められた期間内に提出できる	実習に必要な書類や授業課題の内容を理解し、決められた提出締め切り日までに提出できる	実習に必要な書類を丁寧に作成して提出したり、課題の内容を正しく理解し、参考図書を活用しながらまとめ、提出締め切り日までに提出することができる
思考・表現力	日誌や指導案の書き方を理解できない	日誌や指導案の基本的な書き方を理解できる	日誌や指導案の書き方を理解し、設定した子どもの年齢や遊びに合わせて書くことができる	子どもの発達や特長を考慮して、日誌の配慮事項や部分実習指導案の作成ができる
自分を育てる力(課題)	実習後の自己課題が見いだせず、ふりかえりレポートが提出できない	今後の課題を見出すため、実習評価や実習担当者からのアドバイスを加味してレポートを作成して提出ができる	実習評価や実習担当者からのアドバイスから今後の課題を見出し、レポートを作詞して提出ができる	実習評価や実習担当者からのアドバイス、自己評価を基に、今後の課題を見出し、レポートを作詞して提出ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育実習オリエンテーション (全員)
保育実習の意義と目的の理解、実習の流れ
- 第 2 回 実習の内容と方法の理解 (石井・畠山)
- 第 3 回 保育所の行事や一日の流れの理解 (植田・古庵)
- 第 4 回 乳幼児の生活と保育・生活環境 (萩原・石井)
- 第 5 回 乳幼児の発達と保育、乳幼児の活動と保育者の関わり (畠山・植田)
- 第 6 回 保育園での具体的な援助と指導実践の基礎理解 (古庵・萩原)
- 第 7 回 実習記録の意義・方法の理解 (石井・畠山)
実習記録の書き方の実際と注意事項
- 第 8 回 保育所見学 (全員)
- 第 9 回 保育所見学のふりかえり (全員)
グループワーク
- 第 10 回 保育計画・指導計画の理解 (植田・古庵)
- 第 11 回 指導案の作成と模擬保育 (討議) (萩原・石井)
児童文化財を使った実技を含む模擬保育指導計画の立て方

- 第 12 回 実習課題の明確化 (畠山・植田)
 - 第 13 回 実習に際しての留意事項(古庵・萩原)
(1)子どもの人権と最善の利益の考慮
(2)プライバシー保護と守秘義務 (3)実習の心構え
 - 第 14 回 学内オリエンテーション (全員)
実習施設への事前訪問
 - 第 15 回 実習終了後
事後指導〔実習報告、成績開示、個別指導〕(全員)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
・講義や演習によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。また、実習施設への見学や保育に参加することにより、事前に現場の状況を理解する。
・実習に必要な保育技術や知識について、レポートを課す。
・実習中に、施設の実習担当者との連携のもと、実習生への指導を行う。
・事後指導は、実習終了後に行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
これまで履修した講義から、保育所や施設の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて再確認しておくこと。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度 (50%)、確認テスト・課題・事前事後指導での発表状況など (50%) に基づいて、総合的に評価する。
なお、原則として遅刻・欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
・この授業を履修しなければ、「保育実習 I-1」の実習はできない。
・出席状況や資格取得に必要な科目の履修状況から、履修や実習を中止することもあるので注意すること
・「保育実習指導 I-1」と「保育実習 I-1」は一体となって「保育実習」を遂行うするため、一方が不合格の場合は、両方が不合格となる。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『こども教育ハンドブック』/田中裕喜, 石井浩子, 古庵晶子, 河佐英俊, 江川正一, 神月紀輔, 萩原暢子, 畠山寛, 藤本陽三, 住本 純, 植田恵理子, 大西慎也, 太田容次, 小川博士, 渡邊晴美/田中プリント/2020年/
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『健康福祉シリーズ4 新・実習指導概説 保育・教育・施設実習』/前橋 明・石井浩子編著, 植田恵理子, 福田真奈, 佐野裕子, 志濃原亜美, 長谷川直子, 山本智也, 畠山 寛, 萩原暢子, 鶴飼真理子, 古庵晶子, 橋 信子/ふくろう出版/

2019年/9784861867606

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』/内閣府/厚生労働省/文部科学省/文部科学省/厚生労働省/チャイルド本社/2017年/9784805402580/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

植田：保育助手・講師として、幼稚園での実務経験あり。

保育実習指導 I - 2

EDI2650N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

2年次

1単位 後期

金曜 2限

DP6：創造・発信力

15

集中

畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

施設における実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を実りあるものにするを目標とする。具体的には、保育所と施設の制度、役割、機能、子どもの発達、観察の仕方、援助の仕方、指導計画の立て方、記録の方法など、基礎的な項目について学ぶことにより、保育実習への理解を深めるとともに、実習の心構えを身につけることをめざす。

事後指導では、実習を通して学んだことや反省などから、今後の自己の学習内容や課題を探ることをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育所を除く児童福祉施設の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育実習 I -2とは何か①：保育実習 I -1を振り返りから考える。
- 第 2 回 保育実習 I -2とは何か②：施設実習の意義・目的の理解
- 第 3 回 保育実習 I -2とは何か③：施設、利用者、施設保育士等の理解
- 第 4 回 実習に必要な事前学習と実習の段階的取り組み
- 第 5 回 実習記録の書き方及び実習計画書の書き方について
- 第 6 回 施設種別指導①
- 第 7 回 施設種別指導②
- 第 8 回 個人票・誓約書の作成
- 第 9 回 施設種別指導③
- 第 10 回 施設種別指導④
- 第 11 回 実習計画書の作成
- 第 12 回 事前オリエンテーション
- 第 13 回 実習中の取り組み
- 第 14 回 実習後の取り組み
- 第 15 回 事後指導

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義・演習によって、実習に必要な事柄を理解するとともに、心構えについて学ぶ。
2. 施設への見学やに参加することにより、事前に現場の状況を理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

これまで履修した授業から、施設の制度や役割、機能、また、施設保育士の役割などについて再確認しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、確認テスト・課題・事前事後指導での発表状況など (50%) に基づいて、総合的に評価する。

なお、原則として欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

・出席状況や資格取得に必要な科目の履修状況から、履修や実習を中止することもあるので注意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保育士養成課程 5訂 福祉施設実習ハンドブック』/岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎/みらい/2019年/9784860154813/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育実習指導Ⅱ

EDI3651A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

1単位 後期

金曜1限

DP6: 創造・発信力

15

集中

畠山 寛 石井 浩子 萩原 暢子 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は、保育実習Ⅱ(保育所実習)の事前学習と事後指導を行うものである。保育実習Ⅱの意義と目的、その内容について理解を深め、保育について総合的に学ぶ。よって、これまで履修した科目の内容や「保育実習Ⅰ」での学び、また、新たな自己課題を踏まえ、総合的に実践する応用能力を培うことをめざす。

事後指導では、自己評価やグループディスカッションを通して、実習総括を行うとともに、今後の自己の課題を明確にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・保育実習Ⅱでは、前回の実習からさらに進んだ実習の目的と内容であることを理解する。

・前回の実習の経験を生かし、保育や子どもたちの観察、子どもたちの関わり、実習記録への記入、指導計画の作成、保育技能・技法などの習得を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
実習に関する知識・理解・意欲・態度	実習への意欲がみられない	保育の知識や技術の習得に意欲的に取り組む	保育の知識や技術の基本を踏まえた計画と模擬保育の実践ができる	保育の知識や技術を活かした模擬授業の計画と実践できる

創造・発信力	実習に必要な書類や授業内課題の提出ができなかったり遅れたりする	実習に必要な書類や授業課題を決められた提出締切日までに提出ができる	実習に必要な書類や授業課題の内容を理解し、決められた提出締切日までに質問したり調べたりしたことをまとめ、提出ができる	実習に必要な書類を丁寧に悪性して提出したり、課題の内容を理解し、参考図書を活用しながらまとめ、提出締切日までに提出ができる
思考・表現力	日誌や指導案の書き方の基本を理解できない	日誌や指導案の書き方の基本を理解でき作成することができる	設定した年齢や遊びに適した、日誌を書いたり指導案を作成することができる	子どもの発達や特長を考慮して、日誌の配慮事項や部分実習指導案の作成ができる
自分を育てる力(課題)	実習から自分の今後の課題を見出すことができない	実習評価や実習担当者からの助言を加味して、今後の課題を見出し、レポートにまとめて提出ができる	実習評価や実習担当者からの助言を受け止め、今後の課題を見出してレポートを作成し、提出ができる	実習評価や実習担当者からの助言を受け止め、さらに自己評価を基にして今後の課題を見出し、レポート作成をして提出ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育実習Ⅱ(保育所実習)の意義と目的(石井・萩原)
- 第 2 回 実習記録の意義と方法の理解(畠山・古庵)
- 第 3 回 実習の流れや手続きなど(植田・古庵)
実習に必要な書類作成、課題設定など
- 第 4 回 実習記録の理解①(植田・萩原)
実習日誌の意義と書き方
- 第 5 回 実習記録の理解②(植田・石井)
実習日誌を振り返る(I-1)
- 第 6 回 指導計画の理解①(植田・畠山)
指導実習について(部分実習)
- 第 7 回 指導計画の理解②(石井・萩原)
ねらいと内容
- 第 8 回 指導計画の理解③(畠山・石井)
環境構成と保育者の援助
- 第 9 回 指導計画の理解④(古庵・畠山)
部分実習指導案作成
- 第 10 回 指導計画の理解⑤(植田・古庵)
指導実習について(半日実習・一日実習)
- 第 11 回 指導計画の理解⑥(石井・植田)
半日実習・一日実習指導案作成

- 第 12 回 実習の心構え (石井・古庵)
 実習課題の明確化
- 第 13 回 学内オリエンテーション (萩原・畠山)
- 第 14 回 実習前オリエンテーション (畠山・萩原・古庵)
- 第 15 回 事後指導② (全員)

まとめ、実習記録および成績票による個別面接指導

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義と演習によって、保育実習Ⅱに必要な事柄を理解するとともに、心構えについても学ぶ。
- ・授業ならびに、実習前後に、課題を出す。
- ・事後指導は、実習終了後に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・保育実習Ⅰの実習内容をふりかえり、自己課題を明確にしておくこと。

- ・これまで履修した科目から、保育所の制度や役割、機能、また、保育者の役割などについて、再確認をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (50%)、授業時提出物 (20%)、実習事前課題 (30%) に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・春期休暇期間に実施する実習の事前授業として実施する。
- ・この授業を履修しなければ、「保育実習Ⅱ」は履修できない。
- ・原則として遅刻・欠席は認められない。提出物の期限は厳守すること。
- ・「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」は一体となって「保育実習」を遂行するため、一方が不合格の場合は、両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『こども教育ハンドブック』/田中裕喜, 石井浩子, 古庵晶子, 河佐英俊, 江川正一, 神月紀輔, 萩原暢子, 畠山寛, 藤本陽三, 住本 純, 植田恵理子, 大西慎也, 太田容次, 小川博士, 渡邊晴美/田中プリント/2020年/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『健康福祉シリーズ④ 新・実習指導概説 保育・教育・施設実習』/前橋 明・石井浩子編著/植田恵理子・古庵晶子・畠山 寛・萩原暢子他7名, ふくろう出版/2019年/9784861867606

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

植田：保育助手・講師として、幼稚園での実務経験あり。

保育表現演習Ⅰ

EDI3600NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

1単位 前期

木曜 3限

DP6：創造・発信力

15

集中

石井 浩子 萩原 暢子 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「子どもにとって必要な表現活動の在り方を探る」をテーマに、保育現場で必要な表現技術を培うとともに、様々な立場の子どもにとって、無理なく行える表現活動の企画立案、内容、方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの表現活動と意義について学ぶ
2. 造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について理解を深め、活動を企画する力を身につける。
3. 表現活動の中で、子どもの興味関心を引き出す具体的な方法について、企画の実践を通じ、体験的に学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもにとって必要な表現活動と意義について理解しようとしな	子どもにとって必要な表現活動と意義について理解しようとする。	子どもにとって必要な表現活動の具体例を企画し、まとめようとする。	グループワークの中で、個々の企画をまとめ、よりよい表現活動の立案を行う。
知識・理解力	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について理解していない。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について調べ、理解しようとする。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について具体案をまとめる。	グループワークの中で、総合的な表現活動をまとめ、企画できる力を身に付ける。
言語力	表現活動の中で、子どもの興味関心を引き出す具体的な方法を発表することに消極的である。	子どもの興味関心を引き出す具体的な方法に対し、自分なりの意見を発表できる。	具体的な方法をまとめ、活動内で展開し、それを発表する力を身に付ける。	グループワークの中で、具体的な方法をまとめ、それを基に実践を企画・発表する力を身に付ける。
思考・解決力	ねらいを基に、表現活動内で子ど	ねらいを基に、表現活動内で子ど	子どもの学びにつなげるための具	グループワークの中で、子ども

	もが体得する学びについて理解できていない。	もが体得する学びについて理解しようとする。	体的な表現活動の方法をまとめる。	の学びを意識した表現活動を考え、実践する力を身に付ける。
共生・協働する力	他者との話し合いを通して、表現活動の企画を練り上げることに消極的である。	他者との話し合いを経て、それぞれの意見を活動に取り入れようとする。	グループダイナミクスを理解し、積極的に、活動の質を高める。	他グループの良いところを取り入れて、更に活動の質を高める。
創造・発信力	オリジナルの活動を創造する気持ちが高まっていない。	オリジナルの活動を創造しようとする。	子ども主体の活動になるように、活発に意見交換、意見発表を行う。	子ども主体のオリジナル活動を創り、他グループ前で発表し、活動の質を高める。

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育現場における表現活動の意味
(担当：古庵)
- 第 2 回 保育現場における表現活動の目標と内容
(担当：石井)
- 第 3 回 表現活動の企画 1 (企画と内容を考える)
(担当：萩原)
- 第 4 回 表現活動の企画 2 (季節の行事等)
(担当：石井)
- 第 5 回 表現活動の企画 3 (生活発表会・音楽活動)
(担当：古庵)
- 第 6 回 表現活動の企画 4 (参加型読み聞かせ)
(担当：石井)
- 第 7 回 表現活動の企画と実践 1 グループ活動
(担当：萩原)
- 第 8 回 表現活動の企画と実践 2 全体活動
(担当：古庵)
- 第 9 回 表現活動の企画と実践 3 役割分担
(担当：古庵)
- 第 10 回 表現活動の企画と実践 4 道具制作
(担当：萩原)
- 第 11 回 リハーサル 1 子どもが参加できる工夫
(担当：石井)
- 第 12 回 リハーサル 2 様々な子どもが参加できる工夫
(担当：萩原)
- 第 13 回 公演準備
(担当：全員)
- 第 14 回 公演
(担当：全員)
- 第 15 回 まとめとふりかえり
(担当：全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループ活動で、季節の行事、生活発表会、参加型読み聞かせ等、保育現場の表現活動を企画、実践する課題に取り組み、そのために必要な技術 (道具製作、音楽作り等) も習得する。必要に応じて、学外発表を行う。授業内の表現活動発表後に、学生の表現活動に対して講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。学外発表については、発表後に講評、ふりかえりを行う方法でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

歌、手あそび等を発展させ、表現活動につなげるための方法、簡単な素材から子どもの興味関心を引き出し、造形活動に発展するための援助・配慮等について、日常生活の中で意識し、経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度30% レポート20% 表現実技50%

〔留意事項 (Other Information)〕

学外発表を行う際は、交通費が発生する可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

大豆生田啓友：「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育 (学研)

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育表現演習 II

EDI3650N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

3年次

1単位 後期

木曜 3限

DP6：創造・発信力

15

集中

石井 浩子 萩原 暢子 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「子どもにとって必要な表現活動の在り方を探る」をテーマに、保育現場で必要な表現技術を培うとともに、様々な立場の子どもにとって、無理なく行える表現活動の企画立案、内容、方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの表現活動と意義について学ぶ
2. 造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について理解を深め、活動を企画する力を身につける。
3. 表現活動の中で、子どもの興味関心を引き出す具体的な方法について、企画の実践を通じ、体験的に学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもにとって必要な表現活動と意義について理解しようとしな	子どもにとって必要な表現活動と意義について理解しようとする。	子どもにとって必要な表現活動の具体例を企画し、まとめようとする。	グループワークの中で、個々の企画をまとめ、よりよい表現活動の立案を行う。
知識・理解力	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について理解していない。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について調べ、理解しようとする。	造形・音楽・身体表現を総合的に行う活動について具体案をまとめる。	グループワークの中で、総合的な表現活動をまとめ、企画できる力を身につける。
言語力	表現活動の中で、子どもの興味関心を引き出す具体的な方法を発表することに消極的である。	子どもの興味関心を引き出す具体的な方法に対し、自分なりの意見を発表できる。	具体的な方法をまとめ、活動内で展開し、それを発表する力を身につける。	グループワークの中で、具体的な方法をまとめ、それを基に実践を企画・発表する力を身につける。
思考・解決力	ねらいを基に、表現活動内で子どもが体得する学びについて理解できていない。	ねらいを基に、表現活動内で子どもが体得する学びについて理解しようとする。	子どもの学びにつなげるための具体的な表現活動の方法をまとめる。	グループワークの中で、子どもの学びを意識した表現活動を考え、実践する力を身につける。
共生・協働する力	他者との話し合いを通して、表現活動の企画を練り上げることに消極的である。	他者との話し合いを経て、それぞれの意見を活動に取り入れようとする。	グループダイナミクスを理解し、積極的に、活動の質を高める。	他グループの良いところを取り入れて、更に活動の質を高める。

創造・発信力	オリジナルの活動を創造する気持ちが高まっていない。	オリジナルの活動を創造しようとする。	子ども主体の活動になるように、活発に意見交換、意見発表を行う。	子ども主体のオリジナル活動を創り、他グループ、他学年、地域の教育施設等で発表し、活動の質を高める。
--------	---------------------------	--------------------	---------------------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 季節の行事(秋)の企画 1
企画内容を考える(担当:古庵)
- 第 2 回 季節の行事(秋)の企画 2
役割分担(担当:石井)
- 第 3 回 季節の行事(秋)の企画 3
道具制作・環境構成(担当:萩原)
- 第 4 回 季節の行事(秋)の企画 4
リハーサル(担当:古庵)
- 第 5 回 季節の行事(秋)発表会
(担当:古庵)
- 第 6 回 季節の行事(冬)の企画 1
企画と内容を考える(担当:石井)
- 第 7 回 季節の行事(冬)の企画 2
役割分担(担当:萩原)
- 第 8 回 季節の行事(冬)の企画 3
道具制作・環境構成(担当:石井)
- 第 9 回 季節の行事(冬)の企画 4
リハーサル(担当:古庵)
- 第 10 回 季節の行事(冬)発表会
(担当:萩原)
- 第 11 回 表現活動の企画 1
企画と内容を考える(担当:石井)
- 第 12 回 表現活動の企画 2
役割分担(担当:萩原)
- 第 13 回 表現活動の企画 3
道具制作・環境構成(担当:全員)
- 第 14 回 表現活動の企画 4
リハーサル(担当:全員)
- 第 15 回 表現活動の公演 まとめとふりかえり
(担当:全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループ活動で、季節の行事を中心に、保育現場の表現活動を企画、実践する課題に取り組み、そのために必要な技術(道具製作、音楽作り等)も習得する。必要に応じて、学外発表を行う。授業内の表現活動発表後に、学生の表現活動に対して講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。学外発表については、発表後に、講評、ふりかえりを行う方法でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

歌、手あそび等を発展させ、表現活動につなげるための方法、簡単な素材から子どもの興味関心を引き出し、造形活動に発展するための援助等について、日常生活の中で意識し、経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度30% レポート20% 表現実技50%

〔留意事項 (Other Information)〕

学外発表を行う際は、交通費が発生する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

大豆生田啓友：「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育(学研)

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

幼児理解の理論と方法 2021年度以降入学者

EDI1451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1年次

2単位 後期

火曜1限

DP4: 思考・解決力

60

集中

石井 浩子 薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

乳幼児の健やかな心身の成長のためには、乳幼児に適した保育の計画を立て実践していくことが不可欠であり、そのためには、乳幼児の発達や生活実態をより正確に、また、客観的に把握することが必要であることを学ぶ。

また、自分の保育観や幼児観などと向き合いながら、幼児の言動の捉え方や意味を理解しようとする事、また、幼児の内面を評価し、共感的に理解することなど、幼児理解のために必要な具体的方法とその評価や援助のあり方について考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 幼児理解のために必要な発育・発達の理論を学ぶ。
2. 幼児理解のための基本と方法、その評価について学ぶ。
3. 幼児の家庭状況や生活状況の把握、その支援について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	幼児理解の意味と意義を理解できない	幼児理解の意味と意義について、概要を説明できる	幼児理解の意味と意義の概要について理解し、説明できる	幼児理解の意味と意義について、具体的な内容を説明できる
知識・理解力	幼児の発育・発達を理解できない	幼児の発育・発達について、ある程度理解できる	幼児の発育・発達について、理解できる	レベル3に加え、具体的な幼児の発育・発達について、具体的にイメージして考えることができる
言語力	幼児理解やその方法に関する必要な専門用語がわからない	幼児理解やその方法に必要な専門用語を調べ、理解しようとする	幼児理解やその方法に必要な専門用語について調べ、具体的なイメージをもって理解できる	レベル3に加え、現状を踏まえて高度な専門用語の内容を理解し、それを使用した表現ができる
思考・解決力	幼児理解のための基本と方法、その評価について理解できない	幼児理解のための基本と方法、その評価について理解しようとする	幼児理解のための基本と方法、その評価について学んだことを用いて、理解できる	幼児理解のための基本と方法、その評価について具体的な内容をイメージして、理解できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて、考えようとする	周囲の人たちと知識や考えを共有し、自分の意見を再構成する	レベル3に加え、自分の意見や考えを周囲の人たち表現することができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発言する	学んだことを適切にまとめ、自分の意見を発信できる	幼児理解に関して、学んだことから自分自身で考えた意見や考えを発信できる	レベル3に加え、情報モラルも加味し、自分の意見や考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育における幼児理解とは(1)幼児を見る視点(薦田)
- 第 2 回 保育における幼児理解とは(2)幼児理解を基盤としてのカウンセリングマインド(薦田)
- 第 3 回 幼児の発達理解(1)誕生から乳児期の心身の発達及び運動発達(薦田)
- 第 4 回

- 幼児の発達理解(2)幼児期の心身の発達及び運動発達 (薦田)
- 第 5 回 幼児の発達理解(3)検査種類とその方法 (薦田)
- 第 6 回 幼児の生活状況 (生活習慣) と遊び (薦田)
- 第 7 回 幼児理解と援助 (薦田)
- 第 8 回 子ども理解を深める観察・記録(1)観察について (石井)
- 第 9 回 子ども理解を深める観察・記録(2)記録について (石井)
- 第 10 回 保育の計画及び実践、幼児理解に対する省察・評価 (石井)
- 第 11 回 子ども理解を深める保育カンファレンス (石井)
- 第 12 回 家庭支援・家庭連携(1)子ども・家庭支援の必要性 (石井)
- 第 13 回 家庭支援・家庭連携(2)保護者の育児不安と育児ストレス (石井)
- 第 14 回 地域の子育て支援
家庭との連携 (石井)
- 第 15 回 テスト
まとめ (石井)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・ 2 名によるオムニバス形式で前半と後半とで講義を行う。
- ・ 授業開始前に、資料を配布する。
- ・ (第 1～7 回)各回小テストを実施し、次回授業でフィードバックを行う。
- ・ (第 8～15 回)15 回目にテスト及び、担当授業全体のフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・ 授業中に提示する参考文献を中心に、乳幼児期を中心とした子どもの発達について勉強しておくこと。
- ・ 積極的に子どもと接する機会をもつことや、日常生活の中で見かける子どもの姿を観察をして、授業内容の理解を深めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、以下の通り、担当教員2名の評価に基づき、総合的に行う。

(第 1～7 回)授業中に毎行われる小テスト (47%)

(第 8～15 回)15 回目にテスト (53%)

〔留意事項 (Other Information)〕

予定された授業は、順序が入れ替わることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる乳幼児心理学』/内田伸子(編)/ミネルヴァ書房/2008/978462305E12

その他は、適宜授業で参考文献を紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

石井：有資格者として保育園での勤務経験あり。

薦田：臨床発達心理士として保育現場での発達支援業務の経験あり。

理科

EDP1251N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科 (実践的科目)

1 年次

2 単位 後期

木曜 2 限

DP2：知識・理解力

60

集中

小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

小学校理科の学習内容は、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域から構成されている。本講義では、その学習内容についての基礎知識や教材・教具についての理解を深めることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 小学校理科の学習内容についての基礎を身に付ける。
- ・ 小学校で使用する教材や教具を知り、実際に扱うことができる。
- ・ 理科における観察・実験技能を知り、実際に操作することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学びに向かう力	小学校理科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、説明できない。	小学校理科の内容について、これから自分自身が何を課題として学習する必要があるか、おおまかに説明できる。	小学校理科の内容について、これから自分自身が何を学習する必要があるか、明確に説明できる。	小学校理科の内容について、これから自分自身が何を学習する必要があるか、授業づくりと関連させて説明できる。
知識・理解力1(基礎的な知識)	小学校理科の内容構成の理解が不十分であり、エネルギー・粒子・生命・地球の各領域の科学的知識について、説	小学校理科の内容構成を理解し、エネルギー・粒子・生命・地球の各領域の科学的知識について、ある程	小学校理科の内容構成を理解し、エネルギー・粒子・生命・地球の各領域の科学的知識について、説明できる。	小学校理科の内容構成を理解し、エネルギー・粒子・生命・地球の各領域の科学的知識について、授業づくりの視点

	明できない。	度、説明できる。		とともに説明できる。
知識・理解力2(基本的な技能)	基本的な実験器具の操作を行うことができない。	基本的な実験器具の操作の一部を行うことができる。	基本的な実験器具の操作を行うことができる。	基本的な実験器具の操作を行うとともに、指導上のポイントを説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション<対面>
 - 第 2 回 小学校理科の目標と内容<オンライン>
 - 第 3 回 日本の理科教育の課題(全国学力学習状況調査から)<対面>
 - 第 4 回 生命①-1(身近な自然)<対面>
 - 第 5 回 生命①-2(身近な自然・教材づくり)<個別学習・オンライン>
 - 第 6 回 生命②(植物の発芽・成長・養分)<対面>
 - 第 7 回 地球①(気象・天体)<対面>
 - 第 8 回 地球②(流水のはたらき・地層)<対面>
 - 第 9 回 粒子①(危険防止と安全指導・水溶液)<対面>
 - 第 10 回 粒子②(燃焼)<対面>
 - 第 11 回 エネルギー①(振り子)<対面>
 - 第 12 回 エネルギー②(てこ・つり合い)<対面>
 - 第 13 回 エネルギー③(音)<対面>
 - 第 14 回 自由研究レポートの作成<個別学習>
 - 第 15 回 自由研究レポートの発表・総括<対面>
- 〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

- ・講義と実験を主とする。
- ・一部、オンライン型の授業を行うので、シラバスや授業時におけるアナウンスに留意すること。
- ・具体的な教材を扱いながら実感を伴う理解ができるように進める。また、理科の自由研究に取り組み、発表する時間を設ける。
- ・自由研究レポートについては、教員や受講生がコメントすることで、フィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

本講義の中で、小学校理科のすべての内容を扱うことは難しい。扱えなかった内容については、講義の内容をもとに各自で学習することが望ましい。自由研究については発表当日に向けて、各自、こつこつと取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

60

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

試験50%、自由研究レポート30%、授業参加度(responによる授業の振り返り)20%で評価する。

〔留意事項(Other Information)〕

受講者の実態や教材の準備状況によって学習内容を変更することがあります。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『小学校学習指導要領解説理科編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034638/学内販売有

その他、必要な資料がある場合は授業時に適宜提示する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

小学校理科の教科書

『初等理科教育』/山下芳樹・平田豊誠編/ミネルヴァ書房/2018/978-4623082001

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 小学校教員として公立小学校での勤務経験あり。

理科指導法

EDP2403N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科(実践的科目)

2年次

2単位 前期

木曜3限

DP4: 思考・解決力

60

集中

小川 博士

〔科目の教育目標(Course Description)〕

前半は、理科の教授・学習論、学習評価の方法、具体的な実践事例を通して、小学校理科の指導方法を理解する。また、基礎理論を踏まえ、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、理科授業を構想することができるようにする。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

・小学校における理科の目標及び内容、教授・評価方法について理解することができる。

・学習指導を実践していく上で必要とされる具体的な技能や方法を知り、学習指導案を作成することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

省察する力	模擬授業の省察が不十分であり、良かった点や改善点を見いだすことができない。	模擬授業を省察し、良かった点や改善点がある程度見いだすことができる。	模擬授業について、仲間や教員との対話を通じた省察によって、良かった点や改善点を見いだすことができる。	模擬授業について、個人による省察や仲間や教員との対話を通じた省察によって、良かった点や改善点を見いだすことができる。
思考・解決力（主に理科授業を構想する力）	学習指導要領の目標や内容を踏まえた理科授業を構想することができない。	教員からの助言に基づいて、学習指導要領の目標や内容、教材研究を踏まえた理科授業を構想することができる。	学習指導要領の目標や内容、教材研究を踏まえた理科授業を構想することができる。	児童の実態に加えて、学習指導要領の目標や内容、教材研究を踏まえた理科授業を構想することができる。
協働する力	学習指導案作成や授業づくりについて、仲間と協力して取り組むことができない。	学習指導案作成や授業づくりについて、与えられた役割に取組むことができる。	学習指導案作成や授業づくりについて、自分の役割を理解し、仲間と協力して取り組むことができる。	学習指導案作成や授業づくりについて、自分の役割を理解し、仲間と協力して取り組むとともに、よりよいものにするための建設的な意見を言うことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション<対面>
- 第 2 回 小学校理科授業のつくり方<対面>
- 第 3 回 学習指導案の作成方法<オンライン>
- 第 4 回 理科学習の評価の方法・評価規準の作成方法<オンライン>
- 第 5 回 学習指導案の作成<個別・対面>
- 第 6 回 指導案個別検討と教材研究<個別・対面>
- 第 7 回 模擬授業①（小学校3年の内容：A区分）<対面>
- 第 8 回 模擬授業②（小学校3年の内容：B区分）<対面>
- 第 9 回 模擬授業③（小学校4年の内容：A区分）<対面>
- 第 10 回 模擬授業④（小学校4年の内容：B区分）<対面>
- 第 11 回 模擬授業⑤（小学校5年の内容：A区分）<対面>

- 第 12 回 模擬授業⑥（小学校5年の内容：B区分）<対面>
 - 第 13 回 模擬授業⑦（小学校6年の内容：A区分）<対面>
 - 第 14 回 模擬授業⑧（小学校6年の内容：B区分）<対面>
 - 第 15 回 総括<対面>
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- ・講義及び演習（学習指導案作り及び模擬授業）を併用しながら展開する。
 - ・学習指導案や模擬授業コメントについては、授業内に全体に対してフィードバックする。
 - ・一部、オンライン型の授業を行う予定なので、シラバスや授業時におけるアナウンスに留意すること。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
- ・小学校理科の教科書を詳細に見ておくこと
 - ・可能であれば、小学校の研究発表会等へ参加し、理科授業を参観しておくイメージがもちやすいと思います。講義中に、研究発表会の案内についてもアナウンスしたいと思います。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
- 60
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
- 作成した学習指導案30%，模擬授業コメント30%，改善指導案30%，授業参加度10%で評価する。
- 〔留意事項（Other Information）〕
- 受講生の人数や教材の準備状況によっては、授業内容を変更する場合もある。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
- ・『初等理科教育』/山下芳樹・平田豊誠編/ミネルヴァ書房/2018/978-4623082001/学内販売有
 - ・『小学校学習指導要領解説理科編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034638/学内販売無
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 小学校理科の教科書
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- 《実践的科目》 小学校教員として公立小学校での勤務経験あり。

EDB1400N0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 1年次
 2単位 前期
 火曜 4限
 DP4: 思考・解決力
 60
 必修
 畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育活動における心理学的理解は重要である。教授方法や学習理論、あるいは、教育の対象である児童・生徒の理解がなければ、適切で効果的な教育活動は行えない。この科目では、学習心理学、発達心理学、社会心理学の基礎的な知見の紹介にとどまらず、教育に活かす方法について講義することによって、適切で効果的な教育活動について理解することを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学習に関する心理学的な理解
2. 児童・生徒の心身の発達、及び、障害に対する理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習に関する心理学的理解	学習に関する心理学的な理解ができていない。	学習に関する心理学的な理解が、一部できている。	学習に関する心理学的な理解が、十分にできている。	レベル3に加え、実践できる。
児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解ができていない。	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解が、一部できている。	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解が、十分にできている。	レベル3に加え、発達や障害に見合ったかわりが考えられる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育における児童・生徒の発達理解、学習理解の重要性
- 第 2 回 学習①：行動主義の学習理論
- 第 3 回 学習②：認知主義の学習理論
- 第 4 回 学習③：メタ認知、学習方略
- 第 5 回 記憶：記憶のメカニズムと効果的な記憶法
- 第 6 回 動機づけ：やる気の引き出し方
- 第 7 回 発達①：発達に関する基礎的理解
- 第 8 回 発達②：乳幼児期の発達
- 第 9 回 発達③：児童期・青年期の発達
- 第 10 回 個人差：知能、性格特性の把握
- 第 11 回 障害の理解①：知的障害、自閉症
- 第 12 回 障害の理解②：ADHD、学習障害
- 第 13 回 学級集団：教師のあり方と生徒間関係

第 14 回 教育評価の考え方

第 15 回 形成テストとテストの解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は講義形式・演習形式で行う。
2. 適宜必要なプリントなどを配布する。
3. 必要に応じてパワーポイント、ビデオなどを使用する。
4. 形成テスト実施後にテスト解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は、形成テスト (50%)、レポート課題 (50%) を総合したものから、授業中のスマホ利用等で減点した点数とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 授業で配布する資料の予備は保管しません。
2. 携帯電話、スマートフォンの電源を切り、鞆の中にしてしまうこと。
3. 水、お茶以外の飲食については禁止します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Next 教科書シリーズ 発達と学習 第2版』/内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎 編/ 弘文堂/2020/978-4-335-00244-1 学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもの食と栄養

EDI3202N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 前期

月曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

石見 恵子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 健康な生活の基本としての食生活の重要性を理解し、栄養に関する基本的知識を持っている。
2. 子供の発育・発達と食生活の関連について理解し、発達段階に応じた食生活への対応力を持っている。

3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を、地域社会・文化との関わりの中で理解している。

4. 家庭・児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。

5. 特別な配慮を要する子供の食と栄養について理解している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 自分自身の食生活の問題点を見つけて改善していく。
2. 食品について深く知る。食品表示にも注目し、食品選択力を身につける。
3. 母乳育児を支援するために必要な取り組みを調べる。
4. 離乳期の食育の意義を考え、実践方法を検討する。
5. 食事バランスガイドを活用する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	健康な生活を送るために食生活がいかに重要であるかを意識できない。	自分自身の食生活の問題点を見つけて改善していく。	子どもの発達段階に応じた食生活への対応力をもつ。	社会生活の変化に応じて、子供の食生活に対応できる力をもつ。
知識・理解力	栄養に関する基礎知識を持たない。	栄養と食品に関する基礎知識をもっている。	子どもの発育・発達と食生活の関連を理解している。	食育の基本と内容、特別なケースについての子どもの食と栄養について理解している。
言語力	栄養に関する用語を理解しようとしていない。	栄養と食品に関する用語を説明できる	子どもの発育・発達と食生活の関連を説明できる。	子ども、保護者に栄養に関する知識を伝えることができる。
思考・解決力	教えられたこと以上には考えようとしていない。	身の回りの社会生活に根ざして考えることができる。	子どもの発育・発達に応じて考えることができる。	社会の変化に対応して子どもの食生活に対する考えを深めることができる。
共生・協働する力	先行研究や他社の意見を参考にしない	栄養の知識を元に、食事バランスガイドや食品表示を活用して食品選択力を身につけている。	子どもの発達段階に応じた食事を体感し、準備作業をして経験をつむ。	食と栄養に関する新しい知見にアンテナをはり、情報交換ができる。

創造・発信力	自分勝手な栄養に関する発信を行う。	食育について知っている。	子どもたちに楽しく食育を行うことができる。	保護者を巻き込み、食育を行うことができる。
--------	-------------------	--------------	-----------------------	-----------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 子供の健康と食生活の意義
子どもの心身の健康と食生活
子どもの食生活の現状と課題
- 第 2 回 栄養と食品に関する基礎的知識 I
栄養の基本的概念と栄養素（炭水化物、たんぱく質、脂質）の働き
- 第 3 回 栄養と食品に関する基礎的知識 II
栄養の基本的概念と栄養素（ミネラル、ビタミン、水）の働き
- 第 4 回 栄養と食品に関する基礎的知識 III
日本人の食事摂取基準
食品の基礎知識
- 第 5 回 栄養と食品に関する基礎的知識 IV
献立作成と調理の基本
健全な食生活のための指標
- 第 6 回 子どもの発育・発達と栄養生理
- 第 7 回 子どもの発育・発達と食生活 I
授乳期の意義と食生活ー母乳栄養
- 第 8 回 子どもの発育・発達と食生活 I
授乳期の意義と食生活ー人工栄養、混合栄養
- 第 9 回 子どもの発育・発達と食生活 I
離乳期の意義と食生活
- 第 10 回 子どもの発育・発達と食生活 I
幼児期の心身の発達と食生活
- 第 11 回 子どもの発育・発達と食生活 II
学童期・思春期の心身の発達と食生活
- 第 12 回 子どもの発育・発達と食生活 II
妊娠期の心身の発達と食生活
- 第 13 回 食育の基本と内容
- 第 14 回 家族や児童福祉施設における食事と栄養
- 第 15 回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

教科書を中心に、配布プリントで補いながら講義する。また、必要に応じて書画カメラなどの映像を利用する。テーマによってはグループ学習を行う。

提出されたレポートに対しては講評・採点を本人に公開する。定期試験については、試験終了後正解を掲示する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回の講義に相当する箇所の教科書を熟読する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験 (80%)

レポート作成 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の進捗状況に応じて、授業予定が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

子どもの食と栄養演習/ 小川雄二 編著/ 建帛社/ 2020年/ ISBN978-4-7679-5128-7/ 学内販売 有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもの発達心理学 2021年度以降入学者

EDB1450N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 後期

火曜4限

DP4: 思考・解決力

60

畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 保育実践に関わる心理学の知識を習得する。
2. こどもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
3. 人との相互的な関わりを通じた発達について理解する。
4. 生涯発達の観点から発達の過程や初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
2. こどもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3. 乳幼児期のこどもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的な関わりや体験、環境の意義を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理的知識を踏まえた、発達理解	発達を捉える視点が理解できていない。	心理学的知識を踏まえた発達を捉える視点の理解が、一部できる。	心理学的知識を踏まえた、発達を捉える視点の理解が、十分にできる。	レベル3に加え、発達を捉える視点を使って理解できる。

こども理解	援助の対象となるこども理解ができていない。	援助の対象となるこども理解が、一部できる。	援助の対象となるこども理解が、十分にできる。	レベル3に加え、こどもの発達に即した援助への理解が深められている。
保育における人との関わり、環境の意義	保育における人との関わり、環境の意義について理解できていない。	保育における人との関わり、環境の意義の理解が、一部できている。	保育における人との関わり、環境の意義の理解が十分にできる。	レベル3に加え、関りや環境構成への理解が深められている。

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス：こどもの発達心理学
- 第2回 こどもの発達を理解することの意義
- 第3回 発達理論とこども観・保育観
- 第4回 社会性の発達①：愛着形成
- 第5回 社会性の発達②：仲間・友人関係の発達
- 第6回 自我・自己の発達
- 第7回 性格形成
- 第8回 情動発達
- 第9回 認知発達
- 第10回 身体・運動発達
- 第11回 言語発達
- 第12回 乳幼児期の学びに関わる理論
- 第13回 乳幼児期の学びの過程と特性
- 第14回 形成テスト
- 第15回 形成テストの解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義形式で行う。適宜、プリント等を配布する。
- ・必要に応じて視聴覚教材を利用する。
- ・形成テストのフィードバックは15回目の授業で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回の授業終了時に、次週に向けての課題・指示を与える。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は、形成テスト (50%)、レポート (50%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. プリントの残部は、廃棄します。
2. 水、お茶以外の飲食は禁止します。
3. スマートフォン、携帯電話は電源をきり、鞆の中にししまうこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育の心理学Ⅰ』/杉村・白川・志水編/中央法規/2015/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもの保健

EDI2252NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 前期

金曜 2限

DP2:知識・理解力

90

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生命の保持と情緒の安定を図る保育において、子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。また、子どもの発育・発達の状態を把握し、子どもの健康状態の把握について熟知する。さらに、子どもの病気の予防と対応について学ぶ。最終的に、学生が子どもの心身の健康維持に関する知識を有することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. こどもの保健の意義について理解する
2. こどもの健康と統計を理解する
3. こどもの健康と地域における保健活動・虐待防止について理解する
4. こどもの成長・発達と保健について理解する
5. こどもの心身の健康状態とその把握について理解する
6. こどもの病気の予防と適切な対応について理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	こどもの発育・発達をイメージできない	こどもの発育・発達のイメージができる	こどもの発育・発達に関する事柄に広く興味が持てる	レベル3に加えて実際のこどもの未来に対してイメージを繋げて行ける
知識・理解力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について理解できない	こどもの発育・発達や病気の予防と対応についてある程度理解できる	より深くこどもの発育・発達や病気の予防と対応について理解できる	レベル3に加えて実際の子どもに応用して考えることができる

言語力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関して使用される言葉が理解できない	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関して使用される言葉が理解できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関する言葉を理解して自分で使用できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応に関する言葉や周辺で必要となる言葉など、幅広く理解して使用できる
思考・解決力	教えられたこと以外は考えようとしない	現実の状況に当てはめて考えようとする	発生する課題を解決しようとする	現実から発展させて考えて、起こりうる問題を解決しようとする
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて参考にする	考えた結果を周囲の人たちと共有する	考えた結果を周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自分勝手な考えを発信する	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自分の考えを発信できる	こどもの発育・発達や病気の予防と対応について、自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	レベル3に加えて、情報モラルも加味しながら、自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、第 1 章 子どもと保育保健 1 こどもの定義と保育保健のための法と理念 2 保育保健の意義 第 2 章 こどもの健康と統計)
- ・こどもの定義と保育保健の意義について詳述する。
 - ・健康の定義、子どもにかかわる諸統計について述べる。
- 第 2 回 (第 3 章 こどもの健康と地域における保健活動・虐待防止 1 現代社会における子どもの健康に関する現状 2 こどもの健康課題 3 子どもを取り巻く地域における保健活動 4 児童虐待と対策)
- ・こどもの身体・心・養育環境の課題について詳述する。
 - ・地域保健活動・母子保健・学校保健について述べる。
 - ・児童虐待の現状について詳述する。
- 第 3 回 (第 4 章 こどもの成長・発達と保健 1 こどもの成長と発達 2 こどもの生理機能の発達(1))

- ・子どもの発育とその特徴について述べる。
- ・子どもの生理機能（循環機能）について詳述する。
- 第 4 回（第 4 章 子どもの成長・発達と保健 2 子どもの生理機能の発達(2) 3 子どもの身体発育(1)）
 - ・子どもの生理機能（呼吸機能、消化機能、排泄機能、免疫機能、体温調節機能等）について述べる。
 - ・新生児期、乳幼児期の身体発育について詳述する。
- 第 5 回（第 4 章 子どもの成長・発達と保健 3 子どもの身体発育(2) 4 子どもの運動・精神機能の発達(1)）
 - ・身体発育の評価について詳述する。
 - ・運動・精神機能をつかさどる神経系について詳述する。
 - ・運動機能の発達について詳述する。
- 第 6 回（第 4 章 子どもの成長・発達と保健 4 子どもの運動・精神機能の発達(2) 5 子どもの成長・発達と保育）
 - ・精神機能の発達について詳述する。
 - ・子どもの発達とその評価について詳述する。
- 第 7 回（第 5 章 子どもの心身の健康状態とその把握 1 日々の健康観察と心身の不調の早期発見）
 - ・「健康な子どもとは」について詳述する。
 - ・心身の不調とその判断について述べる。
- 第 8 回（第 5 章 子どもの心身の健康状態とその把握 2 成長・発達の把握と健康診断 3 保護者との情報共有 第 6 章 子どもの病気と予防 1 子どもの病気の考え方）
 - ・身体計測・運動能力の測定について詳述する。
 - ・健康診断について詳述する。
 - ・入園前・入園時の状態把握と日々の保護者との情報共有について述べる。
- 第 9 回（第 6 章 子どもの病気と予防 2 感染症(1)）
 - ・主な感染症（インフルエンザ、麻疹（はしか）等のウイルス感染症について詳述する。
- 第 10 回（第 6 章 子どもの病気と予防 2 感染症(2)）
 - ・主な感染症（百日咳、結核等の細菌感染症について詳述する。
- 第 11 回（第 6 章 子どもの病気と予防 2 感染症(3) 3 アレルギー疾患 4 子どもに多いその他の病気(1)）
 - ・園における対応について詳述する。
 - ・主なアレルギー疾患について詳述する。
 - ・先天性疾患、消化器疾患、呼吸器疾患について述べる。
- 第 12 回（第 6 章 子どもの病気と予防 4 子どもに多いその他の病気(2)）
 - ・循環器疾患、血液・腫瘍性疾患、腎・尿路系疾患、神経・筋疾患などについて述べる。
- 第 13 回（第 6 章 子どもの病気と予防 5 子どもの病気の予防ー予防接種）
 - ・予防接種について詳述する。

- 第 14 回（形成テスト）
 - 形成テストを行う。途中退出は不可とする。
- 第 15 回（形成テストの解説と評価）
 - 採点後の形成テストを返却し、問題の解答と解説を行って、全体を評価する。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- 実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
 1. 授業方法
 - 講義形式
 2. 学習方法
 - (1) テキストに沿って行う、プリントで内容補充
 - (2) パワーポイントを用い、頭の中にイメージを作っていく。
 - (3) 授業の始めに設問（小テスト形式）を与え、授業中に解答する。授業終了時回収し、次回返却。
 - (4) 授業の終わりに理解度と質問事項の調査を行い、次回の講義で解説する。
 3. 各回の小テストについて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
 1. テキストの次回講義範囲をしっかりと読んでおくこと。
 2. 分からないところは、直接尋ねるかあるいはFD用紙を使ってかならず解決しておくこと。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
- 40
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
 - ・評価は、小テスト（10%）、授業参加度（10%）、形成テスト（80%）に基づいて総合的に行う。
- 〔留意事項（Other Information）〕
 - 他の受講生に迷惑となる私語、携帯電話によるメールの送受信、居眠り、摂食は禁止。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
 - 『保育を学ぶ人のための子どもの保健』/堀 浩樹・梶 美保編著/建帛社/2020/978-4-7679-5108-9/学内販売有
- 〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
 - 『子どもの保健-理論と実際-』/岸井勇雄ほか/同文書院/2015/978-4-8103-1398-7
 - 『子どもの健康と安全』/高内正子・梶 美保編著/建帛社/2020/978-4-7679-5124-9
- 〔参考URL(URL for Reference) 〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- ≪実践的科目≫、医師として病院等での診療経験あり

こども家庭支援の心理学

EDI2253N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

木曜1限

DP2：知識・理解力

60

島山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
生涯発達に関する心理学的知識	生涯発達に関する心理学的知識が習得できていない。	生涯発達に関する心理学的知識の一部が習得できている。	生涯発達に関する心理学的知識が十分に習得されている。	レベル3に加え、初期経験の重要性や発達課題の内容にちて深く理解している。
家庭の意義や機能	家庭の意義や機能について理解できていない。	家庭の意義や機能について一部理解できている。	家庭の意義や機能について十分に理解できている。	レベル3に加え、子どもとその過程を捉えるしてんが習得されている。
家庭をめぐる現代の社会状況	家庭をめぐる現代の社会状況について理解できていない。	家庭をめぐる現代の社会状況について、一部理解できている。	家庭をめぐる現代の社会状況について、十分に理解できている。	レベル3に加え、課題解決の方法等について理解を深める。

子どもの精神保健	子どもの精神保健について理解できてい相。	子どもの精神保健について一部理解できている。	子どもの精神保健について十分に理解できている。	レベル3に加え、精神保健を保つための援助について理解を深める。
----------	----------------------	------------------------	-------------------------	---------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス：子ども家庭支援の心理学の概要
- 第 2 回 乳幼児期の発達
- 第 3 回 児童期の発達
- 第 4 回 青年期の発達
- 第 5 回 成人期・老年期の発達
- 第 6 回 家族・家庭の機能
- 第 7 回 親子関係・家族関係の理解
- 第 8 回 子育て経験と親としての育ち
- 第 9 回 子育てを取り巻く社会的状況
- 第 10 回 ライフコースと仕事・子育て
- 第 11 回 多様な家庭とその理解
- 第 12 回 特別な配慮を要する家庭
- 第 13 回 子どもの生活・生活環境と心の健康
- 第 14 回 形成テスト
- 第 15 回 形成テストの解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義，演習形式で行う。
- ・適宜，プリントを配布する。
- ・形成テストのフィードバックは15回目の授業で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・毎回到授業終わりに，指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・評価は形成テスト (50%)，レポート (50%)，出席態度で行う。
- ・出席態度は授業中の私語，スマホ利用等であり，減点対象である。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・授業中のスマートフォン利用は原則禁止とする。
- ・飲食については，水，お茶以外は認めない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600A0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜3限
 DP6：創造・発信力
 150
 田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができていない。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てることができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てて、取り組んでいる。
創造・発信力	自らが選んだ分野の研究法を理解することができていない。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができている。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができおり、それを用いて研究している。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができおり、それを用いて研究に着手している。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600B0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜3限
 DP6：創造・発信力
 150
 萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600C0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP6 : 創造・発信力

150

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600DOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP6 : 創造・発信力

150

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600K0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

150

高田 佳孝

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600E0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

4単位 通年

水曜 3限

DP6 : 創造・発信力

150

畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600G0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6：創造・発信力
150
古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600H0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6：創造・発信力
150
大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600IOJ
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6：創造・発信力
150
小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600JOJ
大学
現代人間学部 > こども教育学科
3年次
4単位 通年
水曜3限
DP6：創造・発信力
150
太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育演習

EDS3600K0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 3年次
 4単位 通年
 水曜 3限
 DP6：創造・発信力
 150
 高田 佳孝

【科目の教育目標 (Course Description)】

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

【授業計画】

それぞれのゼミにおいて示される。

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

各担当教員の指示に従うこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

120

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

【留意事項 (Other Information)】

水曜3限、出席必須。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

音楽科指導法

EDP2450N0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 2年次
 2単位 後期
 木曜 2限
 DP4：思考・解決力
 60
 幼小・小特必修
 古庵 晶子

【科目の教育目標 (Course Description)】

小学校音楽科の理念と目標を踏まえつつ、隣接校種の連携(幼小および小中)を考慮し、音楽教育を幅広く捉えることができる。表現・音楽づくり・鑑賞の各領域の授業プランを構想することができる。既製楽譜での共通教材の弾き歌いができる。バロック式リコーダーの利点を理解し、演奏できるようになる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- 1.学習指導要領について理解する。
- 2.学習指導案を作成し、ピアノ伴奏を取り入れた模擬授業をする。
- 3.バロック式リコーダーに対する苦手意識を払しょくする。
- 4.手作り楽器製作を行い、幼小連携および小中連携に音楽科が貢献できる内容を模索する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教員を目指す者としての考えからかけ離れている。	子どもに音楽を伝えるために、自ら音楽の楽しさを感じるため、日々様々な音楽に親しんでいる。	自力での伴奏とCD音源の、それぞれの良さを理解し、指導案で適切な使い方を計画できる。	音楽教育が人格形成に必要なことの重要性を理解し、音楽的なものの考え方ができている。
知識・理解力	小学校音楽科の教科書の内容を理解できない。	低学年の教育内容が理解でき、子どもへの伝え方について、考えることができる。	高学年の教材における情報の知識が既にあり、学習指導要領の狙いと内容が理解できる。	学習指導要領を良く読み込み、それぞれの教材にどう響かせるかを理解できている。

言語力	リズム、拍子、音程、和音など、基本的な用語が理解できていない。	最低限の音楽用語を理解し、調性や曲想から、曲のイメージについて説明することが出来る。	楽曲の構成を説明でき、イメージを適切な言葉で伝えることが出来る。	各時代の作曲家の作品に、日々親しみ、教科書教材の鑑賞曲の説明に生かすことが出来る。
思考・解決力	小学校音楽科の教材曲を、譜読みのレベルで終わらせている。	学習指導案の構成が、子どもたちが音を出して譜をなぞる程度までとなっている。	合唱や合奏において、どのような点について指導すべきかを理解し、授業計画を立てることができる。	高学年のレベルの楽曲はもちろん、低学年のシンプルな楽譜でも、指導において重要な点は何かを、読み取る力を持っている。
共生・協働する力	鑑賞や音楽づくりでのグループワークに非協力的である。	合奏演習のための個人練習に集中して取り組み、グループワークに支障をきたさない。	合奏演習に際して、お互いに意見を出し合い、良いものに作り上げようとする姿勢がある。	ただ合奏を楽しむだけでなく、指導計画を立てる際に、合奏演習で得たものを生かせるように、常に意識して取り組む。
創造・発信力	音楽づくりの必要性を理解しない。	音やリズムの重なりや組み合わせを楽しいものとして受け止め、取り組むことが出来る。	音程から離れた音の組み合わせや、休符の効果、楽器ではないものから発せられる音の面白さを自分のものとして取り入れることができる。	創造的音楽学習など音楽づくりの理念や歴史を学習し、指導計画に役立てることが出来る。

〔授業計画〕

- 第 1 回 音楽教育の歴史と小学校学習指導要領（音楽）の概説
リコーダーの種類とバロック式リコーダー
- 第 2 回 歌唱指導の研究と演習・手づくり楽器の教育的意義
- 第 3 回 鑑賞指導の研究と指揮法の実際
- 第 4 回 音楽教育の今日的課題と特別活動における音楽科
- 第 5 回 学習指導案と評価の方法
リコーダー演習①導入教材の研究

- 第 6 回 学習指導案の作成
リコーダー演習②サミングと高音
 - 第 7 回 手づくり楽器の製作
リコーダー演習③スタッカーとスラー
 - 第 8 回 模擬授業 1
歌唱の模擬授業
 - 第 9 回 模擬授業 2
リコーダーの模擬授業
 - 第 10 回 模擬授業 3
鑑賞の模擬授業
 - 第 11 回 模擬授業についてのふりかえり
リコーダー演習④ファのポジション
 - 第 12 回 音楽会の運営
リコーダー演習⑤教科書教材曲のアンサンブル
 - 第 13 回 音楽づくりの概念
リコーダー演習⑥副教材のアンサンブル
 - 第 14 回 リコーダーのテストと音楽づくり演習
 - 第 15 回 総合演習
音楽づくり発表
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
演習と講義を織り交ぜて授業を行う。学習指導案を作成し、模擬授業を行う。リコーダー演習を行うほか手作り楽器を製作して活用法を考えることで、グループによる音楽づくりに関連させる。音楽づくりの発表会を授業内で行うことで、お互いの評価をしあい、音楽会の計画・運営を学ぶ。リコーダーの実技試験後は、総合的に評価を行い、アンサンブルとして演奏しなおすことで、自らの音への振り返りを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
手作り楽器製作のため、廃材の準備をしておくこと。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
15
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業参加度10% 模擬授業30% 音楽づくり発表20% 学習指導案40% 授業に関連のない目的での携帯電話使用等は減点の対象とする。
- 〔留意事項（Other Information）〕
模擬授業のためにピアノをよく練習しておくこと。手作り楽器製作にあたり1回あたり150円程度の材料費がかかる場合がある。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『小学校学習指導要領解説 音楽編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034652/学内販売予定
『はじめて学ぶ教科教育「初等音楽科」』/吉田武男監修/ミネルヴァ書房/2018/978-4-623-08160-8/学内販売予定
適宜プリント配布
- 〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference)〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

家族援助論

EDI3500NOJ

大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 3年次
 2単位 前期
 月曜2限
 DP5：共生・協働する力
 60
 矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育士として、子どもの育ちを支える基盤ともいえる家族について、家族自体の動向、さらには家族をめぐる社会的状況を適切にとらえた上で、家庭支援の理論と方法を理解することができることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
- (2) 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
- (3) 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
- (4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	家庭支援の理論と方法を調べることができない。	家庭支援の理論と方法を調べることができない。	家庭支援の理論と方法を調べ、内容を理解している。	家庭支援の理論と方法を具体的に説明することができる。
表現力・考察力	家族をめぐる社会的状況を調べることができない。	家族をめぐる社会的状況を調べることができない。	家族をめぐる社会的状況を調べ、必要な支援を考えることはできない。	家族をめぐる社会的状況を調べ、必要な支援を具体的に説明することができる。
思考・解決力	ニーズに応じた支援の展開と必要な支援体制を考えることができない。	ニーズに応じた支援の展開を考えることはできない。	ニーズに応じた支援の展開と必要な支援体制を考えることはできない。	ニーズに応じた支援の展開と必要な支援体制を提案し、支援の意義を説明することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 子ども家庭支援の意義と必要性

- 第 2 回 子ども家庭支援の目的と機能
 - 第 3 回 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
 - 第 4 回 子どもの育ちの喜びの共有
 - 第 5 回 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の支持
 - 第 6 回 保育士に求められる基本的態度
 - 第 7 回 家庭の状況に応じた支援
 - 第 8 回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
 - 第 9 回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
 - 第 10 回 子ども家庭支援の内容と対象
 - 第 11 回 保育所等を利用する子育て家庭への支援
 - 第 12 回 地域の子育て家庭への支援
 - 第 13 回 要保護児童及びその家庭に対する支援
 - 第 14 回 形成テストの実施と解説
 - 第 15 回 授業の総括：子ども家庭支援に関する現状と課題
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

上記の課題について、配付資料をもとに、講義を進めていく。

各回授業終了時に、授業で学んだことをまとめたワークシートを作成することで学習の定着を図る。各回のワークシートは次回授業で個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で取り上げる内容について、事前にテキストを熟読しておく他、新聞などで取り上げられる家族に関わる記事を読むなどして、現代社会と家族との関わりについて知識を日々深めておくことが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(15%)、ワークシート (20%)、形成テスト(65%) により総合判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『最新保育士養成講座第10巻子ども家庭支援—家庭支援と子育て支援』最新保育士養成講座総括編纂委員会編/社会福祉法人全国社会福祉協議会/2019/9784793513138/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で参考文献一覧を配付する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

外国語（英語）

EDP2201NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 前期

水曜1限

DP2：知識・理解力

90

喜多 容子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

2020年に小学校3・4年生で正式導入された外国語活動、さらに5・6年生で教科化となった初等英語を視野に、児童に英語を指導する際の指導法について、その理論を中心に習得することを目標とします。小学校英語を取り巻く具体的な現状を把握するとともに、母語習得と第2言語習得理論を踏まえて、児童を対象とした効果的な英語指導法についても考察します。具体的には、以下の項目を取り上げます。

- ・小学校英語を取り巻く具体的な現状を把握
- ・指導者と指導内容の理解
- ・発達段階に応じた活動，教材・教具の扱い
- ・評価の在り方と模擬授業
- ・アルファベット・単語などの認識，フォニックス指導

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

小学校英語を指導するために必要な知識・技能に関して、以下の諸点について習得することが求められます。

- ・小学校英語に関する基礎的な知識を養う。
- ・クラスルームイングリッシュとティーチャートークについて理解する。
- ・音声指導法の基本ルールを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
小学校英語に関する知識・理解力	テキストを読んでおらず、小学校英語に関して何も語れない。	テキストを読み、小学校英語に必要な理論を知っている。	テキストを読み、小学校英語に必要な理論を理解している。	テキストを読み、小学校英語に必要な理論を理解しており、これを他者に説明できる。
小学校英語を指導するに必要な言語力	求められる英語力を付けていない。	小学校英語を指導する基本的な英語力を身につけている。	小学校英語を指導する基準の英語力を身につけている。	求められた基準以上の英語力に加え、状況に応じて反応できる英語力を備えている。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

Lesson 1 学習指導要領を考える —小中連携を視野に入れて—

第 2 回 小学校英語を取り巻く状況 1

Lesson 2 英語教授法の変遷を概観—言語習得理論を踏まえて—

第 3 回 小学校英語の指導法

Lesson 3 小学校英語の指導法 —楽しく効果的に—

第 4 回 指導者と指導内容 1

Lesson 4 小学校英語の指導者 —効果的なチーム・ティーチング—

第 5 回 指導者と指導内容 2

Lesson 5 リスニングの指導法—英語リズムの体得—

第 6 回 指導者と指導内容 3

Lesson 6 スピーキングの指導法—「やり取り」「発表」—

第 7 回 指導者と指導内容 4

Lesson 7 リーディングの指導法 —文字への親しみ・文字の識別・絵本の指導—

第 8 回 指導者と指導内容 5

Lesson 8 ライティングの指導法 —大文字・小文字，語句や表現の取り扱い—

第 9 回 活動・教材・教具 1

Lesson 9 リズム・メロディを通じた活動 —歌・チャンツを用いて—

教材教具研究 1

第 10 回 活動・教材・教具 2

Lesson 10 知的好奇心を刺激する活動 —ゲーム・クイズを用いて—

教材教具研究 2

第 11 回 活動・教材・教具 3

Lesson 11 デジタル教材を活かした活動 —ICT・映像を用いて—

教材教具研究 3

第 12 回 評価と模擬授業

Lesson 12 評価を考える —CAN-DO リストの活用・カリキュラム—

指導案作成から授業実践へ

第 13 回 模擬授業（1）

絵本の読み聞かせ 模擬授業

第 14 回 模擬授業（2）

歌やチャンツを使った模擬授業

第 15 回 模擬授業（3）

アクティビティ実習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験（Final Exam）に代えて授業内で模擬授業および教材提出などを求める。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

児童に英語を指導することを前提に、そこで必要とされる英語力をつける。

第2言語習得論と母語習得論を指導実習を通して実践的に学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキスト、授業時に配布するプリントの予習、復習を毎時行い授業に参加すること。

模擬授業・発表活動時には、十分な準備をして臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 30%

発表・模擬授業 20%

中間 児童英語指導の基礎知識テスト 30%

期末 児童英語指導のための教材作成 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

発表活動の日程については授業の進行状況に併せて調整する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・『Let's have fun teaching English』/小原弥生ほか/南雲堂/2019年/784523178934/学内販売あり

・ Let's Try! 1&2 —新学習指導要領対応小学校外国語活動教材/東京書籍/978-4487258703

/978-4487258710/学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・『小・中学校で英語を教えるための必携テキスト』中村典生監修/矢野淳/林裕子/鈴木涉/巽撤著/2019/東京書籍/978-4-487-81248-6

〔参考URL(URL for Reference)〕

・新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm

・3年生教材 Let's Try 1

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/

2017/12/12/1396780_06.pdf

・4年生教材 Let's Try 2

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/

2017/12/12/1396780_09.pdf

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公立小学校・中学校における英語教員、小・中外国語教育コーディネーターの経験あり

外国語 (英語) 指導法

EDP2454N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

火曜4限

DP4: 思考・解決力

90

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

小学校で英語を教える際に、スピーキング・リスニングを中心とした指導から始まり、リーディング・ライティングへの親しみを取り入れた指導まで、実践を通して学ぶことを目標とします。教室英語も含め自身の英語力向上も図りながら、初等英語教育に関する基本的知識・技能習得することを目指します。さらに、ICTの効果的な活用方法についても考察します。具体的には、初等教育における英語教授法をもとに、以下の項目を毎回スパイラルに取り上げて行きます。

- ・小学校英語の4技能の指導法
- ・小学校英語の専門知識とそれらを英語で理解する読解力
- ・クラスルームイングリッシュとスモールトークに必要な英語力
- ・児童英語におけるICTの活用法

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

小学校英語教育で、主に取り扱う音声インプットの具体的な指導法を学ぶとともに、指導者に求められる英語力の向上を図ります。情報化社会に対応できるICT教材の効果的な活用法についても考察します。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
小学校英語に関する知識・理解力	小学校英語指導方について何も語れない。	小学校英語を指導するのに必要な基本的知識がある。	小学校英語を指導するのに必要な知識があり、理解している。	小学校英語を指導するのに必要な知識があり、他者に説明できる。
小学校英語指導に必要な言語力	小学校英語を指導するのに必要な英語力を身につけておらず、教室英語などが全く使えない。	小学校英語を指導する基本的な英語力を身につけており、教室英語などが使える。	小学校英語を指導する英語力を身につけており、教室英語などが自由に使える。	求められた基準以上の英語力に加え、状況に応じて反応できる英語力を備えている。

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

理論編での学習を振り返り、実践課題を持つ

-Small TalkとClassroom English-

- 第 2 回 言語習得論を踏まえての指導
目的意識・相手意識 一児童を対象とした様々な活動例一
- 第 3 回 効果的なチームティーチング
教室英語とTTの役割 一チームティーチングとティーチャートーク一
- 第 4 回 リスニングの指導
リスニング指導の理論と指導法
ICTの効果的な活用方法 1
- 第 5 回 リスニングの指導 (演習)
前時の学びをもとに実習
- 第 6 回 スピーキングの指導
スピーキング指導の理論と指導法
ICTの効果的な活用方法 2
- 第 7 回 スピーキングの指導 (演習)
前時の学びをもとに実習
- 第 8 回 リーディングの指導
リーディング指導の理論と指導法
ICTの効果的な活用方法 3
- 第 9 回 リーディングの指導 (演習)
前時の学びをもとに実習
- 第 10 回 ライティングの指導
ライティング指導の理論と指導法
ICTの効果的な活用方法 4
- 第 11 回 ライティングの指導 (演習)
前時の学びをもとに実習
- 第 12 回 指導案作成と模擬授業について
指導案作成と模擬授業の準備
- 第 13 回 模擬授業①
マイクロティーチング 1
- 第 14 回 模擬授業②
マイクロティーチング 2
- 第 15 回 模擬授業③
マイクロティーチング 3

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

オールイングリッシュでの指導を身に着けることを通して、小学校英語指導者としての英語運用力を向上させます。小学校英語の指導のための理論をもとに自らの英語学習の自己調整力を高め、目的に沿った指導案が作成できる力を身につけます。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキスト、授業時に配布するプリントの予習・復習を毎時行い授業に参加すること。

また、発表活動時においては十分な準備をして発表に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 30%

マイクロティーチング (模擬授業) 30%

英語指導のための効果的な教材作成 20%

英語指導理論の基礎知識テスト 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・『Let's have fun teaching English』/小原弥生ほか/南雲堂/2019年/9784523178934/学内販売あり

・Let's Try! 1 & 2—新学習指導要領対応小学校外国語活動教材/東京書籍/978-4487258703

/978-4487258710/学内販売あり

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

小学校外国語検定教科書

〔参考URL(URL for Reference)〕

・新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm

・3年生教材 Let's Try 1

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/12/12/1396780_06.pdf

・4年生教材

Let's Try 2 https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/12/12/1396780_09.pdf

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

公立小学校・中学校英語教員、小・中外国語教育コーディネーターの経験あり

学習デザイン論

EDP4400N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 前期

火曜 3限

DP4: 思考・解決力

90

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学習者が協働体験を通して学習し創造を生み出す場を作るために、いかにチームを作り、プログラムを作り、ファシリテーターを設定するのかを学ぶ。様々な手法の中から適切な方法を用い、より楽しくて全員参加の学習活動のデザインの方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・個別学習と協働学習の意義

・小学校における個別学習と協働学習の課題設定

・小学校における学習者のチーム作り

・小学校における個別学習と協働学習の学習活動のデザイン

- ・ 小学校のグループワークにおける合意形成
- ・ ワークショップ・デザインの効果の測定

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	学習をデザインするために、他の受講生とともに学び合うことが困難である。	学習をデザインするために、他の受講生とともに学び合うことはできている。	学習をデザインするために、他の受講生の意見を踏まえつつ、自分の意見も表明し、学び合うことができる。	学習をデザインするために、他の受講生の意見を踏まえ、自分の意見を変化させながら、学び合うことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 アクティブラーニングをデザインする意義
- 第 2 回 各教科における言語活動
- 第 3 回 各教科に共通に役立つ言語活動
- 第 4 回 アクティブラーニングにおける課題設定
- 第 5 回 アクティブラーニングにおけるチーム作り
- 第 6 回 ワールド・カフェの方法を中心としたワークショップ・デザインの構想
- 第 7 回 ワールド・カフェの方法を中心としたワークショップ・デザインの実践
- 第 8 回 ファシリテーション・グラフィックの方法を中心としたワークショップ・デザインの構想
- 第 9 回 ファシリテーション・グラフィックの方法を中心としたワークショップ・デザインの実践
- 第 10 回 ポスターセッションの方法を中心としたワークショップ・デザインの構想
- 第 11 回 ポスターセッションの方法を中心としたワークショップ・デザインの実践
- 第 12 回 様々な手法を用いたワークショップ・デザインの構想
- 第 13 回 様々な手法を用いたワークショップ・デザインの実践
- 第 14 回 ワークショップ・デザインの効果の測定
- 第 15 回 自己評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と演習を並行して行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めることもある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業参加と小レポート提出 (50%)

発表 (20%)

討論・レポート提出 (30%)。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは変更の可能性もある。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

ワークショップデザインー知をつむぐ対話の場づくり 堀公俊・加藤 彰 日本経済新聞出版社 2008
978-4532314033

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小学校教員として実務経験あり

教育と社会

EDB2550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

月曜 3限

DP5 : 共生・協働する力

60

選択必修

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校教育のさまざまな自明性を問い直し、学校教育の課題について考察する力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 教育事象を社会的に捉える。
- ・ 学校教育と社会のつながりを理解する。
- ・ 学校教育の現代的課題について学ぶ。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
共生・協働する力	学校教育のさまざまな自明性について省察することができない。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができる。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができる。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができる。

			について考 えることが できる。	とのつなが りを認識し ながら、学 校教育の課 題について 考えること ができる。
--	--	--	------------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校の社会学的考察
- 第 2 回 学校文化
- 第 3 回 知識基盤社会と学校
- 第 4 回 多文化社会と学校
- 第 5 回 子どもと情報化社会
- 第 6 回 子どもの貧困
- 第 7 回 いじめ
- 第 8 回 子どもと親子関係
- 第 9 回 日本の教育改革の動向
- 第 10 回 海外の教育改革の動向
- 第 11 回 学校と地域との連携
- 第 12 回 地域に開かれた学校づくり
- 第 13 回 子どもをめぐる事件と学校の取り組み
- 第 14 回 学校安全の課題
- 第 15 回 これからの社会と学校

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に行う。話を聴きながら、社会のあり方と学校教育のあり方とを結びつけて考えることに努めてほしい。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・新聞を読む習慣をつけること。教育に関する記事を切り抜くとなおよい。
- ・授業の中でよく考えてみてほしいと言った事がらについて、自分の問いとして引き受け、授業後に深く考えてみてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ミニレポートの内容 (50%) と定期試験に替わるレポート (50%) にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学校って何だろう』/荻谷剛彦/ちくま文庫/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育課程論

EDN2250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

木曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

幼小・小特必修

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教師が授業を行う際に必要となる教育課程の意義と編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教育課程の意義を理解する。
- ・教育課程の編成の方法を理解する。
- ・カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育課程の意義や編成の方法について理解できていない。	教育課程の意義や編成の方法について理解できている。	教育課程の意義や編成の方法について、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解できている。	教育課程の意義や編成の方法について、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解できているとともに、教育の今日的課題について深く思考することができている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業をつくる
- 第 2 回 教育課程とは何か
- 第 3 回 教育課程の編成
- 第 4 回 単元の構成
- 第 5 回 学習指導要領の変遷
- 第 6 回 現行の学習指導要領の特徴
- 第 7 回 教育課程の社会的機能
- 第 8 回 「主体的・対話的で深い学び」とは何か
- 第 9 回 児童の発達への支援と教育課程
- 第 10 回 教科横断的な教育課程
- 第 11 回 ロングスパンの教育課程
- 第 12 回 学校段階間の接続と教育課程
- 第 13 回 カリキュラム・マネジメントの意義
- 第 14 回 カリキュラム・マネジメントと学校運営

第 15 回 カリキュラムの評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に行う。自分の小学校時代の授業について丁寧に振り返ることが重要である。しかし、それとともに、当時とは違って、今日の学校教育において課題となっていることについて理解することが重要である。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

現在は教育課程のあり方が大きく変わろうとしている時期である。常日頃から新聞を読んで、教育課程改革の動向について把握するように努めること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ミニレポートの内容 (50%) と定期試験 (50%) にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『小学校学習指導要領』/文部科学省/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育原理

EDB1201N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 前期

火曜2限

DP2 : 知識・理解力

60

必修

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育の理念、教育に関する歴史や思想を理解するとともに、21世紀の変動する社会において教育に携わる者に必要となる物事の見方や課題意識を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・教育の基盤にある哲学や思想について学ぶ。
- ・学校教育の歴史について学ぶ。
- ・教育の現代的課題について学ぶ。
- ・自分自身の学校観、授業観、教師観を編み直す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育の原理や歴史について理解していない。	教育の原理や歴史について、おおよそ理解している。	教育の原理や歴史について、自分の経験を振り返り、それらに結びつけて理解している。	教育の原理や歴史について、自分の経験を振り返り、それらに結びつけて理解するとともに、現代の教育の課題について深く思考することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育とは何のために
- 第 2 回 子どもへのまなざしの変化と教育学のはじまり
- 第 3 回 子どもとはどんな存在か
- 第 4 回 教師とはどんな存在か
- 第 5 回 家庭生活の意味と課題
- 第 6 回 学校生活の意味と課題
- 第 7 回 社会教育の歴史
- 第 8 回 欧米の学校教育の歴史
- 第 9 回 日本の学校教育の歴史
- 第 10 回 家庭教育の思想
- 第 11 回 近代の学校教育の思想
- 第 12 回 現代の学校教育の思想
- 第 13 回 変動する社会と教育の課題
- 第 14 回 生涯学習と社会教育
- 第 15 回 教師の専門的成長

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に行う。話を聴くことに並行して、自分がこれまでを受けてきた教育とそこでの自分自身のあり方について丁寧に振り返り、それに結びつけることで内容を理解しようとしてほしい。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を中心とする。授業の中でよく考えてほしいと言った事がらについて、自分の問いとして引き受け、授業後に深く考えてみてほしい。できることならば、一緒に授業を受けた仲間と対話しながら考えてほしい。また、授業の中で参考文献を紹介するので、手に取って読んでみてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ミニレポートの内容(50%)と定期試験(50%)にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教育思想史』/今井康雄/有斐閣/2009/9784641123847

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育史

EDB3250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 後期

月曜 2限

DP2 : 知識・理解力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、教職課程「教育の基礎的理解に関する科目」として、教育を支える理念、教育の歴史および思想について学ぶことを目的としており、特に歴史的事項を重点的に扱う。「歴史は現代への問いである」という言葉が示すように、教育史を学ぶ第一の意義は歴史を通じて現代の教育をより深く認識することにある。本授業では、西洋と日本における教育の歴史の変遷およびその背景に関する基礎的知識を身につけ、歴史的な視座から教育の基本概念について理解できるようにする。また、古来より家族や社会において営まれてきた教育と学校教育との歴史的関係性について学ぶことを通じ、教育という営みに対する視野を広げることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 東西の教育史に関する基礎的な知識を獲得している。
- (2) 現代の教育の歴史的な位置づけについて理解している。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	教育の歴史を理解できていない。	教育の歴史は知識として修得できている。	教育の歴史と世界や日本の社会的情勢と関連付けて考えることができる。	教育の歴史をふまえ、これからの教育のあるべき姿について考えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育のはじまり (1) - 人類の誕生と教育 -
- 第 2 回 教育のはじまり (2) - 教育の起源 -

第 3 回 教育のはじまり (3) - 中世の教育 -

第 4 回 第4回 教育のはじまり (4) - 近代公教育の誕生 -

第 5 回 西洋教育史 (1) - コメニウスの教育思想 -

第 6 回 西洋教育史 (2) - ロックの教育思想 -

第 7 回 西洋教育史 (3) - ルソーの教育思想 -

第 8 回 西洋教育史 (4) - ペスタロッチ・フレーベルの教育思想 -

第 9 回 西洋教育史 (5) - デューイの教育思想 -

第 10 回 西洋教育史 (6) - 経験主義と教育実践の歴史 -

第 11 回 日本教育史 (1) - 近世の子どもと教育 -

第 12 回 日本教育史 (2) - 近代公教育の導入と日本の特徴 -

第 13 回 日本教育史 (3) - 近代の教員養成制度の導入と展開 -

第 14 回 日本教育史 (4) - 歴史から見る「ゆとり」と「つめこみ」 -

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は講義を中心とするが、教員と学生および学生同士の双方向的なコミュニケーションを通じた深い学びを追求する。適宜、質疑応答やディスカッションをおこなうので、積極的に参加すること。また、学生が調査した内容を発表する機会を何度か設ける予定である。プレゼンを作成することもある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本講義を理解するには、高校卒業レベルの公民 (現代社会・倫理・政治・経済) および歴史 (西洋史・日本史) に関する知識が必要となる。これらに関して自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での予習・復習を欠かさないこと。その他、必要な予習・復習の内容については授業中に指示する。しっかりと準備をおこない毎回の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) リフレクションカードの内容 : 45%
- (2) 発表資料 : 35% (調査した結果を発表するために作成した資料)
- (3) 授業態度 : 20% (「発表」や「質疑応答」「ディスカッション」の様子)

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは変更の可能性もある。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定せず、授業中に配布するプリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教職実践演習 (幼・小)

EDN4650NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 後期後半

木曜 5限 木曜 6限

DP6: 創造・発信力

60

別に定める

藤本 陽三 河佐 英俊 田中 裕喜 神月 紀輔 江川 正一 小川 博士 太田 容次 大西 慎也 高田 佳孝 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

将来教員になる上で必要な知識・技能等に関して、自己の課題を自覚するとともに、必要に応じて不足している点を補うなどし、その定着を図る。授業は、「教育・学習の個別課題」で示された4つの項目の領域を中心に、主として、各テーマに沿った講義を踏まえて、討論やロールプレイングなどの演習を行い、各人の教師の資質に関わる課題について、問題解決を図ることを目標とする。最終段階の授業では、各教科等における課題を各自が取り上げ、それを深化、研究し、その成果を模擬授業や授業研究を行うことにより、課題の共有化を図る。授業を通し、教師としての生きる意思を再確認し、自己の教職への使命を認識することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

これまでに学んだ教職および教科に関する知識と、教育実習体験を通して得られた実践的指導力との統合を図りながら、主に以下の4つの事項についての講義・演習を通して学び、教師としての資質の向上を図る。

- ①現代社会において教師に求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②教職に必要な社会性や対人関係能力に関する事項
- ③幼児・児童の心理発達および集団としての生徒理解に関する事項
- ④教科等の指導力に関する事項

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・理解力	教員に求められる資質・能力と習得すべき知識についての理解が不十分で、説明することができない。	教員に求められる資質・能力と習得すべき知識についてある程度理解し、説明することができる。	教員に求められる資質・能力と習得すべき知識について理解し、説明することができる。	教員に求められる資質・能力と習得すべき知識について理解し、自らの教育現場での経験をもとに説明することができる。
思考・解決力	これまでに学んだことを生かせず、教材研究及び学習指導計画の立案ができない。	これまでに学んだことをもとに、教材研究及び学習指導計画の立案ができる。	これまでに学んだことをもとに、教材研究及び学習指導計画の立案と模擬授業を通してその改善を図ることができる。	これまでに学んだことをもとに、教材研究及び学習指導計画の立案と模擬授業を通して、目標・指導・評価の一体化の視点から改善をはかることができる。
学びに向かう力	教員に求められる資質・能力についての自らの課題について説明することができない。	教員に求められる資質・能力についての自らの課題についてある程度説明することができる。	教員に求められる資質・能力についての自らの課題について説明することができる。	教員に求められる資質・能力についての自らの課題と改善策について説明することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション (授業のねらい・授業計画・履修履歴の確認等)

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 2 回 これまでの教職に関する学習の振り返りと教員に求められる資質・能力について

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 3 回 これまでの教職に関する学習の振り返りと自らの課題

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 4 回 教職の役割と教員の役割 (本学OG講話を通して) 幼稚園

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 5 回 地域と連携した取組についての講義 (京都市内小学校校長講話)

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 6 回 教員に求められるコミュニケーション能力 (ロールプレイング①)

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 7 回 教員に求められるコミュニケーション能力...生徒指導の視点から (ロールプレイング②)

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 8 回 教職の役割と教員の役割 (本学OG講話を通して) 小学校

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 9 回 教育現場の現状と課題...教員に求められる資質・能力について

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 10 回 授業研究とリフレクション...自らの課題について

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 11 回 授業研究とリフレクション...授業研究

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 12 回 授業研究とリフレクション...模擬授業 1 (幼・特支)

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 13 回 授業研究とリフレクション...模擬授業 2 (小・特支)

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 14 回 授業研究とリフレクション...考察・分析

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

第 15 回 総括 (教職に就いたときの自己の課題についての討議)

担当 藤本 陽三、神月 紀輔、大西 慎也、小川 博士、太田 容次、田中 裕喜、高田 佳孝、白瀬 浩司、河佐 英俊、江川 正一

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と演習 (グループ討議・ロールプレイング・模擬授業とリフレクション) を中心に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第1回・第2回: これまでの教職に関する学習を振り返り、成果と課題をまとめる。

第3回・第4回: 資料「教育の重点」の指定された箇所を熟読する。

第5回: 資料「学校・家庭・地域社会の連携」を熟読する。

第6回・第7回: 事前に提示された場面指導の課題について自らの考えをまとめる。

第8回・第9回: 資料「教育の重点」の指定された箇所を熟読する。

第10回: 自ら作成した指導案について、課題をまとめる。

第11回: 自ら作成した指導案について、改善策をまとめる。

第12回・第13回: 模擬授業の指導案について、課題と自分なりの改善策をまとめる。

第14回: 模擬授業について、考察と分析をまとめる。

第15回: これまでの教職に関する学習を振り返り、成果と教職についた時の自己の課題をまとめる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実技指導、グループ討議、ロールプレイング、総括レポートの結果などを踏まえ、教員としての資質能力が身に付いているかを総合的に判断するとともに授業参加度も加味して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは学習の進捗状況、講師の都合等に応じて変更することもあり得る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは特に指定しない。必要に応じて担当教員が資料等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》実務経験等：神月，藤本，大西，小川，太田，高田，白瀬，河佐，江川、教員として学校に勤務経験あり

国際理解教育

EDC4500N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 集中

その他

DP5：共生・協働する力

90

渡辺 智美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

国際理解教育の中で取りあげる人権・多文化・自文化などの内容を、子どもとの関わりから捉える。そして、国際社会の中で多様な価値観があり、それらを認識することを通して、国際理解教育への関心を高め、国際社会の中で共生・協働するための基礎的な素地を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・多文化社会における文化理解と共生
- ・グローバル社会におけるつながりと相互依存
- ・地球的課題における人権・環境・平和

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	国際理解教育とは何かについて知ろうとする	国際理解教育の背景や意義について理解しようとする	国際理解教育の理論をもとに、考えを深める	国際理解教育と現代社会の結びつきを理解する
知識・理解力	課題の内容を知る	基礎的な知識を身につける	基礎知識をもとに、さらに新しい事柄を理解しようとする	自ら積極的に探究し理解を深める
言語力	人の意見や考えを聞く	自分自身の考えや意見を発表する	意見を交流しあう	交流した内容をさらに議論で深める
思考・解決力	問いを知る	積極的に問いに向き合う	他の人の考えや意見も参考にしながら、多角的に考える	自ら問いや課題を考え、自ら解決していく

共生・協働する力	相手の意見や考えを知ろうとする	相手の意見や考えを理解しようとする	自分と異なる意見であっても、議論を重ねていくことができる	議論を重ねる中で、新しい方向性を見出せる
創造・発信力	課題に対して取り組む	課題に対して、わかりやすく述べる	自らの経験と照らし合ったり、根拠を示したりしながら述べる	適切な情報を用いながら、創意工夫のある発信を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 国際理解教育の意義 (オンライン)
 - オリエンテーション
 - 国際理解教育の歩みについて
- 第 2 回 異文化やそれをもつ人々との交流と受容 (オンライン)
 - 世界の中の多様な文化について
- 第 3 回 学びを深めるための様々な学習方法 (オンライン)
 - 参加型学習について
- 第 4 回 小学校などにおける国際理解教育の実践 (オンライン)
 - 学校現場での実践について
- 第 5 回 日本の伝統・文化 (オンライン)
 - 日本の伝統・文化について
- 第 6 回 国際人としての自己の確立 (オンライン)
 - 国際人とは
- 第 7 回 国際理解教育と学習モデル (対面授業)
 - 国際理解教育の学習モデルについて
- 第 8 回 帰国児童と多国籍の児童の教育 (オンライン)
 - 外国にルーツをもつ児童の教育について
- 第 9 回 多文化の中での共生の意義 (オンライン)
 - 多文化共生とは
- 第 10 回 イギリスの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育 (オンライン)
 - イギリスの取り組みについて
- 第 11 回 ドイツ、フランスの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育 (オンライン)
 - ドイツ、フランスの取り組みについて
- 第 12 回 アメリカ、中国の乳幼児教育・初等教育と国際理解教育 (オンライン)
 - アメリカ、中国の取り組みについて
- 第 13 回 ユネスコの国際理解教育 (オンライン)
 - ユネスコを中心とした国際理解教育について
- 第 14 回 国際理解教育における対話と場づくり (オンライン)
 - 教育現場における実践について
- 第 15 回 これからの国際理解教育、まとめ (オンライン)
 - 国際理解教育の可能性と展望について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義とワークショップ形式の演習を取り入れた授業を行う。課題に対しては、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストを読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業への参加意欲・態度 (50%)、課題 (50%) に基づいて、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

オンライン授業と対面授業で実施。

状況に応じて、授業予定が変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『国際理解教育ハンドブック ―グローバル・シティズンシップを育む―』/日本国際理解教育学会/ 明石書店 / 2015年 / 9784750342054 / 学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教諭として学校教育現場での勤務経験あり。

- ・学校現場など状況に合わせた啓発プログラムを開発する。
- ・開発したプログラムを実践する。
- ・プログラムの実施に対してその評価を行い改善をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	広い範囲から、子供のネット利用に関する情報を収集できず、理解できない。	現在の子供の情報環境やネットの使用状況を理解している。	子供にとっての望ましい情報機器の利用を理解している。	子供のネット利用に関する基礎知識を持ち、行政や教育がどのようにしようとしているか理解している。
実習に対する参加態度	実習に参加できない	子供の現状を踏まえ、実習に参加する	講座の趣旨を理解し、リーダーとして子供の前に立つ	講座の趣旨を理解し、子供を指導し、その評価をし、さらに啓発に努める
協働する力	他の大学生と協力できない。ディスカッションに参加しない。	積極的にディスカッションに参加する。	子供の指導に対して、意見の交換を行い、啓発に役立てる	問題点や改善点を積極的に提言し、次の啓発に生かそうとする

〔授業計画〕

- 第 1 回 6月24日
本講義を始めるにあたって (神月・東郷・堀出)
- 第 2 回 7月1日
教育社会学から見た子供のネット利用 (堀出)
- 第 3 回 7月8日
京都府消費生活安全センターにおける子ども啓発 (外部講師)
- 第 4 回 7月15日
子供のへの模擬指導と評価 (東郷・堀出・神月)
- 第 5 回 8・9月中 (日時未定)
小学校における子供への指導実習 (堀出・東郷・神月)
- 第 6 回 8・9月中 (日時未定)
児童館における子供への指導実習 (堀出・東郷・神月)
- 第 7 回 8・9月中 (日時未定)
こどもイベントでの指導実習 (堀出・東郷・神月)
- 第 8 回 9月30日
小学校児童館等における実習の評価、振り返り (堀出・東郷・神月)
- 第 9 回 10月7日
学校における情報モラル指導 (神月)
- 第 10 回 10月14日

子供のネット安全教育の理論と実践

CNS2601N1J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次 3年次 4年次

2単位 通年

木曜6限

DP6: 創造・発信力

60

自由科目

神月 紀輔 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子供たちのネット利用において、詐欺にあう、ネットいじめ、個人情報の流出など様々な問題が起きている。本科目では、京都府消費生活安全センターと協力し、特に消費者教育の観点から、子供自らが考えて安心してネットを利用できるよう、小学校等での啓発プログラムを開発し、実践することを目標としている。

なお現状から当面は、小学校4-6年生程度を対象としたプログラムの開発を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・現在起きているネットの安全使用に関する問題を知る。
- ・子供たちにとって危険な状況を知る。

京都府消費生活安全センターへの相談の現状（外部講師）

- 第 11 回 10月21日
他の自治体での取り組み（外部講師）
- 第 12 回 10月28日
保護者も含めた指導方法の開発（神月）
- 第 13 回 11月4日
専門家による評価（堀出・外部講師）
- 第 14 回 11月11日
今後の問題点討議（神月・東郷・堀出）
- 第 15 回 11月18日
まとめと自己評価（神月・東郷・堀出）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本講義はブレンド型で学習を進める。講義に関してはオンライン講義を行い、ディスカッションが必要な場合は対面で行う。

現状の把握や学習理論については、講師やゲストスピーカーから講義を聞き、そこで得た知見をもとに、演習により、子ども向け啓発プログラムを開発する。その際にはグループによるディスカッションなどコミュニケーションが必要である。

さらに実際に子どもの前に立ち、実践を行い、実践から得たデータなどをもとに、啓発プログラムの自己評価を行い、議論の中からフィードバックを行う。また改善点を見出し、さらにプログラムをよいものに仕上げ、再生可能なものにする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

新聞やインターネットなどで情報の収集をする。毎回の授業に対して復習を行い、次時への目標を立てる。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度(50%)、毎時間のコメント(20%)、指導実習内容(30%)により総合的に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

この科目はコンソーシアム科目であり、本学ではなくキャンパスプラザ京都で開講する。また履修登録もコンソーシアム京都からも行う必要があり、講義期間もキャンパスプラザ京都の日程に従うので注意すること。

実習を伴うこともあるので、就職活動中の学生は単位取得が難しくなることがあることを留意されたい。

講義のうち2回程度は、講義時間以外の8月から9月に、京都府内の小学校または児童館などに出かけて実習を行う。この際の交通費は自己負担となる。

授業後の、2、3月や次年度に自主的に啓発活動に取り組むことは可能である。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

指定しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

プリントやネットワークを通じて資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

e京都（いーこと）ラーニングシステム

<https://el.consortium.or.jp/login.php>

公益財団法人 大学コンソーシアム京都の単位互換履修生及び京(みやこ)カレッジ生の履修登録・学修支援システムです。大学コンソーシアム京都 単位互換制度

<http://www.consortium.or.jp/project/tg/details>

出願手続き等の説明はこちらから

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 外部講師は行政機関勤務経験あり

視覚障害者の心理・生理・病理

EDD3550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

1単位 後期集中

その他

DP5：共生・協働する力

30

全7.5コマ

田中 良広

〔科目の教育目標（Course Description）〕

視覚障害者の見えにくさ、見えないことによる心理特性、視覚器官の構造と視機能、視覚の障害の起因とその症状(見え方等)について講義と体験を通して理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

見えにくさ、見えないことによる問題や影響を理解するとともに、視覚障害の幼児児童生徒の学習を効果的に行うため、どのような点に留意する必要があるかについて取りまとめること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

第1回：ものが「見える」ということと視覚障害になるということ（視覚障害とその影響）

第2回：視覚障害幼児の発達と行動

第3回：弱視児の視知覚と盲児の触知覚

第4回：中途失明者の心理

第5回：視覚検査法（広D-K式視覚障害児発達診断検査・フロスティック視知覚発達検査）

第6回：視覚系の構造と視機能の理解

第7回：代表的な眼疾患の見え方と配慮点①：未熟児網膜症・網膜色素変性症・視神経萎縮 等

第8回：代表的な眼疾患の見え方と配慮点②：緑内障・白内障・中枢性視覚障害等

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

既習事項に関するレポート課題を課す。テーマ、書式、字数等については別途授業時間内に周知する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は講義形式で実施するが、小グループや個別に実技や演習を行う場合がある。授業の最後に「履修カルテ」に学習内容、感想、質問事項を記入し、振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

初回に配布する講義資料を事前に読み込み込んでおくとともに、既習事項について必ず復習を行い、内容に関する質問を考えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

資料の読み込みと復習：各30分程度

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加態度（20%）、履修カルテへの記入状況（10%）レポート課題の内容（70%）を総合的に判断する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

自作資料を配付する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

視覚障害者教育論

EDD3451N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

1単位 後期集中

その他

DP4：思考・解決力

30

全7.5コマ

田中 良広

〔科目の教育目標（Course Description）〕

視覚障害に関して、その教育方法、教育内容等について講義と体験を通して理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

視覚障害教育における教育課程と学習指導要領、発達段階に応じた指導上の留意事項、自立活動（歩行、点字、視覚補助具等）の指導、キャリア教育等に関する知識や技能等について理解を深めること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回：視覚障害児の教育の場と教育課程

第2回：幼稚部・小学部段階の指導と配慮点

第3回：中学部・高等部段階の指導と配慮点

第4回：自立活動①：点字の初期指導と歩行指導

第5回：自立活動②：視覚補助具の活用

第6回：自立活動③：ICT機器の活用

第7回：視覚障害者に対するキャリア教育

第8回：まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

既習事項に関するレポート課題を課す。テーマ、書式、字数等については別途授業時間内に周知する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は講義形式で実施するが、小グループや個別に実技や演習を行う場合がある。授業の最後に「履修カルテ」に学習内容、感想、質問事項を記入し、振り返りを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回到配布する講義資料を事前に読み込みんでおくとともに、既習事項について必ず復習を行い、内容に関する質問を考えておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

資料の読み込みと復習：各30分程度

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加態度 (20%)、履修カルテへの記入状況 (10%) レポート課題の内容 (70%) を総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

自作資料を配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会的養護

EDI2550N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

火曜 4限

DP5：共生・協働する力

60

芹澤 出

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保護者のない子どもや、保護者に監護させることが適当で無い場合、公的責任によりそうした子どもたちを養育するとともに、困難を抱える親への支援等を主たる業務とする子どもたちの生活の場が社会的養護である。本科目では、社会的養護の目的と機能を理解し、児童の正常な成長・発達を保証するために必要な知識、技術について学習する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

社会的養育と社会的養護について理解すると共に、代替養育における家庭養育優先と家庭的養育の重要性を学び、子どもの権利擁護と最善の利益の保障のための支援の在り方について理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもの福祉について課題意識が低い	子どもの福祉について理解する姿勢がある	子どもの福祉について理解することが出来る	子どもの福祉について理解し課題意識がある

知識・理解力	授業の内容について考察し理解を深める姿勢が無い	授業の内容について考察し理解を深めようとしている	授業の内容について理解し考察を深めている	授業の内容について理解し実践的な考察が出来る
言語力	子どもとのコミュニケーションを理解する姿勢が無い	子どもとのコミュニケーションの重要性を理解している	コミュニケーションスキルの基本が理解出来ている	コミュニケーションスキルの活用が出来る
思考・解決力	子どもの課題について考察が出来ない	子どもの課題について考察し背景や要因について考察することが出来る	子どもの課題について支援方法を考察することが出来る	子どもの自立支援計画について理解している
共生・協働する力	寄り添う型支援の必要性について理解していない	寄り添い型支援の必要性について理解している	寄り添い型支援とエンパワメントについて理解している	寄り添い型支援とエンパワメントについて理解し実践できる
創造・発信力	課題解決の手法を創造することが出来ない	課題解決の手法を自分なりに創造出来る	課題解決の手法を創造し発信することが出来る	創造し発信した手法についての振り返りが出来ている

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会の変革と社会的養育
授業概要の理解
- 第 2 回 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷
社会の変化と社会的養護の関係の理解
社会的養護の基本原則の理解
- 第 3 回 社会的養護の基本
子どもの権利と社会的養護の基本原則の理解
- 第 4 回 1.社会的養護の制度と法体系
児童福祉法と児童虐待防止法の理解
- 第 5 回 2.社会的養護の仕組みと実施体系
児童相談所や福祉事務所等の理解
- 第 6 回 3.社会的養護の対象 4.家庭養護と施設養護
児童虐待やDVが発生する背景と子どもへの影響の理解
家庭養護と施設養護（家庭的養護）の理解
- 第 7 回 4.①家庭養護と施設養護
里親制度の理解
- 第 8 回 4.②家庭養護と施設養護
乳児院の理解
- 第 9 回 4.③家庭養護と施設養護
母子生活支援施設の理解
- 第 10 回 4.④家庭養護と施設養護
児童養護施設の理解
- 第 11 回 4.⑤家庭養護と施設養護

- 第 12 回 児童心理治療施設の理解
4.⑥家庭養護と施設養護
児童自立支援施設の理解
- 第 13 回 4.⑦家庭養護と施設養護
自立援助ホームの理解
- 第 14 回 社会的養護の子どもの理解
アセスメントと自立支援計画についての理解
- 第 15 回 学習理解の確認
テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

授業最終日に理解度を確認するためのテストを実施します
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は教科書を中心に進めますが、事例やビデオを取り入れて知識を深めるとともに、実感としての理解を大切にします。

学習理解の確認では問題を解いてもらい、解答と解説を実施します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

児童福祉施設でのボランティアやアルバイト、施設見学などを通して、児童福祉施設についての理解を深める。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績評価は、発表内容(10%)、小レポート(10%)、テスト(80%)により判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業において発言や意見を求めることがあります。グループディスカッションを行い、考えを整理して発表してもらいます。積極的に授業に参加する姿勢で受講して下さい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『最新 保育士養成講座 第5巻 社会的養護と障害児保育』/最新 保育士養成講座 総括編纂委員会//社会福祉法人全国社会福祉協議会//学内販売予定

授業開始までに購入しておいて下さい。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

児童の権利に関する条約

児童福祉法

児童虐待の防止等に関する法律

〔参考URL(URL for Reference)〕

社会的養護の課題と将来像 https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakaiteki_yougo/dl/08.pdf

新しい社会的養育ビジョン <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000173888.pdf>

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》社会的養護施設 (母子生活支援施設) において30年以上勤務 (現施設長)

社会的養護内容

EDI2551N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科
2年次

1単位 後期

火曜2限

DP5 : 共生・協働する力

60

徳岡 博巳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解する。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に理解する。
4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術を習得する。
5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

児童福祉施設の現状 子どもの生活と支援 虐待の理解及びその対応 ソーシャルワーク 自己決定支援 権利擁護

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (グループ作り、事例検討の予備知識)
- 第 2 回 事例1-1: 社会的養護とは何かを学ぶ
- 第 3 回 事例1-2: 日常生活支援を考える 1 (子どもの行動の意味の理解)
- 第 4 回 事例2-1: 社会的養護の歴史を学ぶ
- 第 5 回 事例2-2: 日常生活支援を考える 2 (ためし行為への対応)
- 第 6 回 事例3-1: 社会的養護の基本原則を学ぶ
- 第 7 回 事例3-2: 治療的支援を考える 1 (子ども同士の関係)

- 第 8 回 事例4-1：虐待とは何かを学ぶ
 第 9 回 事例4-2：治療的支援を考える2（怒ると叱るの理解）
 第 10 回 事例5-1：保育士の専門性にかかわる知識・技術を学ぶ
 第 11 回 事例5-2：自立支援を考える（多問題を抱える児童への援助）
 第 12 回 事例6-1：ソーシャルワークにかかわる知識・技術を学ぶ（家族支援1）
 第 13 回 事例6-2：ソーシャルワークにかかわる知識・技術の応用（家族支援2）
 第 14 回 事例6-3：ソーシャルワークにかかわる知識・技術の応用（ネットワークの理解）
 第 15 回 授業のふり取りとまとめ
 [定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート]

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

児童養護施設における実習生と子どもの場面事例を通して、施設養護や他の社会的養護についての理解を深める。また、具体的な養護の実践に接し援助の方法や技術を学ぶ。実際の事例をグループで検討することで、個々の児童に応じた日常生活支援、治療的支援、自立支援等の内容を学ぶ。各事例毎に「レポートの書き方」に沿って、レポートを提出し、提出後の授業で評価及び振り返りを行なう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

グループでディスカッションしながら、子どもへの関わりを検討するため、授業内容について予習しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度(40%)及びレポート（60%）により総合判断する。

〔留意事項（Other Information）〕

グループワークを中心に授業を行いますので、遅刻は厳禁です。欠席する場合は事前に連絡すること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

授業で使う資料等はこちらで用意します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

初等教材開発論

EDP4200N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 前期

木曜3限

DP2：知識・理解力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標（Course Description）〕

教育における教材の意味、教材開発のありかたを、戦後新教育のコア・カリキュラムにおける子どもの生活に根差した教材開発例を参考に、理解する。さらに、小学校教育においては、地域素材が重要であり、地域素材を活かした教材開発をフィールドワークに基づき行う。その上で、地域素材を活かした、子どもの生活に根差した教材開発の重要性を理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・教材開発の先行実践例から、教材の意味、教材開発のありかたを理解する。
- ・小学校教育において、地域素材を活かした教材の重要性を理解する。
- ・現行学習指導要領、学習内容、カリキュラムに沿った地域素材を活かした教材開発ができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	小学校において実践する授業の教材研究を行うことができない。	小学校において実践する授業の教材研究を行うことができる。	小学校において実践する授業の教材研究を地域の実態に応じて行うことができる。	小学校において実践する授業の教材研究を地域の実態に応じ、各教科の目標を意識して行うことができる。
共生・協働する力	自分もっている知識だけで教材研究を行うとする。	自分だけでなく他の受講者と協力して教材研究を行うことができる。	他の受講者と協力することはもちろん、地域の人々や情報を活かして教材研究を行うことができる。	他の受講者と協力し、地域の人々や情報を活かすだけでなく、専門家と連携して教材研究を行うことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育において教材とは何か
 第 2 回 教材開発の理論
 第 3 回 戦後新教育、コア・カリキュラムにおける実践例

- 第 4 回 戦後新教育、コア・カリキュラムにおける教材開発
- 第 5 回 現行学習指導要領と学習内容
- 第 6 回 教材開発のありかた
- 第 7 回 地域素材をどのように活かすか
- 第 8 回 地域素材を活かすためのフィールドワークの在り方
- 第 9 回 地域素材を活かすためのフィールドワークの実際
- 第 10 回 地域素材を活かすためのフィールドワークによる教材開発
- 第 11 回 地域素材を活かし開発した教材についての交流
- 第 12 回 地域素材を活かした教材開発「生活科、社会科、総合的な学習の時間」
- 第 13 回 地域素材を活かした教材開発「その他の教科」
- 第 14 回 地域素材を活かした教材開発「道徳、特別活動」
- 第 15 回 教材開発についての総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と教材開発などの演習を並行して行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教材研究の充実のため、文献調査や実地調査を求めるところもある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・ノートの記述 (毎時間のまとめ) が30%

・実際に行う教材開発が40%

・最終試験が30%

〔留意事項 (Other Information)〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

講義の際に資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特に指定しない。

講義の際に資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小学校教員としての勤務経験あり

書写

EDP2250N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

1単位 後期

金曜2限

DP2: 知識・理解力

15

丸山 果織

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育職員免許状取得 (小学校国語) で必要とされる「書写」の知識と技能の基本を理解し、高い実技能力をもって指導することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 国語科における書写に関する知識と理解を深める。
2. 場面に応じた用具の使い方、書き方を理解し、高い実技能力を身につける。
3. 評価する能力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	毎時の授業の目的が理解できない。	毎時の授業の目的が理解できる。	毎時の授業の目的が理解でき、課題に対する自己評価ができる。	毎時の課題に対する自己評価を生かした学習ができる。
知識・理解力	毎時の課題が理解できない。	毎時の課題が理解できる。	毎時の課題が理解でき、授業の目的との関連も理解できる。	毎時の課題と目的との関連を理解し、授業全体の大きな目的との関連も理解することができる。
言語力				
思考・解決力	毎時の目標をたてない。	毎時の目標を立てられる。	毎時の目標を達成できるための方法を考える。	毎時の目標を達成できるための方法を考え、達成することができる。
共生・協働する力	人の意見を聞かない。	人の意見を聞くことができる。	人の意見を聞きことができ、また、人へも意見を伝えることができる。	積極的な意見交換ができ、問題を解決することができる。

創造・発信力	作品制作について理解できない。	作品制作について理解できる。	目標を立て作品制作に取り組むことができる。	目標を立てた作品制作ができ、その作品についての考えを述べることができる。
--------	-----------------	----------------	-----------------------	--------------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義：教育職員免許状取得（小学校国語）で必要とされる「書写」について
- 第 2 回 講義：実際に教育現場で使われている教科書をもとにした「書写」の実技内容
- 第 3 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」鉛筆書き 平仮名・片仮名を中心に
- 第 4 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」鉛筆書き 漢字
- 第 5 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」毛筆 道具の説明及び基本点画
- 第 6 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」毛筆 基本点画
- 第 7 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」毛筆 平仮名・片仮名を中心に
- 第 8 回 書写実技：小学校低学年「しよしゃ」毛筆 教科書例をもとに
- 第 9 回 書写実技：小学校高学年「書写」硬筆 平仮名・片仮名を中心に
- 第 10 回 書写実技：小学校高学年「書写」硬筆 漢字
- 第 11 回 書写実技：小学校高学年「書写」毛筆 漢字仮名交じり文
- 第 12 回 書写実技：小学校高学年「書写」毛筆 教科書例をもとに
- 第 13 回 書写実技：小学校高学年「書写」毛筆 清書
- 第 14 回 書写実技：板書 基本事例
- 第 15 回 書写実技：板書 教科書文をもとに発展的事例

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は講義と実技形式で行う。
2. 授業中に補助プリント配布と視聴覚教材の活用、書写指導力の理解を深めるために模擬授業（板書を中心に）を実施する。
3. 課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法
 - ①筆記テスト...解答の配布
 - ②実技テスト...評価項目を示す

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。まざまな課題に、しっかり取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業内の積極性 (30%)、提出課題・作品 (50%)、小テスト・レポート等 (20%) により総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

実技を中心とする授業で、毎時の提出物が大きな成績となるため、欠席はしないよう注意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

「しよしゃ 1年」光村図書 9784813800569

「書写 3年」光村図書 9784813800583

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小学校表現活動論

EDP4600NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 前期

水曜 2限

DP6：創造・発信力

90

藤本 陽三 古庵 晶子 高田 佳孝

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもの様々な表現活動における援助・教師の役割を実践的に学ぶ。造形活動・音楽活動・身体表現などの企画・立案を行い、劇遊びやプロジェクト活動等を用い、総合的に表現する活動の方法を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

教育に関する今日的課題を踏まえ、支援の必要な児童も含めて、協同して表現することに重点をおき、児童の主體的な表現活動を支えるための方法について学ぶ。プロジェクト活動を念頭に置き、児童が自ら探究する力、活動のために必要な課題を解決する力を高めるための方法を学習する。授業は、グループディスカッションを適宜取り入れ、グループワーク中心に行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	子どもの様々な表現活動における援助・教師の役割に対し、理解ができていない。	子どもの様々な表現活動における援助・教師の役割に対し、理解しようとする。	グループ内で、よりよい、援助と役割についてディスカッションする。	レベル3を踏まえ、具体的な援助方法について、体験的に学び、教師の役割をまとめる。
知識・理解力	造形・音楽・身体表現を総合的	造形・音楽・身体表現を総合的	造形・音楽・身体表現を総合的	グループワークの中で、総合的

	に行う活動の方法について理解していない。	に行う活動の方法について理解しようとする。	に行う活動の方法について具体案をまとめる。	な表現活動の方法をまとめ、企画できる力を身に着ける。
言語力	表現活動の中で、児童の興味関心を引き出す具体的な方法を発表することに消極的である。	児童の興味関心を引き出す具体的な方法に対し、自分なりの意見を発表できる。	具体的な方法をまとめ、活動内で展開し、それを発表する力を身に着ける。	グループワークの中で、具体的な方法をまとめ、それを基に実践を発表する力を身に着ける。
思考・解決力	児童が自ら探究する力、活動のために必要な課題を解決する力を高めるための活動方法を考えることができない。	児童が自ら探究する力、活動のために必要な課題を解決する力を高めるための活動方法を考えようとする。	具体的な方法をグループでまとめ、よりよい方法についてディスカッションする。	活動方法を発表し、他グループと意見交換し合い、よりよい方法について、ディスカッションを重ねる。
共生・協働する力	他者との話し合いを通して、表現活動の企画を練り上げることに消極的である。	他者との話し合いを経て、それぞれの意見を活動に取り入れようとする。	企画、立案の際、グループダイナミクスを理解し、よりよい企画になるよう、グループメンバーと積極的にかかわる。	他グループの良いところを取り入れて、更に活動の質を高める。
創造・発信力	オリジナルの活動方法を考える気持ちが高まっていない。	オリジナルの活動方法を考えようとする。	児童主体の活動になるための方法について、他グループと意見交換を行う。	児童主体になるように、活動の方法を練り、他グループの前で発表し、活動の質を高める。

〔授業計画〕

- 第 1 回 表現活動における教師の役割
(担当：全員)
- 第 2 回 プロジェクト活動 1
協同するための環境 (担当：高田)
- 第 3 回 プロジェクト活動 2
協同するための人間関係 (担当：藤本)
- 第 4 回 音楽を中心とした活動の企画・立案
(担当：古庵)
- 第 5 回 音楽活動の実践 教師の役割と留意点

- (担当：古庵)
- 第 6 回 造形を中心とした活動の企画・立案
(担当：藤本)
- 第 7 回 造形活動の実践 教師の役割と留意点
(担当：藤本)
- 第 8 回 身体表現を中心とした活動の企画・立案
(担当：高田)
- 第 9 回 身体表現活動の実践 教師の役割
(担当：高田)
- 第 10 回 表現活動を組み合わせる 1
音楽活動を中心に (担当：古庵)
- 第 11 回 表現活動を組み合わせる 2
造形活動を中心に (担当：藤本)
- 第 12 回 表現活動を組み合わせる 3
身体表現活動を中心に (担当：高田)
- 第 13 回 総合的な表現活動 1
劇遊びの企画・立案 (担当：古庵)
- 第 14 回 総合的な表現活動 2
実践と留意点 (担当：古庵)
- 第 15 回 まとめとふりかえり 確認テスト
(担当：全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループ活動で、児童の表現活動を企画、実践する課題に取り組み、そのために必要な技術 (道具製作、音楽作り等) も習得する。授業内の表現活動発表 (確認テスト含む) 後には、グループディスカッションによる振り返りと、担当教員による、学生の表現活動に対しての講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。小テスト・プリントについては模範例を示し、全体でふりかえりを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

劇遊びやプロジェクト活動の中で、児童の主体的な表現活動を支えるための学習方法等について、日常生活の中で意識し、経験値を上げること。〔準備学習に必要な標準時間数(合計)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度30% 小テスト・プリント40% 確認テスト30%

〔留意事項 (Other Information)〕

動きやすい服装で参加してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

障害児保育

EDI3550NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 後期

火曜1限

DP5：共生・協働する力

60

島山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

障害児保育の理念や多様な障害について理解するとともに、障害を持つ子どものニーズに基づいた保育の方法等について学ぶ。また、家族への支援や関係機関、地域との連携のありかたについても学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 障害児保育の理念の理解
2. 保育の現状や専門機関との連携の理解
3. 個別の障害理解と保育支援の理解
4. 家庭に対する支援の理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
障害児保育の理念の理解	障害児保育の理念について理解できていない。	障害児保育の理念の理解が、一部出来ている。	障害児保育の理念の理解が、十分にできている。	レベル3に加え、理念の歴史的背景についても理解できている。
障害と支援の理解	障害と支援の理解ができていない。	障害と支援の理解が、一部できている。	障害と支援の理解が、十分にできている。	レベル3に加え、障害特性に見合った支援について理解が深められている。
家族に対する支援の理解	障害のある子どもがいる家族に対する支援について理解できていない。	障害のある子どもがいる家族に対する支援の理解が、一部できている。	障害のある子どもがいる家族に対する支援の理解が、十分にできている。	レベル3に加え、支援方法についても理解が深められている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 障害児保育とは？－障害児保育の理念－
- 第 2 回 障害児保育の歴史
- 第 3 回 障害児保育の現状
- 第 4 回 障害の理解と保育：知的障害
- 第 5 回 障害の理解と保育：自閉症
- 第 6 回 障害の理解と保育：ADHD・LD
- 第 7 回 障害の理解と保育：視覚障害
- 第 8 回 障害の理解と保育：聴覚障害

第 9 回 障害の理解と保育：肢体不自由

第 10 回 障害の理解と保育：言語障害

第 11 回 障害児の家族への支援：保護者支援

第 12 回 障害児の家族への支援：きょうだい支援

第 13 回 個別の支援計画

第 14 回 専門機関や地域との連携

第 15 回 形成テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義と演習の両方を用いる。
2. 適宜、プリント等を配布する。
3. 必要に応じて視聴覚教材の利用を行う。
4. 形成テスト後に解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は形成テスト (50%)、提出物 (50%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. スマートフォンは、鞆の中にしまうこと。
2. 机上には、テキスト、筆記用具以外は置かないこと。
3. 飲み物は、水、又は、お茶のみ許可する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新・障害のある子どもの保育 [第3版]』/伊藤健次 編/みらい/2011/978-4860153854/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

相談援助演習

EDI2500NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

1単位 前期

木曜2限

DP5：共生・協働する力

15

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習は、様々な生活上の困難を抱えている人々に寄り添い理解を深め、支援することができる力を身につけることを目標としている。すなわち、人々の感情、思考、行動、その背景を共感的に理解し、ニーズ充足に向けてどのよう

な支援が必要とされているのか自ら考え、実践できることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

社会福祉対人援助の意味を明確にしつつ、その対人援助実践能力を身につける。そのために対人援助職としての専門的な〈ものの見え方と考え方〉、〈援助者の態度〉、〈コミュニケーションスキル〉、〈援助プロセスの実際〉、〈事例研究〉を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	理論や専門用語を調べることができない。	理論や専門用語を調べることができる。	理論や専門用語を調べ、内容を理解している。	理論や専門用語の内容を理解し、どのような場面で活用できるのか説明することができる。
思考・解決力	ニーズを把握することができない。	ニーズを把握することができる。	ニーズを把握し、解決策を考えることができる。	ニーズを把握し、具体的な解決策を説明することができる。
表現力・考察力	ニーズの背景を考慮することができない。	ニーズの背景を考慮することができる。	ニーズの背景を考慮、ニーズ充足に必要な支援を考慮することができる。	ニーズの背景を考慮、ニーズ充足に必要な支援を具体的に説明することができる。
コミュニケーション力	自ら意見を発言することはできない。	自ら意見を発言することができるが、他者の意見を聴くことはしない。	自ら意見を発言するとともに他者の意見にも耳を傾けることができる。	自ら意見を発言するとともに他者の意見も傾聴し、意見の共通点や相違点を説明することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 自己理解と自己覚知
- 第 2 回 自己開示と他者理解
- 第 3 回 専門職の価値・倫理
- 第 4 回 事例研究 インテークの実際
- 第 5 回 事例研究 アセスメントの実際
- 第 6 回 事例研究 プランニングの実際
- 第 7 回 事例研究 支援の実際、モニタリングの実際
- 第 8 回 事例研究 効果測定、評価、アフターケアの実際
- 第 9 回 相談援助におけるコミュニケーション
- 第 10 回 相談援助における面接技術

第 11 回 記録の作成

第 12 回 関係機関との協働、多職種との連携

第 13 回 アウトリーチの実際

第 14 回 地域におけるネットワーキング

第 15 回 社会資源の活用・調整・開発

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1.各回ワークシートを配付し、小グループで課題に取り組む。
- 2.個人ワーク、ペアワーク、グループワークを中心とした参加型授業である。
- 3.自ら考えたことを発言し、また他者の意見に耳を傾け、意見の共通点や相違点を学ぶ。
- 4.ワークシートは、次回授業で個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ワークシート (予習、復習の課題) に取り組み、提出する。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加の態度 (30%)、レポート (50%)、ワークシート (20%) によって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと。
 - ・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること。
 - ・授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で資料を配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- 『相談援助 基本保育シリーズ⑤』/松原康雄・村田典子・南野奈津子/中央法規/2015/978-4-8058-5205-7
- 『保育・社会福祉学生のための相談援助演習入門』/中嶋洋・園川緑/萌文書林/2015/978-4-89347-228-1
- 『保育者だからできるソーシャルワーク 子どもと家族に寄り添うための22のアプローチ』/川村隆彦・倉内恵里子/中央法規/2017/978-4-8058-5480-8
- 『子ども家庭福祉のフロンティア』/伊藤良高・永野典詞・三好明夫他/晃洋書房/2020/978-4-7710-3359-7

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600A0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6 : 創造・発信力
 田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができてい	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができてい	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができてい

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600B0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6 : 創造・発信力
 萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができてい	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができてい	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができてい

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600C0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができている。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600D0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができている。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各ゼミで個別に指導を行う。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

―
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕
卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600E0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
4単位 集中
その他
DP6 : 創造・発信力
畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができている。

〔授業計画〕
それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
各ゼミで個別に指導を行う。
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
各ゼミで個別に指導を行う。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

―
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕
卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference) 〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600G0J
大学
現代人間学部 > こども教育学科
4年次
4単位 集中
その他
DP6 : 創造・発信力
古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができる。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができる。

		できてい る。		くことが できている。
--	--	------------	--	----------------

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600H0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができてい	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができてい	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができてい

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600I0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6 : 創造・発信力

小川 博士

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができている。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600J0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

4単位 集中

その他

DP6: 創造・発信力

太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができている。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

行わない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各ゼミで個別に指導を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
 〔参考URL(URL for Reference)〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

卒業論文

EDS4600K0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 4年次
 4単位 集中
 その他
 DP6 : 創造・発信力
 高田 佳孝

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
 こども教育学科における4年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。
 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
 各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。
 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができる。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができる。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができる。

〔授業計画〕
 それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第1回目に担当者が提示する。
 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
 行わない。
 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
 各ゼミで個別に指導を行う。
 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
 各ゼミで個別に指導を行う。
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
 ー

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
 論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕
 卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。
 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
 〔参考URL(URL for Reference)〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別支援教育実習

EDD4601N0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 4年次
 2単位 前期集中
 その他
 DP6 : 創造・発信力
 90
 太田 容次 江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕
 この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身につけた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。
 これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕
 大学で学んだ教育・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子供の問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を、自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

〔授業計画〕

教育実習に協力いただける特別支援学校において、教育実習を2週間行う。

教育実習の方法は、各特別支援学校と打ち合わせること。必要な情報は、特別支援教育実習事前指導で指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および児童・生徒の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。

実習ノートは返却をし、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 特別支援教育実習と特別支援教育実習事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。

2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/978-4304042294/学内販売あり

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園部・小学部・中学部) / 文部科学省 / 開隆堂出版 / 2018/978-4304042317

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学

部)/文部科学省/開隆堂出版/2018/978-4304042300

テキストとともに購入することが望ましい。

〔参考URL(URL for Reference)〕

特別支援学校学習指導要領等 (平成29年4月公示・平成31年2月公示)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：太田，江川 教員として特別支援学校の勤務経験あり

特別支援教育実習事前事後指導

EDD4600N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

1単位 前期集中

その他

DP6：創造・発信力

45

集中

太田 容次 江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育実習を有効かつ円滑に行い、実りあるものにするため、事前指導においては、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄や、心構えを確実に身につけることをめざす。さらに事後指導においては、実習を通して学んだ成果や反省をもとに、今後の自己の学習の方向づけを援助することをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

教育実習の意義をよく理解すること。教育に関する知識や技能を教育の場で再構成できるよう準備すること。実習体験を、今後の自己の教育に活かすよう心掛けること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教員としての自覚が持てない。	教員になる心構えを持つ。	これまでの学習を生かし、教員としての最初の一步を踏み出そうとする。	さまざまな学習を前向きにとらえ、自分のものにする。
知識・理解力	学校教育に対する知識を持っていない。	学習指導要領の内容を理解する。	学校現場の実情や、現状を理解し、個人情報や学校情報の扱いも理解している。	自ら、ボランティアや学校園見学で知識を増やそうとする。

言語力	実習ノート をまとめる ことができ ない。	教育用語を 理解し、デ ィスカッシ ョンできる 言語力を持 つ。	その日にあ ったことを 図示などし ながらレポ ートとして わかりやす くまとめる ことができる。	多様な教育 的ニーズの ある子供と 様々な方法 で積極的に コミュニケ ーションを 取ろうとす る。
思考・解決 力	常に指示を 待ち、自ら 思考できな い。	順序だて て、整理し て物事を考 えることが できる。	これまでの 学習を生か し、臨機応 変にその場 の問題を解 決しようと する。	1つ1つの出 来事を内省 し、次のス テップに行 くために、 何をすべき か設計でき る。
共生・協働 する力	人の学びに 興味がな く、一緒に 問題を解決 しようとし ない。	他の学生や 先輩後輩と も共に学ぶ ために円滑 な人間関係 を構築でき る。	教員からの 助言を適切 に受けるこ とができ、 他の学生と チームで問 題解決にあ たることが できる。	地域の方々 や、教員以 外の人のリ ソースも活 用した教育 を考慮でき ることができ 、また自らも 地域社会に 貢献しようと する。
創造・発信 力	自分で授業 の組み立て ができない。	児童生徒の 実態を理解 し、授業を 創造でき る。	教育課程や 指導計画を ふまえ、児 童生徒の課 題にあわせ た指導案を 作成し、授 業の概要を 示すことが できる。	研究協議な どで、教育 実習の成果 を個人情報 に配慮しな がら発信で きる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
教育実習オリエンテーション・教育実習の意義、
内容、目的、実習手続、評価の観点（担当：太
田，江川，特別講師）
- 第 2 回 実習生として大事なこと
教育実習の具体的な内容と心構え、教育実習担当
教員との打ち合わせ（担当：江川）
- 第 3 回 特別支援学校の授業①
個別の指導計画、評価（担当：太田）
- 第 4 回 特別支援学校の授業②
チームティーチング、校外指導（担当：江川）
- 第 5 回 特別支援学校の授業③
児童・生徒の観察等による実態把握と記録（担
当：太田）
- 第 6 回 実習校についての把握

- 実習校の特色、教育方針、教育課程、児童生徒な
ど（担当：江川）
 - 第 7 回 模擬授業指導案作成
実習先の特別支援学校（知的・肢体・病弱）の授
業を想定した指導案作成（担当：太田，江川）
 - 第 8 回 模擬授業指導案の検討
実習先の特別支援学校（知的・肢体・病弱）の授
業を想定した指導案作成と検討（担当：太田，江
川）
 - 第 9 回 教材・教具の作成演習
実習先の特別支援学校（知的・肢体・病弱）の授
業を想定した教材・教具の作成演習（担当：太
田，江川）
 - 第 10 回 模擬授業 1
特別支援学校（知的・肢体・病弱）でのチームテ
ィーチングによる指導を想定したマイクロティー
チングと相互評価（担当：太田，江川）
 - 第 11 回 模擬授業 2
特別支援学校（知的・肢体・病弱）でのチームテ
ィーチングによる指導を想定したマイクロティー
チングと相互評価（担当：太田，江川）
 - 第 12 回 特別支援学校での目標設定や実習ノートの活用
特別支援学校での教育実習における目標設定や、
児童生徒の観察記録などを含む実習ノートの活用
について（担当：太田）
 - 第 13 回 教育実習前の最終確認
最終確認及び心構え等（担当：江川，太田）
 - 第 14 回 実習後のリフレクション
教育実習事後指導：実習後のリフレクション、実
習で学んだことをグループで話し合う（担当：太
田，江川）
 - 第 15 回 教育実習報告会
教育実習事後指導：特別支援教育実習の成果と問
題点の整理、発表、討論（下級生の参観による教
育実習報告会）（担当：太田，江川）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 特別支援教育実習事前事後指導 事前指導にあつて
は、教育実習に当たって必要な事柄を理解し、教育実習の
心構え等を学ぶ。事後指導においては、教育実習の報告反
省会、レポート提出等を行い、教育実習のフィードバック
を行う。
2. 文献、参考資料等はその都度配布する。
3. レポート・課題は、できるだけ黒ボールペン・ペンを
使用し、修正には修正テープ等は使用しないこと。課題等
は全て担当教員が添削の上、返却するので、教育実習に生
かすこと。また、内容の不備や文字の修正等は再提出を求
めることがある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

特別支援学校教諭免許状の基礎となる免許状である小学
校の各教科の指導法や障害に関する教育論等で学んだ内容
を復習しておくこと。

事前に配布された資料には目を通しておき、わからない言葉などは辞書やこれまでの使用したテキストなどを用いて、明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート、日常の意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので、注意すること。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 特別支援教育実習、特別支援教育実習事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。

2. このような理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

※日程は、原則として、教育実習開始前までに13回目まで終了する。事後指導は11月に行い実習報告会がある。3月の教職課程オリエンテーションで日程は確認すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》実務経験等：太田、江川 教員として特別支援学校に勤務経験あり

保育・教職実践演習

EDI4650N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

4年次

2単位 後期後半

木曜 5限 木曜 6限

DP6：創造・発信力

90

畠山 寛 石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育実習・教育実習を通しての学びを踏まえ、保育士・幼稚園教諭としての資質能力を高めることをテーマに、現場で求められる、社会性、対人関係能力、保育内容の指導力

など、保育に関わる能力の向上と同時に、以下の4つの事項を中心に、保育に関する現代的課題に対し、積極的に取り組む姿勢の育成、教師としての資質の向上を目標とする。

①使命感や責任感、教育的愛情などに関する事項

②社会性や対人関係能力に関する事項

③子ども理解や学級経営に関する事項

④教科・保育内容などの指導力に関する事項

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

子どもの保育に関わる立場の人材として、保育に関する現代的課題について考察し、テーマを定めてグループ研究に取り組み、検討を行う。また、課題についての援助・教育の方法、技術等について、実践的に学ぶことにより、自らの学びを振り返り、保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技術を習得したことを確認する。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	保育に関する現代的課題について理解していない。	保育に関する現代的課題について理解しようとする。	保育に関する現代的課題について考察し、テーマに沿って積極的に意見交換する。	レベル3を含み、グループ討議の結果を基に、現代的課題について、グループ内でまとめ、確認する。
知識・理解力	保育士・幼稚園教諭に必要な知識等の確認を行おうとしない。	保育士・幼稚園教諭に必要な知識等の確認を行おうとする。	保育士・幼稚園教諭に必要な知識等について、グループ討議の中で積極的に意見交換し、理解を深める。	グループ討議で得た知見に対し、個々にまとめ、保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技術を習得したことを確認する。
言語力	これまでの学びに対し、自分なりにまとめ、説明することができない。	これまでの学びに対し、自分なりにまとめ、説明しようとする。	グループ討議や、活動の中で、これまでの学びについて発言しようとする。	これまでの学びに対し、グループ内の意見調整、まとめにつながる発言ができる。
思考・解決力	これまでの学びを基にした、援助・教育の方法、技術等について考えようとする。	これまでの学びを基にした、援助・教育の方法、技術等について考えようとする。	レベル2を踏まえ、保育計画の立案、その改善を図ることができ。	保育計画の立案、その改善について考えたことを、模擬保育等で活かすことができる。

共生・協働する力	グループ演習において、これまでの学びを活かすことができない。	グループ演習において、これまでの学びを活かそうとする。	これまでの学びを、連携を取って活かすための方法について、グループ演習で提案する。	レベル3を踏まえ、課題に協働して取り組むことにつながる行動ができる。
創造・発信力	保育者、教員としての資質向上に対し、これまでの学びを基に、考えたり、提案したりすることに消極的である。	資質向上に対し、これまでの学びを基に、自分なりの提案をすることができ	レベル2で提案したことを、実現するための方法について、課題の中で発案することができる。	発案したことを、演習の中で確認、修正し、保育者、教員としての資質向上に対し、新たな提案をすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 「保育・教職実践演習」のねらいと内容
これまでの教職に関する学習のふりかえり（担当：植田・石井）
- 第 2 回 事例研究 1
保育士・幼稚園教諭の意義や役割（担当：石井）
- 第 3 回 事例研究 2
子どもとのかかわり（担当：植田）
- 第 4 回 事例研究 3
気になる子ども（担当：畠山）
- 第 5 回 事例研究 4
保護者対応（担当：畠山）
- 第 6 回 テーマとディスカッション
保育に関する現代的課題（担当：石井）
- 第 7 回 子ども支援を行う現場見学と調査
（担当：畠山）
- 第 8 回 ロールプレイング 1
幼児の心理と保育者の関わり（担当：畠山）
- 第 9 回 ロールプレイング 2
子どもとのかかわり 子どもの気づき（担当：植田）
- 第 10 回 教材研究と保育内容 1
音楽活動を中心に（担当：植田）
- 第 11 回 教材研究と保育内容 2
造形活動を中心に（担当：石井）
- 第 12 回 教材研究と保育内容 3
絵本の読み聞かせを中心に（担当：植田）
- 第 13 回 模擬保育 1
内容・指導案の検討（担当：石井）
- 第 14 回 模擬保育 2
模擬保育の実施（担当：畠山）
- 第 15 回 まとめとふりかえり
（担当：全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は、グループ活動（グループディスカッション・ロールプレイング）を基本とし、連携することを学びながら、課題に対して協同的に取り組み、成果を発表し、レポートを作成すること等を中心に展開する。必要に応じ、現場を訪問したり、外部講師を招いて、講演を聴くことがある。学生の模擬授業や発表に対しては講評を行い、模範例を実演する方法で、フィードバックを行う。演習での成果物（レポート）については、模範例を示し、全体でふりかえりを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

授業時に、次回の内容に関する課題を発表するので、その課題に積極的に取り組み、授業に臨むようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度30% レポート、演習での成果物 30% 模擬授業や発表の評価40%

〔留意事項（Other Information）〕

保育現場を訪問する際は、交通費が発生する場合がある。演習が多いため、動きやすい服装で参加すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。必要に応じて、担当教員が資料等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

・田中卓也・植田恵理子他：保育・教育実践演習テキスト ノート-保育士幼稚園教諭・小学校教諭をめざすく私の“学び”のあしあと>-ふくろう出版

・小櫃智子著・編集：保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み―幼稚園・保育所編 わかば社

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

石井浩子 保育士として、保育所に勤務経験あり。植田恵理子 認定指導員として複数の幼稚園に勤務経験あり。

保育者論

EDI1251N0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 1年次
 2単位 後期
 木曜2限
 DP2：知識・理解力
 60
 集中
 田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代の社会における保育者の仕事と役割、それを遂行するための専門性について理解し、保育者になるための見通しや課題意識を持つ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 保育者の専門性について学ぶ。
- ・ 保育者に必要となる基本的資質について学ぶ。
- ・ 保育の今日的課題について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	保育者の専門性について理解することができていない。	保育者の専門性について理解することができている。	保育者の専門性について理解することができ、保育者になるための課題意識を持つことができている。	保育者の専門性について理解することができ、保育者になるための課題意識を持つことができるとともに、保育の現代的な課題について考察することができている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育者になるための学び
- 第 2 回 保育者の仕事と役割・幼稚園
- 第 3 回 保育者の仕事と役割・保育所
- 第 4 回 養護と教育
- 第 5 回 保育者に求められる基本的資質
- 第 6 回 保育者に求められる知識と技術
- 第 7 回 データから見る日本の保育者
- 第 8 回 日本の保育者のあゆみ
- 第 9 回 保育者の専門性
- 第 10 回 保育の省察
- 第 11 回 子育て支援
- 第 12 回 保育者の協働
- 第 13 回 専門機関との連携
- 第 14 回 小学校との連携

第 15 回 保育者の専門性を高めるために
 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に行う。話を聴くことに並行して、これまでの自分自身のあり方を丁寧に振り返り、それを問い直すことで、子どもの保育に貢献できる心もちを養ってほしい。つまり、保育を担うためには、自分がどのように変わっていかなければならないのかを考え実行することが必要である。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を中心とする。授業の中でよく考えてほしいと言った事柄について、自分の問いとして引き受け、授業後に深く考えてみてほしい。できることならば、一緒に授業を受けた仲間と対話しながら考えてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ミニレポートの内容(50%)と定期試験に替わるレポート(50%)にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『今に生きる 保育者論』 / 秋田喜代美 / みらい / 2007/9784860151003

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育心理学演習

EDI2403N0J

大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 2年次
 1単位 前期
 水曜2限
 DP4：思考・解決力
 15
 集中
 畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
保育実践における子ども理解の意義	保育実践における子ども理解の意義がわからない。	保育実践における子ども理解の意義が、一部理解できる。	保育実践における子ども理解の意義が、十分に理解できる。	レベル3に加え、子どもの心身の発達や学びの過程について理解できている。
子ども理解の具体的な方法	子ども理解の具体的な方法について理解できていない。	子ども理解の具体的な方法が一部理解できている。	子ども理解の具体的な方法が十分できている。	レベル3に加え、具体的な方法をつかって理解できる。
保育士の援助や態度	保育士の援助や態度について理解できていない。	保育士の援助や態度について一部理解できている。	保育士の援助や態度について十分に理解できている。	レベル3に加え、その態度を持ち子どもの援助法を習得しようとする。

〔授業計画〕

- 第1回 保育における子ども理解の意義
- 第2回 子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開
- 第3回 子どもに対する共感的理解と子どもとの関り
- 第4回 子どもの生活と遊び
- 第5回 保育における人的環境と子どもの発達
- 第6回 集団における経験と育ち
- 第7回 葛藤やつまづき、環境移行
- 第8回 基本的生活習慣の獲得と発達援助
- 第9回 子ども理解の方法①：観察
- 第10回 子ども理解の方法②：記録
- 第11回 子ども理解の方法③：省察・評価
- 第12回 子ども理解の方法④：職員間連携
- 第13回 子ども理解の方法④：保護者との情報共有
- 第14回 発達の課題や特別な配慮に合わせた援助
- 第15回 形成テストと解説

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義・演習形式で行う。適宜、プリント等を配布する。また、視聴覚教材を用いる。

形成テスト終了後、テストの解説を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は形成テストが50%。演習の取り組み状況が50%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育相談支援

ED13551N0J
 大学
 現代人間学部 > 子ども教育学科
 3年次
 1単位 後期
 火曜5限
 DP5 : 共生・協働する力
 15
 集中
 畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもの保育の専門性を有する保育士として、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上を目指して、保護者に対する支援を行っていくことが求められている。

本科目では、保護者に対する支援を行っていくための実践力の基礎を体得していくことを目指している。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者支援の基本を理解する。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

保育相談支援の意義と原則について理解する。	保育相談支援の意義と原則について理解できない。	保育相談支援の意義と原則について、最低限理解できている。	保育相談支援の意義と原則について、理解できている。	保育相談支援の意義と原則について、十分に理解できている。
保護者支援の基本を理解する。	保護者支援の基本を理解できていない。	保護者支援の基本を最低限理解できている。	保護者支援の基本を理解できている。	保護者支援の基本を十分に理解できている。
保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。	保育相談支援の内容や方法についてなど、その実際について理解できていない。	保育相談支援の内容や方法についてなど、その実際について最低限理解できている。	保育相談支援の内容や方法についてなど、その実際について理解できている。	保育相談支援の内容や方法についてなど、その実際について十分に理解できている。
保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できていない。	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について最低限理解できている。	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できている。	保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について十分に理解できている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 保護者に対する保育相談支援の意義
- 第 2 回 保育の特性と保育士の専門性を活かした支援
- 第 3 回 子どもの最善の利益と福祉の重視
- 第 4 回 子どもの成長の喜びの共有
- 第 5 回 保護者の養育力の向上に資する支援
- 第 6 回 信頼関係を基本とした受容的関わり、自己決定、秘密保持の尊重
- 第 7 回 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
- 第 8 回 保育に関する保護者に対する指導
- 第 9 回 保護者支援の内容
- 第 10 回 保護者支援の方法と技術
- 第 11 回 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
- 第 12 回 保育所における保育相談支援の実際
- 第 13 回 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
- 第 14 回 児童養護施設等要保護児の家庭に対する支援
- 第 15 回 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループ討議、事例研究などの方法を多く取り入れながら授業を行う。15回目には、小レポートの返却を行い、評価に関するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

現代の子育て支援の実際について、新聞記事やインターネットで情報を集めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(30%)、複数回の小レポート(70%)に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の順番は変わることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こども教育概論

EDB1202N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 前期

土曜1限

DP2: 知識・理解力

60

メディア利用

石井 浩子 萩原 暢子 田中 裕喜 神月 紀輔
(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育・保育をめぐる現代的課題について、教職・保育士の専門性とは何かを多角的に探究し、教育・保育の意義・目的・機能・現状についての理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

それぞれの目指す進路を考えながら、今後のこども教育学科での学びを想定し、それぞれの授業での学びにつなげていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	保育教育に関する学びを行おうとしない	授業内容を理解しようとする	授業内容から自分の進路を考える	自分の進路を考え、ボランティアや学校園の見学などの行動を起こす
知識・理解力	知識を増やそうとしない	既存の知識に授業内容を加えようとしている	授業内容で得た知識を理解しようとしている	授業内容で得た知識に加えて、関連した学びを文献やネ

				ットで主体的に行う
言語力	普段使う言葉を丁寧に扱えない	進路を意識してわかりやすい言葉を選んで話す	レポート等の作成に正しい言葉を使うことができる	専門用語について、英語などの外国語でも理解しようとする
思考・解決力	教育保育の諸問題を考えようとしていない	教育保育の諸問題に向き合おうとする	教育保育の諸問題に向き合い、解決策を考える	諸問題に対して、得た知識を活用し、人と協力しながら解決を目指す
共生・協働する力	グループ活動などに参加しようとしていない	協働活動に参加する	協働活動に積極的に参加する	人の立場を考えながら、よりよい解決策を考えようとする
創造・発信力	人から与えられるもので満足している	自分なりのやり方で学ぼうとしている	レポートにわかりやすく書こうという努力がされている	新しい学びや実践を考え、人前で発表しようとする

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (神月)
- 第 2 回 保育士という仕事 (石井)
- 第 3 回 教師という仕事 (藤本)
- 第 4 回 教育原理とは (田中)
- 第 5 回 教育心理学とは (畠山)
- 第 6 回 乳児保育と小児医療 (萩原)
- 第 7 回 保育士・教員としての健康管理 (萩原)
- 第 8 回 教育原理とは (石井)
- 第 9 回 保育内容と5領域 (石井)
- 第 10 回 教育課程とは (田中)
- 第 11 回 教育社会学とは (田中)
- 第 12 回 学級経営・学校経営とは (河佐)
- 第 13 回 教育の方法とICT技術 (神月)
- 第 14 回 特別支援教育とは (江川)
- 第 15 回 まとめ (神月)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回、manabaコースのコースニュースを確認すること。
manabaコースからオンラインで配信される動画・資料を見て、responでわかったことを送信していく。responには、同時に質問等を載せてもよい。質問に対するフィードバックはmanabaコースの掲示板から行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

本講義の学習方法としては、復習を中心として行い、次の時間までに前時の内容を復習し、理解しておくことが望まれる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・授業に参加する態度 (40%) : responの返答によって判断する。単に「おもしろかった」などだけでなく、その時間内にあった内容について具体的に記すことが求められる。

- ・選択課題 (40%) : 各教員が出すレポート課題から2つを選択し提出する。提出は、manabaコースからファイルを送信して提出。1つのレポートにつき1000~1500字程度とする。自己都合により期限を守れない場合は減点することがある。

- ・期末自己評価 (20%) : この授業により以前より増えた知識などを自己評価する。最終15回目に提出する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本講義は土曜日に設定されているが、オンライン授業のため、manabaコースのコースニュースを週に1回必ず確認すること。

responの提出で授業参加を確認するので、提出を忘れないようにすること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

こども教育ハンドブック

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教員経験者 (藤本・河佐・江川・神月), 保母 (保育士) 経験者 (石井), 医師経験者 (萩原)

保育内容総論

EDI1450A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 後期

木曜1限

DP4 : 思考・解決力

60

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育内容とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解する。そして、領域 (健康、人間関係、環境、言葉、表現) 別の教科の学びとともに、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ぶ。

また、保育士として、子ども、保護者、保育所を取り巻く環境・社会情勢についての理解や発達過程に即した子ども

の理解、そして、総合的に指導、援助が行えるよう、実践的な力を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 5領域を視野に入れた、子どもと保育内容について理解する。

(2) 幼児理解や指導計画、援助方法、保育の評価と反省など、保育の流れを概観しながらそれぞれについて具体的に検討、考察する。

(3) 保育内容の諸項目概観し、乳幼児期にどのような保育が必要かを理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	5領域を視野に入れた保育内容について興味がない	5領域を視野に入れた保育内容について興味をもち、内容を理解しようとする	5領域を視野に入れた保育内容について理解できる	5領域を視野に入れた保育内容について理解し、具体的な保育のイメージをもつ
知識・理解力	幼児理解や援助方法、保育評価などを理解できない	幼児理解や援助方法、保育評価などの基礎的な内容を理解できる	幼児理解や援助方法、保育評価などの具体的な内容を理解できる	幼児理解や援助方法、保育評価などの具体的な内容を理解し、課題について考えることができる
言語力	保育内容に関する専門用語について理解できない	保育内容に関する専門用語について、内容をある程度理解できる	保育内容に関する専門用語について、内容を理解して使用できる	保育内容に関する専門用語について、内容を理解し、説明したり、使用したりできる
思考・解決力	幼児理解を踏まえた指導計画を理解できない	幼児理解を踏まえて、指導案作成の基礎事項に合わせて書くことができる	指導計画を立案するために、幼児理解、環境構成、保育者の援助の基本を理解し、指導案を作成できる	幼児理解からねらいを立て、活動の展開や環境構成、保育者の援助を検討し、指導案作成ができる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見を受け止め、参考にする	考えたことや意見を周囲の人と共有する	レベル3に加え、文献により、自分の考えを深める

創造・発信力	自分の意見を話さない	保育の多様な展開について、自分の意見を発言することができる	保育の多様な展開について、自分の考えをまとめたり発言したりすることができる	レベル3に加え、保育の多様な展開について、具体的な保育場面をイメージして、意見をまとめたり、発言することができる
--------	------------	-------------------------------	---------------------------------------	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育内容とは、保育の一日と保育内容
- 第 2 回 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」と保育内容
- 第 3 回 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と保育内容
- 第 4 回 保育内容 5 領域と「育みたい資質・能力」
- 第 5 回 保育内容と子ども理解(1)子どもの発達の特性と保育内容
- 第 6 回 保育内容と子ども理解(2)個と集団の発達と保育内容
- 第 7 回 保育内容の展開(1)養護と教育が一体的に展開する保育
- 第 8 回 保育内容の展開(2)環境を通して行う保育(3)遊びによる総合的な保育
- 第 9 回 保育内容の展開(4)生活や発達の連続性に考慮した保育
- 第 10 回 保育内容の展開(5)家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育
- 第 11 回 指導計画：教材研究と指導案作成
- 第 12 回 指導計画：模擬授業と評価
- 第 13 回 保育内容の歴史の変遷
- 第 14 回 保育の多様な展開(1)乳児保育 (2)長時間の保育 (3)特別な支援を必要とする子どもの保育 (4)多文化共生の保育
- 第 15 回 形成テストとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義形式で進めていくが、適宜、演習を取り入れる。
- ・資料配布やパワーポイントによる資料提示で進める。
- ・最終授業で形成テストを実施するとともに、授業全体のフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・事前に、幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと。
- ・授業終了後、次回授業前には、前回資料を基に復習をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(10%)、授業時の課題と課題提出(20%)、形成テスト(70%)に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』/内閣府/厚生労働省/文部科学省/文部科学省/厚生労働省/チャイルド本社/2017年/9784805402580/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育内容総論』/谷田貝公昭・石橋哲成 監修/一藝社/2017年/978-4-86359-117-2

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育内容 (健康) A

EDI2400A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 前期

金曜1限

DP4: 思考・解決力

60

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育内容「健康」の意義・ねらい・内容の概要を理解し、他領域との関連性について理解を深めたうえで、保育者として乳幼児の健康に関する課題について対応できる力を習得する。

乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養えるよう、乳幼児の心身の成長・発達や基本的な生活習慣、運動遊びの意義、安全管理について理解し、その援助方法を考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 乳幼児の心身の発達について理解する。
2. 乳幼児の基本的な生活習慣について理解し、その援助について考える。
3. 領域「健康」のねらい及び内容を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	乳幼児の健康について興味がない	乳幼児の健康に関する基礎知識を学ぶ自覚がある	乳幼児の健康に関する知識を学び、理解しようとする	乳幼児の健康に関する知識を学び、具体的な指導方法を考えることができる

知識・理解力	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣やその援助について理解ができない	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣とその必要な援助について、ある程度理解ができる	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣とその必要な援助について、より深く理解できる	レベル3に加え、実際の乳幼児に対する具体的な援助をイメージして考えることができる
言語力	乳幼児の健康に関する専門用語を理解できない	乳幼児の健康に関する専門用語を理解できる	乳幼児の健康に関する専門用語を理解し、レポートなどに用いて表現できる	レベル3に加え、乳幼児を保育する上で必要な専門用語を理解し、レポートなどに用いて表現できる
思考・解決力	子どもの心と体に関する問題点を理解できない	子どもの心と体に関する問題点を理解できる	子どもの心と体に関する問題点を理解し、その原因を調べ、検討する	子どもの心と体に関する問題点を理解し、その原因を調べ、対応策を検討することができる
共生・協働する力	グループワークに対して消極的である	グループワークで自分の意見を発言したり、他の人の意見を聞いたりすることができる	グループワークで自分の意見を発言したり、他の人の意見を受け入れ、グループの考えをまとめることができる	レベル3に加え、他の人の意見を聞き、考えを共有することにより、自分の考えを整理し、まとめる力がある
創造・発信力	領域「健康」のねらい及び内容が理解できず、説明ができない	領域「健康」のねらい及び内容を理解し、実際の保育のイメージを想像できる	領域「健康」のねらい及び内容を理解した上で、模擬授業の立案ができる	領域「健康」のねらい及び内容を理解した上で、具体的なこどもの姿をイメージして模擬授業の計画・実践ができる

〔授業計画〕

- 第1回 保育内容「健康」の意義
- 第2回 領域「健康」と他領域との関連性
- 第3回 乳幼児の心身の発達と運動発達
- 第4回 遊びを通じた指導
- 第5回 遊び環境と運動遊びの指導
- 第6回 指導計画(1)教材研究
- 第7回 指導計画(2)指導案作成

- 第 8 回 指導計画 (3) 模擬授業
- 第 9 回 指導計画 (4) 指導計画の評価
- 第 10 回 基本的な生活習慣とその指導
- 第 11 回 食生活と食育
- 第 12 回 保育者の役割
- 第 13 回 安全環境と安全教育
- 第 14 回 疾病と救急対応
- 第 15 回 形成テストとフィードバック
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・教科書及びパワーポイントや配布資料により進めていき、適宜、演習を取り入れる。
- ・最終授業で、形成テストと授業全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・事前に、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと。
- ・授業終了後には、教科書及び配布資料などを見て、復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度・学習態度 (10%)、課題 (20%)、形成テスト (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

講義内容が前後する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『乳幼児の健康第3版』/前橋 明 編著/大学教育出版/2018年/9784864294980/

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』内閣府、文部科学省、厚生労働省/チャイルド本社/2017年/978-4805402580

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育内容 健康』/杉原隆・湯川秀樹 編/光生館/2010年/9784332701330

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育内容 (健康) B

EDI2400B0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 前期

金曜5限

DP4: 思考・解決力

60

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育内容「健康」の意義・ねらい・内容の概要を理解し、他領域との関連性について理解を深めたいうえて、保育者として乳幼児の健康に関する課題について対応できる力を習得する。

乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養えるよう、乳幼児の心身の成長・発達や基本的な生活習慣、運動遊びの意義、安全管理について理解し、その援助方法を考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 乳幼児の心身の発育・発達について理解する。
2. 乳幼児の基本的な生活習慣について理解し、その援助について考える。
3. 領域「健康」のねらい及び内容を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	乳幼児の健康について興味がない	乳幼児の健康に関する基礎知識を学ぶ自覚がある	乳幼児の健康に関する知識を学び、理解しようとする	乳幼児の健康に関する知識を学び、具体的な指導方法を考えることができる
知識・理解力	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣やその援助について理解ができない	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣とその必要な援助について、ある程度理解ができる	乳幼児の発育・発達や基本的な生活習慣とその必要な援助について、より深く理解できる	レベル3に加え、実際の乳幼児に対する具体的な援助をイメージして考えることができる
言語力	乳幼児の健康に関する専門用語を理解できない	乳幼児の健康に関する専門用語を理解できる	乳幼児の健康に関する専門用語を理解し、レポートなどに用いて表現できる	レベル3に加え、乳幼児を保育する上で必要な専門用語を理解し、レポートなどに用いて表現できる

思考・解決力	子どもの心と体に関する問題点を理解できない	子どもの心と体に関する問題点を理解できる	子どもの心と体に関する問題点を理解し、その原因を調べ、検討する	子どもの心と体に関する問題点を理解し、その原因を調べ、対応策を検討することができる
共生・協働する力	グループワークに対して消極的である	グループワークで自分の意見を発言したり、他の人の意見を聞いたることができる	グループワークで自分の意見を発言したり、他の人の意見を受け入れ、グループの考えをまとめることができる	レベル3に加え、他の人の意見を聞き、考えを共有することにより、自分の考えを整理し、まとめる力がある
創造・発信力	領域「健康」のねらい及び内容が理解できず、説明ができない	領域「健康」のねらい及び内容を理解し、実際の保育のイメージを想像できる	領域「健康」のねらい及び内容を理解した上で、模擬授業の立案ができる	領域「健康」のねらい及び内容を理解した上で、具体的なこどもの姿をイメージして模擬授業の計画・実践ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 保育内容「健康」の意義
- 第 2 回 領域「健康」と他領域との関連性
- 第 3 回 乳幼児の心身の発達と運動発達
- 第 4 回 遊びを通じた指導
- 第 5 回 遊び環境と運動遊びの指導
- 第 6 回 指導計画（1）教材研究
- 第 7 回 指導計画（2）指導案作成
- 第 8 回 指導計画（3）模擬授業
- 第 9 回 指導計画（4）指導計画の評価
- 第 10 回 基本的生活習慣とその指導
- 第 11 回 食生活と食育
- 第 12 回 保育者の役割
- 第 13 回 安全環境と安全教育
- 第 14 回 疾病と救急対応
- 第 15 回 形成テストとフィードバック

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・教科書及びパワーポイントや配布資料により進めていき、適宜、演習を取り入れる。
- ・最終授業で、形成テストと授業全体に対するフィードバ

ックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・事前に、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んでおくこと。
- ・授業終了後には、教科書及び配布資料などを見て、復習をしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度・学習態度（10%）、課題（20%）、形成テスト（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

講義内容が前後する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『乳幼児の健康第3版』/前橋 明 編著/大学教育出版/2018年/9784864294980/

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』内閣府、文部科学省、厚生労働省/チャイルド本社/2017年/ 978-4805402580

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『保育内容 健康』/杉原隆・湯川秀樹 編/光生館/2010年/9784332701330

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育内容（人間関係）A

EDI2401A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 前期

月曜3限

DP4：思考・解決力

60

田中 裕喜

〔科目の教育目標（Course Description）〕

幼児期における人間関係の発達の特徴と課題、その発達の援助に携わる教師の役割と方法を理解して、幼児の自立心と人とかかわる力を養えるようになる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・領域「人間関係」のねらいや内容について学ぶ。
- ・領域「人間関係」にかかわる指導計画を作成して模擬保育をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

思考・解決力	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解できていない。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解できている。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解し、深く洞察することができている。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解し、深く洞察するとともに、それらについての自分自身の課題意識を持つことができている。
--------	---------------------------------------	--------------------------------------	---	--

【授業計画】

- 第 1 回 領域「人間関係」とは
- 第 2 回 保護者との愛着形成
- 第 3 回 言葉の獲得と人間関係
- 第 4 回 教師との信頼関係
- 第 5 回 友達とのかかわりのはじまり
- 第 6 回 葛藤関係と道徳性の芽生え
- 第 7 回 地域社会とのかかわり
- 第 8 回 規範意識の芽生え
- 第 9 回 協同性の育ち
- 第 10 回 協同性を育む教師の役割
- 第 11 回 幼小接続期の課題
- 第 12 回 領域「人間関係」にかかわる教材研究
- 第 13 回 領域「人間関係」にかかわる指導計画の作成
- 第 14 回 模擬保育
- 第 15 回 領域「人間関係」の今日的課題

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

定期試験に替わるレポートを提出。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

講義と演習を中心に行う。幼児期における人間関係の発達の特徴、教師に求められる援助の視点や方法を理解する。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

復習を中心とする。自分自身が他者とどのような関係を紡いできたかを省察してほしい。また、現代の社会における人と人のかかわりのあり方について普段から意識して考察してほしい。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

定期試験に替わるレポート (50%)、ミニレポート・指導案・模擬保育等 (50%) にもとづいて評価する。

【留意事項 (Other Information)】

授業の状況に応じて、授業計画の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育内容 (人間関係) B

EDI2401BOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 前期

月曜 5限

DP4 : 思考・解決力

60

田中 裕喜

【科目の教育目標 (Course Description)】

幼児期における人間関係の発達の特徴と課題、その発達の援助に携わる教師の役割と方法を理解して、幼児の自立心と人とかかわる力を養えるようになる。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・領域「人間関係」のねらいや内容について学ぶ。
- ・領域「人間関係」にかかわる指導計画を作成して模擬保育をする。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解できていない。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解できている。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解し、深く洞察することができている。	幼児の人間関係の発達支援に携わる教師の役割や方法について理解し、深く洞察するとともに、それらについての自分自身の課題意識を持つことができている。

【授業計画】

- 第 1 回 領域「人間関係」とは
- 第 2 回 保護者との愛着形成
- 第 3 回 言葉の獲得と人間関係

- 第 4 回 教師との信頼関係
- 第 5 回 友達とのかかわりのはじまり
- 第 6 回 葛藤関係と道徳性の芽生え
- 第 7 回 地域社会とのかかわり
- 第 8 回 規範意識の芽生え
- 第 9 回 協同性の育ち
- 第 10 回 協同性を育む教師の役割
- 第 11 回 幼小接続期の課題
- 第 12 回 領域「人間関係」にかかわる教材研究
- 第 13 回 領域「人間関係」にかかわる指導計画の作成
- 第 14 回 模擬保育
- 第 15 回 領域「人間関係」の今日的課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と演習を中心に行う。幼児期における人間関係の発達の特徴、教師に求められる援助の視点や方法を理解する。毎回書いてもらうミニレポートは、次回の授業の中でコメントする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を中心とする。自分自身が他者とどのような関係を紡いできたかを省察してほしい。また、現代の社会における人と人のかかわりのあり方について普段から意識して考察してほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験に替わるレポート (50%)、ミニレポート・指導案・模擬保育等 (50%) にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育内容 (環境) A

ED12402A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 集中

その他

DP4: 思考・解決力

60

田中 文昭

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

領域「環境」の意義や基本的な考え方を知り、幼児における環境の意味を学び、環境をどのように構成していくことが、子どもの育ちにとって必要であるかを理解する。また領域「環境」と他の領域との関連についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 保育現場で必要とされている環境構成についての概要を学び、実践例を通して学びを深めることで保育者としての視座を理解できるようになる。
2. 保育における環境領域についての基本を理解し、人的環境として大切な保育者の役割を理解することで、自分自身が目標とする保育者像がイメージできるようになる。
3. 演習を通して仲間と相談し、意見や考え方の多様性を知ることで、自らの学びを深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	保育における環境の意味を理解できていない	保育における環境の意味が理解できる	保育における環境を理解し、適切に環境を構成できる	他の保育者に対して環境の視点から助言ができる
共生・協働する力	自分の思いだけで保育を行う	同僚との協調の大切さを考えようとする	同僚と協働することができる	保育者の中心となって他の保育者と協働することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・環境領域の概要説明
オリエンテーション (これからの学びに必要な姿勢と考え方及び評価方法について)、環境領域の概要説明
- 第 2 回 講義
幼児における環境とは
- 第 3 回 講義
幼児を取り巻く環境の現状
- 第 4 回 講義
物的な環境としての遊具や園具
- 第 5 回 講義
人的な環境としての保育者の役割
- 第 6 回 演習 1

これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。

第 7 回 講義
自然事象への関心

第 8 回 講義
生き物との関り

第 9 回 講義
身近な素材の活用

第 10 回 講義
地域との交流

第 11 回 講義
子どもを守る安全な環境 1
子どもに危険を伝えるにはどのようにすればよいのかを安全に関するDVDを視聴して検討します。

第 12 回 講義
子どもを守る安全な環境 2
保育者は安全な環境をどのように整えるべきなのかを考えます。

第 13 回 演習 2
これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。

第 14 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える（1）
異年齢との関りの中で育つ環境について学ぶ

第 15 回 講義および演習（保育実践事例）
保育実践事例から考える（2）
身近な素材を使った環境について学ぶ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しません（演習内で小テストを実施します。）
〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義形式を中心にしながら演習も行います。
演習の内容については授業内で発表します。演習を欠席すると小テストの配点がなくなりますので注意してください。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 新幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「環境」領域について読んでおいてください。
2. 授業前に予習として教科書の該当箇所を読んでおいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業内課題：小テスト 2 回（60%：小テスト各 30% 配点）、授業態度・授業参加度（40%）に基づいて総合的に評価します。小テストについては翌週に課題内容の解答をフィードバックします。

授業態度の悪い者（私語、居眠り等）については単位を与えないので、注意してください。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 授業内課題に欠席の場合は、その課題は0点とします。特別な事情がない限り、レポート等による代替えは行わないので、休まないようにしてください。

2. 座席の指定をします。初回の授業で座席位置を知らせします。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『保育内容「環境」第2版』/秋田喜代美・増田時枝・安見克夫 編/(株)みらい/2009年/9784860151515/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017年/9784805402580

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（詳しい勤務経験等）

幼稚園教諭専修免許状、保育士資格、臨床発達心理士資格保持。

私立幼稚園園長を経て、幼保連携型認定こども園園長（現職）。園運営にかかる教育・保育内容の策定。

保育内容（環境） B

EDI2402B0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 集中

その他

DP4：思考・解決力

60

田中 文昭

〔科目の教育目標（Course Description）〕

領域「環境」の意義や基本的な考え方を知り、幼児における環境の意味を学び、環境をどのように構成していくことが、子どもの育ちにとって必要であるかを理解する。また領域「環境」と他の領域との関連についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 保育現場で必要とされている環境構成についての概要を学び、実践例を通して学びを深めることで保育者としての視座を理解できるようになる。

2. 保育における環境領域についての基本を理解し、人的環境として大切な保育者の役割を理解することで、自分自身が目標とする保育者像がイメージできるようになる。

3. 演習を通して仲間と相談し、意見や考え方の多様性を知ることで、自らの学びを深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	保育における環境の意味を理解できていない	保育における環境の意味が理解できる	保育における環境を理解し、適切に環境を構成できる	他の保育者に対して環境の視点から助言ができる
共生・協働する力	自分の思いだけで保育を行う	同僚との協調の大切さを考えようとする	同僚と協働することができる	保育者の中心となって他の保育者と協働することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・環境領域の概要説明
オリエンテーション（これからの学びに必要な姿勢と考え方及び評価方法について）、環境領域の概要説明
- 第 2 回 講義
幼児における環境とは
- 第 3 回 講義
幼児を取り巻く環境の現状
- 第 4 回 講義
物的な環境としての遊具や園具
- 第 5 回 講義
人的な環境としての保育者の役割
- 第 6 回 演習 1
これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施
予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。
- 第 7 回 講義
自然事象への関心
- 第 8 回 講義
生き物との関り
- 第 9 回 講義
身近な素材の活用
- 第 10 回 講義
地域との交流
- 第 11 回 講義
子どもを守る安全な環境 1
子どもに危険を伝えるにはどのようにすればよいのかを安全に関するDVDを視聴して検討します。
- 第 12 回 講義
子どもを守る安全な環境 2
保育者は安全な環境をどのように整えるべきなのかを考えます。
- 第 13 回 演習 2
これまでの復習を兼ねての演習（小テストを実施
予定：課題は授業内で発表）
課題に対するフィードバックは、課題の要点を中心に次回の授業で説明します。

第 14 回 講義および演習（保育実践事例）

保育実践事例から考える（1）
異年齢との関りの中で育つ環境について学ぶ

第 15 回 講義および演習（保育実践事例）

保育実践事例から考える（2）
身近な素材を使った環境について学ぶ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しません（演習内で小テストを実施します。）

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式を中心にしながら演習も行います。
演習の内容については授業内で発表します。演習を欠席すると小テストの配点がなくなりますので注意してください。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 新幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「環境」領域について読んでおいてください。

2. 授業前に予習として教科書の該当箇所を読んでおいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業内課題：小テスト 2 回（60%：小テスト各 30% 配点）、授業態度・授業参加度（40%）に基づいて総合的に評価します。小テストについては翌週に課題内容の解答をフィードバックします。

授業態度の悪い者（私語、居眠り等）については単位を与えないので、注意してください。

〔留意事項（Other Information）〕

1. 授業内課題に欠席の場合は、その課題は 0 点とします。特別な事情がない限り、レポート等による代替えは行わないので、休まないようにしてください。

2. 座席の指定をします。初回の授業で座席位置を知らせします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『保育内容「環境」第2版』/秋田喜代美・増田時枝・安見克夫 編/(株)みらい/2009年/9784860151515/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/チャイルド本社/2017年/9784805402580

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（詳しい勤務経験等）

幼稚園教諭専修免許状、保育士資格、臨床発達心理士資格保持。

私立幼稚園園長を経て、幼保連携型認定こども園園長（現職）。園運営にかかる教育・保育内容の策定。

保育内容（言葉）A

EDI2450A0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 2年次
 2単位 後期
 火曜3限
 DP4：思考・解決力
 60
 渡邊 春美

【科目の教育目標（Course Description）】

【言葉の育ちに関する理解と保育実践基礎技能の修得】

1. 子どもたちの成長にとって重要な要素の一つである言葉について、その機能と発達過程を理解する。
2. 上記「1」を踏まえて、実際の事例に学び、保育実践の方法を捉え、実践に生かすことができるようになる。
3. 上記「1」・「2」を学ぶことを通して、ことばに関する保育実践力（こどもの実態把握力・環境整備力・計画力・実践力・評価力）の基礎を養う。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

1. 領域「言葉」に関する基本的な内容について理解することができる。
2. こどもの言葉の発達を理解し、その促進を支援する方法を理解する。
3. 言葉を通してこどもの感性を育むための専門的な基礎技能を修得し、保育現場での実践に活かすことができる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	言葉の領域の意義について理解できていない。保育事例を考察できない。	言葉の領域の意義について理解し、保育事例を考察できている。	言葉の領域の意義を理解し、保育事例を正しく考察できている。	言葉の領域の意義を理解し、保育事例を応用的に考察できている。
共生・協働する力	発言しない、あるいは自分本意な発言のみで討議・演習準備に協力することができていない。	発言は控えめだが、グループの仲間と協働して討議・演習準備に取り組むことができている。	グループの仲間と協働して討議・演習準備に積極的に取り組むことができている。	グループの中心となり仲間と協働して討議・演習準備に取り組むことができている。
思考・解決力	演習時の予期せぬ反応に対して、対処することができていない。(無視・不問)	演習時の予期せぬ反応に対して、なんとか対処することができている。	演習時の予期せぬ反応に対して、対処することができている。	演習時の予期せぬ反応に対して、的確に対処することができている。

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
 ①領域「言葉」の講義計画の概要 ②ことばの機能
- 第 2 回 保育内容における「言葉」の位置づけ
 ①開講スピーチ：テーマ「私の言葉体験—心に残った言葉」 ②保育内容における「言葉」の位置づけ—幼稚園教育要領、保育所保育指針を中心に
- 第 3 回 こどもの言葉の発達の概観
 ①こどもの言葉の発達を概観、②言葉の発達の段階ごとに特徴理解—言葉の発達区分、各年齢の特徴（前言語期・発語期・幼児期・学齢期）
- 第 4 回 こども（赤ちゃん）の言葉学びの方法
 ①こどもの言葉学びがどのように進むか—仮説の設定（グループ学習）
 ②こどもの言葉学びの方法の解明
- 第 5 回 こどもの言葉学びの課題—早期外国教育
 ①早期外国語教育の是非 ②早期外国語教育の論の検討
- 第 6 回 こどもの言葉の発達の実際—保育現場での成長
 ①DVD教材「子どもの「ことば」～保育現場での成長・発達～」の視聴
 ②保育現場でのこどもの言葉の成長支援
- 第 7 回 言葉の発達支援1—言葉と基本的生活習慣・ことばと家庭
 ①言葉と基本的生活習慣 ②言葉の発達と家庭
- 第 8 回 言葉の発達支援2—ことばと児童文化
 ①言葉と児童文化 ②ことばあそび ③絵本・紙芝居・人形劇 ④「ことばあそびしんぶん」の作成（課題）
- 第 9 回 言葉の発達支援3—0～2歳の保育の実践
 ①乳幼児の言葉 ②1歳児の言葉 ③2歳児の言葉 ④家庭における言葉 ④保育実践
- 第 10 回 ことばの発達支援4—3～6歳の保育の実践
 ①絵本、幼年文学（児童書） ②言葉遊びの過程 ③言葉と表現 ④集団と言葉
- 第 11 回 保育内容（言葉）の指導計画
 ①指導計画の要点 ②指導計画例 ③私のおすすめの一冊（課題）
- 第 12 回 絵本読み聞かせの方法
 ①読み聞かせの方法 ②読み聞かせの実演 ③読み聞かせの練習
- 第 13 回 絵本の読み聞かせ—実技1
 ①発表 ②講評
- 第 14 回 絵本の読み聞かせ—実技2
 ①発表 ②講評
- 第 15 回 学修の総括
 ①閉講スピーチ：テーマ「保育内容（言葉）を学んで」 ②学修の総括

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義
2. 課題に基づく討議→発表
3. 小レポート・小テスト
4. 演習 (絵本読み聞かせ)
5. 「ことばあそびしんぶん」・「私のすすめる一冊」を提出。
※フィードバック・・・小レポートは、添削のうえ返却する。
また、「絵本の読み聞かせ」については実演後に講評を行う。「ことばあそびしんぶん」・「私のすすめる一冊」は、相互評価。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の言葉の領域の箇所を読む。
2. 教科書の次時の学修範囲を読み進める。
3. 絵本読み聞かせなど実演のための準備に取り組む。(グループワーク)

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ①小テスト (30%) ②読み聞かせ (10%) ③小レポート (制作課題も含む) (40%) ④最終レポート (20%)

*但し、授業の変更等により、上記を変更することもある。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者数や授業進捗、コロナ感染対策等の条件によって、授業予定の変更を行う場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜、プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『言葉』／谷田貝公昭監修・大沢裕編著／一藝社／2018

『発達心理学』／内田伸子／岩波書店／1999

『幼児期—子どもは世界をどうつかむか—』岡本夏木／岩波書店／2005

『ことばと発達』／岡本夏木／岩波書店／1985

『幼稚園教育要領』／文部科学省

『保育所保育指針』／厚生労働省

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』／内閣府

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育内容 (言葉) B

EDI2450BOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

木曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

〔言葉の育ちに関する理解と保育実践基礎技能の修得〕

1. 子どもたちの成長にとって重要な要素の一つである言葉について、その機能と発達過程を理解する。
2. 上記「1」を踏まえて、実際の事例に学び、保育実践の方法を捉え、実践に生かすことができるようになる。
3. 上記「1」・「2」を学ぶことを通して、ことばに関する保育実践力 (こどもの実態把握力・環境整備力・計画力・実践力・評価力) の基礎を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 領域「言葉」に関する基本的な内容について理解することができる。
2. 子どもの言葉の発達を理解し、その促進を支援する方法を理解する。
3. 言葉を通して子どもの感性を育むための専門的な基礎技能を修得し、保育現場での実践に活かすことができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	言葉の領域の意義について理解できていない。保育事例を考察できない。	言葉の領域の意義について理解し、保育事例を考察できている。	言葉の領域の意義を理解し、保育事例を正しく考察できている。	言葉の領域の意義を理解し、保育事例を応用的に考察できている。
共生・協働する力	発言しない、あるいは自分本意のみで討議・演習準備に協力することができていない。	発言は控えめだが、グループの仲間と協働して討議・演習準備に取り組むことができている。	グループの仲間と協働して討議・演習準備に積極的に取り組むことができている。	グループの中心となり仲間と協働して討議・演習準備に取り組むことができている。
思考・解決力	演習時の予期せぬ反応に対して、対処することができていない。(無視・不問)	演習時の予期せぬ反応に対して、なんとか対処することができている。	演習時の予期せぬ反応に対して、対処することができている。	演習時の予期せぬ反応に対して、的確に対処することができている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 - ①領域「言葉」の講義計画の概要 ②ことばの機能
- 第 2 回 保育内容における「言葉」の位置づけ
 - ①開講スピーチ：テーマ「私の言葉体験—心に残った言葉」 ②保育内容における「言葉」の位置づけ—幼稚園教育要領、保育所保育指針を中心に
- 第 3 回 こどもの言葉の発達の概観
 - ①こどもの言葉の発達を概観、②言葉の発達の段階ごとに特徴理解—言葉の発達区分、各年齢の特徴（前言語期・発語期・幼児期・学齢期）
- 第 4 回 こども（赤ちゃん）の言葉学びの方法
 - ①こどもの言葉学びがどのように進むか—仮説の設定（グループ学習）
 - ②こどもの言葉学びの方法の解明
- 第 5 回 こどもの言葉学びの課題—早期外国教育
 - ①早期外国語教育の是非 ②早期外国語教育の論の検討
- 第 6 回 こどもの言葉の発達の実際—保育現場での成長
 - ①DVD教材「子どもの「ことば」～保育現場での成長・発達～」の視聴
 - ②保育現場でのこどもの言葉の成長支援
- 第 7 回 言葉の発達支援1—言葉と基本的な生活習慣・ことばと家庭
 - ①言葉と基本的な生活習慣 ②言葉の発達と家庭
- 第 8 回 言葉の発達支援2—ことばと児童文化
 - ①言葉と児童文化 ②ことばあそび ③絵本・紙芝居・人形劇 ④「ことばあそびしんぶん」の作成（課題）
- 第 9 回 言葉の発達支援3—0～2歳の保育の実際
 - ①乳幼児の言葉 ②1歳児の言葉 ③2歳児の言葉 ④家庭における言葉 ④保育実践
- 第 10 回 ことばの発達支援4—3～6歳の保育の実際
 - ①絵本、幼年文学（児童書） ②言葉遊びの過程
 - ③言葉と表現 ④集団と言葉
- 第 11 回 保育内容（言葉）の指導計画
 - ①指導計画の要点 ②指導計画例 ③私のおすすめの一冊（課題）
- 第 12 回 絵本読み聞かせの方法
 - ①読み聞かせの方法 ②読み聞かせの実演 ③読み聞かせの練習
- 第 13 回 絵本の読み聞かせ—実技1
 - ①発表 ②講評
- 第 14 回 絵本の読み聞かせ—実技2
 - ①発表 ②講評
- 第 15 回 学修の総括
 - ①閉講スピーチ：テーマ「保育内容（言葉）を学んで」 ②学修の総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1. 講義
- 2. 課題に基づく討議→発表
- 3. 小レポート・小テスト
- 4. 演習（絵本読み聞かせ）
- 5. 「ことばあそびしんぶん」・「私のすすめる一冊」を提出。
※フィードバック・・・小レポートは、添削のうえ返却する。また、「絵本の読み聞かせ」については実演後に講評を行う。「ことばあそびしんぶん」・「私のすすめる一冊」は、相互評価。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の言葉の領域の箇所を読む。
- 2. 教科書の次時の学修範囲を読み進める。
- 3. 絵本読み聞かせなど実演のための準備に取り組む。（グループワーク）

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- ①小テスト（30%） ②読み聞かせ（10%） ③小レポート（制作課題も含む）（40%） ④最終レポート（20%）

*但し、授業の変更等により、上記を変更することもある。

〔留意事項（Other Information）〕

受講者数や授業進捗、コロナ感染対策等の条件によって、授業予定の変更を行う場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜、プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『言葉』／谷田貝公昭監修・大沢裕編著／一藝社／2018

『発達心理学』／内田伸子／岩波書店／1999

『幼児期—子どもは世界をどうつかむか—』岡本夏木／岩波書店／2005

『ことばと発達』／岡本夏木／岩波書店／1985

『幼稚園教育要領』／文部科学省

『保育所保育指針』／厚生労働省

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』／内閣府

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

保育内容（表現）A

EDI2451A0J
 大学
 現代人間学部 > こども教育学科
 2年次
 2単位 後期
 水曜2限
 DP4：思考・解決力
 60
 藤本 陽三 古庵 晶子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

保育所・幼稚園において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」の領域について学ぶ。「学びにつながる遊びの活動」をテーマに、子どもたちの主体的・創造的・協同的な表現活動を引き出すために必要な環境、援助を考え、具体的な指導方法を習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。
2. 造形、音楽、劇（ごっこ）、身体、言葉といった表現媒体について理解し、それらが一体として表（現）れる幼児への具体的な指導方法を体験的に学ぶ。
3. 幼児の豊かな表現を引き出す基盤として自らの発想を拡げ、仲間とともに感性を磨く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいと内容の理解について消極的である。	領域「表現」のねらいと内容を理解しようとする。	ねらいを踏まえ、幼児への具体的な指導方法を考える。	具体的な指導方法を考え、実践し、身に付ける。
知識・理解力	「学びにつながる遊びの活動」の知識習得に対し、消極的である。	「学びにつながる遊びの活動」を実践してみようとする。	実践を通して、考えたことをまとめる力を身に付ける。	レベル3を踏まえ、指導案を作成する力を身に付ける。
言語力	表現媒体を活用した発表について消極的である。	表現媒体を活用した発表をしてみようとする。	発表を基に、模擬授業を組み立てる力を身に付ける。	保育現場を想定した模擬保育を工夫し、深める。

思考・解決力	子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動の工夫に対し、消極的である。	子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を工夫してみようとする。	様々な表現活動を、導入、展開、まとめの流れで組み立てることができる。	表現活動を子ども主体にするために、必要な工夫について考え、実践力として身に付ける。
共生・協働する力	グループワークに対して消極的である。	グループで課題に取り組む。	課題を工夫し、実践時の留意点について考える。	支援が必要な子どもも含め、課題の留意点、配慮などを考えて実践する。
創造・発信力	子どもの表現を引き出す方法を考えることに消極的である。	子どもの表現を引き出す方法について取り組む。	子どもの表現を引き出す方法を実施する際の留意点について考える。	方法を工夫し、留意点、配慮をまとめ、実践する力を身に付ける。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 保育内容（表現）の意義
（担当：藤本陽三、古庵晶子）
- 第 2 回 幼児の音楽表現の内容と意義、聴覚と音声の発達
（担当：古庵晶子）
- 第 3 回 わらべうたとリトミック
（担当：古庵晶子）
- 第 4 回 音探しとオノマトペの音楽表現
（担当：古庵晶子）
- 第 5 回 音楽活動（音楽遊び・音楽表現）の企画とその発表
（担当：古庵晶子）
- 第 6 回 音楽活動（音楽遊び・音楽表現）の指導案作成
（担当：古庵晶子）
- 第 7 回 模擬保育
（担当：古庵晶子）
- 第 8 回 模擬保育の考察とまとめ
（担当：古庵晶子）
- 第 9 回 幼児の造形表現の内容と意義、感覚教育、発達の様子について
（担当：藤本陽三）
- 第 10 回 幼児の造形表現の4つの側面（発達・特徴・造形・心理）からの考察
（担当：藤本陽三）
- 第 11 回 造形活動（造形遊び・造形表現）の企画とその発表
（担当：藤本陽三）
- 第 12 回 造形活動（造形遊び・造形表現）の教材研究
（担当：藤本陽三）
- 第 13 回 造形活動（造形遊び・造形表現）の指導案作成
（担当：藤本陽三）

第 14 回 模擬保育

(担当：藤本陽三)

第 15 回 模擬保育の考察とまとめ

(担当：藤本陽三)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・講義形式とアクティブラーニング型の演習を組み合わせで行う。

・幼児の表現を引き出す、具体的な活動方法を個人、グループで企画し、実践して学ぶことにより、表現活動における保育者の役割・援助について理解を深めるとともに、子どもの表現を引き出すための、様々なアプローチ方法、具体的な活動を企画できる力を身に付ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 「幼稚園教育要領」等のねらい及び内容の「表現」について目を通しておくこと。

2. 心と体の調子を整え、優しく受容的な気持ちで、かつアクティブな姿勢を携えて授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (20%)、毎回の小レポート (30%)、指導案・最終レポート (50%) に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

動きやすい服装で授業に参加すること

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に無し (必要な資料を授業時に配布)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》実務経験等：藤本、教員として勤務経験あり。

保育内容 (表現) B

EDI2451B0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

2年次

2単位 後期

水曜2限

DP4 : 思考・解決力

60

藤本 陽三 古庵 晶子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

保育所・幼稚園において、保育の目標を達成するために展開されている保育内容の「表現」の領域について学ぶ。「学びにつながる遊びの活動」をテーマに、子どもたちの主体

的・創造的・協同的な表現活動を引き出すために必要な環境、援助を考え、具体的な指導方法を習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。

2. 造形、音楽、劇 (ごっこ)、身体、言葉といった表現媒体について理解し、それらが一体として表 (現) れる幼児への具体的な指導方法を体験的に学ぶ。

3. 幼児の豊かな表現を引き出す基盤として自らの発想を拡張、仲間とともに感性を磨く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいと内容の理解について消極的である。	領域「表現」のねらいと内容を理解しようとする。	ねらいを踏まえ、幼児への具体的な指導方法を考える。	具体的な指導方法を考え、実践し、身に付ける。
知識・理解力	「学びにつながる遊びの活動」の知識習得に対し、消極的である。	「学びにつながる遊びの活動」を実践してみようとする。	実践を通し、考えたことをまとめる力を身に付ける。	レベル3を踏まえ、実習指導案を作成する力を身に付ける。
言語力	表現媒体を活用した発表について消極的である。	表現媒体を活用した発表をしてみようとする。	発表を基に、模擬授業を組み立てる力を身に付ける。	保育現場を想定した模擬保育を工夫し、深める。
思考・解決力	子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動の工夫に対し、消極的である。	子どもの主体的・創造的・協同的な表現活動を工夫してみようとする。	様々な表現活動を、導入、展開、まとめの流れで組み立てることができる。	表現活動を子ども主体にするために、必要な工夫について考え、実践力として身に付ける。
共生・協働する力	グループワークに対して消極的である。	グループで課題に取り組む。	課題を工夫し、実践時の留意点について考える。	支援が必要な子どもも含め、課題の留意点、配慮などを考えて実践する。
創造・発信力	子どもの表現を引き出す方法を考えることに	子どもの表現を引き出す方法について取り組む。	子どもの表現を引き出す方法を実施する際の留意点につ	方法を工夫し、留意点、配慮をまとめ、実践す

	消極的である。		いて考える。	る力を身に付ける。
--	---------	--	--------	-----------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 保育内容（表現）の意義
（担当：古庵晶子、藤本陽三）
- 第 2 回 幼児の造形表現の内容と意義、感覚教育、発達の様子について
（担当：藤本陽三）
- 第 3 回 幼児の造形表現の4つの側面（発達・特徴・造形・心理）からの考察
（担当：藤本陽三）
- 第 4 回 造形活動（造形遊び・造形表現）の企画とその発表
（担当：藤本陽三）
- 第 5 回 造形活動（造形遊び・造形表現）の教材研究
（担当：藤本陽三）
- 第 6 回 造形活動（造形遊び・造形表現）の指導案作成
（担当：藤本陽三）
- 第 7 回 模擬保育
（担当：藤本陽三）
- 第 8 回 模擬保育についての考察とまとめ
（担当：藤本陽三）
- 第 9 回 幼児の音楽表現の内容と意義、聴覚と音声の発達
（担当：古庵晶子）
- 第 10 回 わらべうたとリトミック
（担当：古庵晶子）
- 第 11 回 音探しとオノマトペの音楽表現
（担当：古庵晶子）
- 第 12 回 音楽活動（音楽遊び・音楽表現）の企画とその発表
（担当：古庵晶子）
- 第 13 回 音楽活動（音楽遊び・音楽表現）の指導案作成
（担当：古庵晶子）
- 第 14 回 模擬保育
（担当：古庵晶子）
- 第 15 回 模擬保育についての考察とまとめ
（担当：古庵晶子）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

・講義形式とアクティブラーニング型の演習を組み合わせで行う。

・幼児の表現を引き出す、具体的な活動方法を個人、グループで企画し、実践して学ぶことにより、表現活動における保育者の役割・援助について理解を深めるとともに、子どもの表現を引き出すための、様々なアプローチ方法、具体的な活動を企画できる力を身に付ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」のねらい及び内容の「表現」について目を通しておくこと。
2. 心と体の調子を整え、優しく受容的な気持ちで、かつアクティブな姿勢を携えて授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度（20%）、毎回のレポート（30%）、指導案・最終レポート（50%）に基づいて、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

動きやすい服装で授業に参加すること

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

特に無し（必要な資料を授業時に配布）

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験等：藤本、教員として学校に勤務経験あり。

乳児保育 I

EDI3204N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 前期

火曜3限

DP2：知識・理解力

60

石井 浩子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割などについて理解しながら、保育所、乳児院、家庭など、多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。

保育士として必要な乳児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制、職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について、事例を通して理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 乳幼児保育を取り巻く様々な問題について学ぶ。
2. 乳幼児の発達の理解とともに、その保育環境や実際の援助について学ぶ。
3. 保育所と家庭や他機関・地域との連携について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	乳児の発育・発達に興味がない	乳児の発育・発達に興味をもち、イメージができる	乳児の発育・発達に関する内容に広く興味をもち、イメージができる	レベル3に加え、将来の乳児への関わりについて、具体的なイメージをもつ

知識・理解力	乳児の発達や必要な援助が理解できない	乳児の発達や必要な援助について、ある程度理解できる	より深く、乳児の発達や必要な援助について理解できる	レベル3に加え、実際の乳児に対する具体的な援助を考えることができる
言語力	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関する言葉が理解できない	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関して使用されている言葉が理解できる	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関する言葉を理解し、自分で使用できる	レベル3に加え、乳児を保育する上で必要な専門的な言葉を理解し、使用できる
思考・理解力	教えられたことが理解できない	教えられたことを理解し、実際の経験したことに当てはめて考えようとする	基本的な内容を理解し、応用的な課題に対して解決しようとする	レベル3に加え、実際の経験に当てはめ、起こり得る問題を予測し、対応を検討しようとする
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見を受け止め、参考にする	考えたことや意見を周囲の人たちと共有する	レベル3に加え、自分の考えを深めようとする
創造・発信力	乳児の発達や必要な援助について、自分の勝手な考えを発信する	乳児の発達や必要な援助について、根拠に基づいた自分の考えを発信できる	乳児の発達や必要な援助について、自ら周囲の状況を踏まえて、自分の考えを発信できる	レベル3に加え、情報モラルを加味しながら、自分の考えを発信できる

- 第 5 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
(1)0 歳児の生活と環境
(2)0 歳児の遊びと環境
- 第 6 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
(1)1 歳児の生活と環境
(2)1 歳児の遊びと環境
- 第 7 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
(1)2 歳児の生活と環境
(2)2 歳児の遊びと環境
- 第 8 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
(3)3 歳以上児の保育に移行する時期の保育
- 第 9 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
(4)3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士などによる援助や関わり
- 第 10 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
(5)3 歳未満児の保育・発達を踏まえた保育における配慮
- 第 11 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育
(6)乳児保育における計画・記録・評価とその意義
- 第 12 回 乳児保育の計画と記録・評価
(1)記録・評価
- 第 13 回 保育の計画と記録・評価
(2)保育者の専門性
- 第 14 回 乳児保育における連携・協働
(1)職員間の連携・協働
(2)保護者との連携・協働
(3)自治体や地域の関係機関などとの連携・協働
- 第 15 回 形成テストとフィードバック
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない
〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
・講義形式で授業を進めるが、適宜演習を取り入れる。
・教科書と資料の内容に沿って進め、適宜DVD視聴により具体的内容を確認しながら学ぶ。
・最終授業で形成テスト及び、授業全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
・事前に指定教科書の「乳幼児期の心身の発達」を読んで、おおまかな子どもの発達について理解しておくこと。
・授業後、教科書や配布資料を見直して、次回までに内容を確認すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
評価は、授業参加度(10%)、授業時の課題や課題提出(20%)、形成テスト(70%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 乳児保育の意義・目的と役割
(1)乳児保育の意義・目的と歴史の変遷
- 第 2 回 乳児保育の意義・目的と役割
(2)乳児保育の役割と機能
(3)乳児保育における養護及び教育
- 第 3 回 乳児保育の現状と課題
(1)乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
(2)保育所における乳児保育
(3)保育所以外の児童福祉施設(乳児院など)における乳児保育
- 第 4 回 乳児保育の現状と課題
(4)家庭的保育などにおける乳児保育
(5)3 歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

健やかな育ちを支える 乳児保育Ⅰ・Ⅱ/高内正子・豊田和子・梶 美保編著/石井浩子・柏 まり・後藤由美・笹瀬ひと美・高井芳江・土谷長子・長倉里香・深澤悦子・森 知子共著/建帛社/2019/9784767951126

『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』/内閣府/厚生労働省/文部科学省/文部科学省/厚生労働省/チャイルド本社/2017年/9784805402580/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『乳児の生活と保育』/松本園子編著/ななみ書房/2015年/9784903355252E12

『やさしい 乳児保育』/伊藤輝子・天野珠路 編著/青踏社/2012年/9784902636178E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

保育・教育課程論

EDI3205N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 前期

金曜 3限

DP2: 知識・理解力

60

田中 裕喜

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

幼稚園・保育所・認定こども園における幼児教育・保育課程の意義と編成の方法についての基礎的事項を学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解する。

幼児教育・保育課程と指導計画の評価や改善の方法について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解していない。	幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解している。	幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解するとともに、その評価や改善の方法について理解している。	幼児教育・保育課程と指導計画の意義や編成の方法について理解するとともに、その評価や改善の方法についても理解しており、幼児教育・保育の現代的課題について主体的に学ぶことができる。
--------	-------------------------------------	------------------------------------	---	--

〔授業計画〕

第 1 回 幼児教育・保育の基本

第 2 回 幼児教育・保育において育みたい資質・能力

第 3 回 幼児教育・保育課程の役割

第 4 回 幼児教育・保育課程の編成

第 5 回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷

第 6 回 現行の幼稚園教育要領・保育所保育指針の特徴

第 7 回 教育・保育課程の社会的機能

第 8 回 指導計画の考え方

第 9 回 短期指導計画とは

第 10 回 領域横断的な指導計画

第 11 回 長期指導計画とは

第 12 回 小学校教育との接続と幼児教育・保育課程

第 13 回 カリキュラム・マネジメントの意義

第 14 回 カリキュラム・マネジメントと園の運営

第 15 回 幼児理解に基づいた評価の実施

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポートを提出。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と演習を中心に行う。ミニレポートは次回授業の中でコメントする。課題は添削して返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

復習を中心とする。自分が保育者になったら、どのような保育をつくっていくのかを考えることが重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験に替わるレポート(50%)、ミニレポート・指導計画など(50%)にもとづいて評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業の状況に応じて、授業計画の変更を行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。適宜資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』/文部科学省・厚生労働省・内閣府/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

乳児保育Ⅱ

EDI3450NOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

1単位 後期前半

火曜3限

DP4: 思考・解決力

30

全7.5コマ

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

養護と教育の一体性を踏まえ、保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。また、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた具体的な援助や関わり、乳児保育の計画について具体的な事例をもとに理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 3歳未満児の発育や発達の過程、この頃の特徴を踏まえた関りや必要な援助について理解を深める。
- ・ 3歳未満児の生活や遊び及びその環境構成、安全管理の方法について習得する。
- ・ 3歳未満児の保育の計画・実践・観察・記録などについて、実際に取り組み、理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	乳児の発育・発達に興味がない	乳児の発育・発達に興味をもち、イメージができる	乳児の発育・発達に関する内容に広く興味をもち、イメージができる	レベル3に加え、将来の乳児への関わりについて、具体的なイメージをもつ

知識・理解力	乳児保育における計画について、理解できない	乳児の発達に合わせた保育内容や必要な援助に関する計画について理解する	より深く、乳児の発達や必要な援助に関する計画について理解できる	レベル3に加え、実際の乳児に対する具体的な援助に関する計画について考えることができる
言語力	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関する言葉が理解できない	乳児の発達や取り巻く環境、援助に必要な言葉が理解できる	乳児の発達や取り巻く環境、援助に関する言葉を理解し、自分で使用できる	レベル3に加え、乳児を保育する上で必要な専門的な言葉を理解し、使用できる
思考・理解力	教えられたことが理解できない	教えられたことを理解し、実際の経験したことに当てはめて考えようとする	基本的な内容を理解し、応用的な課題に対して解決しようとする	レベル3に加え、実際の経験に当てはめ、起こり得る問題を予測し、対応を検討しようとする
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見を受け止め、参考にする	考えたことや意見を周囲の人たちと共有する	レベル3に加え、自分の考えを深めようとする
創造・発信力	乳児の発達や必要な援助について、自分の勝手な考えを発信する	乳児の発達や必要な援助について、根拠に基づいた自分の考えを発信できる	乳児の発達や必要な援助について、自ら周囲の状況を踏まえて、自分の考えを発信できる	レベル3に加え、情報モラルを加味しながら、自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

第 1 回 乳児保育の基本

- (1)子どもと保育士等との関係の重要性
- (2)個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり

第 2 回 乳児保育の基本

- (3)子ども主体性の尊重と自己の育成
- (4)子どもの体験と学びの芽生え

第 3 回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際

- (1)子どもの1日の生活の流れと保育の環境
- (2)子どもの生活や遊びを支える環境の構成

第 4 回 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際

(3)3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際

(4)3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際

(5)子ども同士の関わりとその援助の実際

第5回 乳児保育における配慮の実際

(1)子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮

(2)集団での生活における配慮

(3)環境の変化や移行に対する配慮

第6回 乳児保育における計画の実際

(1)長期的な指導計画

(2)短期的な指導計画

第7回 乳児保育における計画の実際

(3)個別的な指導計画

(4)集団の指導計画

第8回 形成テストとフィードバック

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義で解説をし、その後、演習を行っていく。
- ・教科書と資料の内容に沿って進め、適宜DVD視聴により具体的内容を確認しながら学ぶ。
- ・最終授業で形成テスト及び、授業全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・事前に指定教科書の「乳幼児期の心身の発達」を読んで、おおまかな子どもの発達について理解しておくこと。
- ・授業後、教科書や配布資料を見直して、次回までに内容を確認すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(10%)、授業時の課題や課題提出(30%)、形成テスト(60%)に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

健やかな育ちを支える 乳児保育Ⅰ・Ⅱ/高内正子・豊田和子・梶 美保編著/石井浩子・柏 まり・後藤由美・笹瀬ひと美・高井芳江・土谷長子・長倉里香・深澤悦子・森 知子共著/建帛社/2019/9784767951126

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『乳児の生活と保育』/松本園子編著/ななみ書房/2015年/9784903355252E12

『やさしい 乳児保育』/伊藤輝子・天野珠路 編著/青踏社/2012年/9784902636178E12

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 有資格者として保育園での勤務経験あり。

総合的な学習の時間の指導法

EDP3452N0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

2単位 後期

金曜3限

DP4: 思考・解決力

60

大西 慎也

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「総合的な学習の時間」導入の背景、ねらいについて、学習指導要領の変遷に基づいて理解する。先人の開発したカリキュラムに学びながら、「総合的な学習の時間」のカリキュラムについて理解する。さらに、学習指導案の作成方法、評価の在り方に理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1、「総合的な学習の時間」導入の背景、ねらいについて理解する
- 2、「総合的な学習の時間」のカリキュラム作成について理解する。
- 3、「総合的な学習の時間」の指導案を作成できる。
- 4、「総合的な学習の時間」の評価方法について理解できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	総合的な学習の時間の目標が理解できていない。	総合的な学習の時間の目標が理解できている。	総合的な学習の時間の目標を理解しており、カリキュラムの重要性も理解できている。	総合的な学習の時間の目標を理解しており、カリキュラムの重要性を理解し、実践の開発に活かすことができる。
技能・実践力	本講義のテーマに沿った学習指導案の作成や模擬授業を実施できない。	本講義のテーマに沿った学習指導案を作成できるものの、模擬授業を実施できない。	本講義のテーマに沿った学習指導案を作成し、模擬授業を実施できる。	本講義のテーマに沿っているだけでなく、先人の知見から学んだことを活かしながら学習指導案を作成し、且つ模擬授業を辞しできる。

〔授業計画〕

第1回 「総合的な学習の時間」とは何か (対面)

- 第 2 回 学習指導要領の変遷と「総合的な学習の時間」のねらい（対面）
- 第 3 回 戦前の「総合的な学習の時間」の理論と歴史（対面）
- 第 4 回 戦後の「総合的な学習の時間」の理論と歴史（対面）
- 第 5 回 大正自由教育期と戦後新教育運動期の明石附小における取組（対面）
- 第 6 回 コアカリキュラムとは（対面）
- 第 7 回 コアカリキュラムの視点をふまえた教材研究（対面）
- 第 8 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークのあり方（対面）
- 第 9 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークの実際（対面）
- 第 10 回 「総合的な学習の時間」実践開発のためのフィールドワークのまとめ（対面）
- 第 11 回 コアカリキュラムの視点をふまえた実践開発（オンライン）
- 第 12 回 コアカリキュラムの視点をふまえたカリキュラム開発（オンライン）
- 第 13 回 コアカリキュラムの視点をふまえた学習指導案の作成（オンライン）
- 第 14 回 模擬授業（対面）
- 第 15 回 「総合的な学習の時間」とは何か・まとめ（対面）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義形式で行う。しかし、内容によりグループでの討議など演習も交えながら進める。

* 提出されたレポートは添削し返却したり、講義での討議の課題として活用したりする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

実践を開発するため、文献調査や実地調査を行う必要がある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

毎時間のリフレクションカード30%、開発した実践の内容70%

〔留意事項（Other Information）〕

シラバスは、実態に応じて変更することも有り得る。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編/文部科学省/東洋館出版/2018/978-4491034683/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教職に関わる科目について

／ 小学校教員としての勤務経験あり

ピアノ実技（幼保）A 2021年度以降入学者

EDR1650A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 通年

木曜 3限

DP6: 創造・発信力

30

南 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場で必要な童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法の基礎を修得し、教育・保育現場で必要な音楽理論を理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。

(2)聴く...様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。

(3)歌う・演奏する...発声法や、童謡・手遊びうたを中心としたピアノ演奏法を知る。

(4)表現する...簡単なアンサンブル・合奏を経験し、演奏技術や表現力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ピアノ課題に対し消極的である。	ピアノ課題に取り組もうとする。	ピアノ課題に対し、積極的に取り組み、習得しようとする。	ピアノ課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。
知識・理解力	音楽の基礎的な知識を理解しようとしめない。	音楽の基礎的な知識を少しでも理解しようとする。	基礎的な知識について深め、子どもの表現活動に活用しようとする。	知識を更に深め、子どもの表現活動に応じた活用方法を考える。
言語力	保育・教育現場で必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表しようとする。	子どもの音楽についての工夫などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高めようとする。
思考・解決力	ピアノ演奏法について、練習方	ピアノ演奏法について、練習方	練習方法を工夫し、自分にあった	自分に合った練習方法を重ね、基

	法を考えようとしな い。	法を考えようとする。	方法を見つけようとする。	礎のピアノ演奏技術を身に着ける。
共生・協働する力	グループワークに消極的である。	簡単なアンサンブルや合奏に取り組む。	アンサンブル・合奏における演奏を、グループで工夫する。	アンサンブル・合奏の演奏技術や表現力を高める。
創造・発信力	様々なジャンルに対し、興味を示さない。	様々なジャンルの曲を見つけ、課題として提案する。	提案した曲を聴き、子どもの表現活動にどのように活かすか考える。	レベル3に加え、活用方法について友だちと情報交換する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 譜読みの基礎 (1)
五線譜・音符と鍵盤の位置
全音符・二分音符・四分音符・八分音符と鍵盤上の手フォーム
- 第 2 回 譜読みの基礎 (2)
全休符・二分休符・四分休符・八分休符
十六分音符・十六分休符とへ音記号 ハ長調の音階
- 第 3 回 コードについて (1)
ハ長調主要三和音
コードの見つけ方 コード奏・基本形
- 第 4 回 コードについて (2)
コードの転回形
ブロックコード・アルペジオ・ルート
- 第 5 回 コードについて (3)
G7とマイナーコード
付点二分音符・付点四分音符・付点八分音符
- 第 6 回 拍子について
拍子に合わせた伴奏形と拍子について
- 第 7 回 音符のリズムについて
付点四分音符・付点八分音符の弾き方
- 第 8 回 音階と臨時記号
全音と半音
臨時記号 シャープ・フラット・ナチュラル ト
長調・ハ長調
- 第 9 回 コードについて (4)
ト長調・ハ長調の主要三和音
色々なカデンツの形
- 第 10 回 コード伴奏法応用 (1)
コード省略・ベースライン
- 第 11 回 コード伴奏法応用 (2)
イ短調・ホ短調・ニ短調
- 第 12 回 コード伴奏法応用 (3)
学習してきたことを元に課題にあう伴奏形を考える
- 第 13 回 簡易伴奏の弾き方と作り方

- 伴奏譜のアレンジを考える
- 第 14 回 伴奏の工夫と応用
ピアノ実技テスト曲の解説
- 第 15 回 ピアノ実技テスト
前期ピアノ実技テスト・講評・まとめ
- 第 16 回 オリエンテーション 弾き歌いの姿勢
- 第 17 回 弾き歌いの目線と発声
- 第 18 回 弾き歌いの留意点
- 第 19 回 童謡の発声
- 第 20 回 童謡の表現方法
- 第 21 回 わらべうたの発声
- 第 22 回 わらべうたの表現方法
- 第 23 回 様々なリズムと表記方法 1
四分音符 二分音符
- 第 24 回 様々なリズムと表記方法 2
八分音符 休符
- 第 25 回 新しい拍子と付点のリズム
- 第 26 回 リズムアンサンブル
- 第 27 回 季節の歌の表現方法
- 第 28 回 行事の歌の表現方法
- 第 29 回 その他の歌の表現方法
- 第 30 回 ピアノ実技テスト
後期ピアノ実技テスト・講評・まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
グループレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組み。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
読譜する、鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
15
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季 春夏の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940379

『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」音楽講師、音楽指導員として、保育園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。
短大にてピアノ実技指導経験、小学校音楽授業経験あり。

ピアノ実技（幼保）B 2021年度以降入学者

EDR1650BOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 通年

水曜3限

DP6：創造・発信力

30

南 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「聴く・歌う・演奏する・表現する」をテーマに、実践の場で必要な童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、現場に必要なピアノ技術、歌唱技能及び、その伴奏法の基礎を修得し、教育・保育現場に必要な音楽理論を理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。

(2)聴く...様々なジャンルの曲を聴き、感性を磨く。

(3)歌う・演奏する...発声法や、童謡・手遊びうたを中心としたピアノ演奏法を知る。

(4)表現する...簡単なアンサンブル・合奏を経験し、演奏技術や表現力を高める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ピアノ課題に対し消極的である。	ピアノ課題に取り組もうとする。	ピアノ課題に対し、積極的に取り組み、習得しようとする。	ピアノ課題に積極的に取り組み、レパートリーを増やすことに意欲的である。
知識・理解力	音楽の基礎的な知識を理解しようとしなない。	音楽の基礎的な知識を少しでも理解しようとする。	基礎的な知識について深め、子どもの表現活動に活用しようとする。	知識を更に深め、子どもの表現活動に応じた活用方法を考える。

言語力	保育・教育現場で必要な子どもの音楽についての発表ができない。	子どもの音楽についての発表をしようとする。	子どもの音楽についての工夫などを発表できる。	発表を更に工夫し、保育現場で通用するレベルまで高めようとする。
思考・解決力	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとしなない。	ピアノ演奏法について、練習方法を考えようとする。	練習方法を工夫し、自分にあった方法を見つけようとする。	自分に合った練習方法を重ね、基礎のピアノ演奏技術を身に着ける。
共生・協働する力	グループワークに消極的である。	簡単なアンサンブルや合奏に取り組む。	アンサンブル・合奏における演奏を、グループで工夫する。	アンサンブル・合奏の演奏技術や表現力を高める。
創造・発信力	様々なジャンルに対し、興味を示さない。	様々なジャンルの曲を見つけ、課題として提案する。	提案した曲を聴き、子どもの表現活動にどのように活かすか考える。	レベル3に加え、活用方法について友だちと情報交換する。

〔授業計画〕

第 1 回 譜読みの基礎 (1)

五線譜・音符と鍵盤の位置・全音符・二分音符・四分音符・八分音符と鍵盤上の手のフォーム

第 2 回 譜読みの基礎 (2)

全休符・二分休符・四分休符・八分休符・十六分休符・十六分休符とへ音記号
ハ長調の音階

第 3 回 コードについて (1)

発ハ長調主要三和音
コードの見つけ方 コード奏・基本形

第 4 回 コードについて (2)

コードの転回形と伴奏形
ブロックコード・アルペジオ・ルート

第 5 回 コードについて (3)

G7とマイナーコード
付点二分音符・付点四分音符・付点八分音符

第 6 回 拍子について

拍子に合わせた伴奏形と拍子について

第 7 回 音符のリズムについて

付点二分音符・付点四分音符・付点八分音符の弾き方

第 8 回 音階と臨時記号

全音と半音
臨時記号 シャープ・フラット・ナチュラル ト
長調・ハ長調

第 9 回 コードについて (4)

- ト長調・ヘ長調の主要三和音
色々なカデンツの形
- 第 10 回 コード伴奏法応用 (1)
コード省略・ベースライン
- 第 11 回 コード伴奏法応用 (2)
イ短調・ホ短調・ニ短調
- 第 12 回 コード伴奏法応用 (3)
学習してきたことを元に課題にあう伴奏形を考える
- 第 13 回 簡易伴奏の弾き方と作り方
伴奏譜のアレンジを考える
- 第 14 回 伴奏の工夫と応用
ピアノ実技テスト曲の解説
- 第 15 回 ピアノ実技テスト
前期ピアノ実技テスト・講評・まとめ
- 第 16 回 オリエンテーション 弾き歌いの姿勢
- 第 17 回 弾き歌いの目線と発声
- 第 18 回 弾き歌いの留意点
- 第 19 回 童謡の発声
- 第 20 回 童謡の表現方法
- 第 21 回 わらべうたの発声
- 第 22 回 わらべうたの表現方法
- 第 23 回 様々なリズムと表記方法 (1)
四分音符 二分音符
- 第 24 回 様々なリズムと表記方法 (2)
八分音符 休符
- 第 25 回 新しい拍子と付点のリズム
- 第 26 回 リズムアンサンブル
- 第 27 回 季節の歌の表現方法
- 第 28 回 行事の歌の表現方法
- 第 29 回 その他の歌の表現方法
- 第 30 回 ピアノ実技テスト
後期ピアノ実技テスト・講評・まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グルーブレッスンで童謡・手遊びうたを中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、楽器を使ったリズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。課題の取り組みに対し、授業内発表を行う。授業内発表、実技テスト終了後に、学生の演奏に対して講評を行い、模範演奏例を実演する方法で、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

読譜する、鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

初回授業から五線ノートを持参すること。(指定なし)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業内で適宜プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『幼児の四季 春夏の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940379

『幼児の四季 秋冬の歌』/早川四郎編曲・編纂/エー・ティ・エヌ//9784754940386

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 音楽講師、音楽指導員として、保育園・こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の実務経験あり。

短大にてピアノ実技指導経験、小学校音楽授業経験あり。

ピアノ実技 (小) 2021年度以降入学者

EDR1651A0J

大学

現代人間学部 > こども教育学科

1年次

2単位 通年

水曜 2限

DP6: 創造・発信力

30

南 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ピアノ未経験者を対象に、小学校音楽科の授業に必要な楽譜の知識の理解とピアノの技能を習得する。小学校歌唱共通教材を中心とした課題に取り組み、実践の場で必要なピアノ技術、伴奏法の基礎を修得する。わらべうたのほか、特別支援学校で有用なあそびうたを覚える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)音楽の基礎的知識...コードを理解する。読譜やリズム打ちに必要な基礎知識を学ぶ。

(2)聴く...小学校音楽科教科書に掲載の曲を聴き、音楽の構成を理解する。

(3)演奏する...毎回のピアノ課題でコード奏の基本を習得する。

(4)表現する...簡単なアンサンブルによって、演奏技術や表現力を高める。

(5)書く...写譜やレポート等を通して楽譜を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	出来ないことの克服のために、面	最低限の課題をこなそうと取り組	ピアノや弾き歌い課題について、	提示された課題だけでなく、音楽

	倒に思っている練習を後回しにして、頑張ることができない。	むものの、もう少し努力すべきだと自覚している。	求められているレベルまでこなすことが出来、更なる努力をしている。	技能について自身に未だ不足している力を自覚し、努力を続ける。
知識・理解力	小・中学時代の音楽の授業で習得した知識を殆ど忘れている。	楽譜にある音符や記号などの情報を読み取る力が少し弱い。	教育現場で求められる音楽技能を理解しており、未知のことに対しては貪欲に取り組む。	幼・小・特のそれぞれ違う教育現場で、自身の持っている音楽技能を生かす方法を、探求している。
言語力	音楽記号や音楽用語を覚えようとしない。	最低限の音楽記号や音楽用語を理解し、歌唱教材の歌詞の持つ良さを理解している。	音楽記号や音楽用語の理解に不自由することはなく、歌唱教材の歌詞の内容とメロディーの構成の関係を理解している。	教育現場でそれぞれの歌唱教材を扱うことをイメージ出来ており、楽譜の知識を伝える言葉の使い方を考えることが出来る。
思考・解決力	課せられた課題ができないと、教育現場で何に困ることになるか考えることを回避している。	技能習得において、身に付いていないことがあることを、自覚しており、そのために努力している。	主要三和音を覚え、コードネームを見た瞬時に音構成を把握しながら弾くことが出来る。	主要三和音以外のコードにも興味を持ち、楽譜に表記されていない個所に、コードを当てはめて弾くことが出来る。
共生・協働する力	グループでのアンサンブルに必要な練習を怠る。	アンサンブルを楽しむ気持ちを持って練習することが出来る。	アンサンブルにおいて、他のパートとの音のバランスをよく聴き、演奏を良いものにしていこうとする意欲がある。	より良い表現のために、ブロックコードだけでなく、自主的にリズムを変えて、演奏効果をねらっている。

創造・発信力	課題を人前で弾く練習の必要性を感じていない。	保育者・教育者として技能習得の必要性を理解し、常にその意識をもって課題に取り組める。	他の表現系の授業において、本授業で得た知識と技能を十分に生かすことが出来る。	保育・教育現場における音楽の重要性を理解し、ボランティアなどの場で、自分の知識と技能を生かす方法を実践したり模索したりする。
--------	------------------------	--	--	--

【授業計画】

- 第 1 回 譜読みの基礎 (1)
五線譜・音符と鍵盤の位置・全音符・二分音符・四分音符・八分音符と鍵盤上の手のフォーム
- 第 2 回 譜読みの基礎 (2)
全休符・二分休符・四分休符・八分休符・十六分音符・十六分休符とへ音記号
ハ長調の音階
- 第 3 回 コードについて (1)
ハ長調主要三和音
コードの見つけ方 コード奏・基本形
- 第 4 回 コードについて (2)
コードの転回形
ブロックコード・アルペジオ・ルートと伴奏形
- 第 5 回 コードについて (3)
G7とマイナーコード
付点二分音符・付点四分音符・付点八分音符
- 第 6 回 拍子について
拍子に合わせた伴奏形と拍子について
- 第 7 回 音符のリズムについて
付点四分音符・付点八分音符の弾き方
- 第 8 回 音階と臨時記号
全音と半音
臨時記号 シャープ・フラット・ナチュラル
- 第 9 回 コードについて (4)
ト長調・ヘ長調の主要三和音
色々なカデンツの形
- 第 10 回 コード伴奏法応用 (1)
コード省略・ベースライン
- 第 11 回 コード伴奏法応用 (2)
イ短調・ホ短調・ニ短調
- 第 12 回 コード伴奏法応用 (3)
学習してきたことを元に課題にあう伴奏形を考える
- 第 13 回 簡易伴奏の弾き方と作り方
伴奏譜のアレンジ
- 第 14 回 伴奏の工夫と応用
ピアノ実技テスト曲の解説
- 第 15 回 ピアノ実技テスト
前期ピアノ実技テスト・講評・まとめ
- 第 16 回 オリエンテーション 弾き謡の姿勢

- 第 17 回 弾き歌いの目線と発声
- 第 18 回 弾き歌いの留意点
- 第 19 回 童謡の発声
- 第 20 回 童謡の表現方法
- 第 21 回 わらべ歌の発声
- 第 22 回 わらべ歌の表現方法

- 第 23 回 様々なリズムと表記方法 (1)
- 第 24 回 様々なリズムと表記方法 (2)
- 第 25 回 新しいリズムと付点のリズム
- 第 26 回 リズムとアンサンブル
- 第 27 回 季節の歌の表現方法
- 第 28 回 行事の歌の表現方法
- 第 29 回 ピアノ実技テスト (1)
後期ピアノ実技テスト (コード奏・弾き歌い)
- 第 30 回 ピアノ実技テスト (2) 2
後期ピアノ実技テスト (既成楽譜の弾き歌い)
講評 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

グループレッスンで小学校歌唱共通教材を中心とした課題に取り組み、ピアノ技術を習得する。また、弾き歌い、リズム打ち、簡単なキーボードアンサンブルに取り組む。楽譜浄書を行い、楽譜の理解を深める。年2回の課題曲のテストを行い、終了後に講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

参考文献などで、読譜したり鍵盤楽器に触れる機会を増やし、楽譜や鍵盤に慣れておくこと。歌いながら弾くこと、音楽を聴きながらリズムを刻むなど、日常生活の中で意識して音楽に触れ、経験値を上げること。課外でも構わないので積極的な質問を期待する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10% 提出物10% 確認小テスト20% ピアノ実技テスト60%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

五線ノートを初回から持参すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜プリントを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫音楽講師、音楽指導員として、保育園、こども園での合唱、合奏、鍵盤指導の経験あり。

短大にてピアノ実技指導経験、小学校音楽授業経験あり。

こども教育演習 2021年度以降入学者

EDS3600LOJ

大学

現代人間学部 > こども教育学科

3年次

4単位 通年

水曜3限

DP6: 創造・発信力

120

白瀬 浩司

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができていない。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てることができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てて、取り組んでいる。
創造・発信力	自らが選んだ分野の研究法を理解することができていない。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができている。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができおり、それを用いて研究している。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができおり、それを用いて研究に着手している。

〔授業計画〕

それぞれのゼミにおいて示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ゼミに所属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。

各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。

課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各担当教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

水曜3限、出席必須。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と高齢者

CHS1500NOJ

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目 (実践的科目)

1年次

1単位 前期前半

火曜1限

DP5：共生・協働する力

30

全7.5コマ 選択必修

伊藤 一美 加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

超高齢社会において人々がより良く生きるには、高齢者を正しく理解し、高齢者と上手にかかわることができるとともに、高齢者を支援できる人材が豊富であることであろう。本講義では、生活学や老年学および心理学の視点から現代社会における高齢者についての知識を身に付け、理解を深める。

また、他者としての高齢者を学ぶだけでなく、受講者自身も老いゆく存在として自分のライフコースとも関連付けて学ぶ。

それにより、人生の先輩として高齢者から学ぶと同時に、共に社会を支える同時代人として、多様性の中で共生・協働する力を得ることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・第1部 (前半) は、超高齢社会の現状を概観し、生活学や老年学の視点から、高齢者の健康、老化、コミュニケーション、生活、社会交流などについて講義や討論によって理解を深める。また、高齢者を正しく理解し、高齢者を支え、高齢者とともに生きるための基礎知識を学ぶ。

・第2部 (後半) は、生涯発達心理学における高齢期の位置づけと、現代の多様な老いのプロセスや発達課題について、受講者自身のライフコースや時間的展望と関連付けながら学ぶ。また、高齢者における認知、パーソナリティ、家族

を含む対人関係の特徴などについて、心理学的な理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自身が関与するテーマとして捉えられない。	自身の問題に引き寄せて考えようとしている。	身近な人々や自分の成長に活かそうとしている。	積極的に自己や社会全体のために活かす方法を考えている。
知識・理解力	高齢期の特徴についての知識が理解できない。	高齢期の特徴について個々の知識を覚えることができる。	高齢期の特徴や現状について授業以外でも積極的に情報収集できる。	高齢期について得た知識を実生活の中で活用・応用できる。
共生・協働する力	異世代との共生について、関心をもち想像することができない。	異世代間での共生・協働について考えようとしている。	さまざまな世代が共生し社会や地域を豊かにすることに、想像力を働かせている。	さまざまな世代が共生し社会や地域を豊かにできるよう、実際に行動しようとしている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 第1部 オリエンテーション：高齢社会の現状、老化と健康
(担当：加藤)
- 第 2 回 第1部 高齢者の生活 (衣食住)
(担当：加藤)
- 第 3 回 第1部 高齢者を正しく理解する (ディスカッション)
(担当：加藤)
- 第 4 回 第1部 発表とまとめ/第2部 オリエンテーション：ライフサイクル
(担当：加藤) ...前半の65分
(担当：伊藤) ...後半の25分
- 第 5 回 第2部 高齢者と子どもの関わり
(担当：伊藤)
- 第 6 回 第2部 高齢者の認知とパーソナリティ
(担当：伊藤)
- 第 7 回 第2部 認知症と家族
(担当：伊藤)
- 第 8 回 第2部 発表とまとめ
(担当：伊藤) ...前半の45分

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主に講義を中心とするが、ビデオ素材への感想やワーク課題を通して、ディスカッション、発表なども行う。

テキストは用いず、プリント資料を配布する。
 学生からの発表や発問、ワーク課題に対しては、適宜記述や口頭でのフィードバックを行う。

なお、授業コンテンツの提示や課題提出が遠隔（オンライン）での授業形態となる場合もある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・日頃から高齢者に関わるニュースやトピックに目を向けておく。

・身近な高齢者との接点を積極的に持ったり、観察の機会を増やす。

・高齢者に対する自身の考えや意見を書き留めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

第1部（加藤）：コメントシート15%、最終レポート25%、授業参加度10%。

第2部（伊藤）：ワークシート30%、最終レポート10%、授業参加度10%。

※第1部と第2部の評価を加算して最終評価とする。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 / 臨床心理士として医療施設での勤務経験あり（伊藤）

現代社会と病者・障がい者

CHS1501N0J

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目 (実践的科目)

1年次

1単位 前期後半

木曜5限

DP5：共生・協働する力

30

全7.5コマ 選択必修

三好 明夫 萩原 暢子 酒井 久美子 江川 正一

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代社会における病を抱えた人、障がいのある成人やこどもの生活様態や生活困難性を理解するとともに、それへの支援に向けた教育や社会制度の課題について、主として社会福祉学、教育学、心理学の観点から、様々な事例を交えながら学びます。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

現代社会に生きる人たちは自身や家族の問題や環境による問題なども抱えながら生活しています。さまざまな事例を学び、それぞれの課題を理解し、どのような支援が考えら

れるのかを検討しながらボランティア活動などでも活かせるようになることをめざします。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	病者、障がい者を意識できない	病者、障がい者の理科を考える	病者、障がい者を支援する力量を構築する	病者、障がい者を支援する専門職としての自身を検討する
知識・理解力	病者、障がい者に対する知識理解ができない	病者、障がい者に対する支援内容について理解できる	病者、障がい者の状況、領域ごとの支援が理解できる	さまざまな病者、障がい者の個別支援方法が理解できる
言語力	病者、障がい者の専門分野の用語が理解できない	病者、障がい者の専門用語と内容について理解する	病者、障がい者の簡易な事例の対応が言語化できる	病者、障がい者の複雑な事例の対応が言語化できる
思考・解決力	教わったこと以上は考えようとしていない	病者、障がい者の日常生活での支援に思いをはせる	病者、障がい者の日常生活支援の重要性を具体的にイメージする	病者、障がい者に必要なコミュニケーション技術の展開を考える
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献を参考にしながら病者、障がい者の支援共生を考える	考えた結果を他者と共有しさらに自分の考えを深めていく	レベル3に加えて病者、障がい者支援での学びを活用する
創造・発信力	自分で勝手に判断したり想像した内容を発信する	周囲の状況を見極めて病者、障がい者に必要な情報収集する	幅広い学びの知識を集約して病者、障がい者の問題解決を考える	レベル3に加えて病者、障がい者との共生実現への支援策を検討する

〔授業計画〕

- 第1回 現代社会と病者・障がい者について
本科目、講義の進め方の説明、概説（三好）
- 第2回 災害福祉 復興と再開
東日本大震災での被災者支援活動の実際（三好）
- 第3回 地域福祉 地域生活と社会進出
障がい者の地域生活移行と社会進出の現状と課題（酒井）
- 第4回 教育福祉 発達障害
発達障がいのある子どもと教育（江川）
- 第5回 教育福祉 病気療養
病気治療中・療養中の子どもの教育（江川）

第 6 回 女性の生殖器と排卵

女性の生殖器については、名称や病気との関連について解説する。また、主な機能である排卵について、種々のホルモンとの相互関係から、女性の性周期を元に解説する（萩原）

第 7 回 婦人科疾患

婦人科での診察と検査の実際を説明し、子宮内膜症、子宮筋腫、更年期障害、子宮頸がんについて詳述する（萩原）

第 8 回 社会とその人らしい生活の理解

現代社会において病・障がい者がその人らしく暮らしていけるための支援(酒井)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。各担当教員からレポートの指示がある。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式で社会福祉学、教育学、心理学の各担当教員が事例も示しながらすすめる。必要に応じてDVDやOHCなどを使用する。

レポートの課題については各教員から説明を行い、レポートの内容についてのフィードバックも担当教員により実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

受講希望者は新聞やネットニュースなどから病者、障がい者に関する記事を読んでみてもらいたい。病者、障がい者への関心や問題意識を持って臨むことが準備となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は授業参加度 (40%) と4回のレポート (60%) の総合評価。欠席日数は7.5回のうち2回が評価対象とします。各担当教員からレポート課題が出される。

〔留意事項 (Other Information)〕

担当教員が複数であることと実施回数が少ないので欠席に留意してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業で適宜、資料等の印刷物を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて授業中に指示をします。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験あり、医師、教員、社会福祉士として専門機関で実務を行った。

病児の発達と支援

CHS1552N0J

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目 (実践的科目)

1年次

2単位 後期集中

その他

DP5 : 共生・協働する力

60

定員40人 集中

萩原 暢子 伊藤 一美 岩崎 れい 薦田 未央 植田 恵理子 太田 容次 江川 正一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

病気を抱える子どもたちの苦しみを理解し、発達を支援する方法を学ぶ。すなわち、小児科病棟でのボランティア活動をモデルに、病気の子どものサポートのあり方を理解していく。そこで、小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師などの立場から概説する。次に、子どもたちが直面する疾患の基本的な知識や心のケアについて学ぶ。また、子どもたちをサポートするための発達に沿った遊びの役割や、手技などの実践を学習する。この際、グループ単位の演習形式を取り入れ、それぞれの意見を取り入れながら、一つのを完成させることで、協働について学ぶ。院内学級での支援についても、現場を見学し、院内学級を担当している講師からその実際を学ぶ。さらに、ボランティアをする学生自身のケアについても学ぶ。最終的に、学生が小児医療ボランティアに精通し、実践できるようになる。(オムニバス式/全15回)

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師の立場から学ぶ。
2. 小児の疾患について、基礎的な知識や心のケアを学ぶ。
3. 子どもたちの発達に沿った遊びについて学ぶ。その際、グループ作業によって、協働する力を養う。
4. 院内学級での学び支援について学ぶ。
5. ボランティアをする学生自身のケアについて学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	小児に対するボランティア活動の意義が分からない	小児に対するボランティア活動の意義を理解できる	小児に対するボランティア活動の意義をより深く理解できる	小児に対するボランティア活動の意義を周囲の人たちにも理解してもらえるように働きかける

知識・理解力	小児医療ボランティア活動の意味が理解できない	小児医療ボランティア活動の意味が理解できる	小児医療ボランティア活動の意味をより深く追求する	小児医療ボランティア活動をより子どもたちに喜ばれるように内容を深めて追求する
言語力	小児医療ボランティアで使われる言葉の意味が分からない	小児医療ボランティアで使われる言葉の意味が理解できる	小児医療ボランティアのより高度な内容について使用言語を理解できる	小児医療ボランティアのより高度な内容に関して周りの人たちへも言語の意味を指導できる
思考・解決力	小児医療ボランティアについて教えられたこと以外は考えようとしていない	小児医療ボランティアでの課題を解決しようとする	小児医療ボランティアにおける課題を解決できる。	小児医療ボランティアにおける課題を解決でき次のステップに進める
共生・協働する力	小児医療ボランティアに関して他者の意見を参考にしない	小児医療ボランティアについて他者の意見をしっかりと聞いて考える	小児医療ボランティアにおける課題を他者と協働して解決できる。	レベル3に加えて考えた結果を周囲の人たちと共有しさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	小児医療ボランティアについて自分の勝手な考えを発信する	小児医療ボランティアについて自ら周りの状況を踏まえて自分の考えを発信する	小児医療ボランティアについてより高度な内容を自ら考えだして周囲の状況を踏まえて発信できる	レベル3に加えてさらに情報も加味しながら自分の考えを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション)
講座の説明を行う。(担当: 全員)
- 第 2 回 (子どもの発達と遊び 1)
子どもの年齢段階による発達の特徴とそれに沿った遊びやかかわり、ボランティアの意義、その上で入院児における遊びの留意点を学ぶ。(担当: 薦田、伊藤)
- 第 3 回 (子どもの発達と遊び 2)
絵本の読み聞かせにおいて、さまざまな絵本の種類と年齢や入院生活を考慮した選書について学び、演習を交えて基本的なスキルを学ぶ。(担当: 岩崎、植田、薦田、伊藤)
- 第 4 回 (子どもの発達と遊び 3)

- 小児医療現場での遊びを想定し、また、実際のボランティア活動「NDシアター」の活動内容へのつながりを考え、プレイルームでの手遊びやペープサートなど、交流を含めた遊びを紹介する。(担当: 植田、薦田、伊藤)
- 第 5 回 (子どもの発達と遊び 4)
絵本の読み聞かせて取り上げた作品を素材に、グループごとにペープサートの演習を行う。(担当: 植田、薦田、伊藤)
- 第 6 回 (小児医療概論 1 子ども病気について①)
子どもの健康状態のみかたと、主に感染症について述べる。(担当: 萩原)
- 第 7 回 (小児医療概論 2 子ども病気とこころ)
病気の子どものこころの状態について、物語を通して学ぶ。(担当: 河瀬)
- 第 8 回 (子どもの学び 1)
桃陽総合支援学校府立医大分教室での取り組みについて詳述する。(担当: 江川、太田)
- 第 9 回 (子どもの学び 2)
長期入院・短期入院の児童生徒の学習の実態と問題点について学ぶ。(担当: 江川、太田)
- 第 10 回 (子どもの学び 3)
桃陽総合支援学校の取り組みなどについて学ぶ。(担当: 江川、太田)
- 第 11 回 (小児医療概論 3 子ども病気について②)
子どもがかかりやすい病気や、府立医大に入院している子どもたちがかかるような病気について、症状や原因、治療について述べる。(担当: 萩原)
- 第 12 回 (ボランティア 1)
ボランティアへの期待について、府立医大の小児科医と看護師長からの講義を聞く。(担当: 小児科医師、センター看護師長、萩原)
- 第 13 回 (グリーフの理解)
小児医療ボランティアに当たり、病気子ども達との関わり方について緩和ケアの看護師長から講義を聞く。(担当: 府立医大看護師長、萩原)
- 第 14 回 (ボランティア 2)
小児ボランティアの必要性とその難しさについて、YMCAより講師を招いてボランティアの実際状況について学ぶ。(担当: YMCAより派遣講師)
- 第 15 回 (総括)
各自で講座全体の振り返りを行い、グループで話し合ったことを発表する。(担当: 全員)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. 授業方式
講義形式を中心に、グループに分かれて演習形式や、現場への見学実習が含まれる。
 2. 学習方法
(1) プリントに沿って行う。

(2) パワーポイントを用いて、イメージを作っていく。
 (3) グループに分かれた演習はディスカッションや、「子どもの遊び」ではロールプレイ、や共同制作などの方法で行う。

(4) 見学実習では、現場での説明を行う。

3. テキスト・参考文献

(1) テキストは用いない。

(2) 参考文献は、「その日のまえに」(文春文庫)

・最終授業の総括で全体の振り返りをして、フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・「ボランティア活動」について、自分で学習し、イメージを作っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 評価は、授業参加度 (30%)、最終レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

2. 欠席については、詳細を留意事項で示す。

〔留意事項 (Other Information)〕

1) 2月中の集中講義となる。京都府立医科大学で実施される授業の日程は、授業の中で説明があるので、集合時間と場所を確認すること。

2) 全授業出席することが、合格の条件となる。ただし、指定の授業以外で4回以内の欠席であれば、当該授業のDVD視聴とレポートにより、担当教員の承認が得られれば出席扱いとなる。

4) 指定の授業 (第1回、第4回、第5回、第9回、第10回、第12回～第14回) を1回でも欠席すると、不合格となる。

5) この科目は、府立医科大学附属病院小児医療センターでの実践講座に引き継がれる。実践講座に参加するためには、この科目の修了が必須条件となっている。

6) コロナウイルス感染の状況により、オンライン授業となる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『その日のまえに』/重松 清/文春文庫/2012/授業用に貸し出す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

医師として病院等での診療経験、教員として特別支援学校・養護学校 (知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)、小学校 (難聴学級担任) での勤務経験、特別支援学校校長としての勤務経験、臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験、有資格者として、学校園での実務経験を有する教員がオムニバスで担当する科目。

情報科学 B

CHS3400NJ

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目

3年次

2単位 後期

月曜 5限

DP4: 思考・解決力

60

神月 紀輔

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになってきている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなっている。

本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを知るとともに、扱われる情報の価値や、人権問題にも目を向け基礎的な情報倫理の知識も知ること目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. コンピュータの構造について学ぶ
2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ
3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない。	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し、人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの区別がない	情報のデジタル化についてその仕組みを理解し、内部構造を理解できる。	情報のデジタル化の仕組みが理解でき、PCの内部構造や、その他の機器の構造を理解できる	さまざまなアルゴリズムを理解し、デジタル化された機器の長所・短所がわかる。
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとしな	プログラムを動かすための言語があることを理解する。	簡単なプログラミングができる。	プログラミング言語を理解し、生活の中で役立てる。
思考・解決力	教えられたこと以上は	デジタル化の応用が生活の中にあ	プログラミング的思考	機器も含めて、人と人のコミュニ

	考えようとしていない	ることを考える	をする力がある	ケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに、情報技術について考えようとする	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする。	レベル4に加えて、情報ネットワークなども正しく用いて、考えを深める。
創造・発信力	自分勝手な、情報の発信を行う。	自ら、周囲の状況を踏まえて、情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、情報の扱い方を考える。	レベル4に加えて、情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の概要紹介
- 第 2 回 情報理論とデジタル・アナログ
- 第 3 回 ハードウェアとソフトウェア
- 第 4 回 コンピュータの仕組みとOS
- 第 5 回 コンピュータの誕生とその背景
- 第 6 回 コンピュータの発展 小テスト1回目と解説
- 第 7 回 情報のデジタル化 数・文字
- 第 8 回 情報のデジタル化 音声・画像
- 第 9 回 問題解決とアルゴリズム
- 第 10 回 プログラミング 小テスト2回目と解説
- 第 11 回 情報の信頼性と信憑性
- 第 12 回 知的財産権の保護
- 第 13 回 情報を守るセキュリティの仕組み
- 第 14 回 情報モラルの考え方 小テスト3回目と解説
- 第 15 回 全体のまとめ、自己評価

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

この講義は、全講義をオンライン学習によって行う。
manabaコースを用いて講義前に授業資料・教材を配信する。

講義の流れ

- 1 manabaコースのコースニュースに予定を配信する
- 2 授業時間開始時に、manabaコースのコンテンツに教材を配信する。
- 3 コンテンツの指示に従って学習を進める
- 4 responで毎回のコメントを提出し、自分の理解度を把握しておく
- 5 1に戻る
- 6 月に1回のペースで小テストを行い、自分で学習の進捗を確かめる

responを用いて講義ごとの振り返りを行い、授業への質問・

感想などの記入を求め、授業内でフィードバックを行う。小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするとうい。コンテンツの資料は全講義が終了するまで、復習や抜けた講義のために、いつでも閲覧できるようにしておく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。なお、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架する予定である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

30点満点の小テストを3回実施し、授業への参加度(コメントの入力態度を含む)・毎回のresponへの授業コメントおよび自己評価を加えた10点を加算し100点満点で評価を行う。3回の小テストで合計点が60点に満たない場合は、補講期間に追試を実施する。

〔留意事項 (Other Information)〕

この講義は、2020年度以前入学者用の科目である。2021年度以降入学生は受講できないので注意すること。

オンラインによる学習のため、動画をみたり、responの提出ができるように、PCやスマホの準備をしておく。

質問はmanabaコースのスレッドで受け付ける。

初回に受講の仕方を説明する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

配布資料を中心に解説するので教科書は指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報とコンピューティング』/河村一樹/オーム社/2011/9.78427421086E12

『コンピュータを使わない情報教育アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進/イーテキスト研究所/2007/9.784904013007E12

『アルゴリズムの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2003/9.784798104522E12

『パソコンの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2010/9.784798122526E12

『OSの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2011/9.784798124629E12

上記の参考文献は配布プリントに引用する予定である。

また、これらの参考文献以外にも講義時に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会と人間

CHS1502N0J

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目

1年次

2単位 前期

木曜 5限

DP5：共生・協働する力

60

松島 るみ 廣瀬 直哉 牛田 好美 安川 涼子 太田 容次

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会においては、様々な問題が山積している。例えば、私達の日常生活に目を向けてみると、私たちが着る衣服は、誰がどこでどのようにつくっているのだろうか。そして私達が着なくなった衣服はどのくらいあり、それらの衣服をどのようにすればいいのだろうか。また、感染症や病気、障害、貧困や格差、ジェンダー、言語などの問題等により、一般の公教育が受けられない子どもがいる。さらに、人間の開発により毎年多くの森林が減少し、そこに棲む生物が少なからず絶滅の危機に瀕しているという問題もある。あなたはこのような問題について、どの程度「自分達に関係があること」と考えているだろうか？

この授業では「SDGs (エスディーゼーズ) (Sustainable Development Goals)」の考え方に基づいて授業を進める。SDGsは日本語で「持続可能な開発目標」とされ、具体的には、「人間が地球でずっと暮らしていけるような世界をつくるための目標」を考えるとということである。

本授業では、私達を取り巻く社会にはどのような問題があるのかを考えるとところから始める。そして、各問題について、「ひとごと」ではなく、「自分達の力で考え・解決すべきこと」として、他者と協働しながら問題解決の方法を検討することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①現代社会の諸問題に関する理解を深めるとともに、課題を設定する力を身につける。
- ②SDGsに関する基礎知識を習得する。
- ③他者と協働しながら、問題解決する力を身につける。
- ④自分自身の考えを他者に発信する力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	SDGsに関する知識が身についていない。	ある程度、SDGsに関する知識を身につけている。	おおむねSDGsに関する知識を身につけている。	SDGsに関する十分な知識を身につけている。

言語力	自分の考えを文章化したり、他者とコミュニケーションする言語力が身につけてない。	ある程度、自分の考えを文章化したり、他者とコミュニケーションする言語力を身につけている。	おおむね自分の考えを文章化したり、他者とコミュニケーションする言語力を身につけている。	自分の考えを文章化したり、他者とコミュニケーションする十分な言語力を身につけている。
思考・解決力	与えられた課題について、論理的な思考によって解決する力が身につけていない。	ある程度、与えられた課題について、論理的な思考によって解決する力を身につけている。	おおむね与えられた課題について、論理的な思考によって解決する力を身につけている。	与えられた課題について、論理的な思考によって解決する十分な力を身につけている。
共生・協働する力	他者と共生・協働し問題解決する力が身につけていない。	ある程度、他者と共生・協働し問題解決する力を身につけている。	おおむね他者と共生・協働し問題解決する力を身につけている。	他者と共生・協働し問題解決する力を十分身につけている。
創造・発信力	自らの成果をまとめ、創造的に発信する十分な力が身につけていない。	ある程度、自らの成果をまとめ、創造的に発信する力を身につけている。	おおむね自らの成果をまとめ、創造的に発信する力を身につけている。	自らの成果をまとめ、創造的に発信する十分な力を身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 現代社会における問題を考える (松島)
- 第 2 回 SDGsとは何か? (松島)
- 第 3 回 被服と人間の関係① 衣服をつくる責任(問題提起) (牛田・安川)
- 第 4 回 被服と人間の関係② 衣服をつかう責任(問題提起と課題設定・情報収集) (牛田・安川)
- 第 5 回 被服と人間の関係③ 衣服をつくる責任、つかう責任(問題解決の提案・実践) (牛田・安川)
- 第 6 回 被服と人間の関係④ 衣服をつくる責任、つかう責任(発表と討議) (牛田・安川)
- 第 7 回 自然と人間の関係① 問題の提起に関する講義(廣瀬)
- 第 8 回 自然と人間の関係② 課題設定と情報収集(廣瀬)
- 第 9 回 自然と人間の関係③ 発表資料の作成(廣瀬)
- 第 10 回 自然と人間の関係④ グループごとの発表と討議(廣瀬)
- 第 11 回 質の高い教育をみんなに①問題の提起に関する講義(太田)
- 第 12 回 質の高い教育をみんなに②課題設定と情報収集(太田)
- 第 13 回 質の高い教育をみんなに③発表資料の作成(太田)

第 14 回 質の高い教育をみんなに④グループごとの発表と討議（太田）

第 15 回 振り返りとまとめ（松島）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

①現代社会において私達を取り巻く諸問題について、各自情報収集する。

②各自の考えを他者と共有し、課題解決の方法をグループワークで検討する。

③各グループで検討したことをそれぞれ発表し、ディスカッションを行う。

④プレゼンテーションや振り返りについては、適宜manabaでフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

・日頃より、国内、国外問わず、現代社会における問題について関心を持ち、新聞やインターネットで情報を収集する習慣を身につける。

・SDGsに関する情報を事前に調べておく。

・授業前に出された課題や作業は必ず次の授業までに完成させること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

各テーマにおける授業参加態度・他者との協働・プレゼンテーション（30%×3）および振り返り課題（10%）により総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

こどもと自然

CHS1503NOJ

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目

1年次

2単位 集中

その他

DP5：共生・協働する力

60

高井 直美 薦田 未央 小川 博士 藤本 陽三

〔科目の教育目標（Course Description）〕

地域の子どもや家族と大学生が、自然素材を活用し、野外や屋内で交流する。年2回実施予定の「自然と遊ぼう！」プログラムに企画段階から関わることを通して、地域社会への能動的発信力や対人関係スキルを身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

①自然科学の面白さ・不思議さを子どもに伝える力・感性を身につける ②新たな遊びを考案する創造力を養う ③他者と共同作業を行う際の協調性を身につける ④幼児・児童の心理や関わり方を実践的に学ぶ ⑤イベント情報を発信するためのスキルと作法を学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分を成長させようとする動機づけがみられない	自分で企画を考える動機づけがある程度みられる	自分で企画を考える動機づけがおおよそみられる	自分で企画を考える動機づけがかなりみられ、積極的に行動する
知識・理解力	子どもに伝える自然科学の知識を習得しようとしめない	子どもに伝える自然科学の知識をある程度持っている	子どもに伝える自然科学の知識をおおよそ持っている	子どもに伝える自然科学の知識をかなり持っている
言語力	自分の考えを文章にまとめる言語力がみられない	自分の考えを文章にまとめる言語力をある程度持っている	自分の考えを文章にまとめる言語力をおおよそ持っている	自分の考えを文章にまとめる言語力をかなり持っている
思考・解決力	企画を実現する方法を考えようとしめない	企画を実現する方法をある程度考えることができる	企画を実現する方法をおおよそ考えることができる	企画を実現する方法をかなり考えることができる
共生・協働する力	グループで協力する姿がみられない	グループで協力して企画を準備することがある程度できる	グループで協力して企画を準備することがおおよそできる	グループで協力して企画を準備する際にリーダーとなる
創造・発信力	イベントの際に、自分の役割を果たすことができない	イベントの際に、自分の役割をある程度は果たす	イベントの際に、自分の役割をおおよそ果たす	イベントの際に、リーダーとして活躍する

〔授業計画〕

第 1 回 幼児と小学生の自然との関わりについて

これまでの「自然と遊ぼう！」で行ってきたことを振り返る。担当教員：高井・小川・藤本・薦田

第 2 回 こどもの好奇心を引き出す遊びについて

自然科学を遊びで体験する方法を学ぶ。担当教員：高井・小川・藤本・薦田

第 3 回 今年度のテーマについて

テーマに応じた「自然と遊ぼう！①」の企画のイメージ作り。担当教員：高井・小川・藤本・薦田

第 4 回 グループで企画を立てる

- グループで「自然と遊ぼう!①」の企画・実施案を検討する。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 5 回 企画の実施方法を検討
各グループで「自然と遊ぼう!①」で企画内容の実施方法を考える。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 6 回 企画の試行1回目
各グループで「自然と遊ぼう!①」で行う企画を試行する。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 7 回 企画の修正
各グループで「自然と遊ぼう!①」で行う企画を修正しながら、完成に近づける。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 8 回 企画の決定
各グループで行う、「自然と遊ぼう!①」で行う企画内容が十分か検討し、固める。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 9 回 企画の準備
各グループで「自然と遊ぼう!①」で行う企画の準備を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 10 回 イベント全体の準備
他のグループの企画にも参加し、イベント全体の準備を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 11 回 「自然と遊ぼう!」当日準備前半
「自然と遊ぼう!①」当日の準備（前半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 12 回 「自然と遊ぼう!」当日準備後半
「自然と遊ぼう!①」当日の準備（後半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 13 回 「自然と遊ぼう!」実施（前半）
「自然と遊ぼう!①」の実施（前半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 14 回 「自然と遊ぼう!」実施（後半）
「自然と遊ぼう!①」の実施（後半）担当教員：高井・小川・藤本・薦田
- 第 15 回 今後の活動に向けて反省と課題
「自然と遊ぼう!①」の振り返りと「自然と遊ぼう!②」の企画を行う。担当教員：高井・小川・藤本・薦田

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

①教員によるオリエンテーション ②グループでの自然科学体験（観察や実験など）および遊びの企画 ③参加者募集のチラシ作成 ④実施の準備 ⑤「自然と遊ぼう!」の実施 振り返りとショートレポート（授業参加態度の評価について、最終週にフィードバックを行う）

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

身近な自然（草木花、木の実、昆虫、自然現象など）に興味を持ち、観察や実験を行う。

自然物や身近なものを使った造形遊びやゲームのアイデアを広げる。

身近にいる子どもに関心を持ち、どのくらいの年齢の子ど

もがどのような行動をするか、何に興味を示すのか、しっかりと観察する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度80%、ショートレポート20%

〔留意事項（Other Information）〕

「自然と遊ぼう!」イベントは、地域の子どもたちを対象に行う。ある一日（7月頃を予定）の日曜日で4コマを充てる（その分、通常の授業時間が4コマ休講となる）。1回目の授業や掲示で、日曜日の実施日を確認したうえで、登録を確定すること。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

小川・藤本：教員として学校に勤務経験あり。

海外文化研修 2021年度以降入学者

ID E1252N0J

大学

現代人間学部 > 現代人間学部共通科目・学科横断プロジェクト型科目

1年次 2年次 3年次 4年次

1単位 集中

その他

DP2：知識・理解力

15

集中

金 美仙

〔科目の教育目標（Course Description）〕

外国の文化を現地での体験を通して学習する。

異文化を知るにとどまらず、広い視野と多角的な視点を持つことを目指す。

文化の多様性を認め、尊重し合う知性を求める。

他国の文化と日本の文化とを比較しながら、日本の文化をより具体的に認識する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

出発前に予習学習を行い、現地で体験する文化に対する理解力を高める。

現地での文化体験が観光レベルで終わらないように記録を残す。

記録は学習項目ごとに「学習した内容」と「感想」とで構成する。

研修終了後に項目ごとに記録したものをまとめる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

(1) 韓国文化研修日程 (予定)

2022年2月13日 (日) ~ 2月19日 (土) 7日間

(2) 研修先 (韓国)

安東 (伝統村)、美術館、保健・環境事業の施設

(3) 授業計画: 伝統文化研修 (下記①と②)、現代社会研修 (下記③)

①安東で衣食住に関する伝統文化を体験する (2日間)

②ハンゲル博物館及び美術館を見学 (1,5日間)

③産後調理院とエコ環境事業部、明洞無料食堂で見学 (1,5日間)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 事前講義・事後指導

下記の内容の事前講義2回、事後指導1回の計3回を必ず受講すること。

具体的な日程は、後日調整のうえ決定する。

①伝統的な生活文化及び芸術文化

②エコ発電に対する韓国市民社会の取り組み

③韓国の現代社会における保健・福祉のあり方

(2) 研修内容

①伝統的な生活様式や礼儀作法について体験し、知識を得る

②博物館や美術館などで伝統的な芸術文化を学ぶ

③市民が活躍するエコ環境事業を知る

④産後調理院や明洞無料食堂などを見学し、韓国市民の保健・福祉に対する考え方を学ぶ

(3) 学習方法

①事前講義、事後指導は必ず出席すること。海外研修における積極的な受講姿勢が望まれる。

②研修のまとめとして、パワーポイントによる発表とディスカッションが求められる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

韓国の地理、歴史、文化などについてインターネット等で知識を得ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

事前・事後講義の授業参加度、研修時の参加態度・受講姿勢・研修のまとめの発表内容とディスカッションへの参加姿勢に基づき評価し、帰国後単位を認定する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 研修プログラムの詳細や受講申し込み方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに募集説明会において知らせる。

2. 受講者が最少催行人数 (10名) に達しない場合または研修先の情勢によって研修の実施を取り止める場合がある。また、スケジュールは現地受け入れ機関及び交通機関などの都合により変更になることがある。

3. 研修参加決定者は、事前・事後指導 (計3回) 及び渡航前にオリエンテーション (1月18日 (火) 予定) に必ず出席すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

現代社会とこども

CHS1200N0J

大学

現代人間学部

1年次

1単位 前期前半

木曜 5限

DP2: 知識・理解力

30

全7.5コマ 選択必修

高井 直美 渡邊 春美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代社会における、こどもの生活世界の現状と課題について、こども教育の観点とこどもの発達心理学の観点からのより広い知識から理解し、「今」を生きるこどもとそれを取り巻く人々や社会の在り方について考えることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 小学校就学前のこどもたちの保育・教育状況

2. 小学校就学後のこどもたちの教育状況

3. 新学習指導要領におけるこどもたちの位置づけ

4. 現代社会を生きるこどもの遊び

5. こどもに対する虐待

6. 現代社会の子育て事情

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に真面目に出席し、自分を育てようと	授業に真面目に出席し、自分を育てようと	授業に真面目な態度で出席し、自分を育てよ	授業に真面目な態度で出席し、自分を育てよ

	する動機づけがみられない	する動機づけがある程度みられる	うとする動機づけがみられる	うとする動機づけが、しっかりとみられる
知識・理解力	現代社会と子どもに関する知識・理解力が不十分である	現代社会と子どもに関する知識・理解力がある程度みられる	現代社会と子どもに関する知識・理解力がおおよそみられる	現代社会と子どもに関する知識・理解力が十分にある
言語力	文章を読む力、自分の考えを書く力がみられない	文章を読む力、自分の考えを書く力がある程度ある	文章を読む力、自分の考えを書く力がおおよそある	文章を読む力、自分の考えを書く力がかなりある
思考・解決力	現代社会と子どもに関する諸問題について、思考できない	現代社会と子どもに関する諸問題について、ある程度は思考する	現代社会と子どもに関する諸問題について、思考する	現代社会と子どもに関する諸問題について、しっかりと思考する
共生・協働する力	現代社会の問題について、真剣に考えようとしない	自分も社会の一員として、現代社会の問題について、考えようとしている	自分も社会の一員として、現代社会の問題について、真面目に考えている	現代社会の問題について、真面目に考えて、社会に貢献する大人になろうという動機づけを持っている
創造・発信力	自分の考えを創造・発信しようとする動機づけがない	自分の考えを創造・発信しようとする動機づけがある程度ある	自分の考えを創造・発信しようとする動機づけがおおよそみられる	自分の考えを創造・発信しようとする動機づけが、かなりの程度みられる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
 こどもの遊びの今昔・小レポート課題提示 担当教員：高井
- 第 2 回 親子関係とこどもの発達
 なぜ児童虐待は起こるのか？・小レポート提出 担当教員：高井
- 第 3 回 早期教育とこどもの発達
 早期教育・英才教育の今昔・小レポート提出 担当教員：高井
- 第 4 回 こどもの発達・まとめ
 現代社会のこどもの発達（まとめ） レポート提出 担当教員：高井
- 第 5 回 こどもを巡る環境と教育
 こどもと生活規律・小レポート提出 担当教員：白瀬

第 6 回 こどもを巡る環境と教育
 こどもといじめ・小レポート提出 担当教員：白瀬

第 7 回 こどもを巡る環境と教育
 こどもとインターネット・小レポート提出 担当教員：白瀬

第 8 回 こどもを巡る環境と教育
 まとめ・レポート提出（45分授業） 担当教員：白瀬

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義形式
2. 討論
3. 小レポートの作成
4. フィードバック方法 小レポートに関しては、次時にコメントを付して返却し、全体に向けて講評を行う。レポートについては、コメントを付して返却。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

現代社会におけるこどもの状況に関するニュースに目を向け、収集し、コメントをつける等、興味と問題意識を持つ。興味深い話題は授業でも情報を共有する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

毎回の授業参加態度（20%）と小レポート・レポート提出（80%）。

〔留意事項（Other Information）〕

前半と後半で担当教員が交代する。前半は、心理学の立場から、後半は、教育学の立場から、講義を行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業ごとに資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中学校・高等学校で教壇に立ち、授業指導・学級運営・生活指導・進路指導にあたってきた。

校種や指導対象の年齢は異なるが、こどもたちを取り巻く環境の把握と児童生徒への対応の根幹は共通するものである。（白瀬）

CHS1100N0J

大学

現代人間学部

1年次

1単位 前期後半

火曜1限

DPI：自分を育てる力

30

全7.5コマ 選択必修

向山 泰代 青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

性別や性差、性役割などの性をめぐるトピックについて、現代社会における女性、現代社会における家族の在り方や課題を関連づけながら講義する。講義の前半は家族関係学や女性学の観点から、後半は心理学の観点から性や家族に関して、オムニバス方式で講義を行い、この問題に関する受講生の興味・関心・知識を拡充し、現代を生きる女性として、自分を育てる力の陶冶を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・現代の日本女性を取り巻く環境を歴史的な／グローバルな視点から理解すること。
- ・私たちが「家族」に求めるものを、新しいかたちの「家族」との比較をとおして考えること。
- ・性差や性役割について、自身の考えや感情に気づくこと。
- ・生物学的・心理学的・社会的な視点から、性について理解すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に取り組もうとしない	課題に取り組む	課題もとに自らの考えを深める	課題をもとに自らの考えを深め表現する
知識・理解力	準備学習をしない	準備学習をする	準備学習を積極的にする	準備学習を積極的に行い、授業で発信する
言語力	自分の言葉で表現しない	自分の言葉で表現する	自分の言葉で他者に伝わるように効果的に表現する	自分の言葉で他者に伝わるように効果的に表現し、他者からの意見に適切に応答する
思考・解決力	課題を提出しない	課題を提出する	独自の視点を加えて課題を作成し、提出する	複数の独創的な視点にもとづいて課題を作成し、提出する

共生・協働する力	教員の問いかけに応答しない	教員の問いかけに応答する	教員の問いかけに応答し、必要に応じて自ら教員に問いかける	教員の問いかけに応答し、必要に応じて自ら問いかけ、協働する
創造・発信力	自分の考えを発信しない	自分の考えを発信する	適切な状況で、自ら考えを発信する	適切な状況で、自ら考えを積極的かつ創造的に発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (青木)
- 第 2 回 女性が社会的地位を獲得するまで (青木)
- 第 3 回 世界における日本女性の位置 (青木)
- 第 4 回 「家族」って何だろう? (青木)
- 第 5 回 自分らしさ：青年期の課題と暮らし (向山)
- 第 6 回 働くこと：職業選択、仕事 (向山)
- 第 7 回 愛すること：性、恋愛、家族 (向山)
- 第 8 回 まとめ (向山)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義が中心であるが、個人ワークをとおして、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらおう機会も設ける。そのため、受講生には積極的な授業への参加を求める。出席しているにもかかわらず、課題が提出期限内に未提出であったり、教員からの問いかけに回答がない場合は、欠席とみなすことがある。

受講生への課題のフィードバックは、授業期間内あるいは授業期間終了後に、manabaを通じて行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に次回までの課題が出された場合は、必ず完成させて授業に臨むこと。授業外での学習には、図書館を積極的に活用すること。その際、図書だけでなく、新聞や雑誌で取り上げられている女性や家族に関する記事を読んだり、文献を検索したりして新しい知識・情報に触れ、現代の女性が置かれている状況について日頃から興味を深めておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講態度20%、授業期間内に課すレポート80%。2/3以上の出席がなければ、単位を与えない。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業はオンラインで行う予定である。対面での授業を実施する際には、事前にmanabaのコースニュース等によって受講生に連絡する。オムニバス形式の科目のため、前期後半(第8回目の45分経過後)に「イントロダクション」の授業を行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内容や進行状況に沿って、文献等を適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

介護等体験 B

TEA2861N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次

1単位 集中

その他

15

集中 中学校免許取得者に必要

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

特別支援学校や社会福祉施設における介護等の体験を通じて、学生自らが個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図ることを目的としている。また、障害のある児童生徒や、支援を必要としている人とのふれあいを通して、お互いを尊重し、思いやりの心を育み、共に生きる社会の原動力になれることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 介護等体験の制度とその趣旨について理解し、手続きを適切に行う。
- (2) 体験にあたっての心構えや体験先でのマナーについて社会人基礎力の観点も踏まえて理解する。
- (3) 特別支援学校における介護等体験の実際について理解する。
- (4) 社会福祉施設における介護等体験の実際について理解する。
- (5) 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、介護等の体験を行う。
- (6) 体験を振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	教職について自らの目的意識を持ち、学ぶことができる。	教職に就くにあたり目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	将来教職に就く者として、何が重要な学び知識なのか理解しようとしな	教職に関して学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのか	教職に関して学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。

思考・解決力	講義に出席しているだけで、教職に就く者として、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	教職に関する自分の学びを振り返り、考えることができる。	教職に関して新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、教職に関する協働の活動等に積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前指導：介護等体験の制度と趣旨、申込手続きについて
- 第 2 回 事前指導：介護等体験にあたっての心構え（上級生の体験発表）
- 第 3 回 事前指導：アイマスクを使った体験、車椅子の介助方法
- 第 4 回 事前指導：体験日誌の記入について
- 第 5 回 事前指導：特別支援学校における介護等体験
- 第 6 回 事前指導：社会福祉施設における介護等体験（ゲストスピーカーによる講義）
- 第 7 回 事前指導のまとめ
- 第 8 回 特別支援学校における介護等体験 1日目
- 第 9 回 特別支援学校における介護等体験 2日目
- 第 10 回 社会福祉施設における介護等体験 1日目
- 第 11 回 社会福祉施設における介護等体験 2日目
- 第 12 回 社会福祉施設における介護等体験 3日目
- 第 13 回 社会福祉施設における介護等体験 4日目
- 第 14 回 社会福祉施設における介護等体験 5日目
- 第 15 回 事後指導：体験の振り返り
各自の体験レポートを小グループで発表し合い、学んだことを共有する。その後、全グループの体験概要を共有することで、教職を目指す者としての自覚を深める。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 事前指導は講義を中心とするが、適宜演習等も取り入れる。
2. 事後指導ではグループ討議等を行う。
3. 毎講義後レポート提出を義務づけている。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・事前指導までにテキストを必ず読んで予習しておくこと。
- ・教育現場で必要と思われるルールやマナーを、学生としてではなく、将来教職に就く者として、日頃から守るよう心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

学生としてではなく、社会人基礎力を身につけた、将来教職に就く者として、ルーブリックに示す項目から総合的に評価する。

毎回のレポート40% 個別課題(1)(2)(3)(4)に対応
日誌20%、報告書20% 個別課題(3)(4)(5)に対応
グループワークへの参画や発表をルーブリックに示す視点から総合的に評価20% 個別課題(3)(4)(6)に対応

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 学生便覧の教育職員免許状取得に関するページ(「はじめに」は必読)を熟読しておくこと。
2. 正当な理由なく欠席することは認めない。また、ルーブリックに示したように、出席していても、受講態度等が欠席等と同様と考えられる場合(例:出席しているが席で寝ていて講義等に参加していない。教員の指示がない場面で長時間スマホ等を操作している。離席が多い等)は欠席等とみなす場合がある。
3. 学生便覧に書かれている通り、卒業後、教職に就くことを希望する者が教育職員免許状を取得するのが原則である。そのことを理解していることを前提に、事前指導において申込書・誓約書の提出を求める。
4. 4年次生は、体験時期が2月以降になった場合、単位認定できないことがある。
5. 特別支援学校と社会福祉施設の目的や事業内容について事前学習を行い、体験に向けて目標を設定すること。
6. 提出物の期限を守ること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『介護等体験ガイドブック 新フィリア』/全国特殊学校長会編/ジアース教育新社/2020/9784863715226/学内販売予定

『第5班 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』/増田雅暢・浦野正男・榎田匠他/社会福祉法人全国社会福祉協議会/2018/9784793512773/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『介護等体験マニュアルノート』/東京都社会福祉協議会/東京都社会福祉協議会/2012/4863530447

『介護等体験の手引き』/徳田克己、名川勝編/協同出版/2002/4319110269

『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』/現代教師養成研究会編/東京大修館書店/2008/9784469266702

〔参考URL(URL for Reference)〕

社会人基礎力 経済産業省

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

学校経営と学校図書館

TLI2800N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜1限

ー

60

西尾 純子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校図書館の教育的意義や経営、その現状についての知識を身につけることができる。

学校図書館の管理・運営にあたる司書教諭の任務と職務について、学校司書や公共図書館、地域との連携について総合的に理解することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学校図書館の意義と役割
2. 学校図書館の機能
3. 司書教諭の使命

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学校図書館について理解しようとしない。	学校図書館および司書教諭の任務と職務について理解している。	学校図書館および司書教諭の任務と職務について理解し、現在ある事例について評価しようとしている。	学校図書館および司書教諭について理解した上で、現在ある事例の評価だけでなく今後の課題についても考えようとしている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、学校図書館の現状
- 第 2 回 学校図書館の歴史
- 第 3 回 教育行政・教育課程と学校図書館
- 第 4 回 学校図書館の制度・法規・基準
- 第 5 回 学校経営と学校図書館
- 第 6 回 メディアセンターとしての学校図書館
- 第 7 回 学校司書
- 第 8 回 学校図書館メディアの構成

- 第 9 回 学校図書館メディアの管理
- 第 10 回 学校図書館の施設・設備
- 第 11 回 学校図書館活動の対象と領域
- 第 12 回 学校図書館活動の内容と方法
- 第 13 回 地域と学校図書館の連携
- 第 14 回 学校図書館の評価と改善
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しませんが、原則として授業内で出した課題をすべて提出した学生を評価の対象とします。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

履修する学生の理解度などを見て、授業計画を変更する場合があります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

科目理解のために、参考文献を活用してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度(30%)、発表(20%)、小テスト・レポート(50%)
小テスト・レポートでは、授業で習得した知識・技術などを評価の対象とします。次回授業で、全体に対してフィードバックを行います。

〔留意事項 (Other Information)〕

教職課程履修者に限る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『学校経営と学校図書館、その展望 改訂版』/北克一/青弓社/2009/9784787200433

『学校経営と学校図書館 (シリーズ学校図書館学 1 巻)』/全国学校図書館協議会編/全国学校図書館協議会/2011/9784793322426

『学校経営と学校図書館』/野口武悟 他/放送大学教育振興会/2013/9784595314513

『学校経営と学校図書館(司書教諭テキストシリーズII)』/中村百合子 他/樹村房/2015/9784883672516

『学校図書館への研究アプローチ (わかる! 図書館情報学シリーズ 4)』/日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版/2017/9784585205043

発展的な学習のために、参考文献を手元に置いて勉強してください。

その他、授業の進度にそって適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教員としての短期の経験および図書館司書として専門図書館での長年の勤務経験あり。

学校図書館メディアの構成

TLI2850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜2限

ー

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校図書館は、学校教育を支える役割を持ち、その基盤となる学校図書館メディアは常にカリキュラムをはじめとする学校教育と連動して変化していくことも考えなくてはならない。そのための基礎知識を学び、実践的な力も身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学校図書館メディアが包含する範囲とその変化について理解する。
2. 学校図書館メディアの組織化について学ぶ。
3. 学校図書館におけるコレクション構築の基礎と課題について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学校図書館メディアについて知らない。	学校図書館メディアの全体像を把握している。	学校図書館メディアがどのように構築・組織化されているか知っている。	学校図書館メディアの構築・組織化について知り、また、その課題を把握している。
思考・解決力	学校図書館メディアについて関心がない。	学校図書館メディアが現在どのような課題を抱えているか知っている。	学校図書館メディアを構築・組織化するにあたって、課題がなぜ生じているか分析できる。	学校図書館メディアの構築・組織化にあたって生じている課題の解決方法を考察できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. 学校教育とメディア
- 第 2 回 2. メディア構成の知識と技術
- 第 3 回 3. 学校図書館メディアの種類
1) 印刷メディア
- 第 4 回 3. 学校図書館メディアの種類
2) 電子メディア・視聴覚メディア・実物資料
- 第 5 回 3. 学校図書館メディアの種類
3) 特別な支援のためのメディア
- 第 6 回 4. 学校図書館におけるコレクション構築

- 1) 選択のための情報源
- 第 7 回 4. 学校図書館におけるコレクション構築
2) コレクション利用のための環境整備
- 第 8 回 4. 学校図書館におけるコレクション構築
3) コレクション形成の意義と実際
- 第 9 回 4. 学校図書館におけるコレクション構築
4) コレクション構築の評価と課題
- 第 10 回 5. メディアへの物理的・知的アクセス支援
- 第 11 回 6. 学校図書館メディアの組織化
1) 分類の意義と実際
- 第 12 回 6. 学校図書館メディアの組織化
2) 目録の基本と実際
- 第 13 回 6. 学校図書館メディアの組織化
3) 件名法とカリキュラム
- 第 14 回 7. 学校図書館メディアの構成における課題
- 第 15 回 8. 理解度確認と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 基本的な知識を身につける。
2. 学校図書館の実態とその課題について学ぶ。
3. 講義・演習を組み合わせる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. テキストを読んで、基本的な知識を身につける。
2. 日ごろから学校図書館に関心を持つ。
3. 何回かにわたって実施予定の課題に取り組む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験60%、授業中の課題40%とし、その合計で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『学校図書館メディアの構成』／小田光宏／樹村房／2016

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(中学校司書教員)

実務経験を活かして、学校・学校図書館の現場に沿った、学校図書館のテクニカルサービスについて解説する

学習指導と学校図書館

TLI2801N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

木曜3限

ー

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校図書館は、学校における教育・学習の重要な支援機関である。具体的には、どのような支援を行うのか、また、情報の溢れる現代社会の中で新たにどのような役割が求められるようになるのかを学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学校教育・子どもの学習において学校図書館が果たす役割を学ぶ。
2. 現代社会において求められる情報リテラシーの獲得に、学校図書館がどのような支援を行うことができるかを米国の学校図書館基準などをもとに考察する。
3. 学校図書館を活用する教科学習の具体案を作成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学校図書館に関する知識・理解	学校図書館の機能について知らない。	学校図書館の基本的な機能について理解している。	学校図書館が学習支援にどのような役割を果たすか知っている。	学校図書館が学習情報センターとして機能するための具体的な方法を知っている。
学校教育に関する知識・理解	学校教育について基本的な知識がない。	学習指導要領や学校教育におけるカリキュラムについて知っている。	レベル2に加え、学習理論や情報探索プロセスモデルについて基本的なことを理解している。	レベル2・3に加え、学校図書館が学習支援を行うための具体的な方法を知っている。
レファレンスサービスに関する力	情報探索において、どの資料を使えばよいかわからない。	クイックレファレンスをする力がある。	適切で十分な資料を使って、情報探索を行うことができる。	情報探索の方法を児童生徒に指導する方法を知っている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. 学校教育の支援機関としての学校図書館
- 第 2 回 2. 『学習指導要領』にみる学校図書館
- 第 3 回 3. 探求的な学習の理論と図書館の情報資源
- 第 4 回 4. 学習指導における問題の設定

- 第 5 回 5. 情報リテラシーと探求的な学習
1) 探究的な学習のモデルと情報探索法の指導
- 第 6 回 5. 情報リテラシーと探求的な学習
2) 探究的な学習成果の評価と図書館資料の活用
- 第 7 回 6. レファレンスサービスによる学習支援
1) (演習) 基本問題
- 第 8 回 6. レファレンスサービスによる学習支援
2) (演習) 応用問題
- 第 9 回 7. パスファインダーの作成
1) (演習) 解説・作成
- 第 10 回 7. パスファインダーの作成
2) (演習) 作成・発表
- 第 11 回 8. 教職員のための学校図書館活用へのアプローチ
- 第 12 回 9. 学校図書館を活用する教科学習の具体案
※課題の作成・発表を含む
- 第 13 回 10. 討論やディベートの準備における図書館情報資源の活用 (演習)
- 第 14 回 11. 探求的な学習成果の評価と図書館の情報資源の活用
- 第 15 回 12. 内容理解確認と振り返り
[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 講義・課題発表を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. 学校図書館の具体的な活用方法を考え、実際に計画を立ててみる。
4. テキスト・プリント・ビデオ等を利用する。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. テキストや提示する教材にあらかじめ目を通してくる。
2. 教科学習と学校図書館との関わりについて自分の考えを構築する。
3. 各学習項目についての具体的な準備学習の方法は授業中に提示する。
4. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。筆記試験については終了後manabaで講評を行う。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

筆記試験60% (第15回に実施)、授業中の課題及び提出物40%とし、その合計で評価する。

[留意事項 (Other Information)]

ゲスト講師による授業を行うこともある。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『学習指導と学校図書館』/齋藤泰則/樹村房/2016//学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

上記以外は授業中に紹介

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

教育相談の理論及び方法

TEA2851N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 前期集中

その他

ー

60

カウンセリングに関する基礎的な知識を含む

山本 健治

[科目の教育目標 (Course Description)]

不登校、いじめ問題等、学校教育現場には児童生徒が抱える様々な課題が山積している。そこであらためて教育相談の重要性を認識し、その理論や技法を学ぶことを通してこれらの問題行動や抱える発達課題についての理解を深めることを目指す。また、児童生徒への関わり方はもとより、保護者やスクールカウンセラー等との連携の在り方について学ぶことをねらいとする。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 教育相談の基礎 (意味と意義) を知る。
2. カウンセリングの理論・技法を知る。
3. 様々な問題行動の理解と対応を学ぶ。
4. ロールプレイング等の体験を通しての実践力を身につける。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
主体的に学ぶ姿勢	教員主導の教育のみを行っている	受講生の学びへの姿勢に関心を持ちながら、教員主導の授業を展開しつつ、一部学生の自主性を促す	受講生のために提供する教材を工夫し、また関連する知識についても提供しながら学生の学びの動機づけや自己評価に繋げることができる。	レベル3に加えて受講生同士が相互に関わり合いながら学ぶ教材開発に努め、授業外でも学生がそのことをいかなることができる。
教育相談に関する知識・理解	教育相談に関する基礎的な知識を習得できていない。	教育相談に関する基礎知識を理解している。	教育相談に関する基礎知識に加え、関連する知識についても理解し、実践的な学びに活	教育相談に関する知識を理解した上で、実際の教育現場の課題解決に向けた考えを述べる

			かそうとする。	ことができる。
教育相談的 技能	教育相談に関する基本的な技能が身につけていない。	教育相談に関する基本的な技能を身につけている。	教育相談に関する基本的な技能を、ロールプレイング等を用いた場面で活用することができる。	教育相談に関する技能を、実際の教育現場の課題解決に向けた応用することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校における教育相談とは
学校における教育相談に関する基本的事項について
- 第 2 回 カウンセリングとは
教育相談のベースとなるカウンセリングの基本的な考え方について
- 第 3 回 来談者中心療法の考え方
来談者中心療法の考え方について
- 第 4 回 精神分析的カウンセリングの考え方
精神分析的カウンセリングの考え方について
- 第 5 回 行動療法の考え方
行動療法の考え方について
- 第 6 回 ロールプレイング I (聴き方)
児童生徒及び保護者等への聴き方に関するロールプレイングについて
- 第 7 回 紙上応答訓練 (事例)
具体的相談事例に対する紙上応答訓練について
- 第 8 回 不登校の理解と対応
不登校の理解と対応について
- 第 9 回 家庭内暴力の理解とその対応について
家庭内暴力の理解とその対応
- 第 10 回 神経症的な問題の理解とその対応
自傷行為等神経症的な問題の理解とその対応について
- 第 11 回 いじめ問題の理解とその対応
いじめ問題の理解とその対応について
- 第 12 回 反社会的な行動の理解とその対応
非行等反社会的な行動の理解とその対応について
- 第 13 回 発達障害の理解とその支援
自閉症スペクトラム障害等の発達障害の理解とその支援について
- 第 14 回 教員とスクールカウンセラーとの連携
児童生徒の問題行動に対する教員とスクールカウンセラーとの連携について
- 第 15 回 保護者支援と関係機関との連携・総括
保護者支援と関係機関との連携・総括について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験に替わるレポート

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義には適宜、資料、VTR等の活用を取り入れることにより視覚を通じた学びを提供する。またロールプレイングや紙上応答訓練等の演習を取り入れ、より実践的な学びがで

きるように工夫する。あわせて適宜、ミニレポートの課題を課し、その授業時間で学んだ事からについて自らの考えをまとめる機会も設ける。

ロールプレイングや紙上応答訓練の課題では、受講者間のシェアリングや全体へのフィードバックも行う。また、ミニレポートの課題についても、個々の受講者へのフィードバックとあわせて全体に対してもフィードバックを行い、学びを共有するようにする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

講義に際し、具体的な事例を扱うが、その際には事前に事例と事例考察記入用紙を配付するので、事例を熟読し考察記入用紙に自らの考えを記入した上で、授業時に持参すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

定期試験にかわるレポート (50%)、授業の参加度 (30%) 及び平常評価 (20%) で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特になし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『よくわかる教育相談』/春日井敏之・伊藤美奈子編/ミネルヴァ書房/2011/9.784623058785E12

『学校カウンセリングの考え方・進め方』/樺澤徹二/金子書房/2003/476082314X

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

臨床心理士として教育相談機関で教育相談及びコンサルテーションに従事した経験有り。

臨床心理士養成大学院大学院生及びいのちの電話相談員へのスーパーバイザー経験有り。

大学院でWISCIV及びK-ABCIIなどの心理検査科目の担当経験有り。

国語科教育法 I

TEA2810N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次

2単位 前期

水曜1限

ー

60

国語科必修

河野 有時 石川 裕之 蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

中等教育における国語科教育の目標及び内容について学習指導要領を理解し、国語科の授業を担当するための知識や教材研究の方法、学習指導の方法を習得することを目標とする。また、授業の構成や評価を意識した模擬授業を実践する力を養い、教職に必要な職業意識や態度を身につけることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中学校・高等学校国語科学習指導要領について理解する。
2. 教材研究の方法について理解する。
3. 学習指導案の作成についての基本的な知識や方法を理解する。
4. 模擬授業を行い、学習指導や評価の方法について基本的な知識や方法を理解する。
5. 国語科教員に求められる基本事項を学び、教職に必要な職業意識や態度を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
学習指導要領に対する理解力	学習指導要領について理解できていない。	学習指導要領について理解できている。	学習指導要領について理解し、国語科の目標及び内容を把握できている。	学習指導要領について理解し、国語科各科目の目標及び内容を把握できている。
教材を研究する力	教材を研究することができていない。	教材を研究できている。	学習指導要領における国語科の目標及び内容を意識した教材研究ができる。	学習指導要領における国語科各科目の性格、目標、内容を意識した教材研究ができる。

学習指導案を作成する力	学習指導案を作成することができない。	学習指導案を作成することができる。	学習指導要領と教材研究に基づいた学習指導案を作成することができる。	学習指導要領と教材研究に基づき、指導過程が明確な学習指導案を作成することができる。
模擬授業を実践する力	模擬授業を行うことができない。	模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づいた模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づき、学習者を意識した模擬授業を行うことができる。
国語科教員に求められる基本的な能力	国語科教員に求められる基本的な能力を習得できていない。	国語科教員に求められる基本的な能力を習得できている。	国語科教員に求められる基本的な能力と職業意識を身につけている。	国語科教員に求められる基本的な能力と職業意識を身につけ、今後求められる課題について意識的である。

〔授業計画〕

- 第 1 回 国語教育の現在地 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 2 回 中学校学習指導要領について (担当: 石川、蜂矢)
- 第 3 回 高等学校学習指導要領について (担当: 石川、蜂矢)
- 第 4 回 教材研究 (1) - 論理的な文章 (担当: 河野)
- 第 5 回 教材研究 (2) - 近代以降の文章 (担当: 河野)
- 第 6 回 教材研究 (3) - 古典 (担当: 蜂矢)
- 第 7 回 学習指導案について (担当: 河野、蜂矢)
- 第 8 回 学習指導案作成 (1) - 説明的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 9 回 学習指導案作成 (2) - 文学的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 10 回 学習指導案作成 (3) - 古典 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 11 回 20分の模擬授業 (1) - 説明的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 12 回 20分の模擬授業 (2) - 文学的な文章 (担当: 河野・蜂矢)
- 第 13 回 20分の模擬授業 (3) - 古典 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 14 回 評価について (担当: 石川、蜂矢)
- 第 15 回 まとめと今後の課題 (担当: 河野、蜂矢)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は講義とグループワーク及び発表とで行う。
2. 受講生はグループで教材研究を行い、学習指導案を作

成して模擬授業に臨む。

3. 教材研究や学習指導案作成においてはグループでディスカッションを行い進めていく。

4. 模擬授業を行い、グループ及び受講生で相互に批評し合うことによって学びを深める。

5. グループワークにより提出された課題に対しては、次の授業でフィードバックを行う。

6. 最終授業では全体に対するフィードバックを行う。

7. 教材研究、指導案の作成を通して、語彙力をつけ、書く力を育成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 学習指導要領を読み、内容を把握しておく。

2. 学習指導要領を意識しながら教材を読む。

3. 模擬授業を意識しながら、学習指導案の論点を整理しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (20%) と教材研究、学習指導案 (50%) 及び模擬授業 (30%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・ 国語科教諭免許課程履修者には必修科目である。
- ・ 受講者数等の状況に応じて、シラバスを変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』/文部科学省/東洋館出版社/2019/9784491036403/学内販売予定

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/ 9784491034706/学内販売予定

『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』/黒川行信/数研出版/2020/9784410338588/学内販売予定

『入試頻出 パスワード古文単語』/浜島書店編集部/浜島書店/1994/9784834311006 /学内販売予定

『発展30日完成漢文高校初級用』/佐藤 雅一/日栄社/2003/9784816811333/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教育実習生のための学習指導案作成教本 国語科』/教育実習を考える会/ 蒼丘書林/2012

『中学校・高等学校 国語科指導法』/益地 憲一/建帛社/2009

〔参考URL(URL for Reference)〕

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国語科教育法 II

TEA2860N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次

2単位 後期

水曜1限

ー

60

国語科必修 「国語科教育法I」履修済みであること

河野 有時 石川 裕之 蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は国語科教育法 I での学びを受け、学習指導要領への理解を深めて、教材研究と学習指導案に基づくより実践的な模擬授業を中心として展開する。模擬授業とその準備は受講生がそれぞれに行い、その過程において実際に授業を運営できる力を養うことを目標とする。また、プリントや補助教材の作成法や情報機器を活用する力をつけることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中学校・高等学校国語科学習指導要領の理念と各科目の性格と目標、内容を理解する。

2. 学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができる。

3. 学習指導案に基づき模擬授業を行うことができる。

4. 学習者の反応を把握しながら授業を運営することができる。

5. プリントや補助教材、情報機器を活用することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案を作成する力	学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができない。	学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができる。	学習指導要領の理念を理解し、教材研究と学習指導案の作成ができる。	学習指導要領の理念と各科目の性格と目標、内容を理解し、教材研究と学習指導案の作成ができる。

学習指導案に基づき模擬授業を行う力	学習指導案に基づき模擬授業を行うことができない。	学習指導案に基づき模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づき、指導演法に留意しながら模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づき、適切な指導演法で模擬授業を行うことができる。
学習者の反応を把握しながら授業を運営する力	学習者の反応を把握しながら授業を運営できていない。	学習者の反応を把握しながら授業を運営することができる。	説明や板書に対する学習者の反応を把握しながら授業を運営することができる。	説明や板書に対する学習者の反応を発問により確認しながら授業を運営することができる。
プリントや補助教材、情報機器を活用する力	プリントや補助教材、情報機器を活用できない。	プリントや補助教材、情報機器を活用できる。	プリントや補助教材、情報機器を適切に活用できる。	プリントや補助教材、情報機器を学習者の理解度を意識しながら適切に活用できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 国語教育の課題 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 2 回 学習指導要領の理念 (担当: 石川、蜂矢)
- 第 3 回 教材研究と学習指導案作成 (1) - 説明的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 4 回 教材研究と学習指導案作成 (2) - 文学的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 5 回 教材研究と学習指導案作成 (3) - 国語表現 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 6 回 教材研究と学習指導案作成 (4) - 古典 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 7 回 20分の模擬授業 (1) - 説明的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 8 回 20分の模擬授業 (2) - 文学的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 9 回 20分の模擬授業 (3) - 国語表現 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 10 回 20分の模擬授業 (4) - 古典 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 11 回 50分の模擬授業 (1) - 説明的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 12 回 50分の模擬授業 (2) - 文学的な文章 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 13 回 50分の模擬授業 (3) - 国語表現 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 14 回 50分の模擬授業 (4) - 古典 (担当: 河野、蜂矢)
- 第 15 回 まとめと今後の課題 (担当: 河野、蜂矢)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は受講者による模擬授業を中心に行う。
2. 受講生は教材研究を行い、学習指導案を作成して模擬授業に臨む。
3. 教材研究や学習指導案作成は相互に批評して進めていく。
4. 模擬授業に対して、相互に感想や意見をだし合うことによって学びを深める。
5. 明らかになった課題に対しては、次回の授業でフィードバックを行う。
6. 最終授業では全体に対するフィードバックを行う。
7. 模擬授業にプリントや補助教材、情報機器を活用することができるか検討する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 学習指導要領を意識しながら教材を読み、学習指導案について検討する。
2. 模擬授業の展開の仕方や、指示、板書、発問などを考えてみる。
3. どのようなプリントや補助教材が必要か、情報機器を活用できるか検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (20%) と教材研究、学習指導案 (30%) 及び模擬授業 (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・国語科教諭免許課程履修者は必修科目である。
- ・受講者数等の状況に応じて、シラバスを変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』/文部科学省/東洋館出版社/2019/9784491036403/学内販売予定

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』/文部科学省/東洋館出版社/2018/9784491034706/学内販売予定

『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』/黒川行信/数研出版/2020/9784410338588/学内販売予定

『入試頻出 パスワード古文単語』/浜島書店編集部/浜島書店/1994/9784834311006/学内販売予定

『発展30日完成漢文高校初級用』/佐藤 雅一/日栄社/2003/9784816811333/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教育実習生のための学習指導案作成教本 国語科』/教育実習を考える会/蒼丘書林/2012

『中学校・高等学校 国語科指導演法』/益地 憲一/建帛社/2009

〔参考URL(URL for Reference)〕

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国語科教育法Ⅲ

TEA3810N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

水曜 3限

ー

60

河野 有時 蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は国語科教育法Ⅰ・Ⅱでの学びを受け、学習指導要領への理解を確実なものとし、教材研究と学習指導案に基づく実践的な模擬授業を中心として展開する。模擬授業とその準備は受講生がそれぞれに行い、その過程において実際に授業を運営できる力を養うことを目標とする。また、評価のあり方やプリントや補助教材の作成法や情報機器を活用する力をつけることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中学校・高等学校国語科学習指導要領の理念と各科目の性格と目標、内容を理解する。
2. 学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができる。
3. 学習指導案に基づき模擬授業を行うことができる。
4. 学習者の理解度を把握しながら授業を運営することができる。
5. プリントや補助教材、情報機器を活用することができる。
6. 補助教材により、古典の音読、古典文法、古文単語、漢文について学習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成する力	学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができない。	学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができる。	学習指導要領の理念を理解し、教材研究と学習指導案の作成ができる。	学習指導要領の理念と各科目の性格と目標、内容を理解を理解し、教材研究と学習指導案の作成ができる。

学習指導案に基づき模擬授業を行う力	学習指導案に基づき模擬授業を行うことができない。	学習指導案に基づき模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づき、指導法に留意しながら模擬授業を行うことができる。	学習指導案に基づき、適切な指導法で模擬授業を行うことができる。
学習者の理解度を把握しながら授業を運営する力	学習者の理解度を把握しながら授業を運営できていない。	学習者の理解度を把握しながら授業を運営できている。	説明や板書に対する学習者の反応と理解度を把握しながら授業を運営することができる。	説明や板書に対する学習者の反応と理解度を発問により確認しながら授業を運営することができる。
プリントや補助教材、情報機器を活用する力	プリントや補助教材、情報機器を活用できない。	プリントや補助教材、情報機器を活用できる。	プリントや補助教材、情報機器を適切に活用できる。	プリントや補助教材、情報機器を学習者の理解度を意識しながら適切に活用できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 —授業の概要と方針 (担当：河野)
- 第 2 回 教育をめぐる最新事情 (担当：河野)
- 第 3 回 観点別評価とは (担当：河野)
- 第 4 回 教材研究の方法 (担当：河野)
- 第 5 回 文学的文章 (散文) の授業研究 (担当：河野)
- 第 6 回 文学的文章 (韻文) の授業研究 (担当：河野)
- 第 7 回 説明的文章の授業研究 (担当：河野)
- 第 8 回 古文の授業研究 (担当：蜂矢)
- 第 9 回 漢文の授業研究 (担当：蜂矢)
- 第 10 回 模擬授業実施 (中学校 説明的文章の授業) (担当：河野)
- 第 11 回 模擬授業実施 (中学校 文学的文章の授業) (担当：河野)
- 第 12 回 模擬授業実施 (高校 小説の授業) (担当：河野)
- 第 13 回 模擬授業実施 (高校 古文の授業) (担当：河野)
- 第 14 回

模擬授業実施（高校 漢文の授業）（担当：河野）

第 15 回

まとめと解説（担当：河野）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業は受講者による模擬授業を中心に行う。
2. 受講生は教材研究を行い、学習指導案を作成して模擬授業に臨む。
3. 教材研究や学習指導案作成は相互に批評して進めていく。
4. 模擬授業に対して、相互に感想や意見をだし合うことによって学びを深める。
5. 明らかになった課題に対しては、次回の授業でフィードバックを行う。
6. 模擬授業にプリントや補助教材、情報機器を活用することができるか検討する。
7. 古文単語・古典文法に関する小テストを実施する。
8. 漢文テキストを夏休みの独習テキストとする。
9. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 学習指導要領を意識しながら教材を読み、学習指導案について検討する。
2. 模擬授業の展開の仕方や、指示、板書、発問などを考えてみる。
3. 模擬授業実施のための学習指導案作成は、時間をかけて準備すること。
4. どのようなプリントや補助教材が必要か、情報機器を活用できるか検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業に参加する意欲・態度の評価点 20%、小テストの評価点 10%、模擬授業の内容 30%、定期試験の成績 40% で評価する。また、常用漢字の読み書き能力試験の成績が 70 点未満の者は、単位認定対象外とする。

〔留意事項（Other Information）〕

国語科教諭免許課程履修者必修科目。この科目が履修できるのは、国語科教育法Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者に限る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『体系古典文法』//数研出版

『パスワード古文単語』//浜島書店

『発展 30 日完成漢文高校初級用』//日栄社

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領解説 国語編』//文部科学省//

『高等学校学習指導要領解説 国語編』//文部科学省//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

国語科教育法Ⅳ

TEA3860N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格（実践的科目）

3年次

2単位 後期

水曜 3限

ー

60

河野 有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この授業は国語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学びを受け、学習指導要領への理解を確実なものとし、教材研究と学習指導案に基づく実践的な模擬授業を中心として展開する。模擬授業とその準備は受講生がそれぞれに行い、その過程において実際に授業を的確に運営できる力を養うことを目標とする。また、評価のあり方やプリントや補助教材の作成法や情報機器を活用する力をつけることを目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 中学校・高等学校国語科学習指導要領の理念と各科目の性格と目標、内容を理解する。
2. 学習指導要領に基づき、教材研究と学習指導案の作成ができる。
3. 学習指導案に基づき模擬授業を行うことができる。
4. 学習者の理解度を把握しながら授業を運営することができる。
5. プリントや補助教材、情報機器を活用することができる。
6. 観点別評価について理解する。
7. 補助教材により、古典の音読、古典文法、古文単語、漢文について学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
学習指導要領に対する理解力	学習指導要領について理解できていない。	学習指導要領について理解できている。	学習指導要領について理解し、国語科の目標及び内容を把握できている。	学習指導要領について理解し、国語科各科目の目標及び内容を把握できている。
教材を研究する力	教材を研究することができていない。	教材を研究できている。	学習指導要領における国語科の目標及び内容を意識した	学習指導要領における国語科各科目の性格、目標、内容を意識した

			教材研究ができる。	教材研究ができる。
学習指導案を作成する力	学習指導案を作成することができる。	学習指導案を作成することができる。	学習指導要領と教材研究に基づいた学習指導案を作成することができる。	学習指導要領と教材研究に基づき、指導過程が明確な学習指導案を作成することができる。
学習者の理解度を把握しながら授業を運営する力	学習者の反応を把握しながら授業を運営できていない。	学習者の理解度を把握しながら授業を運営できている。	説明や板書に対する学習者の反応と理解度を把握しながら授業を運営することができる。	説明や板書に対する学習者の反応と理解度を発問により確認しながら授業を運営することができる。
プリントや補助教材、情報機器を活用する力	プリントや補助教材、情報機器を活用できない。	プリントや補助教材、情報機器を活用できる。	プリントや補助教材、情報機器を適切に活用できる。	プリントや補助教材、情報機器を学習者の理解度を意識しながら適切に活用できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 導入授業 —授業の方針
- 第 2 回 教育の最新事情
- 第 3 回 学習指導要領について
- 第 4 回 読解力とは
- 第 5 回 指導計画の作り方
- 第 6 回 模擬授業（中学校 説明的文章の授業）
- 第 7 回 模擬授業（中学校 詩の授業）
- 第 8 回 模擬授業（中学校 小説の授業）
- 第 9 回 模擬授業（中学校 古典の授業）
- 第 10 回 模擬授業（高校 評論の授業）
- 第 11 回 模擬授業（高校 小説の授業）
- 第 12 回 模擬授業（高校 詩・短歌・俳句の授業）
- 第 13 回

- 模擬授業（高校 古文の授業）
- 第 14 回 模擬授業（高校 漢文の授業）
- 第 15 回 まとめと解説
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施する。
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

 1. 授業は受講者による模擬授業を中心に行う。
 2. 受講生は教材研究を行い、学習指導案を作成して模擬授業に臨む。
 3. 教材研究や学習指導案作成は相互に批評して進めていく。
 4. 模擬授業に対して、相互に感想や意見をだし合うことによって学びを深める。
 5. 明らかになった課題に対しては、次回の授業でフィードバックを行う。
 6. 模擬授業にプリントや補助教材、情報機器を活用することができるか検討する。
 7. 古文単語・古典文法に関する小テストを実施する。
 8. 漢文テキストを夏休みの独習テキストとする。
 9. 予習課題、授業内容に関する補足、小テストの解答などを、manabaにより指示・公開する。

- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

 1. 学習指導要領を意識しながら教材を読み、学習指導案について検討する。
 2. 模擬授業の展開の仕方や、指示、板書、発問などを考えてみる。
 3. 模擬授業実施のための学習指導案作成は、時間をかけて準備すること。
 4. どのようなプリントや補助教材が必要か、情報機器を活用できるか検討する。

- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 60
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業に取り組む意欲・態度の評価点 20%、平常点 10%、模擬授業の内容 30%、定期試験の成績 40% で評価する。また、常用漢字の書き取り試験の成績が 80 点未満の者、古典文法の試験、漢文読解力試験いずれも成績が 60 点未満の者、模擬授業の評点が合格点に達しない者は、単位認定対象外とする。

- 〔留意事項（Other Information）〕

国語科教諭免許課程履修者必修科目。この科目が履修できるのは、国語科教育法Ⅰ～Ⅲの単位を修得した者に限る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『体系古典文法』//数研出版
『パスワード古文単語』//浜島書店
『発展 30 日完成漢文高校初級用』//日栄社

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領解説 国語編』//文部科学省//
『高等学校学習指導要領解説 国語編』//文部科学省//
『精選国語総合』(2東書 国総333) 教師用指導書 //東京書籍//

〔参考URL(URL for Reference)〕

『中学校学習指導要領解説 国語編』//文部科学省//
『高等学校学習指導要領解説 国語編』//文部科学省//
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

児童サービス論

LIB3800NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 前期

木曜1限

ー

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

児童サービスの基本を知識として身につけるだけでなく、実践的に学んで雰囲気をつかむこと、読書や情報サービスに関わる社会的問題にも広く目を向けることをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 児童サービスの理念及び基本的事項をしっかりと把握する。
2. 児童サービスに深く関連する子どもの心理、子どもの読書、子ども観の移り変わり、児童書などについても併せて学ぶ。
3. ブックトークやストーリーテリングなどの読書プログラムについて、基本的事項を把握した上で実践的に学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
児童サービスに関する理解	児童サービスの全体像を知らない。	児童サービスの全体像を説明できる。	児童サービスの個々の機能について説明できる。	理念に照らして、児童サービスの全体像及び各機能を説明できる。
おはなし会に関する知識・技術・企画力	図書館におけるおはなし会の意義や概要を知らない。	図書館におけるおはなし会の意義と概要を知っている。	おはなし会に利用できるブックトークや読書へのアニメーションに関する知識と技術がある。	複数のプログラムを組み合わせておはなし会を企画することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 I 児童サービス概論

第 2 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)

- 1) お話会に利用できるさまざまな方法
- 2) 読み聞かせ

第 3 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)

- 3) 紙芝居
- 4) ストーリーテリング

第 4 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)

- 5) 読書へのアニメーション

第 5 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)

- 6) ブックトーク (定義・方法)

第 6 回 II 子どものための読書プログラム (実習を含む)

- 6) ブックトーク (選書・ブックトークストーリーの構築)

第 7 回 III 児童サービスの歴史

※読書プログラム実習を合わせて実施

第 8 回 IV 乳幼児サービス

※読書プログラム実習を合わせて実施

第 9 回 V ヤングアダルトサービス

※読書プログラム実習を合わせて実施

第 10 回 VI 児童資料論

- 1) 絵本・物語

※読書プログラム実習を合わせて実施

第 11 回 VI 児童資料論

- 2) ノンフィクション

※読書プログラム実習を合わせて実施

第 12 回 VII 児童書選択とコレクション構築

- 1) 選択理論

※読書プログラム実習を合わせて実施

第 13 回 VII 児童書選択とコレクション構築

- 2) 現状と課題

※読書プログラム実習を合わせて実施

施

第 14 回 VIII 子どもと読書・情報をめぐる諸問題

第 15 回 IX 内容理解確認と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義・実習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。
3. ブックトーク・ストーリーテリングなどの読書プログラム実習を行う。
4. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。筆記試験については終了後manabaで講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 公共図書館の児童サービスコーナーを見る機会をできるだけ多く持つ。
2. 児童書をできるだけたくさん読んでおく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験60% (第15回に実施)、読書プログラム実習を含む授業中の課題40%とし、その合計で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

前提として、児童書に関する知識も必要です。できるだけ多くの児童書を読む機会を持ってください。

ゲスト講師をお呼びすることもあります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『児童サービス論』/鈴木佳苗編/樹村房//学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報サービス演習 I

LIB2850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

火曜 4限

ー

60

定員46人

矢田 竣太郎

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

情報の氾濫する状況のもとで情報検索を行う場合には、何が検索の主題であるかを明確にし、それを各種データベースなどの情報探索ツールで効果的、効率的に検索できる技術が必要となる。それは、情報へのニーズを理解し、それを検索語に適切に変換し、情報探索ツールと必要とする情報のそれぞれの特性を理解して適切な検索ができる能力である。本演習では実習を通して、効果的な情報検索を行うことができる能力を習得するとともに、それに必要な、情報へのニーズを認識し、評価・選択し、利用する能力も身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. データベース検索インターフェイスの利用に習熟する。
2. 論理演算等の情報検索の基礎的事項を学ぶ。
3. 探索事項と検索語の関係を分析できるようにする。
4. 利用するデータベースの性質を理解し効果的な検索が行えるようになる。
5. 情報の入手、評価・選択、利用の方法を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

適切な検索語、検索式を策定できる能力	基本的理解が十分でない	基本的理解はあるが、十分に応用できていない	実際の検索にある程度適切に応用できる	様々な検索条件において効果的に応用できる
情報資源、資料の種類、内容を理解、評価できる能力	理解、評価がなされていない	理解、評価が不十分	ある程度の理解、評価がなされている	理解、評価とも十分に なされている
検索結果を情報ニーズと照らして適切に検討できる能力	検索結果の検討が殆どなされていない	検討はなされているが不十分	検討にある程度の適切さが見られる	十分な検討が常に見られる
情報ニーズ(どのような情報が必要か)を適切に理解できる能力	ニーズを理解する試みがなされていない	ニーズの内容について十分に検討していない	ニーズの内容をある程度検討して理解している	ニーズの内容について深く検討し理解している

〔授業計画〕

- 第 1 回 演習方法の説明、情報機器とネットワークの基礎事項に関する講義
- 第 2 回 データベースと情報サービス
- 第 3 回 情報検索の理論と基礎技術
- 第 4 回 書誌データベース検索の基礎：本学図書館OPACの検索 (演習課題1)
- 第 5 回 図書資料の検索：国立国会図書館オンライン (演習課題2)
- 第 6 回 図書資料の検索：CiNii Books (演習課題3)
- 第 7 回 雑誌記事、論文の検索：雑誌記事索引 (演習課題4)
- 第 8 回 雑誌記事、論文の検索：CiNii Articles (演習課題5)
- 第 9 回 雑誌記事、論文の検索：引用文献データベースなど、その他のデータベース (演習課題6)
- 第 10 回 新聞記事の検索：朝日新聞 (演習課題7)
- 第 11 回 新聞記事の検索：読売新聞 (演習課題8)
- 第 12 回 法律情報、行政情報、知的財産情報などのデータベースの検索 (演習課題9)
- 第 13 回 外国文献の検索 (演習課題10)
- 第 14 回 インターネットの基礎とインターネット情報の検索
- 第 15 回 総合演習問題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

基本事項についての講義をふまえて、実際のデータベースを利用して情報を検索し、毎回与えられる課題をオンラインで提出する。課題についての質疑応答、個人へのフィー

ドバックは個別に添削して返却または全体的な講評と解説のいずれかの方法による。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

この演習においては課題についての授業中の説明を理解し、提示された課題に取り組むことが重要となる。授業時間内に完了できなかった課題は次回授業までに完了させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習課題の提出80% (演習課題1~10で各8%)、総合演習問題 (理解度確認のテスト) 20%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

演習室利用のため、人数制限がある。

新聞記事データベースの検索は学内で行う必要がある。(VPN接続を利用して学外からでも利用できるが、設定は各自で行うこと。)

取り扱う内容の順番は入れ替わる可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『検索スキルをみがく：検索技術者検定3級 公式テキスト/吉井隆明、森美由紀/情報科学技術協会/2018/97844883673087

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報サービス演習 II

LIB2851N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜1限

ー

60

定員40人 「情報サービス論」履修者であること

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

レファレンス・サービスは、多様な利用者の質問に対して情報を提供する図書館の重要な業務のひとつである。利用者の情報要求を正確に把握し、適切な資料を使って、適切なプロセスで情報を得ることができるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 調べる事柄によって、利用する情報源を使い分けことを知り、それぞれの資料についての知識を得、情報探索のプロセスを体験しながら習得する。

2. 未知の事柄について知識を得る楽しさを知る。

3. 参考図書を使いこなせるようになる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

参考図書に関する知識・理解	基本的な参考図書知らない。	基本的な参考図書知っている。	さまざまな種類の参考図書を知っており、それぞれの特徴を理解している。	さまざまな参考図書の特徴を知って、必要に応じて使いこなすことができる。
レファレンス課題を解く力	レファレンス課題を解くことができない。	簡単な課題に関して、参考図書を選んで、答えを探ることができる。	課題からヒントを見つけ出し、OPACなどを活用して必要な参考図書を見つけ、それを使って答えを探ることができる。	課題を見て、適切な参考図書を選び、十分に活用して、答えを探ることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 演習方法説明と参考図書概説
演習方法説明、情報源解説、参考図書ができるまで
- 第 2 回 演習課題発表 (1)
3章：事物・事象情報の探索
- 第 3 回 演習課題発表 (2)
2章：言語・文字情報の探索
- 第 4 回 演習課題発表 (3)
5章：地理・地名情報の探索
- 第 5 回 演習課題発表 (4)・小テスト
4章：歴史・日時情報の探索
小テスト (3章・2章)
- 第 6 回 参考図書案内の作成演習 (1)
参考図書案内についての解説・参考図書案内の作成
- 第 7 回 参考図書案内の作成演習 (2)
参考図書案内の作成・展示
- 第 8 回 演習課題発表 (5)・小テスト
6章：人物・団体情報の探索
小テスト (5章・4章)
- 第 9 回 演習課題発表 (6)
7章：図書・叢書情報の探索
- 第 10 回 演習課題発表 (7)
8章：新聞・雑誌情報の探索
- 第 11 回 演習課題発表 (8)・小テスト
1章：参考図書・データベース情報の探索
小テスト (6章・7章)
- 第 12 回 演習課題発表 (9)
応用問題1 参考図書の解説目録・書誌の書誌
- 第 13 回 演習課題発表 (10)
応用問題2 各章からの応用問題
- 第 14 回 演習課題発表 (11)・小テスト
応用問題4 事例からの応用問題
小テスト (8章・1章)
- 第 15 回 演習課題発表 (12)

応用問題 5 復習のための応用問題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキストを中心にレファレンス・サービスのための参考図書についての知識や利用方法を把握する。(〈情報サービス論〉で学習したことを各自復習する。)
2. 図書館で各自課題をこなし、授業中に発表する。
3. 参考図書案内の作成演習を授業中に行う。
4. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。小テストについては、採点后、授業で解説をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 〈情報サービス概説〉の授業内容を踏まえて演習を実施するため、復習しておく。
2. 前の週までに各回の課題を配布するので、各自割り当てられた課題をこなし、所定の様式でレジュメを作成し、manabaで提出する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小テスト40% (4回に分けて実施)、演習課題の発表及び提出60%とし、その合計で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1. 〈情報サービス論〉を先に履修すること。その内容を学んでいることを前提に演習を進める。
2. 受講生の人数によって、課題の回数を調整することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『レファレンスブックス 選びかた・使いかた』/長澤雅男 石黒祐子共著/日本図書館協会/2016/9.784820416142E12/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて、授業中に紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報サービス論

LIB2803N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

水曜1限

ー

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人々に様々な情報を提供することが図書館の役割である。本講義では、その「情報サービス」に関する活動を概観し、それらがどのような目的で行われているのか、そしてどのように提供されているのかを取り扱う。基礎的事項に加えて、情報、図書館を取り巻く環境の変化も捉えつつ、情報サービスの意義と課題について検討する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

情報サービスの意義と実際について理解する。

情報サービスに必要な基本的知識、技能を習得する。

情報サービスを効果的に提供する計画を策定できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	基礎事項をほとんど理解できていない	基礎事項をある程度理解している	基礎事項をほぼ十分に理解している	基礎事項を十分に理解している
言語力				
思考・解決力	情報サービスに必要な情報源を同定、探索できない	情報源をある程度同定、探索できる	適切な情報源を同定、探索できる	適切な情報源を網羅的に探索できる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

授業の進め方の説明、情報社会と図書館 (テキスト1)

第 2 回 情報サービスとは

情報サービスの意義と実際 (テキスト2)

第 3 回 レファレンスサービス

基礎的事項について (テキスト3)

第 4 回 レファレンスサービスのための情報資源

(テキスト8: 1~2)

- 第 5 回 データベースの種類と仕組み
(テキスト5)
- 第 6 回 情報検索の基礎
データベース検索の基礎的事項 (テキスト5)
- 第 7 回 情報サービスの計画
(テキスト4)
- 第 8 回 レファレンス、情報検索の実践
課題についての解説
- 第 9 回 オンライン情報サービス
インターネットで提供される図書館サービス (テキスト6)
- 第 10 回 情報サービスの展開
課題解決型サービス (テキスト8 : 3~5)
- 第 11 回 情報サービスの動向
国内外の取り組み
- 第 12 回 情報リテラシー
「情報を使いこなす能力」の意義と理論 (テキスト7)
- 第 13 回 情報リテラシー教育
図書館における教育活動の実践と課題 (テキスト7)
- 第 14 回 情報行動
人々が情報をどのように取得し、利用しているか
- 第 15 回 まとめ
情報社会における図書館の役割を確認する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は実施しない。期末レポートを課す。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義形式で行い、授業期間中の課題については授業中に解説する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

テキストの該当する箇所を読んでおく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題 (70%)、レファレンス、情報検索課題 (20%)、授業内課題、諸活動への参加 (10%)

〔留意事項 (Other Information)〕

テキストは授業開始時には入手できない可能性があるが、授業はそれに留意して進行する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『現代図書館情報学シリーズ5改訂 情報サービス論』/山崎 久道・原田 智子編著/樹村房/2019/9784883672950/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

大学図書館での情報サービス実務経験あり。

情報メディアの活用

TLI2802NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜2限

ー

60

定員44人

西尾 純子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校図書館において必要な情報メディア活用能力を身につけることができる。

情報メディア活用能力の分野において、児童生徒を指導する能力を獲得することができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 司書教諭として必要な各種メディアの現状、特性、活用等について学習する。

(2) 関連法規、情報倫理等について学習する。

(3) 課題に沿って自ら企画し、調べた結果を発表する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学校図書館における情報メディアについて理解しようとする。しない。	学校図書館における情報メディアについて理解している。	学校図書館における情報メディアについて理解し、児童生徒を指導できる力を身につけようとしている。	学校図書館における情報メディアについて理解し、児童生徒を指導できる力を身につけ、応用した使い方についても考えようとしている。

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンスおよび情報メディアに関する基礎知識

第 2 回 知識基盤社会と学校図書館 (1) 情報メディアとは何か、歴史、知識基盤社会、生涯学習

第 3 回 知識基盤社会と学校図書館 (2) 学校教育における情報メディアの意義と活用

第 4 回 情報メディアの特性と選択 (1) 情報メディアの種類、特性

第 5 回 情報メディアの特性と選択 (2) 情報メディアの選択、機器や設備の管理

第 6 回 情報メディアの教育利用 (1) コンピュータ、ソフトウェア、周辺機器

第 7 回 情報メディアの教育利用 (2) 情報検索のしくみ、データベース検索、インターネット

第 8 回 情報メディアの活用事例 (1) 授業におけるコンテンツの活用

- 第 9 回 情報メディアの活用事例（2）授業における ICT の活用
- 第 10 回 情報メディアの活用事例（3）学校図書館Webサイトの活用
- 第 11 回 情報メディアの活用事例（4）特別な支援を要する児童生徒への活用
- 第 12 回 情報メディアと児童生徒の保護・支援（1）情報メディアの活用と知的財産権
- 第 13 回 情報メディアと児童生徒の保護・支援（2）情報モラルと個人情報保護
- 第 14 回 情報メディアと児童生徒の保護・支援（3）情報メディアに関連するトラブルと対策
- 第 15 回 総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しませんが、原則として授業内で出した課題をすべて提出した学生を評価の対象とします。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は講義だけでなく、演習も行います。

履修する学生の理解度などを見て、授業計画を変更する場合があります。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

科目理解のために、発展的学習として参考文献を活用してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加態度(30%)、発表(20%)、小テスト・レポート(50%)
小テスト・レポートでは理論だけでなく、実際に演習で習得した知識・技術などを評価の対象とします。次回授業で、全体に対してフィードバックを行います。

〔留意事項（Other Information）〕

教職課程履修者に限る。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報メディアの活用』/シリーズ学校図書館学編集委員会編/全国学校図書館協議会/2010/9784793322464

『情報メディアの活用』/山本順一 他/放送大学教育振興会/2016/9784595316494

『学校図書館への研究アプローチ（わかる！図書館情報学シリーズ4）』/日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版/2017/9784585205043

その他、授業の進度にそって適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫教員としての短期の経験および図書館司書として専門図書館での長年の勤務経験あり。

情報資源組織論

LIB2804N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格（実践的科目）

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

金曜3限

ー

60

「図書館概論」履修者であること

鎌田 均

〔科目の教育目標（Course Description）〕

図書館において情報を収集、整理、保存し、情報へのアクセスを整備する上で必要となる、資料・情報の組織化について学ぶ。情報組織の意義と方法論を理解し、実践的知識を習得する。また、関連する情報組織、情報管理についての技術、動向について理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

図書館における情報資源組織の意義と考え方を理解する。

目録法の基礎知識を獲得する。

分類法の基礎知識を獲得する。

情報資源組織に関連する技術、仕組み、動向を学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	授業で扱った内容についての理解がほとんど見られない	授業で扱った内容についての理解が不十分である	授業で扱った内容についての理解がある程度見られる	授業で扱った内容についての理解が十分に見られる
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 授業内容の概略と授業の進め方の説明

第 2 回 情報資源組織の目的と意義

テキスト 1 章

第 3 回 目録の意義、歴史と基本的な考え方

テキスト 2 章： 1、 2、 7

第 4 回 目録の概念モデル

テキスト 2 章： 3

第 5 回 目録：実体の属性と関連

テキスト 2 章： 4、 6

第 6 回

目録：アクセスポイント
テキスト2章：5

第7回 主題組織法
テキスト4章

第8回 期間中の理解度確認テストと解説

第9回 分類の原理と分類法の意義、役割、種類
テキスト5章：1、2、3

第10回 主要な分類表と日本十進分類法
テキスト5章：4、5

第11回 分類規定と分類作業
テキスト5章：6、7、8

第12回 語による主題組織
テキスト6章

第13回 情報組織と情報技術：オンライン目録と書誌ユーティリティ
テキスト3章：1、2、テキスト7章

第14回 デジタル情報資源の組織化とメタデータ
テキスト3章：3、4、5

第15回 最終まとめと理解度確認
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
テキストに従った講義を中心に、関連する課題を課す。
提出された課題について授業中に解説する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
『日本目録規則2018年版』、『基本件名表目標第4版』、『日本十進分類法新訂10版』を随時参照すること。毎回テキストの該当する箇所を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
課題提出30%、中間テスト30%、期末テスト30%、
授業参加度10%

試験の結果はmanabaで本人に公開し、授業中に解説する。
課題については提出後、授業中に解説する。

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
『情報資源組織論』三訂/田窪直規編著/樹村房/
2020/9784883673391/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫ (大学図書館司書としての勤務経験あり)

図書館サービス概論

LIB2802N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 4限

ー

60

「図書館概論」履修者であること

木川田 朱美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

(1)図書館サービスの種類（資料提供、情報提供、利用対象別）を理解し、説明できる

(2)図書館の館種別のサービスを理解し、説明できる

(3)図書館サービスの意義を理解し、説明できる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1)図書館サービスの意義と活動内容を理解する

(2)図書館サービスの種類と方法や利用対象別のサービスについて理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス：図書館サービスの意義

図書館サービスの意義について理解する

第2回 図書館サービスの変遷

図書館サービスの歴史と変遷について理解する

第3回 図書館の資料提供サービス

利用案内・貸出・予約サービスの流れについて理解する

第4回 図書館の情報提供サービス(1)

情報提供サービスの意義について理解する

第5回 図書館の情報提供サービス(2)

レファレンスサービス・図書館の情報発信について理解する

第6回 利用空間の整備

図書館施設の計画と利用について理解する

- 第 7 回 利用対象別サービス(1)
成人・児童・高齢者サービスについて理解する
- 第 8 回 利用対象別サービス(2)
障害者サービス・アウトリーチ・多文化サービスについて理解する
- 第 9 回 課題解決支援サービス
図書館が行う課題解決支援サービスについて理解する
- 第 10 回 館種別の図書館サービス
図書館の館種の理解と、それによる図書館サービスの違いについて理解する
- 第 11 回 図書館サービスの連携と協力(1)
学校図書館・大学図書館・国立国会図書館について扱う
- 第 12 回 図書館サービスの連携と協力(2)
国立情報学研究所・公民館・博物館・文書館・ボランティア団体について扱う
- 第 13 回 図書館サービスと著作権
図書館サービスとかかわる著作権に関して理解する
- 第 14 回 図書館サービスとコミュニケーション
図書館サービスを提供するにあたって必要な接遇に関して理解する
- 第 15 回 まとめと今後の展望
図書館サービスの課題と展望について考える

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

成績評価はレポート課題によって行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1)講義と適宜スマートフォンなどを用いた演習を行う。
- (2)毎回フィードバックシートを記述し、授業内容を振り返る。
- (3)最終授業で成績評価用のレポート課題を課す。提出された課題にはmanaba上でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

下記2点を励行すること：

- (1)授業内で扱った各トピックについて、参考文献に挙げた資料などを読みながら復習を行う
- (2)図書館のさまざまなサービスを実際に複数回受けてみる

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート課題 (60%)、授業時間中の課題および授業時間外の課題 (40%) を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〈図書館概論〉をすでに履修してからこの授業を履修すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『現代図書館情報学シリーズ4 改訂図書館サービス概論』/高山正也・村上篤太郎 編著

青柳 英治・逸村 裕・松本 直樹・宮原 志津子著/樹村房/2019年/9784883672943/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

図書館サービス特論

LIB2860NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 集中

その他

—

60

定員25人

襟川 茂

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

視覚障害者等の情報環境と情報支援・障害者サービスの概要とその方法を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 視覚障害者等の情報環境と情報支援・情報サービスの現状と課題を理解する。
2. 公共図書館での障害者サービスの方法を理解する。
3. 視覚障害者情報提供施設における事業内容と利用者サービスの現状について、見学実習を通して理解する。
4. ネットワークを活用した障害者サービスの方法を理解する。
5. 点字での情報伝達の知識と方法を、点字の読み書き学習を基に理解する。
6. 音声での情報伝達の知識と方法を、音訳やデイジーの学習を基に理解する。
7. 様々な暮らしの場面での情報入手の工夫とボランティア活動の意義について理解する。
8. 情報保障を支援する法制度について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	障害者・障害者サービスに興味がない	障害者の現状を理解し、そのための支援方法に興味を示す	障害者のためのサービスとはどのようなものか考える	障害者への総合的な情報支援の方法を考える
知識・理解力	障害者・障害者サービスの方法を知らない	公共図書館での窓口サービスの基本を理解できる	ネットワークを利用したサービスを実践できる	窓口対応だけでなく資料製作の方法も理解できる

言語力	障害者とのコミュニケーション方法がわからない	音訳・点訳・手引きの基礎を理解できる。	音声・点字・手引きで障害者との基本的なコミュニケーションができる	音訳・点訳・手引きの知識を生活の中で役立てる
思考・解決力	教えられた以上は考えようとしていない	身近な生活の中にも情報格差があることを知る	合理的配慮を自ら考える力がある	障害者とのコミュニケーションを生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	公共図書等の実践例を参考にしない	公共図書館等の実践例をもとに、障害者サービスを考えようとする	考えた結果を周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする	様々なボランティア活動や支援活動に積極的に参加しようとする
創造・発信力	獲得した知識を生活や社会の中で実践しようとしていない	どんな時に障害者にバリアができるのかを考える	すすんで障害者とのコミュニケーションを取ろうとする	身近に障害者がいるときに、その人とともに支援方法を考えることができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 視覚障害者等の情報環境と障害者サービス
資料や情報を利用できない人のこと、またそれを利用できるようにするにはどうすればいいのかを理解する。
- 第 2 回 視覚障害者情報提供施設のサービス
視覚障害者情報提供施設における事業内容と利用者サービスの実際について理解する。
- 第 3 回 見学事前学習—視覚障害児・者福祉施設の役割と事業内容について
社会福祉法人京都ライトハウスとはどのような施設かを理解する。
- 第 4 回 社会福祉法人京都ライトハウス見学
課題をもって社会福祉法人京都ライトハウスを見学する。
見学担当職員（視覚障害者）に説明してもらう。
- 第 5 回 京都ライトハウス情報ステーション見学実習
情報ステーションの職員に次のような内容を説明してもらう。
・サービスカウンターでの日常的な事業運営の見聞
・所蔵資料の分類・配架状況の閲覧
・点訳・音訳等の資料製作から貸出までのプロセスの学習
・ボランティア活動の見聞
・対面読書、読み書きサービス等の利用者との直接サービスの見聞

- 第 6 回 合理的配慮と公共図書館での障害者サービス
・公共図書館に視覚障害者が来館した際のサービスカウンタースタッフの対応の方法を理解する。
・公共図書館での合理的配慮と基礎的環境整備を理解する。
- 第 7 回 ネットワークによる障害者サービスの方法
・「サピエ図書館」と「国立国会図書館サーチ／障害者向け資料検索」の活用方法を実際のサイトを見ながら理解する。
・地域ネットワークを理解する。
- 第 8 回 点字の基礎を学ぶ
・日本点字が発明される以前の文字情報の学習方法を考える。
・点字の特徴とその構造を点字エディタを使いながら理解する。
- 第 9 回 点字の読み書きを体験する
「本文の書き方」「見出しの書き方」「詩歌などの書き方」等を通して、点字の書き方の形式を理解し点字エディタで体験してみる。
- 第 10 回 指点字で情報を伝える
・盲ろう者のコミュニケーション手段を理解する。
・指点字でのコミュニケーションを体験する。
- 第 11 回 音訳とは何か 音声で情報を伝える
・音声で情報を伝えるために必要な技術を理解する。
・図・写真・表・グラフ等、音声化しにくいものを音訳する際の工夫・配慮の基本を理解する
- 第 12 回 Daisyとは何か 音声とテキストで情報を伝える
・テープ資料からデージー資料への変遷を理解する。
・デージー資料の製作方法の基礎を理解する。
- 第 13 回 点字サインと音サイン・音声案内
・どのような場所に点字サイン、音サイン、音声案内があるか考える。
・様々な暮らしの場面での情報入手の工夫と課題について解説する。
- 第 14 回 点字・音声・手引きでボランティア体験
・視覚障害者等へのボランティア活動について理解する。
・誰でもできるお手伝い、手引きを体験する。
- 第 15 回 障害者サービス関連法規・規則の学習と講義のまとめ
公共図書館や視覚障害者情報提供施設での障害者サービスの根拠となる法律を理解する。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義は資料配付を原則とする。
2. 点字・録音資料の紹介や映像でのプレゼンテーションを多用し、受講者が課題を容易に理解できるよう工夫する。
3. 小单元ごとの小テストを行い、知識の定着を図る。
4. 演習を行う。
A. サピエ図書館等での資料検索実習

- B. 点字体験学習(点字の読み方・書き方実習、指点字実習)
- C. 音訳者養成講座体験実習
- D. 手引き体験実習
- E. 視覚障害者情報提供施設の見学実習

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 街中での点字や音声案内等の事例に着目しておくこと。
2. 近くの公共図書館等で障害者サービスの具体例を確認してこること。
3. 「見えない、見えにくい」シミュレーションの体験があれば、そのことを通じて視覚閉鎖の状況についての考えを整理しておくこと。
4. 障害者サービスに関係する各種サイトを閲覧しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

16時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・成績は、小単元終了後の小テスト (50%)、最終講義での小論文課題 (20%) と、授業への参加態度 (30%) の総合評価とする。
- ・基準は、100点満点で60点以上が合格、59点以下が不合格。
- ・その他の確認事項として
 - ・出欠確認は、各授業ごとに受講者名簿に基づいて口頭で行うことを原則とする。
 - ・遅刻、またはやむを得ない事態が発生した時は、速やかに連絡する。

〔留意事項 (Other Information)〕

＜施設見学先＞

施設名：社会福祉法人京都ライトハウス

所在地：京都市北区千本北大路西側下る50メートル（市バス「京都ライトハウス前」）

住所：〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町11 京都ライトハウス

電話： ライトハウス事務所 075-462-4400
情報ステーション 075-462-4579

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

自作プリント、点字読み教材ほか別途指示

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『図書館利用に障害のある人々へのサービス [上巻]』/日本図書館協会障害者サービス委員会/日本図書館協会/2018/978-4-8204-1802-3

『図書館利用に障害のある人々へのサービス [下巻]』/日本図書館協会障害者サービス委員会/日本図書館協会/2018/978-4-8204-1803-0

『見えない・見えにくい人も「読める」図書館』/公共図書館で働く視覚障害職員の会/読書工房（販売）/2009/978-4-902666-22-9

『1からわかる図書館の障害者サービス』/佐藤聖一/学文社/2015/9/978-4-76202521-1

『点訳のてびき 第4版』/全国視覚障害者情報提供施設協会/

読書工房

(販) /2019/978-4-907272-23-4

『音訳テキスト【音訳入門編】』/全国視覚障害者情報提供施設協会録音委員会音訳テキスト【音訳入門編】製作プロジェクト/読書工房（販売）/2013/978-4-907272-20-3

『音訳テキスト【デイジー編集入門編】』/全国視覚障害者情報提供施設協会録音委員会音訳テキスト【デイジー編集入門編】製作プロジェクト委員会/読書工房（販売）/2012/978-4-860556-65-5

適宜資料配布

〔参考URL(URL for Reference)〕

サピエ

<https://www.sapie.or.jp/cgi-bin/CN1WWW>

厚生労働省補助事業「視覚障害者情報提供ネットワークシステム整備事業」

特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会

<http://www.naiiv.net/>

全国の視覚障害者等に対し、視覚障害者情報提供施設やボランティア団体等が提携し、よりよい情報ネットワークを構築して、視覚障害者への情報支援に関する事業を行い、視覚障害者等の生活自立と社会参加並びに生活・文化の向上に寄与すること、ならびに一般社会に向けて視覚障害者福祉の啓発を行うことを目的とする。(定款より)

社会福祉法人京都ライトハウス

<http://www.kyoto-lighthouse.or.jp/>

視覚障害者総合福祉施設

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫司書資格ならびに点訳・音訳指導資格の保有者として視覚障害者情報提供施設での勤務経験あり。

図書館概論

LIB1800N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

1年次

2単位 前期

木曜 3限

—

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

図書館情報学の基礎を学ぶ。司書課程を履修する前提として、図書館についての基本事項を理解する。図書・雑誌から電子出版物にいたる多種多様な情報資源と、それらを扱う図書館の役割と機能を理解する。また、これら情報と利用者をつなげる様々なサービス、試みについて学び、情報ネットワークの時代における図書館の責任や役割について認識を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 図書館の役割、背景、社会的位置づけを理解し、最近の動向について学ぶ。

2. 情報資源と図書館との関係、図書館サービスの基礎を学ぶ。

3. 図書館の機能と仕組みについて理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業で扱う内容に関する知識・理解力	レポート、課題において殆ど示されていない、もしくは不正確	ある程度示されているが、理解の範囲が不十分、もしくは不正確な箇所がある	ほぼ十分かつ正確に示されている	十分かつ正確であることに加えて、より深い考察が示されている
言語力	レポート、課題における文章による説明が全体的に不明瞭	文章による説明に不明瞭な箇所が多い	文章による説明がほぼ全体的に明瞭	文章による説明が全体において明瞭

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方と課題の説明
- 第 2 回 図書館の意義と役割 (テキスト 1 章)
- 第 3 回 図書館の歴史 (テキスト 2 章)
- 第 4 回 図書館の機能と種類 (テキスト 3 章)
- 第 5 回 図書館のサービス (テキスト 4 章)
- 第 6 回 情報・資料の流通と図書館 (テキスト 5 章)
- 第 7 回 情報の組織と情報へのアクセス (テキスト 6 章)
- 第 8 回 情報ネットワークと電子資料 (テキスト 8 章)
- 第 9 回 情報リテラシーと利用者教育 (テキスト 9 章)
- 第 10 回 図書館経営 (テキスト 10 章)
- 第 11 回 図書館司書とは (テキスト 11 章)
- 第 12 回 知的自由と図書館の自由 (テキスト 12 章)
- 第 13 回 海外の図書館とサービス、図書館ネットワーク (テキスト 7 章)
- 第 14 回 越境する図書館：図書館以外の分野、機関との関係
図書館情報学
- 第 15 回 図書館をめぐる諸課題 (この回もしくは別の回にゲスト講師による講義を予定)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキストの内容、講義を通して図書館の基本的事項を学ぶ。
2. 与えられた課題についてレポートを作成することで講義内容、テキストの内容の理解を深める。
3. 授業内での課題を通して、図書館について考え、実践的に学ぶ。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

次回講義までにテキストの該当する章を事前に読み、理解しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業での諸活動への参加、授業中課題 (40%)

期末レポート (60%) : レポートの点数は manaba で閲覧可能にし、講評する。

〔留意事項 (Other Information)〕

1 年次生に履修するのが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『新しい時代の図書館情報学』補訂版/山本順一 (編) /有斐閣/2016/9784641220836/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (大学図書館司書としての勤務経験あり)

図書館制度・経営論

LIB3850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 前期

火曜 2限

ー

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

図書館という組織を経営することの意味を理解し、図書館を有機的に機能、発展させるための図書館経営、および図書館関係の法律、政策に関する知識を習得する。図書館司書に求められる基礎知識、図書館経営に必要な基礎事項について講義しつつ、国内外の図書館経営の実例、最近の動向等を紹介し、検討することにより、図書館経営について多角的視点をもって考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 図書館経営、及び図書館関係法律、政策の基礎知識を得る
- 2 図書館経営に応用できるマネジメント技術を理解する
- 3 図書館経営に関する幅広い視野、柔軟な思考力を身につける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業で扱うトピックについての知識・理解力	授業内容の理解が殆ど示されていない	授業内容の理解がある程度示されているが十分ではない	授業内容の理解がほぼ十分に示されている	授業内容の理解が高く示されている

課題の内容を文章で適切に説明できる能力	内容、文章ともに全く適切でなく、かつ不十分	内容、文章が全体的に不十分もしくは不適切な箇所が多い	内容、文章がある程度適切	内容、文章ともに適切かつ十分
授業で学んだ内容を応用できる思考力	内容が殆ど課題に反映されていない	課題において内容がある程度反映された思考が見られるが、不十分な箇所もある	内容がある程度十分に反映されている	内容の応用が十分かつ適切にできている

〔授業計画〕

- 第 1 回 講義内容及び課題のプレビュー
- 第 2 回 図書館の目的、図書館経営概観
テキスト 2、3 章
- 第 3 回 図書館の法的、組織的、政策的位置づけ
テキスト 1、12 章
- 第 4 回 図書館のミッションとビジョン：運営目的の設定
テキスト 11 章
- 第 5 回 運営戦略（ストラテジックプラン）：戦略の意義と策定
テキスト 9 章:1?2 節, 10 章
- 第 6 回 図書館評価：評価の方法と実践
テキスト 9 章：3 節
- 第 7 回 図書館内組織：組織構成例と比較
テキスト 4 章：3 節、期間レポート（1）提出
- 第 8 回 期間レポート（1）講評：図書館情報システムに関する課題
- 第 9 回 予算編成と管理：物品の調達と管理、費用対効果
テキスト 5、6 章
- 第 10 回 人的資源管理：人材の確保、配置、育成
テキスト 4 章：1?2 節
- 第 11 回 図書館設備、場所としての図書館
テキスト 7 章
- 第 12 回 業務プロセス、サービス提供、PRとマーケティング
テキスト 8 章
- 第 13 回 新規サービス、業務の開発（プロジェクトマネジメント）
- 第 14 回 図書館経営と図書館環境の変化
期間レポート（2）提出
- 第 15 回 全体のまとめと期間レポート（2）講評

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義を中心とするが、授業外でテキストを読み、内容を理解することを踏まえる。授業では講義に加えてケーススタディーなどを通して、図書館経営の理念から図書館経営に応用できるマネジメント技術などを能動的に学習する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎回、テキストの指定された章を読み、内容を理解すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

2 回の期間レポート（各 35%）から、授業で取り上げた内容の理解度と応用力を評価し、期末レポート（15%）で科目全般の総合的理解度を判定する。さらに、授業への参加を平常点として評価する（15%）。期間レポートの点数は manaba で学生本人に公開し、授業中にレポートについて講評する。

〔留意事項（Other Information）〕

テキストは授業開始時には入手できない可能性があるが、授業はそれに留意して進行する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書館制度・経営論』第2版/柳 与志夫/学文社/2019/9784762028724/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫（大学図書館司書としての勤務経験あり）

中等教育課程論

TEA2802N0J
大学

教職・資格 > 教職・資格（実践的科目）
2年次 3年次
2単位 前期
木曜 3限

60
石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

教育課程（カリキュラム）は、学校教育を推進する上での「骨組み」であり、学校改革や授業改善への展望を開くものである。本授業では、主に中等教育段階を対象として、教育課程の意義、内容、編成、評価に関する基本的な知識を学ぶ。さらに教育課程の歴史の変遷や今日の改革動向について知ること、教育課程が社会において果たす役割について理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1) 教育課程の意義とその役割・機能について理解している。
- (2) 教育課程を編成する際の基本原理と編成の方法について理解している。
- (3) カリキュラムマネジメントの内容とその重要性について理解している。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育課程の意義とその役割・機能	教育課程の意義とその役割・機能についての基本的理解が不十分である。	教育課程の意義とその役割・機能についての基本的理解は十分であるが、それらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点が不十分である。	教育課程の意義とその役割・機能について深く理解できているが、それらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点が不十分である。	教育課程の意義とその役割・機能について深く理解でき、さらにそれらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点を身に付けている。
教育課程を編成する際の基本原理と編成の方法	教育課程を編成する際の基本原理と編成の方法についての基本的理解が不十分である。	教育課程を編成する際の基本原理と編成の方法についての基本的理解は十分であるが、それらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点が不十分である。	教育課程を編成する際の基本原理と編成の方法について深く理解できているが、それらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点が不十分である。	教育課程を編成する際の基本原理と編成の方法について深く理解でき、さらにそれらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点を身に付けている。
カリキュラムマネジメントの内容とその重要性	カリキュラムマネジメントの内容とその重要性についての基本的理解が不十分である。	カリキュラムマネジメントの内容とその重要性についての基本的理解は十分であるが、それらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点が不十分である。	カリキュラムマネジメントの内容とその重要性について深く理解できているが、それらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点が不十分である。	カリキュラムマネジメントの内容とその重要性について深く理解でき、さらにそれらをもとに教育課程と実際の学校教育の関係について問う視点を身に付けている。

[授業計画]

- 第 1 回 教育課程と学習指導要領 (1) - 学校教育における教育課程 -
- 第 2 回 教育課程と学習指導要領 (2) - 学習指導要領の法的位置 -

- 第 3 回 学校・教員による教育課程の編成と開発 (1) - 編成の主体 -
- 第 4 回 学校・教員による教育課程の編成と開発 (2) - カリキュラムの「開発」と「自主編成」 -
- 第 5 回 教育課程編成の思想と類型 (1) - 教育課程の代表的類型と思想 -
- 第 6 回 教育課程編成の思想と類型 (2) - 教科間の関係と教育課程の類型 -
- 第 7 回 教育課程編成の思想と類型 (3) - 教育課程の社会的機能 -
- 第 8 回 中等教育におけるカリキュラム実践
- 第 9 回 教育課程の構造と編成方法 (1) - 教育課程編成の基本原則 -
- 第 10 回 教育課程の構造と編成方法 (2) - 教育課程編成の構成要件 -
- 第 11 回 教育課程の構造と編成方法 (3) - 発達段階とカリキュラム -
- 第 12 回 教育課程と評価 (1) - カリキュラム・マネジメントとは -
- 第 13 回 教育課程と評価 (2) - 教育評価と学力評価 -
- 第 14 回 教育課程と評価 (3) - 戦前の学力評価 -
- 第 15 回 教育課程と評価 (4) - 戦後の学力評価 -

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

定期試験を実施する。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

本科目は講義を中心とするが、教員と学生および学生同士の双方向的なコミュニケーションを通じた深い学びを追求する。適宜、質疑応答やディスカッションをおこなうので、積極的に参加すること。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

日頃から新聞等に目を通し、現在の教育改革の動向について把握しておくこと。その他、必要な予習・復習の内容については授業中に指示する。しっかりと準備をおこない毎回の授業に臨むこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

(1) 定期試験：60% (授業で学習した内容全体を出題範囲とする)

(2) 提出物：20% (毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートを提出させる)

(3) 授業態度：20% (授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する)

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

特に指定せず、授業中に配布するプリントを使用する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業中に適宜紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

読書と豊かな人間性

TLI2851NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜 3限

ー

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

子どもが成長していく過程において読書がどのような意義を持つかを考察する。また、子どもが読書の楽しさを知るために、学校図書館はどのような役割を果たすことができるかを、実習を交えながら学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもの読書能力と読書興味の発達段階を学ぶ。
2. 子ども観の移り変わりの中で、子どもの読書の意義についての考え方がどのように変わってきたかを把握する。
3. ブックトークやストーリーテリングなど読書に関する学校図書館の重要なサービスについて、基本的な事項を把握した上で実践的に学ぶ。
4. 読書に関する日本や諸外国の行政施策や民間の取り組みについて学ぶ。
5. 子どもの読書や文化を取り巻く問題点について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
読書センター機能についての理解	学校図書館が読書支援のためにどのような機能を持っているか知らない。	学校図書館が読書支援のためにどのような機能を持っているか理解している。	読書センターとして学校図書館が機能するための具体的なサービス方法を知っている。	読書支援をするにあたって、具体的なサービス方法を知っており、かつ現代的な課題を理解している。
おはなし会についての知識・技術	図書館におけるおはなし会の意義や概要を知らない。	図書館におけるおはなし会の意義と概要を知っている。	おはなし会に利用できるブックトークや読書へのアニメーションに関する知識と技術がある。	複数のプログラムを組み合わせて、おはなし会を企画することができる。

〔授業計画〕

第 1 回 序 「読む」とは

第 2 回 1. 読書能力・読書興味の発達段階

第 3 回 2. 子どものための読書プログラム (演習を含む)

- 1) お話会プログラムに利用できる技術 2) 紙芝居

第 4 回 2. 子どものための読書プログラム (演習を含む)

- 3) 読み聞かせ 4) ストーリーテリング

第 5 回 2. 子どものための読書プログラム (演習を含む)

- 5) 読書へのアニメーション

第 6 回 2. 子どものための読書プログラム (演習を含む)

- 6) ブックトーク

第 7 回 2. 子どものための読書プログラム (演習を含む)

- 6) ブックトーク (続き) 7) ビブリオバトル

第 8 回 3. 児童資料論

- 1) 絵本・物語

第 9 回 3. 児童資料論

- 2) ノンフィクション

第 10 回 4. 子ども観の変遷

第 11 回 5. 子どもへの読書支援

- 1) 日本の行政施策と民間の取り組み

第 12 回 5. 子どもへの読書支援

- 2) 海外の行政施策と民間の取り組み

第 13 回 6. 子どもと読書・情報をめぐる諸問題

第 14 回 7. 子どもにとっての読書の意義

第 15 回 8. 内容理解確認と振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義・実習を併せて行う。
2. 授業中にいくつかの課題をこなすことを求める。(ワークシートを利用した学習、方法論習得のための作業を伴う学習など)
3. ブックトーク・ストーリーテリングなどの読書プログラム演習を行う。
4. プリント・ビデオ等を利用する。
5. 授業中の課題については、その場で口頭によるフィードバックをする。筆記試験については終了後manabaで講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 講義に関しては、各学習項目ごとに、事前学習や作業の方法を指示する。
2. 読書プログラム演習に関しては、準備方法を授業中に指示する。
3. ある程度児童文学や絵本を読んでいることが学習効果を高めるので、各自積極的に読んでおくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

筆記試験60% (第15回に実施)、読書プログラム実習を含む授業中の課題40%とし、その合計で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

演習実施日程の調整のため、授業の順番は前後することがある。

ゲスト講師を招くことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『読書と豊かな人間性』(放送大学 2020)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語教育実習 I

JLT3800NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次

2単位 前期

金曜 2限 金曜 3限

ー

30

日本語教育入門

週2コマ

稲垣 顕子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

模擬授業を通して、日本語を教えるための技術を身につける。どのような学習者にでも対応できるよう、初級、中級、上級というレベルに応じた指導法はもちろん、文法、会話、読解、作文といった科目別の具体的な指導方法も学ぶ。実践を通して、日本語教育入門で学んだ知識を日本語教師として必要な技術に結びつける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・日本語教育における日本語文法を学ぶ。
- ・レベル別、科目別の模擬授業を通して、指導法の基礎を身につける。
- ・どのような授業を行うか、自ら考え、工夫して教案を作る。
- ・さまざまな教材の特徴を学び、効果的な使用法を考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	学習者の困難点が把握できない	学習者の困難点を理解しようと努められる	学習者の困難点を理解して授業に取り入れられる	学習者の困難点全般を理解し、あらゆる質問にも対応できるよう態勢を整えて授業に臨める

知識・理解力	日本語教育の基礎が身についていない	日本語教育の基礎は理解しているが、授業に取り入れられない	日本語教育の基礎を理解して、ある程度授業に生かすことができる	日本語教育の基礎を理解し、応用できる。
言語力	現代日本語文法、表現の基礎知識がない	現代日本語文法、表現の知識はあるが、学習者への対応にそれを生かすことができない	学習者のレベルを把握し、ある程度表現を使い分けられる。	学習者のレベルに応じて表現を使い分けられる。
思考・解決力	授業運営上の問題(学習者からの質問、学習者が理解できていないなど)に学習者から意思表示があっても対応できない	授業運営上の問題(学習者からの質問、学習者が理解できていないなど)に学習者から意思表示があれば対応するが、十分ではない	授業運営上の問題(学習者からの質問、学習者が理解できていないなど)に学習者から意思表示があれば対応できる	授業運営上の問題(学習者からの質問、学習者が理解できていないなど)に、学習者からの意思表示がなくても気がつき、対応することができる
共生・協働する力	授業に学習者の視点が欠けている	学習者のことを考えて授業を組み立てる努力はできる	学習者が楽しんで授業を受けられることを考えて授業が組み立てられる	学習者が楽しんで授業を受けられるように授業を組み立てるだけでなく、その場に応じて対応できる
創造・発信力	学習者の発言等に反応ができない	学習者の発言等へ形式的にしか反応できない	学習者の発言等へ適切な反応ができる	学習者の意欲を駆り立てるような発言が場に応じて行える

〔授業計画〕

第 1 回 はじめに (オリエンテーション)

0

第 2 回 初級授業概論

0

第 3 回 初級模擬授業準備

0

第 4 回 初級模擬授業 (1)

こ・そ・あ、名詞文、動詞文の模擬授業

第 5 回 初級模擬授業 (2)

授受表現、形容詞文、存在文の模擬授業

第 6 回 初級模擬授業 (3)

- ほしい・たい、て形を使った文型、ない形を使った文型、辞書形を使った文型の模擬授業
- 第 7 回 初級模擬授業 (4)
条件文、そうです、ようですの模擬授業
- 第 8 回 初級模擬授業 (5)
受身文、使役文、敬語の模擬授業
- 第 9 回 中上級授業概論
0
- 第 10 回 中上級授業 (1)
文法の授業
- 第 11 回 中上級授業 (2)
会話、読解の授業
- 第 12 回 実習 (1)
京都工芸繊維大学での実習 (予定)
テーマ：自己紹介、日常生活
- 第 13 回 実習 (2)
京都工芸繊維大学での実習 (予定)
テーマ：買い物、私の町
- 第 14 回 実習 (3)
京都工芸繊維大学での実習 (予定)
テーマ：食べ物、誘う
- 第 15 回 まとめ
模擬授業、実習の振り返り

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・教授法を確認しながら、グループ、あるいは個人で模擬授業の準備、実践を行う。自らの実践だけでなく、他学生の模擬授業から指導項目の要点、教え方のポイントも学ぶ。積極的に授業に参加すること。

・模擬授業はクラス全体でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

・日本語文法や教授法はさまざまな書物にあたり、自ら積極的に学ぶこと。

・模擬授業の前には必ず教案を提出すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度：40%、課題・実習：60%

出席が3分の2以上に満たない者は評価しない (不合格)。

遅刻は教師の資質にかかわる問題であるため、場合によっては特別課題を課す。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者の人数等により、授業内容は変更される場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

ハンドアウト配布。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中、適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫実務経験あり

留学生への日本語教育を行っている

日本語教育実習 II

JLT3850NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

3年次 4年次

2単位 後期集中

その他

—

60

日本語教育実習I

集中

田中 貴子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 教育実習

本科目は1,2,3年で学習した日本語教員養成科目の総仕上げとして、実際に外国人学習者に日本語教育の授業実践を行なうことにより、日本語教師としての知識、技能、考え方などを身につけることを目標とする。実習において円滑な実践が行なわれるよう、十分な課題準備が求められる。既に実施している教室内実習とは異なり、多様な学習者に対応した指導技術、問題解決能力、コミュニケーション力などが求められる。グローバル社会において、自ら考え実践できる日本語教師の育成を目指す。

2. 事前事後授業

実習を実りあるものにするため、事前授業では基本的な授業技能や心構えを身につけ、自主的に様々な準備を行う。事後指導においては、実習体験が今後の自立学習に活かされるように意識付けを行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語教育実習に対する教師としての心構えを身につける。
2. 学習者に応じたコースデザイン・指導内容を考える。
3. 実習のオリエンテーション、プレースメントテスト、シラバスなどの作成を行う。
4. さまざまな教授法をふまえて、指導案作成・教材準備を行う。
5. 実践を通して、効果的な指導技能、教室活動を学ぶ。
6. 日本語学習者との相互理解を深める。
7. 実習を総括し、レポートにまとめる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語教育能力を向上する努力をしない	日本語教育能力の向上を大切に考える	日本語教育能力の向上のために自ら積極的に学ぶ	日本語教育能力をどのように活用できるかを

				考え、実践できる
知識・理解力	基礎的な日本語教育能力に関する知識がない	基礎的な日本語教育能力に関する知識を有する	専門的な日本語教育能力に関する知識を有する	専門的な日本語教育能力や関連する分野の知識を有する
言語力	基礎的な日本語教育に関する表現が理解できない	基礎的な日本語教育に関する表現が理解できる	専門的な日本語教育に関する表現が理解できる	専門的な日本語教育や関連する分野の表現が理解でき、実践できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	日本語教育に関する問題を考え、実践しようとする	日本語教育に関する問題を考え、自ら解決して実践する努力をする	日本語教育に関する問題を自ら見つけ出し、考えて実践できる
共生・協働する力	授業で学んだ知識や他者の意見を参考にしない	授業で学んだ知識や他者の情報を踏まえて、自ら実践しようとする	自ら実践した知識を、他者と共有し、自分の知識を深めようとする	広範囲の情報や知識を共有し、自分の実践に活かして知識を深める
創造・発信力	自分勝手な情報発信をする	自らの知識を踏まえて、日本語教育の実践について考える	自らの実践や、他者の情報を総合的に判断し、日本語教育の実践に関する知識を深める	広範囲の情報や知識を踏まえて、自ら日本語教育実践について発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 事前指導1. コースオリエンテーション、教育実習の意義及び心構え、学習者の多様性と異文化コミュニケーション、ポスター作成
- 第 2 回 事前指導2. コースデザイン、プレースメントテスト作成、実習オリエンテーション準備
- 第 3 回 事前指導3. 教材研究、指導案作成、教材および教具作成（初級）
- 第 4 回 事前指導4. 教材研究、指導案作成、教材および教具作成（初中級および中級）
- 第 5 回 実習1. 実習オリエンテーション、プレースメントテスト実施、クラス分け
- 第 6 回 実習2. 初級授業実践（ひらがな、挨拶、自己紹介、こそあど、数字）
- 第 7 回 実習3. 初級授業実践（ひらがな、基本的な動詞・形容詞、存在の表現）
- 第 8 回 実習4. 初級授業実践（カタカナ、希望の表現、授受表現）
- 第 9 回 実習5. 初級授業実践（カタカナ、比較の表現、過去の表現）
- 第 10 回

- 実習6. 初中級授業実践（動詞「辞書形」「て形」「た形」の文型）
- 第 11 回 実習7. 初中級授業実践（動詞「ない形」「普通形」の文型）
- 第 12 回 実習8. 初中級授業実践（可能の表現、時の表現、自動詞・他動詞）
- 第 13 回 実習9. 中級授業実践（日本文化に関する読解）
- 第 14 回 実習10. 中級授業実践（日本文化に関する会話）
- 第 15 回 事後指導1. 振り返り、実習日誌・レポート・最終指導案提出、総括、今後の自己学習

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポートの提出

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

実習の事前事後に、講義による授業を行なう。実習先では授業を実践し、その後フィードバックを行なう。授業実践の前には指導案の提出が求められる。学生は授業実践および授業見学を通して共に日本語教育における技能を深める。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

事前授業では、さまざまな学習者に対するコースデザインを行う。また、日本語教材の比較・分析を通して授業実践の準備を行う。

実習中は、指導内容の研究が不可欠で、授業に対する適切で効果的な指導法や教材・教具などを考えて指導案を作成することが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は授業参加度、指導案提出、教育実習、課題提出により総合的に行う。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』//スリーエーネットワーク//9784883196036

『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』//スリーエーネットワーク//『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』//スリーエーネットワーク//9784883191550

『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』//スリーエーネットワーク//9784883192014

『日本語文型辞典』//くろしお出版//4874241549

『日本語初級大地1』スリーエーネットワーク

『日本語初級大地2』スリーエーネットワーク

『トピックによる日本語総合演習中級前期』スリーエーネットワーク

『トピックによる日本語総合演習中級後期』スリーエーネットワーク

『J.Bridgeジェイ・ブリッジ Vol.1 Vol.2』凡人社

『くらべてわかる日本語表現文型辞典』Jリサーチ

『日本語初級大地 文型説明と翻訳 英語版』スリーエーネットワーク

『日本語初級大地 教師用ガイド 教え方と文型説明』スリーエーネットワーク

『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク

『生きた例文で学ぶ日本語表現文型辞典』アスク

『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ 書いて覚える文型練習帳』スリーエーネットワーク

『おたすけタスク』くろしお出版

『コミュニケーション・ゲーム』凡人社

『コミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク

『絵で導入・絵で練習』凡人社

『クラス活動集101』スリーエーネットワーク

『続クラス活動集131』スリーエーネットワーク

『日本語かな入門』凡人社

『くらべてわかる日本語表現文型辞典』Jリサーチ

『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

『中級日本語文法要点整理ポイント20』スリーエーネットワーク

『語学留学生のための日本語Ⅰ』『フォローアップ問題集』凡人社

『語学留学生のための日本語Ⅱ』『フォローアップ問題集』凡人社

『絵とタスクで学ぶにほんご』凡人社

『絵でマスター日本語基本文型85』凡人社

『初級日本語げんき[改訂版]』ジャパントイムス

『まるごと 日本のことばと文化』三修社

『中級へ行こう』スリーエーネットワーク

日本語初級・初中級・中級テキスト

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶

日本語学校、インターナショナルスクールにおいて留学生に対し、豊中市国際交流協会、神戸市国際交流協会において在留外国人に対し日本語教育を担当

日本語教授法

JLT2850NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

2年次 3年次

2単位 前期

火曜3限

ー

60

田中 貴子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、前期「日本語教育入門」での学習をふまえた上で、実際の授業を行うために必要な知識やスキル、考え方を身につけることを目標とする。日本語教育を行う上で必要な第二言語習得理論や、教授法の変遷、日本語の言語的な特徴、教室運営スキルなどを学ぶ。現在、日本語学習者の増加に伴い、その背景や学習動機などは実に多様化しており、授業の実践方法もさまざまである。日本国内、国外を問わず、様々な状況に応じて、学習者のために自ら考え、実践できる教師の育成を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

国内外の日本語教育の現状およびその背景を知る。

さまざまな教授法を学び、その特徴や問題点を考える。

外国語としてとらえた日本語に関する知識を学ぶ。

外国語教育の技能を学ぶ。

教材や教室活動、授業の組み立て方を学び、実践を行う。

教師としての資質を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	日本語教育能力を向上する努力をしない	日本語教育能力の向上を大切に考える	日本語教育能力を向上するために自ら積極的に学ぶ	日本語教育能力を活用するために、自ら考え実践できる
知識・理解力	基礎的な日本語教育に関する知識がない	基礎的な日本語教育に関する知識を有する	専門的な日本語教育に関する知識を有する	広範囲にわたる日本語教育および関連する知識を有する
言語力	基礎的な日本語教育に関する表現が理解できない	基礎的な日本語教育に関する表現が理解できる	専門的な日本語教育に関する表現が理解できる	専門的な日本語教育や関連する分野の表現が理解できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしない	日本語教育に関する問題点を考えようとする	日本語教育に関する問題点を考え、自ら解決しようとする	日本語教育に関する問題点を考え、様々な知識を踏まえて自ら解決できる

共生・協働する力	授業で学んだ知識や他者の意見を参考にしない	授業で学んだ知識や他者の意見を参考に、日本語教育能力を考えようとする	自ら得た知識を他者と共有し、日本語教育能力を深めようとする	日本語教育に関する広範囲の情報を共有し、自らも考えを深められる
創造・発信力	自分勝手な情報発信をする	周りの状況を踏まえて、日本語教育の実践を考える	自らの考えや他者の考えを総合的に判断して日本語教育の実践を考える	広範囲の情報を踏まえて、日本語教育の実践やあり方を考える

〔授業計画〕

- 第 1 回 国内外の日本語教育の現状
 - 第 2 回 コースデザイン、シラバス
 - 第 3 回 教授法の歴史と言語学習理論 1 (構造言語学に基づいた教授法まで)
 - 第 4 回 教授法の歴史と言語学習理論 2 (コミュニカティブな教授法から現代にいたるまで)
 - 第 5 回 教室活動の種類と目的 1 (教室環境や教師のインターアクションなど)
 - 第 6 回 教室活動の種類と目的 2 (授業の組み立て、クラスの活動)
 - 第 7 回 日本語の音声
 - 第 8 回 授業の実際 1 会話教育と教材分析
 - 第 9 回 授業の実際 2 聴解教育と教材分析
 - 第 10 回 授業の実際 3 読解教育と教材分析
 - 第 11 回 授業の実際 4 作文教育、日本語の語彙
 - 第 12 回 評価論、教科書分析、授業案作成
 - 第 13 回 授業の実践 1 (教材研究・模擬授業 初級 1)
 - 第 14 回 授業の実践 2 (教材研究・模擬授業 初級 2)
 - 第 15 回 授業の実践 3 (教材研究・模擬授業 初級 3)
- 今までのまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

ハンドアウトに沿って講義を行う。

外国語としての観点から、日本語を分析する。

さまざまな教授法を学び、各自あるいはグループで教案作成や教材分析を行う。課題に対するレポートが求められる。次回授業でレポートのフィードバックを行う。

教室内実習を行う。実習後、全体に対してフィードバックを行う。

授業への積極的な参加が求められる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に資料を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、課題・実習 (40%)、試験 (30%) の総合評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎回、ハンドアウトを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編』/西口光一/バベルプレス/1995/

『日本語教授法を理解する本 実践編』/三牧陽子/バベルプレス/1996/

『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』/川口義一&横溝紳一郎/ひつじ書房/2005/

『日本語教授法』/石田敏子/大修館書店/1995/

『日本語教育ハンドブック』/林大他/大修館書店/1990/

初級を教える人のための日本語文法ハンドブック スリーエーネットワーク

中上級を教える人のために日本語文法ハンドブック スリーエーネットワーク

国際交流基金日本語教授法シリーズ 第1巻~14巻 凡人社

日本語教育演習シリーズ①②教えるためのことばの整理①~② 凡人社

日本語教育演習シリーズ③④さまざまな表現 凡人社

日本語教育演習シリーズ⑤教え方の基本 凡人社

日本語教育演習シリーズ⑥授業の組み立て 凡人社

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

日本語学校、インターナショナルスクールにおいて留学生に対し、豊中市国際交流協会、神戸市国際交流協会において在留外国人に対し日本語教育を担当

博物館教育論

MUS1852N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 後期

水曜1限

—

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会教育施設としての博物館の特性を理解する。博物館の教育は双方向的なものであり、すべての人に開かれなければならないことを理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

博物館での教育活動の基礎となる理論や知識、方法論を習得する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	企画の進行予定に見通しを持ってない	企画の進行予定をスケジュール化できる	関わりのある人とスケジュール調整ができる	無理のない進行予定をたてることができる
知識・理解力	博物館の教育普及について基礎的な用語を知らない	博物館の教育普及について基礎的な用語を知っている	博物館の教育普及について実際の活動例がある程度知っている	博物館の教育普及について全体的・個別的に説明できる
言語力	作品解説を注意して読んだことがない	作品解説を読んで、工夫されている点を指摘できる	作品解説を自分でも書いてみたことがある	鑑賞者を意識して作品解説を書ける
思考・解決力	博物館の教育普及活動に参加したことがない	博物館の教育普及活動の企画の方法を知っている	教育普及活動の企画を作成することが出来る	教育普及活動の企画をし、準備して実施することが出来る
共生・協働する力	博物館の教育普及の意義を知らない	博物館の教育普及には多様な人々が関わることを理解している	博物館の教育は双方向的なコミュニケーションを目指すものであることを理解している	すべての人に開かれた社会教育施設としての博物館の意義を理解している
創造・発信力	教育普及活動の多様な工夫を知らない	前例をまねしながら教育普及活動を実施できる	前例を改善しながら教育普及活動を実施できる	新しい教育普及活動のアイデアを思いつくことができる

[授業計画]

- 第 1 回 博物館における教育とはなにか
- 第 2 回 博物館教育の歴史
- 第 3 回 博物館の利用実態と様々な学びの形態
- 第 4 回 博物館教育の双方向性について
- 第 5 回 教育的観点からみた展示・解説
- 第 6 回 学校教育と博物館
- 第 7 回 生涯学習と博物館
- 第 8 回 地域と博物館
- 第 9 回 ユニヴァーサルな博物館を目指して
- 第 10 回 博物館教育活動の様々な手法について
- 第 11 回 博物館教育活動の企画と実施の実務について
- 第 12 回 ワークショップの企画のための見学(陶板名画の庭を予定。実施回未定)
- 第 13 回 ワークショップの準備
- 第 14 回 ワークショップの実施

第 15 回 博物館教育の評価について

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

講義形式、ディスカッション、ワークショップ。適宜、課題を提示する。課題とレポートの成果は発表などを通してクラスで共有する。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

指示された課題に取り組むこと。また、機会があれば、美術館や博物館で行われているワークショップや解説会などを体験すること。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

30

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

参加態度50%、レポート(制作物の場合もある)の成績50%で評価する。

[留意事項 (Other Information)]

受講生によりなんらかのワークショップを実施する際、状況によって企画準備などの進行の実施時期を適宜調整する。情報に注意すること。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

適宜配布する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『博物館教育論』/小笠原喜康ほか/ぎょうせい/2012/9784324092460

適宜指示する。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

≪実践的科目≫(兵庫県立美術館で学芸員として勤務)

博物館経営論

MUS1850N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜2限

—

60

明珍 健二

[科目の教育目標 (Course Description)]

博物館の経営における形態面および活動面における適切な管理・運営手法について理解し、ミュージアムマネジメントに関する基礎的能力を養成する。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

博物館の経営基盤に関し、職員と組織がスムーズに連動するために財務・行財政システム・施設と設備がいかにあるべきかを理解し、博物館の使命とは何か、その評価

とは何かを考えるものとする。また博物館における行動規範を理解し、危機管理対応も理解する。さらに博物館の連携体制について、市民参画に必要な体制作りが友の会・ボランティアにとどまらず他館との連携あるいは産官学の連携までを含み、その結果、地域社会と博物館の連携が地域活性化する原動力となることを理解する。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力			博物館の実態を把握し、どのような業務があるかを知る	
知識・理解力			専門的知識をいかにして獲得するか、その実情を知る	
言語力			博物館における専門用語や博物館資料名称を深く習得する	
思考・解決力			博物館運営にかかる専門的業務内容をどのように展開するかを学ぶ	
共生・協働する力			学芸員としての研究素質を習得し、展覧会等を開催する能力を獲得する	
創造・発信力			博物館新規事業の開発および博物館を活性化させる方策を探ることを考える	

〔授業計画〕

- 第 1 回 ミュージアムマネジメントとは何か
- 第 2 回 公立・私立博物館の行財政制度
- 第 3 回 博物館活動における財務とは何か
- 第 4 回 博物館施設および設備はどのようにあるべきか
- 第 5 回 博物館施設の在り方（諸法例との関連）
- 第 6 回 博物館設備の在り方（諸法令との関連）
- 第 7 回 博物館の組織および職員体制

- 第 8 回 博物館の使命、事業計画、博物館評価とは
 - 第 9 回 博物館倫理（行動規範）とは何か
 - 第 10 回 博物館における危機管理とは何か
 - 第 11 回 友の会、ボランティア、支援組織と市民参画の在り方
 - 第 12 回 博物館のネットワーク化・他館との連携
 - 第 13 回 行政、大学、研究機関等との連携
 - 第 14 回 地域社会との連携・活性化をはかる博物館とは
 - 第 15 回 まとめ（博物館経営基盤とは）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
- 定期試験は行わないが、レポート提出より評価する。
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
- 講義形式とするが、テーマによっては討論を行うことがある。レポート提出後、その内容・キーワードおよび文章構成について批評する。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
- 詳細は授業時に指示するが、多くの博物館を見学することを望む。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
- 15
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
- 授業参加度（本講義は、授業参加度70%以上をもって評価する。）およびレポートによる評価を行う。
- 〔留意事項（Other Information）〕
- 博物館は、知的装置をたくさん備えています。それを知ること、博物館の楽しさを理解する役に立ちます。ぜひ議論しましょう。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
- 適宜、レジュメおよびテキストを示す。
- 〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
- 適宜紹介する。
- 〔参考URL(URL for Reference) 〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕
- ≪実践的科目≫公立博物館勤務。博物館2館の立ち上げおよび運営に携わる。博物館経営を理解するために学芸員の勤務実績をもとに、博物館運営の基軸となる学芸員の仕事を博物館資料の収集と調査研究・展覧会の開催等について、予算立ての歳入・歳出について具体的に紹介する。

博物館資料保存論

MUS2850NOJ
 大学
 教職・資格 > 教職・資格 (実践的科目)
 2年次 3年次 4年次
 2単位 後期
 金曜1限
 ー
 60
 上羽 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博物館における資料の保存及び展示・収蔵環境を科学的に捉え、資料保存を良好な状態でおこなって行くための必要な知識を習得することを通じて、資料保存に関する基礎的能力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

資料保存の歴史・意義を学び、その重要性を知る。
 資料保存のための環境管理について学ぶ。
 資料の種類ごとに修復処置の内容と意味を理解する。
 美術館における保存修復活動を見学し、理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 博物館における資料保存の意義、文化財保護の歴史 1
- 第 3 回 博物館における資料保存の意義、文化財保護の歴史 2
- 第 4 回 資料の保存環境－温湿度－
- 第 5 回 資料の保存環境－空気汚染物質－
- 第 6 回 資料の保存環境－生物被害とIPM (総合的有害生物管理)－
- 第 7 回 資料の保存環境－光と照明－
- 第 8 回 資料の保存環境－振動・衝撃－
- 第 9 回 資料の保存環境－伝統的な保存方法－
- 第 10 回 資料の修復－理念・調査－
- 第 11 回 資料の修復－日本画－
- 第 12 回 資料の修復－洋画－

第 13 回 資料の修復－屋外文化財－

第 14 回 文化財レスキュー活動

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に授業を進める。

※学外見学を実施する場合がある。見学に関わる費用は履修者の負担とする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業中に適宜指示する。

積極的に博物館に足を運び、各館の資料保存に関する取り組みを知ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加態度30%、小レポート20%、定期試験50%に基づいて総合的に行う。

欠席回数が3分の1を超過した場合には単位を与えない。

各回終了時に感想用紙を配布する。必要に応じて、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

施設見学に関わる費用は履修者の負担となります。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜、資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『博物館資料保存論』/石崎武志 (編著) /講談社 / 2012/9.784061565036E12

『文化財の保存環境』/東京文化財研究所 (編) /中央公論美術出版/2011/9.784805506486E12

その他、適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 学芸員 (保存修復) として、美術館での勤務経験あり。

博物館実習Ⅰ（学内）

MUS3800NOJ

大学

教職・資格 > 教職・資格（実践的科目）

3年次 4年次

2単位 前期

木曜 4限 その他

—

60

博物館概論

吉田 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

学芸員資格に向けた最終段階の科目の一つとして、学芸員業務に関する実践的な力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

様々な館の見学、作品取り扱いの実習、学内展示の企画・実施を通して、博物館学の知識を実地に応用する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	展示企画について主体的に取り組んでいない	展示企画について主体的に取り組む	展示企画について積極的にアイデアを探す	適切に進行管理して展示企画を実行することが出来る
知識・理解力	展示会をお客様の立場でしか見ていない	展示会を企画する側の立場で観察できる	展示会の開催に関わる業務について基本的な知識がある	必要があれば簡便で小型の展示を自力で企画実施することが出来る
言語力	展示企画について明確に説明できない	企画内容についてわかりやすく説明できる	わかりやすいキャプション・章解説パネルを書ける	展示会全体として説得力のある展示を構築できる
思考・解決力	展示企画について意見やアイデアを出せない	展示企画について自分の意見やアイデアを述べる事が出来る	展示企画について困難な点を明らかにし、解決方法を考える事が出来る	時間・手段などの制限内で実行可能な展示企画を立案実行できる
共生・協働する力	展示会は多くの人の力で可能になることを理解していない	展示会にまつわる多くの業務を理解している	展示会を通じて可能になるコミュニケーションを理解している	すべての人に開かれた社会教育施設としての博物館の役割を理解している

創造・発信力	展示企画の概念を理解していない	表現形態としての展示を理解している	展示の様々な技術を知っている	実行可能な技術を最大限用いて、わかりやすく楽しい展示を開催できる
--------	-----------------	-------------------	----------------	----------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 博物館実習の意義について・展示企画の検討
- 第 2 回 美術系博物館の見学と検討（実施回未定）
- 第 3 回 考古系博物館の見学と検討（実施回未定）
- 第 4 回 自然系博物館の見学と検討（実施回未定）
- 第 5 回 調書の作成について
- 第 6 回 自記記録計・照度計の扱い
- 第 7 回 作品の取り扱い（平面）
- 第 8 回 作品の取り扱い（立体）
- 第 9 回 作品の写真撮影
- 第 10 回 展示内容の企画案発表会（より早い回に実施する可能性がある）
- 第 11 回 博物館における印刷物の作成について
- 第 12 回 展示図面の作成
- 第 13 回 作品貸出・借用の実際について
- 第 14 回 解説・キャプションの作成
- 第 15 回 展示作業とギャラリー・トーク

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・博物館施設を見学し、展示等について検討する
- ・作品管理に関わる実務、取り扱いについて実習を行い、博物館実習Ⅱに備える
- ・学内展示の企画・実施
- ・各回の作業内容・作成物について随時講評することでフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・指示された課題を準備すること
- ・施設のスケジュールによっては、時間内に見学を実施することが不可能なので、各自が個別に見学を行うことを求める可能性もある

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- ・参加態度50%、課題の成果50%

〔留意事項（Other Information）〕

博物館実習Ⅰ・Ⅱは、学芸員課程の最終段階に位置づけられる科目の一つであるので、その他の必要科目をほとんど取得していることが望ましい。

また、博物館概論を履修済であることを登録の要件とする。

〔重要〕

（1）学内で実施する実習とともに、博物館・美術館の見学会（3回分）をもうけている。実施回は上記予定（第2～4回）から変更される可能性が高く、日程については随時決

定するので、情報に留意すること。

(2) 作品梱包実習(1日間)を隔年実施する予定である。こちらは任意の参加であるが、大変貴重な機会であるので、極力参加して様々な技術を学ぶこと。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》(兵庫県立美術館で学芸員として勤務)

博物館実習Ⅱ(館園)

MUS3801N0J

大学

教職・資格 > 教職・資格(実践的科目)

3年次 4年次

1単位 集中

その他

ー

15

博物館概論

集中

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博物館・美術館での実習を通して、学芸員の業務を深く理解する。事前準備と事後報告を行い、博物館学的な観点から総括する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学芸員の業務
2. 美術品・資料の取り扱いについて
3. 美術館・博物館の様々な業務について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	実習に対して主体的に取り組んでいない	実習に主体的に取り組んでいる	実習での経験を自分の問題として考察出来る	実習での経験を様々な局面で生かすことが出来る
知識・理解力	博物館をお客様の立場で見ている	博物館を内部の視点から見る事ができる	博物館職員の指示を博物館学的に理解し、動くことが出来る	博物館実習での体験を博物館学的な観点から総括できる
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力	実習が多くの人との協力で可能になっていることを理解していない	博物館が多くの業務の中で実習を受け入れていることを深く理解している	博物館職員や他の実習生と前向きなコミュニケーションを築く	すべての人に開かれた社会教育施設としての博物館の役割を理解している
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・実習前に、派遣先についての調査を行い、発表する。
- ・実習は、学芸員の業務を体験するために行うが、具体的な内容は、各博物館、美術館、資料館により、異なる。
- ・実習後は、実習内容についてのレポートを書き、発表する。
- ・実習ノート、レポートを講評して返却することでフィードバックとする。

<Course Schedule (授業予定)>

学内では事前・事後の研修を行う。また、派遣先に関する調査レポートも課す。

館園での具体的な実習スケジュールは派遣先施設により異なるが、一例として、次のような日程が考えられる。

(1日目) オリエンテーション 施設見学 講義(展覧会について)

(2日目) 講義(特別展について) イベント補助

(3日目) 展覧会補助

(4日目) ワークショップ補助 保存修復施設の見学と体験

(5日目) 展覧会補助

(6日目) イベント(スタッフとして)実施

(7日目) 展覧会補助

(8日目) グループワークとまとめ

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

博物館学芸員資格科目で学習したことを実習で活かせるように復習し、実習先の施設についてできるだけ多くの情報を収集しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設からの評価を基準としつつ、事前・事後の取り組み、博物館日誌の内容と実習後に提出するレポートとを合わせて評価する。(実習施設が評価を点数化しない場合もある。その場合は、事前事後の取り組み・日誌・レポートをもとに評価する。)

〔留意事項 (Other Information)〕

博物館概論の単位を修得済みであることを登録の要件とする。

博物館実習Ⅰ・Ⅱは、学芸員課程の最終段階に位置づけられる科目の一つであるので、その他の必要科目をほとんど取得していることが望ましい。また、各受入施設は、多忙な業務の中で、実習生を受け入れていることを念頭に置き、大学を代表していることを忘れずに、礼儀正しく真摯な態度で実習に参加すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》(兵庫県立美術館で学芸員として勤務)

比較教育学演習

890004N0J

大学院

教職・資格

1年次

2単位 後期

木曜 3限

60

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、中学校および高等学校教諭の専修免許取得を目指す受講生を対象に、比較教育的な観点からわが国および諸外国の教育課題について考察し議論するための基礎的な能力の形成を目指す。本科目では、担当教員の指導の下、受講生が自らの興味関心に応じて比較教育学の主要なテーマに関する文献・資料を選択し、その内容についてレビューをおこなう。その上で、発表内容について参加者間でディスカッションをおこなう。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

比較教育学に関する基礎的な知識や方法論を用いて、国際的な視点からわが国および諸外国の教育課題について考察・議論することができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 比較教育学の理論

第 3 回 学校体系の国際比較

第 4 回 教育課程・学力問題の国際比較

第 5 回 外国語教育の国際比較

第 6 回 海外留学の国際比較

第 7 回 外国人の子どもの教育の国際比較

第 8 回 道徳教育・市民性教育の国際比較

第 9 回 教員養成・研修制度の国際比較

第 10 回 高等教育の国際比較

第 11 回 大学入試の国際比較

第 12 回 ICT教育の国際比較

第 13 回 才能教育の国際比較

第 14 回 学校・教育文化の国際比較

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

受講生が選択した文献・資料の内容についての発表およびディスカッションをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

文献・資料を精読し、その内容をレビューする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度：50%

発表：50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定しない。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

授業内で適宜紹介する。

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

教育の方法及び技術

TEA3850NOJ

大学

教職・資格

3年次

2単位 後期

火曜1限

ー

60

東郷 多津

[科目の教育目標 (Course Description)]

教育に関する歴史的な流れや国内外の動向を踏まえつつ、教育方法の意義を知ることを目指します。そのうえで、学習者の「学び」に着目し、それを促進する教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間における指導の方法と技術およびその評価の方法を、クラスメートとの協働を通して習得し、実践に役立てられるように理解を深めます。同時にさまざまなICTの特性とその使用方法についても理解を深めます。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- 1.教育方法の基本原理がわかる。
- 2.主体的な学習についてわかる。
- 3.主体的な学習を実現する授業構成がわかり、その指導技術を身につける。
- 4.情報通信機器 (ICT) と教材の活用方法について理解し、提案できる。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育の方法や技術に興味・関心がない	教えられた教育の方法や技術についてのみ理解する	教えられた教育の方法や技術をもとに、関連した方法・技術について関心を持ち、調べたうえで理解する	これまでの経験や、今後の予測をもとに、教えられていない教育の方法や技術について関心を持ち、調べたうえで理解する
教えると学ぶに関する知識	教えるの立場しか理解できない	教えるのと学ぶの違いを理解できる	教えるのと学ぶの違いを理解し、説明することができる	教えるのと学ぶの違いを、資料を用いて、自らの言葉でわかりやすく説明できる

学習者主体の授業設計力	教師主導の授業案しか作成できない	教師主導の環境下でなら、一部生徒同士の活動を取り入れた授業案を作成できる	教師主導の環境下で、ファシリテータ役となり、生徒同士が考えたり、議論したり、解決したりする授業案を作成できる	教師がいない環境でも、学生が主体となり、自ら考えて行動できる授業案を作成できる
情報活用能力	情報機器を使おうとしない	指示されれば、最低限必要な情報機器を使って、教材を提示できる	情報機器の特性を理解し、効果的に活用できる	情報機器の特性を活かし、適材適所で情報機器を活用できるうえ、他に助言できる
共生・協働する力	受講生の模擬授業や発表に対してコメントできない	受講生の模擬授業や発表に対して、相手が喜ぶコメントであれば発言できる	受講生の模擬授業や発表に対して、限定的であれば、批判的なコメントも発言できる	どんな状況であっても、同じ授業を受ける受講生に対して、批判的かつ共感的にコメントできる

[授業計画]

- 第 1 回 講義の概要とアイスブレイキング
- 第 2 回 学ぶ意味の再考
「第1章：『私が学ぶ』:の意味を探る」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 3 回 主体的な学習を知る 1
「第3章：学びの場と学習者の変容」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 4 回 主体的な学習を知る 2
協同学習を通して
- 第 5 回 教育史上での主体的な教育
ネット検索と共有
- 第 6 回 自分の授業観について
国内外の教育学史上にある教育者の思想と教育方法紹介を通して
- 第 7 回 主体的な学習を実現する授業構成及び指導案解説
「第4章：イメージ図による学習の改善と変革」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 8 回 海外での主体的な学習実践事例
ーネット検索と共有ー (目標1、4)
- 第 9 回 教育改革に対する国際的な動向
ーネット検索と共有ー (目標1、4)
- 第 10 回 ICT (情報通信機器) を使った指導案の提案
※場合によって、実際の中等高等学校に出向く校外学習を予定しています。
(交通費実費)

- 第 11 回 授業と評価方法
「第9章：教える目標と学ぶ目標」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 12 回 授業分析
「第5章：観察する」を中心とした活動及びディスカッション
- 第 13 回 マイクロ模擬授業の実践と記録
- 第 14 回 授業分析と再設計
MACITOモデルの特性理解と応用
- 第 15 回 最終報告書の共有とディスカッション
ーレポート提出準備ー

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

演習を中心として授業を展開します。受講生のみなさんは教師役と生徒役の両者を体験することにより、教師主導に偏らない学習指導方法の習得を目指します。演習中はクラス全体が「学習する組織」として機能するよう活発な意見交換が求められます。

課題・レポートに関するフィードバックは、必要に応じて、授業内、web上で、個人または全体に対して行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回該当する章や参考文献を読んで、お互いに議論や質問できる状態になっていること

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

〔授業中の参加度・発表 30%、マイクロティーチング 30%、課題レポート 40%〕の3観点をもとに、教員が総合的に判断し、評価します。評価方法は最初に提示しますので、各自到達目標をめざして計画的に学習を進めてください。

〔留意事項 (Other Information)〕

●この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れます。

●上述に関連し、状況に応じて、事前連絡のうえ、授業予定を変更する場合があります。

●遅刻は授業の進行の妨げとなるため、10分以上の遅刻は欠席とします。

●授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、必ず指定された予習や課題を行って授業に臨んでください。

●実習等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストを読んで、レポートにまとめて提出してください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

教えるから学ぶへの変革[電子書籍,Kindle] (学習開発研究所) 2014

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『新しい教育の方法と技術』/篠原正典、宮寺晃夫編著/ミネルヴァ書房/2012/9.784623063253E12

『学習ガイドブック教育の技術と方法 チームによる問題解決のために』/西之園晴夫編著/ミネルヴァ書房//

『学習ガイドブッカー「教える」から「学ぶ」への変革』(学習開発研究所) 2014 <http://www.u-manabi.org/nc2/htdocs/> [参考URL(URL for Reference)]

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育原論

TEA1850NOJ

大学

教職・資格

1年次

2単位 後期

火曜2限

ー

60

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、教職課程「教育の基礎的理解に関する科目」として、教育を支える理念、教育の歴史および思想について学ぶことを目的とする。私たちが持っている教育や子どもに対する見方や考え方、さらに学校教育を中心とした現在の教育のあり方は、長い時間をかけて人類が築き上げてきた教育の理念・歴史・思想の上に成り立っている。今日、私たちが「当たり前」と考えている教育の姿も、地域や時代によっては決して「当たり前」のものでなかった。皆さんには本科目において日本と西洋における代表的な教育の理念・歴史・思想について学ぶことを通じ、自らの教育観や子ども観、現在の教育のあり方と、教育の理念・歴史・思想との間にどのような関係があるのかについて思いを巡らし、世の中の教育事象を原理的・根本的な視点から捉える目を養っていただきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 教育の諸概念やそれらの相互関係を理解することで、人間と教育の関係について原理的・根本的に問う視点を身に付けている。

(2) 過去から現在に至るまでの教育および学校の歴史的変遷について理解し、それらを現在の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができる。

(3) 教育に関する主要な思想と教育観・子ども観の関係について理解し、それらを実際の学校や教育のあり方と結び付けて考えることができる。

〔ルーブリック表〕

人間と教育の関係について原理的・根本的に問う視点	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
	人間と教育の関係について原理的・根本的に問う視点を身に付けていない。	人間と教育の関係について原理的・根本的に問う視点を身に付けている。	人間と教育の関係について原理的・根本的に問う視点をしっかりと身に付けている。	人間と教育の関係について原理的・根本的に問う視点をしっかりと身に付けており、それを活用して

				教育事象について考えることができる。
歴史を現在の学校や教育のあり方と結び付けて考える力	歴史を現在の学校や教育のあり方と結び付けて考える力が身に付いていない。	歴史を現在の学校や教育のあり方と結び付けて考える力が身に付いている。	歴史を現在の学校や教育のあり方と結び付けて考える力がしっかり身に付いている。	歴史を現在の学校や教育のあり方と結び付けて考える力がしっかり身に付いており、そこから今後の教育や学校のあり方について考えることができる。
教育思想を実際の学校や教育のあり方と結び付けて考える力	教育思想を実際の学校や教育のあり方と結び付けて考える力が身に付いていない。	教育思想を実際の学校や教育のあり方と結び付けて考える力が身に付いている。	教育思想を実際の学校や教育のあり方と結び付けて考える力がしっかり身に付いている。	教育思想を実際の学校や教育のあり方と結び付けて考える力がしっかり身に付いており、そこから今後の教育や学校のあり方について考えることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育の諸概念について－教育とは何か－
 - 第 2 回 教育の本質および目標－2つの視点－
 - 第 3 回 教育制度の成立－教育のはじまり－
 - 第 4 回 教育制度の歴史的展開－教育の後退および停滞－
 - 第 5 回 近代公教育制度の成立と展開－日本と西洋－
 - 第 6 回 近代日本と教育の社会的機能－学歴社会の誕生－
 - 第 7 回 近代的教育観と教育学の成立－コメニウス－
 - 第 8 回 子ども観と教育の思想（1）－ロッキー－
 - 第 9 回 子ども観と教育の思想（2）－ルソー－
 - 第 10 回 幼児に関する教育の思想－フレーベル－
 - 第 11 回 学校と社会に関する教育の思想－デューイ－
 - 第 12 回 民主主義と教育の思想－デューイ以降の展開－
 - 第 13 回 現代の教育課題（1）－シティズンシップの教育－
 - 第 14 回 現代の教育課題（2）－多文化社会を生きるための教育－
 - 第 15 回 まとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は講義を中心とするが、教員と学生および学生同士の双方向的なコミュニケーションを通じた深い学びを追求する。適宜、質疑応答やディスカッションをおこなうので、積極的に参加すること。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

本講義を理解するには、高校卒業レベルの公民（現代社会・倫理・政治・経済）および歴史（西洋史・日本史）に関する知識が必要となる。これらに関して自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での予習・復習を欠かさないこと。その他、必要な予習・復習の内容については授業中に指示する。しっかりと準備をおこない毎回の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- （1）定期試験：60%（授業で学習した内容全体を出題範囲とする）
- （2）提出物：20%（毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートを提出させる）
- （3）授業態度：20%（授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定せず、授業中に配布するプリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育社会学

TEA2850N0J
大学
教職・資格
2年次
2単位 前期
月曜1限
60
原 清治

〔科目の教育目標（Course Description）〕

高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。

本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなる

のは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」「若年未就労者と教育」などである。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

教育社会学は、現代社会の変化と、それに伴って変動する学校世界との因果関係を明確にすることを目的とした学問領域である。したがって、本講の目的は以下の3点となる。

1. 教育と社会の因果関係について理解する視点をもつ。
2. 実証的な調査データにもとづいて分析する方法論を身につける。
3. 現状を正確に理解した上で、それをどのような方向へ転換すればよいかの視点を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
教育社会学とは何か
- 第 2 回 学校をとりまく問題について考える
学校をとりまくさまざまな問題
- 第 3 回 いじめ問題を考える
いじめ問題のとらえ方
- 第 4 回 学歴社会を考える
学歴社会とは何か
- 第 5 回 学歴社会のこれまでのとらえられ方
学歴社会への批判と考察
- 第 6 回 学力低下論を考える
学力低下論の構造
- 第 7 回 学力低下論はどのように論じられているのか
学力低下論の構造
- 第 8 回 学力低下の解釈を考える
学力低下の解釈をめぐって
- 第 9 回 教育改革を考える (1) 日本
日本の教育改革
- 第 10 回 教育改革を考える (2) アメリカ
アメリカの教育改革
- 第 11 回 教育改革を考える (3) イギリス
イギリスの教育改革
- 第 12 回 教育のあり方を問う (1) 学校病理
学校病理からみる
- 第 13 回 教育のあり方を問う (2) 若年就労問題

フリーター・ニート問題からみる

- 第 14 回 教育のあり方を問う (3) 学力
教育のあり方を問う 学力問題からみる
- 第 15 回 まとめにかえて
試験とまとめ、教育改革のパラダイム

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストによる講義形式を原則とするが、学生とのツウエイによる討論も毎回おこなう予定である。

原則として出席を重視する。また、コンテキストごとに期限厳守で小レポートを課す場合がある。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教育と社会との関連について学習するため、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層」「若年未就労者」等の用語については、新聞やインターネット等を参考にしながらその事柄について理解しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

試験 60%

授業内課題40%

〔留意事項 (Other Information)〕

講義計画は受講生の状況により予定を変更することもある。実習などで長期に欠席する場合は単位修得に影響するので事前に報告すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『比較教育社会学へのイマージュ』/原清治他/学文社/2016年/978-4-7620-2594-5/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

比較教育学特論

890003N0J

大学院

教職・資格

2単位 前期

金曜4限

—

30

研究科共通科目 修了に必要な単位とならない

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、中学校および高等学校教諭の専修免許取得を目指す受講生を対象に、わが国の教育について国際的視点から考察するために必要な基本的知識や方法論を習得する

ことを目指す。グローバル化する現代社会においては、一
 国の教育は完全に独立したものではあり得ず、諸外国の教
 育と相互に影響を及ぼし合い、関連し合っている。わが国
 の教育もまた例外ではない。本科目では、世界の各地域・
 国家・民族の教育制度・政策、教育実践、教育文化等につ
 いて比較検討するとともに、留学や移民など国境を越える
 様々な教育事象について考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

比較教育学に関する基礎的な知識や方法論について理解し
 ている。

諸外国の教育課題や国境を越える教育事象について理解し
 ている。

国際的な視点からわが国の教育課題について考察すること
 ができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 比較教育学とは
- 第 3 回 教育の比較の仕方
- 第 4 回 欧米の教育 (1) - イギリス
- 第 5 回 欧米の教育 (2) - フランス
- 第 6 回 欧米の教育 (3) - ドイツ
- 第 7 回 欧米の教育 (4) - アメリカ
- 第 8 回 アジアの教育 (1) - 中国の教育制度
- 第 9 回 アジアの教育 (2) - 中国の教育課題
- 第 10 回 アジアの教育 (3) - 韓国の教育制度
- 第 11 回 アジアの教育 (4) - 韓国の教育課題
- 第 12 回 日本における異文化と教育
- 第 13 回 グローバル化時代における多文化教育
- 第 14 回 留学の過去と現在
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心とするが、質疑・応答による双方向的なコミュニ
 ケーションを取りつつ授業を進行するので、能動的・主
 体的に授業に参加すること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日頃から国際的なニュースなどに関心を持ち、国際情勢に
 ついての理解を深めておくこと。また、高校「世界史」や
 「現代社会」、「政治・経済」の知識について不足すると思わ
 れる場合は、自ら課外学習に取り組んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート：60%

授業内レポート：20%

授業参加度：20%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
 無)〕

特に指定しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
 (Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教師論

TEA2800N0J
 大学
 教職・資格
 2年次
 2単位 前期
 木曜 5限
 ー
 60
 石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

①教師の仕事の使命やその意義、さらに、②教師が働く場
 である「学校」の特性を理解し、③教師が学校現場で直面
 している諸問題について学ぶことで、教職に就いた際に自
 らの仕事进行を反省する土台を形成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 教師の仕事の使命やその意義について理解している。
- 2) 職場としての「学校」の特性について理解している。
- 3) 教師が学校現場で直面している諸問題について理解し
 ている。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教師の仕事の使命やその意義についての理解	教師の仕事の使命やその意義について理解できていない。	教師の仕事の使命やその意義について理解している。	教師の仕事の使命やその意義についてしっかり理解している。	教師の仕事の使命やその意義についてしっかり理解しており、それを自らの姿勢や行動に

				つなげることができ る。
職場としての「学校」の特性についての理解	職場としての「学校」の特性について理解できていない。	職場としての「学校」の特性について理解している。	職場としての「学校」の特性についてしっかり理解している。	職場としての「学校」の特性についてしっかり理解しており、それを自らの姿勢や行動につなげることができる。
教師が学校現場で直面している諸問題についての理解	教師が学校現場で直面している諸問題について理解できていない。	教師が学校現場で直面している諸問題について理解している。	教師が学校現場で直面している諸問題についてしっかり理解している。	教師が学校現場で直面している諸問題についてしっかり理解しており、それを自らの姿勢や行動につなげることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 教師という存在
- 第 3 回 教師の役割と職務
- 第 4 回 教師の仕事の実際
- 第 5 回 教員養成の歴史（1）－近代教員養成制度の誕生－
- 第 6 回 教員養成の歴史（2）－戦前の教員養成制度の光と影－
- 第 7 回 教員養成の歴史（3）－戦後の教員養成制度改革と教師像－
- 第 8 回 教員養成の歴史（4）－教員養成制度の今日的課題－
- 第 9 回 教師のライフサイクルとキャリア（1）－教師になる前－
- 第 10 回 教師のライフサイクルとキャリア（2）－教師になってから－
- 第 11 回 教師のライフサイクルとキャリア（3）－教師のライフステージとその特徴－
- 第 12 回 「チームとしての学校」と教師（1）－「チームとしての学校」とは－
- 第 13 回 「チームとしての学校」と教師（2）－目的と背景－
- 第 14 回 「チームとしての学校」と教師（3）－教師のあり方への影響－
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験を実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は講義を中心とするが、教員と学生および学生同士の双方向的なコミュニケーションを通じた深い学びを追求する。適宜、質疑応答やディスカッションをおこなうので、積極的に参加すること。毎回授業の最後に提出させるコメントシートはチェックしたのち次の回に返却するので、授業内容に対する理解度の確認や復習に活用すること。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

本講義を理解するには、高校卒業レベルの公民（現代社会・倫理・政治・経済）に関する知識が必要となる。これらに関して自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での予習・復習を欠かさないこと。その他、必要な予習・復習の内容については授業中に指示する。しっかりと準備をおこない毎回の授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

- （1）定期試験：60%（授業で学習した内容全体を出題範囲とする）
- （2）提出物：20%（毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートを提出させる）
- （3）授業態度：20%（授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する）

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に指定せず、授業中に配布するプリントを使用する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教職実践演習（中・高）

TEA4850N0J

大学

教職・資格

4年次

2単位 後期集中

その他

－

90

別に定める

石川 裕之 河野 有時 加藤 佐千子 東郷 多津

〔科目の教育目標（Course Description）〕

教員として求められる実践的指導力を学生が体得すること、および教職課程での学びにおける実践的指導力の体得過程を可視化することを通して、教員としての適格性を最終確認することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 (A領域)
- ②社会性や対人関係能力に関する事項 (B領域)
- ③生徒理解や学級経営等に関する事項 (C領域)
- ④教科内容等の指導力に関する事項 (D領域)

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項	教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項について最終確認できていない。	教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項について最終確認できている。	教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項についてしっかり最終確認できている。	教育に対する使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項についてしっかり最終確認できている。それを今後の実践に活かすことができる。
社会性や対人関係能力に関する事項	社会性や対人関係能力に関する事項について最終確認できていない。	社会性や対人関係能力に関する事項について最終確認できている。	社会性や対人関係能力に関する事項についてしっかり最終確認できている。	社会性や対人関係能力に関する事項についてしっかり最終確認できている。それを今後の実践に活かすことができる。
生徒理解や学級経営等に関する事項	生徒理解や学級経営等に関する事項について最終確認できていない。	生徒理解や学級経営等に関する事項について最終確認できている。	生徒理解や学級経営等に関する事項についてしっかり最終確認できている。	生徒理解や学級経営等に関する事項についてしっかり最終確認できている。それを今後の実践に活かすことができる。
教科内容等の指導力に関する事項	教科内容等の指導力に関する事項について最終確認できていない。	教科内容等の指導力に関する事項について最終確認できている。	教科内容等の指導力に関する事項についてしっかり最終確認できている。	教科内容等の指導力に関する事項についてしっかり最終確認できている。それを今後の実践に活かすことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情①－ケースメソッドⅠ：討議－【A領域】(石川)
- 第 2 回 学校が当面する諸問題と教職の使命、責任感、教育的愛情②－ケースメソッドⅠ：発表－【A領域】(石川)
- 第 3 回 教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認①－教育実習を中心に－【A・B・C・D領域】(石川、東郷、河野、加藤)
- 第 4 回 教員における対人援助職としての専門性①－ケースメソッドⅡ：討議－【B領域】(石川)
- 第 5 回 教員における対人援助職としての専門性②－ケースメソッドⅡ：発表－【B領域】(石川)
- 第 6 回 生徒指導および学級経営上当面する諸問題に対する対応①－ケースメソッドⅢ：討議－【C領域】(石川)
- 第 7 回 生徒指導および学級経営上当面する諸問題に対する対応①－ケースメソッドⅢ：発表－【C領域】(石川)
- 第 8 回 教科内容等の指導力に関する検討と相互確認①－授業テーマの設定－【D領域】(東郷、河野、加藤)
- 第 9 回 教科内容等の指導力に関する検討と相互確認②－授業構想の検討－【D領域】(東郷、河野、加藤)
- 第 10 回 実践的指導力の体得過程についての相互確認①－履修カルテの確認－【ABCD領域】(石川)
- 第 11 回 実践的指導力の体得過程についての相互確認②－履修カルテによる振り返り－【ABCD領域】(石川)
- 第 12 回 実践的指導力の体得過程についての相互確認③－相互評価－【ABCD領域】(石川)
- 第 13 回 実践的指導力の体得過程についての相互確認④－発表－【ABCD領域】(石川)
- 第 14 回 教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認②－成長過程と到達点の可視化－【A・B・C・D領域】(石川)
- 第 15 回 教職としての実践的指導力の体得過程についての相互確認③－発表・共有－【A・B・C・D領域】(石川)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目では、教職担当教員と教科担当教員（指導法の担当を兼ねる）が連携・協力しつつ、上記「2. 教育・学習の個別課題」に掲げたA～Dの各領域に関する内容について授業を展開する。その際、ケースメソッドを用いたグループ討議や教材研究、指導計画案作成、模擬授業、相互評価、履修カルテを用いた自己省察および学習成果の発表など、授業内容に応じた多様な方法を取り入れながら授業をおこなう。このような授業の性質上、2～4コマ連続の開講方式を採ることとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

グループ討議のための準備資料作り、模擬授業のための指導計画案作成、プレゼンテーションなど、各回の授業内容に応じて適宜準備学習が必須となる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

以下の方法・基準により評価する。

①授業参加度(発言の積極性やグループ討議への貢献度等): 30%

②提出物(各回の振り返りシート等を含む): 20%

③授業内レポート(学習指導案および模擬授業に対するコメント等を含む): 30%

④発表(プレゼンテーション「教職課程の履修を通じた4年間の私の成長過程および到達点、そして10年後の自分」): 20%

ただし、学習状況が著しく不良で教員としての実践的指導力の適格性がないと判断する場合は、全担当教員の合意の上で、評定点にかかわらず不合格とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

11月から毎週金曜日1・2講時の開講を基本とするが、追加で1～2コマ(計3～4コマ/日)開講される日もあるため、十分に留意すること。

10回以上の出席を前提に評価するが、その場合においても、A～Dの各領域中、いずれかが全て欠席の場合、不合格とする。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは特に指定しない。必要に応じて担当教員が資料等を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて担当教員から提示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

情報資源組織演習 I

LIB2852N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜3限

ー

60

定員44人 「図書館概論」「情報資源組織論」履修者であること

設楽 馨

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

<ねらい>「情報資源組織論」において学習した、記述目録法の内容について、更に理解を深めるため、実際の目録

作成を行う。<到達目標>①書誌作成のルールが理解できる。②書誌ユーティリティ環境下で、目録作成することの意義、ルール、方法、などの実際が理解できる。③ネットワーク情報資源のメタデータを作成できる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

情報資源組織演習(目録)では、書誌ユーティリティを活用した書誌レコードの作成(和図書、雑誌)、所蔵データの作成等を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	目録の意義を意識できない	目録を利用者のツールとして考える	目録における正確な記述を考える	目録の正確な記述と目録の活用を考える
知識・理解力	情報資源から書誌データを取り出せない	情報資源から書誌データを取り出せる	規則に従って書誌データを記述できる	利用者に応じたメタデータを作成できる
言語力	目録作成に関する用語を理解しようとししない	目録作成に関する用語を理解する	用語を使って目録作成を説明できる	利用者に理解できる用語の言い換えができる
思考・解決力	教えられた記述以外、記述のルールとして考えようとししない	記述に一定のルールがあることを考える	NCRやAACR2など書誌作成のルールの違いを考える	利用状況に応じたメタデータを考える
共生・協働する力	書誌ユーティリティの意義を考えない	目録所在情報サービスの意義を理解する	目録所在情報サービスへの貢献を考える	書誌ユーティリティの課題や今後を考える
創造・発信力	誤った書誌データを作成・公開する	正しい書誌データであることを確認する	正確な書誌データとしての精査と、新規の書誌データの作成をする	過不足のない新規書誌データの作成し、書誌データを活用する

〔授業計画〕

- 第 1 回 司書課程における本科目の位置づけ
科目概要の確認、目録作成の基礎を理解する。また、CiNiiやNDL ONLINEを使って目録の内容を確認する。
- 第 2 回 日本目録規則を知る
「日本目録規則1987Ⅲ」と「日本目録規則2018」を対照しながら概要を学び、基本的な用語や目録の意義を理解する。また、CiNiiやNDL ONLINEを使って、専門用語と実際の目録の内容を結び付けて理解する。
- 第 3 回 構成要素「実体」を知る

「日本目録規則2018」が依拠するFRBR等の概念モデルの概要と、「実体」の第1グループから第3グループまでを区別して理解する。また、いくつかの情報資源について、タイトルや責任表示を分析する演習に取り組む。

- 第 4 回 第1グループの「実体」を分析する
著作・表現形・体現形・個別資料の順に、それぞれの属性を理解する。また、いくつかの情報資源について、タイトルや責任表示、版表示を分析する演習に取り組む。
- 第 5 回 第2グループの「実体」を分析する
個人、家族、団体を区別する。また、いくつかの情報資源について、タイトルや責任表示を分析し、読みを示す演習に取り組む。
- 第 6 回 体現形の属性を分析する
書誌階層構造を理解する。また、これまでの理解を踏まえ、いくつかの情報資源について属性を分析し、記録する演習に取り組む。
- 第 7 回 第3グループの「実体」を分析する
概念、物、出来事、場所など、著作の主題を分析する。また、いくつかの資料について、種別や形態を分析する演習に取り組む。
- 第 8 回 確認テスト
これまでの理解や定着の度合いを測る。
- 第 9 回 テストの振り返りと補足
テストの振り返りをする。場合によって、補助演習課題に取り組む。
- 第 10 回 コンピュータ目録によるサービス
目録所在情報サービスについて、その意義とシステムを理解する。
- 第 11 回 目録システム入門
目録情報の基準とレコードの特性を理解する。
- 第 12 回 目録所在情報サービスの登録と所蔵データ
目録システムにおける登録の概要と、所蔵データを理解する。
- 第 13 回 目録作成の復習
内容理解を測るテストに向けて、基本用語や目録作成の演習を振り返り、記述などの苦手部分を克服する。
- 第 14 回 まとめテスト
本科目における学習事項の理解や定着を測る。
- 第 15 回 目録作成における弱点の克服
テストの振り返りから弱点を認識し、十全に克服する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

情報資源組織演習 (目録) では、コンピュータを使用し、書誌ユーティリティを活用して、目録の記述について理解する。次に、情報資源本体の情報から書誌情報を分析して記述し、目録作成を演習する。さらに、コンピュータを使用し、書誌ユーティリティを活用して、書誌データベース

構築を演習する。多くの演習問題を通じて、実践的能力を獲得する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「情報資源組織論」で学習した内容をよく復習しておくこと。特に、目録規則の部分と書誌ユーティリティの考え方が要となる。また、NACSIS-CATのファイル構成について、読んでおく。専門書でも小説でも、自身が読んだ本についてはOPACで書誌情報を確認し、本の実物とメタ情報とを確認すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

目録 (書誌レコード) 作成について、

1. 演習課題またはレポート提出 20%
2. 確認テストおよび補助演習課題 30%
3. まとめテスト 50%

で合算して最終評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

目録演習では、コンピュータを使用するため、マウスやキーボードの操作、かな漢字変換、全角と半角の判別などは事前に習得しておくことが望ましい。また、各自の演習データ保存用に、USBメモリーを毎回必ず持参すること。USBを持参しない場合は大学のサーバに割り当てられる個人用ファイルへの保存方法・取り出し方法を確認しておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『情報資源組織論』/田窪直規/樹村房/2020/978-4-88367-339-1

『情報資源組織法: 日本目録規則2018年版・日本十進分類法新訂10版・基本件名標目表第4版 対応』/日本図書館研究会/日本図書館研究会/2020/978-4930992284

『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』//日本図書館研究会/2015/978-4930992222

『情報資源組織演習』/小西和信/樹村房/2017/978-4-88367-280-6

『情報資源組織演習』//J L A/2016/

『情報資源組織演習』/竹之内 禎/ミネルヴァ書房/2016/9784623076451

〔参考URL(URL for Reference)〕

国立国会図書館オンライン

<https://ndlonline.ndl.go.jp/#/>

CiNii books

<http://ci.nii.ac.jp/books/?l=ja>

国立情報学研究所のサービス事業

NACSIS-CAT/ILLセルフラーニング教材

<https://hrd.nii.ac.jp/product/cat/slcat>

目録所在情報サービスの自主学习

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

情報資源組織演習Ⅱ

LIB2853N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜1限

ー

60

定員44人 「図書館概論」「情報資源組織論」履修者であること

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「情報資源組織論」において学習した主題目録法を実践する。図書館資料の主題を分析し、適切な分類記号、件名標目を付与するための知識を演習形式で学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

『日本十進分類法』及び『基本件名標目表』を用いた主題組織ができる能力を身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	最低限必要な基礎知識、運用力を身につけていない。	必要な基礎知識、運用力をある程度身につけている。	必要な基礎知識、運用力を十分に身につけている。	実際の図書館現場で適用できるレベルの基礎知識、運用力を身につけている。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業計画の説明と主題組織法の基礎
- 第 2 回 主題分析
- 第 3 回 日本十進分類法概観
- 第 4 回 一般補助表：形式、地理区分
- 第 5 回 一般補助表：言語区分、その他の区分
- 第 6 回 固有補助表
- 第 7 回 分類規定：複数主題
- 第 8 回 分類規定：原著作と関連著作
- 第 9 回 分類確認テスト
- 第 10 回 分類復習演習
- 第 11 回 件名標目概観：件名標目表
- 第 12 回 件名規定
- 第 13 回 件名演習

第 14 回 分類、件名付与演習

第 15 回 理解度確認テストとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義及び演習課題によって学習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

『情報資源組織論』テキストの該当する箇所を読んで確認しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

2 回の理解度確認テスト (各35%) 及び課題 (20%)、授業参加度 (10%) で評価する。理解度確認テスト終了後に解説を行う。課題の解説は授業中に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『分類法キイノート』第 3 版補訂 / 宮沢厚雄 / 樹村房 / 2020/9784883673438/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

情報資源組織論 (三訂) / 田窪直樹 / 樹村房 / 2020/9784883673391

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ (大学図書館司書としての勤務経験あり)

図書・図書館史

LIB2806N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

金曜2限

ー

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

書籍といった文字を中心とした資料と出版の歴史、また図書館の歴史を学ぶ。図書、図書館の、時代における社会との関わりと変遷を理解する。図書の歴史や図書館の歴史を、日本、西洋、中国に及んで学習し、現在の図書館がどのようになりたってきたかを知る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

書籍などの文字資料と出版の歴史の基礎事項を理解する。

図書館の歴史の基礎事項を理解する。

書籍、出版の文化的、社会的役割を理解する。

図書館の意義と役割についてその歴史の変遷に基づいて理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	個々の基本的事項についての知識とそれらの歴史的意義についての理解がほとんど見られない	個々の基本的事項についての知識とそれらの歴史的意義についての理解が十分でない	個々の基本的事項についての知識とそれらの歴史的意義についての理解がある程度見られる	個々の基本的事項についての知識とそれらの歴史的意義についての理解が十分に見られる
言語力	課題として課された内容についての論述が適切かつ十分でない	課題として課された内容についての論述の適切さ、十分さについて不足している箇所が多い	課題として課された内容についての論述がある程度適切かつ十分である	課題として課された内容についての論述が適切かつ十分である
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業内容の説明：言葉と文字の発明（テキスト1）
 - 第 2 回 記録の保存と図書館の始まり（テキスト1）
 - 第 3 回 ギリシャ、ローマの図書館（テキスト2）
 - 第 4 回 古代中国の図書館、仏教伝播と書籍（テキスト3、4）
 - 第 5 回 古代日本の図書館（テキスト5）
 - 第 6 回 中世ヨーロッパの図書館とキリスト教（テキスト6）
 - 第 7 回 中世日本の書籍（テキスト7）
 - 第 8 回 ヨーロッパ近世の出版と図書館（テキスト8）
 - 第 9 回 近世日本と中国の出版（テキスト9、10）
 - 第 10 回 近代社会の成立と図書館（テキスト11）
 - 第 11 回 日本の近代化と図書館（テキスト12）
 - 第 12 回 20世紀の図書館（テキスト13）
 - 第 13 回 戦後日本の図書館（テキスト14）
 - 第 14 回 基礎事項の確認テストと解説
 - 第 15 回 まとめ：これからの図書館（テキスト15）
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 テキスト、講義によって基本的事項を理解する。
- 2 授業内課題によって、学習した歴史的事項の意味につ

いて考える。

3 レポート課題によって、歴史的事項を有機的に関連づけて総合的に理解する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストの該当する箇所を読んでおく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度10% 授業内課題20% 基礎事項の確認テスト30% 期末レポート40%

確認テストはテスト終了後に解説する。期末レポートの講評はmanabaにて個別にコメントする。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

『図書・図書館史』/佃 一可 編/樹村房/2012/9784883672110/学内販売予定

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

図書館実習

LIB4800NOJ

大学

教職・資格

4年次

1単位 集中

その他 木曜5限

ー

45

集中

岩崎 れい 鎌田 均

〔科目の教育目標（Course Description）〕

図書館での実習を通して、図書館司書の業務を深く理解する。実習前の準備と事後の振り返り学習を通じて、図書館での仕事の内容と課題を的確に把握する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 実習前に図書館業務の概要を復習し、また、実習先について詳しく知る。
- 2. 実習中は、実習先の指示に従い、できるだけ多くの学びを得る。
- 3. 実習後は、振り返り学習を行い、実習中の経験や学習成果について、発表し、レポートを書く。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	基本的な知識が身につけていない。	図書館サービスに関する基本的な知識・技術	実習先で求められるおはなし会やレファレン	実習先で求められるおはなし会やレファレン

		を身につけている。	サービスに関する知識・技術がある。	サービスなど諸業務に関する十分な知識・技術がある。
共生・協働する力	実習で求められたことをこなすことができない。	実習先の指示に従って、実習を行うことができる。	実習先で一定の業務をこなすことができる。	企画やサービスなどにおいて、実習館を納得させる業務を行うことができる。

〔授業計画〕

- 事前授業（第1回） 図書館実習に関するオリエンテーション
- 事前授業（第2回） 図書館実習のための準備（1）おはなし会企画等
- 事前授業（第3回） 図書館実習のための準備（2）レファレンスサービス等
- 事後授業（第1回） 図書館実習の振り返り
- 事後授業（第2回） 図書館実習の成果発表会のための準備と議論
- 事後授業（第3回） 図書館実習成果発表会と意見交換
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 図書館業務と実習先について学ぶ。
2. 実習の際、必要な事柄について整理する。
3. 図書館サービスの課題を把握する。
4. 実習の経験を自分のものとしてできるよう、発表やレポートを通して振り返り学習を行う。

＜Course Schedule（授業予定）＞

- 事前授業：第1回（4月15日5講時）、第2回（5月13日5講時）、第3回（5月20日5講時）
- 事後授業：第1回（10月21日5講時）、第2回（12月16日5講時）、第3回（1月13日5講時）

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 司書課程で学んだことについて復習しておく。
 2. 実習先の図書館のサービスや特徴についてできるだけ詳しい情報を収集しておく。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

実習日誌・実習先の評価40%、実習後の発表・レポート40%、事前事後指導における取り組み20%の割合で、総合的に評価する。レポート等の提出物へのフィードバックは事後指導時に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

実習費として、5,000円が必要となる。内訳は、先方への実習委託費及び実習日誌印刷・実習受入作業にかかる郵送料

等の実費である。

甲群の科目はできるだけ履修し終えていることが望ましい。
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

鎌田均：大学図書館司書としての勤務経験あり

図書館情報資源概論

LIB1850N0J

大学

教職・資格

1年次 2年次

2単位 後期

火曜 3限

ー

60

矢田 峻太郎

〔科目の教育目標（Course Description）〕

図書館を構成する要素の一つである、図書館情報資源について、歴史的経緯を概観したのち、その類型と各情報資源の特質ならびに、出版流通のしくみや、情報資源の選択・収集、及び蔵書管理など、図書館情報資源についての基本的知識を学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

図書館情報資源についての基本的知識を獲得し、図書館業務の実践に活用する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
授業で扱うトピックについての知識・理解力	授業内容の理解が殆ど示されていない	授業内容の理解がある程度示されているが十分ではない	授業内容の理解がほぼ十分に示されている	授業内容の理解が高く示されている
授業で学んだ内容を応用できる思考力	内容が殆ど課題に反映されていない	課題において内容がある程度反映された思考が見られるが、不十分な箇所もある	内容がある程度十分に反映されている	内容の応用が十分かつ適切にできている

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション／情報とメディア
- 第2回 情報と記録の歴史
- 第3回 図書館情報資源の定義とその類型
- 第4回 図書館情報資源1（印刷資料1：図書）

第 5 回 図書館情報資源 2 (印刷資料2: 逐次刊行物その他)

第 6 回 図書館情報資源 3 (非印刷資料)

第 7 回 図書館情報資源 4 (特殊な資料)

第 8 回 図書館情報資源 5 (電子資料)

第 9 回 出版流通システム

第 10 回 蔵書構成と「図書館の自由」

第 11 回 図書館情報資源の収集と選択

第 12 回 図書館情報資源の組織化

第 13 回 蔵書管理

第 14 回 情報の保存・提供・利用と著作権

第 15 回 まとめと確認テスト

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心に、ビデオ視聴等も含める。製本技術講習会には必ず参加すること。

授業内容に関連して、課題を課すこともある。その場合は指示を厳守のうえ期限内に提出すること。提出課題は、個別に添削して返却または全体的な講評と解説のいずれかの方法でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教科書や参考書の該当箇所を読んで、内容を把握するように予習するとともに、授業後は図書館に向いて、授業で学習した内容について実際に観察して、実践に即した知識の定着を図ること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

まとめの確認テスト (70%)、授業中の課題 (20%)、製本技術講習会参加及びレポート提出 (10%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業予定は、理解度その他によって変更する場合がある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『図書館情報資源概論』/馬場俊明/日本図書館協会/2018/9784820418085/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『シリーズ図書館情報学I 図書館情報学基礎』/根本彰/東京大学出版会/2013/9784130034913

『図書館情報学 第二版』/上田修一・倉田敬子/勁草書房/2017/9784326000432

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生涯学習概論

LIB2800NOJ

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 後期

木曜3限

ー

60

学芸員に関する科目を兼ねる。

池内 正史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「生涯学習」という用語そのものはすでに社会的に定着しているが、その理念・現状についての理解が共有されているとは言いがたい。本講義では、生涯学習の理念やその社会的・歴史的背景、日本における政策的展開と課題などを紹介・検討しつつ、それらの理解を目指す。また、特に生涯学習社会の重要課題の一角に位置づく「学校外、地域における子ども・青少年の育ち・学び」の現状に注目していくことにしたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)生涯学習の基本的理念を理解する

(2)国・地方の各レベルでの生涯学習政策・施策の現状を理解する

(3)生涯学習のおこなわれる多様な機会や場所、専門職員等についての基本的知識を得る

(4)生涯学習社会における「子ども・青少年の育ちや学び」についての理解を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	生涯学習の理念・歴史について、理解ができていない。	生涯学習の理念・歴史について、おおむね理解ができています。	生涯学習の理念・歴史について、現実におこなわれている、多様な学習内容を踏まえた理解ができています。	生涯学習の理念・歴史について、現実におこなわれている、多様な学習内容を踏まえた理解ができています。さらに、今後の生涯学習社会の課題・可能性について考察ができています。

〔授業計画〕

第 1 回 生涯学習論を学ぶにあたって

講義計画・評価方法等のガイダンス

第 2 回 生涯学習と現代

- ユネスコにおける1960年代の生涯教育論の提唱、およびその後の展開について
- 第3回 日本における生涯学習政策
日本における生涯教育論の登場と「生涯学習」政策への転換について
- 第4回 生涯学習の振興政策をめぐって
国・地方の各レベルでの生涯学習政策・施策の概要
- 第5回 生涯学習の諸領域と学習者像
日本における生涯学習の全体像と現状
- 第6回 生涯学習と学校教育
生涯学習社会において求められる学校教育のあり方について
- 第7回 生涯学習と社会教育
「社会教育」をめぐる戦前・戦後の歴史と現状
- 第8回 社会教育と公民館・図書館
身近な社会教育施設である公民館・図書館について再考する
- 第9回 中間まとめ
生涯学習の導入・普及と今後の課題
- 第10回 青少年と社会教育
学校外・地域での青少年の育ち・学びの意義
- 第11回 青少年を対象とした社会教育政策・施策
「青少年の社会教育」をめぐる国・地方レベルでの政策・施策の実際
- 第12回 社会教育施設の調査
生涯学習社会の実際をめぐる調査・報告① ー私たちの身近な生涯学習施策・施設のあり方を調査するー
- 第13回 社会教育施設についての議論・分析
生涯学習社会の実際をめぐる調査・報告② ー調査の結果を分析するー
- 第14回 社会教育施設の訪問結果の報告
生涯学習社会の実際をめぐる調査・報告③ ー調査・分析の結果を報告するー
- 第15回 全体のまとめ
授業内容をふりかえる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業で配布するプリントに基づき、講義を進めていきます。受講生には授業内でコメントを求める場合や、グループでの活動・発表なども取り入れていく予定です。積極的な参加を期待します。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

生涯学習・社会教育をはじめ、広く子ども・教育・学習に関する資料や新聞記事等に関心を持ち、目を通していただきます。参考文献などは、随時、授業中にも紹介していきます。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 [50%]

レポート [50%]

レポートのテーマとして、生涯学習施設へのグループ訪問・調査を設定の予定。調査結果に関しては授業内で講評を行います。グループ内や教員との話し合いを含め、取り組みへの積極的参加を期待します。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストは使用しない。プリントや資料などを授業内で配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で、適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生徒指導・進路指導の理論及び方法

TEA2855N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次

2単位 集中

その他

ー

60

集中

池島 徳大 河佐 英俊

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業では、すべての生徒の健全な発達を促す視点から、思春期・青年期の心理に触れながら、生徒指導及び進路指導の理論と方法について、講義と演習を織り混ぜて行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 生徒指導・進路指導の理論と方法が分かる。
2. 思春期・青年期の心理と多様な生徒理解の方法が分かる。
3. いじめ・不登校など学校で生起する生徒指導上の諸問題への対応と方法が分かる。
4. 生徒指導・進路指導における学校カウンセリングの意義と方法が分かる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 生徒指導の意義と課題（担当：池島徳大）
- 第 2 回 生徒指導の基本原則（担当：池島徳大）
- 第 3 回 青年期の心理と生徒指導（担当：池島徳大）
- 第 4 回 生徒理解（担当：池島徳大）
- 第 5 回 生徒指導と教育課程（担当：池島徳大）
- 第 6 回 生徒指導における教育相談の意義と進め方（担当：池島徳大）
- 第 7 回 いじめ問題の現状と対応①（担当：池島徳大）
- 第 8 回 いじめ問題の現状と対応②（担当：池島徳大）
- 第 9 回 非行、不登校問題の現状と対応（担当：池島徳大）
- 第 10 回 開発的・予防的視点にたつ生徒指導の在り方（担当：池島徳大）
- 第 11 回 まとめ（担当：池島徳大）
- 第 12 回 進路指導の意義と課題（担当：河佐英俊）
- 第 13 回 進路指導の原理と方法（担当：河佐英俊）
- 第 14 回 学校における生徒指導・進路指導体制（担当：河佐英俊）
- 第 15 回 進路指導における教育相談の意義と進め方（担当：河佐英俊）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

定期試験は行わない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

上記 1 については、講義とワーク形式で進める。2 については、適宜、関連する文献及び資料を参照しながらワーク形式で進める。3 については、いじめや不登校、ひきこもりの指導事例を提示し、各自の意見を発表することを通して理解を深める。4 については、講義と演習を取り入れて行う。最後は、まとめとしてレポートを課す。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

生徒指導・進路指導に関して、up-to-dateな問題も取り上げるので、課題意識を持っての受講を期待します。そのため、本講義と関わる書籍や文献を読んでおいてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

おおよそ以下の割合で評価を行う。

①まとめのレポートにて、学習内容に関する知識・理解の定着度をみる。（評価割合60%）②生徒指導・進路指導に関する意欲・態度の評価を以下で行う。「感想ノート」の提出（評価割合15%）・生徒指導に関するレポートの提出2回<課題は、講義中に提示>（評価割合25%）

〔留意事項（Other Information）〕

生徒指導・進路指導に関する知識の獲得、演習によるスキルの獲得、感受性の開発の3つをキーワードに進めます。

講義中心からできる限り演習を取り入れた授業を展開します。生徒指導・進路指導に関して多様な視点からの確に対応できる基礎能力の育成を目指します。課題意識を持っての受講を期待します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要に応じて資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法！－指導用ビデオと指導案ですぐできるピア・メディエーションとクラスづくり』/池島徳大監修・他著/ほんの森出版/2011/『いじめ解決への教育的支援』/池島徳大/日本教育新聞社/1997/

『学校カウンセリングの理論と実践』/佐藤修策総監修、池島徳大他著/ナカニシヤ出版/2007/

『生徒指導提要』/文部科学省//2010/ 必要に応じて資料を配布する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

中等教育実習 I

TEA4856NOJ
大学
教職・資格
4年次
2単位 集中
その他
ー
90
別に定める
集中

石川 裕之 河野 有時 加藤 佐千子 東郷 多津

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深めることができている。
2. 教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つことができている。
3. 学校という組織の一員としての教員の職責・義務を自覚できている。
4. 教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。
5. 教員としての専門的な知識や技能を習得している。
6. 指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認できている。

7. 教員としての自分の長所と短所に気付き、資質向上のための努力目標を知ることができている。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教職のあり方についての認識	教職のあり方についての認識を深めることができていない。	教職のあり方についての認識を深めることができる。	教職のあり方についての認識をしっかりと深めることができる。	教職のあり方についての認識をしっかりと深めており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての使命感	教員としての使命感を持つことができていない。	教員としての使命感を持つことができる。	教員としての使命感をしっかりと持つことができる。	教員としての使命感をしっかりと持つことができおり、それを今後の実践に活かすことができる。
学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができていない。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができる。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかりと持つことができる。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかりと持つことができおり、それを今後の実践に活かすことができる。
教員の働きかけに対する生徒の思考・行動についての把握	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できていない。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかりと把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかりと把握できおり、それを今後の実践に活かすことができる。

教員としての専門的な知識や技能の習得	教員としての専門的な知識や技能を習得できていない。	教員としての専門的な知識や技能を習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかりと習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかりと習得できおり、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての実践的指導力の基礎	教員としての実践的指導力の基礎を確認できていない。	教員としての実践的指導力の基礎を確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかりと確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかりと確認できおり、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての資質向上のための努力目標	教員としての資質向上のための努力目標を理解できていない。	教員としての資質向上のための努力目標を理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかりと理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかりと理解できおり、それを今後の自らの姿勢・行動につなげることができる。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談をおこない、指導を踏まえて取り組むこと。

研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教育実習生としての自覚を持つこと。

教材研究を十分におこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

＜評価基準＞

実習に積極的に臨んだか

＜評価方法＞

レポート

実習校の評価

教育実習ノート

〔留意事項 (Other Information)〕

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。

就職活動、スポーツ・文化クラブ活動などの欠席も認めない。「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

＜実践的科目＞

中等教育実習 II

TEA4857NOJ

大学

教職・資格

4年次

2単位 集中

その他

一

90

別に定める

集中

石川 裕之 河野 有時 加藤 佐千子 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深めることができている。
2. 教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つことができている。
3. 学校という組織の一員としての教員の職責・義務を自覚

できている。

4. 教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。

5. 教員としての専門的な知識や技能を習得している。

6. 指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認できている。

7. 教員としての自分の長所と短所に気づき、資質向上のための努力目標を知ることができている。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教職のあり方についての認識	教職のあり方についての認識を深めることができていない。	教職のあり方についての認識を深めることができている。	教職のあり方についての認識をしっかりと深めることができている。	教職のあり方についての認識をしっかりと深めることができおり、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての使命感	教員としての使命感を持つことができていない。	教員としての使命感を持つことができている。	教員としての使命感をしっかりと持つことができている。	教員としての使命感をしっかりと持つことができおり、それを今後の実践に活かすことができる。
学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができていない。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができている。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかりと持つことができている。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかりと持つことができおり、それを今後の実践に活かすことができる。
教員の働きかけに対する生徒の思考・行動についての把握	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できていない。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかりと把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかりと把握できおり、それを今後の実践に活かすことができる。

教員としての専門的な知識や技能の習得	教員としての専門的な知識や技能を習得できていない。	教員としての専門的な知識や技能を習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかりと習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかりと習得できおり、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての実践的指導力の基礎	教員としての実践的指導力の基礎を確認できていない。	教員としての実践的指導力の基礎を確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかりと確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかりと確認できおり、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての資質向上のための努力目標	教員としての資質向上のための努力目標を理解できていない。	教員としての資質向上のための努力目標を理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかりと理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかりと理解できおり、それを今後の自らの姿勢・行動につなげることができる。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動など、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談をおこない、指導を踏まえて取り組むこと。

研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教育実習生としての自覚を持つこと。

教材研究を十分おこなうこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

＜評価基準＞

実習に積極的に臨んだか

＜評価方法＞

レポート

実習校の評価

教育実習ノート

〔留意事項 (Other Information)〕

特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

中等教育実習事前事後指導

TEA4855N0J

大学

教職・資格

4年次

1単位 集中

その他

—

45

集中

石川 裕之 河野 有時 加藤 佐千子 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「教育実習事前・事後指導」は、教育実習の事前と事後に行う教育実習に関する指導を通して、教育実習の目的達成をより確かなものとするために行う。そのため「事前指導」では、大学での教育と教育実習との間の距離を可能な限り埋め、教育実習に抵抗感なく臨めるようにするため、実習に際して必要不可欠な基礎的・基本的な事柄を確実に身につけることをめざす。「事後指導」では、教育実習での学び、体験、反省をもとに、実習前の自己の教育観、学校観、生徒観との比較、整理を行い、教職への意義を高めることを目的とする。また、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、自らの学習や研究課題に役立てることをめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.教育実習の意義・心構えについて理解している。
- 2.実習に意欲的に取り組もうとする意識を持っている。
- 3.特別支援教育・人権教育について理解している。
- 4.実習生としての基本的なマナーやルールを理解し、それを守って行動できる。
- 5.記録や参観の意義・方法を理解できている。
- 6.実習を振り返り客観的に自己を見つめることができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
教育実習の意義・心構え	教育実習の意義・心構えについて理解していない。	教育実習の意義・心構えについて理解している。	教育実習の意義・心構えについてしっかり理解している。	教育実習の意義・心構えについてしっかり理解しており、それを実習の場で活かすことができる。
実習に意欲的に取り組もうとする意識	実習に意欲的に取り組もうとする意識を持っていない。	実習に意欲的に取り組もうとする意識を持っている。	実習に意欲的に取り組もうとする意識をしっかり持っている。	実習に意欲的に取り組もうとする意識をしっかり持っており、それを実習の場で活かすことができる。
特別支援教育・人権教育についての理解	特別支援教育・人権教育について理解していない。	特別支援教育・人権教育について理解している。	特別支援教育・人権教育についてしっかり理解している。	特別支援教育・人権教育についてしっかり理解しており、それを実習の場で活かすことができる。
実習生としての基本的なマナーやルールについての理解	実習生としての基本的なマナーやルールを理解していないか、理解していてもそれを守って行動できない。	実習生としての基本的なマナーやルールを理解しており、それを守って行動できる。	実習生としての基本的なマナーやルールをしっかり理解しており、それをきちんと守って行動できる。	実習生としての基本的なマナーやルールをしっかり理解しており、他の学生・実習生の模範となるように行動できる。

記録や参観の意義・方法についての理解	記録や参観の意義・方法を理解できていない。	記録や参観の意義・方法を理解できている。	記録や参観の意義・方法をしっかり理解できている。	記録や参観の意義・方法をしっかり理解できおり、それを実習の場で活かすことができる。
実習の振り返りと自己省察	実習の振り返りが不十分で客観的に自己を見つめることができていない。	実習を振り返り客観的に自己を見つめることができている。	しっかりと実習を振り返り客観的に自己を見つめることができている。	しっかりと実習を振り返り客観的に自己を見つめることができおり、今後の自らの姿勢や行動につなげることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 教育実習オリエンテーション (石川)
- 第 2 回 教育実習の心構え (石川)
- 第 3 回 教育実習の意義・目的・内容 (石川)
- 第 4 回 教員の仕事と教育実習 (石川)
- 第 5 回 人権教育 (1) - 性的少数者の人権・在日外国人の人権 - (特別講師を予定)
- 第 6 回 人権教育 (2) - 同和教育の成果とインクルーシブ教育・人権教育 - (特別講師を予定)
- 第 7 回 特別支援教育 (1) - 特別な教育的ニーズのある子どもの理解 - (特別講師を予定)
- 第 8 回 特別支援教育 (2) - 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について - (特別講師を予定)
- 第 9 回 特別講義の振り返り (石川)
- 第 10 回 教育実習の評価の観点 (石川)
- 第 11 回 実習報告書の書き方 (石川)
- 第 12 回 教科内容等に関する指導 (1) - 教科内容と評価方法の確認および指導計画上での配慮事項 - (東郷、河野、加藤)
- 第 13 回 教科内容等に関する指導 (2) - 授業形態別指導と生徒とのコミュニケーションにおける注意事項 - (東郷、河野、加藤)
- 第 14 回 事後指導 (1) - 実習の振り返りと自己評価 - (石川、東郷、河野、加藤)
- 第 15 回 事後指導 (2) - グループワークや全体会による実習の考察・反省・まとめと課題認知 - (石川、東郷、河野、加藤)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、演習形式および特別講師による講義によりおこなう。事後指導は、個別指導、全体学習および、報告会での発表形式によりおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

教育実習に行くための自覚を持つこと。

各教科の教材研究や資料の準備を常に心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

＜評価基準＞

実習における意義や心構えを理解し、意欲的な態度であったか

指導案の書き方、基本的な事柄が理解できたか

実習を振り返り、客観的に自己を見つめることができたか

＜評価方法＞

記録・レポートの内容 (50%)

発表内容・態度 (50%)

最終授業で全体に対するフィードバックをおこなう。

〔留意事項 (Other Information)〕

特別な事情 (病欠には診断書、その他は証明書が必要) 以外の欠席・遅刻・早退は認めない。

特別講師による講義のときは、スーツで講義を受け、礼儀正しくすること

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

各教科の指導法をすべて合格しているものしか履修できない。

教育実習に関する各種説明会への出席、書類提出など、重要な連絡事項は掲示によって行われるので注意されたい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

＜実践的科目＞

道徳の指導法 (中等)

TEA2803N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次

2単位 前期

金曜 5限

ー

60

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

①道徳教育に関する基礎理論や歴史を学ぶとともに、②中等学校における道徳教育の基本的な指導力を培う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

道徳教育の理論や歴史を含む理論的側面と、具体的な授業の実践例や指導案の作成法を含む実践的側面の両面を踏まえた、道徳教育に関する総合的な知識を身につけることを目指す。時に「当たり前」や「あるべき姿」を一方向的に押し付けるものとして疎まれることもある道徳教育について、「道徳」とは何かという根本的な問いにまで遡りながら学んでいく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
道徳教育に関する基礎理論や歴史に対する理解	道徳教育に関する基礎理論や歴史を理解できていない。	道徳教育に関する基礎理論や歴史を理解している。	道徳教育に関する基礎理論や歴史をしっかりと理解している。	道徳教育に関する基礎理論や歴史をしっかりと理解しており、それを自らの姿勢や行動につなげることができる。
中等学校における道徳教育の基本的な指導力	中等学校における道徳教育の基本的な指導力が身に付いていない。	中等学校における道徳教育の基本的な指導力が身に付いている。	中等学校における道徳教育の基本的な指導力がしっかりと身に付いている。	中等学校における道徳教育の基本的な指導力がしっかりと身に付いており、さらに自らの力を向上させようという姿勢が見られる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 なぜ学校で道徳教育をおこなうのか (1) - 学校教育以前の道徳教育 -

第 3 回 なぜ学校で道徳教育をおこなうのか (2) - 学校教育以後の道徳教育 -

第 4 回 道德教育の歴史（１）－戦前の道德教育：近代国家の出発－

第 5 回 道德教育の歴史（２）－戦前の道德教育：教育勅語と修身－

第 6 回 道德教育の歴史（３）－戦後の道德教育：戦後教育改革と道德教育－

第 7 回 道德教育の歴史（４）－戦後の道德教育：道德教育の質的变化－

第 8 回 学校における道德教育の目標と内容

第 9 回 教科としての道德科の目標と内容（１）－位置づけと目標－

第 10 回 教科としての道德科の目標と内容（２）－学習プロセス－

第 11 回 教科としての道德科の目標と内容（３）－扱う内容－

第 12 回 教科としての道德科の目標と内容（４）－道德的価値と内容項目の関係－

第 13 回 道德科の授業と指導案の書き方（１）－基本的姿勢－

第 14 回 道德科の授業と指導案の書き方（２）－執筆方法－

第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
「道德」について、また、道德を学校で教え・学ぶということについて自ら問い・考えるために、理論・歴史・実践例などを学ぶ。学習指導案等の提出物については適宜フィードバックをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
学習指導要領およびその解説編を読み、道德教育の特質や指導のポイントについて考えておくこと。学習指導案の作成などでは各自事前準備が必要となるので、積極的に取り組むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
授業への参加度（授業中の質問や応答、学生同士のディスカッションなど授業への参加度と貢献度を評価する）：60%
提出物（学習指導案などの提出物を評価する）：40%

〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道德編』教育出版、2018年、ISBN：978-4316300849、学内販売無（下記「13. 参考URL」から閲覧可能）
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
授業内で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_011.pdf

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別活動・総合的な学習の時間の指導法

TEA2853N0J
大学
教職・資格
2年次 3年次
2単位 後期
月曜 2限
ー
90
松田 忠喜

〔科目の教育目標（Course Description）〕

「なすことによって学ぶ」という方法原理に基づく特別活動の意義や目標を理解し、特別活動において育成を目指す資質・能力に関わる「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点を持つとともに、特別活動の特質を踏まえた知識や素養、実践的な指導力を身に付ける。

総合的な学習の時間の意義や目標を理解し、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習の実現のための指導計画の作成、具体的な指導方法、学習活動の評価など必要な基礎的な知識・技能を身に付ける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 特別活動・総合的な学習の時間の歴史の変遷と位置づけ、子どもたちの現状と課題
2. 特別活動の意義、目標・内容
3. 特別活動の各内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）
4. 特別活動の指導計画と学習過程及び留意事項
5. 特別活動と人間形成、キャリア教育、評価
6. 特別活動と各教科等の往還関係、家庭・地域連携
7. 特別活動と学級・学校経営
8. 総合的な学習の時間の意義、目標・内容
9. 総合的な学習の時間の指導計画と評価
10. 総合的な学習の時間の探究的な学習過程及び留意事項

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・技能	特別活動や総合的な学習の時間の教育的意義や目標、主な内容を理解していない。	特別活動や総合的な学習の時間の教育的意義や目標、おおまかな内容を理解している。ひな型をもとに学習指導案を作成することができる。	特別活動や総合的な学習の時間の教育的意義や目標、主な内容を十分に理解している。自分で学習指導案を作成することができる。	特別活動や総合的な学習の時間の教育的意義や目標、主な内容を十分に理解するとともに自らの生活に生かすことができる。また、指導計画や評価を含めた学習指導案を自ら作成することができる。
思考・判断・表現力等	生徒の学びについて具体的な事例を通して考察することができない。	生徒の学びについて具体的事例を通して考察する。模擬授業に取り組むことができる。	生徒の学びについて具体的事例を通して考察できる。授業を通して指導方法の在り方を探究し、授業を行うための必要な基礎的能力を身に付ける。	生徒の学びについて具体的事例を通して考察し、実践(模擬授業等)に生かすことができる。授業を通して指導方法の在り方を探究し、実践的な指導力を身に付ける。
主体的な態度	意欲的に授業に参加できない。	自主的に授業に参加し、授業における役割を引き受けようとする。	自主的に授業に参加し、授業における役割を積極的に引き受ける。また、自らの学びを進んで振り返ろうとする。	自発的、主体的に授業に参加し、授業における役割を積極的に引き受ける。また、自らの学びを振り返り、次の授業に生かそうとする。

〔授業計画〕

- 第 1 回 開講にあたって (ガイダンス)
特別活動・総合的な学習の時間の歴史の変遷と位置づけ、子どもたちの現状と課題
- 第 2 回 特別活動「目標・内容」
特別活動の意義、目標・内容
- 第 3 回 特別活動「学級活動・ホームルーム活動」
学級活動・ホームルーム活動(1) 目標・内容、全体計画・年間計画、指導上の留意点

- 第 4 回 特別活動「学級活動・ホームルーム活動」
学級活動・ホームルーム活動(2)「話し合い活動」
指導のポイント、学習指導案作成
- 第 5 回 特別活動「生徒会活動」
生徒会活動：目標・内容、全体計画・年間計画、指導上の留意点
- 第 6 回 特別活動「学校行事」
学校行事：目標・内容、全体計画・年間計画、指導上の留意点
人間形成と部活動
- 第 7 回 特別活動「キャリア教育・評価」
特別活動におけるキャリア教育、言語活動の充実、特別活動の評価
- 第 8 回 特別活動「各教科等との関連・家庭・地域連携」
特別活動と各教科等との往還関係、生徒指導、学級経営、家庭・地域及び関係機関との連携
- 第 9 回 特別活動「模擬授業」
学級活動・ホームルーム活動(3)：模擬授業「話し合い活動・集会活動」
- 第 10 回 総合的な学習の時間「目標・内容」
総合的な学習の時間の意義、目標・内容
- 第 11 回 総合的な学習の時間「指導計画」
総合的な学習の時間の年間指導計画、単元計画、実践例
- 第 12 回 総合的な学習の時間「学習過程、評価」
総合的な学習の時間の探究的な学習過程、評価、実践上の留意点
- 第 13 回 総合的な学習の時間「学習指導案作成」
総合的な学習の時間の学習指導案づくりと実際、学習を充実させる体制づくり
- 第 14 回 総合的な学習の時間「模擬授業」
総合的な学習の時間：模擬授業(授業構想のプレゼンテーション)
- 第 15 回 指導法のまとめ
特別活動・総合的な学習の時間との関連、指導法のまとめ、これからの学校教育と特別活動・総合的な学習の時間

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

一方的な講義に終始するのではなく、3分間スピーチ・話し合い・模擬授業などを織り交ぜ、主体的に授業に取り組めるようにすることで、特別活動及び総合的な学習の時間の指導法を身に付ける。また、授業の終わりに毎回「振り返りカード」を用いて記入することで、自らの考えを深め、学習事項の深化充実を図るとともに、今後の学びや実践に生かす。

「振り返りカード」については、個別にコメントを加えて返却するとともに、質問や意見等全体に広げて共有することが望ましい内容については、次の授業の最初に取り上げる。また、提出したレポートについても、コメントを加えて返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

シラバスで指定しているテキストの授業範囲やあらかじめ示された講義資料を読み、講義内容を把握しておく。

子どもたちの現状と課題に関心を持ち、特別活動や総合的な学習の時間の教育課題解決に向けての役割などを主体的に考えて授業に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60時間

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業時の評価 (授業参加意欲、振り返りカード、模擬授業・各役割分担等) 20%、学習指導案づくり・課題レポート20%、定期試験60%により総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理に基づき、授業への主体的・意欲的な参加を望む。また、総合的な学習の時間の目標にもあるように、授業内容を「探究的な見方・考え方を働かせ、多様な角度から捉える」ことができるよう努力してほしい。

なお、講義では、3分間スピーチ (司会・発表) を取り入れるとともに、模擬授業を2回行う予定。

授業に必要な教材は、指定された「テキスト1冊」と授業で適宜配布する「資料」。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

☆昨年度より変更

小・中・高等学校「特別活動と総合的な学習・探究の理論と指導」ー新学習指導要領に準拠した理論と指導ー/中園 大三郎・松田 修・中尾 豊喜/学術研究出版/2020年/9784910415055/学内販売有り

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 特別活動編』/文部科学省/(文部科学省ホームページ) /2017年/

『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総合的な学習の時間編』/文部科学省/(文部科学省ホームページ) /2017年/

『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 特別活動編』/文部科学省/(文部科学省ホームページ) /2018年/

『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 総合的な探究の時間編』/文部科学省/(文部科学省ホームページ) /2018年/

『学級・学校文化を創る特別活動 (中学校編)』/文部科学省 国立教育政策所教育課程研究センター/東京書籍/2016年/9784487809615

『よりよい人間関係を築く特別活動』/杉田 洋/図書文化/2009年/9784810095463

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫特別活動・総合的な学習の時間の指導法の科目について

実務経験等：大阪府公立学校教員 (教諭・首席) 及び教頭・校長としての勤務、授業経験あり。現職教員による特

別活動の研究会「大阪府小中学校特別活動研究会」会長等役員を歴任。また、特別活動は、全国大会をはじめとする実践研究発表や研究授業などの指導助言等多数。総合的な学習の時間においても実践発表あり。

日本語教育実習Ⅲ

JLT3855N0J

大学

教職・資格

3年次

2単位 集中

その他

ー

60

日本語教育実習I

集中

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語教員養成課程の主要科目を修得した最終年次生が、実際に学外の日本語教育の現場に赴き、初級～初中級の日本語授業の見学・実践を行い、日本語教育の実践的知識を体得することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 初級～初中級日本語クラスで教授される主な学習事項について理解する
2. 実際に日本語教育機関に赴き、授業を見学・補助する
3. 日本語教育機関の初級～初中級日本語クラスで、指導案を作成し、授業を10コマ程度実施する
4. 外国人学習者に接し、日本語教師として実際の教室でどのようなことが求められるかを体験的に学習する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本語教授事項への知識・理解が薄弱である。	日本語教授事項への知識・理解がある程度見られる。	日本語教授事項への知識・理解がかなり見られる。	日本語教授事項への知識・理解がきわめて深い。
言語力	教室での言語が不明瞭で、学習者とのコミュニケーションを取ることができない。	教室での言語がある程度明瞭で、学習者とのコミュニケーションをある程度取ることができる。	教室での言語が程度明瞭で、学習者とのコミュニケーションをかなり取ることができる。	教室での言語がきわめて明瞭で、学習者とのコミュニケーションをかなり取ることができる。
思考・解決力	教材研究ができず、授業計画を自分で立てることができない。	授業計画を自分で作ることはできるが、教材研究が不足しており、やや魅力や	一定の教材研究により、授業計画を自分で作ることができ、ある程度魅力	十分な教材研究が行われ、よく練った授業計画により、きわめて魅力的・個性

		個性に欠ける授業である。	的・個性的な授業を実施することができる。	的な授業を実施することができる。
共生・協働する力	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションができない。	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションがある程度可能である。	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との協働・コミュニケーションがじゅうぶん可能である。	実習に当たり、受け入れ校の指導教員や他の履修生との積極的な協働・コミュニケーションが可能であり、常に周囲の状況への心配りができる。

〔授業計画〕

- 事前授業（実施日は掲示するのでよく見ておくこと）
 - テキストにもとづき、教材研究を行う
 - 実習に関する心構えや注意点について理解する
- 学外での実習
 - 日本語教師の授業を見学する
 - 10時間程度、外国人学習者のクラス（20名前後の教室）で授業を実施する
- 事後授業
 - 学外実習を振り返り、学んだことや課題点などについてレポートする

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 学外の日本語教育機関において、授業の見学・実践を行う。
- 『みんなの日本語』Ⅰ・Ⅱの主要な教授項目について理解する。
- 上記2にもとづき、教材研究を行い、指導案を作成し、授業を実践する。
- 日本語教育実習日誌に日々の学習事項を記録する。
- 実習で体験したことを振り返り、課題をまとめる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

指示された課題を、事前にきちんと準備してくる。授業実施にあたっては、教材研究・指導案作成にじゅうぶん時間をかけて当たること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業に取り組む意欲・態度の評価点10%、作成教材、指導案および実施模擬授業の内容60%、日本語教育実習日誌の内容20%、最終レポートの内容10%で評価する。なお、この科目に関しては、遅刻・欠席はゆるぎない。

〔留意事項（Other Information）〕

この科目の履修に際しては、実習費を必要とする。また、この授業の履修条件は、以下の通りである。日本語教育実習Ⅰの単位を修得済みであり、かつ必修科目22単位のうち16単位以上（平成26年度以降入学者は24単位中18単位）を修得済みであること。留学生は、日本留学試験日本語科目（3領域総合得点）320点以上の成績を取得していることが求められる。卒業後、日本語教員として就職することを考えている人は、本科目だけでなく、他の「日本語教育実習」科目も履修することが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

履修後、各専門学校が使用しているテキストを購入。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

博物館資料論

MUS2800N0J

大学

教職・資格

2年次 3年次 4年次

2単位 前期

月曜3限

—

60

山田 由希代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

博物館を他の社会教育施設や研究所等と区別する指標は、博物館資料の存在である。博物館におけるさまざまな活動は、博物館資料なしには成り立たない。そして、博物館資料の取り扱い、学芸員の最も基本的な業務である。そのため、博物館資料とは何かといったことから、どのように収集、整理、保管、展示するのか、その活用に至るまでを学習する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 博物館資料の種類と分類に関する視点を理解する。
- 資料の収集・保管について理解する。
- 資料の調査・研究について理解する。
- 資料の展示・公開について理解する。
- 資料を取り巻く多様な課題について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション／博物館における資料を理解する
- 第 2 回 博物館資料の意義と種類についての知識を得る
- 第 3 回 資料の収集の方法（採集、購入、寄託、寄贈、交換など）を学ぶ
- 第 4 回 資料の収集の手続き（寄託、寄贈、交換）を学ぶ
- 第 5 回 資料の受け入れ時の対応・調書の作成を学ぶ
- 第 6 回 資料の保管・管理を学ぶ
- 第 7 回 資料の公開（台帳とデータベース）について知識を得る
- 第 8 回 美術館見学
- 第 9 回 資料の利用（研究と展示）について考える
- 第 10 回 資料の利用（利用の促進）について考える
- 第 11 回 博物館見学
- 第 12 回 コレクションの育成についての知識を得る
- 第 13 回 博物館資料に関わる法律を知る
- 第 14 回 利用者の視点と博物館の視点について考える
- 第 15 回 博物館資料についてのまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1.授業方法

*必要に応じて資料を配布し、講義を行う。

2.テキスト・参考資料

*テキストは使用しない。

*参考文献については必要に応じて紹介する。

3.その他

*他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。

*博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

講義が中心であるが、履修者の積極的な発言を求めため、可能な限り、博物館や美術館に足を運ぶかウェブサイト参照し、展覧会および博物館施設の諸活動を観察する機会を多く持つように心がけること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、平常点（態度、発言、感想、授業内での作業、授業内の小テスト）とレポートにより総合的に行う。評価基準は、平常点60%、まとめのレポート40%とする。

なお、課題に関しては直接コメントしてフィードバックとする。

〔留意事項（Other Information）〕

フィールドワークとして施設見学を行う場合は、各自入館料を必要とする。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

美術館学芸員として勤務するなか、美術工芸品を扱うことや作家およびその制作過程に触れる経験を有しているため、実際の視点から授業を行う。

博物館展示論

MUS1851N0J

大学

教職・資格

1年次 2年次 3年次 4年次

2単位 後期

月曜3限

—

60

山田 由希代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

展示の歴史、展示メディア、展示の諸形態等に関する知識及び方法に関する知識を習得するとともに、博物館および美術館での展示技術に関する基礎的能力を養う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1.博物館において中心的活動のひとつである展示についての知識を身につける。

2.展示方法、技術について学び、博物館において展示が及ぼす影響について多角的に考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 博物館展示の意義について

第 2 回 展示と展示論の歴史

- 第 3 回 博物館の見学
- 第 4 回 展示製作の流れ（企画・デザイン・照明など）
- 第 5 回 展示パネル・解説パネル・人や機器による解説
- 第 6 回 展示解説（図録・パンフレット）
- 第 7 回 関係者との協力（業者等）
- 第 8 回 美術館の見学
- 第 9 回 展示を企画してみる（企画概要作成）
- 第 10 回 出品リストを作ってみる
- 第 11 回 展示の構成を作って整理してみる
- 第 12 回 企画展の見学
- 第 13 回 展示図面を作ってみる（画像の配置）
- 第 14 回 展示図面を作ってみる（全体の調整）
- 第 15 回 発表とまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 授業方法

* 必要に応じて資料を配布し、講義を行う。

2. テキスト・参考資料

* テキストは使用しない。

* 参考文献については必要に応じて紹介する。

3. その他

* 他の博物館学関連の科目と緊密に関連するため、それらにも留意して学習する。

* 博物館施設見学の費用は履修者の負担とする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

履修者の積極的な発言を求めため、できる限り博物館や美術館で展示を見学する、または博物館や美術館ウェブサイトで見学に関する情報を収集すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業に取り組む姿勢やレポート等により、総合的に行う。

評価基準は、授業への参加態度50%、課題の成果物50%とする。

なお、課題に関しては直接コメントしてフィードバックとする。

〔留意事項（Other Information）〕

フィールドワークとして施設見学を行う場合は、各自入館料を必要とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

美術館学芸員として実際に展示作業を行う経験を有しているため、現場での実質的な知識を伝える。

発達と学習の教育心理

TEA2801N0J

大学

教職・資格

2年次

2単位 後期

木曜 4限

ー

60

障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む

畠山 寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕

教育活動における心理学的理解は重要である。教授方法や学習理論、あるいは、教育の対象である児童・生徒の理解がなければ、適切で効果的な教育活動は行えない。この科目では、学習心理学、発達心理学、社会心理学の基礎的な知見の紹介にとどまらず、教育に活かす方法について講義することによって、適切で効果的な教育活動について理解することを目標にする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学習に関する心理学的な理解
2. 児童・生徒の心身の発達、及び、障害に対する理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学習に関する心理学的理解	学習に関する心理学的な理解ができていない。	学習に関する心理学的な理解が、一部できている。	学習に関する心理学的な理解が、十分にできている。	レベル3に加え、実践できる。
児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解ができていない。	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解が、一部できている。	児童・生徒の心身の発達や障害に対する理解が、十分にできている。	レベル3に加え、発達や障害に見合ったかわりが考えられる。

〔授業計画〕

第 1 回 教育における児童・生徒の発達理解、学習理解の重要性

第 2 回 学習①：行動主義の学習理論

第 3 回 学習②：認知主義の学習理論

第 4 回 学習③：メタ認知、学習方略

第 5 回 記憶：記憶のメカニズムと効果的な記憶法

第 6 回 動機づけ：やる気の引き出し方

第 7 回 発達①：発達に関する基礎的理解

第 8 回 発達②：乳幼児期の発達

第 9 回 発達③：児童期・青年期の発達

第 10 回 個人差：知能、性格特性の把握

第 11 回 障害の理解①：知的障害、自閉症

第 12 回 障害の理解②：ADHD、学習障害

第 13 回 学級集団：教師のあり方と生徒間関係
 第 14 回 教育評価の考え方
 第 15 回 形成テストとテストの解説
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 授業は講義形式・演習形式で行う。
2. 適宜必要なプリントなどを配布する。
3. 必要に応じてパワーポイント、ビデオなどを使用する。
4. 形成テスト実施後にテスト解説を行う。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. 各回の授業終了時に、次週の学習に向けての課題・指示を与える。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

成績は、形成テスト (50%)、レポート課題 (50%) を総合したものから、授業中のスマホ利用等で減点した点数とする。

[留意事項 (Other Information)]

1. 授業で配布する資料の予備は保管しません。
2. 携帯電話、スマートフォンの電源を切り、鞆の中に入らないこと。
3. 水、お茶以外の飲食については禁止します。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

『Next 教科書シリーズ 発達と学習 第2版』/内藤佳津雄・北村世都・市川優一郎 編/弘文堂/2020/97843350022441/学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

特別支援教育

TEA2852N0J

大学

教職・資格

2年次

2単位 後期

木曜 3限

60

江川 正一

[科目の教育目標 (Course Description)]

学校現場には、障害のある子どもや障害はないが特別な教育的ニーズを持っている子どもたちが多くいます。それらの学校の教員は、特別な教育的ニーズをのる様々な子どもたちの理解とその対応が求められます。本講義では、教員に必要な特別支援教育の基本的な知識と支援方法を理解し、実際の場面で生かすことを目標とします。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

- 1 特別支援教育の理念を理解する。
- 2 特別支援教育の対象となる子どもを理解する。
- 3 特別支援教育の教育課程、指導について理解する。
- 4 小、中、高等学校における障害のある子どもの教育について理解する。

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしていない。	学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席するだけで、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	自分の学びを振り返り、考えることができる。	新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	日常的に自分の学びを正しく理解し、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方を尊重し、互いに学びをフィードバックしながら、学びを助け合うことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換し	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現する	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信

		たりでき る。	ことができ る。	することが できる。
--	--	------------	-------------	---------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 特別支援教育の理念とその思想
インクルーシブ教育システムを含む特別支援教育の制度の理念や仕組み
- 第 2 回 心身の発達、心理的特性及び学習の過程について
発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の教育的支援を必要とする子どもの心身の発達、心理的特性および学習の過程について
- 第 3 回 特別支援教育の対象 1
視覚障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について
- 第 4 回 特別支援教育の対象 2
知的障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について
- 第 5 回 特別支援教育の対象 3
肢体不自由のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について
- 第 6 回 特別支援教育の対象 4
聴覚障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について
- 第 7 回 特別支援教育の対象 5
聴覚障害の疑似体験を通して、障害が及ぼす困難さを理解する
- 第 8 回 特別支援教育の対象 6
病弱等の幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について
- 第 9 回 特別支援教育の対象 7
言語障害や日本語指導が必要な幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について
- 第 10 回 特別支援教育の対象 8
発達障害や軽度知的障害の幼児、児童及び生徒の支援の方法について
- 第 11 回 特別支援教育の対象 9
重症心身障害児の幼児、児童生徒の学習上または生活上の困難について
医療的ケアについて
- 第 12 回 特別支援学校の教育課程 1
特別支援学校の教育課程の特徴について
(教科学習、教科等を合わせた指導、自立活動等)
- 第 13 回 特別支援学校の教育課程 2
特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について
- 第 14 回 小学校、中学校、高校での特別支援教育
小学校、中学校、高校での特別支援教育を進める体制について
授業のユニバーサルデザインについて
- 第 15 回 障害のある子どもの家族
障害のある子どもの家族が抱える困難とそれに対する支援について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義を中心として講義内容に基づくテーマについてのディスカッションを適時行う。

適時授業内容に即した課題についてレポートを作成する。課題については、最終授業で全体にフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

これまで学校教育を受けてきた経験の中で障害のある子どもへの指導について思い起こすとともに、自分なら障害のある子どもたちへの指導をどのようにするかを考えておく。特別支援学校のホームページを閲覧するなどして、特別支援学校等で行われている教育の情報を得るようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%) レポート (30%) 及びテスト (40%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

対面授業で実施します。

授業予定を変更して行う場合があります。その際には事前に連絡します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業時に適時資料を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『特別支援教育の基礎・基本2020』/国立特別支援教育総合研究所/ジアース教育新新社/2020/9784863715486/

『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領』/文部科学省/海文堂出版/ 2018/978430312424243 /

『特別支援学校高等部学習指導要領』/文部科学省/海文堂出版/2019/9784303124274/

〔参考URL(URL for Reference)〕

国立特別支援教育総合研究所

<http://www.nise.go.jp/cms/>

特別支援教育に関わる情報がある

京都市立総合支援学校

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/#shien>

京都市立の各総合支援学校のホームページにリンクする。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

京都市立小学校教員 12年 (内 難聴学級担任10年)

京都市立養護学校・特別支援学校教員(知的、肢体、病弱) 19年

京都市立特別支援学校校長 2年